

CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection
ePub

T49n2035

佛祖統紀

(54卷)

宋志磐撰

T2035 佛祖統紀 (54卷)

目錄

[編輯說明](#)

章節目錄

- [閱佛祖統紀說](#)
- [佛祖統紀敘](#)
- [佛祖統紀序](#)
 - [佛祖統紀通例釋本紀](#)
 - [釋世家](#)
 - [釋列傳](#)
 - [釋表](#)

- 釋志
- 敘古製
- 用三例
- 釋師名
- 息眾疑
- 釋引文
- 天台教文
- 釋門諸書
- 儒宗諸書
- 道門諸書
- 修書諸賢
- 修書旁引
- 佛祖統紀目錄
- 1 教主釋迦牟尼佛本紀
 - 明本迹

- 敘聖源
- 名釋迦
- 法王正統世繫圖
- 下兜率
- 託母胎
- 住胎宮
- 示降生
- 出父家
- 成佛道
- 下兜率
- 託母胎
- 示降生
- 出父家
- 成佛道
- 第三上轉法輪

- 三照五時五味之圖
- 八教對會五時圖
- 第三下四處十六會圖
- 入涅槃
- 分舍利
- 集三藏
- 2 西土二十四祖紀
- 3 東土九祖
- 4 興道下八祖紀
- 5 諸祖旁出世家
 - 新羅光禪師法嗣
 - 智者大禪師旁出世家
 - 章安旁出世家
 - 天宮旁出世家
 - 左溪旁出世家

- 荊溪旁出世家
- 興道旁出世家
- 高論旁出世家
- 梵天昭法師法嗣
- 孤山圓法師法嗣
- 淨光法師旁出世家
- 國清昱法師法嗣
- 寶雲旁出世家

● 6 諸師列傳

- 天竺式法師法嗣
- 明智韶法師法嗣
- 海月辯法師法嗣
- 淨慧義法師法嗣
- 辯才淨法師法嗣
- 慈覺堪法師法嗣

- 法寶雅法師法嗣
- 興國基法師法嗣
- 法智法師法嗣
- 廣智法師法嗣
- 神照法師法嗣
- 南屏法師法嗣
- 三學法師法嗣
- 浮石法師法嗣
- 廣慈法師法嗣
- 神智文法師法嗣
- 法真咸法師法嗣
- 神悟謙法師法嗣
- 慈辯諫法師法嗣
- 南屏文法師法嗣
- 超果賢法師法嗣

- 景雲其法師法嗣
- 明智立法師法嗣
- 草堂元法師法嗣
- 安國惠法師法嗣
- 北禪梵法主法嗣
- 德藏瑛法師法嗣
- 車溪卿法師法嗣
- 慧覺玉法師法嗣
- 圓覺慈法師法嗣
- 普明靖法師法嗣
- 梵慈普法師法嗣
- 清辯齊法師法嗣
- 息菴淵法師法嗣
- 智涌然法師法嗣
- 真教仙法師法嗣

- 超果道法師法嗣
- 竹菴觀法師法嗣
- 牧菴朋法師法嗣
- 祥符忻法師法嗣
- 清修久法師法嗣
- 澄覺煥法師法嗣
- 法照皎法師法嗣
- 圓照光法師法嗣
- 東靈欽法師法嗣
- 圓辯琛法師法嗣
- 覺雲連法師法嗣
- 證悟智法師法嗣
- 慈室雲法師法嗣
- 能仁山法師法嗣
- 揚尖淵法師法嗣

- 休菴舟法師法嗣
- 法明節法師法嗣
- 月堂詢法師法嗣
- 柏庭月法師法嗣
 - 柏庭月法師法嗣
- 7 諸師雜傳
- 8 未詳承嗣傳
- 9 歷代傳教表
- 10 佛祖世繫表
 - 西土佛祖
 - 東土十七祖
- 11 山家教典志
- 12 淨土立教志
 - 蓮社七祖
 - 蓮社十八賢

- 蓮社百二十三人
- 不入社諸賢
- 十八賢傳
- 百二十三人傳
- 不入社諸賢傳
- 廬山法師碑
- 廬山法師影堂碑
- 東林影堂六事
- 往生高僧傳
- 往生高尼傳
- 往生雜眾傳
- 往生公卿傳
- 往生女倫傳
- 往生惡輩傳
- 往生禽魚傳

- 往生續遺
- 往生高尼傳
- 往生雜眾傳
- 往生公卿傳
- 往生士庶傳
- 往生女倫傳
- 往生惡輩傳
- 往生禽魚傳
- 往生續遺
- 13 諸宗立教志
 - 達磨禪宗
 - 賢首宗教
 - 慈恩宗教
 - 南山律學
- 14 三世出興志

- 15 世界名體志
 - 土水風輪會異
 - 東土震旦地里圖
- 16 法門光顯志
- 17 法運通塞志
 - 序
 - 周昭王以前
 - 明本迹
 - 下兜率
 - 託母胎
 - 示降生
 - 周
 - 昭王
 - 出父家
 - 穆王

- 成佛道
- 轉法輪
- 入涅槃
- 分舍利
- 結集三藏
- 懿王
- 孝王
- 厲王
- 平王
- 莊王
- 襄王
- 元王
- 貞定王
- 考王
- 威烈王

- 顯聖王

- 報王

- 秦

- 始皇

- 西漢

- 武帝

- 成帝

- 哀帝

- 東漢

- 明帝

- 安帝

- 順帝

- 桓帝

- 靈帝

- 獻帝

○ 魏

- 文帝
- 明帝
- 齊王
- 高貴鄉公
- 定王
- 簡王
- 景王
- 敬王
- 高祖
- 惠帝
- 文帝
- 昭帝
- 宣露
- 元帝

- 章帝

- 晉

- 武帝

- 惠帝

- 懷帝

- 愍帝

- 元帝

- 明帝

- 成帝

- 康帝

- 穆帝

- 哀帝

- 廢帝

- 簡文帝

- 孝武帝

- 安帝

- 恭帝

- 宋

- 高祖

- 少帝

- 文帝

- 前廢帝

- 明帝

- 後廢帝

- 順帝

- 齊

- 高帝

- 武帝

- 明帝

- 東昏侯

○ 梁

- 武帝
- 簡文帝
- 元帝
- 敬帝

○ 陳

- 武帝
- 文帝
- 廢帝
- 宣帝
- 後主

○ 北魏

- 太祖
- 明元
- 太武

- 文成
- 獻文
- 孝文
- 宣武
- 孝明
- 孝莊
- 節閔
- 孝武
- 文帝
- 北齊
 - 文宣
 - 武成
 - 後主
- 北周
 - 閔帝

- 武帝
- 宣帝
- 靜帝

○ 隋

- 文帝
- 煬帝
- 恭帝

○ 唐

- 高祖
- 太宗
- 高宗
- 則天武后
- 中宗
- 睿宗
- 玄宗

- 肅宗
- 代宗
- 德宗
- 順宗
- 憲宗
- 穆宗
- 敬宗
- 文宗
- 武宗
- 宣宗
- 懿宗
- 僖宗
- 昭宗
- 景宗

○ 五代梁

- 太祖

- 末帝

- 唐

- 莊宗

- 明宗

- 末帝

- 晉

- 高祖

- 少帝

- 漢

- 高祖

- 隱帝

- 周

- 太祖

- 世宗

○ 宋

- 太祖
- 太宗
- 真宗
- 仁宗
- 英宗
- 神宗
- 哲宗
- 徽宗
- 欽宗
- 高宗
- 孝宗
- 光宗
- 寧宗
- 理宗

- 度宗

- 少帝

- 元

- 世祖聖德神功文武皇帝

- 成宗欽明廣孝皇帝

- 武宗仁惠宣孝皇帝

- 仁宗文英武章皇帝

- 英宗

- 晉王史稱泰定帝

- 文宗

- 順帝

- 18 名文光教志

- 天台禪林寺碑

- 天台止觀統例

- 智者大師傳論

- 聖安寺無姓和尚碑
- 無姓碑陰記
- 龍興寺淨土院記
- 法智大師行業碑
- 止觀坐禪法要記
- 三千有門頌
- 與明智法師書
- 南湖淨土院記
- 明智法師碑論
- 南湖法智大師像贊
- 永嘉西湖法明寺疏
- 重刊刪定止觀序
- 與喻貢元書
- 始終心要
- 四十二章經疏序

- 與駱御史書
- 南岳止觀後序
- 書紳
- 觀心十法界圖
- 宗門尊祖議
- 19 歷代會要志
 - 君上奉法
 - 屢朝拜佛
 - 天書御製
 - 聖君護法
 - 試經度僧
 - 特恩度僧
 - 進納度僧
 - 士夫出家
 - 沙門封爵

- 僧職師號
- 不拜君父
- 不稱臣僧
- 崇禮高行
- 沙門著書
- 宿命前身
- 放生禁殺
- 祈禱災異
- 國朝典故
- 諸國朝貢
- 聖祖開先
- 歷朝識瑞
- 先聖出家
- 大儒名世
- 興建儒學

- 天師世次
- 仙真顯迹
- 道流知名
- 修學道科
- 北天佛牙
- 鄮山舍利
- 鳳翔佛骨
- 陳留佛指
- 瑞像應世
- 聖賢出化
- 立壇受戒
- 設像置經
- 建寺造塔
- 西天求法
- 東土譯經

- 經目僧數
- 天台傳教
- 禪苑傳燈
- 律宗垂範
- 神尼異行
- 名山勝迹
- 聖教感通
- 持誦功深
- 西遊樂國
- 三教出興 釋 道 儒
- 三教厄運 儒 道 釋
- 三教託偽 儒 道 釋
- 三教談論
- 僧道角法
- 僧先道後

- 內律分財
- 僧制治罰
- 僧籍免丁
- 賜諡封塔
- 褒恤終亡
- 臨終瑞相
- 君臣慢法
- 韓歐排佛
- 化胡偽經
- 事魔邪黨
- 毀法惡報
- 刊板後記

卷次目錄

- 第一
- 第二
- 第三
- 第三
- 第四
- 第五
- 第六
- 第七
- 第八
- 第九
- 第十
- 第十一
- 第十二
- 第十三
- 第十四

- 第十五
- 第十六
- 第十七
- 第十八
- 第十九
- 第二十
- 第二十一
- 第二十二
- 第二十三
- 第二十四
- 第二十五
- 第二十六
- 第二十七
- 第二十八
- 第二十九

- 第三十
- 第三十一
- 第三十二
- 第三十三
- 第三十四
- 第三十五
- 第三十六
- 第三十七
- 第三十八
- 第三十九
- 第四十
- 第四十一
- 第四十二
- 第四十三
- 第四十四

- [第四十五](#)
- [第四十六](#)
- [第四十七](#)
- [第四十八](#)
- [第四十九](#)
- [第五十](#)
- [第五十一](#)
- [第五十二](#)
- [第五十三](#)
- [第五十四](#)

[贊助資訊](#)

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2014」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 1.1 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示。（部份 ePub 閱讀器可能無法呈現指定的顏色）
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

No. 2035

閱佛祖統紀說

佛以心印授之於祖。而祖祖相印以至師。其間隨機立解。以權示實。脈絡分合。蓋不可思議焉。余頃憩烏瞻山。忽邑侯游公招至顧司寇之澄心樓。以校閱事見委。詢其所欲梓。則佛祖統紀也。余夙志闡繹弗敢以不敏辭。甫焚香展卷。有客進曰。吾聞心佛眾生三無差別。何有佛祖之異乎。道絕邊表。理非數量。又何統紀之一乎。若即心境為禪觀本有醍醐自味。何規規然尋牛[(殼-一)/牛]乳於村落耶。余曰。子言似矣。猶未足語道也。夫道無統則散。統

無紀則亂。散亂之作道理焉依。然道因言顯。理假教明。詎離言教而覓道理乎。試將此典喻村落也。能詮名句喻牛也。所詮諸義喻乳及酥酪醍醐也。若謂直取醍醐上味勿勞牛乳等義請君於牛乳外。別覓一醍醐味可乎。欲明古聖之道。此統紀斯其至焉。子又何疑。所以楊侍御為佛祖發心。游邑侯為眾生垂手。昱道人忍以帝虎誤學人耶。客輒然作禮而退。

大明萬曆甲寅夏季月

西蜀輔慈沙門明昱書

佛祖統紀敘

志磐法師佛祖統紀一書歷序。從上諸祖授受淵源支分派別。亦如一花五葉。傳衣受記歷歷分明。自是天臺一家眷屬。又廣之以華藏世界天宮地獄諸圖。蓮社諸賢往生僧尼其於法運通塞尤惓惓三致意焉。用心良亦勤矣。其意直欲薪盡火傳燈燈相續。耳近日宗門盛行。講律或廢。不知如車雙輪。如鳥雙翼。后之紹統者。若真如天台深入法華三昧。親見靈山一會儼然未散。棒喝狂禪皆當反走矣。是伊仲刻統紀意也。

德山楊鶴題

佛祖統紀序

參天地之才。司萬物之化。同功而異位者。其唯人道乎。

四君子世良導。於譯群尚教之翰。每著文是
以東方逮吾世。可盛時入墜異論。渚列於
牧。為大明世。法降當。以後弗塗。師學。良源。此失。
君。實為大。至。魏晉取名。法運。以守。則久。昔宗。皆
之。旦。文物。三聖。大。以。取。法。以。守。則久。昔宗。皆
為。震旦。三。遣。至。魏晉。取名。法。以。守。則久。昔宗。皆
人。南。及。乃。成。運。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
大。南。及。乃。成。運。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
立。而。降。及。乃。成。運。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
必。而。降。及。乃。成。運。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
氓。異。域。也。教。東。來。各。立。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
群。乎。此。方。為。後。應。東。來。各。立。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
蚩。占。八。卦。也。教。東。來。各。立。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
蚩。占。八。卦。也。教。東。來。各。立。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
來。粟。散。始。化。於。此。方。為。後。應。東。來。各。立。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
以。洲。稱。皇。將。施。化。於。此。方。為。後。應。東。來。各。立。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
生。四。洲。將。施。化。於。此。方。為。後。應。東。來。各。立。義。紹。隆。旨。以。守。則久。昔宗。皆
有。乎。天。竺。前。驅。之。祥。摩。騰。講。席。雖。生。天。觀。不。於。天。磐。後。藏。鏡。菴。之。則
自。統。國。興。樂。為。致。矯。矯。來。一。代。與。夫。事。理。即。具。大。訓。者。也。志。後。藏。鏡。菴。之。則
故。輪。之。尊。以。是。經。昧。四。本。林。往。往。退。息。傳。統。而。辭。陋。事。疏。至。於。遺。逸。而。不。收。者。則

並取二家。且刪且補。依放史法。用成一家之書。斷自釋迦大聖訖於法智。一佛二十九祖。並稱本紀。所以明化事而繫道統也。至若諸祖旁出為世家。廣智以下為列傳。名言懿行。皆入此宗。而表志之述。非一門義。具在通例。可以類知。既又用編年法起周昭王。至我本朝。別為法運通塞志。儒釋道之立法。禪教律之開宗。統而會之。莫不畢錄。目之曰佛祖統紀。凡之為五十四卷。紀傳世家。法太史公。通塞志。法司馬公。書成即負笈。詣白雲堂。仰求佛光法師為之考校。而同志之士。共謀鋟版以期流布。將令家藏其本。人觀此書。開人心之性靈。資國政之治化。豈不曰大有益於世哉。自寶祐戊午。首事筆削。十閱流年。五膳成[亭-丁+呆]。夜以繼晝。功實倍之。仰報佛恩。上酬

帝力。不負所學。其志在茲。

宋咸淳五年歲在己巳八月上日。四明福泉沙門志磐寓東湖月波山。謹序。

同校正吉祥安樂山教忠報國教寺首座沙門必昇

校正前住持華亭先福教寺傳天台宗教沙門慧舟

校正住持吉祥安樂山教忠報國教寺傳天台宗教沙門善良

校正住持東湖月波山慈悲普濟教寺傳天台宗教沙門宗淨

校正特賜佛光法師左右街都僧錄主管教門公事住持上天竺教寺賜金襴衣法照

佛祖統紀通例(例者略也類也舉略以知類也)釋本紀

釋迦如來。最初得佛之後。大悲利物。未來不息。以故果後示權。數數出世。莫可以三際求其始終。況於十方國土。唱生唱滅。處處不同。豈當於此南洲一方畢其能事。然今所錄。但於此方。特舉垂教之要會。而通之則十方不離當處。三世祇在一心。尚何有所異同者哉。今約如來在凡因行至今出興為大法王。明本迹。敘聖源。列大小八相。分頓漸二始。經歷五時。鋪陳一化。作教主釋迦牟尼佛本紀四卷。自大迦葉下至師子尊者。皆能仰承佛記。傳弘大法。謂之金口祖承。依付法藏。作西土二十四祖紀一卷。

自北齊始開龍樹之道。至於天台大弘法華。章安集為論疏。荊溪製記申明。稟承教觀。實居震旦。是謂今師祖

承。作東土九祖紀二卷。自邃法師嗣荊溪之業。師師相承。歷晚唐五代。暨我本朝。教法散而復合。仰惟四明法智。用能中興天台一家教觀之道。同功列祖。作興道法師下八祖紀一卷。上稽釋迦示生之日。下距法智息化之年。一佛二十九祖。起周昭王二十六年甲寅。至宋仁宗天聖六年戊辰。合二千二年。通為本紀。以繫正統。如世帝王正寶位而傳大業。

釋世家

自南岳旁出照禪師下至慈雲諸師。皆傳教明宗。分鐙照世。與正統諸祖。相為輝映。作諸祖世家二卷。

釋列傳

自四明諸嗣最顯著者十餘師。子孫有繼者唯廣智。神照。南屏。三家為光。盛守家法。禦外侮。人能弘道。作諸師列傳十一卷。背宗破祖。失其宗緒者三數人。作雜傳一卷。有功教門。事遠失記者。作未詳承嗣傳一卷。

釋表

考諸祖之授受。敘弈世之稟承。欲觀千古。必審今日。為明北齊下至法智述正統之有來。作歷代傳教表。為明釋迦列祖下至今時諸師。示傳鐙之無盡。作佛祖世繫表共二卷。

釋志

並陳文藻。交贊佛乘。各出義章。發揮祖業。斯固法門之

盛烈。作山家教典志一卷。

人理教行。具足成就。由五濁以登九品者。唯念佛三昧之道為能爾。末代機宜。始自廬阜。作淨土立教志三卷。

達磨賢首慈恩灌頂南山諸師。皆一代之偉。特雖共明此道。而各專一門。區別群宗。作諸宗立教志一卷。

觀千佛紹隆。則知無盡之鐙。即一洲縱廣。則識無邊之土。為隘俗無聞者。作三世出興志三界名體志。凡三卷。

香鐙供養之具。禮誦歌唄之容。是蓋緣因加行之正轍。為但理之人。成就佛事。作法門光顯志一卷。

大法東流。聖賢繼世。所以住持三寶不令斷絕。然歷年既

久。或興或廢。此蓋世事無常之變。於此道何成何虧邪。考古及今具列行事。用見法運通塞之相。至若儒宗道流世間之教。雖隨時而抑揚。而其事迹。莫不昭然可訓可戒。作法運通塞志十五卷。

法運通塞。事變紜紜。繫于編年。莫明始末。為通練古今欲求類知者。作歷代會要志四卷。

大儒高釋。有能以文字鋪張大道為法門之標表者。是不可不略錄也作名文光教志二卷。

敘古製

徽宗政和間。吳興穎師。始撰宗元錄。述天台一宗授受之事。自北齊至本朝元祐。為之圖以繫道統。於是教門宗祖

始粲然有所考矣。寧宗慶元中。鎧菴吳克己。因穎錄增廣之。名曰釋門正統。未及行而亡。嘉定間。鏡菴遷法師。復取穎本及鎧菴新圖。重加詮次。增立新傳六十餘人。名宗源錄。

理宗嘉熙初。錢唐良渚鑑法師。取吳本。放史法。為本紀。世家。列傳。載記。諸志。仍舊名曰釋門正統。然鏡菴則有不立體統之失。良渚則有名位顛錯之繆。至於文繁語鄙事緩義乖。則皆有之。而題稱釋門。尤為疎闊。要之草創。討論。修飾。潤色。非可以求備於一人也。明今述。

今之所述。蓋是用宗源錄釋門正統。參對文義。且刪且補。而復取大藏經典。教門疏記。儒宗史籍。諸家傳錄之辭。及琇師隆興統紀。修師釋氏通紀。用助援引。依史氏

法。為四佛紀。四祖紀。二世家。十一列傳。一雜傳。一未詳承嗣傳。二表。三十志。成一家之全書。至若一傳之後。贊以述德。一事之下。論以釋疑。及文有援古事有餘義。則必兼注於下。俾覽者之易領云(若據此中并前釋列傳文。則知諸師列傳原有十一卷。本紀既遺其文。唯以十卷為數)。

用三例

近世諸師。立傳之法。當用三例。一曰觀行修明。二曰講訓有旨。三曰著書明宗。非此三例濫矣。至於經理法事旁贊教門者。又將錄之。俾後人有所懷仰。若夫搢紳名賢儒生居士。能知此道者。非有宿熏之功。疇克至是。以故時有所取云。釋題義。

佛祖者何。本教主而繫諸祖也。統紀者何。通理佛祖授受之事也(史記功臣表云。要以成功為統紀。漢高祖紀。顏師古注曰。紀理也。統理眾事。繫之年月)本紀者何。始釋迦終法智。一佛二十九祖。所以紀傳教之正統也。世家者何。世守家業。以輔相祖道者也。列傳者何。載歷代諸師之言行。俾有繼於祖道也。表者。所以表示傳教之有時稟法之有緒也。志者。所以記其事也。若山家教典。若諸宗立教。若淨土往生。若世界成毀。若法門光顯。若法運通塞。若會要以通古今。若述文以光大教。皆於志有考云。

釋師名

列諸師之名。考其例有八。或從國號。如北齊高麗。或從山名。如南岳天台。或從師號。如智者法智。或從生地。如章安仙城。或從寺名。如法華天宮。或從自號。如草堂

息菴。或從郡名。如錢唐四明。或從著書之名。如扶宗憲章。近世多以自號行。雖稱名之不一。而所以名乎其人。則各得其實也。

息眾疑

此書之作。或因舊文以刪修。或集諸文以補足。或取師友之論著。或考碑碣之撰述。不復一一注所出者。修史之法當若是也。其間關涉稍眾者。則必時時有所引證。不得已耳。又此書所用。藏典教文。非儒生居士之所可易解。有能字字句句。研究其義。以所疑難。質諸沙門。則精義入神。然後可以知佛。若輕心疾讀。不究所歸。斯何益於人哉。又世之為儒者。好舉韓歐排佛之論。而不知二公末年終合於釋氏之道。今人有能少抑盛氣。盡觀此書反覆詳味。則知韓歐之立言皆陽擠陰助之意也。

釋引文 大藏經典

- 法華經
- 華嚴經
- 維摩經
- 涅槃經
- 瑞應經
- 梵網經
- 樓炭經
- 藥王經
- 普耀經
- 善權經
- 大權經
- 賢愚經

- 提謂經
- 楞伽經
- 大集經
- 遺教經
- 因果經
- 無量義經
- 大般若經
- 付法藏經
- 法滅盡經
- 大方便經
- 十二遊經
- 佛本行經
- 未曾有經
- 雜寶藏經
- 中本起經

- 楞嚴經
- 法華經
- 阿育王經
- 八關齋經
- 長阿含經
- 雜阿含經
- 妙法華經
- 普賢行法經
- 菩薩處胎經
- 菩薩本行經
- 優婆塞戒經
- 增一阿含經
- 分別功德經
- 思益梵天經
- 殃掘摩羅經

- 淨飯泥洹經
- 升忉利天經
- 觀佛三昧經
- 勝鬘師子經
- 像法決疑經
- 佛母泥洹經
- 摩耶夫人經
- 仁王般若經
- 文殊般若經
- 曇無德律
- 十誦律
- 四分律
- 僧祇律
- 彌沙塞律
- 善見律

- 五分律
- 大智度論
- 新婆沙論
- 大莊嚴論
- 薩婆多論
- 俱舍論
- 起信論
- 佛道論衡
- 譯經圖記
- 梁高僧傳
- 唐高僧傳
- 宋高僧傳
- 弘明集
- 釋迦譜
- 西域記

天台教文

- 法華文句
- 妙樂
- 法華妙玄
- 釋籤
- 心觀論
- 輔行
- 涅槃玄義
- 觀音別行
- 法界次第
- 四教義
- 南岳願文

- 智者別傳
- 二師口義
- 四教義
- 國清百錄
- 寶雲振祖集
- 四明教行錄
- 天竺別集
- 草菴遺事
- 翻譯名義
- 九祖略傳

釋門諸書

- 周書異記
- 廬山集
- 國清碑
- 玉泉碑
- 十八賢傳
- 僧鏡錄
- 關王祠堂記
- 淨土往生傳
- 法華顯應錄
- 般若感應錄
- 觀音感應錄
- 天人感通傳
- 僧史略
- 林間錄
- 僧寶傳

- 護法論
- 景德傳燈錄
- 普燈錄
- 大慧武庫
- 湘山野錄
- 歐陽外傳
- 石門文字禪
- 育王舍利傳
- 禪門寶訓

儒宗諸書

- 孔子家語

- 論語
- 禮記
- 孟子
- 荀子
- 楊子
- 史記
- 西漢書
- 東漢書
- 三國志
- 晉書
- 南北史
- 唐書
- 五代史
- 稽古錄
- 續稽古錄

- 國朝會要
- 皇朝類苑
- 皇朝龍飛記
- 本朝通鑑
- 皇朝景命錄
- 韓昌黎文
- 柳子厚文
- 白氏長慶集
- 顏氏家訓
- 酉陽雜俎
- 宣室志
- 楊文公談苑
- 廣陵志
- 蔡氏叢談
- 錢氏洞微志

- 東坡文集
- 王氏小畜集
- 魯直文集
- 太平廣記
- 東坡指掌圖
- 六一居士集
- 夷堅志
- 洪容齋隨筆
- 曾氏獨醒志
- 東都事略

道門諸書

- 老子
- 列子
- 莊子
- 老子內傳
- 老君實錄
- 玄妙內篇
- 漢武內傳
- 洞冥記
- 十洲記
- 雲笈七籤
- 天師家傳
- 劉向列仙傳
- 葛洪神仙傳
- 續仙傳
- 集仙傳

- 仙苑遺事
- 皇甫高士傳
- 真誥
- 悟真篇
- 林靈素傳

修書諸賢

- 元顥法師。吳興人。政和間。居智者院。撰宗元錄(有傳)
- 吳克己。婺女浦江人。號鎧菴。嘉定間。撰釋門正統(有傳)
- 志昭法師鎧菴之姪。居婺女左溪。撰釋迦譜歷代宗承圖

(見鎧菴傳)

- 景遷法師。餘姚人。受業東山廣教。號鏡菴。嘉定間。住天竺靈山。撰宗源錄。增多吳本六十餘傳
- 宗鑑法師。錢塘良渚人。嘉熙初。居仁壽張寺。續鎧菴釋門正統。為本紀。世家。列傳。諸志。載記。

修書旁引

祖琇。隆興初。居龍門。撰佛運統紀。放左氏。寓褒貶法。兼述篡弑反叛災異之事。永嘉薛洽。敘釋迦譜云。琇師統紀。多附小機所見。學最上乘者。尚深病之。

德修。淳熙間。居金華。撰釋氏通紀。其紀釋迦。則附以

慈恩三時之教。一代化事。最為疎略。又以五運圖。石柱銘。三寶錄。言佛生皆不同。糅雜於佛紀正文。甚失撰述之體。其敘時事。與琇本互有出入。而徒取乎冗長之辭也。

佛祖統紀通例(終)

佛祖統紀目錄

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

- 第一卷
- 釋迦牟尼佛本紀一之一
- 明本迹

- 敘聖源
- 名釋迦
- 第二卷
- 釋迦牟尼佛本紀一之二
- 下兜率
- 託母胎
- 住胎宮
- 示降生
- 出父家
- 成佛道
- 第三卷
- 釋迦牟尼佛本紀一之三
- 轉法輪(五時)
- 華嚴
- 鹿苑

- 方等
- 般若
- 法華涅槃
- 第四卷
- 釋迦牟尼佛本紀一之四
- 入涅槃
- 分舍利
- 集三藏
- 第五卷
- 西土二十四祖紀二
- 大迦葉尊者
- 阿難陀尊者
- 商那和修尊者
- 末田地尊者
- 毘多尊者

- 提迦多尊者
- 彌遮迦尊者
- 難提尊者
- 密多尊者
- 脇比丘尊者
- 夜奢尊者
- 馬鳴尊者
- 摩羅尊者
- 龍樹尊者(已上十三祖繫東土所承正祖)
- 提婆尊者
- 羅睺尊者
- 僧佉尊者
- 邪舍尊者
- 鳩摩羅尊者
- 闍夜多尊者

- 槃馱尊者
- 摩拏羅尊者
- 鶴勒那尊者
- 師子尊者
- 第六卷
- 東土九祖紀三之一
- 龍樹尊者
- 北齊禪師
- 南岳禪師
- 智者禪師
- 第七卷
- 東土九祖紀三之二
- 章安禪師
- 法華禪師
- 天宮禪師

- 左溪禪師
- 荊溪禪師
- 第八卷
- 興道下八祖紀四
- 興道法師
- 至行法師
- 正定法師
- 妙說法師
- 高論法師
- 淨光法師
- 寶雲法師
- 法智法師
- 第九卷
- 諸祖旁出世家五之一
- 南岳世家(僧照禪師下二十一人)

- 天台世家(真觀禪師下六十五人)
- 第十卷
- 諸祖旁出世家五之二
- 章安世家(弘景禪師下六人)
- 天宮世家(真覺禪師一人)
- 左溪世家(神邕禪師下二十八人)
- 荊溪世家(普門禪師下一十四人)
- 興道世家(守素法師下二人)
- 至行世家(良湑法師下五人)
- 正定世家(敬休法師下四人)
- 妙說世家(常操法師下五人)
- 高論世家(志因法師下十九人)
- 淨光世家(宗昱法師下二十人)
- 寶雲世家(遵式法師下八人)
- 第十一卷

- 諸祖列傳六之一
- 慈雲(下二十九人)
- 興國(下二人)
- 錢唐(下二人)
- 第十二卷
- 諸師列傳六之二
- 法智第二世
- 廣智(下二十五人)
- 第十三卷
- 諸師列傳六之三
- 法智第三世
- 廣智神照南屏三學浮石廣慈六家(四十人)
- 第十四卷
- 諸師列傳六之四
- 法智第四世

- 廣智神照南屏三家(三十七人)
- 第十五卷
- 諸師列傳六之五
- 法智第五世
- 廣智神照南屏三家(五十二人)
- 第十六卷
- 諸師列傳六之六
- 法智第六世
- 廣智神照南屏三家(三十五人)
- 第十七卷
- 諸師列傳六之七
- 法智第七世
- 廣智神照南屏三家(四十人)
- 第十八卷
- 諸師列傳六之八

- 法智第八世
- 廣智神照南屏三家(六十一人)
- 第十九卷
- 諸師列傳六之九
- 法智第九世
- 廣智神照南屏三家
- 第二十卷
- 諸師列傳六之十
- 法智第十世
- 廣智神照南屏三家(諸師列傳本紀原文止有十卷。目錄并通例俱編為十一。而以二十一卷當之。此述者之誤矣。故後之卷卷排去目錄。則有五十五。本紀止於五十四。今依本紀。既無列傳第十一卷之文。目錄中名即去之。將目錄二十二卷。改為二十一。至五。十五改為五十四以合本紀之數)

- 第二十一卷
- 諸師雜傳七
- 淨覺
- 神智
- 草菴
- 第二十二卷
- 未詳承嗣傳八
- 東陽大士(下四十一人)
- 第二十三卷
- 歷代傳教表九
- 第二十四卷
- 佛祖世繫表十
- 第二十五卷
- 山家教典志十一
- 第二十六卷

- 淨土立教志十二之一
- 蓮社七祖
- 蓮社十八賢
- 蓮社百二十三人
- 不入社諸賢
- 第二十七卷
- 淨土立教志十二之二
- 往生高僧
- 第二十八卷
- 淨土立教志十二之三
- 往生高尼
- 往生雜眾
- 往生公卿
- 往生士庶
- 往生女倫

- 往生惡輩
- 往生禽魚
- 往生續遺
- 第二十九卷
- 諸宗立教志十三
- 達磨
- 賢首
- 慈恩
- 灌頂
- 南山
- 第三十卷
- 三世出興志十四
- 過去莊嚴劫千佛
- 見在賢劫千佛
- 小三災

- 未來星宿劫千佛
- 大三災
- 第三十一卷
- 世界名體志十五之一
- 華藏世界圖
- 萬億須彌圖
- 九山八海圖
- 大千三界圖
- 忉利天宮圖
- 諸天通論
- 第三十二卷
- 世界名體志十五之二
- 東華地理圖
- 西域諸國圖
- 西土五印度

- 八熱地獄圖
- 十六遊增圖
- 八寒地獄圖
- 第三十三卷
- 法門光顯志十六
- 第三十四卷
- 法運通塞志十七之一
- 周
- 秦
- 第三十五卷
- 法運通塞志十七之二
- 西漢
- 東漢
- 三國
- 第三十六卷

- 法運通塞志十七之三
- 晉
- 宋
- 齊
- 第三十七卷
- 法運通塞志十七之四
- 梁
- 陳
- 第三十八卷
- 法運通塞志十七之五
- 北魏
- 北齊
- 北周
- 第三十九卷
- 法運通塞志十七之六

- 隋(文帝 煬帝 恭帝)
- 唐(高祖 太宗 高宗 武后)
- 第四十卷
- 法運通塞志十七之七
- 唐(中宗 睿宗 玄宗 肅宗)
- 第四十一卷
- 法運通塞志十七之八
- 唐(代宗 德宗 順宗 憲宗)
- 第四十二卷
- 法運通塞志十七之九
- 唐(穆宗 敬宗 文宗 武宗 宣宗 懿宗 僖宗 昭宗 景宗)
- 五代
- 梁
- 唐

- 晉
- 漢
- 周
- 第四十三卷
- 法運通塞志十七之十
- 宋(太祖 太宗)
- 第四十四卷
- 法運通塞志十七之十一
- 宋(真宗)
- 第四十五卷
- 法運通塞志十七之十二
- 宋(仁宗 英宗 神宗)
- 第四十六卷
- 法運通塞志十七之十三
- 宋(哲宗 徽宗 欽宗)

- 第四十七卷
- 法運通塞志十七之十四
- 宋(高宗 孝宗 光宗)
- 第四十八卷
- 法運通塞志十七之十五
- 宋(寧宗 理宗)
- 第四十九卷
- 名文光教志十八之一
- 天台禪林寺碑(梁肅)
- 天台止觀統例(梁肅)
- 智者大師傳論(梁肅)
- 聖安寺無姓和尚碑(柳宗元)
- 無姓和尚碑陰記(柳宗元)
- 龍興寺淨土院記(柳宗元)
- 法智大師行業碑(趙抃)

- 止觀坐禪法要記(陳瓘)
- 三千有門頌(陳瓘)
- 與明智法師書(陳瓘)
- 南湖淨土院記(陳瓘)(自天台禪林寺碑。至與喻貢元書。共十七篇。南藏目錄以第五十卷收之。始終心要至宗門尊祖議七篇。以第五十一卷收之。今從本紀改正。以第四十九卷收前十一篇。第五十卷收後十三篇)
- 第五十卷
- 名文光教志十八之二
- 仁王般若經疏序(晁說之)
- 明智法師碑論(晁說之)
- 南湖智者大師贊(真隱居士)
- 永嘉西湖法明寺疏(葉適)
- 重刊刪定止觀序(吳克己)
- 與喻貢元書(吳克己)

- 始終心要(唐荊溪禪師)
- 四十二章經疏序(孤山)
- 與駱御史書(孤山)
- 南岳止觀序(慈雲)
- 書紳(論語子張書諸紳)
- 圓頓止觀十法界圖(慈雲)
- 宗門尊祖議(沙門志磐)
- 第五十一卷
- 歷代會要志十九之一
- 君上奉法
- 屢朝拜佛
- 天書御製
- 聖君護法
- 試經度僧
- 特恩度僧

- 進納度僧
- 士夫出家
- 沙門封爵
- 僧職師號
- 不拜君父
- 不稱臣僧
- 崇禮高行
- 沙門著書
- 第五十二卷
- 歷代會要志十九之二
- 宿命前身
- 放生禁殺
- 祈禱災異
- 國朝典故
- 諸國朝貢

- 第五十三卷
- 歷代會要志十九之三
- 北天佛牙
- 鄮山舍利
- 鳳翔佛骨
- 陳留佛指
- 瑞像應世
- 聖賢出化
- 立壇受戒
- 設像置經
- 建寺造塔
- 西天求法
- 東土譯經
- 經目僧數
- 天台傳教

- 禪苑傳燈
- 律宗垂範
- 神尼異行
- 名山勝迹
- 聖教感通
- 持誦功深
- 西遊樂國
- 第五十四卷
- 歷代會要志十九之四
- 三教出興
- 三教厄運
- 三教詆偽
- 三教談論
- 僧道角法
- 僧先道後

- 內律分財
- 僧制治罰
- 僧籍免丁
- 賜諡封塔
- 褒恤終亡
- 臨終瑞相
- 君臣慢法
- 韓歐排佛
- 化胡偽經
- 事魔邪黨
- 毀法惡報

佛祖統紀目錄(終)

佛祖統紀卷第一

宋景定四明東湖沙門志磐撰

教主釋迦牟尼佛本紀第一之一

明本迹

序曰。如來聖人之利見於世也。則必有降本垂迹開迹顯本之妙存焉。夫本者。法身之謂也。迹者。八相之謂也(義見釋籤)由法身以垂八相。由八相以顯法身。本迹相融俱不思議。自非法華開近顯遠開迹顯本之談。則不足以深知此旨。故通列八相。別敘五時散引群經。會歸一實。用明一代化事始卒之義。則若本若迹。無餘蘊矣。

沙玄釋本迹有六義。謂本者。理本。即是實相一究竟道(大論佛言唯一究竟道無眾多究竟道也)迹者。除諸法實相其餘種種。皆名為迹。又理之與事。皆名為本(科云理真事俗)說理說事皆名教(籤云真俗是理說此真俗為教)又理事之教。皆名為本。稟教修行。名之為迹。如人依處則有行迹尋迹可得處也又行能證體。體為本。依體起用。用為迹。又實得體用。名為本。權施體用。名為迹。又今日所顯者為本。先來已說者為迹。此之六義。通論諸佛本迹也。其別論者。唯在今佛。亦有六義。一約理事明本迹者。從無住本立一切法。無住之理即是本時實相。真諦也。一切法即是本時森羅。俗諦也(此釋本迹之相○籤云。無明為一切法作本。無明即法性。無明復以法性為本。當知諸法亦以法性為本。法性即無明。法性復以無明為本。法性即無明。法性無住處。無明即法性。無明無住處。無明法性雖

皆無住。而與一切諸法為本。故云從無住本立一切法。無住之本既通。是故真諦指理也。一切諸法事也)。

由實相真本垂於俗迹。尋於俗迹即顯真本。本迹雖殊不思議一。文云。觀一切法空如實相(以明本迹相顯理融○籤云。此理性之本迹。由此方有外用本迹)二明理教明本迹者。即是本時所照二諦俱不可說皆名本也。昔佛方便說之即是二諦之教。教名為迹(釋本迹相)若無二諦之本。則無二種之教。若無教迹豈顯諦本。本迹雖殊不思議一(相顯理融)文云。是法不可示。言辭相寂滅。以方便力故。為五比丘說(引文證)三教行為本迹者。最初稟昔佛之教。以為本。則有修因致果之行(釋本迹相○應有以為迹三字)由教詮理。而得起行。由行會教。而得顯理。本迹雖殊不思議一(相顯理融)文云諸法從本來。常自寂滅相。佛子行道已。來世得作佛(引文證)四約體用明本迹者。由昔最初修

行。契理證於法身為本。初得法身本故。即體起應身之用(釋本迹相○應有以為迹三字)由於應身得顯法身。本迹雖殊不思議一(相顯理融)文云。吾從成佛已來。甚大久遠若斯。但以方便教化眾生。作如此說(引文證)五約實權明本迹者。實者。最初久遠得法應二身。皆名為本。中間數數唱生唱滅。種種權施法應二身。故名為迹(釋本迹相)若非初得法應之本。則無中間法應之迹。由迹顯本。本迹雖殊不思議一(相顯理融)文云。是我方便。諸佛亦然(引文證)六約今已論本迹者。前來諸教已說事理乃至權實者。皆是迹也(已即是迹。即指迹門。及諸迹教。今即是本。即指本門。本門已前。皆名為已。涌出已後。方名為今)今經所說久遠事理乃至權實者。皆名為本(釋本迹相)非今所明久遠之本。無以垂於已說之迹。非已說之迹。豈顯今本。本迹雖殊不思議一(本迹相顯理融)文云。諸佛法久後。要當說真實(引文證)最初之本。但本而非迹(最初實成。既未垂

迹。故唯屬本)最後已說。但迹而非本(已說迹門。未顯本時。故唯屬迹)中間亦迹亦本(中間相望。互為本迹。又中間垂迹。名為亦迹。顯本之時。名為亦本)若無本時之本。不能垂得中間最後之迹。若無已說之迹(舉今日迹門)不能顯得今說之本(今日本門)本迹雖殊不思議一(已上並六重本迹文)若執迹為本者。斯不知迹亦不識本。有言文殊觀音調達。或稱為師。或稱弟子。惑者未了。若拂中間。無非是迹。則迹本可解。若執迹疑本。則二義俱失。(玄文) 六重本迹之圖。

- 理事(觀一切法空如實相(理)但以因緣有從顛倒生故說(事)) 安樂行迹
- 理教(是法不可示言辭相寂滅(理)以方便力故為五比丘說(教)) 方便品迹
- 教行(諸法從本來常自寂滅相(教)佛子行道已來世得

作佛（行）） 方便品迹

- 體用(吾於成佛已來甚大久遠（體）但以方便教化眾生（用）） 壽量品本
- 實權(是我方便諸佛亦然（權）今當為汝說最實事（實）） 藥草喻本
- 已今(諸佛法久後（已）要當已真實（今）） 方便品本

釋籤云。第六已今。已即是迹。即指迹門是諸迹教。今即是本。即指本門。本門已前。皆名為已。涌出已後。方名為今。故云已說事理乃至權實。名之為迹。今說事理。乃至權實。皆名為本。故知若無迹中事理乃至權實。何能顯於長遠之本。又已今之言。雖異前五。亦是一往。指於壽量。名為今本。若望初本。則應又簡已今不同。法華已

前。諸經已今。仍屬於迹。今經所明。乃是直明久遠之
本。即是已說已今為迹。今說已今為本。方是實說。所以
六門引證之文。前三引迹。後三引本者何。然前三復通本
之與迹。俱有事理乃至教行。體用等三。通中復別。既云
本用本權。非迹文能顯。況以本門為今。灼然不可引迹。
為是義故。三引迹文。三引本文。又前之三文。既在於
因。本因狹故。但以迹例本。故但引迹門。

讀教記云。六重本迹。唯體用一重。是引本文。餘五皆
迹。籤云前三引迹後三引本者。斯蓋記主點經玄意。實權
已今即指迹文為本門也。故云今說已今為本方是實說。然
則前三不指本何也。曰前三既通。但以迹例本。後三既是
通中復別。故須指迹為本。可觀通別二字。此例甚多。如
文句明本迹。初引壽量品。我成佛已來甚大久遠。又方便
品。我本立誓願普令一切眾生同得此道。又五百授記。內

祕菩薩行外現是聲聞。妙樂釋之云。初正引本文。次方便
下引迹文。以迹中密示本意故。若顯露說。即迹中本迹。
下文顯已。通得引用。又妙樂釋方便品十雙權實云。然此
八中。前七迹門。第八本門。本雖未至。權實理遍。故下
文云是我方便諸佛亦然。故方便之名通於本迹。文既玄釋
不同。今諸家商略者。或云前三是從本垂迹。後三是發迹
不顯本。故云三引迹文。或云前三是因為迹。後三是果為
本。或云圓談大旨不分本迹之文。或云別含本意。故云三
引本文。

觀音別行玄記云。若理事。理教。教行。體用。四重本
迹。不獨今經。諸部容有。若塵點劫前。最初成佛。而為
實本。中間今日示現成佛。皆為權迹。此名權實本迹。本
門開竟。此身即本迹門已說。及諸部談。皆名為迹。是名
今已本迹。此之二重。諸經絕議。故云諸教不明。法華方

說。菩薩地涌品云。佛告諸菩薩。娑婆世界有六萬恒河沙等菩薩。一一各有六萬恒河沙眷屬。於我滅後護持讀誦廣說此經。時娑婆世界地皆振裂。有無量菩薩同時涌出。聞佛音聲從下發來。各詣虛空七寶妙塔。向二世尊頭面禮足。時彌勒大眾欲決所疑。以偈問佛。大眾諸菩薩。是從何所來。從誰初發心。修習何佛道。我於此眾中。乃不識一人。忽然從地出。願說其因緣。佛告彌勒。是諸菩薩。我得菩提已。教化示導。令發道意(略開近顯遠動執生疑)時彌勒等。心生疑惑。白佛言。如來得阿耨菩提。始過四十餘年。云何少時大作佛事(初疑成道近所化多此執近以疑遠)此菩薩眾。假使有人於千萬億劫數不能盡。斯等久遠已來常修梵行(次疑所化眾多行位深妙。此執遠以疑近)。

壽量品。佛告大眾。一切世間。天人阿修羅。謂我出釋氏宮。去伽耶不遠。坐於道場得阿耨多羅三藐三菩提(廣開近

顯遠斷惑生信)然我實成佛已來無量無邊。百千萬億那由他劫(破近顯遠)我常在此娑婆世界說法教化。亦於餘處阿僧祇國。導利眾生(玄云。初證之果。名本果妙本之娑婆。即本土妙。文句云。上引譬甚大久居何處。故云常在此土。及於他國而作佛事)於是中間。我說然燈佛等。又復言其入於涅槃。皆以方便分別(文句云。拂執迹上之疑也。昔教所說。處處行因。處處得記。即是果疑。今拂除此疑。指然燈佛者。即拂因疑。言入涅槃者。即拂果疑。如此因果。非復一條。皆我方便非實說也。妙樂云。是釋迦菩薩入滅。不得云是然燈。涅槃亦非釋迦。爾時於然燈佛世。已曾成佛。而般涅槃。不可二佛一時興故。是故。但以得記弘法壽終為果)若有眾生來至我所。我以佛眼觀其信等諸根利鈍。隨所應度。處處自說名字不同年紀大小(非生現生)亦復現言當入涅槃(非滅示滅。此為以形益物也)又以種種方便說微妙法(此以聲益物也)如來見諸眾生樂於小法德薄

垢重者。為是人說我少出家得阿耨菩提(現生)然我實成佛以來。甚大久遠若斯。但以方便教化眾生令入佛道。作如是說(非生。妙樂云。壽量久成塵點尚倍。中間被拂。伽邪非真。此論身真實明遠本也)。

學無學品云。佛言。我與阿難。等於空王佛所。同時發菩提心。阿難常樂多聞。我常勤精進。是故我已得成阿耨多羅三藐三菩提。而阿難護持我法(文句。昔與我同發大心。即是同學。由我精進。前超得佛。由彼多聞。猶故持經)。

常不輕品云。往古有佛名威音王。滅盡之後。復有佛出。亦號威音王。如有二萬億佛。皆同一號。最初威音王如來。有一比丘。名常不輕。凡見四眾。皆悉禮拜讚歎。而作是言。我不敢輕於汝等。汝等皆當作佛。四眾之中。有生瞋恚惡口詈言。我等不用如是虛妄授記。經歷多年。眾

人或以杖木瓦石。而打擲之。避走遠住。猶高聲唱言。我不敢輕於汝等。汝等皆當作佛。以其常作是語故。增上慢四眾。號之為常不輕。是比丘。臨欲終時。於虛空中。具聞威音王佛先所說法華經。即得六根清淨。更增壽命。廣為人說。時增上慢四眾。為作不輕名者。見其得大神通。皆信伏隨從。是菩薩。復化千萬億眾。令住菩提。命終之後。得值二千億佛。皆號日月燈明。於其法中。說是法華經。復值二千億佛。同號雲自在燈王。為諸四眾。說此經典。於後復值千萬億佛。亦說是經。功德成就。當得作佛。時常不輕者。則我身是(文句。釋迦出世。踟躕不說。常不輕。一見造次而言。何也。答本已有善。釋迦以小而將護之。本未有善。不輕以大而強毒之)。

達多品。佛言。吾於過去無量劫中。求法華經。無有懈怠。於多劫中常作國王。發願求於無上菩提。為欲滿足六

波羅密。勤行布施。不惜身命。捐捨國位。委正太子。宣
令求法。時有阿私仙人。來白王言。我有大乘。名妙法華
經。若不違我。當為宣說。王聞仙言。歡喜踊躍。即隨仙
人。供給所須。採果汲水。拾薪設食。乃至以身。而為床
座。身心無懈倦。普為諸眾生。勤求於大法。遂致得成
佛。爾時王者。則我身是。時仙人者。提婆達多是。由提
婆達多善知識故。令我具足六波羅密。

化城喻品。佛言。過去有佛。名大通智勝。滅度已來。無
量無邊百千萬億阿僧祇劫。我以如來知見力故。觀彼久
遠。猶若今日。其佛未出家時。有十六子。聞父得成菩
提。往詣佛所。請轉法輪。皆以童子出家。而為沙彌。時
佛受請。過二萬劫已。說是大乘經名妙法蓮華經八千劫。
即入禪定八萬四千劫。時十六沙彌。各升法座。亦於八萬
四千劫。為四部眾。廣說法華。一一皆度六百萬億那由他

恒河沙等眾生。令發菩提心(昔與說法結緣)——菩薩。所化眾生。世世所生與菩薩俱。從其聞法。悉皆信解(中間更相值遇)彼十六沙彌。今皆得菩提。於十方國土現在說法。一名阿彌陀云云。第十六我釋迦牟尼佛(結師古今)我等為沙彌時。各各教化無量眾生從我聞法。為阿耨菩提(會弟子古今一。初會現在弟子。此章先明不退者住菩提)此諸眾生。於今有住聲聞地者。我常教化阿耨菩提。應以是法漸入佛道(次明退轉者今住聲聞)。所以者何。如來智惠。難信難解(釋退住意)時所化無量眾生者。汝等諸比丘(正結古今)及我滅後。未來聲聞弟子是也(次會未來弟子。○玄云十六王子。弘經結緣。皆是中間所作非本因也。過是已前。所行道者。名之為本。即本因妙也)。

吾今來此八千返。為此娑婆世界。坐金剛華光王座(梵網經)(已上大机所明本迹之文)。

瑞應經云。佛言。吾自念宿命無數劫時。本為凡人。初求佛道以來。受形五道。生死無量。計吾故身。不能以數(色主切)。

菩薩本行經云。我於無量無邊諸佛所。種諸善根。為轉輪聖王。值無量佛。最初值遇三十億佛。同名釋迦(初阿僧祇始。此佛以其在始故云最初○大論云。如來先世為瓦師。名大光明。時有佛名釋迦文。與弟子俱。到瓦師舍宿。瓦師施草座燈明密漿。便發願言。我於當來作佛。如今佛名)。

妙玄云。迹因多種。或言。昔為陶師。值先釋迦佛。三事供養。發願得記。名字皆如先佛。即是初阿僧祇發心。既不明斷惑。故知藏佛行因之相。或言。昔為摩訶。值然燈

佛。五華奉散。布髮掩泥。躍身虛空。得無生忍。佛與授記。號釋迦文。既云斷惑。故知通佛行因之相。或言昔為寶海梵志。刪提嵐國寶藏佛所。行大精進。十方佛送花供養。既為寶藏佛父。又是彌陀之師。稱其功德。不可思議故。知是別圓佛行因之相。

次值八億佛。同名然燈。次值三億佛。同名弗沙。次值九萬佛。同名迦葉。次值六萬佛。同名燈明。次值一萬八千佛。同名娑羅王。次值一萬七千佛。同名度彼岸。次值一萬五千佛。同名日佛。次值二千佛。同名憍陳如。次值六千佛。同名龍佛。次值一千佛。同名紫幢。次值五百佛。同名蓮華上。次值六十四佛。同名螺髻(俱舍論。名為闍那尸棄。此云寶髻即此經螺髻是也。翻譯名義云。吾佛初僧祇滿值此佛。與七佛中第二尸棄。隔二僧祇)次值一佛。名正行(二阿僧祇始此佛)次值八萬八千億辟支佛。次值一

佛。名善思。時彌勒為轉輪聖王名毘盧遮那。於彼佛所最初發心。先四十劫。次值一佛。名示海幢。我為轉輪聖王。名曰牢弓。於彼佛所。發菩提心。願於未來。得成佛果。教化眾生(空王佛所。同阿難最初發心。古釋迦佛所。為瓦師時發心今值海幢佛所。為牢弓聖王時發心。此等皆是如來方便之說)次無量劫。值帝釋幢等無量諸佛。次值一佛。名曰然燈(三祇滿時值此佛)我為儒童。以青蓮華。供養彼佛。為我授記。過阿僧祇劫。當得作佛號釋迦牟尼(此即依瓦師因地發願。以授名號。自此之後。諸佛授記。皆同此名。金剛經云。我於然燈佛前。得值八百四十萬億那由他佛。悉皆供養承事。無空過者。法華云。中間我說然燈佛等。皆以方便分別)時然燈佛。住世八百四十萬億歲。爾乃滅度。我上為四天王。下為轉輪王(此當銀等三輪)乃至上為梵王。下為聖王(此當金輪)各三十六返(此豎論菩薩受報之身)及其變化隨時而出。或為儒林之宗國師道士。不

可稱紀(此橫論菩薩變化之身不一)從是之後。又值勝一切佛。壽八萬億歲。彼佛記我。過十億劫。當得作佛。號釋迦牟尼(三阿僧祇始於此佛)次值蓮花上佛。壽八萬歲。彼佛記我。過十萬劫。當得作佛。號釋迦牟尼(此後當得作佛。下並有號釋迦牟尼佛)次值最上行佛。壽七萬歲。彼佛記我。過一千劫。當得作佛。次值上名稱佛。壽七萬歲。彼佛記我。過五百劫。當得作佛。次值古釋迦佛。壽八萬歲。彼佛記我。過一百劫。當得作佛(按古釋迦。在初僧祇。當指最初三十億同名者。此既在然燈後。不當安古字。恐以今釋迦相望言之。故亦稱古云)次值帝沙佛。壽六萬歲。彼佛記我。過九十五劫。當得作佛。次值弗沙佛。壽六萬歲。我翹一足。說偈讚佛。天上天下無如佛。十方世界亦無比。世間所有我盡見。一切無有如佛者。彼佛記我。過九十四劫。當得作佛(大論云。以一偈贊弗沙佛。七日七夜。超越九劫。於九十一劫。後得成菩提○諸經多

言。超九劫者。是毘婆尸佛)次值見真義佛。壽四萬歲。彼佛記我。過九十三劫。當得作佛。次值毘婆尸佛。壽八萬歲。彼佛記我。過九十一劫。當得作佛。次值尸棄佛。壽七萬歲。彼佛記我。過三十一劫。當得作佛。次值毘舍浮佛。壽六萬歲。彼佛記我。過三十劫。當得作佛。

述曰。世言七佛者。准藥王經。過去莊嚴劫千佛。始自華光。終毘舍浮。現在賢劫。始俱留孫。終於樓至。是知毘婆尸至毘舍浮三佛。皆在過去莊嚴劫。拘留孫至釋迦四佛。皆現在賢劫。七佛前後相繼。止隔一劫。今諸經多言毘婆尸在九十一劫。餘二佛在三十一劫相去遠甚。似不在莊嚴劫之數。然三祇滿時。正值毘婆尸。自此百劫種相好。則九十一劫。於說自合。蓋除前讚佛超越九劫故耳。如上兩義。雖是方便分別。然恐此土翻譯。部別不同。今姑並存。以為援文者之證(校閱者云。若謂七佛前後相繼。

止隔劫一者。則應毘婆尸佛。當記過六劫而得成佛。乃至迦葉佛。當記過一劫。而得成佛。何謂百劫種相好則九十一劫於說自合。下文又云。已上四佛。在賢劫中。第九減劫。相繼出世。俱與止隔一劫之言相違。覽者詳之)。

次值拘留孫佛。壽五萬歲。彼佛記我。汝於來世。當得作佛。次值拘那含牟尼佛。壽四萬歲。彼佛記我。汝於來世。當得作佛。次值迦葉佛。壽二萬歲。彼佛記我。汝於來世。當得作佛。號釋迦牟尼(已上四佛。在賢劫中。住二十劫。第九減劫。相繼出世。故此文通指來世)我如是。奉事諸佛。修學佛意。爾乃生兜率天宮。住一生補處位(已上並菩薩本行經○涅槃經。此天欲界最勝故。補處菩薩。皆示生其中。為教化眾生故)我今出世。人壽百歲。少出多減(中阿含經)釋迦人壽一萬歲時合出。為觀眾生無機可度。乃至百歲。見苦逼迫。劫將欲末故出乎世(大論○已上並小

機所明本迹文)。

按因果經云。過去無數阿僧祇劫。有仙人善思(瑞應本行二經並名儒童)時燈照王太子普光(瑞應名定光。法華金剛本行諸經。並名然燈)啟父出家。成菩提道。善慧初為五百外道講論道義。各以銀錢上之。與外道別。當往普光佛所欲施供養。見王家青衣持七莖青蓮花過。追問此花賣否。答言。當送宮內欲以上佛。善惠請以五百銀錢。顧五莖花。用以供佛。青衣從命。并寄二花。以獻於佛。願我後來。常為君妻。時王及大臣。禮佛散花。悉墮於地。善惠五花。皆住空中。化成花臺。後散二花。住佛兩邊。佛讚善惠。汝過阿僧祇劫。當得成佛。號釋迦牟尼(此經。與本行經。並作阿僧祇而瑞應作九十一劫。如此延促不同。雖是方便分別。然諸經並以毘婆尸記九十一劫為正。則瑞應所出。亦可為用)善慧。見地濁濕。心自念言。云何令千輻輪

足蹈此而過。即脫鹿皮衣以用布地不足掩泥。又解髮以覆之。如來踐已。因記之曰。汝後得佛。當於五濁惡世度諸天人。時善惠。以偈讚佛(文多不載)求佛出家。佛言善來比丘。須髮自落袈裟著身。即成沙門。善惠命終之後。上生為四天王。下生為轉輪王。乃至上生為第七梵天王。下生為聖王。各三十六返。或為仙人。或為外道六師婆羅門小王。各盡其壽。不可稱數。時善惠者。即我身是。青衣者。邪輸陀羅是(因果經○案瑞應經稱瞿夷賣花女者。取第一夫人為言也。若本經與法華皆云邪輸者。取羅睺生母也。今以後義為正)四教儀引大論云。如來修菩薩道時。從古釋迦至尸棄佛。值七萬五千佛。名初阿僧祇。常修六度。次從尸棄至然燈。值七萬六千佛。名二阿僧祇。此時用七莖蓮華供養。布髮掩泥受記號釋迦文。次從然燈至毘婆尸佛。值七萬七千佛。名三阿僧祇滿。經如許時。修六度行。更住百劫。種相好因。修百福成一相(按優婆塞戒

經。我於釋迦最初發心。於迦葉佛。滿三阿僧祇。竊詳三祇滿時。正在毘婆尸。今言迦葉者。兼百劫種相好言之也)。

述曰。竊考如來本迹之義。以由已今相望。互有久近本。不可以大小機見為之分別。今約諸部。共談之。粗法華開顯之妙。較而論之。則大小機見不容不審。例如祇一八相。而有大小之別。由機見之不同也。

敘聖源

序曰。如來之先起自大人。厥後轉輪次第承襲。夷攷典籍。略陳氏族之源。蓋將以表章吾佛示生弈世聖王尊貴之家也。

大劫之始世界初成。光音諸天化生為人云云。於是議立一人有威德者。賞善罰惡號平等王。眾共供給。遂有民主之名(長阿含經○詳見三世出興志)初民主王號大人。第二王名珍寶。第三王名好味。第四王名靜齊。第五王名頂生。乃至三十三王名善思(長阿含。四分律。此三十三王。皆子孫相承。諸王之名備見本經)自善思王後有十族轉輪聖王相續而出。第一真闍王子波延迦(真闍即阿含善思王)有五轉輪王。第二多羅業。有五轉輪王。第三阿波葉。七轉輪王。第四犍陀利。八轉輪王。第五迦陵迦。九轉輪王。第六瞻婆。十四轉輪王。第七拘羅婆。三十一轉輪王。第八般闍羅。三十二轉輪王。第九彌尸利。八萬四千轉輪王(案本行經。最後一王。即大茅草王仙是也)第十懿摩彌。百轉輪王(樓炭經彌沙塞名鬱摩。長阿含。名懿摩。四分律。名懿師摩。即甘蔗王。為善生王之先也。梁祐律師。釋迦譜云。釋種以懿摩為先)。

名釋迦

序曰。世人皆知如來為剎帝利之聖種而終莫能委瞿曇釋迦前後立號之義。須知言瞿曇者。有四義焉或純淑。或最勝。此從本德。以為稱也。或甘蔗。或日種。此就本緣以為言也。其稱釋迦者。則有三名。據德建號。則曰能仁。依處稱名。則云舍夷之與直林。然釋迦之起。實見於甘蔗王之四子。甘蔗梵語。既為瞿曇。則釋迦之稱。實自瞿曇出。前瞿曇。後釋迦。雖有二稱。其實一姓。前人有以日種甘蔗舍夷並列為五氏者。本末紛揉。無所取裁。今故備論後當毋惑。

夫姓者所以繫統百世使不別也。氏者。所以別子孫之所由出也。印度族姓。則有四流。一曰剎帝利者。王種也。二

曰婆羅門者。淨行也。三曰吠奢者。商賈也(舊云毘舍)四曰戍陀羅者。眾人也(舊云首陀)凡茲四姓。前二是貴。後二是賤(此說出西域記)隨時所尚。佛生其中釋迦出剛強之世。託王種以振威。迦葉生善順之時。居淨行以標德(大論)昔阿僧祇劫。有菩薩為國王。父母早喪。遜國與弟。從婆羅門瞿曇學道。受瞿曇姓(本經。翻純熟。應法師。翻最勝。此皆從師德為義)乞食還國。人無識者。謂之小瞿曇。於城外甘蔗園中。以為精舍。賊盜官物。路由園過。捕盜尋迹。執小瞿曇。王令以木貫身射之。大瞿曇見。悲哀棺斂取血泥團之。還置精舍。著左右器。大瞿曇言。是道士若其至誠。願天神有知。使血化為人。却後十月。左化為男。右化為女。因名瞿曇氏純淑之姓(十二遊經)過去有轉輪聖王。名大自在(即第九族彌尸利)子孫相承。八萬四千王。最後王。名大茅草。垂老無子。委政大臣。剃髮出家。眾號王仙諸弟子時行乞食。王仙老不能行。遂以草籠

盛懸樹上。慮虎狼也。獵人望見。謂是白鳥。乃射殺之。血滴於地。後生甘蔗二本。日炙開剖。一生童男。一生童女。弟子養護。以報諸臣。眾謂王種命相師占之。立名善生。號甘蔗王。女名善賢。立為第一妃。又以日炙甘蔗而生。亦名日種(菩薩本行)。

述曰。瞿曇一翻甘蔗。則當據本行。二本甘蔗之緣。一翻泥土。則當取十二遊經血泥之事。是知諸經梵語則曰瞿曇。華言則稱甘蔗泥土。華梵互出其實一義。

甘蔗王第一妃善賢。生子名長壽。第二妃生四子。一名炬面。二名金色。三名象眾。四名別成(菩薩本行)。

述曰。彌沙塞云。鬱摩王第四子尼樓。本行經尼俱。此翻為別成。祐律師。指懿摩王。是釋種之先。第四子莊嚴。

是白淨所承。南山。指懿摩。即第十輪王。去菩薩一百世。第四子莊嚴。即白淨所承。其說略同(別承莊嚴。兩譯不同。祇是尼俱一人)。

時善賢妃欲立長壽。白王擯遣四子出國。至雪山北自立城居。不數年間鬱為強國(本行經。往靈山建國。城號迦毘羅。其王名別成。遠近欽服)父王悔憶遣使往召四子辭過不還。父王三歎之曰。我子釋迦(此云能仁本行經)到雪山邊住直樹林中。故名為釋迦(此云直林長阿含經)近雪山北舍夷林築城營舍。因名舍夷國(五分律)。

述曰。舍夷者。林名也。既以名國。又以名氏。竊詳舍夷。恐翻為直。即前雪山直林之義。妙玄云。舍夷是西方貴姓。此但約義。未見所出。

別成王子拘盧。拘盧子瞿拘盧(菩薩本行)。

懿摩王第四子莊嚴(即別成)懿摩百輪王最後王。名大善生(案四分律。懿師摩。次第百王。後有王。名大善生。南山釋迦譜云大善生。即如來七世祖也)自百輪王後。六世祖烏婆羅王。五世祖淚婆羅王。四世祖尼求羅王。三世祖尼浮羅王。二世祖師子頰王。一世父淨飯王。師子頰四子。一淨飯王(諸經或云白淨)有二子。長悉達太子。次難陀。二白飯王二子。長調達(諸經或云提婆達多)次阿難陀。三斛飯王二子。長摩訶男(或云俱利太子。五比丘之一)次阿那律(或云阿[少/兔]樓駄)四甘露飯王二子。長婆沙。次跋提(五比丘之一長阿含經)。

劫初以來。嫡嫡相承。作轉輪王。近來二世。但作閻浮提王(大方便經○當知師子頰淨飯二世。獨王南洲。但鐵輪王

耳)。

法王正統世繫圖

- 平等王(民主平等王。亦名剎帝利。子孫嫡承凡三十三世。為善思王)
- 善思王(平等王至此三十三世。後有十族)
- 波延迦王(善思王子第一族有五轉輪王)
- 多羅業王(此第二族亦有五轉輪王)
- 阿波葉王(此第三族有七轉輪王)
- 犍陀利王(此第四族有八轉輪王)
- 迦陵迦王(此第五族有九轉輪王)
- 瞻婆王(此第六族有四轉輪王)
- 拘羅婆王(此第七族有三十一轉輪王)
- 般闍羅王(此第八族有三十二轉輪王)

- 彌尸利王(此第九族有八萬四千轉輪王。最後一王名大茅草王。亦名王仙。所生之子即懿摩彌王)
- 懿摩彌王(此第十族有百轉輪王。懿摩彌亦名甘蔗王。釋種以此王為本始。此王有二妃。第一妃生長子名長壽王。第二妃生四子。一名炬面王。二名金色王。三名象眾王。四名別成王。已上皆第二世)
- 拘盧王(第三世)
- 瞿拘盧王(第四世。展轉至最後百世名善生王)
- 善生王(悉達太子七世祖也)
- 烏婆羅王(六世祖)
- 淚婆羅王(五世祖)
- 尼求羅王(四世祖)
- 尼浮羅王(三世祖)
- 師子頗王(二世祖所生四王)
- 淨飯王(生二子。一悉達。二難陀)

- 白飯王(二子調達。阿難)
- 斛飯王(二子。摩訶男。阿那律)
- 甘露飯王(二子婆沙跋提。已上名四王。生八子也)。

述曰。樓炭稱懿摩百輪王。阿含四分。皆云最後王名大善生。言最後者。第一百也。南山指大善生為七世祖。此依長阿含。烏婆羅等六王至太子。為一百七世可也。而又云。去菩薩一百世者。當是脫去七字。自民主至善思。三十三世。正嫡相承。自波延迦十族已降。或嫡庶互立。或兄弟迭興。分為十類。必有親疎始終之義存焉。然受天命。統王四洲。其所以得君道者。莫不同也。十族總之。凡八萬四千二百十一王。并前民主三十三王。及六世祖王。至太子身。共八萬四千二百五十王也。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二

宋景定四明東湖沙門志磐撰

教主釋迦牟尼佛本紀第一之二

下兜率

序曰。四明法師之言云。如來昔於大通之時。覆講法華。與無邊眾生作一乘之因矣。以由中間退大樂五塵。如來大悲恐其墮苦。於是更以小乘。而為救拔。或用衍三而為導引。如此大小種種成熟。堪於今世悟入佛乘。是故如來為此一事出現於世。然其機發復少差殊。故於一代而分五

時。有機堪能直入於實者(有機但能迂入於實者。雖此二類。熟在一時)嚴於華頓談別圓被二種機者。此機從始即見勝相。若其中間習小深者。雖於今世入一佛乘。而於小先熟。故為此機示現劣身。初說三藏諸味調熟。來至法華方開佛慧。此機於始唯見劣身。故天台師曰。小機則示三藏佛身說法。大機應以舍那佛身說法。是故降神母胎。即示兩相故。然華嚴頓後。方施小化。譬如窮子急追不至徐語方來。前頓後漸其義已成。今那忽云降神母胎即示兩相。須知諸文所論。初頓後漸。蓋是化緣施設之語。今此所說大小雙應。終歸一乘。方盡鑑機始末之事。如方便品。思無大機。念欲息化。諸佛勸諭。方施小乘。次文却云無量劫來。讚涅槃法。生死永盡。我常是說。是故思機。然後施小。此等之說。皆是儀式。不可據此以難今文預鑑群機。原始要終。度物之意也(並別行記)今觀二聖師所論。則知如來出興。祇一八相。自大機而觀之。則始終無改。

無非華嚴。自小機而觀之。則遊化鹿苑。諸教次第。謂之舍那謂之釋迦。一體而兩名。由機有不同耳。然則大小二始。頓漸兩說。五時施化。一乘會歸。是皆如來。隨順機宜。善巧方便。令入佛慧之道。今故得以述之。

菩薩從兜率天。將降神時。有十佛剎微塵數菩薩。皆與菩薩。同願同行。乃至普賢神通行願。悉皆同等。又以神通。普現兜率天宮。一一宮中。悉現十方一切世界閻浮提內受生影像(華嚴經○大機所見下兜率相)。

託母胎

序曰。如來降神母胎。雙垂兩應。大機則見乘旃檀樓閣。小機則見乘六牙白象。大小在機。而於如來應本。未始有動。此託胎之相也。

菩薩。已從此沒。生於人間淨飯王家。乘旃檀樓閣。處摩耶夫人胎(華嚴經)從兜率下。法身眷屬。如陰雲籠月。共降母胎。胎若虛空。常宣妙法(妙玄○大機所見託胎相)。

住胎宮

序曰。華嚴云。如來住胎現大宮殿。示現住兜率。乃至般涅槃。或見在兜率。乃至或見入涅槃。此則於住胎一相之中備見八相。此荊溪所謂一一相中皆八相故也。

菩薩於母胎中現大宮殿種種嚴飾。而令母身安隱無患。住母胎已。心恒正念。示現在兜率天。初生為童子處王宮。出家苦行成道轉法輪般涅槃。或有見佛種種說法。或見在兜率天或見來處母胎。或見初生。或見出家。或見成道。

或見轉法輪。或見入涅槃(華嚴經○荊溪云皆言或者一一相中皆八相故○大機所見住胎相)。

示降生

序曰。託胎降生。皆所以示同於人法耳。至於出入右脇周行七步。俾大小兩機所見各殊者。斯示現降生之相也。

夫人攀金園樹枝而生菩薩。諸天王眾。各持香水。共以洗沐(華嚴經)初生之時。於十方面各行七步(涅槃經○大機所見降生相)。

出父家

序曰。華嚴云。最後身菩薩。欲令著家眾生捨離家法。為

現自在不屬他故。宣揚出家功德勝故。此示現出家之意有在於是也。

又見出家詣道場。成等正覺。坐師子座(華嚴經大機所見出家相)。

成佛道

序曰。華嚴云道場始成者。且約大始而言。既非本門實成則今此正是迹中之迹耳。

菩薩於菩提道場始成正覺(華嚴經)菩薩言。吾三十成道。號為釋迦牟尼。於寂滅道場。坐金剛華王座說法(梵網經○寶藏經無相三昧經並云三十成道)既成道已。梵天勸請惟願如來。當為眾生廣開甘露說無上法(涅槃經○大機所見成道

相)。

或見菩薩住兜率天入胎出胎成道降魔轉法輪入涅槃(華嚴。新譯此大乘有降魔今合在成道中)。

述曰。自昔依起信論。列大乘八相。存住胎而沒降魔。依四教義。列小乘八相。存降魔而沒住胎。今之所述。正稟二文。以為綱骨。自下兜率至成道降魔。皆先大後小。以列其相。而於轉法輪中。則有五時頓漸之義。則大小二機。又蘊乎中矣。妙宗之言曰。佛應三土且說同居。化有始終須彰八相。大機所見八相難思。若應小機八種皆劣。此之謂也。

下兜率

菩薩功行滿足。位登一生補處。生兜率天。名曰聖善。為諸天主說補處行。期運將至。當下作佛。即觀五事。觀諸眾生。皆是我發心已來所成熟者。堪受妙法。觀此大千界。閻浮提迦毘羅國。最為處中(此云黃色。言立德尚黃居中也)觀釋迦第一甘蔗聖王之後觀白淨王夫妻真正堪為父母(白淨。或云淨飯。梵云首圖馱那。本行經云。謂財德純備。然諸經未見白淨淨飯其義何謂)觀摩耶夫人懷抱太子。滿足十月。生七日已。其母命終。作此觀已告諸天子。我應下生白淨王家。棄輪王位出家學道成一切種智。轉大法輪廣利天人。汝等是時亦當同會。諸天子聞各心念言。菩薩不久當成正覺(因果經○小機所見下兜率相)。

託母胎

時菩薩乘六牙白象發兜率宮(按普耀經云。沸宿應下。化為

白象。瑞應經云。化乘六牙白象。貫日之精○沸宿即鬼宿也)放大光明普照十方。以四月八日明星出時降神母胎(向曉盛明。故曰明星。即鬼宿也)時摩耶夫人眠寤之際。見六牙白象騰空而來。從右脇入(按普耀經云所以處右者所行不左也)覺已白王為說瑞相。王召婆羅門占之。曰今此夫人胎中之子。必是正覺之瑞。若不出家當為輪王。夫人日更修行六波羅蜜。天獻飲食。不樂人間之味。時兜率天眾念言。菩薩已生淨飯王宮。我等亦當下生人間。得先聽法。於是諸天下生。數至九十九億。又他化自在天。下至四天王。上至色界天。與其眷屬。亦皆下生。不可稱計(因果經)有一天子。名曰速往至諸地獄。大聲唱言。菩薩從兜率天。下住母胎。汝輩速發誓願。求生人間。地獄眾生聞此聲已。各各相覩。復見光明捨地獄身。即生人中。所有大千世界。往昔已來種善根者。皆來於此迦毘羅城。四面託生(佛本行經○小機所見託胎相)。

菩薩在母胎。行住坐臥無所妨礙。晨朝為色界諸天說法。日中為欲界天。晡時為諸鬼神。於夜三時。亦復如是。成熟眾生(因果經○此經既云行住坐臥一日六時為諸天鬼神說法即小乘住胎之文)護明菩薩。謂天人金團曰。往昔補處菩薩託生之家。須具六十種功德。三代清淨。汝下閻浮為我觀察(云云護明即聖善)。

周 昭王元年(己丑)

(周之先。后稷名棄。好耕農。帝堯舉為農師。舜時封於邰。號后稷。別姓姬氏。後四世亶父。遷居周原。子季歷。在殷為雍州伯。以在西故。稱西伯。季歷子昌。繼父為西伯。殷紂失道。西伯受命稱王。號曰周。昌子發。舉兵滅紂。即天子位。號武王追尊西伯為文王。武王子誦為

成王。成王子釗為康王。康王子瑕。為昭王。昭王子滿為穆王)。

示降生

二十六年(甲寅)○(劉道原通鑑外紀。昭王元年己丑。二十六年甲寅。今諸書多稱二十四年。相承之誤)夫人懷孕將滿十月。其父善覺遣使白王。我女懷藏聖胎威德甚大。慮產子後女命不久。欲迎止嵐毘園中盡父子情。王即勅有司備儀禮。送至父家(佛本行經)時夫人即升寶輿前後導從。往藍毘尼園中。十月滿足。四月八日。日初出時(前言四月八日降胎。今言四月八日出胎。並出因果經。南山云降胎出胎。皆言四月八日。則是十二月在胎文。今此文言十月滿足者。且約人間十月懷妊為言。若佛所行讚經。則云三月八日生。此皆譯人用歷。兩土不同。然內外典籍。多言四

月八日)夫人見無憂樹花葉茂盛。即舉右手欲牽摘之。菩薩漸漸從右脇出。時樹下生七寶蓮花。大如車輪。身墮花上自行七步。舉右手作獅子吼云。我於天人之中最尊最勝(按瑞應經云。舉右手而言曰。天上天下。唯我獨尊。善權經云。為應七覺。故行七步。舉手現相。為除外道自尊)時四天王。即以天繒接置寶几。帝釋執寶蓋。梵王持白拂。侍立左右。難陀兄弟二龍王。於虛空中吐清淨水。一溫一涼以灌太子(按普耀經釋梵雨香。九龍下香水浴身)身黃金色。三十二相。放大光明照三千界。天龍八部空中作樂。歌頌佛德散花亂墜。一切天人讚嘆種智。速成佛道度脫眾生。唯有魔王不安本座。於時采女以天繒[疊*毛]裏抱太子至夫人所。青衣還宮說奇瑞相。王即嚴駕四兵(象馬車徒)導從。入園見相殊特。喜懼交懷。前抱太子置象輿上。隨從入城將詣天祠。梵釋形像皆起禮足而言曰。今此太子天人中尊。云何來此欲禮於我群臣歡異即奉太子入王本宮。

時諸釋同日生五百男。王家青衣亦生五百蒼頭。王旣象生白子。馬生白駒。牛羊亦生五色羔犢。數各五百。宮中五百伏藏自然而出。有諸商人入海采寶而還。各貢珍奇。王召諸婆羅門。當為太子作何等名。答言。太子生時。一切寶藏皆悉發出。所有諸瑞莫非吉祥。當名薩婆悉達(此云一切義成又名頓吉)時八王亦同日生太子。各懷歡喜。共制美名(因果經)王家青衣亦生蒼頭。奴名車匿。旣生白駒。名犍陟。王後常使車匿侍從。白馬給乘(瑞應經)王訪五百聰明相師令占太子。相師言。若當出家成一切種智。若在家者為轉輪王。相師又言。有一梵仙名阿私陀(此云無比瑞應經名阿夷)具足五通。在香山中。能斷疑惑。王思路險非人能到。阿私陀。遙知王意騰空而來。相太子已悲泣而言曰。恨我不久命終生無想天。不覩佛興不聞經法。若有具三十二相。或但非處。又不明顯。此人尚為轉輪聖王。今觀太子。諸相得所又極明顯。法定必成一切德智。王聞仙

說。慮恐出家。起三時殿七寶莊嚴。城門開閉。聞四十里。五百嫖女。宿衛殿宇。花果眾鳥。流泉浴池。光麗心目以悅太子。生滿七日。其母命終。以懷太子功德大故上生忉利(法大權經云。前處兜率。觀后餘命十月七日。故託神來)時姨母摩訶波闍波提。乳養太子如母無異(因果經)○小機所見降生相。

述曰。如來降靈示滅之相。記年月者。其說紛然。今作正義。異說兩番。以區別之。初正義者有六。其一。周書異記昭王二十四年甲寅歲。四月八日。有五色光。入貫太微。遍於西方。太史蘇由曰。有大聖人生於西方。穆王五十二年壬申歲。二月十五日旦白虹十二道。南北通貫。太史扈多曰。西方有大聖人。終亡之相。其二。法本內傳。摩騰法師對明帝曰。佛以甲寅之歲四月八日生。此當周昭王二十四年。其三。魏書沙門曇謨最曰。佛以周昭王二十

四年四月八日生。穆王五十二年二月十五日滅。其四。南
岳願文云。佛以甲寅四月八日降生。其五。輔行云。悉達
生淨飯王宮。當周昭王甲寅降生入滅。其六。唐太宗。勅尚書
劉德威。問法琳法師。佛降壬申滅。次列異說有八。石柱
論定。周昭王乙丑。法顯法師傳。殷武乙甲午。像正記。平
銘。周桓王乙丑。南山感通傳。天人云夏桀世。度律師眾聖點記貞
王戊子。南開皇三寶錄。其簡棲頭陀寺記。皆以為周魯二
定王甲戌。甚至孤山亦作此說。蓋準瑞應經所言沸星下侍之
云。周時佛興。星殞如雨。未嘗定指周莊以釋。以致淨覺作記。妄
事。天台祇言佛興。此語。然荊溪明言昭王甲寅。初無二莊之論。
左傳。孤山誤認此。息矣。若欲會同左傳如雨之說。則如文殊
稱天台正說自此。佛滅度後。二百五十年。文殊至雲山化五百
是知涅槃經云。佛滅度後。二百五十年。文殊至雲山化五百

仙人訖。還歸本土放大光明遍照世界入於涅槃。自昭王至莊王。正當二百五十餘年。恒星之驗其在此乎(左傳。魯莊公七年甲午四月辛卯。夜恒星不見。星殞如雨。即周莊王十年)又孤山垂裕記。依周歷以十一月建子為正。言四月即今二月。今准因果瑞應本行諸經。並云四月八日。法本內傳。魏書。亦皆四月八日。三經既非周譯。二書亦非周世。則知非建子之正明矣。蓋自漢武改寅為正。至於今日遵而用之。則經傳之言四月。非為差錯。不當遠據周歷改為二月也。此大略出翻譯名義。今更增益文證。以祛昔人之異見云。

二十七年(乙卯)先是太子生時。足行七步口稱獨尊。言已便默。如諸嬰孩不行不語。諸母養育漸至長大(智論)二十八年(丙辰)二十九年(丁巳)三十年(戊午)三十一年(己未)王為太子。辨象馬牛羊諸車童子玩具。舉國人民皆行仁惠。

五穀豐熟風雲以時。皆是太子福德之力。又以青衣所生車匿等五百蒼頭給侍太子(因果經)三十二年(庚申)太子年七歲。王令學書訪國中聰明婆羅門名曰選友。起大學堂床榻學具。太子問師。書有幾種。師默不答。內懷慚愧禮太子足。惟願為說閻浮提書。凡有幾種。太子答言。或有梵書(婆羅門書)或佉婁書(驢唇仙人)有如是等六十四書(按佛本行經。太子八歲。學書。師毘奢多羅。六十四書。中有提婆書。天也。那伽書。龍也。支那國書。大唐也。此下具有天地八部四洲鳥獸等音聲諸書)諾。白王言。太子是天人中師。云何欲令我教。王聞歡喜。凡技藝典籍天文地理算數射御。皆悉自然知之(因果經)時王復令釋種忍天教太子兵戎法式。為造一苑。名曰勒劬。太子與五百釋子入苑遊戲。學一切典籍。四年之中。及諸釋種。皆悉通達(佛本行經)。

三十三年(辛酉)太子在苑射戲。提婆達多。射著一雁。墮於苑中。太子拔箭以酥蜜封瘡。達多遣使來言。宜速見還。太子報言。我已攝受此雁。自我發菩提心來。我皆攝受一切眾生。況復此雁而不屬我。自此與達多結怨相競(佛本行經)。

三十四年(壬戌)

三十五年(癸亥)太子年十歲。王訪國中善知射者。令教太子。師與小弓。令射鐵鼓。太子更求如是七弓。一箭過七鐵鼓。射師白王。太子自知射藝。云何令我為師。王大歡喜。擊鼓唱令。太子七日。當出後園欲試武藝。提婆達多最先出城。時有大象當城門住。達多獨前以手搏頭。即便蹙地。於是軍眾次第得過。難陀繼至。以足指挑象擲著路旁。太子出城。以手擲象城外。還以手接。不令傷損。象

又還蘇。時諸人民歎未曾有。達多至園。最先發射徹三金鼓。次至難陀亦徹三鼓。太子以弓力弱。取王庫內祖王良弓。即放一箭。徹過七鼓。然後入地。過大鐵圍山。時提婆達多與難陀。共相撲戲。二人力等無有勝者。太子手執二弟。蹙之於地。以慈力故。不令傷痛(因果經)。

三十六年(甲子)三十七年(乙丑)三十八年(丙寅)三十九年(丁卯)

四十年(戊辰)太子年十五歲。王會群臣諸小王仙人婆羅門等。皆悉雲集。至二月八日。以七寶器。盛四大海水。各各頂戴。傳授與王。灌太子頂。付七寶印。立為太子。時八國王。亦於是日同立太子(因果經)。

四十一年(己巳)太子啟王出遊。前至王田。息閭浮樹下。

見諸耕人。時淨居天作壤蟲。烏隨啄之。見已悲愍。即便思惟。得四禪地(因果經)王尋太子。見在樹下。一切樹影悉移。唯此樹陰覆太子身。如重雲間忽見明月(菩薩本行經)。

四十二年(庚午)太子十七歲(按本行經十九納妃)釋種婆羅門摩訶那摩有女。名耶輸陀羅。顏色端正智慧過人。王即遣使往迎。為太子妃。太子常修禪觀。未嘗與妃有夫婦道(因果經)太子有三夫人。一瞿夷。二耶惟檀(即邪輸也)三鹿野。以有三婦。為立三時殿。殿有二萬嫖女(十二遊經○文句云。未曾有及瑞應。皆云羅睺。是瞿夷子。法華涅槃。皆云是邪輸子。二義云何通。或可彼經舉夫母。此經舉所生。釋論瞿毘邪是寶女。不孕即是瞿夷。故知定是邪輸子○瑞應經云。十七歲納妃)。

四十三年(辛未)太子白王將遊園林。前後導從出城東門。時淨居天化作老人。頭白背偃。見已還宮。愁思不樂。念言老至如電。我豈獨免。云何世人而不怖畏。他日復從城南門出。淨居天化作病人。身瘦腹大不能自持。太子念言。如此病苦云何不畏。即回車入宮。少時復從城西門出。淨居天化為死人。四人輿行室家哭送。太子語臣優陀夷曰。世間乃復有此死苦。云何於中而行放逸。即勅回車。最後出城北門。淨居天化作比丘。法服持鉢手執錫杖。太子問是何人。答言。我是比丘。修學聖道永得無為。言已騰虛空去。太子牽馬還宮。而自念言。我先見有老病死苦。常恐為此所逼。今見比丘。開悟我情示解脫路。即思惟方便欲求出家(因果經○按瑞應經云。十四歲遊四門○本行經云。太子問何人。答曰。我佛弟子沙門也。問何名沙門。答曰。三界兮擾擾。六趣兮昏昏。識心達本源。故號為沙門)。

- 四十四年(壬申)
- 四十五年(癸酉)
- 四十六年(甲戌)
- 四十七年(乙亥)
- 四十八年(丙子)
- 四十九年(丁丑)

出父家

五十年(戊寅)太子年二十五歲(妙樂云。若十九出家。則二十四成道。若三十成道。則二十五出家○據寶藏經。二十五出家。三十成道。荊溪之言。有合於此)往父王所作禮白言。恩愛集會必有別離。唯願聽我出家學道。王執其手流

淚言曰。國未有嗣宜息此意。時相師白王。太子若不出家。過七日後當得轉輪王位。王聞益喜。於城四門各置千人以為防護。王語太子。我昔曾聞阿私陀仙說汝畢定不樂處世。若生一子不復相違。太子即以右手。指其妃腹。便覺有娠(按瑞應經云。指妃腹曰。却後六年汝當生男)二月七日思求出家。身放光明照諸天宮。諸天皆知太子出家時至。即來禮足白言。無量劫來所修行願今正成熟。太子答言。如汝等語。然父王勅內外官屬。嚴見防衛欲去無從。諸天即以神力令諸官屬悉皆淳臥使無知者。耶輸臥中即得三夢。一月墮。二牙齒落。三失右臂。覺已具述。太子語云。月猶在天。齒又不落。臂復尚存。當知此夢虛假非實。至於後夜諸天白言。內外眷屬皆悉睡臥。今正是時。太子即令車匿被犍陟來。車匿流淚而言曰。今非遊觀之時。云何中夜而忽索馬。即舉聲號泣欲令王宮眷屬覺知。以天神力昏臥如故。車匿牽馬既至。諸天捧馬四足。并接

車匿。帝釋執蓋從北門出。其門無聲自然而開。行至天曉已三踰闍那(三由旬也)諸天事畢忽然不見。行至跋伽仙人苦行林中。即便下馬語車匿言。我既捨國至間靜處。汝與犍陟俱可還宮。車匿悲泣不能自勝。犍陟舐太子足。淚落如雨。太子即就車匿。取七寶劍自剃鬚髮。而發願言。願共一切斷除煩惱及以習障。帝釋接髮而去。讚言善哉。時淨居天化作獵師身被袈裟。太子見已而語之曰。汝所著衣是寂靜服。云何著此而為罪行。我今持此七寶之衣。與汝貿易。答言善哉。即脫寶衣而與獵者。自被袈裟(大論云。所貿得衣。粗布僧伽梨也)時淨居天還復梵身。上升虛空。於是車匿即牽犍陟。鳴噓悲哽緣路而還。跋伽仙人遙見太子。謂是天神。與眾請坐即問。問仙人。汝等苦行欲何所求。答言。為欲生天。太子又問。汝等修諸苦因以求苦報。終不離苦。言論往復。明旦辭去。車匿牽犍陟還入宮城。具白父王。王愛念情深。即遣王師大臣。尋至仙所仙

云。已過中路。遙見樹下端坐思惟。大臣具告王意。太子答曰。豈不知恩。但以生老病死四患為苦耳。我今終無返步。大臣即留憍陳如等五人。密令伺察。時太子北度(按西域記應云南度)恒河。路經王舍城中。頻婆娑羅王(按瑞應經作瓶沙王)聞太子至。願捨國相奉。太子答王。今可於身命財修三堅法。不應以不堅之法勸獎餘人。遂即別去。時王告曰。若道成日願先見度。太子前行至阿羅邏仙人處。聞說從得初禪。乃至入非想非非想處名為解脫。太子知非究竟。即與仙別。次至迦蘭住處。論議問答。亦復如是。太子調伏二仙人已至伽闍山苦行林中憍陳如等五人住處。於泥連禪河側。靜坐思惟。宜應六年苦行以度眾生(因果經)天神進食一不肯受。天令左右自生麻米。日食一麻一米以續精氣。端坐六年。形體羸瘦。寂默一心。內思安般(將思安住般涅槃故。修此六妙門禪。故法界次第云。前三是定。後三是惠。愛惠察。能發真明。出離生死。妙門者。

涅槃為妙。門謂能通。六法相通能至真妙泥洹。故云妙門)一數(攝心在息。從一至十。名之為數)二隨(細心依息。知入知出。故名為隨)三止(息心靜慮名之為止)四觀(分別所證名之為觀)五還(轉心反照名之為還)六淨(心無所依。妄波不起。名之為淨)遊止三四(止觀二門)出入二門。微妙神通。無分散意(瑞應經)太子日食一麻一米。或七日一食。陳如五人供奉太子。遣人白王。具說苦相。王與姨母及耶輸。各嚴五百車資生之物。令車匿領送皆悉不受(因果經○已上並小機所見出家相)。

述曰·按瑞應·因果·中本起·大論。並云十九出家。十二遊。增一中雜長四阿含。出曜經和須密論。並云二十九出家。當何所從。今以如來八十壽除五十說法。則定取梵網·無相三昧·寶藏經等。三十成道之言。若以三十成道除六年苦行。則定取荊溪二十五出家。上合寶藏之說。若

約前後義定。則有二事可證。一者出家之後。六年苦行取
成道之歲。其數正合。二者將出家時。指妃腹曰。却後六
年。汝當生子。後於成道之年。果生羅睺。按賢愚經云。
出家修道。六年苦行。得一切智。未曾有經云。太子逃至
山澤。勤苦六年。得佛還國。普耀經云。父王聞太子得佛
以來。六年令優陀耶往請云。濶別以來十有二年。又云。
佛還國入宮坐。羅雲來問訊。群臣皆疑。太子捐國十有二年。
何從有子。此等經文。並約出家六年成佛。又經六年
還國。逆而推之。當以二十五為出家之年審矣。孤山頌。
謂五歲遊歷。此語無憑。神智補注。備論異同。請以荊溪
之言為正。

- 五十一年(己卯)
- 穆王(滿昭王之子)
- 元年(庚辰)

- 二年(辛巳)
- 降天魔
- 三年(壬午)

四年(癸未)太子心自念言。我今修於苦行垂滿六年。若以羸身而取道者。彼諸外道當言自餓是涅槃因。我當受食然後成道。即至泥連禪河。洗浴身體。時彼林外有一牧牛女。名難陀婆羅。有淨居天。來下勸言。汝可供養。女人聞已大喜。即見地中生千葉蓮。上有乳糜即取奉上。太子呪願受食。氣力充足(按佛本行經。善生村主二女。一名難陀。一名婆羅。聚一千牝牛。取乳飲牛。展轉至十五牛。取乳煮糜。以上菩薩。有龍女。奉天妙筌。提即坐上。如意飽食。身體相好。圓滿如舊○普耀經云。龍女獻妙床)即

趣畢鉢羅樹。自發願言。我坐樹下若道不成要終不起(諸經多言菩提樹。此翻為道。言坐此樹下成道也。其樹正名畢鉢羅)又思惟。過去諸佛。以草為座成無上道。釋提桓因化為凡人。執淨軟草至菩薩前。問汝何名。答名吉祥。菩薩喜曰。我破不吉以成吉祥。乃敷以為座結加趺坐。而自誓言。不成正覺不起此座(因果經)佛為太子時。出家求道。淨飯王父。遣釋種五人隨逐給侍。憍陳如(此云火器)十力迦葉(亦名婆敷)是母親。二人執五欲樂。見太子初食麻麥。心不忍可即便捨去。頹鞞(此云馬勝)跋提(此云小賢甘露王次子)摩訶男俱利(斛飯王子五人諸文不同。今用文句五卷所出。與此論無殊)此是父親。三人執苦行淨。太子後知非道。捨而受食羹飯酥乳。三人謂其狂亂失志。亦復捨去(新婆沙論。○因果經。四教儀。先降魔後成道。華嚴經。先成道後降魔。妙樂云。既降魔已。應轉法輪。此大小機見之異也。今文云降魔。已入定。明星出時。霍然大

悟。則當以降魔為先也)時魔王宮殿自然動搖。魔王念言。瞿曇當成正覺。及道未成往壞亂之。於是手執弓箭。與諸眷屬俱往樹下。語菩薩言。汝應修轉輪王業捨出家法。今若不起我試射汝。菩薩怡然不驚不動。魔王挽弓放箭。停於空中。其鏃向下變成蓮華。魔王復遣三女。白菩薩言。仁者至德。願侍左右。菩薩答言。汝植小善。得為天身。不念無常。而作妖媚。今便可以去。吾不相須。時三天女變成老姥。頭白面皺。魔王即以軟語誘言。汝若不樂人間。我捨天位及五欲具。悉持與汝。菩薩答言。汝先修少施。今得為自在天王。此福有期要還沈溺。非我所須。魔曰。我知。於時大地六種震動。地神涌出而語。魔言。菩薩昔以頭面髓腦國城妻子象馬珍寶。而用布施。不可稱計。為求無上正真之道。是故汝今不應惱亂。魔聞怖懼。即自思惟。我今當更設方便廣集軍眾以力迫脇。時諸軍眾忽然來至充

滿虛空。執戟操劍。多頭多目。諸惡類形圍遶菩薩。四方煙起四海涌沸。是諸魔眾各盡威力。角目切齒橫飛亂擲。菩薩觀之如童子戲。空中有神隱身而言。菩薩歷劫修習善果欲導眾生。汝今云何惱亂導師。今日決定樹下成無上道。此地乃是過去諸佛金剛之座。堪受妙定。非汝所摧。汝今宜應息憍慢意而奉事之。是時魔王聞空中聲即還本宮(因果經)。惡魔波旬將八十億眾。欲來壞佛。語云。汝不急去。我擲汝海水。佛語波旬。汝今先能動此澡瓶。然後可能擲我海水。時波旬不能令動。軍眾壞散(雜寶藏經)波旬長子商主即頂禮菩薩求乞懺悔白言。我父無智觸忤大聖。願得恕亮(佛本行經○已上小機所見降魔相)。

述曰。諸經云。魔波旬在六欲頂。別有宮殿。今因果經。乃指為自在天王。如此則當第六天。有此兩異。蓋是譯者。用義之不同也。

成佛道

二月七日惡魔退散之時。菩薩心淨湛然不動。落日停光澄月映徹眾星粲爛。天雨妙花作眾技樂。以用供養。菩薩既降魔已放大光明。即便入定思惟真諦。悉知過去所造善惡壽命短長。一切眾生輪回五道。無有真實。橫生苦樂。明星出時霍然大悟(即八日天曉也)得無上道為最正覺(因果經○此小機所見成道相)○佛成道日斛飯王(第一弟)遣使白淨飯王言。貴弟生男(第一弟白飯王)王心歡喜語來使云。今日大吉。是男當字為阿難(此云歡喜)舉國欣慶。又名慶喜(大論)○是歲耶輸夫人生子名羅睺羅(此云覆障以在閉為障也)時羅睺羅阿修羅食月。因以為名。初太子出家之日。指妃腹曰。却後六年汝當生男。至是在胎六年而生(瑞應經)。

述曰。大乘開住胎。合降魔於成道。小乘開降魔。合住胎於託胎。住胎見起信。降魔見四教義。此先達之論也。今觀大小。皆有住胎降魔之文。如華嚴云。菩薩住母胎已。示現出家成道等相。此大乘住胎也。因果經。菩薩在母胎。行住坐臥。一日六時。為諸天鬼神說法。此小乘住胎也。花嚴離世間品。菩薩出家成道降魔轉法輪等。妙樂云。四佛各有四降魔相。此大乘降魔也。因果經。既降魔已即便入定。明星出時得最正覺。此小乘降魔也。今欲順八相之言。且用起信四教義二文開合為證。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依

大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三上

宋景定四明東湖沙門志磐撰

教主釋迦牟尼佛本紀第一之三上

轉法輪

序曰。說法度人。如來出世之大要。人有利鈍。則法有頓漸。故聞法之人無不悟入。猶夫醫王應病與藥。藥能合宜。則病無不愈。疏不云乎。今佛始終具轉五味法輪。轉此法度人他心令得悟。斯轉法輪之義也。

如來轉法輪。一代五時。則有八教。

轉法輪者。輪以摧碾為義。如來說法。化轉物心。於法自在。如輪王輪寶運轉無礙。又如來三輪不思議。謂身輪現通。口輪說法。意輪鑑機。能與眾生摧碾一切惑累。法苑云。輪王有二。財輪王者。有四等。金輪千輻。化被四洲。住劫八萬歲時出。銀輪七百五十輻。化三天下。除北洲。銅輪五百輻。化東南二洲。鐵輪二百五十輻。唯化南洲。如阿育王是也。法輪王者。若減百年如來出世是也。

一代者。通指八相。別在五時。五時復有通別。妙玄云。五味半滿。論別別有齊限。論通通於初後。若華嚴別但在初。通則至後。法苑已去例此云云。今論一化唯在別義。論五時者。義出三經。謂華嚴三照。涅槃五味。法華信解品。四大弟子領解等文。故文句云。四大弟子深得佛意探

領一代五時之教。始終次第。其文出此。

八教者。妙樂云。化儀四教。是判教之大綱。化法四教。是釋義之綱目。是知頓等是判。藏等是釋。如判華嚴為頓。則以別圓釋之。乃至判法華為非頓非漸。以純圓釋之。此今家消經之軌則也。妙樂又云。若消諸經。但用藏等。其文稍通。若釋法華。無頓等八。舉止失措。謂餘經但論當部逗機得益。故未須頓等。若釋法華。須明一代。故用頓等以括始終。輔行云。藏等四教。遍收一切大小乘經。因果顯了。各立教主。各被機緣。始終備足。不過此四。頓等四教。但是如來不思議力。布措藏等。盈縮調停。成熟物機。破邪立正。引小歸大。廢偏顯圓。會權入實。故有諸部五味相生。利物無方。適時出沒。

言五時者。一華嚴時。

具云大方廣佛華嚴經。人法譬具足立題。別行玄記云。大方廣是法。佛是舍那果人。華嚴譬諸地因華莊嚴果德(文)此經總有七處九會。會處不一。故以經標名。

二鹿苑時。

輔行引大論云。如來因地為鹿群主。波羅柰王入山遊獵。有母鹿懷子。當差次供饌。母告鹿主。枉殺其子。鹿主詣王求代。王說偈曰。我實人頭鹿。汝是鹿頭人。以理而為人。不以形為人。我從今日始。不食一切肉。我以無畏施。亦可安汝意。鹿群所居。故名鹿苑。亦名柰苑。從樹立名。亦名仙苑。二仙所住故。此以處標名酬昔行因之地。

三方等時。

四教並談曰方。四機俱被曰等。此從法得名。依部教立。故續遺紀云。方等之名有二意。若大經從酪出生酥。譬修多羅出方等。此約第三時。的從部教。即被三乘四教機也。若普賢觀此方等經。是諸佛眼。乃直明圓理。非第三時也(文)普賢方等乃方廣平等之義。諸部大乘談圓理處。並名方等。

四般若時。

此云智慧。五種不翻中尊貴不翻也。具云摩訶般若。此從經標名。

五法華涅槃時。

二經同明開顯並屬醍醐。故合為一時。此並從經標名。法華具云妙法蓮華經。由妙法有施開廢三者之義。故以蓮華為喻。涅槃者。具云摩訶般涅槃經。此翻大滅度。大即法身。滅即解脫。度即般若。一經始終。純談三德。

是為五時。

五時立名不出三義。華嚴從喻。鹿苑從處。方等般若涅槃從法。法華從法喻。

亦名五味。

此有相生濃淡二義。言相生者。妙玄云。初頓之後。次開於漸。故涅槃云。從佛出十二部經。從十二部經出修多

羅。譬從牛出乳從乳出酪云云。次第相生不取濃淡。又云。呼為乳者。意不在淡。以初故本故。言濃淡者。義例云。經中五味。惟喻一代五時濃淡。濃淡雖殊皆從牛出。元草堂云。相生喻教。濃淡喻機。喻教則有次第。從頓開漸。漸入轉深終會於圓。喻機則有優劣。初自聾瘡彈訶淘汰。而卒至得記(文)祇一五味作兩番譬。能譬雖通所譬則局。今論一化次第。唯取相生之義。

○三照五時五味之圖

華嚴四喻		妙玄合四為三	釋籤開三為五	華嚴
例機為五	妙玄五時	涅槃五味	法華五喻	

先照諸大王山○——○高山○——○高山○——○菩
 薩○——○華嚴○——○乳○——○即遣旁人

次照一切大山○——┘

○——┘
| ○幽谷○——○幽谷○——○聲聞

次照金剛寶山○——┘
○——┘
| ○鹿苑○——○酪○——○密遣二人
┘ ○食時○——○緣覺

普照一切大地○——○平地○——┘
善根○——┘
| ○禺中○——○決定

┘ ○方等○——○生
|
酥○——○過是以後

眾生○——○般若○——○熟酥○——○長者有疾
└——○正中○——○一切

└——○法華涅槃○——○醍醐○——○汝實我子

華嚴性起品(舊譯)譬如日出先照諸大山王。次照一切大山。次照金剛寶山。然後普照一切大地。日光不作是念。我當先照諸大山王。次第乃至普照大地。但山有高下照有先後。如來亦復如是。成就無量無邊法界智光。先照菩薩。次照緣覺。次照聲聞。次照決定善根眾生。隨應受化(三藏菩薩)然後普照一切眾生云云。又云。譬如日月出現世間。乃至深山幽谷無不普照(玄文合大山寶山為幽谷。其文出此)涅槃經云。佛說二十五三昧。無垢藏菩薩白佛言。

如佛所說。諸佛菩薩成就智慧功德。百千萬億。實不可說。我意猶謂不如此經能出阿耨多羅三藐三菩提。佛言譬如從牛出乳。從乳出酪。從酪出生酥。從生酥出熟酥。從熟酥出醍醐。醍醐最上。佛亦如是。從佛出十二部經。從十二部經出九部修多羅。從修多羅出方等典。從般若出大涅槃。醍醐譬於佛性。佛性即是如來。釋籤云。涅槃五味。轉變而祇是一乳。華嚴三照。不同而祇是一日。今演華嚴平地之譬。以對涅槃後之三昧。數雖不等其義宛齊云云。又云。華嚴但云平地。今離彼平地。以譬方等般若法華。方等如食時。般若如禺中。法華如正中。

言八教者。頓漸祕密不定為化儀。藏通別圓為化法。是為八教。化儀如世藥方。化法如辨藥味。

言教者。詮理化物之義。聖人被下之辭。化儀四教。是如

來化物之儀式。故喻如藥方。化法四教。是眾生除病之法度。故喻如藥味。化儀等四教下義理。祇是藏通別圓。雖通名為教。其實無別有體。

八教文證者。初化儀四教。如華嚴云。初發心時便成正覺。妙玄云。如日初出。先照高山。此如華嚴緣得大益名頓教相。無量義經云。從一清淨道施出二三四。妙玄。次照幽谷。此如三藏。次照平地。此如方等般若。並漸教相。大經或時說深。或時說淺。淨名。佛以一音眾生各解。此不定教。大品我見閻浮提第二法輪轉。大論云。今轉似初轉。此祕密教也。次化法四教者。妙玄引長阿含云。佛說四大教。籤云。但有四。非即藏等也。月燈三昧經明四種修多羅。其中有四種斷無明智。章安私釋以對四教。籤云。與四教義甚相應。然此並是約義以對。未見立名之的。今準四教義引法華云。貪著小乘三藏學者。成論

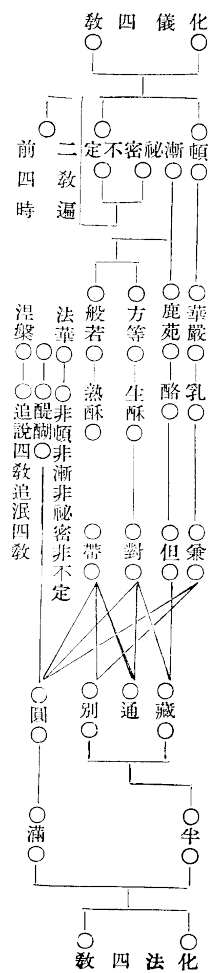
我今正欲論三藏中實義。此並藏教名義。華嚴云。為說圓滿修多羅。大品云。欲以一切種智知一切法。當學般若。法華以平等大慧為大眾說。如所說者皆是真實。涅槃經復有一行是如來行。所謂大般涅槃。大論三智其實一心中得此。並圓教名義。

(文)唯通別兩名。遍在諸文。是大師之所義立。如四教義引大品云。薩婆若智三乘同得。中論諸法實相三人共入。此並通教義通者同也。三乘共稟。故名為通。

無量義云。摩訶般若。華嚴海空。宣說菩薩歷劫修行。涅槃經明五行。大論不共般若斷於別惑。此並別教義。別者不共之名。八教名義者。直說於大。時部居初名頓。中間三味引小向大名漸。一音異解互不相知名祕密。聞小證大聞大證小名不定。經律論三含藏法義名三藏。三乘共行。

利根菩薩通別通圓。故名通。獨菩薩法次第斷證。別前藏通別後圓教。故名別。教理智斷行位因果一切圓融。故名圓。

○八教對會五時圖



妙玄釋如是我聞云。若非超八之如是。安為今經之所聞
(文)此當以部教分之。約部則非兼帶之圓。故超八教。若
但約教。則今昔圓義更無有二。故籤云。八教中圓教。帶
偏明圓。猶屬於漸。今法華圓。開偏顯圓。圓外無法。

初頓教者。即第一華嚴時。從部時味。得名為頓。此謂如
來始成正覺。在寂滅道場。四十一位法身大士。及宿世根
熟。天龍八部。一時圍遶。如雲籠月。是時如來現盧舍那
身。說圓滿修多羅。故言頓教。

頓教者。有約部約教二義。約部則別在華嚴。約教則通於
餘時。今此正當約部明頓之教。對下三漸化儀為言也。下
文云。從部時味得名為頓是也。華嚴為部。先照為時。乳

為味。合此三義為部時味。簡餘時也。下鹿苑時。亦可得云從部時味得名為漸初。此後可例。

始成正覺者。此約迹中大始而言。非本中初成也。寂滅道場者。寂五住煩惱滅二種生死。見惑一住。思惑分三。塵沙合無明為一住。同居土分段生死。方便實報土變易生死。得道之場。如世治穀之場。除五住糠顯實相米。新譯經菩提道場名異義同。四十一位者。妙玄云。華嚴明三十心十地佛地。為四十一位。以破無明顯中道法性之理。故云法身。法身有二義。毘盧遮那。性德法身。分破無明。至究竟者。名修德法身。今文在修。義兼性德。四念處云。華嚴前無十信後無等覺者。玉慧覺云。不可將部中談位而難經初列眾。蓋華嚴等覺。十地即等覺也。今言經初列眾。故有等覺。若前無十信者。華嚴明十梵行。即十信

也。故四教義云。十種梵行與圓十信同。今文唯約法身大士。故不列十信。

宿世根熟天龍八部者。諸經列眾有龍畜等者。當用涅槃四句料簡。一乘急戒緩。四趣聞法悟道者。二戒急乘緩。著樂人天不聞法者。三乘戒俱急。天人聞法得道者。四乘戒俱緩。四趣不聞法者。今此眾皆是宿世曾聞華嚴。或種或熟。今當得脫之眾。止觀云以三塗身值彌勒佛聞華嚴經。正此義也。八部如常論。

如雲籠月者。妙玄云。法身眷屬。如陰雲籠月。共降母胎。此喻降胎之相。今四教儀。取喻轉法輪眷屬之相。其義兩可。雲以喻機。月喻教主。仁王經云。十五夜月。闇盡光圓。以喻如來智德漸圓惑闇究盡乃成斷結。盧舍那者。此云淨滿。諸惡盡故淨。萬德圓故滿。即自報身也。

亦云光明遍照。如大論云。光明無邊。色像無邊。尊特之身。即他報身也。今明教主。依四明立義。正是樹下釋迦現起尊特。如解謗引經云。爾時世尊不離一切菩提樹下。而上升須彌向帝釋殿說法。豈非華嚴是千百億應身所說。修多羅者。此云契經。能說所說契理契機。亦十二部之總名也。文雖兼別。部意是圓。

若約機約教未免兼權。謂初發心時便成正覺等文。為圓機說圓教。處處說行布次第。則為權機說別教。故約部為頓。約教名兼(見妙玄十及四教儀)。

發心有三。一解行發心。五品也。二相似發心。十信也。三真證發心。初住也。今是真證發心。即是發理性三因之心分證三德之理。四教義云。華嚴初發心時便成正覺。即是發真無漏斷無明入初品。起信論云。菩薩發是心。隨其

願力能見八相。妙樂云。華嚴起信彰灼明文。初住八相等文者普賢普眼三無差別等。皆圓文也。

行布次第者。七處八會。故云處處。行列布措階位淺深。故云行布。此經所說有圓融行布二門。釋籤云。華嚴會處。所明行位不出別圓。但經意多含義難定判。始從住前至登地來。全是圓義。從第二住至第七住。文相次第又似別義。於七住中又辨一多相即自在。次行向地。又是差別次第之義。又一一位皆有普賢行布二門。故知兼用圓文接引。

華嚴云。如日初出先照高山(妙玄)。

日喻教主。高山喻別圓之機。大機當熟故。先蒙如來慧光所照。

涅槃云。從牛出乳。譬從佛出十二部經(妙玄)。

玄文言大機稟教即破無明行如醍醐者(文)此指華嚴高山王機也。涅槃言從牛出乳者。此約一化指聲聞聾瘡也。故玄文云三教分別。即名頓教。亦即醍醐五味分別即名乳教。今言從牛出乳者即初味也。

信解品云。即遣旁人(如來為正。菩薩為旁。即是佛加被四菩薩說四十地。法慧菩薩說十住。功德林說十行。金剛幢說十向。金剛藏說十地)急追將還(直約大教擬宜小机。故曰急追。昔有大乘。故曰將還。又復性德本自有之。故曰將還)窮子驚愕(卒聞大教。乖心故驚。不識故愕)稱怨大喚(生死為苦。煩惱為怨。若聞生死即涅槃。煩惱即菩提。即苦痛稱怨大喚)使者執之逾急(為說怖畏。令其遠惡。即是

急切)強牽將還(內既無機外逼大化)窮子自念。無罪而被囚執。此必定死(眾生罪故。入生死獄。菩薩亦同罪入獄。二乘無大悲心。令入生死。即是而被囚執。永失三乘慧命)轉更惶怖(思此等事)悶絕躄地(小智不解溺無明地)父遙見之(小知大遠故遙。是結緣子故見)而語使言(菩薩為使)不須此人(不須現尊妙身令二乘見)勿強將來(既無大機恐傷善根)使者語之。我今放汝(正明息化)窮子歡喜(不為大教所逼)往至貧里。以求衣食(於四諦中欲求道法。○以上注文並出文句)。此領何義。此為如來說圓頓教門。以大擬小。機生悶絕(妙玄十卷)。

華嚴三名。述曰。舊以寂場時長盡未來際法界列為四種華嚴。又分前三屬事。後一屬理。此皆積代之謬。今篤論其義。祇有三名。一者寂場。妙玄引方便品始坐道場三七思惟。明釋迦最初頓說是也(從初卷至三十六卷。為前分)二

者時長。妙玄引法性論鈍根三處入法界是也(從三十七卷以去為後分)三者盡未來際。文句云。華嚴末席始開於漸。妙樂云。此且寄娑婆一期設化。用通今意。應知華嚴盡未來際。即是此經常在靈山何殊。十方更互主伴(前二名見妙玄後一名見妙樂)雖有三名。而於所說之經。無非華嚴。所詮之理。無非法界。或言母胎者。妙玄云。佛從兜率下。與法身眷屬共降母胎。常宣妙法(文)是時未轉法輪。當屬盡未來際實報土相。專被大機者所攝(此逸堂說)有言海空者。妙玄引無量義經。次說般若華嚴海空。文。此祇是因般若入法界。時長所收。然則母胎海空。不當別出二名也審矣。

時長通後。述曰。評時長通至三處者。謂般若海空法華佛慧涅槃心地法門是也。妙玄引無量義經云。次說般若歷劫修行華嚴海空。法華會入佛慧。即是通至二經(籤云。以般

若亦得名華嚴。法華佛慧不殊初故。又妙樂云。當知法界論之無非華嚴。佛慧言之無非法華)。

此即通般若。通法華之證也。又引像法決疑經云。今日座中各見不同。或見如來入涅槃。或見報身生蓮華藏海為千百億釋迦說心地法門。又妙玄云。日若垂沒亦應餘輝峻嶺。故蓮華藏海通至涅槃之後。此通涅槃之證也。又引法性論云。鈍根三處入法界。此即通後之文也。今更論之。妙玄云。因般若入法界。即是華嚴海空(由歷劫修學般若。今發空智得入法界。觀華嚴藏海。皆畢竟空)又云。華嚴時節長。昔小機未入如聾如瘡。今聞般若即能得入(此且舉般若得入為端。法華涅槃亦當例此得入。後人欲據此文齊至般若者。不知通至二經及三處入法界之文。如何消釋時長得名。正出此文)籤云。一以法界為華嚴(此即寂場三七及盡未來際。獨為利根大機常說華嚴圓頓之教。舉所詮法界

之理以為名也)二以時長。通至於後(即鈍根三處入法界。其極鈍者。至法華開顯。方始得入也)二義並通。是故並存大機則華嚴不休(釋上法界之義)小機則諸教次第。是故鈍根猶存小見(釋上時長由根鈍存小見。故歷諸教始得入大)又妙樂引入佛境界品(三十八卷)文殊語舍利弗等六千比丘。汝等善能成就十種大心則得佛地。自古共云。華嚴時長乃是結集後教至般若來。方可得云令諸比丘成十大心。此乃義當轉教時也。結此等意入華嚴中。故云時長(文)有人據轉教時之言。便謂華嚴齊般若者。殊不知荊溪引此經後分有聲聞為時長至般若之證耳。初未嘗的判但齊般若。不然。荊溪釋玄文三處入法界。何云時長通至於後小機諸教次第耶。又有人云(車溪雲師)縱通涅槃。不當通法華。謂有妨如來調機無功。為之難者。若能細思會入法華佛慧之言。則此意自銷。何妨之有。

華嚴教主。述曰。論華嚴教主者。準四明解謗之說。於尊特身有須現不須現二者之分故。須現則如梵網華嚴及觀經等相多身大。不須現即以力加。令於劣身不取分齊見三十一相即無有邊。以知丈六是法界故。今詳此說。考之經文。則有二義。一約補處。謂菩提樹下初成正覺。若非補處。豈曰初成。又偈云。迦葉曾來住此殿。是故此處最吉祥。如是十偈。讚過去十佛。既佛佛俱有補處。則知藏塵相好之佛。須是分段生滅之身。與同居應更無少異。二約上升。謂是時世尊不離菩提樹下上升須彌(華嚴骨目云。不動而升。赴機得處)向帝釋殿說法(即前迦葉十佛曾住之殿。上升即是現起之義)豈非華嚴是千百億應身所說。此身既被別圓之機。見是尊特。何須獨指華臺受職身耶。此即破淨覺指實報土藏塵尊特橫應同居之說。蓋大師說三品相海皆稱機而現。別教則用別修緣了。成就此相。即修成之尊特。故名報身。圓教能了二修即性。修德無功。乃性具

之尊特。故名法身。據此則知。即性而論本名法身。取土同居則名應身。被機現起則名尊特。永異淨覺修成尊特橫應同居之說。然則今師約機約教以定身者。正是樹下生身現起尊特。以應別圓之機。正合妙玄釋迦最初頓說(釋迦是生身說頓是舍那)亦合四教儀如來現盧舍那身說法之言(如來是釋迦生身現起尊特故轉名舍那)世有取月堂之說云。境本定身則是釋迦。機感見相則是舍那。蓋有得於此云。

然初頓未必純教法身菩薩。亦有凡夫大根性人。此有兩義。若當體圓頓得悟者。即破無明入圓初住。此是醍醐。若初心之人。雖聞大教始入十信。最是初味。名之為乳。呼為乳者。意不在淡。以初故本故(圓教內凡六根清淨。即是十信。初信斷見。二信至七信斷思。八信至十信斷界內外塵沙惑。以未破無明。故但名乳)若小根性人。大教擬小如聾如瘡。小機未轉全生如乳(妙玄十)。

華嚴二味四機。述曰。自昔教初學者。為時味圖。上言高上下下對乳味。未嘗有論之者。今案玄文。華嚴之時自有二味四機之別。一者純教法身。即是分證中道四十一位。此名醍醐。二者凡夫大根。入圓初住證一分中道以去。亦名醍醐。三者始入十信。雖但四住未破無明。但名為乳。四者小根聾瘡全生如乳。然則名醍醐者有二機。名為乳者亦有二機。玄云。於小如乳於大如醍醐。少分譬喻不可全求。如籤云。華嚴分喻初味。而未得於華嚴之頓及別圓兩教。但有五味次第之相(文)當知。謂華嚴為乳者。正約從頓開漸施設化事之意。

三七擬機。述曰。諸文謂三七是擬機者。人無異論。然玄文云。於彼初分永無聲聞。後分則有。雖復在座如聾如瘡。故義神智據此非之曰。初分永無。何所擬哉。今作二

義釋之方為盡理。一者三七初分永無。此如來擬宜之化意。二者後分則有。狀如聾瘡。此如來擬宜之化事。初言化意者。如方便品云。始坐道場三七思惟。籤云。初七思惟欲說圓。次七思惟欲說別。三七思惟欲說通。皆無機故但說三藏。籤又云。約大機則寂場之時。約小機則成已思惟未說之時。妙樂云。小見三七停留。大觀始終無改。此皆如來擬宜之化意也。言化事者。如文句云。華嚴末席始開於漸。妙樂釋之云。舊經云。佛在逝多林入師子頻申三昧。舍利弗從祇園出。不見如來自莊嚴。不見諸大菩薩眷屬。無智眼能見。亦不能讚歎。此即如聾如瘡之文。於彼末會即當漸初(文)今考二祖之言。皆指聾瘡在後分漸初。明知是鹿苑十二年中。例如妙玄謂方等彈訶應在十二年前。以此推之。則知逝多林末會正是如來擬宜之事。由聲聞先習小乘未堪聞大。狀如聾瘡。故假淨名以激進之。是則擬宜彈訶。俱在十二年中。無可疑者。四教儀以

聾瘡在華嚴。彈訶在方等。此但約部中而論。其實未為正義。又經云。願光明菩薩等。各說十偈以勸聲聞。最初一偈。彈斥之曰。一切諸緣覺及彼大聲聞。皆悉不能知菩薩行境界(此即後分攝入前例之文)此皆擬宜之化事也。昔人不能區別諸文。不知如來化意化事。混而觀之。故多異說。

七處八會者。是舊經六十卷。晉跋陀羅譯。天台所引用者。若新譯八十卷。是唐實叉難陀譯。更加普光明一會。是為七處九會。三十九品。唯阿僧祇隨好光明是佛說。餘皆加被諸菩薩說。

第一會。菩提場說六品○世主妙嚴(佛在摩竭提國阿蘭若菩提場中始成正覺。荊溪云。既異壽量久成。不同阿含菩提樹下。任運在迹。別圓教也)如來現相(佛白高相有菩薩。

說偈云。佛身充滿於法界。云云)普賢三昧(普賢入如來藏塵三昧。現微塵佛刹)世界成就(普賢說世界成就。具十事十因緣)華藏世界(普賢說世界海。如天網分布安住虛空)毘盧遮那(普賢說此世界佛名。舊經釋迦亦名盧舍那。而新經名毘盧遮那。妙樂云。法報不分二三莫辨者。正此之謂也)。

第二會。菩提場普光明殿說六品○如來名號(文殊說十方世界佛名)四聖諦(文殊說四諦名義)光明覺(文殊說偈讚佛放光)菩薩問明(文殊問覺首等破無明義。法首菩薩云。如人數他寶。自無半錢分。於法不修行。多聞亦如是。如人善方藥。自疾不能救。如聾奏音樂。悅彼不自聞。又賢首云。一切無碍人。一道出生死)淨行(文殊答智首。一切行願。若飯食時。當願眾生禪悅為食。法喜充滿○諸偈皆出此品)賢首(文殊問賢首。菩提心功德等。信是道元功德

母)。

第三會。忉利天宮說六品。○升須彌山(佛坐菩提樹。不起此座升須彌山。帝釋讚云。迦葉曾來住此殿。是故此處最吉祥。如是約過去十佛讚。皆言此處最吉祥。荊溪云。不動而升。赴機得處)山頂偈讚(佛坐帝釋殿。法慧等十菩薩各說偈讚佛勝慧云。了知一切法。自性無所有。如是解法性。則見盧舍那)十住(法慧說十住。一一住勸修十法)梵行(法慧說修習梵行有十法)發心功德(法慧答帝釋問。發心功德。為佛種不斷故。一念知廣大世界長短劫故。有佛無佛一佛多佛故。一念知三際世界成壞劫故。眾生種種差別故。荊溪云。發心所緣是所觀境。具三諦無性空。一切假平等中)明法(法慧說初發心菩薩離十放逸修十種法具大功德成就佛智。荊溪云。明謂所證。法謂方法)。

第四會。夜摩天宮說四品○升夜摩天(佛升此天請佛入殿)夜摩偈讚(功德林等各說偈讚佛。覺林偈云。心如巧畫師。造種種五陰。一切世間中。莫過名與色。又云。如心佛亦爾。如佛眾生然。心佛及眾生。是三無差別。又若人欲了知。三世一切佛。應觀法界性。一切惟心造)十行(功德林說)十無盡藏(功德林說)。

第五會。兜率天宮說三品○升兜率天(佛升此天請佛入殿)兜率偈讚(金剛幢等讚佛)十回向(金剛幢說偈云。法性遍在一切處。一切眾生及國土。三世悉在無有餘。亦無形相而可得)。

第六會。他化天宮說一品○十地(金剛藏說。用十地對諸天王。如發光地對忉利天王等)。

第七重會。普光明殿說十一品○十定(普賢說入十種三昧)十通(普賢說十種通)十忍(普賢說十種忍)阿僧祇(佛為心王菩薩。說阿僧祇無量至不可說不可說劫。稱讚普賢功德無量)壽量(心王說比較世界劫數長短)菩薩住處(心王說東北方清涼山。文殊與萬菩薩住處。又云震旦國有那羅延窟)佛不思議(蓮華藏菩薩說不思議如來妙德)十身相海(普賢說如來十身。一一皆有十華藏世界海微塵數大人相)如來隨好光明(佛告寶手。說隨好光明照十佛剎塵界。地獄遇光息苦。咸生兜率天上)普賢行(普賢說修行十法等)如來出現(佛放光名如來出現普賢說遮那本願)。

第八三會。普光明殿說一品○離世間(普賢說廣列菩薩雜行)。

第九會。逝多林說一品(即給孤園)○入法界(時世尊入師子

頻申三昧。舍利弗等諸大聲聞在逝多林。皆悉不見如來神力。亦復不見菩薩大會。以善根不同故。本不修習見佛善根。本不讚說諸佛神變。不能見聞念等。依聞乘而出離故。○文殊辭佛南行人間。時舍利弗與六千比丘。往文殊所。文殊以十事勸之。令行菩薩道。即得無碍眼三昧。見一切佛境界。悉見諸佛。文殊勸已。南行至福城東。為善財童子說法。令求菩提近善知識。從此南行。一百十城。參五十三善知識。入普賢道場。得一切佛剎微塵數三昧門。遍見普賢於十方界○此並依荊溪華嚴骨目出)。

籤云。龍宮所藏三本。上本十三世界微塵數品。中本四十九萬八千八百偈。下本十萬偈四十八品。今但三十九品。則知經來未盡(龍樹入龍宮閱經。以上中二本非世所堪。但誦下本流行於世)。

二月九日。如來於七日中一心思惟觀於樹王。而自念言。我所得法甚深難解。唯佛與佛乃能知之。一切眾生薄福鈍根。云何能解我所得法。我寧般涅槃。時大梵天王。即發天宮至如來所。白言。世尊。始於今者成無上道。云何默然而不說法。然有眾生過去世時植眾德本堪任聞法。唯願世尊為斯等故。以大悲力轉妙法輪。釋提桓因乃至他化自在天亦復如是。時梵王等乃至三請。滿於七日。默然受之。二七日。以佛眼觀諸眾生上中下根及諸煩惱。三七日思惟。今我當開甘露法門。誰先得聞。阿羅邏發願。道成先度。空中有言。昨日命終。又思迦蘭利根。亦應先聞。空中又言昨夜命終。又思王臣所遣五人。過去發願。應先聞法。即從座起。詣波羅柰(因果經○文句引因果經。三七日與法華不異。又釋籤。備引諸經明三七皆不同。唯因果經略同今師意。故今佛紀之文。多準此經。阿羅邏迦蘭二仙。并陳如五人。並見本紀二卷)。

二月三十日。世尊到文鱗盲龍無提水邊。坐定七日。光照水中。龍目得開。自憶前見三佛光明(賢劫中。拘留。那含。迦葉三佛也)目輒得視。乃出水見佛。天雨七日。龍以身遶七匝。七頭羅覆以為障蔽。七日雨止佛從定寤。龍化少年道人。佛即為授三自歸法(應如提謂歸依當來僧)諸旁生中最先見佛(因果經)。

三月七日。樹神知佛七日坐定(此水邊坐定樹神非菩提樹神)未有奉食。適五百賈客從山面過。車牛皆躓不行(躓音至。[橐-(石/木)+是]同。礙不行也。跋前躓後)有兩大人。提謂。波利。俱詣樹神請福。樹神即為言。佛在水邊。汝曹幸先奉食。兩人即和蜜[麯-夫+少]上佛。四天王取石中自然香鉢。各用持上(因果經○按普耀經云。四天王各奉一青石鉢)佛念取一鉢不快餘王意。乃悉受四鉢。累置左手。

以右手按成一鉢。令四際見(瑞應經)佛為呪願。食訖即授賈人三歸。一歸依佛。二歸依法。三歸依將來僧(因果經)佛先為辨五行六甲陰陽歷數。既信服已令歸依佛。歸依法。歸依當來僧。時長者得須陀洹(此云預流初果人也)復為說五戒曰。五戒者。諸佛之母。欲求佛道讀是經。欲求阿羅漢(此云無生四果聖人)讀是經時。提謂得不起法忍。三百人得信忍。二百人得須陀洹。五百賈客四天王得柔順法忍(提謂經○補注云。據三寶錄。舊有提謂經一卷。後因魏世曇靖撰提謂波利經二卷。加五行五方。又云。東方泰山。漢言岱岳。不識梵魏。致後人以為偽。人當以一卷者。為正)佛為提謂。授記未來成佛。號密成如來(普耀經)。

提謂攝屬。述曰。佛說五戒人天之教。正是顯露。提謂得忍聞小證大。乃是不定。是為顯露不定教也。若約時則當

華嚴三七後。及水邊七日後。是為第五七日。如因果經所云。若收經則人天之教。三藏所攝。如四教義所云。

次漸教者有三時。鹿苑漸初。方等漸中。般若漸末。總名為漸教。

述曰。此為身子等一類小機華嚴無益。從頓開漸次第引入漸初鹿苑。四諦十二因緣同證小果。漸中方等。彈偏折小同慕大法。漸末般若。轉教付財領知家業。故總名為漸也。

第二鹿苑時者。佛本以大乘擬度眾生。其不堪者。尋思方便趣波羅柰(此云江遶城。中印度境。鹿苑在城中)於一乘道分別說三。即是開三藏教也。非但釋迦隱其無量神德作斯漸化。去來諸佛亦復如是。當知初頓之後次開於漸。漸

機於頓全生如乳。三藏中轉革凡成聖。喻變乳為酪。次第相生不取濃淡(妙玄十)為三乘根性於頓無益故。不動寂場而遊鹿苑。脫舍那珍御之服。著丈六弊垢之衣。先為五人說四諦十二因緣事六度等教(四教儀○文句云。過去名根。未來名性○即大而小。故云不動。尊特勝應定慧莊嚴。譬珍御服。生身劣應忍生法惱。譬以垢衣。佛生人中。倍勝人形。故長丈六。如彌勒三十二丈時人長十六丈)。

若約時則次照幽谷(妙玄)若約味則從乳出酪。此從十二部經出九部修多羅(妙玄十)。

信解品云。時長者將欲誘引其子(既息大化不欲孤棄)密遣二人(隱實為密。用權為遣。聲聞緣覺為二人)形色憔悴(二乘不修相好)無威德者(無十力無畏)徐語窮子(小教迂隱為徐語)顧汝除糞(苦集之糞)時二使人即求窮子(審知有机)既已

得之具陳上事(陳說顧作)時窮子先取其價。尋與除糞(取道滅之價)其父見子慙而怪之(慙其取阿羅漢。怪其不求佛道。已上並是齊教領。此下為探領)又以他日於窓牖中(偏見狹小)遙見子身(小去大遠為遙見)羸瘦憔悴(智福力少曰羸。內怖無常曰瘦。外遭入苦曰憔悴)糞土塵坌(四住為糞土無知為塵坌)污穢不淨(久知方便示是玩好)即脫瓔珞細軟上服(隱報身戒定慧等瓔珞寂滅忍上服)更著粗弊垢膩之衣(丈六形為粗。生法二忍為弊。忍有情惱。名為生忍。忍無情惱。名為法忍。謂寒熱風雨等屬法○粗作麁俗)右手執持除糞之器(治見思有漏之法。左喻實。右喻權)語諸作人(親教子作)汝等勤作。好自安意。我如汝父(似像未實)汝今已後。如所生子(隣真逼聖即世第一位)時窮子雖欣此遇。猶故自謂客作賤人(自知不任紹大)二十年中常令除糞(見諦一解脫一無礙。思惟九解脫。九無礙。共為二十○已上注並出文句)此領何義。此為次頓之後隱舍那身作比丘像說三藏

教。二十年中常令除糞。得一日之價。見思已斷。無漏心淨(妙玄十)。

二十年中。述曰。信解品。二十年中之文。凡三處所以表法。各有其意。初二十年中常令除糞(科追誘譬)見諦一解脫一無礙。思惟九無礙九解脫。故云二十(文句此有七釋)二經二十年執作家事(科委領家業)住二乘位。轉大乘教(文句)三自見子來已二十年(科定父子天性)有二乘之機而來感佛(文句)前一合二十數。即是用八忍八智斷見。合為一解脫一無礙。用九無礙九解脫斷思。通之為二十也。後二但合二義故。妙樂云。斷見為一。斷思為一。輔行云。約人則二乘。約理則真俗二諦。約惑則見思俱破。問云。二義可爾。十義云何。答二乘各有十智(十智者世智他心智等)此則前後三文。皆見二十之義。

三月八日。世尊前行至波羅柰國鹿野園中(因果經)。

佛自二月八日成道。自九日至二十九日。為寂場三七滿。至三月六日。為水邊定。四七日滿。三月七日。受提謂長者食。然後至鹿野園。正五七日內。三月八日也。涅槃云。初生出家成道轉法輪。皆以八日。

初為憍陳如說四聖諦法。汝今應當知苦斷集證滅修道。當佛三轉四諦十二行法輪(因果經○法華經。大通受請。三轉十二行法輪)。

藏教聲聞人依生滅四諦。一苦諦者。二十五有依正二報(四洲。四惡趣。六欲。并梵天。四禪。四空趣。無想。五那含)別則二十五有。總則六道生死。二集諦者。即見思惑(見惑有八十八使。思惑有八十一品)三滅諦者。滅前苦集

顯偏真理。四道諦者。略則戒定慧。廣則三十七道品(合為七科。一四念處。至七八正道等)前二諦為世間因果(苦果集因)後二諦為出世間因果(滅果道因○此依四教儀)三轉者。示轉。勸轉。證轉。示謂示其相狀。如云此是苦乃至此是道。勸謂勸令其修。如云此是苦汝應知。乃至此是道汝應修。證謂引己證彼。如云此是苦我已知不復更知。輪以摧碾為義。唯教無行豈能摧惑。教行相循共能摧惑(妙樂八)十二行法輪者有二釋。一約四諦教。謂三轉四諦為教。十二即能轉也。二約十六行。謂三轉皆生眼智明覺四種之行為行。十二即所轉也(文句○言十六行者。謂苦法忍為眼苦法智為智。比忍為明。比智為覺。餘三諦亦然。共成十六行)。

時憍陳如得法眼淨(即初果也。妙經藥王品得法眼淨。妙樂云。豈王夫人與八萬皆持此經。而聞品得小果耶。名同義

殊。善須斟酌○據此則知。法眼淨之名。通大小乘)地神歡喜唱言。如來今日於此轉妙法輪。虛空諸天。展轉唱聲至阿迦膩吒天(此云色究竟天)世尊知四人心念。重為廣說四諦亦得法眼淨。時五人白佛。欲求出家。世尊呼彼五人。善來比丘。須髮自落。袈裟著身。即成沙門。佛復為說五陰無常苦空無我。漏盡意解成阿羅漢。於是世間始有六阿羅漢。一阿羅漢為佛寶。四諦法輪為法寶。五阿羅漢為僧寶。三寶具足。是為人天福田(因果經)。

五年(甲申)有長者子。名曰耶舍。聰明利根。於中夜見空中光。開門尋光趣鹿野苑。佛說四諦成阿羅漢。願求出家。佛言善來比丘。即成沙門。時耶舍父尋子佛所。佛為說法得法眼淨。受三自歸。為最初優婆塞。又耶舍朋類五十長者。聞耶舍出家。共詣佛所願求出家。佛言善來比丘。即成沙門。是時始有五十六羅漢。佛告諸比丘。汝等

宜各遊方教化眾生。時諸比丘禮足辭去。世尊即發波羅柰趣摩竭提國。日暮寄宿優樓頻螺迦葉住處。降伏火龍授三歸依。置於鉢中以示迦葉。歎未曾有。佛知迦葉根緣漸熟。即趣尼連河側。時魔王求請入般涅槃。至於三請。世尊答曰。所應度者。皆未究竟。魔王聞已即還本宮。時頻螺迦葉與五百弟子願求出家。佛言善來比丘。即成沙門。佛說四諦。漸漸乃得阿羅漢果。以事火之具捐棄河中。時頻螺二弟。一名那提。一名伽耶。在河下流。見兄火具逐流而下。心大驚愕。即往尋兄。見兄身披袈裟。乃各與二百五十弟子願求出家。佛呼善來比丘。即成沙門得阿羅漢。世尊即與頻螺迦葉及千比丘往王舍城。詣頻婆娑羅王所(阿闍世王之父)。王與百官出城迎佛。佛為說法。王及八萬那由他婆羅門大臣人民得法眼淨(因果經)。國有長者。名曰迦陵。往詣佛所奉上竹園(按西域記靈山竹園。皆在王舍城旁五里)。可作精舍。王勅諸臣起諸堂舍。迎佛入

城俱往竹園。諸王見佛。頻婆娑羅。最為其首。諸僧伽藍竹園為始(普耀經○案中本起經。迦蘭陀長者。先施尼犍。悔不奉佛。鬼師知其心念。召閱叉。推逐尼犍。驚怖馳走。長者歡喜。請佛居之)。

六年(乙酉)佛在象頭山。為龍王鬼神說法(十二遊經)。

七年(丙戌)婆羅門舍利弗。路逢婆耆比丘說偈。得法眼淨。歸與親友目犍連。宣說偈言。亦得法眼淨。即各將一百弟子往詣竹園。求願出家。佛呼善來比丘。須髮自落袈裟被身。即成沙門。又復為彼二百弟子廣說四諦。亦成阿羅漢。時世尊即與一千二百五十大阿羅漢。於摩竭提國廣利眾生(因果經)時有婆羅門名曰迦葉。極為巨富捨家入山自剃須髮。空中諸天語令見佛。迦葉即趣竹園。佛為說法得阿羅漢。以有大威德智慧。名之為大迦葉(因果經)迦葉

於多子塔值佛。乃求出家。即以弊衣奉佛為座。價直十萬兩金。佛即授商那納衣(阿含經○商那此云草衣。納衣者頭陀五納衣也。今言商那者。即是以草為衣耳)。

八年(丁亥)冬。佛在毘舍利國。因須提那子持信出家。後還本村與其故二(故者舊妻二者偶也)其行不淨。諸比丘舉過白佛。即集眾訶責云。汝所為非威儀非淨行所不應為。始制姪戒。開初犯未結罪(僧祇律)。

九年(戊子)舍衛國波斯匿王(此云和悅)大臣須達家居大富。喜濟貧乏孤老之人。因名為給孤獨。嘗往羅閱城(即王舍城)見世尊。即為說四諦法。成須陀洹。乞如來降屈舍衛。世尊謂彼無精舍。須達曰還國當立。佛勅舍利弗共往案行諸地。唯太子祇陀園地(祇陀此云戰勝。太子生時父王戰勝。故立此名)正得其所。須達白太子欲買之。太子言。能

以黃金布地間無空者便當相與。須達使人象負金出。八十頃中須與欲滿。祇陀念言。佛必大德能使斯人輕寶如是。乃令止勿出金。園地屬卿。樹木屬我。乃自起門屋。共立精舍。為佛作窟。別房千二百處。白王遣使詣王舍城。請佛及僧。世尊放光動地至舍衛國。一切大集各得道迹。以二人同立精舍。號為太子祇樹給孤獨園(賢愚經)是年冬。佛在羅閱城。因檀尼迦在閑靜處。草屋坐禪。為人持去。乃作全成瓦屋。佛令打破。便詐言。王教取彼要材。為王臣人民。訶責無使入村。勿復安止。比丘以過白佛。始制盜戒。佛在毘舍離城。為諸比丘說不淨觀。習定已厭患身命。歎死勸死。難提比丘受顧殺人(顧作雇俗。漢書顧山錢義同)遂制殺戒。時因穀貴乞食難得。婆求河邊有安居者。便共稱歎得上人法。信心居士減分施之。後往佛所因問。訶責制妄語戒。自此以後隨犯隨制(僧祇律)時父王遙聞子得佛道已六年來。令梵志優陀耶。往迎佛曰。別濶以來十

有二年(自出家至成道六年。自成道至今六年。共十二年)思欲一見優陀耶受教詣佛。願求出家即得阿羅漢。佛念。今將還國當度父母。乃先遣優陀耶。往至本國。現十八變。王益悲喜。勅群臣萬民。出四十里親往迎佛。佛身丈六相好光明。體紫金色如星中月。見諸梵志久在山中。身體黑臭。在佛邊侍。如黑鳥在紫金山。王乃勅國中豪族。選五百人出為沙門。侍佛左右。猶如鳳凰在須彌山(普耀經)時佛入宮坐於殿上。王及臣民日日供養百種甘饌。佛說經法所度無量。耶輸夫人携子羅睺羅來詣問訊(時年六歲)時王僚屬咸疑。太子去國十有二年。何從生子。佛告群僚曰。耶輸守節無瑕。今當見證。於是世尊悉化眾僧皆使如佛。耶輸即以指印信環與羅睺羅言。是汝父者以此與之。羅睺應時直以印環而授世尊。王及群臣。皆言善哉真佛子也(普耀經)時阿那律調達難陀跋提難提等八人釋子。出家之日。脫寶衣付優波離曰。汝依我等以自存活。今以此衣與

汝資生。優波離亦願出家。即以寶衣懸之樹上。共至佛所。那律乞先度波離。以除憍慢(曇無德律)難陀次第作禮。至波離前。念不當禮。佛言。但以受戒前後。不在貴賤(大莊嚴論○難提是王子為貴。波離是臣僕為賤)佛語提婆達多(即調達)汝宜在家分檀惠施。不宜出家。如是再三。提婆便生惡念。此沙門妬心。我宜自剃頭善修梵行。後犯五逆。有大光風繞提婆身。便發悔心稱南無佛。適稱南無便入地獄。佛語阿難。提婆在地獄經一大劫。命終生四天王。展轉生他化自在。最後受身。成辟支佛。名曰南無(增一阿含經○此言提婆出家始。自後犯五逆。乃是後事。相帶而言。皆是小乘經意。若法華中佛言。我因提婆達多善知識故。令我疾成菩提。又授記作天王佛者。此即大乘開迹顯本之意)。

是年說殃掘摩羅經(妙玄云成道六年後說)。

十年(己丑)佛於拘耶尼國。為婆陀和菩薩等八人。說般舟經明苦行事(十二遊經)。

十一年(庚寅)阿難年八歲出家之日。得白四羯磨具足戒(三羯磨通前單白故云白四。羯磨翻業。謂所作善業也)度一百十阿羅漢。受三語戒。始以寶刀剪剃須髮。又囑憍陳如等。遍三天下為諸沙彌授戒(僧祇律)是年佛於柳山為純真陀羅王弟說法(十二遊經)。

佛祖統紀卷第三上

佛祖統紀卷第三下

宋景定四明東湖沙門志磐撰

教主釋迦牟尼佛本紀第一之三下

十二年(辛卯)佛遣目連。白父王及耶輸曰。太子羅睺。年已九歲。應令出家。耶輸答曰。如來為太子時。娶我為妻。未滿三年逃至山澤。勤苦六年得佛還國。今復欲求我子何酷如之(還迦毘羅國也)。時目連方便喻曉。絕無聽意。世尊即遣化人空中告曰。汝頗憶以五百銀錢買五莖蓮華上定光佛。時汝求我世世為妻。我言菩薩屢劫行願。一切布施不逆人意。汝能爾者聽我為妻。汝立誓言。隨君施與誓無悔心。而今何故愛惜羅睺不令出家。耶輸聞已還識宿命。如昨所見。愛子之情自然消歇。捉羅睺手付囑目連。時淨飯王。即集國中豪族。各遣一子隨從我孫。有五十人往到佛所。使阿難與其剃頭。及五十諸王公子。命舍利弗。為其和上。目連為阿闍梨。羅睺不樂聽法。佛為說

未曾有因緣。得受十戒即證四果(未曾有因緣經)淨飯王詣佛白曰。佛昔出家尚有難陀。今難陀已復出家。餘情所寄唯在此子。今當出家國計永絕。佛即為王說法開慰。復集諸比丘立制。父母不聽不許出家(彌沙塞律)佛往穢澤為陀掘摩說法(十二遊經)佛為諸比丘說八關齋戒(八關齋戒經)佛在羅閱城。有十七群童子。大者年十七。小者十二。以信出家。比丘即度。受大戒不堪一食夜啼。佛覺問知制。年滿二十應受大戒(四分律)佛半月說戒。眾集疲勞。許僧伽藍各結大界(四分律)。

十三年(壬辰)佛還摩竭提國。為弗迦沙王說法(十二遊經)樓至菩薩請立戒壇。為比丘受戒。佛令於祇園外院東南建立(四分律)戒壇從地而立。三重為相。以表三空。帝釋又加覆釜以覆舍利。大梵王以無價寶珠置覆釜上。是為五重。表五分法身梵王寶珠。大如五斗瓶大福德者見之。光照八

百由旬。薄福者見之如聚墨(南山戒壇圖經)。

十四年(癸巳)佛往恐懼樹下。為彌勒菩薩說本起經(十二遊經)。

十五年(甲午)佛再還迦毘羅國。為父王說法。度釋種八萬四千人得須陀洹果(十二遊經)佛還本土。足升空行。與人頭齊。使父王接足而已。不欲屈身(分別功德經○此即使父母反敬。為生福之證。然在佛則可。若末代比丘。為行稍薄。恐未可以受父母之致敬)佛為父王大眾說觀佛三昧。佛身金色光明無量。時五百釋子以罪障故。見佛色身猶如灰色羸婆羅門。佛為說往昔邪見之罪。今稱佛名作禮懺悔。即見佛身金色如須彌山。求佛出家得阿羅漢(觀佛三昧經)初佛還國。大愛道求出家(佛姨母摩訶波闍波提也)再三不許。佛再還國復求出家。如前不許。阿難白佛。大愛道至

心欲受法律。願佛聽之。佛令盡形壽行八敬法。時大愛道得出家。為比丘尼始(中本起經)比丘尼受八敬法。一者百歲比丘尼。禮初夏比丘足。二者不得罵謗比丘。三者不得舉比丘過。比丘得說尼過。四式叉摩那。應從眾僧求受大戒。五者尼犯僧殘。應半月在二部僧中。求教授人。七者不應在無比丘處坐夏安居(四分律)佛告阿難。我滅度後。正法一千年。由女人出家減五百年。後為說八敬法。還得一千年(善見論法住記)。

述曰。如來在十六大國於十二年中行化度人。說四阿含等經及七佛略教誡。至是年始說廣戒。即比丘二百五十戒。尼五百戒。由夫二眾隨犯隨制。而佛於後時結集條章。以為出家者持奉之本耳。

第三方等時者。示一佛土令淨穢不同。示現一身巨細各

異。一音說法隨類各解。神力不共故見有淨穢。聞有褒貶。嗅有贍匐不贍匐。華有著身不著身。慧有若千不若千。此如淨名方等(玄十○補注若千當作若干若萬數也音乾者無義)次說方等者。即是次小說大。佛本授大眾生不堪。故抽大出小。令斷結成聖。雖有此益非佛本懷。次說方等維摩思益殃掘摩羅(殃掘摩羅。此云一切世間現。婆羅門子。年十二色力人相具足第一。對佛說偈。佛言善哉。即成沙門。稽首佛足。成阿羅漢。釋梵四王十弟子文殊等皆被訶斥。佛云。南方有國。名一切寶莊嚴。有佛名大精進。即殃掘摩羅是也。妙玄十云。殃掘之經。六年所說○此經說在成道後六年。今大師引證。第三時教。以故及此耳)彈訶小乘保果之癖(偏在聲聞)譏刺三藏斷滅之非(兼於鈍根菩薩)故身子善吉。齊教專小。初不聞大乘威德。善吉茫然失鉢(淨名經云。須菩提言。我昔乞食。維摩詰。取我鉢盛滿飯。謂我言。若能於食等者諸法亦等。諸法等者於食

亦等。如是行乞乃可取食。謗諸佛毀於法。不入眾數。終不得滅度。汝若如是乃可取食。時我世尊聞此茫然。不識是何言。不知以何答。便置鉢欲出其舍)身子怖畏却華(維摩詰室。有一天女謂舍利弗曰。結習未盡。華著身耳。結習盡者。華不著也)不知是何言。不知以何答(籤云。以空智為入道之主。故寄此二人)然方等彈訶教。在三藏之後。被訶之時應在十二年前(以鹿苑十二年在方等前也。舊云中者應是誤)何以得知。皆追述昔訶。驗是前事。何者前已稟教得道。證於無學。荷佛恩深。心相體信。不復恚怒。自昔至今。恣殃掘之譏。任淨名之折。得為恥小慕大之益(玄十)彈偏折小歎大褒圓(玄十○彈偏。如淨名菩薩品。訶彌勒云。世尊授仁者記。為用何生授記乎。過去耶未來耶。現在耶。又云。一切眾生習菩提相。若彌勒滅度者。一切眾生亦當滅又云。菩提者。不可以身得。不可以心得。又摩羅經云。殃掘阿羅漢。偏斥文殊十弟子釋梵四王。是為

以圓彈三教之偏○折小。如弟子品。目連為居士說法。淨
名訶云。夫說法者。當如法說。無有名字。言語斷故。法
無有說。離覺觀故。是用衍門三教。破目連三不當。一者
外如法相說。內如法相解。是用通教即空斥不即空。說法
不當理。二者外解根緣。內善知見。得無罣礙。是用別
破。三者外慈念眾生。內念報佛恩。是用圓破。又殃掘斥
十弟子。是為以聖門三教之大折藏之小○歎大。如眾生
品。譬如幻師見所患人。菩薩觀眾生為若此也。如智者見
水中月。鏡中象。熱時焰。菩薩觀眾生為若此也。今通譬
眾生者。即通圓二教意○褒圓。文殊白佛云。彼上人者。
難為酬對。深達實相。善說法要。此褒淨名也。文殊入淨
名室。淨名曰。善來文殊。不來相而來。不見相而見。此
褒文殊也)四教俱說。藏為半字。通別圓為滿字。對半說
滿。故言對教(涅槃經云。譬如長者唯有一子。心常愛念晝
夜殷勤。但教半字不教滿字。良由其子力未堪故。半是小

乘九部。滿是大乘十二部。約人約理。比說可知)。

若約時則食時(辰時從平地一照開出)。

若約味則從酪出生酥。此從修多羅出方等經(玄十)信解品云。過是以後。心相體信。入出無難(文句云。相者。互相信也。謂於三藏得涅槃價。此既不虛。今為菩薩說此大乘。亦復非虛。此即子信父也。佛知此等見思已斷聞必不謗。無漏根利聞微生信。此即父信子也。由此見尊特身。聞大乘教名之為入。復被訶折猶見丈六。說小乘法名之為出。大小出入而無疑難也)然其所止。猶在本處(雖入出無難得入大乘。而謂是菩薩之事。非己智分。不肯回小向大。猶居羅漢。不言未來當得作佛)此領何義。明三藏之後次說方等。已得道果心相體信。聞大名入住小名出。苦言彈訶名無難。又進至宅內。見群臣豪族大功德力。故名為

入。出者。止宿草菴二乘境界。故名為出。心相體信者。得羅漢已。聞罵不嗔內心慚愧。不敢以聲聞支佛法化人也(玄十○淨名經云。阿難曰。時我實懷慚愧。法華經云。嗚呼深自責。云何而自欺此恥小也。不知當云何得佛無上慧。此慕大也)。

方等部教立名。舊說方等立名。但分事理未足以盡其義。今依經疏記文。以為之委釋。光明經云。有一比丘讀誦大乘方等經典。光明玄云。方等之教通於三乘。新本經云。欲生人天。欲得四果支佛。欲得佛。皆應懺悔滅除罪障安處方等。續遺記云。方等之名有二義。若大經從酪出生酥。譬修多羅出方等典。此約第三時名方等。即被三乘四教機。若普賢觀稱方等者。乃直明圓理。今所引方等。恐謂同普賢觀從理立稱。故引三乘懺悔之文。以定此名。的從部教方等不專事理。諸文論方等有三說。一者從事。大

經從修多羅出方等。無量義經。次說方等。釋籤生酥調斥方等。光明經讀誦大乘方等。光明玄。方等之教通於三乘。此皆指第三時教。二者從理。普賢觀經。此方等經是諸佛眼。三事理並通。止觀云。般若有四種方法。謂四門入清涼池。即方也。所契之理平等大慧。即等也。今第三時準四明立義。的從部教以定此名故。不專於事理也。

十六年(乙未)佛在毘耶離城菴羅樹園說維摩詰經(毘耶離。此云廣博嚴淨。菴羅。舊譯為柰。其形似梨。華多子少。維摩詰此云淨名。三惑垢盡。有大名稱。此即方等部主)。

十七年(丙申)佛說思益梵天所問經(經云。東方有佛。號日月光。有菩薩梵天。名曰思益。來此問佛○)。

十八年(丁酉)佛在南海濱楞伽山頂說楞伽阿跋多羅寶經。

大慧菩薩問世尊言。外道尚遮不許食肉。何況如來大悲含
育。而許自他令食肉耶。佛答菩薩。有無量因緣不應食
肉。謂一切眾生從本以來。展轉因緣常為六親。以親故不
應食肉。不淨氣分所生長故不應食肉。眾生聞氣悉生怖畏
如旃陀羅不應食肉。令諸呪術不成故不應食肉(按華嚴鈔
云。楞伽山。夜叉羅婆所居。此云不可往。唯神通者能
到。阿跋多羅。此云遊入。謂佛大眾渡海彼岸。受夜叉王
請。升空而往○籤云。若大乘中。梵網已制之始。作此
說。當知楞伽在四含之後。為漸制之始。佛答菩薩不應食
肉。故知仍存小教中開)。又說金光明經楞嚴三昧經(楞
嚴。此云健相。分別知諸三昧種多少淺深。如大將知諸兵
力多少。見旌累。次第)勝鬘夫人經(具稱勝鬘師子吼一乘
方便大方廣經。籤云。勝鬘是末利夫人女。末利及王。既
信佛已以書與女。女對使者而說偈言。仰惟佛世尊。普為
眾生出。亦應愍我等。速來至此處。即發此念時。佛於空

中現。又說偈云。如來妙色身。世間無與等。無比不思議。是故今信禮云云○末利是柰樹生女。波斯匿王妃)。

十九年(戊戌)佛成道始。十六年知諸菩薩任持法藏。於欲色天二界中間出大寶階。廣集十方諸佛菩薩大眾。俱登寶階上升虛空。為說大方等大集經。諸菩薩欲來入會。各隨其德先現其相。空藏現空海藏現水。並不見有。大眾唯見空水(餘菩薩現相者皆類此)時諸天龍作如是言。我等從今以往護持正法。若諸國王鞭打出家持戒毀戒者。我等不復護持其國。聲聞弟子悉向他國。使其國土空無福田。令其國土疾疫饑饉刀兵俱起風雨亢旱傷害苗稼。爾時世尊。付囑毘首羯磨天子。迦毘羅夜叉大將。雙瞳目十七天女。各及五千眷屬。汝等護持震旦國土。於彼所有鬪爭言訟。兩陣交戰。饑饉疫病。風雨寒熱悉令休息。令我法眼得久住世。佛告彌勒諸菩薩。我今憐愍諸眾生故。以此報果分作

三分。一分自受。一分與我滅後禪解脫三昧堅固相應聲聞令無所乏。一分與彼破戒誦經聲聞正法像法剃頭著袈裟者。令無所乏。勿令惡王共相惱害。復以彼諸施主寄付汝手(大集經○案佛藏經。當一心行道。勿念衣食。如來白毫相中。一分供諸末代一切出家弟子。俱不能盡)佛言。若有出家設不持戒。彼人已為涅槃印之所印。若有打罵若奪衣鉢資生具者。是人則壞諸佛報身。挑一切人天眼目。國王群臣諸斷事者。如見出家作大罪業大殺大盜大污梵行大妄語及餘不善。但擯出國。不聽在寺同僧事業。不得鞭打罵辱加其身罪。若故違法謫罰者。是人遠離人天必歸地獄。何況鞭打出家具足持戒者(大集經)。

舍利弗等白佛言。我等雖獲稱為佛子。皆是如來之咎。非我等過。何者若使如來誓無三乘。我等豈不成於正覺。何為如來。而不見聽在於聖例。時身子等。脫衣悲泣。大千

震動(瓔珞經)。

述曰。瓔珞言。舍利弗被訶之後。心漸向大。然猶有怨佛之言。以為若無三乘則我等已成正覺。皆如來咎非我等過。逮至法華法說周。則云我等同入法性。云何如來以小乘法而見濟度。是我等咎非世尊也。是知瓔珞不解方便則咎佛。法華已入法性則咎己。

佛在祇桓精舍。時波斯匿王。為其父王諱日。營齋請佛宮掖。城中復有長者居士同時飯僧。佇佛來應。佛勅文殊。分領菩薩及阿羅漢。應諸齋主。惟有阿難。遠遊未還。不遑僧次。途中獨歸。其日無供。即持應器。入城循乞。遭摩登伽女。以先梵天呪。攝入婬室。如來知彼婬術所加。齋畢旋歸。頂放百寶光明。千葉寶蓮。有化佛趺坐。宣說神呪。勅文殊師利。將呪往護。提獎阿難及摩登伽。來歸

佛所。阿難見佛。頂禮悲泣。恨無始來一向多聞未全道力。殷勤啟請十方如來得菩提最初方便。佛為阿難說法。名大佛頂首楞嚴經(林間錄云。智者聞天竺有首楞嚴經。每祈願早至此土)。

述曰。一化終窮在乎開顯。開顯之妙功歸法華。自餘諸經有圓說者。皆方等四教並談之義。而孤山乃欲以楞嚴同法華醍醐之味。是不思方等收經而有失法華淳一無雜之旨也。

述曰。佛說方等經典。至此凡八年。今但到當道諸經。以見四教並談之義。

第四般若時者。大人蒙其光用。嬰兒喪其精明。故文云。但為菩薩演其實事。而不為我說斯真要。雖三人俱學。二

人取證。具如大品(女一籤云。菩薩蒙般若光諸法之用。二乘如七日嬰兒。若視日輪。令眼失光。以無明全在義之如喪。○女曰嬰。男曰兒)次說摩訶般若華嚴海空歷劫修行者。此是方等之後而明大品。大品或說無常無我。或說於空。或說不生不滅。皆歷色心。至一切種智。句句迴轉明修行法。又百千比丘萬億人天。得須陀洹及阿羅漢。住辟支佛者。驗是共般若也。而言華嚴海空者(籤云。而言下。明不共般若。○共則共通二乘而說。不共則別圓。不共二乘)依法性論鈍根菩薩三處入法界。初般若。次法華。後涅槃。因聞般若入法界。即是華嚴海空(妙玄十)次說般若。轉教付財融通淘汰(集解正作濤汰)此般若中不說藏教。帶通別二正說圓教(四教儀○集解云。轉教者。須菩提解空。舍利弗智慧。佛以般若空慧之法加被二人。轉為諸菩薩說諸法空莫不清淨。以此之後。轉度於它。經云。我等雖為諸濤汰時說菩薩法。而無希取。故云轉教。付財者。世間

長者七寶為財。出世法王般若為財。若約佛意。以此般若加被二人。即是付財。其如二乘。但謂加說。故大品云。豈聲聞人敢有所說。有所說者皆佛力耳。若約化意。但是領知家業。密成別益。至法華時。方得名為付財。故經云。吾今所有皆是子有。融通若般若會一切法悉摩訶衍。乃是三教融通之法。非謂圓融之融。如籤云。若以圓斥三。及以圓斥藏。即圓融為圓。或以三教斥藏。即融通為融。淘汰者。大論云。澄洗也。以空慧水濤淅[泳-永+簡]擇。說文。淅[泳-永+簡]音析簡。洗米也○籤云。方等彈訶共義稍殊。今此般若正當共部。輔行云。旁用通教正用別圓。加於二乘密成別益。又籤云。前於方等義已成通。故至般若唯須此二。明不共者。說部意也。意雖不共。然猶有方等新受小者。至此須通。亦有衍門旁得小者。是故兼用○今約偏圓對論。故云帶二說圓。若仁王般若。說四無常偈。勸普明王。捨國位者。義似三藏。彼明助道。非

部正意)。

若約時則禺中(籤一○禺亦作隅。巳時。日景將中。而尚在邊隅。故曰禺中。又陰陽家。謂寅申巳亥為四隅)若約味則從生酥出熟酥。此從方等出般若(玄籤一)信解品云。時長者有疾。自知將死不久(文句。機應為生。機謝為死。化機將畢。應謝非久)語窮子言。我今多有金銀珍寶(理則非多。約種種門。故言多耳。金喻別教理。別在菩薩。即不共般若。別圓二教所詮理也。銀喻通教理。與二乘同證。即共般若。通教所詮理也。般若明理不出此二。珍寶者。明一切法門)倉庫盈溢。其中多少所應取與。汝悉知之(倉是定門。即百八三昧。庫是慧門。即十八空境。通別兩種定慧倉庫。包藏一切禪定智慧。內充外溢。菩薩行般若。應知廣略二門。故云多少。自行為取。化它為與)窮子受勅領知眾物。而無希取一餐之意(善吉雖說般若。自謂我無其

分)然其所止故在本處(猶居羅漢)此領何義。此從方等後次說般若。般若觀慧即是家業。歷於名色乃至種智即是眾物。善吉等轉教即是領知。但為菩薩說。不自行證。故無希取(玄十)。

二十四年(癸卯)佛於靈鷲峯。給孤獨園。他化自在天宮。竹林園四處十六會。說大般若波羅蜜經(鷲峰。在摩伽陀國王舍城五里。竹園在城旁。給孤園。在舍衛國。並中印土境)。

○四處十六會圖

大品(晉羅什譯)	第一會鷲峯山說四百卷(七十七品單譯)
放光(晉羅叉譯)	
光讚	第二會鷲峯山七十八卷(八十五品重譯)
小品(羅什)	第三會鷲峯山五十九卷(二十二品單譯) 第四會鷲峯山說十八卷(二十五品重譯)
道行(竺朔)	
新道行(支謙)	

大明度	
	第五會鷲峯山說十卷(二十一品單譯)
勝天王	第六會鷲峯山說八卷(十七品重譯)
文殊	第七會給孤獨園說二卷(無品重譯)
	第八會給孤獨園說一卷(單譯)
金剛(羅什)	第九會給孤獨園說一卷(重譯)
	第十會他化天宮說一卷(單譯)
	十一會給孤獨園說五卷(單譯)
	十二會給孤獨園說戒五卷(單譯)
	十三會給孤獨園說忍一卷(單譯)
	十四會給孤獨園說勤二卷(單譯)
	十五會鷲峯山說定二卷(單譯)
	十六會竹林園說慧八卷(單譯)

大品般若四十卷。案藏經目錄云。摩訶般若三十卷。光讚般若十卷。龍樹用此本。作智度論百卷。智者依此論。作疏二十卷(今在高麗未至)若放光金剛等十經。皆是晉宋間譯。至唐奘法師。始譯出大般若經六百卷。當知前十經。

皆重譯之文。智者諸部文所引。正大品中義。是晉羅什譯。在唐譯大般若之前也。

述曰。四教儀所列。般若諸經名。總別重出。難於分別。今但總標大般若經云。若大品。小品。天王。文殊。金剛十經。皆大般若中重譯。別行之文。今故不列。蓋摩訶即是大品。又釋籤云。古判般若有五時。一摩訶。二金剛。三天王。四光讚。五仁王。此未可用。光讚祇是大品上帙。案此則又知光讚不當重出也。此未可用之言。乃是荊溪。總破古師五時之失。

- 二十五年(甲辰)
- 二十六年(乙巳)
- 二十七年(丙午)
- 二十八年(丁未)

- 二十九年(戊申)
- 三十年(己酉)
- 三十一年(庚戌)
- 三十二年(辛亥)
- 三十三年(壬子)

佛在王舍城耆闍崛山中。為舍衛國波斯匿王說般若波羅蜜十四正行。復囑王曰。當國土欲亂。賊來侵國。日月星變大火大水五穀不登。大風亢旱。應請百法師數百高座。一日二時講讀此經(今時早晚兩講文見於此)百部鬼神樂聞此經。護汝國土萬姓安樂。帝王歡喜。若王行時。置經七寶案上。居前足一百步。若王住時。置七寶帳座。日日供養如事父母。時十六大國王。聞法歡喜。即以國事付弟出家

修道。證一切行般若波羅蜜(仁王問般若經○籤仁王云。如來成道二十九年。已為我說摩訶般若。故知般若在方等後。亦知仁王在大品後○長阿含經。十六大國者。舍衛國。摩竭提國。波羅柰國。毘舍離國。迦毘羅衛國。拘尸那國。憍薩羅國。闍賓國。鳩留國。伽羅乾國。乾陀衛國。沙陀國。僧伽羅國。捷拏國。掘闍國。波提國)。

三十四年(癸丑)佛成道已過三十年。住王舍城告諸比丘。誰能為我受持十二部經供養左右。時憍陳如白言。我能供給。佛言。汝已朽邁。云何為我給使。乃至五百阿羅漢。皆悉不受。目連入定見如來心在阿難。如日初出光照西壁。語憍陳如。陳如語阿難曰。汝今當為如來給使。阿難言。願如來與我三願。一者。不受如來故衣。二者不隨如來受別請。三者聽我出入無時。佛言善哉。具足智慧預見譏嫌。何以故。若有人言。汝為衣食奉給如來。是故不受

故衣。不隨別請出入有時。則不能廣利四部。故求出入無時。我為阿難。開是三事(涅槃經)。

述曰。涅槃經云。佛告文殊。吾弟阿難。給事我來二十餘年。又後分經云。阿難偈曰。我為侍者二十載。故知此年始為侍者。

- 三十五年(甲寅)
- 三十六年(乙卯)
- 三十七年(丙辰)
- 三十八年(丁巳)
- 三十九年(戊午)
- 四十年(己未)
- 四十一年(庚申)

四十二年(辛酉)佛赴王舍城。食訖令羅云洗滌。失手撲鉢以為五片。佛言。我滅後百年。諸比丘分毘泥藏。以為五部。其後百年。毘多尊者有五弟子。各執一見。曇無德部。法名四分(此云法密)薩婆多部。法名十誦(此云一切有)迦葉遺部。法名五分(此云重空)彌沙塞部。法名五分(此云不著有無觀)婆蹉富羅部。律本不來(此云犢子)此五部律。皆以僧祇律為根本。

- 四十三年(壬戌)
- 四十四年(癸亥)
- 四十五年(甲子)

述曰。佛說般若諸經。至此凡二十二年。

第三祕密教者。如來於法得最自在。若智若機若時若處。三密四門無妨無礙(智謂大聖權謀。機謂不同次第。不擇時處。身口意密。隨何四門。無礙自在。適時稱會)此座說頓。十方說漸說不定。十方說頓。此座說漸說不定。此座不聞十方。十方不聞此座(十方此座相對)或俱頓。俱漸。俱不定(依籤文義。加三俱字。亦應作十方此座相對)各不相知。於此是顯。於彼是密(此即人不相見。法不共聞。互不相知。得益不定)此約此座十方相對(籤科)或為一人說頓。或為多人說漸說不定。或為一人說漸。或為多人說頓。或俱漸。俱頓。俱不定(如前義加三俱)各不相知互為顯密(此是人相見。法共聞。互不相知。得益不定)此約一人多人相對(籤科○籤云。一方既爾。十方亦然)或一座默

十方說。十方默一座說。或俱默俱說。各不相知互為顯密。此約此座十方說默相對(籤科已上並妙玄釋籤)且寄三法況出其相。

祕密得名。玄云。顯露不定。祕密不定。籤云。為對祕密須安顯露(云云)由前四味有一類機。顯露不解宜祕密入。是故如來不思議力。隱覆密說。要令眾生互不相知得漸頓益耳。

祕密立體。籤釋玄文云。身口意密。隨何四門無礙。又籤云。以祕密不出此七。逸堂以三密四門為當體體。真中二理為所依體。石坡以七教為所用體。雖皆有憑。要必以七教為義足。

祕密文證此有二義。一者義蘊經論。妙玄引涅槃經。迦葉

菩薩設三十六問。如來讚云。我初成佛亦有菩薩來問斯義。所問句義功德亦皆如是(此佛親宣)又般若經。諸天子唱言。我見閻浮提第二法輪轉。今轉似初轉(此諸天敘出)二者名出龍樹。大論釋般若經云。諸佛法輪有二種。一者顯。二者密。初轉聲聞見八萬億人(此顯露不定教)諸菩薩見無量阿僧祇人得無生忍(此祕密不定教)。

祕密不傳。文句云。祕密者。隱而不傳。記云。降佛七還非所述。故尚非阿難能受。豈弘教者所量。阿難非不傳祕。赴機之密非所傳耳。故祕密不用。全是顯露。是故傳祕密。名傳顯。諸師皆云。上聖赴機之密。互不相知故不可傳。若涅槃中。如來親宣般若。故天子唱出。皆結集為文。還成顯露。故可傳耳。

祕密橫被。籤云。祕密橫被無時不遍(云云)。豈於法華有

祕密耶。須知顯露豎論。雖在四時。而有華嚴鹿苑大小之隔。若祕密橫論。則隱顯在機無時不遍。遍前四時。非遍法華時也。又籤云。五味則一道豎進。皆有半滿祕密不定。此釋玄文破南師但用五味(但得方便)北師偏用半滿(但得其實)今家以五味成半滿半滿成五味。故云味味皆有半滿祕密不定。此相成釋義。一往如此。非謂法華中有前四味祕密不定也。故玄文云。權實俱遊如鳥二翼。雖復俱遊(五味半滿俱用)行藏得所(五味半滿相成。謂之行。謂相成法華醍醐滿字也。唯遍四味半滿。謂之藏。謂不至法華醍醐滿字也)。

法華非祕密是祕密。玄文。法華是顯露非祕密。又云。法華是祕密。般若非祕密。籤云。前是顯非密者。謂非覆隱之密。如前教有二乘發心。不令未發心者知。是故覆密。今望般若為密者。此是祕妙之密。般若中無。法華為勝。

又玄云。般若不明二乘作佛。故非祕密。又玄引大論。餘經非祕密。法華為祕密。籤云。非八教中之祕密。但是前所未說為祕。開已無復為祕(即四十餘年不說也)。

祕密三義。籤云。須知密祕語同意別(云云)。今列諸文具出三義。一者真祕。玄云。法華是祕密。籤云。是祕妙之密。二者隱祕。自有佛弟子二義。玄引經云。四十餘年祕而不說。此昔所未談。約如來為祕也。妙樂云。三周之中。自論祕者。法說周時。密聞大車。此謂上周根利。預了譬喻因緣之事。對中下未悟。名之為密。此密有所聞。約弟子為祕也。三者祕密。即妙玄所立祕密教。如來隱密赴機互不相知者。籤云。是隱密之密。

第四不定教者。由前四味機發不定。聞大證小聞小證大。於漸說中得頓益。於頓說中得漸益。此有部教二義分別。

初約部豎論者。雖高山頓說。不動寂場。而遊化鹿苑(此處不定。籤云。此不動不離。而升而遊者。此指頓教漸初。不動於頓。而施漸化)雖說四諦生滅。而不妨不生不滅(此法不定。鹿苑雖施漸化而不起於頓。二味既然。諸味準此)雖為菩薩說佛境界。而有二乘智斷。雖五人證果。不妨八萬諸天獲無生忍(此人不定)當知即頓而漸(於頓得漸益)即漸而頓(於漸得頓益。籤云。雖為菩薩指方等般若。彼二時中俱有小果。新得舊得如常所明。雖五人證果。不妨八萬諸天獲無生忍。此重指漸初。對般若為說。前文約法。此中約人。得果不同。證法不定)次約教橫論者。乳中得別圓相對以辨不定。酪中教門雖無二別。乃與八萬一人對辨。生酥熟酥三四對辨(般若帶通別圓為三。方等四教。並談為四)故知不定。約部約教遍前四時(並妙玄釋籤)。

不定得名。玄文。南北地通用三種教相。一頓。二漸。三

不定。又古師立偏方不定。謂非次第。別為一緣。如金光明勝鬘等是也(云云)。知不定之名出於古師。天台更加祕密為四教。於義方足。

不定示體。止觀。妙玄。四教儀引淨名經。佛以一音演說法。眾生隨類各得解。此證不定。今諸師以一音為當體體。真中二理為所依體(一音之義。通大小乘。備在集解)不定文證。玄引大經。或時說深。或時說淺。應問即遮。應遮即問(籤。應問。謂開其問。端應。遮謂置其所問。開置同席。故成不定)。玄引大經。置毒乳中乃至醍醐。皆能殺人(云云)。止觀引淨名經。佛以一音眾生各解。或有恐怖(世界)或歡喜(為人)或生厭離(對治)或斷疑(第一義)斯如來神力不共法(云云)。籤引大論。初轉八萬得無生忍。陳如得初果。此皆證不定教也。

置毒不定。玄引涅槃五味譬四教位(前三教。教教皆成五味。備在玄文)故知前三教五味皆粗。圓教一味皆妙(有人云應云五味皆妙)經云。譬如有人置毒乳中則能殺人。乃至醍醐亦能殺人。此譬兩用。一通約漸頓。明不定教。處處皆得見佛性。二約行不定。行人心行譬之如乳。實相譬之以毒。此毒有殞命之能。此智有破無明之力。久遠劫來說實相毒。置於凡夫心乳。毒慧開發不可為定。或於初味發。或於後味發。不得次第往判。故言置毒乳中乃至醍醐。遍五味中悉有殺義(云云)。若圓教中發者。始聞經即破無明見佛性。是乳中殺人六根清淨去。是酪生酥熟酥等殺人。若初住去。是醍醐殺人(玄文。先列前三教。隨何位中。密見中道。即是乳中殺人。乃至醍醐殺人○昔師云。毒喻佛性。置喻體具。五味喻五道。以一毒置眾生心乳中。隨於五道受身之殊。毒性不失。毒發性顯之時。無局何身。若大道得發。即醍醐中發。義既不定。故於不定教

明)一音不定。輔行引起信論云。圓音一演異類等解。又如如來八十好中一音能報眾聲。殊方異類莫不獲益。如來本非一切音辭。而能遍赴一切音辭。並與此不定義同。籤引華嚴云。佛以一妙音。周遍十方國。眾聲悉具足。法雨等充遍。又大論云。欲得一音遍十方。當學般若(此等皆大乘一音也)。毘曇論云。佛為四王作聖語說四諦。二解二不解(梵天音也)。又作毘陀羅語說四諦。一解一不解。又作梨車語說四諦。四王俱解。以此四王各念不同故。佛三說以赴彼念。總釋祕密不定。籤引大論。諸佛有二法輪。一者顯。二者密。初轉聲聞見八萬諸天得無生忍。陳如得初果(今家不定所據)。諸菩薩見無量阿僧祇人得無生忍。乃至十地一生補處。是名為密(今家祕密所據)。籤云。玄引大經。或時說深或時說淺等。名不定者。以由彼此互相知故。若祕密者。即互不相知。不定與祕密。並皆不出同聽異聞(同稟如來一音之教故曰同聽。互相知互不相知。故曰

異聞)。又籤云。不定與祕密。但有互知(不定)互不相知(祕密)以辨兩異。

總釋顯密有定不定四句。

一顯露定教。人相見法共聞。互相知得益定。玄云。如前分別。但約顯露明漸頓五味之相。籤云。通論顯露。俱攝漸頓。二顯露不定教。人相見法共聞。互相知得益不定。玄云。一時一說一念之中。備有不定。此乃顯露不定。三祕密定教。自分二。自有人不相見。法不共聞。互不相知得益定(此座十方對論)自有人相見。法共聞。互不相知得益定(一人多人對論)四祕密不定教。自分二。自有人不相見。法不共聞。互不相知得益不定(此座十方對論)自有人相見。法共聞。互不相知得益不定(一人多人對論)今之祕密及不定二教。但是祕密不定(祕密教)顯露不定(不定教)玄

云。今法華是顯露非祕密是漸頓非漸漸是合非不合是醍醐非四味是定非不定。

第五法華涅槃時。

述曰。玄云。今佛靈山八年說法。涅槃臨滅。則已同在八年。此時同也。玄云。法華大王饌。涅槃醍醐。此味同也。又玄云。二經教意。起盡是同。此開顯同也。四教儀引涅槃云。從摩訶般若出大涅槃。故合法華為第五時也。

言法華者。日光普照高下均平。若低頭。若小音。若散亂。若微善。皆成佛道(籤云。總結散亂小善之類。無不開之以成佛因)不令有人獨得滅度。皆以如來滅度而滅度之。具如今經(玄一)良以。妙法難解假喻易彰。為蓮故華。喻為實施權(籤云雖復施權本為於實)文云雖示種種道。其實

為佛乘(兩教因人。別教教道。五時八教。故云種種)華開蓮現。喻開權顯實。文云。開方便門示真實相(指實為權。權指於實。名方便門開今指權為實。於權見實。名方便門開。示謂指示。示其見道之處也)華落蓮成。喻廢權立實。文云。正直捨方便但說無上道(捨是廢之別名。開已俱實。無權可論。義當於廢。權轉為實。所廢體亡。若留逗後緣。復屬於施。非此中意○已上迹門三譬之文)又蓮譬於本。華譬於迹。從本垂迹。迹依於本(迹不孤立本擬顯本)文云。我實成佛久遠若斯(初先明本)但教化眾生作如是說。我少出家得三菩提(正明垂迹)又華敷譬開迹。蓮現譬顯本。文云一切世間。皆謂今始得道(初述迷迹)我實成佛那由他劫(正明開迹)又華落譬廢迹蓮成譬立本。文云。諸佛如來法皆如是(引同)為度眾生皆實不虛(正明廢迹。廢已無迹。故云皆實。實祇是本。權祇是迹。非蓮華無以譬於權實。本迹妙法。非此妙法。無以取喻於蓮華。一部之旨

不出本迹○已上本門三譬之文)入為蓮故華。華實具足。可喻即實而權(為蓮故華。華掩於實。為實施權。實在權內。體復不異)華開蓮現。可喻即權而實(機熟須開。開彼能覆。情希近果。名之為覆。祛彼近果。名之為開。開何所開。即彼能覆)華落蓮成蓮成亦落。可喻非權非實(華落譬非權。蓮成譬非實。開已即廢時無異途。開教行人理。同一理故。故實立已。同冥三德故知三德不當權實)。如是等種種義便。故以蓮華喻於妙法(玄一)。

言開權顯實者開前頓漸會入非頓非漸(集解云。開華嚴之頓。三時之漸。四時三教咸為所開。不同華嚴聾瘡。故非頓不同三時次第故非漸。今經開顯無不成佛。故云會入非頓非漸)言權實者。名通今昔義意不同(前三教權實不即大小相隔。法華權實不二。權即是實。實外無權。此義不同昔經權實隨順機宜悉檀逗會而已。今經為實施權意在於實

開權顯實。意在於權。此意不同)謂法華已前。權實不同。大小相隔(華嚴大隔於小鹿苑小隔於大。方等同座大小各聞。般若融通約人成隔。義見玄文)如華嚴時一權一實(權別實圓各不相即。且以華嚴為論。三漸可知)所以者何。初頓部一鹿一妙。一妙則與法華無二無別。若是一鹿。須待法華開會廢了。方始稱妙(一妙無別者。約教顯實是同。一鹿方妙者。點前隔異見融即)次鹿苑但鹿無妙(但一藏教)方等三鹿一妙(藏通別鹿圓教為妙)般若二鹿一妙(通別二鹿。圓妙此已上普昔時義意)來至法華會上總開會廢前四味鹿(開前四味鹿。會前四味鹿。廢前四味麤。故冠以一總字。曰開會廢)令成一乘妙(前四時兩教二乘三教菩薩人理教行差別之鹿。至今法華咸皆微妙。別行記云。為實施權開權顯實。會權歸實廢權立實。此之權實餘部永無。此今時義意也)。

諸味圓教更不須開。本自圓融不待開也(在昔圓頓不開自妙華嚴之中普賢普眼三無差別大集染淨一切融通。淨名不思議毛孔含納。思益網明無非法界。般若諸法混同無二。此等圓妙。與今法華佛之知見。無二無別。豈可更開令成妙邪)但是部內兼但對帶。故不及法華淳一無雜。獨得妙名良有以也(華嚴兼於行布差別。鹿苑但一生滅之麁方等大乘對三藏半。般若所帶通別方便。此等四味。不及法華純一佛乘。唯今稱妙。其義如此)故文云。十方佛土中。唯有一乘法。無二亦無三(唯有圓妙一乘。無通教半滿相對之二。無三藏中之三乘。無般若所帶之二。無方等所對之三。此義出文句。偈見總諸佛章。此證教一文)正直捨方便但說無上道(三教方便獨談佛慧。於諸世間為無有上。大直道也。此釋迦章中教一文。今取道義故以證行一)但為菩薩不為小乘(昔日方便。謂化小乘。今時開顯。實是菩薩。如彼窮子自謂客作。長者觀之實為己子。開顯小乘作佛。故云不為小

乘。菩薩上求下化。因必至果。故云但謂菩薩。此約義引文。以證人一。若據諸佛章偈。則云但教化菩薩)是法住法位。世間相常住(眾生正覺。一如無二。悉不出如。皆以如為位也。出世正覺以如為位。亦以如為相。世間眾生亦復如是。世間相既常住。豈非理一此見文句云云。韶云。相可表幟。位可久居。眾生正覺相位無二。顯迷即理理即常住。佛已契常眾生理是○未來佛章。以證理一)。

時人未得法華妙旨。但見部內有三車窮子化城等譬。乃謂不及餘經。蓋不知重舉前四時權獨顯大車。但付家業唯至寶所。故致誹謗之咎(已上並四教儀○妙旨者。迹門三周開顯之妙。初法說周重舉四時之權。會三歸一。身子上根得記是也。次譬說周明三車一車。譬前法說。四大弟子設窮子喻獲得家業。中根信解作佛是也。三因緣周明十六王子下種中間調停今得授記。有化城寶所之喻。下根千二百聲

聞等獲益是也。人不見之。故致誹謗。如清涼師李長者等。不知此旨。便為不及也)。

若約時則日輪當午。罄無側影(法華開顯。三乘九界咸皆悟入。譬如日輪正午無處不明。是則先照高山寅時也。次照幽谷卯時也。次照平畝辰時也。禺中巳時也。宋嚴觀二法師。與太史何承天。論中邊之國。依周禮。用一尺五寸上圭。立八尺之表。夏至午時以測日景。猶有餘陰。知此方非中國也。天竺此時無餘陰。知為中國也。地上寸影天上萬里。今言側影者餘陰也。影古作景。晉葛洪字苑。始改作影)。

若約味則從熟酥出醍醐。此從摩訶般若出法華(玄一○涅槃經。但云般若出涅槃。今玄文言出法華者。以二經同味故。義立此說)信解品云。復經少時(去法華不遠)父知子意

漸以通泰(機無隔異)成就大志(大心即發)自鄙先心(欲求大道)臨欲終時(化緣將訖)而命其子(二萬億佛所受化之徒)并會親族(十方法身菩薩影響者。多是釋迦昔日同業)即自宣言此是我子(從我受學是我所生)捨吾逃走(背此大乘遁入生死)五十餘年(備經六趣)昔在本城懷憂推覓(自昔法身地中。常以二智觀。覓可化之機)忽於此間遇會得之(始於今日感應道交)此實我子我實其父(我實曾於二萬億佛所。常教大法。此結會父子。以定天性)今我所有一切財物(大乘萬行萬德。行為因。德為果)皆是子有(先所出納是子所知指昔日大品領教。所委廣略般若共不共法。此正付家業)時窮子聞父此言。即大歡喜而作是言。我本無心有所希求(三藏本心不求。方等恥小望絕。故不求。般若雖領非己分。故不求)今此寶藏自然而至(如此不求而今自得)此領何義。即是般若之後。次說法華。先已領知庫藏諸物。後不須說但付家業而已。譬前轉教皆知法門。不須重演觀法。直破草

菴。賜一大車。授記作佛(玄十○授者授與。記者記事。開與授記皆有通別。通開一切眾生。皆當作佛。別開當座悟入。通記阿耨菩提。別記劫國名號)。

四十六年(乙丑)佛成道後。四十二年說法華經(句記引法性論○說法華。凡二處二會。始在靈山次升虛空。後復還靈山。法華以無量義為序。普賢行法為結)。

法華教主。準四明立義。法華所明三十二相名尊特者。以即法身故。是則生身即法身者。便為尊特。此就開權即劣顯勝而明尊特龍女欲彰開權妙相。故云法身具三十二相。此一一相全理顯現。法身遍故三十二相相相周遍。法具萬德相亦須具。此之妙身不名尊特。更指何身為尊特邪。此則永異淨覺定是生身之義。至若即一論三者。祇三十二相如來妙力。為三藏示有分齊。名曰生身。祇三十二相如來

妙力。為從通入別機示無分齊。名為尊特。祇三十二相如來妙力。為圓教機示一一相。即是本性所具法門。名為法身。由三種機感者如來。即於一身示三種相。

- 四十七年(丙寅)
- 四十八年(丁卯)
- 四十九年(戊辰)

淨飯王病重。念見諸子。佛在王舍城。去此五十由旬(父王所治迦維羅國。王舍城在摩竭提國。並中印土。今言五十由旬。即相去二千里)告難陀阿難羅云。即以神足至王宮所。湧身虛空放大光明。光照王身患得安息。復以手著父王額上曰。王是淨戒之人心垢已離。今應歡喜諦思經法。

時王於臥合掌心禮。忽就後世。諸釋棺斂置師子座。佛及難陀喪前肅立。阿難羅云。住在喪足。佛為當來世人不孝。躬欲擔棺。大千世界一切震動。欲界諸天諸龍鬼神。俱來赴喪。時四天王跪請擔棺。各自變身如人形像。世尊手執香爐前行。出詣墓所。千阿羅漢往大海渚。取旃檀香舉棺焚之。諸王收骨置於金函。起塔供養。佛告眾會。父王淨行生淨居天(淨飯王泥洹經○生五淨居者。第三果阿那含人)初波斯匿王(舍衛國主)娉於釋氏摩訶男。以家中婢生女。妻之生子。名流離。年八歲。令詣外家學射術。時新作講堂欲請佛僧。流離即升師子座。諸釋嗔罵之云。此婢生子敢入中坐。撲之着地。後紹王位往征釋種。目連三反白佛。佛言。宿緣已熟今當受報。流離王既入城。取諸釋埋脚地中。以象踏殺之。凡九千九百九萬人。流血成河。選五百端正釋女。欲與相接。一女罵云。我今何故與婢生種通。乃至五百女皆如此罵。王取五百女。刖手足擲阬

中。還至舍衛。兄祇陀太子出見。流離王曰。吾與諸釋戰。何不佐我。祇陀曰。我不堪殺害眾生。王即拔劍殺祇陀。命終即生忉利。五百釋女稱怨向佛。佛至其邊說法得法眼淨。命終生天。佛還給孤獨園告諸比丘。今流離王及此兵眾却後七日盡當磨滅。至七日初。王將兵眾詣河娛樂。天大雷震暴風疾雨。王及兵眾為水所漂。身壞命終入阿鼻獄(此云無救鼻音毘)佛因為諸比丘。說釋種宿世捕魚殺害因緣。今還受報之事(長阿含經○案興起行經云。過去羅閱城。有池多魚。村人捕之。著岸而跳。一魚名麤。一名多舌。相語曰。我等不犯。人橫見殺。我後世當報。時村人男女。今諸釋種是。麤魚者。毘婁勒王是。多舌者。今王相師名惡舌者是。我是時為小兒。見魚跳而喜。以杖打魚頭。王伐釋種。時我得頭痛)。流離殺諸釋氏。阿難愁惱。來佛所言。我與如來同一釋種。云何如來光顏如常。佛言。我修空定。過三年已還來問我(涅槃經)目連。取知識

四五百人盛著鉢中。舉置虛空。流離軍退。佛令取鉢視之。人皆死盡。佛為說無常法。無央數人得須陀洹果(法句喻經)。

- 五十年(己巳)
- 五十一年(庚午)
- 五十二年(辛未)

冬十一月既望。佛在毘舍離國大林精舍重閣講堂。告諸比丘。却後三月我當般涅槃。即為說普賢菩薩行法經。

述曰。案神照經疏云。建子之月既望。告眾行法。既是結經。則知說法華止七年耳。今約已經開顯又二經同味。故

通稱八年也。

佛祖統紀卷第三(下終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四

宋景定四明東湖沙門志磐撰

教主釋迦牟尼佛本紀第一之四

入涅槃

序曰。如來所說一代法門。其意在乎開顯大事因緣而已。及乎人機既得大益。則又為之說云。所應度者皆已度畢。於是唱入滅度。以示化儀之有始卒。將以起懈怠者之慕心。以垂訓未來之人爾。至曰我不滅度常在靈山。斯則如來不生不滅大般涅槃之旨。

言涅槃者。此有二義。一者為法華未熟人追說四教。具談佛性令知真常入大涅槃。名拈拾殘機教(四教儀)謂如來調熟漸機眾生。以法華涅槃。皆為後教後味。譬如田家先種先熟先收。後種後熟後收。是以八千聲聞。無量損生菩薩。大德身子等。於法華中得受記莚。見如來性成大果實。如秋收冬藏更無所作。即是前番。從摩訶般若出法華。若鈍根人法華不入。更用般若淘汰。如五千自起人天被移。此等未熟者。更論般若入於涅槃而見佛性。即是後番。從般若出大涅槃。故知法華前番。如秋成大穫。涅槃後番。如拈拾餘殘(玄十)。

述曰。法華開顯已廢方便。其未熟者尚勞調停。故於臨滅度時。重施三教之權。用顯一乘之實。此追說之意也(義在聖行品)然五千先已結緣略聞開顯。今此會中復為追說。既

於當座知常。故須即施即廢。此追泯之意也(義在德王品)追說者重施也。追泯者重會也。法華已施已廢。即是前番涅槃重施重廢。即是後番。籤之言曰涅槃重施方便。又云泯者會合。皆此義也。

二者。為末世比丘畜不淨物(失戒)樂誦外典不教佛經(失乘)於佛法中起斷滅見。天傷慧命亡失法身。使乘戒俱失。故更扶三藏廣開常宗設三種權扶一圓實。故名扶律談常教(雜見大經玄籤及四教儀)若言不許諸惡比丘畜八不淨。是戒門事門(此即扶律義。案律云。八不淨者。一田園。二種植。三穀帛。四畜人僕。五養禽獸。六錢寶。七褥釜。八象金飾床及諸重物。此之八物顯過不應)若說如來實不畢竟入於涅槃。及遮外典。此是乘門理門(此即談常義。據經合云。如來實不畢竟涅槃。方是談常。今籤文云。如來畢竟入於涅槃。此脫實不兩字今用經補足)若末代諸惡比丘破戒。說

如來無常。及讀外典。則並無乘戒。失常住命。賴由此經扶律談常。則乘戒具足。故知此經為贖常住命之重寶(籤引大經云。若人藏積七寶。為未來穀貴賤。侵值遇惡王。為用贖命。乃當出用。諸佛祕藏亦復如是。為未來世諸惡比丘。畜不淨物。為四眾說。如來畢竟入於涅槃。讀誦外典不教佛經如是等惡出現世時。為滅諸惡為說是經。是經若滅佛法則滅)。

述曰。法華開顯之後。涅槃廣開常宗。知一切眾生皆有佛性。於是末代無知。安於平等大慧之說。忽略戒律不復經懷。此戒緩之失也。至於不讀佛經唯好外典。此乘緩之失也(是知讀經要在解義。行行始可名乘。若祇循行數墨。但是人天福業。菩提遠因。未足以為出世之近果也)乘戒俱緩。非三塗之歸而何歸。如來久鑑未來。唱商行寄金之典。重扶三藏圓會真常。顧命之言有在於是。然則扶律談

常之教。正被今日。凡在為學可不自勉。是以止觀方便具
五緣中。首明持戒以為助道。要令行人以圓三觀。觀察所
持十種戒本相相清淨事理俱持。乘戒俱急。非同十二年中
不知圓常。唯明事相之戒。故義例有云。雖依法華三昧妙
行。末代鈍根。若無扶助。則正行傾覆。故須扶律談常以
顯實相。若夫大經所云。於戒緩者不名為緩。於乘緩者乃
名為緩。此即偏贊大乘。格量優劣之文。豈當恃此便忽事
戒。止觀謂乘急戒緩者。以三塗身見佛聞經。如華嚴涅槃。
鬼神龍畜皆預列眾。如是因果。差降升沈非一。云何
難言理戒得道。何用事戒。幸於人天受道。何意苦入三塗
(文句)不明此宗。未足與議涅槃最後之訓。若但弘四分不
讀大乘。徒知專守鹿苑持犯之章。曾未獲聞鷲峯開顯之
旨。此為弘道。良用悲心。如智者之滅。弟子問誰可宗
仰。則答之曰。波羅提木叉(戒)四三昧在焉(乘)左溪之逝。
則顧謂門人曰。吾六即道圓萬行無得(乘)戒為心本(戒)汝等

師之。是又知列祖弘道。未嘗不取本於乘戒俱急扶律談常之意。

若論時味與法華同。談其部內純雜小異(四教儀○句記以十六意辨異二經云。判味同時。而部有異云云。又玄云。涅槃猶帶三乘。此經純一無雜)○然二經教意起盡是同。如法華三周說法。斷莫聲聞咸歸一實(開迹也○斷丁亂反。莫如字。訓決定。依經文。則是決了聲聞法之義)後開近顯遠明菩薩事(顯本也)涅槃亦是先勝三修(籤斥奪三修。十仙小證○涅槃玄。邪三修者。世人隨邪師教。相續為常。適意為樂。動轉為是我。劣三修者。聲聞依半教。謂三界無常。諸有非樂。一切空無我無我所。勝三修者。依佛勝教破於劣修。以常樂我。斥諸比丘無常苦空無我虛偽不真。法身常恒無有變易。歡娛受樂具入自在。如是修者入祕密藏○涅槃經云。闍提首那等十外道)斷莫聲聞入祕密藏(開迹也)

後三十六問明菩薩事(顯本也。籤文。廣辨菩薩五行十功。已上釋同)又涅槃臨滅更扶三藏。誠約將來。使末代鈍根不於佛法起斷滅見。廣開常宗破此顛倒。令佛法久住。如此等事。其意則別(玄文已上釋異。籤云。起謂正說初分。盡謂正說末分。法華以本迹二門為初後二分。初則開權顯實斷莫聲聞。後明本門增道損生。重更辨前開權作主久遠成佛。故涅槃正說。開為四段。初純陀品云。明涅槃施斷莫二修。二長壽品去四品。明涅槃義。三現病品去五品。明涅槃行。四師子吼品去三品。明涅槃用。故知初三斷莫聲聞。後但明於涅槃義用。是故二經起盡是同)。

經云。從摩訶般若出大涅槃。故合法華為第五時(四教儀)。

五十三年(壬申)佛先往忉利天。三月安居。遣文殊詣母

所。暫屈禮敬三寶。摩耶夫人聞之。乳自流出。直至佛口。即與文殊俱至佛所。佛為說法得須陀洹果。三月將盡欲出涅槃。帝釋作三道寶階。佛與母別。大眾導從。下還祇洹(佛升忉利經)。

述曰。案行法經。却後三月我當涅槃。則知說行法。在辛未十一月望。案升忉利經。三月安居。則知說行法畢。即日往忉利。案此經。三月將盡欲入涅槃。則知此年二月十四日下閻浮提。十五日入涅槃。

時優填王(拘睺彌國)戀慕世尊。鑄金為像。聞佛當下寶階。象載金像來迎世尊。金像上下猶如生佛。雨華放光為佛作禮。世尊合掌語像。我滅度後。我諸弟子以付囑汝(觀佛三昧經○案增一阿含經。帝釋請佛。升忉利天為母說法。優填王思覩如來。即以旃檀作如來像。高至五尺。波

斯匿王。聞之以紫磨金作像。亦高五尺。時閻浮提始有二像。又西域記。優填王。請目連。以神力。接工人上天。親[目*(日/目)]妙相。用旃檀雕像)佛姨母摩訶波闍波提(此云大愛道)不忍見如來滅度。與五百除饑女禮佛。退還精舍。各在空中。作十八變。同時泥洹。佛令阿難入城遍告理家(優婆塞受戒在家者)作五百梓材。闍維畢取舍利。造廟供養(佛母泥洹經)佛躬舉床一脚。阿難舉一脚。飛在虛空往至冢間。四部大眾各舉五百比丘尼(增一阿含經○案智度論。四天王舉床。佛在前擎爐燒香供養。為報恩故)。

梁祐律師曰。姨母之德均為所生。是故持舉之。重爰酬鞠育。將以厲後世無恩之人也(釋迦譜)。

舍利弗目犍連。不忍見佛涅槃。遂先入滅。七萬阿羅漢亦同時入滅。時四輩弟子莫不荒亂。如來以神通力化作二弟

子在佛左右。眾生歡喜憂惱即除(薩婆多論)。

述曰。身子不忍見佛涅槃。故先入滅。而涅槃疏引大經則云。身子見佛涅槃不憂。常住不喜。是知開顯之義。不同附小之文。

今日座中無央數眾。或見如來入般涅槃(像法決疑經)。

二月十五日。佛在拘尸那城(此云三角)力士生地娑羅雙樹間。臨涅槃時。出大音聲普告大眾。今日世尊將欲涅槃。一切眾生若有所疑。今悉可問為最後問。時世尊晨朝從面門放種種光。遍照十方。六趣眾生共相謂言。當疾往詣勸進如來。莫般涅槃(涅槃經)。

述曰。如來以聲光普告大眾。而六趣之中。有能相謂勸請

者。蓋是大權示現主首之倫。故能次第轉告三塗實報之眾。故此經列眾。有稱諸天八部師象鳥獸。皆名為王者。此意可知。

時弟子四眾。諸大菩薩。閻浮諸王。大臣長者。四天王諸天子。八部諸王。山海諸王。師子象王。諸鳥獸王。唯除迦葉阿難二眾及阿闍世王(佛以聲光召五十二眾。時迦葉在耆山。阿難在娑羅林外。為諸魔所惱。闍王害父身生惡瘡。諸佛懺悔即還本宮。都不覺知如來涅槃○見涅槃後分經)各持供具詣佛供養。皆默不受。是時會中優婆塞純陀白言。我等欲從如來求將來食。惟願哀閔受我微供。佛云。我今受汝最後供養。令汝具足檀波羅密。純陀白言。雖知如來方便示現涅槃。而我不能不懷苦惱。佛讚善哉。能知如來示同眾生方便涅槃。時天龍八部勸請如來。唯願久住不入涅槃。世尊。為說伊字三點。如來之身解脫般若三

法。如世伊字(梵書i 字三點不縱不橫)時諸比丘請說無常苦空無我。佛說出世常樂我淨世間四顛倒法。諸比丘言。如來永無四倒。了知常樂我淨。何故不住一劫半劫。教導我等舍離四倒。佛言。我今所有無上正法。悉已付囑摩訶迦葉。當為汝等作大依止。猶如如來(云云)。佛告大眾。今以正法付囑國王大臣及四部眾。應當勸厲諸學人令得增上戒定慧。若有不學是三品法。懈怠破戒毀正法者。大臣四部眾應當苦治(涅槃經)。

述曰。佛告諸比丘。所有正法悉已付囑迦葉。此為正付法。以迦葉能繼世傳持也。又云今以正法付囑王臣四眾。此是旁付法。以在官能治人護法也。

佛告大眾。從今日始不聽聲聞弟子食肉(涅槃經)。

述曰。梵網制菩薩不應食肉。鹿苑之際小乘病開魚肉。楞伽則不應菩薩食肉。釋籤謂在四含後為漸制之始。既云菩薩不應食肉。故知小教仍開。今涅槃始。不聽聲聞弟子食肉。從今日始。則知大小俱制。正是扶律之意。末代出家可不知奉。

阿闍世王。既害父已身生惡瘡。邪見六臣惑言六師能治王病。耆婆白言。唯佛能治。王聞佛欲涅槃。悶絕躄地。世尊大悲。入月愛三昧放清涼光。往照王身身瘡即愈。王與夫人國民五十八萬。往拘尸城。佛為說法。所有重罪即時微薄。王及夫人嫫女皆同發菩提心。遶佛三匝辭退還宮。

佛告憍陳如。阿難何在。陳如答言。在娑羅林外。去此大會十二由旬。為六萬四千億魔之所嬈亂。是諸魔眾悉自變身為如來像宣說一切諸法示現神通。阿難念言。如是神變

將非佛所作邪。阿難入魔繒故。極受大苦。以是因緣不來至此。佛告文殊。阿難吾弟。給事我來二十餘年。所可聞法具足受持。喻如瀉水置之一器。是故我今顧問何在。欲令受持是涅槃經。今為諸魔所惱。汝持是大陀羅尼可往救護。文殊受已至阿難所。魔王聞呪。悉發菩提心捨於魔業。即放阿難歸至佛所(涅槃經)。

述曰。阿難初為摩登伽女所攝。佛勅文殊。將呪往救。所以為宣說首楞嚴大定之發起。後於娑羅林外為魔所燒。佛勅文殊。將呪往救。所以為魔王發菩提心捨於魔業之緣起。未可以聲聞小果為之籌量。至言侍佛左右。唯證三果。滅後結集方證四果。此皆阿難用方便道特留殘結耳。內祕菩薩外現聲聞。佛為授記山海慧自在通王佛。當約此意以為之論。

佛告阿難。是娑羅林外有一梵志。名須跋陀羅。年百二十。雖得五通未捨憍慢。汝可往彼語云。如來出世如優曇華。於今中夜當般涅槃。若用所作可及時作。阿難受勅往作是語。須跋陀羅言。善哉。即與阿難還至佛所。聞佛說法得阿羅漢(涅槃經)既證果已白言。世尊。惟願少住教誡莫般涅槃。世尊默然不許。須跋陀羅不忍見如來涅槃。即先入滅。佛告大眾。自我得道度憍陳如。最後須跋陀羅。吾事究竟無復施為(涅槃後分)時阿難以阿泥樓豆語咨啟四問。佛告阿難。如汝所問。六群比丘。惡性車匿。行污他家。云何共住。我涅槃後車匿比丘。漸當調伏捨本惡性。佛去世後以何為師者。尸波羅戒是汝大師。佛涅槃後依何住者。依四念處嚴心而住。觀身性相同於虛空。名身念處。觀受不在內外中間。名受念處。觀心但有名字名字性離。名心念處。觀法不得善法不得不善法。名法念處。一切行者。應當依此四念處住。如來滅後結集法藏。一切經

初安何等語者。當安如是我聞一時佛住某方某處與諸四眾而說是經(涅槃後分)時阿難請問。如來般涅槃後云何殯葬。佛言。當如轉輪聖王葬法。用白[疊*毛]纏身。塗以末香。金棺鐵槨。持盛王身。灌以酥油。香薪燒之。火盡收取骨末。起塔表刹。見者悲喜。思王正治。我今聖王亦復如是。我此國土未來眾生。水葬火葬塔冢之葬。其事為多。閻浮界內有震旦國。我遣三聖在中化導。人民慈哀禮義具足(冢墓因緣經○止觀我遣三聖化彼振旦。輔行仁義先驅真道後啟。清淨法行經。光淨菩薩彼稱孔子。迦葉菩薩彼稱老子。月光菩薩彼稱顏回)。

佛說涅槃時。有萬五千億人。於是經中不生信心。是人於未來亦當得信。

述曰。此見妙句。未知據何文。此等極鈍根人。即是末代

出家。具正信學佛法者。我輩何幸得預此流。

如來臨入涅槃。諸天大眾皆來供養。唯螺髻梵王不來覲省。時諸大眾惡其我慢。使百千呪僊往彼令取。乃見種種不淨而為城塹。犯呪而死。復策無量金剛持呪而去。乃至七日無人取得。大眾悲哀說偈。如來即以大遍知神力。隨左心化出不壞金剛。於大眾中顯大神通。三千世界六反震動。即騰身至梵王所。指彼穢物變為大地。報梵王言。汝大愚癡如來欲入涅槃。汝何不去。即以金剛不壞之力。微以指之。梵王發心至如來所(穢迹金剛靈要門○題稱穢迹者。如經云。金剛指梵王穢物變為大地。所謂以神通變其穢境。故得名之為穢迹金剛)。

世尊將入涅槃。是時中夜寂然無聲。為諸弟子略說法要。汝等比丘於我滅後當尊重珍敬波羅提木叉。當知此則是汝

大師。若我住世無異此也(遺教經)。

佛告眾曰。我雖在此閻浮提中。數數示現入於涅槃。實不畢竟涅槃。是故當知。是常住法不變易法(涅槃經)時世尊於七寶床右脇而臥。頭枕北方足指南方。面向西方後背東方。如來中夜寂然無聲。於是時頃便般涅槃。娑羅樹林四雙八隻。入涅槃已東西二雙合為一樹。南北二雙合為一樹。垂覆寶床蓋於如來。慘然變白猶如白鶴大眾哀聲普震一切世界(涅槃後分)時一切人民即入城中。作七寶金棺。栴檀沈水香花幡蓋。至如來前而申供養。大眾悲哽。共扶如來入金棺中。遣四力士請棺入城力不能勝。乃至遣十六力士亦不能勝。時阿泥樓豆語力士言。縱使盡城內人共舉佛棺。亦不可得。當須大眾諸天助汝舉棺。乃得入城。所言未既。帝釋即持寶蓋。垂在空中。乃至色界諸天。皆如帝釋供養聖棺世尊大悲。即自舉棺升空。高一多羅樹。從

西門入從東門出。從南門入從北門出。如是左右遶城經於七匝。徐徐空行至荼毘所。下七寶床。時四天王各持天上栴檀沈水各五百根。乃至第六諸天世間大眾。各持栴檀沈水至荼毘所(涅槃後分)二月二十二日。如來涅槃已經七日。將欲出棺。大眾哀泣。共扶如來至七寶床香水灌洗。妙兜羅綿。纏頭至足。白[疊*毛]千張。次第纏身。共扶如來入寶棺中。以妙香木成大香樓。舉棺樓上。大眾各持香炬至香樓所。皆悉滅沒(後分)阿那律升忉利天以告摩耶夫人。摩耶自天而下。棺自為開。世尊起合掌曰。遠屈下來。復語阿難曰。汝當知為後世不孝眾生故。從金棺出問訊於母(摩耶夫人經)。

時大迦葉與五百弟子在耆闍崛山。去拘尸城五十由旬(案赴佛涅槃經云。迦葉在伊茶梨山。去舍衛二萬六千里。教授一千弟子。此蓋部別不同。當以涅槃後分所出為正)迦葉於

正受中心驚身顫。從定中出見地大動。即知如來已入涅槃。即將弟子往拘尸城至佛棺所。如來大悲。為迦葉故棺自然開。顯出真金紫磨堅固色身。迦葉哀哽。即以香水灌洗。千[疊*毛]纏身。棺開即閉。迦葉說偈。如來復現雙足千輻輪相出於棺外。迦葉禮讚金剛雙足。還自入棺。從心胸中火涌棺外。漸漸荼毘。經於七日。香樓乃盡(後分○案處胎經迦葉執火以然香薪。此部別不同。當以後分所出為正)佛滅度已。始經七日。大迦葉告五百阿羅漢。令詣十方世界盡集六通阿羅漢。得八億八千眾。於雙樹間聽受法言(處胎經)。

分舍利

序曰。智者有言。此舍利者。是戒定慧之所熏修。究其為義。則有生法全碎之辨。我不滅度常在靈山。此豈非法身

全身乎。今論涅槃之後八萬四千。則唯示生碎二身爾。如來久遠劫來數數出現。蓋將開生身之迹。以顯法身之本。即碎身之狹以見全身之遍。大權益物可勝思議者哉。

二月二十九日。如來荼毘已經七日。帝釋開棺取佛右牙。天上起塔。有二捷疾羅剎。盜取佛牙一雙。時城內大眾收取舍利滿八金壘。入拘尸城七日供養(後分○舍利此云骨身)。

三月六日。如來本生眷屬迦毘羅國王(父王淨飯二子。一孫。既俱出家。父王問佛云。國嗣永絕。則知既崩之後無復繼者。今此迦毘羅王。蓋是國人。立兄弟之子為其後。故今云本生眷屬也)諸釋種等。經三七日。知佛涅槃入拘尸城。請求舍利不果所請。阿闍世王詣佛懺悔。洗蕩身瘡極重罪滅。即還本宮。於涅槃夜夢見月落。召問諸臣。答

言。是佛涅槃之相。王即將臣從至拘尸城。請求舍利不果所請。時毘離外道名王。阿勒迦羅王。毘耨不畏王。遮羅迦羅王。波肩羅王。各將臣從入拘尸城。請求一分舍利還國供養不果所請(後分○已上七國。并拘尸那為八國)時八國王共爭舍利。有大臣優波吉諫八國王。時帝釋化作人語。我等諸天亦應有分。阿耨達龍王言。我等亦應有分。若不見與力足相敵。時優波吉告言。諸君且止。此舍利宜共分之。何須見諍。即分舍利而為三分。一分諸天。一分龍王。一分八王(處胎經)八國共分舍利。闍王得八萬四千數。又別得口髭還國。道逢難頭禾龍王。從求舍利。闍王不與。龍言。我力能壞汝國土。闍王怖畏。即以佛髭與之。龍王於須彌山下起水精塔。闍王還國。以紫金函盛舍利。作千歲燈。於五洹河水中作塔藏之(阿育王經)。

八國舉兵爭求舍利。姓煙婆羅門高聲唱言。當作八分。時

拘尸城得第一分。乃至闍王得第八分。各還本國起塔。姓煙婆羅門得盛舍利瓶。還那羅聚落起塔。羅延婆羅門得炭。還國起塔。是時閻浮提始有十塔(十誦律)。

集三藏

序曰。荊溪論結集三藏。則有三處一千結集。正當最初(佛滅後四月十五日)七百結集為滅後百年。跋闍擅行十爭(周厲王三十四年。見通塞志)五百結集為四百年後。因伽呢吒王請僧論道不同(未檢所出)。然法苑珠林。李長者合論。並依處胎經以滅後七日為五百結集。今案本文。迦葉告五百。正是遣使集眾。未為正結集則當以荊溪之論為正。

四月十五日。大迦葉如是思惟。應當結集三藏令法久住。即住須彌山頂搗銅犍椎(音虔地。聲論翻為鍾。五分律隨有

瓦木銅鐵鳴者。皆名犍地。諸律多作犍槌)說偈曰。佛諸弟子。若念於佛。當報佛恩。莫入涅槃。諸弟子得神力者。皆來集會。迦葉選得千人。皆阿羅漢。唯除阿難。闍王日給千人飯食。中夏安居。三月初十五日說戒時。迦葉入定以天眼觀。阿難一人煩惱未盡。手牽令出。阿難慚泣白言。佛法阿羅漢者不得供給左右使令。以是留殘結不斷耳。大迦葉復言。汝更有罪。汝勸佛度女人出家。使正法減五百年。阿難言。三世諸佛皆有四部。迦葉復言。佛欲涅槃背痛臥言須水。汝不供給。阿難言。是時五百乘車。截流而度水濁不取。迦葉復言。佛問汝。若有人四神足好修。可住壽一劫若減一劫汝應答云佛應住壽一劫若減一劫。佛三問不答。故令世尊早入涅槃。阿難言。魔蔽我心是故不答。迦葉復言。汝與佛[執/衣]僧伽梨衣(褻徒頰及重衣。即是重疊之義)以足踏上。阿難言。我捉衣時。大風吹墮脚下。非不恭敬。迦葉復言。佛陰藏相。般涅槃後。以

示女人。是何可恥。阿難言。我思女人見佛陰藏相。心羞恥女形欲得男身。修行種種佛之德根。非為破戒。迦葉令作六種突吉羅罪僧中悔過(突吉羅。此云惡作。又云應當學)迦葉復言。斷汝漏盡然後來入。阿難思惟諸法求盡殘漏。定力少故不即得道。後夜欲過疲極偃息。仰臥就枕霍然得悟。入金剛定破一切煩惱得六通。後夜到僧堂敲門。迦葉語云。汝從門鑰孔中入來。阿難即以神力從孔中入。禮拜懺悔。迦葉乃云。汝莫嫌恨。還汝本座。阿難禮僧已升師子床(智度論)迦葉告言。佛所說法一言一字勿使有闕。時阿難最初出經。第一胎化藏。第二中陰藏。第三摩訶衍方等藏。第四戒律藏。第五十住菩薩藏。第六雜藏。第七金剛藏。第八佛藏。是為經法具足時。阿難發聲。唱言。我聞如是一時佛住所居處。迦葉大眾。皆悉墮淚。咄嗟老死如幻如化。昨日見佛今日已稱我聞(處胎經)。

阿難身與佛相似。短佛三指。初登高座眾起三疑。或疑世尊重出。或疑他方佛來。或疑阿難成佛。及唱我聞三疑俱遣(妙句)阿難集法藏自云。佛初轉法輪。我是時不見。如是展轉聞(句引智論)舊云。阿難得佛覺三昧。力自能聞(記云。佛加覺力。故名佛覺○舍利弗問經。阿難修不忘禪。得佛覺三昧。力自能聞)又未聞經願佛重說。故佛口密為說。阿難親承佛旨。如仰完器。傳以化人。以瀉異瓶。佛已涅槃。從金棺出金臂。重為現入胎之相。諸經皆聞(妙句)胎相尚聞。況後諸經(句記○此即追現入胎。乃至轉法輪等相。使阿難給侍。二十年已前諸經。皆得以聞之也)阿難面於佛前自聞授記。即時憶念過去諸佛法藏。通達無礙如今所聞。亦識本願(法華學無學記品)。

如來在此鐵圍山外。十方諸佛並皆雲集說法。亦名說經。後時文殊召諸菩薩及大阿羅漢。結集大乘法藏。各言某經

我從佛聞。須菩提言。金剛般若我從佛聞。故知不局阿難。然阿難則遍聞諸經。餘弟子則偏局當部(淨名疏引智論)。

如來滅後。於畢鉢羅窟立三座部主結為三藏。阿難誦出經藏。迦葉誦出論藏。優波離誦出律藏。此即上座部。更有一千賢聖。命婆尸迦。於窟外結集名大眾部。此二部通稱為僧祇律。是為根本(僧祇律○此文分三藏。為三部主。是小乘所出)。

阿難從佛請願。二十年中所說盡為我說(報恩經)。

摩得勒伽論說十二部經。唯方廣部是菩薩藏。十一部是聲聞藏。又佛為菩薩聲聞說出苦道。為菩薩藏聲聞藏。智論云。大迦葉與阿難在香山。撰集三藏為聲聞藏。文殊與阿

難。集摩訶衍經為菩薩藏。涅槃云。十一部經二乘所持。方等部為菩薩所持。是以經論略唯二種(妙玄)。

眾經論明教非一。若摩得勒伽有二藏。聲聞藏菩薩藏。又諸經有三藏。十一部是聲聞藏。方廣部是菩薩藏。合十一部。是雜藏。又有四藏者。更開佛藏。菩薩處胎經為八藏。胎化藏。中陰藏。未為阿難說時。即是祕密教。為阿難說後。即是不定教。摩訶衍方等藏即頓教。戒律藏即二藏教。十住藏即方等教。雜藏即通教。金剛藏即別教。佛藏即圓教(胎化即是如來託胎所說諸經。中陰即是如來住胎所說一切諸法)。

世尊滅後百年。毘舍離城。跋闍子比丘。擅行十事聽兩指抄食。得聚落間。得寺內。後聽可。得常法。得受金銀。彼於布薩日。檀越有施金銀。而共分之。如是簡擇一一檢

校。乃至十事非法。非毘尼非佛所教。七百阿羅漢。集論法毘尼。故名七百結集(四分律)。

贊曰。能仁寂默。成佛久遠。仁賢劫波。乘時利見。一代施化。歸宗開顯。天人群生。咸開宿願。所應度畢。示迹泥洹。不生不滅。常在靈山。未來修學。盈滿世間。共期佛慧。爰獨真丹。

佛祖統紀卷第四(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第五

宋景定四明東湖沙門志磐撰

西土二十四祖紀第二

- 始祖摩訶迦葉尊者
- 二祖阿難陀尊者
- 三祖商那和修尊者
- (阿難旁出)末田地尊者
- 四祖優波鞠多尊者
- 五祖提迦多尊者
- 六祖彌遮迦尊者

- 七祖佛馱難提尊者
- 八祖佛陀密多尊者
- 九祖脇比丘尊者
- 十祖富那夜奢尊者
- 十一祖馬鳴尊者
- 十二祖迦毘摩羅尊者
- 十三祖龍樹尊者
- 十四祖迦那提婆尊者
- 十五祖羅睺羅多尊者
- 十六祖僧佉難提尊者
- 十七祖僧佉耶舍尊者
- 十八祖鳩摩羅馱尊者
- 十九祖闍夜多尊者
- 二十祖婆修槃馱尊者
- 二十一祖摩拏羅尊者

- 二十二祖鶴勒那尊者
- 二十三祖師子尊者

止觀論之辭曰。行人若聞付法藏。則識宗元。付法藏人。始迦葉終師子。二十三人。末田地與商那同時。取之則二十四人。諸師皆金口所記(事出輔行)並是聖人能多利益(按法藏經。我滅度後。有二十四尊者。出現於世。流傳我法)輔行云。像末四依弘宣佛化傳中既云並是聖人。故多是四依。亦可通於三二。以初依屬凡。不得名聖也(妙玄云。五品六根為初依。十住為二依。十行十向為三依。十地等覺為四依。此約大乘論四依。若涅槃經云。有四種人能護正法為世所依。初依小乘內外凡。二依初果。三依二三果。四依四果。此約小乘論四依。今言付法。乃是大乘。故輔

行所言。是大乘四依也。言傳中者。即付法藏傳。一根名付法藏因緣經)今論祖承傳大法。而毬多諸祖。云證小果者。準荊溪意。謂四果是真福田。化道易行。宜作此像。即是四依為四果像。是知金口諸師皆破無明位在四依。內弘大法而外示小像。為明付法撰二十四祖紀。

始祖摩訶迦葉尊者(此云大飲光。古仙人身光隱蔽餘光。遂以為姓。此尊者是其後裔。身亦光明。飲蔽餘光。佛弟子中。有十力迦葉三迦葉等。於此同姓中最長故。標大字以簡之)名畢鉢羅(此菩提樹名。父母禱樹神而生故。從樹立名)羅閱祇國人(此云王舍城。即摩伽陀國中城名)父迦毘羅(此云頭面金色。蓋是古者金光仙人之後)世稱大富長者。十六大國無以為隣。千倍勝瓶沙王(即頻婆娑羅王。此云顏色端正)王有金犁千具。畏勝於王。減一耕犁。但用九百九十九雙牛金犁。有六十庫金粟。庫容三百四十斛。昔毘婆

尸佛入滅之後(此云勝觀)塔像金色少處闕壞時有貧女。因得金珠欲補像面。時迦葉為鍛金師。既為補治。因共立誓願。我二人常為夫婦。身真金色恒受勝樂。以是因緣。九十一劫生天人中最後得生第七梵天(初禪大梵。居六欲上。正當第七)時摩伽陀國(此云不害)有婆羅門。巨富無量而無子息。舍側有一樹神。常往乞子。歷年無應。瞋忿曰。今更七日奉祀。若復無驗必當燒樹。樹神愁怖即詣梵天。梵王天眼見一梵天臨當命終勸其往生。滿足十月生一男兒身真金色。光明赫奕照四十里。身具三十相(文句。應是闕白豪肉髻二相)相師占云。此兒宿福必當出家。年至十五欲為聘妻。兒語父母。能為我得紫金色女。我當納之。父母即召諸婆羅門。鑄一金女。輿行村落高聲唱言。若有女人見金神者。後出嫁時必得好婿。女聞悉出。唯一女軀體金色。獨不肯出。諸女強將共見金神。婆羅門見即為聘得。夫婦二人了無慾意。各住一房父母知已。毀除一房令其同

室。迦葉語曰。我若眠時汝當經行。汝若眠息我當經行。夫婦節操。深厭世間。啟求出家。即舍家事。深入山林。心念口言。諸佛如來出家修道。我今亦當隨佛出家。即著壞色納衣。自剃須髮。空中天神而告之曰。釋迦如來今與千二百五十阿羅漢。在王舍城竹園中住。迦葉聞語。即趣竹園。佛往逆之。至跋耆聚落。值佛奉上寶衣。佛即授以糞掃大衣。初聞增上戒定慧。即得無漏。時已百二十歲。其婦相續亦得阿羅漢果。迦葉受乞食法。行十二頭陀。至老不舍。常曰。我受佛衣。師想塔想。未曾頭枕。況以覆臥。如此大衣。大進我行。佛語之曰。汝年老根弊。可舍乞食及受長衣。迦葉答曰。我當盡壽行蘭若行(此云寂靜處。十二頭陀行之一)佛言善哉。若迦葉行頭陀行在世者。我法久住。迦葉頭陀既久。髮長衣弊。來詣佛所。諸比丘皆起慢心。佛分半座令坐。迦葉不肯。佛即廣讚迦葉功德。與我不異。何故不坐。諸比丘聞為之心驚。佛復為說本因。昔有文竭陀(輔

行云即頂生王也)高才絕倫。天帝欽其德。遣千馬車造闕迎之。天帝出候命王同坐。共相娛樂送王還宮。昔迦葉以生死座命吾同坐。吾今成佛以正法座報其往勳。迦葉共佛坐。時天人咸謂佛師。即起鳴佛足云。佛是我師。我是弟子(云云)毘耶離城有長者維摩詰。方便示疾饒益眾生。佛告大迦葉。汝行詣維摩詰問疾。迦葉白言。我不堪任詣彼問疾。所以者何。憶念我昔貧里行乞。維摩詰來謂我言。以一食施一切。供養諸佛及眾賢聖。然後可食。如是食者。非有煩惱非離煩惱。非入定意非起定意。非住世間非住涅槃。其有施者。無大福無小福。不為益不為損。是為正入佛道。不依聲聞。迦葉。若如是食。為不空食人之施也。時我聞說是語。即於一切菩薩深起敬心。不復勸人以聲聞辟支佛行。是故不任詣彼問疾(維摩經)世尊。於法華會上告舍利弗。如是妙法諸佛如來時乃說之。時舍利弗於此法說領解。世尊授記。未來作佛號曰華光。復告舍利

弗。今當復以譬喻更明此義。遂說長者大宅歟然火起。長者方便誘諭諸子。以羊鹿牛三車玩好之具。引之令出。然後等賜高廣大白牛車。如來亦復如是。初說三乘引導眾生。然後但以大乘而度脫之。時大迦葉等四大聲聞於此領解。遂說窮子之譬。謂如窮子捨父逃逝。五十餘年。後雖遇會志意下劣。二十年中常令除糞。過是已後心相體信。結會父子正領家業。自言我等昔來但樂小法。世尊以方便力說如來智慧。今我方知。世尊於佛智慧無所吝惜。是故我等說本無心有所希求。今法王大寶自然而至。如佛子所應得者皆已得之。於是世尊復告迦葉。說藥草喻述成其解。而語之曰。汝於未來當得成佛名曰光明(法華經○此通付法)佛告諸比丘。我今所有無上正法。悉已付囑迦葉。當為汝等作大依止(涅槃經○此別付法○阿難問經。我入涅槃大迦葉當與比丘比丘尼作大依止。如我無異)時大迦葉與五百弟子在耆闍崛山。去拘尸城五十由旬。迦葉於正受中心

驚身顫。從定中出見地大動。即知如來已入涅槃。即將弟子往拘尸城。至佛棺所。如來大悲。為迦葉故棺自然開。顯出真金紫磨堅固色身。迦葉哀哽。即以香水灌洗。千氈纏身。棺門即閉。迦葉說偈。如來復現雙足千輻輪相出於棺外。迦葉禮讚金剛雙足還自入棺。從心胸中火涌棺外。漸漸荼毘。經於七日。香樓乃盡(涅槃後分○迦葉與弟子向拘尸城。路見梵志手執曼陀羅華。謂曰。世尊涅槃已經七日。一切人天大設供養。吾從彼間得斯華來。出赴涅槃經)。

佛荼毘已始經七日。迦葉告五百阿羅漢。令詣十方集諸羅漢。得八億八千。盡集雙樹間聽受法言(菩薩處胎經)至中夏安居初十五日。迦葉共千羅漢。在王舍城。結集三藏。闍王日給千人飯食。足滿一夏(智論)迦葉弘持正法至二十年(當周懿王八年壬辰)以法藏付囑阿難。先禮四塔(出家成

道轉法輪入涅槃四處。各建七寶塔)次禮八塔(八國王所建舍利塔)次入龍宮禮佛髭塔。次升天上禮佛牙塔。去辭闍王。適值王寢。即往雞足山(其山三峰如仰雞足即靈鷲山)。取草敷座而發三願。一願此身及所持衣鉢俱不壞。待至慈氏下生。二願入滅盡定已。三峯合一。三願阿難闍王若至。願山暫開。時闍王夢屋梁折。王覺已悲歎。即往雞足山見迦葉全身儼然在定。王發聲哀哭。積諸香木欲闍維之。阿難為言。迦葉以定住身以待彌勒。不可得燒。王供養已還歸本國。山合如故。至慈氏三會之後。有無量憍慢眾生將登此山。慈氏彈指山峯即開。迦葉以所持衣授與慈氏。致辭禮敬畢。涌身虛空示諸神變。化火焚身乃入寂滅(付法藏經○梅溪集。荊公謂佛慧泉禪師曰。世尊拈花出自何典。泉云藏經所不載。公曰頃在翰苑。偶見大梵王問佛決疑經三卷。有云。梵王在靈山會上。以金色波羅花。獻佛請佛說法。世尊登座。拈花示眾。人天百萬。悉皆罔

措。獨迦葉破顏微笑。世尊曰。吾有正法眼藏涅槃妙心分付迦葉)。

述曰。妙經言。世尊開顯大法迦葉領解。此付法之通義也。涅槃經言。佛告諸比丘。我今所有無上正法。悉已付囑迦葉。後分云。迦葉至佛棺所說偈。佛現雙足。阿難問經。佛將涅槃告迦葉言。當與四眾作大依止。此等諸文皆在涅槃。即付法之別義也。通則大眾皆獲領解。別則迦葉獨任住持。今涅槃付囑正當別義。是以祖祖相傳住持不斷也。有欲以法華領解為付法者。但得通意。

二祖阿難陀尊者。佛叔父白飯王次子。以佛成道二月八日生(阿難陀。此云慶喜。謂王心歡喜舉國欣慶)即調達之弟也。面如淨滿月。眼若青蓮華。年八歲從佛出家。得白四羯磨具足戒。多聞第一。年三十一為佛侍者。聞持法藏。

至法華會上。佛告阿難。汝於來世。當得作佛。號山海慧
自在通王。復告諸菩薩曰。我與阿難。於空王佛所。同時
發菩提心。阿難常樂多聞。我常勤精進。是故我已得成菩
提。而阿難護持我法。亦護將來諸佛法藏。佛滅度後。大
迦葉結集法藏。選千阿羅漢。令阿難升師子座宣說諸經。迦
葉垂入滅時。以最勝法付囑阿難。而作是言。往古定光佛
為沙門時。畜一沙彌常令誦經。若經少闕即便訶責。時沙
彌為師乞食。若少稽留經不充課。極為其師之所訶罵。沙
彌愁惱且行且誦。時有長者問知其故。語沙彌言勿生憂
惱。從今已後常相供給。時此沙彌不復行乞專心讀誦經常
充足。時沙彌者即世尊是。施食長者即阿難是。以斯福緣
智慧深妙總持多聞(述曰。沙彌課經。宜得總持之益。長者
供食。亦擅多聞之功。信知世間造善造惡。隨所作事。資
成之者。必當均獲其報。氣分所感。豈得免焉)阿難遊行宣
化幾二十年。嘗至竹林中(即王舍城外竹林寺)聞比丘誦

偈。若人生百歲。不見水老鶴。不如生一日。時得覩見之。阿難慘然曰。此非佛偈。當云。若人生百歲。不解生滅法。不如生一日。而得解了之。比丘向其師說。師曰。阿難老朽言不可信。阿難後時聞彼比丘猶誦前偈。即自思惟。今此比丘不受吾教。於世無益宜入涅槃。即詣闍王適值其睡。王夢蓋莖折。即便驚覺。門人告言。阿難入滅故來相見。王發聲哭問何所在。答云。已向毘舍離國。即嚴四兵(象馬車步)追至恒河。阿難乘船在河中流。王稽首白言。三界明燈願勿涅槃。時雪山有五百仙人。觀見阿難將欲涅槃。飛空而至求哀出家。即化恒河變成金地。為諸仙人說法。成阿羅漢。俱時入滅(即末田地五百仙人)阿難涌身虛空作十八變入風奮迅三昧。分身四分。一分與釋提桓因。一分與娑伽龍王。一分與毘舍離子。一分與阿闍世王。四處各起寶塔供養舍利(雜見法華。付法藏。大論。文句。妙樂)。

三祖商那和修尊者。王舍城長者也。過去世為商主。路見辟支佛身嬰重病。即為求藥治療。見其衣極弊惡奉妙氎衣。辟支佛言。此商那衣(或翻草衣。西域有九枝秀草。若羅漢生。則此草生於淨地之上也)以此出家成道。故當著此而入滅也。即飛空作十八變。便取涅槃。商主悲哀。積諸香木闍維舍利起塔供養。願我來世功德威儀及以衣服如今無異。由斯願力於五百世身中陰。恒服此商那衣。最後身衣從胎俱出。隨身增長。出家變為法服。具戒變為九條。因名商那和修(按西域記。梵衍那國。度雪山東有伽藍。藏商那九條衣絳赤色。商那入滅。留此袈裟。謂弟子曰。法盡之後。方乃變壞。今已少損矣)如來昔遊摩突羅國見樹林榮茂。告阿難曰。吾滅度後。當有比丘商那和修於此山中起僧伽藍說法教化。後商那入海大獲珍寶。往詣竹林設大施會。聞佛世尊迦葉目連皆已滅度。即便嚴辦為般遮於瑟

(此云五年大會)及造門樓。阿難告曰。汝今已為財施。復當作於法施。出家學道利益眾生。商那答言。甚適我願。即度出家成阿羅漢。乃往曼陀山。以慈三昧化二毒龍子。營建禪室。復往罽賓國象白山中安座入定。時弟子優波鞠多有五百弟子。猶處生死憍慢貢高。鞠多即入三昧。觀此諸人與己無緣。唯有吾師乃能化度。便至心念商那和修。商那神力從空飛來。衣裳弊惡坐鞠多座。弟子咸瞋。是何弊人處我師座。以白鞠多。鞠多至房頭面作禮。弟子念言。師雖為禮盛德勝之。商那手指虛空。便下香乳。如高山泉注。鞠多不曉是何三昧商那為言。此是龍奮迅三昧。如是次第。五百三昧都不了知。一一為說。又語鞠多。如來三昧目連不識。目連三昧餘聲聞不識。吾師阿難三昧我亦不知。今我三昧汝亦不知。我涅槃後。七萬七千本生諸經。一萬阿毘曇藏。八萬清淨毘尼。皆隨我滅。時諸弟子方自責悔。商那復為說法。皆得阿羅漢果。商那即飛空作

十八變。而入涅槃。毘多積諸香木以火邪旬(邪旬梵語也即火化之意)收取舍利起塔供養(付法藏經)。

(阿難旁出)末田地尊者。雪山五百仙人之導首也。阿難欲入涅槃至恒河中。其地大動。諸仙知之。飛空而至。俱求出家。阿難即化河水悉成金地。五百仙人俱得出家成阿羅漢(末田地。此翻為中。以諸仙在河中得戒也)時末田地欲先涅槃。阿難囑云。佛記汝當於罽賓國建立佛法。阿難涅槃後。末田地乃往罽賓。降伏惡龍住持佛法。臨涅槃時涌身虛空作十八變。然後入滅(付法藏經)。

四祖優波毘多尊者。摩突羅國人。容貌端正聰慧辨才。商那初教繫念。若起惡心當下黑石。生善念時當下白石。毘多如教攝念。初黑偏多。次白黑等。至七日滿唯有白石。商那即為宣說四聖真諦。應時逮得須陀洹果。時城中有姪

子者。長者。殺國王。姪女。為。此。開。成。髮。阿。毬。女。狗。
長者。殺國王。姪女。為。此。開。成。髮。阿。毬。女。狗。
有寶陳化用誑應。姪女。時。云。十。白。已。即。生。現。以。蛇。狗。
許。其。具。往。何。色。令。脫。常。幾。師。戒。已。眾。嚴。為。
不。女。貪。之。多。毀。以。著。解。無。年。師。具。大。莊。所。為。
多。女。得。毬。殘。本。樂。求。空。汝。曰。家。受。第。一。寶。魔。
。交通。掘地間。今。既。汝。不。而。苦。問。多。出。禪。象。多。知。
召。女。交。掘。塚。顧。也。終。方。便。諸。法。商。那。毬。度。坐。白。象。多。
延。求。舍。棄。不。為。了。勤。觀。家。十。七。器。百。年。作。白。心。
人。寶。至。鼻。召。不。者。宜。因。觀。家。十。七。器。百。年。作。白。心。
遣。珍。求。耳。相。不。智。宜。因。觀。家。十。七。器。百。年。作。白。心。
麗。齋。推。其。容。來。智。宜。因。觀。家。十。七。器。百。年。作。白。心。
端。大。家。剽。妙。故。穢。如。瘡。多。出。家。十。七。器。百。年。作。白。心。
多。來。之。足。以。相。臭。癰。如。天。便。求。性。法。在。句。化。法。心。
。聞。客。長。者。足。我。實。相。臭。癰。如。天。便。求。性。法。在。句。化。法。心。
密。值。內。截。手。云。觀。汝。盛。滿。如。癰。如。天。便。求。性。法。在。句。化。法。心。
。須。宿。舍。女。須。密。觀。瓶。積。聚。終。見。商。身。十。七。知。是。汝。波。無。聽。
。婆。女。置。姪。婆。我。如。畫。眾。苦。命。初。汝。身。十。七。知。是。汝。波。無。聽。
。名。姪。埋。取。婆。言。譬。如。眾。苦。命。初。汝。身。十。七。知。是。汝。波。無。聽。
。女。共。子。即。所。答。生。色。得。阿。七。白。羅。多。人。端。正。奇。麗。舉。會。觀。視。無。聽。

人三屍化作華鬘以加其頸。還見死屍蟲蛆臭爛。盡其神力
去之不能。涌身虛空問諸天眾。梵王問曰。十力弟子所作者
神力豈能解之。汝若歸依尊者。尊者謂言。汝於正法更莫燒害。
所。五體投地求解三屍。尊者乃為解去三屍。毰多現
然後乃當為汝解之。魔言受教。尊者乃為解去三屍。毰多現
每以不見佛為恨。因問魔曰。汝曾見佛其相如何。汝能現
否。曰能。於大林前現一佛形。相好奇特如紫金山。光照
十方梵釋扈從。毰多歡喜不覺致拜。魔即復形前接曰。我
是凡夫何當聖禮。至第四日魔更下來。以大音聲普告一
切。欲得富樂生人中。欲求涅槃第一安隱。不見如來大
悲說法。悉當往詣毰多尊者。聽受妙法至心修行。是時城
中男女皆共雲集。隨其所應說種種法百千眾生得須陀洹。
萬八千人成阿羅漢。時阿恕迦王(即阿育王)聞尊者在憂陀
山為眾說法。遣使白言。欲來問訊。尊者以處所隘陋。躬
自往詣至華氏城。為王摩頂說偈。指示如來往昔遊方行住

之處。悉令起塔。毬多化度眾生。夫婦俱得阿羅漢者。乃下一籌。籌長四寸。滿一石室。室高丈六。縱廣亦爾。神通化用與佛無異。但無三十二相。舉世號為無相好佛。化緣已畢。作十八變而取滅度。以室中籌用為邪旬。人民號泣。共收舍利起塔供養(付法藏經)。

五祖提迦多尊者。摩突羅國人。初毬多化緣將畢。往至其父長者家。問言。大聖何以獨行。毬多答曰。我出家人無有給侍。若有人者當見垂惠。長者答言。若後生子必相奉給。後生男名提迦多。善學經論。往從索之。將至僧坊度令出家。年滿二十為受具戒。初日斷見諦結得須陀洹。第一羯磨。薄婬怒癡獲斯陀含。第二羯磨。欲界結盡得阿那含。第三羯磨。頓斷三界煩惱。建立梵行成阿羅漢。三明遠照六通具足。遊步隱顯自在無礙。毬多告曰。我涅槃時至。以此法寶持用付汝。汝當流布。後提迦多化度世間。

於中印度而取涅槃。天人悲感。收取舍利起塔於班荼山中(付法藏經)。

六祖彌遮迦尊者。中印度人。八千仙人導首。多聞博達有大辯才。往見提迦多曰。我昔與師同生梵天。我遇阿私陀教授仙法。師遇大善知識修習佛道。自此殊途已經六劫。彼仙記曰。汝後六劫當遇同學獲證聖果。今日得遇非宿緣耶。提迦多。即為說法得證無漏。仙眾不信。提迦多為現神變。眾方信服俱得道果。提迦多。臨欲入滅以法付囑。而告之曰。佛以正法付大迦葉。如是展轉乃至於我。我今付汝宜當流布。彌遮迦受教宣流正法。於諸眾生開涅槃道。化緣已畢遂入涅槃。眾取舍利起塔供養(付法藏經)。

七祖佛陀難提尊者。北天竺人。慧解善說勝服當世。初彌遮迦至其國。望雉堞上金色祥雲。歎曰。此下必有大士可

為法嗣。乃往尋之。果於闍闍中見佛陀難提。而謂之曰。我師提迦多說。世尊昔遊北印度語阿難曰。我滅後三百年。有一聖人名佛陀難提。於此弘法。難提答曰。我思往劫嘗獻如來寶座。彼因記我。當於賢劫釋迦法中宜弘教法。今符師語。願求出家。纔聞說法即得四果。彌遮迦臨欲入滅。即以正法付囑流布。後時難提化緣將畢。遂入涅槃。眾取舍利起塔供養(付法藏經)。

八祖佛陀密多尊者。提伽國人。德力深固善化群生。初難提行化至其國。見一家有白光。謂其徒曰。此有聖人。有口不言。有足不履。及至其舍。長者問其何來。難提即曰。來求弟子。長者曰。我有一子。年五十歲。不言不履。安能給侍。難提曰。真吾弟子。密多遽起禮拜。行七步已口說偈曰。父母非我親。誰是最親者。諸佛非我道。誰是最道者。難提曰。汝言與心親。父母非可比。汝行與

道合。諸佛心即是。外道有相佛。與汝不相似。欲識汝本
心。非合亦非離。又謂之曰。此子昔曾值佛悲願廣大。慮
父母愛情難捨故不履不言。長者遽捨出家即證道果流布正
法。時有國王宗事異學輕毀三寶。密多將欲調伏。躬持赤
旛於十二年在王前行。王後問曰。斯是何人。答曰。我是
智人善能談論。王即宣令於正勝殿集諸婆羅門長者居士。
與一沙門共相議論。密多升座建無方論。淺智之人一言即
屈。其聰辨者再便辭盡。王乃躬與密多以起言端。尋亦摧
服。王即回心為佛弟子。時國中有尼乾毀謗正法。善知算
數(尼乾此云自餓外道)密多往化。就受數述。尼乾常出惡
聲罵辱於佛。密多謂曰。汝今造罪必墮地獄。若不見信可
算知之。尼乾推算知墮地獄。白尊者言。我當云何得免斯
咎。密多告曰。如因地倒還從地起。汝若歸佛此罪可滅。
時尼乾即以五百偈。讚歎如來改悔先罪。密多復告之曰。
汝此善業必生天上。若不見信可算知之。尼乾下算。自見

己身罪滅生天。便大歡喜。遂與五百人俱共出家。密多化緣將畢遂入涅槃。弟子為奉全身起塔供養(付法藏經)。

九祖脇比丘尊者。中印度人。由於昔業在母胎六十年。既生須髮俱白。厭惡五欲不樂居家。其父携見密多曰。此子處胎六十年。因號難生。曾遇相者。言是法器。願求出家。受戒之日祥光燭座。感舍利三七顆。便於座上得阿羅漢。精進苦行脇不至席。時號脇比丘。有外道見師手放光明暗中取經。即捨邪歸正獲證道迹。化緣將畢。現十八變便入涅槃。眾取舍利建塔供養(付法藏經)。

十祖富那夜奢尊者。華氏國人。智識深邃多聞博記。初脇比丘至其國。止一樹下指其地曰。此地若變金色。當有聖人至矣。言已地果成金。既而夜奢果至。遂納為弟子付以法藏。以善方便化度眾生。所作已辦便入涅槃。眾取舍利

起塔供養(付法藏經)。

十一祖馬鳴尊者。東天竺桑岐多國婆羅門。以刀貫杖銘曰。天下智士。能勝我者。截首以謝。諸國之人莫有抗者。時富那夜奢於閑林中坐。馬鳴大慢貢高計實有我。聞夜奢說諸法空無我無人。往謂之曰。一切世間言論我能破壞。此言若虛斬首以謝。夜奢曰。佛法之中凡有二諦。若就世諦假名為我。第一義諦皆悉空寂。如是推求我何可得。馬鳴知義不勝便欲斬首。夜奢曰。我法仁慈不斬汝首。如來記汝。後六百年當傳法藏。於是度令出家。內心猶有愧恨。時夜奢有經在闇室。令馬鳴往取。白言室暗。夜奢以五指放光。馬鳴心疑是幻。凡幻之法知之則滅。而此光轉更熾盛。即便心服。勤苦修行仰受付囑。於華氏城遊行教化。作妙技樂名賴吒和羅。其音清雅宣說苦空無我之法。時此城中五百王子。同時開悟出家為道。時華氏王

恐國虛空。即便宣令勿令作樂。有月氏國王(氏音支)攻華
氏城。城中凡九億人。即從索九億金錢。時華氏王。即以
馬鳴一佛鉢慈心雞。各當三億。馬鳴智慧殊勝。佛鉢如來
功德。慈心雞不飲蟲水。悉能摧滅怨敵。月氏王大喜。回
兵歸國。後安息國來伐月氏。交戰獲勝殺安息人。凡有九
億。有一羅漢欲令王悔。即以神力示其地獄。王見惶怖。
時馬鳴即語王曰。王能聽我說法。當令此罪不入地獄。王
後欲征北海。群臣怨王貪虐無道。因王病瘡以被鎮之。人
坐其上須臾氣絕。由聽馬鳴說法。生大海中作千頭魚。劍
輪回注斬截其首。續復生頭次第更斬。須臾之間頭滿大
海。時有羅漢為僧維那。王即告言。今此劍輪聞犍稚音。
即便停止苦痛小息。唯願大德延令長久。羅漢悲閔為長打
之。過七日已受苦便畢。至今此寺相傳長打。馬鳴傳法
已。即入龍奮迅三昧。挺身虛空如日輪相。復還本位以取
涅槃。眾收舍利起塔供養(付法藏經○摩訶衍論過去輪陀王

有千白鳥。若鳥出聲王則增德。如是諸鳥。若見白馬則鳴。王遍求白馬不得。乃作言曰。若佛弟子。能令此鳥鳴者。都破外道時菩薩神力現千白馬鳴千白鳥。紹隆正法令不斷絕。是故世尊名曰馬鳴)。

十二祖迦毘摩羅尊者。華氏國人。為外道師有眾三千。以神力求饒馬鳴。鳴曰。汝之神力更能如何。摩羅曰。我化大海極為小事。鳴曰。汝能化性海否。問何謂性海。鳴曰。山河大地依之建立。三昧六通由茲發現。摩羅聞之即能信入。與三千眾同時悟道。受師付囑宣布正法。於南天竺大興饒益。造無我論足一百偈。此論至處魔外摧折。時西印度有太子名雲自在。仰師道德請入宮中供養。摩羅曰。佛戒沙門不得親近王臣權勢。太子曰。城北有一山窟可往居否。摩羅即往趣之。路見大蟒。為其說法授戒。其蟒即隱。及至石窟。有素服老人出迎謝曰。我昔為僧持戒

好靜。新學請益應答之際。多起嗔心故報為蟒。今居此已千載。適聞說法已得脫苦。故此拜謝(佛滅至此。方六百年。此蟒應是迦葉末法時為僧。故云千載)摩羅化緣已畢現通入滅。眾取舍利起塔供養(付法藏經)。

十三祖龍樹尊者。南天竺國梵志之裔。始生之日在於樹下。由入龍宮始得成道。故號龍樹(西域記。梵云那迦闍樹。此翻龍猛)佛去世後七百年出。天姿聰悟。在乳哺中聞諸梵志誦四韋陀典。有四萬偈。偈各三十二字。皆達句義。弱冠馳名獨步諸國。天文地理星緯圖讖。及餘道術無不綜練。嘗與契友三人議曰。世間義理可以開神明發幽旨者。吾輩悉達之矣。更以何方而自娛樂。復云。人生唯有追求慾色為至樂耳。乃俱往術家學隱身法。師念曰。此四梵志才智高遠。今以術故屈辱就我。若授其方則永見棄。乃各與青藥一丸水磨塗眼形自當隱。龍樹聞香。便識此藥

授妊置兵。加家。訪賢。繼之。有門。歷心。具懷土。可劍。不受。之來。大慮。浮門。等情。法。人。細。揮。王。門。迎。尊。是。何。閤。彌。龍。其。美。以。迹。士。依。沙。樹。至。否。出。藏。瞿。須。即。月。無。勇。身。詣。龍。非。否。出。藏。瞿。須。驚。宮。術。必。令。斂。當。我。眼。辦。三。從。以。大。後。是。魅。乃。樹。難。訪。道。但。通。欲。而。聞。王。則。鬼。迹。龍。斯。來。曰。明。道。但。通。欲。而。師。入。魅。是。足。至。若。摩。羅。否。意。知。日。誦。人。日。此。方。與。鬼。設。人。不。至。若。摩。羅。否。意。知。日。誦。人。日。此。其。相。非。四。所。曰。塔。足。性。已。九。十。智。於。從。如。行。當。果。刀。誓。佛。神。決。語。我。於。一。火。何。皆。遊。其。跡。計。七。即。至。何。師。雖。出。家。自。異。數。身。其。王。本。入。至。此。汝。求。礙。何。智。兩。翳。術。用。近。本。入。至。此。汝。求。礙。何。智。字。藥。臣。方。王。苦。便。德。念。曰。謝。才。智。非。名。其。智。是。首。為。宮。大。默。羅。悔。辯。汝。者。種。得。問。若。滅。人。慾。出。大。樹。摩。樹。今。仁。十。既。王。中。當。斬。始。既。孤。龍。摩。樹。達。觀。七。人。眾。門。鬼。當。斬。始。既。孤。龍。摩。樹。達。觀。有。四。者。諸。除。中。害。法。深。者。真。不。皆。神。子。

自念言。世界佛經雖妙句義未盡。我當更敷演之開悟後
學。復欲立師教戒。更造衣服令少不同。欲除眾情選擇良
日。便欲成造。獨處靜室水精房中。大龍菩薩愍其心念。
即以神力。接入大海宮殿。開七寶函與諸方等經典。九十
日中通解甚多。龍曰。汝今閱經為遍未耶。師曰。汝經無
量不可得盡。我今所讀。足過閻浮十倍。龍曰。忉利天上
諸經。復過此中百千萬倍。師於宮中修行豁然通達。善解
一相深入無生法忍。龍知悟道送師出宮(輔行云。龍接入
宮。一夏但誦七佛經目)南天竺國王深染邪見師欲化之。躬
持赤幡在王前行經歷七載。王問何人。答曰。我是一切智
人。王曰。諸天今者何所作為。答曰。天今正與阿修羅
戰。須臾空中刀劍相繼而墜。修羅耳鼻從空而下。王始驚
悟稽首作禮。是時殿上萬婆羅門。歎其神德除髮出家。諸
外道眾來共議論。一言便屈降伏出家。有婆羅門善知呪
術。白王求與掎力。婆羅門化大池蓮華自坐其上。龍樹化

白象入池。鼻絞蓮華高舉擲地。婆羅門傷背。白師悔過。因求出家。龍樹造大悲方便論五千偈。大莊嚴論五千偈。大無畏論十萬偈(輔行云。大悲論明天文地理。作寶作藥。大莊嚴論。明修一切功德法門。大無畏論。明第一義。中觀論者。是其一品○即大智度論也)優波提舍論十萬偈。有小乘法師。見師高明常懷忿嫉。師所作已辦問小乘言。汝今樂我久住世否。答曰。仁者實不願也。忽一日入月輪三昧。唯聞法音不見形相。唯弟子提婆識之曰。師示佛性非聲色也。龍樹乃付法提婆。復入閒室經日不出。弟子破戶視之。見入三昧蟬蛻而去。天竺諸國並為立廟敬事如佛(付法藏經。摩訶摩耶經○智者云。樹生生身。龍生法身。故名龍樹。孤山慈雲皆稱龍樹為十三代。凡即西土正統。不收末田地也)。

十四祖迦那提婆尊者。南天竺國婆羅門也。國中有一天

神。鍛金為形立高六丈。號大自在天。有求願者令現獲
報。提婆入廟稽偃服群類。而假金寶祠天化一肉形。其高數丈左
者當以即登高梯鑿告曰。善哉大士。出眼與之。施也。欣然契會。即剃髮出
枯涸。提婆曰。善哉。提婆即南荷智佛最上。鉢水置座前。時將是我聖中
天神讚曰。善哉。提婆即南荷智佛最上。鉢水置座前。時將是我聖中
鉢水置座前。時將是我聖中。鉢水置座前。時將是我聖中。鉢水置座前。時將是我聖中
仰受付募。為言。一切聖中。鉢水置座前。時將是我聖中。鉢水置座前。時將是我聖中
婆應募。為言。一切聖中。鉢水置座前。時將是我聖中。鉢水置座前。時將是我聖中
之三義。第一。八求論經。外道執刀窮之曰。汝以空刀破我師義。
僧為理俱造百論經。外道執刀窮之曰。汝以空刀破我師義。
辭於閒林造百論經。外道執刀窮之曰。汝以空刀破我師義。

我以鐵刀破汝之腹。五藏出外命猶未絕。謂外道曰。汝可取吾衣鉢急去。我弟子未得道者。必當相執。時弟子來見發聲悲哭。奔追要路。提婆告曰。諸法本空無我我所。無有能害亦無受者。誰親誰怨。彼人所害害吾往報。非害吾也。於是放身蟬蛻而去。眾收舍利起塔供養(付法藏經)。

十五祖羅睺羅尊者。迦毘羅國人。聰慧異常。迦那提婆尊者至迦毘羅國。有長者淨德。園樹生耳如菌。唯長者與子羅睺羅多。取而食之。取已隨生。自餘親屬皆不能見。尊者知其宿因。遂至其家謂之曰。汝家昔曾供養一比丘。以道眼未明虛沾信施故。報為木菌。唯汝與子。精誠供養故得享之。又問長者年多少。曰七十九。尊者說偈曰。入道不通理。覆身還信施。汝年八十一。此樹不生耳。長者歎服。即令其子出家。尊者曰。昔如來記此子。當第二五門百年為大教主。即與剃髮仰受付囑。大弘正法。有婆羅門

造鬼名書十萬偈。甚為難解。龍樹一聞便曉。提婆再聞亦曉。羅睺聞提婆說亦得解了。婆羅門大驚曰。沙門似若舊習。遂即信服。羅睺化緣已畢遂取涅槃。眾收舍利起塔供養(付法藏經)。

十六祖僧佉難提尊者。室羅筏城寶莊嚴王太子。生而能言常讀佛法。七歲厭俗。父王每止之。九歲羅睺至金水河指之曰。此去五百里。有聖者名難提。佛記一千年後當紹聖位。即領眾往見之。正值入定。三七日方出。即求出家得道付法。羅睺一日手擎金鉢舉至梵天。取飯以餉大眾。眾忽厭惡。羅睺曰。非我之咎乃汝自業。即命難提分座同食。眾復訝之。羅睺曰。此難提即過去娑羅王如來。愍物降迹。汝等亦莊嚴劫中已至三果。但未證無漏耳。眾曰。我師神力斯則可信。彼過去佛竊有疑焉。難提曰。如來在日地平水美。滅八百年人無至信。不信真如唯愛神力。言

訖手持琉璃瓶。漸展入地至金剛輪際。取甘露水持至眾前。眾方悔謝。有阿羅漢具諸功德。難提以一偈試之云。轉輪王種生。非佛非羅漢。不受後世有。亦非辟支佛。羅漢不解。升天以問彌勒。彌勒曰。世以泥團置輪成瓦。豈同諸聖至後世乎。羅漢還以語之。難提曰。此必彌勒為汝說耳。化緣將畢。以右手攀樹而入滅度。弟子欲移其屍堅不可動。大象負之亦不能移。乃積香木為樓。就樹闍維。火焚身盡樹更蓊鬱。眾取舍利建塔供養(付法藏經)。

十七祖僧佉耶舍尊者。摩提國人。母夢大神持鑑。因而有娠。七日而誕。難提行化至其國。見一峯紫雲如蓋。領眾趣之。一童子持圓鑑直造尊者前。尊者曰。汝手中當何所表。童曰。諸佛大圓鏡。內外無瑕翳。兩人同得見。心眼皆相似。父母聞子語。即舍出家。他時聞風吹殿鈴。師問。鈴鳴風鳴耶。舍曰。非風非鈴我心鳴耳。嘗遊海邊見

七寶宮殿。即往乞食說偈曰。飢為第一病。行為第一苦。如是知法實。可得涅槃道。舍主迎入就座。取鉢施食。耶舍見其家內有二餓鬼。裸形飢虛鎖其身首。怪而問之。舍主答曰。此鬼前世一是吾息。一是息婦。我昔布施夫妻懷嗔。我數教誨不肯信受。因立誓曰。如此罪業受惡報時。我當見汝。故致斯報。復至一處堂閣嚴飾。眾僧經行鳴鍾集食。食欲將訖變成膿血。便以鉢器相打流血。而相謂曰。何為惜食今受此苦。難提前問。眾中答曰。我等迦葉佛時。同止一處。客比丘來咸相嗔恚。藏惜飲食而不共分。以故今此受斯苦報。如是周游大海。遍觀五百地獄。即生怖畏方便求免。後時得阿羅漢。見五百仙人林中修道。即往其處為宣三偈讚佛法僧。五百仙人俱得道迹。化緣將畢便入涅槃。眾收舍利起塔供養(付法藏經)。

十八祖鳩摩羅駄尊者。月氏國婆羅門子。邪舍至其國往扣

異出。信失造報受頓因。是士不受。見。皆疾以凶。受之已惑造門。知大不一咸縈。曰。義之身聞。無法。摩有人摩國而曰。身今多生。此破。鳩摩。年一。國鳩舉信師吉。今。善。闇。從。生。若。以。誰。千。至。過。於。母。辜。或。惡。之。善。業。無。汝。乃。者。後。嘗。前。我。何。壽。之。世。也。明。業。無。汝。乃。無。滅。吾。繆。我。我。壽。之。世。也。明。業。無。汝。乃。答。記。累。在。錯。而。暴。前。吉。不。而。清。靈。然。鳩。曰。佛。囑。騎。無。曰。幸。而。凶。與。後。先。業。心。本。靈。慧。舍。曰。承。萬。更。師。何。天。與。壽。先。業。心。本。靈。慧。邪。曰。仰。馬。別。問。彼。仁。天。故。三。然。發。人。之。家。鐵。分。來。或。也。信。心。寂。寂。即。人。謂。出。集。一。多。和。定。善。行。受。雖。覺。依。心。寂。寂。即。無。舍。即。可。一。多。和。定。善。行。受。雖。覺。依。心。寂。寂。即。舍。耶。遂。今。貌。夜。健。不。行。現。業。汝。不。覺。勝。負。多。領。此。接。化。汝。貌。闇。身。有。現。之。隨。汝。不。覺。勝。負。多。領。曰。延。正。曰。衣服子殺論身。今。因果。曰。覺。無。勝。負。多。領。摩。門。隆。之。衣。者。屠。故。今。逆。惡。鳩。依。應。同。矣。摩。開。紹。語。色。長。家。後。義。與。善。識。報。佛。同。鳩。門。據。國。即。馬。有。隣。先。與。暴。疑。識。報。佛。同。其。人。月。氏。教。人。服。意。業。夫。也。報。釋。識。作。當。

+木)*々)/(厂@刀]]面門。如紅蓮初綻。放大光明。而入滅度。眾取舍利起塔供養(付法藏經)。

十九祖闍夜多尊者。北天竺人。遊化世間最稱善說。有比丘犯欲自悔。夜多語曰。能順我語罪可消滅。即化火阬令投其中。比丘念欲滅罪舉身投之。火成清流。夜多曰。汝至誠悔過罪今已滅。即為說法成阿羅漢。嘗將弟子入尸羅城。慘然顰蹙小復前行。路見一鳥欣然微笑。弟子白師。願說此緣。師曰。我至城門見餓鬼子。言母生吾已入城求食。滿五百年至今未反。我常飢虛不能自濟。及吾入城果見彼母。前白我言。吾入城來經五百年。始於今日獲一人唾。欲持與子。門下大力鬼神慮其侵奪。願尊者持我出城。我即持母出於城外。問彼生來為幾時耶。答云。我見此城七反成壞。深歎生死受苦長遠。是以慘然。過去九十一劫。毘婆尸佛在世教化我為長者子。常念出家。父母不

從。強為聘妻生一男子。年始六歲復欲出家。父母教兒。汝父若欲作沙門者。抱足啼泣。我以愛心不復出家。由彼兒故九十一劫流轉生死。於五道中未曾得見。今以道眼觀察。彼鳥乃我前世所生之子。愍其嬰愚久處生死。是以故笑。尊者化緣已畢即入涅槃。眾取舍利塔藏供養(付法藏經)。

二十祖婆修槃馱尊者。羅閱國人。姓毘舍佉。母夢吞明暗二珠。覺而有孕。經七日。有一羅漢。名曰賢眾。至其家。父光蓋設禮。賢眾受之。母一出拜。賢眾避席曰。回禮法身大士。謂光蓋曰。汝婦懷聖子。故吾避之。非重女人也。又曰。汝婦當生二子。一名婆修槃馱。二名芻尼(此云野鵲子)昔如來雪山修道。芻尼巢於頂上。佛既成道。芻尼報為那提國王。佛記第二五百年生羅閱城毘舍佉家。與聖同胞今無爽矣。後一月果生二子。槃馱後遇闇夜多。出

家之日感毘婆訶菩薩。為作羯磨。多聞善解普化群生。臨涅槃時升空半由旬。復還就座而取滅度。眾收舍利塔藏供養(付法藏經)。

二十一祖摩拏羅尊者。那提國王次子也。槃馱行化至其國。謂自在王曰。佛記一千有神力大士當紹聖位。即王次子也。王乃令其家仰受付囑。於南天竺興大饒益。有三藏夜奢功德齊等。夜奢語曰。恒河以南二天竺國。人多邪見。長老善解音聲之論。可於彼土自在教化。若恒河以北三天竺人。可以易化。我當於此利益眾生。尊者即如其語。至二天竺。廣宣毘羅無我之論(十二祖著無我論)摧伏一切異道邪見。後遊行至西印度。國王名得度。因行路見一小塔眾不能舉。王召梵行禪觀呪術三眾。以問所因。皆不能知。以問尊者。對曰。此塔阿育王造。今出現者由王福力。王曰。至聖難遇世樂非久。遂傳位太子依師出家。

七日之間得證四果。師謂得度曰。汝居此國度人。吾當遊化異國。即焚香囑之。其香成穗至月氏國。其王以問大臣。是何祥異。有鶴勒那比丘曰。此是西印度祖師將至。先降信香也。王曰。神力何如。曰遠承佛記當闡大化。王與鶴勒那遙伸禮拜。師既至。鶴勒那問曰。我止林間九年。有弟子龍子。幼時聰慧。我於三世推窮莫知其本。師曰。此子於第五劫中生妙喜國婆羅門家。曾以旃檀施寺撞鐘。故受此報。師化緣已畢即加趺入滅。王與弟子造塔以奉全身(付法藏經)。

二十二祖鶴勒那尊者。月氏國人。年七歲。見居民入廟祀神遽斥之曰。汝妄興災福幻惑世人。歲費牲牢為害甚矣。其廟與像忽然摧倒。年三十八。始遇摩拏羅謂之曰。汝昔有弟子五百。以福德薄生於羽族。今惑汝惠。故為鶴眾相隨。勒那曰。以何方便令彼解脫。摩拏羅為說偈曰。心隨

萬境轉。轉處實能幽。隨流認得性。無喜復無憂。鶴眾聞
偈飛鳴而去。勒那行化至中印度。有王無畏海。清鶴勒那
說法。忽見緋衣素服二人。俱至禮拜。良久復沒。王問何
人。師曰。日月天子也。時師子比丘來聽法。師指東北問
曰。汝見此氣如何。師子曰。我見氣如白虹貫天。復有黑
氣橫亘其中。師曰。吾滅五十年。北天竺當有難起。嬰在汝
身。遂密示其事。現十八變而入滅度。眾取舍利起塔供養(付
法藏經)。

二十三祖師子尊者。中印土人。得法遊化至罽賓國。有波
利迦者。本習禪觀。有禪定知見。執相捨相不語五眾。師
子化之五眾皆服。聲聞邇遐。外道摩目多部落遮二人。素
學幻術。乃盜為僧形。潛入王宮。姪犯妃后。且曰。不成則歸
罪釋子。既而事敗。王大怒曰。吾素重三寶。沙門何多辱
我。即毀寺害僧。自秉劍至尊者所。問曰。師得蘊空耶。

曰然。王曰。蘊既空當與我頭。曰身非我有何吝於頭。王遂斬師首。白乳涌高數尺。王臂尋墮。七日而亡。太子光首歎曰。我父何故自取其禍。有象白山仙人。深明因果。即為廣說宿因。以尊者報體而建塔焉(付法藏經)。

述曰。佛所得宿命記未來成道。雖累億劫。必能前知。豈今記祖止二十四。竊原佛意當用二義。一者以師子遭命難。為傳持佛法之一厄。二者此後諸祖。雖有其繼。恐非四依大聖之比。以故金口齊此而言。非謂無繼祖也。世或謂師子遭難不傳法者。癡人之言耳。吾宗謂祖承止師子。而禪林加四人。於是競相是非連代不息。試以大意決之。則無所為礙。謂師子雖遭命難。非無弟子可以傳法。特不在金口預記之數耳。然則加以四人至於達磨。而始為東土之來。謂之二十八人。斯亦何害禪人欲實其事。但言四人相承。傳之達磨則可矣。今乃妄引禪經之證。適足以自取

其不實也。嵩明教作定祖圖。謂禪經具載二十八祖。今檢經但列九人。而名多不同。昉法師作止訛以斥之宜矣。

佛祖統紀卷第五(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第六

宋景定四明東湖沙門志磐撰

東土九祖第三之一

高祖無畏論主龍樹尊者一相大禪師

二祖建立中觀北齊尊者圓悟大禪師

三祖圓證法華南岳尊者止觀大禪師

四祖天台智者法空寶覺靈慧大禪師

五祖結集宗教章安尊者總持大禪師

六祖傳持教觀法華尊者圓達大禪師

七祖傳持教觀天宮尊者全真大禪師

八祖傳持教觀左溪尊者明覺大禪師

九祖天台記主荊溪尊者圓通大禪師

佛祖之道以心傳心。尚何俟於言說。至於當機印可。則必資授受以為傳道之儀。是以金口祖承二十四聖。皆親承口訣。用顯心傳之妙。然則通古今簡邪正。明境智辨宗用。其可有遺於言說者也。自夫經論東度教滿真丹。此土諸

師。閔世之不能領。乃專業講說。用通此宗。而得其小者。亡其大。執其偏者。遺其圓。以故心傳之妙終未。有以敷暢。龍樹即空。即假。即中。之旨。立為心觀。以授南岳。南岳修之。以拓鴻。淨業以名一家。嘗作而。言曰。傳道在行。亦在法華。貫五章。以解首題。五時。開張八教。總括群籍。歸宗法華。觀行之旨。須明。乃復述。分四釋。以消文句。說己心中。所行。先之以六章。開解。次之以依。以止觀。行。二十。五法。為方便。十。乘觀法。為正修。三千。事理。即。解立之。談。抗折。百。家度。越。今。古。遂。為。天。下。明。教。之。本。時。則。有。集。具。章。安。大。禪。師。夙。擅。多。聞。復。由。妙。悟。為。異。論。者。若。五。教。三。時。為。論。疏。以。淑。惠。於。後。學。之。際。各。有。所。中。終。未。足。以。知。一。化。之。始。專。門。偏。尚。雖。發。機。之。當。知。常。住。教。卷。滿。閭。浮。提。方。袍。之。徒。多。終。詣。法。華。之。宗。極。

於竹[竺-二+韋]。使天台不生時教不行觀道不明。吾必謂之佛法已滅。章安即續承大統。乃復傳之法華。法華之世講徒七百。而天宮實繼其業。天宮之門求道無數。而左溪獨嗣其後。左溪盛席學徒更繁。遠域隣封填門擁室。自法華三世。皆繼體守文。專事講說而已。至荊溪之世。遭罹多艱。畔人竊發。則金錚義例。不得不為之致討。學者異言。則諸部記述。不得不為之指南。申明正宗以詒後世。弘贊之勲殆比隆於章安者矣。尊祖重道述德記功。撰東土九祖紀。

高祖龍樹尊者(本紀在西土第十三祖中)入楞伽經云。善逝涅槃後。未來世當有南天竺比丘。厥號為龍樹。能破有無宗。顯我大乘法。得初歡喜地。往生安養國。

贊曰。章安有言。智者觀心論云。歸命龍樹師。驗知龍樹

是高祖師也。輔行釋之曰。智者應稱龍樹為曾祖師。若以尊上為高。則如漢齊諸君。並指始祖為高。所謂功德無上。諡為高耳。今家亦以龍樹為始祖。故智者指為高祖也。夫傳佛心宗紹隆道統。後人尊之通稱為祖。故金口祖承二十四聖。皆以祖為稱也。下至此土。九祖相繼亦此義焉。是知今言高者。誠如荊溪功德無上之義。非同俗間曾高之稱也。

二祖北齊尊者慧文。姓高氏。當北朝魏齊之際(東魏孝靜北齊文宣)行佛道者。第一明師。多用七方便(輔行云。恐是小乘七方便。自智者已前未曾有人立於圓家七方便)第二最師。融心性相諸法無礙。第三嵩師。用三世本無來去。第四就師。多用寂心。五鑿師。多用了心能觀一如。第六慧師。多用踏心內外中間心不可得。第七文師。用覺心重觀三昧。滅盡三昧。無間三昧。於一切法心無分別。第八思

師。多用隨自意安樂行。第九顗師。用三種止觀。雖云相承而於法門改轉。文師既依大論。則知爾前非所承也(此依輔行所載。按高僧傳。南岳悟法華三昧。往鑒最師。述己所證。皆蒙隨喜。又云。智者受業思師。思師從道就師就師受法最師。今詳思師。本承文師。今又言從就師。是知諸師多同時互相咨稟。而法門改轉。後多勝前。非復可論相承也。至北齊已降。依論立觀。自此授受。始終不異。始可論師承耳)師夙稟圓乘。天真獨悟。因閱大智度論(第三十卷)引大品云。欲以道智具足道種智。當學般若。欲以道種智具足一切智。當學般若。欲以一切智具足一切種智。當學般若。欲以一切種智斷煩惱及習。當學般若。論自問曰。一心中得一切智道種智一切種智。斷一切煩惱及習。今云何言以一切智具足一切種智。以一切種智斷煩惱及習。答曰。實一切一時得。此中為令人信般若波羅密故。次第差別說。欲令眾生得清淨心。是故如是說。復次

雖一心中得。亦有初中後次第。如一心有三相。生因緣住
住因緣滅。又如心心數法不相應諸行及身業口業。以道智
具足一切智。以一切智具足一切種智。以一切種智斷煩惱
及習亦如是。師依此文以修心觀。論中三智實在一心中
得。且果既一心而得。因豈前後而獲。故此觀成時證一心
三智。雙亡雙照即入初住無生忍位。師又因讀中論(大智度
論中觀一品)至四諦品偈云因緣所生法。我說即是空。亦名
為假名。亦名中道義。恍然大悟。頓了諸法無非因緣所
生。而此因緣有不定有。空不定空。空有不二。名為中
道。師既一依釋論。是知遠承龍樹也。師在高齊之世(輔行
謂是齊高祖。今詳高歡相東魏。封齊王。至子洋。方受魏
禪。是為文宣。追諡歡為高祖。據此時尚稱東魏。文師道
化行於北齊受禪之後。故云高齊。此以姓冠國。如蕭梁元
魏也)聚徒千百專業大乘。獨步河淮時無競化。所入法門非
世可知。學者仰之以為履地戴天莫知高厚。師以心觀口授

南岳。岳盛弘南方。而師之門人在北者皆無聞焉(雜見止觀輔行宗元錄九祖略傳)。

贊曰。北齊以上哲之姿。獨悟中觀。而當時諸師無與競化。非明最嵩鑒所能知也。既以口訣授之南岳。而北地門徒曾無傳者。蓋當高氏政亂國蹙之日。宜此道之不能顯也。南山傳僧逸而不載。亦豈無所考耶。慈雲云。得龍樹一心三智之文。依論立觀。於茲自悟。豈曰無師。

三祖南岳尊者慧思。姓李氏。元魏南豫州武津人也(南岳願文。自敘云。歲在乙未十一月十一日。於魏國南豫州武津縣生。此當魏宣武延昌四年。梁武帝天監十四年乙未歲也)兒童時。夢梵僧勸令入道。或見朋類讀法華經。樂法情深。得借本於空冢獨觀。無人教授日夜悲泣。復以冢非人居。乃移託古城。鑿穴棲身。晝則乞食夜不事寢。對經流

淚頂禮不休。久雨失蒸舉身浮腫。忍心向經忽爾消滅。又夢普賢乘白象王摩頂而去。昔未識文今自然解。所摩頂上隱起肉髻。年十五(魏莊帝永安二年)出家受具。謝絕人事專誦法華。日唯一食不受別請。所居菴宇為野人所焚。即嬰癘疾。來求悔過其疾即愈。乃再作草舍。誦經如初。又夢僧曰。汝先受戒作法非勝。安能開發正道。即見四十二僧。為加羯磨圓滿戒法(四十二僧。即四十二位。自初住訖妙覺也。此表南岳當獲六根清淨入圓十信。以故四十二位大士及妙覺直僧。為其加法以證之也)既寤益厲常業。又嘗夢阿彌陀彌勒佛與之說法。又隨彌勒同諸勝友俱會龍華。感歎非常倍加精進。年二十(東魏孝靜天平元年)因讀妙勝定經。見讚美禪定。乃遍親禪德學摩訶衍。常居林野經行修禪。後謁文師咨受口訣。授以觀心之法。晝則驅馳僧事。夜則坐禪達旦。始三七日初發少靜。觀見一生善惡業相。轉復勇猛禪障忽起。四肢緩弱身不隨心。即自觀察。

我今病者皆從業生。業由心起本無外境。反見心源業非可得。遂動八觸發根本禪(重輕冷熱澁滑軟粗。是為八觸)因見三生行道之迹。夏竟受歲將欲上堂。乃感歎曰。昔佛在世。九旬究滿證道者多。吾今虛受法歲內愧深矣。將放身倚壁。豁然大悟法華三昧。自是之後所未聞經不疑自解。東魏武定六年(年三十四)在河南兗州。與眾議論。為惡比丘所毒垂死復活。齊天保元年(年三十六)常在河南。習學大乘。親覲諸大禪師遊行諸郡。是歲刺史欲送歸鄴(齊文宣所都)師意欲南向。即舍眾渡淮。時勅國內諸禪師入臺供養(南北朝常稱朝廷為內臺)師以方便辭避不就。四年至郢州。為刺史劉懷寶講摩訶衍義。諸惡論師以生金藥置毒食中。師命垂盡一心念般若波羅蜜毒即消散。五年至光州開岳寺。巴子立五百家。共刺史請講摩訶衍般若經。六年於光州大蘇山講摩訶衍(東坡集。光山縣南。四十里。大蘇山南小蘇山北。有寺名淨居。齊天保中。思禪師過此。見父

老問其姓。曰蘇氏。又問二山名。歎曰。吾師告我。遇三蘇則住。遂留結菴。而父老竟無有。蓋山神也。其後顓禪師。來謁師遂得法)七年於城西觀邑寺講摩訶衍。有眾惡論師競欲加害。師誓造金字般若經。現無量身於十方國講說是經。令一切諸惡論師咸得信心住不退轉。八年至南定州。為刺史講摩訶衍。有眾惡論師競起惡心。斷諸檀越不令送食。經五十日。常遣弟子乞食濟命。於時復發願決定。誓造金字般若。為眾講說九年於大蘇山。唱告諸方須造經者。忽有比丘。名曰僧合。自言。我能造經。既得經首。即教化境內。得財買金。於光城縣齊光寺。造成大品般若及法華經二部。盛以寶函。復自述願文一篇。以記其事。願彌勒佛時身及此經。一時出現廣化一切。又云。世間道俗殷勤請講。或強勸令講者。皆惡知識。初似好心後即忿怒。所有學士如怨詐親。亦不可信。諸王剎利亦復如是。擇擇擇擇(法智慈雲。皆云朱陵四擇是也。道俗勸講

者。強勸令講者。學士詐親者。諸王剎利者。如是四類。皆須擇之也。已上文並見南岳願文)師名行遠聞學徒日盛。眾雜精粗是非數起。乃顧徒屬曰。大聖在世不免流言。況吾無德豈逃此債。債是宿作時來須受。此私事也。齊祚將傾佛法暫晦(齊後為周所滅。周武廢釋道二教)當往何方以避此難。忽聞空聲曰。若欲修定當往武當南岳。師裴回光州。時往隣郡。為眾講說凡十四年(天保五年至光州。陳光大二年入南岳。始終十四年)光州當陳齊為邊境。烽火數興眾不遑處。乃以陳光大二年入居南岳。謂其徒曰。吾寄此山正當十載。過此以後必事遠遊(師入南岳。至大建九年。果十年而終)先是有梁朝高僧海禪師居之。一見如舊識。即以是山俾師行道。師一日登祝融峯。岳神會棋。神揖師曰。師何來此。師曰。求檀越一坐具地。神曰諾。師即飛錫以定其處(今福嚴寺是)神曰。師已占福地。弟子當何所居。師即轉一石鼓。下逢平地而止(今岳君塑像猶坐石鼓

上)岳神乞戒。師乃為說法要。一日師謂岳神曰。它日吾有難。檀越亦當有難。師指巖下曰。吾一生曾此坐禪。為賊斷首。尋獲枯骨一聚(今福嚴一生巖)至西南隅指大石曰。吾二生亦曾居此。即拾髑髏起塔以報宿修之恩(今二生塔)又至蒙密處曰。此古寺也。吾三生嘗託居此地。因指人掘之。果有僧用器皿及堂宇之基。即築臺為眾說般若經(今三生藏)眾患無水。師以杖卓崖。虎因跑地泉乃涌出(今虎跑泉是也)大建元年九仙觀道士。歐陽正則覩山有勝氣。謀於眾曰。此氣主褐衣法王。彼盛則吾法衰矣。乃鑿斷岳心釘石為巫蠱事(注見誦塞志三卷注)埋兵器於山上。因詭奏曰。北僧受齊募而為之。宣帝遣使考驗。初度石橋。有兩虎號吼。使者驚退。次日復進。師曰。檀越前行。貧道當續至。越七日度。使者尚未至。始飛錫而往金陵。四門皆見師入。使者既至。遂同進謁。帝坐便殿。見師乘空而下梵相異常。驚悟其神一無所問。以道士誣告罔上令案治

之。罪當棄市。師請曰。害人之命非貧道意。乞放還山。給侍僧眾亦足小懲。帝可之。勅有司冶鐵為十四券。識道士十四名。周回其上。封以勅印。令隨師還山。將行餞以殊禮。稱為大禪師。思大之名蓋得於此。初勅寓栖玄寺。嘗往瓦官精舍。遇雨不濕履泥不污。僧正慧暲遇諸塗歎曰。此神異人何以至此。自是舉朝道俗傾心歸仰。大都督吳明徹。每親道論。欲奉以犀枕未敢言。師曰。欲與枕便可。明徹益大驚異。師既復歸山中說法如故。道眾以老病告。願奉田數頃充香積。用贖老身。師曰。欲留田當從汝願。因名留田莊(俗呼道士贖身莊)所賜鐵券悉收藏之。勒石記其事。名曰陳朝皇帝賜南岳思大禪師降伏道士鐵券記。時道眾私誓曰。今世神通官勢皆所不如。後五百年當生汝法中壞滅汝教。師亦預記曰。此諸道士害我無因。異日著我袈裟。入我伽藍壞遺體矣(皇宋太宗時有大臣。出鎮湖南。經臨此山。歷覽遺踪。謂主僧曰。異日道士得志必

有報復。當埋碑石。易莊名。俾無踪跡可尋。因改名天竺
莊。而以碑券。埋於三生藏院。大觀間。道士林靈素。熒
惑天聽。果移文物色此事。以無迹可考遂止。乾道初。有
傑止菴。來主此山。謂眾曰。二生塔墮荒榛。瞻禮非便。
當遷合於三生塔。蓋傑擬私其地。為己塔也。即與執事者
十四人。備斧鑊開石龕。見靈骨如黃金色。有石屏刻歐陽
正則等名。轉報為今主首。知事行僕。比今名不少差。眾
大驚駭。是夕岳廟一[什/執/衣]而盡。州縣聞之逮捕甚急。
傑輩皆逃散。寺眾復掩藏其骨。傑後住它山。每升座必對
眾自悔責。求免後報○述曰。南岳至此七百年矣。而傑師
果應私誓。師與岳神果符先記。異哉。然傑師雖因惡誓。
終能歸釋由毀為緣。適足以彰南岳攝物之功也)師將順世。
大集門學連日說法。苦切訶責聞者寒心。乃曰。若有十人
不惜身命。常修法華念佛三昧方等懺悔常坐苦行者。隨有
所須吾自供給。如無此人吾當遠去。竟無答者。即屏眾斂

念將入寂。弟子靈辯不覺號哭。師訶之曰。惡魔出去。眾聖相迎方論受生處。何驚吾耶。即端坐唱佛來迎合掌而逝。顏色如生異香滿室。時大建九年六月二十二日。壽六十三。夏四十九。初在大蘇以法付顓師。後常代講般若。至一心具萬行忽有所疑。師曰。如汝之疑。乃大品次第意耳。未是法華圓頓旨也。吾昔於夏中一念頓證諸法現前。吾既身證不必有疑。顓師問所證是十地耶。曰吾一生望入銅輪(圓十住)以領徒太早。損己益他。但居鐵輪耳(師獲六根清淨。即圓十信。別三十心。華嚴梵行。瓔珞鐵輪位也)師身相挺持。耳有重輪。頂有肉髻。牛行象步不倚不斜。平昔禦寒唯一艾納(法華經。納衣在空閑。律文。謂之五納衣。謂納受五種舊弊。以為衣也。俗作衲字失義)繒纊之屬一切不受。所居之處靈瑞重沓。供物嚴備瓶水自滿。有諸天童以為侍衛。或現形大小。或寂爾藏身。異香奇迹不可勝紀。常示眾曰。道源不遠性海非遙。但向己求莫從他

覓。覓即不得得亦非真。又偈曰。頓悟心源開寶藏。隱顯靈通見真相。獨行獨坐常巍巍。百億化身無數量。縱令逼塞滿虛空。看時不見微塵相。可笑物兮無比況。口吐明珠光晃晃。尋常見說不思議。一語標名言下當。又偈曰。天不能蓋。地不能載。無去無來無障礙。無長無短無青黃。不在中間及內外。超群出眾太虛玄。指物傳心人不會。所著述多口授。門人筆成章句。出四十二字門。無諍行門。大乘止觀各二卷。釋論玄隨自意。安樂行。次第禪要。三智觀門各一卷(雜出南岳願文鐵券記。南山續高僧傳○傳燈云。誌公令人謂思師曰。何不下山教化眾生。師報曰。三世諸佛被我一口吞卻。有何眾生可化。今考南岳願文。自序誕生之年。當梁武天監十四年。至陳光大二年。始至南岳。時年五十四。誌公已入滅。於梁武之世久矣。不當有此遣問。今恐別有一師。後人誤傳為誌公耳)。

贊曰。南岳以所承北齊一心三觀之道傳之天台。其為功業盛大無以尚矣。故章安有曰。思禪師。名高嵩嶺。行深伊洛(喻名行之高深)十年常誦。七載方等。九旬常坐。一時圓證(見天台別傳)師之自行。亦既勤矣。至於悟法華三昧開拓義門。則又北齊之所未知。故荊溪亦云。文禪師但列內觀視聽而已(見止觀大意)可不信哉。

四祖天台智者智顗字德安。姓陳氏。世為潁川人。晉朝避亂止於荊州之華容(今江陵府公安縣)父起祖。梁元帝時。為散騎常侍封益陽侯。母徐氏。夢香煙五采縈迴入懷。又嘗夢吞白鼠。因覺體重。卜者曰。白鼠者龍所化也。誕靈之夕神光發屋(梁武大同四年戊午)隣人望之以為火。至則知其生子。眾咸驚異。內外胥說。欲陳鼎俎以為慶席。火滅湯冷為事不成。旦有二僧扣門曰。此兒道德所鍾必當出家。言訖而隱。師眉分八采(帝王世紀。堯十四月而生。眉

有八采)目耀重童(漢書。項羽贊。舜重童子○童瞳同)有古
帝者之相。父母每藏護之不令人見。在緇襦中臥即合掌。
坐必面西。七歲喜往伽藍。蒙僧口授普門品。一遍成誦。
年十七。值元帝江陵失守(元帝。初封湘東王武帝第七子。
簡文帝為侯景所害。王遂即位。都江陵三年九月。為西魏
所破。據歷推之。應年十七。別傳作十五者誤)親屬流徙。
師於長沙佛像前。誓為沙門(晉孝武時。江陵城北。有五色
光見。沙門曇翼。於其處得金佛一身光相。有梵書云。阿
育王造。乃迎置長沙寺。即今言長沙佛像也。寺在江陵城
北。舊以為潭州長沙者誤。天人感通傳云。長沙寺在荊州
北岸。此言亦同)夜夢瑞像授金色手從窓而入三摩其頂。由
是深厭家獄思求出家。二親愛之不獲見許。乃刻檀寫像披
藏尋經。當拜佛時恍焉如夢。見高山臨海山頂有僧舉手招
之。須臾伸臂。至於山麓接入伽藍。見所造像在焉。即悲
泣自陳願。學得三世佛法。對千部論師。說之無礙。用報

四事恩惠。僧復指像謂曰。汝當居此。汝當終此。是年父母相繼傾喪(按荊州碑。師欲遊方。母曰。父母甘旨。當何供邪師運慈心。指其茅化為稻。水化為油。今茅穗村油河。尚存其名。據此兩文不同。當是前求出家。父母未許時事。今附見之)年十八。辭兄求去(梁敬帝紹泰元年也。兄即中兵參軍陳鍼)時王琳守湘(衡州)往從之。琳以陳侯故舊即資給法具。依本郡果願寺舅氏法緒出家(輔行云。投果願寺舅氏出家)二十進受具戒(梁太平二年也。是年九月。禪位於陳武帝)初從慧曠學律兼通方等。復詣大賢山(衡州南境)誦法華無量義普賢觀。歷涉二句。誦通三部進修方等。勝相現前。見道場廣博莊嚴。而諸經像縱橫紛雜(此表諸部雜亂)身在高座足躡繩床。口誦法華手正經像(此表以法華旨意區別淳雜使一歸於正)既精通律藏常樂禪悅。怏怏湘東(衡州)無足可問。陳文帝天嘉元年(輔行。作乾明者誤。時年二十三)時思禪師止光州大蘇山。即往頂拜。思師

曰。昔日靈山同聽法華。宿緣所追今復來矣。即示普賢道場為說四安樂行(南岳著安樂行義。久亡其本。四明行皎遊方。至南岳得之古藏。歸以示圓辯其後北峰與曉石芝。始獲開板。流布於世)昏曉苦倒如教研心。切柏代香柏盡繼之以栗。卷簾進月。月沒燎之以松。經二七日誦經。至是真精進。是名真法供養如來。身心豁然寂而入定。持因靜發(妙樂云。圓門三昧陀羅尼。體同名異。三昧從定。陀羅尼從慧。靜者定也。即法華前方便也。持者空持。初旋陀羅尼也)照了法華。若高暉之臨幽谷(日正午也)達諸法相。如長風之遊太虛。將證白師。南岳更為開演。凡自心所悟及從師咨受。四夜加進功逾百年。南岳歎曰。非汝弗證。非我莫識。所入定者。法華三昧前方便也。所發持者。初旋陀羅尼也(凡登住為真修。十信為方便。今言前者。正指五品也。初旋陀羅尼者。旋假入空也。百千萬億陀羅尼者。旋空入假也。法音方便陀羅尼者。二觀為方便得入中道

也。陀羅尼。翻為總持。今言初旋。即空持也。大師初入
定者。是前方便。即五品觀行位。所發持者。旋陀羅尼。
即十信相似位。依因此定得發空持。是為由五品之功轉入
十信也。昔人以五品不應獲初旋為言者。蓋未思持因靜發
耳。玄籤有云。故獲陀羅尼由三昧之力。正是此義。至於
臨終自說。祇是五品。蓋欲寄誠生徒。以自行為急故。託謙辭
示居觀行也。大師責弟子曰。汝等懶種善根。問他功德。告
實何益。蓋此意也。當知大師若本若迹。皆不可知。等覺
與妙覺與。梁氏讚之若此。今復何論)縱令文字之師千群萬
眾。尋汝之辯不可窮矣。當於說法人中最為第一。有慧邈
禪師。謂門人曰。我所敷弘真師子吼。他人之說是野干
鳴。師引經覈問。邈為之屈。夜夢三層樓閣。已坐上邈立
下。一人怒目謂曰。何忽邈耶。何疑法耶。宜當問我。師
設難數關。怒人結舌。師因誡之曰。除諸法實相餘皆魔
事。南岳造金字般若。命師代講。唯三三昧及三觀智。用

以咨審。餘悉自裁。南岳手持如意。臨席讚之曰。可謂法付法臣法王無事。復謂師曰。吾久羨南岳。恨法無所委。汝粗得其門。當傳燈化物。莫作最後斷種人也(最後謂末法也)師既奉訓。不獲從往南岳。以陳光大元年。同法喜等二十七人初至金陵(此陳廢帝時。師年三十。楚曰金陵。晉曰建康。今為建康府)有法濟者。自矜禪學倚臥而問曰。有人入定。聞攝山地動。知僧銓鍊無常此何禪也(攝山在建康七里。銓公止觀寺。鍊無常。文出禪祕要經。有三十六觀門。於地水火風入空觀察。次第當證四果)答曰。邊定不深邪乘闇入。若取若說定壞無礙。濟驚起謝曰。老僧嘗得此定。向靈曜則公說。因此永失。已而朝野聞風。咸來請益。大建元年(陳宣帝)儀同沈君理。請居瓦官(晉哀帝。以官瓦窯地。賜沙門慧力。建寺因名。在城西面江。號昇元寺)開法華經題。帝勅停朝一日。令群臣往聽。時僕射徐陵。光祿王固。侍中孔煥。尚書毛喜。僕射周弘正等。俱

稟戒法同聞妙旨。仍於一夏開釋大義。時白馬敬韶。定林法歲。禪眾智令。奉誠法安。皆金陵上匠。咸盡北面之敬。師自此常與眾講大智度論。說次第禪門(法慎私記三十卷。章安治定為十卷。即禪波羅蜜漸次止觀也)又為毛喜出六妙門(即不定止觀也)師止瓦官前後八載。七年謝遣門人曰。吾初年共坐者。四十人得法。次年百餘人。得法者不滿十人。其後徒眾轉多得法轉少。吾聞天台幽勝昔人見稱。將息緣茲嶺以展平生之志。夏四月宣帝勅留訓物。徐陵泣勸勿往。師勉留度夏。秋九月遂入天台(輔行謂此年三十八歲)嘗宿石橋。見一老僧曰。禪師若欲造寺。山下有皇太子寺基。用以仰給。三國成一(三國。謂南朝陳。北朝周齊也。成一者隋也)當有大勢力造此寺(指太子晉王也)寺若成國即清。時三方鼎峙。雖聞此言何由成寺。既出谷見佛隴南峯(百錄序。遊山者。多見佛像。故得此名)即裴回留意此山。先是神僧定光菴居三十載。師至光謂之曰。頗憶

招手相引時否。師即悟禮像之微。夜聞空中鍾磬之聲。光曰。此犍稚集僧得住之相(犍稚音虔地。此云竹木銅鐵聲)此處金地吾已居之。北山銀地汝宜居焉。乃於北峯創立伽藍。植松引流宛若昔夢。寺北別峯名華頂。獨往頭陀。忽於後夜大風雷震。魑魅千群狀極可畏。安心空寂自然退散。復作父母師僧之形。乍枕乍抱悲哽流涕。深念實相體達本無。尋復消殞。強軟二緣所不能動(此皆天子魔所為之狀。此土諸師修行。少有能降天子魔者)明星出時見一神僧。謂之曰。制敵勝怨乃可為勇(此二句出淨名經)復為說法。師問曰。大聖所說是何法門。當云何學。云何弘宣。答曰。此名一實諦。學之以般若。宣之以大悲。從今以後自行兼人吾皆影響。八年師安居佛隴。歲偶失稔。眾皆隨意去住。師與慧綽種苴拾象(苴者巨勝胡麻也。象即橡斗子。擇樹子也)安貧無戚。九年二月帝下詔曰。禪師佛法雄傑。時匠所宗。訓兼道俗。國之望也。宜割始豐縣調(天台

在六朝時。名始豐。朝徒弔反。稅賦也)以充眾費。蠲兩戶
民用給薪水。於是眾復來集。十年五月。左僕射徐陵。以
禪師創寺啟於朝。賜號修禪(尚書毛喜題篆今名大慈)陳郡
袁子雄。新野庾崇。二人登山。值講淨名。即專心齋戒連
辰聽法。雄見堂前有山琉璃映徹。山陰曲澗跨以虹橋。梵
僧數十皆手擎香鑪登橋入堂。雄以告崇。崇稱不見。雄因
發心改造講堂。天台瀕海民業漁捕。師以身衣勸人贖[竺-
二+(一/(尸@邑))]
一所為放生之池。時臨海內史計詡。請講
光明經。漁者聞法皆好生去殺。舍江溪[竺-二+(一/(尸@
邑))]
梁。六十三所。三百餘里俱成法池。詡後還都坐事被
繫。臨當伏法。遙想禪師冀垂一救。夜夢群魚巨億吐沫相
濡。明旦有詔特原詡罪(百錄放生碑。作計尚兒。恐是字)
師講經竟。乘舟出海口。望芙蓉山。眾峯峭聳。橫石孤
垂。師曰。昔夢遊海上正似於此。一日見瑞雲五采。狀如
月暈。遙蓋寺上。群雀嘈噴飛集欄宇。師曰。江魚化為黃

雀來謝恩耳。至德元年(陳少主)勅國子祭酒徐孝克樹碑。為銘以贊功德(文載百錄)二年永陽王(伯智少主從弟)出鎮東陽(別傳作甌越者。一路之總稱耳)致書三請師遂往赴。躬行方等晝講夜禪。王與子諶家人咸稟淨戒。少主問群臣曰。今之釋門誰為名勝。徐陵對曰。瓦官禪師禪德高邁。永陽王親承北面。願陛下詔還京都宣弘大法。三年正月。前後三遣勅使並辭以疾(三勅具在百錄)三月更勅州郡為之勸請(百錄有勅東陽文。時大師尚留東陽)王勸師曰。主上虛己思敬。願師時往。若一言有益。則四生永賴。師不得已遂行。既屆金陵暫安靈曜。四月詔赴太極殿。開大智度論題。及仁王般若經題還寺就講。時百座居左(諸高座法師也)五等在右(五爵公侯伯子男也)慧暉(音巨)慧曠。慧辯。皆奉勅難問。天子臨筵聽法。百僚莫不盡敬。時僧尼類多無業。朝議欲令策經不通者皆休道。師諫之曰。調達日誦萬言未免淪墜(智論調達誦得六萬法聚。與闍王共造五逆生

入地獄。此大權設化。而大師援此者。蓋方便護法之意也)槃特唯憶一偈乃獲四果(法句喻經。槃特暗塞佛授一偈。守口攝意身莫犯。如是行者得度世。豁然心開得阿羅漢)篤論為道豈關多誦。少主大說即停搜簡。師以靈曜偏隘。欲更求間靜。忽夢一人翌從嚴整。自稱冠達請住三橋。師曰。冠達乃梁武法名。三橋即光宅所在。少主聞之。即迎師居之。復下詔曰。國家舊講仁王。一年兩集。仰屈於太極殿再演此經。是月帝幸光宅寺舍身大施。聽講仁王躬禮三拜。皇后沈氏請立法名。師答以海慧。四年正月。皇太子請授菩薩戒。自太子已下咸奉戒法(南史名深。百錄請戒文。名淵恐因受戒。遂改此名)禎明元年。於光宅講法華經。時章安預聽次(文句題注。二十七歲。聽受金陵。六十九於丹丘添削)二年正月。隋伐陳國破江南皆歸於隋。師以時方喪亂。遂杖策荊湘(杖上聲扶也。去聲者所扶之杖。今扶義。策者竹杖也。漢鄧禹杖策追光武。荊州為湖北。湘

州為湖南)路次盆城(今江州地名湓浦)。夢老僧謂曰。陶侃瑞像敬屈守護。及往憩廬山。見永遠二師圖像。方悟其靈。俄而潯陽反叛(即江州也)寺宇焚毀。唯此山免於見侵。益知護像之驗(晉陶侃刺廣州。海上得金像文殊。送武昌寒溪寺。侃還荊州欲載像行。船沒送還本寺。遠法師造東林。執鑪向方祈之。飄然飛空而至)。隋開皇十年正月(是年南北歸一方為正統)文帝下詔曰。皇帝敬問光宅禪師。朕於佛教敬信惟重。往者周武毀棄佛法。朕曾發心立願必許獲持。及受命於天。遂即興復。師已離世網。修己化人。必希獎進僧倫。用光大道(言光宅者存舊稱也)時秦孝王出鎮楊州(秦王揚俊。文帝子。晉王弟。李巡曰。江南之氣。輕揚據此義。字當從手)致書延屈。師謂使者曰。雖欲相見終恐緣差。既而屢旬大風。祆賊競發。水陸俱阻竟不成行。十一年。晉王代為總管(晉王楊廣代秦王為揚州總管)遣使奉迎。師曰。我與晉王深有緣契。即束衣順流不日

而至。王製文請授菩薩戒。師三辭不免。乃立四願。一者雖好禪學行不稱法。願勿以禪法見欺。二者身闇庠序口拙暄涼。願不責其規矩。三者為法傳燈。願勿嫌其去就。四者若丘壑念起。願放飲啄以終餘年。許此四心乃赴優旨。時王方希淨戒。遂允其願。以是年十一月二十三日。於總管大聽事設千僧齋授菩薩戒法。師謂王曰。大王紆遵聖禁可名總持。王贊師曰。大師傳佛法燈宜稱智者(自受戒後。諸書往來。皆稱弟子總持)授戒既畢。出居城外禪眾寺。即欲西上。王固請留。師曰先有明約豈當相違。王乃遣柳願言。致書請留。待來年二月。約至棲霞送別。十二年二月。師奉書於王。請為東林峯頂兩寺檀越。王復書許之。三月。師將啟行。王復致書。請就攝山安居度夏師不許。王命有司具裝發遣。師遂至止廬山。七月。王遣使往廬山參省。八月。師往衡山營建功德。酬師恩也。十一月。王遣書往潭州奉迎。十二月。師至荊州旋鄉答地。將建福

庭。乃於當陽玉泉山(此地在隋通為荊州。朱梁時分。置荊門軍)創立精舍。及重修十住寺。道俗稟戒聽講者。至五千餘人。初至當陽望沮漳山色堆藍。欲卜清溪以為道場。意嫌迫隘遂上金龍。池北百餘步有一大木。婆娑偃蓋中虛如菴。乃於其處趺坐入定。一日天地晦冥風雨號怒。妖怪殊形倏忽千變。有巨蟒長十餘丈。張口內向。陰魔列陳砲矢如雨。經一七日了無懼色。師閔之曰。汝所為者生死眾業。貪著餘福不自悲悔。言訖象妖俱滅。其夕雲開月明。見二人威儀如王長者美髯而豐厚。少者冠帽而秀發。前致敬曰。予即關羽。漢末紛亂九州瓜裂。曹操不仁。孫權自保。予義臣蜀漢。期復帝室。時事相違有志不遂。死有餘烈故王此山。大德聖師何枉神足。師曰。欲於此地建立道場。以報生身之德耳。神曰。願哀閔我愚特垂攝受。此去一舍山如覆船。其土深厚。弟子當與子平(蜀先主拜羽前將軍。率眾攻曹仁不克。孫權已據江陵。羽因遁走吳馬忠獲

羽及其子平。於章鄉斬之。唐書。羽生侍中興。其裔孫播相德宗)建寺化供護持佛法。願師安禪。七日以須其成。師既出定。見湫潭千丈化為平陟。棟宇煥麗巧奪人目。神運鬼工其速若是。師領眾入居。晝夜演法。一日神白師曰。弟子今日獲聞出世間法。願洗心易念求受戒永為菩提之本。師即秉鑪授以五戒。於是神之威德昭布千里。遠近瞻禱莫不肅敬(智者上玉泉圖。必應表聞神異。故晉王答書有云。當陽建寺。既事出神心。理生望表。即當具奏嘉號。章安撰別傳。略不及關王事。殊所未曉。若謂之無所聞知。則章安親在玉泉聽講矣。謂之不語神怪。則華頂安禪。強軟二魔。必言之矣。矧夫關氏事迹逮今神應。豈於當時有所遺逸邪。今據玉泉碑以補其闕。用彰吾祖之聖德若此。至若別傳敘事之際。尚多浮辭。今並刪略。務存簡實。至他所未錄者。今並收載。覽者宜知)十三年二月。晉王入朝行次陝州。遣書往荊州奉迎。夏四月。於玉泉說法

華玄義(章安云。次在江陵。奉蒙玄義是也)五月。遣智邃奉書晉王。上玉泉伽藍圖。并求撰衡禪師碑。因獻萬春樹皮袈裟(梁武帝時外國所貢)王答曰。奉旨於當陽造寺。既事出神心。理生望表(詳此二句正言關王建寺之事)即當具奏嘉號。時自春徂夏。天旱不雨。百姓咸謂龍怒。師至水發之源。口呪手揮風雨交集。民眾大喜歌詠滿道。荊州總管王積入山致拜。戰汗不已。退謂人曰。吾屢經軍陳臨危更勇。未嘗如今日之怖懼(隋書王世積。後為涼州總管。謀反被誅)七月。王以創寺奏上。賜名玉泉。八月。荊州弟子陳子秀。致疏請講法華。十四年夏四月。於玉泉說摩訶止觀。一夏敷揚二時慈霑(此早晚兩講之明據)是年過岳州。刺史王宣武請授大乘戒法。學士曇捷請講金光明。其俗專業殺捕。及聞法感化。於是一郡五縣。一千餘所咸舍殺業。十五年春。晉王久留京師。將還鎮遣使奉迎。師乘流東下止揚州禪眾寺。六月。王奉書求學禪慧。其辭曰。戒

為基趾昔年虔受。而定品禪枝屏散歸靜。未知可開化否。師復書以本懷。夙在天台。舊居禪定一門。懼乖深寄。更回神慮別俟勝賢。後三日王復書云。智者昔在陳朝瓦官大集。榮公先被折角。兩瓊纔獲交綏(小莊嚴寺慧榮。答難墮負。如折其角。漢書五鹿岳岳。朱雲折其角。兩瓊者。彭城寶瓊。建初寶瓊。並梁朝人。綏者馬頷下纓也。戰則兩馬相觸。今兩瓊與智者議論。纔交綏便怯走也。左傳交綏而退)。

前往荊州。舊學名僧莫不歸服。非禪不智驗乎金口(止觀引經云。非禪不智。非智不禪)弟子即日而不依請。如彼彌勒今當問誰(法華經。彌勒作是念。今者世尊現神變相。以何因緣而有此瑞。今當問誰誰能答者。云云)七月。以所著淨名義疏初卷奉王。是月。師以荊州立玉泉及所修十住寺。請王為檀越。王即貽書達荊州總管。嘗令檢校復致書。勸

留棲霞。庶獲咨決行道。本貴安心。寧勞過遠天台之路。
幸輟前懷。師復書曰。棲霞咫尺非關本誓。天台既是寄終
之地。故每屬弟子。一旦無常。願歸骨於天台。昔願創伽
藍。故欲遣修葺。方乞寺名。屈作檀越。王答皆許之。八
月。蔣山棲霞寺沙門保恭。奉納本寺田園。請師來居不
赴。九月。王迎師入城。既入謁懇辭東歸。王不敢留遂
行。吳越之民掃巷以迎。沿道令牧幡華交侯。寺久荒蕪已
十二載。人蹤斷絕竹木成林。將至半塗一僧雪頂。駐錫當
路逡巡即沒。咸謂聖賢之見迎。師雅好林泉負杖吟詠。嘗
遊行而歡曰。靜夜深山。澄神自照。豈不樂乎。十七年四
月。立御眾制法十條。付知堂上座慧諫(見百錄)是月。王
遣使入山參問。期以今秋迎覲江都。八月。會稽嘉祥寺沙
門吉藏。百餘人奉疏請講法華不赴。嘗於一夜皎月映床。
獨坐說法如人問難。侍者智晞明旦啟曰。未審夜來見何因
緣。師曰。吾初夢大風忽起吹壞寶塔。次見梵僧謂我曰。

機緣如薪照用如火。傍助如風三事備矣。化道乃行。華頂之夜。許相影響。機用將盡。傍助亦息。故相告耳。又見南岳共喜禪師令吾說法。即自念言。餘法名義。皆曉自裁。唯三觀三智。最初面受。說竟謂我曰。他力華整(應是國名永詳所在)相望甚久。緣必應往吾等相送。吾拜稱諾。此死相現也。吾憶少時之夢。當終此地。所以每欣歸山。今奉冥告勢必不久。吾終後當藏屍於西南峯石周龕植松覆坎。立二白塔。使見者發菩提心。又經少時語弟子曰。商行寄金醫去留藥。吾雖不敏狂子可悲。乃口授觀心論。隨語疏成。十月。王遣使入山奉迎。師即日散施什物以與貧乏。標杙山下以擬殿堂(杙音弋櫬也)畫作圖形以為模式。誠其徒曰。後若造寺一用此法。或疑山澗險峙何能成寺。師曰。此非小緣乃是王家所辦(辦俗)眾不測其旨。次日隨使出山行次石城。乃稱有疾謂智越曰。大王欲使吾來。吾不負言。吾知命在此。故不須前進。石城是天台西門。大

佛是當來靈像。處所既好。宜最後用心。衣鉢道具。一分奉彌勒。一分充羯磨。語已右脇西向而臥。專念彌陀觀音及般若名。晉王聞師在疾。遣醫往治或請進藥。師曰。能遣病留殘年乎。病不與身合。藥何能遣。年不與心合。藥何所留。智晞往日復何所聞。觀心論中復何所道。又請進齋。師曰。非但步影為齋(日影不過午)能無緣無觀。即真齋也(無所緣無能觀。是為境觀俱亡)十一月二十一日。造發願文言。吳縣維衛迦葉二像。鄮縣阿育王塔寺。剡縣十丈彌勒。三處尊儀用表三世。頽毀剝壞願更莊嚴。付囑後人使經營修立。是日口授遣書。并手書四十六字(唯此四十六字親筆)其書略云。蓮華香鑪。犀角如意。是王所施。今以仰別。願德香遠聞。長保如意也。及以造寺圖式。并石像發願文。悉用仰囑書畢命淨掃室內。索三衣鉢。令侍者唱二部經為最後聞思。聽法華竟。贊曰。法門父母。慧解由生。本迹曠大。微妙難測。四十餘年蘊之。知誰可與。

唯獨自明了。餘人所不能見。輟片絕絃於今日矣(郢人輟斤。伯牙絕絃。並見莊子)聽無量壽竟。贊曰。四十八願。莊嚴淨土。華池寶樹。易往無人。火車相現能改悔者。尚得往生。況戒慧熏修。行道力故。實不唐捐。當唱經時。吳郡侍官張達等五人。見石佛倍大光明滿山。直入房內。唱經竟。索香湯漱口。說十如四不生十法界三觀四無量心四悉檀四諦十二因緣六波羅蜜。一一法門攝一切法。皆能通心到清涼池。若能於病患境達諸法門者。即二十五人。百金可寄(涅槃經商行寄金喻)今我最後策觀談玄(凡言策經策試策法。及今策觀。皆鞭策令進之義)最後善寂吾今當入(善入寂滅)智朗請曰。不審師入何位。沒此何生。誰可宗仰。師曰。汝等懶種善根問他功德。如盲問乳告實何益。吾今當為破除汝疑。吾不領眾必淨六根。為他損己祇五品耳。吾諸師友侍從觀音皆來迎我。波羅提木叉是汝之師。吾常說四種三昧是汝明導。我與汝等因法相遇以法為親。

傳通佛燈是為眷屬。又誠維那曰。人命將終聞鐘磬聲。增其正念。惟長惟久氣盡為期。云何身冷方復聲磬。世間哭泣喪服皆不應為。言訖唱三寶名。如入三昧。實此月二十四日未時也春秋六十。僧夏四十。安坐在外經歷十日。道俗奔赴號泣遶拜。入龕之後流汗遍身。將舁歸佛隴連雨不休。弟子呪願乞加神力。纔舉禪龕應時開霽。乃於寺西南峯起墳奉藏。從先囑也。傳法弟子三十二人。得法自行者不可稱數(梁肅禪林寺碑。得門者千數。得深心者。三十二人)師造寺三十六所。嘗曰。予所造寺。棲霞靈巖。天台。玉泉。乃天下四絕也。又造大藏十五處。旃檀金銅畫像八十萬軀。親度僧一萬四千人。師於三十年唯著一衲(衲非)冬夏未嘗釋體。有所受施。一果一縷悉以入眾。凡所弘通不畜章疏。安無礙辯契理符文。有大機感乃親著述。為晉王著淨名義疏二十八卷。為毛喜著六妙門。為兄陳鍼著小止觀。為學徒著覺意三昧。法華三昧行儀。各一卷。法界

次第三卷(已上皆親製)常在高座云。若說次第禪門。一年一遍。若著章疏可五十卷(慎禪師私記為三十卷。章安治定為十五卷)若說法華玄義。圓頓止觀。半年各一遍。若著章疏各三十卷。此三法門常時講授。章安一聞述以為疏。十八年。智者弟子上首智越。遣僧使灌頂普明。奉遺書及淨名義疏三十一卷至楊州。王遣使答遺旨。以小獲親承義疏。為之悔恨。所囑造寺。今遣司馬王弘。一遵指畫。吳郡鄮境剡邑三處。像塔及智者臥疾處。亦當嚴飾。復遣使至佛隴。建千僧法會。王初覽遺書。對淨名疏而立願曰。昔親奉師顏未能咨決。今承遺旨何由可悟。若尋文生解願示神通。夜夢群僧集閣。王自說義。見智者飛空而至。寫七寶珊瑚於閣還復飛去。四月十六日。佛隴僧眾方就坐禪。上座道修。見智者常服按行堂內少時方出。上座驚起瞻拜眾共悲歎。十一月。王遣典籤吳景賢入山。以諱日設五百眾齋。二十年。立晉王為皇太子。仁壽元年正月。永

戶上新王既。呼騎開。必靈。嘉僧法曉生。聞智。者勝德。特至龕所旋遶千拜。一。夕。龕。自開。光照。遣僧。使灌。頂智。一寺。奔馳。眾共。瞻禮。十。月。智。者。弟。子。首。成。王。既。越。鼎。創。藍。宇。即。登。春。宮。此。王。家。造。寺。是。也。陳。齊。俱。滅。此。呼。騎。開。寺。為。檀。越。王。弘。實。任。經。理。是。也。此。俱。驗。齋。及。為。文。致。敬。皇。太。子。登。位。九。月。殿。出。家。制。必。靈。隋。為。國。清。張。乾。威。送。灌。頂。還。山。在。定。中。稱。賀。所。勿。容。所。覆。更。對。曰。先。師。靈。侍。郎。舍。利。寺。遣。僧。使。智。璩。遣。智。璩。行。道。即。云。當。有。行。狀。璩。對。曰。先。師。靈。十。車。駕。巡。幸。宣。勅。璩。對。曰。私。度。代。先。師。造。碑。當。有。行。狀。璩。對。曰。先。師。靈。冒。死。相。容。外。弟。子。欲。為。先。師。造。碑。當。有。行。狀。璩。對。曰。先。師。靈。不。當。大。異。

異非一。灌頂錄成一卷。當即貢上。帝勅祕書監柳顧言
曰。朕欲為智者製碑。非卿文不得朕心。碑成勅於寺刻
石。其要云。約仁王瓔珞龍樹馬鳴。立三觀四教述其本宗
(云云)帝勅楊州五十僧立天台寺名。一表為禪門。一表為
五淨居。僧使智瓌進曰。昔陳朝有定光禪師。遷神之後。
智者夢其靈曰。今欲造寺未是其時。若三國為一。當有大
力勢人為之造寺。寺若成國即清。必呼為國清寺。帝曰。
此先師之靈瑞。即用為名。遂取大牙殿榜。以雌黃大篆書
之。遣通事舍人盧正方。入山奉安寺額。以十一月二十四
日忌辰。度四十九僧設千僧齋。有司案名滿足千數。臨齋
受嚩則數溢一人。咸謂智者化身來受國供。是日午後使人
同大眾開視靈龕。唯空床虛帳而已。使者反命。帝謂群臣
曰。智者是朕戒師。先多靈異。朕於仁壽元年令張乾威往
視龕室儼然。今盧正方往則靈體不可復見。既從變化得道
非虛。天鄉寺沙門慧延。昔遊光宅。曾霑法潤。忽聞遷化

感咽無已。欲知智者生處。因寫法華經以求冥示。潛思屢旬。忽夢智者從觀音西來。顧謂之曰。疑心遣否。邑人馬紹宗。刈稻百束以供寺眾。執役勞疾心念求護。夜夢智者趺坐床上。焚香如霧。尉紹宗曰。家貧能施何疑無福。時兄及妻母。同夕感夢。香氣屢日。又張造者。年邁足蹶。登龕拜祝曰。早蒙香火。願來世得度脫。忽聞龕中應聲及以彈指。造再請曰。願重賜神應。即聞如初。老婦俞氏。年九十。患一脚短凡十八年。專往龕所殷勤設齋。即覺短脚還申。步履平正。荊州玉泉弟子法偃。於江都造智者像。還至江津像身流汗。拭已更出。識者謂師色身不異於此也。錢忠懿王。時申請於朝。追諡法空寶覺尊者(當時周世宗朝)本朝寧宗慶元三年。以荊門請。加諡靈慧大禪師(雜出百錄。別傳。高僧傳。三部疏記。南北史。玉泉碑。國清碑諸文。及關王祠堂記)。

義神智曰。吾佛出世雖說諸經。而本懷得暢唯在法華。自阿難結習之後。天親作論。雖曰通經。然但約文申義。舉其大略而已。至於斯經大事教化始終。則晦而未明。暨羅什翻譯東傳此土。造疏消釋者。異論非一。唯我智者。靈山親承大蘇證悟發揮妙旨幽贊上乘。以五義釋經題。四釋消文句。而又能以十章宣演明淨法門。於是解行俱陳義觀兼舉。可謂行人之心鏡巨夜之明燈。雖天竺大論尚非其類。豈震旦人師所能跂及(云云)。又設問曰。輔行引九師相承。謂北齊已前非今所承。且北齊既用覺心重觀三昧。今此何故斥於覺覓但是一轍耳。將非智者斥於北齊耶。答妙玄開演法華十妙。尚云莫以中論相比。又云。天竺大論尚非其類。蓋智者用如來之意明法華之妙。故龍樹北齊亦所不及。若無生宗旨三觀行門。其實祖龍樹。宗北齊。稟南岳。師資相承宛如宿契(云云)。又曰。天台所談三諦三觀。出乎仁王及瓔珞經。三智三德本乎涅槃大品。所用義

旨以法華為宗骨。以智論為指南(云云)。

贊曰。舍天台之學而欲識佛法意者。未足與議也。故自夫聖教東度。經論遍弘。唯任己心莫知正義。齊梁之際挺出諸賢。盛演法華立言判教。一音四相之說。四時六宗之談。眾制紛紜。相傾相奪。南三北七競化當時。猶夫粟散小王妄自尊大(補注。置粟盤中。各分位。以喻諸小王也)而不知金輪飛行統御四海威德之盛也。惟我智者大禪師。天縱之聖備諸功德。以為續承祖父三觀之緒。未遂光大。於是約法華悟門。說止觀大道。立經陳紀為萬世法。至於盛破光宅則餘者望風。遍難四宗則他皆失據宣布至化坐致太平。非夫間生聖人。其孰能為此大業者哉。然則欲識佛法意者。其唯天台之學乎。

佛祖統紀卷第六(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第七

宋景定四明東湖沙門志磐撰

東土九祖紀第三之二(本紀失此目今補出)

五祖章安尊者灌頂(其師。以此子非凡。故以地住極位。為立名字。將以進之也)姓吳氏。臨海章安人。始生三月(陳文帝天嘉二年生)能隨母稱三寶名。有僧過門謂其母曰。此子非凡因以為名。七歲入攝靜寺。依慧拯日記萬言。年二十受具戒。天縱慧解一聞不忘。陳至德初(陳後主)謁智者於修禪寺。稟受觀法研繹既久。頓蒙印可因為侍者隨所住處。所說法門悉能領解。禎明元年。隨智者止金陵光宅聽

講法華(文句注云。二十七。聽受金陵)隋開皇十三年(隋文帝)夏受法華玄義於江陵玉泉(時年三十三。次在江陵。奉蒙玄義是也)十四年夏。受圓頓止觀於玉泉(一夏敷揚二時慈霑是也)至於餘處講說。聽受之次悉與結集。大小部帙百有餘卷。傳諸未聞皆師之功也。十八年正月。師與普明奉智者遺書。自天台至揚州謁晉王。并奉淨名義疏。二月。王遣使王弘送還山。為智者設千僧齋。始用工造國清寺。仁壽元年。晉王為皇太子。師與智瓌。奉表至長安稱賀。并謝造寺。右庶子張衡。宣令問智者亡後靈異。對以五事(備見百錄)皇太子悲喜交至。遣散騎常侍張乾震。入山設千僧齋。二年四月。遣揚州參軍張諧。入山宣令慧日道場道莊法論二師(隋改寺曰道場。此寺在東都。二師見唐續僧傳)於東宮講淨名經。全用智者疏文判釋。可令寺眾諳委法華玄義者。齋疏入京。眾推師隨使應令。八月。遣使送師還山。煬帝大業十年(時年四十五)著涅槃玄義二卷疏二十

卷。時隋末兵興寇盜群起。師自序云。推度聖文凡歷五
載。何年不見兵火。何月不見干戈。菜食水齋冰床雪被。
其勞苦有若此云。疏成烈火焚之不爇。師晚年於會稽稱心
精舍講說法華。時人讚之有跨朗籠基超雲邁印之語(興皇朗
師齊山陰慧基撰法華疏。梁光宅法雲製疏講經。並見唐續
僧傳。印師未詳)。郡中有嘉祥吉藏。先曾疏解法華。聞章
安之道。廢講散眾投足請業。深悔前作之妄。唐貞觀六年
八月七日終於國清。壽七十二。臘五十二。初示疾。室有
異香。臨終命弟子曰。彌勒經說。世尊入滅。多爇名香。
其煙如雲。汝今可多焚香。吾將去矣。因委曲遺誠。辭理
甚切。忽起合掌如有所敬。稱淨土佛菩薩名。奄然而化。
先是貞觀元年。同學智晞臨終曰。吾生兜率見先師智者。
寶座行列皆悉有人。唯一座空。彼天人曰。却後六年頂法
師來升此座。計歲論期審晞不謬。是月九日。窆於寺之南
山。居國清日。有老父染疾。百藥不瘳。其子求救於師。

即焚香轉法華經。病者聞香入鼻。其疾遂愈。仙居樂安嶺南曰安洲。溪流湍急。歲常溺人。師誓之曰。若此溪坦平當於此講經。旬浹之間白沙遍涌。平如玉鏡。乃講光明法華以答靈惠。嘗於攝靜寺講涅槃經。群盜突至。見寺門旌旗耀日神兵執仗皆長丈餘。賊眾大驚奔走潰散。俗因稱為山兵寺。每誦經宴坐。常有天華飄墜其側。所著八教大意。智者別傳。各一卷。觀心論疏二卷。國清百錄五卷。涅槃玄義二卷。涅槃經疏二十卷。真觀法師傳。南岳記各一卷。吳越王。請諡為總持尊者(出百錄。九祖傳。高僧傳。三部疏記)。

贊曰。昔在智者為佛所使。以靈山親聞法華之旨惠我震旦。乃開八教明三觀。縱辨宣說以被當機。可也。至於末代傳弘之寄。則章安侍右。以一遍記之才(昔河南有一遍照。蒲州有不聽泰)筆為論疏垂之將來。殆與慶喜結集同功

而比德也。微章安吾恐智者之道將絕聞於今日矣。

六祖法華尊者智威。姓蔣氏。處州縉雲人。母朱氏。家世業儒。年十八。為本郡堂長(郡學之職)父母令歸納婦。路逢梵僧謂之曰。少年何意欲違昔日重誓耶。因示其五願曰。一願臨終正念。二願不墮三途。三願人中託生。四願童真出家。五願不為流俗之僧。蓋前身為徐陵。聽智者講經。深有詣入。對智者親立此願。師聞願已不復還家。即往國清投章安為師。受具之後咨受心要。定慧俱發即證法華三昧。唐上元元年(高宗)欲卜勝地說法度人。執錫而誓曰。錫止之處即吾住所。其錫自國清飛至蒼嶺普通山(台婺分界)可五百里。以隘狹不容廣眾。陵空再擲。至軒轅鍊丹山。師既戾止。翦棘刈茅班荊為座聚石為徒。晝講夜禪手寫藏典。於是名其地曰法華。既而學者子來。習禪者三百人。聽講者七百眾。常分為九處安居。師身長七尺。骨法

古秀。每登座有紫雲覆頂。狀如寶蓋。鳥雀旁止有同家畜。眾苦乏水。浚一石井纔三尺深。日給千眾冬夏無竭。法華至仙居上阪(仙居台州屬色阪坂同坡也音反)約八十里。師每日往反。齋粥禪講未嘗少違。咸謂有神足通。永隆元年十一月二十八日跌坐禪堂而化。異香七日不歇(自上元初建寺。至永隆初入滅。纔七年耳)是日眾見坐逝於寺。而上阪之人見師赴檀越舍。至人起滅其不可測識若此。傳法雖眾。唯天宮威師為之正嗣。師在太宗朝。名德升聞。召補朝散大夫封四大師(耆老相傳云。唐有四大師。謂引駕大師。護國大師。餘二闕聞。今詳考隋唐僧傳。但有引駕之名。其員有四)吳越王。請諡玄達尊者。宋朝皇祐初元。仙居令伍袞。於傳道處重修殿庭奉安真像。是夜有虎繞殿三匝而去。元豐五年十三代孫忠法師。躬禮舍利增飾其塔。錄行實而記之曰。師與天宮同時行化。俱受封官繼祖之位。若橫論祇成八世。豎分則有九代也。昔如來涅槃。

阿難結集。出二弟子。一名商那。一名末田地。居國雖異。行化則同。故付法藏。橫列二十三。堅分二十四。今智者示滅。章安結集。出二弟子。亦同其時。阿難結集之際。闍王送供一夏。章安結集之日。煬帝送供十年。挹流尋源。智者如東土一佛。章安有似阿難。二威亦猶商那末田地。煬帝外護有同闍王。可不信哉。師平日坐禪舊趾。至今不生春草。

贊曰。世謂徐陵對智者發五願。轉身得出家學道。證法華三昧嗣承祖位。今詳觀願辭。何期心未深。而所獲更勝。殊不知靈鷲同會。咸為得入。故能以自在力用。或現宰官身。或示比丘相。昔徐陵今法華。大權益物隨願出興。豈當以世間仕宦因福受報者比量之耶。此意有權實二義。唯明教者知之。

七祖天宮尊者慧威。姓劉氏。婺州東陽人。總角之歲深厭勞生。遂入空門祝髮受具。聞法華大弘天台之道。即往受業刻志禪法。晝夜惟勤三觀法門。頓獲開悟。時人見其深入威師之室。遂以小威師稱之。後歸止東陽。深居山谷罕交人事。自法華入滅之後。登門求道者不知其數。傳法之的唯左溪耳。師於高宗朝。與法華同封朝散大夫四大師。吳越王。請諡全真尊者。

贊曰。或見梁氏統例二威緘授其道不行之言。則便以為緘默無言坐證而已。然梁氏此言。將以張皇荆溪立言。弘道之盛。故權為之重輕耳。要之講經坐禪未嘗不並行也。不然法華聽習千眾。天宮求道無數。為何事耶。是知其道不行亦太過論。

八祖左溪尊者玄朗(與本朝聖祖諱上下字同)字慧明。婺州

東陽人。姓傅氏。雙林大士六世孫也。母葛氏。感異夢而有娠(唐太宗貞觀十八年生)既產未嘗作嬰兒啼。每見人則欣笑盈面。九歲(高宗永徽二年)肄業清泰寺。受經日過七紙。唐武后如意二年(時年五十)落髮得戒。聞天台盛弘止觀。即往求學。未幾一家宗趣解悟無遺。常以十八種物行頭陀行。依憑巖穴建立招提。面列翠峯左縈碧澗。因自號曰左溪。每言。泉石可以洗昏蒙。雲松可以遺身世。常宴居一室。自以為法界之寬。心不離定口不嘗藥。耄耆之歲同於壯齡。揉紙而衣掬溪而飲。洗鉢則群猿爭捧。誦經則眾禽交翔。幽棲林谷深以為樂。一日有盲狗。至山長嗥伏地。師為行懺。不逾旬日雙目俱明。每翹跪祈請。願生兜率內院。斂念之頃。忽感舍利從空而下(天寶中建塔奉藏。會昌發毀寺。僧緘而闕之。至皇朝開寶六年。復建塔藏之本山東南隅)開元十六年。州刺史王正容。屢屈入城冀親法喜。師不欲往教。辭之以疾。與永嘉真覺為同門友。嘗貽

書招覺山居。覺復書千餘言。有誼不在塵。寂不在山之語
(今永嘉集。有答友人書。近世有左溪住山。清穆刊二書於
山中。而序之曰。左溪永嘉同道也。左溪之言非不知也。
彼將有激云耳。永嘉之言非責也。彼將有說云耳。此常人
所不能知也。反是而議者惑也)師所居蘭若坐非正陽。將移
殿與像。用力實艱杖策指揮。工人聽命為日未久。舊制儼
然山水頻涸。眾以為患。舉杖刺之巖泉涌出。嘗累成二
塔。繪事悉煎香汁不用牛膠(此用觀音諸陀羅尼經畫像之
法)天寶十三載九月十九日。呼門人謂曰。吾六即道圓。萬
行無得。戒為心本。汝等師之。即端坐長別。壽八十二。
夏三十一。弟子有夢。其居寶閣第四重者。寤以告隣。隣
夢亦協。時以為表第四天慈氏內院也。荼毘已。門人分舍
利為二分。一塔左溪之西原。遵像法之遺制。一塔東陽之
東原。尉邑人之後思。司封李華。為之銘云。稟法十二
人。的嗣曰荊溪。新羅傳道者。法融。理應。純英。撰法

華科文二卷。及修治法華文句。吳越王。請諡明覺尊者。

贊曰。刺史張成綺狀其行曰。師誨人無倦講不待眾。一齋多羅四十餘年。一尼師壇終身不易。食無重味居必偏廈。非因討尋經論不虛然一燈。非因瞻禮聖容不虛行一步。未嘗因利說一句法。未嘗因法受一豪財。遂得遠域龍象。隣境耆耄。爭趨以前填門擁室。若冬陽夏陰弗召而自至也(耄徒結反年八十也)。

九祖荊溪尊者湛然。姓戚氏。世居晉陵荊溪。時人尊其道因以為號。家本習儒。故幼學夙成。在兒童中超然有邁俗志。年十七(睿宗景雲二年生。至玄宗開元十五年。當十七歲)訪道浙右。遇金華方巖。授以止觀之法。開元十八年。始從學左溪(時年二十)溪與之語知為道器。嘗謂師曰。汝曾何夢。答曰。疇昔之夜。夢披僧服掖二輪遊大河中。溪

曰。嘻。豈當以止觀二法度群生於生死之淵乎。遂以處士服受教觀之道。天寶七載。始解縫掖著僧伽梨(時年三十八。受業於宜興君山鄉淨樂寺。縫掖儒士布衣。僧伽梨。翻為大衣。二十五條也)尋詣會稽一律師博究律部。久之演止觀於吳門。開元左溪既沒。師挈密藏獨運東南。謂門弟子曰。道之難行也。我知之矣。古之至人。靜以觀其復。動以應其物。二俱不住。乃蹈乎大方。今之人或蕩於空或膠於有。自病病他道用不振。將欲取正舍予誰歸。於是大啟妙法旁羅萬行。盡攝諸相入於無間。即文字以達觀。導語默以還源。乃祖述所傳著為記文。凡數十萬言。使一家圓頓之教悉歸於正。每以智者破斥南北之後。百餘年間。學佛之士。莫不自謂雙弘定慧。圓照一乘。初無單輪隻翼之弊。而自唐以來。傳衣鉢者起於庾嶺。談法界闡名相者盛於長安。是三者皆以道行卓犖(力角反卓犖超絕也)名播九重。為帝王師範。故得侈大其學。自名一家。然而宗經

弘論判釋無歸。講華嚴者唯尊我佛。讀唯識者不許他經。至於教外別傳但任胸臆而已。師追援其說辯而論之。曰金錕。曰義例。皆孟子尊孔道闢楊墨之辭。識者謂。荊溪不生則圓義將永沈矣。天寶大歷間(玄肅代三宗)朝廷三詔。並辭疾不起。師始居蘭陵。嘗與江淮名僧四十人。同禮五臺。有不空三藏門人含光白師曰。頃從不空遊歷天竺。見梵僧云。聞大唐有天台教迹。可以識偏圓簡邪正明止觀。可能譯之至此土耶。師聞之歎曰。可謂中國失法求之四維(左傳。孔子曰。天子失官。學在四夷。後漢東夷傳序。中國失禮求之四夷)晚歸台嶺。大布而衣。一床而居。以身誨人耆年不倦。大兵大饑之際。學徒愈蕃。瞻望堂室以為依怙。建中三年(德宗)二月五日。示疾於佛隴。語門人曰。道無方性無體。生歟死歟。其旨一貫。吾歸骨此山。報盡今夕。要與汝等談道而決。夫一念無相謂之空。無法不備謂之假。不一不異謂之中。在凡為三因。在聖為三德。蕪

炷則初後同相。涉海則淺深異流。自利利人在此而已。汝
其志之。言訖隱几而化。壽七十二。夏四十三。門人奉全
身塔於智者瑩域之西南隅。所著法華釋籤。文句記。止觀
輔行。止觀搜玄記。各十卷。止觀文句一卷。為司封李華
說。止觀大意一卷。釋籤別行十不二門。金剛鉅。止觀義
例。三觀義涅槃後分疏。觀心誦經記。授菩薩戒文。始終
心要。各一卷。略淨名疏十卷。記三卷。淨名廣疏記六
卷。治定涅槃疏十五卷。文句科。止觀科。各六卷。華嚴
骨目二卷。法華三昧補助儀。觀心補助儀。各一卷。方等
懺補助儀二卷。門人梁肅撰師碑銘。而論之曰。聖人不
興。其間必有名世者出。自智者以法付章安。安再世至於
左溪。明道若昧待公而發。乘此寶乘煥然中興。蓋受業身
通者三十九人。搢紳先生高位崇名。屈體承教者又數十人
(史記。孔子世家云。弟子蓋三千人。身通六藝者七十二
人。今言。受業身通。謂通教觀之道。有言見身發通者無

義)吳越三請諡圓通尊者。本朝元祐初。永嘉忠法師遣門人掃塔。草棘荒蕪不能辨。即案梁氏碑。去大師塋兆百步尋識之。其龕已空。唯乳香一塊耳。夜夢玄弼山君謂曰。昨者天神遣多人。取全身去也。不須猶豫。於是即舊基建石塔以識之。

贊曰。疏以申經記以解疏。夫然故旨義始歸於至當。而後人得以守其正說。大哉釋籤妙樂輔行之文。其能發揮天台之道。疇不曰厥功茂焉。不有荆溪。則慈恩南山之徒。橫議於其後者。得以並行而惑眾矣。師之言曰。將欲取正舍予誰歸。誠然哉。寶訓也。本記言搢紳受業者數十人。知當時儒宗君子學此道者。若是之盛。今所聞梁李三四人耳。惜哉。

佛祖統紀卷第七(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第八

宋景定四明東湖沙門志磐撰

興道下八祖紀第四

十祖天台興道尊者大法師

十一祖天台至行尊者大法師

十二祖國清正定尊者大法師

十三祖國清妙說尊者大法師

十四祖國清高論尊者大法師

十五祖螺溪淨光尊者大法師

十六祖四明寶雲尊者大法師

十七祖四明法智尊者大法師

昔吳越王。請諡諸祖。而龍樹北齊南岳三師未及諡。今并取邃法師下無師號者。即本紀之文。撫其行實以為尊稱。是蓋尊祖之大義也。他日有能考論懿德上之清朝。賜以徽諡者。幸當用此定名。庶乎不失其實也。或疑今私諡者。漢朱穆門人與蔡邕諡文忠先生。晉陶潛門人諡靖節先生(見漢書宋史)唐蕭穎士門人諡文元先生(趙璘因話錄)元延祖諡太

先生(元結之父)此皆門人私謚無咎。

傳聖人之道者。其要在乎明教觀而已。上尊龍樹下逮荊溪。九世而祖之宜矣。至於邃修二師。相繼講演不墜素業。會昌之厄教卷散亡。外琇竦三師唯傳止觀之道。螺溪之世。賴吳越王求遺書於海東。而諦觀自高麗。持教卷用還於我。於是祖道復大振。四明中興實有以資之也。是諸師者。或顯或晦。述而不作稱之曰祖蓋傳授有所繼。正統有所繫也。撰興道下八祖紀。

十祖興道尊者道邃。不知何許人。唐大歷中(代宗)來依荊溪於佛隴。洞悟幽玄無所凝滯。荊溪嘉之曰。吾子其能嗣興吾道矣。遂授以止觀輔行。師為眾開說發明深旨。聽者無不領寤。同門元皓一見師大敬服。貞元二十一年。日本國最澄遠來求法。聽講受誨晝夜不息。盡寫一宗論疏以

歸。將行詣郡庭白太守。求一言為據。太守陸淳嘉其誠。即署之曰。最澄闍梨。身雖異域。性實同源。明敏之姿。道俗所敬。觀光於上國。復傳教於名賢。邃公法師。總萬法於一心。了殊塗於三觀。而最澄親承祕密。不外筌蹄。猶慮他方學者。未能信受其說。所請印記安可不從。澄既泛舸東還。指一山為天台。創一剎為傳教。化風盛播。學者日蕃。遂遙尊邃師為始祖。日本傳教實起於此(晁說之。撰明智塔銘云。荊溪傳行滿。滿傳廣修。案大宋僧傳。邃法師傳廣修。修傳物外。今依宋傳。以邃師次荊溪為正。晁氏親見明智者。不知當時何緣得此異說)。

述曰。指要斥日本乾淑所錄邃知上止觀中異義。以三界為無漏總中三者。竊詳邃師親受止觀於荊溪。無緣輒創此說。特乾淑輩為此私義。託邃師以行之耳。則知日本別行十不二門題云國清止觀和上者。皆其國人之依放也。指要

又云。他既曾附示珠指。往於彼國。必是依之勘寫。據此又知國人依奉先所寄之本。故并託止觀和上之名以行其文也。四明之言。斥乾淑奉先耳。世人不寤。便謂斥邃師。請以此議為解。

十一祖至行尊者廣修。姓留氏。東陽夏昆人。早入邃師之室。研精教觀。而向心至行。日誦法華淨名光明梵網四分戒本為常課。六時行懺晚年彌篤。每歲行隨自意三昧。七七日未嘗以事廢。天台刺史韋珩(音衡佩玉)素重教門。請入郡堂講止觀。珩於即席深有省發。時會聽者莫不欣慶。會昌三年(唐武宗)二月十六日。終於禪林。葬全身於金地道場。登門弟子甚眾。居上首名物外。後二十三年。門人良湑敬文。發塔火育之得舍利千餘粒。大如菽。即舊地建塔藏之。

十二祖正定尊者物外。姓楊氏。閩之候官人。久從修師傳止觀。且說且行。大中末(宣宗)歲歉。加趺一室妙入正定。謂弟子曰。汝若不死至五穀登時。可擊磬引我出。越歲餘。弟子如所教遂從定起。中和五年(僖宗)三月十五日。終於國清葬於智者塔院之側。上首弟子。元琇。敬休。慧凝。皆傳道於世以紹家學。

十三祖妙說尊者元琇(音秀玉石)天台人。依國清外法師學止觀。盡其旨。妙於講說。不以學徒眾寡二其心。一日升座眾集或少。有異僧十人自外而入。威儀可觀。致敬已坐行末。講散復問訊即出。師遣侍者邀之。皆凌空舉手笑謝而去。師當僖昭之際。天下方亂。學教之徒忽聚忽散。以故得定慧之業者艱其人。唯清竦常操。承事日久洞達無遺。操師傳義從。從傳德儔。儔傳慧贊。修雅。皆繼世有聞云。

十四祖高論尊者清竦。天台人。依琇法師精思止觀。旦夜不懈。及繼主國清。說行兼至。時錢氏建國。吳越天台一境有同內地。師領眾安處厲其志曰。王臣外護得免兵革之憂。終日居安。可不進道以答國恩。每長日臨座高論不已。眾莫敢有倦色。門人世業者。義寂。志因。覺彌。

十五祖淨光尊者義寂。字常照。永嘉胡氏。母初懷妊不喜葷血。及產有物蒙其首。若紫帽然(梁末帝貞明五年己卯生)幼白二親求出家。乃入開元。依師誦法華。朞月而徹。年十九(晉高祖天福二年)祝髮具戒。詣會稽學律深達持犯。乃造天台。學止觀於竦法師。其所領解。猶河南一遍照也(僧傳云。蒲州不聽泰。河南一遍照)嘗寓四明育王寺。夢登國清。上方有寶幢座。題曰文殊臺。欄楯外隔欲入不可。俄見觀音從堂而出。手却行馬(即叉欄也亦名拒

馬)低回相接。忽覺自身與觀音體合為一。自是之後樂說無盡。初天台教迹。遠自安史挺亂(天寶末年。安祿山。史思明。相繼反逆)近從會昌焚毀(武宗會昌五年。罷僧尼毀寺院)殘編斷簡傳者無憑。師每痛念力網羅之。先於金華古藏僅得淨名一疏。吳越忠懿王。因覽永嘉集。有同除四住此處為齊。若伏無明三藏即劣之語。以問韶國師(傳燈天台德韶國師。姓陳。嗣清涼益禪師。至天台覩智者遺蹤。有若舊居。又與智者同姓。時疑其後身云)韶云。此是教義。可問天台寂師。王即召。師出金門。建講以問前義。師曰。此出智者妙玄。自唐末喪亂教籍散毀。故此諸文多在海外。於是吳越王遣使十人。往日本國求取教典。既回。王為建寺螺溪。扁曰定慧。賜號淨光法師。及清諡天台諸祖(止諡天台以十六祖)一家教學鬱而復興師之力也(案二師口義云。吳越王遣使。以五十種寶。往高麗求教文。其國令諦觀來奉諸部。而智論疏。仁王疏。華嚴骨目。五百門

等。不復至。據此則知。海外兩國。皆曾遣使。若論教文復還中國之寶。則必以高麗諦觀來奉教卷為正)有興教明師。年方弱冠。聽經於會下常自疑云。飲光持釋迦丈六之衣。披彌勒百尺之身。正應其量。為衣解長耶。身解短耶。時韶國師居雲居(屬天台)聚眾五百。明往問之。國師曰。座主却是汝會。明慍色拂袖而退。國師曰。我若答。汝不是。當有因果。明回螺溪。口即吐血。師聞驚曰。此新戒。觸忤菩薩人來。明舉前話。師云。汝不會國師意速去懺悔。明具威儀詣前悲泣作禮首過。國師為頌出前話云。佛佛道齊宛爾高低。釋迦彌勒如印印泥。明自此疾瘳。歸謝師曰。非師指教幾喪此生(二師口義云。玄弼山君言。國師是智者。起法堂都料螺溪。是放生會首。堂中僧眾。是所放之魚)太平興國五年(本朝太宗)自山中出居州治寺東樓。夢剎柱陷入於地。即徙居西偏。其夜春雨驟作。山頽樓傾。咸謂師有天眼。雍熙元年。永安縣請於光明寺

為眾授戒。忽佛殿大像墮壞。腹中出發願文。乃唐咸通六年沙門希皎為七鄉人施戒勸造此像。願舍報為男子。童真出家傳法利生。時會觀者謂是師前身也。四年十一月四日寢疾。囑門人不許哭泣祭奠。言已即瞑目。門人累小塔。窆於方丈。壽六十九。夏五十。傳法弟子百餘人。外國十人。義通實為高第。而澄或。寶翔。為之亞焉。天台官民先曾傳戒者。共迎師真相於開元寺。縞素致祭哀動一城。天為慘色。後徒屬謀遷塔見貌。若生人髮長餘寸。遂遷葬於國清東南隅。澄或述銘以為識。師講三大部各二十遍。維摩光明梵網金剛鉍法界觀永嘉集各數遍。述義例不二門等科節數卷(雜見高僧傳等文)。

十六祖寶雲尊者義通。字惟遠。高麗國。族姓尹氏(後唐明宗天成二年丁亥歲生)梵相異常頂有肉髻。眉毫宛轉伸長五六寸。幼從龜山院釋宗為師。受具之後學華嚴起信。為國

宗仰。晉天福時來遊中國(師於天福末。方十六七。正受具學華嚴之時來中國。應在二十後。以歷推之。當在漢周之際。今言天福恐誤)至天台雲居(韶國師所居)忽有契悟。及謁螺溪聞一心三觀之旨。乃歎曰。圓頓之學畢茲轍矣。遂留受業。久之具體之聲浹聞四遠。一日別同學曰。吾欲以此道導諸未聞。必從父母之邦。始乃括囊東下。假道四明將登海舶。郡守太師錢惟治(忠懿王俶之子)聞師之來。加禮延屈咨問心要。復請為菩薩戒師。親行授受之禮。道俗趨敬同仰師模。錢公固留之曰。或尼之。或使之(孟子。行或使之。止或尼之。尼語乙反)非弟子之力也。如曰利生何必雞林乎(高麗別名)師曰。緣既汝合。辭不我却。因止其行。開寶元年(本朝太祖)漕使顧承徽屢親師誨。始舍宅為傳教院。請師居之。太平興國四年。法智初從師學(師年五十三法智年二十)六年十二月。弟子延德。詣京師奏乞寺額。七年四月。賜額為寶雲。雍熙元年。慈雲始從師學(師

年五十八慈雲二十二)師敷揚教觀幾二十年。升堂受業者不可勝紀。常呼人為鄉人。有問其故。曰吾以淨土為故鄉。諸人皆當往生。皆吾鄉中之人也。端拱元年十月二十一日。右脇而化。闍維之日舍利盈滿骨中。門人奉葬於阿育王寺之西北隅(育王未為禪時。其徒嘗請寶雲諸師。屢建講席。寶雲既終。因葬骨於此地)壽六十二。治平元年(英宗)主南湖法孫宗正。累為方墳石塔作記以識之(後七十七年)宣和七年(徽宗)主育王昌月堂。以地蕪塔壞。與寶雲威師。徙骨於烏石山。其骨晶瑩有光。考之琅琅其聲。舍利五色滋生骨上。有盈匊得之者。其後主者智謙。重刊石塔記於烏石菴中(見振祖集石塔記)。

曉石芝曰。石塔記。謂師著述。逸而不傳。然考諸四明章記。則嘗秉筆為觀經疏記。光明玄贊釋矣。蓋四明稟承其義。用之於記鈔諸文。非為無傳。贊釋一部尚存。但不廣

行耳。

螺溪網羅教典。去珠復還。寶雲二紀敷揚家業有付。而世方尊法智為中興者。以其有著書立言開明祖道。觝排山外紹隆道統之功也(觝音抵觸也)故慈雲贊之曰。章安既往。荊溪亦亡。誕此人師。紹彼耿光。一家大教。鍾此三良。又為之辭曰。一家教部。毘陵師所未記者悉記之。四種三昧人所難行者悉行之。敬繹名言。誠為實錄(繹音亦抽絲也)。

十七祖法智尊者知禮。字約言。四明金氏(世傳所居在郡城白塔巷)父經以枝嗣未生。與妻李氏禱於佛。夢神僧携童子遺之曰。此佛子羅睺羅也。因而有娠。暨生遂以為名(太祖受周禪。建隆元年庚申也)神宇清粹不與眾倫。七歲喪母號哭不絕。白父求出家。遂往依太平興國寺洪選師。十五具

戒專探律部。太平興國四年(太宗)從寶雲教觀(時年二十)始三日。首座謂之曰。法界次第汝當奉持。師曰。何謂法界。座曰。大總相法門圓融無礙者是也。師曰。既圓融無礙何有次第。座無對。居一月。自講心經聽者服其速悟。五年其父夢師跪於寶雲之前雲以瓶水注於口。自是圓頓之旨一受即了。六年。常代寶雲講。雍熙元年。慈雲來自天台。始學於寶雲之門。師待以益友。義同手足。端拱元年。寶雲歸寂。師復夢貫寶雲之首。擐於左臂而行(擐音患亦貫也)。即自解曰。將作初表受習流通。次表操持種智之首化行於世也(慈雲。撰指要鈔序。采用法智自解之說也)。淳化二年。始受請主乾符。綿歷四載諸子說隨。至道元年。以所居西偏小院。學徒戾止。盈十莫容。遂徙居城東南隅保恩院。二年。院主顯通舍為長講天台教法十方住持之地。三年。以院宇頽弊。與同學異聞始謀經理。既而丹丘覺圓來任役事。咸平三年(真宗)郡大旱。與慈雲同修

光明懺。祈雨約三日無應。當然一手供佛。懺未竟雨已大
浹(慈雲行業記云。約三日不雨。自焚。如期果大雨。太守
蘇。為刻石為記其事)。六年。日本國遣寂照。持源信法師
問目二十七條請答釋。景德元年。撰十不二門指要鈔。成
立別理真如有隨緣義。永嘉繼齊立指濫以難之(梵天昭師門
人)謂不變隨緣。是今家圓教之理。別理豈有隨緣。師乃垂
二十問以祛其蔽。天台元顥復立徵決以代齊師之答。而嘉
禾子玄亦立隨緣撲以助齊顥。時仁岳居座下述法智義。立
十門折難總破三師。人謂淨覺禦務之功居多(禦音語。務侮
同。易外禦其務)四年。遣門人本如會稽什師。持十義書觀
心二百問詣錢唐昭師室。初是光明玄有廣略二本。並行於
世。景德前錢唐恩師製發揮記專解略本。謂十種三法純談
法性。不須更立觀心。廣本有之者後人擅加耳。慈光門人
奉先清靈光敏。共造難辭二十條輔成其義。時寶山善信致
書法智請評之(慈雲有寄石壁善信上人詩。有曾同結社之

句。據此則知俱師寶雲)師亟辭之曰。夫評是議非近於諍
競。矧二公吾宗先達。其可率爾。信復請曰。法鼓競鳴何
先何後。師於是始作扶宗記。大明廣本附法觀心之義。謂
恩師之廢觀心。是為有教而無觀。有梵天昭孤山圓。皆奉
先門學。述辨訛以助略本。謂觀有事理。今十法始終皆以
一法性而貫之。豈非純明理觀。師作問疑徵之云。若謂十
法是理觀者。應此玄文是上三三昧。略本既無揀境。且非
約行理觀。則知昭師反成有觀而無教。昭師復述答疑書。
從容改轉。以為玄文直顯心性義同理觀。師復作詰難責之
云。心性之名釋籤定判在因。上人既以十法是果人所證。
則全非直顯心性。又十法既不聞揀陰。將何義同理觀。昭
師又述五義云。止觀約行觀心。乃立陰等為境。附法託事
皆不立陰。意謂令所立理觀。是事法之例。不須立陰。又
被詰之後知心性在因。却潛改云直顯法性(昭師所立。謂之
約行。則無揀境。謂之事決。則有執為理。進退兩失無所

憑據。是為無觀復無教)師復作問疑責之曰。詰難本徵直顯
心性。純明理觀。何得將事法之觀答之。豈非義窮計盡
耶。此書既往逾年不答。師復作覆問以促之。昭師徐為釋
問。以十乘妙理為所觀境。師復責之云。本立三障四魔為
境界。今若以十乘妙理為所觀境。即三障四魔為能觀智
耶。自發揮至令釋問。四番轉計。五回墮負。往復各五。
綿歷七載。乃總結前後。為書二卷斥昭師。一不解能觀法
二不識所觀境。三不分內外二境。四不辨事理二造。凡十
章。目為十義書。又設為二百問以質之。時孤山居昭師座
端。觀如什論辯不可。當遽白郡守。以來無公據發遣。令
還不復致答。大中祥符二年。重建保恩院成。自興役至今
凡十載。通守石待問為之記。三年乞郡奏於朝。十月。賜
額延慶。五年。與異聞作戒誓辭以授徒弟立誠。其略有
曰。吾始以十方之心受茲住處。逮乎改創安施棟宇。元為
聚學何敢自私。但吾宗有五德者。無擇邇遐。吾將授以居

之。後後之謀莫不咸然。五德者。一曰舊學天台勿事兼
講。二曰研精覃思遠於浮偽。三曰戒德有聞正己待物。四
曰克遠榮譽不屈吾道。五曰辭辯兼美敏於將導。何哉。兼
講則畔吾所囑。浮偽則誤於有傳。戒德則光乎化道。遠譽
則固其至業。然後辯以暢義。導以得人。五者寧使有加。
設若不及去辯矣。六年二月十五日。始建念佛施戒會。親
為疏文以寓勸意。自此歲以為常。七年撰融心解。明一心
三觀。顯四淨土之旨。天禧元年。謂其徒曰。半偈亡軀一
句投火。聖人之心為法如是。吾將捐身以警懈怠。乃與異
聞結十同志。修法華懺三載期滿。將焚身以供妙經(遺身苦
行人之所難。十僧之名惜乎失錄)祕書監楊億(字大年官至
翰林謚文公)遐仰道風。白丞相寇準奏賜紫服。復奉書為
賀。及聞結懺遺身。乃致書勸請住世。謂方當台教復興之
時。正賴傳持為世良導。往復數四尚執前言。楊公乃貽書
郡守李夷庚及天竺慈雲俾同勸止。太守親率僚屬。勸請住

世說法利生。且密戒隣社常保護之。會慈雲東下力為勸
諫。而駙馬李遵勗。亦亟書交勸(尚太宗女魏國公主。諡文
和公)師以公私意勤竟沮前志。乃復結十僧修大悲懺法三載
以酬素願。是年述消伏三用章。對孤山闡義鈔。不知性惡
是理毒義。有咸潤者述籤疑。以三種消伏俱約圓論。淨覺
引疏義。歷四教十法界以除三障。述止疑以扶師義。四
年。駙馬李遵勗。奏師高行遺身。上嘉歎不已。特賜法智
大師之號。宣旨住世演教(郡守錢希白。題塔院云。內翰楊
億。為樞使馬知節。撰其父神道碑。不受潤筆。求奏薦四
明師號。知節因奏之。上召問。億因言遺身事。上曰。但
傳朕言。請師住世傳教。於是賜號法智。據行業碑塔銘實
錄及法智往復書。皆言李遵勗。論薦賜號。今詳希白之
題。必當時問諸寺僧。繆言之復致繆題耳)是年。京師譯經
院證義簡長行肇二十三人。各寄聲詩贊美道德(待制晁說之
作序刻於石)五年。上聞師為道勤至。遣內侍俞源清至寺。

命修法華懺三日。為國祈福。源清欲知懺法旨趣。為述修懺要旨。是歲撰觀音別行玄記觀經疏妙宗鈔皆成。時梵天門人咸潤述指瑕以非妙宗。且固執獨頭之色不具三千等義。蓋昭圓之餘波也。淨覺為述抉膜以示色心不二之旨。且評他師昧於究竟蝮蠆六即之義。一日。淨覺與廣智辨觀心觀佛求決於師。師示以約心觀佛之談。謂據乎心性。觀彼依正。淨覺不說而去。既而盡背所宗。述三身壽量解。并別立難辭。請潛修前鈔不使外聞。師慮其為後世異說之患。乃加料簡十三科以斥之。淨覺時在天竺上十諫書。謂父有諍子。則身不陷於不義。師復作解謗。謂十諫乃成增減二謗。淨覺復述雪謗。謂錯用權實以判勝劣。師時在疾令門人讀之。為之太息。既逼歸寂遂不復辨。後有希最。即廣慈之子法智之孫。述評謗以辨之。淨覺。時尚無恙。見之曰。四明之說其遂行乎(自師時在疾。以下一節。並預敘後事)天聖元年(仁宗初元)撰光明玄續遺記成。試開幃四

十二章答泰禪師十問。時天童凝禪師貽書論指要鈔揀示達磨門下三人得道淺深。往復不已。太守林請師融會其說。師不得已略易數語(往復書。備在教行錄。忠法師為後序。略述其事)三年。先是天禧初詔天下立放生池。師欲廣揚聖化。每於佛生日集眾作法。縱魚鳥為放生之業。是年郡以事聞。勅樞密劉筠撰文以示後人。太守曾會立碑於寺(見教行錄)嘗一夕夢伽藍神曰。翌日相公至。已而曾公領其子公亮入寺。師以夢告母夫人謝曰。後貴無敢相忘(下二句。預敘後事。今教行錄。有曾府捨莊田帖)及公亮入相。乃買田闢屋。歲度其徒(曾魯公。初生夢老僧披幃入慶。歷八年。以知制誥。[銜-金+缶]恤而歸里。僧元達。附舟至錢唐。聞天竺之勝。特往瞻禮。始至見素衣女自寺門出。謂達曰。曾舍人。五十七。入中書。上座是年。亦受師號。已而不見。至是年。果拜相。歷事三朝。贈太師中書令。諡宣靖。陪享英廟。蔡襄守錢唐。以大士靈異。上於朝因賜

號靈感云)五年製光明文句記。以迫歸寂不及終帙。其後門
人廣智續讚佛一品以成之。六年正月元日。建光明懺七日
為順寂之期。至五日結跏趺坐。召大眾說法畢。驟稱阿彌
陀佛數百聲。奄然而逝。壽六十九。夏五十四。露龕二十七
日。顏貌如生爪髮俱長。舌根不壞若蓮華然。明道二年七
月。奉靈骨起塔於南城崇法院之左。稟法領徒者三十人。
尚賢。本如。梵臻。則全。慧才。崇矩。覺琮等。入室四
百八十人。升堂千人。手度立誠等七十人。師自咸平二
年。後專務講懺。常坐不臥。足無外涉。修謁盡遣。講法
華玄義七遍。文句八遍。止觀八遍。涅槃疏一遍。淨名疏
二遍。光明玄義十遍。別行玄七遍。觀經疏七遍。金剛
錍。止觀義例。大意。十不二門。始終心要等。不復計
數。修法華懺三七期五遍。光明懺七日期二十遍。彌陀懺
七日期五十遍。請觀音懺七七期八遍。大悲三七期十遍。
結十僧修法華長期三年。十僧修大悲懺三年。然三指供

佛。造彌陀觀音勢至普賢大悲天台祖師像二十軀。印寫教乘滿一萬卷。所著續遺記三卷。光明文句記六卷。妙宗鈔三卷。別行玄記四卷。指要鈔二卷。扶宗記二卷。十義書三卷。觀心二百問一卷。解謗書三卷。金光明三昧儀。大悲懺儀。修懺要旨。各一卷。自餘如融心解。義例境觀。起信融會章。別理隨緣二十問。消伏三用章。光明玄當體章。問。答釋日本源信問。釋楊文公三問。絳幃問答(並載教行錄中)師於起信論大有悟入。故平時著述多所援據。後人扁其堂曰起信。示不忘也。初受命服。神照以書賀。師答之曰。三術寡修致名達朝彥(止觀安忍中云。名譽利養眷屬莫受莫著。推若不去當縮德露疵。若遁迹不脫。當一舉萬里。若名利眷屬從外來破。憶此三術。齧齒忍耐。確乎難拔。若煩惱業定見慢等。從內來破者。亦憶三術。即空即假即中。設使屠析肌肉心不動散。為辦大事彌須安忍。輔行云。外障是軟賊。謂名譽等。內障是強賊。謂煩惱等。

內外用術不同)尋蒙帝澤令被紫服。有恥無榮何勞致賀。指要初成。雪竇顯禪師出山來訪。觀其書大加欽讚。即為設齋致慶。親揭茶榜。具美其事云。

贊曰。唐之末造天下喪亂。台宗典籍流散海東。當是時為其學者。至有兼講華嚴以資說飾。暨我宋龍興。此道尚晦。螺溪寶雲之際。遺文復還。雖講演稍聞。而曲見之士氣習未移。故恩清兼業於前。昭圓異議於後。齊潤以他黨而外務(侮同)淨覺以吾子而內畔(叛同)皆足以溷亂法門壅塞祖道(溷胡困反濁也)四明法智。以上聖之才。當中興之運(中竹仲反當也)東征西伐再清教海。功業之盛可得而思。是以立陰觀妄。別理隨緣。究竟蛞蝓。理毒性惡。唯色唯心之旨。觀心觀佛之談。三雙之論佛身。即具之論經體。十不二門之指要。十種三法之觀心。判實判權。說修說性。凡章安荊溪未暇結顯。諸深法門悉表而出之。以為駕

御群雄之策。付託諸子之計。自荊溪而來。九世二百年矣。弘法傳道何世無之。備眾體而集大成。闢異端而隆正統者。唯法智一師耳。是宜陪位列祖稱為中興。用見後學歸宗之意。今淞河東西(淞浙江也又音制見莊子)號為教養者(音橫學舍)莫不一遵四明之道。回視山外諸師。固已無噍類矣(噍才笑反齧也。漢書項羽攻城。所過無噍類。謂屠殺皆盡。無噍食之遺種也)然則法運無窮之繫。其有在於是乎。

佛祖統紀卷第八(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依

大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第九

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸祖旁出世家第五之一

南岳旁出世家

- (二世)南岳僧照禪師
- 南岳大善禪師
- 枝江慧成禪師
- 藍谷慧超禪師
- 巴丘慧耀禪師

- 雲峯慧涌禪師
- 江陵慧威禪師
- 鍾山智瓘禪師
- 仙城慧命禪師
- 新羅玄光禪師
- 枝江慧瓘禪師(此下二人見南岳紀)
- 南岳靈辯禪師
- 南岳淨人方合
- 郢州刺史劉懷寶(此下三人南岳紀)
- 光州五百家巴子立
- 南岳府君影堂二十八人(見光師傳)
- 業高四百(此下見善師傳)
- 信重三千
- (三世)南澗慧旻禪師(此下四人嗣光師)
- 升堂受蒞一人

- 火光三昧一人
- 水光三昧一人
- 衡陽令陳正業(見善師傳)

智者旁出世家

- (二世)天竺真觀禪師
- 瓦官法喜禪師
- 國清智越禪師
- 瓦官法慎禪師
- 國清普明禪師
- 國清智璩禪師
- 佛隴智晞禪師

- 國清法彥禪師
- 廬山智鎋禪師
- 廬山大智禪師
- 玉泉道悅禪師
- 天台等觀禪師
- 華頂般若禪師
- 會稽禮宗禪師
- 棲霞法嚮禪師
- 玉泉行簡禪師
- 國清慧威禪師
- 碧澗法俊禪師
- 興皇慧獎禪師
- 南岳慧稠禪師
- 當陽德抱禪師
- 蔣山大忍禪師

- 佛隴慧辯禪師
- 玉泉道勢禪師
- 天台慧瑫禪師
- 天台惠普禪師
- 玉泉法盛禪師
- 玉泉法論禪師(下三人同紀)
- 會稽智果禪師
- 終南法琳禪師
- 國清智寂禪師
- 白馬敬韶禪師
- 定林法歲禪師(此下十一人天台紀)
- 禪眾智令禪師
- 奉誠法安禪師
- 玉泉法偃禪師
- 國清道修禪師

- 岳陽曇捷禪師
- 玉泉義邃禪師
- 國清師諫禪師
- 國清如朗禪師
- 佛隴慧綽禪師
- 天鄉法延禪師
- 慧日僧珍禪師
- 玉泉法才禪師
- (此下四人見百錄)
- 玉泉法璨禪師
- 玉泉道慧禪師
- 十住道臻禪師
- 陳少帝(天台紀)
- 陳皇太子
- 陳永陽王

- 隋煬帝(天台紀)
- 玉泉關王(天台紀)
- 中兵參軍陳鍼
- 太中大夫蔣添玫
- 開府儀同沈君理
- 尚書左僕射徐陵
- 光祿大夫王固
- 開府儀同柳顧言
- 五兵尚書毛喜
- 儒士梁方茂
- 開府儀同吳明徹(此下二人天台紀)
- 岳州刺史王宣武
- 侍中孔煥(此下二人沈博)
- 僕射周弘正
- 得門千數(梁氏禪林寺碑)

諸祖前列所以明正統也。至若旁出法嗣。自南岳照禪師之下。皆足以光昭法運力扶宗門。誘掖來機扞禦外務(扞音汗抵也。禦音語止也。務侮同)撫言行之要。考師弟之緣。撰歷代諸祖旁出世家。南岳旁出世家(二世)

禪師僧照。聞南岳妙善心觀特往參謁。凡所指授無不領解。後以南岳命行法華三昧。用銷宿障妙行將圓。覩普賢大士乘白象王放光證明。又感觀音為其說法。於是頓悟玄旨辯才無礙。師於眾中苦行禪定皆為第一。嘗用眾一撮鹽作齋飲。以所用無幾不以為慮。後行方等忽見相起。計三年增長至數十斛。急賣衣買鹽償眾。其相方滅。南岳入寂。師領眾行道不異於昔。

禪師大善。幼棲林野常誦法華。後參南岳得開觀慧。躬行法華三昧所入最深。常於山中講釋論時眾推服。大都督吳明徹問南岳曰。法華禪門真德幾何。岳曰。信重三千業高四百。僧照得定最深。智顗說法無礙。兼之者大善也。後於禪堂趺坐而逝。七日之內。天常雨華異香凝結。衡陽令陳正業。聞師道德之盛。每往禮敬。蒙示法要內心歡喜。後見內史鄭僧杲。數稱師德。嘗同獵圍鹿一群。謂正業曰。君常稱善禪師有慈悲三昧力。今日其如此鹿何。正業即率左右同聲念南無大善禪師。應時群鹿騰空而出。僧杲為之駭服(涅槃五百力士。舉石不能佛擲置虛空。令力士貢高心息。爾時實不舉石。當知慈善根力令見此事)。

禪師慧成。段氏。澧陽人。初受業於十住寺。誦法華淨名勝天王經二十餘卷。日為常課。既受具遊建業學成實論。一聽十年文理略盡。將歸本邑。聞南岳闡化之盛即往依

之。岳以師依文生解激之曰。汝一生學問。與吾炙手猶不得熱。虛喪功夫豈不惜哉。師承法訓憤。取章疏盡焚之。開眼坐禪夜以達旦。如此五年。岳令入方等觀音法華般舟三昧。歷試諸行以銷宿障。行之三年得解眾生語言三昧。彼閉目坐禪者。觀道雖明開眼或失。岳歎之曰。智顗先發三昧後證總持。慧成今又及之。二子行解亦且齊矣。續於荊州枝江(邑名)創造藍寺。殿缺巨梁。忽六月江漲。夢有木可中梁用。往江視之果然。信士段弘為精舍主。忽氣絕召師至舍。弘乃省曰。初被執至王所。見師上殿曰。我與此人共立功業未辦。願宥之。王起禮足許之。陳後主聞師名召之。毅然不往。常又令江總往迎。且戒之曰。師若不允不勞返也。使人雨淚強邀上船。師奮身入水立江中。使更請曰。若不蒙往總等粉身無地矣。師閔其意。從至闕下。帝躬身請戒法。賜所居曰禪慧寺。有常律師過。師同寢夜。擲蝨於地。明將告別。師曰。夜來一檀越被凍可

閔。常大慚。永以為戒。一日語門人急登殿階。吾當講涅槃。及事成建講。適智者自玉泉來。共談玄理。良久入定示滅。

禪師慧超。丹陽沈氏。幼入道誦法華。聞光州思禪師妙明三觀。與天台仙城命禪師同往請業。思師對眾稱之曰。超之神府得忍人也。後入嵩高餌藥坐禪。隋太子勇。召集名德總會京師。以師行業不群。獨留供養。有淨業法師隱居藍谷。欽師高道躬事邀迎。共止八年倍隆三慧。大業初。屢詔入宮說法。師所居常有數虎以任役使。平時誦經。五十餘年。幾一萬部。京邑名匠慧因保恭等咸就棲止以事請益。後因臥疾。示門人曰。生不忻死不戚吾之常也。第一義空清淨正觀吾之凭杖也。乃面西正坐入定。遺旨露骸松下以施禽獸。弟子如教。停月餘顏色不變。夜有霞光自身而發。時秦王世民聞之(唐太宗)遣人就視深歎希有。眾乃

造塔奉藏全身。

禪師慧耀。姓岐。襄陽人。初從南岳居數年。盡得心觀之妙。岳印之曰。子於實相理觀所造既深。宜隨方行化以酬本志。及南岳入滅。師至巴丘歎曰。此地禪法罕聞宜可開示。有道懿禪師。邀居道因寺。專尚禪寂不交人事。十有四年未嘗出門。一日謂人曰。吾不欲惱眾。欲往內華寺閒居。眾留不從。閱三年示疾。見南岳與仙城來迎。謂言。可同遊淨土。即趺坐入寂。葬全身於內華。

禪師慧涌。受法華三昧行法於南岳。行之既久遂獲證入。乃隱迹雲峯不與世接。六十餘年一志禪定。當出定之頃心無他務。唯誦法華。既而又證火光三昧。不知所終。

禪師慧威。江陵人。依南岳行法華三昧。得解一切眾生語

言陀羅尼。聞人畜禽鳥聲必知其意。後又發證神通。飛空履水如步平地。

禪師智瓘。早親南岳修法華三昧證入甚深。隱居鍾山未嘗越閩。煬帝屢詔勉為一赴。帝請問法要。禮為國師。

禪師慧命天台仙城人。來參南岳。聞說三觀深悟玄旨。得無礙辯說法如瀉。將終誠門人精進淨行。眾忽見阿彌陀佛與大士來迎。即隨佛向西升空而去。

禪師玄光。海東新羅人。遠越滄溟求法中夏。首造南岳授法華安樂行門。稟受勤行。俄證法華三昧。南岳謂之曰。汝還鄉國當以善權而行化度。若負螟蛉以成蜾蠃者也(詩。螟蛉有子。蜾蠃負之。教誨爾子。式穀似之。楊子。螟蛉之子。壹而逢蜾蠃祝之。曰類我類我。螟蛉桑上青虫。蜾

羸細腰蜂)師即禮辭南岳返錫江南。值本國海舶遂獲附載。方及大洋。忽覩采雲亂目雅樂盈空絳節霓旌傳呼而至。空中聲云。天帝召海東玄光禪師。師拱手遜避。即見青衣恭敬前。少選入大宮闕。見羽衛陳列。鱗介繁錯間以鬼神。咸仰敬曰。天帝降我龍宮請法師。說已證法門。吾曹受益不少矣。既升殿請陟高臺。天帝扣問。師為開演經七日而畢。帝躬送別。向所乘舟泛泛不進。師復登舟。舟人謂始半日耳(天親。上生兜率一遶彌勒座下。報無著已六月矣。此言天境時分常長。今光師龍宮七日說法。回至海船始半日耳。此蓋龍宮晝夜常短之驗。或欲以比地涌品六十小劫謂如食頃者。據疏記。六十非虛佛威所加。忘其為久。則知今龍宮既非佛國。又非佛加。應以龍宮自謂七日。船人自謂半日。各執情謂以之為實。如荊溪謂六十食頃。但是情謂非實短也)師既歸國。於熊州翁山結茅為居集眾說法。久之遂成寶坊。受道之眾咸蒙開悟。升堂受荊者一人(文

句。受記亦云受蒯。受是得義。蒯是別了)入火光三昧者一人。入水光三昧者二人。南岳影堂如圖二十八人。師居一焉。

淨人方合。常止南岳般若臺。為眾僧執役。密修禪觀既獲證悟。復得神通。每伸臂長一丈餘。

新羅光禪師法嗣(三世)

禪師慧旻。河東人。九歲出家。誦妙經朞月便過。年十五。請法於光禪師。英偉秀發宿士稱之。復十五年。還嘉禾海鹽主光興寺。講演法華。眾聞空中諸天彈指。異香滿堂。後止通玄寺。結徒行道。十七年間足不踰閩。隋末天下崩離。吳中飢饉四眾逃難。唯師守死禪誦。唐室之初。遷居南澗寺(在建康)有兩兔一彪。相親同止。一日眾聞異

香天樂。競以問師。師曰。吾後日當往也。寄世若浮雲。須蚤求度。及期果順化而逝。

智者大禪師旁出世家(二世)

禪師真觀。字聖達。錢唐范氏。其母誦藥王觀音品以求嗣。遂生師。舌羅紫文手有異相。幼聰寤博通經史。遇善相者謂之曰。年少當成大器何滯塵網。師始欲出家。二親未見許。夢天神告曰。汝子法中英傑。何得籠檻。於此父母自是從其志。初讀成實十誦。始開一卷。神夢語曰。汝是大乘法器勿守小道。陳永陽王伯智夙事師。遣使送師謁智者。致書為贄。智者以齒相若。待之以兄弟。高談寂照金石相宣。時人為之語曰。錢唐有真觀。當天下一半。大忍禪師見而歎曰。龍樹之道方興東矣。時朝廷征周失律(陳宣帝大建十年。命吳明徹。北伐周。兵敗為周人所執)議括

僧無名者令休道。師致書左僕射徐陵。事遂寢。隋文帝
朝。三勅勞問。秦孝王總管維楊。兩加延請。並辭疾不
赴。與道安禪師頭陀於靈隱山中。開皇十四年郡大旱。刺
史劉景安請講海龍王經。序王義方竟驟雨霈然。十五年。
始立精舍。五種法師於茲為備。每盥洗遺滯地為不濡。有一老
人曰。久旱何爾。師降雨。老人曰。山民無知鑿斷山脈。諸龍不
安使之若爾。師作法召諸龍與授菩薩戒。即時降雨。是夜有峨冠
許朱服頂禮作謝。師因問曰。近年多旱何耶。龍曰。人無正無
信多行惡行。以故惡天。將地肥流入深土。雖結五穀食無
肥膚旱涸不常固有涅槃經。出山之日手標葬處。六月六日。始臥
品。夢三人作禮告曰。淨居天遣迎禪師。六月六日。始臥

病。夢與天台同輦翼佛還山。覺已歎曰。昔六十二當終。講法華力得延一紀。今七十四。復致斯應。生期必矣。乃集眾訓曰。欲出生死欲具佛法。宜須持戒修定慧學弘通正法勿令虛度。至七月一日。眾聞空中技樂之聲。即趺坐示滅。道俗獻供日致千輩。至二十六日。容色儼然眉毫增長。乃自眾善。遷窆於所標之地。四部大眾者。亘一由旬。香蓋成陰幢幡蔽野。道德之感有若此云(師即天竺靈山始祖。章安嘗撰別傳。其本不存。慈雲之世重修其塔。作六詩以為識。其序略曰。今土門自開一無遺物。不知全身隨多寶以證經乎。像佛隴以化往乎)。

禪師法喜。力學無倦。參知識十七人得大開悟。年登六十。始於大蘇山值遇智者。一聞法音頓獲深證。於是盡舍舊徒專禪慧。陳光大元年。與同學二十七人從智者至金陵遊化。尚書毛喜嘲之曰。尊師猶少。弟子何老(時智者年三

十)師答曰。所事者德。豈論其年。又問何以為德。答曰。善巧說法即後代富樓那。破魔得道即今日優波鞠。喜善其對。常稱之朝列師行方等三昧。有雉來索命。神王訶之曰。禪師當往淨土即生得道。豈償汝命耶。後於瓦官趺坐入定。不起於座而終。

禪師智越。南陽鄭氏。父與求昏。師極辭以拒即出家。遊方至金陵遇智者。北面受業。五門六妙莫不深達。誦法華經至滿萬部。智者晚歸台嶺付以四眾。二十年間循循善誘。德量寬曠學者歸心。所居之處瓶水自滿。自晉王造寺及登帝位。山中每遣僧使。奉啟致賀。必以師名居首。上虛己加敬。若智者在日無異。每獲嚫施用為功德。未嘗有所畜也。大業十二年十一月二十三日。告眾為別右脇而逝。風悽雲慘地動山頽。天雨異花一境冥晦。

禪師法慎。初居金陵大莊嚴寺。從智者稟受三觀豁然深證。因定發持一聞能記。陳大建三年。智者於瓦官說次第禪門。師於聽次。私記為三十卷。尚未修治不幸入滅。其後章安治定為十卷即禪波羅蜜漸次止觀也。

禪師普明。會稽朱氏。少有異志。嘗聚沙為塔刈蒿為殿。有僧乞食見之曰。郎子有善根可向天台出家。彼有初依菩薩現身說法。陳大建十四年。來天台值智者講次。座眾初散禮足歸依。智者笑曰。宿世願力今復相遇。於是服勤左。右專習禪法。行方等般若諸三昧誦通法華。後隨智者止廬山。於陶侃瑞像閣。行請觀音三昧。隆冬身不衣絮。正行道間。見一異僧。謂之曰。汝名法京未為嘉稱。可改為普明。此言明者。謂能照了三世也。智者聞之曰。既是冥示宜從新名。智者住玉泉。令造大鍾充佛隴。用勸江陵道俗競為經營。偶盲人來視。師知相不吉。模開果缺。乃倍工

再冶。誠不具者莫至。其聲遠聞七十里。暨居國清以取水為艱。指其石曰。此石出水不亦快乎。泉即涌出日給千眾。嘗鑄丈六盧舍那像。感異人施金為助。國清講堂狹小師欲廣之。章安勸勿改。俄而栢州都督周孝節(溫州在陳隋為栢州)施杉柱泛海而至。章安在赤城。忽見師身十餘丈。高出林表。翼從數十人。語章安勿苦諫吾所作當有成。章安感其神異望林合掌致敬曰。當依仁者區畫。創堂之日。感山神隱形而至。若雷震。摧樹傾枝。闊一步許。自佛隴下至於寺。日暮還返。聲如初至。比房聞師與之共語。多勸神為善。建堂既畢。忽蓋破衣與眾言別。奄然坐逝。信宿屈左三指。師不畜私財。以所得施。造金銅像十軀。閱大藏二過。每作利益事。一運其心金帛自至。

禪師智瓌。臨海張氏。父懷仕陳為中兵參軍。年十七。二親俱亡。服滿染病久醫無效。乃力疾出庭向月而臥。至心

念月光菩薩。繫念旬日。夜中夢人以口就身噓吸。如此三
夕疾遂瘳。因投安靜寺出家。聞智者為世良導。即往請業
行法華三昧。至二七日初夜。懺畢。就床欲坐。見九頭龍從
地而起。上升虛空。智者釋曰。此表九道眾生聞法華經。將
破無明地。入法性空耳。嘗往寶林寺行懺。初夜有人來撼戶
扇。師問何人。答曰。我看燈耳。有成禪師聞之曰。此堂
有惡鬼。今此聲者鬼也。即啟永陽王。遣十人執仗為護。
師謝遣之曰。命由業耳。是夜鬼入堂槌壁擊柱。周遍東西。
師行道禪誦坦然無懼。三七日內事常如此。行法將訖。見
一青衣童。稱讚善哉。言已不見。又因往會稽。路由剡縣乞
食。主人誤進毒葷。食訖前邁。主人啖者。皆吐利委頓。
隣人追師十里語之。師笑曰。貧道幸無他。大業元年。煬
帝巡幸楊州。師自國清御使還山。為智者設千僧齋度一百
勞。遣通事舍人盧正方送還山。主上每加異禮。唐貞觀十二年。無
人。師前後八入參覲。

疾正坐入滅。壽八十三。

禪師智晞。陳氏。潁川人。先世遊宦寓家於越。年二十。往投智者剃度。稟受禪訣旦夕研心不見倦色。智者入滅。受命居佛隴。時眾行三昧者頗盛。殿堂展闢制度嚴整。唯香臺未架。當香鑪峯多檉柏木師欲伐用。眾疑神所據。夜夢神送疏舍木。遂遣伐之。寺眾法雲。欲往峯頂禪坐。師止之曰。汝道力微弱。山神剛猛不宜往。雲不從。甫留一夕。神現形軀令還。初智者勸沿江居民舍[竺-二+(一/(尸@邑))]
梁為放生池。歷年未久復行漁捕。師與章安。禮智者塔焚香呪願。有漁人見僧立[竺-二+(一/(尸@邑))]
上。意謂墮水者乘舟往救。忽不見。居人覩驗遂停採捕。時群獸悲鳴眾鳥翔集。屢日不止。東山銅鍾忽響震山谷。師曰。此召吾也。乃香湯沐浴趺坐執如意。說法良久寂然無聲。眾方號泣。復啟目戒之曰。有生必滅寧足為悲。或問生處。

曰據吾夢驗當在兜率。宮殿青色居天西北(涅槃經。以兜率天常愛青色。用青色三昧以破此天之有)見吾先師侍左右者皆坐寶座。唯一座空吾詢所以。答云。却後六年。頂法師當升此座說法。師常往阿育王寶塔。禮八萬四千拜。感紫文印手方整明瑩。臨終告弟子曰。眾聖印我。吾今往生內院矣。忽聞弦管之聲。即跌坐而化。時貞觀元年十二月十八日也。

禪師法彥。清河張氏。陳大建七年。侍智者於天台。授禪那之旨。寂坐林間不居房舍。常入定七日方起。智者證之曰。如汝所說是背捨觀中第二觀相。山神數嬈試之。恬不為動專修禪法。三十餘年常坐不臥。隋大業七年二月晦。於國清跌坐而化。

禪師智鎋(音楷)豫章夏侯氏。博通三論著名當世。及見智

者。稟受禪法深有開悟。晚入廬山造大林精舍。專志修禪。莫測其證。二十餘年影不入俗。隋文帝召入京。辭疾不赴。豫章郡守請講法華。力拒之曰。吾當終於山舍。既而道俗懇請不已。勉為之行講經未竟。果終於州治之寺。人始悟其先知。時炎暑正盛端坐如生。異香滿城數日方歇。眾奉禪龕還葬廬阜。

禪師大志。會稽顧氏。依智者出家。以其志趣高放。為立此名。每誦法華音聲清轉聽者忘疲。既獲聞禪要。乃於廬山甘露峯行杜多行。投身猛虎虎輒避去。山粒或絕終日忘餐。或得餅果繼命而已。如是七載。禪誦不休。晚住福林。會大業中屏除佛教。師素服哭於佛像前者三日。誓舍身申明正道。遂往東都上表曰。願陛下興隆三寶。貧道當然臂報國。上許之。遂集七眾設大齋。絕糧三日。升大棚。布裹其臂。灌蠟作炬。度火然之。光耀巖垆。見者莫

不心痛。師面色不變。讚佛誦經為眾說法。聲未嘗絕。燒畢下棚。入定七日跏趺而終。撰願文七十紙。廬山諸寺。除夜眾集。讀誦此文。為之酸結。

禪師道悅。昭丘張氏。十二投玉泉依智者出家。誦大品般若及妙經。日為常課。時造寺之初未有鍾磬。師於泉源得怪石縣之。每誦經卷通輒扣下。聲韻清徹聞者肅然。幽冥之徒屢獲祥感。偶患水脹腹急如鼓。唯念般若求勝應。一夕腹水迸流洪腫消退。隋末兇賊朱粲率徒入山。師端坐不動曰。吾沙門也。浮幻形骸任加白刃。賊異之不敢犯。師身衣麻。終日止一食。常分其半以資飛走。或翔集房上。或招來掌中。慈善所熏忘懷無畏。衣雖弊壞絕無蚤蝨。常於隣居乞蝨養之。勸其莫殺。居山五十年。操行若一。臨終預與人別。即端坐合掌而逝。後有人見僧跪足擎鉢於清溪之上。自稱為般若師。蓋師常誦是經。人以是為稱也。

禪師等觀。富陽孫氏。受心觀於智者。居天台常誦法華。貞觀九年冬。餘杭法忍寺請師講演。明年正旦有王服者。至稱臯亭廟神。來謁師曰。禪師昨過廟廷。適弟子巡遊不及奉迎。今故遠來專求戒法。師即索鑪然香為授菩薩大戒。禮謝而退。明日夜半沐浴更衣。面西趺坐。稱三聖尊號及智者號。各百餘聲。復為惠法師說三觀法門。且云。此吾親承大師口說。言畢而終。

禪師般若。高麗人。開皇十六年。來詣佛隴求禪法。未久有所證悟。智者謂之曰。汝於此有緣。須閒居靜處或辨妙行。華頂峯去此六七里。是吾昔日頭陀之所。住彼進道必有深益。師即遵奉明誨。宴坐十六年未嘗下山。忽一日。往佛隴上寺。有三人侍行。須臾不見。次至國清下寺。告別同志。居數日無疾而化。龕出寺門開眼示別。至山閉目

如故。

禪師禮宗。宋氏。會稽人。初參長壽通達禪觀。壽曰。良玉徑尺。千仞之土。不能掩其光。後往見智者。學三觀法門大有契悟。嘗注涅槃經疏為時所重。景龍三年(唐中宗)御史憑忠忽暴亡。有二童子領師庭對。判官案覆罪籍。見亡舅張思義曰。汝不合後宮中。亂越致此冥追可發願造涅槃疏并鑄鍾。庶消往過。疏是禮宗禪師所述者。此師親見智者傳授。每有天神守護。忠依舅誠遂獲放回。尋疏未獲再被冥譴。忠乞三日尋寫復俾其返。誠意搜求果得其本。遂急為經理後以壽終。

禪師法響。楊州人。年十六。辭親入道從智者學。誦通法華。乃於棲霞寺側立法華堂。行三昧既獲證悟。默而不言。山中猛虎日害數人。眾設大齋以為禳禱。忽見一虎入

眾中攫一人去。師高聲呼云。今日專為汝設齋可放此人。虎即置人而退。頃之群虎數十大集齋所舉眾驚避。師至虎前以杖扣群虎頸為其說法。自此之後遠遁無迹。

禪師行簡。親承智者剃度。稟受禪法常坐不臥。智者在玉泉。令往澧州教化。耕牛回至中路。忽逢群盜。斬師之首奪牛而去。師之屍形即從地起。以手捧頭安項上。健步如飛來追賊黨。賊皆驚異遂還其牛。誓終身為奴以求謝過。今莊中佃奴。有姓向者。是其後。

禪師慧威。依智者學心觀頓獲開悟。後受遺託造國清寺。凡所建立效力為多。密行殊常人不能測。

禪師法俊。初於金陵見智者。行法華三昧即獲悟入。後弘法於碧澗。學者歸仰。入滅之日。仙樂盈空天香亘野。大

眾望其隱隱西去。

禪師慧獎。初居興皇寺。謁智者。學深禪定。每誦法華。人聞天香滿室。非世所有。

禪師慧稠。參智者學三觀。後居南岳。背誦法華華嚴。日為常課。外人嘗見天神翼衛左右。

禪師德抱。當陽人。從智者學禪法久而獲悟。誦法華多瑞應。數十里咸聞異香。煬帝敬異。賜號大覺禪師。禪師大忍。擅得梁代。養道蔣山。時與智者義集山中。頓悟禪慧。乃歎服曰。此非文字所出。乃是觀機縱辯般若。非鈍非利。利鈍由機。豐富適時是其利相。池深華大鈍可意得(智論。見兩猛知龍粗。觀池深知花大)餘輝有幸可不自慶。

禪師慧辯。稟姿聰寤。聞智者開演觀道。默記無遺。如水傳瓶一滴不漏。後於佛隴會別大眾。架木成樓舉火焚軀用報佛德。煙籠林表舍利交凝。

禪師道勢。幼負材器。遍參知識。凡所入室莫投其機。及見智者於玉泉。開說止觀頓獲妙悟。

禪師慧瑫。聞智者說法即入深定。一坐旬日率以為常。所居之室神光夜照。

禪師慧普。早親智者。聞深禪法常行法華三昧。感普賢乘大白象放光照身。忽然悟入。

禪師法盛。初於玉泉見智者。稟受法要。旦夜不離禪定。後親受觀心論深悟玄旨。智者既往。乃於玉泉大敷教化。

唐初入京師每說法。口出光明。四眾戴仰。同於真佛。朝廷尊其道。賜號悟真禪師。

禪師法論。依玉泉學。與會稽智果終南龍田法琳。皆同學智者。並與智者作傳。皆不復存。章安所撰別傳。用國清智寂禪師本。稍加增益遂行於世。此四師雖無事迹可尋。亦皆當時得道英器(見百錄序及別傳注)。

禪師敬韶。會稽上虞顏氏。初於白馬寺。弘化十年。智者居瓦官。躬詣求學深入定慧。陳至德元年十月。卒於鍾山開善寺。

禪師僧珍。師事智者行解深著。初住京師勝光寺。唐武德四年(唐高祖)簡取名勝。住同華兩州。朝廷舉師往住慧日。時唐論是之(佛道論衡)。

陳皇太子淵。後主子也。至德四年正月十五日。於崇正殿設千僧齋。請大師授菩薩戒(百錄請戒文名淵。南史名深。恐因請戒改此名)其請戒文云。重道尊師由來尚矣。請世世結緣遂其本願。授戒之日傳香在手。臉下垂淚。師為立名善萌。及後為隋所破。方悟垂淚者。識自傷也。善萌者。不成材幹也。禎明三年正月。隋破陳。兵士扣閣而入。時太子年方十五。安坐勞之曰。戎士在路不致勞乎。三月隨後主入隋不知其終。

陳永陽王伯智。字策之。文帝第八子。至德初出為東陽刺史。請大師出鎮開講。致書至三。師遂往王與子湛家人同稟菩薩戒執弟子禮。晝聆講說夜習坐禪。講事將解。立法名曰靜智。製疏文設大會。度人出家鑄大士像。其疏有云。願生生世世。與天台闍黎及講眾黑白。恒結善友俱向

一乘。師謂門人智越曰。吾欲勸王修福禳禍。越曰。府僚非舊。或有炎涼。遂止。其後王出遊。墜馬將絕。師為率眾行觀音懺法。遂覺微醒凭几而坐。見一梵僧手擎香鑪遶王一匝香氣裴回痛惱頓釋。

陳鍼。智者之兄。為梁晉安王中兵參軍。年四十。仙人張果相之曰。死在期月。師令行方等懺。鍼見天堂門牌曰。陳鍼之堂。後十五年。當生於此。果後見鍼驚問曰。君服何藥。答曰。但修懺耳。果曰。若非道力安能超死。竟延十五年而終。智者嘗為其撰小止觀。咨受修習夙夜不怠。

蔣添玖。官太中大夫。吳明徹位儀同公。皆陳朝貴重。同稟息法。久習不懈。神明凝寂。雖舊苦脚疾亦為之愈。

沈君理。字仲倫。吳興人。尚陳武帝女會稽長公主位儀

同。受大師菩薩戒。製疏請住瓦官開法華經題。宣帝勅停朝一日。令群臣往聽。時光祿王固。侍中孔煥。尚書毛喜。僕射周弘正。俱服戒香同餐妙法。仍請一夏剖釋玄義。道俗俱會開悟為多(妙玄云九旬談妙。即此時也)。

徐陵。字孝穆。東剡人。母臧氏。夢五色雲化為鳳集左肩上已而誕。陵年數歲。家人携以侯沙門。寶誌摩其頂曰。天上石麒麟也。光宅雲法師見陵歎曰。顏回之儔也。八歲善屬文。少仕於梁。陳大建中。官至尚書左僕射。嘗夢其先人曰。禪師是吾夙世宗範。汝宜一志事之。陵奉冥訓資敬盡節。參不失時拜不避濕。每蒙書疏則洗手焚香。冠帶三禮。屏氣啟封對文伏讀。儀同沈君理請開法華。陵預聽席。以為餘年得逢妙說。致書自慶。後對大師立疏發五願云。弟子思出樊籠。無由羽化。既善根微弱。冀願力莊嚴。一願臨終正念成就。二願不更三塗。三願不高不下處

託生。四願童真出家如法奉戒。五願不墮流俗之僧。憑此誓心以策西暮(二書見百錄)陵後身果為法華第六祖嗣章安之位。陳後主在東宮。召陵講大品。義學名僧自遠雲集。陳既破。嘗隨智者研精法要。晉王求淨名義疏。大師續為撰成二十八卷。陵與柳顧言並應奉文義。

王固。字子堅。陳光大初為侍中。進金紫光祿大夫。終身不茹葷。夜則坐禪晝誦佛典。嘗聘魏。因宴饗請停殺一羊。羊至固前。跪拜若謝。又宴昆明池。魏以南人嗜魚。大設網罟。固以佛法禁之。一鱗不獲。大師講法華於瓦官。固預法會。即坐開悟。宛同宿學。

柳顧言。法名正善。河東人。晉王初受菩薩戒。遣顧言送智者施物。及屢奉王教。往留智者。頻聞法要深有省發。智者回自江陵。晉王重乞稟受禪法。師為著淨名義疏初

卷。顧言與徐陵奉酬文義。後智者續成玄義十卷。顧言報曰。持往仁壽宮。服讀八遍。粗疑略盡。細闇難除。新治六卷。并入文八軸。為莊治未竟。少日鑽研。今遣使人蕭通國參承書意。自當仰簡。顧言頻被顧問。每答以大師必來。願在夏竟。便事舟楫。冀此殘年盡心聽受。懺悔往日懈惰之咎。大業元年冬。煬帝勅顧言。為智者建碑於天台國清。主文尚理。人服其工。官至儀同三司。

毛喜。字伯父。陽武人。少好學善草隸。陳宣帝時。為五兵尚書。瓦官法會獲預聽眾。懇求禪要。躬執弟子禮。受六妙門及四十二字法門。旦夜研習不因事廢。大師在石像。欲往天台營道場。喜致書勸回。謂鍾嶺攝山亦足棲心。而大師志願有素不復可挽。

佛祖統紀卷第九(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十

宋景定四明東湖沙門志磐撰

章安旁出世家(旁出之二)

- (二世)龍興弘景禪師
- 南岳大慧禪師
- 嘉祥吉藏禪師
- 天台明曠禪師
- 玉泉道素禪師
- (三世)耆闍智拔禪師(嗣藏師)

天宮旁出世家

- (二世)永嘉真覺禪師

左溪旁出世家

- (二世)焦山神邕禪師
- 支硎道遵禪師
- 佛隴大義禪師
- 紫金元宗禪師
- 四明道源禪師

- 婺女清辯禪師
- 婺女行宣禪師
- 婺女圓淨禪師
- 婺女法開禪師
- 三衢道賓禪師
- 三衢慧從禪師
- 毘陵守真禪師
- 錢唐法燈禪師
- 錢唐法真禪師
- 會稽法源禪師
- 新羅法融禪師(下三人左溪紀)
- 新羅理應禪師
- 新羅純英禪師
- 居士傅禮
- 居士王元福

- (三世)焦山智昂禪師(下四人嗣邕師)
- 焦山靈澈禪師
- 焦山進明禪師
- 焦山慧照禪師
- 支硎靈輸禪師(下四人嗣遵師)
- 支硎法盛禪師
- 支硎道忻禪師
- 支硎靈源禪師

荊溪旁出世家

- (二世)南岳普門禪師
- 龍興元皓禪師

- 華頂行滿禪師
- 天台智度禪師
- 建安法顓禪師
- 雲峯法證禪師
- 無姓法劍法師
- 翰林學士梁肅
- 吏部郎中李華
- 散騎常侍崔恭(下四人皓師傳)
- 諫譏大夫田教
- 身通三十九人(大師傳論)
- (三世)曇環禪師(嗣門師)
- 智淨禪師(此下五人嗣皓師)
- 仲義禪師
- 子瑜禪師
- 道如禪師

- 仲良禪師
- 龍興重巽法師
- (四世)中丞柳公綽
- 刺史柳宗元
- 中書鄭綯
- 刺史孟簡

興道旁出世家

- 興善守素禪師
- 日本最澄禪師

至行旁出世家

- 天台良湑禪師(下二人至行紀)
- 天台敬文法師
- 天台光韶法師
- 天台維蠲法師
- 天台刺史韋珩(至行本紀)

正定旁出世家

- (二世)天台敬休法師
- 天台慧凝法師

- (三世)天台處源法師(嗣凝師)
- (四世)天台玄廣法師

妙說旁出世家

- (二世)國寧常操法師
- (三世)國寧義從法師
- (四世)國寧德儔法師(嗣從師)
- (五世)定水慧贊法師(四明下二人嗣儔師)
- 法性修雅法師(會稽)

高論旁出世家

- (二世)慈光志因法師
- 演教覺彌法師(錢唐龍興)
- (三世)慈光悟恩法師(此下四人嗣因師)
- 雍熙可榮法師(姑蘇)
- 海南懷贇法師
- 錢唐義清法師
- (四世)奉先源清法師
- 靈光洪敏法師
- 慈光可嚴法師
- 慈光文備法師
- (五世)梵天慶昭法師(此下四人嗣清師)
- 孤山智圓法師
- 崇福慶巒法師(錢唐)

- 開元德聰法師(會稽)
- 廣慧蘊常法師(錢唐嗣嚴師)
- (六世)永福咸潤法師(此下三人嗣昭師)
- 報恩智仁法師(會稽)
- 永嘉繼齊法師
- 孤山惟雅法師(嗣圓師)
- (七世)永福善朋法師(會稽嗣潤師)

淨光旁出世家

- (三世)慧光宗昱法師(國清)
- 廣教澄或法師(錢唐)
- 廣教寶翔法師(錢唐)

- 石壁行靖法師(錢唐)
- 石壁行紹法師
- 勝光瑞先法師(天台)
- 通鑑知廉法師
- 崇法願齊法師
- 高麗諦觀法師
- 吳越錢忠懿王
- 常寧契能法師(溫此下十師嗣昱師)
- 通照覺明法師(錢唐千頃)
- 安國至臻法師(下並錢唐)
- 寶山懷慶法師
- 明教曉乘法師
- 寶藏悟真法師
- 頂山懷至法師(姑蘇)
- 靈鷲志倫法師(下並錢唐)

- 安國肅閑法師
- 慈惠慶文法師(會稽)

寶雲旁出世家

- (二世)天竺遵式法師
- 延慶異聞法師
- 興國有基法師(四明)
- 廣慧體源法師(四明與矩師書)
- 承天清曉法師(錢唐)
- 錢唐善信法師(四明本紀)

章安旁出世家

禪師弘景。富陽文氏。貞觀二十二年。於玉泉奉勅得度。依章安稟受止觀。常誦法華。蒙普賢示身證明。天童奉侍左右。後於寺南十里別立精舍曰龍興。天后證聖元年。詔同實叉難陀等譯華嚴。自天后至中宗。凡三詔。入宮供養。為受戒師。後乞還山。帝勅於林光宮。同天下名僧二十人修福置齋。帝親賦詩。令中書令李嶠等應和以為贈。師捧詩長揖振錫而行。天下榮之。

禪師吉藏。金陵人。七歲依興皇朗法師出家。咨決大義。後遊會稽止嘉祥寺。講演法華自著章疏。智者再歸天台。師與禪眾百餘人奉疏請講法華不赴。暨章安弘法稱心。因求法華玄義。發卷一覽。即便感悟。乃焚棄舊疏深悔前

作。來投章安咨受觀法。煬帝時勅住京師日嚴寺。開演妙經四部雲擁。唐高祖詔居延興寺。一日晨起沐浴焚香。稱佛名安坐而化。平時寫造妙經二千部。講法華三百遍。大品華嚴維摩大論。各數十遍。並著章疏行世。臨終之日製死不怖論。投筆而化。

禪師明曠。天台人。依章安稟教觀。廣化四眾專誦法華。章安撰八教大意。師首於三童寺錄受。平時著述甚多。今所存心經疏耳。

禪師大慧。唐太宗賜號而忘其名。初聞章安說止觀即得妙悟。隱居南岳專事修禪。鳥獸馴於坐隅。人服慈化。

禪師智拔。襄陽張氏。六歲依常濟寺出家。日誦法華五紙。經中理義略有規繩。常曰。斯經乃諸佛出世大事也。

一人一道非弘不通。周聽既畢。入京師值吉藏禪師。命令覆述。師曰。一乘為雲遂分為三亦可一乘為雨分為三否。眾無對。藏師曰。拔公此問深得經旨。遂囑以大法。後住耑闍山寺。常講法華一年五遍。貞觀十四年九月。於信士張英家開法華題竟。與眾言別。即於座上加趺而化。

天宮旁出世家

禪師玄覺。永嘉戴氏。出家遍探三藏。精天台止觀圓妙法門。四威儀中常冥禪觀。因左溪朗公謝厲。遂與東陽策禪師。同詣曹溪見六祖振錫携瓶遶祖三匝。祖曰。夫沙門者。具三千威儀八萬細行。大德何方而至生大我慢。師曰。生死事大無常迅速。祖曰。何不體取無生了無速乎。師曰。體即無生了本無速。祖曰。如是如是。於時大眾無不愕然。師方具威儀參禮。須臾告辭。祖曰。返太速乎。

師曰。本自非動豈有速耶。祖曰。誰知非動。師曰。仁者自生分別。祖曰。汝甚得無生之意。師曰。無生豈有意耶。祖曰。無意誰當分別。師曰。分別亦非意。祖曰。善哉善哉。少留一宿。時謂之一宿覺。翌日下山復回溫江。學者輻湊。號真覺大師。睿宗先天元年。安坐示滅塔於西山。賜諡無相大師。塔曰淨光。慶州刺史魏靖。緝所著文為十卷號永嘉集。

因草菴曰。魏靖收遺文總十篇為一集。答友人書。尚附其中。而不收證道歌者何耶。抑有說焉。以證道名歌。而如來設教修證之法。不出藏通別圓。今所謂道者。藏通修證乎。別圓修證乎。若舍此而別有修證者。得非永明所謂不依地位天魔外道者乎。義神智曰。討疏尋經分別名相自不達耳。非經論過。不知討誰疏耶。若慈恩等疏則可耳。若天台疏皆有方軌。攝法入心觀與經合。非數他寶。豈可謂

之分別名相而已哉。

洪覺範曰。梵僧覺稱。謂西竺目此歌。為東土大乘經。若以義天跋別傳議例之。此歌特未遭有識者。焚之耳。

論曰。左溪本紀。稱為真覺為同門友。真覺傳中。稱左溪激厲遂謁曹溪。而又言精於天台止觀之道。是知同學於天宮無可疑者。況永嘉集中全用止觀遮照之旨。至此當益信。是宜繫之天宮用見師授之意。但世傳證道歌。辭旨乖戾。昔人謂非真作。豈不然乎。

左溪旁出世家

禪師神邕。字道恭。晉太尉蔡謨之後。世居越之諸暨。在襁褓中聞唱經聲必凝神靜聽。年十三入道。依法華俊師。

開元二十六年。奉勅得度。從儼師學四分律。儼曰。此子必為學者司南。既而去依左溪。學止觀法華玄義。五夏敷演。聽者悅服。天寶中遊長安居安國寺。公卿問道結轍而至。適安史繼亂振錫東歸。道出襄漢。有著作郎韋子春。學瞻氣剛與之酬酢。子春墮負滿座驚服。中書舍人范咸歎曰。師可謂塵外摩尼(取若珠之明瑩不染塵也)論中師子(取其論說若師子吼)既返故鄉。居法華寺。自至德訖大歷。頻受眾請登壇受戒。自丹陽以南。金華以北。稱為教授師。建伽藍於焦山賜額。大歷初。中岳道士吳[竺-二十切]。造論毀佛。觀察使陳少遊。請決之。師約吳[竺-二十切]面論邪正。旗鼓纔臨[竺-二十切]已敗北。遂著翻邪論三卷以攻餘黨。弟子智昂靈澈進明慧照等。依學有年。咸明禪慧。為當時聞人焉。

禪師道遵。字宗達。吳興張氏。年二十。受具戒學毘尼。

復參左溪習止觀及法華三昧。嘗從容謂門人曰。堯舜之民
不必獨義。教之至也。教若不至民何咎焉。乃廣寫法華。以
置經院於姑蘇支硎山。舉高行沙門二十七人。常持法華。尚
燭繼晝。用揚大雄之慈聲。大歷元年。郡刺史韋元甫。自江
書劉晏等。尊慕大乘相與表奏。賜名法華道場。於是自江
以東。置經院者十七所。皆法於師也。師於山中鑄像寫
經。講演妙法臨壇度人。歲無虛景。天寶元年。於靈巖道
場行法華三昧。忽覩大明上燭於天。身在光中以問荊溪。
溪釋之曰。智惠光明從心流出。將以顯發第一義天者也。
又嘗見此身在空中坐。先達謂是垢盡理明洞達無礙之相。
興元元年七月晦。無疾告終。寺眾同夢大殿忽傾。咸知法
匠將亡之兆。傳教門人靈輸法盛道忻靈源。皆善弘禪法
云。

禪師大義。蕭山徐氏。七歲授經傳。日誦數千言。年十

二。入道於山陰靈隱寺。中宗登位覃恩度人。試誦法華中選第一。開元中。因喪親入佛隴閱大藏以益冥報。遂謁左溪稟受止觀大悟玄旨。常誦法華涅槃大小戒本。以為正業。臨終之日。眾聞弦管之聲。議者謂天帝迎請誦經之相。

禪師元宗。永嘉吳氏。遊學至江陵。謁左溪稟受禪要。後於紫金山專修禪觀。初是山中多虎自師卜居。絕不見跡。一日學徒盛集。忽一老人趨拜座前。自言弟子乃虎。在此噬人多矣。因師開化得脫業軀。今將生天上特來報謝。言訖不見。大歷二年。端坐示滅。

禪師道源。四明人。受業大寶寺(今慈溪永明)久依左溪咨受止觀之法。洞達奧旨。學眾心服(李華左溪碑云。明州道源。飽左溪之道味)。

禪師法源。受業越之法華。學左溪得其道(顏真卿。撫州寶應寺戒壇記。乃請止觀大師法源。法泉。同住熏修。時大歷六年也)。

荊溪旁出世家

禪師普門。岳陽何氏。父玠為常州儀興尉。因家焉。師幼勤學問。登進士第入仕於朝。一旦悟世虛偽。抽簪去髮居南岳寺。左右唯儒釋典籍。麻衣葛履而已。既而去謁荊溪。學止觀法華之旨深有造詣。善屬文。尚古意。荊溪敬之待以友道。為釋籤輔行兩序。自稱普門子。其辭簡健。歷指習禪者之弊。梁肅稱之曰。東南高僧普門元皓。予甚深之友也(送虛師序)貞元八年季冬六日。示寂於君山之偏室。春秋八十四。傳教門人曇環。集遺文二百篇行於世(儀

興縣君山鄉。淨樂寺。荊溪之受業。相去數里。有南岳寺)。

禪師元皓。字廣成。吳門秦氏。初於龍興寺從荊溪受法華止觀之道。宴處山林居心三昧。後住開元寺。梁田二君勸其著述。乃注解涅槃。於首序中自錄所證。著疏之時。感庭階產異華。人世莫識。五采靈禽飛翔往來。元和十二年仲冬示寂。塔於虎丘之南原。師之同學知名者百餘人。不列僧數者。翰林梁肅。諫議田敦。常侍崔恭三人也。門人稟教名世者。智淨。仲儀。子瑜。道如。仲良輩。

禪師行滿。萬州南浦人。首造石霜學禪法。後住天台。聽荊溪說止觀頓悟妙旨。因棲止華頂峯下智者院充茶頭。夜臥土床。燒糞掃以煖其下。脫衣就床。蚤蟲群咬。或捫其衣。寂無有也。所居檻外大松上有寄生小樹。遇師出坐必

嫋嫋低俯。時謂此樹為茶頭作禮(嫋而酌反長也)師於四十年間未嘗便溺。或謂大士現身。受食而實不食。故致此也。開寶中。預告人曰。我且行矣。即請眾誦文殊號。泊然而化。年八十八。嘗著涅槃疏。禪師法顥。於毘陵建安寺築止觀堂。請荊溪講說其中。梁肅為作止觀堂記。

梁肅。字敬之。安定人。大歷貞元間。文士多尚古學。唯肅最稱淵奧。柳子厚記先友亦稱。其最善為文。嘗學天台之道於荊溪。深得心要。執弟子禮甚恭。以止觀文義弘博覽者費日。乃刪定為六卷(慈雲有云。文雖簡要。而修相關略)。又述統例以繫於後。謂止觀是救世明道之書。又為大師傳論。備敘傳教之大統。世謂論其文則雄深雅健。語其理則明白洞達。御史崔恭論之曰。知法要識權實。作天台禪林寺碑。達教源用境智。作荊溪大師碑(見崔恭作梁氏集序)又曰。朝廷尚德。故以公為太子侍讀。國尚實錄。故以

公為史館修撰。發號令敷王猷。故以公為翰林學士。三職齊著。則公之官於朝。不為不達矣。年過四十。士林歸宗比夫顏子黃叔度。不為不壽矣。彼碌碌者老於郎署。白首人世又何補哉。

李華。字遐叔。趙州贊皇人。累中進士宏辭科。天寶十一年。徙右補闕。安祿山亂屏居江南。李峴。表置幕府。擢吏部員外。即苦風痺。去官客山陽。勒子弟農。安於窮槁。晚事浮圖法。不甚著書。唯士大夫家傳墓版。州縣碑頌。時時齎金帛往請。乃強為應。嘗從荊溪受止觀。為述大意一篇。大歷初卒於家。

興道旁出世家

法師守素。初從邃師受觀心之法。既悟玄旨。入居京師大

興善寺。足不越閭長誦法華。至三萬七千餘部。夜則虎狼侍座聽經。食則烏鵲就掌取粒。沙門幽玄贈之詩曰。三萬蓮經三十春。半生不踏院門塵。時以為實錄。

高論旁出世家

法師悟恩。字修己。路氏常熟人。年十三。聞誦彌陀經心有所感。遂投破山興福寺求度。初學毘尼。聞天台三觀六即之說深符其意。晉開運初。造錢唐慈光因師室。因講次覆述剖析幽微。時稱義虎。及繼踵開法。道名大播。初是一家教典。自會昌毀廢文義殘闕。師尋繹十妙研覈五重。講演大部二十餘過。法華大意昭著於世。師之力也。與人言。不問賢愚悉示一乘圓意。或疑不善逗機。師曰。與作毒鼓之緣耳。平時一食。不離衣鉢。不畜財貨臥必右脇。坐必加趺。晨粥親視明相。每布薩(此云淨住)大眾雲集。

潛然淚下。蓋思大集有無戒滿閻浮之言也。每以淨業誨人。往生者多感瑞相。雍熙三年八月朔。中夜有白光自井而出。謂門人曰。吾報緣盡矣。乃絕粒禁言一心念佛。忽夢擁納沙門。執金鑪焚香。三遶其室。自稱灌頂。吾已生淨土。嘉汝所修。故來相迎。夢覺語其徒。猶聞異香。二十五日。為眾說止觀指歸及觀心大義。即端坐面西而逝。寺眾文偃。聞空中絲竹鈴鐸之音。久而漸遠。荼毘得舍利無算。後三十一年。法孫智圓。獲遺骨於學眾。乃鑿石為塔。葬於馬腦坡。

法師文備。字昭本。福之侯官鄭氏誦法華維摩圓覺十六觀小般若等。精練不忘。晉天福間。至會稽傳百法論。聞天台三觀為學者指南。遂來謁因師晝夜研心。凡法華淨名光明疏句止觀諸文。悉洞其旨。每與同門恩師。覆述觀法莫逆於心。恩謂人曰。備雖後進。已與吾並驅於義解之途

矣。恩師既沒。復北面事恩以卒其業。師氣度深靖。終日如愚。或勸其誨人。師曰。講授滿門。祖風未墜。抗迹開居。從吾所好。於是陶神妙觀。坐忘一室者。三十餘秋。雍熙二年八月。微疾凭几。三出圓相。謂侍人曰。此吾所見淨土事也。言訖累足而逝。

法師慶昭。字子文。錢唐胡氏。幼依開化院出家。十三受具戒。學天台之道。於奉先清師用力十七年。奉先謝世。眾請師嗣講。宛有父師之風。未幾徙居石壁。屬城南梵天。遇明舍所居為講院。師徇請來居。講風大振。天禧元年四月。無疾而化。平時講說法華止觀諸部。共百餘周。傳教弟子。自咸潤而下九十七人。先是光明玄義有廣略二本。恩師製發揮記解釋略本。弟子清敏二師。共結難辭輔成師義。於是法智大師撰扶宗釋難。力救廣本十種觀心。師與孤山亦撰辨訛。以救發揮之說。法智乃復備引前後之

文詳而論之。號十義書。而四明之學者。始指恩清昭圓之學。稱為山外。蓋貶之之辭云。

法師智圓。字無外。自號中庸子。或名潛夫。錢唐徐氏。學語即知孝悌。稍長常析木濡水。就石書字。列花卉若綿蘊(租曰反。漢書叔孫通治朝儀。為綿蘊野外習之。注云綿蘊者。束茅表位也)戲為講訓之狀。父母異之令入空門。八歲即受具戒。二十一聞奉先清師傳天台三觀之道。負笈造焉。摳衣問辨。凡二年而清亡。遂往居西湖孤山。學者如市。杜門樂道。與處士林通為隣友。王欽若出撫錢唐。慈雲遣使邀師。同往迓之。師笑謂使人曰。錢唐境上。且駐却一僧。師早癯瘵疾。故又號病夫。講道吟哦未嘗少倦。預戒門人曰。吾歿後毋厚葬以罪我。毋建塔以誣我。毋謁有位求銘以虛美我。宜以陶器二合而瘞立石志名字年月而已。及亡門人如所戒。斂以陶器斲所居巖以藏之。不屋而

壇。時乾興元年二月也。得年四十有七。後十五年。積雨山頽。門人開視陶器。肉身不壞爪髮俱長。脣微開露齒若珂玉。乃更襲新衣。屑眾香散其上。而重瘞之(重音仲再也)崇寧三年。賜諡法慧大師。其所撰述文殊般若經疏。遺教經疏各二卷(淨覺撰助宣記)般若心經疏。瑞應經疏。四十二章經注。不思議法門經疏。無量義經疏(玉慧覺撰雜珠記)普賢行法經疏。彌陀經疏各一卷。首楞嚴經疏十卷。世號十本疏主。又撰闡義鈔三卷(釋請觀音經疏)。索隱記四卷(釋光明句)。刊正記二卷(釋觀經疏)。表微記一卷(釋光明玄)。垂裕記十卷(釋淨名略疏)。發源機要記二卷(釋涅槃玄)。百非鈔一卷(釋涅槃疏金剛身品百非之義)。三德指歸二十卷(釋涅槃疏)。顯性錄四卷(釋金錫)。撫華鈔二卷(釋圭峯蘭盆疏)。西資鈔一卷(釋自造彌陀疏)。詒謀鈔一卷(釋自造心經疏)。谷響鈔五卷(釋自造楞嚴疏)。析重鈔一卷(釋自造文殊般若疏。大論云析重令輕)正義一卷(釋十不二門)

閒居編五十一卷(雜著詩文)皆假道適情為法行化之。旁贊云。嘗謂楞嚴一經。劇談常住真心。的示一乘修證。為最後垂範之典。門人有以撰疏為請曰。此經解者。已二三家。學者未安其說。師胡不以三觀四教約文申義以啟後人。師從之。研覈大義。以為智者三止之說。與經懸契。淨覺謂其得經之深非諸師所可及也(林間錄。天台聞西天有首楞嚴。以世主祕嚴不肯傳布。天台常遙禮願。早至此土。又清涼云。此經吾不得而見之矣。當有宰官菩薩以文章翻譯佛語。又數百年。當有肉身比丘。以吾教釋此經)其疏四十二章經云。佛教東傳。與仲尼伯陽之說為三。然孔老之訓。談性命未極於唯心。言報應未臻於三世。至於治天下安國家不可一日無也。至若釋氏之為教。指虛空界悉我自心。非止言太極生兩儀玄牝為天地根而已。考善惡報應悉我自業。非止言上帝無常天網恢恢而已。有以見仲尼伯陽。雖廣大悉備。其於齊神明研至理者。略指其趣耳。

大暢其妙者。則存乎釋氏之教歟。又曰。復性有淺深。言事有遠近。不得不異也。至於遷善遠惡勝殘去殺。不得不同也。

梵天昭法師法嗣

法師咸潤字巨源。越上虞鄭氏。七歲事等慈子明。進受具戒精究毘尼。因入天台讀智者三觀文有所省。遂詣錢唐開化昭師學。博通法華淨名涅槃楞嚴之旨。昭師敬其夙成俾之分座。及昭師赴梵天。復令自代。景德四年。上虞宰裴煥。與里中緇素。迎還等慈宣演大教。天喜初。徙講郡之隆教。述籤疑以三種消伏。俱約圓論。為淨覺所破。昭師示寂。復授以鑪拂。嗣居梵天。講演無虛日。天聖三年。徙居會稽永福。聚徒五百。日遣眾行化以供二時。嘗造普賢像率眾行道。大士放光證明。時人尊之。曰懺主。謂可

亞慈雲也。門人述其德曰。師踞猊床揮麈柄。時漸三紀。五舍百講。業成名立無愧古人。乃請李淑。撰傳教弟子題名記。善朋為之首云。

孤山圓法師法嗣

法師惟雅。久依孤山悉得其旨。孤山製西資鈔以解彌陀疏。扶病隱几口占其文。使雅師筆之。初日午後染毫。翌日初夜絕筆云。

鏡菴曰。孤山以高世之才彌天之筆。著十疏以通經。述諸鈔以解疏。其於翼贊教門厥功茂矣。但其相承所說法門。言境觀則以真心為境。論總別則以理性為總。判事法二觀不許修證。廢光明廣本。不用觀心。唯論心具心造不許色具色造。如是等義布諸簡策。於是義學之士有習其說者。

世必指為山外諸師之見。惜哉。夫稱宗師者須具三眼。一曰教眼。明識權實大小之法也。二曰道眼。親踐諸行修證之門也。三曰宗眼。深窮圓頓即具之旨也。往往山外諸師宗眼未明。以故所見未臻圓極耳。別教菩薩。神通智慧豈容思議。以由未證圓位被斥為權。又初地不知二地舉足下足。一切聖賢皆以無為法而有差別。然則議山外者。請以此意恕之。

淨光法師旁出世家

法師行靖與行紹。皆錢唐人。同依壽禪師出家。通練律部。同居石壁寺(去杭二十里在龍山之西)時韶國師法道大振。初往從之。國師觀其法器。即使往學三觀於螺溪之席。二師既偕往。講求大義旦夜不息。未幾所學已成乃復回石壁為眾講說。前後五十年。確守山林之操。未嘗出遊

閭里。吳中宿學皆服其高潔。嵩明教論之曰。出家於壽公。學法於寂公。見知於韶公。三皆奇節異行不測人也。二師皆得以親事之豈不偉歟。

法師知廉。賜號通鑑。久學螺溪。以其師崇建殿宇。將永歲寒之績為請彭城公錢儼(忠懿王弟)作傳教院碑於螺溪。時太宗雍熙三年也。

法師願齊。錢唐人。吳越國時。賜號崇法。初傳淨光之道精研止觀。後參韶國師發明玄奧。周顯德初。螺溪居民張彥安詣淨光曰。家居東南里所。陰晦之夕。必有鬼神吟嘯考擊鍾鼓之聲。又嘗夢龍遊其地。非愚民所居。願以奉師。師往視之。見山水秀異謂眾曰。此伽藍地也。夢龍遊者。豈龍樹之道將興此地耶。因納之。願齊初為法華紹巖弟子。聞其事以白師。輟眾施三萬為建法堂厨屋。覆苫累

塊悉尚朴素。蓋稟師之誠也。既成。淨光與學徒二十人俱往。既而雲居詔禪師(寺在天台)為疏於漢南王(忠懿王子。吳越亦嘗改元稱帝。有寶正寶泰之號。其諸子多封王。有漢南鄧許秦陳諸王之稱。見臨安志)即施財。架懺堂諸屋以廣之(見錢儼撰傳教院碑及傳燈)。

法師諦觀。高麗國人。初吳越王因覽永嘉集同除四住之語以問詔國師。詔曰。此是教義可問天台義寂。即召問之。對曰。此智者妙玄位妙中文(妙玄既散失不存。未審何緣知之。必寂師先曾見殘編耳)唐末教籍流散海外。今不復存。於是吳越王遣使致書。以五十種寶往高麗求之。其國令諦觀來奉教乘。而智論疏。仁王疏。華嚴骨目。五百門等。禁不令傳。且戒觀師。於中國求師問難。若不能答。則奪教文以回。觀師既至。聞螺溪善講授即往參謁。一見心服遂禮為師。嘗以所製四教儀藏於篋。人無知者。師留螺溪

十年。一日坐亡。後人見故篋放光。開視之唯此書而已。由是盛傳諸方。大為初學發蒙之助云。

述曰。吳越王杭海取教。實基於同除四住之語。及觀師製四教儀。至明圓教中故特標永嘉云者。所以寓當時之意。俾後人無忘發起也。此書即荊溪八教大意。觀師略加修治。易以今名。沒前人之功。深所不可。

吳越忠懿王錢弘俶。字文明。世為杭之臨安人。祖武肅王鏐(音流)唐僖宗時。率鄉兵破走黃巢。名聞江淮。復以八都兵討劉漢宏并越州。以奉董昌。而自居於杭。昭宗時。昌以越叛。鏐遺書。切責不聽。乃悉兵誅之。自是盡有浙東西之地。乾寧四年。始封吳越王。梁開平初。加封尚父淮海節度使。傳子文穆王元瓘。瓘子忠獻王仁佐。忠獻破李景兵。取福州。既卒弟侖嗣位。明敏嚴毅。為大將胡進

思所忌逐之(子孫私諡為遜王)。乃迎立俶。即文穆第九子。俶始於晉開運中為台州刺史。

本朝太祖建隆元年。授天下兵馬大元帥。乾德元年冬。郊禮遣子惟濬入貢。開寶八年。隨王師克金陵(南唐李後主)九年二月入朝。詔賜劍履上殿。詔書不名封。其妻孫氏。為吳越國王妃。四月歸國。太宗太平興國三年三月入朝。乞以所管十三州版籍歸天府。詔許之。改封淮海國王。賜玉冊金印。居京師禮賢宅。子惟濬。惟治。皆以節度領郡事。忠懿居京師。十二年而薨。富貴榮盛莫與為比。忠懿天性誠厚。夙知敬佛。慕阿育王造八萬四千塔。金銅精鋼冶鑄甚工。中藏寶篋印心呪經。亦及八萬四千數。布散部內以為填寶鎮。鎮錢唐諸邑。西湖南北山諸剎相望。皆忠懿之創立也。尊事沙門。若天台韶國師。永明壽禪師。皆待以師禮。又嘗召螺溪寂法師。至金門建講。問智者教

義。以典籍不全。慨然遣使齎重寶。求遺書於高麗日本。於是。一家教卷復見全盛。螺溪得以授之寶雲。寶雲得以傳之四明。而法智遂專中興之名。推原其自實忠懿護教之功為多也。王嘗造金字法華經二十部。散施名山(今國清所藏是其一)。

述曰。清猷趙公有言。錢氏五王三世。凡百年。當天下大亂。以數州之地盜名字者甚眾。獨吳越奉屢朝之正朔。不絕貢獻。不失臣節。暨皇宋受命。又能封府庫籍郡縣。請吏於上。仁足以保民。智足以全族。唯錢氏一門耳。歐陽公五代史。則曰錢氏崛起。非有功德。百年之際。虐用其民。嘻何二公立論之相戾耶。當五季時崛起而僭號者。曾何有乎功德。重斂以困民。窮兵以殺民。天下皆是也。豈能若錢氏全民土而歸聖朝耶。至哉清猷之辭。仁以保民。智以全族。歐陽亦太過論矣。

國清昱法師法嗣

法師契能。永嘉人。神悟謙公之師。得教旨於昱法師。主天台常寧。講道不倦。自智者而來。以鑪拂傳授為信。至師嫡承為十四代。晚年以授扶宗忠師。扶宗曰。吾得法廣智矣。敢辭。師乃藏之天台道場。遂不復傳。

述曰。螺溪門弟子以百數。而本傳指寶雲為高弟。不載昱師名。疑昱師見螺溪在最先。故早傳鑪拂。寶雲後至。而其道大振。故傳中推為上首。以此言之。在道不在鑪拂也。夫鑪拂祖師之信。器傳之久。不能無弊。或以情得。或以力取。於道何預焉。能師欲傳之扶宗。而辭不受。固也。藏之祖師行道之場而去。宜也。向使扶宗妄受復妄傳。適足以起後人之紛諍。於道何在焉。

寶雲旁出世家

法師遵式字知白。葉氏。天台寧海人。母王氏。乞男於觀音。夢美女以明珠與而吞之。生七月能從母稱觀音名(太祖乾德元年癸亥歲生)稍長不樂隨兄為賈。潛往東山依義全師出家。全先夢有童子踞佛像之首。已而師至。年二十(太宗太平七年癸未)往禪林受具戒。明年習律學於守初師。繼入國清。普賢像前燼一指。誓傳天台之道。雍熙元年。來學四明(年二十二)道中夢老僧謂曰。吾文殊和尚也。及見寶雲。正所夢僧即北面受業。未幾智解秀出。智者諱日然頂終朝。誓力行四三昧。端拱元年。寶雲入寂。師乃反天台。以苦學感疾至於嘔血。毅然入大慈佛室用消伏呪法。自詛曰。若四教興行在我。則其疾有瘳。不爾則畢命於此。至三七日聞室中呼曰。遵式不久將死。師益不懈。五

七日見死屍盈室。師踐之而行。其屍即沒。滿七七日室中聲曰。十方諸佛增汝福壽。其名寐見一巨人。持金剛杵。以擬其口。又嘗親見觀音。垂手於師口引出數蟲。復舒指注甘露於口。身心清涼宿疾頓愈。既而頂高寸餘。手垂過膝。聲若鴻鍾。肌如白玉。淳化元年(年二十八)眾請居寶雲。講法華維摩涅槃光明。未嘗間歇。有施氏懷胎驢。日伏座下。若聽法狀。如是四旬。產已不復至。嘗往見法智。聞門外警欬呼侍者曰。適聞外聲。有若聖人然。侍者亟出視。反報言。慈雲至。法智大驚曰。吾兄轉報矣。至道二年。結緇素專修淨業。作誓生西方記。又自幸觀音幽贊。命匠刻旃檀像及自身頂戴之相。撰十四誓願納其腹。工有誤折所執楊枝者。師大懼即手接之(此像今在天竺懺殿)不膠漆而合。咸平三年(真宗)四明大旱。郡人請祈雨。師同法智異聞師。率眾行請觀音三昧。冥約三日不雨當焚其軀。如期雨大至。太守蘇為建碑以述靈異。四年。寓慈

溪大雷山。治定請觀音消伏毒害懺儀。五年(師年四十。自
淳化庚寅至咸平四年辛丑。凡十二年居四明)歸天台主東
掖。以徒屬之繁。即西隅益建精舍。率眾修念佛三昧。有
白鶴廟居民甚神之。師與神授戒改祭為齋。神與民居聽
命。乃為著野廟誌以戒之。祥符四年。章郇公(得象)領那
事。夏制之始延師入景德講止觀。垂畢有三沙門披納而
至。請預盂蘭盆講席。揖其坐忽不見。道經黃巖。有豕奔
伏於前。推其來。乃逸於屠肆者。償其直而豢於妙喜寺。
名之曰遇善夫豕。赤山寺瀕海而高。師遽謂人曰。此宜建
塔。先是山巔有異光。中有七層浮圖之形。光照海上周四
十里。皆漁人之[竺-二+(一/(尸@邑))]梁。或以語師。師喜
其有先兆。遂建塔焉。於是居人感化不復為漁。時東山結
懺會。天大旱。師卓錫石縫。泉即激涌(今石眼泉)七年。
杭昭慶齊一。率眾致請。初杭人屢請西度未之許。至是始
見從。師嘗夢居母胎十二年。及出台入杭。果應其數。師

至昭慶。大揚講說。杭俗好以酒肴會葬。師為說佛事之
勝。卒變葷為齋。因為著戒酒肉慈慧法門。嘗夜施搏食於
水濱。漁者聞眾鬼曰。今夜雪甚。師不至矣。一鬼曰。師
慈悲人必不忌我。須臾師籠燈踏雪而至。八年蘇人。以郡
符迓師於開元建講。緇素畢集。不葷飲者傾市邑。屠酤不
售。官監有失課之言。師辭其徒曰。智者遣晉王書。有言
六恨。其一謂以法集動眾妨官為人所忌。余今德薄安可久
留。遂幡然復杭(智者遺書云。荊溪法集眾一千。學禪三
百。州司惶慮。謂乖國式。豈可聚眾用惱官人。故朝同雲
合。暮如雨散。設有善萌不獲增長。此五恨也)刺史薛顏。
始以靈山命師居之。即隋真觀師所營天竺寺也。寺西有陳
時所植檜。巢寇燎燬僅存枯枿。是年冬枝葉復生。因名重
榮檜。賦詩刻石。以兆道場重建之瑞。治定往生淨土懺
儀。九年。天台僧正慧思詣京師因盛稱師之道。始賜紫
服。三月。天台郡人。以郡符請赴石梁壽昌講法華。八月

過東掖。十月復歸天竺。天禧元年。侍郎馬亮守錢唐。雅尚淨業造師問道。師為撰淨土行願法門。淨土略傳。職方郎中崔育才。問施食之道。師為觀想一篇(見金園集)三年。丞相王文穆公撫杭(名欽若相真宗)首率僚屬訪師山中。請講法華及心佛眾生三法如義。才辯清發。衣冠為之屬目。公對眾嗟賞曰。此道未始聞。此人未始見也(別集中有講題)師以天台宗教本末具陳於公。四年。公為奏錫天竺舊名。復其寺為教。而親為書額。復與秦國夫人施財六百萬以建大殿。公致書問天台立教及解經義旨。與今古孰為優劣。師先答立教大義。次出諸子索車之文。錄古義一二。及慈恩破天台義。對智者正釋。並決是非。以為古今諸師無一可取。公覽文識義益加信喜(文見別集)師以智者昔於天台江上護生事白於公。因奏請西湖為放生池。為主上祝壽。後文穆尹應天府。因微疾夢與師會。疾即除愈。遂奉書道其事。及移鎮江寧(昇用)迓師府會。朝夕問法。

一留三月。因為著十法界觀心聞住。南岳心要偈。會乾元即公以其道聞於上。乃賜慈雲之號。乾興元年。章懿太后(仁宗母華氏。錢塘人。其父仁德)以師熏修精進。遣使齎白金百兩。命於山中為國行懺。師為著金光明護國道為靜上之。因奏天台教文。乞入大藏。事未行而公薨。天聖元年(仁宗)內臣楊懷古降香入山。敬師道德復為奏之。明年始得旨入藏。賜白金百兩。飯千僧以為慶。師乃撰教藏隨函目錄。略述諸部文義。謂玄義。統明五時廣辨八教。出世大意蘊乎其中。文句者。謂以統句分節經文。荊溪各有記釋。猶五經之有正義也(唐孔穎達為五經作正義)止觀者。定慧之異為即法華之行門也。前玄義文句。皆明佛世當機得益之事。經有託事附法觀心之文。非部正意。今止觀正是智者說己心中所行法門。自行因果化他能所無不具焉。又於普門品加別譯重頌。緇素皆遵誦之。天聖四年。諫議胡則守郡。屢入山問道。欣領法要。為施金造山門廊

字。五年中秋月望之夕(望作望非)桂子降於殿庭。師取其
實播種林下。乃作桂子之詩。六年正月。遣學徒往四明。
致祭於法智。有祭文悼詩之作。始於寺東建日觀菴。送想
西方為往生之業。九年。講淨名經。忽謂其徒曰。昔在東
掖講此經。夢荊溪授我經卷。及出室。視日已沒。今吾殆
終此講乎。因與眾訣曰。我住台杭二寺。垂四十年。長用
十方為意。今付講席。宜從吾志。命弟子祖韻曰。汝當紹
我道場。持此鑪拂。勿為最後斷佛種人。遂作謝三緣詩。
謂謝徒屬絕賓友焚筆硯也。是年八月。徙居東領之草堂。
明道元年十月八日示疾。不用醫藥。唯說法以勉徒眾。十
日令請彌陀像以證其終。門人尚欲有禱。以觀音至。師炷
香瞻像祝之曰。我觀觀世音。前際不來後際不去。十方諸
佛同住實際。願住此實際。受我一炷之香。或扣其所歸。
對以寂光淨土。至夜奄然坐逝。師嘗製龕銘曰遐榻。既入
斂越七日。形貌如生。壽六十九。夏五十。逝之夕。山中

人見大星殞於靈鷲峯紅光赫然。稟法者。文昌等二十五
人。登門學者以千數。度弟子若虛輩垂百人。明年仲春四
日。奉遐榻葬於寺東月桂峯下。與隋觀法師為之隣焉。師
幼善詞翰。有詩人之風。其詩集。曰采遺。曰靈苑。其雜
著。曰金園。曰天竺別集。皆行於世。有貴官注楞嚴求師
印可。師烹烈焰謂之曰。閣下留心佛法。誠為希有。今先
申三問。若答之契理。當為流通。若其不合當付此火。官
許之。師曰。真精妙元性淨明心。不知如何注釋。三四四
三宛轉十二流變三疊一十百千。為是何義(昔師注者云。初
變一為十。以三世四方互成十二。次變十為百。三世四方
互成百二十。三變百為千。三世四方互成千二百。是為一
根功德之數。總六根為七千二百。除眼鼻身三根。各虧四
百。實得六千。為六根功德也。一為變生十百千為三疊。
凡三番織成其數)二十五聖所證圓通。既云實無優劣。文殊
何得獨取觀音。其人罔措。師即舉付火中。於是楞嚴三關

自茲而出。仁宗閱師所進光明護國儀。至聖帝仁王慈臨無
際之文。撫几歎曰。朕得此人足以致治。亟令宣召則已入
寂矣。師始出家。郡校諸生。慕師才俊勉回業儒。為詩答
盧積。中有真空是選場大覺為官位之句。人多誦之。常行
三昧。以九十日為期。於行道四隅置鑿熾炭。遇困倦則漬
手於鑿。十指唯存其三。其建光明懺殿。每架一椽甃一
甃。輒誦大悲呪七遍以示聖法加被。不可沮壞之意。故建
炎虜寇。積薪以焚。其屋儼然。暨方臘陳通之亂。三經寇
火皆不能熱。至今異國相傳。目為燒不著寺。茲豈獨顯教
門之神迹。誠有以彰國家之有道也。崇寧三年。賜號法寶
大師紹興三十年。特謚懺主禪慧法師。塔曰瑞光(行業曲
記。修三昧記。天生諸集。宗源記)。

鏡菴曰。道籍人弘人必依處。此三者不可不畢備也。吾道
始行於陳隋盛於唐。而替於五代。逮我。

聖朝。此道復興。螺溪寶雲振於前。四明慈雲大其後。是以法智之創南湖。慈雲之建靈山。皆忌軀為法。以固其願而繼之以神照啟白運。辯才兆上竺。於是淞江東西並開講席。卒能藉此諸剎安廣眾以行大道。孰謂傳弘之任不在於處耶。然靈山之剎。三罹寇火而不能壞。此豈非至人誦呪加功願力堅固之驗也哉。

江州太守許端夫。序其詩曰。慈雲之詩。文貫於道。言切於理。酷似陶彭澤。蓋合於情動形言止乎禮義之意。昔貫休作禪月集。初不聞道。而才情俊逸。有失輔教之義。中庸子作閒居編。言雖鳴道而文句闖冗。有失詩人之體。慈雲則不然。文既清麗。理亦昭顯。雅正簡淡。有晉宋之風。蓋其道業宏大。故詩名不行也。

法師異聞。餘杭人。潛心天台之學。每謂但解未足以展志。故汲汲以修諸三昧為要務。及來參寶雲盡通其旨。至道三年。法智弘道於延慶。輔贊之功為多。以寺宇頽毀。乃同丹丘覺圓并力經理。不逾三載眾工畢就。法智立誠誓之石。示十方之規。必聯次師名。稱二師云。後同法智結十僧。行長懺三年。誓焚軀以報佛恩。時楊文公。屢貽書勸止。事竟不行。師居延慶四十年。凡法智所修三昧未嘗不預。

法師有基。字及賢。錢唐王氏。母夢梵僧授以舍利吞之。遂有娠。生五歲。從天台壽昌法超為師。十歲受具。聞四明寶雲傳智者教往事之。授以法華止觀。隨言解義曲盡其妙。端拱元年。郡人請演教於太平興國寺。學者常數百人。每白黑月必集眾自升高座誦菩薩戒法。勸道族念佛四十年至萬人。凶年持鉢以供聽眾。祥符八年六月示疾。弟

子令祥請曰。和尚西歸寧無留訓。師乃廣談圓旨經時不已。眾忽見西方現光空中樂奏。師曰。西方三聖人來也。即右脇西向而化。荼毘舍利莫數。門人悟持。結塔於慈溪之靈龜山。有夢師威儀迎往西方者。有夢師坐青蓮花對佛說法者。有夢三身如來入靈塔者。有夢彌陀授記為超壯如來者。法智聞其逝歎曰。臥病談玄臨終見佛。是可敬也。內翰楊億。致敬真相為之作讚(全三學撰行業碑。在福源○此卷一百一十八人。本紀止錄三十三人。餘者遺失)。

佛祖統紀卷第十(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依

大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十一

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之一

天竺式法師法嗣

- (二世)妙果文昌法師
- 明智祖韶法師
- 法喜清鑑法師
- 真淨思永懺主
- 保慶法潤法師

- 天竺本融法師
- 天竺思悟侍者
- 丞相王欽若
- 諫議大夫胡則
- 職方郎中崔育才
- 侍郎馬亮
- (三世)妙果天授法師(嗣昌師)
- 海月慧辯法師(嗣明智五人)
- 淨慧思義法師
- 辯才元淨法師
- 神智載昇法師
- 廣惠居白法師
- (四世)法寶從雅法師(嗣海月二人)
- 慈行智深法師
- 圓應德賢法師(嗣淨慧五人)

- 神智仲元法師
- 慈覺永堪法師
- 寂照慧日法師
- 圓悟思尚法師
- 法鑑若愚法師(嗣辯才二人)
- 靈山則章法師
- (五世)指源如杲法師(嗣法寶)
- 慈明慧觀法師(嗣神智)
- 慈受子琳法師(嗣慈覺)

興國基法師法嗣

- (二世)興國令祥法師

- 福源悟持法師

錢唐曉法師法嗣

- (二世)法顯遇成法師
- (三世)兜率守仁法師

四明法智之作興也。天下學士靡然向風。嗣其業而大其家者。則廣智神照南屏三家為有傳明佛意示家法。用廣垂裕無窮之謀中興教觀。逮今為有賴。此諸師列傳之所由作也。若夫慈雲一家。昌韶諸師之後。五世而蔑聞。今備敘

列傳。而先慈雲之派者。將以順其承襲。而不使紊雜乎四明三家之子孫也。

天竺式法師法嗣

法師文昌。永嘉人。久依慈雲克盡其道。時眾推為前列。復往南湖見法智。所詣益遠。既而旋鄉。為妙果第一世。妙宗新成。寄寫本囑其講授。且戒之曰。或有異處。可割取附來。慈雲門弟授講者二十餘人。師為之首(見慈雲行業記。四明與矩師書)。

法師祖韶。天台劉氏。賜號明智。十九通法華。得度入東掖參慈雲得其奧旨。既而侍師遷靈山居第一座。慈雲將居草堂。謂師曰。汝當往代本如居能仁。而俾之來繼此山。師即著草屨。欣然而行。至江濱呼其回曰。吾試汝耳。汝

當竟住此山。師既奉命。一遵成規。講訓之外。行四三昧
為常課。棟宇未具。力為經理。一日告眾曰。吾受慈雲之
寄。今老矣。亦將有東嶺之事。慧辯為吾上首。其善繼我
乎。遂入草堂。以自晏晦。未幾。示疾。趺坐而逝。年七十二。
臘五十二。師昔於東掖。行光明三昧。百晝夜。至期方半。忽
見旌幢滿前。導者呼曰。大辯尊天。師即作揖。天曰。師
所住處。傳通大乘利益群品。言訖而隱。常往京師。道出淮
泗。夢僧摩頂曰。吾文殊和上也。示汝五無生義。既覺。五
藏豁然如咀冰雪。又夢入古寺。見僧踞坐。謂曰。吾為汝說
第一義諦。聞畢。如甘露灌頂。即見依正皆如雲影。有人問
曰。人見和上何因歡喜。曰。視人常若佛想。

法師清鑑。雲間人。賜號禪慧。為慈雲撰熾盛光念誦儀
序。其略云。慈雲尊者。以行光教門。弟子清鑑。以所稟
四種三昧行法遺編。獨熾底光未廣流布。遂因其舊五章。

補助始末。加示法釋疑之二。以為七科。

懺主思永號真淨。入道於秀之勝果。久親慈雲勤修淨行。時眾高之。謂足上擬其師。亦稱懺主(此下本紀遺失二人)。

侍者思悟。錢唐人。侍慈雲講最久。故能深達觀道。善持呪法。加水以愈人疾。求者如市。當課誦時。身及奉像俱出舍利。天聖三年。慈雲欲以智者教卷求入藏。文穆王公將聞之朝。悟曰。此非常事也。小子將助之矣。乃繪千手大悲像。課呪以誓曰。事果遂。當焚軀為報。會公薨。悟誦呪益精。明年得旨。師喜甚。積薪為樓。白慈雲求火種。雲於鑪中舉紅炭與之引手以承。了無難色。即入薪樓。火息之後。袈裟覆體儼如其生。慈雲乃加香木。行呪願以焚之。隨焰而化。五色舍利無論其數。三歲之後求者

尚獲。慈雲為讚以刻石曰。悟也吾徒。荷法捐軀。其焰赫赫。其樂愉愉。逮火將滅。儼如加趺。逮骨後碎。粲如圓珠。信古應有。今也則無芳年三十。真哉丈夫(此下本紀遺失宰官四人)。

明智韶法師法嗣

法師慧辯。字訥翁。華亭傅氏。號海月。受業普照。初遊學天竺。至合澗。有老人冠帶逾梁。迎揖入門而失。明智一見大奇之。即盡心學教觀。明智將老。命居第一座以代講。一夕夢章安以金篦擊其口曰。汝勤誨人當得辯慧。嘗苦脾疾。夢天神以金槃盛水。使之瞑目。引其腸浣之。後八年。明智俾繼主席。翰林沈邁。治杭任威。見者多惶懼失據。師從容如平生。邁異之。任以都僧正。蘇子瞻時為通守。為序以贈之曰。錢唐佛僧之盛。蓋甲天下。道德材

智之士。與妄庸巧偽之人。雜處其間。號為難齊。故僧正副
之外。別補都僧正一員。簿書案牒。奔走將迎之勞。專責
副正以下。而都師總領要略。實以行解表眾而已。師既蒞
職。凡管內寺院虛席者。即捐日會諸刹及座下英俊。開問
義科場。設棘圍糊名。考校十問。五中者為中選。不及三
者為降等。然後隨院等差以次補名。由是諸山仰之咸以為
則。講授二十五年。學者常及千人。夜有盜入其室脫衣與
之。令從支徑去。晚年倦酬酢。以六事隨身。歸隱草堂(衣
鉢坐具紙被拂子手鑪為六)吳越大旱禱天竺觀音像。久不
應。師時以疾晝寢。夢老人白衣烏帽告曰。明日午中必
雨。如期果驗。遠近感師誠致。熙寧六年七月十七日。旦
起盥濯。告眾就別。合掌加趺而化。初師遺言。須東坡至
方闔龕。四日坡至。見趺坐如生。其頂尚暖。坡盡敬而
退。

東坡集云。師沒後二十一年。余謫惠州。師之弟思義。囑參寥求作讚。因序之曰。余在杭。夢至西湖。有大殿榜曰彌勒下生。故人海月辯才之流。皆行道於其間。乃作三絕。以吊之云。欲尋遺迹強沾裳。本自無生可得亡。今夜生公講堂月。滿庭依舊冷如霜(其一)其後參寥。往潁水謁子由曰。辯才既以子瞻故得銘於公。海月獨未有銘乎。子由亦為銘其塔。

法師思義。字和甫。湖之武康凌氏。試法華中第一得度。依明智學。隨聞隨悟。常開幃出十問。師答之悉契旨。明智退居草堂。眾送入室。既散師猶侍右。智曰。汝適何見。答曰。見大眾拜而退。智曰。吾示汝將來義。當住此山紹隆大教。後後亦來居此室也。師歷修四三昧行。忽頸上生一肉癭。夜夢功德天食之以桃其疾即消。熙寧四年。賜紫服號淨慧。丞相蘇頌帥杭。請居天竺。大振法道。住

山二十三年。退閒草堂。皆如明智之記。元祐三年二月十八日。中夜趺坐別眾而逝。大眾誦念久之。忽復語云。侍觀音大士。行見一沙門。金色長身垂臂謂我曰。報緣未盡。過七日當遣迎。至二十五日。復趺坐而化。瘞龕之日。有赤雲垂布。如引導之狀。向西而隱。

法師元淨。字無象。徐氏。杭州於潛人。客有過其舍者曰。嘉氣上騰當生奇男。既生左肩肉起如袈裟條。八十一日乃沒。伯祖異之曰。宿世沙門必使事佛。八十一者。殆其算歟。及師之終果符其數。十歲出家。每見講座輒曰。吾願登此說法度人。十八就學於慈雲。不數年而齒高第。後聞明智講止觀方便五緣曰。淨名所謂。以一食施一切。供養諸佛及諸賢聖。然後可食。此一方便也。師悟曰。今乃知色香味觸本具第一義諦。因泣下如雨。自是遇物無非法界。代講十五年。杭守呂臻請住大悲閣。嚴設戒律。其

徒畏愛。臻為請錫紫衣辯才之號。七年。翰林沈邁撫杭(仁宗嘉祐)謂上竺本觀音道場。以音聲為佛事者。非禪那居。乃請師居之。鑿山增室廣聚學徒。教苑之盛冠於二浙。神宗熙寧三年。杭守祖無擇。坐獄於橋李(橋音醉地名今秀州)師以鑄鍾。例被追辨。幸而得釋。寓止真如蘭若。擬金錍設問答述圓事理說。發明祖意之妙。元豐元年。有利山門施資之厚者。倚權以奪之。眾亦隨散。逾年其人以敗聞朝廷復卑師。眾復大集清獻趙公與師為世外友。為之贊曰。師去天竺山空鬼哭。天竺師歸道場重輝(東坡寄詩云。道人出山去。山色如死灰。白雲不解笑。青松有餘哀。忽聞道人歸。鳥語山容開。云云)三年復謝去。居南山之龍井。士庶爭為築室。遂成藍宇。六年。太守鄧伯溫請居南屏。越明年。復歸龍井。時靈山虛席。師以慈雲師祖道場俯就眾請。及月餘於禪定中見金甲神。跪前曰。法師於此舊無緣不宜久住。既奉冥告遂還龍井。元祐四年。蘇軾治

杭。嘗問師曰。北山如師道行者幾人。師曰。沙門多密行。非可盡識。坡子迨生四歲不能行。請師落髮摩頂。數日即善步(坡詩云。師來為摩頂。起走趁奔鹿)將示寂。乃入方圓庵(秦觀記米芾書)宴坐謝賓客。止言語飲食。招參寥告之曰(參寥道潛)吾淨業將成。若七日無障。吾願遂矣。至七日出偈告眾。即右脇吉祥臥。奄然順寂。時元祐六年九月晦日也。塔成。弟子懷楚。詣汝陰請誌於東坡。坡命子由為之銘。師講說不間晝夜。嘗曰。鬼神威德不具者。晝不得至。夜中人靜庶幾能聽。焚指供佛左三右二。有欲效之者。師止之曰。如我乃可修西方淨業。未嘗須臾廢。或禱大士求放光。光即隨現。沙門熙仲對食。視師眉間有光。遽起攬之得舍利數粒。後人常於臥處得之。嘉興令陶彖有子得魅疾。祝之即愈。諸暨陳氏。久患心疾漫不知人。警以微言醒然而悟。布衣李生。久習禪觀辯而無行。欲從師出家。東坡為之請。未言其名。力拒不許。若

先知然。秀州狂僧號回頭。以左道惑眾。宣言欲建大塔為吳人植福。施者雲委。以師不可欺憚於入杭。先遣使願以錢十萬供僧。師答曰。承以建塔淨財欲飯僧。教有明文不許互用。狂人大慚而止(坡公遣祭文略云。我初適杭。尚見五公。講有辯臻。禪有璉嵩。後二十年。獨餘此翁。今又去矣。後生誰宗)。

鏡菴曰。道大德尊。智高辯富。作大法主。為世所宗。而於出處飲啄之緣。猶未得其自在。住上竺幾二十年。居靈山僅及一月。然則結緣之論。雖大賢有所未免。

法師載昇。會稽人。號神智。久參明智。時輩推其善說。先是錢武肅王帥杭日。嘗患目眚。夜夢素衣仙人言。自永嘉來。明旦永嘉僧。投牒願以觀音像獻。言得之海潮。諸山迎之不能舉。即而示夢欲歸越城。武肅即具威儀迎至。

一見像已目即還明。乃創菴名興福。以奉之像。坐高六尺。梵相奇偉。燈夜迎望猶若生人。元祐問師來居興福時清獻公為帥。亢旱大疫久禱不應。遂罷遣群祀。請師迎像入府。懇禱一夕甘雨如注。疫亦以息。公為奏於朝。賜師神智。菴名圓通(此下本紀遺失一人)。

海月辯法師法嗣

法師從雅。錢唐人。賜號法寶。始從海月學通止觀。乃自謂曰。言清行濁賢聖所訶。遂入南山天王院誦法華至五藏(言藏者。且以五千四十八為數)。

金剛般若四藏。彌陀經十藏。禮舍利塔十遍(言遍者。以八萬四千拜為數)禮釋迦三十萬。拜彌陀百萬。拜佛號五千萬聲。禮法華一字三拜者三過。心期淨土。一生坐不背西。

憲使無為楊傑為製安樂國讚三十章以美之。其一云。淨土周沙界。何勞獨指西。但能從一入。處處是菩提。師欲廣化世俗。遂於受業淨住寺。圖九品三輩。刻其讚於石。觀者皆知感化。一日無病趺坐而亡。有天樂鳴空異香入室之瑞。

法師智深。賜號慈行。嘉禾沈氏。初依海月學教觀。既成歸受業崇福西寺開長堂雲水供。建光明期懺會。二十年如一日。專念淨土勸人稱佛號。從化者不知數。政和乙未六月坐亡。留龕七日色不變。荼毘之日異香襲人。人收舍利與骨俱盡。

淨慧義法師法嗣

法師德賢。臨安人。賜號圓應。為兒時相者曰。他日當有

官阨。唯出家可免。父信之。令往依叔父海月。月斥之曰。我翁孫相繼家業始成。汝欲來此作主人耶。師遂去。暨落髮復往天竺參淨慧。大明教觀之道。久之遂居第一座。有俗士謁淨慧言。室女為崇所嬈。乍啼乍哭。願師慈救。慧曰。我首座可以治此。士往扣之。師乃令女所居閣上設一榻。既至即就榻睡。少時竟去。女白父曰。適蒙法師開悟於我。今永去矣。自是神識安定。淨慧閒居草堂。師繼其席。果符海月主人之記。居五年無疾而終。語門人曰。吾生前以道力免難。死後恐不能逝。門人造像入祖堂。乃用鐵護其項。建炎中。金虜真珠王子。領兵犯浙。入天竺升祖殿。眾像皆避席而揖。獨師像不為動。王怒令斬之。以頸有鐵不可傷。乃令積薪盈門縱火焚之。薪盡而屋如故。虜大驚讚禮而退。

法師仲元。號神智。妙年納戒。即學教於天竺淨慧。及繼

主祖父道場。道風大振。六年將退間草堂。請首座永堪以自繼。且謂之曰。首座寮中什物並留後人。方丈所用亦自足。師止携三衣一鉢香合拂子尼師壇紙被浴具。世稱為七事隨身。過草堂及觀首座寮。止一紙衾了無餘物。人莫不高二師之風。

法師永堪。賜號慈覺。高介特立。平時不履尼寺。從淨慧學克肖其道。後繼神智。居天竺二十一年。四海學者推為宗主。嘗訓於眾曰。明道而不克行。是猶見飯而不肯食。終為飢人也。別日又謂眾曰。汝輩一向忍飢何為。眾愧其言。一時學士皆相率進行。為世英偉云。

法師慧日。賜號寂照。學淨慧得其旨。淹貫三藏樂習禪定。虛懷待人不別愚智。有辱之者未嘗有色。人皆稱之。為得大忍佛。繼慈覺居天竺十餘年。講道精進有光父兄之

業。

法師思尚。早從淨慧妙盡其道。政和元年詔居上竺。賜號圓悟。講說簡明學者所仰。嘗曰。吾宗義學也。不旁通儒典。而事講業者。吾恐未盡其義。苟義有未盡。其意何所在。得意亡言。自是學成之人。若初心向學。須先尋文義可也。

辯才淨法師法嗣

法師若愚。海鹽人。馬氏。賜號法鑑。學教於辯才。號稱夙成。郡以南屏興教延之不就。奉辯才杖屨。間居龍井者六年。後於湖之仙潭。營長堂接待。建大閣造西方像。結道族念佛。嘗數百人。三十年中預會者多蒙佛接之瑞。靖康丙午九月。謂其徒曰。吾夢神人告曰。汝同學則章。得

普賢行願三昧。已生淨土。彼方待汝曷可淹留。即命眾諷觀經甫畢。乃云。聖相現前吾其往矣。即留偈曰。空裏千華羅網。夢中七寶蓮池。踏得西歸路穩。更無一點狐疑。闍維得舍利數百粒。塔於東廡。初入道夢白衣女授七十二策。後壽果及其數(此下本紀。遺失一人。如果在子琳後)。

慈覺堪法師法嗣

法師子琳。賜號慈受。幼學於慈覺深悟圓旨。復謁佛智裕禪師重研心要。時天竺以慈福太后請為功德。師被旨住山。二十八年。講演之際唯提大義。禪侶聞風而來者。咸服其辯。大慧杲禪師。過之相與劇談。不覺達旦。謂師曰。時人祇知老師有教。徑山却許老師有禪。為題其真云。悟得旋陀羅尼三昧。於一切法得大自在。舌端之上海

波翻。第一義諦無違背。孝宗乾道元年春。召師問道。上曰。朕欲讀經。以何為要。師曰。金剛圓覺最為要道。曰。參禪如何。師曰。禪須自悟。上曰。何以為功。師曰。澄寂身心久當自契。上說。後因召問當世有道之士。師以上竺慧光對。上欣納之。一日謂門人曰。吾為首座十八年。日課蓮經一部。每於禪定。夢寐得見普賢。住持以來無復夢見。信知領徒損己。其言有實。遂屏跡草堂經半載。忽書偈趺坐而化。停龕踰旬時當連雪。而身常溫煖(此下遺失令祥一人)。

法寶雅法師法嗣

法師如杲。錢唐人。學於法寶。唐復禮法師問學者偈云。真法性本淨。妄念何由起。從真有妄生。此妄何所止。無初則無末。有終應有始。無始而無終。長懷慍茲理。願為

開玄妙。析之出生死。師謂。此問有二意。初四句問。真法本淨妄何由生。既生妄已云何止妄。而能即真。此該從真起妄反妄歸真之義。次四句問。始終有無。既云無始。云何有終。若無於終何有於始。後二句為請答。自古涉法師。清涼圭峰各有偈答。而洪覺範所錄(林間錄)謂皆未副問意。彼問真法本淨妄何由起。而今但云迷真不覺。此答人誰不能。師乃別為之答云。真不守自性。照分能所起。隨緣染淨熏。復性方可止。真妄一體即。故說無終始。迷悟自情分。始終宛然理。達此真妄源。誰復受生死。識者謂。此答始可以盡問意。師所述教義。名指源集(自序云紹興十二年述)。

興國基法師法嗣

法師悟持。慈溪人。受業於興國。誦法華試中得度。傳受

基法師之道悉達深旨。每俾代講綽有父風。邑西永安林泉尤勝。眾請為起廢。歷十八年。殿宇像設無不畢備。寶元初。仁宗聞於朝賜名福源。安眾講道。鬱為法席。為人寬和。接賓客有加禮。雅尚清談。終日不倦。所居多植嘉果。築塘治田。凶歲無歉。法食俱運。人皆樂依(四明教行錄有三書。與持姪永安山主者。是也○事見福源開山記○此中本紀遺失二人○此卷共三十三人。本紀止錄二十三人。遺失十人)。

佛祖統紀卷第十一(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依

大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十二

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之二

四明法智法師法嗣(第一世)

- 廣智尚賢法師
- 神照本如法師
- 南屏梵臻法師
- 三學則全法師
- 浮石崇矩法師

- 廣慈慧才法師
- 廣嚴含瑩法師
- 慧因擇交法師
- 圓智覺琮法師
- 崇法嗣端法師
- 四明文粲法師
- 丹丘嗣謙法師
- 四明願彬法師
- 廣印智環法師
- 祥符文智法師
- 三衢文炳法師
- 四明用卿法師
- 四明居永法師
- 四明自仁法師
- 崇慶本圓法師

- 天台慧舟法師
- 三衢懷襲法師
- 圓智志豪法師
- 日本源信法師
- 內侍俞源清
- 嗣法二十七人(塔銘)
- 入室四百七十八人(實錄)
- 升堂一千人(塔銘)

法智法師法嗣

法師尚賢。四明人。賜號廣智。依法智學教觀。聞講淨名頓悟性相之旨。歷事既久遂居高第。天聖六年(仁宗)繼法

智主延慶。道化盛行。雪竇顯禪師聞其名。出山來訪。標榜煎茶以申賀禮。人傳以為盛事。嘗晨入懺堂。見一虎伏几前。師直進展尼師壇於背。寂無所覩。日本國師遣紹良等。齎金字法華為贄。請學輪下三年學成。辭還日本大弘斯道。明道中(仁宗)淨覺居靈芝。致書於師。論指要解三千之義。祇是心性所具俗諦之法。未是中道之本。請師同反師承。師援荊溪三千即空假中之文。謂何必專在於假。以輔四明三千俱體俱用之義學者賴之(往復二書並見廣智遺編)所著遺編。及釋金鉉(亡本)。釋十類(即扶宗忠師。所錄廣智傳。法智二師口義)翼讚大教至為有功。經體一章尤善發明。續遺妙宗之旨。又嘗著闡幽誌。以七種二諦消光明諸經之王(四教之正三接之旁)法智是其說。及後作光明記。遂采用之(見口義經體章)。

草菴錄言。曾魯公為廣智撰塔銘。而後世無傳。當是與寺

俱燬於建炎之寇。惜哉。

法師本如。四明句章人。受業本郡國寧。初依法智。於千
眾中有少俊聲。史典詞翰有法則。為世所愛。嘗請益經正
義。法智曰。為我作知事三年却向汝道。暨事畢復以為
請。法智厲聲一喝。復呼云本如。師豁然有悟。為之頌
曰。處處逢歸路。頭頭復故鄉。本來成現事。何必待思
量。法智肯之曰。向來若為汝說。豈有今日。祥符四年。
慈雲遷靈山。親往法智會下。求可為繼。法智曰。當於眾
中自擇之。慈雲閱視至師即云。斯人可也。師至承天(東山
能仁舊名)大振法道。歷三十年。眾常五六百。法華涅槃光
明觀無量壽觀音別行玄止觀金錍觀心論等。皆講說六七
過。嘗集百僧修法華長懺一年。瑞驗屢見。寶歷二年七
月。駙馬李遵勗為請於朝。賜神照法師紫方袍。及賜智者
教文四千五百卷。以資講說。嘗於寺西南隅。見一虎睡以

杖擊之曰。此非汝睡處。虎俛首而去(今白蓮寺虎溪亭)後
於虎臥處結屋為菴歸間其中。先是有五通神居於此。師每
禪坐必連床昇行空中。師未嘗問。一日五神請曰。師既踞
吾居。乞於此向山岡。建祠塑像。已備泥在山矣。師往視
岡上。有新泥一垛。以之塑像無所餘。師慕廬山之風。與
丞相章郇公諸賢結白蓮社。六七年來遂成巨剎。乃以能仁
山林三之一。指嶺為界。以供樵薪。仁宗欽其道。遂賜名
為白蓮。皇祐三年五月十八日微疾。即升座說法與眾訣
別。其夕法堂藏閣方丈棟梁皆折。鍾鼓擊之無聲。江上漁
人。見雲端有僧西向而去。詰旦右脇安庠而逝。時天氣盛
熱異香非常。明年三月。塔全身於寺北。門人啟鑰視尊容
如生爪髮俱長。有大蓮華產於塔前。壽七十。臘五十三。
嗣法處咸等甚眾。師嘗於天台邑中為眾施戒。方秉羯磨忽
有光明。自智者塔國清寺赤城山。交射於法座之上。又因
供千佛。飯一千貧人。置華於席下。佛座華應不萎而反

萎。貧人座華應萎而反不萎。舉眾為之歎異。嘗著仁王懺儀。撰行法經疏至十種境界而止。後咸法師續而全之。

問宣子記曰。嘉定四年春。住山鑑堂謂。師塔當方丈後。狃於風水非宜之說。將遷之。破土數寸香氣襲人。棺上產蓮華一莖光明奕奕。暨發函慈顏儼然須髮長垂。衣被不壞舍利滿龕。一眾驚歎。於是亟掩藏之。鏡菴論之曰。法師血肉之身。衣被之飾。在土二百年而不壞。非夫戒定慧三昧之力所持。疇能若是。人或以輕發祖塔。咎鑑堂者。非夫假此日之啟視之。曷足以知法師正報親依堅固不壞之瑞。為此舉者。其祖冥使之乎(觀經疏。以華座觀為親依。今以衣被例之)。

法師梵臻(初名有臻真宗特改)錢唐人。具戒之後。即問道四明。見法智最為晚暮。聞講妙玄文句大有啟發。及還鄉

邑。以不親授止觀為之恨。乃焚香禮像。閱讀二十過。以表師承。皇祐三年初居上竺。明年有旨遷金山。熙寧五年。杭守吳侍讀聞師名以南屏興教延之。每當講次。綜括名理貫穿始終。舉一義則眾義洽然。窮一文則諸文允會。當時強記者。因集以成類。初集類之作。由法智講授散引諸文。有仁首座者。錄為五類。既而淨覺增其二。括蒼聰師加其三。佛慧才師重檢諸文節為十類。四明吉師隨諸部帙各為詮次。廣智見之曰。類集之行得失相半。得在知其綱要。失在昧其起盡。暨師興教之席。群峯泰初。詮為高座緒餘。超果會賢。別立懸敘消文。一一文下開示來意正釋觀心。號為南屏一家(天竺韶師曰。碎割法身訛誤後學去也。檀菴書與無相听。力勉勿傳。有醍醐化糟粕法藏變鬼火之語)吳公當休沐必往聽法垂紳正笏立於闔外。師未登座終不入。師夜赴請。見婦人在前。問之則曰。妾有哀懇請師到家。師從之至其門。見數人拽此婦置床上。舉大刀斫

之如泥沙。少時復活。泣曰。妾生前善切膾。今受此報。欲求濟度故敢仰屈。師為授戒遂不復見。每與淨覺辨論教門。陳辭有司。乞築高臺豎赤幡。放西竺聖師與外道捫勝義墮者斷首截舌懸之幡上。郡侯覩師法戰之銳。就辭解之曰。行文製作臻不及岳。強記博聞岳不及臻。師雖自此弭兵。聞者莫不凜凜。東坡初來杭與師最厚。後為郡而師已逝。見其行狀曰。此文雖工。未道此老大過人處。吾嘗與語。凡經史群籍有遺忘。即應聲誦之。崇寧中。諡實相法師。

法師則全。字叔平。四明施氏。依報國出家。即造法智學教觀。時南湖競推十大弟子。師為之冠焉。旁通書史尤善著述。性直氣剛敢言人失。人以是畏之。住三學三十年。郡守郎簡尤加敬。嘗謂人曰。叔平才氣凜然。若以儒冠職諫諍。豈下漢汲黯唐魏徵我朝王元之耶。慶歷五年夏。別

眾坐亡。弟子若水。立碣於延慶。師所述四明實錄。人謂。蔡邕作郭有道碑也(後漢郭林宗。舉有道。不應既卒。蔡邕為碑文謂盧植曰。吾為碑多矣。皆有慚德。唯郭有道。無愧色耳)。

述曰。廣智趙清獻為撰碑。三學亡。弟子水師為立碣。此二文。必大有可記者。今二石既無存。於是二師行業不可知。後人立傳祇彷彿耳。吁可惜也。

法師崇矩。三衢人。來學法智。妙達教觀之道居第一座。法智坐聽其講曰。吾道有寄矣。初赴黃巖東禪講。法智寄書勉之曰。立身行道世之大務。謙為德柄汝當堅執。此外更宜博究五經雅言。俾於筆削之間不墮凡鄙。當效圓闢梨之作也。未幾還三衢。受本業景德講浮石。主者元勳問從真起妄義。一言有契。願回禪居永為傳教之地。郡為敷

光致京上心之轉座軌。講廣至上久將為三。夜盡方理講。汝空曰。止未遊名貳曰處是。談義時盛眾獎室授人。日於廟經眾。為授。眾心真章竺辭慈心。學融。二十天誠入慈。安智違。四十回書。慢。以法相四而手衣輕。堂以免講既意為防。齋嘗以殿藥鑪被意。開佛。三至幣以哉。論說。乃念三召金授之寡言隱。請率收。袍雲勉寡安。其時乃名方慈。口名。俞一智其紫也。惱行。旨於法聞賜里也。四。有復問。上悅。歸於親眾。為。奏明難師大復說身是。

述曰。浮石先學於法智。及赴東禪乃遺以書。當是時已定師資之分矣。後自京回天竺。慈雲以猶子待之。故其歸里亦授以辭。此見一尊者法門之情無所間然。而古今圖譜置之慈雲之下。其不審也。若是。今依鑑師錄系之四明。覽圖者毋以為惑。

法師慧才。永嘉樂清王氏。師白鶴山怡芳。祥符覃恩得度
(真宗封泰山。詔寺觀各度一人)年十三。進受具戒。往學
於四明。性識昏鈍。常持大悲呪。願學通祖道。忽於夢
中。見梵僧長數丈。脫袈裟與披之呼曰。慧才盡生記吾。
翌日臨講豁然開悟。前後所聞一時洞曉。未幾首眾四座推
服。復謁慈雲。北面服勤旦夜不替。治平初。杭守沈邁。
講住法慧寶閣。二十年始終一節。太尉盧公奏賜廣慈之
號。浮石來請勉徇眾意。未久退居雷峯塔下。每翹足誦大
悲百八為課。又翹足一晝夜誦彌陀號。一夕夢至寶樓宮
闕。有告之者曰。淨土中品汝所生也。元豐元年春。緇素
萬指求授大戒。至羯磨時。觀音像頂放光輝映講堂。淨慈
守一禪師為作戒光記。六年五月二十一日。更衣就座。書
偈讚佛曰。吾生淨土決矣。泊然而化。塔於菴之右。壽八
十六。臘七十三。繼其業者。法宗戒珠十人。師貌古而性

恬。少言寡欲。時教門異論誼動江浙。師獨循循講訓未嘗有所臧否。清獻趙公道交最密。及鎮越寄以詩曰。乞得鄉邦樂矣哉。雷峯菴靜此徘徊。浙江莫謂音書隔。一日潮聲兩度來。

法師含瑩。受業四明之廣嚴。稟法智教觀。深有造詣。時人推為教主。嘗以銀書法華經。遇佛菩薩名。則用金字。世稱為法門至寶。建炎金寇院宇焚蕩。於瓦礫中尋獲此經不損一字。淳熙間。住山蓮止菴。夜聞萬人誼譁。驚起視之。則別室遺火。其經藏柱閣上。師冒火取之得無損。人言兩遭烈焰皆不滅壞者。遠由大乘功德之力。近見教主行願之所持云。

法師擇交。台之黃巖人。學法智得其道。天聖二年。章安慧因。始易為講院。請師主其席。法智作授辭與之。其略

云。今授汝香鑪如意用為傳法之具。欲汝三學芳馨藹乎自己。四悉巧意適彼物。宜汝其懋之。勿妄揮秉。

法師覺琮。受業會稽之圓智。依南湖。學成言歸。法智寄帖勉之曰。既學山家。必當異於常流。理事合修自他兼濟。如此是為智者之子孫也。

法師嗣端。四明人。受業崇法。久親法智。世稱教主。王荊公宰鄞。與師為方外友(荊公有崇法留題云。小亭臨水間修篁。郁郁餘華席地香。惟願時人觀此境。盡將煩惱作清涼。集中失收)。

法師文粲。四明薛氏。初依興國令祥師。久之遣入法智室。孜孜教觀綿歷多載。天聖四年。祥師以經理塔寺有妨示徒。乃付講於師。法智作授辭以勉之曰。吾觀汝為傳法

之器。故授汝手鑪暨鬱多羅僧。欲汝一秉一披使德香芳郁寂忍成就。

法師嗣謙。蚤居法智輪下。因有人謂三千是假法以之為難。時廣智謂。三千不離實相。實相即是三諦則三諦皆三千也。師服其說。後著修性辨訛。首明三千不專俗諦。及廣智答淨覺書。乃引師以為證。

法師願彬。四明人。依法智得旨。唱道有美譽。法智垂終。遺書囑其隆法。

法師智環。學於法智。楊文公勸法智止其焚軀。作書與慈雲。令師往勸住世。法智建放生會。請樞密劉筠撰碑記述。師疊書催之。遂得成文(此下本紀遺失四人)。

法師自仁。聽法智講。錄所引諸部名言以為五類。類集之興自師始。祥符七年夏。法智出教門雜問七章。及四教四諦義。師所答最勝。學者盛傳之。後舉以首眾講演不倦。謙沖不務名世以此敬之(此下本紀遺失一人)。

法師慧舟。丹丘人。二親既沒。即棄家入道。投四明為學數載。而業成乃曰。法智有訓。佛道甚夷。行之惟艱。謂四三昧也。天聖初。結同學十人行大悲行法者三年。結十四人行普賢行法者又三年。初入期。誓於像曰。倘此三昧有成當焚軀以效供養。行法既周。回故里求證神照。照欲全其重願。喻道俗輸香木成大[卅/積]仲夏晦日。神照囑之曰。法華尊施爾克修之。梵網明晦爾克遵之。惟繫心法界。身如火如。則一聚之燼。乃三昧之蘊。喜見精進。以奉淨明真供。惟子行焉。師奉教。致謝四眾。端坐薪塔。火光屬天。了無傾側。舍利晶耀。求者咸如其願。乃瘞餘

骨於山西。衢之祥符懷襲。與師為同學。又同修三昧云(此下本紀遺失二人)。

法師源信。日本國十大禪師也。咸平六年。遣其徒寂照。持教義二十七問。詣南湖求決。法智為其一一答釋。照欣領歸國。信大服其說。西向禮謝(此下本紀遺失源清一人)。

佛祖統紀卷第十二(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十三

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之三

廣智法師法嗣(第二世)

- 神智鑑文法師
- 扶宗繼忠法師
- 超果惟湛法師
- 四明如吉法師
- 淨社全教法師

- 括蒼義詢法師
- 四明蘊恭法師
- 金文冲霄法師
- 法昌本誠法師
- 日本紹良法師

神照法師法嗣(第二世)

- 法真處咸法師
- 神悟處謙法師
- 檀菴有嚴法師
- 能仁法寶法師
- 天台寶纖法師

- 承天懷雅法師
- 承天元操法師
- 錢塘義全法師
- 天台左伸居士

南屏法師法嗣(第二世)

- 慈辯從諫法師
- 群峯泰初法師
- 法照用文法師
- 超果會賢法師
- 法慧宗正法師
- 東安景初法師

- 南屏靈玩法師
- 東吳文詡法師
- 錢唐如詢法師

三學法師法嗣

- 三學若水法師

浮石法師法嗣

- 景雲溫其法師
- 天柱守孜法師

- 浮石懷月法師
- 婺女日東法師

廣慈法師法嗣

- 妙悟希最法師
- 懺主法宗法師
- 妙果子良法師
- 餘慶思辯法師
- 浮石惟清法師
- 龍泉覃異法師
- 雷峯戒珠法師

廣智法師法嗣(第二世)

法師鑒文。四明人。賜號神智。為廣智得法上首。繼席南湖。大揚祖父之化。嘗曰。我由釋迦佛。得出家聞道。由智者大師。得依師學教。乃日課佛祖號千聲。夜禮千拜。用為報恩。未嘗以事廢。

法師繼忠字法臣。永嘉丘氏。父母求嗣佛祠。同夢一僧授以好子云。螺溪尊者寄汝養之。母娠即厭葷血。幼見佛像必致敬。八歲入開元。蒙恩得度。即詣南湖依廣智學。勞苦得疾。乃行請觀音三昧。蒙大士放光以水灌頂其疾即愈。既而洞悟教觀無所凝滯。廣智深器之。時令代講。雪竇顯禪師。見而歎曰。四明之道為有傳矣。永嘉士庶。請

居開元東閣。遷妙果慧安。退隱江心。研精禪觀。出主西湖
法明。學者驟集。有欲革大其居者。師曰。於郡中授菩薩戒。行放生
福。吾忍毀之乎。數萬人。每歲正月。誓於眾曰。入吾道場。出家求無上
事者。縱未得道。願生世世不昧。日不虛過。誦呪救疾。神應
道。行法華光明。彌陀觀音。行者避路。舉首加敬。稱為戒
莫測。每入市。坐者避席。沐浴更衣。集眾說法。結印坐
師。元豐五年十月八日。沐浴更衣。淨社全教。夢金甲士告曰。今夜
亡。人見赤光徹照空表。淨社全教。神人告曰。忠法師已生兜率。
得道人入滅。慶恩希妙夢。鳥雀悲鳴。三日不下。葬於瑞鹿
師久行施食。後雖有繼。著扶書等。用昭四明。獨得祖道之正。至
山。傳法者及百人。及十義人。頗怪其冗雜。
膜。十門析難。及十義人。頗怪其冗雜。
於所錄二師口義。後人頗怪其冗雜。

法師惟湛。義烏宋氏。父母遇異僧謂之曰。汝當生子六人。第五者宜令出家。後入道雙林覃恩得度。首謁神照。未久復往依廣智。嘗白智曰。大師所授我所不疑。若圓頓絕待之旨。當須自得。後忽於廣智言下。豁然有悟。與上流交論莫不推服。初敷講於雲間超果。大揚化道。天台一宗盛於三吳自師始。熙寧六年三月八日。建光明會。遽謂眾曰。吾今報緣止此。即舉涅槃遺教。殷勤囑累。趺坐而逝。火浴之頃舍利粲然塔於西余山。海慧若圓。為門弟上首。

法師如吉。四明人(二師口義序六)學廣智得其旨。見前輩編類集。初無詮次。於是參以三部之文。節略成類以行於世。嘗注金鑄。言簡而義正。學者宗之。住錢唐因果。

○法師冲霄。久學廣智。號稱具體。初開寶中(太祖)。

法師全曉。舍於大梅之山。吳越忠懿王仰其德。錫帑金改建為院。及賜經卷一藏。院成乃名金文。曉亡。高弟正和嗣之。霄又和之嗣也。師以其居稍隘。始與其徒。遷築於栢巖峯下。大開廣智之道。始平四年上於朝。賜額慧照(郭暨作記廣智立石)。

法師本誠。四明奉化人。依南湖學廣智。志尚靜退。乃閑居於法昌。禪誦並進人欽隱德。院主更建眾宇久不克就。師慨然自誓曰。昔智者。造三十六寺。像八十萬軀。今吾徒豈於一剎而不能成耶。即率同志。化邑人得錢二百萬。并力以營。殿與像俱畢事。著作郎俞充。為之記謂。師有得於畢竟空中。熾然建立之義云。

神照法師法嗣(神照下第二世)

法師處咸。天台王氏。母夢白雲自天西來入室內化為白
馬。因而有娠。七歲入國清依師。十四受具戒。即自歎
曰。佛法廣大。若不力學何能見道。乃入天封閱藏經三年
而畢。及往謁神照。深悟教旨。恭默自遜人莫能測。神照
嘗託疾命師代講。眾纔一聞心容俱服。初住赤城崇善。姑
蘇李庭芝將守台。夢神人曰。公典天台。五祖臺下有龍頭
九九。和上宜就見之。到郡諮詢莫知其說。閩士陳白悟
曰。天台五祖昔居赤城。今咸師住此。生於丙辰九月九
日。其龍頭九九之謂乎。庭芝大愕即往謁見。師為談出世
道深有契會。以寺宇隘陋謀遷之。庭芝首捐金帛。乃卜就
東南地。開基之日。獲銅磬於土中。少師李公尤尊敬。請
主白蓮。奏賜法真之號。居山五十七年。登門受道者萬數。
元祐元年正月。法鼓擊之不鳴者七日。至七月告眾曰。二
十三日吾將行矣。遜唱衣盂飯眾為別。戒侍者。晨鐘鳴當

告我。至時徐起。趺坐寂然而化。著三慧論。光明十願王。續神照行法經疏。行於世。

法師處謙。永嘉潘氏。母感夢見瑞雲入懷娠。三年而生。九歲依常寧契能出家。章聖在御覃恩得度(真宗祥符元年。封泰山。詔天下寺觀。各度一人)即往學於天竺。慈雲異之曰。是能棟梁吾道者。復謁神照。大明圓頓之旨。然三指供佛祖祈妙悟。未幾擢居第一座。神照以止觀一帙授之曰。汝當建大法幢。恨吾不之見耳。既而言歸鄉邑。繼能師之席。遷慈雲妙果赤城。講道益振。少師李端慤。請主白蓮。北海郡王為請神悟之號。丞相王安石。與一時朝賢競為歌詩。以贊其德。郡大旱。要師祈雨。師至龍湫語曰。汝受智者大師付囑。遇旱當施甘澤。何不憶耶。忽大風黑雲從湫起。驟雨如注。閱十七年。將歸永嘉。郡侯士庶固留演教。乃於巾子山慧林精舍講小般若。後時杭師祖

無擇。以寶閣請。趙獻以淨住請。內翰楊繪以南屏請。紫微陳舍人以天竺請。十坐道場。閱四十年。講唱不倦。登門三千人。稟法者三十人。熙寧乙卯四月丙寅。晨興沐浴更衣。集眾諷普賢行法阿彌陀經。乃曰。吾得無生日用久矣。今以無生而生淨土。即入定寂然。塔全身於南屏之右。弟子良弼請無為揚傑銘其塔云。師嘗解十不二門。題曰顯妙。於色心不二云。分色心者。不二而二。妄之境也。其體一者。二即不二。妙之門也。故以總別斷盡十門二不二相。使粗妙昭然門旨不壅。是知境妙不二之門。在乎一念色心。得此之門。寶乘即乘。道場可到。

法師有嚴。台之臨海胡氏。母將孕。號痛頓仆。其兄沙門宗本曰。是必有異。若生男當出家。母聞之合掌以許。既而痛止。果生男。六歲依靈鷲從師。十四受具戒。閱壽禪師心賦若有所悟。即往東山學於神照一心三觀之道。法華

三昧之行。莫不神解。而躬行之。時法真同居會中。謂之曰。子雖晚出當大成器。嘗讀止觀至不思議境曰。萬法唯一心。心外無一法。心法不可得。故名妙三千。法真益嘉歎之。初主無相慧因法真。自赤城遷東掖。舉師以代。常謂去佛久遠人迷自性。凡宣演之際。必近指一心使之易領。聞者皆能有入。紹聖中。郡請主東掖。師曰。智者年未五十。已散徒眾。吾老矣可堪此耶。卒不赴。隱居故山東峯。廬於檀木之旁。因自號曰檀菴(文集中。有檀菴記。辭理極奇勝)畜一鉢無長物。躬拾薪汲水。食唯三白。毘尼條章輕重等護二十年。專事淨業以安養為故鄉。作懷淨土詩八章。辭情悽切人多樂誦。常時所修三昧多獲瑞應。施鬼神食除病却祟。驅蛇去蟻水旱禳禱。一為課誦如谷答響。母病目。師對觀音想日精摩尼手。母即夢師擎日當前。覺而目明。建中靖國元年孟夏。定中見天神告白。師淨業成矣。又夢池中生大蓮華。天樂四列。乃作餞歸淨土

之詩。越七日趺坐而化。以陶器塔於菴北。有光在塔如月。三夕乃沒。師淹貫藏經該通書史。注安樂行空品。及法印經疏。玄籤備檢。文句箋難。止觀助覽。阿彌陀禮文。又撰或對一編。辯論古今。於茲為要。

左伸。臨海人。從東掖神照授菩薩戒。及為說大乘法要。豁然開悟有如夙習。神照對眾摩頂與記。自是嚴奉戒律。遇事不易其節。刻西方三聖像。旦夜虔事。誦法華三千四百部。金剛般若二萬過。紹聖二年秋臥疾。命僧淨圓唱法華首題增受菩薩戒。尋夢三偉人立於江皋召伸登舟。瞥然西邁。伸知往生有期。乃請僧諷阿彌陀經。未徹即云。我已見佛光矣。遂沐浴更衣。戒左右勿哭。勿逼吾前。稱佛結印而化。

南屏法師法嗣(南屏下第二世)

法師從諫。處之松陽毛氏。幼見佛經。輒能自誦。父曰。再
來人也。年十九。試法華經。得度。即謁上竺。辯才。夙夜聽
習。復往依南屏於金山。問辯如流。南屏歎曰。吾道由子
而行也。熙寧中。講於明慶。徒眾日蕃。乃遷淨住。元豐
初。處人建壽聖。迎居之。越三年。辨才主南屏。自以年老屈
師首眾。嗣歲舉以自代。元祐五年。上竺虛席。辯才囑郡
守蒲宗孟曰。靈感勝迹。非從諫不足求法。郡以師應命。義
奏賜慈辯之號。義天遊學。朝廷以母統賢。不可捨。遠傳
高僧道紀。以天橫荷歸志。乃求還國。流壽聖。辭歸。普
可背。義天傳慈辯始祖。大觀二年。辭歸。壽聖。普明等

十人詣師省候。師曰。諸子遠至。後會無期。老僧不如乘興便行。遂沐浴更衣。升座說法。書偈。安坐而亡。葬全身於受業。

法師會賢。早為南屏高弟。初弘教於華亭超果。學者如市。將行化外邑。必得老成貳講者。乃擊鼓集眾。其人對眾答曰。必欲代講於老師。凡所說義許悉破之。師忻然曰。幸蒙破立祖道之光也。

述曰。南屏晚見法智。其所立義有時而違。今賢師所說。不為貳講之見取。疑此師一稟南屏之言。故貳講得以破之。然世無聞其名。可謂烈士。乃師忻然許其破不以為忌。真賢乎哉。

三學法師法嗣

法師若水。三衢人。久依三學。號為有成。欲事廣詢乃易名若水。外現未學處處遊歷。初住天柱崇福。講演不倦。課密語有神功。祖忌將臨。戒庖人備芽筍。庖以非時。日暮嚙盂水於後圃。夜聞爆烈聲。明旦視之。筍戢戢布地矣。民人以疾告。呪水飲之。愈者莫紀其數。

浮石法師法嗣

法師溫其。金華人。依浮石學教為成才。治平初。於城北葺景雲舊宇以開講席。夏大旱。日演光明經虔扣諸天。已而甘澤遍洽。郡守。盧革為奏其地永為天台演教之所。賜師法雲之號。嘗造九祖像。極為精麗。東陽教學之行師之力也。弟子七十二人。普月大師善嵩。主慈覺。化成一境。居式主。景德有虎子之稱。

廣慈法師法嗣

法師希最。雪川施氏。賜號妙悟。四歲出家。以天禧覃恩得度。年十五。傳教觀於廣慈。同門畏愛號為義虎。治平中。始敷講於嘉禾。隆平繼徙居於勝果。有空室崇所棲。師呪土擲之。得片紙書。今被法來遣。若法力沒當復來此。數日擊物颺火變怪百出。師訶之曰。不聞惱法師者。頭破作七分。乃為廣說輪轉因緣。眾僧聲呪為其破障。忽空中轟然擲朱書云。漢朝烈士沈光。大略悔過。且云蒙師說法之力。當往生他化天。自此遂絕。師因淨覺背宗。上十諫書。法智作解謗。淨覺復作雪謗。時法智在疾不復答。淨覺在靈芝。對眾詫曰。只因難殺四明師。誰向靈芝敢開口。師不甘之。乃作評謗以極辨之。其略有云。近觀雪謗盛製。所謂救生法二身。雪增減二謗者也。然此書。

一往可觀。再言有失。解謗雖已煥然。雪謗猶自冰執。今據吾祖之格言。以評闍梨之謬解。淨覺見之曰。四明之說其遂行乎。元祐庚午秋。集眾書偈安坐而化。闍維之日得舍利數百。

述曰。淨覺既屢起破師論。及雪謗之出。而法智已在疾不復辨。於是淨覺自謂已勝。無忌憚矣。不有妙悟。誰能評之。起四明之宗以信後世者。於妙悟功最高。

法師法宗。錢唐顏氏。十歲依廣慈為師。十二受具戒。專研教觀。十九往從廣慧。初師服勤十年。廣慈閒居。師歸侍左右。日親法誨。依止觀修大悲三昧。綿歷九載。人目之為懺主。凡禱事祈疾悉獲聖應。建淨土道場。刻西方三像。燼五指供佛。每月集四十八人。同修淨業。名卿賢士多預其會。政和丁酉春微疾。夢彌陀聖眾授手接引。後三

日浴身易衣盥口趺坐。倏然而逝。師素聞天竺光明懺期之勝因。預同修。至五日於禪觀中見慈雲法師侍僧數十。師作禮問曰。自昔同修者。皆得往生否。慈雲曰。後之元照。已得往生。擇瑛尚欲三塗弘經(後時瑛師果有此願)汝宜勤修以成本願。言訖而隱。

法師覃異。餘姚杜氏。師龍泉清序。遇皇祐普度恩得剃髮。習教觀於天竺明智。後入雷峯廣慈之室。孜孜扣擊。二十年無倦志。學成歸里敷講故山專勤淨業。誦法華至五千部。普賢彌陀。誦各萬卷。崇寧元年秋示疾。集眾告曰。吾生淨土時至。當乘金臺隨佛西邁。即澡身端坐。結印而逝。火餘舌根。舍利如綴(此卷四十人。本紀止錄十人。餘二十七人不錄)。

佛祖統紀卷第十三(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十四

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之四

神智文法師法嗣(廣智下第三世)

- 明智中立法師
- 文慧宗正法師
- 空相思恭法師

扶宗忠法師法嗣

- 草堂處元法師
- 永嘉法詮法師

超果湛法師法嗣

- 海慧若圓法師

法真咸法師法嗣(神照下第三世)

- 白蓮道卿法師
- 安國元惠法師
- 四明淨杲法師

神悟謙法師法嗣

- 北禪淨梵法師
- 白蓮善珪法師
- 德藏擇瑛法師
- 金華子方法師
- 壽安良弼法師
- 淨住思照法師
- 一相宗利行人

檀菴嚴法師法嗣

- 天台法麟法師
- 天台應通法師

慈辯諫法師法嗣(南屏下第三世)

- 車溪擇卿法師
- 慧覺齊玉法師
- 圓覺蘊慈法師
- 普明如靖法師

- 天竺應如法師
- 法雲宗敏法師
- 佛智慈雲法師
- 佛照智堅法師
- 慧覺清月法師
- 圓明普賢法師
- 上竺明義法師
- 高麗義天僧統

群峯初法師法嗣

- 梵慈智普法師

南屏文法師法嗣

- 憲章仲閔法師

超果賢法師法嗣

- 精微彥倫法師
- 清辯蘊齊法師
- 寶積彥端法師

景雲其法師法嗣

- 覺慈善嵩法師
- 景德居式法師

神智文法師法嗣(廣智下第三世)

法師中立。鄞之陳氏。賜號明智。母夢日輪入懷遂有娠。夜不三浴。則啼號不止。九歲出家於甬東之棲心。受經一誦永憶不忘。治平中試經開封府。中選得度。初依廣智學教觀。及神智斷主南湖復依之。熙寧中神智開幃。設問答者二百人。無出師右。乃舉居座元。久之去謁扶宗於永嘉。將歸。宗曰。子行必紹法智之席。及神智謝事。乃俾

師升。不可而郡。雲。思。網。裂。網。之。語。坐。辛亥。遇。師。竟。數。文。白。雲。有。大。觀。再。來。何。知。者。唯。師。岸。其。士。學。願。隱。矣。裂。止。再。道。殊。華。唯。四月。濟。折。業。隱。腹。退。矣。五。章。作。六。十。適。空。法。不。可。甫。學。淨。湖。藍。之。此。極。佛。果。符。曰。吾。虛。徒。修。不。道。所。延。東。伽。異。道。至。又。指。佛。是。慶。侍。者。太。其。欲。乘。五。問。傾。以。東。伽。異。道。至。又。指。佛。是。慶。侍。者。太。其。欲。乘。五。來。見。室。退。於。者。異。道。至。又。指。佛。是。慶。侍。者。太。其。欲。乘。五。遠。見。室。退。於。者。異。道。至。又。指。佛。是。慶。侍。者。太。其。欲。乘。五。天。禮。觀。即。退。聞。者。異。道。至。又。指。佛。是。慶。侍。者。太。其。欲。乘。五。義。師。六。棟。地。歎。曰。吾。道。正。全。生。慶。侍。者。太。其。欲。乘。五。統。以。十。來。新。棟。地。歎。曰。吾。道。正。全。生。慶。侍。者。太。其。欲。乘。五。僧。遂。作。再。新。地。歎。曰。吾。道。正。全。生。慶。侍。者。太。其。欲。乘。五。麗。焉。始。當。一。興。境。乃。作。舉。郡。無。盡。吾。覺。身。心。擇。眾。政。高。焉。始。當。一。興。境。乃。作。舉。郡。無。盡。吾。覺。身。心。擇。眾。政。初。有。人。然。寶。雲。重。議。乃。行。亡。慈。師。江。浙。觀。中。見。超。初。有。人。然。寶。雲。重。議。乃。行。亡。慈。師。江。浙。觀。中。見。超。元。祐。果。徒。年。六。十。勉。主。身。至。不。思。議。心。成。解。師。霍。曰。吾。覺。身。心。擇。眾。政。繼。曰。門。徒。年。六。十。勉。主。身。至。不。思。議。心。成。解。師。霍。曰。吾。覺。身。心。擇。眾。政。為。歎。師。曰。吾。道。正。全。生。慶。侍。者。太。其。欲。乘。五。師。堂。得。辭。太守。百年。當。宣。止。觀。不。思。議。心。成。解。師。霍。曰。吾。覺。身。心。擇。眾。政。

謂門人法維曰。吾聞異香心甚適悅。謂觀堂行人曰。吾當與汝輩長別。即面西坐逝。塔於崇法祖塔之東。講三大部淨名光明數十過。誦法華踰萬部。與人除病却鬼救災旱。不能畢記其驗。孔老之書無不遍讀。其對儒士講說。則反質之曰。此道在孔聖如何。在詩書如何。儒士不知對。則援引委辯之曰。無乃若是乎。聞者心服而退。師在永嘉。扶宗謂曰。吾常見摩利支。韋馱於夢中求護法。他日幸於南湖懺室置其位。及師主席乃立像自師始。陳瑩中嘗讚師曰。嚴奉木叉。堅持靜慮。以身為舌。說百億事(言戒定慧皆備具也)。

法師宗正。賜號文慧。依神智學教觀。深造闡域。治平初。繼主南湖。大弘宗教。先是寶雲祖。藏骨於育王山西北隅。後七十七載。師自南湖往禮敬。顧甃甃有毀。將遂蕪沒。乃飾工累石。起方墳以顯其處。且復為石塔記以識

其事。時謂微師此文。寶雲之藏幾不可考。法師思恭。湖之烏程人。賜號體真。年十九剃髮。詣神智學教觀。及歸里時。空相癢於積潦。師克志興復。為屋三百楹。從容無求。而施者自趨。功成修長懺三載以答志願。及老歸吳山解空。建炎元年九月。別眾坐逝。荼毘烟所至皆凝舍利。塔於院東南隅。弟子戒澄等四十三人。皆傳道有成。分化浙水。

扶宗忠法師法嗣

法師處元。永嘉人。久參扶宗。遂繼法明之席。郡侯仰其道化。任以僧正。澄清品流莫不厭服。所著輔贊記三卷。其論經體則推本法智廣智源流之說。論無住本三種觀法。答扶宗通相三觀。其說明正學者宗之。崇寧二年。閒居東溪草堂。述義例隨釋六卷。初荊溪以止觀文廣。例為七

科。名為義例。俾學者知解行之大旨。雖法智製述之多不暇為記。師因義神智為纂要。以初乘觀法性德之境為真如理觀。修德之境為唯識事觀。師謂狂妄徒疑後學。乃決志注釋以斥纂要之非。

法真咸法師法嗣(神照下第三世)

法師淨杲。四明人。學法真為高弟。撰金剛經疏。欲講即講。不俟眾集。有臣律師者入冥府。司名者曰。誤追也。臣潛窺其籍。有云明州淨杲闍黎。講金剛般若經一百遍。既反詣師以問。師曰。但十遍耳。恐以義勝褒為百遍。

神悟謙法師法嗣

法主淨梵。嘉禾人姓[竺-二+亘]。母龔氏。夢佛光滿室遂

有娠。及生因名佛護。十歲從勝果師永懺主出家。常念阿彌陀佛。或問年少何為念佛。答曰。我欲往他方丈求掛搭去。年十八受具戒。即依超果湛師學。未久復往謁神悟。屢親講說大契夙心。元祐初主姑蘇大慈。講三大部十餘過。餘文稱是。受業門生殆遍吳地。信人稟戒幾滿城邑。嘗率二十七大士授戒羯磨。至稱淨梵比丘。則洪音震響如撞巨鐘。三昧將圓。有二僧作禮曰。今春到石橋禮聖迹。忽見空中散華異香非常。一僧遽曰。姑蘇梵法主。期懺散華至。此語畢不見。因來瞻禮。長洲令黃公彥。刻記於石云。異哉師之道力。其與北京進法師。夢釋迦授戒。南嶽夢四十二人加羯磨法。異世同效。師製懺儀。與眾同修。感格屢見。禪行之。嘗依識譯光明。別製懺座前。後於一處期懺。見韋天按觀懺室。行人有遭其點察者。輒障起而退。夜居西院。時

暑酷熱眾不安臥。師方披三衣坐水閣上。忽風雪飛集涼氣逼人。旦謂眾曰。夏行冬令眾皆歎仰。知為神龍翊衛變熱為涼也。元符中夢黃衣請至冥府。王者迎就座。令吏檢祥靄簿云。淨梵比丘。屢經多劫長講法華。王即起頂禮遣使送還。政和中太守應公婢。為崇所嬈歌笑不休。請師施戒即刻神定。葛氏請師為亡夫施戒。即見夫恭敬於師遶座三匝稱已得解脫。宣和初。郡守賈公。敬師高行。補為管內法主。建炎元年十月坐亡。閣維得舍利甚多。藏塔於橫塘般若。

法師擇瑛嚴之。桐江俞氏。母夢二日貫懷。後二歲散二男。俱出家。皆試經得度。長名子欽。受業錢唐淨住。次即師也。入道於杭之壽寧。熙寧中參神悟於施水寶閣。深悟止觀之道。閱不二門金鉅。不寢者數月。以所得白師。神悟曰。法華妙旨歸乎自心。宜善護持勿自輕也。當湖魯

氏。於德藏創一院。以迎師大開法施。久之遨遊杭秀蘇湖間。元符二年春。於杭祥符示疾。俄舊身凭几。西向誦彌陀經。卷終而逝。嘗述淨土修證儀。其讚有阿彌陀佛真金色之偈。至今人皆誦之。又辯西方此土二種觀門之相。以勸專修淨業者(文見淨土本傳)。

行人宗利。會稽高氏。七歲受業於天華。既具戒。往姑蘇依神悟。即入普賢懺室。要期三載。忽夢亡母謝曰。蒙汝懺功已獲生處。又見普賢從空過前。懺畢復往靈芝謁大智律師。增受戒法。夢大智在座呼宗利名。口吐白珠令吞之。又於靜定中神遊淨土見寶池蓮華寶林境界。尋詣新城碧沼。

專修念佛三昧。經歷十年。復遊天台雁蕩天封。皆建淨土道場晚歸受業天華。建無量壽佛閣接待雲水。政和元年天

早。詣日鑄山帝舜祠祈雨。感龍王現金色身。甘雨沾足。
建炎末入道味山。題所居曰一相菴。會稽道俗請師主繫
念。至第三夜。繪像頂珠忽放光明大如箕。預會者益堅
固。紹興十四年正月晦。告弟子曰。佛來也。吾將歸安養
矣。書頌為別曰。吾年九十頭已白。世上應無百年客。一
相道人歸去來。金臺坐斷乾坤窄。端坐即逝。是日近山人
見異僧滿山谷。莫知所從來。瘞全身於菴居之後。

法師思照。錢唐陽氏。十四歲從淨住從雅。聽法華方等於
南屏。復往東掖參神悟。大有契入。既而刺血書法華七
軸。專修念佛三昧。築小菴曰德雲。後連小門。為觀落日
之所。刻三聖像。每夜過午即起念佛。月二十三日。率道
俗繫念終其身。三十年。一旦語其徒曰。夜夢佛金身丈
六。此往生之兆也。請僧七日以助念佛。屈指作印奄從坐
化。時宣和元年春也。闍維之際。頂骨牙齒。皆瑩明如玉

石。師於淨土七經一字一禮。華嚴。首楞嚴。金光明。無量壽。普賢行法。遺教。梵網。無量義。略教誠。四分戒本。皆然。唯法華十過。總得二百七十卷。誦法華千部。無量壽佛經五藏。阿彌陀經十藏云。

慈辯諫法師法嗣

法師擇卿。天台人。天資聰敏博學強記。受教於上竺慈辯。嘗曰。四明旨意吾已得之。唯起教觀信之未及。然不敢不信也。初主車溪壽聖(車溪屬三州四縣。東為秀州崇德縣。唐時名青鎮。古塔。元祐二年。初建壽聖院。請師開山。高宗朝改廣福)未嘗屈節豪貴。聚徒三百施者自至。年三十後。即廢卷禪坐。晚居車溪。每遇講演。但令侍者日供講帙。辯說如流聽者說服。慧解曇應領徒三十人至車溪值說無量義經。聞舉難云。妙樂有云。能生一實法華異

名。所生無量為法華序。不知能生一實是隔偏之圓即偏之圓。所生無量是同體之權異體之權。應語同行曰。此師言有典刑。足堪問道。即求依止。有不循規者。悅眾以聞。詢其名則指言朋觀二師。師曰。此二人教門大才也弗之問。嘗夜坐方丈。聞廊廡有天樂聲遣人迹之。聲出朋師房。師附壁隙窺之。見朋觀數輩於燈前戲。舉手作無聲樂。師益異之。平時喜茶。臨終之頃謂門人曰。晨鐘鳴即來報。至時啜茶一甌。書偈而化。時大觀二年仲冬也。塔於院南芙蓉蒲。

法師齊玉(以避時諱暫改齊璧)雪川人。尚書莫公支子也。法號慧覺。早親釋學。日記數千言。始參祥符神智。後依慧辯。一日赴僧次遜辭之。或問其故。答曰誠不欲五千之利而喪一日之功。慈辯得通相三觀之旨。祕不肯說。而屢扣不已。乃於密室跪鑪以授。初出居茗溪寶藏。每於歲終

大興淨業之社。遷橫山立丈六像。率道俗修行。中夜告眾曰。我輩未念佛時。心隨塵境作諸不善。犯一吉羅尚受九百千歲地獄之苦。況犯篇聚重罪乎(五篇七聚)今若念佛則可一念能滅八十億劫生死之罪。況又父母生我令我出家。理當度脫以報重恩。今若破戒墜陷。則父母豈不失望。大眾聞之無不傾誠懺悔舉身自撲至損額失聲者(此雖勸修尊行。正用扶律談常為被末代之意)宣和六年。遷居上竺。先是慈辯之去。繼之者或不振。學徒謀曰。得玉公乃興。郡守翁彥國聞之乃具禮以迎。講道敷化不異慈辯。嘗中夜頂像行道。一僧失規責之曰。汝無知乃畜生耳。已而悔曰。彼雖不肖。罵為畜生有玷三寶。自是三年對佛悔過。歲大旱井竭。師運心密禱。夢水出西坡。旦掘之清流涌出。因名夢泉。建炎元年秋。謂首座修慧曰。吾床前多寶塔現。慧曰。和上流通法華之瑞證也。師曰。所願見阿彌陀佛耳。即集眾念佛。頃之舉首加敬曰。佛已來接也。端坐合

掌而化。葬於山西草堂之側。諡妙辯。塔曰慧寂。門弟傳教者。密印大師。修慧等二十人。所著普賢行法經疏。及自釋疏。祖源記。無量義經疏。雜珠記(釋孤山所造疏)安般守意法門。尊勝懺法。

法師蘊慈。四明慈溪人。賜號圓覺。初依壽安弼師。既而復謁慈辯。其學大成。時門下十高弟。師為說法第一。初居西湖菩提。遷會稽圓通。崇寧初。能仁虛席。以師為請。有文首座能行人。各然二指禱佛冥被。師既至。一眾說服。智因暑熱。講散偃息臥榻。適首座至白曰。此山師席。講退之頃不入懺室則居禪堂。未有高枕自安者。師媿謝曰。敢不承教。自此祈寒盛暑不敢少懈。每當如廁則沐浴更衣。雖行道遇雪必手掬以為淨。著十類說權實指迷。世行其文。

法師如靖。賜號普明。早入慈辯室。杭人有以私憾害其兄者。後深知悔。以聞一律師。答之曰。殺人償命。何足為問。其人即投西湖而死。欲償兄命。免為後怨。既不見鬼。反悔投水。因眾人入雷峯受戒。鬼隨以入。聞戒師說人造罪許懺悔。其鬼乃怒律師。蚤知可悔。必不投水。日夜隨律師索命。語以修薦。百方皆辭。久而言曰。為我請靖佛子。施大乘戒。則可脫。及為授戒法。乃見形致謝而去。後主覺悟。大學徒雲擁。唯一室空閉。云有惡鬼居之。師中夜入室坐禪。忽聞哮吼。見一人頭飛走地上。俄化為人。師謂之曰。汝何得擾人。鬼曰。凡出見人。本欲求度。人見自畏。非擾之也。師乃為說法授戒。語之曰。汝可入吾袖。鬼即如教。覺重甚。携至林中放之。化成天人。殷勤謝師。飛空而沒。建炎二年。遷上竺。初是有為鳴童卦者。或以上竺住持為問。童云。待問土地。良久曰。今早天符已下。請靖法師矣。閱月而師至。三年十一月。金虜破杭。師預感夢。知此山

厄運不可免。語其徒令避去。及虜至。或謂可以禮迓。即聲鐘集眾。虜疑其將抗已。放兵大掠。火其屋而去。

述曰。靖師之德。可以脫索命之鬼。可以度空室之崇。可以感上竺之符。而不能却兀朮之寇止上竺之焚。蓋當群生同分業感兵厄火災。所不得而幸免也。

法師應如。婺之浦江胡氏。默記多聞。尤善持論。來學上竺。慈辯深器之。嘗往靈山訪同志。出六能義反覆辨詰。彼義墮負。師即揭竿繫帛。謂之曰。西竺破敵則豎勝幡。道場降魔亦表勝相。今法戰既勝當揭一竿。人畏其烈日之虎子。初慈辯得南屏通相三觀之旨祕不授人。玉慧覺祈請尤力許。中夜為密說師知之。陟梯揭瓦伏身竊聽。飛雪翻空背若被鎧。旦白慈辯曰。我於通相三觀若有冥授。即錄其言以示一眾。慈辯怒曰。應如盜法。紹聖初。主越之圓

通。嘗因講散。謂侍者曰。今日東風吹。教法過淞西去。使
眼中。有耳者。得以有聞。師三十歲。便亡卷。每臨座。侍者供講
帙。以俟。紹興三年。遷上竺。兀朮焚蕩之餘。唯存藏室。有者
勸化人。營建者。師曰。我但流通大法耳。他日自有修造者
至。及師亡。普覺惟日。果以繼席。興土木事。五年九月。
車駕幸大士殿。師奏對如流。上喜。賜萬歲香山。以供大士。
師不尚著述。嘗以偈示人曰。吾傳智者一性之宗。三千實
相。妙空假中。一念法界。生佛體同。凡聖一如。善惡理融。毘
盧身土。湛若虛空。達斯旨者。法法圓通。左之右之。受用無
窮。山家稱如虎者三人。神照本如四明道如及師也。一夕
別大眾歸寢而終。塔於寺西北隅。嗣法崇先懷志。白蓮慧
仙。皆足世其業。師有教義。名指難集。

法師宗敏。秀當湖魯氏名族也。賜號法雲。年十五具戒。
遍參講席。如超果照廣化明南屏玩無不歷事。後入慈辯室。

頓有發明。辯謀首座非其才。乃請與之抗論。座為之屈。紹聖初主杭之菩提。元符中遷孤山。樞密蔣之奇。時來謁問楞嚴大旨。為談心要之妙。之奇言下有契。敬以師禮。久之退處報恩六一泉之上(報恩勤師。與歐陽公為詩友。東坡名其泉為六一)宴坐三十年。世高其風。兀朮陷杭寺為煨燼。乃還止當湖菴居。紹聖七年冬示寂。命以衣盂修報恩塔。即山椒而葬焉。後十八年。有司以其地為延祥觀。遷其塔於山北鳥窠之側。弟子慧靜。取全身闍維之。視容貌如其生。薪盡火滅。收舍利百粒如菽。

僧統義天。王氏高麗國文宗仁孝王第四子。辭榮出家。封祐世僧統。元祐初入中國問道。至四明郡以明智慧照館接之。義天上表。乞傳賢首教。勅兩街。舉可授法者。以東京覺嚴誠禪師對。誠舉錢唐慧因淨源以自代。乃勅主客楊傑送至慧因受法。諸剎迎餞如行人禮。初至京師。朝畢勅

坐方至文佛冥天及飛山之所。救近壇此。印諸體。一宗。後遊號。及飛山之所。救近壇此。佛知嚴道。願剎問。及飛山之所。救近壇此。山俗。一宗。後遊號。及飛山之所。救近壇此。至。以為嚴道。願剎問。及飛山之所。救近壇此。旨。聞。於是觀國遣使通音。離教得其旨。世多涉異。宗旨。聞。於是觀國遣使通音。離教得其旨。世多涉異。以僧。朝廷。於教。既還。高麗。離教得其旨。世多涉異。示。域。而。問。辯。所。初。之。今。禪。者。因。其。論。錄。世多涉異。師。異。乎。歲。請。慈。傳。為。藏。與。所。教。者。珠。公。經。章。禪。天。法。閱。慈。傳。為。藏。與。所。教。者。珠。公。經。章。禪。本。義。師。辯。已。傳。像。閣。之。今。之。道。曉。中。宗。曰。夏。疑。慈。戒。法。立。其。建。禪。之。今。之。道。曉。中。照。華。所。竺。曰。戒。法。立。其。建。禪。之。今。之。道。曉。中。圓。印。示。決。天。誓。說。文。慧。因。古。禪。之。今。之。道。曉。中。謁。問。以。咨。見。之。為。教。於。甚。矣。遺。其。聖。學。而。伴。傑。驚。何。鈔。及。為。智。傳。譯。曰。入。名。而。復。古。義。與。館。楊。傑。疏。傳。塔。大。所。三。曰。教。其。敝。有。司。皆。軾。一。隻。眼。嚴。傳。塔。大。所。三。曰。教。其。敝。有。司。皆。蘇。禮。一。隻。眼。嚴。傳。塔。大。所。三。曰。教。其。敝。有。司。皆。部。其。失。因。逸。禮。見。奉。書。議。者。矯。詔。傳。禮。失。因。逸。禮。見。奉。書。議。者。矯。詔。傳。納。先。慧。隴。護。台。施。別。謂。離。今。者。經。禮。失。因。逸。禮。見。奉。書。議。者。矯。詔。傳。

所以海東人師疑華夏為無人。今見飛山高議。乃知有護法開士。百世之下住持末法者。豈不賴珠公力乎(戒珠。作別傳議。於禪教之際深有發明。壽九十三。葬骨飛山)。

述曰。昉師辨祖謂。智炬撰寶林傳詭說百端。如達磨隻履西歸立雪斷臂等。事與南山續高僧傳多不同(云云)。世又謂壇經談性不異吾宗。而於念佛求往西方。有以貶斥。義天言遼國焚棄二書者。蓋以此也。

南屏文法師法嗣

法師仲閔。三衢人。受業祥符。來依南屏文師。以雄辯見稱義虎。政和初。還鄉主浮石。學者驟至。嘗放言曰。吾座下不五百眾不講大部故一生唯講光明觀音。順寂之日。集眾昇堂。登師子座趺足而坐。忽見銀臺自西至。師曰。

吾平生解第一義。誓取金臺。今乃若此。瞑目而化。所著憲章集五卷。其自序曰。釋氏子有所述。必求公卿。為之序其首。跋其尾。駕其說。俾行於世。且衣冠之士。豈知吾之是。識吾之非。儻是而無序。天能喪乎哉。或非而有序。人能駕乎哉。

超果賢法師法嗣

法師彥倫。學超果賢師為有成。大觀元年主仙潭。撰教義名精微集四卷。賜號妙慧。又撰金剛經疏二卷。法師蘊齊。錢唐周氏。號清辯。幼歲試經得度。傳教觀於法明會賢師。嘗患疫疾百藥不治。遂力課觀音尊號。夢一婦人以鑿開其胸。易其心。手捫摩之。患即愈。疇昔所覽靡不通記。走筆成章。率歸典雅。咸謂辯才之證。主錢唐道林。常熟上方。姑蘇東靈。錢唐南屏。姑蘇廣化。三衢浮石。政和復

歸上方。閒居於方丈。述頂山記。釋天台戒疏凡三卷。建炎四年正月。集眾誦彌陀經。稱佛號畢即刻而化。塔舍利於上方。門人法清及景德法雲克傳其道。雲編翻譯名義七卷。大為梵學檢討之助。類亦附以教義云。

景雲其法師法嗣(浮石下第三世)

法師居式。金華人。嗣景雲住景德撰圓覺疏四卷(此卷三十七人本紀遺失十七人)。

佛祖統紀卷第十四(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十五

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之五

明智立法師法嗣(廣智下第四世)

- 澄照覺先法師
- 慧照法隣法師
- 圓澄智謙法師
- 四明法維法師(明智惠)
- 定慧介然法師

- 待制晁說之
- 諫議忠肅公陳瓘

草堂元法師法嗣

- 息菴道淵法師

安國惠法師法嗣(神照下第四世)

- 智涌了然法師
- 真教智僊法師
- 白蓮梵章首座

白蓮卿法師法嗣

- 天台淨僊法師

北禪梵法主法嗣

- 北禪惠深法師
- 飛英智忱法師
- 頂山子文法師
- 通照慧明法師
- 超果惠道法師

德藏瑛法師法嗣

- 北關思淨法師

壽安弼法師法嗣

- 教藏有全法師

車溪卿法師法嗣(南屏下第四世)

- 竹菴可觀法師
- 牧菴有朋法師
- 祥符道忺法師

慧覺玉法師法嗣

- 清修法久法師
- 澄覺神煥法師
- 假名如湛法師
- 密印修慧法師(慧覺傳)
- 慧解曇應法師(車溪傳)
- 慧照道倫法師
- 北禪法榮法師

- 北禪文俊法師
- 圓覺淨圭法師

圓覺慈法師法嗣

- 法照中皎法師
- 神慧敏齊法師
- 能仁文首座
- 能仁能行人

普明靖法師法嗣

- 圓通思梵法師
- 普圓善期法師

天竺如法師法嗣

- 崇先懷志法師
- 宣祕慧僊法師
- 音圓普證法師
- 法燈道遵法師
- 餘姚行澄法師

法雲敏法師法嗣

- 樞密蔣之奇

佛智雲法師法嗣

- 法照淨通法師

佛照堅法師法嗣

- 神辯覺寧法師
- 等慈慧序法師

梵慈普法師法嗣

- 圓照梵光法師
- 東靈智欽法主

憲章閔法師法嗣

- 餘慶道存法師

清辯齋法師法嗣

- 景德法雲法師
- 上方法清法師(清辯傳)

明智立法師法嗣

法師覺先。四明之慈溪陳氏。號澄照。七歲受經一讀成誦。初稟教於明智。既得其傳。復請益於慈辯清辯。所詣益深。靖康初主奉化之寶林。會奉旱邑請講金光明。終卷而雨三日。因勉邑人建光明幢。誦經萬部為邑境之護。遷主延慶大弘宗教。久之復歸寶林。築室曰妙蓮。復誦滿萬部。持淨土佛號。四十八藏。摘經疏名言以資觀行。目曰心要。紹興十六年正月十四日。說法安坐而逝。塔於寢室之側。他日有夜聞誦經聲。迹所自出塔中。後月堂居南

湖。謂師於延慶有傳持之功。而塔在草莽。乃令遷之祖塋。及開土見栓索不朽。骨若青銅(栓山圓反木丁)。

法師法隣。賜號慧照。早為明智高第。屢居座端。道業詞章眾所推服。高麗義天至。首入南湖。師明智而友慧照。請跋所受教乘歸國。師援筆立成。有古史風。義天嘉歎不已(文見名文光教志)郡命主三學。講演之盛亞於南湖。嘗謂門人曰。余嘗勸人以二戒。三十已前未可念阿彌陀。七十已後不得持消災呪。謂少不知進。老不知止也。時人然之。

法師智謙。賜號圓澄。學於明智。紹興庚辰主寶雲。每念寶雲為四明傳道師。自遷骨烏石。其迹寢晦。乃力搜訪。得正法師所撰石塔記。重刻於烏石菴。又於寺闢堂。設像表示後世。

法師介然。四明鄞人。受業福泉山之延壽。明智居南湖。從其學遂悟境觀之旨。元豐初。專修淨業三載。期滿謂同修慧觀仲章宗悅曰。念佛三昧往生要法也。乃然三指。誓建十六觀堂。中設西方三聖殿。環以池蓮。功成復然三指以報佛恩。於是修觀之士。有所依託焉。

建炎四年正月七日。金虜犯明州。寺眾奔散師獨不去。虜奄至訶之曰。不畏死耶。師曰。貧道一生願力建此觀堂。今老矣。不忍舍去以求生也虜酋義之謂曰。為我歸北地。作觀堂似此規制。遂逼師以行。後人悲思。乃以去日為之忌(相傳。正月五日。若依本朝通鑑。則云七日)而尊之曰定慧尊者。立像陪位於觀室之隅(志磐受業福泉。定慧是草堂一派。極有高行。去志磐為五世)。

晁說之。字以道。自號景迂。官至待制。文元公迥四世孫也。監明州船場。常往南湖訪明智。聞三千境觀之說。欣然願學通其旨。晚年日誦法華。自號天台教僧。或曰洧上老法華。明智沒為撰碑而論之。時稱高作(碑見名文光教志)。

陳瓘。字瑩中。南劍人。自號了翁。幼登甲科官至正言。親亡之日。廬墓三年。天降甘露。有芝草生於冢上。嘗留意禪宗頗有省發。觀華嚴了法界之旨。因上疏論宰相章惇。謫四明。日與明智會。因問天台宗旨。明智舉止觀不思議境。示以性奪修成無作行之義。公曰。乃知此宗性本現成。又問。現前色身如何觀察。明智曰。法本不生今則無滅。公曰。世人言。其死如歸。不知如歸。乃失家者。自是深達境智之妙。作三千有門頌以示明智。智可之(文見名文光教志)晚年刻意西歸。為明智作觀堂淨土院記。發揮

寂光淨土之旨。宗門肆其說(石刻南湖觀堂)公既貶。諸子皆白衣未嘗懷不滿意。宣和六年冬。無疾別家人而逝。紹興中。贈諫議大夫。諡忠肅。

述曰。智者之為道也。廣大悉備。為其徒者。自尊信之。未足以信於人。惟名儒士夫信而學焉。則其道斯為可信也。智者之世。有徐陵柳顧言。荊溪之世。有梁肅李華。慈雲之時。有王文穆馬亮。明智之時。有晁以道陳瑩中。是數君子。不特知道。又能立言以贊之。智者之道。於是愈有光焉。

草堂元法師法嗣

法師道淵。永嘉人。自號息菴。久依扶宗深達觀道。居西湖永明講授有法。嘗謂修性離合之旨。指要雖示其妙。後

人或戒異說師收束諸文立為二義。一者約修三性三。與修
性對論三以明離合。初修三性三者。如不二門。性指三障。是故具三。此因成
修從性成。成三法爾。又云。一念心因既具三軌。達性成
果名三涅槃。又金錚云。本有三種。三理元遍。言修性對論
修。修三亦遍。此皆性三修所對。如不二門云。為對性明
三者。以修為二。則修二性一。三法明合也。次義言修九
修。故合為二。是則修雖具九則法身般若解脫各各具
者。如不二門云。雖兼性三咸為所發。故皆屬修。言性九
三。此乃修中自論九法以明離也。然法身中三。雖本屬
性。指要判云。雖金鼓。具有圓空鳴三。遂有九法。以明離也。修性
者。如光明句中釋金鼓。各具殊大等性中自論九法。體宗用各有三義。體有禮底達。
又於圓空鳴中起修。此則就性中自論九法。各有三義。體有禮底達。
德中論九者。如涅槃疏明。體宗用各有三義。體有禮底達。

宗有本要助。用有本當自在。此約修六性三以明離也(云云)。師示寂當盛暑。停龕旬日體色不變。白乳流涌香若蓮華。人取乳可塗面。將葬路經一菴。紼斷不進。異香徹菴中。易紼重不能舉。菴主舊有微憾。乃悔謝曰。曾有小犯故蒙見誠。乃隨眾舁之遂行。葬及三年。忽大風折木壞其塔。滿龕舍利。若天彰其德云。

安國惠法師法嗣(神照下第四世)

法師了然。臨海薛氏。母禱山兵寺石像前。夢至佛殿見僧持蓮華令食之。且曰。汝生子當出家。後十三月而孕。四歲母念出家。則誰當為嗣。夢神人叱之曰。何爽前囑。遂諾之。十六具戒。從安國學教觀。慧解驟發。嘗夢坐盤石泛大海。望大士坐山上竹林間。師曰。平生持尊號今得見之。遂正立說百偈以讚。覺憶其半。自是頓發辨才。侍安

國遷白蓮。未幾去謁明智。智問華嚴十法界。大論三世
間。法華十華。師曰。華嚴大論。是死法門。法華十如是。妙
境出活法門。智首肯之。時晁者道如。辭氣毅然。吾不當負所得。
是道。待之必為之屈。明年遷白蓮。居山二十四年。學者常五六百。
師難問安國嗣。六年遷海建大會請師說法。有使者持牒來曰。
卒為紹興戊午。寧海建大會請師說法。師曰。此間法會未散。使曰。符不可緩
兜率天請師說法。師曰。此間法會未散。使曰。符不可緩
當先。其次者即毀師名而去。紹興辛酉五月。夢兩龍戲空
中。一化為神人。袖出書曰。師七日當行。師唯唯。既寤當
集眾說法。復大書曰。因念佛力得歸極樂。凡在吾徒宜當
力學。即沐浴更衣。與眾同誦阿彌陀經。至西方世界而
逝。能仁行人。聞天樂音。祥光屬天。眾謂師報居淨土。
而先赴兜率之請也。八月葬東岡。錫號智涌。郡祈雨於玉

溪。眾苦路險。師呪龍使移之。是夜風雨大作。旦見潭在所指夷坦處。述宗圓記五卷。釋南岳止觀樞要二卷。釋十不二門。虎溪集八卷。

法師智仙。仙居李氏。號真教。幼不樂世俗。常曰。世間榮富何能免我一生清志耶。遂服方袍。遊學至天竺。得觀道於明義首座。還鄉依白蓮惠師聽止觀大有發明。久之章嗣其席。常時繫念唯在淨土。或曰。法華三昧。一土一切土。一身一切身。一佛一切佛。何不依止觀修法華三昧而為往生之因。師曰。荊溪云。分別功德品中。直觀此土四土具足。故此佛身即三佛身。此大眾即一切眾。以惑未斷故。安樂行是同居淨土行之氣分故不離同居穢見同居淨。問者曰。同居類多何必極樂。師曰。教說多故。宿緣厚故。令專注故。是攝生故。師當結制稍覺微恙。乃詣辭郡縣。還寺杜門絕客。眾請用醫。令厚贐謝去之。即易床西

向。設彌陀像。請行人諷經。終卷而化。時能仁聞念佛聲沸天仙樂盈耳。塔於院東北隅。

首座梵章。學惠法師悉通其旨。屢居白蓮座端。講唱有法。學者宗尚。謙抑不肯出世人高其風。著圓覺經疏一卷。時稱簡正。

北禪梵法主法嗣

法師惠深。幼遍歷講席。及見北禪洞悟觀道。後法王歸寂。師繼踵行化。當建炎兵燬之餘。極力土木卒還舊制。領徒說法未嘗一日以事廢。將建大殿。眾勉見巨室。師曰。若使出門干施主。不如閉戶禱諸天。精意所感施者自至。師正席二十九年。有僧善居。為知事亦如之。清儉勤力輔贊有理。人或與錢。即腰纏手挽。自携以歸。慮費脚

金損施福也。

德藏瑛法師法嗣

法師思淨。錢唐喻氏。受法華於瑛師。既悟厥旨。復深研淨土之觀。專志念佛日課觀經大觀初。於郡城北關創精舍。扁曰妙行。領徒乞食。期飯僧百萬。不二十年竟踰八倍。建十蓮華藏。規制巧妙。為天下輪藏之冠。尤精畫佛。每運筆先於靜室念佛觀想。一日畫丈六像。見佛光良久。眾皆瞻禮。師於是時頓悟筆法之妙。於是人間咸稱為喻彌陀。嘗於西湖北山鑿石作彌勒像露半軀於巖。識者以為深谷為陵之日。必有繼成全身如三生石像者。宣和初。盜起清溪犯錢唐。師告渠魁。願以身代一城人命。賊義之。妖鋒為戢。紹興庚申冬。端坐想佛七日不廢。忽起然香供佛歸座趺坐而化。旬日頂上溫煖面體紅潤。見者謂其

猶生葬於法堂之右。

車溪卿法師法嗣(南屏下第四世)

法師可觀。字宜翁。華亭戚氏。年十六具戒。依南屏精微。師聞車溪聲振江浙。負笈從之。一日聞舉唱曰。般若寂寥。忽有悟入。如服一杯降氣湯。玉慧覺有橫山命。師偕行讀指要。至若不謂實鐵床非苦變易非遷。歎曰。語言文字皆糠粃耳。建炎初主嘉禾壽聖。遷當湖德藏。居閱世堂。為楞嚴補注。以祥符延閃兩載。以疾反當湖南林。一室蕭然人不堪之。則曰。松風山月。此我無盡衣鉢也。乾道七年。丞相魏杞出鎮姑蘇。請主北禪。入門適當九日。指座云胸中一寸灰已冷。頭上千莖雪未消。老步只宜平地去。不知何事又登高。魏公擊節不已。及得所遺法語謝曰。當日卷卷斯道。不敢孤負竹菴。淳熙七年。皇子魏王

牧四明(諱愷諡惠憲王孝宗次子)用月堂遺書之薦。請主延慶。時已八十九歲。抵行在所而聞王薨師在天竺受請曰。王旨如生。豈當有辭。遂行至南湖眾見行李寂寂莫不歎服。不二載復歸當湖竹菴。九年二月十九無疾而逝。壽九十一。茶毘舌根不壞舍利莫知其算。塔德藏之觀堂。師五住當湖。皆退隱於竹菴。因以為目。杲大慧自徑山行化。來訪當湖對語終日。敬之曰教海老龍也。師見齋房安像即誡之曰。汝起居無禮說無益語。少時焚香之敬。不補終日嫚嫚之罪也。著楞嚴說題集解。補注共四卷。蘭盆補注二卷。金剛通論事說各一卷。圓覺手鑑。竹菴錄各一卷。山家義苑二卷。

法師有朋。金華人。自號牧菴。一家教文背誦幾半。初學於慈圓覺。復往謁車溪。晝夜扣請盡得其道。主僊譚講止觀。天衣持師分衛至境(梵語分衛此云乞食)入寺就聽。至

破法遍。橫破九種禪那。皆非圓頓行人入道之門。持竦然
曰。我所未聞之說也。設禮而去。湖人薛氏婦早喪不得脫。
其家齋千僧誦金剛般若請師演說經旨。婦憑語曰。謝翁婆
一卷經今得解脫。翁問千僧同誦。何言一卷。答曰。朋法
師所誦者。蓋師誦時不接世語。兼解義為勝也。徒能仁。
講道日盛。晚主延慶。初升座敘謝云。有朋自遠方來。聞
者莫不心悅。於方丈扁一室。曰六經堂。中設一几。而初
無文字。士夫怪其誕。眾至寺欲屈之。師令侍者先語之
曰。諸賢欲何相見。若賓禮則對坐商略。若請益則侍立發
問。若索難則容先伸三問。咸曰。乞從賓禮。及對語援引
不已。乃知六經在胸中也。每臨講不預觀文。嘗曰。我七
番講止觀。於正修中未嘗道著一字。又曰。大部中欲作一
難。如片紙大亦不成。所謂文字性離皆解脫也。故今教苑
略無義目。唯十不二門口義。纔露一班耳。或問十境十乘
方成觀法。荊溪何云不待觀境方名修觀。師曰。向伊道。

攝事成理了也。又問。圓頓教中為立陰否。師高聲一喝。云。陰入重擔。常自現前。何更問。教論之。大丈夫事。如忠臣之顯名。三顧身。勇士赴難。所惑溺。皆棹。降伏諸魔。士人為之畏服。師數數告曰。坐青玉軒。請行人諷觀經。稟法者。同學師讀大科。帙留偈甚眾。師自恃老僊潭不敢文。其對尊宿之禮。尚謙若此。

慧覺玉法師法嗣

法師法久。餘姚邵氏。受業龍泉。十五試蓮經中選得度。初依智涌於廣嚴。後去從慧覺。赴天竺。師隨往。旦夜為學卒成其業。大慧居徑山。往咨心要。嘗令師舉境觀之旨。必擊節歎賞。有王侍御女早喪。每附語令請高僧誦法華。大慧令師往方升座演經。侍御忽有感悟。夜中亡女夢於父曰。承法師講經力已得生處。侍御因作一乘感應記。大慧一日謂師曰。教苑人稀宜勉力弘傳以光祖道。師遂歸。既而慈溪羅氏。以圓湛菴延之。學者四集共仰師法。紹興十三年。郡命居清修。泉清石潔人境俱勝。常患後生單寮多弊。乃闢眾堂作連床蒲褥如禪林之規。以身率先眾莫敢怠。說法機辯有大慧之風。有不能領者。謂師談禪於教苑。寺左曰師子巖。創一堂名無畏。日住其中誦法華楞

嚴七經。十九年不輟。一日忽告眾。無疾而化。塔於寺西。雪溪晞顏為撰銘。門人妙雲繼主其席。

法師神煥。湖之安吉人。早學慧覺時稱出類。紹興中主思溪覺悟。自昔教門諸師立義未盡者。悉辨論之得百篇。世號煥百章。嘗論諸天位次不正。乃考尋藏典。撰為天傳。其序云。案百錄。安功德天座在佛左。道場若寬。更安大辯及四天王在右。則知世人。或十二。或十六。或十八。皆準鬼神品。增減無拘也。今欲定尊卑亦良為難。如鬼子母羅剎也。豈當與大梵同列。有女名功德。男名散脂。今以功德居上。梵釋次之。後列散脂鬼母。豈非失序。因檢討大藏作諸天傳。隨位釋之。蓋天有主客。有男女。有本部迹。有顯晦。大梵為三界主。帝釋為忉利主。四王為八部主。若功德大辯。但客寄耳。功德寄北天。大辯寄山澤。初無主領。茲所謂主客也。功德大辯樹神地神鬼母並女

質。餘則男身。所謂男女也。金剛密迹五百徒黨。皆大菩薩本也。現居神像迹也。所謂本迹也。大辯對佛宣揚正法。雖位處密寄身示女質。而言行則顯。或但作影響不事敷揚。縱權有統王現丈夫形。而言行則晦。所謂顯晦也。知此四端可與言天矣。竹菴見之曰。大略數百字。囊括殆盡(天傳未見其本。志磐嘗撰諸天禮讚文。正用煥師立說。詳見法門光顯志)嘗著圓覺疏二卷。安樂記一卷。

法師如湛。永嘉焦氏。母夢寶塔而生。幼年試經得度。首謁東靈欽師及普慈暉師。所學未就。乃與楊尖淵空相融之。車溪依卿師。時眾已多無所容。唯小室如斗不以為隘。劇暑埋大甕實以塞泉。與四友背甕環坐。以挹其爽。如此數載。眾戲目為五瘟堂。後參慧覺於橫山。晝夜潛心盡得教觀之妙。初主車溪壽聖。講餘課法華一部。佛號二萬聲。有求為知事者。以非器不見用。憾之夜懷刃入室。則見官

客滿座。次夜復入。則昏暗失路。又一夕往得入室。見十數人皆同師形。其人媿恐而遁。平時少睡。夏月坐草莽中口誦法華。袒身施蚊。門人謂。師年高宜息苦行。師曰。[(罩-卓)+(一/水))*羽]。飛之類。安得妙乘。所冀啖我血聞我經。以此為緣耳。後人因表其處為餒蚊臺。晚歲謝事。閒居小菴日薰淨業。紹興庚申七月。端坐念佛結印而逝。闍維得五色舍利。著淨業記釋觀經疏。護國記釋光明疏。又述金剛會解假名集。建炎初。述聲聞會異。其末題云匈奴去杭入秀。兵火沿塘。劫掠蜂起。命在不測。聊書此為記時事。人以為與章安當寇盜縱橫而著涅槃玄義。其事相類。

述曰。法智之記觀經光明也。當時同宗之輩親炙之徒。如孤山淨覺諦辭抗辨。卒莫能勝。謂之陽擠陰助。猶可為說。至於假名以天資之高德業之美為四明四世孫。當教觀

中興後。不思光贊乃祖之功。而反事筆削忍為淨業護國之記。白晝操戈。背宗破祖。自墮山外之侶。可悲也夫。

圓覺慈法師法嗣

法師中皎。四明之慈溪張氏。賜號法照。母夢月墮懷而生。受業永明。初依南湖明智。未幾去謁圓覺於天竺。久之盡得法奧。靖康初。能仁虛席。郡太守劉光。囑智涌舉所知。以師應命。圓音一演學徒四集。以粥飯不給。闢海田為二十頃。香積乃裕。紹興乙卯夏旱。郡守以龍湫昔受智者戒。遣僚屬屈師臨湫施以戒法。即日雨洽。以年老退處藏密菴。紹興乙丑。沐浴易新衣。書偈別眾。正坐西向而化。

行人能師。嘉禾人。少學能仁。入懺室四十載。六時行道

雖病不廢。唯不食數日其病自愈。行人之名遂聞江浙。年既老讀文如初學。草菴戲之曰。未忘筌耶。師曰筌何所忘。菴大慚。嘗暑中曬衣。歎曰。慷慨丈夫反同臧獲。於是散去餘長。唯留一弊絮袍。夏則束梁相間。夏日入林施蚊。一日逢二虎以身就之。虎俛首而去。山神興供一方。常與交接。香積有乏。知事來告。則力拒之。明旦施自至。皆曰。昨夜行人巡門相報。始知山神荷師以往圓覺有能仁之命。師與文首座。然指以請。及其至晝夜請益大有開悟。

普明靖法師法嗣

法師思梵。杭之臨平湛氏。賜號圓通。依淨社普明學教觀盡通其旨。久之擢居座首。普明遷覺悟。師與偕行。及再遷上竺。謂師曰。覺悟之席無以易子。行道十年大振法

道。後退處西山歸雲菴。杜門著書。嘗以經疏語錄。商確禪教之旨。名曰會宗。侍郎晁公武。一見契心。為之序曰。予聞世父景迂先生之言曰(晁說之號景迂)浙江東西有天台之學。通其說者無禪教之病。可以為人天眼目。小子識之。自予聞此三終星矣。今見會宗之所述。其有合於世父景迂之言乎。師平生以戒法力。夢寐嘗與聖賢接。凡禴禳災凶。驅逐妖厲。一為說戒無不通感。乾道四年五月。有星者謂師曰。六月之望師其亡乎。師笑曰。造物焉能制我耶。汝謂六月亡。我且八月往。至期沐浴更衣趺坐龕中。召眾誦佛瞑目而化。塔於方丈之室。

梵慈普法師法嗣

法師梵光。四明鄞之陽氏。賜號圓照。母夢異僧入其室。十二月乃生。異香盈室。十六具戒。始學律於湖心通照。

復習教於南湖神智。慨然遊方裴回西浙。乃之白牛見海慧
普師。聞講法華壽量品。廣談智以南湖。及歸郡守王資深命主
海壽。政和四年春。太守呂淙及五百。法智之世未若素畢集。
從者百二十人。自是南湖講注。靖康初。高麗貢使。及境來謁
也。披軸云。國王問訊法師。所著華嚴疏論二百年集。佇聞講演。
襲去。寓奉化之福聖。遂迎師再還。何幸。紹興十二年。舉門
愈。謂非筵讚之。遂退處辭曰。老病既久將以書遺訓。付悟真
仇公道琛自代。明年春與陸君更衣。集眾諷觀經。書遺訓。付悟真
外友。明年春與陸君更衣。集眾諷觀經。書遺訓。付悟真

誠。諷安樂行。至深入禪定見十方佛寂然而逝。時十三年二月八日也。壽八十。葬崇法之祖塔。師天資朴素。待貴賤以均禮。或問其故則曰。吾法以平等為心。不輕為行。昌國戴氏。為鬼物所擾。請師誦呪。及門而崇滅。其在福聖。道俗請增戒法。有鄔氏子附語曰。吾汝之先也。久處幽冥。聞人間光法師為眾施戒。此日冥中異類多得解脫。故吾得以暫歸法主智欽。姑蘇常熟人。才辯超卓舉世知敬。主東靈聚徒至五百。行梵慈之道不少異。恪勤講懺日未嘗怠。時人尊稱法主。以比北禪梵云。

清辯齊法師法嗣

法師法雲。受業姑蘇景德。賜號普潤。學教觀於清辯為得旨。紹興十三年。撰翻譯名義七卷。以釋藏典之梵語。援引疏記有所論辯甚為學者之益咸澤山嘉其作。為贊化刻梓

云。

佛祖統紀卷第十五(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十六

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之六

息菴淵法師法嗣(廣智下第五世)

- 淨社處廉法師
- 圓辯道琛法師

智涌然法師法嗣(神照下第五世)

- 覺雲智連法師
- 澤山與咸法師
- 赤城中益法師
- 白蓮智圓法師
- 山堂元性法師
- 白蓮妙璘法師
- 白蓮清悟法師
- 白蓮子侔法師
- 虛堂本空法師

真教仙法師法嗣

- 證悟圓智法師

超果道法師法嗣

- 德藏從進法師

通照明法師法嗣

- 報慈蘊堯法師

竹菴觀法師法嗣(南屏下第五世)

- 北峯宗印法師
- 智行守旻法師
- 神辯清一法師

牧菴朋法師法嗣

- 顯菴法昌法師
- 月溪法輝法師
- 隱學太然法師
- 浮石子慧法師
- 永福智享法師

- 天王道用法師
- 能仁懷寶法師

祥符忻法師法嗣

- 悟空善榮法師

清修久法師法嗣

- 慈室妙雲法師
- 雪溪晞顏首座

澄覺煥法師法嗣

- 覺菴簡言法師

假名湛法師法嗣

- 車溪智欽法師

法照皎法師法嗣

- 則菴明哲法師
- 能仁道山法師
- 醴泉行環法師
- 布金覺先法師

圓照光法師法嗣

- 超果宗肇法師

東靈欽法主法嗣

- 楊尖利淵法師

息菴淵法師法嗣(廣智下第五世)

法師道琛。溫之樂清彭氏。賜號圓辯。母夢紫氣縈身而生。年十八具戒。初學律儀。未幾去從息菴於法明。微言妙旨一聞便領。後至南湖依圓照。既歸鄉出主廣濟。十二年遷廣慈。建炎三年。車駕幸永嘉。有旨以林靈素故居為資福院。丞相呂頤浩以師應詔。嘗以僧伽梨質米於市。夜見流光煜煜。旦即捧還山。苦無水指工鑿井。得古磚有天康字(南朝陳文帝年號)泉涌其下。樂清江岸。每以顛倒為患。咸謂鬼物所釁。吏民請為授戒。神附語致謝。門人清順。夢延慶諸祖來謁。侍者持位圖於旁。而闕其第八。順指問之。對曰。汝師將補其處。及後居南湖。果第八世。嘗專修念佛三昧。忽感悟曰。唯心淨土一而已矣。良由彌

一。上坐於心。者。出。乃圓悟。大曾義。義。
 逾。不。老。道。及。二。感。放。寤。愈。力。寶。應。漢。王。
 不。水。一。曰。之。興。心。普。守。食。不。得。雪。說。羅。經。
 近。水。見。曰。之。興。心。普。守。食。不。得。雪。說。羅。經。
 而。萬。中。問。肯。紹。誠。感。言。施。終。不。與。此。六。說。
 遠。臨。定。禮。首。紹。誠。感。言。施。終。不。與。此。六。說。
 雖。影。禪。作。者。正。師。猛。法。當。人。如。至。為。
 邦。皓。日。於。喜。尊。為。餘。三。政。為。言。至。曰。一。益。
 樂。天。一。師。教。稟。蕩。法。以。者。大。族。歎。一。何。
 之。青。映。也。垂。指。皆。焚。行。師。病。曰。道。而。說。之。
 陀。如。映。也。垂。指。皆。焚。行。師。病。曰。道。而。說。之。
 彌。譬。照。明。乞。者。虜。因。雨。有。語。念。義。對。法。
 具。億。自。然。四。觀。經。備。禱。雨。有。語。念。義。對。法。
 心。億。自。然。四。觀。經。備。禱。雨。有。語。念。義。對。法。
 我。萬。際。曰。通。言。教。寺。悉。請。雨。有。語。念。義。對。法。
 。十。一。曰。能。家。代。棟。早。大。之。淨。說。悟。曰。
 剎。過。月。師。未。能。家。代。棟。早。大。之。淨。說。悟。曰。
 寶。遠。水。謂。相。是。師。之。郡。大。是。往。視。建。請。因。曰。
 之。而。水。顧。法。自。舉。月。之。郡。大。是。往。視。建。請。因。曰。
 心。近。降。氣。法。自。舉。月。之。郡。大。是。往。視。建。請。因。曰。
 我。雖。下。上。習。然。告。老。歲。加。百。師。十。道。曰。說。
 悟。雖。下。上。習。然。告。老。歲。加。百。師。十。道。曰。說。
 陀。念。月。禪。一。地。圓。自。慧。囚。王。於。禪。耶。學。

聯翩三日。一語無重。紹興二十三年十二月十六日。集眾諷觀經晝夜不絕。眾聞異香盈室。師曰。佛來接我。即沐浴更衣。書偈曰。唯心淨土本無迷悟。一念不生即入初住。令諷安樂行。未終塔然坐亡。留龕彌月。顏體如生。葬全身於崇法祖塔之側。

智涌然法師法嗣(神照下第五世)

法師智連。字文秀。錫號覺雲。四明鄞邑杜氏受業棲心崇壽。年十八受具戒。古貌修幹有長松野鶴之態。明智見之曰。僧中鳳雛也。初從圓照學於南湖。晚依白蓮智涌頓悟圓旨。及歸鄉代講延慶。建炎後。歷住五剎。皆兵燬之餘。化瓦礫為金碧。出於指顧。時圓辯重興延慶。未就而逝。師適訪宏智。同登千佛閣。智曰。聞四明談空中有相。是否。師曰然。智以手指云。太虛本無一物。師指山川樓

閣曰。此諸物象復是何物。智大服其言。歎曰南湖之任非師而誰。即薦於郡領事。十年講無虛日。而眾宇畢成。太師史真隱。佚老於鄉。每過從問法要。真隱曰。師於禪律亦貫通耶。師曰。冰泮雪消固一水耳。又問。華嚴般若似太支離。師曰。支離所以為簡易也(揚子何經之支離。離曰已簡已易焉支離)真隱肅然服。郡師丞相沈公屈居僧職。以老病辭。公手札勸之曰。師行業清修力荷宗教。自宜表正一方紀綱諸刹。幸勿固辭。自潔其志師即領命。諸方服其清整。一日感疾。謂侍人曰。一切無礙人。一道出生死(華嚴經偈)復撫掌大笑曰。我自幸至此。鍾鳴吾逝矣。時隆興元年十二月十八日。火浴得舍利。葬骨於崇法祖塔之旁。得法上首。月波則約。

太師真隱居士贊曰。瞻彼連師色粹而溫。禮義是習詩書是敦。雖精止觀實祖儒門。鶴飛寥廓蟬蛻塵氛。遂令聽者去

縛解紛。五住大剎藉藉有聞。晚居延慶其道彌尊。伊惟台教垂裕後昆。前有法智後有覺雲。意此幻影與法常存(石刻在月波山)。

論曰。聖賢應世之迹。非世情所能測識也。夫覺雲一代明教之師。其於亡日如知所歸出生入死。固非常人所可擬倫。然則託形儒相之家。居相位二十七。考中外靖安。其勲業盛大矣。而又能大護佛法尊敬僧寶。是蓋大權施化示現宰官者之所為也。釋迦本時。或為儒林之宗。或居輪王之位。聖寺沙彌為齊文宣。回向寺僧為唐明皇。近則五祖戒師為蘇文忠。瑯邪山藏僧為張文定庸。詎知回機轉位不為佛不為祖耶。良渚謂撫掌自笑。宜得所歸而復來此土。位極人臣以茲為疑者。其未善論事若此。

法師與咸。字虛中。黃巖章氏。賜號明祖。母夢故白蓮惠

師遺黃柑令食之。及寤齒頰猶香。生七歲依香積出家。首
謁智涌。涌奇之曰。祖位再來也。學成以妙年居第一座。
涌沒證悟為繼。已而悟遷上竺。乃舉師以代。聚徒既多。歲
復大歉。及分衛吳中。施者唯恐自後。倍委王孟公問十六
觀義。師曰。佛國在十萬億剎外。而提封不越方寸。若克
循觀道。則往彼非遙也。資政鄭公問楞嚴八還。師曰。迷
心為境。八法瞽亂。達大觀者。一念自反。二公皆感悟。
歲歲為遣供(瞽音茂目不明)郡太守入山。見池中紅蓮。問
曰。既是白蓮。因甚却開紅華。師曰。山中并喜君侯至任
是無情亦改容。又指看經羅漢曰。既是無學。如何看經。
師撫羅漢背云。何不祇對。師倦於酬應。歸間受業。會赤
城益師亡。郡以為請。萬年一禪師來訪。見床上小冊記。
回買常住物。一錢不遺。歎曰。我於道無媿行不及師。嘗
於法輪寺施戒。當請聖師。眾覩寶光下燭有梵僧立空表。
禪宴之餘常諷空品。至本性空寂則入定數日。至生死無際

則大慟不已。其體法真切若此。隆興元年五月。別眾端坐念佛而亡。瘞龕於寺之東岡。乾道三年夏復從茶毘。五色舍利無算。所著菩薩戒疏注三卷。金剛辨惑一卷。復宗二卷。法華撮要一卷。素精於易折衷諸解。以自名本取諸咸因號澤山叟。

法師中益。早親智涌。深境觀富辯說。人以是敬服焉。主上虞等慈遷赤城。講貫之餘即入禪懺。旦夜以繼未嘗少間。錄智涌教義。號虎溪集。

法師元性。自號山堂。從智涌得教觀之旨。居白蓮日。講次至天主教有學者新至作論破之。有取其論白師曰。此新學逆路之見也。請擯之。師笑曰。汝但學得他作論。我盡容得著山堂集五卷。法華文句科十卷。

法師子侔。寧海盧氏。號圓淨。久從智涌學有聲當世。晚主白蓮學徒如市。以供給屢乏。將隄海為田。歸以告其母。母以白金一笥與之曰。為眾辦事佛必鑑之。母患其不成也。卒就役。得田千畝眾賴以濟。

法師本空。四明奉化人。自號虛堂。父姓徐為農。每高僧過門。必歛接加禮。母夜見神光遶室因而有娠。為兒異倫等。蔬食誦經志在出家。年十四。依尊勝法存剃髮。初從智涌受教觀。自白蓮首眾。出主明之永明遷治平。淳熙初。皇子魏王牧四明。尊其道製疏請主資教。夏中首座將開妙玄。師止之曰。自有講席以來。諸老立法。謂首座之職未出世者止講小部。若已出世。已講小部者。方可開發大部事存謙遜此舊章也。若維那則點讀四教儀類集耳。以次而進無自逞也。後遷白蓮大揚宗教。久之歸間受業。日東以往生為正念。紹興三年三月三日別眾就座書偈而化。東

掖學徒來迎全身。奉化緇素投牒止之。乃剪鬚髮分塔東山。而葬全身於尊勝。師行不回顧。坐不倚物。盛暑不持簟。祈寒不附火。高座講唱辨析精微。使利鈍皆有所入。人以是尊慕之。

真教仙法師法嗣

法師圓智。黃巖林氏。母夢老儒寄宿而生。幼聰敏不好弄。書史經目悉能開說。醫方卜筮無不精究。嘗往隣寺聞講觀經。歎曰。落日之處故鄉在焉。今日得聞如獲家信。暨出家受戒。即依真教於白蓮。學通教觀。嘗問具變之義。真教指籠鐙曰。如此鐙者。離性絕非本自空寂。理則具矣。六凡四聖所見不同。變則在焉(鎧菴曰。具如珠具寶。即理具三千。變如珠雨寶。即事造三千。此旨與真教稍異)師不契。後因掃地誦法華。至知法常無性佛種從緣

起。豁然有悟。以白真教。教曰。法華止觀。此為喉襟。汝今
有悟。大事畢。於是。明窓淨几。舒卷函帙。參五佛。歷三周。
曰。吾止觀。則十眾推為前列。每患學。者困於名相。勉同人
若四年。兩剎千進。便是向上機關。每半月。必行布薩。或曰。
曰。是真精進。何必如是。師曰。圓家。事理一念。具足。所謂圓頓
圓者。豈撥事求常。正耶。吾於常時。未嘗不以波羅提木叉。為之
師。扶律如何。舉揚其近城。請居日山。歷遷白蓮。赤城。餘僅存。
一句。鴻祐。士夫紹興。二十三年。奉詔。主上竺。主星。不利。幾果。
道日起。有衰金。為造。門廊。寶坊。輪奐。神采。加異。於前。二十七年。
殿。天星。同一。造化。苟患。頓愈。神。夏旱。

詔於明慶講經。席散而雨洽。嘗抵寺莊聞用牲祭曰何可違
佛禁耶。即為神說戒易以素饌。二十八年督土木甚速。至
冬眾宇咸備。十二月十二日示疾。預為書別道俗。書偈坐
亡。塔於寺東。初是普覺日。住山之末年。夢羅漢來自天
台。踞坐主位。已而師至。住無相日。夢賓頭盧來謁。授
山茶一器。人知師為五百人中焉。桐江瑛。自恃知解。遇
荊溪留意辨明處。斥為穿鑿。至云妙樂可毀。設十難問。
學者莫敢與抗。師作攻瑛集追破之。讀者一快。恨二師不
並世也。

超果道法師法嗣

法師從進。妙年聰辯為學早成。久依超果具得其道。出主
德藏。講訓有法學者歸之。多述教義發明所得。作楞嚴解
尤稱高妙。示寂之日。留龕月餘。容色不變。及從火洛。

舌根不壞。若紅蓮華。

竹菴觀法師法嗣(南屏下第五世)

法師宗印。字元實。鹽官陳氏。號北峯。師慧力德隣。年十五具戒。首謁當湖竹菴。得教觀之旨。凡諸祖格言必誦滿千遍。入南湖修長懺。周氏延以菴居。以租量非法勸革之。歲減五百斛。往謁象田圓悟演。反質西來意。師答曰。有屈無叫處。演肯之。智者忌辰。夜炷香殿鑪悲泣失聲。演感其意以厚禮送歸南湖。嘗思寂光有相之義。聞空聲云。寂光土體如水中月。資教空虛堂。延居座首。堂著宗極論。扶智涌事理各立一性之旨。師設九難。宗極為之義負。通守蘇毗觀不二門以文雖簡而昧其說。師撮示機要。毗即領會。白師座請居正覺。颶風飄蕩(颶音具。沿海諸郡多狂風。謂具四方之風也。東坡有颶風賦)僅存藏殿。師守

往亦至圍沓適北舉以敬化右衣臨
夢玼。年。病。者。盛。圓。一。革。大。行。即。三。息。儀。
感。未。七。相。道。益。果。靈。之。上。室。此。師。除。威。
先。學。二。名。問。道。超。山。為。明。觀。畢。旁。滯。肅。
者。隱。東。離。菴。行。法。遷。辭。習。理。營。緣。塔。拯。法。
食。主。居。支。氏。並。歷。英。舊。簡。以。化。雲。邪。三。
血。遷。者。毛。講。久。矣。海。宿。弊。語。年。吾。慈。格。備。
戒。弘。贊。學。峯。禪。報。就。道。旨。六。曰。龕。感。須。
授。祠。深。砭。雷。思。亦。就。大。定。徒。藏。俱。者。
神。數。與。深。隱。之。報。就。道。旨。六。曰。龕。感。須。
廟。十。相。深。隱。之。報。就。道。旨。六。曰。龕。感。須。
為。者。還。觀。去。迎。之。思。亦。就。道。旨。六。曰。龕。感。須。
請。祭。西。止。忌。具。禮。地。之。績。服。佛。法。嘉。其。明。
有。易。盍。講。為。忌。具。禮。地。之。績。服。佛。法。嘉。其。明。
止。求。上。竺。士。一。區。肆。業。土。木。咸。問。佛。法。嘉。其。明。
之。神。行。貳。以。得。一。行。學。徒。對。慧。行。一。菴。謂。其。明。
為。神。偕。右。主。者。普。光。曰。既。行。學。徒。對。慧。行。一。菴。謂。其。明。
風。祝。師。右。主。者。普。光。曰。既。行。學。徒。對。慧。行。一。菴。謂。其。明。
去。他。廟。尸。要。反。策。杜。氏。請。師。之。可。之。名。賜。號。子。行。十。二。月。八。日。至。幽。明。講。者。須。備。三。法。
死。赴。召。是。座。至。德。禪。自。寧。說。吳。脇。準。癘。

大眾。提大綱以盡文義。具宗眼以示境觀。備此三者依俦
駕說。所著金剛新解。釋彌勒偈。簡示天親羅什同異之
意。考正此經諸本。即則之文最為有據。述教義百餘章。
尤為學者傳錄。嗣法有聞者。古雲元粹十餘人。日本傳教
者。俊苾一人。仕官儒生受道者三數人。獨佛光法照繼世
盛大。有光祖父之道。

牧菴朋法師法嗣

法師法輝。字明叟。號月溪。台之臨海徐氏。依多福西茶
院真悟謹師落髮。從牧菴於能仁學通教觀。暨遷南湖即俾
為內知客。平心贊助內外以和。與印元寶登聖道月光遠為
同志友。日以此道相問辨。及歸能仁遂座首。淳熙初出主
浮江香積尋徙赤城。紹熙二年遷聖水。嘉定間。赤城有去
思。師為勉徇。久之聖水復來迎。師亦不拒。嘉定己卯

秋。無疾而亡。塔於西隩。師講唱法華深符祖意。發明正義酷似牧菴。謝克家錢象祖二鄉相。素所尊敬。而師執心謙靖。未嘗許其進。人以是高之。

祥符忻法師法嗣

法師善榮。烏程潘氏。賜號悟空。母初妊娠。即屏葷血。臨產之夕。有光二道自天下徹其廬。已而產二男。歲餘皆病亡其一。相者謂其母曰。若不出家恐亦未保。乃舍入法忍寺。七歲受戒。學教於清辯忻師。紹興末自祥符座元出主太湖之寶林。歷慧通車溪。講道大播。淳熙癸卯。越帥李參政。請主圓通。親為疏云。佛菩薩本自無心。有緣即應。士大夫何嫌異教。惟道是從。人皆喜誦其語。一日微恙。屏人事坐榻上。問病進藥皆不答。越七日。澡身易衣。跌坐方丈寂然而化。闍維之時求舍利者。如其願必得

之。著大部決疑集四卷。行於世。在車溪日入蔬圃。見菜葉小蟲無數。歎曰。哀哉一餐何多殺命。於是一夏。唯白湯下飯。嗣法紫金法通。

清修久法師法嗣

法師妙雲。四明楊氏。自號慈室。遍詢教席濬發妙解從久無畏。詣玉几參大慧。益有省悟。無畏主清修。師與逸堂諸賢旦暮請益。及同受通相三觀之旨。紹興十九年。無畏沒眾請師為繼。淳熙初。遷慈溪永明。以所得悟意。述圓覺直解。其序有云。巨儒老衲讀此必曰。既云直解何用是曲科為。聞者為一笑。嘗閒居東湖二靈。以詩遣丐村市云。山環湖水水環山。短艇白鷗窓几間。野外更將供給至。飽參著得十僧閑。時人誦為實錄。郡請居南湖。日事講貫學者如市。居二年以疾辭。居溪口吳氏菴。一日往別

吳君。歸越三日。澡身易衣。跌坐室中。謂侍人曰。吾有
瓣香藏之三十年。將臨終供佛仰報大恩。今其時。吾將有
行。及香煙正熾起白佛陳請求歸安養。就座合掌而化。師
為學得旨尤善駕說。詩頌翰墨妙絕一時。南湖祖堂以師居
位日淺不立像。耆老評之曰。昔竹菴牧菴居此皆二年。議
者以道大名重不得不立。今慈室何慊於二老哉於是亦立
位。嗣其法者。廣壽正皎(九月八日忌)首座晞顏。字聖
徒。自號雪溪。四明奉化人。幼試經得度。教覺禪府無不
咨詢。三教百家無不綜練。嘗從久無畏親受觀法。自謂造
師藩籬。及無畏亡撰銘文以寄得法之意。師志氣剛正廣眾
畏服。文藻高妙後進愛慕。於是聖徒之名播天下。不惑之
前所寓必居記室。知命之後所至必踞座端。諸方屢舉出
世。皆固辭不就。嘗步菜畦。見糞蛆毬聚。以殺物之多不
復茹蔬。唯買海苔三百六十斤。日取其一以供粥飯。晚歲
自省。謂文字餘習無補於道。乃住桃源厲氏菴。專志念

佛。一坐十年。精進不懈。謂反人張漢卿曰。淨土之道豈有一法可得。珍臺寶網迦陵頻伽。此吾佛方便誘掖之法耳。但於修中不見一法。則寂光上品無證而證。漢卿曰。予固已信解。愧未能勇進耳。扁所居小軒曰憶佛。作詩以見志。有云。隨波逐浪去翩翩。彈指聲中七十年。豈不向來知憶佛。欲從老去更加鞭。臨終預別親友。沐浴更衣西向觀想。忽稱佛來合掌而化。師隱居之日。有司以免丁追慈室誚之曰。天下豈有讀萬卷書為高士行。猶欲以丁錢責之耶。主司嘉其言得不問。

澄覺煥法師法嗣

法師簡言。自號覺菴。依澄覺學通其旨。博覽強記獨擅一時。嘗講妙玄升座高拱。暗索本文不失科節。圓詮妙法旁敷教相。事理權實莫不粲然。嘗謂新學曰。人苦於寡學。

若深歷歲月熟覽典誥。自然左右逢源了達祖意。不為一文一義之所滯惑。始可從事於講說之際。聞者心化。

法照皎法師法嗣

法師明哲。四明之鄞邑周氏。自號則菴。得夢吞寶珠而生。十八具戒。即遊學諸方。依能仁法照受教觀。一時會中同名者有十哲之稱。而師最顯著。復遍參禪林。見天童宏智育王大慧國清愚谷。無不期以大器。嘗曰。叢林所謂直指人心見性成佛。即吾宗介爾有心三千具足也。宏智聞之曰。觀子妙解宜歸弘教。初主昌國超果。遷覺海隱學永明。篤志講訓無虛日。學者不敢以假告。郡帥范成大。請主南湖。一時聽徒。皆四方英秀。來者唯恐其後。咸相謂曰。登龍門者正在今日。師日誦小般若經。稍涉人語便即重誦。謂不當以凡言雜聖典也(六月十六忌)。

圓照光法師法嗣

法師宗肇。四明人。初之南湖見明智。晚入圓照室。俾之貳講。出主興教。遷壽聖。自罹建炎之厄。僅存大殿。茅茨數百椽。殘僧十餘輩。處之裕如。常曰。諸佛大士。遍法界建佛事。而雲溪咫尺之地。不能有為。亦緣力不足耳。縱我能為之何足為道。祇陀絡孤所施無慮億數。而雲溪咫尺之地不能有成。亦緣力不足耳。縱我能成之何足為多。但知服勤講導篤志修進。以報佛恩可爾。既而來學日臻檀施日至。棟宇為之鼎新。

東靈欽法師法嗣

法師利淵。博通三藏。旁貫五經。學富道高。世稱為淵教

藏。蚤傳東靈之道。弘法楊尖。聚眾三百日事講演。出入經論莫測涯涘。由是後學多尚泛辨(此卷三十五人本紀遺失十七人)。

佛祖統紀卷第十六(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十七

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之七(廣智神照下四十四人)

淨社廉法師法嗣(廣智下第六世)

- 休菴法舟法師
- 法明文節法師
- 寶積法雲法師
- 妙果師楷法師
- 水陸文炳法師

- 常明道深法師
- 福昌文僧法師

圓辯琛法師法嗣

- 月堂慧詢法師
- 一菴處躬法師
- 雪堂戒應法師
- 止菴法蓮法師
- 指南仲韶法師
- 慈雲文統法師
- 餘姚清湛法師

覺雲連法師法嗣(神照下第六世)

- 月波則約法師
- 林菴清哲首座

證悟智法師法嗣

- 慧光若訥法師

北峯印法師法嗣

- 古雲元粹法師
- 佛光法照法師
- 梅峯梵奎法師
- 石溪思壽法師
- 石鏡清杲法師
- 慈感文圭法師
- 蒙泉了源法師
- 毒海道源法師
- 剡源覺先法師
- 桐洲懷坦法師
- 南峯思誠法師
- 日本俊苐法師
- 雲巢如寶法師
- 南澗行果法師
- 嚴陵趙彥肅

- 鎧菴吳克己

能仁寶法師法嗣

- 草堂如寶法師

車溪榮法師法嗣

- 紫金法通法師

慈室雲法師法嗣

- 悟真正皎法師
- 南湖了宣行人

覺安言法師法嗣

- 鑑堂思義法師
- 總菴妙心法師
- 常齋法开法師

能仁山法師法嗣

- 畢菴法希法師
- 南巖法雄法師

楊尖淵法師法嗣

- 崇先了生法師
- 楊尖法欽法師

圓辯琛法師法嗣(前廉法師法嗣七人原本無紀)

法師慧詢。字謀道。號月堂。其先永嘉陳氏。寓居四明昌

印已東疑圓深海善。祖曰。汝至有疑。出家。立稱。大法。南湖。圓頓。鉢論。以。卓。佛。回。一。常。持。因。對。每。主。道。契。嘗。疑。乎。曰。公。十。七。歲。論。之。曰。佛。妙。和。之。徒。還。師。為。常。住。月。二。十。八。母。省。祖。母。曰。佛。之。妙。與。之。徒。還。師。為。常。住。月。二。十。妊。歸。澄。照。師。曰。東。回。一。常。持。因。對。每。主。道。契。嘗。疑。乎。曰。公。十。而。嘗。湖。之。師。曰。東。回。一。常。持。因。對。每。主。道。契。嘗。疑。乎。曰。公。十。既。南。之。遍。名。體。還。淨。耳。去。乾。道。五。年。還。主。道。契。嘗。疑。乎。曰。公。十。化。誦。南。之。遍。名。體。還。淨。耳。去。乾。道。五。年。還。主。道。契。嘗。疑。乎。曰。公。十。求。成。初。者。左。旨。昌。欲。者。財。去。乾。道。五。年。還。主。道。契。嘗。疑。乎。曰。公。十。門。能。子。之。旨。昌。欲。者。財。去。乾。道。五。年。還。主。道。契。嘗。疑。乎。曰。公。十。至。佛。忌。遊。具。出。主。法。所。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。僧。遍。忠。有。西。即。具。出。主。法。所。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。異。數。州。之。乃。西。即。具。出。主。法。所。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。夢。華。吾。奇。嫉。聞。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。母。數。之。乃。西。即。具。出。主。法。所。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。山。授。法。照。見。嫉。聞。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。胸。當。法。照。見。嫉。聞。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。之。當。法。照。見。嫉。聞。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。國。院。家。當。法。照。見。嫉。聞。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。初。授。法。照。見。嫉。聞。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。去。家。當。法。照。見。嫉。聞。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。掖。見。皎。何。必。學。紹。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。即。問。所。學。紹。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。有。悟。入。紹。興。末。年。曰。汝。輩。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。岸。遇。盜。師。盜。為。感。動。歸。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。惡。業。報。盜。為。感。動。歸。物。悔。過。神。應。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。山。為。鬼。神。講。遠。而。至。幾。莫。能。容。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。負。笈。之。士。相。常。住。之。旨。師。曰。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。問。世。間。相。常。住。之。旨。師。曰。得。非。有。代。謝。而。此。理。常。住。月。二。十。然。師。曰。窮。過。去。極。未。來。之。可。曉。淳。熙。六。年。冬。十。月。二。十。日。屢。以。問。人。未。若。今。日。之。可。曉。淳。熙。六。年。冬。十。月。二。十。日。忽。告。眾。示。疾。慰。問。者。群。至。見。門。學。則。勉。其。進。德。士。官。

則囑其護法。聞其言者。悚然有感。既而別眾。書偈念佛。結印趺坐而化。停龕彌月。脣臉鮮紅。其容若笑。遺言分骨為二。一祔親壟。一塔祖原。眾以歷代窆全身。唯剃髮以酬師志。逾月視其髮。舍利可掬。師坐必端直。行不旁示。密室靜處必披袈裟。高座宣揚不事著述。學者多於聽次筆以記之。誦經坐禪日有常課。未嘗以事廢。制學者。未二十夏不許出世。躁進之風為之一戢。

法師處躬。永嘉人。號一菴。久從圓辯得其旨。晚主南湖。有辯才善說之譽。脫略窠臼不滯節目。有求指示者。執筆便書。申明祖意獨出眾說。遠近學者推為宗師。正旦結光明期。湖心律居亦行此懺。主者正竹溪素重師德。每初夜必領徒過南湖。聽說法要。竹溪臨筵。歎服曰。吾徒何幸得聞大乘。四分所明檢身為要。若明心見性其在茲乎。一眾為之歡躍。

法師戒應。四明人。自號雪堂。才識英敏襟度豁然。久學南湖為時偉望。郡以南湖請圓辯。師奉命之東掖。以禮奉迎。及圓辯至大開法施。妙旨雄談唯師可企。一日叩函丈。問指要中未了義。圓辯曰。汝能背誦。吾將為說。數日誦通。暨上請。辯曰。此中為汝說得徹也。師忽有省。自是機辯奮發莫有敵者。出主白蓮。學徒雲會。寧海歲有大會。請師一月講經。道俗萬眾仰聽肅肅。鴻音一震莫不警寤。一日無疾。別眾歸寢。右脇而亡。塔全身於寺山之靈源。

法師法蓮字實中。自號止菴。四明象山人。幼年勤學。一時講席。知名者無不遍歷。晚造南湖侍圓辯。朝問夕咨。越六載如一日。疇昔疑昧為之豁然。初主辯利。遷廣嚴永明悟真。接物以慈撫事以寬。或問日用則酬酢忘倦。叩以

佛法則默而不答。人有測識其意者。為炷香拱立。謙辭發問。方隨問委釋。曲盡其理。其為重法。不失師體若此。

鏡菴曰。先賢有云。四明中興天台之道。圓辯中興四明之宗。蓋謂四明之後。有派為知解之學。近似山外者。而圓辯者出。獨能發揮祖意以起四明。盛矣哉。或謂月堂得觀行。止菴得宗旨。一菴雪堂得辯說。皆有師家之一體云。

法師仲韻。四明人。久參圓辯學解卓異。紹興中主布金。以雪川神智假名諸師盛破四明。乃作三千正說以追攻之。名指南集。凡三卷(此中失文統清湛二人紀)。

覺雲連法師法嗣(神照下第六世)

法師則約。號元菴。鄞之姚氏。親受度於覺雲。旦夜為學

深明教旨。覺雲來南湖。師為侍右。撫事和謹內外以說。雲逝。去依上竺慧光。分座講經眾服其辯。乾道九年春。太師越王親製疏辭請為月波第一師。寺占東湖之勝。而師以講才見稱於世。故一時名德。咸樂來依。越王屢親講說。手書贊曰。師教門義龍也。既為吾家師。又作此山主。願奉此地。長講天台宗教。長修水陸普度。上報君親勿事改革。既而奏於朝。賜智海之號。自師作祖此山。繼之者梓菴隱堂。而柏庭徑升南湖。自是地望為之益重(此中失清哲首座記)。

證悟智法師法嗣

法師若訥。字希言。嘉興孫氏。初依竹菴於德藏。克志苦學。久而嬰病。心叩大士口誦祕呪。夢大士灌以靈液。寤而失其疾。乃往赤城謁證悟。遷上竺命師首眾。既沒。詔

師嗣居之乾道三年春二月。駕幸上竺。展敬大士。問光明護
懺法之旨。師答曰。梵釋天帝四大天王。下臨土宇護國護
人。故佛為說金光明三昧之道。後世祖師立為懺法。以資
諸天之威德。故帝王士庶皆可修持。上說授右街僧錄。既
而詔於山中建十觀堂。四月八日。召師領徒五十人。入內觀堂
師內宿觀護國法。上問曰。佛法固妙安得如許經卷。師曰。
修金本者如是。上然之。進左街僧錄慧光法師。九年。召對
有德殿。問大士歷代靈迹及法門。譬如著碁勝負既分。師發
選明此子碁亦須一時并去。師曰。講圓覺。至虛妄心若無。六
碁宗說俱通其師語。以賜。又嘗問金剛。故無著論云。此金剛
塵然。上手書其分。興問斷疑特喻金剛。此金剛
卷般若中一分。

波羅蜜以如是名顯示勢力。絪是般若皆有是力。此既諸般若之釋疑。是故金剛二字。文雖出此。義實通諸般若作譬。故持說者。福重功深(文句。絪法華座席。記絪預也。宋斐駟史記序云。采先儒之說。豫是有益。悉皆抄納。當知荊溪訓預。與斐駟合)上曰。朕日讀此經。今更命眾。合誦三萬卷。乃降劄云。平昔以來。所食禽魚之類傷害為多。今仗般若為除此過。庶使群生俱承解脫。時沂王尚幼。上召師入禁中。為王說法摩頂。嘗以疾囚間。上曰。且賜地築室。更數年彼此作閒人。水邊石上共說無生。十一年。退處興福。特授兩街都僧錄。時光宗在東宮。書歸隱之扁以賜之。仍製讚以褒稱其德。孝宗退養重華宮。召注金剛經。肩輿登殿止宿殿廬。注成以進。上披覽益有省發。紹熙二年十月旦。謂侍人曰。吾宗通法華宜以此終。乃集眾修法華懺。取道具進兩宮。端坐而化。壽八十二。塔於正寢。紹熙二年。諡宗教廣慈法師普照之塔。

法師俊苾。日本國人。先傳瑜伽密教(唐元和間。國人空海入中國。受密教於不空弟子慧果)。久之杭海來中國。登靈山謁北峯。學天台一宗。執經受教盡通其旨。開禧初。北虜犯邊。苾啟北峯欲結壇誦呪。如不空解安西圍。時論委靡竟不克行。北峯乃令遣徒歸國取中華先所傳五部之法。而其徒淪於海(此是北峯印法師法嗣。有十六人。前失十一人。後失三人。唯存此法師與趙彥肅二人而已)。

趙彥肅字。子敬。嚴陵人。登慶元龍飛第。洛學之翹楚也。來謁北峯論佛法大意。嘗問師曰。如來出世先說何法。師曰。示生同居先苦諦也。又問諸大乘經多奇詭駭人。來至法華何其平易。師曰。群機未熟必先動盪。機熟會入銜駭何為。自是深識時教大旨。每稱師為南山肉身大士。從受刪定止觀。歎曰。回天下外見。復於實際者此書

也。初彥肅。好詆佛道。嘗與僧抗議。理左語屈。及僧沒為行衰服。門人怪問之。答曰。法恩逾於父母。非小子所知也。

吳克己。字復之。自號鎧菴。建安節使之後。曾大父遊學四方。因居婺之浦江。幼穎悟。為學無所不通。嘗讀周官。慨然以封建井田為可復。淳熙中。四魁待補。歎曰。射目中眉事與時違。乃去隱於左溪。忽苦目疾。或勉禱圓通。輒云。臨危不變真大丈夫。有告以朱太醫答杜祈公。未讀佛書。何以知其不及孔孟。試持大士號。目疾良已。於是遂深信。讀楞嚴至空生心內猶雲點大清。豁如發蒙。觀山谷詩。讚美宗鏡。有從此永明書百卷。自公退食一鑪香。因閱及兩函。寶積實云。此書無規矩不若看止觀令悟境觀二字以為几杖。服味。既而果有悟入。因曰。至哉規矩之說。所謂至方以方天下之不方。至圓以圓天下之不

圓。識者取二書以究之。則規矩有無自有可見。曾為妙經作註。自言恥與棗柏埒。謂彼弘兼粗之典。我釋獨妙之經。嘉定七年冬。終於寶山。遺言以僧禮茶毘。壽七十五。所著法華樞鍵。楞嚴集解科。四教儀止觀大科。晚編釋門正統。未就而亡。良渚宗鑑為續成之。始家人夢湛假名求寄宿。洎學教議論多暗合。又喜其故人。以謂後身云(此中遺失如寶法通二法師之紀)。

慈室雲法師法嗣

法師正皎字元晝。鄞嵩江朱氏。受業多寶。初從辯利止菴學。因同人商略光明定題。便能臧否諸師得失。慈室居清修造焉。久之盡得慈室之道。慈室遷南湖。令居座端。講才宏闊眾所景慕。出主慈溪觀音。六遷法席。終於擇陽悟真。攻媿樓公鑰。每從師問佛法大意。師號月窓。居廣壽

之日。於窓間作半月。攻媿為作記。賦以詩云。不要作圓
月。才圓便有虧。不如作一半。却有向圓時。此詩盛播人
口。而師之名德於是益重。行人了宣四明奉化潘氏。初受
經寶林。慈室居清修往依焉。每謂解必有行。乃入南湖光
嚴室閱藏經。修法華三昧。前後二十七期。過午不食。未
嘗違日晷。與同修善榮為心友。每閱經有疑必造榮室決
之。一日默坐甚久。榮曰。今日何為。師曰。歸期已近。
道義難忘不覺如此。請君專心進道。當於淨土重會。榮笑
曰。正欲見君作略。師自此示疾。將終請眾諷彌陀經。稱
唱佛號。遽起端坐。索筆書偈云。性相情忘。一三無寄。
息風不行。摩訶悉利。即合掌瞑目。暑中留龕七日。顏色
紅潤。口角微涎。有以帛挹之者。異香襲人。闍維舍利盈
掬。心與數珠不壞。嘉泰元年五月十日也。後三年榮示
疾。臨終前一日與眾訣別。沐浴更衣。請眾念佛。趺坐而
化人謂赴宣師之約云(此中失覺菴言法師法嗣三人)。

能仁山法師法嗣

法師法希號畢菴。法雄號南巖。皆天台人。同入山法師室。服勤受道齊名當世。及相繼居白蓮。道望若一。具正眼以定宗發辯才以駕說。豁襟量以容眾。擒文藻以應機。白蓮宗風之盛。實二師振起之也(此中失法雄法師一人)。

揚尖淵法師法嗣

法師了生越之諸暨人。年十二出家。慧解如成人。初謁東靈欽師。時效禪林。群居僧堂。當元夕眾往觀燈。欽師行香。見其危坐床上。問曰。汝何不隨眾去。答曰。蒙師見誠。專心為學勿事嬉遊。欽師大喜撫其背曰。三十年後。振吾宗者非汝而誰。既壯深研教觀。時輩厭服。出主頂

山。講唱無廢日。臥榻度上。安蓮經韋天像。身披五條。吉祥而睡。謹身敬法。不以閤室易其節(此中失法欽法師一人○此卷共四十四人原本遺失三十一人。止錄十三人)。

佛祖統紀卷第十七(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十八

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之八(廣智神照南屏下共六十二人)

休菴舟法師法嗣(廣智下第七世)

- 豁菴淨悟法師

法明節法師法嗣

- 閑林子真法師

月堂詢法師法嗣

- 逸堂法登法師
- 柏庭善月法師
- 悅菴淨惠法師
- 隱堂正榮法師
- 石芝宗曉法師
- 南湖善榮行人

一菴躬法師法嗣

- 正菴端信法師
- 叔寶良琰法師
- 癡菴垂拱法師

止菴蓮法師法嗣

- 鏡菴景遷法師
- 契菴如晦法師
- 環菴戒樞法師

慧光訥法師法嗣(神照下第七世)

- 等菴士衡法師
- 虛菴有宏法師
- 復菴妙珪法師
- 中菴師安法師
- 上竺師覺法師
- 石澗從戒法師
- 晦菴慧明法師
- 桂堂如坦法師

佛光照法師法嗣(南屏下第七世)

- 子庭師訓法師
- 東陵智迴法師
- 碧溪德聞法師
- 菊庭信經法師
- 海翁時學法師
- 梅澗太度法師
- 少愚育才法師
- 行古忘新法師
- 鼎山時舉法師
- 若州景荃法師
- 古巖正因法師
- 毒鼓妙聲法師
- 應菴法言法師
- 梓山思恭法師
- 西山文拱法師

- 雪岑行海法師
- 無極可度法師
- 東屏正吾法師
- 石林文人法師
- 東山慧日法師
- 自聞如願法師
- 北山志在書記
- 方溪文珍知客

桐洲坦法師法嗣

- 古源永清法師
- 潛山文珣法師

剡元先法師法嗣(南屏下第七世)

- 雲夢允澤法師

蒙泉源法師法嗣

- 靈源允憲法師
- 桐溪若濟法師
- 螺溪元悟法師

梅峯奎法師法嗣

- 具城妙銛法師
- 孤巖如月法師

鑑堂義法師法嗣

- 百川如海法師
- 石庭道生法師
- 石帆宗曄法師
- 性菴淨岳法師
- 柏巖文杲法師
- 聖水從覺法師

總菴心法師法嗣

- 古鏡文杲法師

畢菴希法師法嗣

- 海空法英法師

南巖雄法師法嗣

- 虛靜祖意法師

休菴舟法師法嗣(廣智下第七世)

法師淨悟字機先。溫之樂清李氏。幼知厭俗。往依雁山飛泉圓覺。十九具戒。初謁定菴統學教觀。時休菴居壽昌。篤於講說。往求受業。菴問定菴何以示人。師曰。演索車義。菴曰。寂光土索車否。師不領。畜疑在膺幾廢寢食。菴感其用心撫其背曰。疑端發露寶所非遙。居無何忽有契會。自是宗門疑難迎刃而解。吳越講席。無不縱觀。志氣高卓。少有許與。每自誨曰。折鐺煮飯。偃息中林。借虛空口。對萬象說。余亦何媿。至若所學不充。因人成事。執數行紙上語。聚百十雛道人。大廈廣居食前方丈吾弗為。

也。師始於飛泉作興棟宇。既而勉徇眾請。出主天台淨土。日勤講說百廢具舉。晚歸飛泉故居。課佛為業。及屬疾大書以示眾曰。求醫問藥撓吾化也。吾將默觀其變。明旦危坐而蛻。時開禧丁卯九月二十六日也。闍維之日。耳與齒儼然。門人文虎。塔于寺之西麓。北澗居簡為之銘曰。是為豁菴。聽說總持。兩種不壞之藏。道德所重。雖隱而彰。吾知夫異代而同心者。墮淚於雁山之陽。

法明節法師法嗣

法師子真。永嘉人。號閑林。幼從節公學。用心勤至悉通其道。遇教義未安處。與諸友終日議論。既得意已。乃坐帳中。縱辭演說。或自問自答。以自研覈。後繼主法明。大弘乃父之業。辯才異等老學畏服。

月堂詢法師法嗣

法師法登字聖道。號逸堂。四明澥浦林氏。受業寧波。初為優婆塞學於梓菴。天性慧悟。凡諸部要文。無所不記。諸文要義無所不解。既具戒。入南湖依月堂。堂以其宿學蚤成。宜待以異禮。踰年命以懺首。嘗與論修性善惡之旨。師資道合益用親敬。守志齋居。二十二年無異。念教門義旨悉有撰述。世競傳錄。稱為逸堂科云。出主在城天封。遷資教。晚居清修。一時學者。以不預聞講席者為之愧恥。

法師善月字光遠。四明定海方氏。父偉為邑中名儒。母夢月輪墮懷已而有娠。生之夕白光滿室。初學語。常合掌道法界字。甫成童。父編六經授之。以次誦習。如溫故業。十二通春秋大義。母携往正覺寺設供。循殿楹數匝。寺主

道并謂其母曰。吾夜夢白龍繞此柱。其徵此兒乎。於是父
母始令出家。命名善月。符先夢也。(善月光遠皆古佛名)十
五具戒。越三月而并師亡。乃往南湖依草菴。常以科目繁
冗為勞。草菴繼。趨隅日勤。菴曰。異時鼓吹吾宗者其在子乎。
來菴講道月堂。問如來不斷性惡之說。身心豁然而退。乃復歸
梓菴。見府庫。以所悟白。堂更為演其義。師拜領而退。堂示寂。
南見府庫。以所悟白。堂更為演其義。師拜領而退。堂示寂。談
師為專使往當湖讚之曰。吾於首座可謂得人。但恨無繼之
辨雅正。竹菴獨秀。因自號柏庭。淳熙庚子初主東湖。奔
者。所居慈溪寶真隱聞之喜。二年。御眾有法。十三年。不易節。縑
利。遷食予不嗇也。講道有方。御眾有法。十三年。不易節。縑
廩取疏勸請。講道有方。御眾有法。十三年。不易節。縑素以是

信之。嘉泰四年。退隱衍慶精舍。一息十載夢老叟耳語
曰。六十五。七十一。嘉定六年。郡將陳卿。以南湖有去
思為更屈。致辭弗克。雨華更新舊徒再擁。未逾月上竺不
以勅書召。師謂然而往。是年正六十五之驗也。八年夏旱。
可迎大士於明慶。車駕親幸致拜。命師拂衣東歸。朝注暮洽。
詔上大說。特補左街僧錄。十二年秋拂衣也。明年秋。郡以西山
祖關。是年七十一。又知所驗。前有旨再領上竺。人皆以坡
資教。卑師佚老。紹定五年春。為之賀。端平三年得目
仙師去忽復來菴。一旦示疾。坐床上若相酬酢者。法孫秀林
眚。請老東菴。吾與荆溪尊者對談祖道耳。我則不暇。千載污龕七
問何為。實柏庭叟。則吾枯骨淳祐元年正月十九日也。留龕七
人患無為。言已累足而化。實淳祐元年正月十九日也。留龕七
業。言已累足而化。實淳祐元年正月十九日也。留龕七

日。貌色鮮白。心頂俱煖。奉全身塔於寺東。為壽九十三。
得夏七十八。先是首座智覺。論請於朝。言。師道光前哲。
四眾依仰。年登九秩。將逼歸真。請建塔山中。以擬歸藏。
上旨允之。故今用此成命。所遺衣髮及四經解。合藏於南
湖祖塔之側。師所著述。楞嚴玄覽。金剛會解。圓覺略
說。楞伽通義。因革論。簡境十策。三部格言。金鉅義
解。宗教玄述。仁王疏記。附鈔箋要。皆行於世。自餘雜
製。名緒餘。講餘對客。木嘗及世間事。唯論前人往行及典
誥之辭。或問何以安心。曰。心本不動。問法華經藏。曰。當
處全彰。其警策類此。嗣其道者。香林清賜為上首。

法師淨惠字敏中。號悅菴。鄞陸氏。父母禱佛而生。幼年
夢登寶閣。見異人為摩頂。及覺異香滿室。以語隱學俊師。
勉其學釋。遂依定海正覺出家。既具戒。往見月堂。因春
期入懺。聞策導頓悟圓旨。堂由是器之。有度律師用大智

新疏。講觀經於湖心。月堂遣師與之辯。至談觀心觀佛之旨。發難數四。度竟屈服。哲則菴主南湖。始開講席。師掩卷危坐。退而指其瑕疵。哲益敬畏。榮隱堂居隱學。俾師分坐講風大揚。初主郡城法華。或以為小。師曰。此法智師講經之地。其可鄙乎。遷治平。每臨講見疏記援引儒典。則止而不讀。謂其徒曰。此外書也。宜自觀之。夏將闌。對眾自詫曰。今夏講席諸方所無。縱或及之。亦祇雜以外書。誘掖之餘兼事匝石。積年弊陋易而為新。每預公舉。或非其人。輒面斥諸山曰。所謂講院者。以欲傳講爾。今此人能任此責乎。卒不許。閒居泉口拱秀菴。學士裏糧來從。及遷寶嚴化道日起。閱八年。忽天風吹華桂香滿院。識者知為嘉瑞。未幾果頒南湖之命。時嘉定六年也。自柏庭樂育人材之繁。後生尚文辭好異議。生者稍不厭眾心。必郡起而譁逐之。師至以沈毅御物。特成規嚴。人望風不敢犯。向之好譁者俗為革。居丈室未嘗局。請益者雖

入夜不拒。行兩廡聞讀誦聲。必忻然就之。因所業為點
示。法華懺期。日一開說。初終參貫。人皆樂聽心感。嘉
定九年九月二十九日。集大眾諷觀經。趺坐榻上奄忽如
蛻。塔全身於祖關門人乞銘於司令。樓扶淨無住見而歎
曰。悅菴不喜外書。而梅麓作銘。全用妙經句。豈非有以
冥使之乎。稟法者禪悅。了彬。大蓬。了因。六七人云。

行人善榮字行甫。四明小溪周氏。初從月堂學教觀。既通
其旨。即入觀堂修長懺閱藏經。金書法華楞嚴淨名圓覺光
明五經。以施諸方。彫造彌陀佛像。拈施眾會。素善水
墨。畫大士像以與人。前後莫計。以音聲佛事轉授諸人。
今城社經呪。皆用師節度也。臨終往生之相。見宣行人
傳。弟子默容海印。以高行為鄉城所歸(此卷六十二人。本
紀止錄六人遺失五十六人)。

佛祖統紀卷第十八(終)

法師宗曉。字達先。石芝其自號。四明王氏子。十八受具
戒。先從具菴強公。遊次謁雲菴洪公。理觀密契遂分半
座。未幾主昌國翠蘿。學者奔赴。越二年退隱西山日課妙
經。適齊尚書扁所居曰閑靜。攻媿樓大參以詩美之。復遊
浙西諸剎大參說偈以相其行。歷三歲而還。大府丞汪公與
其季檢詳命主參秀。久之謝去居延慶第一座。講演之餘編
法華顯應錄樂邦文類教行錄三教出興頌諸祖贊振祖集光明
照解施食通覽。又集儒釋孝紀明良崇釋志明教編。箋註要
旨血書法華墨書華嚴寶積般若涅槃諸經。又為中林居士張
宗義書真宗皇帝御注四十二章經。鑿義井於城南櫟社曰法
華泉。以飲行者。作亭其上施以湯茗無問道俗。結屋數楹
創為接待。得魏文節公常樂舊額。中林張公為續聖像建藏

輪鑄鐘架樓增闢田土輪奐一新。且為誓辭以誠諸徒。使不忘建立之意。弘傳教觀四十餘年。晚益韜晦。嘉定甲戌八月二十日示疾。索紙書偈曰。清淨本來不動。六根四大紛飛。掃却雲霞霧露。一輪秋月光輝。闍維於寺之南。齒牙不壞舍利甚夥。巽齊戶曹見之述文贊歎。塔于上方六殊勝地。僧臘四十七。世壽六十四。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第十九

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之九

豁菴悟法師法嗣

- 嘯巖文虎法師(廣智下第八世)

閑林真法師法嗣

- 法明師昶法師

逸堂癸法師法嗣

- 同菴允憲法師
- 石坡元啟法師
- 竹坡如約法師
- 石屋正己法師
- 可堂若參法師
- 化翁師贊法師
- 巨宗師岳法師
- 不孤有鄰法師

柏庭月法師法嗣

- 香林清賜法師
- 伊堂了圓法師
- 石田妙慧法師
- 半雲行儒法師
- 此室大方法師
- 虛中元真法師
- 遁山士堯法師
- 孤巖如啟法師
- 寂菴文慧法師
- 櫟菴文節法師
- 巽中道謙法師

- 無謀善庭法師
- 北林與俱法師
- 石門士雲法師

悦菴惠法師法嗣

- 禪悦了彬法師
- 寶化道英法師
- 雲屋可止法師
- 化翁正己法師
- 大蓬了因法師
- 茅屋了己法師
- 竹溪志昌法師

石澗戒法師法嗣

- 古泉正宗法師(此卷三十二人本紀原文遺失)

佛祖統紀卷第十九(終)

柏庭月法師法嗣

法師文節。字通叟。自號操庵。四明慈溪夏氏子。世為大族百餘家。行路者常聞讀書聲。父諱歷年賢厚人□□□二

明者月隨庭生。可三十四年度補如在六述
永之教三焉。麼無留寺。九里松庵學寺。二十著
邑家次十傑一句地。下獨斷。方世忠二月二十三。
于山留四當天上。散。觀所。獨。有。午。七十。
家皆西幢為。此。天。眾。海。廟。九。湖。之。歸。正。壬。午。臘。
出庵遇進。而。至。此。眾。定。理。去。動。湖。至。正。壬。午。臘。
勸悅。精。合。竟。此。事。定。理。去。動。湖。至。正。壬。午。臘。
貌遷。豎。師。畢。至。謝。事。定。理。去。動。湖。至。正。壬。午。臘。
其有所。是。師。春。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
異。有。於。名。矣。春。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
親。未。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
免。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
祖。遊。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
者。十。七。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
講。十。七。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
定。十。七。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
山。十。七。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
土。十。七。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
住。十。七。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
有。十。七。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
時。十。七。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。
寺。十。七。者。有。大。全。別。有。庭。九。始。出。世。乃。求。鼓。震。南。之。壽。

有指要會宗集英等。書于度弟子覺初昇歸家山善慶庵全身
窆焉。得法者如吳之似蘭子華思治惟簡明之大東慧海法東
等說金錫有半月偷閑解夢書。又觀心觀佛偈曰。春到上林
渾似錦不須尋訪賣華翁之句。徑山愚禪師嘆賞不已。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師列傳第六之十

嘯巖虎法師法嗣(廣智下第七世)

- 訥堂慧辯法師
- 頑空智覺法師
- 松澗善助法師
- 寒谷妙暉法師
- 東山夔公首座

- 東山皎公法師
- 東山義問書記

法明昶法師法嗣

- 法明行依法師
- 寶壇智尚法師

同菴憲法師法嗣

- 圓菴行果法師
- 東林覺先法師

- 香山唯一法師
- 浩翁惠川法師
- 石翁法介法師
- 柯山本悟法師
- 虎巖行珪法師
- 石林文藻法師
- 安道清寧法師
- 無聞若訥法師
- 聖水善濟法師
- 默菴普聞行人
- 退若可昇法師

石坡啟法師法嗣

- 無住宗淨法師(此卷二十三人本紀原文遺失)

佛祖統紀卷第二十(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十一

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸師雜傳第七

- 淨覺仁岳法師
- (二世)吳興子昉法師
- 錢唐可久法師
- 錢唐惠勤法師
- 霅川慈梵法師
- 霅川瑩珂法師
- 永嘉乃仁法師

- 超果靈照法師
- 樞密使胡宿
- 神智從義法師
- (二世)慧月了睿法師
- 草菴道因法師
- (二世)梓菴有倫法師
- 廣壽法因法師
- 四明道時法師
- 儒士述菴薛澄

雜傳之作。將以錄諸師之未醇正者。故淨覺以背宗錄。神智以破祖錄。草菴以失緒錄。或曰。法智之世。先後為異說者有之矣。豈當盡以雜傳處之乎。然昭圓之於四明。無

師資世系之相攝。後人概以山外指之。亦足懲之矣。至若法智子孫時為逆路之說者。未若淨覺神智之為甚也。彼祝之而不類。我且指二人為首云(祝職救反事見楊子)。

法師仁岳。雪川姜氏。自號潛夫。聞法智南湖之化。往依為學。至水月橋。擲笠水中曰。吾所學不成。不復過此橋。法智器之。居以東廈白晝焚膏專事紬繹。鄉書至。悉投帳閣未嘗啟視。因出境分衛乘舟水行。偃臥舒足豁然自得。若拓虛空。檣為之折。每請益函文。擷大屨關大鑰。眾望風畏之。時昭師略光明玄。不用觀心。師輔四明撰問疑書以徵之。四明製妙宗并消伏三用潤師作指瑕以為難。師述止疑扶膜以正之。四明談別理隨緣。齊師作指濫以為非。師作十難以扶之。所以贊四明為有力。後復與十同志修請觀音三昧。因疾有閒。宴坐靜室恍如夢覺。自謂向之所學皆非。乃述三身壽量解以難妙宗。道既不合。遂還浙

陽靈山。蒙慈雲攝以法裔。四明乃加十三料簡以斥之。師復上十諫雪謗。往復不已(詳見四明本紀)會昭慶有請慈雲。為詩以送之。學徒從往者半。雲弗之止。既遷石壁。復徙靈芝。時法智已歸寂。師臨眾自詫曰。只因難殺四明師。誰向靈芝敢開口。有仁行人。自永嘉請居淨社。一住十年。大弘法化。以年老還鄉。雪守請主祥符。觀察使劉從廣為奏。命服樞密使胡宿。為請淨覺之號。晚年專修淨業然三指以供佛。持律至嚴不以事易節。創隱淪堂休室以為燕居。治平元年春。謂門人曰。我翌日午刻當行。果留偈安坐而亡。時三月二十五日也。塔全身於何山之西隅。嗣法者梵慈乃仁輩。皆能表表模範一世。師於楞嚴用意尤至。會諸說為會解十卷。熏聞記五卷(釋自造會解)。楞嚴文句三卷。張五重玄義。則有楞嚴說題。明修證深旨。則有楞嚴懺儀。復於呪章調節聲曲以為諷演之法。所著金剛般若疏二卷。發軔鈔五卷(釋自造金剛疏)彌陀經疏二卷。

指歸記二卷(釋自造彌陀經疏)文心解二卷(釋不二門)雜錄名義十二卷。義學雜編六卷。如意輪課法。涅槃禮讚文。羅漢禮讚文。南山禮讚文。施食須知。毘曇七賢七聖圖。起信梨邪生法圖。各一卷。禪門樞要。淨名精英。大論樞節大論文。茗溪講外集。窓案記。諸子雜言史髓。

記曰。何山更為禪居。而塔地轉為菜圃。厥後寺眾有夢。師謂塔處灌溉非便。求遷之。及開龕。色身不壞舍利盈滿。遂具禮易葬焉。此與東山神照遷塔事極相類。皆於當時藏全身。而特示靈瑞於二百年之後也。異哉。

論曰。天台家。謂學華嚴唯識者為他宗。蓋指其不受時教規矩之說耳。淨覺初為山家之學甚厲。為止疑扶膜十門折難。以排四師甚力。一日師資小不合。而遽為壽量之異說。甚至於十諫雪謗。抗辯不已。前輔之而後畔之。其為

過也。與學他宗者何異焉。父作之。子述之。既曰背宗。何必嗣法。置之雜傳亦足為懲。然此亦是護宗綱辦法裔為之說耳。若鑒之以佛眼。則聖賢弘道。互有抑揚。豈當定其優劣。如調達波旬皆以大權示現邪見。詎可以俗情裁量之邪。是知議淨覺者。當以此意亮之。

法師子昉。吳興人。賜號普照。早依淨覺。嵩明教據禪經作定祖圖。以付法藏斥為可焚。師作祖說以救之。又三年。嵩知禪經有不通。輒云傳寫有誤。師復作止訛以折之。其略有曰。契嵩。立二十八祖。妄據禪經。熒惑天下。斥付法藏為謬書。此由唐智炬作寶林傳。因禪經有九人。其第八名達摩多羅。第九名般若密多羅。故智炬見達摩兩字語音相近。遂改為達磨。而增菩提二字移居於般若多羅之後。又取他處二名婆舍斯多不如密多以繼二十四人。總之為二十八。炬妄陳於前。嵩繆附於後。瀆亂正教

瑕玷禪宗。余嘗面折之。而嵩莫知媿。又據僧祐三藏記傳律祖承五十三人。最後名達摩多羅。而智炬取為梁朝達磨。殊不知僧祐所記。乃載小乘弘律之人。炬嵩既尊禪為大乘。何得反用小乘律人為之祖耶。況禪經且無二十八祖之名。與三藏記並明聲聞小乘禪耳。炬嵩既無教眼。纔見禪字認為己宗。是則反販梁朝達磨。但傳小乘禪法厚誣先聖其過非小。

法師可久。錢唐錢氏。天聖初。覃恩得度學教觀於淨覺。無出世志。喜為古律詩。蘇軾監郡日。嘗與師及惠勤清順為詩友。所居西湖祥符。蕭然一室。清介守貧。未嘗有憂色。軾來守錢唐。當元夕九曲觀燈。去從者獨行入師室。了無燈火。但聞瞻訇餘香。歎仰留詩。有不把流離閑照佛世知無盡本非燈之句。蒲宗孟集錢唐古今詩。求[亭-丁+呆]於師。師曰。隨得隨去。未始留也。聞者高之。晚年

杜門。送客不逾閩。辟穀安坐觀練熏修。如此十餘年。窓外唯紅蕉數本。翠竹百箇。淡如也。一日謂人曰。吾死蕉竹亦死。擇瑛公亦死未幾皆驗。人嗟異之。

法師靈照。蘭溪盧氏。幼失怙恃。白兄求出家。兄取三藤示之曰。使此藤繫汝俱碎。可從汝意。師欣然入林。取藤成束置前曰。果容入道用此繫我。俱碎無恨。兄不能奪。遂入寶慧寺。誓去枕席香燈禮誦。未朞月誦通法華光明。弱冠投試有司嘉之。獎以別榜。既具戒即往錢唐。依香嚴湛師學教觀。數歲復往吳興。依淨覺。一家戶牖無不通達。初主吳山解空。繼遷景德。熙寧中徙雲間超果。自元豐以來於每歲春首結淨業社七日期時。預者二萬人。念佛獲驗不可紀錄。嘗夢三聖儀相。前跪作禮曰。靈照一生誦大乘經。期生安養為果願否。觀音指曰。淨土不遠有願即生。又誦經。深夜忽夢普賢示身。遂發心造其像。誦經萬

部以嚴淨報。元豐五年冬臥疾。謂侍者曰。吾安養之期已至。遂北首面西累足而化。闍維異香襲人。舍利流迸。結塔院東南隅。

胡宿字武平。常州晉陵人。學問文章。當世推重。治平三年。由樞密副使出鎮杭州。每來謁岳師。[言*恣]詢妙道。躬執弟子禮。師安坐不少遜。

法師從義。溫之平陽人。姓葉氏。十七通誦法華得度學扶宗。主大雲五峯寶積。嘗患他宗但任胸臆。於所著補注集解處處辨明。如論賢首妄判華嚴。議慈恩專用唯識。辨祖承無二十八祖。判道家當攝入儒宗。辭理切直為世所信(並詳見諸宗立教志)晚居秀之壽聖大振宗教。元祐六年春。示疾就榻。吉祥右脇而逝。瘞舍利於錢唐寶藏。諡曰神智。憲使劉燾記行業云。端介清白。不妄遊從。寤寐三觀。耽

味著述。過午不食。非法不言。非右脇不臥。非濾水不飲。行步有常。坐立如植。未嘗求公卿之知。可謂賢也已矣。所著大部補注十四卷。順正記三卷(釋光明玄)新記七卷(釋光明文句)往生記四卷(釋觀經疏)圓通記三卷(釋不二門)纂要六卷(釋義例)集解三卷(釋四教儀)寓言四卷(釋金錫)淨名略記十卷。搜玄三卷(雜出教儀)。

論曰神智之從扶宗。視四明為曾祖。而於有所立義極力詆排之。去乃翁已五十年。其說已定。而特為之異破壞祖業不肖為甚。非同當時孤山淨覺一抑一揚之比也。舊系扶宗。今故黜之。置之雜傳。以示家法之在。

法師了睿。嘉興人。號慧月。學教有聲。久依神智於壽聖。秀有士族請神智禱疾。師與俱往。及歸神智責之曰。汝為純厚。吾故携汝往。何為俗舍左顧右盼。師深謝過而

已。智曰。汝豈有所見耶。師密白曰。有一女崇。在病床上。見師入即下走。人既擁門。乃從壁隙而出。不覺顧視如此。智曰。吾亦見之。已而病者愈。智既沒。師乃繼其席。思溪王氏有女卒。請施食河水船不可渡。乃遣人報。令設座於斛前。即船上遙為呪願。中夜一女至船上曰。謝師戒法已得超度。留鞋一雙忽不見。次日王君至船。驚曰。此亡女入斂時鞋也。

法師道因。自號草菴。四明薛氏。視法智座下。粲法師為叔祖。其孕也。母夢粲披幃而入寤而生。明發而赴至。咸知其為後身云。掌有圓相掬之如環。足下奇文雙魚宛示。十七具戒。坐夏南湖。有問以教義者。徐為釋之。正與文合。識者知其宿習。明智居寶雲。往學焉。已而遍歷教庠屢參禪室。因讀指要鈔深有悟入。初主禪悅。直嗣四明(草菴錄嗣法文云。三入禪室五登講堂。始終親近八善知識。

皆光明碩大。有德有言。緣不在彼。如水投石。此一辦
香。奉為延。第一代法智尊者。用酬法恩。然存則人。亡
則書。旁不肯者。無吝擊節)次遷永明寶雲廣壽治平。晚主
延慶。學徒滿堂。乾道三年四月十七日。別徒眾曰。華嚴
世界洞徹湛明。甚適我懷今將行矣。乃令舉所述彌陀讚
曰。無邊剎海海涵空。海空全是蓮華宮。蓮宮周遍遍空
海。空海獨露彌陀容。阿彌陀佛不生滅。難覓難拈水中
月。絕非離句如是身。如是感通如是說。我與彌陀本不
二。妄覺潛生忽成異。從今掃盡空有塵。父子天然兩相
值。誓修三福勤六念。身口意業無瑕玷。我今以此念彌
陀。不見彌陀終不厭。讚畢。隨眾唱佛數百。諷觀經至上
品上生。即斂念坐亡。越三日頂足皆煖。葬全身於祖塔。
師道貌嚴毅。辭辯如瀉。有嬰其鋒者。謂登龍門。嘗著關
政論。以正禪人之弊。詣行在投宰相秦檜。三上書。俱不
報。遂渡江而歸。後秦相閱其書大驚。將見之。而師已

行。居南湖日。述輔正解以斥律人妄解觀經之失。其強志為法若此。嘗居城南草菴。因以自號。

論曰。草菴初學於明智。一旦讀指要有省發。而又自謂文粲後身。故以瓣香奉四明。然四明者羅睺羅也。未聞稟佛為嗣。若草菴之所承。則將兄廣智而孫明智矣。豈北面師事之。而反孫之可乎。西土二十四祖。金口所宣悉有先後。若謂北齊遠稟龍樹。此則立觀之始。非草菴所當上效。故鏡菴論之曰。一家教觀必資傳授。豈可紊亂使失其緒。況當時已有高攀九祖遠嗣四明之誚。舊圖系於明智。終非草菴之本心。新圖系之四明。未免有違於公論。今故置之雜傳。亦足以為失緒者之戒云。

法師有倫。四明王氏。受業於小溪壽聖。自號梓菴。久依草菴學。分座南湖講道有旨。晚主月波。學徒說服。柏庭

輩行皆北面受業。所居一室。未嘗見其便溺。人皆異之。或問其故。拒而不答。

法師法因。自號剗心。四明慈溪顧氏。學草菴盡其旨。以與師同名。時稱為小因。主廣壽三十年。晝夜講演。未嘗一日走檀門。每施者至。輒竦媿自歎曰。比丘之法丐食活命。我何人哉。坐奪勤苦之利却而還之。不得已受其少分。所居弊陋將新之。曰此軀尚無常。何事外物為一日集講。侍者報。眾赴檀門未回。師曰。虛空諸天正欲聞法。何必眾集。即擊鼓升座。紹熙四年八月示疾。於定中見淨土二菩薩。謂左右曰。吾覩法華道場。與平時所見異甚。吾將行矣。即集眾諷觀經。稱佛號。留偈端坐結印而化。瘞全身於寺東。

薛澄。字清卿。自號述菴。視草菴為叔。嘗從其學大明境

智之道。草菴沒為文祭之。其略云。嗚呼吾佛明心。禪必用教。教必用禪。如江如湖。流雖不同所鍾一源。如日如月。時或云殊。所麗一天。譬以二藥治眾人病。所期者痊。奈何末途兩宗被魔。學者泥偏私立位號互為矛盾。其門必專教而視禪了不相安如針著氈。禪而視教欲割不能如癭附咽。不求其端。教曰。我是孰明漸圓。惟怪欲聞。禪曰。我是但稱別傳。兩宗既孤。又於其宗派別星懸。或本四明。或夸雪川。或出白蓮。天台徽旨浮談浪語如漂流船。或參漚仰。或歸雲門。或嗣曹洞。如來心印上推下墮如顛倒猿。持此勝心敵彼勝心。以燕伐燕堂堂我翁。能於兩宗洞達妙玄(云云)。又作草菴忌疏云。諸法本空即空成實。至人不死雖死如生。安住尊者(師自號安住子)間氣所鍾前因不昧。探戒珠於驪頤。飛慧劍於龍門。早遊刃於儒林。無書不讀。晚乘桴於教海。有感皆通(云云)。於道最高。裂衣冠而罔恤。有疑不決。械囹圄以須爭(云云)。見

八知識。無半語之相。投將一瓣香。為四明而拈出(此卷十六人本紀遺失五人止錄十一人)。

佛祖統紀卷第二十一(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十二

宋景定四明東湖沙門志磐撰

未詳承嗣傳第八

- 東陽善慧大士(齊梁之間)
- 景明道房禪師(稠師傳)
- 北齊僧稠禪師
- 北齊李獎侍郎(稠師傳)
- 天台智琰法師(唐)
- 金華方巖法師
- 西京楚金法師

- 千福飛錫法師
- 終南法善法師
- 玉泉真公法師(下三人見淨土志)
- 南岳承遠法師
- 南岳法照國師
- 無姓法劍法師(下二人見光教志)
- 長沙懷遠法師
- 五臺志遠法師
- 五臺元堪法師(遠師傳)
- 天台道暹法師
- 國清清觀法師
- 國清文舉法師
- 建業敬雲法師
- 泰山妙行法師
- 四明子麟法師(五代唐)

- 十祖玄燭法師
- 嘉禾皓端法師
- 會稽什法師(宋下三人見法智紀)
- 嘉禾子玄法師
- 天台元顥法師
- 括蒼聰法師(南屏傳)
- 無相善勤法師
- 寶藏利贊法師(勒師傳)
- 普慈揮法師(下二人湛假名傳)
- 空相融法師
- 超果照法師(下二人敏法雲傳)
- 廣化明法師
- 宗元錄顥法師
- 寶雲威法師(正文慧傳)
- 方廣曇照法師

- 普照因法師
- 佛智道如法師(如上竺傳)
- 寶積實法師(吳克己傳)
- 淨慧威法師(草菴錄)
- 左溪志昭法師
- 無功居士王闡

有為天台之道。而無聞於後世者。固亦多矣。非以其迹晦而位卑身亡而嗣絕乎。至若舊雖有傳而無所師。附見他傳而無所考。凡於法門有旁贊之一益者。豈不樂書。作未詳承嗣傳。

東陽大士傳翕字玄風。義烏人。齊建武四年五月八日生。

人。於。度。蓋。來。定。坐。兼。無。書。來。盡。止。四。發。光。病。人。當。歸。迦。說。奉。欲。門。異。止。十。所。圓。足。自。作。迦。代。囚。來。傳。眾。扣。對。者。二。佛。見。門。晝。釋。當。妄。宮。子。度。一。榻。去。尸。水。之。間。見。妖。率。弟。欲。一。御。者。成。婆。視。醫。樹。傭。日。是。兜。遣。慧。鎚。上。去。普。毘。令。良。擣。人。間。之。謂。從。年。善。木。直。欲。建。於。耶。雙。為。之。道。我。年。出。拜。曰。普。與。還。耶。鐵。山。為。坐。成。然。六。曰。袖。不。祝。子。昔。當。多。於。采。取。宴。成。王。曰。通。報。士。不。中。二。我。何。所。菴。人。年。唱。言。守。進。大。詔。大。贊。水。生。我。之。結。任。七。聲。郡。精。愈。藏。薩。異。三。沈。氏。曰。在。之。乃。果。行。空。禮。山。覆。菩。其。者。魚。娶。陀。鉢。見。鑪。率。植。苦。日。至。還。不。世。觀。謁。盛。頭。衣。曰。兜。種。法。如。沓。之。事。主。門。殿。籠。六。嵩。宮。悟。思。佛。光。眾。釋。此。國。鎖。言。以。十。僧。率。乃。暇。士。演。放。四。而。隱。為。勅。善。人。愚。塘。其。身。何。大。敷。來。而。媿。昔。帝。預。於。里。為。停。生。覆。急。脫。善。妙。佛。已。食。提。稱。見。與。為。停。眾。環。方。解。與。光。道。旬。上。詣。隨。開。

常。設食竟。出鍾山坐定林松下。縣官資給。大同元年。
請講三慧般若於重雲殿。公卿畢集。天子至眾皆迎。大士
不動。御史問故。答曰。法地若動。一切法不安。帝善
之。翌日獨延於壽光殿。夜漏上乃出。梁末饑亂。日與其
徒拾橡栗。糲草作糜以活閭里。盜不忍犯。嘗曰。我賢劫
千佛中一佛。弟子慧榮欲建龍華會。大士曰。龍華是我
事。汝可建請佛停光會。若從吾言定見龍華。又曰。吾悟
道四十劫。釋迦方始發心。由釋迦能捨身。所以先我成
佛。陳天嘉二年。山中行道。常見七佛在前維摩從後。謂
弟子曰。七佛中唯釋迦數與我語。光大二年冬。大士曰。
嵩公已還兜率天。我不得久住。作還元詩十二章。大建元
年四月二十四日示寂。七日縣令陳鍾耆來禮敬。傳香之
次。猶反手受香。眾益驚歎。葬松山之隅。勅僕射徐陵撰
碑。

荊溪止觀義例曰。東陽大士位居等覺。尚以三觀四運而為心要。故獨自詩曰。獨自精(草堂元法師隨釋云。謂三千絕妙。法界獨立。其體精妙)其實離聲名(三千妙體本離聲教名字)三觀一心融萬品(三觀三千也。三千即空假中。祇一念是若了三千自萬品。一即一切。一切即一。非一非一切。而一而一切。融相可知)荊棘叢林何處生(九界惑染生死因果荊棘也。佛界因果萬德莊嚴叢林也。善惡崢嶸同歸一相。一相無相故云何處生。此證真如理觀也)獨自作(起十界四運。四句推檢。故云作也)問我心中何所著(問起之辭)推檢四運并無生(正用觀也)千端萬累何能縛(此觀成也。十界善惡因果何能為縛。此證唯識事觀也)況復三觀本宗瓔珞。補處大士。金口親承。故知一家教門。遠稟佛經。復與大士宛如符契(小瓔珞經二卷。上卷明次第三觀。謂從假入空觀。從空入假觀。二觀為方便得入中道第一義觀。下卷明圓三觀。謂佛為敬首菩薩說三觀法界諸佛自性清淨云

云。三觀既自佛說。大士金口親承。今家建立遠宗佛說。復與大士所說三觀符契也)。

述曰。過去諸佛由三觀道安住祕藏。現在釋迦由三觀道果後示權。是知自行化他權實因果之法。無非三觀之道。瓔珞宣之於前。智論申之於後。北齊心悟而立為法。東陽旁贊而示以詩。皆所以明此道也。東陽顯於梁而終於陳。當北齊南岳智者以此道相傳之際尚無恙也。昔承佛口之親宣。今值諸師之授受。於是作而言曰。大哉。三觀之道。行於震旦其在斯時乎。乃述為二詩。從旁而讚之宜也。世人不考為同時。遂指東陽為前人。而謂其能預談三觀。故晁景迂為明智碑。亦謂前乎智者。以導其教者。曰梁傳大士。斯言未的也。今當易之云。與文禪師同時。旁贊其道者。曰傳大士。以大士無授受之迹。今但附見於傳首云。

旬一以。說萬結師是拱。悔。磬。使
心唯嶺。為空城。諫儀師里。愧。師宮。水
攝日。葱虎要本。鄴諫。謂十帝。寺。輦。祝
觀夏。兩禪界。於為。而。謂。十。帝。寺。輦。祝
止五藏。求說流。或古言。口藍。師。遂。殺。
行安居。法。為。汗子逮之。谷伽。負。好。
受。前。獎。師。豎。弟。不。右。往。污。欲。愆。猶。
師。安。藏。三。習。李。法。之。迎。德。左。車。恐。謝。今。
禪。法。陀。修。郎。說。為。送。吾。帝。乘。牛。淨。謗。足。王。
房。處。跋。山。侍。說。為。送。吾。帝。乘。牛。淨。謗。足。王。
道。念。白。屋。山。帝。嘗。吾。帝。乘。牛。淨。謗。足。王。
寺。四。詣。王。黃。出。山。帝。嘗。吾。帝。乘。牛。淨。謗。足。王。
明。行。所。詣。師。保。室。未。國。耳。旦。血。可。下。羅。
景。聖。以。復。去。詔。常。一。令。於。冥。知。身。何。天。作。
從。聖。以。復。去。詔。常。一。令。於。冥。知。身。何。天。作。
氏。涅槃。觀。矣。即。宣。不。宴。步。致。福。已。師。此。負。曰。
孫。修。想。最。虎。文。相。不。宴。步。致。福。已。師。此。負。曰。
鹿。復。死。為。齊。世。之。王。七。冀。之。弟。子。師。
鉅。定。修。汝。解。北。華。奉。迎。欺。加。怪。彥。曰。何。
稠。入。九。定。杖。卷。榮。禮。盧。自。往。帝。遵。帝。身。
僧。得。嘗。禪。錫。兩。幻。寺。寶。不。欲。旁。臣。受。子。
師。即。食。東。師。止。法。雲。曰。同。敬。立。謂。折。問。

視之即見羅剎形。又欲見佛法靈異。師投袈裟於地。帝遣人舉之。增至數十人不能動。師令沙彌取之。如舉一羽。帝益敬信。請受菩薩戒。留禁中四旬而出。乾明元年四月示寂。勅建塔以藏舍利。

述曰。案稠禪師行道。於北齊天保中。與思禪師為同時。逆而推之。則知受止觀於房禪師。當天保之初。復更推之。則天保已前。當東魏孝靜之世。時文禪師。始以己悟一心三智之道以授思禪師。則知房師所受止觀。亦應稟自文師。蓋文師悟由中論。獨步河淮時無競化。非小乘禪師之所能知。然則房師。上受文師。下傳稠師。上下推之為可信矣。

法師智琰。母夢升通玄塔相輪坐而誕。十二誦通法華。時稱神童。祝髮之後即參講席(師以正觀年終。則知參講之

時。即章安諸師也)。嘗隱虎丘山講懺餘日。誦法華至三千部。甕鑪未爇自起煙芬。夕罐纔空潛加溢水。蓋天童給侍之驗焉。行三淨業修十六觀。率五百人月建齋講。十年不替。講法華淨名皆三十遍。觀音玄三十遍。貞觀八年冬示疾。見梵僧手執寶瓶曰。吾無邊光也。却後淨土稱功德寶王。即我是也。師謂門人曰。無邊光大勢至也。功德寶王其成佛之號也。由因言果。以此勉余。余其西歸乎。即入定不反。

金華方巖和尚。荊溪未入僧時。曾從之受止觀(應是左溪門人)。

法師楚金。廣平程氏。七歲出家。禮藏探經法華在手。九歲依西京龍興寺具戒。習智者教。嘗誦經至寶塔品。身心泊然寶塔忽現。釋迦分身滿虛空界。禪坐六年。誓建斯

塔。誠懷一啟檀信自來。於築基夜誦經行道。眾聞天樂異
香。玄宗夢空中楚金二字。詰朝訪問。咸以師對。乃親製
多寶塔額賜縑緡為助。功畢之日五色瑞雲凝於塔上。謂同
學曰。鑿井見泥去水不遠。鑽木已熱得火可諳。凡我七人
聿成一志。晝夜誦經香煙不斷。乃於春秋二時。集七七僧
行法華三昧。奉旨許為常式。前後感獲舍利七百粒。血書
法華菩薩戒經。以祝九重。寫法華千部。金字三十六部。
用鎮寶塔。復寫千部散施信人。化緣既畢右脇而逝。薪盡
火滅雪顏如生。天子遣塔於城西。貞元十三年。左街功德
使寶文場奏先師楚金。於天寶初為國建塔。置法華道場。
今僧眾禮念。六十餘年經聲不絕。乞加旌表。詔謚大圓法
師。

法師飛錫與楚金。精嚴三觀。天寶初。遊京師止終南紫閣
草堂。俄有詔住千福法華道場。不空翻譯新經。頻當筆受

潤文之任。永泰初。詔於大明宮同良賁等參譯仁王護國及密嚴經。與三藏不空學士柳伋重加詳定。充證義正員。嘗撰念佛三昧寶王論三卷明淨土三世通修之義。

禪師法善。習天台教學。唐天寶間遊京師。常誦法華。所居之處瓶水自滿。臨終見金蓮從空下迎。天樂競鳴隱隱向西去。

法師志遠。汝南宋氏。初依荷澤聞天台一宗。該通妙理力學積歲。居五臺華嚴。食非別請。臥不解衣。四種三昧用為常課。會昌四年。忽絕食數朝。誠門人曰。天台之道。妙在法華文句本迹二門。開近顯遠。玄文五義判釋止觀境觀雙修行解圓明遮照平等。將踐聖階降茲罕及。禮懺方等必假精誠。永懷於茲宜副吾意。時學者如林。唯元堪達其旨。武宗沙汰佛法堪稟遺言。以諸文藏之屋壁。宣宗即位重輝

佛日。堪再葺舊居。取其藏本置之影堂。傳唱當時絕而復續。

法師道暹。天台人。大歷中入京傳教。盛有著述。能於虛空遊行往來。時謂有神足之證。

法師清觀。臨海屈氏。久居國清。妙洞三觀禪定神異。清介自守不畜衣鉢。嘗曰。恨未能舍己頭目。溪南有請供者。夜雨水漲人不能渡。師頃刻即赴身衣無濕。人知其有神足通焉。

法師文舉。東陽張氏。入國清習天台之道。悉通要妙。其形如山其貌如玉。動若浮雲靜若止水。目不旁視口無戲言。四威儀中無非律範。丹丘二眾仰以為法。先是國清為煬帝建光明道場。歲以為期。人繁食少。師竭力營建。成

莊田十二頃。眾賴以濟。

法師敬雲。建業人。夙學天台之道。光化二年。於永嘉寺講經。依俱舍論述小乘入道五位。作析玄記二卷。法師妙行。初學天台教。既入居泰山。結草為衣拾果為食。行法華三昧感普賢現身證明。後專持彌陀經。於一夕見流離地佛與二菩薩涌立空中。僖宗聞其名。詔賜號常精進菩薩。後一日再見寶地。謂左右曰。吾無觀想而寶地復見。安養之期至矣。即日右脇安臥而化。

法師子麟。四明人。五代唐清泰二年。往高麗百濟日本諸國援智者教。高麗遣使李仁日送師西還。吳越王鏐。於郡城建院以安其眾(今東壽昌)。

法師玄燭。戒德定品慧業法門。講唱宗乘當世特立。大順

初。傳法帝京。學徒數百左右悅隨。時謂其可繼荊溪。尊稱為十祖云。

法師皓端。嘉禾張氏。聞玄燭時稱十祖。遂往參學。即悟一心三觀之旨。誓心山居二十餘年。身無長衣口無異味。坐唯一榻門不設關。本朝建隆初。無疾坐亡。火浴舍利不知其算。得法者八十人。

法師善勤。天台人。無相以主席請於郡。時以師高行為之舉。及遷淨名。舉檀菴繼其席。檀菴遷赤城。眾舉利贊繼。贊赴寶藏。部使者。復以無相卑。師以眾不足容。乃別遷勝地增建棟宇。時謂安清淨眾講妙教觀。宜天人之交助也。

法師元顥。吳興人。政和二年。於郡城開元建智者院。日

居慈雲閣。秉筆著書。自正像統紀終教藏目錄凡百卷。名天台宗元錄。序次古今諸師行事。為山家之盛典云。又述法華靈瑞集為十科。始於普賢證明終至香光表相。郡補為都師。有招權者。誣以事民。其衣聞者流涕。而師不為愠。幅巾布褐。遨遊人間。隨時升沈。晚在鹽橋菴廬誦經課佛。一夕面西危坐。欣然神化。焚龕之日舍利布地。

法師曇照。四明人。受業方廣。宣和初。述天台別傳注。最為詳委。學者肄之。

法師志因。賜號普照。少學天台之道修淨土行。五十年法服未嘗去體。嘗因寇擾入山避亂。唯携觸服。方欲登園。寇已逼近。師易衣石上從容洗漱。寇不敢犯。識者歎仰。謂之遊行無畏。其斯人乎。

法師志昭。居左溪述釋迦譜。稱躬稟叔父鎧菴微旨。及編次歷代宗承圖。後學於是有考。

王闡。四明慈溪人。自號無功叟。家世名儒。再舉進士不得志。布衣蔬食遍詢講席。晚年唯專念佛。以所得旨意述淨土自信錄。其序略云。眾生本心具四淨土。如同居者在具縛凡夫即可依之。其餘三土。至斷惑聖人始獲證入焉。且往生一門有二淨業。曰正觀。默照本心也。曰助行。備修萬善也。正觀與助行並進。則了達四淨土矣。止有願等事善者。近生凡聖同居。而遠作上三土之因也。以此論之。則淨土者。正是究理菩薩所登境界。而兼容悠悠眾生回向漸修耳。又云圓機體道是最上淨業。苟加願以導之。即預優品。愚朴之輩。但稱佛發願者亦莫不生。觀淨土一門。則知聖人無棄物也。彼但守癡空之人。以無礙無修。起自障心。絕他學路。乃高其言曰。淨土末事何足道哉。

發是言者可哀也矣。紹興十六年四月丁卯之夕。忽聞異香滿室。謂弟沙門思齊曰。此吾所修淨業有感也。乃沐浴更衣。面西趺坐而化。焚其軀得舍利如菽者百八粒(此卷四十三人。本紀惟錄二十二人。餘二十一人。皆見別傳。故以小字釋之)。

佛祖統紀卷第二十二(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十三

宋景定四明東湖沙門志盤撰

歷代傳教表第九

北齊悟一心三智之旨。以授南岳。南岳修之以授智者。智者始以五時八教開張一化。而歸宗於法華本迹之妙。既發其解必立之行。於是說己心中所行。以示一心三智之證。載之文字。用以印心。以教後世。自北齊上法龍猛。下逮法智。為十七世。作歷代傳教表。

梁

武帝(蕭衍受齊禪都建康稱南朝)

- 天監元年(壬辰盡十八年)
- 普通元年(庚子盡七年)
- 大通元年(丁未盡八年)
- 大同元年(丁卯盡十二年)大同中。二祖文禪師。於北朝河南。為思禪師說三觀。當東魏孝靜帝天平間。
- 太清元年(丁卯盡三年)

簡文帝(綱武帝第三子)

- 天寶元年(庚午盡二年)

元帝(繹武帝第七子)

- 承聖元年(壬申盡三年)

敬帝(方智元帝第九子)

- 紹泰元年(乙亥)
- 太平元年(丙子)

陳

武帝(陳霸先受梁禪都建康)

- 永定元年(丁丑盡三年)

文帝(舊武帝兄始興王子)

- 天嘉元年(庚辰盡六年)

三祖思禪師於北朝光州大蘇山。為顓禪師。說四安樂行。示普賢道場。當北齊廢帝乾明元年。

- 天康元年(丙戌)

廢帝(伯宗文帝二子)

- 光大元年(丁亥盡二年)

二年。思禪師。為南岳帝君授戒法。

宣帝(瑒始興王第二子)

- 大建元年(己丑盡十四年)

四祖顓禪師。於金陵瓦官寺為儀同沈君理僕射徐陵等開法華經題。一夏開釋大義。白馬敬韶等咸北面受業。自

此後常講大智度論。說次第禪門。及為尚書毛喜說六妙門。

大建中南岳思禪師。為海東玄光法師說法華安樂行。歸國演教。為高麗東國傳教之始。

大建九年六月二十二日。南岳禪師示寂。

少帝(叔寶宣帝長子)

●

至德元年(癸卯盡四年)

至德三年。詔瓦官顓禪師。赴太極殿開大智度論題。仁王般若經題。還靈曜寺就講。時百座居左。五等居右。慧曠慧辯。皆奉勅難問。天子臨筵聽法。百僚盡敬。

至德四年。詔迎顓禪師。居光宅寺。帝幸寺聽講仁王。躬禮三拜。

●

禎明元年(丁未盡三年)顓禪師。於光宅講法華經。章安預聽。

文帝(楊堅相周靜帝受禪都長安)

•

開皇十年(庚戌是年陳亡始稱正統盡二十一年)

開皇十一年。晉王總管揚州。迎顓禪師於大聽事。設千僧齋授菩薩戒。師名晉王為總持王。上師號稱智者。

開皇十二年。智者禪師於荊州當陽玉泉山為關王父子授戒。

開皇十三年。智者禪師。於玉泉說法華玄義。章安預聽。

開皇十四年。智者禪師。於玉泉說摩訶止觀。章安預聽。是年過岳陽為刺史王宣武授大乘戒法。為學士曇捷等講金光明經。

開皇十五年七月。智者禪師。至揚州禪眾寺。以所著淨名義疏。奉上晉王。九月辭歸天台。

開皇十七年九月。智者禪師。於天台佛隴為諸弟子口授觀心論。十一月。於石城寺為弟子說十如。四不生。十法界。三觀。四無量心。四悉檀。四諦。十二因緣。六波羅密。一一法門。是月二十四日。示寂於石城彌勒石佛像前。

仁壽元年(辛酉盡四年)

煬帝(廣文帝第二子)

- 大業元年(乙丑盡十二年)

恭帝(隋煬帝子)

- 義寧元年(丁丑盡一年)

五祖章安禪師。於天台國清寺為法華威禪師。說止觀心要。

唐

高祖(李淵受隋禪都長安)

- 武德元年(戊寅盡九年)

太宗(世民高祖次子)

-

貞觀元年(丁亥盡二十三年)

貞觀六年八月七日章安禪師。於國清寺。示寂

貞觀二十年。召法華威禪師。授朝散大夫引駕四大師。

高宗(治太宗第九子)

•

永徽元年(庚戌盡六年)

永徽六年。召天宮威禪師。授朝散大夫引駕四大師。與法華同職位。

- 顯慶元年(丙辰盡五年)
- 龍朔元年(辛酉盡三年)
- 麟德元年(甲子盡二年)
- 乾封元年(丙寅盡二年)
- 總章元年(戊辰盡二年)
- 咸亨元年(庚午盡四年)
- 上元元年(甲戌盡二年)
- 儀鳳元年(丙子盡三年)
- 調露元年(己卯)
- 永隆元年(庚辰)

十一月二十八日。法華禪師。示寂。

- 開耀元年(辛巳)
- 永淳元年(壬午)
- 弘道元年(癸未)

則天高后(武氏高宗之后廢太子為廬陵王臨朝稱制)

- 光宅元年(甲申)
- 垂拱元年(乙酉盡四年)
- 永昌元年(己丑)
- 載初元年(庚寅二年)
-

如意元年(壬辰盡二年)

如意二年。七祖天宮禪師。於東陽天宮為左溪朗禪師說止觀。

- 延載元年(甲午)

- 證聖元年(乙未)
- 萬歲通天元年(丙申)
- 神功元年(丁酉)
- 聖歷元年(戊戌盡二年)
- 久視元年(庚子)
- 長安元年(辛丑盡四年)

中宗(顯高宗第七子母武后嘗廢為廬陵王)

- 神龍元年(乙巳盡二年)
- 景龍元年(丁未盡三年)

睿宗(旦高宗第八子)

- 景雲元年(庚戌盡二年)
- 先天元年(壬子)

玄宗(隆基睿宗第三子)

•

開元元年(癸丑盡二十九年)

開元十八年。八祖左溪禪師。於東陽左溪為荊溪然禪師

說止觀。是年新羅法融等。傳教歸國。

●

天寶元年(壬午盡十四年)

天寶十三年九月十九日。左溪禪師示寂。

肅宗(亨玄宗第三子)

- 至德元年(丙申盡二年)
- 乾元元年(戊戌盡二年)
- 上元元年(庚子盡二年)
- 寶應元年(壬寅)

代宗(豫肅宗長子)

- 廣德元年(癸卯盡二年)
- 永泰元年(乙巳)
-

大歷元年(丙午盡十四年)

大歷中。九祖荊溪禪師。於天台佛隴為邃法師說止觀。

德宗(适代宗長子)

-

建中元年(庚申盡四年)

建中三年二月五日。荊溪禪師於佛隴示寂。

- 興元元年(甲子)
- 貞元元年(乙丑盡廿一年)
- 貞元中。十祖邃法師。於國清。為修法師說止觀。

順宗(誦德宗長子)

-

永貞元年

邃法師於國清為日本最澄說止觀。盡寫一宗論疏以歸。
為日本傳教之始。

憲宗(純順宗長子)

- 元和元年(丙戌盡十五年)

穆宗(恒憲宗第三子)

- 長慶元年(辛丑盡四年)

敬宗(湛穆宗長子)

- 寶歷元年(乙巳盡二年)

文宗(昂穆宗次子)

-

大和元年(丁未盡九年)

大和中。十一祖修法師。於禪林。為外法師說止觀。

- 開成元年(丙辰盡五年)

武宗(炎穆宗第五子)

-

會昌元年(辛酉盡六年)

會昌六年詔毀天下佛寺沙汰僧尼。

宣宗(忱憲宗十三子。武宗欲加害。遂逃難為沙門依齊安

師。武宗崩群臣迎入京。即帝位)

- 大中元年(丁卯盡十三年)

詔復會昌所廢寺院。

懿宗(催宣宗長子)

- 咸通元年(庚辰盡十四年)

僖宗(溪懿宗第五子)

-

乾符元年(甲午盡六年)

乾符中十二祖外法師於國清為琇法師說止觀。

- 廣明元年(庚子)
- 中和元年(辛丑盡四年)
- 光啟元年(乙巳盡三年)
- 文德元年(戊申)

昭宗(曄懿宗第七子)

- 龍紀元年(己酉)

十二祖琇法師於國清為竦法師說止觀法門。

- 大順元年(庚戌盡二年)
- 景福元年(壬子盡三年)
- 乾寧元年(甲寅盡四年)
- 光化元年(戊午盡三年)
- 天復元年(辛酉盡四年)

景宗(祝昭宗第九子)

- 天祐元年(甲子盡三年)

梁(五代)

太祖(朱溫受唐禪都洛陽)

- 開平元年(丁卯盡四年)
- 乾化元年(辛未盡二年)

末帝(瑱太祖第四子)

- 乾化三年(癸酉盡二年)
- 貞明元年(乙亥盡六年)
- 龍德元年(辛巳盡二年)

唐

莊宗(李存勗破梁即位都洛陽)

- 同光元年(癸未盡三年)

明宗(亶本屈突部人賜姓李氏為莊宗昆弟)

- 天成元年(丙戌盡四年)
- 長興元年(庚寅盡四年)

末帝(從珣本姓王明宗養子)

- 清泰元年(甲午盡二年)

晉

高祖(石敬瑭滅唐即位都汴)

-

天福元年(丙申盡六年)

天福中十四祖竦法師於國清為寂法師說止觀。

少帝(厘貴高祖從子)

- 天福七年(壬寅盡二年)
- 開運元年(甲辰盡三年)

漢

高祖(劉知遠。晉少帝為契丹所虜。中原無主遂即位於晉陽。仍用晉年號。都汴)

- 天福十二年(丁未)

隱帝(承祐高祖猶子)

- 乾祐元年(戊申盡三年)

周

太祖(郭令威受漢禪都汴)

- 廣順元年(辛亥盡三年)

世宗(榮太祖后柴氏之姪受遺制即帝位)

- 顯德元年(甲寅盡五年)

恭帝(崇訓世宗子)

- 顯德六年(己未)

宋

太祖(受周禪都汴京)

-

建隆元年(庚申盡三年)

吳越王錢俶。遣使往高麗日本。求遺逸教乘論疏。

建隆二年。高麗國。遣沙門諦觀。持天台論疏至螺溪

-

乾德元年(癸亥盡五年)。

十五祖螺溪寂法師。為通法師說止觀法門。

- 開寶元年(戊辰盡八年)

太宗

-

太平興國元年(丙子盡八年)

太平興國四年。十六祖寶雲通法師。為四明禮法師。說止觀諸大乘法。

-

雍熙元年(甲申盡四年)

雍熙四年十一月四日螺溪法師示寂。

-

端拱元年(戊子盡二年)十月二十一日寶雲法師示寂。

- 淳化元年(庚寅盡五年)
- 至道元年(乙未盡三年)

真宗

-

咸平元年(戊戌盡六年)

咸平六年。十七祖法智法師。於南湖保恩答日本源信。

信問目二十七條。

●

景德元年(甲辰盡四年)撰指要鈔。成出別理隨緣二十問。以攻繼齊指濫之失。

景德四年。遣本如持十義書二百問。上錢唐昭師。以救光明玄不立觀心之失。

●

大中祥符元年(戊申盡九年)

大中祥符三年。賜保恩改額延慶。同異聞師。作誠誓辭二篇。俾為長講天台宗教之所。

大中祥符七年。撰觀經融心解。

●

天禧元年(丁巳盡五年)與十僧。修法華懺。期滿三年。焚身供法。以公私勸止不獲如願。述消伏三用。以破孤山闡義鈔之非。

天禧四年。駙馬李遵勗。奏賜法智大師。宣旨令住世演教。不許遺身。

天禧五年。主上遣內侍俞源清。宣旨就寺。修法華懺三日。為述修懺要旨以答聖意。是歲撰觀音別行玄記。觀經妙宗鈔皆成。

● 乾興元年(壬戌)

仁宗

•

天聖元年(癸亥盡九年)撰光明續遺記成。

天聖三年。先是天禧初。詔天下立放生池。師始於佛生日。縱魚鳥為放生事。自述放生文。是年郡守曾會。以事聞。勅樞密劉均。撰文刻石。仰宣聖化。

天聖五年。撰光明文句記。其後廣智續讚佛一品。

天聖六年正月元日。建光明懺七日為順寂之期。至五日

趺坐說法唱佛而化。闍維異香芬郁。舍利無數。舌根不壞。若紅蓮華。

●

明道元年(壬申盡二年)

明道二年七月。奉靈骨起塔於南城崇法。

佛祖統紀卷第二十三(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀
【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十四

宋景定四明東湖沙門志磐撰

佛祖世繫表第十

傳道以心不以迹固也。至論祖祖授受之際。必使循迹而後可知心。苟能知心何必去迹。然則何為其迹邪。豈不曰有教以為之說。有觀以為之行。行必顧說。說必顧行。說與行如其迹始妙。故曰說已心中所行。此傳道之迹也。知迹必知心。知心必知道。由知道故然後可以論祖祖授受之際。作佛祖世繫表。

西土佛祖

- 教主釋迦牟尼佛
- 初祖摩訶迦葉尊者
- 二祖阿難陀尊者
- 三祖商那和修尊者
- 四祖優波鞠多尊者
- 五祖迦提多尊者
- 六祖彌遮迦尊者
- 七祖佛陀難提尊者
- 八祖佛陀密多尊者
- 九祖脇比丘尊者
- 十祖富那奢尊者
- 十一祖馬鳴尊者
- 十二祖迦毘摩羅尊者

• 十三祖龍樹尊者

末田地與商那。同稟阿難。非正所承。今故不列。此土既尊龍樹為高祖。則視十四祖已下。反同旁出。西土十四祖。亦視吾北齊已下為旁出。各論所承。非互為是非也。若北齊悟智論一心三觀。以授南岳。遠繼龍樹。位列二祖云。

今家欲尊四明為正祖。則當自龍樹已下。通為十七代。以並尊其位。或謂興道至高。論功德稍微者。夫時有通塞。則道有污隆。然於道何傷焉。不有其父。焉得其子。茲但取傳教之迹耳。欲審其由。當求諸宗門尊祖議(見名文光教志)。

東土十七祖

高祖龍樹無畏論主

二祖北齊大禪師

三祖南岳大禪師

- 天台智者禪師○
- 南岳大善禪師
 - 縣令陳正業
- 南岳僧照禪師
- 枝江慧成禪師
- 藍谷慧超禪師

- 巴丘慧曜禪師
- 雲峯慧涌禪師
- 江陵慧威禪師
- 鍾山智瓘禪師
- 仙城慧命禪師
- 枝江慧瓘禪師
- 南岳靈辯禪師
- 新羅玄光禪師
 - 南澗慧旻禪師
 - 升堂受蒞一人
 - 火光三昧一人
 - 水光三昧一人
- 淨人方合
- 南岳府君
- 刺史劉懷寶

- 光州巴子立
- 影堂二十八人
- 業高四百
- 信重三千

四祖天台智者大禪師

- 章安灌頂禪師○
- 天竺真觀禪師
- 瓦官法喜禪師
- 國清智越禪師
- 瓦官法慎禪師
- 國清普明禪師

- 國清智瑪禪師
- 佛隴智晞禪師
- 國清法彥禪師
- 廬山智鎋禪師
- 廬山大志禪師
- 玉泉道悅禪師
- 天台等觀禪師
- 華頂般若禪師
- 會稽禮宗禪師
- 棲霞法嚮禪師
- 玉泉行簡禪師
- 國清慧威禪師
- 碧澗法俊禪師
- 興皇慧獎禪師
- 當陽德抱禪師

- 南岳慧稠禪師
- 蔣山大忍禪師
- 佛隴慧辯禪師
- 玉泉道勢禪師
- 天台慧瑫禪師
- 天台慧普禪師
- 玉泉法盛禪師
- 玉泉法論禪師
- 會稽智果禪師
- 終南法琳禪師
- 國清智寂禪師
- 白馬敬韶禪師
- 定林法歲禪師
- 禪眾智令禪師
- 奉誠法安禪師

- 玉泉法偃禪師
- 國清道修禪師
- 岳陽曇捷禪師
- 玉泉義邃禪師
- 國清師諫禪師
- 國清如郎禪師
- 佛隴慧綽禪師
- 天鄉法延禪師
- 玉泉法才禪師
- 玉泉法璨禪師
- 玉泉道慧禪師
- 十住道臻禪師
- 慧日僧珍禪師
- 陳少帝
- 陳皇太子

- 陳永陽王
- 隋煬帝
- 玉泉關王
- 參軍陳鍼
- 儒士梁方茂
- 太中蔣添玟
- 儀同吳明徹
- 刺史王宣武
- 儀同沈君理
- 僕射徐陵
- 光祿王固
- 侍中孔渙
- 儀同周弘正
- 開府柳顧言
- 尚書毛喜

- 得門千數

五祖章安大禪師

- 法華智威禪師○
- 龍興弘景禪師
- 南岳大慧禪師
- 天台明曠禪師
- 嘉祥吉藏禪師
 - 耆山智拔禪師
- 玉泉道素禪師

六祖法華大禪師

- 天宮慧威禪師○

七祖天宮大禪師

- 左溪玄朗禪師○
- 永嘉真覺禪師

八祖左溪大禪師

- 荊溪湛然禪師○
- 焦山神邕禪師
 - 焦山智昂禪師
 - 焦山靈徹禪師
 - 焦山進明禪師
 - 焦山慧照禪師
- 支硎道遵禪師
 - 支硎靈翰禪師
 - 支硎法盛禪師
 - 支硎道忻禪師
 - 支硎靈源禪師
- 佛隴大義禪師
- 紫金元宗禪師
- 四明道源禪師
- 婺女清辯禪師

- 婺女行宣禪師
- 婺女圓淨禪師
- 婺女法開禪師
- 三衢道賓禪師
- 三衢慧從禪師
- 毘陵守真禪師
- 錢唐法燈禪師
- 錢唐法真禪師
- 會稽法源禪師
- 新羅法融禪師
- 新羅理應禪師
- 新羅純英禪師
- 居士傅禮
- 居士王元福

九祖荊溪大禪師

- 興道道邃法師○
- 南岳普門法師
 - 南岳曇環法師
- 龍興元皓法師
 - 龍興智淨法師
 - 龍興仲儀法師
 - 龍興子瑜法師
 - 龍興道如法師
 - 龍興仲良法師
- 華頂行滿法師
- 天台智度法師

- 雲峯法證法師
 - 龍興重巽法師
 - 中丞柳公綽
 - 刺史柳宗元
 - 中書鄭綯
 - 刺史孟簡
- 無姓法劍法師
- 翰林學士梁肅
- 散騎常侍田敦
- 吏部員外李華
- 散騎常侍崔恭
- 身通三十九人

十祖興道法師

- 至行廣修法師○
- 興善守恭法師○
- 日本最澄法師

十一祖至行法師

- 止定物外法師
- 天台良湑法師
- 天台光韶法師
- 天台敬文法師
- 天台維蠲法師

- 刺史韋珩

十二祖止定法師

- 妙說元琇法師○
- 天台敬休法師
- 天台慧凝法師
 - 天台處原法師
 - 天台玄廣法師

十三祖妙說法師

- 高論清竦法師○
- 國寧常操法師
 - 國寧義從法師
 - 國寧德儔法師
 - 定水慧贊法師
 - 法性修雅法師

十四祖高論法師

- 淨光義寂法師
- 慈光志因法師
 - 慈光唔恩法師
 - 奉先源清法師

- 梵天慶昭法師
 - 永福咸潤法師
 - 永福善朋法師
 - 報恩智仁法師
 - 永嘉繼齊法師
- 孤山智圓法師
- 崇福慶巒法師
- 開元德聰法師
- 靈光洪敏法師
- 慈光可嚴法師
 - 廣慧蘊常法師
- 慈光文備法師
- 姑蘇可榮法師
- 海南懷贇法師
- 錢唐義清法師

- 演教覺彌法師

十五祖淨光法師

- 寶雲義通法師○
- 國清宗昱法師
 - 常寧契能法師
 - 通照覺明法師
 - 安國智臻法師
 - 寶山懷慶法師
 - 明教曉乘法師
 - 寶藏悟真法師
 - 頂山懷玉法師

- 靈鷲志倫法師
- 廣教澄或法師
- 廣教寶翔法師
- 石壁行靖法師
- 石壁行紹法師
- 勝光瑞先法師
- 通鑑知廉法師
- 崇法願齊法師

十六祖寶雲法師

- 法智知禮法師○
- 慈雲遵式法師

- 妙果文昌法師
 - 妙果天授法師
- 明智祖韶法師
 - 海月慧辯法師
 - 法寶從雅法師
 - 指源如杲法師
 - 慧淨思義法師
 - 圓應德賢法師
 - 神智仲元法師
 - 慈明慧觀法師
 - 慈覺永堪法師
 - 慈受子琳法師
 - 寂照慧日法師
 - 圓悟思尚法師
 - 慈行智深法師

- 三衢懷襲法師
- 圓智志豪法師
 - 承天義昭法師
 - 承天義榮法師
- 承天文詡法師
- 日本源信法師
- 內侍俞源清
- 嗣法二十七人
- 入室四百七十八人
- 升堂一千人
- 辯才元淨法師
 - 法鑑若愚法師
 - 靈山則章法師
- 神智載升法師
- 廣慧居白法師

- 法喜清鑑法師
- 真淨思永法師
- 保慶法潤法師
- 天竺本融法師
- 天竺思悟侍者
- 丞相王欽若
- 侍郎馬亮
- 諫議胡則
- 職方崔育才
- 南湖異聞法師
- 興國有基法師
 - 興國令祥法師
 - 福源悟持法師
- 廣慧體源法師
- 錢唐清曉法師

- 法顯遇成法師
- 兜率守仁法師
- 寶雲延德法師
- 寶山善信法師
- 太師錢惟治
- 運使顧承徽

十七祖四明法智法師

- 廣智尚賢法師○
- 神照本如法師○
- 南屏梵臻法師○
- 三學則全法師

- 三學若水法師
- 浮石崇矩法師
 - 天柱守孜法師
 - 景雲溫其法師
 - 覺慈善嵩法師
 - 景德居式法師
 - 浮石懷月法師
 - 婺女日東法師
- 廣慈慧才法師
 - 妙悟希最法師
 - 懺主法宗法師
 - 妙果子良法師
 - 餘慶思辯法師
 - 浮石惟清法師
 - 龍泉覃異法師

○ 雷峯戒珠法師

- 廣嚴含瑩法師
- 慧因擇交法師
- 圓智覺琮法師
- 崇法祖端法師
- 四明文粲法師
- 丹丘嗣謙法師
- 四明願彬法師
- 廣印智環法師
- 祥符文智法師
- 三衢文炳法師
- 四明用卿法師
- 四明居永法師
- 崇法自仁法師
- 崇慶本圓法師

- 天台慧舟法師

南湖廣智法師

- (廣智傳扶宗是為以明傳溫)(扶宗三世為圓辯淨社社傳溫辯傳明溫與明互為師授不有圓辯則廣智之道幾於息矣南湖四智之後雖一傳而無聞然陳晁二公光贊此道誠足以儼唐代梁李之盛其於教門豈不益為昌大哉)
- 神智鑑文法師
 - 明智中立法師
 - 澄照覺先法師
 - 慧照法隣法師
 - 圓澄智謙法師

- 定慧介然法師
- 四明法維法師
- 諫議陳瓘
- 待制晁說之
- 文慧宗正法師
- 空相思恭法師
- 扶宗繼忠法師
 - 草堂處元法師
 - 息菴道淵法師
 - 淨社處廉法師
 - 休菴法舟法師
 - 豁菴淨悟法師
 - 嘯巖文虎法師
 - 訥堂慧辯法師
 - 頑空智覺法師

- 松澗善助法師
- 寒谷妙輝法師
- 東山夔公首座
- 東山皎公首座
- 東山義問書記
- 法明文節法師
 - 閑林子真法師
 - 照堂師昶法師
 - 寶壇智尚法師
 - 法明行依法師
 - 法明可圭法師
- 寶積法雲法師
- 妙果師楷法師
- 水陸文炳法師
- 常明道深法師

- 福昌文僧法師
- 圓辯道琛法師
 - 永嘉法詮法師
 - 超果維湛法師
 - 海慧若圓法師
 - 因果如吉法師
 - 淨社全教法師
 - 括蒼義詢法師
 - 金文冲霄法師
 - 四明蘊恭法師
 - 法昌本誠法師

圓辯法師

- 月堂慧詢法師
 - 逸堂法登法師
 - 同菴允憲法師
 - 圓菴行果法師
 - 東林覺先法師
 - 香山唯一法師
 - 浩翁惠川法師
 - 石翁法介法師
 - 柯山本悟法師
 - 虎巖行珪法師
 - 石林文藻法師
 - 安道清寧法師
 - 無聞若訥法師
 - 自牧子謙法師
 - 聖水善濟法師

- 南湖普聞行人
- 石坡元啟法師
 - 無住宗淨法師
 - 大石志磐法師
- 竹坡如約法師
 - 石古慧刊法師
 - 竹屋善交法師
- 石屋正己法師
 - 友山智恭法師
 - 懷古可尚法師
- 可堂若參法師
- 化翁師贊法師
- 巨宗師岳法師
- 不孤有隣法師
- 柏庭善月法師

- 香林清賜法師
- 伊堂了圓法師
 - 畊雲崇敬法師
- 石田妙慧法師
- 半雲行儒法師
- 此室大方法師
- 虛中元其法師
- 遁山士堯法師
- 孤岩如啟法師
- 寂菴文慧法師
 - 半岩道全法師
 - 子高必昇法師
- 操菴文節法師
- 巽中道謙法師
- 無謀善應法師

○ 悦菴淨慧法師

■ 禪悦可彬法師

■ 寶化道英法師

■ 雲屋可上法師

■ 化翁正己法師

■ 大蓬了因法師

■ 茅屋了己法師

■ 竹溪志昌法師

○ 隱堂正榮法師

○ 石芝宗曉法師

○ 南湖善榮行人

● 一菴處躬法師

○ 正菴端信法師

○ 叔寶良琰法師

○ 癡菴垂拱法師

- 贅菴惟定法師
- 誰菴宗岳法師
- 雪堂戒應法師
- 止菴法蓮法師
 - 餘姚清湛法師
- 指南仲韶法師
- 慈雲文統法師
- 鏡菴景遷法師
- 契菴如晦法師
- 環菴戒樞法師

東山神照法師

- 法真處咸法師
 - 安國元惠法師
 - 智涌了然法師
 - 覺雲智連法師
 - 元菴則約法師
 - 朴菴清哲首座
 - 澤山與咸法師
 - 山堂元性法師
 - 虛堂本空法師
 - 集長妙璘法師
 - 赤城中益法師
 - 白蓮智圓法師
 - 白蓮清悟法師
 - 白蓮子侔法師
 - 真教智仙法師

- 證悟圓智法師
 - 慧光若訥法師
 - 等菴士衡法師
 - 虛菴有宏法師
 - 復菴妙珪法師
 - 上竺師覺法師
 - 晦菴慧明法師
 - 中菴師安法師
 - 石澗從戒法師
 - 古泉正宗法師
 - 月潭道鑑法師
 - 雪溪得益法師
 - 白蓮梵章首座
- 白蓮道卿法師
 - 天台淨僊法師

- 四明淨杲法師
- 郡守李庭芝
- 神悟處謙法師
 - 北禪淨梵法師
 - 北禪惠深法師
 - 頂山子文法師
 - 飛英智忱法師
 - 超果惠道法師
 - 德藏從進法師
 - 通照慧明法師
 - 報慈蘊堯法師
 - 白蓮善珪法師
 - 德藏擇瑛法師
 - 北關思淨法師
 - 金華子方法師

- 壽安良弼法師
 - 教藏有全法師
- 淨住思照法師
- 一行宗利法師
- 檀菴有嚴法師
 - 天台法麟法師
 - 天台應通法師
- 承天法寶法師
- 承天懷雅法師
- 天台賓纖法師
- 永嘉元摻法師
- 錢唐義全法師
- 承天擇仁行人
- 天台左伸居士

(東山之裔至月潭雪溪而益微。由繼之者道與位俱不振耳。其可以有所感傷也夫)南屏興教法師

■ 慈辯從諫法師

■ 車溪擇卿法師○

■ 慧覺齊玉法師○

■ 圓覺蘊慈法師

■ 法照中皎法師

■ 則菴明哲法師

■ 正堂如理法師

■ 能仁道山法師

■ 畢菴法布法師

■ 坦菴法英法師

■ 南巖法雄法師

■ 東山祖意法師

- 醴泉行環法師
 - 布金覺先法師
- 神慧敏齊法師
- 能仁文公首座
- 能仁能公行人
- 普明如靖法師
 - 圓通思梵法師
 - 思溪景咨法師
 - 普圓善期法師
- 天竺應如法師
 - 崇先懷志法師
 - 精英從智法師
 - 宣祕慧仙法師
 - 普圓普證法師
 - 法燈道遵法師

- 餘姚行澄法師
- 法雲宗敏法師
 - 樞密蔣之奇
- 慧覺清月法師
- 佛智慈雲法師
 - 法照淨通法師
- 佛照智堅法師
 - 神辯覺寧法師
 - 等慈慧序法師
- 圓明智賢法師
- 高麗義天僧統
- 明義首座
- 群峯太初法師
 - 梵慈智普法師
 - 龍華道方法師

- 超果宗肇法師
- 圓照梵光法師
- 東靈智欽法師
 - 楊尖利淵法師
 - 楊尖法欽法師
 - 崇先了生法師
- 南屏用文法師
 - 憲章仲閔法師
- 餘慶道存法師
- 超果會賢法師
 - 精微彥倫法師
 - 寶積彥端法師
 - 清辯蘊齊法師
 - 景德法雲法師
 - 上方法清法師

- 法慧正宗法師
- 東安景初法師
- 南屏靈玩法師
- 東吳文詡法師
- 錢唐如詢法師

車溪卿法師

- 竹菴可觀法師
 - 北峯宗印法師
 - 古雲元粹法師
 - 佛光法照法師
 - 子庭師訓法師
 - 愚谷從慧法師
 - 東溟慧日法師
 - 千江一印法師
- 東陵智迥法師

- 靜山處仁法師
- 魯山季文法師
- 北溪德聞法師
 - 虛堂可明法師
 - 松林宗溥法師
 - 四窗子思法師
 - 起周尹輔法師
 - 宗周子文法師
- 菊庭信磴法師
- 海翁時學法師
 - 柳塘可權法師
 - 松庭可月法師
 - 雲海普度法師
 - 雲海至寶法師
 - 沃洲光燁法師

- 梅澗太度法師
- 少愚育才法師
- 行古忘新法師
- 鼎山時舉法師
 - 渭濱惟清法師
 - 大山道[怡-台+(乏-之+友)]法師
 - 此堂道悟法師
 - 晝堂文煥法師
 - 芝田德瑞法師
 - 高峯淨彌法師
 - 大明圓照法師
 - 石泉普洽法師
 - 不模師楷法師
 - 子元義深法師
 - 西泉一唯法師

- 性翁文習法師
- 右洲景荃法師
- 古岩正因法師
- 毒鼓妙聲法師
- 應菴法言法師
- 梓山思恭法師
 - 太虛普容行人
- 西山文珙法師
- 雪岑行海法師
- 無極可度法師
 - 雙溪道弘法師
- 東屏正吾法師
 - 南叟元凱法師
- 石林文分法師
- 東山慧日法師

- 自聞如願法師
- 此山志在書記
- 方溪文珍知客
- 梅峯梵奎法師
 - 具城妙銛法師○
 - 孤岩如月法師
- 石溪思壽法師
- 石鏡清杲法師
- 慈感文圭法師
- 蒙泉了源法師
- 毒海道源法師
- 桐洲懷坦法師○
- 剡源覺先法師○
- 南峯思誠法師
- 日本俊苐法師

- 嚴陵趙彥肅
- 鎧菴吳克己
- 智行守旻法師
- 神辯清一法師
- 自得慧欽法師
- 牧菴有朋法師
 - 顯菴法昌法師
 - 月溪法輝法師
 - 隱學本然法師
 - 浮石子慧法師
 - 永福志亨法師
 - 天王道用法師
 - 能仁懷寶法師
 - 草堂如寶法師
- 祥符道忻法師

- 車溪善榮法師
 - 紫金法通法師

慧覺玉法師

- 清修法久法師
 - 慈室妙雲法師
 - 雪溪晞顏法師
 - 悟真正皎法師
 - 南湖了宣行人
- 澄覺神煥法師
 - 覺菴簡言法師
 - 鑒堂思義法師○
 - 總菴妙心法師
 - 古鏡文杲法師
 - 常齋法开法師
- 假名如湛法師

- 車溪智欽法師
- 密印修慧法師
- 慧解曇應法師
- 慧照道倫法師
- 北禪法榮法師
- 北禪文俊法師
- 圓覺淨圭法師
- 剡源先法師
- 雲夢允澤法師
 - 湛堂性澄法師
 - 我菴本無法師
 - 竺隱弘道法師
 - 元璞如璋法師
 - 箕山大隱法師
 - 照菴允中法師

- 天岸弘濟法師
 - 信元永孚法師
- 絕宗善繼法師
 - 大璞如玘法師○
 - 大車是乘法師
 - 大徹淨昱法師
 - 獨菴自朋法師
- 耶溪允若法師
- 行之大安法師
- 息菴允茲法師
- 如菴淨真法師
- 秋厓宗渠法師
- 方岩懷則法師
 - 子蒙省初法師

桐洲坦法師

- 古源永清法師
 - 玉岡蒙潤法師
 - 松壑正壽法師
 - 天岩普曜法師
 - 春洲紹澤法師
 - 大用必才法師
 - 靜菴原鎮法師
 - 夢觀守仁法師
 - 一原紹宗法師
 - 操古啟方法師
 - 荊山良玉法師
 - 春谷智熙法師
 - 雪林廷瑞法師
 - 印海子實法師
 - 西崖惠修法師

- 潛山文珣法師

鑑堂義法師

- 百川如海法師

- 性菴淨岳法師

- 靜翁祖明法師

- 竹屋元淨法師

- 日章祖稱法師

- 九臯妙聲法師

- 竹堂師正法師

- 北山文勝法師

- 一山懷惠法師

- 栢岩文杲法師

- 石庭道生法師

- 石庭宗曄法師

- 聖水從覺法師

頑空覺法師

- 愚山從古法師
- 同源省初法師
- 月溪善良法師
 - 遁岩子賢法師
 - 行已允恭法師
- 竹溪元良法師
- 新溪了融法師
- 空叟妙解法師

具城銛法師

- 圓通如聞法師
- 盤谷祖訓法師
- 竹野文奎法師
- 冶堂守模法師
 - 鳳山子儀法師

- 仁叟義靜法師
- 香山應方法師
- 古崖惠新法師
- 道夫必弘法師
- 一之如寧法師
 - 北溪惠謙法師
 - 大章德珪法師
- 北田如圭法師

雜傳世繫十六人○淨覺仁岳法師

- 吳興子昉法師
- 錢唐可久法師
- 錢唐惠勤法師
- 霅川梵慈法師

- 永嘉乃仁法師
- 超果靈照法師
- 樞密胡宿(胡則之子)
- 草菴道因法師
 - 梓菴有倫法師
 - 廣壽法因法師
 - 四明道時法師
 - 述菴居士薛澄
- 神智從義法師
 - 慧月了睿法師

(雜傳之作其有意乎浮覺背宗神智破祖草菴失緒故寄此三人以警示後來之好為異論者)未詳承嗣四十一人

- 東陽善慧大士(梁)

- 景明道房禪師
- 北齊僧稠禪師
- 北齊李獎侍郎
- 天台智琰禪師(唐)
- 金華方岩禪師
- 千福飛錫禪師
- 終南法善法師
- 西金楚金禪師
- 玉泉真公法師
- 南岳承遠法師
- 南岳法照法師
- 五臺志遠法師
- 五臺元堪法師
- 天台道暹法師
- 國清清觀法師

- 國清文舉法師
- 泰山妙行法師
- 建業敬雲法師
- 四明子麟法師
- 十祖玄燭法師
- 嘉禾皓端法師
- 會稽什公法師
- 嘉禾子玄法師
- 天台元穎法師
- 無相善勤法師
- 寶藏利贊法師
- 普慈暉公法師
- 空相融公法師
- 超果照公法師
- 廣化明公法師

- 宗元元穎法師
- 寶雲威公法師
- 慈川熙公法師
- 四明曇照法師
- 普照因公法師
- 佛智道如法師
- 寶積實公法師
- 淨慧威公法師
- 左溪志昭法師
- 無功居士王闡

佛祖統紀卷第二十四(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十五

宋景定四明東湖沙門志磐撰

山家教典志第十一

智者高座以縱辯。章安直筆以載書。所謂以文字廣第一義諦。是猶託之空言。不如載之行事之深切著明也。荊谿有云。文即門也。即文以通其理。豈非門乎。至若後世發揮祖道粲然有述。雖各出義章互形廢立。所以歸宗之誠。則無乎不同也。今故並陳篇目。以貽好古者之求。述山家教典志。

南岳

大乘止觀(二卷)

唐末教典流散海外。本朝咸平三年。日本國寂照持此本至四明。慈雲得之為作序云。初卷開止觀之解。次卷示止觀之行。

四十二字門(二卷) 大品四十二字。初阿後荼。南岳用對四十二位。

安樂行義(一卷) 四明行皎。遊方至南岳福嚴。於藏中得此本。歸以示圓辯。其後北峯石芝始獲開板。

南岳願文(一卷) 無諍行門(二卷) 三智觀門次第禪要。

釋論玄(已上各一卷) 右止觀。安樂行義。願文。有見本。餘不復見。惜哉。

天台

法華玄義(十卷) 法華文句(十卷) 摩訶止觀(十卷名圓頓止觀) 禪波羅蜜(十卷名漸次止觀)

修禪六妙門(一卷名不定止觀。智者為陳尚書令毛喜撰) 光明玄義(一卷。解曇無讖譯四卷別行之本)

光明文句(三卷) 菩薩戒疏(二卷) 觀音別行玄義(二卷。釋法華普門一品。別行部外。昔曇無讖勸河西王誦持愈疾。故智者特釋) 觀音別行義疏(五卷) 請觀音經疏(一

卷)

觀無量壽佛經疏(一卷) 觀心論(一卷) 金剛般若經疏(一卷。建炎二年。武林修悟將此疏入經為注咸淳元年。南湖行靖等。將天台法華院科金剛經并疏。刊板於寺) 四念處(四卷)

彌陀經義疏(一卷。金剛彌陀二疏。雖曾入藏。而孤山淨覺。謂是附托之文。唯神照法師。嘗於法華用此疏。講有宣賜本在東山藏中)

禪門口訣(一卷) 覺意三昧(一卷智者親撰) 方等三昧儀(一卷) 法華三昧儀(一卷)

法界次第(三卷已上皆親撰) 維摩玄疏(六卷) 四教義(四

卷維摩玄疏離出之文)

右七十六卷。天聖二年。慈雲奏入大藏。

維摩文疏(二十八卷為煬帝撰。荊溪略為十卷。但稱略疏。
與前玄疏各行) 淨土十疑論

觀心食法 觀心誦經法 觀心十二部經義 小止觀(智者為
兄陳鍼參軍親撰)

右共三十三卷。未入藏。

智度論疏(二十卷) 彌勒成佛經疏(五卷) 觀心釋一切經義
(一卷) 彌勒上生經疏(一卷)

釋一經玄義(一卷) 坐禪止觀(一卷) 仁王般若經疏(二卷
○天竺別集云元豐初得之海賈) 禪門章 般舟行法 雜觀
行

入道大旨 五方便門 七方便義 七學人義

一二三四身義 法門儀 禪門要略(已上各一卷)

右四十一卷闕本。

慈雲隨函錄云。法華玄義者。唯解首題。統明五時廣辯八
教。出世大意蘊在其中。文句者。以疏句分節經文。荊溪
云。以由釋題大義委悉。故至經文。粗分章段。隨部各有
荊溪之記猶五經之有正義也。止觀者。定慧之異名。法華
之行門也。前玄義文句。皆明佛世當機得益之事。縱有托

事附法觀心之文非部正意。今止觀正是智者說己心中所行
法道。自行因果化他能所無不具焉。荊溪以輔行釋之○目
錄云。今家有三種止觀。一曰漸次。謂解頓行漸。即禪波
羅蜜是也。二曰不定。謂解頓。行或頓或漸。即六妙門是
也。三曰圓頓。謂解行俱頓。即摩訶止觀是也。此三止觀
對根不同。行相雖殊俱依圓理而為宗本。唐梁肅刪止觀為
六卷。文雖簡要而修相多闕。覽者宜知。除智者親筆。餘
皆章安於法輪之下。述為疏論也○唐書藝文志云。灌頂私
記智者詞旨一卷。義記一卷。今未詳何文○釋籤云。止觀
禪門淨名疏等。各有餘分說未終者。文。案止觀云。智者
於玉泉寺一夏敷揚。二時慈愷。雖樂說不窮纔至見境。法
輪停轉後分弗宣。輔行云。大章第七。開為十境。至第七
境餘不復宣。後三大章及餘三境。時逼夏終於茲罷唱(此釋
止觀)次第禪門。即禪波羅蜜。亦列十大章。於第六方便文
中。注云。若論初禪已後。發諸禪定深妙境界。並在第七

修證中說。此文皆悉不流通也(此釋禪門)淨名經十四品。
大師疏解。止佛道品。第八後諸品疏。乃是章安述而續之
(此釋淨名見補注)。

章安

涅槃玄義(二卷) 涅槃經疏(一十卷荊溪治定十五卷今十八
卷) 觀心論疏(二卷慈雲目錄云考其所說知入品位然江浙
名流或云疑偽) 智者別傳(一卷) 國清百錄(五卷別傳百錄
是大師始終化迹) 八教大意(一卷) 南岳記(一卷亡) 真
觀法師傳(一卷亡○除亡本外有二十卷入藏)

荊溪

玄義釋籤(十卷) 文句記(十卷) 止觀輔行(十卷今開二十

卷) 止觀義例(一卷慈雲云為初學難解及破異論) 止觀大意(一卷為司封李華出) 維摩略疏(十卷略智者維摩文疏) 維摩廣疏記(六卷。慈雲云。對廣文雖少殊亦釋義宛合) 金剛錍論(一卷。明涅槃佛性義。已上四十九卷。同入大藏) 始終心要 十不二門(釋籤部外別行) 止觀搜要記(十卷) 涅槃後分疏(一卷亡) 觀心誦經記(一卷亡) 三觀義 授菩薩戒文(亡) 止觀文句(一卷亡) 華嚴骨目(亡。今東山有板。二卷是海東復還者) 法華補助儀方等補闕儀

龍興(皓師) 涅槃經注

天台(曠師) 心經疏

華頂(滿師) 涅槃記(十二卷)

靈光(敏師) 光明玄義記

廣教(或師) 光明玄金鼓記 十疑論注

石壁(靖師) 觀經疏記

奉先(清師) 發揮記(釋光明玄略本) 示珠指(釋十不二門)

孤山(圓師) 首楞嚴經疏(十卷) 文殊般若經疏(二卷) 不思議法門經疏 阿彌陀經疏(小本)

四十二章經疏 瑞應經疏 普賢行法經疏 無量義經疏 般若心經疏(上各一卷) 遺教經疏(二卷) 闡義鈔(二卷釋請觀音經疏) 索隱記(四卷釋光明文句) 刊正記(二卷釋觀經疏) 表微記(一卷釋光明玄) 垂裕記(十卷釋淨名略

疏) 發源機要記(一卷釋涅槃玄義) 百非鈔(一卷釋涅槃疏金剛身百非義) 三德指歸(十卷釋涅槃疏) 顯性錄(四卷釋金錫) 正義(一卷釋十不二門) 撫華鈔(二卷釋圭峯蘭盆疏) 西資鈔(二卷釋自撰彌陀疏) 谷響鈔(五卷釋自撰楞嚴疏) 詒謀鈔(一卷釋自撰卷經疏) 析重鈔(一卷釋自撰文殊般若經疏大論析重令經取此義) 間居編(五十一卷) 孤山。年二十一。始學於奉先清師。及二年奉先亡。遂往孤山杜門養病。年四十七而化。於二十四年。著書百二十卷。勤矣。

寶雲

觀經疏記(石芝云。四明承用其義於妙宗鈔中。故無可傳之文) 光明玄贊釋 光明句備急鈔(指南云請尋寶雲備急鈔)

四明

觀音別行玄記(二卷) 觀音別行疏記(二卷) 光明玄續遺記(三卷) 光明文句記(六卷廣智續記讚佛品) 觀經疏妙宗鈔(三卷) 十不二門指要鈔(二卷) 扶宗記(二卷) 十義書(三卷) 觀心二百問(一卷) 解謗書(三卷) 修懺要旨(一卷) 光明懺儀(一卷) 大悲懺儀(一卷) 石芝。撰四明教行錄。備載別理隨緣。融心解。消伏三用。起信論融會章。義例境觀及問答等文。

慈雲(式師) 金光明護國儀(依百錄本) 請觀音懺儀 往生淨土懺儀 熾盛光懺儀 小彌陀懺儀 法華三昧懺儀 天竺別集 金園集(靈苑集采遺集附)

辯才(淨師) 圓事理說

天竺(杲師) 指源集

淨覺(岳師) 金剛般若疏(二卷) 發軔鈔(三卷釋自撰金剛般若疏) 彌陀經新疏(二卷) 指歸記(二卷釋自撰彌陀疏) 楞嚴文句(三卷) 熏聞記(五卷釋自撰楞嚴文句) 楞嚴集解(十卷) 楞嚴說題 還源記(二卷釋孤山四十二章經疏) 助宣記(二卷釋孤山遺教經疏) 文心解(二卷釋十不二門) 智論樞(節大論之文) 淨名精英 禪門樞要 雜錄名義(二卷) 義學雜編(六卷) 毘曇賢聖圖 起信梨邪生法圖 扶膜書 止疑書 十諫書 雪謗書 施食須知 諸經義題 如意輪課法 涅槃禮讚文 楞嚴禮懺儀 羅漢禮讚文 南山禮讚文 茗溪講外集(二卷)

廣智(賢師) 遺編(一卷) 闡幽志(釋光明玄)

神照(如師) 普賢行法經疏(二卷) 仁王懺儀

扶宗(忠師) 扶宗集(五十卷) 二師口義(十五卷)

法真(咸師) 光明十願王 三慧論

檀菴(嚴師) 龍王法印經疏(一卷) 安樂行注 空品注 心
經注 玄籤備檢(四卷) 文句箋難(四卷) 止觀助覽(四
卷) 或對

慈辯(諫師) 議方便品題

神智(義師)

順正記(三卷釋光明玄義) 新記(七卷釋光明文句) 往生記
(四卷釋觀經疏) 圓通記(三卷釋十不二門) 寓言記(四卷
釋金錫) 集解(三卷釋四教儀) 纂要(六卷釋義例) 三部
補注(十四卷) 搜玄(三卷雜出教義)

車溪(卿師) 祕密五章

慧覺(玉師) 行法經疏(二卷) 祖源記(三卷釋自撰行法經
疏) 雜珠記(二卷釋孤山無量義經疏) 尊勝懺法

智涌(然師) 宗圓記(四卷釋南岳止觀) 樞要記(二卷釋十
不二門) 虎溪集(八卷) 功德天懺儀

假名(湛師) 淨業記(四卷釋觀經疏) 護國記(四卷釋光明
玄義) 金剛集解(二卷) 假名集(十卷)

思溪(煥師) 圓覺疏(二釋) 安樂記(一卷) 百章(教義)
諸天傳(一卷)

竹菴(觀師) 楞嚴集解 楞嚴補注 蘭盆補注 圓覺手
鑑 金剛通論 金剛事苑 山家義苑 竹菴草錄

清辯(齊師) 頂山記(釋戒疏)

澤山(咸師) 菩薩戒疏注(三卷破頂山記) 金剛辯惑(一
卷) 法華撮要(一卷經音訓) 復宗集(二卷)

山堂(性師) 山堂集(五卷)

高麗(觀師) 四教儀(一卷依章安八教大意刪補)

四明(吉師) 金錚注

神悟(謙師) 顯妙解(釋十不二門)

妙悟(最師) 評謗(評淨覺雪謗之謬)

桐江(瑛師) 注心經 三珠論 淨土修證儀(世人念阿彌陀
佛真金色之偈即此儀文)

圓通(梵師) 會宗集

景德(雲師) 翻譯名義(七卷)

證悟(智師) 攻瑛集(追破桐江之說) 十種境界義

車溪(榮師) 大部決疑(四卷)

仙潭(倫師) 精微集(四卷) 金剛經疏(四卷)

浮石(閔師) 憲章集(五卷)

佛照(堅師) 大雲請雨經疏(一卷)

草堂(元師) 義例隨釋(六卷破神智纂要之說) 輔贊記(一卷教義)

吳興(穎師) 宗元錄

月堂(詢師) 圓宗解(一卷破虎谿集并一書與赤城益師議其

事)

四明(照師) 注天台別傳

梓菴(倫師) 教義

虛堂(空師) 宗極論

南湖(因師) 草菴緣

止庵(蓮師) 教義

寶巖(韶師) 指南集

鏡菴(遷師) 隨錄(教義) 宗源錄

環菴(樞師) 教義

慈室(雲師) 圓覺直解(三卷)

北峯(印師) 金剛新解 釋金剛彌勒偈 教義

逸堂(登師) 圓頓宗眼 金錚十義 教義

栢庭(月師) 仁王疏記 楞嚴玄覽 金剛會解 圓覺略
釋 楞伽通義 簡境十策 四部格言 金錚義解 宗教玄
述 十類因革論 緒餘 附鈔箋要(節指要情義)

佛祖統紀卷第二十五(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十六

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

淨土立教志第十二之一

蓮社七祖

始祖廬山辯覺正覺圓悟法師(慧遠。師道安法師) 二祖長安光明法師(善導云是彌陀化身) 三祖南岳般舟法師(承遠) 四祖長安五會法師(法照善導後身。師承遠師) 五祖新定臺岩法師(少康) 六祖永明智覺法師(永壽) 七祖昭慶圓淨法師(省常)

(四明石芝曉法師。取異代同修淨業功德高盛者立為七祖。今故遵之。以為淨土教門之師法焉)。

在凡具惑。而能用三觀智顯本性佛。如四明師之言。曰心境叵得故染可觀淨。不礙緣生故想成相起。唯色唯心故當處顯現。斯觀佛三昧之正訣。唯明宗得意者能行之。至若稱唱嘉號瞻禮尊容讀誦大乘持奉淨戒。皆淨業之正因正觀之助行。而但修十善行也仁慈者亦可以成回向莊嚴之績。然則若定若散若智若愚。無一機之或遺。雖登臺之有金銀。入品之有上下。至於趣無生而階不退。則一概云耳。悠悠末代。憑願行而升安養。自廬山而來。傳往生者纔三百人。意遐方外域不及知者。奚若河沙之多。是知此方學佛道者。機疎障重未聞有成。而獨於念佛之法。無問僧俗。皆足以取一生之證。信矣哉。撰淨土立教志。

法師慧遠。姓賈氏雁門樓煩人。幼而好學。年十三隨舅令狐氏遊學許洛。博綜六經尤善莊老。宿儒先進莫不服其深致。二十一欲渡江從學范寧。適石虎暴死南路梗塞。有志不遂。時沙門釋道安。建剎於太行常山。一面盡敬以為真吾師也。初聞安師講般若經。豁然開悟。歎曰九流異議皆糠粃耳(粃音比穀不成)遂與母弟慧持投簪受業。精思諷誦以夜繼晝。因求直道場。沙門曇翼(此自是北人。非廬山入社者)每給燈燭之費。安師聞之曰。道士誠知人。師神明英越志與理冥。至二十四大善講貫。有客聞說實相義。往復問難彌增疑昧。師為引莊子之說以相比類。惑者釋然。安師因許令不廢外典。常臨眾歎曰。使道流東國者其在遠乎。後隨安師南遊襄陽。值秦將苻丕為寇。乃分張徒屬各隨所往。耆德臨岐皆蒙誨益。唯師不聞一言。即跪請曰。獨無訓勅懼非人類。安師曰。如汝者復何所慮。師乃與弟

子數十人。南適荊州居上明寺。念舊與同門慧永約結屋於羅浮。太元六年(晉孝武帝)至尋陽。見廬山閒曠可以息心。乃立精舍。以去水猶遠舉杖扣地曰。若此可居當作朽壤抽泉。言畢清流涌出。尋陽亢旱。師詣池側讀海龍王經。忽有神蛇從池而出。須臾大雨。歲竟有秋。因名龍泉精舍。永師先居廬山西林。欲邀同止。而師學侶浸眾。永乃謂刺史桓伊曰。遠公方當弘道。而貧道所棲隘不可處。時師夢山神告曰。此山足可棲神。願毋他往。其夕大雨雷震。詰旦林麓廣闊素沙布地。梗枿文梓充布地上。不知所自至。伊大敬感乃為建剎。名其殿曰神運。以在永師舍東故號東林。時太元十一年也。此山儀形九疊峻聳天絕。而所居盡林壑之美。背負鑪峯旁帶瀑布。清流環階白雲生棟(廬山記。匡裕先生。殷周之際受道於仙人。即岩成館。人稱神仙之廬。因名廬山。尋陽記。山高三千三百六十丈。周二百五十里。其山九疊川亦九派。郡國志。疊障九層包

藏仙迹)別營禪室最居靜深。凡在瞻履神清氣肅。師聞天竺佛影是佛昔化毒龍瑞迹。欣感於懷。後因耶舍律士敘述光相。乃背山臨流營築龕室。淡采圖寫望如煙霧。復製五銘刻於石。江州太守孟懷玉。別駕王喬之。常侍張野。晉安太守殷隱。黃門毛修之。主簿殷蔚。參軍王穆夜。孝廉范悅之。隱士宗炳等。咸賦銘贊(見廬山集)先是尋陽陶侃刺廣州。漁人見海中有神光。網之得金像文殊。誌云阿育王所造。後商人於海東獲一圓光。持以就像若彌縫然。侃以送武昌寒溪主僧僧珍。常往夏口夜夢。寺火而此像室獨有神護。馳還寺果焚像室果存。及侃移督江州。迎像將還至舟而溺。荊楚為之謠曰。陶惟劍雄像以神標。雲翔泥宿邈何遙遙。可以誠至難以力招。及寺成師至江上虔禱之。像忽浮出。遂迎至神運殿。造重閣以奉之。因製文殊瑞像讚。嘗謂諸教三昧其名甚眾。功高易進念佛為先。既而謹律息心之士。絕塵清信之賓。不期而至者。慧永(同師安公

先居西林)慧持(遠師同母弟)道生曇順(並羅什門弟)僧叡曇
恒道曷曇詵道敬(並遠師門人)佛馱耶舍(此云覺明罽賓國人)
佛馱跋陀羅(此云覺賢迦維衛國人)名儒劉程之(號遺民)張野
周續之張詮宗炳雷次宗等。結社念佛。世號十八賢。復率
眾至百二十三人。同修淨土之業。造西方三聖像建齋立
誓。令劉遺民著發願文。而王喬之等。復為念佛三昧詩以
見志。師神貌嚴肅。瞻仰者則心戰。沙門有持如意致獻
者。不敢陳白。竊留座隅而去。法師慧義。強正少可。謂
師弟子慧寶曰。諸君膚淺。故於遠公望風推服。嘗至山值
師講法華。欲致難輒內悸流汗出。謂慧寶曰。此公言貌誠
可敬服。殷仲堪任荊州。入山展敬。與師俱臨北澗松下。
共談易道終日忘倦。仲堪歎白。師智識深明實難庶幾。師
亦曰。君之才辯如此流泉(後人名其處曰聰明泉)司徒王
謐。護軍王默。並欽慕風德遙致敬禮(王謐有書往反)盧循
據江州。入山詣師。師少與循父遐同為書生。及見循歡然

道舊。其徒諫曰。循為國寇。得不為人疑。師曰。我佛法
中情無取舍。識者自能察之。此何足懼。及宋武進討。循
設帳桑尾。左右曰。遠公素王廬山。與循交厚。宋武曰。
遠公世表之。人何可疑也。乃遣使馳蛇行者。有一虎往來。時
侍師善驅蛇。蛇為盡去。人號遊山虎。師與社眾每遊憩上方峯
見行迹未嘗傷人。他日有虎跪其石。水為之出。因號虎跑
頂。患去水遠。他日有虎跪其石。水為之出。因號虎跑
泉。又於一峯製涅槃疏。因名擲藏多闕。師乃令弟子法淨法
東。經卷未備。禪法無聞。皆獲梵本。昔安公在關中請曇摩
領等遠越葱嶺。曠歲其人未善晉言。於是通好。菩薩。欽哉。仁者善弘
難提出阿毘曇心。其法度論。遣書有弟子曇邕請於關中出十
至。即請聞鳩摩羅什入關。東方遣弟子曇邕請於關中出十
學者。聞風。曇摩流支入秦。師遣弟子曇邕請於關中出十
粗聞道。曇摩流支入秦。師遣弟子曇邕請於關中出十
其道。曇摩流支入秦。師遣弟子曇邕請於關中出十

傳晉國。西土諸僧咸稱漢地有大乘開士。每東嚮致禮獻心
廬岳。及佛馱跋陀羅至。師即請出禪數諸經。於是禪戒經
典出自廬山幾至百卷。先是此土未有泥洹常住之說。但言
壽命長遠。師曰。佛是至極。至極則無變。無變之理豈有
窮耶。乃著法性論十四篇。羅什見而歎曰。邊方未見經。
便闇與理合。秦主欽風以大智度論新譯。致書求序。師以
其文繁廣。乃抄其要為二十卷。而為之序(羅什譯智論凡百
卷)桓玄征殷仲堪。要師出虎溪。稱疾不往。玄將入山。左
右曰。昔殷仲堪禮敬於遠。請公勿屈。玄曰。仲堪死人
耳。及玄見師不覺屈膝。所懷問難不復敢發。及語至征討
師即不答。玄後以震主之威勸令登仕。師正辭以答。玄不
能強。既而欲沙汰眾僧。下教僚屬曰。沙門之徒有能申述
經誥禁行修整者。始可以宣寄大化。其有違於此者。悉當
罷黜。唯廬山道德所居。不在搜簡之列。師因致書廣立條
制。玄悉從之。初庾冰輔政以沙門應敬王者。何充奏不應

禮。及玄在姑熟。復申冰議。師答書曰。袈裟非朝宗之服。鉢盂非廊廟之器。塵外之容不應致敬王者。乃著沙門不敬王者論五篇。一明在家者有天屬之愛奉主之禮。二明出家以求志變俗以達道。豈得與世典同其禮敬。三明求宗不順化。宗謂泥洹不變。以化盡為宅(泥洹即涅槃翻不生不滅)不順化者。其生可滅。其神可冥。冥神絕境謂之泥洹。而不隨順於生生化化流動無窮之境。斯所以不事王侯高尚其事。豈復有所禮敬者哉。四明體極不兼應。謂歷代君王體極之主。但務方內而不可並御於方外。故曰不兼應。天地之道功盡於運化。帝王之德理極於順通。與夫獨絕之教不變之宗。優劣明矣。若夫如來之道則無所不應矣。五明形盡神不滅。謂火之傳於薪。猶神之傳於形。火之傳異薪。猶神之傳異形。方生方死往來無窮。但悟徹者反本。惑理者逐物耳。有頃玄纂位。即下書曰。佛法宏誕所未能了。初推奉主之情。故令興敬。今事既在己宜盡謙光。諸

道人勿復致禮也。桓玄西奔。安帝自江陵還京師。輔國何無忌勸師候迎。師稱疾不行。帝遣使勞問。師上書謝病。帝復下詔慰答。師嘗講喪服經(當是禮記小記大記四制等篇)雷次宗宗炳等。並執卷承旨。次宗後著義疏。首稱雷氏。宗炳寄書責之曰。昔與足下面受於釋和上。今便稱雷氏耶(陸德明毛詩音義云。周續之與雷次宗。同受詩義於遠法師。亦此類也)釋惠要患山中無刻漏。乃於水上立十二葉芙蓉。因波隨轉分定晝夜。以為行道之節。謂之蓮華漏。僧澈善篇牘。嘗至山南攀松而嘯。和風遠集眾鳥悲鳴。超然有自得之趣。退諮於師曰。律禁管絃歌舞。若一吟一咲可得為乎。師曰。苟以亂意皆為非法。澈唯而止。師居山三十年。迹不入俗。唯以淨土克勤於念。初十一年澄心繫想。三覩聖相沈厚不言。後十九年七月晦夕。於般若臺之東龕方從定起。見阿彌陀佛身滿虛空。圓光之中有諸化佛觀音勢至左右侍立。又見水流光明。分十四支流注上下演

說苦空無常無我之音。佛告之曰。我以本願力。故來安慰汝。汝後七日當生我國。又見佛馱耶舍慧持(義熙八年先逝)慧永(義熙十年先逝)劉遺氏(義熙六年先逝)在佛之側前揖師曰。師志在先何來之晚。師語法淨惠寶曰。吾始居此十一年中三見佛相。今復見之吾生淨土必矣。又曰。七日之期斯為漸矣。即寢疾製遺誡曰。吾昔以知命之年託業此山。自審有必盡之期。便欲絕迹外緣以求其志。良由性弱於斷。遂令同趣相引時賢過眷。情以類感。不覺形與運頽。今年已八十三矣。仰尋違離之誨。俯慨自負之心。徒令此生虛謝。以悼往疾之深。今於至時。露骸松林之下。即嶺為墳。與土木同狀。此乃古人之禮。汝等勿違。苟神理不昧庶達其誠。大哀世尊亦當祐之以道。門徒號慟若喪父母。師以世情難割乃制七日展哀。至期始順寂。即義熙十二年八月六日也。弟子不忍露屍。與尋陽太守阮侃。奉全軀舉葬於西嶺。累石為塔。謝靈運立碑以銘遺德。張野

作序自稱門人。宗炳復立碑於寺門以表德業。師將終耆德請以豉酒治病。師曰。律無通文請飲米汁。師曰。日過中矣。又請飲蜜和水。乃令披律尋文。卷未半而終。所著經論諸序銘贊詩記凡十卷。號廬山集(刻梓在越府)自佛圖澄道安師遠法師曇順僧叡。五世為國師云。唐宣宗大中二年。追諡辯覺大師。昇元三年追諡正覺(南唐李先主年號。即晉高祖天福四年也)大宋太宗太平興國三年追諡圓悟大師凝寂之塔。

法師善導。不知何處人。唐太宗正觀中。見西河綽禪師九品道場講誦觀經。大喜曰。此真入佛之津要。修餘行業迂僻難成。唯此觀門速超生死。於是勤篤精苦盡夜禮誦。續至京師擊發四部。每入室互跪念佛。非力竭不休。雖時寒冰亦須流汗出。則為人演說淨土法門。三十餘年不暫睡臥。般舟行道方等禮佛。護持戒品纖毫不犯。好食送厨粗

惡自奉。乳酪醍醐皆不經口。凡有嚙施用寫彌陀經十萬
卷。畫淨土變相三百壁。壞寺廢塔所至修營。然燈續明常
年不絕。三衣瓶鉢不使人持。行不共眾恐談世事。長安道
族傳授淨土法門者不可勝數。從其化者至有誦彌陀經十萬
至五十萬卷者。念佛日課萬聲至十萬聲者。或得入念佛三
昧。往生淨土者莫能紀述。或問念佛生淨土耶。師曰。如
汝所念遂汝所願。乃自念一聲有一光明從其口出。十至於
百光亦如之。其勸偈曰。漸漸鷄皮鶴髮。看看行步龍鍾。
假饒金玉滿堂。豈免衰殘老病。任是千般快樂。無常終是
到來。唯有徑路修行。但念阿彌陀佛。後忽謂人曰。此身
可厭吾將西歸。乃登柳樹向西願曰。願佛接我菩薩助我。
令我不失正念得生安養。言已投身自絕。高宗知其念佛口
出光明捨身精至。賜號其寺曰光明。

慈雲淨土略傳。阿彌陀佛化身。至長安聞漉水聲曰。可教

念佛三年滿。長安城皆念佛。後有法照法師。即善導和上也。

法師承遠。始學於成都唐公。至荊州進學於玉泉真公。真公授師以衡山。俾為教魁。人從而化者萬計。有弟子法照。初居廬山。由正定聚趣安樂國。見蒙惡衣侍佛者。佛曰。衡山承遠也。出而求之肖焉。乃從而學傳教天下。法照在代宗時為國師。乃言其師有異德。天子南嚮而禮焉。度其道不可徵。乃名其居曰般舟道場。用尊其位。師始居山西南岩石下。人遺之食則食。不遺則食土泥茹草木。其取衣類是。南極海裔北自幽都。來求厥道。或值之崖谷。羸形垢面躬負薪樵以為僕從。而媒之乃師也。凡化人立中道而教之。權俾得以疾至。故示專念。書塗巷刻溪谷。丕勒誘掖以援於下。不求而道備。不言而物成。人皆負布帛斬木石。委之岩戶不拒不營。祠宇既具。至德宗朝申詔褒

立。是為彌陀寺。正元十八年七月十九日終於寺。壽九十一。柳宗元為述碑刻於寺門。

國師法照。唐大歷二年止衡州雲峯寺。慈忍戒定為時所宗。嘗於僧堂食鉢中覩五色雲。中有梵剎。當東北有山澗石門。復有一寺金書其題曰大聖竹林寺他日復於鉢中見雲中數寺池臺樓觀萬菩薩眾雜處其中。師以所見訪問知識。有嘉延曇暉二僧曰。聖神變化不可情測。若論山川面勢乃五臺耳。四年師於郡之湖東寺。開五會念佛(當是五日為一會耳)感祥雲彌覆雲中樓閣。覩阿彌陀佛及二菩薩身滿虛空。有數梵僧執錫行道。復見老人謂曰。汝先發願。於金色界禮覲大僧。今何輒止。師遂與同志遠詣五臺。見寺南有光及隨至佛光寺。一如鉢中所見。東北五里果有大山。山有澗。澗北石門旁二青衣。一稱善財。一稱難陀。引師入門。北行見金門樓觀。金榜題曰大聖竹林寺。寺方二十

里一百院。皆有金地寶塔華臺玉樹。入講堂見文殊在西普
賢在東踞師子座為眾說法。菩薩萬數共相圍遶。師於二菩
薩前行門無如念佛。阿彌陀佛願力難思。汝當繫念決取往生。
時二大士同舒金臂以摩其頂。與之記曰。汝以念佛力故畢
竟證無上覺。文殊復曰。汝可往詣諸菩薩院巡禮承教。師
歷請教授至七寶園。復回至大聖後與五十僧往金剛窟。即無
至門外。師復作禮舉眾寶宮殿文殊普賢及萬菩薩佛陀波利。
著見大聖處。忽覩眾寶宮殿文殊普賢及萬菩薩佛陀波利。
師方作禮舉首即失。夜於華嚴院見佛。願分千燈數亦如之。光
曰。欲分百燈。既而金剛窟。夜半見佛陀波利引之入寺。後復
遍山谷。又前詣二大士記我往生。乃一心念佛。忽見波利謂之
於華嚴院念二大士已生。後三年華開矣。汝見竹林諸寺。何不使
曰。汝華臺已生。後三年華開矣。汝見竹林諸寺。何不使
群生共知之。師因命匠刻石為圖。於見處建竹林寺。既畢

謂眾曰。吾事畢矣。數日別眾坐逝。推波利之言。果三年也(當大歷七年也)師於并州行五會教化人念佛。代宗於長安宮中常聞東北方有念佛聲。遣使尋之至於太原。果見師勸化之盛。遂迎入禁中。教宮人念佛。亦及五會(柳子厚集南岳碑云。代宗時法照為國師)。

法師少康。縉雲周氏。母羅氏。夢遊鼎湖峯有玉女以青蓮華授之曰。此華吉祥當生貴子。及生青光滿室作芙蕖香。七歲未語。相者奇之。母携至靈山寺。指殿佛謂之曰。汝敬佛不遽。答曰。我佛釋迦誰不為敬。父母愈敬異。遂舍令出家。年十五誦通法華楞嚴等五部。尋往會稽嘉祥學究律部。後詣上元龍興。聽華嚴瑜伽諸論。唐貞元年初。洛下白馬寺。見殿中文籍放光。探之乃善導和上西方化導文。師曰。若於淨土有緣當更放光。言已光復閃爍。師曰。劫石可磨我願無易。遂至長安光明寺善導和上影堂。

大陳薦獻。倏見遺像升空。而謂之曰。汝依吾教廣化有情。他日功成必生安養。師聞佛音如有所證。乃南適江陵。路逢僧曰。汝欲化人當往新定(今嚴州是)言訖而隱。師既入郡。人無識者。乃乞錢誘小兒曰。阿彌陀佛是汝導師。念佛一聲與汝一錢。兒務錢者隨聲念之。月餘孩孺念佛覓錢者眾。師乃曰。能念佛十聲者與一錢。如此一年。無少長貴賤。見師者皆稱阿彌陀佛。念佛之聲盈滿道路。十年乃於烏龍山建淨土道場。築臺三級集眾行道。師每升座高聲唱佛。眾見一佛從口而出。連唱十聲則見十佛。師曰。汝見佛者決得往生。時眾數千有不見者。嗚呼自責愈加精進。二十一年十月三日囑累道族。當於淨土起忻樂心。於閻浮提起厭離心。汝曹此時能見光明。真我弟子。遂放異光數道而逝。郡人為建塔於臺岩。漢乾祐三年。天台韶國師勸人重修其塔。後人多指師為後善導云。

法師延壽。字冲玄。總角誦法華經。五行俱下六旬而畢。吳越錢氏時為稅務專知。用官錢買魚鰕放生。事發當棄市。吳越王使人視之曰。色變則斬不變則舍之。已而色不變。遂貸命。因投四明翠岩禪師出家。衣不繒纈食無重味。復往參韶國師發明心要。嘗謂曰汝與元師有緣。他日當大作佛事。惜吾不及見耳。初往天台智者岩。九旬習定有鳥巢於衣衾(古得切衣角也)後於國清行法華懺。夜見神人持戟而入。師訶之曰。何得擅入。對曰。久積淨業方到此中。夜半遶像見普賢前蓮花在手。遂上智者岩作二[鬪-龜+?](音鳩鬪手取也)一曰一生禪定。二曰誦經萬善莊嚴淨土。乃冥心精禱得誦經萬善[鬪-龜+?]。乃至七度。於是一意專修淨業。振錫金華天柱峯。誦經三載。禪觀中見觀音以甘露灌其口遂獲辯才。初演法於雪竇。建隆元年(本朝太祖受禪之年)忠懿王請住靈隱。二年遷永明(今淨慈)日課一百八事。未嘗暫廢。學者參問。指心為宗。以悟為則。日

暮往別峯行道念佛。旁人聞螺貝天樂之聲。忠懿王歎曰。自古求西方者未有如此之專切也。乃為立西方香嚴殿以成其志。居永明十五年。弟子一千七百人。常與眾授菩薩戒。教施鬼神食晝放生命。皆悉回向莊嚴淨土。時人號為慈氏下生。開寶八年二月二十六日。晨起焚香。告眾加趺而化。賜號智覺禪師。師道播海外。高麗國王。致書獻物之敘弟子禮。師以天台賢首慈恩三宗互有同異。乃館其徒之知法者。博閱義海更相質難。師以心宗之衡以準平之。又集大乘經論六十部兩土聖賢三百家之言。證成唯心之旨。為書百卷名曰宗鏡。又述萬善同歸集指歸淨土最得其要。師既亡起塔山中。有僧來自臨川曰。我病中入冥。得放還見殿室有僧像。閻羅王自來頂拜。我問此像何人。主吏曰。杭州壽禪師也。聞已於西方上品受生。王敬其人故於此禮耳。崇寧中追諡宗照禪師(見本傳龍舒文臨安志)。

法師省常字造微。姓顏氏。錢塘人。七歲厭俗。十七具戒。宋淳化中住南昭。慶慕廬山之風。謀結蓮社。以西湖天下之勝遊。乃樂嘉遯。無量壽佛往生之仰止。乃刻其像。華嚴淨行品成聖之宗要。乃刺血而書之。於是易蓮社為淨行之名。士夫預會者皆稱淨行社弟子。而王文正公且為之社首。一時公卿伯牧。三十餘年預此社者。至一百二十三人。其化成也若此。比丘同志。復千大眾。有以見西湖之擬於廬山者無慚德矣(孤山作白蓮社主碑以紀盛績。翰林承旨宋白撰蓮社銘。漕使孫何為之記)天禧四年正月十二日端坐念佛。有頃厲聲唱云佛來也。泊然而化。眾見地色皆金。移時方沒。壽六十二。弟子奉全身塔於烏窠禪師之墳側。

蓮社十八賢

東林慧遠法師(安法師門人) 西林慧永法師(安法師門人)
慧持法師(遠師弟安法師門人) 道生法師(羅什門人) 曇順
法師(羅什門人) 僧叡法師(以下五人並遠師門人) 曇恒法
師 道曷法師 曇詵法師 道敬法師 覺明法師(梵僧佛馱
耶舍) 覺賢法師(梵僧佛馱跋陀) 劉程之(以下六人並遠師
門人) 張野 周續之 張詮 宗炳 雷次宗

蓮社百二十三人(錄其可見者三十七人)

曇翼法師(以下五人有傳) 曇邕法師 僧濟法師 惠恭法
師 法安法師 法淨法師(以下五人見東林傳) 法領法
師 慧寶法師 慧要法師 僧澈法師 慧然法師(以上二人
見廬山集) 曇威法師 道泓法師(以下二人見持師傳) 曇
蘭法師 法業法師(以下四人見跋陀羅傳) 慧義法師 惠
嚴法師 慧觀法師 曇果法師(見邕師傳) 元弼法師(見濟

師傳) 僧光法師(以下三人見恭師傳) 慧堪法師 慧蘭法師 闕公則(有傳) 畢穎之(見劉傳) 孟懷玉(江州刺史此下十一人見廬山集) 王喬之(臨賀太守) 殷隱(晉安太守) 毛脩之(黃門侍郎) 殷蔚(主簿) 王穆夜(參軍) 何孝之(參軍) 范悅之(孝廉) 張文逸(處士) 孟常侍(二人失名) 孟司馬 陸修靜(簡寂先生有傳)

不入社諸賢

陶潛(彭澤令) 謝靈運(康樂公) 范甯(豫章太守)

十八賢傳

東林法師(見前蓮社七祖傳)

西林法師慧永。河內潘氏。年十二出家。事沙門竺曇現。初習禪於恒山。與遠師同依安法師。期結宇羅浮。及遠師為安公所留。師乃欲先度五嶺。太元初至尋陽。刺史陶範素挹道風。乃留憩廬山。舍宅為西林。以奉師。布衣蔬食。精心克己。容嘗含咲。語不傷物。峯頂別立茅室。時往禪思。至其室者。常聞異香。因號香谷。一虎同居。人至輒驅去。遠師來之。龍泉桓伊為立東林。三十年影不出山。師居西林亦如之。嘗因法事至近邑。還山薄暮。烏橋營主醉騎馬當道。遮師不聽去。師以杖指馬。馬驚走。榮主仆地。師捧慰之。遂還。營主病往寺悔罪。師曰。非貧道意。為禱之。尋愈。鎮南將軍何無忌鎮尋陽。至虎溪。請遠公及師。遠公持名望。從徒百餘。高言華論。舉止可觀。師衲衣半脰(形定切。膝骨)荷錫捉鉢。松下飄然而至。無忌謂眾曰。永公清散之風。乃多於遠師也。師標誠植願。動在安養。義熙十年。在疾。忽斂衣求屣欲起。眾驚問。師曰。佛來也。言終而化。異香

七日方歇。葬於寺之西南。春秋八十三。唐玄宗朝詔。重建塔亭。追諡覺寂大師實智之塔。

法師慧持。遠公同母弟也。幼讀書。一日所記常敵十日。年十八與兄同事安公。遍學眾經遊刃三藏。及安公在襄陽。遣遠公與師。東下遂止廬山。師形長八尺衲衣垂膝徒屬三百師為上首。豫章太守范甯請師講法華經阿毘曇論。四方雲聚。瑯邪王珣與范甯書問遠持二公孰愈。甯曰。誠謂賢兄賢弟。珣復書曰。但令如弟誠未之有。況復賢邪。羅什在關中遙相欽敬。每致書通好。隆安三年辭兄入蜀。遠公留之曰。人生愛聚汝獨樂離。師曰。滯情愛聚者本不應出家。今既割欲求道。正以西方為期耳。即悵然而別。至成都郫縣。居龍淵寺大弘佛法。升其堂者號登龍門。義熙八年順寂。春秋七十六。臨終遺命務嚴律儀專心淨業。以東間經籍付道泓。西間法典付曇蘭。以泓行業清敏。蘭

神悟天發。並能係軌師蹤焉。

法師道生。魏氏。鉅鹿人。幼從竺法汰出家。披對經誥一覽能誦。年在志學便登講座。吐納明辯雖宿望莫敢酬抗。初依廬山常以入道之要慧解為本。乃與僧叡慧嚴慧觀等遊學長安。從羅什受業。關中僧徒咸仰神悟。嘗喟然歎曰。自經典東流。譯人重阻多滯權文。鮮通圓義。若亡筌得魚始可以言道矣。於是校閱真俗精練空有研思因果。乃立善不受報及頓悟成佛義。又著二諦論佛性常有論佛無淨土論應有緣論。並籠罩舊說妙有淵旨。守文之徒嫌嫉競起。師又以法顯三藏所翻泥洹經本先至(六卷成文)經云除一闍提皆有佛性。師云。夫稟質二儀皆有涅槃正因。闍提含生之類何得獨無佛性。蓋是經來未盡耳。乃唱闍提之人皆得成佛。時大本未傳。孤明先發。舊學僧黨以為背經。遂顯大眾擯而遣之。師正容誓曰。若我所說背經當見身癘疾。若

與實相不背。願舍壽之日。踞師子座。遂拂衣而行。及後大師至。經至。聖行品云。一闍提人雖復斷善。猶有佛性。於是諸師皆闍提處。說有佛性。且曰。如我所說。契佛心有龍升天。因改辭門。寺曰龍光。師於寺請。久疑過中。帝曰。始可中耳。生乃親御地筵。食至良久。言始中。何得非中。遂舉箸而食。一眾曰。白日麗天。天言辯。時王弘范泰顏延之。並挹敬風猷。從之。莫不歎其機辯。十一年十一月庚子。於廬山升座說法。將畢。相從問道。元嘉十一年十一月。隱几而化。宛若入定。諸師聞益信前眾見塵尾紛然墜地。廬山之西阜。初關中僧肇始注維摩詰經。世咸翫味。師乃更發深旨。人服其妙。所推闡提得佛之華泥洹小品諸經皆有義疏。時以師能推闡提得佛之

是顯其頓悟不受報等論。

法師曇順。黃龍人。幼出承訓羅什。講釋群經妙盡色空無著之旨。什歎曰。此子奇器也。後來廬山同修淨業。寧蠻校尉劉遵孝。於江陵立寺要師經始。盛弘念佛三昧之道。宋元嘉二年別眾坐逝。異香滿室。春秋七十九。

法師僧叡。冀州人。遊學諸方嘗行經蜀西界。為人所掠使牧羊。有商客異之。疑是沙門。及問以經義無不綜達。即出金贖之。後遊歷天竺諸國。還至關中從羅什諮稟經義。羅什翻法華經。以竺法護本云天見人人見天。什曰。此言過質耳。叡曰。將非人天交接兩得相見。什喜遂用其文。久之來入廬山。依遠公修淨業。既而適京師止烏衣寺。講說眾經聽者推服。宋彭城王義康要入第受戒。師曰。禮聞來學。王乃入寺祇奉戒法。王以貂裘奉師。常用敷坐。王

密令以錢三萬買之。師曰。此雖非所宜服。然王之所施不可棄也。王聞益加敬。謝靈運篤好佛理。殊方俗音多所通解。嘗以經中字音求證於師。因為著十四音訓。梵漢昭然。元嘉十六年無疾告眾曰。吾將行矣。即面西合掌而亡。眾見臥內一金蓮華倏爾而隱。春秋八十五。

法師曇恒。河東人。童孺依遠公出家。年甫(始也)十三。便能講說。內外典籍無不通貫。德行清孤物情推服。常有群鹿馴遶座隅。自入廬山專志淨業。義熙十四年端坐合掌厲聲念佛而化。春秋七十二。

法師道昞。潁川人。陳氏。幼出家為遠公弟子。該通經律兼明莊老。志節孤峻言與行合。念佛三昧究心無間。義熙十四年豫章太守王虔入山謁敬。請為山中主。用紹遠公之席。眾以道源法嗣咸知宗仰。元嘉十二年集眾念佛就座而

化。春秋七十一。

法師曇詵。廣陵人。幼從遠公出家。勤修淨業兼善講說。注維摩經行於世。常著窮通論以明宿修。述蓮社錄以記往生。又能別識鳥獸毛色俊鈍之性。洞曉草木枝幹甘苦之味。妙盡其理。人知其有密證云。元嘉十七年集眾謂曰。自建寺以來至此五十年。吾之西行最在其後。即加趺念佛百聲。閉息遂絕。春秋八十。

法師道敬。瑯邪王氏。祖凝之刺江州。遂從遠公出家。年十七博通經論日記萬言。每歎戒律終身難全。願淨六根但稟一戒。以為得度之要。遠公知其堅正許之。篤志念佛晝夜勿替。遠公歸寂。乃入若邪山。宋永初元年謂眾曰。先師見命吾其行矣。即端坐唱佛而化。眾見光明滿室。彌時方滅。春秋五十二。

法師佛馱耶舍(晉言覺明)罽賓國婆羅門種。有沙門至其家乞食。父本外道怒毆之。遂手足攣臂(音聯臂手拘足跖也)巫師謂曰。坐犯賢聖。即請此沙門悔過。旬日乃瘳。因令耶舍出家。時年十三隨師行曠野與虎遇。耶舍曰。虎已飽必不傷人。前行中道果見餘骸。至十五誦經日至萬言以分衛廢業為憂(梵語分衛晉言乞食)一羅漢來代乞食。年十九誦經滿數百萬言。性度藺傲不為諸人重。至三十猶為沙彌。復從舅氏學五明論世間法術(內眾外道皆有五明。內五明者。一聲明。二醫方明。三呪術明。四工巧明。五因明。外五明者。前四並同。後一是符印明)至沙勒國待遇隆厚。既而羅什至。乃從學阿毘曇論十誦律。什隨母反龜茲。師遂留止行化。符堅遣呂光伐龜茲執羅什。師聞歎曰。我與羅什未盡懷抱。今忽羈虜相見何期。後十年師東至龜茲盛弘法化。羅什在姑臧遣信要之。師恐國人止其

行。取清水以藥投之。呪數十言。與弟子洗足即夜便發。比旦行數百里。追之不及。問弟子何所覺耶。答曰。惟聞疾風流響。兩目有淚。師又呪水洗足乃止。既達姑臧。什已入長安。聞姚主逼以妾媵(音孕送女從嫁)歎曰。羅什如好綿繡。何可使入棘林。羅什勸姚主遣使迎師。既至別立省寺於逍遙園。四事供養一無所受。時至分衛一食而已。時羅什譯出十住經。師更相徵決辭理方定。師髭赤善解毘婆沙論。時人號赤髭論主。秦弘始中譯出四分律(四十四卷)長阿含經(二十二卷)義熙八年來廬山入社。後辭還本國。自罽賓以虛空藏經一卷寄商客至涼州。法師佛馱跋陀羅(晉言覺賢)姓釋迦。迦維羅衛國人。甘露飯王苗末也。幼亡父母。出家為沙彌。年十六博學群經深達禪律。常與僧伽達多共遊罽賓。達多閉戶禪坐。忽見師來云。暫往兜率致敬彌勒。言訖便隱。後益見其神變。敬心祈問方知得不還果。時姚秦沙門智嚴至罽賓。覩法眾清淨。慨然東顧

曰。吾諸同輩未遇真匠。將何發悟。即諮詢於眾。孰能遂
我祈請流化東土。僉應之曰。跋陀羅其人也。嚴乃要師裏
糧而行。經歷諸國。至交趾附舶循海。達於青州東萊。聞
鳩摩羅什在長安。即往從之。秦太子泓請師於東宮。集眾
說法。與羅什論色空義。師曰。汝祇說得果中色空不說得
因中色空。什問何謂。師曰。一微空故眾微空。眾微空故
一微空。一微空中無眾微。眾微空中無一微。往復數番。
羅什罔測。秦主興供僧三千。盛修人事。而師禪靜自守。
忽謂弟子曰。吾見本國五舶俱發。眾謂妄言。因共擯棄。
乃與弟子慧嚴慧觀四十餘人俱發至廬山香谷。茆舍而居(茆
蒲昌切。詩召伯所茆。注草舍)時會蓮社。遠公謂師被擯。
過由門人。懸記五舶於律無犯。即遣弟子曇邕致書秦主。
為其解擯。乃請師東林譯出禪數諸經。自是江東始耽禪
悅。師志在遊化。西適江陵持鉢分衛。果見天竺五舶至
此。後還都立道場寺。先是支法領於于闐。得華嚴梵本三

萬六千偈。未經宣譯。義熙十四年。吳郡內史孟顗。右衛將軍褚叔度。請師為主譯。與沙門法業慧義惠嚴慧觀等為筆授。譯成六十卷。有二青衣旦從池出灑掃研墨。師先後譯出觀佛三昧經般泥洹經修行方便論及法顯所得大僧祇律凡十五部。宋元嘉六年念佛而化。塔於廬山北嶺。

劉程之。字仲思。彭城人。漢楚元王之後。妙善老莊。旁通百氏。少孤。事母以孝聞。自負其才。不預時俗。初解褐為府參軍。謝安劉裕嘉其賢。相推薦。皆力辭。性好佛理。乃之廬山。傾心自託。遠公曰。官祿巍巍。欲何不為。答曰。君臣相疑。吾何為之。劉裕以其不屈。乃旌其號曰遺民。及雷次宗周續之宗炳張詮畢顗之等。同來廬山。遠公謂曰。諸君之來。豈宜忌淨土之遊乎。程之乃鑱石為誓文。以志其事(文見廬山集)遂於西林澗北別立禪坊。養志安貧。精研玄理。兼持禁戒。宗張等咸難仰之。嘗貽書關中與什肇。揚摧經義。

著念佛三昧詩。以見專念坐禪之意。始涉半載。即於定中見佛光照地皆作金色。居十五年於正念佛中。見阿彌陀佛玉豪光照垂手慰接。程之曰。安得如來為我摩頂覆我以衣。俄而佛為摩頂引袈裟以披之。他日念佛。又見入七寶池蓮青白其水湛湛。有人項有圓光胸出卍字(卍音萬是佛具萬德之相)指池水曰。八功德水汝可飲之。程之飲水甘美。及寤猶覺異香發於毛孔。乃自慰曰。吾淨土之緣至矣。復請僧轉法華經近數百遍。後時廬阜諸僧畢集。程之對像焚香再拜。而祝曰。我以釋迦遺教。故知有阿彌陀佛。此香先當供養釋迦牟尼如來。次供阿彌陀佛。復次供妙法華經。所以得生淨土由此經功德。願令一切有情俱生淨土。即與眾別。臥床上面西合手氣絕。勅子雍積土為墳勿用棺槨。時義熙六年也。春秋五十九(廬山集載感應事迹甚詳)。

張野。字萊民。居尋陽柴桑。與淵明有婚姻契。野學兼華
梵。尤善屬文。性孝友。田宅悉推與弟。一味之甘與九族
共。州舉秀才。南中郎府功曹。州治中徵拜散騎常侍。俱不
就。入廬山依遠公。與劉雷同尚淨業。及遠公卒。謝靈運
為銘。野為序。首稱門人。世服其義。義熙十四年與家人
別。入室端坐而逝。春秋六十九。

周續之。字道祖。雁門人。父後過江。因居豫章。八歲喪母。
哀戚過於成人。十二詣范甯受業。通五經五緯。時號十經
童子。養志閒居。窮研老易。公卿交辟。無所就。入廬山。事遠
公。預蓮社。以為身不可遺。餘累宜絕。遂終身不娶。布衣
蔬食。劉毅鎮姑熟。命為撫軍。復辟太學博士。俱不就。以
嵇康高士傳得出處之正。為之注釋。宋武帝北伐。太子居
守。迎館安樂寺入講禮。月餘復還山。江州太守劉柳薦於
武帝。辟太尉掾。不就。武帝踐祚。召至都。間館東郭外。乘輿行。

幸問禮經。傲不可長。與我九齡。射於矍圃三義。辨析精異。上甚說。或問身為處士。時踐王廷何也。答曰。心馳魏闕者。以江湖為桎梏。情致兩忘者。市朝亦岩穴耳。時號通隱先生。續之素患風痺不復堪講。乃移病鍾山。景平元年卒。春秋六十七。

張詮。字秀碩。野之族子也。尚情高逸酷耆墳典。雖耕鋤猶帶經不釋。朝廷徵為散騎常侍不起。庾悅以其貧起為尋陽令。笑曰。古人以容膝為安。若屈志就祿何足為榮。乃入廬山依遠公。研窮釋典深有悟入。宋景平元年無疾西向念佛。安臥而卒。𠂔(音春)秋六十五。

宗炳。字少文。南陽人。其母聰辯富於學識。教授諸子皆有成。炳妙善琴書尤精玄理。殷仲堪桓玄並以主簿辟。皆不就。劉裕領荊州。復辟為主簿。答曰。棲丘飲谷三十年

矣。乃入廬山築室依遠公蓮社。久之兄臧為南平守。逼與俱還江陵。閒居絕俗。劉裕辟太尉掾不就。二兄卒累甚眾。頗營稼穡。武帝勅南郡長。時致餼賚。衡陽王義季。在荊州親至其室。炳角巾布衣引見不拜。王曰。處先生以重祿可乎。對曰。祿如秋草時過即腐。宋受禪徵為太子舍人。元嘉初徵為通直郎。太子建徵為中庶子。並不應。妻羅氏亦有高志。羅氏歿。炳哀之過甚。既而悲情頓釋。謂沙門慧堅曰。死生之分未易可達。三復至教方能遣哀。雅好山水往必忘歸。西陟荊巫南登衡岳。因結宇山中。懷尚平之志。以疾還江陵。歎曰。老病俱至。名山不可再登。唯澄懷觀道臥以遊之。凡所遊履悉圖之於室。謂人曰。撫琴動操。欲令眾山皆響。宋元嘉二十四年卒。春秋六十九。

雷次宗。字仲倫。豫章南昌人。博學明詩禮。入廬山預蓮

社。立館東林之東。元嘉十五年召至京師。立學館雞籠山。置生徒百員。除給事中不拜。久之還南昌。公卿祖道以送。與子姪書曰。吾童稚之年已懷遠略。弱冠託廬山事釋和上。遊道餐風二十餘載。淵匠既傾。復與汝曹歸耕先壟。山居谷飲忽復十年。及今未老。尚可厲志成西歸之津梁。自今以往。家務大小。一勿見關。二十五年召拜散騎常侍不就。復徵詣京師。築室鍾山。謂之招隱館。每自華林園入延賢堂。為太子諸王講禮經。是年無疾而卒。春秋六十三。子肅之頗傳素業。官至豫章郡丞。

十八賢傳。始不著作者名。疑自昔出於廬山耳。熙寧間。嘉禾賢良陳令舉(舜俞)粗加刊正。大觀初。沙門懷悟以事迹疎略復為詳補。今歷考廬山集高僧傳及晉宋史。依悟本再為補治。一事不遺。自茲可為定本矣。

百二十三人傳

曇翼。餘杭人。初入廬山依遠公。後往關中見羅什。東還會稽入秦望山。誦法華經。十二年。感普賢大士化女子身披采服。携筠籠一白豕大蒜兩根。至師前曰。妾入山采薇(上采服。五采也。彩俗。下采薇采取也。作採俗)日已斜豺狼縱橫。歸無生理敢託一宿。師却之力。女復哀鳴不已。遂令居草床上。夜半號呼腹疼。告師按摩。師辭以持戒不應手觸。女號呼愈甚。師乃以布裹錫杖。遙為按之。翌日女以采服化祥雲。豕變白象。蒜化雙蓮。凌空而上。謂師曰。我普賢菩薩。特來相試。郡太守孟顗聞於朝。勅建法華寺(今天衣寺)初餘杭山沙門法志。常誦法華有雉巢於庵側。翔集座隅。若聽受狀。如是七年。一日忽憔悴。志曰。汝能聽經必生人道。明旦雉殞即為瘞之。夜夢童子拜曰。因聽經得脫羽類。今生山前王氏。後其家設齋。志

方踵門。兒曰。我和上來也。志撫之曰。汝我雉兒也。解衣視掖下有雉毳三莖。七歲令入山出家。十六落髮。以掖有毳。因名以翼。

曇邕楊氏。關中人。形長八尺雄武過人。南來廬山依師遠公。內外典籍無不綜習。立茅屋於山西以自居止。有弟子曇果。澄思禪門。一夕夢山神求受戒法。果曰。家師在此可往求之。邕忽見一人著袷衣(音夾衣無絮)。

風神端雅。從者三十人。乞授戒。師以果先夢。知是山神。乃為說法授五戒畢。神以外國二鋤為嚬。禮謝而去。師後往荊州行化。卒於竹林寺。

僧濟。入廬山問道精悟深要。遠公歎曰。紹隆大法其在汝乎。及在疾遠公以燭遺之曰。汝可憑此建心安養。師執燭

停想。延僧諷淨土經。至五更以燭授弟子元弼。隨僧行道。頃之覺自秉一燭浮空而行。見阿彌陀佛接至於掌。遍事諸佛。須臾而覺。喜曰。吾以一夕觀念便蒙接引。明日復於空中見佛菩薩。謂弼曰。佛來也。即舉首西顧一息而終。時方炎歊。體三日不變。異香郁然。

慧恭。豫章豐城人。與僧光慧堪慧蘭同志為學。光等學力不逮恭。而於淨土繫想則過之。蘭謂恭曰。君雖力學博聞。豈不知。經云。如聾奏音樂。悅彼不自聞。恭曰。學不可已。孰能未死。昧昧如癡哉。後七年蘭等先逝去。時並有奇應。又五年恭病且篤。曰。大道沿洄何時可止。死生去來吾何歸哉。於是叩頭雨泣。誓心安養。念不少間。忽見無量壽佛以金臺前迎。恭乘其上。見蘭等於臺上光明中。而告之曰。長老受生已居上品。吾等不勝尉喜。但恨五濁淹延相依之晚耳。恭於是日告眾欣然舊迅而滅。時義熙十

一年也(廬山集有恭道人臨終感應事)。

法安。初依遠公為弟子。妙善講說兼習禪業律身持戒為行尤精。義熙中新陽邑社有暴虎。居神廟樹下。前後害民以百數。安遊其村。居民皆早閉門。乃之樹下禪坐。須臾虎負人至。見安驚喜跳伏。安乃為說法授戒。有頃而去。明旦居民見安。謂是神人。相率禮敬。因改神廟立寺宇。請安居之。左右田園並捨為寺業。嘗欲畫像須銅青慮不可致。忽夢一人跪床前云。此下有銅鍾。寤即掘之果得二鍾。取青成像。而以銅助遠公鑄佛。後不知所終。

闕公則。入廬山白蓮社。既逝。有同社人至洛陽白馬寺。夜中為公則修忌祭。忽一時林木殿宇皆作金色。空中有聲曰。我是闕公則。祈生極樂國。今已得生矣。言訖無所見。

陸修靜。吳興人。蚤為道士置館廬山。時遠法師居東林。其處流泉匝寺下入於溪。每送客過此。輒有虎號鳴。因名虎溪。後送客未嘗過。獨陶淵明與修靜至。語道契合不覺過溪。因相與大笑。世傳為三笑圖。宋泰始三年羽化於京師。賜諡藺寂。以故居為觀(雲笈七籤本傳云。元徽五年化)。

不入社諸賢傳

陶潛。字淵明(亦字元亮)晉大司馬侃之曾孫。少懷高尚。著五柳先生傳以自況。時人以為實錄。初為建威參軍。謂親朋曰。聊欲絃歌為三徑之資。執事者聞之。以為彭澤令。郡遣督郵至。縣吏白。應束帶見之。潛歎曰。吾不能為五斗米折腰拳拳事鄉里小人邪。解印去縣。乃賦歸去

來。及宋受禪。自以晉世宰輔之後。恥復屈身異代。居尋陽柴桑。與周續之劉遺民並不應辟命。世號尋陽三隱。嘗言。夏月虛間高臥北窓之下清風颯至。自謂羲皇上人。性不解音。畜素琴一張。絃徽不具。每朋酒之會。則撫而和之曰。但識琴中趣。何勞絃上聲。嘗往來廬山。使一門生二兒舁籃輿以行。時遠法師與諸賢結蓮社以書招淵明。淵明曰。若許飲則往。許之遂造焉。忽攢眉而去。宋元嘉四年卒。世號靖節先生。

謝靈運。祖玄有功晉室。靈運為康樂公主孫。襲封康樂公。文章為江左第一(應為江右指金陵也)嘗著木屐上山則去前齒。下山則去後齒。尋山陟嶺必造幽峻。至廬山一見遠公。肅然心伏。乃即寺築臺翻涅槃經。鑿池植白蓮。時遠公諸賢同修淨土之業。因號白蓮社(或云為東西二池)靈運嘗求入社。遠公以其心雜而止之。

范甯。字武子。篤學多所通覽。時浮虛相扇。儒雅日替。甯以其源始於王弼何晏二人之罪深於桀紂。乃著論非之。累遷中書侍郎。朝廷疑議輒諮訪之。出補豫章太守。大設庠序起學臺。功用彌廣。刺史王凝之上言抵罪。免官歸家。遠公招之入社。而甯竟不能往。

廬山法師碑

法師諱慧遠。本姓賈。雁門樓煩人。弱而好學。年十二隨舅令狐氏遊學許洛。故少為書生。二十一欲度江就范宣子。於時王路尚鯁。有志不遂。於關右遇釋道安。一面定敬以為真吾師也。遂抽簪落髮求直道場。沙門曇翼每資以燈燭之費。安公曰。道士誠知人。法師藉曠劫之神明。表今生之靈智。道情深邃識鑒淵微。般若無生之津。道行息

心之觀。妙理與高悟俱徹。冥宗與深心等至。安公歎曰。使道流東國者其傾岩。太元初。襄陽既沒。振錫南遊。考室廬阜結宇順足不越山。桓氏以震主之威力為屈致。法師自以年貞固辭以老疾。俄而制使沙門盡敬王者。法師懼大法確之將淪。抗言萬乘。玄知不可強。俯而順焉。既道漸中土。名流遐域。外國諸僧咸東向禮。非夫道深德廣。焉能使顯默同歸異域致敬。且新經未表晉邦律藏歷年莫正。禪法甘露國所未聞。實相宗本人有異說。法師深存廣圖大援群生。乃命弟子迎請禪師。究尋經本。踰歷葱嶺跨越沙漠。彌曠年稔並皆歸還。既得傳譯備盡法教。是故心禪諸經出自廬山幾乎百卷又辭婉獨拔懷抱。羅什見論而歎曰。實乃著法性論。理深辭婉獨拔懷抱。羅什見論而歎曰。漢人未見新經。便闇與理會若夫溫心善誘。發必遠。言栖寄林嶺遊興能。徹雖復風雲屢由。而無昭昧之情。俯仰塵

化之域。遊神無生之門。所謂言斯可發行斯可樂矣。自枕
石漱流始終一概。恬智交養三十餘載。春秋八十三。命盡
絕嶺。遺言露骸松林。同之草木。達生神期既於此矣。古傷
人云。道存人亡法師之謂。凡我門徒。其辭曰。九流乖真三乘
語晤之永滅。敢以淺見揚德金石。孰是發蒙昭我慧日。攝亂以定我
閑邪以律。妙法常存悠悠莫往。若人乘生皎皎遠賞。鑒我
鑒物知狹知廣。息心空谷訓徒幽壤。秦皇雄惑蔽理通情。
王孫偏解滯死達生。夫子之悟屢劫獨明。仰高契峻俯深懷
清。惟清惟峻若隔近絕。惟高惟深志崇智潔。昔在香積今
也明哲。嗣之有人實隆廢缺。撻度練數甘露流津。律藏拂
故法性增新。凡厥希道日知好仁。景薄命盡宗傾理湮。寒
暑遞易悲欣臯壤。秋蓬四轉春鴻五年響。孤松獨秀德音長
往。節有推遷情無遺想。元熙二年春二月朔。康樂公謝靈
運撰。

廬山法師影堂碑

天之高哉。日星垂其曜。地之厚哉。山岳鎮其維。稟兩間之氣。分五行之秀。而得預稱於三才者。其為人道之最靈者乎。至若邁德宏域融神慧境。焯迦維之絕照。挹甘露之玄津。並名岳而永崇。晞扶桑而不息。則慧遠法師其人。也。法師雁門樓煩人。賈氏。釋道安之門人。英姿雅韻清行素節。詳諸舊碑及張氏傳。固以杳映前秀。鋪鑠令聞者矣。灰心土骸。而神機天發。金口木舌。而法音雷震無取無舍。而律儀冰澈。不生不滅。而禪性暉如。抱德陽和。而浩類洗心。潛靈淵照。而遠方翹首。修不共法。而恒軫大悲。熏般若智。而富諸梵行。故能誘納眾善冷汰群疑。萬流仰海而同歸。一雨施物而咸潤。誠所謂阿摩勒果實從中生。分陀利華性非外染之為義也。自晉氏太元九年法師

於德。式。豈勝。微素。非。二。昇。緣。徂。
 逮里。明。人。關。也。建。匪。味。仰。民。贊。
 澤闕。秉。之。禪。室。圖。之。堪。秀。敬。曜。巾。
 遺紳。良。擊。敷。斯。居。成。中。仲。服。擒。辭。
 風。搢。士。臨。芳。正。律。工。於。汗。文。石。德。士。
 流。即。公。下。林。其。廡。怡。勒。像。雨。聖。金。含。八。
 。百。廬。嚴。中。易。廡。熙。徒。妙。而。譯。芳。人。黻。
 四。門。憑。化。途。能。楹。首。說。存。姿。能。篆。人。黻。
 垂。門。憑。之。指。不。植。上。說。存。姿。能。篆。人。黻。
 年。龍。史。熙。野。暑。崇。之。心。者。懾。範。惟。髦。
 代。氏。刺。緝。外。寒。尚。寺。同。道。義。德。妙。寔。六。
 七。釋。州。贊。穡。節。與。謀。至。惠。至。揚。綸。濱。
 更。為。江。上。巡。也。纖。乃。二。觀。止。之。祀。綸。濱。
 世。溪。年。職。又。斯。行。乃。二。觀。止。之。祀。綸。濱。
 。虎。一。述。用。斯。行。乃。二。觀。止。之。祀。綸。濱。
 林。故。有。而。克。曰。彼。在。樹。景。表。遠。立。靈。遯。幽。
 東。有。而。克。曰。彼。在。樹。景。表。遠。立。靈。遯。幽。
 勝。仰。十。和。政。歎。極。寓。旌。睟。於。故。不。曰。域。
 宅。懷。元。中。政。喟。臻。而。相。雲。玄。哉。澈。銘。海。
 嶺。知。貞。宣。政。喟。臻。而。相。雲。玄。哉。澈。銘。海。
 南。人。唐。為。為。以。茲。真。薨。得。醉。之。為。道。光。
 錫。而。皇。符。為。像。無。若。昭。繡。者。心。公。乃。道。光。
 飛。而。皇。符。為。像。無。若。昭。繡。者。心。公。乃。道。光。
 始。今。也。以。以。瞻。江。尊。宇。石。言。風。夫。美。發。

物謝。跡留事往。百憶神遊。恒沙化廣。昭昭遐一。冷冷
末響。慧日凝暉。白雲翹想。曠哉明牧。仰味芳風。思覲
遺像。求之列壙。爰建棟宇。式是道宗。旌休垂美。地廣
山崇。唐大中八年七月望日。隴西李演撰。三綱徒眾立。

東林影堂六事

法師事迹誠多矣。學者鮮能發其義。使世不昭昭知先賢之
德。予竊閔之。予讀高僧傳蓮社記及九江新舊錄。最愛法
師六事。謂可以勸也。乃引而釋之。列之影堂以示來者。
陸修靜異教者。而與語必過溪。是不以人而棄其言也。陶
淵明漚於酒。而招之令入社。蓋簡小節而取其達也。跋陀
高僧異說被擯。而反延譽之。蓋重有道而矯嫉賢也。謝靈
運以心雜不取。而果歿於刑。蓋識其器而知其終也。盧循
欲叛而執手求舊。蓋自信於義也。桓玄振威而抗對不屈。

蓋自固於節也。凡人之情。莫不畏威而苟合。忘義而避嫌。好名而昧實。黨勢而欺孤。飾行而惡累。自是而非人。孰有道為世師。肯進異學之人乎。孰有德為人尊。肯交醉鄉之徒乎。孰有自屈己學禮斥逐之客而推其為大賢乎。孰有蚤明風鑒拒盛名之士。而識其不令終乎。孰有不避禍患睦故舊而信其義乎(信伸同上自信同)孰有不懼威武抗僭逆而全其節乎。此故法師德量宏大。獨出於古今之人者矣。若其扶荷至教張皇聖道。垂裕於天人之際者。非蒙所能盡之。其聖與。其賢與。偉乎哉大塊噫氣。六合生風。公之大名也。遊龍翔鳳。下揖巢許公之高道也。四海秋色神山中聳。公之風儀也。白雲丹壑玉樹瑤草。公之棲處也。蒙後公而生。雖慕且恨。敬瞻遺像。超然遐思。願以弊文書於屋壁。大宋慶歷元年仲春。鐔津沙門契嵩書。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十七

宋景定四明東湖沙門志磐撰

淨土立教志第十二之二

往生高僧傳

晉嘉祥慧虔法師 宋江陵曇鑑法師 宋江陵道海法師 宋
淮南曇泓法師 宋東轅道廣法師 宋弘農道光法師 宋交
趾曇和法師 齊高座慧進法師 梁廬山道珍法師 (北魏)
壁谷曇鸞法師 (北齊)洛陽慧光法師 (北齊)晉原法琳法
師 (北齊)鄴都僧柔法師 (北周)長沙慧命法師(法音法師

附)	(北周)	多寶僧	崖法師	隋廬山	智舜法師	隋河東	智通
法師	隋麻谷	真慧法師	隋南岳	慧思禪師	隋天台	智顗禪	
師	隋枝江	慧成禪師	隋仙城	慧命禪師	隋章安	灌頂禪	
師	隋瓦官	法喜禪師	隋天台	等觀禪師	隋碧澗	法俊禪	
師	隋開覺	道喻法師	隋汾陽	壽洪法師	隋國清	法智法	
師	唐博野	善胄法師	唐揚都	法祥法師	唐興善	明瞻法	
師	唐壁谷	道綽法師	(道撫法師附)	唐魏州	道昂法師	唐	
虎丘	智琰法師	唐蒲州	神素法師	唐浚儀	功迥法師	唐并	
州惟	岸法師	(僧童附)	唐江陵	法持禪師	唐慈愍	慧日三	
藏	唐成都	雄俊法師	唐并州	僧銜法師	唐悟真	啟芳法	
師	唐悟真	圓果法師	唐襄陽	辯才法師	唐重林	自覺法	
師	唐丹丘	懷玉法師	唐虎丘	齊翰法師	唐吳都	神皓法	
師	唐西河	僧藏法師	唐泰山	大行法師	唐荊州	惟恭法	
師	唐臨淄	善道法師	唐長安	寶相法師	唐鄭州	智欽禪	
師	唐終南	法順法師	唐千福	懷感法師	唐會昌	德美法	

師 (石晉)扶風志通法師 宋錢唐紹岩法師 宋永興守真
法師 宋慈光晤恩法師 宋寶雲義通法師 宋法智知禮法
師 宋慈雲遵式法師 宋興國有基法師 宋神照本如法
師 宋廣慈慧才法師 宋淨慧思義法師 宋辯才元淨法
師 宋淨住從雅法師 宋仙潭若愚法師(則章法師附) 宋
慈行智深法師 宋神悟處謙法師 宋檀菴有嚴法師 宋明
智中立法師 宋桐江擇瑛法師 宋淨住思照法師 宋一行
宗利法師 宋慧覺齊玉法師 宋憲章仲閔法師 宋雪川瑩
珂法師 宋超果靈照法師 宋四明可久法師(開元久法
華) 宋淨慈宗本禪師 宋大通善本禪師 宋靈芝元照律
師 宋會稽道言律師 宋長蘆宗蹟禪師 宋化城惟月律
師 宋靈芝思敏律師 宋明慶行詵律師 宋化度法持律
師 宋延壽慧亨律師 宋七寶用欽律師 宋會稽妙生律
師 宋錢唐惟渥法師 宋報恩仲明法師 宋淨光冲益法
師 宋雷峯法宗法師 宋阮社晞湛法師 宋淨住曇懿法

師 宋法安太微法師 宋法安思聰法師 宋木訥了義首
座 宋資聖慧誠法師 宋南岳祖南法師 宋廣壽法因法
師 宋智涌了然法師 宋真教智仙法師 宋北關思淨法師
(喻彌陀) 宋假石如湛法師 宋西山思梵法師 宋寂光淨
觀法師 宋法慧利先法師 宋普靜師安法師(弘華嚴) 宋
覺華如寶法師 宋永壽顯超法師 宋千步有開法師 宋興
福道生法師 宋嘉會若觀法師 宋龍泉覃異法師 宋祇園
智印法師 宋湖心元肇律師 宋極樂戒度律師 宋圓辯道
琛法師 宋牧菴有明法師 宋慈室妙雲法師 宋雪溪晞顏
首座 宋南湖了宣行人 宋南湖善榮行人 宋明心祖輝法
師 宋塔山如鑑法師 宋福源祖新法師。

往生高尼傳 宋道場法盛法師 宋丹陽道爰法師 宋金陵
法藏法師 唐積善淨真法師(長安) 唐廬山悟性法師 宋
錢唐能奉法師 宋四明慧安法師

往生雜眾傳 隋汶水二沙彌 宋雍州童行師贊 宋錢唐童
行曇遠 宋會稽大善童行 宋仁和倪道者

往生公卿傳

唐太傅白居易 唐觀察使韋文晉(石晉) 翰林學士張抗(翁
兒附) 宋少師鍾離瑾(母任夫人附) 宋朝請鍾離景融(瑾之
子) 宋崇道鍾離松(附景傳) 宋主客楊傑 宋侍郎馬亮
宋朝奉馬玕(亮之子妻王氏附) 宋宣義馬永逸(玕之子) 宋
宣義胡闔 宋朝散葛繁 宋侍郎王古 宋司諫江公望 宋
朝散王衷 宋助教張迪 宋通判賈純仁 宋縣令梅汝能
宋給事中馮檝 宋侍郎吳秉信 宋丞相錢象祖 宋司士王
仲回 宋處士庾詵 宋龍舒王日休 宋居士房翥 宋儒士
孫抃 宋居士王闐 宋居士孫忠 宋學論咎定國 宋畫錦

樓汾

往生士庶傳

隋恒州宋滿 梁東平高浩象 唐法忍山老人 唐滎陽鄭牧
卿 唐長安張元祥 唐長安李知遙 唐京口元子平 宋天
台左伸 宋武林范儼 宋錢唐沈銓(妻施氏附) 宋錢唐孫
良 宋仙潭姚約(景懿法師附) 宋松江梅福 宋霅川胡
暘 宋會稽唐世良 宋錢唐陸偉 宋會稽李彥通 宋錢唐
陸浚 宋上虞馮珉 宋潭州黃打鐵 宋四明計打鐵 宋嘉
興徐六公 宋臨安沈三郎

往生女倫傳

隋文帝皇后 宋荊王夫人王氏(侍妾附) 宋馬朝奉妻王氏

(見馬玕傳) 宋呂都官妻吳氏 宋武林縣君蔡氏 宋陳承
宣夫人馮氏 宋王朝請妻陸氏 宋欽成后姪朱氏 宋周寺
簿妻樓氏 畫錦樓君妻周氏 宋松江秦氏 宋錢唐鄭氏
宋錢唐于佛子 宋四明黃氏 宋錢唐袁氏 宋錢唐陳媪
宋武林王氏 宋四明孫氏 宋上虞胡長婆 宋安吉王氏
宋錢唐盛氏 宋錢唐沈氏 宋長安姚婆 宋汾陽約山婆
宋汾陽裴氏 宋汾陽溫氏妻 宋醴泉孟氏 宋汾陽梁氏
宋念佛道者陳氏(蹟禪師母) 宋吳興陳氏 宋會稽胡氏
宋錢唐孫氏 宋仁和郭氏 宋太平周行婆 宋錢唐龔氏(侍
妾于氏附) 宋嘉禾鍾婆 宋潮山黃婆 宋霅川朱氏 宋四
明淨心女 宋嘉禾周氏 宋常熟陶氏 宋四明項氏 宋慈
溪沈氏

往生惡輩傳 唐長安京姓(屠業) 唐長安張鍾馗(殺雞) 唐
長安張善和(殺牛) 宋會稽金奭(漁捕) 宋仁和吳瓊(屠酤)

往生禽魚傳 唐裴氏鸚鵡 宋長沙鸚鵡 宋觀師鸚鵡 宋
劉成魚

本朝飛山戒珠。始集往生傳。厥後侍郎王古。加以續傳。
南渡以來錢唐陸師壽。又增續之。四明默容海印復為續於
後。凡二儒二釋。繼成此書。今並刪削繁文。獨著平時念
佛臨終往生之驗。俾修淨業者有所慕焉。

往生續遺

隋江都慧海法師

往生高僧傳

慧虔。晉末居廬山。見遠公德業之盛。歎曰。吾人也彼人也。乃之山陰嘉祥寺。聚徒講經。謂眾曰。願乘講導用奉彌陀。後五年知時已至。乃曰。華開見佛即其時矣。其夕有尼淨嚴。假寐之頃。見觀音勢至與百千眾從空而下。嚴問大士何所之。曰嘉祥迎虔公耳。虔亦預感勝相。以告弟子。奄然長往。異香經旬不歇。

曇鑑。宋時居江陵。定中感佛以水灑面。曰滌汝塵垢清汝心念。一夕念佛步廊。及旦趺坐而化。同時江陵道海。淮南曇泓。東轅道廣。弘農道光。臨終皆見金臺來迎之相。

曇弘。南適交趾誦觀經不記數。於山崦聚薪焚身。得舍利數百。人見弘身金色乘金鹿向西去。

慧進。齊永明初。於揚州高座寺。發願誦法華。用嚴淨土

執卷病生。乃復造經百部以悔宿障。部帙既滿病亦隨愈。聞空中聲曰。汝事已辦汝願已遂。欲生淨土非汝而誰。一日無病念佛而化。

道珍。梁天監中寓廬山。慕遠法師。標心淨土。異時夢中見十人舟艦浮海。問何往。曰適安養國。珍曰。願得隨往。答曰。一日之修功超永劫。子未誦彌陀經。未曾浴僧。何可求往。珍乃大設沐浴專誦彌陀經。後二年有捧銀臺至者。曰以法師之功當得金臺。柰何始心猶豫。故止此耳。珍曰。苟見佛之基有漸奚必金臺。後亡之夕。所居山崖烈火千炬。鄉民大驚。旦則知珍遷化。

曇鸞。初為術學就陶隱居得仙經。還洛下遇菩提流支。問曰。佛道有長生乎。支笑曰。長生不死吾佛道也。即授以觀經曰。能解此則三界無復生。六道無復轉。師承其語遂

焚毀仙經。晝夜專誦觀經修三福業。觀想九品。北魏主嘉之號神鸞。勅住汾州玄中寺。一夕正持誦。見梵僧入室。謂曰。吾龍樹也。以汝有淨土之念。故來見汝。鸞曰。何以教我。僧曰。已去不可及。未來未可追。見在今何在。白駒難與回。言訖不見。鸞即令弟子同音唱佛。西向瞑目而化。

慧光。北齊時居洛陽著華嚴涅槃十地等疏。妙盡權實之旨。一日有疾見天眾來迎。光曰。我所願歸安養耳。已而淨土化佛充滿虛空。光曰。唯願我佛攝受遂我本願。即彈指誓歎。言氣俱盡。

法琳。晉原人。常誦觀經輒見一僧大身在前。北齊建武二年感疾。見寶樹下一佛二大士像坐蓮華上。琳大慰喜。夜半聞鍾聲。眾就視之。即席而化。

僧柔。學方等諸經。齊文宣詔至鄴下。柔唯以淨業為懷。亡之日見化佛千數。室內外聞異香。西望敬禮即時遷神。

慧命。北周長沙人。十五誦法華。纔七日終一部。與法音為淨土友。一夕携手月下相顧笑曰。時至不行為貪生。西方有期吾其去矣。音曰。寧不俟我十日。命豎兩指曰過此不可也。越二日果終。眾見天人下降奇香異樂或唱善哉。後十日音亦亡。祥瑞悉與命同。

僧崖。北周益州多寶寺發心燒五指。萬人擁觀。謂弟子曰。我去後好共養病患醜陋人。此皆佛菩薩權化也。坐亡之時眾見寶華紛紛。師披納執錫口唱佛號與數十僧乘空而去。

智舜。入廬山踵遠公淨業。講觀經才終。即示病。見鸚鵡孔雀念佛念法皆微妙聲。告弟子曰。我今日往生矣。既而果遷化。時隋大業初。

智通。隋河東人。常誦先賢讚佛偈三十首。每六時對像引聲高唱。季曲淒切聞者悲之。大業七年。與門人頂蓋同聲念佛忽見光明勝異寶幢華幔。謂蓋曰。吾生淨土克在今夕。即坐亡於懺堂。眾見樓閣千重排空而去。猶雲霧然。

真慧。隋大業初居蒲坂麻谷。餌黃精絕立。築淨地設四柱寶幢以奉三聖。每依像作觀。挺身整念必肅肅然。一夕謂弟子曰。今見蓮華載開載合將承吾足。頃之聞鍾。天香西來異光驟發。已而慧亡。

慧思。陳時來居南岳。專誦法華。嘗夢阿彌陀佛彌勒佛與

之說法。夏竟受歲豁然大悟法華三昧所未聞經。不疑自解。後將順世。即集門學連日說法。端坐唱佛來也。即合掌而逝。

智顗。居天台。初往大蘇山禮思禪師。思曰。昔日靈山同聽法華。宿緣所追今復來矣。乃授法華三昧三七日法。誦經至是真精進是名真法供養如來。豁然見靈山一席儼然未散。後於石城石像前將示寂。令唱無量壽佛及觀經首題合掌讚曰。四十八願莊嚴淨土。華池寶樹易往無人。火車相現一念改悔。尚得往生。況戒定熏修。行道力故。實不唐捐。又曰。吾諸師友。侍從觀音皆來迎我。言訖加趺。唱三寶名。如入三昧。

慧成。居枝江誦阿彌陀經修西方觀。三十年常坐不臥。每入定見淨土蓮臺寶樹。臨終之夕。人有夢成乘蓮華上隱隱

西沒。

慧命。天台仙城人。臨終誡門人。精進淨行。眾忽見阿彌陀佛領眾來迎師隨佛後向西而去。

灌頂。章安人。臨終示疾。室有異香。因誡誨弟子畢。忽起合掌。稱阿彌陀佛二大士名。奄然而化。

法喜。常行方等禮懺。有一雉來責命。神人斥之曰。法師當往生淨土。豈償汝命。後於病中發願。以一生所修行業回向淨土。至心念佛。即見佛菩薩眾來迎。端坐而化。

等觀。居天台常誦法華。一夕澡浴而西趺坐。念佛菩薩及智者名。復說三觀法門。言畢而終。

法俊。住碧澗寺。行法華三昧。即獲悟入。示滅之日。仙樂盈空。天香亘野。眾見凌空西向而去。

道喻。居開覺寺。念阿彌陀佛。日夜不廢。造其像僅三寸。後於定中見佛。謂曰。汝造我像何小。喻曰。心大即大。心小即小。言訖。見像身遍滿虛空。告曰。汝且回本國。香湯沐浴。明星出時。我來迎汝。至時。感化佛來迎。光明滿室。

壽洪。汾陽人。常念往西方。將亡。見兜率天童子來迎。師曰。我心期西往。不生天上。即令眾念佛。遽云。佛從西來矣。言訖而化。

法智。居國清寺。一心念佛。常感觀音勢至來下。光映其身。謂所親曰。吾生淨土有日矣。誰能具食饒我。眾為具之。食訖。無他異。眾疑其侮。宿房以候之。夜未央。忽安坐床。

上。念佛而化。有金光自西來。江上漁人誤謂天曉(已上並隨時)。

善胄。博野人。勤篤淨業。常見佛大士像放光照身。一夕疾中倏起合掌。祝曰。佛以四十八願攝我有情。必冀此時如佛本願。已而告眾曰。佛光照我所願無失。言訖而亡。

法祥。住楊都大興國寺。三十年修安養之業。凡有饒益必用回向。因在疾弟子聞師稱佛聲甚厲。又見房西壁有光若鏡。現淨土境相。頻伽鼓翼。祥倏然而化。

明瞻。晚歲克志安養。或譏其遲暮。瞻曰。十念功成猶得見佛。吾何慮焉。後因疾於興善寺具齋別道俗。時僕射房元齡杜如晦。皆會焉。日過午整威儀。遽曰。佛來矣。二大士亦至。竦身合掌而化。

道綽。入壁谷玄中寺曇鸞之舊居也。專志念佛。日以七萬遍為度。勸并汾人念佛。或以豆記所度者及萬斛。四月八日集道俗為如來生朝慶會。俄見鸞空中乘七寶船。謂綽曰。汝淨土堂宇以成。眾復見化佛菩薩飄飄在空。皆忻仰歎異。同志道撫者每相見必指淨土為會。綽亡三日。撫聞之曰。吾常期先行。今乃在後。吾加一息之功。見佛可追矣。即於像前叩頭陳露。退就其座而化。

道昂。平時修淨土業。一日升高座誡飭徒眾。遽揖曰。彼天眾何雜沓而來。天道由來非吾願。若淨土相迎即聞命矣。因瞑目久之曰。阿彌陀佛光明照我。諸化菩薩又來會此。於是捧爐叩首陳慶。忽爐墜而化。

智琰。居武丘。集僧俗修淨業觀想。每月一集五百餘人。

後於病中見梵僧手執寶瓶。前謂之曰。吾無邊光也。却後淨土所稱功德寶王乃我爾。琰與寺眾論曰。無邊光勢至大士。功德寶王其成佛之號也。我其西歸乎。其夕竟亡。

神素。居蒲州講阿毘曇成實論。願早登安養。後病中令弟子讀觀經。靜坐而聽。既畢唱佛大士號。始終數番。至中夜安坐而化。

功迥浚儀人。行普賢懺。身不倚者三十年。一日普賢來乘六牙象。地皆銀色。晚年專講法華。每至藥草喻品天輒降雨。又撰佛地論疏。願回所詮之益得生淨土。疏成五色異光照其室。迥曰。得於此時乘光見佛願足矣。乃繫念西想。不食而化。

惟岸。并州人。常修十六觀門。曾因出觀見觀音勢至現於

空中。岸頂禮雨淚曰。幸由肉眼得覩聖容。所恨世無傳焉。倏有二人稱善畫。聖相既就人亦俱失。乃謂弟子曰。吾西行其時也。有從我者乎。一小童曰惟師之命。即往白父母。歸寺沐浴。至像前跌坐而化。岸撫其背曰。汝何先吾而行。即令弟子助聲念佛。仰目西顧寂然無聲。

法持江寧人。見黃梅忍禪師悟心要。繼牛頭祖位。常繫念淨土俯仰不違。將終戒弟子露骸松下。令禽獸食我血肉起淨土因。弟子如其旨。見神幡數十西來遶山。幡出異光以燭其室。

慧日。汎舶南海至天竺諸國。訪善知識。問何國何方有樂無苦。何法何行速得見佛。天竺三藏皆讚淨土。日聞喜躍。至健陀羅國山有觀音像。祈請者或現身。日絕食七日畢命為請。七日之夜觀音於空中現紫金相長丈餘。手摩日

頂曰。汝欲傳法利人。又願生極樂國。當如汝志。開元七年東歸達長安。進佛真容梵夾。帝旌其德賜號慈愍三藏著淨土文行於世。天寶七年將終。見蓮華在前狀如日輪。

雄俊。成都人善講說。得財幣必非法而用。又罷僧入軍。尋因逃難復入僧中。眾多畏避之。俊聞經云十念佛滅八十億劫重罪。喜曰。賴有此耳。自後當造罪口輒念佛。然若存而亡。猶伶倫之為戲。一夕暴亡。冥王曰。誤追汝也。然汝積惡多矣。宜略經塗炭。即令牛頭驅入地獄。俊大呼曰。十念阿彌陀佛。能滅八十億劫重罪。況我未臻五逆十惡。又多念佛豈當至此。獄卒不敢凌逼。即以其語報王。王召至。謂曰。汝念佛本無深信。可且回世上更厲初心。俊屢以語人。時謂之地獄漏網。俊乃入西山專意念佛。後四年同輩訪之。俊喜曰。汝親見知當言雄俊以念佛力得生淨土。毋以為地獄漏網人也。語頃即坐脫。

僧銜。并州人。初念慈氏期生內院。年九十遇綽禪師聞淨
土之法。始回心焉。早暮禮佛千拜。念佛萬聲。三年有疾。其
謂弟子曰。阿彌陀佛授我香衣。觀音勢至示我寶手。吾乃
去矣。既終七日異香不散。時啟芳圓果二師目擊斯事。乃
於悟真寺觀音像前。折楊枝置像手。誓曰。芳等若於淨土
有緣。當使七日不萎。至期枝益茂。芳果慶抃。晝夜觀念
不捨。數月忽覺臨七寶池。入大寶帳。見佛及二大士坐寶華
臺。光明輝映。芳果珠網。有梵僧御寶車中。謂曰。汝念我
國。又見寶幡。芳果忽覺乘車前邁。又聞釋迦佛文殊菩薩以
故來迎汝。淨土。寶殿之中有寶階三道。第一道純是白衣。
音聲稱讚淨土。寶殿之半。第三道唯是僧輩。佛指謂芳曰。此皆閻
第二道僧俗相半。第三道唯是僧輩。佛指謂芳曰。此皆閻
浮提念佛之人得生此土也。後五日二人無病忽聞鍾聲。芳
果曰。鍾聲我輩事也。當時俱即化去。

辯才。襄陽人。潛修淨土之業。二十年未嘗說。獨與護戒任公善。謂之曰。才必生淨土。期在十年後。令弟子報任公曰。向所期已及矣。任公及門。才曰。吾其去矣。趺坐而化。眾聞仙樂西來異香散滿。

自覺。居平山重林院。為鬼神講說者三年。屢有祥感。嘗發四十八願。因觀音大悲接見阿彌陀佛。乃率眾建剎鑄大悲像四十九尺。俯伏像前陳其願曰。聖相已就梵宇已成。願承聖力早登安養。夜中忽見金色祥光二道。佛及菩薩左右隨之。佛垂手按覺首曰。守願勿易利物為先。寶池生處終當如願。後十一年見大神雲中出半身。謂之曰。安養之期已至。即於像前加趺而化。

懷玉。丹丘人。觀想淨土將四十年。日課佛名五萬。誦淨

土諸經通三百萬。一日見西方聖眾有擎銀臺而至。師曰。如我本望必得金臺。言發而臺隱。師彌加精苦。三七日後。向人復來曰。法師已得上品生。忽異光照室。越三日書偈曰。清淨皎潔無塵垢。蓮華化生為父母。我經十劫修道來。出示閻浮厭眾苦。一生苦行超十劫。永離娑婆歸淨土。弟子見佛菩薩共御金臺西下迎玉而去。

齊翰。居武丘。入流水念佛道場。一念之頃即見淨土境相。忽作歌曰。流水動兮波漣漪。芙蕖輝映兮寶光隨。乘光西邁兮偕者誰。初師十年在疾。弟子問曰。和上舍生何乃抱病。師曰。必謝之軀雖聖未免。即回瞻聖像而亡。

神皓。於吳郡結道俗為西方社。有不能遺塵累者。引退之。時以為旃檀林中常才自枯。後示疾。謂弟子曰。淨土聖相已現。吾今夕必往生。乃澡身易衣端坐而化。香氣滿

室。

僧藏。西河人。夏月在草間餒蚊。念阿彌陀佛二十年許。飲食行坐志在安養。忽於病中見化佛光照其身。次日謂侍者曰。吾適瞑目正在淨土。諸上善人散華召我。乃整衣西向而化。

大行。入泰山行普賢懺三年。感大士現身。晚歲入藏室陳意隨手取卷得彌陀經。乃日夜誦詠。至三七日覩流離地上佛及二大士現身其前。僖宗聞其事。詔入內賜號常精進菩薩。封開國公。後一年流離地復現。即日右脇而終。異香旬日不散。肉體不壞。

惟恭。荊州人。常事酒博。暫暇則誦經祈生安養。同寺靈歸。跡頗類之。荊人嘲之曰。靈歸作盡業。惟恭繼其跡。

地獄千萬重。莫厭排頭入。恭聞之曰。我佛閔我造惡。拔我塗炭。豈有地獄之入。一日恭病。歸出寺有所往。逢少年七人。手執樂器。如寺之樂器狀。曰我來自西方。惟恭上人寺何在。巋指之即於懷出金瓶。取蓮華如拳漸開。葉出異光。望寺而馳。巋大驚不敢回顧。次日回寺則恭已夕亡。巋因感悟。卒守名節為高德云。

善道。臨淄人。入大藏信手探卷。得觀無量壽佛經。乃專修十六妙觀。及往廬山觀遠公遺跡。豁然增思。後遁跡終南。修般舟三昧數載。覩寶閣瑤池宛然在目。復往晉陽。從綽禪師授無量壽經。入定七日。綽請觀所生處。道報曰。師當懺悔三罪。方可往生。師嘗安佛像在簷牖下。自處深房。此一罪也。當於佛前懺。又嘗役使出家人。此二罪也。當於四方僧前懺。又因造屋多損蟲命。此三罪也。當於一切眾生前懺。綽靜思往咎洗心悔謝久之。道因定

出。謂綽曰。師罪滅矣。後有白光來照之時。是往生相也。道行化京師。歸者如市。忽微疾。即掩室怡然而逝。異香天樂向西而隱。

寶相。居長安六時禮懺者三十年。夜誦彌陀經七過。佛號六萬聲。後忽見佛大士眾自西來迎。囑諸徒曰。念佛為業西方相待。

智欽。專習禪業。又禮一萬五千佛名一百遍。後於鄭州阿育王塔所燒一臂。願生淨土。弟子僧護夜半見庭前光照異常。因問。何人秉炬。凡三問。空中聲云。來迎欽禪師耳。護急推窓觀之。即見佛身光明幡華寶蓋騰空飛下。欽應時化去。

法順。杜氏。每遊歷郡國勸念阿彌陀佛。著五悔文讚詠淨

土。弟子至五臺見老人。謂曰。文殊今住終南山。杜順和上是也。歸則順亡。

懷感。居長安千福寺念佛三年。見佛金色玉豪。得入三昧。乃製決疑論七卷。臨終見佛來迎。合掌而化。

德美。於會昌寺西院造懺悔堂。年別般舟一夏不坐。或止口過三年不言。或行不輕通禮七眾。或節衣食四分除二。或去世想專念西方。口誦彌陀終於命盡。後於一時入室稱佛。倏然而化(已上並唐時)。

志通遊天台見智者淨土儀。欣然會心。嘗至招手岩因陳大願。念阿彌陀佛四十八願。誦已投身岩下。若有神人捧之於樹。乃復整心登岩曰餘生可厭大願已發惟海眾菩薩同相接引。再投而下。適在蒙茸草上。久之復蘇。寺眾昇歸。

身心無損。後遊越之法華山。一夕見白鶴孔雀行列西下蓮華開合光相現前。乃起禮佛趺坐而化(石晉)。

紹岩。居錢唐湖心寺專誦法華。期滿萬部得生淨土。一旦有蓮華生於陸地。岩誓焚身供養西方三聖。吳越王俶力勸止之。又往投身曹娥江中。如有物扶其足。漁者救之得不溺吳越王於寶塔寺建淨土院以居之。一旦見蓮華光照其身。越三日欣然坐化。

守真。永興人。講起信論法界觀。常於中夜輪結無量壽佛往生祕密印。至天將曉自覺身登淨土。舉目見佛。自俯伏像前。念曰。四十八願能度我者。乃持香華入殿供養。就座而化。

晤恩。姑蘇人。住慈光講法華諸經。後於井中見白光出。

乃絕食念佛。越三日見梵僧捧鑪三遶之曰。吾灌頂也。以汝所修同我之志。故從淨土來迎。次日恩升座說止觀指歸。即座面西而化。眾聞空中絲竹之音。依稀西去。

義通高麗人。居四明寶雲。敷揚教觀幾二十年。常呼人為鄉人。有問其故。曰吾以淨土為故鄉。諸人皆當往生。皆吾鄉中人也。後右脇念佛而化。

知禮。號法智。居南湖述妙宗鈔。釋天台觀經疏。大彰觀心觀佛之旨。曾於每歲二月望日。建念佛施戒會。動逾萬人。又撰融心解。明一心三觀。顯四淨土之義。後於歲旦建光明懺。至五日召大眾說法。驟稱佛號數百聲。奄然坐逝。

遵式。初居天台東山。遍行四種三昧。後住四明寶雲。結

緇素專修淨業。作誓生西方記。及居天竺靈山。於寺東建日觀菴。為送想西方之法。依無量壽經述往生淨土懺儀。為杭守馬亮述淨土行願法門往生略傳。後居草堂示疾。弟子問所歸。對以寂光淨土。至夜奄然坐逝。

有基。學於寶雲。住太平興國寺。一日示疾。為弟子廣談圓旨。眾忽見西方現光空中奏樂。師曰。阿彌陀佛與二大士親至於此。即右脇西向而化。門人夢阿彌陀佛授記為超壯如來。或夢師坐青蓮華執如意對佛說法者。法智歎曰。臥病談玄臨終見佛。是可敬也。

本如號神照。住東山承天三十年。講經之餘。集百人修法華懺。一年。與郡守章郇公結白蓮社。一日升座說法。與眾訣別。江上漁人見雲端有僧西去。明年啟塔尊容如生。有蓮華產於塔前。

慧才號廣慈。晚居雷峯塔。課佛不輟。忽夢入一處若宮室者。人告之曰。淨土中品是汝所生。復見一殿勝麗殊絕。人曰。上品之生。以待淨慈本禪師也。才臨終果書偈。面西趺坐而化。

思義號淨慧住靈山二十三年。退居草堂。一日別眾而逝。眾念誦。久之忽復省曰。適隨觀音大士行見金色沙門長身垂臂。謂我曰。汝報緣未盡。過七日當遣迎。至期趺坐而化。瘞龕之日有赤雲垂布。向西而沒。

元淨號辯才。住上竺謝去居南山龍井。焚指供佛。左三右二。專修淨土觀。臨終告其友道潛曰。吾西方業成。後七日去矣。至期右脇吉祥而逝。

從雅。學於天竺海月。誦法華經五藏。彌陀經十藏。金剛經四藏。每字三拜禮法華三過。自餘誦經禮拜無虛日。誓生安養。主客楊傑述安樂國讚三十首。以贈之(此文並用天台十疑論中之義)後於四月八日面西趺坐而化。空中奏樂室內聞香。

若愚。居雪川仙潭學於辯才。歸覺海建無量壽閣。勸道俗四季開會念佛。凡三十年。將順世。夢神人告曰。汝同學則章得普賢行願三昧已生淨土。彼正待汝。師乃沐浴更衣命眾諷十六觀經。端坐默聽畢。忽云淨土現前吾當行矣。遽書偈而化。本是無家可得歸。雲邊有路許誰知。溪光搖落西山月。正是仙潭夢斷時。又於半月前書一頌云。空裏千華羅網。夢中七寶蓮池。踏得西歸路穩。更無一點狐疑。

智深號慈行。學於海月。歸嘉禾開長堂供。二十年專志念佛。常以淨業化人。得往生顯驗者甚眾。一日示疾。客至問安。談論如常。時客方出門。師即遷化。人見紫雲向西而沒。

處謙繼神照住白蓮。一夕會弟子設香華諷普賢觀經阿彌陀經。端坐稱讚淨土功德。復告眾曰。吾得無生。日用有年矣。今以無生而生淨土。如入禪定奄然而化。

有嚴。受業天台靈鷲。依神照傳教。晚居檀菴專事淨業。作懷安養故鄉詩四篇。為時所傳。居山十年。夢池中大蓮華天樂四列。乃作餞歸淨土詩。後七日加趺而化。塔上有光如月。三夕乃隱。

中立號明智。居南湖常以淨業誘人。其徒介然創十六觀

堂。為東州之冠。實師勉之也。一夕謂侍者曰。今聞異香。吾意甚適。即召觀堂行人俱集。含笑言曰。吾往生期至。即面西坐逝。

擇瑛。桐江人。依經論辨專雜二修。以示往生之易。又述淨土修證義二卷行於世。今人稱阿彌陀佛真金色一偈。即師所撰也。一夕有疾。面西凭几念佛而化。

思照。受業錢唐淨住。刺血書法華經一字一禮。如是十過。誦十六觀經五藏。彌陀經十藏。法華一千部。禮華嚴梵網淨土七經等。凡二百七十卷。每夜四更即起念佛。懈怠之人聞聲悚愧。又於月二十三日。率道俗繫念三聖。常及千眾。終師之世凡三十年。一夕語其徒曰。夜夢佛金身丈六。豈非往生有兆乎。乃日請七僧以助念佛。至七日晚涌身合掌厲聲念佛趺坐結印而化。

宗利受業會稽天華。修法華懺三載。夢亡母謝曰。荷汝懺
功已生善道。期滿見普賢從空而過。復謁大智律師增受戒
法。忽夢律師吐白珠令吞之。嘗神遊淨土。見寶池蓮華行
樹之相。尋詣新城碧沼。修念佛三昧者十年。後入道味山
築菴名一相。越十五年。謂弟子曰。吾見白蓮華遍滿空
中。三日復曰。佛來矣。即書偈曰。吾年九十頭雪白。世
上應無百年客。一相道人歸去來。金臺坐斷乾坤窄。奄然
而化。

齊玉號慧覺。初於雪川寶藏建淨土會。念佛者如蟻之眾。
後住上竺夜半頂彌陀像。行道念佛。一日謂首座曰。床前
多寶塔現。非吾願也。所欲見則阿彌陀佛也。可為我集僧
念佛。座鳴鍾繫念。將百餘人。頃之曰。今已見佛。即瞑
目端坐而逝。

仲閔。所著教義憲章集。三衢人。受業於祥符。升師子座見銀臺西方而至。師曰。吾一生解第一義。誓取金臺。今乃若此。即座而化。

瑩珂。受業雪川瑤山。遍參教席禪門。以疾歸受業。酒炙無所擇。竊念戒業有闕。恐從流轉令同住取戒珠師所編淨土往生傳。對床讀之。凡讀一傳為一首肯。既而擇一室面西設禪椅。不食念佛三日。夢佛大士謂之曰。汝尚有壽十年。且當自勉。珂白佛曰。設有百年閻浮濁惡易失正念。所願早升安養承事眾聖。佛曰。汝志若此。後三日當來迎。至期令眾誦彌陀經。師曰。佛大眾皆至矣。遂寂然而化。

靈照。住華亭超果。每歲開淨土會七日。道俗常二萬人。

夢中見三聖。跪問之曰。靈照一生期生安養可果願不。觀音指之曰。淨土不遠有願即生。一日臥疾。謂侍者曰。吾往生有期矣。即面西趺坐而化。

可久。居四明開化。常誦法華。因坐化。三日復蘇。語淨土事與十六觀境不異。見蓮華臺皆標合生者姓名。一紫金臺標云。大宋成都廣教院熏法華當生此中。次一金臺云。明州久法華生此。又一金臺云。明州孫十二居士合生此中。又銀臺標云。明州徐道姑當生此中。語訖復逝。五年徐道姑亡。異香滿室。二十年孫居士化。天樂盈空。感一郡人皆來送葬。

宗本。初參天衣懷禪師有契悟。後住淨慈。奉詔入住東京慧林。召對延和殿。密修淨土之業。臨終安坐而逝。雷峯才法師。神遊淨土見一殿殊麗。人曰。以待淨慈本禪師。

又資福義師。至慧林禮足施金而去。人詰之。答曰。吾定中見金蓮華。人言以俟慧林本禪師。又小蓮華無數。稱是以待受度人。或有萎者。云是退墮之人也。

善本。試華嚴經得度。自淨慈詔住法雲。賜號大通。後歸杭州象塢專修淨業。有僧定中見方丈彌陀佛示金色身。一日告門人曰。止有三日在。至期趺坐面西而化。

元照。住靈芝弘律學。尤屬意淨業。一日會弟子諷觀經及普賢行願品。加趺而化。西湖漁人皆聞空中樂聲。

道言。會稽人。靈芝之高弟。專修淨業。臨終數日前見二神人長丈餘。報言。何不繫念。於是大集道俗念佛三晝夜。將畢自升座說法為眾懺悔。至曉即座而化。

宗蹟。住長蘆作蓮華勝會錄。勸人預名念佛。忽夢白衣士謂曰。欲入公彌陀會。師秉筆問其名。曰普慧。書已復云。家兄亦告上名。問何名。曰普賢。言訖遂隱。師以聖賢幽贊。乃更以二大士居其首。師述勸修淨土頌。有云。三界炎炎如火聚。道人未是安身處。蓮池勝友待多時。收拾身心好歸去。目想心存望聖儀。直須念念勿生疑。它年淨土花開處。記取娑婆念佛時。此頌最在人口(蓮花勝會錄文。及淨土頌。十六觀頌。並見所著葦江集)住普會時。迎母居方丈東室勸念佛。臨終前一日。師夢母謂曰。我見尼師十餘人來召。師曰。此往生之祥也。

惟月。居諸墜化城。明律學修淨業。一日有異僧來迎。後二日微疾。急呼同住道寧曰。今見阿彌陀佛。可高八尺駐立空中。言訖而化。

思敏。依靈芝增受戒法。專心淨業。二十年。一日偶疾。請眾諷觀經者半月三日見化佛滿室。臨終念佛聲出眾外。酷暑留龕七日不變。異香郁然。

行誦。誦四分戒本三日通徹。學律於大智。住明慶二十年。偶寢疾。即設像命徒繫念數日。忽起索三衣。自唱彌陀經。厲聲念佛。加趺而化。

法持。居化度寺修彌陀懺三年。燼二指增受戒法。造西方三聖像。誦觀經彌陀經如意輪呪。願促閻浮之壽蚤生安樂之邦。一日小疾。哭慟懇告願垂接引。念佛之聲聞於百步。忽見佛身丈六立於池上。即自言曰。我已得中品生。端坐面西而化。

慧亨。居武林延壽號清照。依靈芝習律。專修淨業殆六十

年。每接對賓朋必以念佛為勸。建寶閣立三聖像最稱殊特。貴官江自任每敬師。忽夢寶座從空而下云。是清照律師當升此座。社友孫居士報。師乍違即在家作印而化。師往炷香。回謂其徒曰。孫君已往吾亦當行。即請眾念佛。復云。彌陀口口稱。白豪念念想。持此不退心。決定生安養。即端坐脫去。

用欽。居錢唐七寶院。依大智學律。聞其示眾曰。生弘毘尼死歸安養。出家為道能事斯畢。即標心淨土一志不退。日課佛至三萬。嘗神遊淨土。見佛大士種種異相。謂侍者曰。吾明日西行矣。即集眾念佛。黎明合掌西望。加趺而化。

妙生。會稽人。習律學日踐淨土之業。與大通本禪師居潮山象塢。共明此道。一夕會門人諷彌陀經。就榻端坐。取

臨終香焚之合掌迎顧嗒然而化。

惟渥。錢唐人。杜門謝事閱大藏三過。華嚴法華諸經計之總二萬卷。晚年誦彌陀經二十藏。一夕偶疾。西向端坐。作印而化。

仲明。居山陰報恩。素無戒檢。偶因感疾。謂同學道寧曰。我今心識散亂何藥可治。寧云。但隨息念佛為上藥。明即依法念之。至七日力已困。寧又令想目前佛像。久之忽見二菩薩。次又見佛迎接。瞑目而化。

冲益。居錢唐淨光。刺血書淨土七經。復金書法華。刻西方三聖像。依止觀坐禪法念阿彌陀佛。一日感疾不服藥。拈香對佛懺悔。請大眾助念佛。諷彌陀經。至西方世界。奄然而化。

法宗。依雷峯廣慈學教。用止觀行法修大悲懺至九載。然五指供佛。每月率四十八僧。同修淨土懺。久之夢佛菩薩來迎。後三日合掌西望而逝。

晞湛。山陰人。少為儒生。忍厭世出家。與瑩行人於阮社同建無量壽佛殿。專修淨業。坐不背西。久之常見三聖相。一夕面西誦經。正坐作印而化。

曇懿。居錢唐淨住。以醫為業。晚年禮法華經修念佛三昧。以平時所積供佛齋僧造像設浴。如是二十年。後微疾不服藥。請利行人七僧念佛以助往生。次日見蓮華其大如屋。又一日梵僧到床問訊。夜半眾聞念佛聲低。泊然長往。

太微。兒時投錢唐法安法師。初授彌陀經便能背誦。及受具願局門念佛。為不退僧。常縱步後山。忽聞划舡笛。豁然開悟。因蓄一笛以自嬉。有凌監簿者。亦修淨業。稱微為淨土鄉長。一日叩門曰。淨土鄉長弟相見微曰。明旦可相見於淨土。今日誦佛正冗耳。翌朝人怪其不赴粥往視之。見笛鉢禪椅先已焚却。加趺地上而化。

思聰。居錢唐法安日。誦蓮經二部。餘刻念佛未嘗談及世事。忽謂弟子曰。夜來見佛菩薩同來接引。弟子曰。恐是魔境不可便隨。聰曰。終時胸間有蓮華可驗。越二夕命聲磬念佛喜曰。佛來矣。即奄然而化視胸前一掌許有文。紅潤若開敷蓮華之狀。

了義號木訥。鍾離少師之曾孫。十五舉進士。過金陵見保寧璣公聞法開悟。即從剃落隨所至處扁曰昨夢。念念西方

未嘗間斷。祥公赴黃蘗挽其偕行。一夕祥夢。師來別云。西歸矣。復見佛菩薩授以金臺。越三日炷香宴坐含笑而化。嘗詣五臺忽覺。隨眾菩薩後行道。有紫綬金章二人從其後。師詰其名。一僧引至殿旁觀玉牌金書王古葛繁二名字。

慧誠居錢唐資聖。誦金剛經禮西方佛。嘗神遊淨土親覩佛容。潛於山岫積薪為龕入中念佛。縱火自焚。祖南居南岳刺血書阿彌陀經五百卷。金剛經一百卷。法華經十部。終二十七年。皆用血書。常時念佛期生安養。末年血乾骨立。念佛之聲不絕。一日至方丈相對無別語。即坐而化眉間迸出舍利。隨取隨生。

法因。住四明廣壽。三十年冥心淨業。偶在疾。集眾諷觀經稱佛號者三夕。謂門人曰。吾將行矣。或請留偈。為之

書曰。我與彌陀本無二。二與不二並皆離。我今如此見彌陀。感應道交難思議。挺身端坐結印而逝。

了然號智涌。住白蓮二十四年。夢兩龍戲空中一化為神人。袖出書曰。師七日當行。既寤集眾說法。大書曰。因念佛力得生樂國。凡汝諸人可不自勉。即沐浴更衣。集眾誦阿彌陀經。至西方世界。倏然而化。能仁行人。皆聞天樂之音。祥光上屬天表。

智仙號真教。住白蓮講道十三年。西向十念歷十二時未嘗廢。一夕微疾。請觀堂行人誦彌陀經。卷未終而坐脫。能仁行人。皆聞眾樂和鳴。黎明始知師亡。

思淨。居錢唐北關。姓喻。常誦觀經念佛不輟。善畫佛必先靜室觀想。一日畫丈六彌陀佛。先見佛光。遂悟筆法之

妙。人因號喻彌陀。建藍院名妙行。飯雲水終其身三百萬人。忽靜默端坐。心想西方。越七日臨終索香供佛。加跌而化。異香經旬。

如湛。試法華得度。遍歷教席。住烏鎮塔院。日誦蓮經二部。佛號二萬聲。一夕念佛端坐而化。所著教義號假名集。

思梵。居西山。星者謂之曰。六月望師其終乎。師曰。造物焉能制修道之人。汝言六月亡。我且八月往。至期沐浴。坐龕中。集眾端坐而化。

淨觀居嘉禾寂光菴。修淨土懺法十餘年。謂弟子曰。我後月二十七日當去。至兩日前見紅華。次日黃華滿室。皆有化生孩兒。仙帶結束。及期入龕坐。命眾誦經念佛。頃之

即脫去。

利先。居新城法慧。日誦法華課呪念佛。至中夜其聲哀切。仰訴娑婆極苦。願佛早垂接引得遂往生。如是十年。晚歲屢感祥夢。忽示疾。命眾念佛。西向凝望端坐而逝。

師安。受業烏鎮普靜。通華嚴宗旨。修彌陀懺觀想淨土二十年。昕夕不廢。一生多病。臨終忽精爽。謂弟子曰。佛菩薩已降。吾將行矣。即端坐而化。

如寶。受業雪川覺華。因聞自昔珍禪師夢設浴往生事。遂發心。開長堂浴二十年。及建立佛像願求往生。年八十一。請眾啜茶言別。遽聞鐘鳴一聲。眾皆驚異。即向西加趺合掌凝望而化。

顯超博州人。親授金總持三藏穢迹持呪之法濟病解冤。計所得施利五萬緡。入永壽常住。後病中見佛菩薩前迎蓮花遍滿技樂雜奏。弟子皆告留法師住世救苦。淨土變相漸漸隱沒。乃復住十五年行呪救人。一日天樂異香佛及眾聖如前迎接。即面西加趺而化。

有開。居霅川千步寺。專修淨業旦暮不忘。於歲旦請眾念佛諷經。至西方世界。即瞑目長逝。

道生。居常熟興福。造丈六彌陀像。得縣令梅汝能。施財糲采。即集眾諷經念佛。陳白慟哭。辭佛歸臥房。書偈坐亡。

若觀。居烏鎮嘉會。結十萬人念佛。人各十萬聲期。先得生者次第汲引。師誦法華光明二經日滿百部。二十年中誦

滿六十萬部。誓與群生莊嚴淨業。一日空相來訪相陪齋食。忽索筆書偈。趺坐而化。

覃異。居餘姚龍泉。誦法華五千部。普賢行法彌陀經各萬卷。靜室禮佛不舍晝夜。忽微疾。集眾告曰。吾安養有期。即面西累足而逝。

智印居雪川祇園。常想念淨土旦夜無間。病中集眾諷彌陀經。甫畢加趺合掌而化。

元肇。四明陸氏。文章陸佃之族。蚤歲習律閱大藏。誦蓮經萬部。又刺血書蓮經一部律宗諸疏三部。建炎四年金虜破四明。師時住湖心。虜逼之北行至南徐謂左右曰。吾將西歸矣。即聞笙歌之聲一時軍民咸見師西望念佛而化。

戒度。習律受業棲心。晚住餘姚極樂。病中作遺書別士夫
道舊。命眾誦觀經。至法身觀。厲聲念佛加趺而化。

道琛號圓辯。為南湖八世祖。於彌陀懺宴坐中見法智尊
者。於法華懺中見普賢放光。每月二十三日建淨業會以為
常課。道俗俱至。一日示疾。願平日一豪之善回向淨土。
集眾諷觀經不絕七日。謂首座曰。吾已見佛身聞異香。乃
沐浴更衣書偈曰。唯心淨土本無迷悟。一念不生即入初
住。復令諷安樂行。至深入禪定見十方佛。嗒然而化。

有朋號牧菴。住南湖。一日坐青玉軒。請行人諷觀經。至
真法身觀。復令大眾唱佛。留偈坐亡。

妙雲。四明楊氏。號慈室。自南湖退處溪口吳氏菴。一旦
沐浴趺坐。謂侍人曰。吾有瓣香藏之三十年矣。擬臨終焚

之用報佛恩。今正其時。及香光正熾起。白佛陳意。就座而化。

晞顏字聖徒。四明人。一生不肯住山。晚年居桃源厲氏菴。專心念佛十餘年。嘗扁小軒曰憶佛。作偈有云。隨波逐浪去翩翩。彈指聲中七十年。豈不向來知憶佛。欲從老去更加鞭。自憐憶佛暮年深。除佛無能寫我心。誰道萬金。為客好。終非一飯在家林。臨終沐浴更衣。端坐念佛而化。

了宣。四明寶林肄業。入南湖光嚴堂閱大藏。預法華期懺二十七年。與榮行人最相善。一日詣榮室默坐。榮問之。師曰。西歸有期難忘道義。冀公淨土重會耳。榮喜曰。正所幸願。忽示疾。請眾諷彌陀經。念佛之際端坐書偈曰。性相忘情一三無寄。息風不行摩訶息利。合掌而化。炎暑

停龕七日。顏色紅潤口角有微涎。觀者以帊裹之。異香噴人。士庶聞之傾城來裹。香涎愈滋闍維之處。舍利無算。

善榮。四明小溪周氏。入南湖觀室十六年。閱藏經修期懺。金書法華楞嚴淨名圓覺光明諸經。造彌陀像。遇法會則拈施。自畫水墨觀音。求者便與。宣公亡後。三年忽取經像分施親故。請眾諷普賢行法經彌陀經。念佛聲中加趺而化。時以為赴宣公淨土之約。弟子海印高行似之。

祖輝。居四明郡城佛閣。逢人但云。阿彌陀佛說也。說不得。人竟以說不得和上目之。鄞尉王用亨夫婦。事之甚至。一日到其家告別云。我明日行矣。及諸檀俱會。即入龕端坐。求甘瓜啖盡一枚。念佛而化。

如鑑。四明塔山兩閱大藏。長誦蓮經。專志念佛。晝夜不

懈。晚年菴居。忽示疾。請隣菴諸僧。繫念面西。加趺含笑而化。

祖新。受業四明福源布衣糲食為行清苦。去寺不遠有大姓方氏。以菴延之。乃於福源創淨土院造像栽蓮。月三八集道俗繫念。一日往別方丈曰。二月十五日將西歸。特來拜辭。枯腸欲得索麵一碗。主人如其欲。食訖竟往淨土院像前禮云。祖新將行。奉別尊像。即歸菴集眾念佛。遽出眾問訊曰。祖新已拜辭如來尊像。已拜別福源方丈。今別眾道友。十五日畢定歸去。願諸仁者。勤心念佛蚤得相會。即趺坐念佛。遽云佛已至此合掌而化。

佛祖統紀卷第二十七(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十八

宋景定四明東湖沙門志磐撰

淨土立教志第十二之三

往生高尼傳

法盛。居金陵道場寺習十六觀想。一夕禮像。遇病假寐。見大士乘雜華雲出寶色光前來相迎。時諸尼歎門問疾。咸見光明迸溢。盛曰。佛及菩薩放光度我。言竟而絕。

道爰。丹陽人。先於諸寺造大像七軀。務極精麗。又冶金

銅造無量壽佛像。忽於眉間放大光明。地皆金色。像與爰記曰。汝舍此身必生我國。即於像前端坐而化。

法藏。居金陵勤志念佛。夜間見佛菩薩求慰問光明照寺奄然遷化。

淨真。居長安積善寺納衣乞食。誦金剛經十萬遍。專志念佛。語弟子曰。五月內十度見佛。兩度見淨土寶蓮花上童子遊戲。吾已得上品生言訖加趺而化祥光滿寺。

悟性。居廬山念佛願求往生忽聞空中音樂。謂左右曰。我已得中品生。見同志念佛精進者。皆有蓮華生寶池中以待其生。言畢而逝。

能奉。錢唐人。專修淨業。常夢佛光照身。或聞諸尼善言

開發。一日無疾告其徒曰吾往生時至。少頃聞奉誦佛聲厲。奔往視之。則合掌面西坐逝矣。異香滿室樂音西邁。

慧安。居四明。下水大魁姚顗之屬也。住小溪楊氏菴專業西方。誦金剛般若寒暑不易節。常於室中佛光下燭。一日示疾。端坐以手搖曳。戒眾人勿誼。移時曰佛至矣。令眾念佛倏然脫去。壽九十六。

往生雜眾傳

隋汶水二沙彌。同志念佛。經五年大者先亡。得生淨土。見佛欣慶即白佛言。有小沙彌與我同修。不識可得生不。佛言。汝本無心念佛。由彼勸汝。汝今宜還益勤淨業。三年後可同來此。至期佛與眾聖自西來迎。大地震動天華飄舞。是二沙彌一時俱化。

魏師贊。雍州人。為僧童年十四。念佛不絕。遇疾而亡。忽再蘇白父母曰。阿彌陀佛來此兒當隨行。隣人見空中寶臺五色異光向西而沒。

何曇遠。錢唐人。持菩薩戒修淨土業。夜中念佛忽謂師曰。見佛身金色旛華滿空異香盈室。俄忽化去。

越大善寺童行。常隨師善輝念佛禮拜。一夕夢婦人持數珠賣。童曰。欲得一串恨無錢買。婦曰。我當與汝。汝可開口。即以數珠投口中。童以告師。輝曰。此是大勢至菩薩授汝念佛三昧也。過數日童見二大士持華座與之。曰七日當乘此來生淨土。童逢人即說。我七日當往生也。至期忽自唱曰。菩薩來矣。即座而化。

倪道者。仁和人。棄家作道者。建小菴專意念佛。欲焚身代一切受苦眾生供養諸佛。久之有朱藤三窠生臥榻前。謂眾曰。此藤若焦我當西去。臨終半月。集眾念佛。至於萬人。焚身前一夕。其地忽有光明金色。高半尺許。以手掬之隨浮掌上。又謂眾曰。我焚身時。必有紫雲青雲從東北過西南。是我往生之相。乃四面發炬。端坐其中。果有二色雲瑞。

往生公卿傳(居士附)

白居易號香山居士。官太子太傅。初勸一百四十八人結上生會。行念慈氏名。坐想慈氏容。願當來世必生兜率。晚歲風痺。遂專志西方祈生安養。畫西方變相一軸。為之願曰。極樂世界清淨土。無諸惡道及眾苦。願如我身病苦者。同生無量壽佛所。一夕念佛坐榻上。倏然而逝(唐)。

韋文晉。位觀察使。建西方道場念佛發願。一日正念佛中。忽面西加趺而化。異香滿室(唐)。

張抗。仕石晉為翰林學士。課大悲咒十萬遍。願生西方。一日寢疾唯念佛號忽謂家人曰。西方淨土祇在堂屋西邊。阿彌陀佛坐蓮華上。見翁兒在蓮華池金沙地上禮拜嬉戲。良久念佛而化翁兒抗之孫也。

鍾離瑾。會稽人。位至少師。幼事母任夫人。夫人精修淨業。年九十八起居如常。忽戒瑾曰。人人有箇彌陀。奈何拋去。念念無非極樂。不解歸來。翌日予將行矣。及晨起焚香誦佛過於常課。合掌而化。瑾日課利益二十事。後宰吉水置一妾。從其女嫁審之。則舊令之女。報所親緩納采。擬先遣前令女。所親復書曰。公安得獨為高誼。予有

猶子。請平分奩具俾同親迎。公從之。忽夢舊令來謝曰。賤息荷收錄。已告之上帝。當十世有土。然公更一紀應生淨土。尋為浙西憲。與慈雲懺主論往生指要。清修彌篤。自夫人有栴檀佛像。常頂戴行道。公繼其志。像眉間忽迸出舍利數粒。未幾知開封府。忽夜半起謂家人曰。夫人報我往生之期至矣。即加趺而逝。前一日舉家夢公乘青蓮華座。仙樂異香。海眾迎之西去。計其年正一紀(宋)。

鍾離景融。少師第七子。官朝請大夫。常誦觀經念佛不輟。挂冠棄仕結茅儀真東園側。嘗曰。識得彌陀。彌陀彌陀。不識彌陀。奈何奈何。不識彌陀。彌陀更在西方外。識得彌陀彌陀祇在自己家。一夕命僧妙應誦普賢行願品。炷香敬聽畢。兩手作印而化。自任氏少師大夫。三世得生淨土。曾孫松居於婺。乾道中奉祠吳郡。與寶積實師東平呂洎等。結社念佛。無所疾忽端坐西向合掌而化。

楊傑字次公。無為人。官尚書主客。遍歷禪林參尋知識。晚年畫西方佛像隨行觀念。舍壽之日感佛來迎。端坐而化。

馬亮。官侍郎守杭。詣靈山學淨土業。慈雲為撰淨土行願法門淨土往生略傳。臨終念佛而逝。

子玕朝奉。又依十疑論用心。在官閱教藏。誦經念佛皆有常課。忽一日易衣念佛端坐而化。有氣如青蓋。出戶騰空西去。几筵時現瑞光。

玕之子永逸。官宣義。每習十六觀歷三十年。忽見三聖來迎。結印而化。頂熱有異香。

玕之妻王氏。修十念法持破地獄真言。嘗夢地獄主者。謝以持偈呪之賜。後因寢疾念佛而亡。親戚侍妾咸夢。王氏言得生淨土。

胡闔。官宣義侍郎。胡則之子。晚年致仕笑傲西湖。與清照律師相善。一日有疾問律師曰。一稱佛名能滅八十億劫生死重罪何也。師曰。佛大威德眾生一稱其名罪垢自消如赫日正中。霜露何有。闔大感悟一心。念佛請僧為之助一日律師至。闔曰。荷二大士降臨甚久。師為懺悔發願。忽厲聲念佛安坐而化。

葛繁。澄江人。少登科第官至朝散。凡官居私舍。必飾淨室安設佛像。每入室禮誦。舍利從空而下。普勸道俗同修淨業。皆服其化。有僧定中遊淨土。見繁與王古侍郎同遊寶池行樹之間。俄聞繁無疾而化。

王古。儀真人。官禮部侍郎。與晦堂楊岐為禪侶。嘗作直指淨土決疑集。楊傑為序。又增補往生淨土傳。皆行於世。平時志在往生西方。臨終無所苦。忽滿室光明端坐而化。有夢古乘蓮華西去者。

江公望。釣臺人。官司諫。少年登科蔬食清修。述菩提文念佛方便文。以勸道俗。有子蚤亡。託夢舅氏曰。欲稟大人。乞就天寧寺看寶積經。庶得生善處。大人修行功業已成。冥府有金字牌云。嚴州江公望。身居言貴志慕苦空。躬事熏修心無愛染。動靜不忘於佛法。言談罔失於宗風。名預脫於幽關。身必歸於淨土。宣和末知廣德軍。一旦無疾。面西端坐而化。

王衷。居錢唐孤山。即林和靖之故迹。隱居自適。政和間

舉隱逸。朝廷旌以處士。後官至朝散大夫。潛心淨業有大感悟。日誦彌陀經七過。佛號萬聲。十九年未嘗間絕。一日無疾。沐浴面西加趺而化。

張迪。居錢唐。官助教。從圓淨律師授菩薩戒。咨問淨業法門。然臂香以為誓。每念佛揚聲勇猛。至失音猶不已。一日謂圓淨曰。弟子近於靜室見白色頻伽飛舞於前。又觀想中見嬰孩綠髮合掌問訊。後三年念佛西望而化。

賈純仁。霅川人。官至郢倅。潛心淨業長齋念佛。因微疾西向宴坐而逝。頂上白光圓相。異香滿室。

梅汝能。常熟人。仕至縣令。嘗有志淨業。忽夢僧授紙百幅鑿破為二八字。以問東靈照師。師曰。二八十六也。豈十六觀經之謂乎。適一僧以經與之。忽不見。自是誦經念

佛。取名為往生。以見志。因邑中破山道生師造丈六彌陀像。汝能施財百萬。為之救飾。設齋慶懺。殿前池中生雙頭白蓮一朵。其花百葉。當年冬汝能無疾而終。未幾道生亦亡。

憑檝遂寧人。號不動居士。由太學登第。初訪道禪林。晚年專崇淨業。作西方禮文彌陀懺儀。歸鄉郡作淨土會。感香爐中白光亘天舍利應現。靖康兵厄名山藏經多燬。檝積俸資造大藏經四十八藏。小藏四大部者亦四十八藏。造栴檀像彌陀九品化生。隨身奉供。後以給事中出帥瀘南。率道俗作繫念會。及鎮長沙。於廳事設高座。著僧衣登座。謝官吏橫柱杖於膝上而化。

吳秉信。四明人。築菴城南坐禪。製一棺夜臥其中。至五更令童子擊棺而歌曰。吳信叟歸去來。三界無家不可住。

西方淨土有蓮胎。歸去來。聞唱即起禪誦。檜相亡。召為禮部侍郎。後被召至蕭山驛令。家人靜聽空中聞天樂之聲。即曰。清淨界中失念來此。金臺既至吾當有行。言訖而逝。

錢象祖天台居號止菴。守金陵日。問道於保寧全無用。尤以淨土真修為念。嘗於鄉州建接待十處。皆以淨土極樂等名之。創止菴高僧寮。為延僧談道之所。自左相辭歸。益進淨業。嘉定四年二月微疾。書偈曰。菡萏香從佛國來。琉璃地上絕纖埃。我心清淨超於彼。今日遙知一朵開。後三日僧有問疾者。公曰。我不貪生不怖死。不生天不為人。唯求生淨土耳。言訖加趺而逝。時天鼓震響異香芬郁。未終之前。子侄郡人同夢。空中有云錢丞相當生西方蓮宮為慈濟菩薩王仲回。無為人。官司士參軍。因楊傑為說淨土之法。念佛益進。未亡前七日。預別故舊。端坐而

化。時傑守丹陽。夢仲回來謝云。向蒙指示今得往生。再拜而去。已而訃至。

庾詵。新野人。蔬食布衣不事產業。少與梁武帝善。詔為黃門侍郎不赴。宅內立道場。六時禮懺誦法華經。忽後夜見一道人自稱願公。容止甚異。呼詵為上行先生。授香而去。後寢病驚覺曰。願公復來不可久住。舉室咸聞空中唱上行先生。已生彌陀淨土。詔諡貞節處士。

王日休。龍舒人。為國學進士。著六經訓傳數十萬言。一旦捐之曰。是皆業習非究竟法。吾其為西方之歸。即布衣蔬食惟佛是念。日課千拜夜分乃寢。嘗為淨土文十卷。簡易明白覽者無不信服。一夕厲聲念佛。久之忽曰。佛來接我也。屹然立化。邦人夢二青童引之西去。

房翥。暴亡入冥府。王曰。據善簿。君曾勸一老人念佛。彼已得生淨土。君乘此福亦合得生。翥曰。尚欲誦金剛經萬卷。既而放還。後卒償其願。臨終異相。不違先報。

孫抃。武林人。號無諍居士(母龔氏別有傳)幼學易。因曰。易所以窮理盡性。何必區區為進取計。掩關晦迹居絕俗務。沙門守寧與之交。謂曰。白樂天以儒修身。以釋治性。君聞之乎。抃深契僧語。日閱華嚴金剛彌陀經。嘗夢至蓮池與清照亨律師同立其側。又夢一人持書金字梵體。讀之不解。人曰。請十三日齋耳。十二月十三日忽得疾。請妙光律師欲為祈禱。抃曰。生死已定何必禱之。乃與開導往生淨土之旨。即加趺作印西向坐化。翌日清照至為入龕歸菴。三日亦坐亡。應同立蓮池之讖。

王闡。四明慈溪人。號無功叟。凡禪林宗旨天台教門無不

洞達。著淨土自信錄。以明三身四土之旨。晚年專心念佛。西向加趺而化。異香滿室。焚龕獲舍利。如菽者百八粒。

孫忠。四明人。蔬食持戒蚤慕西方。於郡城東築菴。鑿二池種白蓮。臨池建閣。月集道俗念佛。期以三日。後於病中請道俗百人鑿念。忽仰視虛空合掌問訊。手結雙印怡然而化。闔城皆聞天樂異香漸向西沒。二子相繼念佛坐化。嘗因念佛見佛身現空中。即白佛言。惟願我佛少駐。使我二子同獲瞻禮。即走外尋二子歸。佛為駐立良久。後人因名其地曰駐佛巷(又有事迹見久法華傳)。

咎定國號省齋。為州學諭。常念佛讀淨土諸經。結西歸社以勸人。嘉泰初於小江慧光建淨土院。結石塔於池心。為鄉民火焚藏骨之所。印施念佛圖。月二八集僧俗。就淨土

院。諷觀經念佛以為常。嘉定四年夢青童告曰。佛令召君。三日當生彼國。至日沐浴更衣。端坐念佛而化。

樓汾。四明畫錦名門也。因兄寶洲究明佛理。每與沙門談道。汾必從旁樂聽。年二十二。忽得疾。乃一志西歸。謂父母曰。但得生淨土見佛。此道最高。仍令請僧說法開導。諷觀經設像幀對臥床。喜曰。真我師也。復請僧念佛千聲。即曰。吾已身在西方。乃瞑目面西念佛而化。

往生庶士傳

宋滿。隋時恒州人。念佛以小豆記數。滿三十石。設齋慶讚。佛二大士化作三僧。至會乞食。滿曰。弟子願生西方。師來赴食。深副本心。事畢即見天花異香乘空而行。未久滿遂面西坐化。

高浩象。東平人。杜門靜坐專誦無量壽經。觀中汎紅蕖於玉沼。初未見佛。乃即華上傾心致敬。遙睇佛之金容光輝遠映。一夕見眾菩薩來迎。奄忽而化。

并州汾陽老人。於法忍山借房止宿。念佛忽大光遍照。人見其登蓮臺而去。

鄭牧卿。滎陽人。舉家念佛。唐開元中病篤。有勸進魚肉者。確乎不許。手執香爐求願往生。忽異香蔚充。奄然長逝。舅尚書蘇頲夢寶池蓮開。牧卿坐其上。

張元祥。長安人。常念佛不輟。一日催家人云。西方聖人待我齋畢同往淨土。及事訖。果索香火。加趺面西而化。

李知遙。長安人。率眾為五會念佛(唐大歷中。法照師於衡州開五會念佛。今李知遙為五會。應是師法於照。五會者。當是五日為一會也)忽出堂向空頂禮。空中有聲云。報汝李知遙功成果自招。引君往淨土同汝上金橋。即就床端坐而化。天香郁然。

元子平依京口觀音寺念佛誦經。忽聞空中音樂。即西向坐化。異香數日不絕。

左伸。天台人。從神照授菩薩戒。刻三聖像。誦法華三千四百部。金剛二萬過。後臥疾。命男沙門淨圓。唱法華首題。增受菩薩戒。夢三偉人立江臯召伸登舟。復請僧誦彌陀經。遽曰。我已見佛光。即端坐作印而逝。

范儼。家武林。讀法華經念彌陀佛常日不廢。忽見普賢菩

薩來報當生淨土。越一夕佛菩薩來迎。家人聞其謙謝云。
儼是何人實為難當。就座合掌而化。

孫良。家錢唐。隱居閱大藏。尤得華嚴之旨。嘗依大智律師受菩薩戒。日課佛萬聲。二十年不輟。忽語家人令請僧念佛以助往生。方半日望空合掌云。世尊菩薩已荷降臨。即退坐而化。

姚約。家雪川仙潭。潛心內典。有僧來謁。必遜居東道。謂不當以俗先僧也。覺海友師勸里人結淨業社。約實主其事。忽告友曰。久厭浮生不日西去。師可助我繫念。友遂日與持誦。一日就座而化。既而夢於友曰。約已往生師之力也。友曰。欲從公遊可乎。約曰。師世壽未盡。寺中景懿行當先至。閱月果終。懿蓋同社友也。

梅福。松江人。誦經持戒繫念淨土。臨終預知。即絕食飲水念勢至菩薩。至七日澡浴更衣。端坐告眾曰。勢至菩薩今來迎我。即座化去。

胡嵩。家雪川。平時多作佛事。忽夢佛呼曰。汝可造屋迎我。嵩乃往明因。建彌陀閣。以協此夢。臨終之夕忽云。佛放光照我。言訖而化。

唐世良。會稽人。持戒茹素念佛禮拜。年老疾病猶不就枕。誦彌陀經十萬過。謂家人云。佛來接我。言訖作禮即便坐逝。欲別利行人。時在道味山。夜夢西方異光旛華天樂。空中聲云。唐世良已歸淨土。

陸偉。錢唐人。為州都掾。中年厭世念佛。率眾結法華華嚴二社。各百許人。其法各人在家誦經一卷。日終就寺讀

誦。終日而散。如是二十年。遂成大會。嘗手書法華華嚴楞嚴圓覺金剛金光明等經。晚年子孫彫落更無餘累。忽一日易衣端坐。念佛而化。

李彥通。家會稽為鍛師。因開元繫念往預其會。忽悟世無常。歸心淨業。一朝得疾。遽云。我遊行淨土見二門扃鐺甚固。逡巡之際。見利行人開門引入。見蓮池樓閣佛菩薩眾。遂請晞經道果二行人。至臥榻前說法策道。舉家念佛西向坐逝。

陸浚。家錢唐。少事公門。久之棄去。以淨土為業。預西湖繫念會。每對佛懺悔必至垂淚道友相見說淨業因緣。纔十餘句。便悲咽感歎。惟恐此生之不度。三昧之不成。往生之未諧。我佛之未見也。臨終得病。請圓淨律師說淨土法門諷觀經至上品。淨謂之曰。此時好去。浚曰。眾聖未

齊且待少時。即起就竹床面西端坐。頃刻化去。

馮珉。上虞人。少事遊獵。有巨蛇為鄉民害。珉持槊往從之。見蛇在岩下與黃特相持。珉推巨石壓之。蛇竟死。後每思之慮蛇為怨對。乃求佛解釋。投志西方修懺念佛。如是十載。一夕請同修社人。相助諷彌陀經念佛號。次誦普賢懺罪偈願往生偈。即端坐合掌而終。

潭州黃打鐵每用工時。常念佛不絕。一日無病。託隣人書偈云。日夜丁丁當當久鍊成鋼。太平將近。我往西方。即座而化。

計公。四明桃源鐵工也。年將七十兩目喪明。里中咎學諭。以擘窠圖印施勸人念佛。計公初受一圖念滿三十六萬聲。念至四圖兩目瞭然。如是三載。念滿十七圖。一日念

佛忽氣絕。半日復蘇曰。我見佛菩薩令分六圖與咎學諭。是勸導之首分。一圖與李二公。此是俵圖之人。囑其子往謝學諭。言訖沐浴西向坐逝。

徐六公。嘉興農夫也。翁婆蔬食設像繫念。如是四十年。屢夢遊淨土。預作一龕。臨行之日易布衣草屨。入龕端坐。頃之即曰。佛來迎我。泊然而化。

沈三郎。家臨安。商賈為業。晚年回心念佛。一日病請僧講彌陀經設尊像。日夕西顧。忽易衣而終。須臾縮膝欲起坐。二子以易龕為難。曳脰令直。經半日欲斂。忽舉手出帛被矍然而坐。舉家驚避。二子急前扶衛。恐其子曳脰以肘節捶之。子曰。助父坐脫耳。茶毘有白鶴二十九隻飛翔雲表。久之西去。

往生女倫傳

隋文帝皇后。心敬大乘常持佛號。臨終之夕異香滿宮。時尼大明與后最愛。每念佛時。先著淨衣口含沈香。忽眾聞沈香氣滿室異常。頃之有光明如雲來迎。向西而去。

荊王夫人王氏。元祐中事西方甚精。恪獨一妾懈慢。夫人將逐之。其妾悲悔極加精進。一夕異香遍室。無疾而終。夫人忽夢。妾起居敘謝。因夫人訓責今獲往生。夫人曰。西方可往不。妾曰。但隨妾行。夫人隨之。見二池皆白蓮華。或榮或悴。妾曰。此皆世間發心修西方人也。人間纔發一念池中即生一花隨其勤墮榮悴各異。中有一花朝服而坐。其衣飄揚隨風消散。即見寶冠瓔珞莊嚴其身。妾曰。此楊傑也。又有一花朝服坐上。其花稍悴。曰此馬玕也。復前導數里。遙望金壇光明交徹。妾曰。此夫人化生處上

品上生也。徐訪楊傑則已亡。馬玕則無恙。後夫人於生日秉爐焚香。觀音閣佇立而化(荊王楫徽宗之子)。

吳氏縣君。都官呂宏妻。宏因異僧勸發妙悟佛理。吳氏閱金剛經頌亦契空寂。夫婦齋戒四十年。吳氏忽見巨迹三雙。皆金蓮花。數日又見其膝。又數日見其身。數日見其面目。即佛菩薩三聖人也。及見殿閣境界清淨。男子人問彼。佛如何說法。曰我得眼通未得天耳。如是三年。一夕微恙。自言。吾將西歸。言訖而逝。嘗事觀音列瓶缶數十以水滿中。手持楊枝誦呪必見觀音放光。灌諸器中。病者飲之必愈。世因號觀音縣君。

蔡氏縣君。居武林。早年孀居。持經念佛。每旦禮像。逾二十年。忽見金蓮花現空中。遽索平時修行課目。卷而懷之。安坐而逝。

馮氏。少師珣之女。承宣使陳思恭之妻。少多病。從慈受深禪師受教持齋。誦佛逾十年益精進。謂族黨曰。清淨界中失念至此。支那緣盡行即西歸。一夕語侍者曰。吾神遊淨土獲禮三聖。夫聞其語即相陪念佛。右脇安臥而逝。三日之間妙香芬馥。

陸氏宜人錢唐。朝請王璵妻。常誦法華晚年尤篤。淨土禮懺一會念佛萬聲。凡三十載因微疾忽聞天鼓自鳴。人方驚異。即面西端坐而化。兩手結印。續淨土傳陸師壽者即其侄也。

朱氏如一。欽成朱后之姪。歸於四明薛君。繡法華經一部十年而成。至化城喻針鋒綴舍利如粟連獲數十粒。一字一拜。禮法華者三。於經首題別致八萬四千拜。誦法華經三

月而通。刻擘窠圖勸人念佛。滿十萬聲。所化二十萬人。獨朱氏。旦夜誦之不可以數。紹熙四年為寶幢藏繡經。迎歸南湖。飯千僧為慶讚。是年微疾。請僧念佛。忽起加趺。薛君曰。吾家無是法。於是右脇吉祥而化。家人夢乘彩雲向西而去。

樓氏慧靖。四明揚帥樓璿之孫。適寺簿周元卿。嘗披味傳燈發明見地。尤以淨業為真修。晚年被疾。忽見蓮臺紫色。化佛無數。異香滿室。以語家人。亟令念佛頃刻而化。

周氏妙聰。周元卿之女。每感母氏華臺往生之瑞。嘗誦經念佛。願生安養。病中請僧行懺。自見其身著新淨衣。在樓閣上作禮念佛。謂家人曰。汝輩當勤修淨業。吾當於淨土待汝。即右脇吉祥向西而亡。

秦氏淨堅。家松江。厭惡女身與夫各處精持齋戒。閱華嚴經法華光明般若無虛日。晨昏修彌陀懺。日禮佛千拜。久之有光明入室中。面西念佛安坐而化。

鄭氏淨安。家錢唐。念佛誦經日無虛度。後得疾禱之於佛。聞空中聲云。汝行有期無得自怠。又見佛身金色。即奮身起面西端坐。令男僧義修諷阿彌陀經。倏然而化。其女夢母報曰吾已得生淨土。可說修師令知。

于佛子秦氏淨樂。家錢唐。其夫姓于。賣魚為業。有男販私商。常遭官事。秦氏愁苦。幾欲沈身於江。遇淨住寺照師。勸之曰。有此煩惱宿世怨家。枉自沈江不如念佛。秦氏醒然回心。即燼一指誓長齋三白。念佛十年不怠。見一切人皆稱佛子。一日請戒行人諷觀經。每一觀誦佛千聲。至像觀忽焉而化。

四明黃氏。早喪夫歸父舍修淨業。臨終稱佛結印履地徐行。儼然立化。家人篩灰於地以驗生處。見蓮花一朵生於灰中。

錢唐袁氏。因往靈芝受菩薩戒。即斷暈酒進修淨業。一家皆服其化。二十年不渝初志。一日病中請圓淨律師說法。忽見佛菩薩眾現前。端坐而化。

錢唐陳氏媼。從靈芝受菩薩戒。專心念佛日課千拜。常有舍利散經案上。臨終見化佛來迎。顧旁人語未及半。已凝然不動矣。

武林王氏。常誦法華念佛求度。一旦見菩薩大身住立空中。遂連聲稱菩薩高大菩薩高大。又云。恐女人足穢難升

花臺。語畢而化。

四明孫氏。寡居齋戒。禮誦念佛三十年不懈。手製衣衾鞋襪施僧不記其數。一日微恙。見異人立床前曰。宜勤精進。又夢八僧遶行懺室。身掛縵衣隨僧行道。遂沐浴淨衣。請僧行懺。於大眾前端坐誦經。至一心不亂。左手結印奄然而化。遠近皆聞空中奏樂。

上虞胡長婆李氏。夫喪後。日夜高聲誦彌陀經。凡十餘年。一旦有僧覆以緋蓋。告之曰。汝今月十五日夜子時去。問師何人。答曰。我是汝念者。婆遂會別諸親。至時果有異香光明。即端坐而逝。七日火化。齒如雪玉。舌如紅蓮。睛如蒲萄。皆精堅不壞。舍利不可以數。次日焚處生一花。如白罌粟然。

安吉王氏女。日誦彌陀觀音金剛諸經念佛求度。母病亡。既斂惡血流滴。女發誓曰。若我孝心真實。願臭氣不生。言訖流血即止。以舌舐漏處。絕無穢氣。父娶後室與同修淨業。女得疾請僧說淨土觀法。忽索衣吉祥而臥。手攬觀音手中幡。寂然不動。繼母篩灰於室以驗受生。見灰中印出蓮花數朵。

錢唐盛氏。日課觀經誦佛不輟。一日病中浴畢面西。問家人云。聞磬聲乎。淨土眾聖且至。已而合掌喜躍曰。佛菩薩已至。觀音手執金臺。如來接我登座。即奄然而化。

錢唐沈氏。念佛十餘年。日加精進。命工畫八尺彌陀像。病中安設床前。欣然曰。我何多幸。即請僧念佛相助。忽曰。見一僧長大授我金座。遂座前方執錦褥角。其座即行。恐有障緣。望眾更為念佛。眾皆勇猛厲聲。良久復

云。念佛功德已登金臺。此去不回矣。即瞑目而逝。

長安姚婆。因范行婆勸念佛。臨終見佛菩薩來迎。婆言。未與范婆相別。請暫駐少時。須臾范至。佛尚住空中。具言所見勝異。執手而化。

汾陽約山翁婆。每日嗟歎。世間無常無一可樂。月晦必請僧二員永夜念佛。翌旦設齋婆手自營辦。臨終之夕。咸見佛光入室。寶蓋覆於庭上。婆忽遷化。

汾陽裴氏女。專心念佛。以小豆為數。積滿十三石。報盡之日。索火燒香。口云。佛以花臺與我。今當往生。

汾陽溫靜文妻。病在床上。夫勸令念佛。二年不絕聲。謂夫曰。我已見淨土佛菩薩。後月當去。至期見金蓮花如日

輪。

醴泉孟氏女。久纏重病。沙門勸令念佛三年。謂夫曰。可急報諸親令來相送。暨畢集女焚香與眾念佛。見空中執錫沙門曰。汝當往生。已而佛菩薩至旛華排空。忽然遷化。

汾陽梁氏女。兩目俱盲。遇沙門勸令念佛。越三年雙目開明。後忽見佛菩薩幡蓋來迎。即日命終。

念佛道者陳氏。蹟禪師之母。師住廣平普會。迎侍方丈東室。翦髮為出家相。朝夕念佛。四眾稱為道者。後病中集緇素鳴磬念佛。兩日忽合掌瞻像。泊然而化。明日頂溫面色鮮白。師前一日夢母謂曰。我見尼師十餘來相召。師應之曰。此往生之祥。言已坐滅。面色變白。至是果然。

吳興陳氏。受持齋戒。誦法華五千部。金剛彌陀諸經各一藏。念佛滿三十年。一日不食。家人問欲何所須。答云。欲求見佛。言訖右脇而化。

會稽胡氏淨安。禮阿彌陀佛八萬四千相好者四會。偶微疾。見佛來迎。安庠坐逝。路人聞空中樂聲隱隱西去。

錢唐孫氏女。常念佛持呪。因病請清照律師至。謂曰。久病厭世願求往生。師為談淨土因緣大喜。至夜夢師持藥一盞。服之流汗。身心輕安。三日後語侍人曰。迦葉尊者來此。好金蓮華座。即瞑目結印而化。

仁和郭氏妙圓。長齋念佛。誦法華彌陀經及二懺。常諦觀落日對想西方。忽空中告云。郭妙圓決生淨土。清照亨律師。即其兄。嘗往寺中建繫念會。作百僧齋莊嚴淨土。臨

終之際請亨師說法。求佛接引。即時端坐凝然不動。

周行婆。家太平州。蚤年念佛專注。一夕互跪念佛。泊然而化。隣人見數僧自婆家出引婆騰空而去。

錢唐龔氏。晝夜念佛誦彌陀經。偶得疾。請亨律師指示西歸。講說未終端坐而化。老妾干氏亦念佛不輟。一夕夢龔氏告曰。我已得生矣。汝後七日亦當往生。至期果逝。

嘉禾鍾婆。日誦彌陀經十卷。餘時念佛。二十年為常課。一日語其子曰。見大白蓮華無數。一婦人端正好衣立我前。又眾僧在此何以供養。子云不見。遂無語端坐聳身而化。

潮山黃婆。持金剛法華專心念佛。暑中忽得痢疾。但飲水

不食。隣菴沙門善修常建念佛會。婆病中欲請修。修夢婆來。謂曰。將往西方。修未以為異。越二日婆西向念佛十聲。端坐而化。遠近皆見紅霞覆婆之屋。

雪川朱氏。念佛三十年。每讀金剛經以為聖賢在此不敢踞坐。後忽不食四十日。唯飲水念佛。先夢三僧入室各執蓮華謂曰。我先為汝種此蓮華。汝却歸來。既覺喜悅。乃請僧眾念佛為助即就座而化。

四明淨心女。不知姓。刺血自畫佛菩薩三聖像於羅木板凡一千片。普散與人。上有正信女淨心題云。願所修淨業速獲成就。不入母胎化生蓮沼。後不知所終。

嘉禾周氏。適庶民孫氏。同翁婆常時念佛。感室中佛像有光如螢。或現鮮華。或現佛菩薩像。三時必聞天樂或空中

誦經聲。

常熟陶氏。寡居常持普門品。夢白衣人授以蓮華令食之。又夢梵僧授以彌陀經。覺即能誦不假師授。一夕帳幌光明有彌陀像立經函上。每誦經時必於卷上迸出舍利。積以成合(已上三人。生前勝相若此。臨終必得往生。殆不能委知耳)。

項氏妙智。四明鄞人。寡居二女悉令為尼。同居楊氏菴。見人唯勸念佛。晚歲偶疾。謂女尼曰。多有尼僧相待西歸。乃請人念佛。忽曰。我欲坐化錯與作棺也。女曰。佛用金棺無嫌也。母喜諷上品觀。轉身面西。兩手作印微笑而逝(紹定六年)。

沈氏妙智。四明慈溪居。自幼蔬食念佛。長歸章氏。未嘗

中廢。施米貸被以濟饑寒。常誦彌陀經為日課。一夕微病念佛尤力。忽見佛菩薩居士長者擁立目前。燈光千點累累然狀如虹橋。即日右脇吉祥凝然不動(端平二年)。

沈銓家錢唐。同妻施氏專心淨土。請照律師依觀經繪九品往生圖。印施般若經。供佛飯僧。徑山天寧五剎皆建大殿像。平時諸善悉用回向銓及施氏前後命終。皆感化佛持錫接引西去。

往生惡輩傳

長安京姓本為屠。因善導和上勸人念佛。滿城斷肉京嫉之持刀入寺。興殺害意。導指示西方現淨土相即回心發願上高樹念佛。墮樹而終。眾見化佛引天童子從其頂門而出(天童即其識神)。

長安張鍾馗殺雞為業。命終見緋衣人驅群雞至唱言啄啄即四向上啄兩目。血流痛不堪忍。有沙門弘道。見之為設像勸令念佛。忽覺香氣滿室群雞散去。即端坐化云。

長安張善和。殺牛為業。臨終見牛數十來云。汝殺我。善和告妻。急請僧即為說觀經。若有眾生作不善業應墮惡道善友告令至心具足十念。稱南無阿彌陀佛。除八十億劫生死之罪。即得往生極樂世界。善和大叫云。便入地獄也。即以左手擎火右手捻香。轉身向西厲聲念佛。未足十念即云佛來也。已與我寶座。言訖而終。

金奩。家會稽業網魚。因天華寺利行人結生蓮社。蒙勸念佛。頓棄前業。日持佛萬聲。久之告家人云。我已見佛菩薩至門。已見金蓮華來迎我矣。即坐竹床結印而化。遠近

皆聞異香。

吳瓊家仁和。先為僧。因家務還俗。兩娶生二子。屠酤庖膾無所不為。遇造食殺雞鴨以手提起。唱云。阿彌陀佛子好脫此身去。每切肉時。口常念佛。及教村人念經修懺。忽眼上生瘤如雞子大。常切憂怖。乃造草菴獨居。旦夜繫念。依普賢行法發露懺悔。一日無病往諸家言別。來日去也。次日請道友念佛相助。將布衫換酒。飲訖大叫云佛來也。即便命終。

往生禽魚傳

裴氏鸚鵡。唐成都尹韋臯記曰。人有獻鸚鵡者。河東裴氏謂。此鳥名載梵經。智殊常類常狎而敬之。始告以六齋之禁及午後非時。終夕不食。或教以持佛名號。仰首奮翼若

善承聽。每清晨永夜發和雅音。阿彌陀佛聲聲相續。一日有憔悴容。訓養者鳴磬而告之曰。將去此而西歸乎。每一擊磬一稱佛。十擊磬而十念成。斂翼委足揜然而絕。案釋典十念成往生西方。又云。得佛惠者沒有舍利。遂命火焚之。得舍利十餘粒。貞元十九年九月記。

長沙鸚鵡。元祐間長沙郡人養一鸚鵡。俗呼八八兒者。偶見僧念阿彌陀佛。即隨口稱念。旦暮不絕。因以與僧。久之鳥亡。僧具棺以葬之。俄口中生蓮華一枝。人為頌曰。有一靈禽八八兒。解隨僧口念阿彌。死埋平地蓮華發。我輩為人豈不知。

天台鸚鵡。黃岩正等寺觀師畜一鸚鵡。常隨人念佛。後則常念阿彌陀佛不待教導。一日立死籠中。乃穴土以葬之。舌端生紫色蓮華。大智律師為頌之。有立亡籠閉渾閑事化

紫蓮華也大奇之句。

劉成魚。唐天寶中當塗漁人劉成李暉。載魚往丹陽泊舟浦中。李他往。劉遽見舡上大魚振鬣搖首稱阿彌陀佛。劉驚奔於岸。俄聞萬魚俱跳躍念佛。聲動天地。劉大恐盡投魚於江。李至不信。劉即用己財償之。明日於荻中得錢萬五千(十五貫也)題云還汝魚直。

往生續遺

慧海。隋大業時居江都安樂寺。專心淨業。得齊州道詮所遺無量壽佛像。殷勤禮懺。像忽放光。自是懇求往生愈切。一日面西趺坐。念佛而化。

馬子雲。唐時舉孝廉為涇縣尉押租綱。赴京遇風船溺被

繫。乃專心念佛五年。後遇赦因入南陵山寺持一食齋。忽謂人曰。吾一生坎軻。遂精持內教。今西方業成。行當往生安養。明日沐浴新衣。端坐合掌。異香滿戶。喜曰。佛來迎我。言畢而沒。

于昶。唐天后朝任并州錄事。晝決曹務夜判冥司。每知災咎陰為之備。都不形言。凡六年。丁母艱。持金剛經。更不復為冥吏。至八十四將終。忽聞奇香。遽謂左右曰。有聖人迎我往西方。即念佛而沒(報應記)。

魏世子。宋時梁郡人。奉佛精進。唯婦不信。女病死七日再省。即升高座誦無量壽經。下啟父言。兒去便往無量壽國。兒及父兄池中已有芙蓉大花當生其中。唯母獨無。不勝此悲。故歸啟報語竟復絕。母自是亦信法教(冥祥記)。

葛濟之。句容人。稚川之孫。故世事神仙。妻紀氏存誠佛法。旦夜不替。方織之次見雲日開明。投梭仰望。見西方如來真形幡蓋映天。心獨喜曰。經說無量壽佛今得瞻見。便頭面作禮。及引濟之同瞻。尚見半身。俄而隱沒。厥後夫婦念佛相繼而化(冥祥記)。

釋文慧。居嘉禾青龍。詩律高古與北峯印公為友。北峯亦好吟。慧奪筆責之曰。吾兄大法柱石。何必為此。北峯感之遂折節為學。卒為聞人。慧專志淨業。至老益厲。臨終聞空聲。云中品中生。

釋慧明。號晦菴。學於慧光僧錄。晚依菁山常照寺。與至叶修淨業。日課法華楞嚴圓覺。持彌陀聖號以萬數。慶元己未春示疾。謂弟子曰。吾學大乘求生淨土。今遂願矣。乃累足坐逝。眾聞天樂西來徘徊頂上。荼毘之餘。五色舍

利。不可以計。

釋智廉。居上虞化度寺。初遍參宗門。晚節一意西方。慶元改元秋八月。書偈別眾曰我夢中見阿彌陀佛大眾圍遶而說法云。諸上善人當須專修淨業。來生我國。說已即隱。我既見相往生必矣。即回身西向作印坐逝。

李秉。紹興中官也。領御藥院。初學禪於淨慈輝自得有省發。晚閱龍舒淨土文。日課佛號。與其子閣長元美殿長林師文等數十人。結淨業會於傳法寺。久之感疾。忽見彌陀佛以金圓光戴其首。越七日又見金華滿房。乃囑付親眷。書偈端坐。結印而終。

閻邦榮。池州人。因僧勸修西方。持決定往生咒。每旦向西一誦千遍。或率眾同持。如是二十年。紹熙元年春。偶

聞異香連日不消。家人夜夢二青衣侍立邦榮之側。其子又夢。彌陀放光遍照堂宇悉作金色。數日面西趺坐課佛。忽起曰。我去矣。行數步。舒手結印。微笑立化。

佛祖統紀卷第二十八(終)

往生高尼傳

宋道場法盛法師 宋丹陽道爰法師 宋金陵法藏法師 唐
積善淨真法師(長安) 唐廬山悟性法師 宋錢唐能奉法
師 宋四明慧安法師

往生雜眾傳

隋汶水二沙彌 宋雍州童行師贊 宋錢唐童行曇遠 宋會稽大善童行 宋仁和倪道者

往生公卿傳

唐太傅白居易 唐觀察使韋文晉(石晉) 翰林學士張抗(翁兒附) 宋少師鐘離瑾(母任夫人附) 宋朝請鍾離景融(瑾之子) 宋崇道鍾離松(附景傳) 宋主客楊傑 宋侍郎馬亮 宋朝奉馬玕(亮之子妻王氏附) 宋宣義馬永逸(玕之子) 宋宣義胡[門@重] 宋朝散葛繁 宋侍郎王古 宋司諫江公望 宋朝散王衷 宋助教張迪 宋通判賈純仁 宋縣令梅汝能 宋給事中馮[木*戰] 宋侍郎吳秉信 宋丞相錢象祖 宋司士王仲回 宋處士庾詵 宋龍舒王日休 宋居士

房翥 宋儒士孫抃 宋居士王闐 宋居士孫忠 宋學諭晷
定國 宋畫錦樓汾

往生士庶傳

隋恒州宋滿 梁東平高浩象 唐法忍山老人 唐滎陽鄭牧
卿 唐長安張元祥 唐長安李知遙 唐京口元子平 宋天
台左伸 宋武林范儼 宋錢唐沈銓(妻施氏附) 宋錢唐孫
良 宋仙潭姚約(景懿法師附) 宋松江梅福 宋霅川胡
嵩 宋會稽唐世良 宋錢唐陸偉 宋會稽李彥通 宋錢唐
陸沒 宋上虞憑珉 宋潭州黃打鐵 宋四明計打鐵 宋嘉
興徐六公 宋臨安沈三郎

往生女倫傳

隋文帝皇后 宋荊王夫人王氏(侍妾附) 宋馬朝奉妻王氏
(見馬玕傳) 宋呂都官妻吳氏 宋武林縣君蔡氏 宋陳承
宣夫人馮氏 宋王朝請妻陸氏 宋欽成后姪朱氏 宋周寺
簿妻樓氏 晝錦樓君妻周氏 宋松江秦氏 宋錢唐鄭氏
宋錢唐于佛子 宋四明黃氏 宋錢唐袁氏 宋錢唐陳媪
宋武林王氏 宋四明孫氏 宋上虞胡長婆 宋安吉王氏
宋錢唐盛氏 宋錢唐沈氏 宋長安姚婆 宋汾陽約山婆
宋汾陽裴氏 宋汾陽溫氏妻 宋醴泉孟氏 宋汾陽梁氏
宋念佛道者陳氏(蹟禪師母) 宋吳興陳氏 宋會稽胡氏
宋錢唐孫氏 宋仁和郭氏 宋太平周行婆 宋錢唐龔氏(侍
妾于氏附) 宋嘉禾鍾婆 宋湖山黃婆 宋霅川朱氏 宋四
明淨心女 宋嘉禾周氏 宋常熟陶氏 宋四明項氏 宋慈
溪沈氏

往生惡輩傳

唐長安京姓(屠業) 唐長安張鍾旭(殺雞) 唐長安張善和
(殺牛) 宋會稽金奭(漁捕) 宋仁和吳瓊(屠酤)

往生禽魚傳

唐裴氏鸚鵡 宋長沙鸚鵡 宋觀師鸚鵡 宋劉成魚

本朝飛山戒珠始集往生傳。厥後侍郎王古加以續傳。南渡以來錢唐陸師壽又增續之。四明默容海印復為續於後。凡二儒二釋繼成此書。今並刪削繁文。獨著平時念佛臨終往

生之驗。俾修淨業者有所慕焉。

往生續遺

- 隋江都慧海法師

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第二十九

宋景定四明東湖沙門志磐撰

諸宗立教志第十三

達磨禪宗

初祖達磨圓覺禪師 二祖慧可大祖禪師 三祖僧璨鏡智禪師 四祖道信大醫禪師 五祖弘忍大滿禪師 六祖慧能大鑑禪師

直指人心見性成佛。至矣哉。斯吾宗觀心之妙旨也。謂之

教外別傳者。豈果外此為教哉。誠由此道以心為宗離言說相故。強為此方便之談耳。不然何以出示楞伽令覽教照心耶。何以言大乘入道藉教悟宗耶。為同此宗撰達磨禪宗志(覽教照心見本志。藉教悟宗見達磨入道四行)。

初祖菩提達磨。南天竺香至王子。出家之後遇二十七祖般若多羅。付以大法。謂曰。吾滅後六十年當往震旦行化。多羅既亡。師演道國中。久之思震旦緣熟。即至海濱寄載商舟。以梁大通元年達南海(舊云。普通八年者誤。南海廣州)刺史蕭昂表聞。詔入見。上問曰。朕造寺寫經度僧有何功德。師曰。人天小果耳。上曰。何謂大乘功德。師曰。淨智妙明體自空寂。如是功德不於世求。上曰。如何是聖諦第一義。師曰。廓然無聖。上曰。對朕者誰。師曰。不識。上不契。師遂渡江。上後以問誌公。公曰。陛下還識此人不。上曰。不識。公曰。此是觀音大士。傳佛心印。

上欲遣使召之。公曰。闔國人去他亦不回(圓悟云。誌公已化去。十餘年達磨方至。何云同時。今祇要知大綱而矣)師既入魏。止嵩山少林寺終日壁觀(魏孝明武泰元年也)帝聞師異迹。三詔不至。就賜摩納袈裟金鉢銀水瓶。師面壁九年將示滅。命其徒曰。時將至矣。盍各言所得乎。道副曰。不執文字不離文字而為道用。師曰。汝得吾皮。尼總持曰。我今所解如慶喜見阿閼佛國。一見更不再見。師曰。汝得吾肉。道育曰。四大本空五陰非有。無一法可得。師曰。汝得吾骨。慧可禮三拜依位立。師曰。汝得吾髓。復顧謂可曰。世尊以正法眼藏付囑大迦葉。展轉傳授以至於吾。吾今付汝。汝當護持。并授袈裟以為法信。曰後二百年衣止不傳。法周沙界。聽吾偈云。吾本來茲土。傳法救迷情。一華開五葉。結果自然成。又曰。吾有楞伽經。是如來心地要門。可以照心。乃往禹門千聖寺端坐示寂。即大統元年十月五日也。門人奉全身葬熊耳山定林

寺。明年使者宋雲西域回。遇師手携隻履翩翩獨邁。雲歸為言。門人開壙視之。唯空棺隻履。師每以大乘入道理行二門。以誨學者(二門見傳燈錄)。

唐代宗朝諡圓覺禪師。塔曰空觀(昉師辨祖書云。智炬撰寶林傳。謂隻履西歸立雪斷臂傳法。偈識候語。皆與僧傳不同。或者謂後人附託之辭)。

二祖慧可(舊名神光)武牢姬氏。事達磨六年。一日問曰。諸佛法印可得聞否。磨曰。諸佛法印匪從人得。師曰。我心未安。乞師安心。磨曰。將心來與汝安。師曰。覓心了不可得。磨曰。與汝安心竟。初達磨以楞伽四卷授之曰。仁者依行自可得度。師告弟子曰。此經四世後轉成名相。一何可悲。師既傳法僧璨。謂曰。吾有宿累今當償之。遂往鄴都行化。隋開皇十二年。於管城正覺寺談無上道。有

和法師先講涅槃經。學徒稍稍引去聽法。和不勝憤。讒於邑令加以非法。師怡然委順而終。年一百七。塔磁州汾陽縣。唐德宗朝追諡太祖禪師。

三祖僧璨。初以白衣見二祖。問曰。弟子身纏風疾。請師懺罪。祖曰。將罪來與汝懺。師曰。覓罪了不可得。祖曰。與汝懺罪竟。宜依佛法僧。師曰。今見和上已知是僧。未審何以名佛法。祖曰。是心是佛。是心是法。法佛無二。僧寶亦然。師曰。今日始知罪性不在內外中間。其心亦然。佛法無二。祖大器之。即為鬚髮具戒已畢。復告之曰。達磨大師以正法眼藏密授於吾。吾今付汝。及以信衣。汝當護持。屬周武廢教。往來司空山積十餘年。隋開皇初居皖公山。傳法道信。優游江國。大業二年復還舊山。為眾說法。合掌儼立而逝。葬於山谷寺。唐玄宗朝。追諡鏡智禪師。

四祖道信。蘄州司馬氏。初為沙彌遇三祖。問曰。願和上與解脫法門。祖曰。是誰縛汝。曰無縛。祖曰。何為更求解脫。師言下大悟。既具戒。三祖授以衣法。武德中居破頭山。正觀中太宗三詔令赴京師。並以疾辭。帝命使者曰。若果不起即取其首。使諭旨師引頸受刃。使回以聞。帝彌加敬重。就賜珍繒以遂其志。師已傳法弘忍永徽二年九月安坐而化。塔於東山黃梅寺。唐代宗朝追諡大醫禪師。

五祖弘忍。蘄州黃梅人。母周氏(栽松道者。託胎周氏女事。已備載通塞志)師為童子。於道上遇四祖。問之曰。子何姓。答曰。姓即有。不是常姓。祖曰。是何姓答曰。是佛姓。祖曰。汝無姓耶。答曰。性空故無。祖默然識之。即詣其母語令出家。既傳法嗣居東山。咸亨中傳衣法與慧

能。後四年示寂。塔於東山。代宗朝追諡大滿禪師。

六祖慧能。新州盧氏。采薪養母。常入市聞客誦金剛經。問曰。從誰受。曰黃梅忍大師。云讀此可以見性成佛。能遂辭母至韶州。與劉志略為友。志略姑為尼。常讀涅槃。師暫聽即說。尼因問字。師曰。字即不識。義則任問。尼曰。字尚不識。何能達義。師曰。諸佛解脫非關文字。尼異之。號為行者。居人瞻禮請住寶林。咸亨中至黃梅。祖問何來。答曰。嶺南。祖曰。欲須何事。曰唯求作佛。祖曰。嶺南人無佛性。曰人有南北。佛性豈然。祖異之。謂曰。著槽廠去。乃入碓坊抱石而舂。經八月五祖俾眾各述一偈。若語意冥符則傳衣授法。時眾七百。上座神秀。乃於廊壁書偈云。身是菩提樹。心如明鏡臺。時時勤拂拭。莫遣有塵埃。師聞之曰。美則美矣。了則未了。至夜命童子寫偈壁間曰。菩提本無樹。明鏡亦非臺。本來無一物。

何假拂塵埃。五祖知之。夜令人召師。告之曰。佛以正法
眼藏展轉傳授。吾今授汝并以信衣。昔達磨初至。故傳衣
以明得法。今信心已熟。衣乃諍端。止於汝身勿復傳之。
師禮足持衣而出。通夕南邁。時道明上座聞之。即率人追
至大庾嶺。明先至。師擲衣石上求法。非為衣也。師曰。不思
善不思惡。正恁麼時阿那。个是明上座本來面目。明當下
大悟。禮拜問曰。上來密語密意外。還更有旨否。師
曰。我今所說即非密。若反照自己密在汝邊。明禮謝而
回。儀鳳元年至南海。遇印宗法師於法性寺。暮夜風颺剝
幡。二僧對論。一云幡動。一云風動。師云非風幡動。心
自動耳。印宗異之。請受禪要。因出信衣令眾瞻禮。印宗
即為剃髮。請智光律師於本寺。後當有肉身菩薩來此。
求那跋摩所造。嘗記云。後當有百二十年後。有大士於此
諦於壇側手植二菩提樹。記云。百二十年後。有大士於此

樹下說無上道。師乃坐樹下。大開東山法道。宛如宿契。明年歸韶州寶林(即曹溪也)神龍元年詔師入見。師上表辭疾。先天二年復歸新州國恩寺。既而示寂。弟子奉靈體反葬於曹溪。師化韶陽秀化洛下。南能北秀自此而分。上元元年肅宗遣使請衣鉢入內供養。永泰元年。代宗夢師請衣鉢還山。乃遣劉崇景頂戴而送。憲宗朝諡大鑑禪師。

述曰。六祖之後為二派。一曰青原思。思傳石頭遷。其下為曹洞雲門法眼。一曰南岳讓。讓傳馬祖。其下為臨濟潯仰。是為五家宗派。道一而已。而言五其宗者。由人世心病益多故治法屢為之變。一棒一喝一唱一和機用縱橫。殆不可以一律齊。猶應病與藥之義。汾陽作廣智歌明十五家宗風。是蓋示後人以遍參之意。可不知乎。

賢首宗教(附李長者)

初祖終南法順法師 二祖雲華智儼法師 三祖賢首法藏法師
四祖清涼澄觀法師 五祖圭峯宗密法師 長水子濬法師
慧因淨源法師 能仁義和法師

鎧菴之評謂。法界觀別為一緣。謂五教無斷伏分齊。然則若教若觀。徒張虛文。應無修證之道。至若清涼之立頓頓。浪言超勝法華(觀師判華嚴為頓頓。以天台判兼別。失如來意。又謂。華嚴是菩薩請超勝於法華也)。

圭峯之釋修門。未免妄談止觀(密師注法界觀修字云。止觀熏習造詣。鎧菴質之云。不知是何止觀。若次第者。到何位斷何惑顯何理。若一心者。何位圓融而修。何位圓融而證)自餘著述。矛盾尤多(賢首既自立五教。至起信論明觀法。則云。修之次第。如天台摩訶止觀。清涼既宗賢首。

及疏華嚴。則引用天台性善性惡三觀三德一念三千之文。然則教之與觀。進退兩失)欲別其源。撰賢首宗教志(賢首華嚴疏。起信鈔。圭峯圓覺疏。長水楞伽疏。所立義門。亦覺不同)。

法師法順。萬年杜氏。十八出家。師因聖僧道珍受學定法。凡世間輦痘。遇之者必能聞能語。至於驅園圃蟲誠惡性馬。德及異類所不可測。唐太宗詔問。朕苦勞熱。師之神力何以蠲除。師曰。聖德御宇微恙奚憂。但頒大赦聖躬自安。上從之疾遂瘳。因錫號曰帝心。師每遊歷郡國勸念阿彌陀佛。著五悔文讚詠淨土。路逢神樹鬼廟即焚毀之。正觀十四年十一月十五日。坐亡於南郊義善寺。雙鳥入房異香留室。塔肉身於樊川北原。有弟子謁五臺。抵山麓見老人。語曰。文殊今往終南山。杜順和上是也。弟子趨歸。師已長往。至今關中以是日作文殊忌齋。師著法界觀

門一卷。妄盡還源觀一卷。專弘華嚴。以授雲華智儼。儼授賢首法藏。其教遂行(此中當有智儼法師傳。本紀原文遺失)。

法師法藏。其祖康居國(在葱嶺鍊門北境居音渠)人來居長安。藏年十六。詣四明阿育王舍利塔。鍊一指誓學華嚴。則天朝為沙彌。策名宮禁。通天元年詔於太原寺開華嚴宗旨。感白光昱然自口而出須臾成蓋。萬眾歡呼。都講奏其事。則天有旨命京城十大德為授滿分戒。賜號賢首戒師。詔入大遍空寺。佐實叉難陀譯華嚴經。聖歷二年十月詔講於佛授記寺講堂。京師地皆震動。即日召對長生殿。師乃指殿隅金師子謂大經理深事廣文博義幽。非入理聖人。無以達其奧。是以立見邊之喻。曉無涯之法。以況法界體。師子喻法界用。其中立為五教。一愚法聲聞教。二大乘始教。三大乘終教。四大乘頓教。五一乘圓教。則天豁然領

解。乃著其說為金師子章。睿宗受內禪。請師授菩薩大戒。師糞衣糲食。講華嚴三十餘遍。楞伽密嚴梵網經起信論等十部。皆為義疏。先天元年十一月終於大薦福寺。贈鴻臚卿。葬神和原。師既亡。弟子慧苑。悉叛其說。滅後百年而得澄觀。

鎧菴曰。愚法小乘不說轉小成衍。又無別圓被接及法華開顯。則將畢世愚矣。始終圓頓四教。皆無斷伏修證分齊。至說起信論觀法。則云。修之次第如天台摩訶止觀。豈非有教而無觀耶。

法師澄觀會稽人。夏侯氏。出家於應天寺誦法華經。十四得度。乾元中學律於棲霞澧師。受南山行事於曇一。受菩薩戒於常照。傳關河三論於玄璧。江表三論之盛始於此。大歷初於瓦官傳涅槃起信論終南法界觀法藏還源記。復造

謁宗密。顯相。造新。遂李。帝宗。成。石。畫。朝。萬。
疏。了。瑞。心。尚。嚴。法。界。開。南。發。歷。徒。
等。明。瞻。大。涼。帝。部。華。云。嚴。師。終。目。衣。領。
摩。雲。五。俱。大。清。禮。進。欲。華。國。葬。夜。離。師。
維。慧。韋。眉。嚴。清。勅。所。說。問。涼。三。膝。不。臺。
華。謁。四。峨。講。妙。上。茶。國。法。憲。宗。清。十。過。宿。五。
法。計。臺。仍。以。和。烏。丘。年。大。統。八。垂。食。覲。
觀。禪。異。五。殿。授。譯。比。五。號。臘。手。一。禮。
止。宗。部。禮。法。內。為。教。如。和。加。臘。垂。一。禮。
習。南。諸。巡。懺。內。殿。授。譯。如。和。加。臘。垂。一。禮。
溪。決。諸。年。等。經。禮。藏。僧。元。印。二。歲。四。盡。僧。
荊。咨。書。一。方。講。禮。三。差。淨。金。百。二。尺。四。言。十。
從。名。乾。梵。十。行。召。袍。般。若。即。清。鑄。一。百。九。萬。淮。
十。無。竺。綜。專。節。納。賓。至。欲。司。壽。身。長。九。萬。淮。
。洗。陽。博。寺。誕。紫。與。不。與。有。寂。師。身。長。九。萬。淮。
大。洛。墨。通。嚴。宗。誕。紫。與。不。與。有。寂。師。身。長。九。萬。淮。
於。欽。儒。旁。華。德。宗。誕。紫。與。不。與。有。寂。師。身。長。九。萬。淮。
華。山。土。不。大。德。宗。誕。紫。與。不。與。有。寂。師。身。長。九。萬。淮。
雜。徑。此。莫。師。軸。涼。禮。譯。緣。然。有。六。妙。覺。二。筆。荆。
受。忠。此。莫。師。軸。涼。禮。譯。緣。然。有。六。妙。覺。二。筆。荆。
京。頭。理。軌。居。二。號。清。禮。備。預。因。豁。三。年。塔。瞬。帝。
東。牛。玄。儀。還。疏。賜。洗。帝。國。旨。三。年。室。仍。為。

指。出郊遠迎。美其尊師之有禮。師去賢首百餘年。遙稟其旨。所著疏記四百餘卷。講華嚴至五十遍。建無遮大齋十五會。弘法弟子三十八人。宰相裴休奉勅撰碑。

法師宗密。何氏。果州人。初得法於荷澤五世孫道圓。傳圓覺於涪上。得華嚴句義於病僧。即為他講。清涼語之曰。毘盧華藏能隨我游者。其汝乎。又嘗答其書云。子之所解猶吾之心。轉輪真子誠所謂也(師所著圓覺序云。講雖濫泰學。且師安叨沐猶吾之納。謬當真子之印)著圓覺華嚴涅槃金剛起信唯識蘭盆法界觀行願品等疏鈔及修證科儀凡九十餘卷。太和九年。文宗詔問佛法大意。賜紫方服號大德。會昌元年正月六日。坐亡於興福塔院。諡定慧。塔曰青蓮。

義神智曰。華嚴諸師不知眾生因理本具諸法。但說果上諸

法相即而已。若不談具。何能相即。故知果上依正融通並由眾生理本者矣。然則一家所談法門。一曰性體。此當正因。二曰性量。此當了因。三曰性具。此當緣因。具即是假假即空中祇一法性有茲三義。會之彌分。派之常合。雖一一遍亦無所在。當知他宗談乎法性。亦同今家性體性量。以彼皆云法性真如與虛空等。但闕第三性具之義。

法師子濬。嘉禾人。初依洪敏師學楞嚴。至動靜二相了然不生有省。聞琅邪慧覺道重當世。趨至其門。值其上堂。即致問曰。清淨本然云何忽生山河大地。覺喝云。清淨本然云何忽生山河大地。師俯伏流汗。豁然大悟。覺謂之曰。汝宗不振久矣。宜厲志扶持以報佛恩。師如教辭去。後住長水。眾幾一千。以賢首宗旨述楞嚴經疏十卷。行於世。

法師淨源。晉江楊氏。受華嚴於五臺承遷(遷師注金師子章)學合論於橫海明覃。還南聽長水楞嚴圓覺起信。時四方宿學推為義龍。因省親於泉。請主清涼。復遊吳住報恩觀音。杭守沈文通。置賢首院於祥符以延之。復主青鎮密印寶閣華亭普照善住。高麗僧統義天。航海問道。申弟子禮。初華嚴一宗疏鈔久矣散墜。因義天持至咨決。逸而復得。左丞蒲宗孟撫杭。愍其苦志。奏以慧因易禪為教。義天還國以金書華嚴三譯本一百八十卷(晉嚴觀二法師。同譯六十卷。唐實叉難陀譯八十卷。唐烏荼進本。澄觀法師譯四十卷)以遺師。為主上祝壽。師乃建大閣以奉安之。時稱師為中興教主(以此寺奉金書經故。俗稱高麗寺)元祐三年十一月示寂。塔舍利於寺西北。

法師義和。錫號圓澄。乾道中住慧因。遷平江能仁。閱淨土傳錄。以華嚴部中未有顯揚念佛法門者。乃著無盡燈。

以此經宗旨偏讚西方為念佛往生之法(文見樂邦文類)。

長者李通玄。唐開元七年。用新譯華嚴經造釋論四十卷。其立論以十處十會盛談法界。與藏師疏旨不同。又以教主請主等十別對勝法華。而不知法華是開權顯實之談。不識華嚴是兼別說圓之典。故多為吾宗所斥(長者事迹大略見通塞志六卷)。

慈恩宗教

初祖西天戒賢法師 二祖三藏玄奘法師 三祖慈恩窺基法師

賢師三時之教。立義疏闊。豈足以收一代之經。慈恩玄贊之作。觀心虧闕。豈足以通一實之典。恕之者則曰。此別

為一機也。當天台之興。南三北七為之掃迹矣。豈容慈恩崛起於四海永清之後。是不得不議也。撰慈恩宗教志。

法師玄奘。洛陽陳氏。年十一誦通維摩法華。時道基法師化行長安。師負笈西遊。從受阿毘曇婆沙雜心論等。基贊之曰。予遊講肆多矣。未見少年神悟若此。武德中在京師講雜心論。以不泥文相為世所服。僕射蕭瑀。奏住大莊嚴寺。正觀二年上表遊西竺。上允之。杖策西征。遠逾蔥嶺。毒風切肌。飛沙塞路。遇溪澗懸絕。則以繩為梁。梯空而進。及登雪山。壁立千仞。人持四棧。手足更互著崖孔中。猿臂而過。張騫甘延壽所未至也。過沙河逢惡鬼異類出沒前後。師一心念觀音及般若心經。倏然退散。稜山冰雪春夏不解。徒侶凍死者十之四。入鍊門峯壁皆鍊。即突厥關塞也。所歷百三十國。凡如來所化之地。泥洹堅固之林。降魔菩提之樹。迦路崇高之塔。那揭留影之山。皆

申禮敬。獲寶像舍利貝葉七十五部。耆山方等之教。鹿苑半字之文。馬鳴龍樹諸所著述。十八異執之宗。五部殊途之致。收羅研究悉得其文。雖七例八轉之音。三聲六釋之句。無不盡其微妙。既而祇羅國王。賜青象白馬。以助馱載。十九年正月歸長安。留守房元齡。備幢旛鼓吹釋部威儀。道俗數萬眾。以寶輦迎師。二月至洛陽。見上於儀鸞殿(時帝行幸洛京)尉勞勤至。問西域事迹。詔撰西域記。山川風俗前史未聞。詔就弘福寺與沙門道宣靈綱等同翻譯。二十年上新譯菩薩藏經顯揚聖教論。請上製聖教序。二十二年進瑜伽師地論。上親覽。歎曰。佛教廣大。猶瞻天瞰海。莫極高深。九流典籍若汀滢方溟渤耳。世言三教齊致。此妄談也。詔寫新譯經論。宣賜九道總管(時天下分為九道)展轉流布。詔於京師紫微殿西。別創弘法院。延師居之。選名德七人以自從。對上論道之餘。則與眾隨時翻譯。上令翻老子為梵文以遺西竺。師曰。佛老二教其致大

殊。安用佛言以通老義。且老子立義膚淺。五竺聞之適足見薄。遂止。永徽三年。表請創塔於慈恩寺。以奉藏梵本及兩朝御製聖教序。上許之。仍哀七宮亡人衣財以助其費。顯慶元年皇子生(中宗)神光滿室。上賜號佛光王。越月表請佛光王出家。詔落髮授歸戒。進金字心經法衣鉢具。二年帝幸洛陽。詔師陪駕。便道陳留。改葬二親。勅供給葬具。四年以玉華宮為寺。追崇先帝。詔師居之。譯大般若經。及四年成六百卷。麟德元年二月四日。告眾曰。幻泡之質何得久停。令眾稱彌勒。願與含識速奉慈顏。遂右脇累足。以手支頤。凝然不動。帝哭之慟。廢朝五日。五詔褒恤。用佛故事。以金棺銀槨葬於滻東。初臥病。明藏禪師問疾。見二長人捧白蓮至前。曰師從無始損惱有情。因今小疾並得消殄。師顧大眾合掌而聽。得非譯般若力轉重罪為輕受乎。初遊天竺。手摩門逕松曰。吾西求法可枝向西。吾若言歸枝可東指。既往枝果西。一日忽

東指。弟子曰。教主歸矣。因號摩頂松。師至天竺。遇龍
樹宗。欲從其學。其徒令服藥求長生。方可窮研宗旨。師
自念。本欲求經。恐仙術不就。有負宿願。遂學法相於戒
賢傳。唯識宗。賢時年一百三歲。蒙文殊付託。忍死以遲
奘。賢用三時教。一有。二空。三不空不有。起信論雖出
馬鳴。久而無傳。師譯唐為梵。俾流布五天。復聞要道。
師之功也。

法師窺基。代郡人。金吾衛將軍尉遲敬宗之子。母裴氏。
夢吞月而孕。六歲聰慧過人。項有玉枕指文如印。未成童
便能著書。初奘三藏得童子於西域。聰悟絕倫。嘗携詣敬
宗。宗呼基出拜奘。使誦所著兵書數千言。奘數目童子。
基誦畢。奘曰。此古書也。令童子覆之。不差一字。宗大怒
以基罔已將殺之。奘就囚出家。因念曩在天竺。起歸與之
與。卜者謂曰。師可東歸。弟子生矣。識既冥符。舉以告

宗。宗曰。此子悍暴豈堪受訓。奘曰。郎君器度。非將軍不生。非貧道不識。宗竟諾之。基怫然曰。得不斷欲茹葷血過中食聽此三事。乃可爾。奘念先以欲鉤牽。遂矯許之。正觀二十一年。奉勅落髮。時年十七住廣福寺。稟受奘師瑜伽師地唯識宗旨。撰述疏鈔及於百部。時號百部論師。東行博陵。或請講法華。造玄贊大疏十卷。永淳元年十一月。示滅於慈恩翻經院。御製像讚。勅諸寺圖形以祀。祔葬於奘師之塋。

義神智曰。慈恩玄贊之釋法華也。都無立行攝法入心成觀等義。專用唯識論定性滅種以通此經。茲乃徒援權文用證實教。然其談八識緣境廣狹。及轉識成智束智成身。與夫造業受報等說。厥功為多。

瑜伽密教

初祖金剛智灌頂國師 二祖不空灌頂國師 三祖慧朗灌
頂法師 龍門無畏法師 大慧一行法師

持密語以希顯驗者。非與夫解第一義者妙心一悟當座而
決。是以潔齊三業精明軌儀。誦專數言課充億萬。積月累
歲而用成無間。重精疊思而始獲一感。維茲瑜伽五部之
教。一切行果。廣大悉備。而於護國救世尤為至要。斯蓋
佛道顯仁藏用。所以禦外務而回不信也撰瑜伽密教志(梵語
瑜伽此云相應謂一切乘境行果所有諸法皆相應也)。

國師金剛智。西土人。親傳龍智阿闍梨法。唐開元七年抵
南海廣州以聞。詔入見。館大慈恩寺。夏旱詔禱雨。結壇
圖七俱胝像。約像開目即雨。閱三日像目果開。有物自壇
布雲彌空。須臾霈雨。詔褒之。明年辭遊雁門。不允。遷

居薦福。所至結壇作灌頂道場。二十年八月告其徒曰。白月圓時吾其逝矣。至期右遶毘盧遮那佛像。頂安貝葉趺坐而化。諡灌頂國師。塔於伊川。

國師不空。西域人。幼隨叔父觀光上國。值金剛智從之傳瑜伽義。智授梵本聲明論。旬日成誦。奇之引入金剛道場。驗以擲華。謂為勝己。師初求法。夢京師像皆東行。寤以問智。智曰。汝有受道之資。吾何靳哉。即授五部及蘇悉地儀軌。智沒奉遺教。西遊天竺。至師子國。遇龍智受十八會金剛灌頂及大悲胎藏建壇之法。傳經論至五百餘部。二十九年自師子國歸至廣州。採訪使劉巨濟。請建灌頂壇法。感文殊見身。度人千萬。天寶元年西城大石康居五國。入寇安西。召師入內。上親秉香鑪。師誦仁王護國密語。方二七遍。上忽見神兵可五百人。帶甲荷戈立於殿庭。師曰。此毘沙門天王第二子獨健。副陛下意往救安

西。請設食以遣之。至四月安西奏。二月十一日。城東北黑雲中見金甲人文餘。空中鼓角大鳴聲震天地。寇人帳幕間有金鼠齧斷弓弦。五國即時奔潰。須臾城樓上見天王形。謹圖其像以進驗之。即誦呪日也。乃勅諸道。於城西北隅置天王像(今城樓軍瑩立天王堂者即其故事)師每禱必張繡座手持木神。誦呪擲之。神自立於座。四眾環視。兩目瞬動。感格踵至。肅代兩朝。尊為灌頂國師。每以至理開發君上。加贈鴻臚卿晚年示疾就加開府儀同三司肅國公。食邑三千戶。辭不受。賜號大廣智三藏。大歷九年六月。示寂於大興善寺上廢朝三日。賜祭贈司空。諡大辯正廣智。塔舍利於舊居。師譯經七十七部。諸弟子得誦呪之法者。慧朗為最。故東夏以金剛智為始祖。不空為二祖。慧朗為三祖云。不空弟子有慧果者。元和中日本空海入中國從果學。歸國盛行其道(慧朗法師傳本紀失)。

鎧菴曰。華嚴頓施別圓。則無俟乎密。鹿苑專說小乘。則未易用密。唯方等般若二時。欲轉小成衍及被接入別圓。則如來始於此時有顯密二輪之用。若夫法華開顯。無小無大俱入一乘。殆猶日輪當午罄無旻影。所謂密者尚何施耶。自金剛智諸師。為末代機緣有宜密教者。故東傳此道以名一家。然嗣其後者。功效寢微。唐末亂離。經疏銷毀。今其法盛行於日本。而吾邦所謂瑜伽者。但存法事耳。

法師無畏者。甘露飯王之後也。遜國遺榮。出家學道。所至說法必有異相。至烏荼國演遮那經。眾見毘盧遮那四金字於空中。其徑尋丈(應是順西土梵書成形也)及過龍河。駝負經竟入水。無畏隨之。龍王請入宮。講法三日。開元四年至長安。帝先夢。梵僧來謁。及寤命工肖形於壁。洎師入對。即夢所見者。館之西明寺。稱為教主。秋旱詔禱

雨。師以數定為難曰。必欲致雨恐龍暴物。使諭曰。民苦旱久矣。暴風疾雨適足快意。即持鉢握小刀攪之。誦密言百過。俄有物若蚪。矯首出鉢。白氣盈空。語使人速歸。使回視見密雲如練。自講堂盤空而上。已而震雷風雨飄蕩廬舍。彌日方息。又以積雨不止。即捏泥為五媪。作梵語向之。若叱詈者。即刻而霽。譯毘盧遮那蘇悉地揭羅等經十餘部。弟子寶月一行。皆足受道。數求還西。上安慰不許。二十三年示滅。真體不壞。塔於龍門之西山(本朝太祖。乾德九年上幸洛陽龍門山廣化寺。問無畏三藏塔。瞻敬真體)。

法師一行。張公謹之孫也。初從普寂落髮。盧鴻一見奇之。謂寂曰。此子非君所能模範。當從其東請南詢可也。師所至倒屣迎之。凡西竺貝葉陰陽緯識。靡不窮究。傳密教於金剛無畏。結集毘盧遮那經疏登壇灌頂受瑜伽五部

子受出。識王。帝未此璞人。三弟首咨曰。視之媪甕。勸師曰。和聖病。當入見。答開歸里於師。曰。邢有道。停。當入見。即當一。復公。當。曰。師詔為萬橋王藏大杓謂國日新嚴者。師至。年祚至萬里吉日有魁。為一幸華侍。乃元以曰至曾豚史日敵人差駕於。謂乃開帝進。昭稗太七為則百年陪寂。算流開。帝進。昭稗太七為則百年陪寂。布西詭。師合都。七。遂。八。五日。僧水詭。師金成絕捕沒豚局語。十五。至溪卓天以幸而令盡一除云。十八。初前法號。上宗。斗出新乘時驗。十。僧。門。算。時。吉。亂。昭。師。北。日。積。句。歷。皆。福。老曰。自道。終之。至。於。日。乃。王。四。造。言。福。於算。之。社。祿。者。求。之。免。觀。道。閔。祈。歷一注民。吉。死。呪。得。座。誦。下。出。結。學除東撫行耳。終。當。泥。子。燕。若。洛。歷。德。清。復。國。里。許。當。泥。子。燕。若。洛。歷。德。國法水安萬少憂罪一媪於耳。曰。大。十。至算。及有歸忘坐六。於耳。曰。大。十。法求訣世鑒乃洗氏封大解爭謂定詔

七日顏貌如生。塔銅人原。諡大慧禪師。所著易論大衍歷。其目在唐書藝文志。

南山律學

始祖曇無德尊者(法正。毘多尊者弟子。四分律主。南山所宗) 二祖曇摩迦羅尊者(法時。西竺沙門。始依四分十人受戒。遠承法正) 三祖北臺法聰律師(元魏孝文時。本學僧祇。因考受體首傳四分。遠承法時) 四祖雲中道覆律師(聰之弟子。最初撰疏疏科六卷。以釋四分) 五祖大覺慧光律師(初從佛陀禪師出家。陀曰。此子宜先聽律。律是慧基非智不奉。若初從經論。必輕戒網。由是依覆通四分律。撰疏十卷) 六祖高齊道雲律師(從光受學。撰疏鈔九卷。判釋廣文) 七祖河北道洪律師(從雲受學。亦著疏文) 八祖弘福智首律師(稟戒之前。於古佛塔前。預祈顯

驗。蒙佛摩頂。身心泰然。方知感戒。及尋律部。多會其文。從洪受學。撰疏二十卷) 九祖南山道宣律師(輕重儀云。先所宗承首律師者)

鹿園初會多士未純。以故漸制諸戒用清三業。既屢被彈訶。復盛聞開顯。則世之為學。將有乘急戒緩之過。故於泥洹之夜。扶律談常。嚴飭來機毋忽學戒。是為以知常之心扶奉律儀。非同十二年中偏弘三藏之學也。維南山師。遠受佛寄。專典毘尼。盛述條章。深明持犯。所以正為末代之機宜也。入道之士。何莫由斯。三學相仍。茲為初步。撰南山律學志。

法師道宣。京兆錢氏。母夢梵僧語之曰。仁者所懷梁僧祐律師也。處胎彌十二月而生。九歲遍覽群書。十二善習文墨。十五師日嚴顏公(於倫反)十六誦法華。兩旬而徹。十

七落髮。二十依首師進具戒。三衣唯布。常坐一食。武德
四年再依首師學律。性好禪那期修正定。顏曰。戒淨定明
慧方有據。始聽未閑。持犯焉識。七年徙居終南紆麻蘭
若。始製行事鈔。正觀四年行般若三昧於清宮精舍。經九
十日。龍化人形禮覲聽法。沙彌染心顧盼其女。龍怒欲害
之。念師教誡頓息惡心。攝毒吐井。白師勿飲此水。及往
視之其井涌沸。又於雲際寺行此三昧。前後二十會。常感
天童為之給侍。十九年偕樊公翻經弘福。筆受潤文推為上
首。永徽元年復居紆麻。心勞疾發。忽毘沙門天王授以補
心之方(今和劑局方。有天王補心丹)復告師曰。時當像
末。不修禪誦。但起伽藍恐非比丘之正業。後在西明寺深
夜行道。足跌前階聖者扶足。師問何人。答曰。北天王子
那吒。奉命來衛。師曰。太子威力自在。天竺有可作佛事
者。願為致之。太子即以所寶佛牙授之。師夜捧行道晝藏
地穴。唯弟子文綱知之。師與天神往來。言此土靈縱西天

聖迹。計三千八百事。隨問隨錄。為感通傳。坐夏有功庭生芝草。隱居之地水涌白泉。操觚續傳則鴻儒服膺。封土築壇則梵僧稱贊。捷疾送奇華異果。非人獻甘露名香。若此之事不能畢記。乾封二年春。天人告師曰。師報緣將盡。當生彌勒內宮。十月三日。眾見空中旛華交列。異香天樂。天人同聲請師歸覲彌勒。上聞之。詔天下寺院。圖形奉祀。穆宗製讚曰。代有覺人為如來使。龍鬼歸降天神奉事。聲飛五天辭驚萬里。金烏西沈佛日東舉。稽首歸依肇律宗主。懿宗朝諡澄照。師所撰刪定僧戒本(一卷今所盛行)刪定比丘尼戒本(一卷)注僧戒本(三卷)戒疏(四卷)注羯磨經(二卷)羯磨疏(四卷)行事鈔(三卷)尼戒本(一卷)比丘尼鈔(三卷)拾毘尼義鈔(三卷)亡物輕重儀。章服儀。歸敬儀。正行懺悔儀。新學教誡儀(各一卷)法華義苑(三十卷亡本)釋迦方誌(二卷)佛道論衡(四卷)續高僧傳(三十卷)後續僧傳(十卷)廣弘明集(三十卷)三寶感通記(二卷)天人感通傳(一卷)大

唐內典錄(十卷)。

鎧菴曰。澄照婁感天神。揚摧律相。參諸異部。以四分為宗。撰述疏鈔破斥諸家。但據成實論師之說。以五義分通大乘。立為圓宗戒體(日本師為問以難)又立三種懺法。不依方等普賢。乃取唯識別教。以為末世初心懺重觀法。判位太高。不無可議。

律師允堪。錫號智圓。慶歷間主錢唐西湖菩提寺。撰會正記。以釋南山之鈔。厥後照律師出。因爭論遶佛左右衣制短長。遂別撰資持記。於是會正資持。遂分二家。

律師元照。餘杭唐氏。初依祥符鑒律師。十八通誦妙經。試中得度。專學毘尼。後與擇映從神悟謙師。悟曰。近世律學中微。汝當明法華以弘四方。復從廣慈才法師受菩薩

戒。戒光發見(詳見才法師傳)乃博究南山一宗頓漸律儀。常布衣持鉢。乞食於市。主靈芝三十年。眾至三百。義天遠來求法。為提大要授菩薩戒。會幾滿萬。增戒度僧。及六十會。施食禳災。應若谷響。所至伽藍必為結界。每曰。生弘律範死歸安養。平生所得唯二法門。政和六年秋九月一日。集眾諷普賢行願品。趺坐而化。湖上漁人皆聞天樂。葬於寺之西北。諡大智。塔曰戒光。常謂其徒曰。化當世無如講說。垂將來莫若著書。乃述資持記(釋事鈔)濟緣記(釋羯磨疏)行宗記(釋戒疏)住法記(釋遺教疏)報恩記(釋蘭盆疏)觀無量壽佛經。小本彌陀。皆有義疏。刪定尼戒本。凡百餘卷。雜著芝園集二十卷。

鎧菴曰。律師以英才偉器。受[怡-台+(由/卜)]悟弘四分之記。斯可矣。而乃別為觀經述新疏。抗分事理。專接鈍機。廢棄格言唯任臆說。此草菴輔正。不得已而條攻之

也。至於律家扶新之出。適足以扶不義以抗義戒之哉。

佛祖統紀卷第二十九(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十

宋景定四明東湖沙門志磐撰

三世出興志第十四

久遠劫來諸佛出世。已粗陳於釋迦本紀之前矣。今約三千如來。用明七佛繼興及今佛像末法滅之相。承之以彌勒下生。終之以樓至成佛。乃至星宿未來莫不略錄。茲蓋克論此方一須彌山南洲之化事。而十方剎土。正可以會通云耳。荊溪師云。必有一人最初先覺。遂以斯道轉覺後覺。相續不已覺者滋多。乃有十方三世諸佛。為明此義撰三世出興志。

梵語劫波。此云分別時節(智論)以人壽八萬四千歲。百年命減一年。減至十歲。百年增一年(或云子倍父壽)復增至八萬四千歲。如是一減一增為一小劫。二十增減為一中劫。總成住壞空四中為一大劫(新婆沙論)今論過去現在未來三世各一大劫。

過去莊嚴劫(此劫有成住壞空各二十小劫)

成二十小劫(每一小劫各一減一增後放此)

住二十小劫。有千佛次第出世。始自華光佛終至毘舍浮佛(過去七佛。有三佛在莊嚴劫。四佛在見在賢劫)。

九百九十八尊毘婆尸佛。姓拘利若。父槃頭。母婆提。子

方膺。侍者無憂。人壽八萬歲出世。居般頭婆提城。坐波波羅樹下說法。三會度三十四萬八千人。

九百九十九尊尸棄佛。姓拘利若。父明相。母光曜。子無量。侍者忍行。人壽七萬歲出世。居光相城。坐分陀利樹下說法。三會度二十五萬人。

毘舍浮佛第一千尊。姓拘利若。父善燈。母稱戒。子妙覺。侍者寂滅。人壽六萬歲出世。居無喻城。坐娑羅樹下說法。度十三萬人(長阿含經○按菩薩本行經。自毘婆尸等三佛相去。劫數遼遠。似不同在莊嚴劫中。今言七佛者。多準藥王經阿含經三世三千佛之義)。

壞二十小劫

空二十小劫(成住壞四者之相並於後賢劫中見)

見在賢劫。以多賢人故名賢劫(智論)

成二十小劫。自過去莊嚴劫壞空之後。至今。

賢劫初成時。光音天。空中布金色雲。遍覆梵天。注大洪雨猶如車軸。積風輪上結為水輪。增長至天住界。雨斷水退有大風起。吹水生沫擲置空中。作梵天宮殿七寶間成。水復退下如前風起。吹擲水沫成魔羅波旬宮殿。次造他化自在天。展轉至夜摩天宮殿。水復退下。大風吹沫造須彌山四寶所成。復吹水沫造三十三天七寶宮殿。復於山腹造四天王宮。及日月宮天七寶宮殿。及造空居夜叉頗梨宮殿。又於須彌四面作修羅城。七寶莊嚴。又吹水沫作七金山四大洲八萬小洲。周匝安置小輪圍山。金剛所成。如是

大風吹掘大地漸漸深入。置大水聚成七香水海及大鹹水海。又於地下造閻摩羅宮殿地獄住處。如是三千世界一時同成。此外更造大輪圍山。包裹此大千界。其中六欲須彌日月四洲。乃至小鐵圍山。各有萬億。此約經歷二十增減次第而成(起世經)。

第一小劫(減增)過去劫壞。一切有情久集光音天中。天眾既多居處迫窄。諸福減者應下居。

世間最初有一天子。從光音沒來生大梵空殿之中。是為梵王。經一減一增。念言。無有梵子來生我處(梵王先生後沒。經成住壞空六十小劫。以此為壽)。

第二小劫(減增)時光音諸天。來生梵世者。為梵輔天(壽四十小劫。即是自成劫第二增減劫。至第一增減劫時沒)。

第三小劫(減增)光音諸天。復有來生梵世者。為梵眾天(壽二十小劫。即是自成劫第三增減。至住劫第一增減時沒。或繼此來生者。前後不定則沒時亦前後不定也)漸漸下生六欲諸天人趣。以惡業力漸漸下生餓鬼旁生地獄。後成先壞。法爾如斯。時光音諸天福盡來下化生為人。或樂觀新地者。光明遠照飛行自在。無有男女之相。眾共生故。故名眾生。地涌甘泉味如酥密。以指試嘗遂生味著。失其神足及以身光。世間大闇黑風吹海。漂出日月置須彌山腹照四天下。時諸人輩見出則喜見入則懼。自茲之後乃有晝夜晦朔春秋歲數。終而復始。由耽地味顏色粗悴。地味既隱乃生林藤(樓炭經云兩枝蒲萄)復共耽食林藤復隱。便生自然粳稻無有糠[禾*會]。備眾美味。此食稍粗殘穢在身。為欲蠲除。便在二道。成男女根。情慾多者便為女人。宿習力故便生姪欲。夫妻共住。光音諸天後來生者入母胎中。

遂有胎生。是時先造瞻婆大城。乃至一切城郭。自然粳稻朝刈暮熟。刈後隨生米長四寸。時眾生并取二日糧。乃至取五日糧。漸生糠[禾*會]。刈已不生。眾懷憂惱。各封田宅造作田種。其後多有盜他田稻。便相拳鬪無能決者。議立一平等王賞善罰惡。便有刀杖殺戮。眾共供給號剎帝利(此云田主)自後諸王以此為首。時閻浮提天下富樂安隱。八萬郡國人民聚落鷄鳴相聞。無有病患大寒大熱。正行十善正法治國。人民愛敬壽極大久(諸經多言。壽極八萬四千以為增減之數。不言極久)後王不行正法。其壽漸減。至八萬四千歲時。身長八丈。百年命減一年身減一寸。如是減至十歲身長一尺。名為減劫之極。自此之後百年增一年(有經言。子倍父壽者。縱有此事。增減不齊)增至八萬四千歲。名為增劫之極。一減一增終而復始。增至八萬四千歲時。有金輪王出。七寶千子。治四天下國土豐樂。女年五百歲方嫁。此後凡遇增劫之初。皆有金輪王出世(長阿含

經)。

第四小劫(減增)乃至第二十小劫(減增)住二十小劫

第一小劫(減增)(○光音諸天來生梵世。最初為梵眾天者至此壽滿二十小劫於此劫歿)

第二小劫(減增) 第三小劫(減增) 第四小劫(減增) 第五小劫(減增) 第六小劫(減增) 第七小劫(減增) 第八小劫(減增)

第九小劫(減增)人壽減至五萬歲時。第一拘留孫佛出世。姓迦葉。父禮德。母善枝。侍者善覺子上勝。居安和城。坐尸利沙樹下說法。一會度四萬人。

減至四萬歲時。第二俱那含牟尼佛出世。姓迦葉。父大德。母善勝。侍者安和。子導師。居清淨城。坐烏暫婆羅門樹下說法。一會度三萬人。

減至二萬歲時。第三迦葉佛出世。姓迦葉。父梵德。母財主。侍者善友。子集軍。居波羅柰城。坐尼俱律樹下說法。一會度二萬人。

減至一百歲時。第四釋迦牟尼佛出世。本在一萬歲時。為觀眾生無機可度。至百歲劫末苦逼。故出乎世(長阿含經大智度論)。

減至八十六歲時。盡正法。一千四百年。

按法住記。佛告阿難。我滅度後正法一千年。由女人出家

減五百年。像法一千年。末法一萬年。善見論云。佛初不度女人。後為說八敬法。還得一千年。法苑云。天人答南山曰。佛錫杖在龍窟中。四十年住。為如來去後。有飛行羅刹。能說十二部經。詐為善比丘。食諸持戒者日別四百。為斷此惡故鎮龍窟中。復令正法增住四百年。像法增千五百年。末法增二萬年。

減至七十八歲。入像法八百年。是為今時正得壽(以佛滅二千二百年為約合減二十二歲。至理宗淳祐十一年。準之)。

減至六十一歲盡像法。二千五百年(解見前文)。

減至三十歲。入末法三千一百年。人長三尺。時饑饉災起。由人民皆行十惡。草菜米穀五種上味。悉皆隱沒。唯煎朽骨共為燕會。若遇一粒粟稗藏護如寶。六七年來天不

降雨。尚不得水。何況飲食。人多餓死。郡益空荒。七年七月七日其災方息。時有一人合集男女有福德者。凡得萬人。留為人種。人能行善。所須飲食。天即雨下(雜出阿毘曇論瑜伽對法論中阿含經莊椿錄等文)。

減至二十歲。入末法四千一百年。人長二尺。時疾疫災起。由人行惡復盛。俱遭病死。無人送埋。郡邑空荒。唯少家在。經七月七日其災方息。唯留萬人為種。人持善行。飲食衣服。天即雨下。

減至十歲。入末法五千一百年。人長一尺。女人五月便嫁。時刀兵災起。由人行惡轉盛。各起殺害之心。能行惡者。為人所敬。隨執草木瓦石皆成刀劍。更相殘害橫死無數。亦有厭惡入山隱藏。七日七夜其災方息。唯留萬人為種。人從隱處而出。更互相見。起慈愍心共行善法。衣食

所須天即雨下。由能行善壽復增長。復從百年命增一年(已上謂之小三災。但壞正報。若值大三災。則依正俱壞也)。南洲人壽至十歲時。刀兵劫起互相誅戮。佛法是時當暫滅沒(法住記)。

增至四十九歲時。入末法一萬年。月光菩薩出真丹國(即東土震旦也)說法滿五十二年。廣度眾生入涅槃後。首楞嚴經般舟三昧經先滅不現。餘經次第而滅。無量壽經後住百年。大度眾生然後滅去(本起經○案無量壽經云。當來之世經通滅盡。我以慈悲哀閔。時留此經止住百歲。其有眾生值斯經者。隨意所願皆可得度。南岳願文云。我今誓願。持令此經不滅。至彌勒佛出世)。

增至一百歲時。入末法一萬五千一百年。南洲人復修善。時十六阿羅漢與諸弟子。復來人中顯說無上正法度無量眾

令其出家(法滅盡經法住記)。

增至二百四十四歲入末法二萬九千五百年。法將滅時尚五百歲。一心修此法華三昧。即得六根清淨。故知末代亦有入大乘之機(淨名疏引普賢觀經)。

增至二百四十九歲。時盡末法三萬年。

增至七百歲時。十六羅漢弘法已畢(自下人世至今。應五千年說化)以一切經典舍利。收聚起塔。結加趺坐。圍遶此塔。俱沒於地。是為佛法滅盡之相。自此有千億辟支佛。出世說法利益眾生(法滅盡經○法住記。人壽七萬歲時。十六羅漢用七寶造窣堵波。釋迦遺身馱都。皆集其內。香花供養作如是言。我先受勅護持正法。及與天人作諸饒益。法藏已沒有緣已周。今辭滅度。先定願力火起焚身。時窣

堵波便陷入地住金剛際。爾時釋迦正法永滅。從此世間有七百俱胝獨覺。一時出現。人壽八萬歲時。獨覺聖眾復皆滅度。次後彌勒如來出現世間○記言七萬永滅。去末法太遠。今以經云七百歲為正)。

增至二萬歲時。鐵輪王出獨治南洲(俱舍論。金銀銅鐵輪一二三四洲。鐵輪王一洲。金輪王四洲) 增至四萬歲時。銅輪王出治東南二洲 增至六萬歲時。銀輪王出治東西南三洲。

增至八萬四千歲時。金輪王出治四天下。輪王成就七寶。一金輪寶者。若聖王出。天金輪寶忽現在前。輪有千輻天匠所造。輪徑丈四。聖王見之手摩輪曰。可向東方如法而轉。輪即東轉。王將四兵隨其後行。東方諸小王來詣拜云。善哉大王。願於此治。時聖王言。汝等當以正法治

化。勿使偏枉。諸王聞之。即從聖王巡行諸國至東海表。南西北方隨輪所至亦復如是。二白象寶者。王坐殿上忽現在前。即試習乘其上。清旦出城周行四海食時已還。三紺馬寶者。忽然現前。清旦乘行食時即返。四神珠寶者。忽現在前。置高幢上光照一由旬。城中人民皆起作務。謂是晝日。五玉女寶者。忽然出現。顏色端正冬溫夏涼。六居士寶者(諸經名典財寶)忽然出現。地中寶藏皆悉知見。七主兵寶者。忽然出現。智謀雄猛專任討伐。是為輪王七寶成就(長阿含經)。

第十小劫(減增)減至八萬歲時。第五彌勒佛出世。時閻浮提其地平正如琉璃境。叢林茂盛高三十里。八萬四千眾寶小城周遍天下。其中大城名翅頭末。七寶樓閣七重行樹。園林浴池八功德水。街巷道陌廣十二里。其土安隱無有怨賊劫竊水火刃兵飢饉之難。有明珠柱高十二里。光明逾日

服身。由便。消化。樹。儼。貪。造。家。十。正。勒。與。無。
 為人嫁。皆者。二。消。詣。曰。不。劫。門。三。彌。須。
 以僧。方。順。口。行。名。不。偷。羅。色。山。臺。
 之。法。百。和。食。入。然。王。心。相。婆。金。上。寶。
 取。佛。五。敬。飲。足。自。聖。之。更。大。紫。黃。奉。此。
 人。依。人。恭。者。具。老。輪。見。故。生。身。如。臺。見。
 眾。歸。女。心。一。味。既。轉。人。寶。生。身。如。臺。見。
 珞。說。天。常。慈。百。民。有。眾。此。佛。胎。丈。七。彌。
 璣。演。天。常。病。人。有。眾。此。佛。胎。丈。七。彌。
 寶。鈴。中。人。三。穫。人。前。寶。生。下。生。十。王。之。
 雨。寶。有。天。唯。七。氣。佛。珍。眾。當。下。生。十。王。之。
 上。吹。無。天。種。穢。諸。中。昔。宮。長。儼。共。分。
 柱。風。禪。一。蔽。及。滿。往。天。提。身。時。各。
 珠。上。歲。三。故。稻。以。天。藏。時。率。跋。量。家。毀。壞。
 吹。上。萬。如。殺。美。華。梵。寶。佛。兜。摩。量。家。毀。壞。
 來。城。八。不。香。蓮。大。大。迦。於。梵。無。在。便。
 時。覆。滿。定。持。有。赤。生。四。釋。薩。名。明。樂。即。
 風。彌。命。禪。生。生。四。釋。薩。名。明。樂。即。
 香。網。壽。遊。導。老。裂。盡。子。言。勒。菩。母。光。不。門。
 照。寶。丈。樂。心。者。時。佛。寶。各。時。梵。寶。空。婆。
 常。眾。六。妙。慈。三。之。念。七。各。修。坐。苦。諸。
 夜。十。受。勒。三。之。念。七。各。修。坐。苦。諸。
 晝。用。長。日。彌。利。便。下。佉。著。死。父。相。觀。已。

常。知有為法皆悉磨滅。修無常想。讚過去佛無常之偈。諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅為樂。說此偈已出家學道。詣翅頭末城外金剛莊嚴道場龍華菩提樹下(枝如寶龍吐百寶華。故名龍華)即於是日初夜降魔成道。釋梵四天請轉法輪。時僂佉王與八萬大臣俱求出家。須髮自落即成沙門。時彌勒佛與僂佉王等諸比丘僧天龍八部。入翅頭末城中央。其地過去諸佛所坐金剛寶座。自然涌出。佛於此座轉正法輪。時諸婆羅門長者須達那。今須達長者是。轉輪王寶女(即玉女寶)舍彌婆帝。今毘舍佉母是。彌勒親族須摩提。今善賢比丘尼是。各與八萬四千人出家學道。時僂佉王千子俱求出家。唯留一子用嗣王位。彌勒世尊初會於金剛座上說法。九十六億人得阿羅漢。二會於城外華林園說法。九十四億人得阿羅漢。三會復在華林園說法。九十二億人得阿羅漢(西域記。波羅柰國彌勒受記成佛處。佛告彌勒。三會說法。其得度者。皆我遺法植福眾生。在家出

家。持戒犯戒。皆蒙化導。證果解脫。三會之度。乃化同緣善友)是時彌勒與無量人。登耆闍崛山頂。手擘山峯。摩訶迦葉即從定起。持佛僧伽梨衣授與彌勒。涌身虛空作十八變入般涅槃。收身舍利山頂起塔。彌勒佛住世六萬歲。入滅之後。諸天世人收取舍利。於四天下各起八萬四千寶塔。正法住世六萬歲。像法亦六萬歲(雜出彌勒下生經彌勒來時經。彌勒成佛經。賢愚經○菩薩處胎經去彌勒世有五十六億七千萬歲。處處經五十億七千六十萬歲。彌勒下生經。上生經。並云五十六億萬歲。莊椿錄。自佛滅取彌勒生。有八百八十萬九千二百年。諸說不同。未曾校算)。

十一小劫(減增) 十二小劫(減增) 十三小劫(減增) 十四小劫(減增) 十五小劫(減增)此減劫中。自第六師子佛下至欲樂佛凡九百九十四佛。相繼出興。說法度人(藥王經俱舍論)。

佛告頻婆娑羅曰。過去然燈佛滅後。有一獼猴。見羅漢入定。即取坐具披作袈裟。遶比丘行。比丘定起為說三歸五戒求菩提法。獼猴依教受已踊躍歡喜。緣樹墜死生兜率天。值一生補處菩薩為說無上道。從是以後值佛無數。於最後身。次彌勒後當成菩提。號師子月佛。今婆須密多是也(師子月佛經)。

十六小劫(減增) 十七小劫(減增) 十八小劫(減增) 十九小劫(減增)

二十小劫(減增)最後增劫中。第一千樓至佛。以本願力故出增劫。早出暮滅。是時人多厭世修諸禪定。住劫已極易可化度。但使性是沙門污沙門行。形似沙門被著袈裟。於彌勒佛所。得入涅槃無有遺錯(俱舍論大悲經)。

述曰。釋迦遺教不了之徒寄諸彌勒。彌勒遺教寄諸九百九十四佛。此諸遺教次第相寄。最後以寄樓至。樓至之世易可化度。苟或不了可謂極鈍。極鈍之機不免有待星宿之劫。悲夫。佛佛世世得逢遺教。縱未得出猶以為幸。倘因中間造極重惡。長劫無間則與佛相背。此為可痛。如目連入地獄問訊調達。獄卒報云。此有迦葉佛時調達。釋迦佛時調達。欲問何者。此雖大權難以情測。權必引實。寧無實報之輩。惟茲末代此土修行有教無證。欲祈易了。莫若專修淨土往生之行。則一登無生永居不退。後佛化化正可乘願來參影響之眾。寄言有志當思務進。

拘留孫佛人壽四萬歲時出。拘那含牟尼佛。三萬歲時出。迦葉佛。二萬歲時出。釋迦佛百歲時。彌勒佛八萬四千歲時。師子佛七萬歲時。光炎佛九萬歲時。柔仁佛六萬歲

時。華氏佛五十萬歲時。次復有華氏九億歲時。善月佛七萬歲時。現義佛百歲時出(云云)。第一千慧業佛(即樓至之華言)人壽八萬歲時出。賢劫千佛過已。六十五劫無佛(此皆一減一增小劫之論)然後有劫名曰大稱。往昔擇明輪王千子。於此皆同斯劫成最正覺。過是劫已竟。八十劫都無佛興。然後有劫名喻星宿。往昔擇明輪王八萬大臣。於斯劫中成最正覺。過是劫已竟。三百劫亦無佛興。然後有劫名重清淨。擇明輪王聖后采女成最正覺(賢劫經)。

述曰。俱舍論約三世增減。論三千佛出興之漸。賢劫經明諸佛出興。有久有近不定劫數。此有三意。一者佛赴機所說不同。二者結集部別不同。三者傳譯前後不同。難以和會(此例甚多)然粗論次第取證增減。則必以俱舍為本。慈恩劫章正取此論。

壞二十小劫(減增)火災壞至初禪(壞劫有火水風大三災。今賢劫中止論一番火災。若水風二災不在賢劫中。後當別釋三相)始從地獄終至梵天。有情世間經十九增減。次第壞盡。唯器世間空曠而住。乃至三千世界一切有情都盡。最後一增減劫方壞器世間(世間如器故名)有七日從海底出。大海盡竭須彌崩壞。風吹猛焰燒上梵天。悉成灰燼。乃至三千世界一時燒盡。此為依正俱壞。名為壞劫(順正理論)。

空二十小劫(減增)。自初禪梵世已下世界空虛。猶如墨穴。無晝夜日月。唯有大冥。如是二十增減之久。名為空劫(俱舍)。

未來星宿劫(千佛出興如天星宿)。成二十小劫(減增)。

住二十小劫(減增)。此劫中有千佛次第出。始自日光佛終至須彌相佛(藥王經)。佛言。我滅度後。若有勤修功德行眾三昧稱彌勒名行六事法(事六度也)必定得生兜率天上。亦隨彌勒下生。閻浮第一聞法。於未來世值遇賢劫一切諸佛。於星宿劫亦值諸佛受菩提記(彌勒上生經)。

壞二十小劫(減增) 空二十小劫(減增)○(成住壞空之相並如前釋)

有能一日夜持不殺戒。決定不逢刀兵災起。能以一訶梨勒果。起殷淨心奉施僧眾。決定不逢疾疫災起。能以一搏食施諸有情。決定不逢飢饉災起。東西二洲無根本三災。而有相似三災。謂嗔增盛似刀兵。身羸劣似疾疫。數加飢渴似饑饉。北洲根本相似俱無(新婆沙論)三災起時復有三種最極衰損。一壽量。謂極至十歲。二依止。謂身量極至一

搥手。三資具。謂以粟稗為食中第一。以髮為衣中第一。以鐵為莊嚴第一(瑜伽論○搥磔同陟各反周尺。人一尺。佛二尺)。

大三災者。一大劫終必一火災起(如前賢劫成住壞空八十小劫。為一大劫)如是經七大劫七火災。凡七壞初禪。復經一大劫。有一水災起。壞至二禪。如是七七火災。相間七水災。復經七火災。凡五十六番火壞初禪。七番水壞二禪。復經一大劫。有一風災起。總之為六十四大劫。為大三災始終之相(依俱舍論出義)。

初火災壞初禪者。災欲起時地獄罪畢來生人中。有定業者轉生他方地獄。乃至無有一情。名為地獄已壞。畜生餓鬼阿修羅亦次第盡。是時世間皆行十善。人身之內無有諸蟲。與佛身同。以由是時旁生壞故。時此南洲一人無師自

然得初靜慮(初禪也)從靜慮起唱言離生喜樂甚樂甚靜。餘人聞已皆入靜慮。命終並得生梵世中。東西二洲例此應說。北洲根鈍無離欲念。命終生欲界天。靜慮現前方能離欲。乃至人趣無有一情。名為人趣已壞。時欲界六天。一天自然得初靜慮。乃至並得生梵世中。名為欲界已壞。時梵世中一天自然得二靜慮(二禪也)唱言定生喜樂甚樂甚靜。餘天聞之皆入靜慮。命終並得生光音天。乃至梵世(大梵天也)已壞。始從地獄終至梵天。經十九增減。有情世間次第壞盡。唯器世間空曠而住。乃至三千三界一切有情同業壞盡。最後一增減劫方壞器世間。於此漸有七日輪出。有大黑風吹海水為兩披。初取一日置須彌腹日道中行。草木彫落。次取二日。河渠皆竭。海水漸涸七百由旬。三日出時。恒河俱竭。四日出時。阿耨池竭。五日出時。四大海水七千由旬一時竭盡。六日出時。大地火起靡不燒壞。七日出時須彌山壞眾山洞然。風吹猛焰燒上天宮。乃至梵

天無遺灰燼。自地火焰燒自宮殿。非他地災能壞他地。由相引起故說燒上。始從地獄至於梵天。於一增減劫次第壞盡。乃至三千世界一時俱壞。是為火災壞。初禪火災過後。世界空虛猶如黑穴。經二十增減之久。大雲降雨水長至天。吹風水沫作梵天宮。如是下至地獄如前建立(在前成劫說。雜出長阿含經。因本經。雜心論。顯宗論。順正理論。瑜伽對法論)。

次水災壞二禪者。當災起時。地獄餓鬼旁生四洲人趣六欲諸天。次第得生二禪。於二禪中時有一天。自然得三禪定。餘天聞之。皆入此定得生三禪。是時二禪中有俱生水界起壞器世間。猶水消鹽。一時俱沒(有說從三禪邊空中。欽然雨熱灰水。有說從下水輪涌水上騰)是為水災壞二禪。水災過後。如前空二十小劫。如前大雲降雨。風吹水沫成光音天宮。下至地獄後成。

三風災壞三禪者。當災起時。下地諸趣有情及六欲二禪。次第得生三禪。時有一天。自然得四禪定。餘天聞之。皆入此定得生四禪。是時三禪中有俱生風界起。壞器世間。吹諸天宮相拍粉碎。諸大山王亦皆拍碎。如風乾肢節悉皆消盡。是為風災壞三禪(有說。從四禪邊歛然風起飄擊。有說。從下風輪擊風上騰○出順正理論。瑜伽對法論)如是東方無量世界。或有將壞。或有將成。或有正壞。或壞已空。或有正成。或成已住。乃至十方亦爾。若有情世間。若器世間。業煩惱力所生故。業煩惱增上力所起故(瑜伽對法論)初禪內有覺觀火擾亂故。外為火災所燒。二禪內有喜水擾亂故。外為水災所漂。三禪內有出入息風擾亂故。外為風災所壞。四禪不定相續隨彼天生宮殿俱起。若天命終宮殿亦沒(雜心論)。四禪內外過患一切皆無(涅槃經)劫劫皆壞初禪者。為順初禪一劫壽故。次經八劫方壞二禪。為順

二禪八劫壽故。次經六十四劫方壞三禪。為順三禪六十四劫壽故(輔行)。

佛祖統紀卷第三十(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十一

宋景定四明東湖沙門志磐撰

世界名體志第十五之一

上窮寶焰下徹風輪。此華嚴所明一世界種。豎高則且約二十重。周圍則略得十一數。復由此數隨方各十。則總之為百十一。如天帝珠網分布而住。斯但舉其一分云耳。若推而廣之。則十不可說微塵世界。遞相連接周遍建立。各各佛出現。各各滿眾生。是為華藏莊嚴世界海也。若夫娑婆大千須彌四天下南洲五竺。東華震旦。若名若體。有說有圖。雖自廣以至狹。實舉別而會總。既明三世須辨方界。

此學者所宜知也。撰世界名體志。

華藏世界海圖 大千萬億須彌圖 四洲九山八海圖 三千大千世界圖 須彌忉利天宮圖 諸天通論

身量 壽量 衣量 身光 業因 報果 廣狹 凡聖 論
無色身處 論天主 論四禪四地

東華震旦地理圖 漢隋西域諸國圖 西土五印諸國圖 八熱地獄圖 十六遊僧地獄圖 八寒地獄圖

華藏世界品云(經七)此華藏莊嚴世界有須彌山微塵數風輪所持。最在上者名殊勝威光藏。能持普光摩尼香水海。此海有大蓮華。名種種光明藥香幢。華藏莊嚴世界住在其中。金剛輪山周匝圍遶○此中復有不可說

華藏世界圖

具嚴莊寶如界世微寶妙
 華寶如狀界世照普光淨
 環珠如狀界世塵離
 隅八狀其界世藏嚴莊寶
 甲龜如界世光淨清
 字卍如界世燦明光
 杵寶如界世光靜寂
 座虛如狀界世婆娑
 華旋如狀界世曜照明光
 月半如狀界世光寶青帝
 圓周狀其界世幢剛金
 彩大梵如狀界世聲音妙
 網求如狀界世地力威
 閣樓如狀界世醞華眾
 方四如狀界世光妙淨
 方普如狀界世光華妙
 華蓮如狀界世華明光
 隅八如狀界世光照普
 摩子師如狀界世華蓮香
 寶尼摩如狀界世光勝最

種界世明光寶

華蓮王尼摩

海水香光華妙

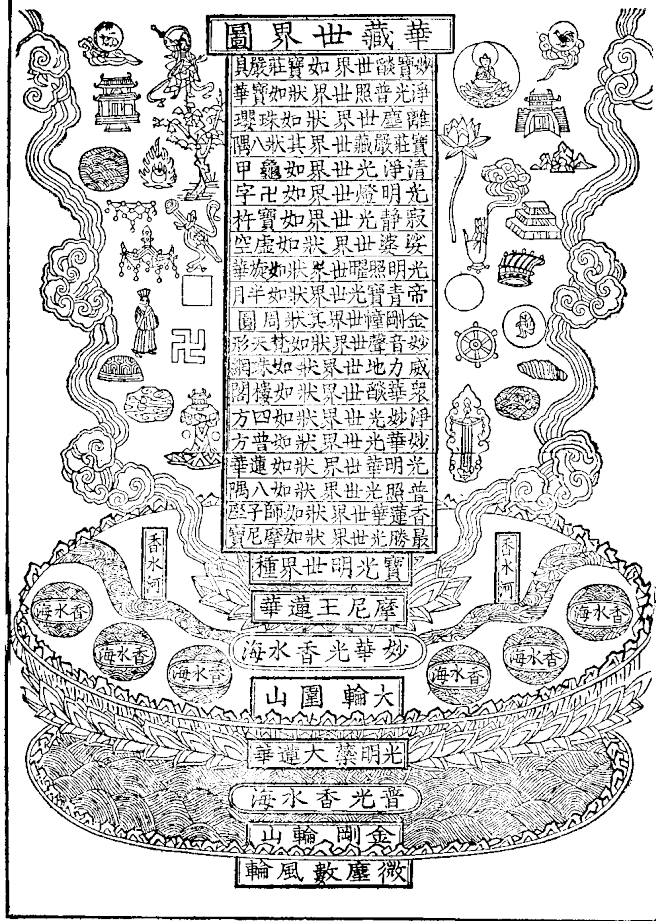
山圍輪大

華蓮大藥明光

海水香光普

山輪剛金

輪風數塵微



微塵數香水海。一切世界所有莊嚴。悉於中現。芬陀利華
十寶階陞欄盾。十寶尸羅幢。寶衣鈴網幢寶華樓閣寶蓮華
城。眾寶樹林悉共圍遶○一一香水海各有微塵數香水河。
右旋圍遶。常現寶色光雲。十方化佛及諸菩薩。於中涌
出。其中央香水海名無邊妙華光。出大蓮華名一切香摩尼
王莊嚴。有世界種而住其上。名普照十方熾然寶光明。有
不可說佛剎於中布列○最下第一重名最勝光遍照。狀如摩
尼寶。一佛剎塵世界圍遶。佛號淨眼離垢燈。第二重名種
種香蓮華妙莊嚴世界。狀如師子座。二佛剎塵世界圍遶。
佛號師子光勝照。第三重名寶莊嚴普照光世界。其形八
隅。三佛剎塵世界圍遶。佛號淨光智勝幢。第四重名種種
光明華莊嚴世界。狀如摩尼蓮華。四佛剎塵世界圍遶。佛
號金剛光明無量精進力善出現。第五重名普放妙華光世

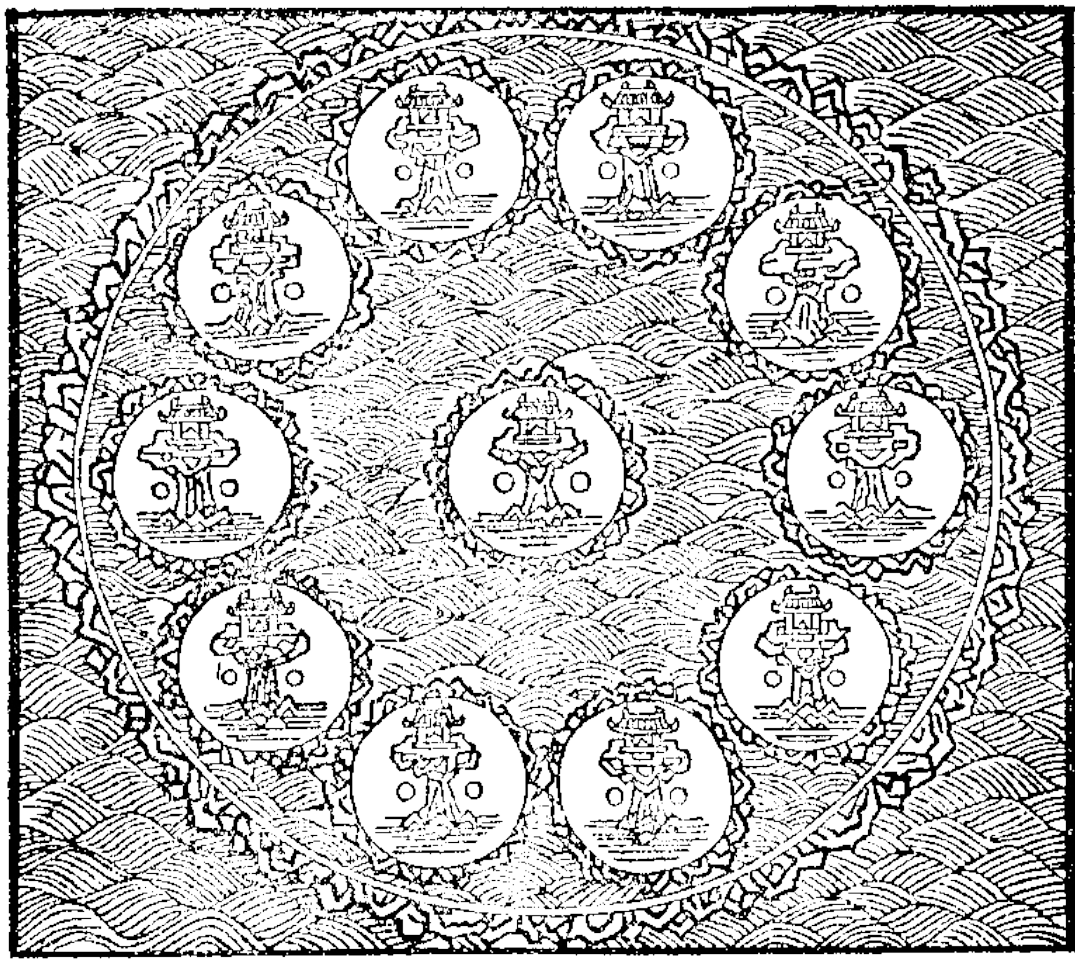
界。其形普方而多隅角。五佛剎塵世界圍遶。佛號香光喜
力海。第六重名淨妙光明世界。其形四方。六佛剎塵世界
圍遶。佛號普光自在幢。第七重名眾華焰莊嚴世界。狀如
樓閣。七佛剎塵世界圍遶。佛號歡喜海功德名稱自在光。
第八重名出生威力地世界。狀如因陀羅網。八佛剎塵世界
圍遶。佛號廣大名稱智海幢。第九重名出妙音聲世界。狀
如梵天身。九佛剎塵世界圍遶。佛號清淨光明相無能摧
伏。第十重名金剛幢世界。其狀周圓。十佛剎塵世界圍
遶。佛號一切法海最勝王。第十一重名恒出現帝青寶光明
世界。狀如半月。十一佛剎塵世界圍遶。佛號無量功德
法。第十二重名光明照耀世界。狀如華旋。十二佛剎塵世
界圍遶。佛號超釋梵。第十三重名娑婆世界。狀如虛空。
以普圓滿天宮而覆其上。十三佛剎塵世界圍遶。佛號毘盧
遮那(比即十蓮華藏微塵數相千葉盧舍那。一華百億國中當
第十三世界也)第十四重名寂靜離塵光世界。狀如執金剛

形。十四佛剎塵世界圍遶。佛號遍法界勝音。第十五重名
眾妙光明燈世界。狀如卍字。十五佛剎塵世界圍遶。佛號
清淨日功德眼。第十六重名清淨光遍照世界。狀如龜甲。
十六佛剎塵世界圍遶。佛號不可摧伏力普照幢。第十七重
名寶莊嚴藏世界。其形八隅。十七佛剎塵世界圍遶。佛號
無礙智光明遍照十方。第十八重名離塵世界。狀如珠瓔。
十八佛剎塵世界圍遶。佛號無量方便最勝幢。第十九重名
清淨光普照世界。十九佛剎塵世界圍遶。佛號普照法界虛
空光。第二十重名妙寶焰世界。狀如寶莊嚴具。二十佛剎
塵世界圍遶佛號福德相光明。此二十重上闊下狹。如倒安
浮圖○若廣說世界種所依形狀。數有剎塵。或名回轉形(清
涼疏躡褻往來之形)乃至江河形。旋流形。輪網形。壇墀
形。樹木形。樓觀形。尸羅形。幢形。普方形。胎藏形。
蓮華形。佉勒迦形(此云竹篙)眾生形。佛相形。圓光形。
網形。門闥形。須彌山形。諸莊嚴具如上世界。皆在無邊

妙華光香水海中。遞相連接成世界網。周遍建立○都有十
个二十重世界種。繞此中心世界種。總十一个二十重世界
種(經第九卷)○此十一个世界種。周圍至輪圍山。復有一
百个世界種。隨方各十。於中布列。近山周匝十个世界
種。各各上下四重。餘九十个世界種不言重數。共有一百
十一个世界種。如天帝網分布而住(經第十卷)○如是十不
可說佛剎微塵數香水海中。有十不可說佛剎微塵數世界
種。皆依現一切菩薩形摩尼王幢莊嚴蓮華住。各各莊嚴際
無有間斷。各各放寶色光明。各各光明雲而覆其上。各各
莊嚴具。各各劫差別。各各佛出現。各各演法海。各各眾
生遍充滿。各各十方普趣入。各各佛神力所加持。此一一
世界種中一切世界。依種種莊嚴住。遞相接連成世界網。
於華藏莊嚴世界海。種種差別周遍建立。

大千世界萬億須彌之圖

大千世界萬億須彌之圖



吳鎧庵曰。此圖即華嚴蓮華藏世界海。乃實報無障礙土也。昔海禪師雖出其相。而說義未周。止禪師說義頗悉。而未顯其相。今雙收二家。且考之經目。曰法華常在靈山。蓋依智者所指故也。

長阿含經。一日月行四天下為一世界。如是千日月。千須彌。千閻羅王。千忉利。千梵天。千鐵圍。名為小千。即數小千至滿一千。名為中千(即是百萬亦稱十億)即數中千復滿一千。名為大千(即是千萬萬亦稱萬億)其中須彌山王。四洲日月。乃至梵天。各有萬億(光明云百億須彌者億有四等。一十萬為億大千則當萬億。二百萬為億大千則當千億。三千萬為億大千則有百億。四萬萬為億大千則有十億。今言百億是第三之數。然此方以十萬為億為正數)成則

同成。壞則同壞。皆是一佛化境。號為娑婆世界(梵語娑婆此云堪忍)。

長阿含云。三千大千世界。復有大金剛山繞大海水。金剛山外復有第二大金剛山。二山中間窈窈冥冥。有八大地獄。日月神天所不能照○瑞應經云。迦維羅衛國者。三千日月(孤山疏大千也)萬二千天地之中(疏大千有萬億天地二千即中千小千也)○顯揚論。一日月之照臨名一世界。如是千日月。千六欲。千初禪。名小千界。復以千小千名中千。其中有一三禪一千二禪。百萬初禪。復以千中千為大千。其中有一四禪。一千三禪。百萬二禪。億萬初禪(準此當稱億萬須彌)○阿毘曇論云。從此須彌頂邊至彼須彌頂邊。十二億三千四百五十由旬。從此須彌中心至彼須彌中心。十二億八萬三千四百五十由旬從此山根至彼山根。十二億三千十五由旬。此佛所說。

四洲九山八海圖

俱舍論云。第一須彌山高廣各八萬由旬(長阿含。起世經。高八萬四千由旬。餘七山及鐵圍。次第減半)第一香水海。橫廣八萬由旬(起世廣八萬四千)第二持雙山。高廣各四萬由旬(諸山次第減半)第二香水海。橫廣四萬由旬(七海橫廣各隨七山高量。次第減半)第三持軸山。高廣各二萬由旬。第四擔木山。高廣各一萬由旬。第五善見山。高廣各五千由旬。第六馬耳山。高廣各二千五百由旬。第七障礎山。高廣各一千二百五十由旬。第七香水海。一千二百五十由旬。第八持地山。高廣各六百二十五由旬。第八大鹹水海。橫闊三十二萬二千由旬。中有四州(阿毘曇論。水際周圍三十六億八千四百七十五由旬)第九小鐵圍山。高廣各三百十二由旬(阿毘曇周圍三十六億一萬三百五十由旬)諸山入水皆八萬由旬。住金輪上。諸海皆深八萬由旬(今詳。自

須彌山心南向至本山際。八萬由旬。度七香水海十六萬由旬。度七金山八萬由旬。至七山南際臨海。凡二十八萬由旬。南北通徑凡五十六億萬由旬)○長阿含云。須彌山南有天下名閻浮提(此云勝金洲。新婆沙論名瞻部)其土南狹北廣。縱廣七千由旬。人面像此地形。有大樹名閻浮。圍七由旬。高百由旬。枝葉四布五十由旬。人壽百歲。中天者多○阿毘曇云。南洲衣服莊飾種種不同。一生欲事無數。亦有修行至死無欲○起世云。大海北有閻浮樹。此樹下有閻浮那檀金聚高二十由旬(以此勝金出樹下故。因以名樹名洲)○順正理論。有二十中洲。一遮末羅(新婆沙云羅刹住處)二筏羅遮羅。皆有人住○長阿含云。須彌山東有天下名弗于逮(此云勝身立世云弗提婆)其土東狹西廣。形如半月。縱廣九千由旬。人面像之。有大樹王名伽藍浮。圍七由旬。高百由旬。枝葉四布五十由旬。人壽二百歲(樓炭經云三百歲)飯食魚肉。以穀帛珠璣共相市易。有嫁娶禮○立

世阿毘曇論云。東弗提婆人多欲者。一生數至六七。亦有修行至死無欲。食自死魚肉自不殺生。頭髮剪前披後。著下衣竟上衣繞○順正理論云。有二中洲。一提訶。二毘提訶。皆有人住○長阿含云。須彌山西有天下名俱耶尼(此云牛貨。新婆沙云瞿陀尼)其土形如滿月。人面像之。縱廣八千由旬。有樹王名斤提。圍七由旬。高百由旬。枝葉布散五千由旬。人壽三百歲。以牛馬珠玉共相市易○阿毘曇云。彼土食肉殺生。人死燒屍。或置水埋土。嫁娶同南洲人。多欲者至十或十二。亦有至死無欲者。莊飾皆被髮上下著衣○順正理云。有二中洲。一舍攬(古獲反)二怛里拏。皆有人住○起世論云。斤提樹下有一石牛。高一由旬。因名瞿陀尼(因以名洲)○長阿含云。須彌山北有天下名鬱單越(此云最勝。新婆沙論名俱盧洲)其土正方人面像。縱廣一萬由旬。有大樹王名庵婆羅。圍七由旬。高百由旬。枝葉布散五十由旬。諸山浴池華果豐茂。眾鳥和

鳴。四面有阿耨達池出四大河。無有溝阬荊棘蚊虻毒蟲。自然糠米眾味具足。有摩尼珠名曰焰光。置自然釜鍍下(自然糠米者自生也。自然釜鍍者自燒然也。鍍方宥反。似釜而大)。飯熟光滅。有樹名曲躬。葉葉相次天雨不漏。彼諸男女止宿其下。有諸香樹。果熟之時。自然裂出種種身衣或器或食。河中寶船乘載娛樂。入中浴時脫衣岸上。乘船度水。遇衣便著。不求本衣。次至香樹手取樂器。並以妙聲和絃而行。其人無有眾病。顏貌同等髮紺青色齊眉而止。人起欲時熟視女人。彼女隨詣園林。若是父親母親不應行欲者。樹不曲蔭。各自散去。若非親者樹則曲蔭。隨意娛樂。一日至七日。爾乃捨去。彼人懷妊七八日便產。隨生男女置於四衢。有諸行人出指含[口*敕]。指出甘乳充遍兒身。過七日已其兒長成。與彼人等。男向男眾女向女眾。彼人命終不相哭泣(以人壽定千歲故不吊死)莊嚴死屍置四衢道。有鳥名憂尉禪伽。接置他方(阿毘曇云。其鳥啄

屍。至山外啖食之)其地柔軟隨足隱起。大小便時地為開拆。利已還合。其人前世修十善行來生此洲。壽命千歲不增不減。命終之後生天善處○阿毘曇云。北洲人多欲者。一生數至四五。亦有修行至死無欲○順正理論。有二中洲。一矩拉婆。二憍拉婆皆有人住○阿毘曇云。南洲人長三肘半。或四肘。東洲八肘。西洲十六肘。北洲三十二肘(起世云。南洲三半。東西洲同量。北洲七肘○一肘即當姬周尺八)○長阿含云南州有三事勝。一者勇猛強記能造業行。二者勤修梵行。三者佛出其土○新婆沙論。四大洲八中洲。人形短小。有說遮末羅洲唯羅剎住。復有五百小洲。或有人住。或非人住。或有空者○菩薩藏經。佛言。我觀世間眾生。常為十苦逼迫。一生。二老。三病。四死。五愁。六怨。七苦受。八憂。九痛惱。十生死流轉。眾生為得菩提出離如是逼迫○四教儀。在因之時行五常五戒中品十善。感人道身。

述曰。北洲人定千歲。故死不哭吊。佛不出生。故不聞佛法。此所以為八難之一也。昔人謂。列子載黃帝夢遊華胥氏之國者。即北洲也。未知其可。南洲有佛法可學故。大乘根器多生其中。以壽命短促眾苦逼迫故。怖畏發心勤修道行。此其所以為四洲之最勝也。

華嚴經云。三千大千世界以無量因緣乃成大地。依於水輪風輪空輪。空無所依。眾生業感世界安住。

新菩薩藏經。諸佛成就不思議智故。能行知諸風雨相。知世有火風。名烏盧博迦。眾生諸有覺受。皆由此風之所動搖。此風輪量高三拘盧舍(拘盧舍。此云一鼓聲。問。準雜寶藏經。五里為一拘盧舍。毘曇論。八拘盧舍為一由旬。即智論中品由旬。當四十里也)於此風上虛空之中。復有風

起。名贍薄迦。此風輪量高十由旬(云云)。如是次第輪上六萬八千拘胝風輪之相。悉能了知。最上風輪名周遍上界。為水輪之所依止。其水量高六十八百千由旬。為大地之所依止。其地量高六十八千由旬。是地量表。有一三千大千世界。

土水風輪會異

○土輪金輪 ○水輪 ○風輪

(○俱舍。共三十二萬由旬○起世。共四十八萬由旬○新菩薩藏。六十八千由旬○樓炭。上二十億萬里金粟金剛各二十億萬里○立世共三十二萬由旬○光明經。土深十八萬由旬。下有金沙。今據起世。四十八萬。此恐脫四字○起世因本經。水上有風吹轉此水。於上成金。如熟乳生膏。是

名金輪○增一阿舍。地深六十八千由旬○曇無讖光明經。
地深十六萬八千由旬)。

(○俱舍。八十萬由旬○起世。六十萬由旬○菩薩藏。六十八百千由旬○樓炭。八十億萬里○立世因本經。以眾王業力水不流散。如食未銷不墮熟藏)。

(○俱舍。百六十萬由旬○起世。三十六萬由旬○菩薩藏。六萬八千俱胝風輪○樓炭。五百二十億萬里○智論。大千世界。皆依風輪為基)。

(述曰。經論所出皆不能一唯俱舍立世略同。佛所說義不應有異。要是部主聽受機見有別。而譯師今古措辭之不同也)。

須彌山根上升一萬由旬。遶山縱廣一萬由旬。是堅首天住。復上一倍(因本二萬)遶山八千由旬。是華鬘天住。復上一倍(因本三萬)遶山四千由旬。是常放逸天住。復上一倍(三天皆云一倍者。皆以一萬增倍。至四天王為四萬由旬)○因本云。山半四萬二千由旬。四王所住)遶山四千由旬。是日月星宿天四天王天住(婆沙論)○須彌山下別有三級。諸神住處。皆有七重牆院。皆夜叉住(起世因本經)此三天皆藥叉住。四天王之所部(俱舍論)○日天宮殿。天金頗梨所成。縱廣五十一由旬。正方如宅遙看似圓(智論日月方圓五百里)有五種風吹轉而行。閻浮檀金以為妙輦。高十六由旬。方八由旬。日天子及眷屬居中受天五欲。日天子壽五百歲。子孫相承。皆於彼治。宮殿住持滿足一劫(歷成住壞空。八十小劫。為一大劫也)日天身光。妙輦宮殿光明相照。有一千光。五百旁照五百下照。日天宮殿常行不息。六月北行六月南行。月天宮殿。天銀青琉璃成。高十六由

旬。廣八由旬。月天子與諸天女在此輦中受天五欲。月天壽五百歲。子孫相承宮殿住於一劫。月天身光宮殿成千光明。五百旁照。五百下照。何因緣故。月天宮殿漸漸現耶。由日天有六十光障彼月輪。去日漸遠。故漸漸現。復何因緣圓淨滿足當十五日。月宮去日最遠光不能障。復何因緣黑月十五一切不現。此時月宮最近於日。日光隱覆一切不現。復何因緣月宮影現。此大洲有閻浮樹。高故影現月輪(起世因本)過去有兔行菩薩行。天帝試之索肉欲食。捨身火中。天帝愍之。取其焦兔置於月內。令眾生瞻之。知是菩薩行慈之身(西域記)南洲日正中。東洲日始沒。西洲日初出。北洲當半夜(起世因本經餘三方例知)日天宮牆地薄如華葩。為五風所持(長阿含)日月方圓五百由旬。而今所見不過如扇(智論)大星宮宅周七百二十里。中星四百八十里。小星百二十里(樓炭經)過去婆伽婆仙。分布諸宿曜(宿音秀)護國養人各有所主。東方七宿。角亢(晉岡)氏房

心尾箕。北方七宿。斗牛女虛危室壁。西方七宿。奎婁胃
昂畢觜參(音茲森)南方七宿。井鬼柳星張翼軫(大集經。諸
星形相姓氏祭物法度所主人物國主。並具在本經)佛在淨居
天宮。告諸宿曜。遊空天眾九執大天二十八宿十二宮辰。
說過去娑羅王如來所說熾盛光大威德陀羅尼除災難法。若
有國王及諸大臣。所居之處及諸國界。或被五星陵逼羅睺
彗孛妖星照臨所屬本命宮宿及諸星位或臨帝座。於國於家
及分野處。陵逼之時或退或入。作諸障難者。但於清淨處
置立道場。念此陀羅尼一百八遍。或一千遍(消災經)有九
種執曜。能令晝夜時分增減世間豐儉。其名曰日月熒惑
(火)辰(水)歲(木)太白(金)鎮(土)羅睺(火之餘氣)彗孛(土之餘
氣孔雀經)娑婆世界有八萬四千災變惡星(楞嚴經)毘沙門為
星宿之主(法華文句○論語曰。北辰。天文志曰。北極)須
彌山半四萬二千由旬。四天王居(智論因本經同。若阿毘曇
論。俱舍論。皆云四萬由旬)東方城名上賢。南方城名善

見。西方名周羅。北方名天敬(智論同)東方治國天王(諸經多云持國)領乾闥婆(此云尋香行帝釋俗樂神)毘舍闍(此云啖人精氣鬼又顛狂鬼智論作富單那)護東洲人。南方增長天王領鳩槃荼(此云厭魅鬼厭魔同睡中為鬼所著)薜荔多(此云最初餓鬼)護南洲人。西方雜語天王(孔雀經翻廣目又翻非報能與罪逆眾生不能現報)領龍及富單那(此云臭餓鬼智論毘舍闍)護西洲人。北方多聞天王領夜叉(此云捷疾今法會傳送符書使者是此類)羅刹(此云暴惡食人之鬼)護北洲人(出長阿含)。爾時毘沙門天王(此云多聞光明句記福德之名聞四方故)提頭賴吒天王(此云持國護持國土)毘留勒叉天王(此云增長令自他善根增長故)毘留博叉天王(此云雜語能種種雜語又廣目又惡眼專主罰惡令遇苦發心)俱從座起而白佛言。是金光明眾經之王(云云)。我等四王二十八部百千鬼神以淨天眼常觀擁護此閻浮提。是故我等名護世王(金光明經○光明句記經家先標北方者西土以北方為上○涅槃經譬如北

方之於東方為無上上四明正據此)○初地菩薩多作四天王
(華嚴經)四天皆有昏嫁行欲如人。化生小兒在膝上如二歲
小兒。未久自然寶器盛百味食天甘露漿。福多者色白。中
者色青。下者色赤。食訖便與諸天等量。初生憶昔往業。
戲已忘念(長阿含經)四天男女生時。若於女處膝上眼處生
者。天女作意此是我兒天男亦言此是我兒。若於父膝眠處
生者。唯有一父。諸妻皆得為母。四天欲事無數。亦有修
行至死無欲。一切欲界諸天亦爾(立世論)護世四王各有九
十一子有大威力。皆名曰帝。能護十方。一切山河樹木土
地城郭一切鬼神皆屬四天王(智論)○一王下有八將軍。四
王三十二將周四天下護助出家人。韋將軍於三十二將中最
存弘護。比丘道力微者為魔所惑。將軍恟惶奔赴應機除剪
(天人感通傳)。

忉利天宮之圖

忉利天宮之圖



昔婆羅門姓憍尸迦與知友三十二人共修福德。命終皆生須彌山頂。憍尸迦為天主。三十二人為輔臣(智論)○昔迦葉佛滅後有一女人。發心修塔報為天主。有三十二人助修。報為輔臣。君臣合之為三十三(淨名疏○梵語忉利此翻三十三天)○帝釋住首楞嚴定。未來成佛號曰無著(法華文句)。

須彌山四角各有一峯(婆沙論高廣五百由旬)金剛手藥叉於中住。守護諸天。山頂善見大城周萬由旬(婆沙論。山頂縱廣八萬四千由旬。其中平可居者止四萬由旬)重門高一由旬半。城有千門。各有五百青衣藥叉。嚴仗防守。城中殊勝殿周千由旬。其地真金雜寶嚴飾。柔軟如妬羅綿。隨足高下(順正理論)帝釋住處中央金城周千由旬(即殊勝殿)有五百門。中有樓閣。名皮禪延。四邊寶樓一百一所。一萬七千

房。一一房有七天女。一一女有七采女。其諸天女皆是帝釋正妃。帝釋與阿脩羅女舍脂共住。化身與諸妃共住(阿毘曇論)目犍連尊者遊歷小千界。無有端嚴如毘闍延堂者(雜阿含經○即毘禪延也)。城內衢巷。天人隨其福德屋舍多少。城路五百。中有七市穀米·衣服·眾香·飲食·華鬘·工巧·婬女。並有市官。天子天女往來貿易。商量貴賤。具市廛法。雖作是事無取無與。脫欲所需便可提去。是善見城復有天州天縣天村周匝遍布(起世因本經)城外四面有四苑。一眾車苑(起世因本云雜色車苑。雜阿含云東門外)隨天福德種種車現。二粗惡苑(起世云。粗澁苑。雜阿含云南門外)天欲戰時甲仗自現。三雜林苑(起世。雜亂苑。月八十四十五日三十三天放宮內采女入此園中與天眾合雜嬉戲受天五欲雜阿含云在西門外)諸天入中極妙

欲塵雜類俱至。四喜林苑(起世云入中歡喜雜阿舍在北門外)諸天所玩皆生歡喜。四苑各千由旬。各有一如意池周五十由旬。八功德水。城外西南有善法堂。三十三天時集辨論制伏阿素洛如法不如法事。東北有圓生樹。華開之日順風香聞百由旬。逆風猶及五十里(順正理論)善法堂最中有師子座(毘耶仙人經善法堂。有八萬四千柱。入此堂者無惡觸睡眠頻呻等過)。

帝釋升座。左右各十六天王隨坐。有二太子。是二大將軍。坐諸天王左右。持國天王與大臣軍旅恭敬諸天依東門坐。增長天王依南門坐。廣目天王依西門坐。多聞天王依北門坐。是四天王以世間善惡。奏聞帝釋諸天王。月八日四王大臣遍行世間。十四日四王太子行。十五日四王自行觀察善惡。若無多人受戒布施。帝釋聞奏憂惱說言。天眾減損。修羅日增(阿毘曇論)第一善法堂天(即帝釋)。第二住

峯天。三山頂天。四善見城天。五鉢私地天。六住俱吒天。七雜殿天。八歡喜園天。九光明天。十波利樹園天(即圓生樹)十一險岸天。十二雜險岸天。十三摩尼藏天。十四旋行地天。十五密殿天。十六鬘影天。十七柔軟地天。十八雜莊嚴天。十九如意地天。二十微細行天。二十一歌音樂天。二十二威德輪天。二十三月行天。二十四娑利天二十五速行天。二十六影照天。二十七智慧天。二十八眾分天。二十九住輪天。三十上行天。三十一威德顏天。三十二威德輪天。三十三清淨天(正法念經)○本為人時施飲食燈明錢財。故名釋提桓因(此云能天主)本為人時姓故名憍尸迦。舍脂為第一后故名舍脂鉢低。於一座間思千種義故名千眼。於三十三天為主故名因提利(中阿含經○本有千名。翻譯不足)帝釋有金剛杵力(孔雀經)○三十三天生時。天女手中華生。自知有兒。即以授夫。七日天生。善知天法。行宮殿中見無主天女。來言聖子善來此汝宮殿。我無

夫主今相供養(毘邪仙人經)天初生時如十二歲兒。於父母生處或兩膝兩股。忽然而生。即有寶器盛天須陀味及以天酒。隨福上中下有白赤黑色。飲食既訖。身量即與舊男女等(起世因本經)單修上品十善生忉利天(四教儀)。

諸天通論

身量(俱舍論) 衣量(長阿含經) 壽量(阿毘曇論俱舍同)
身光(智論) 飲食 業因(三界差別經) 報果 境量(婆沙論)
凡聖 論無色身處 論天主 論四禪四地

四天王身長半里。衣重半兩。人間五十歲為四王一日夜。即用四王壽命五百歲。計人間九百萬歲。為等活地獄一日夜。如是數等活壽五百歲。人間三百二十四億歲。為等活一年。忉利天身長一里。衣重六銖。人間一百歲為忉利一

日夜。即用此天壽命一千歲。計人間三億六十萬歲。為黑繩地獄一日夜。如是數此獄壽千歲。夜摩天身長一里半。衣重三銖。人間二百歲為此天一日夜。即用此天壽一千歲。計人間十四億四百萬歲。為眾合地獄一日夜。如是數此獄壽二千歲。兜率天身長二里。衣重一銖半。人間四百歲為此天一日夜。即用此天壽四千歲。計人間五十七億六百萬歲。為叫地獄一日夜。如是數此獄壽四千歲。化樂天身長二里半。衣重一銖。人間八百歲為此天一日夜。即用此天壽八千歲。計人間二百三十億萬歲。為大叫地獄一日夜。如是數此獄壽八千歲。他化自在天身長三里。衣重半銖。人間一千六百歲為此天一日夜。即用此天壽一萬六千歲。計人間九百二十一億六百萬歲。為熱地獄一日夜。如是數此獄壽一萬六千歲。摩羅波旬天壽三萬二千歲(俱舍論長阿含經阿毘曇)○色界壽命即用劫為量。梵眾天半劫(二十小劫)身半由旬。梵輔天一劫(以四十小劫為一劫)身一由

旬(四十里)大梵天一劫半(六十小劫)身一由旬半。少光天二大劫(此下並云大劫。即是總成住壞空八十小劫也)身二由旬(此下身量並隨壽量)無量光天四大劫。身四由旬。光音天八大劫。身八由旬。少淨天十六大劫。身十六由旬。無量淨天三十二大劫。身三十二由旬。遍淨天六十四大劫。身六十四由旬。無雲天百二十五大劫。身百二十五由旬(此天身壽俱滅三劫三由旬)福生天二百五十大劫。身二百五十由旬。無想天廣果天皆五百大劫。身五百由旬。無煩天一千大劫。身一千由旬。無熱天二千大劫。身二千由旬。善見天四千大劫。身四千由旬。善現天八千大劫。身八千由旬。色究竟天一萬六千大劫。身一萬六千由旬(長舍論阿毘曇)化樂他化二天。所著衣服隨心大小輕重。色界天不著衣服。如著不異。頭雖無髻如著天冠。無男女相形唯一種(起世因本)○無色界壽命者。空處二萬劫。識處四萬。無所有處六萬劫。非非想處八萬大劫。三界皆有中天。唯北洲兜

率天最後身菩薩無想天。皆定壽命不說中天(阿毘曇)空處
定行慧行各得一萬劫。識處定慧二行各得二萬劫。上二地
但有定行相倍。故唯六萬八萬(婆沙論)○諸天業報生身光
者。欲界諸天以燈燭明珠等施及持戒禪定等清淨故。身常
光明。色界諸天行禪離欲修火光三昧故。身常光明勝於欲
界。若釋迦常光面各一丈。諸天光明大者。雖無量由旬。
於丈光邊蔽而不現。四天王有四種色。紺赤黃白。欲界諸
天色皆如是。如初生時見紺華則身紺色(智論)○法苑云。
色界諸天以喜為食。無色界以意業為食。又云。色無色界
並以禪悅法喜為食。欲界諸天福厚者。甘露盈杯百味俱
至。福薄者雖有飲食常不稱心。故經云。譬如諸天共飲器
食隨其福德飯色有異。上者見白。中者見黃。下者見赤。
依正法念經云。夜摩已上盡色界天。貧富皆等。忉利已下
報有厚薄。故經云。有薄福天患飢下剎浮人中摘酸棗食。
又云。四天王天食天須陀味。園林池苑。並自然生一切

味。欲界諸天食亦如此○眾生具修十善得欲界天報。修有漏十善與定相應得色界天報。復有修四空定得無色界天報(三界差別經)○四王忉利。單修上品十善得生。若夜摩天已上兼修未到定。未入根本定故(未到定亦名欲界定。其法備見止觀)夜摩此云善時。時時唱快樂故。兜率此云知足。於五欲境生喜足故。化樂者於境變化而自樂故。他化者於自他境皆能自在化用故。已上四天悉是空居(四教儀集解)梵身天下有魔羅波旬諸宮殿(起世因本經)欲色二界中別有魔宮。其魔懷嫉。譬如石磨。磨壞功德。縱廣六千由旬。宮牆七重(樓炭經○大論。魔羅翻奪命。波旬魔王名。羅什云此翻殺者。常欲斷人慧命。涅槃疏。依於佛法而得善利。不念報恩反欲加毀。輔行魔字從石。梁武以來。謂能惱人易之為鬼。淨名經云。多是不思議解脫菩薩。應為魔王。垂裕記云。第六天上別有魔羅所居。他化天攝。即天子魔也)○大梵此云離欲。除下地繫上升色界(法華疏)梵王

無別處。但於天中有高樓閣者是(具舍論)大梵是君。梵輔是臣。梵眾民(法苑珠林)少光天。光明最少。無量光。光明勝前。光音天。無覺觀語言。以光當語。又此天語時口出淨光。少淨天。離喜受樂為淨。未及上位為少。無量淨天。清淨勝前。遍淨天。清淨周遍無有過患。無雲天下三禪皆依雲住。至此四禪方是空居(楞嚴作福生天)福生天。有勝福力者生(楞嚴作福愛天)無想天。外道所居。但受一期心想不行。受五百劫無心之報。報畢必起邪見來生地獄。廣果天。果報最勝。無雲福生。廣果。此三天凡夫住處。修上品十善修禪者得生無煩天。無見思煩惱雜故。無熱天。離熱惱故。善見天。定障漸微見極明徹。善現天。形色轉勝善能變化。色究竟天。色法最極是究竟處。此五天名五那含(此云不來。三果聖人居處。亦名五淨居。五不還天)○無色界。空處天者行人厭患色籠心欲出離。修觀破三種色(可見可對色。眼見色塵也。不可見可對色。聲

塵味觸也。不可見不可對色。意緣法塵。即無表色也)識處天者。厭患虛空無邊。修觀捨前外空更緣內識。無所有處者。外境名空內境名心。捨此二境入無所有。非非想處者。非識處之有想。非無所有之無想。捨有無二邊而入上定也。一切天眾皆作聖言。為彼言辭同中印度。然不由學自解典言(順正理論)○殺盜婬妄業。若生人中身色憔悴無有威德。若有餘業得天中身(應是忉利)形貌減劣。寶莊嚴具光明微少。天女皆捨。餘天輕笑。若與修羅戰為他所殺(正法念經)諸天命終五衰相現。一者衣服穢染。二者冠上華萎。三者兩腋汗流。四者體生臭氣。五者不樂本座(新婆沙論)○此三十二天。二唯凡住。謂大梵天王不達業因。說我能造化一切天地人物。恃此高慢。聖人不與共居。無想天唯是外道。修無想定受五百劫無心之報。受畢必起邪見墮於地獄。以故聖人不生其中。五唯聖住。謂五淨居天。凡生彼者要是進向那含。身得四禪發於無漏起熏禪業。或

起一品乃至九品。方乃得生。凡夫無此熏禪業。故不得生。餘二十五天凡聖共住(婆沙論)。

述曰。論無色界身處。初言無處者。婆沙云。四空離形報無別處。但在欲色二界成就四空無色業者。言無身者。俱舍云。無色無身。纂云。無業果色非異熟身。楞嚴云。是四空天。身心滅盡定性現前。無業果色。孤山釋云。非業果色顯有定果色也。次言有處者。起世云。倍色究竟。有果色處乃至非非想處。皆名諸天住處。華嚴云。菩薩鼻根聞空無色界宮殿之香。言有身者。阿含云。舍利弗滅時。無色天淚下如春細雨。仁王經列無色天眾。中陰經云。如來至無色界中諸天禮拜。大眾部云。但無粗色非無細色。淨名疏云。若不了義教明無色界有。涅槃云。無色界色非聲聞緣覺所知。今此所明當從後義。

述曰。論天主有通別二義。通論者。魔梵欲色各有主義。釋籤云。四天王主四天下(此言巡遊賞罰為主)大論云。帝釋為二處天主(四王忉利)魔王為欲界主(居欲界頂)大梵王為三界天主。淨名疏云。帝釋是地居天主。梵王是娑婆世界主。統御大千(統御上下)天人感通傳答南山云。魔王雖欲界主。帝釋四王若行佛法魔不能制。妙樂云。梵即色主。亦三界主。魔為欲主。輔行云。梵王為三界主。餘皆臣屬。別論者。於此又三初獨論梵王。文句云。梵王住禪中間。內有覺觀外有言說。得主領為王。單修禪為梵民。加四無量心為王。又云。梵王號令總上冠下。別行疏。梵即色主。名為尸棄。毘曇論云。二禪已上無語言法故不立王。禪門云。初禪有覺觀心則有語言法。主領下地眾生為便。二獨論摩醯。大論云。摩醯首羅八臂三眼騎白牛。又云。過淨居天。有十住菩薩號大自在。大千界主。灌頂

經。字威靈帝。華嚴經云。大千世界主摩醯首羅。涅槃疏云。若言世界主正是摩醯首羅。輔行云。摩醯首羅能覆大千。舉世尊之以為化本。三摩梵對論。涅槃疏云。摩醯首羅居色界頂主大千界。若法華中列世界主梵天王者。其實祇領小千。經家美之故言主耳。私謂(章安判云)此是大千之中。得為大千之主。降此不得大千界有萬億梵王。此處梵王尸棄。居大千之中。故稱為主。自餘諸梵所居既偏故不得為主也。今故斷之曰。摩醯處無色頂。以報勝為主。梵王居大千之中。以統御為主。

述曰。自昔談天者未知四禪四地之義。以由諸文森列不能區別耳。據因本經阿毘曇婆沙論等。皆以天名。次第豎高。相去倍遠。皆有住地。此等立義未足可憑。今依俱舍論云。梵天無別處所。但於梵輔中有高樓閣者是。法苑亦云。大梵是君。梵輔是臣。梵眾是民。據此則三天同在初

禪。祇一地耳。若薩婆多部。以無想廣果身壽不殊。同為一處。楞嚴經云。從福愛天有二岐路。福德圓明名廣果天。身心俱滅名無想天(二岐則是分二類耳此與薩婆義同。同一處也)。又經云。此中復有五不還天(此中者指四禪)四禪四位天王。但有欽聞不能知見。如世間深山道場阿羅漢。世間麤人所不能見。據此則知。祇一廣果稱王。而於此中具有五那含。一外道同居四禪。祇一地耳。次第禪門云。佛於仁王經說十八梵。亦應有民主之異又云。四禪中有大靜王。瓔珞經。明禪禪皆有梵王。楞嚴亦云。四禪四位天王。華嚴列眾三十九位。其間欲界則天天稱王。色界則禪禪稱王。餘天不列。今詳初禪既以大梵為王。而三經皆說四禪有王(仁王瓔珞楞嚴)則知光音遍淨廣果三天皆王。自餘皆一臣一民之義。今故依此等大乘經旨。自初禪至四禪。立為四地云廣果為王。福愛為臣。無雲為民。五那含一外道。則寄居廣果天中。已上九天同居四禪一地也

(二禪三禪例之)或以天天身壽不同。須各分處如諸小乘經論者。然梵王之與梵輔梵眾。若身若壽皆長短不齊。又廣果無想。雖五百劫。廣果則有中夭。無想定滿其報。以此論之。雖身壽不同不妨同處。亦猶閻浮之人有壽有夭也。又華嚴謂諸天王皆十地菩薩者。此等皆是權來引實。在於天中化諸實報之天。使求脫天業故得稱王。若謂王者隻居一處。與餘天隔異。則將焉用彼王。餘天何所依仰。不作此論。豈不大乖引實之義。或謂二禪已上無語言法(阿毘曇云)何以為化者。然光音既以光為語。則知上地諸天威儀進止無非言教。以是義推無不可者。

佛祖統紀卷第三十一(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：

2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十二

宋景定四明東湖沙門志磐撰

世界名體志第十五之二

東土震旦地里圖

區域之興帝嚳九州(冀兗青徐揚荊豫梁雍)舜十二州(以冀州土闊增置并幽營三州)夏禹平水土分別九州。周大封建。蓋千八百國。春秋之世見於經傳者。百二十有四國。下至戰國七雄并而為秦。懲周封建之弊罷侯置守。分天下為三十六郡。及南平百越。又置閩中南海桂林象四郡。兩漢以十

三州統治(漢武帝置十三部刺史)晉為十九州。唐為十道。
後又為十五。採訪使凡郡府三百二十有八。縣千五百七十
有三。宋朝元豐頒行。李德芻等所撰九域志。分為二十三
路(見於圖)郡凡二百九十有五。縣千一百三十有一。化外
羈縻之州不與焉。

漢盛時。四履之地。東樂浪。西敦煌。南日南。北雁門。
東西九千里。南北萬三千里。

古長城。戰國時趙築之。自代並陰山至高闕(二州名)以備
胡。燕亦築媯州之北至遼東。秦始皇令蒙恬築長城。起臨
洮入高麗。

四瀆。河出積石。江出岷山(松州嘉誠縣)淮出桐柏(唐州)濟
出王屋山(孟州今河陽府)。

三江。自豫章而下入彭蠡。而東至海為南江。自蜀岷山至九江彭蠡。以入海為中江。自幡塚導漾東流為漢過三澨。大別以入於江匯於彭蠡。以入海為北江。自彭蠡以上為二。自夏口以上為三。下而至於秣陵京口以入海。則不複三矣。

九河。鬲津徒駭。在今瀛州鉤槃。太史胡蘇。在今滄州馬頰在今濟州。覆釜簡潔漫不可考。當在東光成平鬲縣之間。以漢許商之言考之。徒駭最北。鬲津最南。蓋徒駭是河之本道。東出分為八。齊小白塞之為一。今河間弓高以東。平原鬲津往往有其遺處。蓋塞其八枝。并歸於徒駭也(九域志)。

五岳。中岳嵩山。在洛州(西京)東岳泰山。在兗州。南岳

衡山。在潭州。西岳華山。在華州。北岳常山。在真定府。

東夷。初周武王封箕子於朝鮮。漢滅之置玄菟郡○夫餘國。在玄菟北千里。本濊地○高句麗。其始王朱蒙。出自夫餘居升骨城。號高句麗。因以高為氏。在遼東千里。南接朝鮮濊貊。東接沃沮。北接夫餘。人皆隨山而居○三韓者。一馬韓。在西五十四國。北接樂浪。南接倭國。二辰韓。在東十二國。北接濊貊。亦曰秦韓。言秦人避役適韓國。三辨韓。在辰韓之南十二國。南接倭。馬韓最大。盡王三韓之地。○新羅辰韓種也。在高麗東南居漢樂浪。地多山險。文字甲兵同於中國。○百濟。馬韓之屬國。於帶方故地。初以百家濟故名。東接新羅。句麗。西南俱限大海。有僧尼寺塔。愛墳史頗解屬文○挹婁。古肅慎國。在夫餘東北千餘里。其北不知所極。人多勇力。矢用楛(音

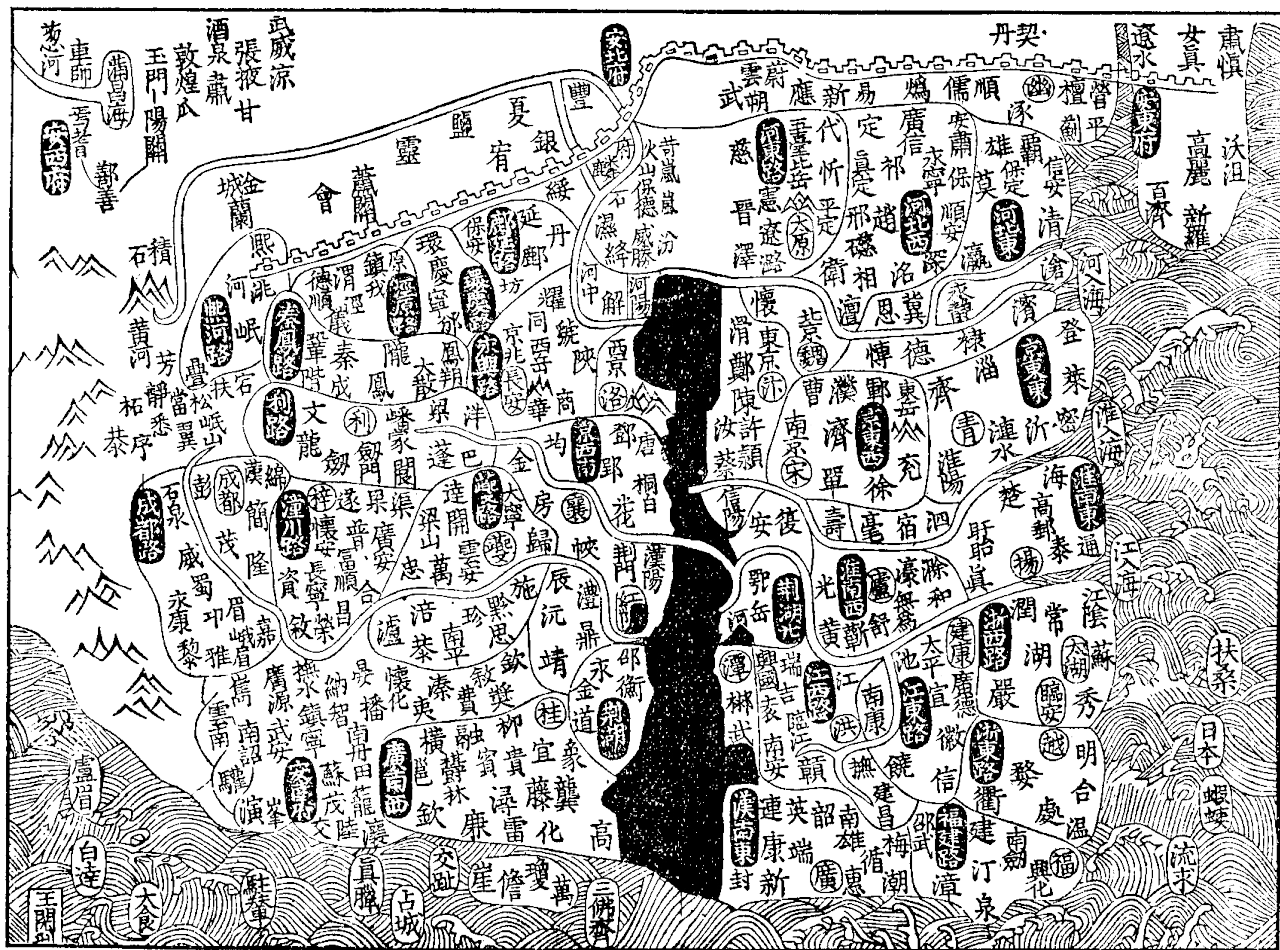
戶)青石為鏃。土氣極寒常穴居○遼東郡。大遼水出塞外南入海。行千二百里。遼西令支縣有孤竹城。故伯夷國○倭國。在百濟新羅東南。水陸三千里。依山島而居。漢魏譯通中國者三十餘國。皆稱王。大倭王居邪摩堆。其地在會稽東。俗皆文身。自云太伯之後。自倭國東千里名拘奴國。南四千里名朱儒國。人長三四尺。自朱儒東南行船一年。至裸國黑齒國。倭國始於百濟求得佛經。隋大業十三年遣使朝貢。兼沙門數十人來學佛法○流求國居海島。當建安郡東。水行五日而至。煬帝遣陳稜至其國。虜男女載軍實而還○蝦蟇。唐太宗時倭國遣使。偕蝦蟇人來朝。高宗平高麗。倭國遣使來賀。始改日本。言其國在東近日所出也○扶桑國。在東海中。齊永元初。僧慧深來建康。言其國在大漢東三萬里。宋大明五年罽賓國沙門。至其國傳佛法。

北狄。周有山戎獫狁。秦漢有匈奴。桓靈時有鮮卑。後魏蠕蠕(音軟)西魏突厥。唐回紇。皆匈奴故地。唐契丹居松漠間。至宋朝益盛稱大遼。後有女真稱大金。韃靼稱蒙古○西羌。三代為患。至秦漢逐之河塞之外。漢宣帝時趙充國。破先零(音憐)置金城。屬國以處降羌。東漢屢為患。段熲擊破之。魏晉多亂關隴。永嘉後有谷渾。唐初吐蕃并吐谷渾黨項諸羌。遂為強國○海南諸國。扶南。丹丹。交趾。真臘。故臨。大食。白達。大秦。盧眉。勿斯里(島夷雜記)宋朝來貢者。占城。三佛齊。勃尼。闍婆。注輦。丹流眉蒲端。

煬帝時。西域諸蕃多至張掖。與中國交市。帝令裴矩掌其事。撰西域圖記云。發自敦煌至於西海凡為三道北道從伊吾經蒲類海。鐵勒部。突厥。可汗(音克寒北虜主之號)庭。度北流河水。至拂菻國。達於西海。其中道。從高

昌。焉耆。龜茲。疏勒。度葱嶺。鎩汗。蘇勒沙那。康
國。曹國。何國。大小安國。穆國。至波斯。達於西海。
其南道。從鄯善。于闐。朱俱波。喝盤陀。度葱嶺。經護
密。吐火羅。挹[怡-台+(日/工)]。帆延。漕國。至北婆羅
門。達於西海。其三道諸國

東震旦地理圖



亦各有路。南北交通。故知伊吾。高昌。鄯善。並西域之門戶。總湊敦煌(云云)。帝由是甘心將通西域。令矩往張掖引致西蕃四十餘國(隋書裴矩傳)。

高昌。即車師前王庭(交河是也)有貪汚山。夏有積雪。山北即鐵勒界也。自敦煌向其國多沙磧(七亦切)茫然無蹊徑。欲往者尋人畜骸骨而去。或聞歌哭聲。蓋魑魅所為也。商旅往來多取伊吾路(北史西域傳)。

述曰。談天地之極際者。無若佛經。其言須彌四洲。猶太倉一粟耳。至如閻浮提者。則又四洲之南境。經言。縱廣七千由旬。周圍之可得二十八萬里。以一由旬四十里。計之也。從遼東西行。出陽關踰葱嶺。經五竺盡西海際。從南海北行出雁門。踰沙漠極。北至瀚海。縱橫皆可九萬里。而世人乏通識見。漢時四履之盛不出萬里。以故乍聞

此說莫之能信。須知此方居東。天竺居中。自此方西至天竺。為四萬五千里。自天竺西向盡西海。亦四萬五千里。如此則此地為閻浮之東方。信矣。世儒謂之中國。且據此地。自論四方之中耳。儒家談地止及萬里。則不知五竺之殷盛西海之有截也。道家談天止及三境。則不知六欲四禪四空之高遠無色之無極也。況欲知萬億須彌三千大千之天地耶。況欲知華藏世界周遍建立如帝網耶。是則談天地之極際者。非憑佛經。不足以盡其致也。

漢西域諸國圖

北道匈奴烏孫
南道鄯善樓蘭
西夜尉頭捐貳
月氏休循皆隨
畜牧逐水草為
行國餘皆有城
郭田作多居大
山谷聞車師河
婆城故名交河

武帝分天下為十三部刺史以酒泉諸郡為涼部

金城

涼武威

甘張掖

肅酒泉

瓜敦煌

伊吾

流沙

三門陽關

危須山

焉耆射犂

都護

龜茲

溫宿

莎車

依耐

尉頭

捐貳

烏孫

皮中

姑羌

通懸地

而度

姑羌

難兜

休循

大宛

安息

烏戈山

條支

大秦
西河

楚餘文西距海西
方里為大秦其海
旁出地方六千里
居西海之中

匈奴烏孫康居
極北自海謂之
翰海康居大宛
月氏俱賓使
所至月氏本大
夏國為月氏所
侵逐南去康居

烏赤谷城

烏孫地

烏孫地

山北

天山

狐胡

後車師

車桓且弥

匈奴右北

都立師

手陸

烏資

交車師

河前王

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

車師

贍部洲中心名阿耨達池。在香山南大雪山北。周八百里。十地菩薩化為龍王。於中潛宅。出清冷水以給贍部。池之東面。銀牛口流出殢伽河。遶池一匝。入東南海。池之南面。金象口流出信度河。遶池一匝。入西南海。池之西面。琉璃馬口流出縛芻河。遶池一匝。入西北海。池之北面。頗胝師子口流出徙多河。遶池一匝。入東北海。或曰。潛流地下出積石山為東華河源云(贍部解見前四洲九山圖。阿耨達此云無熱惱。其池四寶嚴飾。從四獸口流出其水。殢伽此云天堂來。言來處高也。信度此云驗河。縛芻此云青河。徙多此云吟河贍部一名閻浮提)自高昌近者。曰阿耆尼國(有伽藍十數漢書曰焉耆)西南九百里曰屈支(伽藍百所。屈居勿反。舊曰龜茲。音丘慈)西南六百里曰跋錄迦(舊曰姑墨)西北六百里至凌山。葱嶺之北原行四百里至清池。北

行五百里素葉水城。西四百里千泉。南面雪山。三垂平
陸。突厥來此避暑。西至旦羅私。西南白水。西南恭御
城。南笈赤建。西石國西窣堵利。西北康國。南至米國。
北至曹國。西至何國。西東安。西中安。西至西安。西南
貨利○自康國西南至史國。東南入鐵門。南出至覲貨羅(即
前引隋書吐火羅)東扼葱嶺。西接波刺斯。南面雪山。北據
鐵門○順縛芻河北流至怛密東。至赤鄂衍。又東至忽路
摩。又東至愉漫。西南臨河至鞠和衍。又東至鑛沙。又東
至珂咄羅。東接葱嶺至拘謎陀。南至尸棄陀。渡河至達摩
帝○自活國東南至闊悉多。西至縛伽浪。南至紇利健。西
南忽懽。東至縛喝。北臨河。伽藍百所。人謂之小王舍

西土五印之圖

唐是觀二
年庚三藏
上表百三
十國獲員
葉七十五
部十九年
回京師詔
居弘法院
譯經又述
西域記以
紀所歷云

流沙 玉門 陽關

蒲昌海

龜茲

山北

山南

姑墨

吐蕃

疏勒

波謝

素葉城

阿利尼

于泉

白水

恭御

何國

東安

中安

西安

貨利

突厥

東土在五百里至通焉
由西域唐為鎮入鐵門
者路遠險阻城郭諸
人所經也至南海諸國
至耽摩多底有路甚近
至三摩請介由也城
記云自北由西由南
尼奴達焉與時既離那
為中印度所充相去
萬里此為最近而少
險阻且云北來國命
率由此地自古因之
遂遠阻今欲備論之

蜀西南境

林邑

伊賓補

南羅鉢

室利羅

東三恒

東耽摩多底

東揭摩剌

東烏茶

南揭摩剌

南烏茶

南揭摩剌

南烏茶

南揭摩剌

南烏茶

南揭摩剌

南烏茶

南揭摩剌

南烏茶

西母

西國

拂憐

波斯

狼揭羅

阿補羅

此依西域記所錄諸
國方向最難排比當
觀大略更疑失次

城。從此西南入雪山阿至銳末陀。西南至。從縛喝南至揭
職。東南入大雪山至梵衍那(有臥佛千尺。商那和修胎生九
條衣尚存)東踰黑嶺至迦畢試(北面雪山伽藍百所)東入北印
度境至濫波。東至健馱羅(大塔高五百尺。元魏胡太后遣使
持大幡五百尺。往挂之。脚纔及地)南至那揭曷(北印度境)
北至烏仗那(釋種被斥王此云昔輪王之苑。僧常萬人)東至
鉢路羅(大雪山中)南度信度河至怛叉羅。東南至僧訶補。
東南至烏刺尸。東南至迦濕彌羅(舊曰罽賓伽藍百所)東南
至曷闍羅。南至磔迦。東至那僕底。東北至闍爛達。東北
至屈路多。北至洛護羅。又北至末羅娑○自屈路多南至設
多盧(已上並北印度)西南至波理怛(自此為中印境)東至末兔
羅(毘多度人石室盈籌之處)東北至濕伐羅。東北至罕祿那
(東臨殍伽河)東度河至末底羅。北至婆羅補(此係北印)北雪
山中有金氏國(女為王。夫亦為王不知政事。此國東接吐
蕃。北接于闐。西接末羅婆)○自末底羅東至瞿毘霜。東南

至醯坦(佛為文鱗龍王。七日說法處)南度殢伽河至毘羅剛。東南至劫比他(佛在忉利天為母說法。帝釋奉三道寶階之處)西北至曲女城。東南度殢伽河至阿踰陀東至阿那穆。東南至鉢羅那。西南至拘睺彌北至鞞索迦。東北至舍衛國(城南五里給孤獨園)東南至迦毘羅衛(佛生處。淨飯王殿。摩耶夫人殿。菩薩降胎處。並建精舍。佛還本生國。時止尼俱盧伽藍。受姨母金縷袈裟。度八王子五百釋種)東北至拘尸那(娑羅林佛滅處)西南至波羅柰(鹿苑轉法輪處。近鹿苑有支那寺。國王為大唐僧眾所造。支那此云大唐)○順殢伽河東北至毘耶離(舊名毘舍離有維摩方丈)東北至弗栗恃(北印境)西北至尼波羅(其國北境即東女國。與吐蕃接。人來國命往還。率由此地。唐梵相去萬里。自古取道迂迴致成遠阻)○自毘耶離南度殢伽河至摩竭提(又名摩伽陀。中印境。王舍城在此國中。華氏城在河南岸。西南度尼連禪河。即伽耶城。城西六里。至伽耶山。俗呼靈山。西南菩

提樹。佛成道處。樹高五丈。周垣五百步。中有金剛座。千佛坐之入金剛定。鷄園伽藍。無憂王建。常供千僧。那爛陀寺。五王共造。僧徒數千。並俊才高學)東至瞻波。東至揭朱祇。東度殑伽河至奔那伐(已上並中印度)東至迦摩縷(其國已歷千世。至今不信佛法。國之東境山阜連接。可兩月行入蜀西南境)南至三摩怛(東印)東北大海濱至室利羅。東南大海隅至迦摩浪。東至墮羅鉢。又東至伊賞補。又東至摩訶瞻波(即此方林邑)又西南至閻摩那(此六國道阻不及往)○自三摩怛西至耽摩立底(東境濱海界溫)西北至揭羅刺。西南至烏荼(東南臨大海有城海商中止之地。南去師子國二萬里。靜夜望其國。佛牙塔寶珠光。猶如大炬)西南至恭御陀(已上東印。臨海濱。不信佛法)西南至揭稜伽(南印)西北至憍薩羅(中印國王名引正。為龍猛建伽藍。招集千僧。計工人所食鹽價。用九億金錢)南至案達羅(此下南印)南至馱那揭。西南至朱利耶南至達羅毘。南至末羅矩

(南境濱海。有末刺耶山。此山之東有布坦洛迦山。山頂有池。池側有石天宮。觀自在菩薩遊舍於此。有願見者厲水登山)東南至執師子國(此非印度境。有佛牙精舍。上建表柱。置大寶珠若明星王宮側建大廚。日營萬八千僧食。食時持鉢來受。各還其居。自有佛教。便興此供)○自達羅毘北至恭建補(南印境有多羅樹林。其葉長廣。諸國書寫莫不采用)西北至摩訶刺。西至跋祿婆(業海煮鹽)西北至摩臘婆(五印之境。有兩國重學。西南摩臘婆。東北摩竭陀。名僧極盛。此國南至海)西北至阿吒釐○自摩臘婆西北至契吒。北至伐臘毘(已上南印)西北至補羅(自此西印)○自伐臘毘北至瞿折羅(西印)東南鄔闍衍(南印)東北至擲枳陀(南印)北至摩醯補(中印)○自瞿折羅北度信度河至信度國(西印)東度河東岸至茂羅部(西印)東北至鉢伐多(北印)○自信度國西南至阿默翅(西印隣大海)西至狼揭羅(西印大海濱)西北至波斯(北印度境)西北至怛懽(隋史拂菻)西南至海島西女國(皆女

人。拂懷歲遣丈夫。偶得男不舉)○自阿默翅北至臂多勢(西印)東北至阿茶(西印)東北至伐刺拏(西印屬迦畢試)西至稽曇那。西北出印度境至漕矩吒。北至弗栗那。東北至大雪山犀那大嶺。瞻部之中斯嶺特高。下嶺至安坦羅(屬突厥)西北至闊悉多(屬突厥)西北至活國(屬突厥主管鐵門已南諸小國)從此東入葱嶺。此嶺當瞻部中。南接大雪山。北至熱海千泉西至活國。東至烏殺國。四方各數千里。崖嶺數百重。永雪風寒山阜葱翠。故此為名。東至瞿健(屬突厥)北至阿利尼。東至曷羅胡○從瞿健東至訖栗瑟。東北至鉢利曷。從訖栗瑟東至呬摩坦。西至鉢鍔那。東南至淫薄健。東南至屈浪拏。東北至鐵帝北至尸棄陀越鐵帝大山。南至商彌。東北至波謎川(東西千里)南至鉢露羅。自川登山至竭盤陀。下葱嶺東岡至烏殺。西北至佉沙(舊名疏勒)東南至沮渠(經典極盛)東至于闐。東入沙磧至尼壤城。為東境之關。又東入大流沙。其沙隨風聚散。人多迷路。往

來聚遺骸以記。東至且末。東北至樓蘭故地(即鄯善國)○印度者。天竺之正名(此云月)北背雪山。三垂大海。地形南狹如月上弦。川平地廣。周九萬里。七千餘城依止其中。盡三海際同一王命(唐玄奘三藏西域記)。

光明經。八萬四千城邑聚落。仁王經。十六大國五百中國十萬小國。楞嚴經。此閻浮提大國二千三百。

樓炭經。葱河以東名為震旦。唐彥琮法師云。葱嶺已西。並屬梵種。鐵門之左皆曰胡鄉(有指五竺為胡國。梵典為胡經。梵僧為胡僧。此類皆大誤)唐義淨三藏。於咸亨二年自番禺附舶(普潘愚今廣州)西至訶陵。次室利佛逝。次末羅瑜。次揭荼。北行十日至裸人(在蜀西南男女皆裸形)西北半行至耽摩立底(東印境海口升舶歸唐處)正西至莫訶菩提國(即摩竭提)那爛陀寺有七十驛(又云耽摩去莫訶有十日)那

爛陀禮根本塔。耆闍崛山觀疊衣處。大覺寺禮真像(即菩提道場金剛座處)。

拘尸方丈。鹿園雞嶺。遍禮聖迹。住那爛陀十年。求經還耽摩立底。升舶過揭荼。將梵本寄佛逝。作南海寄歸傳求法高僧傳。永昌元年秋回廣府。至冬復附舶至佛逝。住三載。證聖元年回洛京譯經。

述曰。瞻部一洲在西為五印度。飛行輪王之所治。是為梵天之種。東則震旦。皇王周孔之所化。是為君子之國。北為狄種。獫狁匈奴胡人之鄉。封域分殊。不為指梵為胡以自混濫。如舊稱胡跪胡經胡漢老胡。皆無稽之言不足用也。諸經言國城數不定者。古今離合不同也。如此方周千八百國。春秋七十餘國。秦七國。魏三國。晉十六國。或離或合。為國不一。要不出此一境也。又諸經華梵不同

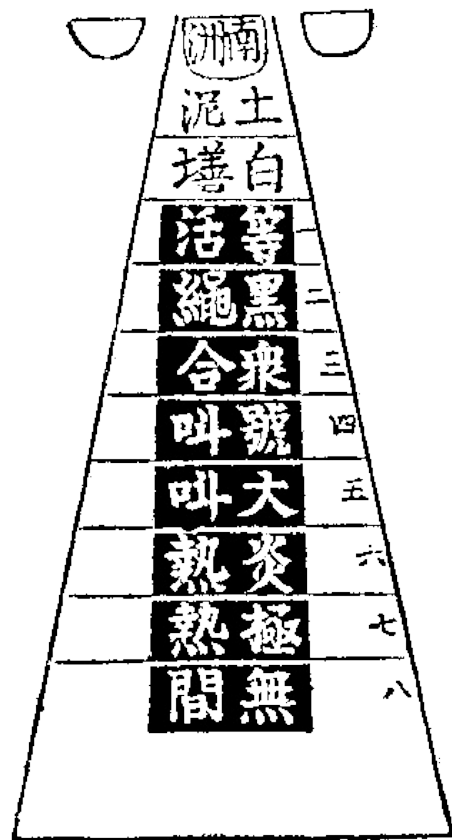
者。羅什洹河。奘師殑伽。什云須彌。奘云蘇迷盧。並指
什譯為訛。此說未可為定。蓋由求法沙門所問土音中邊不
同古今有異。而詮其實則一也。如此方南北音轉名處名物
其語各殊。又如此方同一震旦而周秦漢晉為號不同。豈當
定是非於古今之際。能識此意。則華梵不同。自可心會
也。

新婆沙論。南洲下至無間。共四萬由旬。上尖下闊猶如穀
聚○薩婆多論。南洲下土泥五百由旬。白塔五百由旬。等
活至極熱七獄。共高一萬九千由旬。各廣萬由旬。無間高
廣二萬由旬。阿毘曇論。等活壽五百歲。黑繩千歲。眾合
二千歲。號叫四千歲。大叫八千歲。炎熱一萬六千歲。極
熱半劫。無間一劫。俱舍論。等活一晝夜當四天王五百
歲。次第至炎熱一晝夜當他化一萬六千歲(餘獄次第對例)
成實論。五無間者。一趣果無間。捨身即生彼故。二苦無

間。中無樂故。三時無間。定一劫故。四命無間。中不絕故。五形無間。此獄縱廣八萬由旬。一人亦滿。多人亦滿(多論二萬由旬)。

八熱地獄圖

八熱地獄圖



新婆沙論。八熱獄。一一獄有四門。一一門外有四遊增。
有情遊彼其苦增故。地獄有情其形如人。正法念經。阿鼻
苦千倍過前七大地獄。

四門十六遊增

增遊六十門四

然苦寒風吹身
後毒風吹身
命終喚身
竟有來時
斤斧斫身
上鐵磨身
上狼牙

斤
豺
劍
寒

黑砂
燒風
皮吹
徹熱
骨沙

沸屎鐵丸

鐵釘臥熱鐵
釘遍身上

焦渴
撲熱鐵口

新婆沙論。八熱獄。一一獄有四門。一門外有四遊增。有情遊彼其苦增。

故。地獄有情其形如人。正法念經。阿

鼻苦千倍過前七大地獄

鐵丸	摩提	身熱	火鬱	於灰	然丸
灰河	泥大	沒藥	內湯	聚斗	中酒
量火	手把	量鐵	走血	肥濃	膿血

獄次到沸屎獄

飢餓 銅鍍 多鍍 石磨

撲熱鐵丸
 上鐵丸
 著口
 捉人
 倒投
 銅鎖
 置
 多銅鎖
 中
 石上
 磨身

八寒地獄圖

一頽浮陀 二尼賴陀三阿吒吒 四阿波波五嘔喉 六鬱波羅七波頭摩 八分陀利

此八獄在鐵圍山底。仰向居止受寒凍苦(三法度經)頽浮陀壽。如憍薩羅國斛量。胡麻滿二十斛。有一丈夫滿百年取一胡麻。如是取盡。復以二十頽浮陀壽。為一泥賴陀壽。餘次第準此(起世因本經)泥犁耶此名非道。欲界最下劣故(阿毘曇論)捺落迦此云惡人(新婆沙論)人所作善惡。隨人如形影隨身。人死但亡其身不亡其行。譬如然火夜書火滅字存火至復成。今世作行後世成之(那先比丘所問經)。

地獄有三。一熱。二寒。三邊。一熱地獄者有八。一名等活。罪人手生鐵爪相摑肉墮。或獄卒唱生。或冷風吹活。兩緣雖異令活一等。人受苦已復至黑沙獄乃至沸屎獄。次第至寒冰獄。然後命終。由身口意造不善業墮此獄中。一

一大獄各有十六小獄。周匝圍遶(即婆沙論十六遊增)二名黑繩。以熱鐵繩絀量肢體後方斬鋸。久受苦已至黑沙獄乃至寒冰獄。然後命終。準前受苦加重。由惡意向父母及聲聞墮此獄中。三名眾合。眾多苦具熾然猛熱合來逼惱(餘義準前作)由造三惡業墮此獄中。四名叫喚。獄卒捉人擲鐵鑊中。涌沸叫喚。由瞋恚懷毒墮此獄中。五名大叫喚。置鐵鑊中號咷大叫。由習邪見惡行墮此獄中。六名炎熱。置鐵城中火然焦爛。由燒炙眾生墮此獄中。八名無間(梵語阿鼻或作阿毘)獄卒捉彼罪人剝皮纏身著火車上。萬毒並至無不苦時。為極重罪墮此獄中(十惡五逆也。已上參用長阿含經文)此八地獄在閻浮洲下。重累而住受熱惱苦。前二有主治。次三少主治。後三無主治。二寒地獄者有八。一名頽浮陀。寒苦所切肉生細泡。二名尼賴浮陀。寒風所吹通身成泡。此二從身相受名。三名阿吒吒。脣動不得舌作此聲。四名阿波波。舌不得動脣作此聲。五名嘔喉。喉內振

氣作聲。此三從聲相受名。六名鬱波羅。此是青蓮華。肉色細拆似此華。七名波頭摩。此是赤蓮華。肉色大拆似此華開。八名分陀利。此是白蓮華。由彼骨拆似此華開。此三從瘡相受名。此八獄在鐵圍山底。仰向居止受寒凍苦。三邊地獄者有三。山間水間曠野。受別業報。此應寒熱雜受(三法度經鍍方宥切大釜)。

閻浮洲南。二鐵圍山外有閻摩羅王宮殿。縱廣正等六千由旬。七重欄楯七重行樹。園苑花池種種美果。香風遠薰眾鳥和鳴。王以惡業。晝夜六時自然有赤融銅汁。在前出生。宮殿即變為鐵。獄卒取王撲熱鐵地。以銅汁寫置口中。時王怖畏作念願我捨身於人間。受生如來法中正信出家。發是善念。宮殿還成七寶。五欲具足(起世經)。

閻羅王昔為毘沙國王。與維陀始生王戰兵力不敵。因立誓

願為地獄主。臣佐十八人領百萬眾。同立誓曰。後當奉助治此罪人。毘沙王者今閻羅王是。十八臣者今諸小王是。百萬眾者諸阿旁是(問地獄經阿旁此云無間)琰摩羅此言雙王。兄主男獄。妹主女獄(正法念經)兄妹皆作獄主。故云雙王。又苦樂並受故(經音義)。

阿鼻地獄。縱廣八千由旬。七重鐵城。七重鐵網。有十八鬲子(郎的切鼎屬)周匝七重。皆是刀林。四大銅狗。十八獄卒。八頭六十四角。六十四眼。有七鐵幢火涌如沸。若有罪逆。命終之時銅狗化十八車狀如寶蓋。一切火焰化為玉女。罪人遙見心喜欲往。風刀解體寒急作聲。寧得好火。安在車上。即便火然。罪人命終來生火車。屈伸臂頃直入阿鼻。從上鬲下如旋火輪至於下鬲。化閻羅王大聲告勅。癡人獄種。汝在世時不孝父母邪見無道。汝今生處名阿鼻獄。如是大苦一日一夜。如人間六十小劫。如是壽命

盡一大劫。具五逆者受罪五劫。復有眾生。犯四重禁虛食
信施。誹謗邪見不識因果。斷學般若毀十方佛。偷僧祇物
婬逸無道。此人罪報經八萬四千大劫。復入東方十八鬲
子。如前受苦。南西北方亦復如是。阿鼻即無救也(觀佛三
昧正海經○鼻音毘。智炬經。阿毘地獄應時破壞。當知毘
音無疑。楞嚴經。既言阿鼻。又出無間。今阿鼻自云無
救。當知阿鼻大獄在無間之外)。

佛祖統紀卷第三十二(終)

孝武時始通西域。三十六國。皆在匈奴之西烏孫之南。西
北有大山。中央有河。東西六千餘里。南北千餘里。東則
接漢扼。以玉門陽關(二關皆在敦煌西界)西則限以葱嶺(其
山葱翠又云多葱葱同)。其南山東出金城。與漢南山屬焉

(音燭連也)。其河兩源一出葱嶺。一出于闐(音田)于闐在南山下。其河北流與葱嶺河合。東注蒲昌海(一名鹽澤)。去玉門陽關三百里。廣袤三百里。其水冬夏不增減。皆以為潛行地下。南出積石。為中國河源云。自玉門陽關出西域有兩道。一從鄯善旁南山北循河西行至莎車為南道。南道西踰葱嶺則出大月氏·安息。自車師前王廷隨北山循河西行至疏勒為北道。北道西踰葱嶺則出大宛·康居·奄蔡。西域諸國有城郭田畜。與匈奴烏孫異俗。皆役屬於匈奴。匈奴西邊日逐王置都尉領西域。後驃騎將軍擊破匈奴古地降昆邪休屠王(驃頻妙反。昆音渾。屠音儲。匈奴二王)始築令居以西(令音鈴)初置酒泉郡(有水味甘)。後稍分置武威·張掖·敦煌(敦音屯)。列四郡據兩關。自貳師將軍(李廣利)伐大宛得天馬。西域震懼。多遣使來貢。宣帝朝日逐王來降。乃令使者鄭吉并護北道號都護治烏壘城。去陽關二千七百里。於西域為中(西漢書西域書)。

明帝永平中。班超使西域到鄯善斬匈奴使者。鄯善王怖納子為質。後發諸國兵擊莎車斬疏勒王。擊破月氏副王。降龜茲·姑墨·溫宿。斬焉耆尉犁二王。威震西域。五十餘國皆納質內屬(東漢班超傳)。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十三

宋景定四明東湖沙門志磐撰

法門光顯志第十六

佛法不思議。且將兩冥於真俗不二之際。至若示之以建化之門。則必憑藉佛事。以助明住持三寶之相。即事而真。撰法門光顯志。

雕像 帝釋請佛升忉利天。為母說法。優填王(拘琰彌國王)思觀如來。即以旃檀作如來像。高五尺(增一阿含○案西域記。優填王請目連。以神力接工人上天。親觀妙相。

用旃檀雕像。高至五尺)。

鑄像 波斯匿王聞優填王雕像。乃以紫磨黃金鑄作佛像。亦高五尺。時閻浮提內始有二像(增一阿含○觀佛三昧經云。優填王鑄金像)。

畫像 漢明帝使秦景往月氏國。得優填王雕像師第四畫樣(此西土畫像始)勅圖於洛陽西陽城門及顯節陵上供養(東土畫始)。

舍利塔 佛入滅。帝釋於善見大城起四塔。城東照明園髮塔。城南初澁園衣塔。城西歡喜園鉢塔。城北駕御園牙塔名忉利四塔。又迦維衛國生處塔。摩竭提成道塔。波羅柰鹿野轉法輪塔。拘尸那城雙樹間涅槃塔。謂之人中四塔(增一阿含)。佛滅度後百年。阿育王取佛舍利。夜役鬼神碎七

寶末造八萬四千塔。尊者耶舍舒指放光。八萬四千道。令羽飛鬼各隨一光盡處安立一塔。於一日中遍瞻部界。在震旦國者一十九所(阿育王傳○十九塔可知者有五處。洛陽白馬寺東聖冢。建康長干寺塔。四明阿育王塔。臨淄成都。並有阿育王塔。劉薩訶於夢中聞觀音說)。

浴佛 四月八日是佛生日。人民念佛浴佛形像(摩訶剎頭經)浴像時誦偈云。我今灌沐諸如來。淨智莊嚴功德聚。五濁眾生令離垢。願證如來淨法身(浴佛經)。

浴僧 首陀會天請佛及僧洗浴供養。佛告阿難。此天由此福行未來得佛。號曰淨身(賢愚經○首陀會天子名也。凡稱天而非六欲十八梵之名者皆天子也。如耆婆毘首羯磨等。皆忉利天子也)許數數浴生世善故(四分律)。

輪藏 梁傳大士愍世人多故不暇誦經及不識字。乃於雙林道場創轉輪藏。以奉經卷。其誓有曰。有三登吾藏門者。生生不失人身。有能信心推之一匝。則與誦經其功正等。有能旋轉不計數者。所獲功德即與讀誦一大藏經正等無異。藏前相承列大士像。備儒道釋冠服之相者。以大士常作此狀也(佛印為王荊公讚其像曰。道冠儒履釋袈裟。和會三家作一家。忘却率陀天上路。雙林癡坐待龍華)列八大神將者。八部天神也。保境將軍者。在日烏傷宰。發誓護藏者也(義烏縣。舊名烏傷。詳見傳大士傳)。

大士籤 天竺百籤。越圓通百三十籤。以決吉凶。其應如響。相傳是大士化身所述(釋門正統)。

供燈 佛告舍利弗。有人於塔廟形像奉施燈明。乃至以少燈炬。如此福德唯佛能知(施燈經)。

身燈 佛言。我昔於閻浮提作國王。剜身出肉深如大錢。以蘇油灌中作千燈炷。語婆羅門。請說經法。求無上道(菩薩本行經)菩薩為法因緣剜身為燈(涅槃經)。

無盡燈 賢首法藏師。為則天以十鏡置八隅中安佛像。然燈照之則鏡鏡現像。以表剎海重重無盡之意(諸宗立教志)。

放燈 佛教初來與道士角試。燒經放光而卷帙無損。時當正月十五日。明帝乃令每於此日燒燈以表佛法大明。自是歷朝每當上元必放燈。本朝太平興國六年。勅下元亦放燈三夜。為軍民祈福(僧史略)。

無盡財 供養佛華多聽轉賣買香油。猶多者轉賣無盡財中

(僧祇律○釋氏要覽云。世言長生錢者是也。子母滋生故稱無盡)。

講懺儀 僧傳稱。漢魏以來請僧設供同於祠祀。起坐威儀略無規矩。至晉朝安法師。始依經律作赴請禮讚等儀。立為三例。一行香定座上講。二六時禮懺。三布薩等法。其後遠法師復立法社節度(有文在廬山集)唐宣律師。立分五眾物儀章服儀歸敬儀鳴鍾犍度。照律師作落髮儀。皆附時傍教以為法也(釋門正統)。

諸經行法 智者製法華三昧儀(國清百錄載)荊溪述補助儀以資觀想。法智撰大悲心呪行法。金光明懺法。慈雲撰金光明護國儀。依百錄述補助。及撰淨土懺儀。彌陀懺儀。請觀音懺儀。熾盛光懺儀。神照撰仁王懺儀。淨覺撰楞嚴懺儀。如意輪課。法智涌撰功德天懺儀。皆諸祖依四三昧

自行化他之法也。

供佛 諸如來者。皆是法身。若在世若滅後。所有供養福無有異(寶積經)供養佛者。得大福德速成菩提(不思議境界經)若施畜生得百倍報。施破戒者得千倍報。施持戒者。得萬倍報。乃至施佛得無量報。我今分別諸福田故作是說(優婆塞戒經此言敬田勝)若人供養十方佛諸菩薩聲聞。不如有人施畜生一口飲食。乃至施餓狗蟻子。悲田最勝(像法決疑經此言悲田勝)一分施難勝如來。一分與最下乞人。福田無二(維摩經此言悲敬不二)世言供三千佛者。過去莊嚴劫。始華光佛終毘舍浮佛。一千佛。現在賢劫。始拘留孫佛終樓至佛。一千佛。未來星宿劫。始日光佛終須彌相佛。一千佛(三劫各有經一卷)言供千佛者。現在賢劫千尊也。

供知識 文殊南遊至福城東際。為善財童子說法令求菩提

近善知識。從此經歷一百十城。參五十三善知識。入普賢道場。得微塵數三昧門(華嚴經入法界品)。

供羅漢 佛滅時。付囑十六阿羅漢。與諸施主作真福田。時阿羅漢咸承佛勅。以神通力延自壽量。若請四方僧設無遮施。或所住處。或詣寺中。此諸尊者及諸眷屬。分散往赴。蔽隱聖儀密受供具。令諸施主得勝果報(法住記。始賓度羅終半托迦。凡十六位)除四大羅漢十六羅漢。餘皆入滅。四大羅漢者。彌勒下生經云。迦葉。賓頭盧。羅云。軍徒鉢歎。十六羅漢出寶雲經。然賓頭盧羅云已在十六之數。今有言十八者。即加迦葉軍徒(妙樂○賓頭盧此云不動。有於十六加賓頭盧者。即是賓度羅。加慶友者。自是佛滅百年造法住記者。述十六羅漢受囑住世。則知慶友不在住世之列。今欲論十八住者。當以妙樂為證。淨覺撰禮讚文。亦撮妙樂)。

佛祖忌齋 如來於周穆王五十三年(壬申)二月十五日入滅。凡在伽藍必修供設禮。謂之佛忌(北澗簡禪師撰齋忌疏。淨覺法師撰禮讚文)○南岳禪師。陳大建九年六月二十二日忌(志磐為南湖述齋忌疏)○智者禪師。隋開皇十七年十一月二十四日忌(孤山撰齋忌疏。北澗慈雲撰禮讚文)○章安禪師。唐正觀二年八月七日忌○法華禪師。唐永隆元年十一月二十八日忌○天宮禪師。唐高宗朝(志磐撰齋忌疏不知歲月)○左溪禪師。唐天寶十三載九月十九日忌(志磐撰齋忌疏)○荊溪禪師。唐建中三年二月五日忌(志磐撰齋忌疏)○螺溪法師。宋雍熙四年十一月四日忌(志磐撰齋忌疏)○寶雲法師。宋端拱元年十月二十一日忌(志磐撰齋忌疏)○法智法師。宋天聖元年正月五日忌○慈雲法師。宋明道元年十月十日忌○神照法師。宋皇祐三年五月十八日忌○廬山法師。晉義熙十二年八月六日忌(志磐撰齋忌疏。葛

天民述禮讚文)○達磨禪師。北魏大統元年十月五日忌○南山律師。唐乾封二年十月三日忌(淨覺撰禮讚文。照律師撰齋忌疏)○大智律師。宋政和六年九月一日忌(則律師撰禮讚文。顏聖徒撰齋忌疏)。

僧齋 佛言。持食施僧有五種福德。色力命安辯。上座施食應誦偈曰。施者受者俱獲五常。色力命安得無礙辯(五福德經)佛言。施食有五福。施命施色施力施安施辯。何謂施命。人不得食七日壽終。智者施食則為施命。其施命者。世世長壽財富無量。何謂施色。人不得食顏色憔悴。智者施食則為施色。其施色者。世世端正顏色晔晔。何謂施力。人不得食所作不能。智者施食則為施力。其施力者。生天人間力無等雙。何謂施安。人不得食心愁身危不能自安。智者施食則為施安。其施安者。世世安隱不遇眾殃。何謂施辯。人不得食身羸意弱口不能言。智者施食則為施

辯。其施辯者。慧辯通達聞者歡喜。是為五福(施食五福經)施有三法。一送食至寺名上。就舍供養名中。造舍乞施發心供養名下(增一阿含經)若檀越設食召請眾僧。遣人防門。遮障比丘老病貧乞不聽入會。徒喪飲食了無善分(像法決疑經)四輩弟子若行齋戒。心當存想。請十方僧不擇善惡持戒毀戒高下之行。到諸塔寺請僧之時。僧次供養其福最多(普廣經)檀越來請眾僧。客僧有利養分。僧坊主應次第差(又)世人別請五百羅漢菩薩僧。不如僧次一凡夫僧(梵網經)佛入舍婆提城乞食。有婆羅門以佛數數到其家。心作是念。是沙門何以來數數如負其債。佛時說偈曰。時雨數數墮。五穀數數成。數數修福業。數數受果報。婆羅門聞已。慚愧取鉢盛食奉佛。懺悔出家得阿羅漢(大智度論)若人能日日立要先施僧食。然後自食。如是施中最上(優波塞戒經○今城市施飯盞者。事起於此)。

設粥 舍衛國。難陀母作釜飯。逼上汁自飲。覺身中風除食消。便作念。闍黎是一食人。應當食粥。乃取多水少米。煎去二分。入胡椒葦茈。持詣佛所白言。願世尊聽諸比丘食粥。佛許之。為說偈曰。持戒清淨人所奉恭敬隨時以粥施。十利饒益於行者。色力壽樂辭清辯宿食風除饑渴消。是名為藥佛所說欲得人天長壽樂。應當以粥施眾僧(僧祇律○辭辯是二義)粥出釜畫不成字名不正食(僧祇律)明相出始得食粥。餘皆非時(四分律)日照剡部樹天作白色。舒手見掌文分明。是為明相(婆沙論)粥名小食(增輝記)。

乞食 梵語分衛。此云乞食(善見論)凡乞食為四分。一奉同梵行。一與窮乞。一與鬼神。一分自食(寶雲經)行乞食者破一切憍慢(法集經)食有三種。一受請食。二眾僧食。三常乞食。前二食起諸陋因緣。若得請便言我有德。若不請則嫌恨彼。或自鄙薄是貪法。則能遮道。若僧食者。當

隨眾法。斷事擯人。料理僧事心則散亂妨廢行道。有如是惱亂。應受乞食法(十二頭陀經)。

持齋 佛言。日中三世佛食(毘羅三昧經○今言中食是也)時食若午時。日影過一髮一瞬。即是非時(僧祇律)若比丘非時食者。波逸提(四分戒本○十誦律。波逸提義翻為墮。墮在燒煮地獄)齋者以過中不食為體(毘婆沙論)佛言。一日持齋有六十萬歲糧。復有五福。少病身安少睡少姪得生天識宿命(雜譬喻經)齋者齊也。齊身口業也。齊者祇是中道。後不得食者。表中道法界外更無別法也(請觀音疏)。

出生飯 此有二緣。一者涅槃經。令施曠野鬼。毘奈耶律。令施鬼子母等。此曹本食肉啖人。佛化之受戒不殺。乃囑弟子隨處施食。今齋堂各各出眾生食是也。此唯出家人行之。二者焰口經。託阿難為緣。令施餓鬼食。今齋堂

別具小斛。於食畢眾作法施之。或各具小生斛。夜間呪施。此通道族行之。

三長齋 佛謂提謂長者曰。四時交代歲終。三覆以校。一月六奏。諸天帝釋太子使者閻羅鬼神。俱用正月五月九月旦日。案行王民龍鬼鳥獸為善惡者。與四王一月六奏。使無枉錯。覆校眾生罪福多少。福多者勅司命下閻羅五官除罪增祿。故使持是三長齋(提謂經)若佛子於六齋日年三長齋月作殺生劫盜破齋犯戒者。犯輕垢罪(梵網戒經○世人以此三月忌上任者。避行刑故爾)。

六齋 帝釋勅四王各治一方。白月八日遣使者案察眾生善惡。十四日遣太子。十五日王親臨。黑月三日亦如是。若王親下。星宿鬼神俱時隨從。如遇修行齋戒。諸天相慶即為注祿增算(四天王經)若國王大臣。於六齋日勅諸境內令

行不殺(普賢觀經)。

十齋 每月十齋日。持佛菩薩號乞福滅罪(一齋經。於六齋日加月旦十八二十四二十八四日也。今國律令。諸州十直日不得行刑。正據此義)。

七七齋 人死中有身若未得生緣。極七日住。死而復生。如是展轉生死至七七日。決定得生。若有生緣即不定。今尋經旨。極善惡無中有(瑜伽論○中有亦名中陰。極善即生淨土。其次生人天。極惡即入地獄或生三惡道。即日死亡不經中陰)今人亡每七日必營齋追福。謂之齋七者。令中有種子不轉生惡趣也(釋氏要覽)。

述曰。孔子曰。子生三年然後免於父母之懷。故報以三年之喪。佛經云。人死七七。然後免於中陰之趣。故備乎齋

七之法。至於今人百日小祥大祥。有舉行佛事者。雖因儒家喪制之文。而能修釋門奉嚴之福。可不信哉。

預修齋 普廣菩薩白佛言。若善男女未終之時。逆修生七然燈懸旛請僧(即僧次請供也)轉經(略舉此四為例)得福多否。佛言。其福無量。又言。父母親族命終受苦。為其修福得福多否。佛言。七分獲一。緣前生不信道德故。若以亡者嚴身之具屋宅園林。以施三寶。可拔地獄之苦(隨願往生經)。

述曰。案夷堅志載。鄂渚王媪。常買紙錢作寄庫。令僕李大代書押。媪亡李忽得疾仆地。三日蘇云。為陰府逮捕。至庫所令認押字。李曰。此我代主母所書也。引見金紫官。問答如初。官曰。但追證此事可令回。將出。媪至大喜曰。荷汝來我寄庫錢。方有歸也。今人好營預修寄庫

者。當以往生經為據。以夷堅志為驗。

毘婆尸佛。遺法之中有諸比丘。四衢道上施座置鉢。作是言曰。誰有人能舉財著此堅牢藏中。若入此藏王賊水火所不能奪(雜寶藏經)。

供天 煥法師以天位失序。嘗述天傳。謂梵釋四王皆有君主號令之權。功德則寄於北天。大辯則寄於山澤。此為有主客義也。功德大辯為女。梵釋之天為男。此為男女義也。密迹眷屬皆大菩薩。是為本。現居神像。是為迹。此有本迹義也。功德大辯處客天示女質。而能對揚佛化。則謂之顯。餘雖影響而言行不揚。則謂之晦。此有顯晦義也。知此四端可與言天矣。

述曰。磐嘗案煥師義述供天禮文(板在東湖尊教寺塔局)定

十六位。先梵釋次北天。法智謂。經家先標北方者。西土以北方為上。次東南西天。次功德大辯。若摩利支韋馱二天。是明智住南湖日加入之(事見本傳)次密迹散脂樹神地神鬼母。二十八部。共十六位。以此為定。訶利帝此翻惡賊。蓋是鬼子母。未受戒時食王城男女。居人怨之故作此目。今既護法須當削去。煥師天傳。曉石芝光明助解。並云。經中雙舉祇目一人(淨無住。居月波日。每當歲旦修懺。必於天位刪去訶利帝南一勻不令稱唱。謂祖師但順經文失於刪削。然哉)舊立十二位者。依懺儀也。十四位者。後人加樹神地神也。十六位者。加摩利支韋馱也。或加日月娑竭羅龍等。或為十八。或為二十。雖據經文。實為汎濫。世有寔師天傳者。正墮此弊也(詳見諸天禮文)。

盂蘭盆供 經言。是佛弟子修孝順者。應念念中常憶父母乃至七世父母。年年七月十五日以百味飲食安盂蘭盆中。

施佛及僧。以報父母長養慈愛之恩(孟蘭盆經○此翻解倒懸。言奉盆供於三寶福田。用以解饑虛倒懸之急)。

述曰。目連託救母以興緣。如來示奉盆以垂法。所以教人道以報重恩也。自大教東流。古今帝王所以奉盆供者為多矣(事見會要志)然今之寺舍。多於此日施斛供亡。如常法者。雖無奉盆之儀。而不失孟蘭之意。

水陸齋 梁武帝。夢神僧告之曰。六道四生受苦無量。何不作水陸大齋以拔濟之。帝以問諸沙門無知之者。唯誌公勸帝。廣尋經論必有因緣。帝即遣迎大藏。積日披覽。創立儀文。三年而後成。乃建道場。於夜分時親捧儀文悉停燈燭。而白佛曰。若此儀文理協聖凡。願拜起燈燭自明。或體式未詳。燭暗如故。言訖一禮燈燭皆明。再禮宮殿震動。三禮天上雨華。天監四年二月十五日。就金山寺依儀

修設。帝親臨地席。詔祐律師宣文。當時靈響不能備錄。周隋之際此儀不行。至唐咸亨中。西京法海寺英禪師。夢泰山府君召往說法。後獨坐方丈。見一異人前告之曰。向於泰山府君處竊覩尊容。聞世有水陸大齋可以利益幽品。其文是梁武所集。今大覺寺吳僧義濟得之。願師往求如法修設。師尋詣大覺。果得其文。遂於月望修齋已畢。復見向異人與徒屬十數前至謝曰。弟子即秦莊襄王也(莊襄是秦始皇父。至唐咸亨九百四十年)又指其徒曰。此范雎穰侯白起王翦張儀陳軫。皆秦臣也。咸坐本罪幽囚陰府。昔梁武金山設會前代紂王之臣皆得脫免。弟子是時亦暫息苦。但以獄情未決故未獲脫。今蒙齋懺弟子與此輩并列國君臣。皆承法力得生人間。言訖而隱。自是英公常設此齋流行天下(東川楊諤水陸儀○蜀中有楊推官儀文。盛行於世)。

述曰。昔真隱史越王。嘗過金山慕水陸齋法之盛。乃施田

百畝。於月波山專建四時水陸。以為報天地君親之舉。且親製疏辭刻石殿壁。撰集儀文刊板於寺。既而孝廟聞而嘉之。賜以水陸無礙道場宸翰扁於殿。逮今百年修供惟謹。去月波里所有梵苑曰尊教。師徒濟濟率沙門族姓三千人。施財置田。一遵月波四時普度之法。先是尊教同人有謂。越王疏旨之辭。專為平昔仕官報。效君親之舉。美則美矣。而於貴賤貧富未見平等修供之意。乃力挽志磐續成新儀六卷。推廣齋法之盛。而刻其板。復依準名位。繪像幀者二十六軸。及今創立齋會。於是儀文像軸皆得其用。時主其事者。寺沙門處謙清節文學師竝。以法施者。月波住山宗淨也。以文字施者。則志磐也。當願十方伽藍。視此為法。大興普度之道。

六道斛 淨名經云。以一食施一切(言一切則全收六道)供養諸佛及眾賢聖。然後可食。南岳隨自意三昧云。凡得食

應云。此食色香味。上供十方佛。中奉諸賢聖。下及六道品。等施無差(楚宜反不齊也)別。天台觀心食法。鳴鐘後斂手供養一體三寶。次出生飯稱施六道。此皆等供十界。即是今人施六道修水陸供之明證也。

述曰。妙樂云。世人設六道者。是梁武見江東多淫祀(殺生命祭邪鬼)乃以相似佛法。權宜替之。此蓋荊溪一往以祭祀惡法對佛法論之。將以止天下之殺。故未論十界等供之義。焰口經。令供養三寶即是四聖。供婆羅門仙即是人道。供焰口眾即是鬼道。餘四道雖不備。蓋是當時赴機未普。故經文隱略耳。若大乘行人。圓觀法界。則當依淨名經中義。若慈雲謂鬼道得食餘五道不得者。此等意亦是用婆沙論云若因祭祀唯鬼神得之餘趣不可盡得。此是約人世祭祀言之耳。若依出世法。用平等心修無礙供。則當仰觀淨名南岳天台三處之文。則理無不在。今有營小斛曰散灑

者。或一巨斛者。或至四十九斛者。皆所以等供六道群品也。可不信哉。

十王供 世傳。唐道明和上。神遊地府見十王分治亡人。因傳名世間。人終多設此供。十王名字。藏典傳記可考者六。閻羅五官(二名見三長齋引提謂經)平等(華嚴感應傳。郭神亮為使者。追至平等王所。因誦若人欲了知四句偈得放回)泰山(譯經圖紀。沙門法炬譯金貢泰山贖罪經孝經援神契泰山天帝孫主召人魂)初江(夷堅志。池州郭生夢入冥府。王揖坐謂曰。我是西門王郎。冥司錄我忠孝正直不害物。得作初江王。一紀)秦廣(夷堅志。南劍陳生既死。其弟之女見二鬼導至宮殿曰秦廣王也。王謂女曰。欲救伯若。可轉八師經。女寤家人來得經。請僧誦千遍。兄夢弟來謝曰。已獲生天)歐陽修夢十王(見通塞志嘉祐六年)無常鐘 智者臨終語維那言。人命終時得聞鐘磬增其正念。惟

長惟久氣盡為期(見本紀此言臨終之功)南山事鈔云。病者將終打無常磬。增一阿含經云若打鐘時一切惡道諸苦並得停止(本經有鳴鐘法度)付法藏經云。罽賓王以好殺死作千頭魚。劍輪遶身隨斫隨生。有羅漢充維那。依時打鐘。聞聲之時劍輪住空遣信白令長打。過七日已受苦即止(此言終後之驗)南唐先主。因殺降人囚陰獄。唯聞鐘聲則暫息苦。入冥者見之。以報後主。乃為造一鐘於清涼寺。鐫其上云薦孝高皇帝脫幽出厄(通塞志晉少帝時)斯為近證。

挂旛 若四輩弟子男女命終。造作黃旛懸著剎上。離八難苦得生十方淨土。隨風一轉轉輪王位。乃至吹塵小王之位。其報無量至成菩提(大灌頂十一卷○世有書藥師如來十二誓願者。此是別緣。非經本事)。

寓錢 事祖云。唐明皇使王璵為祠祭使。自漢世葬者有瘞

錢。後世稍以紙寓錢為鬼事。至璵乃用之以襪袂。冥報記云。鬼所用錢即紙錢也。若綵絹者。亦紙為之。銀即錫。塗金即黃塗也。

述曰唐以前無紙錢為用者。自王璵盛行此法。於是冥中藏積縉鏹金銀繒綵。與世間所用無少異。由心法之能變造故。天府冥關亦隨人心而轉。世有用紙鏹寄庫者。有鬼神用紙鏹入人間買物者。有見泰山堆積蠟錢無用云人間化財用油注度火為污者。此等顯驗不一。心生則種種法生。不特紙錢一法而已也。

放生 光明經述流水長者救魚十千天子報德。此緣起也。智者買斷[竺-二+(一/(尸@邑))]梁悉罷江上採捕。此立法也。赴計詗獄中之難。報修禪堂上之恩。此顯驗也(此三事並見智者紀)唐肅宗乾元二年。詔天下置放生池凡八十一所

(顏真卿為碑)本朝真宗天禧元年詔復天下放生池。沿江淮州郡上下水五里。並禁採捕(二事詳見通塞志)慈雲奏西湖為放生池。以四月八日會郡人縱魚鳥。法智於南湖以佛生日放魚鳥。祝聖人壽。樞密劉均奉勅撰碑。此皆放生之梗概也。

改祭 佛為曠野鬼神鬼子母等。改棄血食而受僧眾出生之食。此緣起也(二事並見曉石芝施食通覽。具引藏經)梁武皇魏獻文。勅郊廟不用牲牷。唯薦蔬麪。此人主立法也(二事見通塞志)智者為關王授戒。慈雲為白鶴授戒。皆令禁斷葷血。專事蔬食。此沙門立法也(慈雲有改祭文。并決疑十頌。備引證驗)。

戒五辛 佛戒五辛。以其臭穢能障聖道。食之者必招無間之業耳。今人不能戒。是不欲見聖道。而甘為無間之罪

輩。可不哀哉。茲用備錄經律。為世告勸。粲然五章。幸思遵奉。

一名體會異。夫言葷辛。是為二義(葷臭辛辣)葷而非辛。如臭菜阿魏是也。辛而非葷。芥薑是也。是葷是辛。五辛是也。梵網云大蒜(天台疏云。葫蘆廣韻作胡荽)茗葱(薤也音格廣韻山葱)慈葱(葱之正名)蘭葱(小蒜)興渠(葱蒨也。生熟皆臭。葉如蔓菁。其臭如蒜。經音義云。生于闐國。應法師云。烏荼國人常食。即阿魏)雜阿含云革葱(茗同)慈葱(葱)木葱(非小蒜即韭)蒜(大蒜)興渠(此五出梵網也)涅槃經葱韭薤(但列三名)楞伽經葱韭薤蒜(但列四名。不出興渠而加以韭若蒜分大小則仍有五名)此方言五辛。當云葱韭薤大蒜小蒜如楞伽所列云。

二大乘永制。楞伽經云。臭穢不淨能障聖道。亦障人間人

天淨處。何況諸佛淨土。梵網云。若佛子不得食五辛。故食者犯輕垢罪(石壁注。體非重過故輕。點污淨行名垢)楞嚴云。熟食發姪生啖增恚。十方天仙嫌臭遠離。諸餓鬼等舐其脣吻。常與鬼住。福德日銷長無利益。大力魔王現作佛身來為說法。非毀禁戒讚姪怒癡。命終為魔眷屬。永墮無間。涅槃云。食者當生苦處污穢不淨。金棺敬福經云。飲酒食肉五辛之人。雖造經像勞而少功。主匠無益諸天不祐。

三小乘病開。報應經云。七眾不得食肉葷辛。有病開。在伽藍外白衣家。服滿四十九日。香湯澡浴。然後讀誦不犯罪。雜阿含云。食五辛人觸穢三寶。死墮屎糞地獄。出作野狐猪狗。若得人身其體腥臭。僧祇律開病比丘服蒜。聽七日在一邊小房。不得臥僧床褥。講堂處大小便處皆不得到。不得僧中食。不得就佛禮拜。得下風遙禮。七日滿澡

浴熏衣。方得入眾。

四方便救過。楞嚴云。持此呪時眾破戒罪。無問輕重一時銷滅。縱經飲酒食啖五辛。佛菩薩天仙不將為過。觀世音陀羅尼經。灌頂印呪二大母指屈掌中。捻無名指以無名指相背。二小指頭相拄。二中指直豎頭相拄。二頭指屈各捻中指背上。呪曰。唵步三末囉蘇摩監莎訶。誦二十一遍。自灌其頂。每旦於盆上結印誦之。持呪之人。犯欲及五辛。誦此呪解之云云。此二呪法以備誤犯之用。若恃此術數犯數解。則是重增瀆法之罪。呪部神王反生嗔譴。適足以速無間之業也。可不謹哉。

五三教事證。竺曇猷禮天台。石梁遇聖僧謂曰。汝母懷妊時行經葱園。胎氣犯穢不可住寺(僧鏡錄)天竺沙門覺稱云。吾國食肉五辛者驅出城外。故國中無貨此。道藏云。

誦黃庭經忌食五辛。又云。道士受法忌淹穢五辛。仙傳云。樂子萇舉家飲仙酒升天。獨從子墜地。天神言。此人茹蒜故不得往。司馬公祭儀云。凡祭雖得飲酒而不至亂(謂改常度)食肉不茹葷(謂葱韭蒜有臭氣之物)。

述曰。為不急之物。而自招無間之報者。世人啖五辛是也。今諸師家多忽此事。豈不痛哉。昔檀菴食三白。正避此過耳。非故為是矯世之行也。因撰述斯文。忿今時知法者。遂發其願曰。願十方諸佛菩薩天仙。聞我祈請咸起加護。願使禪林教鬻律苑三宗法門。若主若伴。咸知思護淨戒。不於清淨伽藍種葱薤之臭草。不於清淨齋供而和葱薤之臭味。不以清淨身器而啖葱薤之穢食。當知其人与境。若不清淨則凡齋戒禪誦法事之所。豈復可得感佛天而降神祇乎。豈復可得却災殃而來嘉祥乎。豈復可得動幽冥而拔沈滯乎當願普天之下。凡僧藍道觀齋厨之內。不用葱薤調

和眾食及私自煮啖。凡官府第宅齋醮之際。於十日前嚴行禁斷不蹈非法。僧道赴請受齋俗舍。常須自檢不得故食誤食自取穢染。庶乎人心交勸共隆聖道。將俾事佛事天清淨謹嚴自行化他二俱有益。毋忘今日立願之本。伏惟佛眼照之天心監之。決意禁斷用逃苦報。

喪服 釋氏之論喪服。涅槃諸律並無其制。智者臨終誡曰。世間哭泣喪服皆不應為。今案遠師喪儀云。受業和上同於父母。皆三年服。若依止師隨師喪暫為服。應師五杉集云。師服但用布。稍粗純染黃褐(據此未嘗許用白布)。

述曰。今人無識多用白布為直掇坐具。違失僧儀最為非法。今請於黑布偏衫之下。著白布衫袴以表制服。二師父母皆同此制。若義家父母亦可例此。隨俗稍用紵布。上不違涅槃諸律之無文。下不棄遠應二師之義開。隨方護法當

用中道。

戒焚亡僧不塔袈裟 律明三衣唯許傳受。未聞佛祖被亡軀而從火焚也。末代無知多行非法。有識之士尚須辨明。若坐逝不壞。結塔以葬者。猶可以被於真體。若從荼毘火化之法者。則不當披搭自取燒衣違律之過。或謂亡僧無衣者。則當如冥祥記僧妙施衣之法。云南宋江陵龍華寺僧妙既亡之後。一夕歸房靈語。弟子可宗問。和上今生何處。妙曰。粗可耳。但應受小謫。二年得免。欲訴所司為無袈裟。可急為製請僧設供以衣施之我可得也。宗如教飯僧嚙衣。既畢。比丘道猛即見妙身披衣入堂依僧次坐聽經。至散乃不復見。

述曰。磐自聞。此適子姪真視真誥真亢。不幸早世。焚龕之日皆不披袈裟。唯用布偏衫裙而已。設齋之前以平時所

服七條。作[鬬-龜+?]拈法於僧中施。且復囑後人。當力行於自身必壞之際也。敢告知識共崇此法。

佛祖統紀第三十三卷(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十四

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之一

序曰。佛之道本常而未始離乎世相推遷之際。自釋迦鶴林諸祖繼出。所以傳持此道東流震旦。逮于今而不息。大較聖主賢臣宿稟佛囑常為尊事。而儒宗道流之信不具者。時有排毀。然終莫能為之泯沒。以此道本常也。夫世稱三教。謂皆足以教世。而皆有通塞。亦時使之然耳。列三教之迹。究一理之歸。繫以編年。用觀通塞之相。

欲知如來出興大意。必先明乎本迹。而終至結集三藏。以垂範於天下後世。中間八相次第以論。所謂下兜率。託母胎。住胎宮。示降生。出父家。成佛道。轉法輪。入涅槃。於是一代化事為之大備。始昭王甲寅終穆王壬申。以為大綱云。

明本迹

佛告大眾。一切世間天人。謂我出釋氏宮去伽耶不遠坐於道場得阿耨多羅三藐三菩提。然我實成佛以來甚大久遠若斯(法華經。明大機所見本迹文)我於無量壽佛所種諸善根為轉輪聖王。最初值遇三十億佛。同名釋迦。云云。最後值迦葉佛。彼佛記我。汝於來世當得作佛。號釋迦牟尼。我如是奉事諸佛修學佛意。爾乃生兜率天宮。住一生補處(菩薩本行經。明小機所見本迹文○梵語佛陀。此云覺者。

佛止世釋迦氏。佛生淨飯王宮故名釋氏宮。伽耶此云山城。淨飯王都城也○阿耨至菩提。此云無上正等正覺。佛之德稱也。迦葉此云飲光。言身光飲蔽餘光。釋迦此云能仁。牟尼此云寂默。佛之別名。兜率此云知足。天後身菩薩。將成佛時。先上生兜率。然後下生南洲中天竺國。曰兜率來補佛處。故曰一生)。

下兜率

菩薩從兜率天將降神時。有十佛剎微塵數菩薩。皆與菩薩同願同行。乃至普賢神通行願。悉皆同等(華嚴經)。

菩薩生兜率天。名曰聖善。為諸天主說補處行。期運將至當下作佛。觀此大千界閻浮提迦毘羅國最為處中。觀淨飯王夫妻真正堪為父母。告諸天子。我應下生淨飯王家。棄

輪王位出家學道。成一切種智轉大法輪。廣利天人。汝等是時亦當同會(因果經○大千即三贍界。義見三界志。閻浮提又贍部。南洲。迦毘羅此云黃色。土德尚黃居中也。淨飯迦毘羅國王。一切種智佛所得三昧。一切智真諦也。道種智俗諦。一切種智中諦也。轉去聲)。

託母胎(起信論有住胎。華嚴經住母胎已示現出家。因果經在胎行住坐臥。為諸天說法。知大小皆有住胎)

菩薩已從此沒生於人間淨飯王家。乘栴檀樓閣處摩耶夫人胎(華嚴經○栴檀香木此云與樂。摩耶此云大幼。佛所生母也)。

菩薩乘六牙白象發兜率宮。放大光明普照十方。以四月八日明星出時。降神母胎。從右脇入(因果經)。

示降生

周(都鎬)

昭王(瑕。自武王受命至昭王為四世)

二十六年(甲寅)○(劉道原外紀。二十六年甲寅。群書多云二十四年者誤)。

夫人攀金園樹枝而生菩薩。諸天王眾。各持香水共以洗沐(華嚴經)初生之時。於十方面各行七步(涅槃經)。

夫人往藍毘尼園中。四月八日日初出時。舉右手牽無憂樹華。菩薩從右脇出墮七寶華上。自行七步。舉右手而言

曰。天上天下唯我獨尊。王召諸婆羅門當作何名。答言。太子生時多有吉祥。當名薩婆悉達(此云一切義成。出因果瑞應二經)。

昭王甲寅四月八日。江河池井汎溢。宮殿大地震動。五色光氣入貫太微遍於西方。王問大史蘇由曰。若何祥乎。對曰。有大聖人生於西方。一千年外聲教及此。王命鐫石。置之南郊大祠前(周書異記○劉恕外紀。昭王時有五色光貫紫微井水溢)。

四十年二月八日。淨飯王大會群臣小王婆羅門。以七寶器盛四大海水。灌悉達頂。立為太子(因果經。婆羅門此云淨行。外道之總名)。

四十二年王為太子。迎婆羅門女耶輸陀羅為妃。太子常修

禪觀。未嘗有夫婦道(因果經。耶輸陀羅此云華色女)。

出父家

菩薩欲令著家眾生捨離家法。故宣揚出家功德示現出家(華嚴經)。

五十年太子白父王言。唯願聽我出家學道。王曰。國未有嗣。太子即以右手指妃腹曰。却後六年汝當生男。二月七日太子身放光明照諸天宮。諸天皆知太子出家時至。皆來禮足。太子乘馬夜出城門。至苦行林中。自剃須髮。淨居天化作獵師身披袈裟。太子以七寶衣與之貿易。天明至尼連禪河靜坐思惟。宜應六年苦行。淨心守戒。日食一麻一麥(因果經。淨居天五淨居。五那含聖人所生。袈裟壞色衣。三衣總名。尼連禪河名此云不樂著)。

穆王(滿昭王子)

成佛道

四年

菩薩於菩提道場始成正覺(華嚴)三十成道號釋迦牟尼(梵網)既成道已梵天勸請。惟願如來當為眾生。廣開甘露說無上法(涅槃經)太子念言。我今修於苦行垂滿六年。我當受食然後成道。時牧牛女難陀。取乳煮糜以上菩薩。如意飽食。即趣菩提樹下。釋提桓因化為凡人施吉祥草。敷以為座結跏趺坐。而自誓言。不成正覺不起此座(因果經。佛本行經。難陀此云歡喜。女名。釋提桓因此云能天主。即忉利天帝釋。菩提樹此云道樹。佛坐此樹下成道)降天魔(華

嚴離世間品。或見菩薩住兜率天入胎出胎出家成道降魔轉法輪入涅槃。此即大乘降魔之文)時魔王宮殿自然動搖。魔王波旬怖懼。廣集軍眾。執戟操劍角目切齒橫飛亂擲。菩薩觀之如童子戲。波旬語菩薩云。汝不急去我擲汝海水。菩薩語云。汝今先能動此澡瓶。然後可能擲我海水。波旬不能令動。軍眾壞散。波旬長子商主頂禮懺悔。我父無智觸忤大聖。願得恕亮(因果雜寶藏佛本行三經。魔羅此云能奪命。波旬魔王名。此云極惡)既降魔已放大光明。即便入定思惟真諦。悉知過去所造善惡壽命短長一切眾生輪回五道無有真實(因果經)。

二月八日明星出時(天向時也)霍然大悟。得無上道成最正覺(因果經。○因果經。先降魔後成道。四教義所列亦同。華嚴經。先成道後降魔。今約華嚴義)。

是歲耶輸夫人生子名羅睺羅(此云覆障。以在胎六年為障也)。

轉法輪

如來既成道已轉正法輪。初頓後漸則有五時。華嚴名頓教。鹿苑方等般若名三漸。法華涅槃為非頓非漸。

第一華嚴時。於菩提道場初說華嚴。於三七日中思惟如是事。此謂如來最初說頓。約部為頓。約教為兼別說圓。如日初出先照高山。又為從牛出乳(三七日說名寂場華嚴)。

五年第二鹿苑時。為如來說頓獨被大機。聲聞在座狀若聾瘡。於是寢大施小。不動寂場而遊鹿苑。為憍陳如五人。但說三藏教四阿含等經(憍陳如此云火器。阿含此云無比

法。有長中雜增一四者之名)。

約時則次照幽谷。約味則從乳出酪(鹿苑說十二年)。

十六年第三方等時。彈偏折小歎大褒圓。四教俱說。藏為半字通別圓為滿字。對半說滿故言對教。說淨名金光明等經。約時則食時。約味則從酪出生酥(方等八年)。

二十四年第四般若時。轉教付財融通淘汰。此不說藏教。帶通別二正說圓教。說摩訶般若諸般若經。約時則禺中。約味則從生酥出熟酥(般若二十二年)。

四十六年第五法華涅槃時。開前一頓三漸會入非頓非漸。以不同輦墮故非頓。不約三時故非漸。諸部圓教並不須開。但是部內兼但對帶。故不及法華淳一無雜。約時則日

輪當午罄無側影。約味則從熟酥出醍醐(法華八年)。

入涅槃

言涅槃有二義。一為法華未熟人。追說四教。具談佛性。令知真常入大涅槃。名拈拾殘機教。二為末代乘戒俱失故。更扶三藏廣開常宗。設三種權扶一圓實。名扶律談常教。若論時味與法華同(涅槃是臨滅時說。從前文如來既成道已轉正法輪以下詳見佛本紀中)。

五十三年(壬申)二月十五日。佛在拘尸那城(此云三角)力士生地娑羅雙樹間(此云堅固)臨涅槃時(此云滅度)出大音聲普告大眾。今日世尊將欲涅槃。復從面門放種種光。遍照十方。大眾集已。而為說法。我今所有無上正法悉已付囑摩訶迦葉。當為汝等作大依止猶如如來。復告大眾。今以正

法付囑國王大臣及四部眾。應當勸厲諸學人令得增上戒定慧。爾時世尊於七寶床右脇而臥。中夜寂然無聲。是時娑羅雙樹垂覆寶床。慘然變白。猶如白鶴。大眾哀聲普振世界。時大眾共扶如來入金棺中。世尊大悲。即自舉棺遶城七匝至荼毘所。大眾以妙香木成大香樓舉棺樓上。佛為迦葉復現雙足千輻輪相。出於棺外。迦葉禮讚。金剛雙足還自入棺。從心胸中火涌棺外。漸漸荼毘。經于七日香樓乃盡(已上並涅槃經。荼毘又闍維耶句。此云焚燒)。

分舍利

帝釋開棺取佛右牙天上起塔。大眾收取舍利(此云骨身)滿八金墀。入俱尸城七日供養(涅槃)八國共分舍利。闍王得八萬四千數。以紫金函盛於洹河中。作塔藏之(阿育王經)。

結集三藏

四月十五日。大迦葉升須彌山(此云妙高)櫜銅犍椎(櫜陟瓜反擊也。犍椎音虔地。聲論云。鐘又隨有金木可擊者。皆通稱)集千阿羅漢(此云無生)結集法藏(結諸法義集以成文。經律論三通稱法藏)阿難禮僧。升座唱言。我聞如是一時佛在所居處(一切經首皆安此言)迦葉大眾皆悉墮淚。昨日見佛今日已稱我聞(智論)。

述曰。佛道幽遠非可約說。茲但為導吾宗之初學與夫搢紳先生之欲知此道者耳。年少氣盛疾讀此書。文雖無壅義則未解。有能用此約說推尋佛紀四卷之文。以未解義質之沙門之知教者。字字研詳條烏見理。欲不之悟未之有也。

穆王壬申歲二月十五日。暴風忽起發屋折木。山川震動。西方有白虹十二道南北通貫。王問太史扈多。對曰。西方大聖人終亡之相(周書異記)。

穆王時。西極之國有化人來入水火。反山川千變萬化不可窮極。穆王敬之若神事之若君。臨終南之上築中天之臺。其高千仞(列子)。

穆王時文殊目連(文殊菩薩此云妙德。目連尊者此云采菽)西來化王。示高四臺是迦葉佛說法處(姓高兄弟四人所造)因造三會道場。於終南山築中天之臺。高千尺(列子化人即文殊等)王之第二子於沁水北山石窟(沁七鵠反水出上黨)造迦葉佛像。王又於鼓山迦葉佛舊寺。重建竹林寺。山神從佛。請五百阿羅漢居之(天人感通傳)。

述曰。佛法東流蓋已肇於穆王之世。造像建寺悉遵先佛之舊制。信過去佛皆化及此地。及室利房等持經來秦。而始皇謝遣出境。蓋時未至機未熟耳。至漢明應夢。三寶並興。君臣民庶翕然歸命。此蘇由所謂一千年外聲教及此之嘉應也。

懿王(囍宮王子)

八年。初祖摩訶迦葉(此云大飲光)先於法華會上聞佛說火宅喻。迦葉四大聲聞。於此領解。佛為授記名光明佛(此通付法)至涅槃時。佛告大眾我今所有無上正法悉已付囑摩訶迦葉。當為汝等作大依止(見別付法末代住持當用別義)姨母所獻金縷袈裟慈氏成佛留與傳付。迦葉弘持至二十年。以法藏付阿難陀。即持佛衣往鷄足山。入滅盡定。以待彌勒下生(此云慈氏姨母摩訶波闍波提。此云大愛道。鷄足靈

鷲山三峯如仰雞足)。

孝王(辟方懿王弟)

三年。二祖阿難陀(慶喜佛從弟)持法至二十年。於摩突羅國。以法藏付商那和修(此云草衣)復於恒河中流化成金地。為末田地(此云河中)五百仙人說法授記。

三十二年三祖商那和修。於摩突羅國。以法藏付優波鞠多(此云大護)。

厲王(胡夷王子)

三十三年。佛滅後百年。中天竺華氏城(王宮多華)阿育王(此云無憂)遣使白鞠多欲來問訊。鞠多往至王所。摩頂說

偈。指示如來往昔行住之處悉令起塔。復於洹河龍宮。取閼王所藏釋迦舍利。作八萬四千寶塔。勅諸鬼神。於閼浮提城邑滿一億家為立一塔云云。初佛在王舍城乞食。有童子遙見世尊。心念我當施以麥[麩-夫+少]。即手捧細沙著世尊鉢。願以功德令得一天下繖蓋王(取蓋覆義)。即於此生得供養佛。世尊微笑告阿難曰。我滅百年。此童子統領一方為轉輪王。姓孔雀。名阿育。正法治化。廣布我舍利。造八萬四千法王之塔。

述曰。摩騰謂漢明帝曰。阿育王塔震旦有十九處。大士告劉薩訶。洛陽(聖冢)建鄴(長干)鄮陰(玉几)臨淄成都五處有阿育王塔。今十九處不可備知。而考之五處。獨鄮陰之塔。顯示世間可獲瞻禮。信乎海瀕群生末代值佛之幸也。

三十四年。佛滅後百年。毘舍離城中跋闍子(此云避)比

丘。擅行十事。佛聽兩指抄食。乃至得受金銀。一一檢校非法非毘尼(此云律)七百阿羅漢集論法毘尼(第二七百結集)。

五十一年。四祖毘多。於摩突羅國。以法藏付提迦多。

平王(宜臼幽王子東遷洛陽)

三十二年。五祖提迦多。於中天竺以法藏付彌遮迦。

莊王(他桓王子)

七年。佛滅後二百五十年。文殊師利菩薩至雪山。化五百仙人。還歸本土。放大光明遍照世界。入於涅槃。

○魯莊公七年夏四月辛卯。恒星不見。僧曰。夜明也(傳注。桓常也。辛卯四月五日)。

述曰。天台淨名疏言。佛生時星殞如雨。此因瑞應經有沸星下侍之言。故借佐傳之文。以形容耳。孤山淨覺不能別。乃稱天台正取二莊為佛生之年。然傳言辛卯。自是四月五日。可見不合。若欲實大傳夜明之事。正當以文殊放光涅槃為之驗也。

襄王(鄭惠王子)

三年。六祖彌遮迦於北天竺。以法藏付佛馱難提。

○秦繆公時。扶風獲一石像。公不識棄馬坊中。護像神怒令公病。又夢天帝責誠。以問侍臣。由余往視像曰。佛神

也。公即取像澡浴置淨室。像忽放光。公大異之。召匠造一銅像。

靈王四年。七祖難提。於提伽國以法藏付佛馱密多。

元王(仁敬王子)

元年。八祖密多。於中天竺以法藏付脇比丘。

貞定王(介元王子)

元年。鄭列禦寇隱居鄭圃著書稱。孔子答商太宰曰。西方之人有聖者焉。不治而不亂。不言而自信。不化而自行。蕩蕩乎民無能名焉。其書八篇名列子。

張無盡論曰。列子學孔子者。孔子聖人也。尚知尊西方之教而學者未讀其書。便以排佛為務者何也。

考王(隗貞定子)

四年。佛滅後五百年。天竺國無著出世闡教。其弟天親初造小乘論五百部。後因無著開悟。復造大乘論五百部。世稱千部論師。

威烈王(午考王子)

九年。九祖脇比丘。於華氏城以法藏付富那夜奢。

顯聖王(扁威烈弟)

三十五年。十祖夜奢。於華氏城。以法藏付馬鳴。初馬鳴以刀貫杖。銘曰。天下智士能勝我者截首以謝。時夜奢坐閑林中。說諸法空無我無人。謂馬鳴曰。若就世諦假名為我。第一義諦我何可得。馬鳴知義不勝。欲斬首以謝。夜奢曰。我法仁慈不斬汝首。如來記汝。後六百年當傳法藏。於是度令出家。

赧王(延靚王子)

三十一年。十一祖馬鳴。於南天竺。以法藏付迦毘摩羅。摩羅造無我論足一百偈。此論至處。魔外無不摧折。

秦(都雍)

始皇(嬴政莊襄王子)

四年西域沙門室利房等十八人。齋佛經來化。帝以其異俗囚之。夜有丈六金神破戶出之。帝驚稽首稱謝。以厚禮遣出境(朱上行經錄)。

十三年。十二祖摩羅。於南天竺以法藏付龍樹。樹於佛滅後七百年出。九十日中誦通三藏。造大無畏論十萬偈明第一義(一名大智度論。龍樹事迹見一十四祖紀)。

三十四年。丞相李斯。請史官非秦記皆燒之。非博士所職。天下敢有藏詩書百家語者。悉詣守尉雜燒之。有敢偶語詩書者棄市。制曰可○衛宏古文序(後漢)。秦改古文以篆為隸國人誹謗。時諸生為郎者。七百人。始皇密令冬月種瓜於驪山硯谷溫處。瓜實乃使人上書。瓜冬有實。詔博士諸生說之。人人各異。則皆使往視之。而為伏機。諸生

方相論難。因發機填之以土(漢書傳注)。

述曰。李斯勸秦。焚書阬儒。其為逆天道絕人理為甚矣。崔浩勸太武。廢佛焚其經阬其徒。此用秦舊法也。韓愈之言曰。人其人火其書。此用崔浩遺法。特不遇其君耳。雖空言無禍。使後世有人師用其語。豈不為盛德之累戒之哉。

佛祖統紀卷第三十四(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十五

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之二

西漢(都長安)

武帝(自高祖受命至此為四世)

元光二年。十三祖龍樹。於南天竺以法藏付迦那提婆。入月輪三昧蟬蛻而去。壽三百歲。

元狩元年。初博望侯張騫自月氏還(西域國名)言臣在大夏時(音下國名)見印竹杖蜀布。問安得此。國人曰。吾賈人市之身毒(即天竺音虔篤)身毒在大夏東南可數千里。此其去蜀不遠。乃令騫因蜀犍為(犍音虔今嘉州)發間使王然於等指之身毒(間諜之義。又間歲遣使。言不一)四歲餘皆閉昆明莫能通(為昆夷所閉)。

四年。驃騎將軍霍去病。討匈奴過焉耆山(音煙支)千餘里。得休屠王祭天金人(驃頻妙反。屠音儲。匈奴部中貴王也)○霍去病獲金人長丈餘。帝以為大神。列於甘泉宮。焚香禮敬(魏書佛老志)。

成帝(驚元帝子)

建始元年。十四祖提婆。至迦毘羅國。以法藏付羅睺羅

多。

河平三年。使謁者陳農求遺書於天下。

鴻嘉二年。光祿大夫劉向。校書天祿閣。往往見有佛經。向著列仙傳云。吾搜檢藏書。緬尋太史撰列仙圖。自黃帝已下迄至於今得仙道者七百餘人。檢定虛實得一百四十六人。其七十四人已見佛經矣。

述曰。洪興祖有云。梁孝標注新語。引列仙傳序言。七十四人已見佛經。今書肆板行者。乃云七十四人已在仙經。蓋是道流擅改之耳。然天祿有佛經此語可證。

哀帝(欣宣帝孫)

元壽元年。遣景憲使大月氏。得其王口授浮圖經還。當時稍有行齋戒者(魏書佛老志。浮圖亦佛陀。此云覺者)。

述曰。蘇由對昭王。扈多對穆。孔子答商太宰。皆言西方聖人。而不明言為佛。霍去病獲金人亦不知為佛。化人勸穆王造迦葉佛像。由余對秦繆公。則曰佛神。室利房齋佛經化始皇。劉向校書天祿見有佛經。景憲使月氏得浮圖經。此則已言佛而未行其教。皆在漢明帝感夢求佛之前。天下答南山。蘇由扈多傳毅。皆佛所使也。至言劉向見有佛經者。意張騫使大夏。去病獲金人必有佛經與之俱至。特時人弗行。國史弗錄耳。不然則不應天祿有其書也。

東漢(都洛陽)

明帝(莊光武子)

永平元年。十五祖羅多。至室羅伐城。以法藏付僧佉難提。當佛滅一千年出。

七年。帝夢金人丈六項佩日光飛行殿庭。旦問群臣莫能對。太史傅毅進曰。臣聞周昭之時。西方有聖人者出。其名曰佛。帝乃遣中郎將蔡愔秦景博士王遵十八人。使西域訪求佛道。

十年。蔡愔等於中天竺大月氏。遇迦葉摩騰竺法蘭。得佛倚像梵本經六十萬言(倚即立也)載以白馬。達雒陽(火德王故改洛為雒)騰蘭以沙門服謁見。館於鴻臚寺(胡廣釋曰。鴻聲也。臚傳也。所以傳聲贊導九賓。唐改為司賓寺)。

十一年。勅雒陽城西雍門外立白馬寺。摩騰始譯四十二章

經(譯經圖紀。其經元出大部。以大法初傳故。撮引要義以導時俗)藏梵本於蘭臺石室。圖佛像於西陽城門及顯節陵上(明帝壽藏)帝問摩騰曰。佛出世後何以化不及此。騰曰。天竺迦毘羅衛國者。三千大千世界百億日月之中。三世諸佛皆於此出。天人龍鬼有願力者。皆來生彼受化悟道。餘處佛雖不往。然光相及處。千年五百。皆有聖人傳佛聲教。而往化之。帝大說。

十四年正月十一日。五嶽八山道士褚善信六百九十人上表。請與西域佛道角試優劣。勅尚書令宋庠。以十五日大集白馬寺。帝設行殿於寺南門立三壇。道士於東壇置經子符籙。摩騰於道西置壇安經像舍利。中壇奉饌食奠祀百神。道士遶壇泣曰。主上信邪玄風失緒。敢延經義於壇以火取驗。即縱火焚經。悉成灰燼。道士相顧愧赧。所試呪術入火履水皆不得行。及焚佛經。光明五色上徹天表。烈

火既息。經像儼然。摩騰踊身飛空。現諸神變。法蘭出大梵音。宣明佛法。天雨寶華。大眾欣說。太傅張衍謂道士曰。卿等無驗。宜從佛教。道士費叔才自感而死。司空劉峻等二百六十人。京師士庶張子尚等三百九十人。後宮陰夫人王倢伃。宮人等一百九十人。五嶽道士呂惠通等六百二十人。並求出家。帝可之。勅於雒陽創十寺。七寺城外。安僧。三寺城內。安尼。並給供物。帝嘗幸白馬寺。摩騰進曰。寺東何館也。帝曰。昔有阜。夷之復起。有光怪。民呼聖冢。騰曰。昔阿育王藏佛舍利八萬四千塔。震旦之境有十九處。此其一也(震旦。又真丹。又支那。此云漢地。東方文物之國也)。帝大驚。即與俱往禮拜。見圓光涌冢上。光中有三佛。侍衛驩呼皆稱萬歲。帝大說曰。不有二大士。焉知大聖遺祐哉。乃詔造塔其上。高九層二百尺。明年有光見於塔。有金色手出塔頂。天香郁然。帝駕幸瞻禮。光隨步武(法本內傳。塔婆。此云高顯處。又云方墳)。

案翻譯名義云。唐道士尹文操。謂法本內傳是羅什門人造。意欲所述漢明夢金人道家焚經事悉是虛偽。殊不思明帝感夢出自漢書。闕澤對吳主。亦言釋道焚經角試費叔才自感而死。見之吳志。以此推之。則內傳真是漢時非晉人造。文操之妄論敗矣。此與夫列仙傳加化胡字。同一謬詐。是亦文操之所加乎。

摩騰既卒。竺法蘭譯佛本行經等五部(已上並舊傳)。

述曰。或言內傳無作者名為疑者。今觀此傳。備錄騰蘭角法之事。豈後人所能知。必法蘭譯經時。諸弟子之所記耳。

楚王英。奉黃白紈詣相國曰。託在蕃輔過惡累積。奉送縑

帛以贖罪愆。相國以聞。詔報曰。楚王誦黃老之微言。尚浮圖之仁祠。何嫌何疑。當有悔吝其還贖。以助伊蒲塞桑門之盛饌(梵語伊蒲塞即優婆塞。此云清信男。今受五戒稱僧童者。桑門即沙門。此云息心。今受具足戒稱僧者。世人未學相傳。指伊蒲便為供食。其謬誤不知義若此)。

初帝聞西域有神其名曰佛。因遣使之天竺。求其道得其書及沙門以來。其書大氏以虛無為宗。貴慈悲不殺。以為人死精神不滅。隨復受形。生時所行善惡皆有報應。故所貴修練精神以至為佛。善為宏闊勝大之言。以勸誘愚俗。精於其道者。號曰沙門。於是中國始傳其術圖其形像。而王公貴人。獨楚王英最先好之(通鑑引西域傳及楚王英傳注)范曄西域傳。論曰。佛道神化興自身毒。而西漢方志莫有稱焉(禮記文武之政。布在方冊。注方版出策簡也。漢張蒼為御史。主柱下方書。又云。謹連其事於左方。皆本今言

方志。志於木方也)張騫但著地多暑濕乘象而戰。班超唯列其奉浮圖不殺伐。而精文善法導幸之功靡所傳述。子聞之後說。其國殷乎中土。玉燭和氣靈聖之所降集。賢懿之所挺生。神迹詭異。則理絕人區。感驗明顯。則事出天外。而騫超無聞。豈非道閉往運而數開叔葉乎(云云)。

袁宏漢紀云。西域天竺有佛道焉。佛者漢言覺也。將覺悟群生也。其教以修善慈心為主。專務清淨。其精者號沙門。漢言息心。蓋息意去慾而歸於無為也。又以為人死精神不滅隨復受形。生時所行善惡皆有報應。故所貴行善修道以練精神以至為佛也。佛身長一丈六尺。身黃金色。項佩日光。變化無所不入。故能化通萬物。而大濟群生。明帝感夢。乃遣使天竺問道。圖其像而還。有經數千卷以虛無為宗。包羅精粗無所不統。善為宏闊遠大之言。所求在一體之內。所明在視聽之外。世俗之人或以為虛誕。然歸

於玄微深遠難得而測。故王公大人視生死報應之際。莫不矍然而自失焉(矍厥縛反驚遽)。

述曰。袁氏漢紀言。天竺有佛道。佛身丈六金色日光。化通萬物大濟群生。明帝感夢。遣使問道得其經像。此佛法來東之時。與法本內傳相為表裏。蘇子瞻為之跋云。此殆中國始知有佛時。語雖淺近大略具足矣。

安帝(祐章帝孫)

永初元年。十六祖難提。至摩提國以法藏付僧佉耶舍。

順帝(保安帝子)

永和元年。十七祖耶舍。至月氏國以法藏付鳩摩羅駄。佛

記滅後一千年出。

桓帝(志章帝曾孫)

建和元年。月氏國沙門支識至雒陽。譯般舟三昧阿闍佛經等二十一部。

二年。安息國沙門安世高至雒陽。譯五十校計等百七十六部。

三年。十八祖羅馱。至北天竺以法藏付闍夜多。

九年。自永平以來臣民雖有習浮圖者。天子未之好。至帝始篤好之。於禁中鑄黃金浮圖老子像(佛像與老子像)親於濯龍宮設華蓋之座。用郊天之樂。

靈帝(宏章帝玄孫)

三年。安息沙門安世高。有同學死為共亭湖神(共音恭即彭蠡湖屬南康)能使過船分風上下。世高至廟神謂之曰。我家此湖千里以昔布施。今大有珍寶以多瞋今受蟒身。幸取我繒寶。為造一塔祈生善處。世高遂於豫章建寺造塔。後蟒死山中。首尾數里(今大安寺)。

熹平元年。十九祖闍夜多。至羅閱國以法藏付婆修槃馱。

光和三年。西天沙門竺佛朔至雒陽。譯道行般若經。中平五年清信士嚴佛調譯古維摩經等。

六年。宦者張讓。詐以大后詔大將軍何進斬之。中軍校尉

袁紹引兵捕諸宦者。殺二千人。張讓投河死。

述曰。儒學之厄時常有之。其始自秦李斯。斯阬諸生為郎者七百人。漢宦官禁錮寔范滂等二百人。殺天下儒賢。廷中宰輔陳蕃竇武李膺及鉤黨死者百餘人。廢徙禁錮者七百人。及矯詔斬大臣何進。而袁紹乘怨殺宦者二千人。雖為一快。然君子小人俱於死。玉石俱焚。亦何足為儒門幸。大氏天有定命運有通塞。厄會之來所不容免。唐朱溫殺朝賢三十人投屍于河。亦一厄也。悲夫。如釋氏之厄三武皆此類也。

獻帝(協靈帝中子)

初平元年。二十祖槃馱。至那提國以法藏付摩拏羅。

二年。蒼梧儒生牟子因世亂。無仕官意銳志佛道。而世多非之。乃製理惑論以為勸。其辭有云。佛者覺也。猶三皇神五帝聖也(文見大藏弘明集)。

述曰。牟子不得其名。當佛道未大行之日。而能為論。援三家之事義比決優劣。以祛世惑。以禦外侮。是殆大士示迹。如來之使也。

興平二年。下邳相笮融(側格切)起佛祠。課人誦經浴佛設齋。時會者五千餘人。

述曰。漢世人間建佛祠行佛事者。始見之笮氏。嘗與一儒老共觀此文。笑之曰。為士夫而使後世書為學佛。豈不恥哉。磐應之曰。學佛者豈不是為善之人乎。為士夫而使作史者指為姦佞貪酷甚至於不忠不孝者。斯可為恥。學佛為

善尚何恥哉。儒老笑頷之。

建安元年。二十一祖摩拏羅。至月氏國以法藏付鶴勒那。

十四年。二十二祖鶴勒那。於月氏國以法藏付師子尊者。先是鶴勒那弟子竺大力等來雒陽。與康猛同譯興起本行經。忽於館所有白光見。大力斂容。有間曰。此我師入滅之相。大力康猛支曜康巨等。皆善方言。終漢之世譯經三百餘部。

魏(都洛陽時天下分魏吳蜀三國)

文帝(丕太祖子受漢禪)

黃初元年吳主孫權於武昌建昌樂寺。

五年。月氏國優婆塞支謙來雒陽。謙受業於支亮。亮受業於支讖。世稱天下博知無出三支。謙細長黑瘦眼白睛黃。時人語曰。支郎眼中黃。形軀雖細是智囊。後避地歸吳。拜為博士○西天沙門維祇難。同竺律炎來吳。譯經五部。

六年。陳思王曹植(文帝弟字子建)每讀佛經。輒留連嗟翫以為至道之宗極。嘗遊漁山聞空中梵天之響。乃摹其聲節寫為梵唄(音敗此云讚歎)撰文制音凡六契(經音義云猶一節也)傳為後式。

明帝(叡文帝子)

太和三年。吳潘夫人於武昌建慧寶寺。

齊王(芳明帝養子)

正始二年。吳赤烏四年。康居國沙門康僧會來吳國。人初見咸驚異之。吳主曰。是漢明所夢佛神之遺風乎。乃召問之。會曰。如來遷化已逾千載。靈骨舍利神應無方。吳主曰。舍利可得當為立塔。若其無驗國有常刑。會謂其徒曰。大法廢興在此一舉。當潔齋以懇求。七日無驗展至三七日。眾且懼。忽鏗然有聲。視瓶中舍利五色。吳主自執瓶瀉銅盤中。盤即破裂。火燒鎚擊一無所損。因起浮圖置建初寺。名其地曰佛陀里。

三年。吳尚書令闕澤。捨宅為德潤寺(在四明慈谿縣。今名普濟。澤字德潤。故名)吳主問曰。孔子教化世俗。老莊放蕩山林。何事佛為。澤對曰。孔老法天制用不敢違天。諸天奉行佛教不敢違佛。以此言之實非比對。吳主曰。佛教

入中國何緣不及東方。澤曰。永明十四年。五嶽道士褚善信費叔才等與西僧角法。費叔才自感而死。至今百七十年。離亂歲深方至於此。

述曰。三國之時各務戰守。而於此道未之能弘。然吳之君臣稍有知者。故建寺譯經奉舍利。論佛教班班可見。魏之境獨陳思王能知之。蜀則蔑聞。意戰國遐阻未便能至耳。

嘉平二年。中天竺三藏曇摩迦羅。至洛陽譯僧祇戒。立大僧羯磨受戒。先是比丘出家。特剪髮而已。未有律儀。凡齋懺法事如祠祀狀。及迦羅至始出戒本。遂為日用。

四年。中天竺沙門康僧鎧。至洛陽譯無量壽經。

高貴鄉公(髦文帝孫)

正元元年。漢魏以來二眾唯受三歸。大僧沙彌曾無區別。曇摩迦羅乃上書乞行受戒法。與安息國沙門曇諦同在洛。出曇無德部四分戒本。十人受戒羯磨法。沙門朱士行為受戒之始(迦羅此云法時。曇無德此云法正。今資持律宗用法正。為四分部主。尊為始祖。法時至此土傳四分行十人受戒法為二祖。至南山廣述疏鈔行於世為九祖)。

甘露元年。天竺沙門白延。至洛陽譯無量清淨平等覺經等六部。無畏三藏。至交州譯法華三昧經○吳主孫皓不敬佛法毀廢寺宇。詰康僧會曰。佛言善惡報應可得聞乎。會曰。明主以孝道治天下。則赤烏翔老人見(漢書。南極老人星見則治安)以仁德育萬物。則醴泉涌嘉禾生。善既有徵惡亦如之。他日宿衛治圃得金像。皓使置穢處灌以不潔。俄得腫疾。占者云。坐犯大神。皓悟迎像供事。請會說法禮

拜悔罪。受五戒疾獲愈。奉會為師。復營立塔寺。

四年。二十三祖師子尊者。遊化至罽賓國。有外道詐為僧形。以幻術入王宮奸犯妃后。王怒曰。吾信事三寶。而沙門何多辱我。即毀寺害僧。自秉劍至尊者所斬師。白乳涌高數尺。王臂尋墮。七日暴死(自迦葉始祖至師子事迹之詳。備在西上二十四祖紀)。

五年。潁川朱士行(時存俗姓)講道行般若經(講經之始)每歎譯理未周。乃發迹長安。至于闐國(沙門西遊之始)得梵本般若。國禁不傳東土。士行請驗以火無損。王信異乃許其傳。士行即寄經東歸。因名放光般若。

佛祖統紀第三十五卷(終)

定王(瑜匡王子)

三年九月十四日。老子生於楚陳郡苦縣厲鄉曲仁里(苦音厲音賴)。姓李氏。名耳。字伯陽。諡曰聃(他甘反。耳漫無輪故號曰聃)在母胎八十一年。剖左脇而生。生即皓然故號老子。生於李樹下故姓李。黃色美眉。長耳大目。鼻有雙柱。耳有三門(史記及神仙傳)。老子內傳。老子先天而生。在伏羲時號鬱華子。在軒轅時號廣成子。至周文武凡為十二帝師。漢劉向列仙傳。晉皇甫謐高士傳。皆生於商末。唐尹文操聖紀。老子於太清境託孕於玄妙玉女。在母胎八十一年。商高宗九年降生。四十三年乘白鹿登庭檜飛升(檜今在亳州太清宮)。商紂二十一年降于岐山。世本曰。在商為守藏史。在周為柱下史(周文王為西伯尚服事商。故守藏時未稱為周)。昭王二十三年。老子駕青牛薄板

車。西度函谷關。授關令尹子道德經。二十五年復降于蜀李太官家。二十七年與尹子會于成都青羊之肆。往西域化胡畢於于闐升天(內傳所引。降生不一。附見于此)。

簡王(夷定王子)

四年。老子為周守藏史(三皇五帝之書藏之於室故曰藏)。

十三年。老子為周柱下史(柱下史官所立之處。記言記事常在君前)。

○王子喬者。靈王太子晉也。好吹笙作鳳皇鳴。道士浮丘公接上嵩山三十年。謂桓良曰。告我家。七月七日待我緱氏山。果乘白鶴舉手謝時人而去。

二十一年十月庚子(魯襄公二十二年)孔子生於魯陬邑。父叔梁紇(下沒反)母顏氏。禱尼丘而生。首上圩頂故名丘(尼丘魯山名。圩音烏。中氏四旁高)。字仲尼。長九尺六寸(史記)。

史記(孔子世家)商帝乙子。微子始封于宋。十三世孔防叔徙居于魯。防叔子伯夏。伯夏子叔梁紇。是生孔子。闕里記云。誕生之夕。二龍遶室。五老降庭。顏氏之房聞鈞天之樂。月角日準河目海口。眉有十二采。目有六十四理。

景王(貴靈王子)

十年孔子朝周(時十七歲)。問禮於老子。訪樂於萇弘。自

周反魯(周音長。周大夫)。

考異曰。老子聖迹出有入無。固難以內傳實錄諸文定于一。然孔子問禮老聃。老子之子宗為魏將。此司馬史記所錄。尤可為同時之證。不必遠取前古數數降生也。

敬王(丐悼王子)

元年老子西入函谷關。關令尹喜見紫雲西邁。知有道人當度。迎設禮。老子為著道德經五千言與尹子。西之流沙。莫知所終。尹喜著書九篇號關令子。

考異曰。史記老子傳注引神仙傳云。老子與尹喜俱之流沙。今刊行列仙傳乃云。俱之流沙化胡。蓋是道士家私增

化胡兩字。欲以成化胡成佛之證耳。謬哉。

十九年孔子為中都宰。為養生送死之節。長幼異食。強弱異任。一年而四方諸侯則焉。定公曰。以此法治魯何如。子曰雖天下可也。

二十一年孔子為司空。立五土之性而物各得其所生之宜。

二十二年定公與齊景公會于夾谷。孔子攝相事。齊歸所侵鄆汶陽龜陰之田以謝過○孔子為大司寇。七日而誅少正卯(大夫之亂政者)。隳三都之城(郕費成)。強公室弱私家。尊君卑臣。政化盛行。三月大治粥羔豚者弗飾賈(粥鬻同賈價同)。男女別於塗。道不拾遺。四方之客至乎邑者不求有司。定公受齊女樂。三日不聽政。郊不致膳俎(音煩祭肉)。孔子遂行適衛。

二十三年孔子自衛適陳過匡。匡人以孔子狀貌類陽虎詢焉。適宋與弟子習禮大樹下。司馬桓魋欲害之拔其樹。

三十二年孔子至陳。

三十五年楚攻陳。孔子在陳絕糧。從者病莫能興。復去陳反衛。

三十六年孔子自衛反魯。然後樂正雅頌各得其所。乃刪詩。定書。繫周易。作春秋。七十子之疇。會集夫子所言。以為論語。

三十九年(哀公十四年)魯哀公西狩獲麟(仁獸一角)。孔子傷麟之出非其時。遂絕筆於春秋。

四十一年四月己丑(哀公十六年)孔子卒。孔子蚤作負手曳杖消搖於門歌曰。泰山其頽乎。梁木其壞乎。哲人其萎乎。子貢聞之曰。夫子殆將病也趨而入。夫子曰。予疇昔之夜夢奠於兩楹之間。明王不興而天下其孰能宗予。予殆將死也。蓋寢疾七日而沒。年七十二葬魯城北泗水上。弟子皆服三年。三年心喪畢相訣而去。唯子貢廬於冢六年。弟子及魯人往從冢而家者百餘室。因命曰孔里。孔子以詩書禮樂教弟子蓋三千人。身通六藝者七十有二人。孔子曰。德行顏淵·閔子騫·冉伯牛·仲弓。言語宰我·子貢。政事冉有·季路。文學子游·子夏(孔門四科十哲)孔子娶上官氏生鯉(伯魚)。鯉生仍(子思)。學于曾子。嘗困於宋作中庸。

述曰。智者荊溪之論曰。若眾生根性薄弱不堪深化。但授

世藥。如周孔制禮作樂。五德行世。邊表根性不感佛興。我遣三聖化彼真丹。禮樂前驅真道後啟。清淨法行經云。月光菩薩彼稱顏回(別引法行經本稱光淨菩薩)。光淨菩薩彼稱孔子(別本稱儒童菩薩)。迦葉菩薩彼稱老子(別本云。迦葉應生震旦示號老子。設無外之教以治國。假神仙之術以治身)。此止觀輔行二處之證也。又據藏本冢墓因緣經云。閻浮界內有振旦國。我遣三聖在中。化導人民慈哀禮義具足(本文)。是知此土聖賢前後施化。皆我佛之所使。然而昧者不足以知。覽此二經可不增信善哉。李商隱(唐時)之讚佛曰。吾儒之師曰魯仲尼。仲尼師聃龍吾不知(史記孔子謂弟子曰。至於龍吾不知其乘風雲而上天。吾今目見老子其猶龍耶)。聃師竺乾善入無為(尹子西升經老子云。蓋聞竺乾有古皇先生。不生不滅善入無為。又云。古先生者即吾之師。嘗化乎竺乾。又符子云。老氏之師名釋迦文)。稽首大覺吾師師師(三師者。言我師仲尼仲尼師老

師釋也)。

○宋大夫墨翟著書十篇號墨子。外治經典。內修道術。與儒家分塗。務尚儉約。頗毀孔子。世多學之。年八十二入山精思至道。有神人授以素書。合朱英丹。服之為地仙。乃述五行記著其事。隱居以避戰國(見列仙傳)。

案。葛洪神仙傳。漢武帝遣使聘墨子。不至。後有劉政。治五行記。服朱英丹。色如童子。變化隱形。日行數千里。漢書藝文志。墨子七十一篇。顏師古注。有節用兼愛上賢明鬼神非命上同諸篇。

三十三年。孟子鄒人。名軻。師孔子之孫子思治儒術之道。通五經。尤長於詩書(是詩未有禮記)。孟子見梁惠王。王曰。叟不遠千里。而來。亦將有以利吾國乎。孟子

曰。王何必曰利。亦有仁義而已矣。孟子與高第弟子公孫丑萬章之徒難疑答問。著書七篇。述堯舜之道。孟子曰。聖王不作。諸侯放恣。處士橫議。楊朱墨翟之言盈天下。天下之言不歸楊則歸墨。楊氏為我是無君也。墨子兼愛是無父也。無父無君是禽獸也。孟子曰。能言距楊墨者聖人之徒。孟子曰。楊子取為我拔一毛而利天下不為也。墨子兼愛摩頂放踵。利天下為之(放方往反至也)。孟子曰。逃墨必歸於楊。逃楊必歸於儒。歸斯受之而已矣(墨子兼愛無親疎之別。最為違禮。楊朱為己愛身。雖違禮尚得不敢毀傷之義。逃者去也。去邪歸正故曰歸。去墨歸楊。去楊歸儒。則當受而安之)。

○莊子。名周。梁國蒙人。為漆園吏。當梁惠王時其學無所不闢。然其要本歸於老子之言。著書十餘萬言。大抵率宇言也。楚威王聞周賢。使使厚幣迎之。許以為相。周笑

謂使者曰。千金重利也。卿相尊位也。子獨不見郊祭之犧牛乎。養食之數歲。衣以文繡入於太廟。當是之時雖欲為孤豚可得乎。子亟去無污我。莊子師長桑公子。隱抱犢山。服北育火丹。白日升天。

四十年荀卿名況。善詩禮易春秋。齊襄王時三為祭酒。適楚為蘭陵令。因家焉。著書三十二篇。名荀子。尊王黜霸。貴仁義而賤功利。李斯韓非浮丘伯皆受業。為名儒。

韓退之讀荀子云。得荀氏書考其辭。時若不醇要其歸與孔子異者鮮矣。抑猶在軻雄之間乎。孟氏醇乎醇者也。荀與楊大醇而小疵。

蘇子瞻論曰。李斯事荀卿。既而焚滅其書。大變古先聖王之法。於其師之道不啻若寇讐。今觀荀卿之書。然後知李

斯之所以事秦者皆出於荀卿。而不足怪也。荀卿者喜為異說而不讓。敢為高論而不顧。其言愚人之所驚。小人之所以喜也。子思孟子世之所謂賢人君子也。荀卿獨曰。亂天下者子思孟軻也。天下之人如此其眾也。仁人義士如此其多也。荀卿獨曰。人性惡。桀紂性也。堯舜偽也。由是言之意。其為人必剛愎不遜。而自許太過也。彼李斯者又特甚者耳。今夫小人之為不善。猶必有所顧忌。是以夏商之亡桀紂之殘暴。而先王之法度禮樂刑政。猶未至於絕滅而不可考。是桀紂猶有所存而不敢廢也。彼李斯者獨能奮而不顧。焚燒夫子之五經烹滅三代之諸侯。破壞周公之井田。此亦必有所恃者矣。彼見其師歷詆天下之賢人。以自是其愚以為古代聖王皆無足法者。由荀卿高談異論有以激之也。

三十一年。改臘為嘉平。初茅濛學道丹成乘龍升天。有童

謠曰。神仙得者茅初成(濛之字)。駕龍上天升太清。時下
玄洲戲赤城。繼世而能在我盈。帝若學之臘嘉平。始皇方
求神仙。聞謠言。遂詔改臘為嘉平。望祀蓬萊。使徐福將
童男童女入海求仙藥。有茅盈者視濛為高祖父。入常山學
道。二弟固衷仕漢為二千石。茅君治江南句曲山。山下人
為立廟。君或來時音樂導從自天而下。人因呼其處曰茅
山。後二弟棄官尋兄亦得成真。老君遣使持節。以白玉板
黃金刻書加九錫之命。拜君為司命真君。主吳越生死之
籍。拜固為定錄君。衷為保命君故號三茅君。每十二月二
日三月十八日。三君各乘白鶴。集於峯頂○大宛多枉死橫
道。有鳥銜草覆死人面。皆登時活。始皇使使以問鬼谷先
生云。是東海祖洲不死草生瓊田一株可活千人。始皇因遣
徐福及童男童女各三千人。乘樓船入海。尋祖洲不返。

高祖(劉邦)

十二年上過魯祠孔子封九代孫騰為奉嗣君。

述曰。周秦以來為儒者。尊孔子為宗師。而在上之君曾未知所以褒稱而尊事之。高皇帝當干戈甫定之日。過魯祠之。且封其後以奉嗣焉。所以教人以武定文守之義。後代人主尊稱先聖。通祀天下。為萬世師儒之法者。自漢家始。豈不盛哉。

初呂后子為太子。戚夫人子如意上愛之。嘗欲易之。留侯張良諫不聽。呂后要良畫計。良曰。上所不能致者四人耳。乃令太子為書厚禮以請之。上燕置酒。太子侍四人從太子。須眉皓白衣冠甚偉。上大驚謂四人曰。幸卒調護太子。召戚夫人謂曰。彼四人輔之羽翼已成矣。竟不易太

子。留侯本招此四人之力也(陳留志東園公者唐宣明居園中。夏黃公者崔少通隱居夏里。角里先生者周元道綺里季不知姓。避秦亂隱居商山稱四皓。角音祿)○韓人張良嘗游下邳圯上(邳音丕。圯音怡。楚人謂橋為圯)。有老父墮履圯下。顧良下取之。父以足受去。里所復還曰。孺子可教矣。出一編書曰。讀此則為王者師。十三年見我濟北穀城山下黃石即我矣。旦日視其書。乃太公兵法也。後從帝過濟北。果見穀城山下黃石。取而葆祠之(葆即寶字)。留侯曰。家世相韓。及韓滅不愛萬金之資。為韓報讎。強秦天下振動。今以三寸舌為帝者師。封萬戶位列侯。此布衣之極於良足矣。願棄人間事。欲從赤松子游耳。乃學辟穀道引輕身(辟音壁道導同)。

惠帝(盈高祖子)

四年除挾書律。秦律有挾書者族故今除之(挾藏也。族誅及九族)。

文帝(恒高祖中子)

元年上讀老子。有疑義。聞河上公結草為菴于河濱常讀老子。遣使問之。公曰。道尊德貴非可遙問。帝即駕車幸之。公授素書章句二卷曰。余注此經以來千七百年。凡傳三人。今子四矣。帝拜跪受經。失公所在。

元封元年。上東巡狩見老父。頭上白光數尺。面有童色。上問何道。對曰。臣年八十五垂死。有道士教臣絕穀服朮飲水。今日行三百里。年百八十矣。帝受其方。老父後入

岱山○上登嵩高起道宮。齋七日西南有白雲起。徑趨宮庭。群仙數千從西王母乘紫雲之輦。命帝坐。侍女進桃四枚。帝收其核欲種之。母曰。此桃三千年一實。中國土薄不能生也。母命侍女王子登。彈八琅之璈。董雙成吹雲和之笙。許飛瓊鼓震虛之簧。段安香作九天之鈞。帝叩頭問長生之道。母曰。汝性淫亂奢侈殺伐非法。欲以解脫三尸全身永久不可得也。乃命上元夫人。出八會之書五嶽真形圖六甲靈飛符。凡十二事以授帝。王母與夫人同乘。向西南而去。帝以靈文安柏梁臺。常朝拜之(武帝內傳)。

太初元年始正歷以正月為歲首。

述曰。漢因秦以十月建亥為正。雖文景之盛不能革。正月建寅用夏正也。孔子所謂行夏之時。至漢武始能行之。正音政。舊音征。今不用。書怠棄三正。詩正月。左傳春王

正月。漢書改正朔。並無音文。書正月上日。音征又如字。此蓋陸德明順古避始皇諱故音征至今。人間猶作征音。殊不知去秦既遠自合削去。今人尚不知避孔聖諱。豈有讀其書行其教而不知避。此儒生君子所當聞諸 朝著于令為可也。

冬十一月天火柏梁臺。真形圖錄十二事並飛入太空。帝自受法不修至德。勞弊萬民遠征夷狄。不從王母訓故天見戒(內傳)。

二年齊人東方朔仕為太中大夫。上好仙術。朔從西那國得聲風木。上以遍賜群臣。人有疾則汗死則折。又東至吉雲之澤。得五色甘露。帝遍賜群臣服之。老者少。疾者愈。朔少時遊鴻濛之澤。遇老母采桑。有黃眉翁。指母語朔曰。昔為我妻。託形太白之精。今汝亦此星之精。吾却食

吞氣已九千餘年。三千年一返骨洗髓。二千年一剝皮代毛。吾生來已三洗髓。五代毛矣(澗冥記及朔傳)。

征和元年魯共王(景帝子共恭同)好治宮室。壞孔子舊宅以廣其居。聞金石絲竹之聲。乃不敢壞於壁中得所藏古文虞夏商周之書及傳論語孝經。皆科斗文字。悉以書還孔子。更以竹簡寫之。詔博士孔安國作傳。初秦末孔子襄於壁中藏其家書也(襄孔子六世孫。惠帝時為博士。安國之曾祖也。壞古話反。毀之曰壞。科斗蝦蟆子。書形似之。傳直戀反。今尚書大傳是也)。

昭帝(弗武帝子)

始元元年郴人蘇耽感神仙。授以道術。一日忽掃洒庭除

曰。仙侶至矣。俄紫氣氤氲。白鶴數十來集化為人。天服粲麗。耽入白母曰。耽當為神仙不得終養。因留櫝曰。有所乏可叩之。又云。明年郡有疾疫。可取庭前井水橘葉以救人。少資甘旨。言畢升天。明年果大疫。百姓競詣母。母依法救之皆愈。常有乏叩櫝。其物立致。後三年母疑開鑰視之。雙鶴飛去。叩之無復應。後有一鶴來止郡城樓。少年彈之。乃以爪攫樓板成字云。風淅淅兮雨淒淒。城郭是兮人民非。三百甲子令來歸。我是蘇耽彈我何為。

宣露(洵武帝曾孫)

甘露三年詔諸儒論五經同異。太子太傅蕭望之平奏其議。上親稱制臨決。

元帝(奭宣帝子)

初元元年詔封孔子後孔霸為褒成君。

綏和元年。劉向說上宜興辟雍。設庠序陳禮樂。以風化天下。帝下公卿議。會向病卒。

二年詔光祿大夫劉歆典領五經。卒父前業。歆敘諸子為九流。曰儒曰道曰陰陽曰法曰名曰墨曰從橫曰雜曰農。皆起於王道既微諸侯力政(儒家遊史六經。留意仁義。宗師仲尼於道最高。道家秉要元本。清虛自守。陰陽家敬順歷象。以授民時。法家信賞必罰以輔禮制。名家名位不同。禮亦異數。墨家茅居採椽。是以貴儉。從橫家權事制宜。受命而不受辭。雜家合名法兼儒墨。知國體貫王治。農家勸耕

桑足衣食。此見前漢史)。蜀人楊雄放易作太玄。放論語作法言。言人之性善惡混。修其善則為善人。修其惡則為惡人。氣也者所適。善惡之馬也。

司馬君實注曰。孟子言性善。不善者外物誘之也。荀子言性惡。其善者聖人教之也。是皆得其一偏。夫性者受於天以生者也。善與惡必兼有之。猶陰之與陽。聖人不能無惡。愚人不能無善。譬之於田稻粱藁與並生善治田者耨其藁。而養其稻粱。不善治田者反之。孟子以為仁義禮智皆出乎性者也。是豈可謂之不然乎。然殊不知暴慢貪惑亦出乎性也。是信稻粱之生於田。而不信藁之亦生於田也。荀子以為爭奪賤賊之心人之所生而有也。不以師法禮義正之。則悖亂而有也。是豈可謂之不然乎。然殊不知慈愛羞惡之心亦生而有也。是信藁之生於田。而不信稻粱之亦生於田也。故楊子以人之性善惡混。混者善惡雜處

於心之謂也。顧人之所擇而修之何如耳。

二年。上幸辟雍(太學也)。尊養三老五更(鄭康成云。老人更知三德五事者。李奇云。王者父事三老。兄事五更。音庚)。引桓榮及弟子升堂。上自為說。諸儒執經問難。冠帶搢紳之人圜橋門而觀聽者蓋億萬計(搢音晉插笏也)。

十五年三月。上東巡狩幸闕里(其處有廢闕址)祠孔子及七十二弟子。上親御講堂。命皇太子諸王說經。封十九代孫孔僖為褒成侯。

章帝(坦明帝子)

元和二年三月上幸魯。祠孔子於闕里。及七十二弟子。大

會孔氏男子六十二人。拜孔僖為郎中。

四年。詔謁者陳珍及五經博士。校定東觀五經諸子傳記百家藝術。

延光元年陰長生者陰皇后之屬。師事馬明王。學道度世。同入青城山。煮黃土為金立壇。授以太清神丹經。長生合丹服其半不升天。大作黃金數十萬斤以施窮乏。在民間二百年。後於平都山白日升天。

四年上幸魯。祠孔子及七十二弟子。

○魏伯陽者。上虞人。好道術與弟子三人入山作丹。丹成先服之即死。弟子虞生曰。吾師非凡人服丹而死。將有意焉。亦服丹而死。餘二弟子疑不服。出山求棺木。伯陽即

起將虞生皆仙去。逢入山伐木人。作書寄謝二弟子。伯陽作參同契五將類三卷。其說似解周易。而假借爻象以論作丹之事。儒家不識其旨。唯以陰陽二義為之注釋。

○王遠舉孝廉為郎中。棄官入山修道。帝徵詣京師。題宮門四百字。說方來之事。帝惡之使削去。墨徹板愈明。遠過吳住蔡經家。召麻姑各進行厨。金盤玉杯擘麟脯。姑云已見東海三變桑田。向到蓬萊水又淺於昔日。遠曰。聖人背言海中行復揚塵。經見姑手爪似鳥。心念背大癢時得此爬背。遠使人牽經鞭之。麻姑神人。汝何謂爪可爬背。經謂父母曰。王君常在崑崙山往來。羅浮括蒼皆有宮室主天曹事。地上五嶽生死之事皆先告王君。

永壽二年九月九日。天師張道陵在閬州雲臺山。老君遣使者持玉冊。授陵正一真人。與夫人雍氏同升寶車。弟子王

長趙昇皆同升天。道陵本居餘杭天目山。漢光武建武十年正月望日生。七歲能誦道德經。章帝元和二年以博士召不起。乃去學長生隱居雲錦山(今信州龍虎山)。和帝永元四年就拜諫議大夫辭疾。復徵為太傅封冀侯。語使者曰。為我謝天子。九霄金闕業已為巨矣。遂轉入嵩山。感老君夢中告曰。石室有黃帝九鼎大丹經。可往受之。後果獲得。家貧無貲可鍊。乃入蜀隱鶴鳴山。依法鍊丹三年乃成。謂弟子曰。當為國家興利除害以濟民庶。然後服丹輕舉。臣事三境庶無愧焉。乃攝伏魔鬼奪二十四治化為福庭。老君復命陵參駕朝玉晨大道君。授以天師印綬雌雄二劍正一盟威祕籙三清眾經符圖。人有疾患官災隨事輸米以贖罪疏過悔謝。弟子戶至數萬。桓帝建和二年降十二神女掩於井中。化鹹泉為鹽井(今陵井監是)。永壽元年老君命陵同遊成都。地祇涌玉局高丈餘。以為寶座。老君登座說南北二斗經。老君既去。玉局復陷為井(今玉局觀是故跡)明年老

君遣使召陵升天(天師傳)。

順帝時。張陵學道鶴鳴山。受其道者出米五斗。陵傳子衡。衡子魯。魯自號師君。其來學者。初名鬼卒。後號祭酒。各領部眾。有病者令首過諸祭酒。各起義舍於路。置米肉以給行旅。民夷信向之。朝廷就拜鎮夷中郎將領漢寧。太守曹操入南鄭封魯閬中侯。卒諡原侯。子富嗣(後漢書劉焉傳)。熹平中。漢中有張脩。為太平道。張角為五斗米道。太平道師教人叩頭思過。因以符水飲之。使病家出米五斗。後角被誅。脩亦亡。魯因其人信行。遂增飾之。教起義舍(典略)。

張魯祖父陵客蜀學道在鶴鳴山。造作道書以惑百姓。受道者出米五斗。世號米賊。陵死子衡傳其業。衡死魯復傳之(三國魏志)。

初鉅鹿張角奉事黃老。以妖術教授。號太平道。呪符水以療病。令病者跪拜首過。或時病愈。眾共神之。角分遣弟子周遊四方轉相誑誘。十餘年間徒眾數十萬。自青徐幽冀荆揚兗豫八州之人莫不畢應。凡三十六方。方猶將軍也。大方萬餘人。小方六七千。角弟子唐周上書告之。有詔逐捕角等。角勅諸方俱起。皆著黃巾以為標幟。故時人謂之黃巾賊。旬月之間天下響應(角起於靈帝中平元年)。詔皇甫嵩討角。嵩與角弟梁戰。大破之斬梁。角先已病死。剖棺戮屍。傳首京師(後漢書皇甫嵩傳)。

述曰。事固有真偽相雜。而失其實者夫五斗米道。此老君授天師正一盟威法中之一端也。天師於順帝時行之於蜀矣。天師父子得道仙舉。逮今龍虎山勝迹儼然。子孫為嗣師者不絕。是亦歷朝之所尊事真也。張脩張角在靈帝時當

天師之後。假五斗米道轉教徒眾。遍於八州為三十六方(方猶將軍也)。一旦反叛而卒致誅戮偽也。然作史者或有時而過論故真偽之間後人不能以察。今詳漢書劉焉傳言。從陵受道者出米五斗。陵至魯三世。始封閭中侯。而子富嗣。此范曄所述而無復他辭。及覽魏志則云。陵作道書惑百姓出米五斗。世號米賊。此陳壽所述而頗形譏毀。至於典略之說則。又謂張角為五斗米道被誅。魯因其人信而增飾之。此說則甚為失義。蓋魯行米道。自是祖法。何必因角而為之。是知魏志典略俱乏通識。妄事否藏。未若漢書之為寶錄也。李膺蜀記者不知為何代文言。陵侮嫚人鬼為大蟒所噉。此謗瀆之言。何忍輕肆。世或稱三張者。是則以天師之尊下同黃巾之徒。此有識者所當諱也。

延熹八年。宦官使牢脩上書告。司隸校尉李膺養太學游士。交結諸郡生徒共為部黨。誹謗朝廷。帝震怒班下郡國

逮捕黨人。下膺等北寺獄辭及杜密陳翔陳寔范滂之徒二百餘人。皆天下名賢膺等多引宦官子弟。宦官懼請帝以天時宜赦黨人得皆歸田里。書名三府禁錮終身。

建寧元年。宦者曹節使鄭颯捕太尉陳蕃於北寺獄殺之。黃門令王甫將羽林千餘人圍大將軍竇武。武自殺。收捕宗親賓客悉誅之。宦官疾惡李膺等。每下詔輒申黨人之禁。曹節請下州郡考治鉤黨。李膺詣詔獄考。死門生故吏並被禁錮。黨人死者百餘人。天下豪傑儒學有行義者。宦官一切指為黨人。其死徙廢禁者又六七百人。

二年。老君降天台山。以大洞靈寶經授仙人葛玄。及上清齋法並三籙金籙保鎮國祚。玉籙保佑貴族。黃籙拔度七祖。復授感應篇。示世人罪福為善去惡之事。

述曰。本朝李昌齡有注感應篇。旁引釋道經論及世間傳記。以為善惡報應之驗。最有發明。近世卿貴有為讚以並行者。尤見慕善之意。

○左慈見漢祚將終。乃入天柱山。學道得金液九丹經於石室。能變化萬端。曹操聞而召之欲從學。慈曰。學道當清淨。非尊貴穢淫所宜也。操欲殺之。人見慈斷其頭以獻。及視之乃一束茅耳。後與弟子葛仙翁別入霍山。合丹仙去。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十六

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志卷第十七之三

晉(都洛陽)

武帝(司馬炎受魏禪)

泰始二年。侍中荀勗於洛陽造金像佛菩薩十二身放大光明。都人競集瞻禮。

四年。沙門竺法崇。至湘州麓山。廟神請授淨戒。舍廟為寺。

○荊州都督羊祜。日供給武當山寺。有問其故。祜曰。前身多有諸過。賴造此寺故獲中濟。所以供養之情偏重於此。

述曰。晉書言。羊祜識前身是李氏兒。能取所弄金環。今此言前身造此寺者。蓋前身之前身也。世間罪福果報不差。可不知鑑。祜能知前身者。佛教謂之宿命通。祜蓋學佛有得現身世間者。

太康二年。并州劉薩訶業弋獵。暴卒。兩人報向西北行。至地獄見金色聖人。左右言。是觀音大士。謂訶曰。汝罪應入地獄。可往洛陽臨淄建鄴鄧陰成都五處有阿育王塔處

頂禮懺悔。又吳中二石像。阿育王使鬼神所造。能往禮拜不墮地獄。又云。凡為亡人設福。七月望日沙門受夏。此時設供彌勝。若制供養物具須器。單標題言。為某人奉上三寶。福施彌多。沙門白衣見罪宿過能自發露。不失事條勤誠懺悔罪即消滅。如恥於眾前陳列。可對像處默自記說。不失事者罪亦除滅。若有遺漏非故隱蔽受報猶輕。若善人誦經。其地皆為金剛。但肉眼人所不能見(僧傳所載極多此不備錄)既蘇。乃出家名慧達。至會稽山澤處處尋求。及鄞縣烏石山夜聞地下鐘聲。越三日有梵僧七人行道空中地涌方壇。因斲土求之得舍利寶塔。六僧騰空而沒。一僧化為烏石。因以名山。塔色如青石。高一尺四寸。廣七寸。四角挺然五層露盤。中懸寶磬安佛舍利。既而其塔飛至一山。凡三止其處。達乃即其地建精舍以奉塔(今四明育王寺上下塔。及舍利殿三處是)。

二年。西竺沙門婁至。來廣州譯十二遊經。

七年。月氏沙門竺法護。來長安青門譯正法華經及涅槃寶藏經等二百十部(月氏音支)。

九年。洛陽大疫。西竺沙門呵羅竭。持呪法加水以治之。所遇者皆差(楚[仁-二+解]反愈也)。

惠帝(衷武帝次子)

元康元年。巴陵顯安寺生異木。西天僧見曰。此佛娑羅樹也。于闐沙門無羅叉譯放光般若經。即朱士行寄歸本也。

永康元年。會稽諸葛氏錢自井出。乃舍宅為靈寶寺(今大度

寺)○永康中。沙門義興廬于山上。有童子來給薪水。久而辭去曰。吾太白一辰。上帝遣侍左右。言訖不見(今四明天童山是)。

永寧元年。扶南國王遣使。同西竺沙門那伽仙。進縷金龍座佛象牙塔○西天沙門竺叔蘭。白法祖。支法度。法立。法炬。共譯經百六十五部。炬譯有金貢太山贖罪經。

永興元年。西竺沙門祇域至洛陽。指沙門竺法淵曰。此菩薩羊中來。見竺法興曰。此菩薩天中來。又云。比丘衣服華麗大違戒律。望帝所宮闕曰。大略似忉利天。疲民之力不亦侈乎。未幾洛陽亂。

懷帝(熾武帝二十五子)

永嘉四年。西竺沙門佛圖澄至洛陽。時石勒屯兵葛陂。沙門多遇害。召澄試術。呪鉢水生青蓮華。由是神敬。及與劉曜戰。以訪澄。澄曰。塔鈴音云。秀支替戾剛僕谷禿劬當。秀支軍也。替戾剛出也。僕谷劉曜胡位也。禿劬當捉也。此皆羯語。言軍出捉得劉曜也(劉曜號前趙。僭稱帝於長安。秀支替戾剛等。北俗胡語也。羯居謁反。北狄皆犬羊之種。故謂羯。羯殺羊也。佛圖澄梵語四果聖人也)又取麻油燕脂塗掌。以示童子。見一人乘馬朱絲縛肋。澄曰。此劉曜也。遂出戰。果生禽曜。勒遂即王位。國號趙。勒愛子斌暴卒。歎曰。吾聞扁鵲起號太子。乃令告。澄取楊枝呪水洒之。遂蘇。勒殂弟季龍立。傾心事澄。每乘輿升殿。唱大和上。至晉兵入淮。季龍怒曰。吾奉佛反致寇。佛無神矣。澄曰。王前身為商。經罽賓僧寺設會。有六應真。吾其一也。時聖者記曰。此檀越報盡當王晉地。今為天

子。豈非奉佛而致。邊疆侵擾。有國之常。何為興怨謗乎。季龍乃悔謝。澄將去入辭曰。國家存心佛理。而布政苛猛。致國祚不延也。即安坐而逝。後有沙門自雍州還。見澄入關。季龍發冢視唯塊石焉。季龍惡之曰。石吾姓也。葬吾而去。其能久乎。未幾果亡(斌紆倫反。扁補典反。名醫盧人。罽賓西土國名。應真者阿羅漢。應得真道也。音膺。雍於用反)。

六年。武邑太守盧歆。請道安法師於郡講經。傾城人士來聽。讚歎誼席○西域優婆塞聶道真。譯十住經等五十四部。

愍帝(諱鄴武帝之孫)

建興元年。吳縣居士朱膺。於松江瀆口見二石像浮江而

至。背有銘曰。維衛佛迦葉佛。遂迎至通玄寺。後八年漁者得青石鉢二於江上。歸以盛葦。俄見佛像在鉢際。識者謂前二像鉢。遂送寺中。

元帝(諱睿宣帝曾孫遷都建康)

太興元年。詔沙門竺潛入內殿講經。以方外重德令著屐登殿。

永昌元年。西竺沙門吉友至建康。丞相王導見之曰。我輩人也。一時名公皆造門結友。每見王導解帶自若。尚書令卞壺至(壺音闔)則正容肅然。有問其故。對曰。王公風道期人。卞令軌度格物。吾正當以此處之耳。廷尉桓彝欲為友作目。友曰。吉友可謂卓朗。彝絕歎服。以謂盡品目之極。友善持呪所向多驗。時號高座法師。譯灌頂經等三

部。

明帝(諱紹元帝之子)

太寧元年。帝手御丹青。圖釋迦佛于大內樂賢堂。又往興皇寺。集義學沙門百員講論佛道○三年。漁人見海上有光。網之得金像文殊。誌云。阿育王造。後商人於海東獲一圓光。持以就像若彌縫焉。陶侃刺廣州。得其像以送寒溪寺。主者僧珍嘗往夏口。夢寺火。而此像屋獨有神護。珍馳還寺果焚。唯像屋存焉。侃移督江州。遣舟迎之。至江上溺(乃歷反沒也)水中不可獲。

成帝(諱衍明帝之子)

咸和元年。西天沙門竺慧理。至錢塘武林山。驚曰。中天

竺靈鷲小嶺。何年飛來此地耶。因名天竺山飛來峯。建寺曰靈隱。仙翁葛洪書額(寰宇記。此山名稽宿。以許由隱居于此故。易名靈隱)。

三年。蘇峻為亂焚燒宮室。獨樂賢堂明帝所畫釋迦像不壞。帝勅著作製頌。以彰聖德。

四年。丹楊尹高悝(音恢)旦行張侯橋。望浦中五色光。遣握之得金像。而無光趺。迎置長干寺(在建康城外。長干者長壟也。書云。包括干越。言越地多長壟也)後一年臨海郡人。網得銅華趺。上有梵書云。阿育王第四女造。勅置長干像。又四十年。合浦人采珠海中得金光。勅安像上。宛然如故。

五年。許詢以會稽永興新居為崇化寺。建塔四層。物產既

罄。猶乏相輪。一朝風雨輪盤自備。當時訪知剡縣飛來○
詔會稽寶山法義法師。入禁中傳授五戒。

咸康元年沙門支道林譯方等法華經。

二年。尚書令李邕。舍句容宅為靈曜寺。

六年。右將軍王羲之。為西天達摩多羅於廬山建歸宗寺○
庾冰輔政。議沙門盡敬王者。尚書令何充等。議曰。武皇
以盛明革命。明帝以聰聖玄覽。豈此時沙門不易屈膝。顧
以不變其修善之法。所以通天下之志耳。疏三上。冰議遂
寢○沙門白法祖與道士王符議論。符屢屈。乃偽作老子化
胡經。後法祖亡。有李通者。暴死。見祖法師在冥府為閻
王講楞嚴三昧經云。講竟應往忉利天講經。又見道士王符
身被桎械。求祖法師懺悔。閻王訶之曰。汝造言謗佛。待

世間偽經盡毀。汝罪方脫(補注云。其文本一卷。其徒增為十一卷。第一卷說化罽賓胡王。第二卷俱薩羅國降伏外道。第三卷化維衛胡王。第四卷化罽賓王兄弟七人。第五卷化胡王。經十二年。皆偷竊佛語。妄自安置)。

康帝(諱岳成帝之弟)

建元元年。中書令何充。舍宅為建福寺。以居比丘尼。有尼淨檢。於本法得戒。一旦有天女乘光下庭中。忻然携手揖別。弟子躡光上升。充性好釋典崇修佛寺。供給沙門以百數。糜費巨億而不吝。阮裕戲之曰。卿志大宇宙勇邁終古。充問其故。裕曰。我圖數千戶郡。尚未得卿圖作佛。不亦大乎。時郗愔及弟曇奉天師道。而充與弟準崇信釋氏。謝萬譏之曰。二郗諂於道。二何佞於佛。

穆帝(諱[日*冉]康帝之子)

升平元年。敦煌沙門單道開至建康。不畏寒暑晝夜不臥。日行七百里。後入羅浮山石室坐亡。

五年。上有疾召高僧法開視脈。知不起不肯進藥。后怒囚之。俄有崩獲免。或問曰。高明剛簡。何以醫術經懷。師曰。明六度以除四魔之疾。調九候以療風寒之病。自利利人不亦可乎。孫綽曰。才辨縱橫。以數術通大教。其開公乎。

哀帝(諱丕成帝之子)

興寧元年。詔以瓦官窑地賜沙門慧力建瓦官寺。時朝賢注疏者不過十萬(一百貫也)顧長康素貧注錢百萬。人皆笑

之。一日於殿壁畫維摩像。將點眸子曰。第一日開見者責施十萬。第二日開見者五萬。第三日開見者。任例責施。及開戶光明照寺。施者填塞。果得錢百萬。

二年。詔法師竺潛講般若于禁中。後辭還剡山。詔支遁相繼講法。一時名士與結方外之友。劉系談莊子。以適性為逍遙。遁曰。桀跖以殘虐為性。豈亦逍遙乎。王濛極思作數百語。遁曰。與君別久。而所見不長何耶。郗超問謝安曰。遁談何如稽中散。安曰。稽盡力道才得半耳。遁嘗寓書於潛。求買沃洲山小嶺。潛曰。欲來便給。未聞巢由買山而隱。

廢帝(諱奕哀帝之弟)

太和二年。支遁表求還山。詔建沃洲寺以居之。遁每講多

會宗遺文。為守文者所陋。謝安聞而歎曰。此九方歟之相馬略玄黃而取神駿也。嘗講維摩於山陰。處士許詢為都講。詢發一問。眾謂遁不能通。遁通一議。眾謂詢無以難。

三年。洛陽東寺尼道馨。為眾說法華維摩。聽者如市。

簡文帝(諱昱成帝幼子)

咸安元年。有烏來巢太極殿。帝召曲安遠筮之曰。西南有女人師能除此怪。時尼道容住歷陽烏江寺。召至都。以華置席下驗凡聖。容所坐華不萎。謂帝曰。陛下當奉行八關齋戒。自然消弭災怪。帝如言行之。群烏運巢而去。勅建新林寺以居之○沙門竺法曠。入京師行齋懺襴袂星。既而星沒。

二年。勅長干寺造三級塔。畢功之日光照欄宇○帝嘗幸瓦官寺。聽竺法汰講放光般若。每讀佛經。以為陶鍊神明則聖人可至。

孝武帝(諱曜簡文帝第三子)

寧康元年。大司馬桓溫卒。初溫在姑孰。有異尼來見因求浴。溫竊窺之。見尼裸身以刀破腹斷兩足。出謂溫曰。卿若作天子亦當如是。溫每有異志。故尼見戒。及簡文崩諷朝廷加九錫。謝安王坦之。聞溫病篤密緩其事。文未成而死。其後子玄遷安帝而自立。為義兵見殺。

述曰。桓彝守宣城死於蘇峻之難。忠矣。子溫握兵以窺朝廷。亂矣。溫子玄藉父之資終為僭逆。身死家亡。賊矣。

後世修史置彝列傳溫玄四夷傳。辱先世為多矣。玄南面八十日。其迹似王莽。而不能久世為權臣。而卒自陷於亂賊。其可為後世戒。

王坦之為中書令。與沙門竺法汰甚厚。每共論幽冥報應。要先死者報其事。後師來云。貧道已死罪福不虛。唯當勤修道德以升濟神明耳。言訖不見。道安法師於襄陽檀溪寺建浮圖銅像(梵語浮圖。又窣堵波。又塔婆。此云高顯處)能自起行至方山。光明燭天傾都瞻拜。高士習鑿齒詣安自稱四海習鑿齒。安答曰。彌天釋道安。時以為名對。上聞安名。詔曰。法師以道德照臨天人。宜日食王公祿。所司以時奉給。

二年。竺潛法師亡。詔曰。潛法師捐宰相之榮。襲緇衣之行。方賴宣道以濟蒼生。奄從遷謝用痛於懷。可賜錢五十

萬助建瑩塔。

太元元年。西天沙門涉公至長安。秦主苻堅尊奉之。常呪龍致雨以濟時旱。國人賴之○慧永法師。至廬山居西林香谷。潯陽刺史陶範。舍所居以為寺。

四年。秦人攻拔襄陽。獲道安習鑿齒。送往長安。秦主苻堅喜曰。晉正吳會利在二陸。今破襄陽獲士裁一人半。堅出東苑命安同載。僕射權翼諫曰。道安毀形不可參乘。堅怒曰。安公道德所尊。乃令翼扶安登輦。安入關沙門皆隨師姓。安曰。師莫如佛。應沙門宜以釋為姓。及增一阿舍經至有云四河入海無復異名。四姓出家同稱釋氏。藍田得古鼎腹有篆文。朝無識之者。以問安。安曰。魯襄公所鑄也。秦主勅二館學士有所疑。皆以問安。國人為之語曰。學不師安義不禁難。安貌銳而姿黑喜談論。故諺曰。漆道

人驚四隣。左臂有肉。方寸隆起如印。世號印手菩薩。

六年。帝於內殿立精舍。奉佛召沙門名德者居中行道○慧遠法師(安公門人)自襄陽至廬山立龍泉精舍。初師至山。夢神告曰。此山足可棲神。願毋他往。夕大雨雷電。見林壑廣開素沙布地。榎楠文梓縱橫充斥。九江刺史桓伊。乃為建寺曰東林。殿曰神運。師於江上禱請。陶侃文殊像忽浮出水。乃迎置殿。造重閣以奉安之○沙門法正譯千佛名經等百十一部。

十六年。罽賓沙門眾至江左(凡水自西而東。即以東為面。西為背。北為左手。南為右手。則江南當稱江右可也。自古誤稱江左者。不知背面左右之義也。今稱浙西為浙右者。同坐此誤。此說得之儒宗先生云)譯三法度經等三部。

十九年。江陵城北有五色光。沙門曇翼得金像於土中。光相有梵書云。阿育王造。乃迎置長沙寺(智者發願於長沙佛像前。即此像。此寺按天人感通傳。長沙寺在荊州北岸。別傳注指為潭州者誤)。

二十年。荊州牧桓沖。命曇翼法師。渡江造東西二寺。自晉宋齊梁陳氏常及萬僧。隋初名僧三千五百。當途講說者五十三人。別院大小十所。般舟方等二院夏別千人。寺屋各及萬間○處士戴逵欲造丈六無量壽佛像。以古製朴拙。乃密采眾說。積思三年。刻雕方就。迎置山陰靈寶寺。郗超見而作禮。方撮香在手。忽勃然煙上極目雲表。眾皆歎其神感○罽賓國沙門僧伽跋澄來長安。譯雜毘曇婆沙論○龜茲國(音丘慈)沙門鳩摩羅什。至長安。秦主姚興。館于逍遙園譯大品般若經。

安帝(諱德宗武帝子)

隆安二年。長安沙門法顯往天竺求經○桓玄輔政勸上沙汰僧尼。詔曰。有能伸述經牒演說義理律行修正者。並聽依所習。餘悉令罷道。唯廬山道德所居不在搜簡。遠法師以書力辨。事遂寢。

五年。秦羅什法師於逍遙園譯妙法蓮華經。秦主於草堂寺與三千僧。手執舊經重加參定。勅僧[契-大+石](音略)等諮受什旨。以僧尼多濫。令僧[契-大+石]為國僧正。秩同侍中給車輿吏力。法欽為僧錄。僧遷為悅眾班秩有差(楚宜反。不齊等也。世人多作初加反者誤)各給親信白從三十人(謂白身從人非籍刺軍兵)○戴顓逵之子。才巧如其父。江夷嘗託顓造觀音像。積年未成。夜夢人曰。江夷於觀音無緣。可改為彌勒。顓即馳報。而夷書已至。俱於此夕感

夢。及改造彌勒。觸手成妙(其像在會稽龍華寺)。

元興元年。秦羅什法師。自弘始四年以來。譯遺教經維摩詰經大智度論成實論等九十八部。秦國譯經沙門佛馱耶舍。功德華。無垢眼。法稱。法海。童覺。竺佛念。眾現。法喜。眾天。十師譯經二十三部。

二年。桓玄欲重申庾冰之議。令沙門盡敬王者。遠法師致書云。袈裟非朝宗之服。鉢盂非廊廟之器。塵外之容。不應致敬王者。玄得書即下令不行。師復著沙門不敬王者論。以警當世(論見廬山集。敬者拜也。不敬者不拜也重音虫。再也)○西竺曇摩流支至秦與什法師同譯十誦律○初東土未有涅槃常住之說。但云壽命長遠。遠法師曰。佛是至極。至極則無變。無變之理。豈有窮哉。乃著法性論。其要有曰。至極以不變為性。得性以體極為宗。後羅什見論

歎曰。晉人未見經闡與理會。師聞羅什入關。通書申好。什答書并偈。秦安城侯姚嵩。寄羅什新譯智論。祈師為序。師以文廣鈔二十卷。而別序之○羅什弟子有生肇融叡。時號關中四聖。道生者初入廬山蓮社。後至長安從羅什。見法顯譯泥洹經云(六卷者)除一闡提皆有佛性。師曰。阿闡提人(此云信不具也)含生之類。何得獨無佛性。此經來未盡耳。乃唱闡提之人皆當成佛。眾以為邪說背經。於律當擯。生對眾誓曰。若所說契合佛心願舍報日踞師子座。於是束身還入虎丘山。聚石為徒講涅槃經。至闡提處則說有佛性。且曰。如我所說契佛心否。群石皆為點頭。後還廬山。聞曇無讖重譯涅槃至聖行品果云。一闡提人雖復斷善猶有佛性。尉喜不勝。嘗謂聖教東流譯人重阻。多滯權文鮮通圓義。於是檢閱真俗精練空有。乃著善不受報論。頓悟成佛論。佛性常有論。法身無色論。佛無淨土論。並籠罩舊說妙有淵旨。守文之徒嫌嫉競起。一日

升座說法。俄見塵尾墮地。隱几而化○僧肇初見什。什曰。法中龍象也。著般若無知論。物不遷論。不真空論。涅槃無名論(總名肇輪)什曰。吾解不謝子文。當相揖也(天台宗謂什肇多附通義)○道融從羅什。久之師子國婆羅門馱其書。至關中乞辨論。什令融當之。融先閱外道經書。使人錄其目。秦主大集以能博觀為誇。融數其書。并秦地經史十倍之。乘勝嘲曰。卿乃未聞大秦有博學者乎。婆羅門愧服。再拜而去○僧叡初遊外歷諸國。後入廬山遠師社來京師止烏衣寺講說。久之入關中從羅什。風神明澈見者畏敬。秦主因朝會指師。謂姚嵩曰。四海僧望也。

義熙二年。師子國獻白玉佛像。高四尺二寸○遠法師所居東林。流泉匝寺下入於溪。師每送客過此。有虎號鳴因號虎溪。後送客未嘗過。獨陶潛道士陸修靜至。語道契合不覺過虎溪。因相與大笑。世傳為三笑圖○罽賓。沙門佛陀

耶舍(此云覺明)至涼州。誦出四分律。與竺佛念同譯。

四年。遠法師以江東經卷未備禪法無聞律藏殘闕。乃令弟子支法領等往天竺。尋訪獲梵本於于闐遇佛陀跋陀羅。乃要與東還。

六年。初劉程之入廬山。依遠法師念佛。師曰。官祿巍巍何以不為。程之曰。君臣相疑。吾何以為。居山十五年。專志念佛。是年八月見阿彌陀佛放光摩頂。即對像焚香。祝曰。我以釋迦遺教知有西方淨土。願持此香先當上奉釋迦世尊。次用供養阿彌陀佛。願賜攝取。第三奉供妙法蓮華經。所以得生由持此經。言已臥床西向而逝。程之有隱德。謝安劉裕相推薦甚。力辭不屈。乃旌之曰遺民○周續之。幼通五經五緯。時號十經童子。公卿交辟無所就。入廬山預遠公社。布衣蔬食終身不娶。世稱通隱○雷次宗。

入廬山蓮社。立館東林之側。及遠公亡。與子姪書曰。吾託業廬山。事釋和上二十年。淵匠既傾良朋亦喪。及今未耄。尚可厲志成四歸之津梁。自今以往勿以家務相聞。

七年。初沙門法顯西遊經三十餘國。至中天竺登闍崛山。見老僧揖之不顧。有年少來問之。對曰。大迦葉尊者也。追之不復見。顯以經像附商人至師子國。泛南海達青州而還至揚都。譯大般泥洹經五部(大藏有顯法師傳)。

述曰。此土沙門西遊者始於朱士行。而唯及於西域于闐。實葱河之東境耳。至顯師則西踰葱嶺遠屆五天。復能取道南海東還晉地。求法之勤以此師為始也。

八年。罽賓國佛馱耶舍。至廬山預蓮社。先於秦國譯四分律長阿含。又與羅什對譯十住婆沙論。以髭赤號為赤髭論

主○龜茲國曇無讖至姑臧。涼王沮渠蒙遜。留之譯大般涅槃經四十卷。後固辭西歸。遜怒其去。已密遣人刺於路。初讖出關謂送者曰。業期至矣。既西遜悔。白日見神人。以劍刺之遂卒。讖在涼與道龔諸師。譯悲華經等。

述曰。罽賓害師子。而臂墮命終。沮渠刺無讖。而神人加刃。或謂聖師通達宿業方圖償債。豈當使之受報若是。意者護法之神怒其干犯尊境。而前人熾惡之心。自足以召之。非同常人互相責報之比也。

九年。迦維衛國沙門佛馱跋陀羅(此云覺賢)至廬山入社。遠法師請譯禪數諸經。自是江東始耽禪悅。

十年廬山西林永法師示疾。忽合掌西向曰。佛來也。安坐而化。異香七日方歇。遠法師居東林三十年。師居西林亦

如之。鎮南將軍何無忌至虎溪召之。遠師久持名望從徒百人。高言華論舉止可觀。而永公納衣半脰荷錫持鉢。松下飄然而來。神氣自若。無忌歎曰。永公清散之風。乃多於遠公也(脰形定反膝以下骨)十二年。遠法師久修淨業三瞻佛相。以是年八月六日感佛來迎。倏然神化。遺言。露屍林下。弟子不忍。乃奉全軀葬於西嶺。

謝靈運製碑。張野作序。宗炳復立碑於寺門。初師在山行道。名儒劉遺民。雷次宗。周續之。宗炳。張野。張詮。沙門永法師。慧持(遠師之弟)道生。曇順(從羅什學)慧叡。曇恒。道丙。曇詵。道敬(皆遠公弟子)佛馱耶舍(罽賓國人)佛馱跋陀羅(迦維衛人)常同遊止。世號廬山十八賢復與僧俗百二十三人。結社念佛。令劉遺民著誓辭。共期西升。謝靈運負才傲物。一見師肅然心服。為鑿東西二池種白蓮。因名白蓮社。靈運嘗永入社。師以其心雜止之。嘗以

書招陶潛。潛曰。許飲即往。師許之。遂造焉。忽攢眉而去。所著法性論。不拜王者論等。及詩序銘讚凡十卷。號廬山集(白雲端禪師。自廬山錄本來越上。遇照律師。與之囑其開板。照師為序。有云。王荊公言。晉人為文無如遠公)。

述曰。佛法起於漢。至晉而益盛。然競演經論各事專門。獨東林法師。始以念佛三昧之道。開先一時貽則千古。蓋知其為此土人根為道之要。故能結社。招賢來名儒而致高釋。臨終神化。感佛迎以獲往生。斯為一生取證永居不退之至道也。師之言曰。功高易進念佛為先。凡在修門請事斯語云。

會稽太守孟顗事佛精懇。而為謝靈運所輕。嘗謂顗曰。得道應須慧業。丈夫生天當在靈運前。成佛必居靈運後。顗

憾之。

十三年。初餘杭山沙門法志常誦法華。有雉翔集座隅如聽
受狀。越七年雉殞。志瘞之。夜夢童子拜曰。因聽經得脫
羽類。今生山前王氏家。志詰朝遣問之。如其言。王氏一
日設齋。志方踵門。兒曰。我和上來也。志撫之曰。此我
雉兒也。解衣視腋。下有毳。因名曇翼。初詣廬山依遠法師。十
六落髮。什。後東遊。會稽入秦望山。誦法華經。越十二年。有
中見羅什。披彩服。日已夕矣。豺狼當道。歸無生理。夜半號呼。腹疼。
女子入山采薇。甚堅。女哀鳴。以布裹錫杖。遙為案之上。謂師曰。我普賢
却之。案摩。變白象。不久當歸我眾。特來相試。觀汝心中如水。

月不可染污。既而天上雨華。地皆震動。鄉人聞見莫不稱歎。是日太守孟顗。方晨起視事。忽見南方祥雲光射庭際。隱然金石絲竹之音。訪知普賢示化。遂以師道行上聞於朝。勅建法華寺(今天衣寺)師既亡。漆真身留山中(唐武宗廢法。藏像寺南樹中。吳越武肅王。諡飛雲大師)○沙門法莊為遠法師弟子。誦法華為常業。隣人夜間見師房前有兵仗翊衛之狀。道俗傳聞莫不尊敬○沙門曇邃。止河陰白馬寺。日誦正法華兼通講說。夜夢一人叩戶請法師九旬講經。邃不允。固請乃赴。忽見身在白馬塢神祠。弟子一人亦預。自是每日密往。一旦寺僧過祠下聞講說之聲。見對設二高座。異香郁然。夏竟神施白馬一疋白羊五頭絹五十疋。用充講嚫。師即呪願受之。

十四年。吳內史孟顗。請佛馱跋陀羅於建業謝司空寺。譯華嚴經六十卷。有二青衣。旦從池出灑掃研墨。時慧嚴慧

觀為筆受。

恭帝(德文安帝弟)

元熙元年。帝深敬佛道。詔於瓦官寺鑄釋迦佛丈六金像。
畢功之日放光滿寺。傾都人士咸致供養。

宋(建康)

高祖(劉裕受晉禪)

永初元年。帝設齋內殿。令沙門道照陳詞。至百年迅速苦
樂俄頃之句。帝善之。別賜嚙金三萬○帝始生有神光之
異。既長遊下邳。遇異沙門於逆旅曰。天下喪亂。拯之者
其君乎。時患手瘡。沙門以黃散藥留之忽不見。以藥傳瘡

一治而愈。嘗遊京口竹林寺。獨臥講堂前有五色龍章。諸僧驚以白帝。帝曰。上人無妄言。冀州沙門法稱。謂其弟子曰。嵩嶽神言。江東有劉將軍。漢之苗裔。應天受命。吾以璧三十二枚鎮金一鉞為信。帝聞之令釋慧義往嵩山求之。俄夢長須翁以杖指石下。來日詣廟所石壇求之果獲。因得獻上。帝夢異僧語之曰。君前世曾施維衛佛一鉢之飯。今報斯位。

○司徒王謐。見東掖門地有光。掘之得金佛一軀。高七尺二。勅置臺中供養○車騎范泰。於宅西建祇洹寺。謝靈運於石壁山建招提寺○黃龍國沙門曇無竭。與僧猛等二十五人。往西天求經越二十年。唯無竭還揚都譯經。

少帝(義符高祖長子)

景平元年。罽賓沙門佛陀什。於揚都龍光寺譯五分律(南山云。四部之文無越斯律但弘通蓋寡。良可長歎)。

文帝(義隆高祖第三子)

元嘉元年。罽賓國沙門曇摩密多。至建康。譯禪經觀普賢行法經等十部。自袁皇后皇子以下傾都禮敬○西天沙門曇良耶舍譯觀無量壽佛經。

述曰。文帝嗣位之初。觀普賢無量壽二經。同時而至。至今持誦者為尤盛。是知元嘉之際尊敬大乘。五國來貢咸贊奉法。自渡江以來未有此時之光大也。

二年。詔於京師為高祖建報恩寺○勅沙門道祐。往鄮縣修阿育王寺。掘地得金合。盛三舍利佛爪佛髮。詔建浮圖三

級。

三年。神僧杯渡。初出冀州。挈一木杯。渡水必乘之。因號杯渡。行荷蘆圈(求遠反以蘆為圈如圉也)廣陵李氏飯僧。渡以圈置庭中。坐席上食畢提其圈。呼曰。四天王。時有童子。見圈中四小兒長數寸。眉目如畫。及追之已失所在○西天沙門伊葉波羅來彭城譯經○徐州刺史王仲德。於宋王寺造丈六金佛。每有寇難則像身流汗。

四年。涼州沙門智嚴。譯瓔珞本業經等十四部○沙門慧琳以才學得幸。詔與顏延之同議朝政。琳著高屐披貂裘孔顗戲之曰。何用此黑衣宰相。嘗著黑白論。與佛理違戾。眾論排之(見弘明集)琳後感膚肉糜爛。歷年竟死。時以為叛教之報。

五年。迦毘羅國月愛王。師子國剎利摩訶王。皆遣使入貢。帝答摩訶王曰。此小乘經甚少。國中所有幸皆寫送。

六年。帝幸祇洹寺觀度童子慧基。

七年。訶羅陀國入貢。其表曰。伏承聖上信重三寶。興立塔寺周滿世界。今故遣使表此微心○初帝聞罽賓三藏求那跋摩名(此云功德鎧)詔交州遣沙門道敏。杭海邀之。跋摩忻然。附舶至廣州。上遣使迎至金陵。命居祇洹寺。僕射何尚之等並師事之。請講華嚴(前覺賢譯六十卷者)以未通華言禱於觀音。夜夢力士易其首。旦起猶覺微疼。遂遍曉東語。帝嘗問曰。朕欲齋戒不殺。迫於狗物不獲於志。對曰。帝王匹夫所修各異。匹夫身賤名劣。言令不威。若不克己將何以濟。帝王以四海為家。兆民為子。出一嘉言士民咸說。布一善政人神以和。則風雨應時百穀滋茂。如此

持齋德亦大矣。寧在輟半日之餐全一禽之命然後弘濟耶。帝歎曰。俗迷遠理僧滯近教如法師之言。可謂盡天人際。師在祇洹講華嚴十地品。帝率公卿日集座下。法門稱榮。

十年。訶羅單國入貢。表稱常勝天子陛下○西天僧伽跋摩至建康。勅住平陸寺。為京師沙門慧照三百七十人渡蔡洲岸。於船中再受具戒。或問其意。照曰。以疑先受若中若下更求增勝。故須重受依本臘次(重直容反再也)。

述曰。此由照等先受戒不如法故。於船上結界攝僧。以便行事耳。今人年少輕心受戒。不知方便。不能有所感發。尚未沾於下品。則於再受誠得其宜。薩婆多論云。重受增為上品。本夏不失。若此則中下尚須增受。況未能感發者乎。或問先已聞羯磨今若再受。則先聞成盜聽者。然於當時輕心無知既不能領聖法。尚何盜聞之咎。明律高德更須

一評。

十一年。求那跋摩。於南林寺立戒壇。為僧尼受戒。為震旦戒壇之始。時師子國比丘尼八人來。未幾復有尼鐵索羅三人至。足為十眾。乃請僧伽跋摩為師。為景福寺尼慧果等。於南材戒壇依二眾重受具戒。度三百餘人(重直容反再也)。

述曰。僧史略之言云。漢度阿潘受三歸也。晉度淨檢從一眾也。二眾得戒自此年慧果始也。

十二年。闍婆國入貢。表曰。宋國大主大吉祥天子。教化一切降伏四魔。轉尊法輪度脫眾生。我等在遠亦霑靈潤○慧詢律師善僧祇十誦律。製文敷演。此解十誦之始也○勅尼寶賢為京邑尼僧正○帝謂侍中何尚之曰。范泰謝靈運常

言。六經本在濟俗。若求性靈真要則必以佛理為指南。近見顏延之折達性論宗炳難白黑論(並見弘明集)並明達至理開獎人意。若率土皆淳此化。則朕坐致太平矣。尚之曰。渡江已來。王導。周顗。庾亮。謝安。戴逵。許詢。臣高祖兄弟(何充兄弟也)莫不稟志歸依。夫人能行一善則去一惡。去一惡則息一刑。一刑息於家萬刑息於國。此明旨所謂坐致太平者也。故圖澄適趙二石減暴。靈塔放光符犍損虐。神道助化昭然可觀。至土木之功雖若糜費。然植福報思不可頓絕。尚之又曰。夫禮隱逸則戰士息。貴仁德則兵氣銷。以孫吳為志。動期吞并。則將無取乎堯舜之道。豈特釋教而已哉。帝說曰。釋門之有卿。猶孔門之有季路。所謂惡言不入於耳也。

○沙門功德鎧功德賢諸師譯經九十部○竺道生卒於廬山。立佛性義。為帝所重。王弘范泰與之為友。帝設御齋親臨

地坐。食至眾疑非時(律以過午為非時食)帝曰。始可中矣(謂午時日始中)生曰。白日麗天。天言始中。何得非中。取筯便食。一眾歎其機辯○曇摩密多。於鄮縣建阿育王寺塔。

十三年。詔求沙門能述生法師頓悟義者。庾登之以法瑗聞(瑗音援舊諱)召見瑗申辯詳明。何尚之歎曰。意謂生公之沒微言永絕。今復聞象外之談。湘宮寺成。召師居之。帝每臨幸聽法○簡靜寺尼智道。罷道適梁群甫。生子七歲。家貧無衣。思為尼時。有素絹所書法華經。即浣擣為衣著兒體。忽遍身生瘡。白蟲周匝。號叫旬餘而死。聞空中告云。壞經為衣得此劇報。

十四年。初都人孫彥曾家世奉佛。有妾王惠稱常誦法華。忽見江浦有光。掘之得金佛一軀。光有銘曰。建武六年庚

子宮寺道人法新造(前稱建武者。唯晉元帝。而止及元年)。

尼道壽誦法華滿三千遍。每見光瑞。空中有寶蓋垂覆頂上。

二十年。沙門慧嚴卒。帝詔慰曰。嚴法師。氣識淵遠道學之匠。奄爾遷神痛悼於懷。可給錢五萬布五十疋。

二十二年。初范曄(音葉)負才不得志。與孔熙先謀廢立。事敗死獄中。祇洹寺沙門曇遷。素與曄友。賣衣孟為營葬具。魏世祖聞而歎賞。謂徐爰曰。卿著宋書無遺此事。

二十三年。魏世祖與司徒崔浩。奉道士寇謙之。詔天下焚毀經像塔廟。誅戮沙門(詳見通鑑志第四卷)。

二十七年。王玄謨北征失律。蕭斌欲誅之。沈慶之諫曰佛狸(魏世祖小子)威震天下。豈玄謨所能。當殺戰將徒自弱耳。乃止。初玄謨將見殺。夢人告曰。誦觀音經千遍可免。仍口授其經曰。觀世音。南無佛。與佛有因。與佛有緣。佛法相緣常樂我淨。朝念觀世音。暮念觀世音。念念從心起。念念不離心。既覺誦之不輟。忽唱停刑。後官至開府。年八十二。

二十九年。魏文成即位大復佛法。

孝武帝(駿文帝子)勅沙門慧璩為京邑都維那○文帝諱日上於中興寺建八關齋。中食竟。從臣袁敏孫等更進魚肉。帝怒並與免官○召沙門道猷入內殿說法。上稱善。勅為新安寺法主○吳興沙門僧瑜。初於廬山建招提寺。常持法華。

是年六月謂友人曰。結累三塗情形之故。情將盡矣形亦宜損。藥王之轍獨何遠哉。遂別眾入柴龕端坐。誦藥王品發炬以焚。眾見紫氣騰空。旬日所居生雙桐樹。識者謂是娑羅雙樹之兆大明四年。路太后於中興寺造普賢像設齋。忽有異僧見於座。眾驚問之。對曰。慧明自天安來。言訖不見。因詔改為天安寺。勅沙門道溫為都邑僧正○西天沙門功德直至荊州。同玄暢譯經。直每舒手出香掌中流水。

五年。廬陵太守周湛進金像高九尺三寸。言僧法均夢中獲之。因尋訪至三曲江。光浮水面。求之果得獲。既而長沙郡進金光趺云。漁人得之水上。安其像如一○魏使李道固來朝。帝以中興寺僧鐘有才辯。召為館伴。與語不已。過中不食。道固曰。無乃為聲聞耶。鐘曰。應以聲聞身得度者。即現聲聞身而為說法。時稱名對。

六年四月八日。帝於內殿灌佛齋僧○沙門惠簡等譯經二十六部。

七年。竹林寺沙門慧益。誦法華誓焚身。帝遣使諫不聽。以佛生日詣闕辭帝囑以佛法。往鍾山入油鑊。以吉布纏身焚之。帝駕往勸止不從。眾聞誦藥王品。忽聞笳管之聲異香分馥。夜帝夢師囑付護法。翌日設大會。詔於焚身處建藥王寺。

八年十月。制沙門盡敬君上。沙門僧遠聞而歎曰。我自出家為僧。何關帝王事耶。即日拂衣歸鍾山。

前廢帝(子業武帝太子)

景和元年正月。制停沙門致敬○沙門法益等乞泛海往天

竺。請未來經法。至廣州值海寇作難不果往。沙門覺壽譯彌沙塞律一部。

明帝(或文帝子)

泰始元年。詔於建陽門置興皇寺。勅沙門道猛為綱領。帝曰。人能弘道。今得法師。非直道益蒼生。亦乃有光世望。乃下詔曰。猛法師風道多濟。朕所賓友。可月給錢三萬。令史四人白簿吏二十人。車及步輿各一乘。又詔僧瑾為天下僧主賜法技一部(作妓者女樂。作技者訓藝。今稱法技。則是法門幢旛鼓鉦眾藝之名。或稱釋部威儀)親信二十人。月給錢三萬及車輿吏力。

二年。寶誌大士往來皖山(戶板反在館州)徒跣著錦袍。以剪尺鏡拂拄杖頭。負之而行。兒童見者譁逐之。或微索

酒。或屢日不食。嘗遇食鱸者從求之。食吐水中皆成活魚。時時歌吟如識記。初金陵朱氏聞兒啼鷹巢中。舉以為子。七歲依鍾山僧儉出家。專修禪觀。俗呼為誌公(李白讚。刀齊尺梁拂迷陳蓋是謎語)。

三年。帝幸莊嚴寺觀三教談論○周顒遷直殿省。時帝好玄理。而遇人慘毒。不敢顯諫。輒舉佛經罪福事。帝為之遷善。顒著三宗論言空假義。西涼州道人智林。遺書以贊美之○勅尼淨秀所居為禪林院。秀有神異。感娑伽羅龍王兄弟來護。常有三十二童子功德天善女天。以任驅役(三十二童應是三十二天)所服袈裟色如熟椹。見諸尼不如法。即行摩那埵懺悔之法(秦言意喜。由懺悔故自意歡喜。亦使眾僧歡喜也)自是京師二部莫不精持。嘗遊兜率天持天波利餅。謂其師曰。可齋堂中坐禪沙門○逸士顧歡作夷夏論。以佛道二教齊乎達化而有夷夏之別。歡雖同二法。而意黨道

教。司徒袁粲託沙門通公。為論以駁之。謂孔老教俗為本。釋氏出世為宗。發軔既殊其歸亦異。常侍何鎮之。亦以書詆歡言。道家經籍簡陋。如靈寶妙真之類。采撮法華制用尤拙。上清黃庭餐霞咀石。非徒法不可效。道亦難同。雖五千之文稍長。終不若三乘。共引九流俱接之為得也(出弘明集及南史顧歡傳)○沙門竺法眷等。譯無盡意經等十二部○帝聞廬山陸修靜有道。築崇虛館以禮致之。順風問道。朝野歸心。

後廢帝(昱明帝太子)

元徽三年。定林寺法獻。往天竺求經。至于闐國得佛牙舍利法華提婆品以歸。

順帝(準明帝第三子)

昇明元年。勅沙門法持為天下僧正。

齊(建康)

高帝(蕭道成)

建元元年。帝幸莊嚴寺聽僧達法師講維摩經。御座稍遠。中書令張緒。請遷席以隣帝座。

二年。益州刺史傅琰言。沙門玄暢建齊隆寺。感青衣神人遶山守衛。勅蠲百戶用充資給。帝幸鍾山僧遠所居。遠床坐辭以老病不出迎。以房門狹不容車。遣使特勞問。

三年。中天竺沙門曇摩耶舍譯無量義經。

四年。詔沙門法穎為京邑僧主。詔迎皖山誌公入京。公醵其面為十二面觀音。帝以其惑眾惡之。

武帝(頤高帝太子)

永明元年。帝以華林園設八關齋戒。帝微時避難揭陽山中。累石為浮圖。忽有一樹生其側。狀如華蓋○西天沙門達磨提來。譯提婆達多品。鍾山僧遠居山五十年。天下仰其高德。及亡帝致書尉弟子法獻曰。承遠上無常。弟子中夜已自冥知。遠上此去甚嘉。遲見法師。方可敘瑞夢耳(遠上者遠和上也)○勅長干寺玄暢同法獻為僧主。分任江南北事。時號黑衣二傑。

二年。詔沙門僧鍾見於乾和殿。但稱貧道。帝問僕射王儉

曰。古之沙門何所稱。對曰。漢魏此道未盛無所傳聞。晉宋以來多稱貧道。而使預座。晉之中世。庾冰桓玄欲使盡敬。事竟不行。帝曰。獻暢二師道行如此。尚乃稱名。況復餘者揖拜則非制稱名亦無嫌。

四年。沙門僧護於剡縣石城山見崖間光如佛焰。乃鐫石為彌勒佛。纔成面像。初是晉世有沙門曇光。至剡山石室宴坐。有雕虎丹麟造前依足。與授三歸。並即引去。已而山祇盛飾來見。光為說法。神奉山以結伽藍。名曰隱岳。同學於蘭復創寺於旁曰玄化。護既造像。乃即像所建剎名石城。與兩寺鼎足而居。齊末沙門僧淑來繼其功。至梁武帝舉兵東下。用度不足。建安王偉(文帝第八子)取襄陽銅佛。毀以為錢。富僧藏繼(舉兩反。漢志藏繼十萬。注錢貫也)多加毒害。後刺江州感惡疾。有始豐縣令陸咸(今天台縣)夢沙門三人謂曰。建安王染患由於宿障。剡縣僧護造彌

勒石像。若能成濟必獲康復。咸還都經年出門遇僧。謂曰。建安王事猶能憶否。忽然不見。咸大感悟。遂以白王。即召定林寺僧祐律師。因舊功鐸入五丈(鐸楚限反。平木鐵器。又去聲)至天監十五年畢功。像身光焰通高十丈。王疾既愈。遂留神釋學益悟佛理。唐道宣律師見天神謂曰。師即僧護僧叔僧祐後身。故世稱為三生石佛云(出南史及劉勰石像碑。天人感通傳欲備見三生事迹。故并錄於此)。

五年。友州進真珠佛像○司徒竟陵王王子良。居西邸招致名僧講論佛法。造經唄新聲。數營齋戒。躬為僧倫賦食行水。嘗夢東方普光世界天王如來說淨住淨行法門。因著淨住子二十卷及三寶記○劉霽母明氏寢疾。霽誦觀音數萬遍。夜夢僧曰。夫人算盡。君精誠篤至。當為申延。後六十日乃亡。霽廬墓哀慟。常有白鶴雙翔廬前(南史)劉歊隱

居求志。事母兄以孝悌。母每病夢畎進藥。翌日有間。弟劉訐精意釋典畎聽講鍾山諸寺。因共卜築東澗。許常著穀皮冠披納。每遊山澤輒留連忘反(南史)。

六年。僧伽跋摩於廣州竹林寺。譯善見毘婆沙律。

七年。平原居士明僧紹。舍攝山宅為棲霞寺。帝以誌公幻惑俗眾。收付建康獄。是日國人咸見大士遊行市井。其夕語吏曰。門外有兩輿食。為我取之。既而文惠太子竟陵王送供至。建康令以聞。帝悔謝奉迎至禁中。館於華林園○竟陵王於弘濟寺講成實三論。夢中作維摩一契。命僧辯傳詠之。群鶴飛舞於階。詠畢而去○西天沙門摩訶乘德進等。譯諸經律。

八年。帝不豫詔諸沙門祈佛聖僧。至七日感天香滿殿聖僧

影迹堂內金錫振響。已而康復○晉安王蕭子懋年七歲。母阮淑媛病。請僧行道。有獻蓮華供佛者。漬銅罌中。王流涕禮佛曰。若阿姨因此和勝。願華竟齋不萎。七日齋畢華更鮮紅。視罌中稍有根須。母疾遂愈。當世稱其孝感。

十一年。誌公在華林園。忽重著三布帽。未幾帝崩。文惠太子豫章王。相繼而殂。

明帝(鸞高帝兄始安王子)

建武二年。召劉虬為國子博士不起。虬隱居江陵沙洲。衣麻辟穀。六時禮佛。注華嚴經以頓漸二門判教。又注法華經躬自講說。是年冬有白雲徘徊欄宇。異香入戶。聞磬聲而卒。

四年。誌公於平旦出宮門。忽曰。門上血腥。及帝遇害。果以犢車載屍出此門。頸血流墮門限。徐陵兒時。父携之以候公。公摩其頂曰。天上石麒麟也。

永泰元年。滕曇恭年五歲。母楊氏患熱思食寒瓜。豫章土俗不產。曇恭歷訪俄遇一僧。我有兩瓜分一相遺。忽失所在及父母卒。曇恭蔬食終身。晝夜哀慟。門外有二冬生樹。有神光自樹而起。俄見佛像侍衛之儀。家人咸共禮拜。久之乃滅。時人號為滕曾子。

東昏侯(寶卷明帝次子)

永元元年。扶桑國僧慧深來京師言。其國在大漢東(海外多稱中國為漢者。存舊稱也)三萬里。宋大明五年(宋孝武)罽賓國沙門五人至其國流通佛法。

按東方朔十洲記。扶桑在東海去東岸一萬里。海水碧色甘香。扶桑在碧海中地方萬里。大帝太真所治。林木如桑。兩兩同根更相依倚。故名扶桑。仙人食其椹體作金色。今慧深言去東三萬里。當是遠人不測此中地里。故言若此。瓦官寺有師子國玉像。戴安道手製佛像五軀。顧長康維摩畫圖。世謂之三絕。東昏侯取玉像。為潘貴妃毀作釧釵。都人為之歎恨。

佛祖統紀卷第三十六(終)

○葛洪博究典籍。尤好神仙導養之法。從祖玄吳時學仙得道號葛仙翁。以鍊丹祕術授弟子鄭隱。洪就隱學得其法。以年老欲鍊丹祈遐壽。聞交趾出丹沙。求為句漏令(句古侯

反)。曰非欲為榮以有丹耳。帝從之。至廣州刺史留不聽去。乃止羅浮山鍊丹著內外篇。自號抱朴子。後坐至日中。兀然若睡而卒。舉屍入棺輕如空衣。世以為屍解得仙。

○豫章西山真君許遜拔宅升天。君生於吳。赤烏二年師至人吳猛傳神方。入西山修鍊。晉太康元年為蜀郡旌陽令。民服其化至於無訟。歲大疫。標竹江濱置符水中。令病者飲之無不愈。及解官東歸。有女童五人。持寶劍為獻。聞丹楊女師湛姆有道往叩之。授金丹寶經並正一斬邪之法。君鍊丹艾城黃龍山。既成登秀峯為壇醮謝上帝。乃服丹至西安縣(今分寧)。廟神迎告曰。此有蛟害民。知仙君來。今往鄂渚避之矣。君杖劍躡迹而往。勅吏兵驅出誅之。還豫章郡城。以丹數粒雜他藥貨之令其自取。贖藥雖多。竟無一人取丹者。君歎世間仙才之難遇也。弟子數百。君化

炭為美婦。夜散入群弟子。明日閱之。其不染污者唯十人。即異時上升高第也。是年有二仙自天而下。奉王皇命授九州都仙。太史詔曰。許遜脫子前世貪殺不祀先祖之罪錄。子今生符水治病。罰惡之功身及家口厨宅凌空歸天。二仙揖君升龍車。命陳勳時荷周廣曾亨黃仁覽盱烈及其母(仙君之姊)部從仙眷四十二口。同時升天。雞犬亦隨飛騰(神功妙濟真君傳。是年天詔施岑鐘離嘉乘車升天。君之壻黃仁覽同其父黃萬石三十二口。從真君升天。宋永初二年舉二十六口白日升天耳戰。陳大建元年天詔駕車升天)。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十七

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之四

梁(建康)

武帝(蕭衍)

天監元年。帝夢釋迦檀像入國(天竺優填王所造者)乃遣郝騫等(郝黑各反)往西竺求之○于陀利國入貢云。其王夢異僧曰。東土有聖王出。十年之後佛法大興○制僧尼犯過。

並依佛律行罰○庾詵少與帝善。及起兵署為記室不就。山居蔬食六時禮懺誦法華經。於後夜見一道人。自稱願公。呼詵為上行先生。後寢食驚覺曰。願公復來。吾其去矣。舉家聞上行先生已生淨土。詔諡貞節處士。

二年。帝問誌公。國有難否。誌指喉及頸(讖候景也)享國幾何。曰元嘉元嘉(宋文帝元嘉至三十年。重言之者。過元嘉也)帝臨政苛急。誌假帝神力見先君受苦地下。由是卹刑。嘗詔張僧繇寫誌真。誌以指瘡破面門出十二面觀音相。或慈或威。僧繇竟不能寫。時法雲雲光二師。每講法華天華飛集。帝以其證聖。於便殿夜焚書。請誌公及光雲齋。翌日誌公獨至○扶南國沙門曼陀羅來進珊瑚佛像。詔譯經於揚都○四月八日。帝於重雲殿親製文。率群臣士庶二萬人。發菩提心永棄道教。其文云。願使未來生世童真出家廣弘經教化度含識同成佛道。寧在正法中長淪惡道。

不樂依老子教暫得生天。十一月。勅公卿百僚侯王宗族。並棄道教舍邪歸正。三年。帝御重雲殿講經。以枳園寺法彪為都講。彪先一問。帝方酬答。載索載徵並通玄妙○帝嘗夢神僧曰。六道四生受苦無量。何不作水陸大齋普濟群靈。帝乃披覽藏經創製儀文。三年乃成。遂於金山寺修供。命沙門僧祐宣文。大彰感驗(事具光顯志)○勅於舊宅建光宅寺。因宅七日放光。故以為名。勅法雲法師為光宅寺主。創立僧制為後世法○沙門智稜善涅槃淨名。尤通莊老。後值寇還俗。道士孟悉達勸為黃冠。見道家諸經略無宗旨。遂引佛教為之潤色。解西昇妙真諸經義。皆自稜始。武帝未捨道教時。引稜於五明殿豎義。暮年為諸道士講西昇經。忽失音舌卷於座上委頓而死。眾以為叛教之報(僧鏡錄)。

五年。扶南國沙門僧伽波羅來。

六年。御注大品般若經。詔光宅雲法師為百僚講說。十年。中天竺釋迦檀像至。帝率百僚迎入太極殿。建齋度人。大赦斷殺。絰是弓刀並作蓮華塔形(絰戶怪反豫也)初郝騫謝文華等八十人。應詔西行求像。至舍衛國(此云文物屬中天竺國)從王請像。王曰。此中天正像不可適邊。乃令三十二匠更刻紫檀。人圖一相。卯時運手。午時已就。頂放光明降霏香雨。騫負像東還。乃渡大海。嘗聞甲冑之聲在後。忽異僧禮像而言曰。毘舍羅神王護像至彼。廣作佛事。言訖而隱。其後元帝於荊州城北造大明寺奉安其像○詔僧旻法師入殿講勝鬘經。公卿畢集。劉業問曰。法師佛學有餘。何故多申儒旨。旻曰。昔生公以頓悟通經。次公以毘曇發論。若貧道初不以儒釋為限。但據文義所向耳。有沙門道超慕旻講業。誓欲齊之。夢天神告曰。旻公於毘婆尸佛時預宣法化。君新發意何可類及○何胤入鍾山定林

寺。聽內典通其旨。後隱居若邪山雲門寺。二兄求點並從棲遁。號點為大山。胤為小山。亦曰何氏三高○謝舉長玄理及釋氏義。為晉陵群守。與義學沙門互講經論。徵士何胤自武丘出赴(虎丘避唐高祖祖諱虎追改之)○光宅雲法師講法華經。感天花滿空下如飛雪。帝以亢陽問誌公。公曰。雲能致雨。帝因請講法華。至其澤普洽即大霑。儀同袁昂家有常供養僧。發願欲如師慧解。夢一僧謂曰。雲法師燈明佛時已講此經。那可卒及○上集諸沙門製文立誓永斷酒食。其略云。弟子蕭衍從今已去。若飲酒放逸啖食眾生乃至乳蜜酥酪。願一切鬼神先當苦治弟子將付地獄。眾生成佛猶在阿鼻。僧尼飲酒食肉亦應如此加治。是時復集僧尼一千四百四十八人。於華林殿請雲法師講涅槃經中食肉斷大慈悲種子之文。上親席地與眾同聽。

十一年。勅寶亮法師撰涅槃經疏。上親為製序。

十二年。特進沈約著中食論。謂勢利榮名妖妍靡曼甘旨肥醲。皆使心神昏惑不能得道。故聖人禁此三事(云云)。

十三年。初誌公嘗與帝登鍾山。指獨龍岡曰。此為陰宅。先行者得之。是年順化於華林園佛堂。帝憶其言。詔有司具葬此地。建浮圖五級其上。車駕臨葬致奠。忽見大士涌身雲間。乃為立開善寺。

十五年。西天沙門自圖其形于吳中靈巖寺。像遇夜起行道。祈禱神應。後有梵僧曰。此智積菩薩也○華陽真人陶弘景。建菩提白塔于三茅山。嘗夢佛授記名勝力菩薩。乃詣鄮縣阿育王塔。自誓受五大戒。臨終不用沐浴。以大袈裟覆衾蒙首足。弟子遵之(梁書)。

十六年。勅太醫不得以生類為藥。郊廟牲牷皆代以麩。宗廟薦羞始用蔬果(牲音全。牛純色。禮記祭祀牲牷)。

述曰。祭天地祀宗社。必殺牲以備物。皇王以來用以為法。有國家者掌之為故。且不敢有所議也。夫司天地之化。所以稱上帝稱皇天后土者。至聖至神也。烏有神聖而好殺牲牢之命。肯歆腥臊之食哉。由夫上古之俗茹毛飲血以是養己。必以是事神。朴陋之見曾不知牲牢腥臭之為瀆也。蒸民既粒俗不能變。聖賢教世師古法以著之禮經。於是後王遵而行之。莫或敢議其可不者。以養己。猶古不思事神之不當瀆也。夫果於殺命不仁也。薦以腥臭不義也。以不仁不義為養己之舊習。尚當思有以節以求全好之心。豈於事天地祖宗之神靈。而欲以牲牢腥臭之物以瀆之哉。自佛法東漸勸修齋戒。天帝尚知事佛。豈人事天而不知事佛乎。知所以事佛。則不當以牲牢瀆天。為可信矣。惟梁

有武皇魏有獻文。勅郊廟祭祀不用牲牷。而易之以蔬麴酒果。可謂違古而道。奉黍稷薦明水。是亦三代之祀法也。烏在乎牲牢腥臭之物哉。

慈雲法師。於天台勸民俗祀神改祭為齋。其文有曰。天子七廟。下至庶人皆同祭祀圓丘方澤上下神祇。國之常典勸令斷祭。無乃太傷國風乎。釋曰。祭祀出俗典。改祭據佛經。俗典則未逃殺害。佛經則唯重慈悲。殺害則報在三途。慈悲則果成萬德。以善改惡無不可者。

勅廢天下道觀道士皆返俗○勅沙門慧超為壽光殿學士。召眾僧法集講論注解經文。並居禁中(此內道場之始)。

十八年。會稽沙門慧皎謂寶唱名僧傳頗多汎濫。因著高僧傳。始漢永平開德業為十科。其自序云。前古撰集多曰名

僧。然名者實之賓也。若實行潛光。則高而不名。若寡德適時。則名而不高。名而不高茲焉用紀。高而不名則備今錄。世以為確論。

普通元年。沙門眾養於揚都譯文殊般若經等十一部。帝親筆受。令寶唱繼之○帝於禁中築圓壇將稟歸戒。妙選賢明。朝議以草堂慧約法師應詔。四月八日。帝服田衣北面敬禮受具足戒。方行羯磨甘露降於庭。有三足鳥孔雀二。歷階馴伏。錫師號曰智者。自是入朝必設特榻。而帝坐其側。自太子諸王公卿僧俗。從約受戒著錄者四萬八千人。沙門耆艾(五蓋反老也)亦從師重稟(重音虫再也)法雲獨曰。吾既受戒矣。其可以法為人事耶。議者高之(約姓婁世稱婁約法師)。

普通二年。詔雲光法師於內殿講法華經。天雨寶華。三

年。詔修鄮縣阿育王寺。

六年。勅光宅寺法雲為大僧正。官給吏力(僧正始於姚秦今加大字)。

大通元年(即北魏孝明武泰元年。舊云普通者誤)南天竺菩提達磨汎海至廣州。詔入見帝。問曰。如何是聖諦第一義(圓悟碧岩集云。武帝與婁約法師昭明太子持論二諦。立真諦以明非有。俗諦以明非無。真俗不二是聖諦第一義)師云。廓然無聖(圓悟云。達磨與他一刀截斷)帝曰。對朕者誰(圓悟云。帝不省。却作人我見解)師云不識(圓悟云達磨太殺慈悲)帝不契(圓悟云帝不知落處)師遂渡江入魏(圓悟云。後人傳折蘆渡江。未詳所出)○駕幸同泰寺舍身。群臣以錢一億萬奉贖。皇帝歸宮。

二年。槃槃國進佛牙。

中大通元年。京城大疫。帝於重雲殿為百姓設救苦齋。以身為禱。復幸同泰寺。設四部無遮大會。披法衣行清淨大舍。素床瓦器乘小車。親升法座為眾開涅槃經題。群臣以錢一億萬奉贖。皇帝設道俗大齋五萬人。

二年。帝幸同泰寺設平等大齋○丹丹國進象牙佛像。

三年十月。帝幸同泰寺講涅槃經。十一月講金字般若經。

五年。帝幸同泰寺發金字般若經題。自太子已下聽法者。三十萬九千六百人○吏部尚書到溉家居蔬食。朝夕從僧禮誦。帝為月三致淨饌。所得奉祿(奉音鳳。作俸字。葑音者皆非。今官階朝奉者。當音鳳。事見前漢書)皆充蔣山二寺。

(即鍾山也)及卒顏色如生。手屈二指。

六年。烏傷居士傅翕。至松山結庵雙檣樹間。自號雙林當來下生善慧大士。令弟子奉書詣闕。稱帝為國主救世菩薩。詔報曰。大士為度眾生欲來隨意。帝預勅鎖門以觀其異。大士袖出木槌一扣諸門盡開。見帝於善言殿。謁者三贊。不拜。直上御榻對語。設齋食竟出鍾山。坐定林松下。大士一日披納頂冠鞞履見上。上問。是僧耶。士以手指冠。是道耶。以手指履。是俗耶。以手指納衣(汾陽昭代云大士多能)○剡川尼法宣誦通法華。坐臥見帳蓋覆其上。父母令就齊明寺出家。是日帳蓋即不見。自是博覽經論。深探奧理。衡王元簡為郡守。請為越城母師○槃槃國進佛舍利。

大同元年。帝幸同泰寺設無遮大會○智者約法師亡。帝輟

朝三日。素服哭之。從師受戒者。四萬八千人。皆服總麻哭送。塔于誌公之左○勅於重雲殿為善慧大士別設一榻。講三慧般若經。公卿畢集。天子至。眾皆起迎。大士不動。御史問其故。答曰。法地若動一切法不安。帝善之○隱士趙伯休。於廬山遇律師弘度。得眾聖點記云。佛滅後優波離結集律藏。以其年七月十五日自恣竟。於律藏子便下一點。年年如是。波離以後師師相付。至僧伽跋陀羅。將律藏至廣州。當齊永明七年庚午七月十五日自恣竟。即下一點。其年凡得九百七十五點。伯休問曰。永明七年後。云何不點。度曰。已前皆得道人。手自下點。吾徒凡夫。止可奉持耳。伯休因點記推至大同初。凡一千二十年。與傳記參合。世尊生滅之年皆不同。蓋其宗承有異也。

二年。帝幸同泰寺設無礙大會(礙礙同出梵典)是年凡三設

大會○華陽真人陶弘景告化。香氣積日不散。謚貞白先生。所撰書曰真誥。有云。清虛裴真人弟子三十四人。其十八人學佛道。餘學仙道。紫陽周真人弟子十五人。四人解佛法。桐柏真人王子喬弟子二十五人。八人學佛法。對會稽東去岸七萬里。其西小方諸山。多有奉佛道。有浮圖高百丈。金玉鏤之(雖奉佛道不作比丘形)○柏闔為陶隱居。執役十餘年。一旦有青童白鶴自天而下曰。太上召柏先生。隱居問何道致此。君曰。修默朝之道積年矣。即昇天而去。三日密降隱居之室曰。君之陰功著矣。所修本草。以虻蟲水蛭輩為藥害於物命。一紀之後但解形去世。為蓬萊都水監耳。隱居乃以草木藥可代物命者。著別行本草三卷以贖過。

三年。詔修長干塔。掘基得石函。內有金罍流離瓶盛舍利爪髮。勅分入二塔同放光明○帝幸同泰寺鑄十方佛金銅

像。復往阿育王寺(在建康都城內)設無礙法食。大赦天下
○昭明太子統薨。太子天性好佛。於東宮別立慧義殿為法
集之所。招延名僧立三諦義。當世美之○岳陽王蕭詵(察同
昭明之子)鎮越州。重修甄木二塔。先是沙門曇彥與許詢同
造此塔。未就而詢亡。彥至是年百二十歲。詢後身為蕭
詵。預告門人曰。許玄度來也(詢字玄度)時詵先承誌公密
示。才入州便詣寺訪塔。彥出門召之曰。許玄度來何莫。
昔日浮圖今如故。遂以三昧力加之。即悟前身造塔事(今越
城應天塔)。

四年。帝幸同泰寺設盂蘭盆齋(梵語盂蘭此云解倒懸。是目
連尊者設此盆供。得脫母氏餓鬼之苦)○通事舍人劉勰(音
協)雅為太子所重。凡寺塔碑碣皆其所述(石城石像碑見存)
是年表求出家。賜名慧地。

五年。勅沙門寶雲。往扶南國迎佛髮。

六年。詔越州守臣蕭詵。重修鄮縣阿育王寺○扶南國王遣使朝貢。請釋迦像及經論。勅賜。制止涅槃般若金光明講疏一百三卷○北齊慧文禪師於河南為慧思禪師說三觀口決。

七年。百濟國遣使朝貢請經論。勅賜涅槃疏。

十年。于闐國遣使貢玉刻佛像。

中大同元年。帝幸同泰寺講金字三慧般若經行清淨大舍。皇太子群臣以錢一億萬奉贖歸宮。是夜寺浮圖災。上曰。此魔所為也。乃詔曰。道高魔盛。行善障生。遂更起十二層浮圖。

太清元年。帝幸同泰寺設無遮大會行清淨大舍。升妙嚴殿講金字三慧般若經。群臣以錢一億萬奉贖歸宮○西天竺三藏真諦來。勅於寶雲殿譯金光明經等十部○時釋子多縱逸。主僧不能制。帝欲以律行僧正事。詔下。藏法師執不可。帝不能奪。藏謂眾曰。衣冠子弟十輩。豈能俱稱父意。今糴糴五方之眾。而欲以一己好惡繩之可乎。帝自受具戒。寢處略同沙門。雖宮禁亦恣僧遊覽。一日藏師竟登御座。左右訶之。藏曰。貧道定光金輪之裔。寧愧此座。倘欲見殺不慮無受生處。帝特令不問。

二年。侯景反於壽陽。初景在東魏。以河南畔。歸西魏既而遣使至梁求內附。上納之封河南王。

三年。侯景至建康陷臺城。入見上於太極殿。以甲士五百

自衛。帶劍上殿拜訖。上神色自若。曰卿在戎日久無乃為勞。使引就三公榻。景惶懼不能對。出謂左右曰。吾踞鞍臨敵矢石交下未嘗怖畏。今見蕭公使人畏懼無已(懼質涉反惧也)景既自稱丞相。帝憂憤寢疾。齋戒不衰。口苦索蜜未至。舉手曰荷荷。遂崩。帝日角龍顏。舌文八字。項有浮光。日中無景。右手成文曰武。晚奉佛道日止一食。唯豆羹糲飯(郎葛反脫栗飯)布衣皂帳一冠三載。五十便絕房室。不飲酒聽樂。製涅槃小品般若淨名三慧諸經義記 數百卷○江陵居士陸法和。隱居奉佛。及侯景遣將任約擊湘東王於江陵。法和與弟子八百人。役神祠陰兵擊敗之。復於江夏聚兵欲伐侯景。王慮其為亂止之。和曰。貧道求佛者。尚不希釋梵坐處。況人王位乎。但以空王佛所有香火緣。今知王宿報欲救之耳。既已見疑。當是定業不可移也。元帝既即位(即湘東王也)以為郢州刺史。帝為魏所執。和與弟子俱入於齊(梁書)。

簡文帝(網武帝第三子)

大寶元年四月八日。詔度人出家。親制願文云。弟子蕭綱以此建齋度人功德。普度六道四生。出離愛欲永拔無明。修習般若為真佛子。

二年。侯景廢帝幽於永福。省進土囊殞之。武帝初革命。張齊殺東昏侯。送其首於帝除及宗屬。後數年簡文生。誌公謂帝曰。此子與怨家同生。蓋侯景以是年生於雁門。及景破建康帝崩。簡文繼及於禍。梁子弟多見戮。故世稱侯景是東昏後身○北齊慧文禪師因閱大論。至四諦品偈云。因緣所生法。我說即是空。亦名為假名。亦名中道義。恍然大悟。乃遠承龍樹。依論立觀以授慧思禪師。

元帝(繹武帝第七子)

承聖元年。真諦三藏以侯景之亂汎舶西歸。大風飄還廣州。住制止寺譯起信論俱舍論。至陳朝共得五十部○帝嘗著書曰金樓子。云余於僧中重招提琰法師。隱士重華陽陶真白(弘景諡貞白先生)士大夫重汝南周弘正(北周名賢)○招提寺琰法師少時。相者曰。童子聰明而壽不永。師即發願入山誦般若經。久之見僧長丈餘語之曰。此經功德不可思議。後二十年逢前相者。驚曰。得何妙藥而獲延年。琰曰。持經耳○劉敬躬為亂焚望蔡縣。縣令寄近寺。民將牛酒為禮。令以牛繫柱。屏除佛像。於堂上接賓客。牛忽自解來階下拜。令大笑命左右宰之。飲啖既飽醉臥堂下。便覺遍體痒痛。搔成白癩。年終而死(顏氏家訓)。

敬帝(方智元帝第九子)

紹泰元年。北齊文宣廢道教(詳在齊志)○補闕宗殆以學行知名。梁亡棄官出家號無名。北周誘以美官。無名自陳反俗有五不可。晚年為息心銘。悔少日克意文章(黃魯直書此銘與沙門智海。刻之叢林。以為雜學者之戒)。江陵天皇寺有柏堂。明帝之所建。張僧繇畫盧舍那像及仲尼十哲。帝問。釋門何為畫孔聖。僧繇曰。後當賴此耳。及後周滅佛法焚天下寺塔。獨此殿有宣尼像。乃不毀(名畫記)。

陳(都建康)

武帝(陳霸先受梁禪)

永定元年詔迎佛牙於杜姥宅(姥莫補反老婦之稱)設四部無遮大會(比丘等四眾名為四部)。

二年五月。帝幸大莊嚴寺舍身。翌日群臣表請還宮。十一月復幸莊嚴寺發金光明經題。十二月幸莊嚴寺設無礙大會行清淨大舍。翌日群臣表請還宮。金陵七百寺值侯景焚蕩幾盡。自帝登極悉令修復。翻經講道不替前朝。

三年。勅大內設仁王大齋。詔沙門寶瓊於重雲殿。講大品般若經。時群臣請以重雲殿佛像寶幔球玉珩佩(衍音行佩上玉所以節行止)以造車輿。俄見雲氣籠殿雷電火起須臾焚盡。月餘有從東州來者言。是日見殿飛浮海上而去○高郵有尼。誦妙法華不舍晝夜。十爪二掌皆生華。上召見內殿。觀其華大嘉敬之。世號華手尼。

文帝(舊高祖兄始興王子)

天嘉元年。勅寶瓊為京邑大僧統。梁魏以來僧統盛飾杖直儼於官府。至是瓊奏罷之。每出從數頭陀仗笠而已。海東十二國聞瓊道德。遣使奉金帛求畫像以歸○思禪師於光州大蘇山。為顓禪師說安樂行示普賢道場。

二年。善慧大士於山中行道常見七佛在前維摩從後。唯釋迦常與大士語。

四年。帝於太極殿設無礙大會行舍身法復集僧行。方等陀羅尼法法華懺金光明懺。並別製願辭。稱菩薩戒弟子皇帝。

六年。西竺王子月婆首那。來遊廬山。譯勝天王般若經。

廢帝(伯宗文帝太子)

光大二年。思禪師入居南岳。是歲為岳君受戒(詳見南岳本紀)。

宣帝(項始興王第二子)

大建元年四月。善慧大士示寂。七日縣令陳鐘耆來禮敬。傳香之次猶反掌受香。舉眾驚異。勅徐陵撰碑山中。

良渚曰。傳燈言。武帝請大士講金剛般若。執拍板唱四十九頌觀。竹庵云。多用三性義語。恐北方相宗人託大士名。或云祇以拍板。揮案一下。誌公云。大士講經竟。然大士入朝。誌公已去世二十年。何從有此問答。樓穎編大士言行錄甚詳亦不載此事。

顓禪師於瓦官寺為儀同沈君理等講法華經。後常與眾講大智度論說次第禪門○思禪師居南岳。九仙觀道士歐陽正則詭奏。師為帝蠱事(漢江充奏。戾太子為巫蠱事。蠱者惑也。謂巫者左道。或眾埋木人為呪詛事。今道士欲以巫蠱事陷師也)帝遣使召之。則見師自空中來。驚悟其神一無所問。以道士誣告罪當棄市。師請貸之令給事僧眾。乃勅有司。冶十四鐵券。識十四姓名其上。令隨師還山服役舂米(今俗呼擣米叔)久之願以田充香積贖老身。因名留田莊於是藏其鐵券勒石為記。名曰陳朝皇帝賜南岳思大禪師降伏道士鐵券記(詳見南岳本紀)。

四年。勅沙門慧暉(音巨)於樂遊園為七廟講大品般若。齊使崔武子來朝。上以沙門洪偃才德兩優。命為館伴。武子每與語輒大歎服。朝議欲加偃冠。師絕食自誓。帝乃止。

五年。海東玄光沙門受法華安樂行義於南岳禪師。歸國演教。為海東諸國傳教之始。

六年。周武帝罷佛道二教。沙門靖嵩靈偁(侃同)三百人皆相率歸南朝。帝令駙馬蔡凝宣勅曰。法師等善明治亂。歸寄有序。宜於都郭大寺安居。所司供給○沙門智周十一人。往西天求經。

七年。顓禪師入天台佛隴。

九年二月。詔曰。顓禪師佛法雄傑時匠所宗。訓兼道俗國之望也。宜割始豐縣調(徒弔反賦也)以充眾費○淮淝之戰轉輸不繼。勅所在僧侶任其役。律師智文上書曰。君子為國必以禮義。主上誠知宇文廢滅之過(周武姓宇文氏)豈宜以勝上福田為胥下之事。非止敵人輕訾(音紫毀也)。亦恐

國家受殃。帝大感悔。亟下寢之一時建議主役者。皆寘重罰○六月二十二日。南岳思大禪師唱佛坐逝。

十年。左僕射徐陵。以顗禪師創寺請於朝。賜號修禪(今大慈也)師為兄陳鍼述小止觀。咨受修習。初仙人張果相之曰。死在朞月。師及令行方等懺。鍼見天堂門牌曰。陳鍼之堂。果後見鍼驚問。君服何神藥。答曰。但修懺耳。果曰。若非道力安能超死。竟延十五年而終。

十二年。周宣帝復佛道二教。

十三年。詔國內初受戒者參律五夏。勅曇瑗律師(瑗音院)總知監檢。有司給其衣食。勿使經營致虧功績。不踰數載道器大成。乃以瑗為國僧正。

十四年。皇太子即位。設無遮大會於太極殿。舍身大赦。

後主(叔寶宣帝太子)

至德元年。勅慧暉為京邑大僧正○永陽王伯智出鎮東陽(文帝第八子)請顓禪師赴鎮開講。王與子湛及家人同稟菩薩戒法。

二年詔。虎丘智聚法師赴太極殿講金光明經。

三年。詔顓禪師入京居靈曜寺。四月赴太極殿講大智度論題般若經題。久之遷居光宅寺。帝幸寺聽講仁王經。躬禮三拜○朝議以僧尼類多無業。欲令策經不通者皆休道。顓禪師諫帝曰。調達日誦萬言未免淪墜。槃特唯憶一偈乃證四果(二事並見天台本紀注)篤論為道豈關多誦。帝大說。

即停搜簡。

四年正月。詔顓禪師赴崇正殿。為皇太子授菩薩戒。設千僧齋。

禎明元年。顓禪師於光宅寺講法華經。時章安預聽○都官尚書徐孝克性好惠施不免饑寒。後主勅以石頭津稅給之。孝克悉用設齋寫經。初居錢塘。與諸僧討論釋典。遂通三論。旦講法華經。晚講禮傳。受業者常數百人。蔬食長齋持菩薩戒。陳亡入長安。時疾疫。隋文帝聞其名行。召講金剛般若。上下敬讚。臨終正坐念佛○姚察讀藏經畢。日西向坐正念云。一切空寂。陳亡入隋終於東都。其身柔軟顏色如生遺命松板薄棺為葬。

佛祖統紀卷第三十七(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十八

宋景定四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之五

自周秦至于六朝。世以為得正統。若北魏齊周。雖非相承。而世居中原盛行典禮。謂之北朝者。不鄙夷之如晉五胡也。隋氏雖受周禪。而實能統一區宇繼陳正朔。此敘史者之微旨也。矧北史之於二教。盈虛消息所繫良多。故茲並陳用為照映。

北魏(都雲中)

太祖(拓拔珪)

皇始二年詔趙郡法果為沙門統。帝生知信佛。初平中山所經郡國。見沙門皆致敬。禁軍旅毋得有犯。

天興元年。詔於京城建五級浮圖須彌殿耆闍山禪房講堂。悉務壯麗。

明元(嗣太祖子)

永興元年。詔封法果為輔國宜城子(僧受俗官之始)神瑞元年。加封法果為忠信侯。

二年。老君降于嵩山授道士寇謙之經戒。謂曰。自張道陵

去世地上曠職今授汝天師之任。清整道教開化郡生。除削三張租米稅錢之弊男女合炁之術(三張者。張陵令病人輸米悔過。其後張修張角效之。世號五斗米道)後二年。老君遣玄孫上師真人李普文。授太平素經圖籙百六十卷。輔佐北方太平真君(謂太武也)。

泰常元年。加封法果為安城公。壽八十餘卒。帝三臨其喪諡靈公(賜諡之始)。

太武(熹明元子)

始光元年。勅天下寺改名招提(此翻十方常住)四月八日。興諸寺像行於廣衢。帝御門樓臨觀散華致禮(僧史略云。西天王臣恨不覩佛。於降生日興像入城行道。通夜供養。謂之行像。國國皆然)○嵩岳道士寇謙之。奉老君所授書以

獻。朝廷未之。信獨司徒崔浩上書贊其事。帝忻然納之。遣使建玄都壇。起靜輪天宮。勅謙之及門弟子。位在諸王公上不稱臣。擇大家子弟百二十人為道士。

二年。帝誕節詔於佛寺建祝壽道場(聖節道場之始)神慶元年(慶音加牡鹿)帝誕節詔天下佛寺並建道場。

延和元年初涼土沙門玄高妙善禪觀。上遣使迎入平城。甚加敬重。命太子晃師事之。

太延五年。太子晃被讒。求哀於沙門玄高。為作金光明懺。帝夢先祖讓之。不當以讒疑太子。帝以語崔浩。浩曰。太子結玄高以術致先帝恐陛下耳。帝怒收玄高慧崇縊殺之。高弟子玄暢在雲中。聞師遇害。馳至泣曰。和上神力當為我起。高開眸曰。大法盛衰在於迹耳。但惜汝等行

當如我。唯玄暢得南渡。汝等死後法當更興。法進號呼曰。聖人去矣。我何為生。即見高於空中。進問。和上與崇公當生何所。高曰。我往惡處度生以順本願。崇公已歸安養。

太平真君元年。寇謙之於嵩山立壇。為帝祈福。老君復降。授帝以太平真君之號。謙之以奏。遂改元大赦。

述曰。子不語怪神。言誠可以為教世之法也。夫老子聖人也。或在天為君主。或分形下教。隨時闡化。則有之矣。而寇謙之迺言。於某處某處老君下降。授帝以太平真君之號。囑以輔佐太平之說。託崔浩以其書獻。誑惑當世之君。何其怪哉。厥後崔浩以釋教虛誕之說。勸於上遽起滅僧之禍。此其法運之一厄也。既而崔浩族誅太武被弑。不令而終。君臣俱遭冥罰。寧不遺恨於謙之乎。

太平真君七年。帝與崔浩皆信重寇謙之。浩每言於帝曰。佛法虛誕宜悉除之。及帝討蓋吳(蓋音閣)至長安入佛寺。沙門飲從官酒。見其室有兵器。以白帝。乃命有司案誅沙門。閱其財產大得釀具及守牧富人所寄藏物。浩因說帝悉誅天下沙門。詔征鎮諸軍有浮圖形像胡經皆悉焚毀。沙門無少長悉阬之。太子屢諫不聽。乃密令緩宣詔書。使遠近豫聞得自為計。沙門多亡匿。收藏經像。唯塔廟無復孑遺(孑吉列反。單也。孟子靡有孑遺)。

八年。天大雷電殿室震傾。帝所居被壓幾致於死。

十一年。白足沙門曇始(足白於面時號白足)於元會之日杖錫宮門。帝命趣斬之(趣音促)無所傷。大怒自以佩刀擊之不死。又令捕投虎檻。虎皆怖伏。帝大驚召登殿拜謝。忽

身感厲疾(厲癘同癩疾也)痛不可忍。群臣皆言。崔浩毀佛所致。帝懼甚。時崔浩刻所撰國史於石。以彰直筆。帝惡其暴揚國惡。乃令載浩露車。使十人椎。於車上溺其口(溺乃弔反小便)腰斬之。誅及五族僚屬百二十人。即下詔復佛法。初浩除釋氏。行路見棄像必停車溺之。及族誅屍無收者。人競溺浩屍。至糜潰乃止。

正平二年。常侍宗愛弒帝于永安宮。

文成(濬太武孫)

興安元年。詔曰。夫為帝王者。必祇奉明靈顯彰仁道。其能惠著生民濟益群品。雖在往古猶序風烈。況釋迦如來功濟大千惠流塵境。尋生死者歎其達觀。覽文義者貴其妙門。助王政之禁律。益仁智之善性。排撥群邪開演正覺。

故前代已來莫不崇尚。亦我國家常所尊事。世祖太武德澤遐被。沙門道士往往成林。而寺舍之中致有凶黨。先朝案治戮其有罪而已。所司失旨一切禁斷(切音竊漢書如刀一切)朕承鴻緒志隆聖道。其令天下郡縣各建浮圖一區。欲為沙門者聽。初罽賓沙門師賢五人來京。值罷佛法。假醫術以守道。復教之曰。帝親為五人下髮。以師賢為沙門統。

和平元年。詔沙門統曇曜為昭玄沙門都統。待以師禮(隋百官志。昭玄寺掌佛教。署大統一人統一人都維那三人。置功曹主簿官。以管諸郡沙門)。

六年。疏勒國遣使進佛袈裟。長二丈。帝命焚試之。以示靈異終日不然。

獻文(弘。文成長子)

興皇元年勅於五級太寺。為太祖已下五帝鑄釋迦佛五軀。各長丈六。用赤金二十五萬斤。

三年。昭玄都統曇曜言。平齊戶及民間。能歲輸粟入僧曹號僧祇粟。遇凶年則出賑饑民。又諸民犯重罪者為佛圖戶。供諸寺掃洒。帝許之。於是僧祇粟遍天下(平齊戶。注家未嘗言。或云平民齊民之義。僧祇此云大眾。佛圖亦佛陀。此云覺者。言戶者佛寺之民戶也)。五年。帝雅好佛學。每引朝士沙門共談玄理。有遺世之心。是年昭傳位太子。徙居崇光宮稱上皇。建鹿野寺。與禪僧數百習學禪定。

孝文(宏獻文子改姓元氏。遷都洛陽)

延興二年。詔西天三藏吉迦夜譯雜寶藏經等五部。劉孝標筆受○上皇勅。自今祭天地宗社勿復用牲。唯薦以酒脯。歲活七萬五千性命。

○五臺北寺法聰律師。為眾專講四分律。門人道覆錄為義疏(此解四分律始)。

○勅思遠寺主僧顯為沙門都統。

十七年。詔懿德法師聽一月三入殿。俾朕餐稟道味飾光朝廷。帝數幸王園寺。與沙門談論佛道。

十九年。帝幸徐州白塔寺。令道登法師講成實論。謂左右曰。朕每覽此論可以釋人深情(僧史略云。此論最多法相。羅什刪略以授嵩師。嵩授淵。淵授登。此解論之始)○京兆

王太子興久病。祈佛獲愈。願舍王爵求出家。表十上乃許。賜名僧懿。勅皇太子以四月八日為落髮于嵩岳寺。

二十年。太后馮氏。出俗為尼居瑤光寺。

二十一年。詔為太后建報德寺。為羅什法師於所居舊堂建三級浮圖○詔四月八日迎洛京諸寺佛像入閭闔宮。受皇帝散華禮敬。歲以為常○詔諸郡僧寺長夏安居。令清眾數處講說。以僧祇粟供備。

宣武(恪。孝文次子)

景明二年。詔僧犯殺人依俗格斷。餘犯悉付昭玄都統。以內律僧制判之。時崔暹好佛法。以僧尼猥濫。奏設科條一篇。事密而法平。勅付昭玄都統法上以為檢約。

四年。南天竺國遣使貢辟支佛牙。

永平元年。詔中天竺國勒那摩提。於太極殿譯經。北天竺國菩提流支。於紫極殿譯經。帝親預筆受。

二年。帝御式乾殿講維摩經。時西域沙門至者三千人。南方歌榮國世不與東土通。有僧菩提跋陀來。詔建永明寺。以居外國沙門。

延昌四年。太后高氏出俗為尼。居瑤光寺○洛陽段暉所居。聞地下鐘聲。掘之得金佛一菩薩像二。趺上銘曰。晉泰始二年中書監荀勗造。暉遂舍宅為寺。後有盜欲竊此像。像高聲唱賊賊。人至被獲○裴植母夏侯氏。年踰七十。以身自施三寶為婢。供寺掃洒。三子瑜粲衍並奴服。

泣涕以從。各以布帛贖免之。其後竟出家為尼。入嵩高山積歲乃還。植官度支尚書。瑜等皆至刺史。母臨終遺令以沙門禮葬。粲深好釋學。每升座講說。聽者服其理辯。

孝明(詡。宣武第二子)

熙平元年。太后胡氏於洛陽建永寧寺佛殿。如太極殿。門南如端門。作真金像。高丈六。浮圖九層。高九十丈。上剎高十丈。每夜靜鈴鐸之聲聞於十里。

神龜元年。詔諸郡立五級浮圖。

正光二年。勅宋雲沙門法力等。往西天求經。

四年。宋雲等使西竺諸國還。得佛經一百七十部○帝加元

服。命沙門道士講道禁中。帝曰。佛與老子同時否。道士姜斌曰。開天經云。老子定王三年生。年八十五西入化胡。以佛為侍者。沙門曇謨最曰。吾佛以昭王二十六年生。穆王五十二年滅。自滅後至定王三年。凡三百四十五年老子方生。而言化胡。無乃謬甚。帝令群臣詳定真偽太尉蕭綜等劾奏。開天偽經。罪當惑眾。詔流斌于馬邑。

武泰元年(梁大通元年也)十月達磨自梁入魏。止嵩高山少林寺。面壁而坐。帝聞師異迹。三詔不至。就賜磨納袈裟金鉢銀水瓶繒帛。

孝莊(子攸彭城王勰子)

永安元年。太后胡氏。出俗為尼。居瑤光寺。

冀州沙門法慶為行無賴。為其徒所擯。乃去為祆術說。渤海李歸伯率鄉人為亂。眾推慶為主。自號大乘佛。以歸伯為十住菩薩平魔漢王。屠滅寺舍斬害僧尼焚燒經卷。云新佛出世除去眾魔。詔元遙使持節討破之。禽法慶歸伯。傳首京師。餘黨悉平。

三年。宗玄先生孟仲暉造夾紵佛。其像每夜遶座行道。足跡成文。士庶瞻敬咸仰神異。後五年像忽隱去。

節閔(恭廣陵王羽子)

普泰元年。國子博士盧景祐通達佛法。人稱居士。帝亦待以不臣。從兄仲禮作亂累及景繫晉陽獄。景祐至心誦經。枷鎖自脫。帝聞其異貸出之。

孝武(脩廣平王之子)

永熙元年。洛京平等寺建浮圖成。帝設萬僧齋。石像俯首終日。大眾感其神應。

二年。永寧寺大浮圖災火。三月不息。後東萊人咸見浮圖在海中。俄為雲霧所蔽。

文帝(寶炬孝文之孫。遷都長安號西魏)

大統元年。勅沙門道臻為沙門大統○初祖達磨坐少林九年。先傳法及袈裟於慧可。乃往禹門千聖寺。十月五日端坐示滅。門人奉全身葬熊耳山定林寺。明年使者宋雲西域還。遇師手携隻履翩翩獨邁。雲歸為言。門人啟壙視之。唯空棺隻履(宋雲使西域。至孝明正光四年還國。據今十三

年矣。今稱雲還遇達磨者。恐曾再使。不然則別一使人。
誤書為宋雲耳)孝靜(善見清河王亶之子。遷都於鄴號東
魏)。

天平元年。洛州刺史韓賢素不信佛。白馬寺有漢明帝時經
函。時放光明。世藏為寶。賢往寺斫破之。未幾州人韓木
蘭作亂。一賊自屍中起。以刀斫賢脛斷而死。人謂毀函之
報若是其速。

述曰。經函放光。佛道之彰化也。世之昧者。則斥為怪
誕。故惡之斫破之。由其本心素無信耳。一賊忽起斫其
脛。如斫其函。感報之速。自心之召也。世人見佛經說地
獄果報。必曰。佛設此等語以怖人。佛聖智通三世。見人
造善惡者。能預告以禍福。使人知所勸懲耳。非故設此語
以怖人也。作不善降之百殃。豈亦怖人之語邪。

興和四年。時魏境有寺三萬所僧尼二百萬人。○魏書佛老志云。生生之類。三世神識常不滅。凡為善惡必有報應。漸積勝業陶冶粗鄙(粗倉胡反不精)經無數形澡鍊神明。乃至無生而得佛道。其始修心則依佛法僧。謂之三歸。若君子之三畏也(語君子有三畏。畏天命畏大人畏聖人之言)又有五戒。去殺盜婬妄言飲酒。大意與仁義禮智信同。又說六道受生六度進行。及佛身真應不生不滅。舍利塔廟。教法流廣之義。最為深密(北齊魏收撰北魏書)。

述曰。有一代君臣。必有一代之史。所以記諸言動法不法也。堯舜之德必書。跖蹻之行必書。天時人事善惡臧否莫不畢錄。有可法有可誠謂之信史。若是其可也。自佛法來東舉世知所宗上真文祕要盈滿天下。明心見性之道可坐以進益物救世正在仁義。久久弊詐日起之後。通人勝士欽挹

風規。歷代修史之家。未嘗不列敘其事。故范曄之論西域曰。佛道神化興自身毒(音乾篤即天竺也)西漢方志莫有稱焉。豈道閉往運而數開叔葉乎。袁宏之著漢紀曰。天竺有佛道焉。能化通萬物。而大濟群生。唐正觀稱制晉書。摩什圖澄皆列於傳。而贊之曰。垂文闡教通幽洞冥。魏收撰魏書。其志佛老曰。佛言三世神識常不滅。凡為善惡必有報應。漸積勝業乃至無生。此皆諸史敘佛之明義。知佛道果可以益物救世云耳。異哉。歐陽氏之修唐書也。凡釋氏之事有裨國政開人心者。悉刪去之。適足以存舊史之該贍。其乏通學守隘見有若是。謂之信史。未信也。

北齊(都鄴)

文宣(高洋受東魏禪)

天保元年。詔高僧法常入內講涅槃經。拜為國師(國師始此)○法師曇延。長九尺六寸。帝每召入問道。會周使周弘正來聘。大臣舉師接伴。弘正恃才任氣。及見延悠然意消。求師畫象所著經疏以歸。帝益加重。進位昭玄上統○嵩山寶公向白鹿山行。忽聞鐘聲見一門。題曰靈隱之寺。有梵僧自外來。寶隨入寺坐法堂床上。仰視屋間開孔如井。有僧從孔飛下。至六十餘人。坐已各問。今日何處齋。或言豫章成都嶺南薊北五天竺。動千萬里。最後一僧至。眾問何遲。答曰。相州彼岸寺鑒禪師講會。各各豎義。有一小僧。難問蜂起。殊為可觀。不覺日暮。寶起曰。鑒禪師是我和上。諸僧直視寶。頃之遽失其寺。乃獨坐柞木上(柞音昨櫟也)出山問大統法上。上曰。此寺佛圖澄所造。賢聖居之。或隱或見。至今山行猶聞鐘聲。二年。詔稠禪師至鄴都建雲門寺以居之。師宴坐一室未嘗送迎。帝至。弟子勸之。師曰。賓頭盧迎王七步。致王失

國。吾德雖不逮儀相似之。所以不敢自欺。冀致福於帝耳。帝惑左右。以師慢己欲躬加害。師旦出寺二十里拱立道旁。帝怪問之。師曰。恐血污伽藍耳。帝即悔謝。謂僕射揚遵彥曰。如此真人何可謗耶。遂同輦還宮。問曰。弟子前身何人。師曰。曾作羅刹王。今猶好殺。祝盆水使視之。見群羅刹在後。帝大敬信。請受菩薩戒。永不食肉。盡停五坊鷹犬傷生之具及境內屠殺○詔置昭玄上統。以沙門法上為大統。令史員置五十餘人。所部僧尼四百餘萬。四萬餘寺。咸稟風教。帝築壇具禮。尊為國師。布髮于地令上統踐之升座。后妃重臣皆受菩薩戒○帝在晉陽。使人乘一駝。勅曰。可向寺取經函。使問所在。帝曰。任駝出城。及出奄然如夢。至山腹有寺。群沙彌見之曰。高洋駝來。便引見老僧。僧問。高洋作天子何如。使曰。聖明。僧曰。汝來何為。使曰。令取經函。僧曰。洋在寺嬾讀經。令於北行取之。使者反命。

六年。初道士陸修靜。以梁武棄老子教。遂奔入魏。暨文宣事佛。靜等忌之。詣闕自陳。請與釋子角法。帝許之。靜以呪術令僧衣鉢皆飛宮殿梁柱皆震。帝顧謂大統法上曰。佛門豈無人哉。上統舉曇顯。顯時被酒。出曰。汝曹問者敢以小術自肆。即以稠禪師衣置地。道流并力不能動。顯自取置梁間使呪。梁柱亦不動。靜曰。釋自標為內教。內即小也。顯曰。天子居九重之內。亦應小於百官乎。靜氣咽無對。群臣皆忤躍。帝乃下詔。令道士自謂得神仙者。可上三爵臺飛騰遠舉。其不能者。宜詣昭玄上統剃度。有不從者殺四人。遂下詔曰。祭酒道者。世中假妄麴蘖是味。清虛焉在。瞿脯斯甘慈悲永隔。上異仁祠下乖祭典。宜皆禁絕不復遵事。於是齊境皆無道士。

述曰。修靜生於晉末與遠公遊。屍解於宋之泰始。則說簡

寂。自泰始至梁天監。已四十年。不應今日復有修靜。若曰因梁棄道自梁奔魏。當云陸修靜之門徒。斯為可信也矣。

梁荊州居士陸法和。以元帝為魏所破。遂歸於齊。帝以為太尉賜甲第。和乞為佛寺。其徒七百人悉修禪法。一朝禮佛坐床上而終。將斂縮身止三尺。斂畢。帝更令開視。唯一空棺。嘗題壁云。十年天子猶尚可(文宣在位十年)百日天子急如火(廢帝在位百日)周年天子遞代坐(孝昭在位不及一年)人懼塗削之。終不能滅。

七年。帝以內藏梵經千夾。命三藏那連耶舍於天平寺翻譯。勅大統法上沙門都法順監譯。帝躬禮梵文。謂群臣曰。此三寶之鴻基。禮宜偏敬(偏猶專也)○沙門尊稱居士萬天懿。優婆塞智希。並於鄴城譯經。

十年。帝幸遼陽甘露寺禪居深觀。勅非軍國大事不得聞。

述曰。世謂文宣殘忍。果於刑戮。至欲比之桀紂。然觀其譯經修禪受戒禁殺尊禮國師罷黜道教。其敬佛為甚至。蓋由前身為聖寺沙彌。以智願力出現世間。居人王位行佛法事。而初年好殺。特其殘習之所為耳。非如桀紂不遇佛法行殺無悔者之比也。

武成(湛高祖第九子)

河清二年。詔慧藏法師於太極殿講華嚴經(晉譯六十卷者)孫敬德先造觀音像。後有罪當死。夢沙門教誦經可免。既覺誦滿千遍。臨刑刀三折。主者以聞。詔赦之。還家見像頂上。有三刀痕。此經遂行。目為高王觀世音經。

述曰。此經止十句。即宋朝王玄謨。夢中所授之文。今市肆刊行。孫敬德所誦者是。後人妄相增益。其文猥雜。遂使識者疑其非真。又本朝嘉祐中。龍學梅摯妻失明使禱於上竺。一夕夢白衣人教誦十句觀音經。遂誦之不輟。雙目復明。清獻趙公刊行其事。大士以茲至簡經法。救人於危厄之中。古今可紀者三驗矣。可不信乎。

後主(緯武成長子)

武平六年。沙門寶暹十人。往西天求經還。得梵本二百六十部。

隆化元年。詔修鄴都白馬寺佛圖澄所造塔得舍利三。盛以寶瓶。廣武王邕置水晶鉢行道祈請。舍利忽浮水面。右轉

七匠。

北周(都長安)

閔帝(宇文覺太祖第三子受西魏禪)

元年(即西魏大統二十四年。受禪今改元)詔僧實禪師為周國三藏○詔以舍利藏蒲州常念寺。大放光明自瓶而出。乃建浮圖以表祥異○帝獵於檀山。遙指山上問群臣。有所見乎。掌書記盧光獨曰。見一沙門。帝曰。是矣。即解圍而還乃令光於見處造浮圖。掘基一丈得錫杖瓦鉢。

武帝(邕太祖第四子)

保定三年。詔曰。歲在昭陽(三陽孟春)龍集天并(龍集者。

東方蒼龍為歲首也。天并歲在申也)當令所司奉造一切經藏。始乎生滅之教訖於泥洹之說云云。

天和四年。沙門藏稱。於長安譯經。沙門至德譯法華經普門重頌偈○詔名儒僧道申述三教。沙門道安作二教論。以儒道九流為外教。釋氏為內教。帝信道士張賓衛元嵩之讚。以識緯黑衣當王。心忌釋氏。張賓說帝曰。唐虞無佛圖而國安。齊梁有寺舍而祚短。但利民益國即稱佛心。夫佛以大慈為本。終不苦役黎民虔恭泥木。請造平延大寺容著四海蒼生。不立曲見伽藍遍安大乘五典。以平延者。無問道俗罔擇怨親。以城隍為塔寺。即皇帝是如來。用郭邑作僧坊。和夫妻為聖眾。推令德作三綱。尊耆年為上座。選仁智充知事。求勇恪作法師。是以六合無怨紂之心。八方有歌周之詠云云。

四年二月。集百僚僧道於文德殿。討論釋老同異。

建德元年正月。帝幸玄都觀。自升座講說。公卿僧道互為難問。○時長安有李練者。神異不測。每夜於街上大哭釋迦牟尼佛。如此屢月。後二年果有廢釋之事。

二年二月。集百僚僧道論三教先後。以儒為先。道次之。釋居後。○詔群臣沙門道士。於內殿博議三教。法猛法師立論理勝。司隸大夫甄鸞上笑道論。凡三十六篇。用笑道家三十六部。以釋教有十二部。今三倍勝之。(弘明集)○帝集僧道。宣旨曰。六經儒教於世為宜。真佛無像空崇塔廟。愚人信順徒竭珍財。凡是經像宜從除毀。父母恩重沙門不敬。斯為悖逆之甚。國法豈容。並令反俗用崇孝養。時慧遠法師出眾抗答曰。若以形像無情。事之無福。國家七廟豈是有情。帝曰。佛經外國之法。故當廢之。七廟上世所

立。朕亦不以為然。將同廢之矣。師曰。若以外國之法非此所用。仲尼所說出自魯國。秦晉之地亦應不行。七廟若廢。則五經無用。三教同廢。何以治國。帝曰。魯與秦晉。封域雖殊。莫非一王之化。師曰。若秦魯同一王化。震旦天竺同在閭浮輪王一化。何不同遵。帝與師往復數至十二。帝不能屈。三年五月。帝欲偏廢釋教。令道士張賓飾詭辭以挫釋子。法師知玄抗酬精壯。帝意賓不能制。即震天威。以垂難辭。左右吒玄聽制。玄安庠應對。陳義甚高。陪位大臣莫不欽難。獨帝不說。明日下詔。并罷釋道二教。悉毀經像。沙門道士並令還俗。時國境僧道反服者二百餘萬。○六月詔釋道有名德者。別立通道觀。置學士百二十員。著衣冠笏履。以彥琮等為學士。沙門道安有宿望。欲官之。安以死拒號慟不食而終(前曾作二教論)○法師靜藹聞詔下。詣闕奉表求見。帝引對。極陳毀教報應之事。帝改容謝遣之。遂遁入終南山。號泣七日。坐磐石引刀自條其

肉。掛腸胃于松枝。捧心而卒。白乳旁流凝於石上。聞者莫不流涕。

述曰。佛道本常。有時而阨者。世人之業感耳。以故大小三災業感之大。三武滅僧。業感之小。然每當滅則必有聖賢者出。魏武有曇始。周武有知玄道安靜藹。皆為法忘身求復大教。而藹之條肉捧心。世或謂。其徒自苦辛。殊不知縱無益於當朝。猶足以感動世人俾知為法之切有若此者。武帝廢之。宣帝復之。曾不數年其道復振。疇知非藹師誠感之應乎。

六年。伐齊滅之。并毀齊境佛教經像。時僧尼反服者三百餘萬。

宣政元年六月。帝感癘疾。身瘡大發遂殂(補注引僧傳)。

宣帝(斌武帝子)

大成元年。先是沙門道林以學業進見。與武帝議論二十日。酬酢七十番。帝不能屈。遂許以復教。會帝殂。至是道林申請尤力。上許之。遂下詔曰。先帝惑於異論。以釋道為無益。故廢而不行。然大教所繫詎宜罷黜。今簡耆舊有道者二百二十人。勿翦髮毀形。於東西二京陟岵寺為國行道。乃勅智藏等長髮為菩薩僧。充寺主。華冠瓔珞作菩薩大士相○詔曰。三寶尊重特宜修敬。其令舊沙門有德行。於政成殿西安居行道○追封孔子為鄒國公。

靜帝(衍宣帝子)

大定元年。詔天下并復釋道二教。復立佛天尊像。丞相楊

堅。與陟岵寺智藏靈幹等再落髮。度僧二百二十人。

佛祖統紀卷第三十八(終)

然河圖洛書天道所以下教於世者。豈當以神怪非之乎。是則老子聖人或在天為君主。或分形下教。皆隨時以闡化也。當老子之下教寇君。授之經法任以天師。俾除削三張之弊。其言有足取也。至囑以輔佐太平之說。故能造闕下以獻其書。崔浩引而進之。太武信而納之。未足為過也。一旦崔浩以惡釋之心勸其上。於是遽起案誅沙門之禍。酷哉此時其法運之一厄乎。既而崔浩族誅。太武被弑。不令之終足彰其罪。及文成詔復佛法大建浮圖一翕一張曾不足以累本常之道也。世或以毀釋過謙之者。然謙之特受教於老君。以告人主耳。初未嘗創毀釋之論。毀釋自太武崔浩

起也。夫法運之通塞數也。人心之好惡勢也。勢與數合。佛力不能移也。故知太武崔浩之毀釋執與數合。非謙之之過也。煬帝師智者。及智者亡弑父竊位。下罷僧毀寺之詔而卒沮於事。豈智者教之耶。衛元嵩教周武。趙歸真教唐武。比誠教之也。君與臣俱遭冥罰。非不幸也。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第三十九

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之六

隋(都長安)

文帝(楊堅受周禪)

開皇元年。帝初受禪沙門曇延謁見。勸興復佛法。乃下詔。周朝廢寺咸與修營。境內之人任聽出家。仍令戶口出錢建立經像。由是民間佛經。多於六藝之籍○初同州般若

寺尼智仙。通禪觀言人吉凶。皆驗。文帝始生於寺。尼謂太祖曰。此兒佛天所祐。因呼為那羅延(此云鉤鎖力士)太祖委仙視育。一日皇妣來抱。見兒成龍形驚墮于地。尼失聲曰。驚吾兒致令晚得天下。及長密告之曰。像教將滅。一切鬼神皆西向。汝當大貴佛法暫廢賴汝而興。及周武罷教。此尼竟隱帝家○詔於相州戰地為軍士死事者建寺薦福○勅僧猛法師住大興善寺。為隋國大統○南朝陳國沙門智周等自西竺還。齎梵經二百六十部。詣闕上進。上召見慰勞。賜以繒錢。

三年。詔天下正五九并六齋日不得殺生命○唐公李淵(高祖初封於唐)以長安宅居施沙門曇崇。帝為製清禪寺名○海陵沙門惠盈。六時禮三千佛。救民饑苦之厄。一日講法華經。有神擁從稱五道大神。請授戒法。云往東海巡行。盈為設食授戒而去。

四年。靈藏律師始與帝為布衣交。及即位建大興善寺以居之。勅左右僕射。兩旦參問起居。嘗陪駕洛州。歸之者眾。帝手勅曰。弟子是俗人天子。律師是道人天子。有欲離俗者任師度之。由是度人至數萬。有疑之者。帝曰。律師化人為善。朕禁人為惡。意則一也。

五年詔法經法師。於大興殿授菩薩戒。

六年。亢旱。詔曇延法師於正殿。升御座南面授法。帝及群臣。咸席地受八關齋戒。俄而雲興大雨霑霑。

七年。詔曇遷法師為昭玄大沙門統。

八年。曇延法師亡。帝輟視朝。勅王公已下往臨(去聲)內

史薛道衡白弔文曰。聖皇啟運像法載興。卓爾緇衣鬱為稱首。屈宸極之威重。申師資之禮文。三寶藉之弘通。二諦由其宣暢。以誘人為善之德。為助國行仁之方。豈謂法柱忽傾慈舟遽覆。匪直悲纏四眾。固亦酸感一人○京兆杜祈暴亡至冥府。王審其名曰。誤矣。問祈識周武帝否。答曾任左武侯司法常在殿陛。王顧吏引至大鐵屋。從窓中望。一人瘦身鐵色著鐵枷鎖。祈見泣曰。大家何苦。答曰。我信衛元嵩毀滅佛法。故此受罪。祈曰。臣誤追當還。大家有說否。曰汝若還為聞大隋天子。昔與我共食倉庫。我滅法受大苦。望為我作福相救。及還以事聞。帝乃勅天下人出一錢為武帝追福(見唐高僧傳。法苑珠林。作趙文昌入冥。恐當時有此二事。皆可為證)。

九年。李士謙雅好佛學兼善玄談。有客問三教優劣。士謙曰。佛日也。道月也。儒五星也。時以為至論(無量壽佛

經。惟願佛日教我觀於清淨業處)。

十年(是年隋滅陳始承正統)正月詔曰。光宅顓禪師。昔周武毀教。朕曾發心必許護持。及受命於天遂即興復。師已離世網修己化人。必希獎進僧倫用光大道○勅臣僚士庶。有欲出家聽。是歲度僧至五十萬。

十一年。詔相州靈裕法師至京為國統。裕表辭三上。帝留之不可。謂僕射蘇威曰。朕知裕師剛正不可屈。乃厚賜還山。御書靈泉為寺名○十一月。晉王廣(文帝次子)總管揚州迎顓禪師。至鎮設千僧會受菩薩戒。上師號曰智者。

述曰。世謂煬帝稟戒學慧。而弑父代立。何智者之不知預鑑耶。然能借閻王之事。以比決之則此滯自銷。故觀經疏釋之則有二義。一者事屬前因。由彼宿怨來為父子。故阿

闍世此云未生怨。二者大權現逆。非同俗間惡逆之比。故佛言。闍王昔於毘婆尸佛發菩提心。未嘗墮於地獄(涅槃經云)又佛為授記。却後作佛號淨身(闍王受決經)又垂裕記。闍王未受果而求懺。令無量人發菩提心。有能熟思此等文意。則知智者之於煬帝鑑之深矣。故智者自云。我與晉王深有緣契。今觀其始則護廬山主玉泉終則創國清保龕壟。而章安結集十年送供。以是比知則煬帝之事。亦應有前因現逆二者之義。孤山云。菩薩住首楞嚴定者。或現無道。所以為百王之監也(事見智者本紀)。

潞州刺史辛彥之立十五層浮圖。州人張元暴死。復蘇云。神遊天上見一堂極崇麗。天人曰。幸刺史有大功德。作此堂以俟之。

十二年。二祖慧可禪師先傳法於舒州僧粲。以是年往管城

正救寺說法。有和法師先於寺講涅槃。學徒稍稍引去聽法。和不勝憤。乃謗于邑宰。加以非法。師怡然委順。壽一百七。先謂粲曰。吾有宿累今當償之○十二月。智者禪師至荊州玉泉山安禪七日。感關王父子神力開基造寺乞授五戒。師入居玉泉。道俗稟戒聽講者至五千人(蜀先主將關羽。詳見智者本紀)。

十三年。帝幸岐州蒐于南山(音搜春獵曰蒐)逐獸入古窰中。忽失所在。但見滿窰損佛像。沙門曇遷曰。比周武毀法故聖像多委溝壑。帝乃下詔。諸有佛像碎身遺影者。所在官檢送寺莊嚴○四月智者於玉泉說法華玄義。章安頂法師預聽○七月賜智者玉泉寺額。

十四年。詔建禪定寺名曇遷法師集海內名德百二十人以居之○智者於玉泉說摩訶止觀。聽眾千人。章安預聽○冬十

月。智者過岳州為刺史王宣武授戒法。沙門曇捷等請講金光明經。其俗聞法感化一郡五縣一千餘所。咸舍漁捕。

十五年真觀法師(智者門人)於杭州虎林山建天竺寺(唐時改虎為武)○二月晉王遣使迎智者。至揚州禪眾寺。上所著淨名義疏。九月辭歸天台○北天竺闍那崛多。於大興善寺譯佛本行經等三十三部。翻經學士費長房等筆受。

十六年齊州靈巖寺釋道相暴亡。至冥府見勢至菩薩。將觀僧獄。有榜云。眾僧遣法迥向京師請靈巖寺額。將絹百疋驢兩頭。至京逢通事舍人。是靈巖檀越。為奏得額不費一錢。迥自思此額因我而得。應銷三十疋絹。乃市絲布香藥等物。私用入己。當入梁壓地獄。迥聞即首服陪還。又一榜云。人盜僧林杏樹。截作梳材。寺僧道郭拾得殘木一截。仍堪作梳。直八十錢。當墮火燒地獄。郭聞說即時承

還。又榜云。沙彌道弘為眾作餽飩先盜食一鉢。當墮鐵丸地獄。弘數年口瘡。乃為眾設一供。如此三十餘人。道相七日內。十三度死。見菩薩指示罪相。以語諸人。即各陪償。獄榜隨滅(僧鏡錄)。

十七年。翻經學士費長房。進開皇三寶錄十五卷。長房先為沙門。周武沙汰反俗。隋興入預譯經○十月晉王遣使迎智者。師至石城。乃稱有疾。謂門人智越曰。大王欲使吾來。吾不負言。吾知命在此。故不須進。乃右脇西向專念彌陀。至十一月二十四日為眾說法即入三昧。門人奉靈龕歸佛隴。藏之西南峯。

十八年。故智者弟子僧使灌頂普明。奉遺書及淨名義疏至揚州。王答書。所囑天台造寺。今遣司馬王弘一遵指畫。

二十年。立晉王為皇太子。勅天下名藩有毀佛天尊像者。以大逆不道論。

仁壽元年。詔天下名藩建靈塔。遣沙門淨業真玉等分送舍利。奉藏諸郡百十一塔。靈瑞之跡遍見僧傳(南山撰唐高僧傳)○南天竺三藏達磨笈多(此云法密)北天竺闍那崛多(此云至德)於大興善寺重譯法華為八卷。名曰添品○十月天台僧使灌頂智瓌。至京師奉啟謝皇太子造寺。

二年。西天竺沙門闍提斯那來上言。天竺獲石碑說。東方震旦國名大隋。城名大興。王名堅意。建立三寶。三年。洛陽龍門王通詣闕獻太平十二策。上不能用。歸而教授河汾之間。續六經以見志。子曰。吾續書以存漢晉之實。以漢統天下除殘穢與民更始。起漢高止晉武(凡百五十篇)。

吾修元經以斷南北之疑。以天下無賞罰三百載矣。故始晉惠訖隋開皇。寓褒貶以代賞罰(春秋義包五始故。今別名元經。凡五十篇。元經紀年書帝春正月。起晉惠至東晉。宋繼魏孝文。元和元年以能遷都洛陽。得中國以及於周隋。故皆稱正統。以齊梁陳同四夷也。南北二史。夷虜相稱。今明正統以斷其疑也)續詩以辨晉宋後魏齊周隋六代之俗(凡三百六十篇)正禮樂以旌後王之失(禮論二十五篇。樂論二十篇。後王不合周公制作者。則論而正之)贊易道以申先王之旨(贊易七十篇。申明孔子十翼之旨意)世稱王氏六經(阮逸序中說謂。房杜諸公不能臻師之美。故續經不振)朝廷三徵皆不至。卒於家。門人謚曰文中子。房玄齡。杜如晦。魏徵。李靖。溫彥博。竇威。杜淹。溫大雅。陳叔達。王珪。皆北面受道。為世卿相弟子薛收等。集對問之言。名曰中說。其言三才五常之道。天人性命之際備矣(阮逸序曰。大哉中之為義。在易為二五。在春秋為權衡。在

書為皇極。在禮為中庸)文中子曰。詩書盛而秦世滅。非仲尼之罪也。虛玄長而晉室亂。非老莊之罪也。齋戒修而梁國亡。非釋迦之罪也。或問佛。子曰。聖人也。曰其教如何。曰西方之教也。守國則泥(乃訂反不通也)子讀讜議曰。三教於是乎可一矣(子之祖獻公述皇極讜議。謂洪範五皇極義貴中道。人位天地之中。則知教雖有三。人即一也)或問長生神仙之道。子曰。仁義不修。孝悌不立。奚為長生。

煬帝(廣文帝次子。諡法逆天虐民曰煬。左傳魯煬公。隋諡陳後主曰煬。今亦諡煬。如有報也。廣韻余尚反。暴也)

大業元年九月。帝幸揚州天台僧使智瓌。詣行在所。引對大牙殿。勅為天台寺立名。智瓌啟曰。昔陳世有定光禪師。遷神之後夢其靈曰。汝欲造寺未是其時。若三國為

一。當有大力勢人為之造寺。寺若成國即清。宜名國清寺。上曰。此先師靈瑞也。即用為名。乃遣通事舍人盧正方。奉安寺額。勅祕書監柳顧言。為智者造碑。立之寺門。十一月二十四忌辰。設千僧齋。有司案名滿足千數。臨齋受嚩數溢一人(梵語達嚩。此云施財。今人誤書嚩字者非)咸謂智者化身來受國供。是日午後使者大眾開視靈龕。唯空床虛帳而已(相傳玉泉藏殿一日推輪。關王附人語曰。我師肉身在此。不得動飛輪其上。自是知關王神力。自天台移藏此地)。

二年。詔沙門道士致敬王者。沙門明瞻等抗詔不從。帝詰之。對曰。陛下若使準制罷道。則不敢不奉。如知大法可崇。則法服之下僧無敬俗之典。帝默然而止○三祖僧粲禪師亡。師初以白衣謁可禪師。既傳法授衣。屬周武廢教。往來司空山積十餘年。隋開皇初居皖公山(戶版反在舒州)

傳法於沙彌道信。優遊江國。以是年復還舊止。為眾說法儼立而逝。塔于山谷寺○相州沙門道明亡。同房僧玄緒暮行野間。忽見伽藍。往投之。遇道明不異平生。引緒至房。緒私怪之。至後夜明起謂緒曰。此非常處謹莫過堂。去緒潛往見。維那唱施粥。皆作血色。行粥遍諸僧。舉身火然。如一食久。維那打靜無復苦相。緒懼還所止。明至緒問之。答曰。此是地獄。吾為取僧一束柴煮染。忘不陪償。當一年然足受罪。褰衣見膝下並焦黑。因曰。公幸為我買柴百束陪還常住。并寫法華經一部。可得免苦。緒許之。歸寺依言為辦。重往尋寺寂無所見(僧鏡錄)。

三年正月。詔天下州郡七日行道。總度千僧。上親製願文曰。菩薩戒弟子皇帝楊總持。稽首和南十方諸佛。願以度人出家功德。普為有頂無間(天宮地獄)清淨罪垢同至菩提(云云)。

四年。

五年。詔天下僧徒無德業者。並令罷道。寺院準僧量留。餘並毀折。廬山福林大志禪師(智者門人)素服哭於佛前三日。誓舍身明道。乃詣東都上表曰。願陛下興隆三寶。貧道當然臂以報國恩。上敬而許之。遂以布蠟纏升大棚端坐。度火然之。焚畢入定。七日加趺而終。自是詔下而不行。

九年。詔改天下寺曰道場○帝幸維揚。召神僧法喜入見。一日遶宮中索羊頭。帝惡之。以付廷尉。禁衛甚嚴。而有司見其日勾於市。上命案之。見袈裟覆黃金鎖骨。詔以香泥塑其形。是夕泥像起行。言笑如故。上異之。詔釋其禁。未幾示疾而終。葬之香山。後數歲自海南歸者。見師

殊無恙。發其冢視之。唯空棺焉。及煬帝遇害江都。方悟索羊頭之先識。

恭帝(侑煬帝子)

義寧元年。五祖章安灌頂禪師。於天台國清寺。為智威禪師說止觀心要。

唐(都長安)

高祖(李淵受隋禪)

武德元年。詔為太祖已下造栴檀等身佛三軀。以沙門景輝嘗記帝當承天命為立勝業寺。以沙門曇獻於隋末設粥救饑民。為立慈悲寺。以義師起於太原。為立太原寺。又詔并

州立義興寺。以旌起義方之功。

二年。詔依佛制。正五九月及月十齋日。不得行刑屠釣。永為國式。

三年。

四年。釋智巖初仕隋為虎賁中郎將。每於弓首挂漉水囊不飲蟲水。至是棄官入皖山學道。見異僧丈餘謂之曰。卿已八十一生出家矣。同軍閭丘胤至山尋之。見山崖峻立鳥獸悲鳴。謂師曰。郎將狂耶。何為住此。答曰。我狂欲醒。君狂正發。同軍嗟歎而退。

六年。濩澤縣李錄事亡。常往餘法師所聽講維摩。共人言議。師問之曰。今講此經感何人聽。答曰。自人頭已上便

是鬼神。上及諸天重級充滿。然見諸天聞法師酒氣。皆回面而聽。餘即悔過不復飲。鬼又曰。非唯此會獨感諸天。但有法事無不來降○勅沙門玄奘三藏住大莊嚴寺。

七年。上幸國學釋奠。命博士徐曠講孝經。沙門慧乘講心經。道士劉進善講老子。博士陸德明(本名元朗)隨方立義。遍析其要。帝說曰。三人者誠辯矣。然德明一舉輒蔽。

八年。太史令博奕上疏曰。佛在西域言祇路遠。漢譯胡書恣其假託。使不忠不孝削髮而揖君親。遊手竊食。易服以逃租賦。夫生死壽夭出於自然。刑德威福關於人主。而愚僧矯詐。皆云由佛。竊人主之權。擅造化之力。其為害政良可悲歎。書奏不報。

鎧菴曰。傳奕以小人之資。一旦上書。謗佛毀教。當時群臣。皆所不取。獨高祖。薄信迷其說。今觀傳奕之疏。汰出世間。不過謂遊手竊食。苟避征徭而已。應以警昏俗。窮性命之旨。以敷慈化。以贊理天下。明善惡之大效。其與儒家者流。將並行之。不悖。豈當以征夫徭卒之賤。而望之者哉。或曰。學佛之士。多自農出。反而止之。所以厚農俗也。不然。今夫田家之子。致身科第者。豈得而止之耶。矧夫佛道多容。不問愚智。若指其庸鄙。以蔽諸賢俊。比子厚。誚退之。忿其外而違其中。是知石為者。不知韞玉也。今名為儒。而資小人者。固多矣。未聞以為者。不善而遽欲廢周孔之教。然則出家而庸鄙者。人材之未至。非佛道之咎也。

九年。傳奕七上疏。請除佛法。帝以其疏付群臣雜議。大臣皆曰。佛法興自屢朝。弘善遏惡。冥助國家。理無棄廢。宰

相蕭瑀(後梁明帝之子)曰佛聖人也。而奕非之。非聖人者。無法當治其罪。奕曰。人之大倫莫如君父。佛以世嫡而畔其父。以匹夫而抗天子。蕭瑀不生於空桑。乃遵無父之教。非孝者無親。瑀之謂矣。瑀合掌謂之曰。地獄正為此入設(瑀音禹見舊唐史)帝一日問群臣曰。傳奕每言佛教無用卿等如何。左僕射裴寂曰。陛下昔創義師。志憑三寶言登九五。誓啟玄門。今六合歸仁富有四海。而欲納奕言。豈不虧往德而彰今過乎。帝復以疏。頒示諸僧。問出家於國何益。沙門法琳撰破邪論。謂佛教徹萬法之源。而孔老立言時域中之治。凡出家者。守志明道弘善興福。啟迪昏蒙利國非淺。時秦王府記室虞世南。為序以贊之。明概法師作決對論。責奕謗佛僧八事。有秦王府典儀李師政。述內德論云。勸善進德之廣。六經所未逮戒惡防患之深。九流莫之比。但窮神知化。其言宏大而可驚。去惑絕塵。厥軌清邈而難蹈。夫能事未興於上古。聖人開務於後

世。故棟宇易檜巢之居。文字代結繩之政。飲血茹毛之
饌。則先用而未珍。火化粒食之功。雖後作而非弊。豈得
以詩書早播而可隆。貝經晚至而宜替。又死生無窮之緣。
報應不朽之說。釋氏之所明。黃老之未喻也。又慧乘以辨
正論。十喻九箴。破道士十異九迷之謬。上覽諸沙門論議。
寤奕譽道毀佛。遂有兼汰二教之意○五月下詔。以沙門道
士苟避征徭不守戒律而寺觀隣接廛邸溷雜屠酤非所以為垂
教。其僧道戒行虧闕者。並令罷道。精勤練行者。並就大
寺觀居止供給衣食。京師留寺三所觀一所。諸州各留一
所。餘皆罷之○六月庚申。皇太子建成齊王元吉。謀不利
於秦王。秦王世民討殺之。以秦王為皇太子。癸亥大赦天
下。停前沙汰僧道詔○八月詔傳位於皇太子。既即位。嘗
問傅奕曰。佛道微妙聖迹可師。且報應之事顯然。卿獨不
悟其理何耶。對曰。佛乃西方之桀黠無補國家。臣非不悟
鄙不學也。帝深惡其言(云云)。後傅奕得惡病。遍身糜爛

號叫而死。少府監馮長命夢至冥府。多見先亡。因問傅奕毀佛惡病而死今受何報。答曰。已聞付越州為泥犁矣。當時識者。謂是泥犁地獄也(苦報記)。

太宗(世民高祖次子)

正觀元年正月。詔京城德行沙門。並令入內殿行道七日。度天下僧尼三千人。詔以皇家舊宅通義宮為興聖寺○詔沙門光智。於大興善寺譯寶星經等五部。左僕射房元齡等監護。

二年三月。詔曰。朕自創義以來。手所誅剪將及千人。可皆建齋行道竭誠禮懺。冀三途之難因斯得脫。

述曰。或謂太宗手自誅殺。真忍人也。殊不知隋為不道。

天將興唐。太宗方間關於軍伍之中。當梗化害政。適在目擊。不亟剪去則有妨於機事。奉天命以除殘賊。非如桀紂無辜殺人貫盈罪惡之比。天下既定仁心自存。唯知佛法可為拯濟。建齋行懺惠及幽關。蓋所以拔沈苦以遂有生。真仁恕之君也。

五月。勅先朝忌辰並於章敬寺設齋行香。永為定式○七月。詔京城諸郡僧道。七日七夜轉經行道。為民祈福以保秋成。每歲正月七月視此為式。

三年正月。詔京城沙門。每月二十七日行道轉仁王經。為國祈福官給齋供○三月。詔密州師淨禪師至京祈雨。師結齋坐禪。感天西北白虹晝見。大雨通濟○八月。沙門玄奘上表。乞往天竺求經○十二月詔曰。有隋失道九服沸騰。朕親總元戎致茲明罰。可於建義以來交兵之處。凡義士凶

徒隕身戎陳者。各建寺剎招延勝侶。樹立福田濟其營魄(老子載營魄注魂魄也。廬山集。心法者。神明之營魄也。)以稱朕矜閔之意(已上並見。唐舊史歐陽新書刪去不存)四年正月。敕上宮繡釋迦佛丈六像。奉安勝光寺設千僧齋○五月戰場建寺成。勅群臣撰碑。破劉武周於汾州。立弘濟寺。李百藥撰。破宋老生於莒州。立普濟寺。許敬宗撰。破薛舉於豳州。立昭仁寺。朱子奢撰。破宋金剛於晉州。立慈雲寺。褚遂良撰。破王世充於邙山。立昭覺寺。虞世南撰。破竇建德於汎水。立等慈寺。顏師古撰。破劉黑闥於洛州。立昭福寺。岑文本撰。是歲天下大稔。米斗三錢。外戶不閉。行旅不齎糧。斷刑纔二十九人。天下大治。帝謂群臣曰。此魏徵勸朕行仁義。既效矣。因追念初平天下手誅千餘人。不值太平即以御服施諸寺命僧行懺(事見舊史。歐陽新書並刪去之)。

鎧菴曰。君舉必書。故曰史。史者所以記當時失得之迹也。以故惡如弑君必書。醜如蒸母必書。豈以其醜惡而不之記耶。是知修史者不沒其當時善惡之事。斯可為信史也。昔范曄著漢書。西域傳始論佛法。陳壽志三國。則忽而不錄。唐太宗修晉書。於沙門高行時有所取。魏收於北史著佛老志。李延壽於南史作顧歡傳。凡帝王公卿毀讚佛老者。莫不悉載。其於二教之偏正優劣。當年今日未嘗不明識所歸。歐陽氏之修唐書五代史也。於佛老之事則刪之。夫唐書唐家之正史。非歐陽之私書也。借使不足法。論之可也。豈當以己所不好而悉刪之耶。是知無通識者。不足以當修史之任也。夫佛法之取舍。大較係乎人之好惡。韓歐司馬始不好佛。遇事立言。必有詆訶。及退之問道於大顛。永叔聞法於圓通。君實廣文中子之言。而作禪頌。言為百世師。行為天下法。為賢為大聖。是名佛菩薩(禪頌六章見司馬公文集)是三賢者。始惡而終好之。惜乎

聞道之晚。而其先出之言莫可收也。吁佛法之取舍。果在於人之好惡。可不審乎哉。

五年正月。詔僧尼道士致敬父母(正觀政要)○詔以慶善宮為穆太后建慈德寺。為皇太子承乾建普光寺。勅沙門法常居之。為太子授菩薩戒○十一月。化度寺僧邕禪師亡。上敬悼賜帛。勅右庶子李百藥撰碑。更令歐陽詢書(今有收石本者。文字殘闕。藏以為寶)初波斯國蘇魯支立末尼火祆教(祆火煙反。胡神。即外道梵志也)勅於京師建大秦寺(波斯國在西海此云大秦)。

六年。詔以東都(洛陽)龍潛舊宅為天宮寺○詔杜順和上入見。錫號帝心○八月七日章安禪師示寂于國清。異香滿室。

七年。中天竺三藏明友來譯大乘莊嚴論。李百藥序之云。云。致。拾。無。寒。山。笑。清。殊。豐。干。米。火。我。翹。大。小。乘。學。悉。以。此。子。禪。師。者。隱。居。天。台。路。側。得。之。可。收。菜。滓。罵。輒。從。天。台。國。師。寒。山。文。殊。遁。迹。國。清。道。翹。引。至。空。房。多。見。虎。迹。云。得。引。至。竈。前。見。二。人。向。火。禮。翹。院。僧。道。夜。則。唱。歌。自。樂。又。問。寒。山。拾。得。豐。干。饒。舌。彌。陀。不。識。乃。令。道。翹。眾。笑。胤。前。禮。拜。二。人。喝。胤。走。向。寒。巖。更。不。返。寺。胤。乃。傳。於。世。云。何。為。二。人。即。把。手。而。笑。之。上。錄。歌。詩。三。百。餘。首。傳。於。世。云。

八年。詔為穆太后建弘福寺。車駕親臨自開佛眼○尚書虞世南立疏曰。弟子早年忽遇重患。當時運心差愈之日奉設千人齋。今謹於道場供千僧蔬會。以斯願力希生生世世常無疾惱。七世久遠六道怨親。並同今願(法帖)○勅普光寺常法師入內殿。為皇后授戒○萊州奏。高麗三國僧(與新羅百濟為三國)願入中國學佛法。欲覘虛實耳。魏徵曰。陛下所為善足為夷狄法。所為不善。雖距夷狄。何益於國。詔許之。

九年十月。玄琬法師終於延興寺。遺表有云。聖帝方尊事三寶。不應使沙門與百姓同科。乞令僧有過者。並付所屬以內律治之。帝嘉納焉。乃遣皇太子臨弔。勅有司給葬具(敕葬沙門自琬師始)○十一月。詔曰。比緣喪亂僧徒減少。華臺寶塔窺戶無人。其令天下度僧尼三千人。有司詳

定。務取德業精明者以聞。僧徒有假託醫巫左道惑眾。造詣官曹屬致贓賄者。朕在情持護必無寬貸諸犯過者。宜令所司依準內律明為條制○詔曰。老子李姓。是朕之祖。名位稱號宜在佛先。沙門智實法琳等詣闕申理。詔不許。駕幸洛陽。實等復抗辭固爭以道士雖冒宗老子其實遵三張符水醮籙之事(後漢張陵父子。教民悔過。今輸米五斗。其後有張修張角。效其法用符水以治病。故世稱五斗米道)不宜居釋氏上。勅宰相岑文本諭旨。實等固不奉詔。帝怒杖實於朝堂。民其服流之嶺表而終。有譏其不量進退者。實曰。吾固知已行之詔不復回。所以力爭者。使後世知有僧耳。聞者愧服。

十二年。尚書虞世南既卒。上夢見之。因詔曰。世南德行純備志存忠益。奄從物化。良用悲傷。昨因夜夢倏覩斯人。兼進讜言。有若平生之舊。可即其家造五百僧齋佛像

一軀。以資冥福。以申朕思舊之意(舊唐史)。

十三年。詔國子祭酒孔穎達·沙門慧淨·道士蔡晃。入弘文殿談論三教。淨講法華。蔡晃問曰。經稱序品第一。未審序第何分。淨曰。如來入定放光雨華。為破二之洪基。作明一之由漸。故曰序也。第者為居。一者為始。序最居先。故稱第一。晃曰。師言不出脣何所可領。師曰。菩薩說法聲震十方。道士在座如迷如醉。晃曰。野干說法何由可聞。淨曰。天宮嚴衛理絕狐蹤。道士神昏謂人為畜。天情大說合座歡踊○方士秦世英譖法琳所著破邪論訕毀皇帝。勅流益州而亡○有西域僧來善呪術。令人死復蘇。帝令呪飛騎皆驗。傅奕曰。此邪術也。請使呪臣呪之無所覺。僧忽仆地。若為物所擊者。遂不復蘇。又有婆羅門僧得佛齒。所擊前無堅物。奕謂其子曰。吾聞金剛石者。唯羚羊角能破之。汝往試焉。及往見齒出角扣之。應手而

碎。

述曰。夫呪以中道為體。持善遮惡為用。此大聖祕密化物之法。而持是法者必惟其人。故蘇婆呼童子等經云。諸呪皆有部主明王諸威德鬼神以為之護(部主如釋迦佛及觀音菩薩。明王即持明仙王。威德神即金剛神藥叉將。諸護呪神)然明王部主。慈悲覆護於彼呪師。不見其過。至於諸惡毒鬼。見有為利養詐解持誦者。見彼癡人繆執金剛杵。便生嗔怒。即害彼命(云云)。今觀西僧不知持善遮惡之義。而欲以區區呪術遠來東土呪死為功邀名人主。有利欲之心無沙門之行。是宜護呪鬼神乘怒以斃之耳。呪騎兵死。呪傳奕不死。奕小人謗法。罪在泥犁。非奕能拒呪也。此事至祕。唯探索呪部者能知之。佛舍利齒骨一切物不能壞。彼婆羅門所携之齒。恐非佛真。用羚羊角以碎之。或金剛石偽為之物。雖足以成傳奕博物之名而終不能知吾佛金剛不壞

之體。世好黨奕而不知義故為辨之。庶幾乎免謗法之罪而救淪墜之苦也。

詔曰。遺教經者。是佛臨涅槃時所說。誠勅弟子甚為詳要。末俗縉素。不知崇奉永懷聖教用思弘闡。宜令有司多寫經本付京官刺史各一卷。若見僧尼業行與經不同者。公私勸勉必使遵行(文館詞林)。

述曰。太宗知務僧之本在於遺教。故能戒有司寫經本令公私相勸。俾免於過。其有得於仁王護法之心也。

十月。杜順和上坐亡於義善寺。有弟子詣五臺禮文殊。方抵山麓見老人。語之曰。文殊今在終南山。杜順和上是也。弟子趨歸。師已長往。

十五年。善導法師至西河見綽禪師九品道場講誦觀經。喜曰。此入佛之津要也。修餘行業迂闊難成。唯此觀門速超生死。至京師擊發四部三十餘年。般舟行道。造彌陀經十萬餘卷。畫淨土變相三百餘壁。滿長安中並從其化。有終身誦彌陀經十萬至三五十萬卷。日課佛名一萬至十萬聲者。師念佛時有光明從口出。後高宗朝。賜寺名曰光明云。

十六年。上幸弘福寺為穆太后追福。自製疏稱皇帝菩薩戒弟子。謂寺主道懿曰。朕頃以老子是朕先宗故令居釋氏先。卿等能無憾乎。對曰。陛下尊祖宗降成式。詎敢有怨。上曰。佛老尊卑通人自鑑。豈一時在上即以為勝。朕宗自柱下。故先老子。凡有功德僉向釋門。往日所在戰場皆立佛寺。太原舊第亦以奉佛。初未嘗創立道觀。存心若此卿等應知。

十七年。蘄州黃梅四祖道信禪師。四徵不起。乃就賜珍繒
以旌其道○勅衛尉丞李義表黃水令王元策。使西域遊歷百
餘國。至毘離耶城東北維摩室。元策以手板量之。縱橫得
十笏因號方丈。復登耆闍崛山。刻碑紀唐威德○八月。原
州奏。昌松縣鴻池谷有五石。青質白文曰。高皇海出多
子。太平天子李世民。千年太子李治。七佛八菩薩。上果
佛田。天子文武。貞觀昌大。聖延四方(云云)。十一月。
遣使以玉帛詣鴻池谷祭謝靈貺(舊史在本紀。新書移入五行
志。案錄異記。涼州刺史李襲譽奏。昌松有瑞石自然成
文。凡一百十字。其略云。高皇海雨子。李九王八千。太
平天子李世王。千年太子治書。燕山人士同主尚王諤獎文
通千古大王。五王七王十王。鳳手才子武文貞觀昌大聖。
四方上下萬治忠孝為善。勅禮部郎中柳逞。馳驛檢覆。並
同所奏)。

述曰。高祖之順承天命也。以沙門景暉有預記。乃立像造寺建齋禁殺。遽遽然無敢後。一旦惑傳奕之妖言。遂欲以佛法為無用而沙汰之。既而內難卒發。詔已下而不行。太宗臨朝大弘斯化。鴻池瑞石識文昭然。觀其屢朝譯經列聖製序。建仁王之高座注般若之真乘。受戒講經問道聽法。鑄像建剎試經度人。斯皆天性與能起於宿稟。誠知此道有助國救世之功。為修身治心之法。故能與孔孟之學並行而不悖也。至言其歷代尊僧之禮。則於古為尤異。故崇其位則不使稱臣。重其德則加之爵秩。分亡物則悉依僧律。罰有過則唯稟內科。自非石識所謂七佛八菩薩之出應世間。焉能相繼崇尚之不絕乎。

十八年。岑文本為中書令。文本少時常念法華普門品。曾乘舟吳江。舟覆人盡死。文本沒水中。有人言。但念佛必

不死。既而隨波涌出至岸獲免。後於家設齋。一僧後去。謂之曰。天下方亂君幸不預災。終逢太平致富貴。言訖不見。及文本就齋。復於食椀得舍利二。

十九年正月。玄奘三藏自西天還。長安留守房玄齡。備釋部威儀。迎置弘福寺。是日有五色雲覆經像上。二月至洛陽。見上於儀鸞殿。問西域事迹。詔撰西域記。所歷百國山川風俗前史所未聞也。詔就弘福寺。同沙門道宣等翻譯。

二十年七月。奘法師表上新譯菩薩藏經顯揚聖教論等凡五部。請帝製序○詔法華智威禪師。補四大師朝散大夫。威前身是陳僕射徐陵。聽智者講經因立五願。一臨終正念。二不墜三途。三人中託生。四童真出家。五不墮流俗之僧。後生縉雲朱氏。年十八將納婦。路逢梵僧。謂之曰。

少年何意欲違昔誓。因示其五願。師聞已不復還家。即往國清。投章安為師。咨受心要。即證法華三昧。

二十二年。上幸坊州玉華宮。召奘法師。既至。上曰。朕在京苦熱。故就此山泉石之涼。憶見法師故遣相屈。此日所翻何經。奘曰。近譯彌勒瑜伽師地論。帝宣論親覽。謂侍臣曰。曰佛教廣大猶瞻天瞰海莫極高深。九流典籍猶汀滢方溟渤耳(滢音瑩汀滢小水也)世言三教齊致者。此妄談也。因勅有司寫新譯經論頒賜九道總管(時分天下為九道)御製大唐三藏聖教序。以冠其首(今時石本行。其文首云。蓋聞二儀有像顯覆載以含生。即此序也)詔皇太子撰菩薩藏經後序(二序具在藏經之前)上自是平章法義不輟於口。敬待法師親於家人。嘗問師曰。法門之益何所宜先。對曰。弘法須人度僧為最。帝說○九月詔京城諸郡。各度僧。每寺五人。凡度一萬七千人○十月車駕還京師。勅於北闕大

內紫微殿西建弘法院。命奘法師居之。選名德七人以從。晝則陪御談玄。暮則歸院翻譯。上令翻道德經為梵文以遺西竺。師曰。佛老二教其致大殊。安用佛言用通老義。且老子立義膚淺。五竺觀之適足見薄。遂止○四祖信禪師居破頭山。有老僧號栽松道者。請曰。法道可得聞乎。祖曰。汝老矣。使有所聞何能廣化。能再來吾尚可待。乃去行水邊。見周氏女浣衣。揖求寄宿歸而孕。父母逐之。日庸紡里中。夕宿眾館。及生一子棄水中。明日見泝流而上。氣盛體潔。遂舉之。常隨母乞食。見四祖於黃梅道中。祖語其母令出家。是為弘忍禪師。嗣居東山大行其道。眾館後為佛母寺。東禪有佛母冢(林間錄)四祖登廬山絕頂。望破頭山紫氣如蓋。下有白氣橫分六道。以問大眾。弘忍曰。莫是和上他後橫出一枝佛法否。祖曰。如是(傳燈)○十二月。皇太子為文德皇后建慈恩寺。擇京城大德五十人以居之。各度侍者六人。勅太常九部樂奉迎梵本

諸經瑞像舍利五十大德入寺。帝御安福門樓。執鑪致敬。

二十三年四月。上幸翠微宮。召獎法師陪從。上歎曰。與法師相見恨晚。未盡弘法之意。五月上崩。

高宗(治太宗第九子)

永徽元年。詔天宮慧威禪師補四大師朝散大夫。

二年九月。四祖信禪師安坐而逝。塔於東山黃梅寺。明年四月八日塔戶自開。儀相如生。門人不復敢閉○法華威禪師為天宮慧威禪師說止觀法門○常州安國寺沙門善伏。每為眾說法。嘗云。行慈不殺佛教之都門。若奉教而不能行。是猶講禮而為倨傲也。又嘗勸人修六道供。以人先亡者無越此途(高僧傳)。

三年奘法師。請於慈恩寺建浮圖。藏西天舍利經像○中天竺沙門無極高。至長安譯陀羅尼集經。時那提於慈恩寺譯經。地婆訶羅於弘福寺譯經。一時宣譯皆極其選。法門榮之。

四年。日本國遣沙門道照。入中國從奘法師傳法。

六年。初奘法師譯因明論。尚藥呂才作解頗毀之。法師慧立致書於左僕射于志寧。以斥呂才。太常博士柳宣劾才妄舉。有旨令公卿學士領才詣慈恩寺。就法師禮悔○罽賓國佛陀多羅。於白馬寺譯圓覺經○會稽永欣寺有異僧來。碧眸清瘦。自稱我即康僧會。言訖立化。寺眾驚異。乃漆其軀而事之。祈禱立應。顯慶元年正月。立代王弘為皇太子。勅為建僧齋五千員於慈恩寺○勅左僕射于志寧吏部尚

書來濟。兼譯經潤文使○三月。上御製大慈恩寺碑成。奘法師上表稱謝○五月。奘法師疾。上遣御藥蔣孝章療之。師因附奏二事。一者正觀以老子名位在佛先。曾面陳先帝。許從改正。二者永徽初。勅僧道有過情難知者。可同俗法推勘。邊遠官司動行枷杖虧辱法門。上曰。佛道名位事在先朝尚書平章若僧用俗法即遣停罷○十一月。武后生皇子。神光滿室。賜名佛光王(即中宗也)踰月。詔於奘法師寺出家落髮授歸戒(歸依三寶及授五戒)。

二年。勅建西明寺。大殿十三所樓臺廊廡四千區。詔道宣律師為上座。神泰法師為寺主。懷素為維那。宣律師居西明作續高僧傳三十卷。起梁天監訖唐正觀○勅僧道無得受父母尊長拜○金陵牛頭山法融禪師示寂。師得法於五祖。為牛頭第一世。應橫出一枝佛法之記○西天寶掌禪師坐亡於婺州浦江寺。計其壽一千七十二歲(當周威烈王十九年

生。在七國之時)。

三年。詔沙門義褒道士黃頤等入宮談論。道士李榮立本際義。往復數四。理屈語塞。帝令黃門引榮退席。賜褒帛以賞之○日本國遣沙門智通入中國求大乘法。

四年。詔僧道入合璧宮論議。法師會隱立五蘊義。神泰立九斷知義。道士李榮茫然不知。乃更立道生萬物義。法師慧立反覆詰之。榮語屈而退○詔以坊州玉華宮為寺。命奘法師居之。師譯大般若經。歷四年而成。凡六百卷。又般若心經及諸經論。共七十五部。

五年。詔迎岐州法門寺護國真身釋迦佛指骨。至洛陽大內供養。皇后施金函九重。命宣律師送還法門寺○西京勝光寺沙門孝贇。親姻往來。數以寺果啖之。未幾得嘔血之

疾。自云。每欲疾作。見赤衣使者。將往黑林中大風吹散肢節。頃之又引向臺觀上。一人儀容可畏。厲聲責之曰。何得以寺家果飼親姻。言已而失。贄懼即計直償眾僧。月餘乃免。

述曰。佛立禁戒。凡僧藍錢穀蔬果器具屋廬田山。是為十方僧眾常住之物。非己可得私用。苟掩以為私。雖四錢已上則便成盜罪。終不免淪墜之報。今於孝贄果啖親姻之責。表而出之。則於盜用錢穀盜伐林木之罪為可見矣。可不警之。

龍朔元年。王元策進西天所得佛頂舍利。

二年勅會昌沙門會蹟詣五臺山禮文殊真容。眾見金光滿殿。空聲讚云善哉○西蜀沙門會寧自南海附舶至訶陵國。

遇沙門智賢齋涅槃後分自師子國來。即與對譯成文二卷。

三年。中印度沙門福生。於慈恩寺譯莊嚴王經等三部。

麟德元年二月。奘法師令眾念彌勒佛。右脇而逝。是夕有白虹四道。貫井宿直慈恩寺塔。帝哭之慟。廢朝五日。顧左右曰。國寶永失可為痛心。勅用佛故事金棺銀槨。五詔褒恤葬於滻水之東。四方會葬者百萬人。

乾封元年。封岱嶽車駕幸亳謁老君。上尊號曰玄元皇帝。聖母曰先天太后。幸魯祠孔子追封太師。

二年十月三日。宣律師於終南山順寂。眾聞天人同聲請歸彌勒內院。嘗於淨業寺建石戒壇。為岳瀆沙門再受具戒。有長眉僧來謂之曰(即住世賓頭盧)昔迦葉佛曾此立壇。師

乃撰壇經。行於世。師初在西明寺。中夜行道足跌前階。有聖者扶其足。師問為誰。答曰。北天王太子那吒奉命來衛。師曰。太子威力自在。天竺有可作佛事。願為致之。太子乃以所寶佛牙授之。師夜捧行道。晝藏地穴。唯弟子文綱知之。又與天人廣問律相及西天聖迹。凡三千八百事。號天人感通傳。天人費氏曰。四王各有八將護出家人。北洲少有佛法。餘三洲佛法大弘。東西洲煩惱難化。南洲雖多犯罪。化令從善心易調伏。佛囑四天王若不護破戒。誰當行我之法故四王雖見毀禁。愍而護之。見行一善萬過不咎。

總章元年。詔百僚僧道會百福殿儀老子化胡經。沙門法明排眾而出曰。此經既無翻譯朝代。豈非偽造。舉眾愕然無能應者。乃勅令搜聚偽本悉從焚棄。

咸亨二年。沙門義淨。自南海附船。往西竺求經○西京法海寺神英禪師。獲吳僧義濟所藏梁武水陸齋儀。依法修設。感秦莊襄王張儀陳軫列國君臣見形致謝(詳見光顯志)。

三年。勅洛陽龍門山鐫石龕盧舍那佛像。高八十五尺○五祖弘忍禪師。以法傳行者慧能。能初至。祖問何來。答曰。嶺南。祖曰。欲須何事。曰唯求作佛。祖曰。嶺南人無佛性。曰人有南北。佛性豈然。祖異之謂曰。著槽廠去。乃入碓坊抱石而舂。經八月五祖俾眾各述一偈。若語意冥符則衣法皆付。時會下七百眾。神秀居第一座。於廊壁書偈曰。身是菩提樹。心如明鏡臺。時時勤拂拭。莫遣有塵埃。能聞之曰美則美矣。了則未了。至夜倩童子至壁間。書偈曰。菩提本非樹。明鏡亦非臺。本來無一物。何用拂塵埃。五祖知之。夜令人召能。告之曰。佛以正法眼

藏展轉傳授。吾今授汝。并所傳袈裟用以表信。能禮足捧衣而出。通夕南邁。時道明上座聞之追至大庾嶺。能即擲衣鉢於磐石。曰。此衣表信可力爭耶。任君將去。明舉之不動。乃曰。我來求法非為衣也。能曰。不思善不思惡。正恁麼時阿那个是明上座本來面目。明當下大悟。禮拜問曰。上來密語密意外還更有意旨否。能曰。我今說者即非密也。返照自己密在汝邊。明乃禮謝而回。

四年。詔萬回禪師入宮供養。萬回閩鄉人(扶云反在弘農湖縣)姓張。年方十歲。其兄萬年戍遼東。母程氏憶之。飯僧祈福裹齋餘出門際。晚持兄書歸。母方知其神異以往回萬里。人因呼為萬回哥哥。後剃髮著褐衣為沙門。

上元元年。召隱士孫思邈入見。拜諫議大夫。固辭。上問佛經以何為大。思邈曰。無若華嚴。上曰。近奘法師譯般

若六百卷。何不為大。思邈曰。華嚴法界是一切門。於一門中可演出大千經卷。般若乃華嚴中一門耳。於是帝始持華嚴。是歲思邈求還山。乃入終南隱居。篤志佛典。前後寫華嚴經七百五十部(此經是晉譯六十卷者。先生既長壽。若一年手書十部。則八十年中可足七百五十部矣)復舍華原舊居玉山宅為佛寺。年一百五十歲。盧照隣稱。邈高談正一則古之蒙莊子。深入不二則今之維摩詰(見華嚴感應傳及唐本傳)思邈居終南與宣律師善。時大旱。西域僧於昆明池結壇祈雨。七日水縮數尺。有老人夜詣師求救。自稱池中龍。師曰。可往求孫先生。老人至其室。思邈曰。吾聞昆明龍宮有仙方三十首。汝能傳之。吾當救汝。老人曰。此方上帝不許妄傳。今事急矣。俄捧方至前。思邈曰。汝還無慮。是池水漲溢。思邈著千金方三十卷。每卷置一方。世不得而別(酉陽雜俎)。

案湘山野錄云。國初成都有僧誦法華有功。一日山僕來請入溪嶺。見跨溪一閣。僕入報。出謂僧曰。先生請師誦經至寶塔品。先生野服藜杖。兩眉垂肩。焚香揖聽。而入設糲飯杞菊若甘露。嚙一鍰(音還。虞書其罰百鍰。一曰。金六兩為鍰○今言一鍰者且約百錢也)僕送至中途。問先生何姓名。僕曰姓孫。復於僧掌書思邈字。僧方嗟駭。僕忽不見。復回尋索三日竟迷路。歸視嚙乃金錢一百。由茲一鍰身輕無疾。唐史言百五十歲。野錄請。誦經時在國初則又三百年矣。

儀鳳元年。中印度沙門日照。至京師譯方廣大莊嚴經等十八部○初罽賓沙門佛陀波利。至五臺禮文殊。遇老人曰。此土人多造惡。佛頂尊勝呪為除罪祕方。可還西取經流傳。忽不見。波利遂還。至是取經來上。帝令杜行顗與日照共譯。留經於內波利泣曰。志在流布何得自祕。帝乃以

梵本還之。波利遂於西明寺與沙門順貞重譯畢。持梵本入五臺不復出○行者盧慧能至廣州法性寺值印宗禪師。為其落髮。請智光律師於本寺。臨壇授滿分戒。此壇是宋求那跋摩造。嘗記云。後當有肉身菩薩於此受戒。又梁真諦於壇側植二菩提樹。記云。百二十年後。有大士於此樹下說無上道。及師於此樹下大開東山法門。宛符先記。明年歸韶州曹溪寶林寺。

二年。初杜行顗所譯尊勝經。遇國韓皆避之。以世尊為聖尊。救治為救除(太宗諱世民高宗諱治)上曰。佛經之言豈當避諱。乃勅令改正○國清寺僧知瓌為直歲。將常住布十端與始豐縣丞李意及(天台縣在隋唐時為始豐)久而不還。瓌死作寺家奴。背有智瓌字。既而丞亦死。亦作寺家奴。背亦有李意及字(見冥祥記)。

述曰。今時勢家多以恩例冒占寺院。子弟幹僕並緣為姦取。寺山造冢。是陷父母於不義之地。而錢穀竹木。四時誅求視以為常。不思他日地獄酬償之苦。為儒為官。不幸而負此見識。以是教其子。以是責其僕。小得而大失。可不自警哉。李意及為寺家奴。特其報之輕者。今故表出之。以為好作重過者之戒。

三年。老君降於北邙山之清廟。勅道士隸宗正寺班在諸王之次。令貢舉人兼通老子道德經。

述曰。自有佛以來。世稱佛老。立文為次。吳闕澤稱道事天天事佛。隋李士謙論三教優劣。謂佛日道月儒五星。魏收撰北魏佛老志。皆先僧而後道。其義已定。太宗謂老子李姓是國之祖。遂令居佛上。違理失禮。豈老子意耶。太宗明君亦有時而愚乎。至高宗以道士隸宗正違理失禮其愚

尤甚焉厥後武宗尚道廢佛皆二君教其愚也。

調露元年。汾州啟福寺主惠澄染患。牛吼而終。寺僧長寧。夜見澄來形色顛顚云。為互用三寶物。受苦難言。諸罪差輕唯用伽藍物為至重願賜救濟。寧即為誦經懺罪。月餘復來云。承利益已得息苦。別居一處。但未知得脫之日。

述曰。為沙門而不明因果。私取常住之物以適己用。用者受者均被其苦。輕則為牛畜奴役。重則受鑊湯鑪炭。的論其報可不痛哉。至於權門要路。復不知果報之為何義。以故甘受愚僧之餌而不悟其非。占山為墳賣帖住院。若主若客皆入罪門。若此之流深足鄙恥。

永隆元年。沙門智運。於洛陽龍門山鐫石為一萬五千佛。

永淳元年十一月。慈恩法師窺基示寂。勅諸寺圖形以祀。師稟奘法師瑜伽師地唯識宗旨。號百部論主。世宗為慈恩教(奘師傳戒賢三時教一有二空三不有不空教)。

二年。西明寺沙門道世。宣律師之弟也。嘗以教藏淵博學者難觀。因撰法苑珠林一百卷。分門類事。覽者便之。

則天武后([顒/空]初入宮為才人。太宗崩。出為感業寺尼。高宗詣寺行香。是之納後宮拜昭儀。次年再為后。弘道元年高宗崩。皇太子即位。是為中宗。光宅元年。廢中宗為廬陵王。武后自聽政○[顒/空]照同。武后自製此字)

垂拱三年。南天竺三藏菩提流志來。

永昌元年。義淨三藏將梵本寄室利佛逝國。述南海寄歸傳。求法高僧傳。以是年回廣州。冬復往佛逝國○揚州白塔寺沙門道昶。掌知僧物自在侵用。忽有冥官數人。白日入房。曳昶下地。欲斷其頸。昶驚叫乞命。官厲聲言。合房資財並送還僧當放汝活。昶叩頭言。不敢違命。即聲鐘集眾。罄捨衣物。造像設齋。冥官三日復至。見昶一鉢一納。不言而去。昶自是進修。卒成明行。

載初元年。勅沙門法朗九人重譯大雲經。並封縣公賜紫袈裟銀龜袋(賜紫始此)。

二年。勅僧尼依舊立在道士女冠之上○勅荊州神秀禪師入京行道。歷三朝皆禮為國師(五祖旁出)○于闐國沙門天智。譯造像功德等六部。

如意元年。勅斷天下屠釣。

二年。天宮威禪師為左溪朗禪師說止觀法門○北印度沙門寶思惟。譯文殊一字呪經等七部。南印度沙門法希。譯寶雨經等十部○絳州二童女。依尼師出家。尼誦華嚴一日坐亡。二女失望。旦旦詣墳號泣。

三年。忽生蓮華五莖於土。郡以上聞。則天勅檢華根出自舌上。乃召二女入內。親為落髮令居天女寺○始令佛經製卍字。為如來吉祥萬德之所集。音之為萬(華嚴音義。作大周長壽者。蓋武后嘗改唐稱周。年號長壽。後改為如意)。

案翻譯名義引纂要云。如來胸臆有大人相。形如[𠂔*厶*厶]字。名吉祥海雲。又作禮。是吉祥勝德之相。由髮右旋而生似卍字。[𠂔*厶*厶]禮是西土字。卍卍萬方。是此土

字。同呼為萬。

延載元年。勅天下僧尼舊隸司賓(即鴻臚寺)今改隸祠部(以佛教有護國救人福解厄之)○波斯國人拂多誕(西海大秦國人)持二宗經偽教來朝。

述曰。太宗時。波斯穆護進火祆教。敕建大秦寺。武后時。波斯拂多誕進二宗經。厥後大歷間荊揚洪越等州各建摩尼寺。此魔教邪法。愚民易於漸染。由屢朝君臣當世名德不能簡邪正以別同異故。其法行於世。而弗禁虛。是蓋西土九十五外道之類歟○良渚曰。準國朝法令。諸以二宗經及非藏經所載不根經文傳習惑眾者。以左道論罪。二宗者。謂男女不嫁娶。互持不語。病不服藥。死則裸葬等。不根經文者。謂佛佛吐戀師。佛說啼淚。大小明王出世經。開元括地變文。齊天論。五來子曲之類。其法不茹葷

飲酒。晝寢夜興以香為信。陰相交結稱為善友。一旦郡邑
有小隙則憑狼作亂。如方臘呂昂輩是也。其說以天下禪人
但傳盧行者十二部假禪。若吾徒即是真禪。有云。菩提子
達磨。栽心地種透靈臺。或問。終何所歸。則曰。不生天
不入地。不求佛不涉餘途。直過之也。如此魔教。愚民皆
樂為之其徒。以不殺不飲不葷辛為至嚴。沙門有為行弗
謹。反遭其譏。出家守法不可自勉。

京師有女人。自稱聖菩薩。太后召見之。所言皆驗。時大
安禪師至。太后延入宮。令女見之。大安曰。聞汝善觀
心。我心安在。答曰。在塔頭相輪鈴中。尋復問之。曰在
兜率天彌勒宮中聽法。第三問之。曰在非非想天。皆如其
言。太后忻悅。大安乃復問之。女不知答。安斥之曰。我
心置阿羅漢地。汝已不知。若至菩薩諸佛地。何由可知。
女辭屈慚懼。變作牝狐。下階而走(廣異記)。

證聖元年。太后以晉譯華嚴處會未備。遣使往于闐國迎實叉難陀。於東都大遍空寺與菩提流志重譯(晉譯六十卷。七處八會。新譯八十卷。七處九會)。沙門復禮綴文。法藏筆受。弘景證義。成八十卷。御製經序。譯場初啟甘露天降。內沼生蓮一莖百葉(華嚴感應傳云。人間華十餘葉。天華百葉。淨土華千葉)。

萬歲通天元年。遣使賜六祖能禪師水精鉢摩納衣白[疊*毛]香茶勅韶州守臣安撫山門○洛陽弘道觀主杜義乞為僧。賜名玄嶷。賜夏三十臘。勅住佛授記寺。嶷撰甄正論以尊佛教。

述曰。佛制受戒以先後為次序。今玄嶷以新戒而居三十夏僧之上。雖曰國恩實違佛制。厥後劉總賜五十夏。梁令因

加三十臘。皆本於此日之非法也。

福先寺沙門慧澄。乞依前朝毀老子化胡經。勅秋官侍郎劉如睿八學士議之。皆言。漢隋諸書所載不當除削。

述曰。唐藝文志有八學士議狀一卷。雖據漢隋諸書存化胡之說。而不知王符偽造之為非。詳論在中宗神龍初元。

詔嵩岳慧安禪師。入禁中問道(五祖旁出)○詔沙彌法藏。於太原寺開華嚴宗旨。感白光昱然自口而出。須臾成蓋。都講以聞。有旨命京城十大德為授滿分戒。賜號賢首。詔入大遍空寺。佐實叉難陀。參譯華嚴。

聖歷元年五月。義淨三藏自西竺還。車駕御上東門迎勞。詔以所奉金剛座佛真容舍利梵經。置佛授記寺道場。集眾

翻譯。

二年十月。勅法藏法師。於佛授記寺講新譯華嚴經。至華藏世界品。講堂及地皆為震動。即日引對長生殿敷宣玄義。指殿隅金師子為譬。后豁然領解。封師為賢首菩薩戒師。集其言曰金師子章。學者尊稱為賢首教云○華陰鄧元英有親故暴亡。七日復蘇報元英。驚見冥道官吏將追君父。宜急修功德以禳之。元英驚問。修何功德可免此事。曰急寫華嚴經一部。元英遽買紙。向隣寺多召經生。未逾旬日經已寫畢。竟免斯厄。復於母墳地產一華於冬月枯莖中。后異之。勅賜立孝門。以加旌表。

久視元年四月。詔斂天下僧尼日一錢。作大像於白司馬坂(音反)○詔義淨三藏。於東都譯金光明最勝王經。天后製聖教序。

大足元年。成州言。有佛跡見甚大。詔改號大足。

佛祖統紀卷第三十九(終)

○勅潤州於茅山置太平觀。以奉真人王遠知。初遠知母夢靈鳳翔集遂有娠。誌公曰。生子當為神仙宗伯。後師事陶隱居。授三洞法。高祖龍潛。先生密告符命。秦王與房玄齡微服就謁。先生謂之曰。方作太平天子願自保愛。

十一月初武德舊制釋奠於太學。以周公為先聖。孔子為先師陪饗。至是房元齡等建議。請停祭周公。以孔子為先聖。顏子為先師陪饗。詔可。復封孔子後為褒聖侯。

十四年。上幸國子監觀釋奠。命祭酒孔穎達(孔子之後)講孝經。大徵名儒為學官。學生能明一經者皆得補授。增築學舍千二百間。學生至三千二百六十員。自屯營飛騎亦給博士使授以經。於是四方學者高麗吐蕃皆遣子弟入學。升講筵者八千人。上以師說多門命孔穎達撰定五經疏。令學者習焉。

述曰。漢明帝幸辟雍。諸儒執經問難。搢紳之人闐橋門而觀。聽者以億萬計。唐太宗幸國子監。命祭酒講經。增學舍召名儒為學官。四方來學升講筵者八千人。大哉漢唐文治之盛。唯二君有焉。

二十一年。上得祕讖云。唐三世之後。女主武王代有天下。遂密召太史令李淳風訪其事。淳風曰。臣以術推之。其兆已成。今在陛下宮中逾三十年當有天下。上曰疑似者

殺之。對曰。天命不可易。且真王者不死。徒使疑似之戮。淫及無辜。上遂止○詔左丘明·孟軻·穀梁·赤公羊·高伏勝·毛萇·高堂生·孔安國·戴聖·劉向·何休·鄭眾·馬融·盧植·鄭玄·服虔·杜子春·范甯·杜預·王肅·王弼。二十一人。皆從祀先聖廟廷。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之七

中宗(顯高宗第七子)

神龍元年。詔韶州慧能禪師入京不就○詔天下試經度人。山陰靈隱僧童大義。年十二誦法華經。試中第一。義學止觀于左溪。臨終坐亡。天樂來迎○勅遣使迎韶州慧能禪師入京行道。師表辭以疾因就賜袈裟瓶鉢。以諭主上嚮慕之意○詔義淨三藏。於內道場譯孔雀呪王經。御製聖教序以

冠經首。上昔居房部。祈念藥師如來。遂蒙降祉。因命師
譯藥師七佛經。上自筆受。師譯經凡五十六部○中書門下
平章事房融貶高州。至南海遇印度沙門般刺密諦。遂止制
止寺。譯大佛頂首楞嚴經。融為筆受○九月祀明堂大赦。
詔曰。如聞道觀皆畫化胡成佛之相。諸寺亦畫老君之形。
兩教尊容互有毀辱。深為不然。自今並須毀除。其化胡經
屢朝禁斷。今後有留此偽經。及諸記錄有言化胡者。並與
削除。違者準勅科罪。弘道觀者。桓彥道表留化胡經。勅
曰。朕志在還淳情存去偽。頃以萬幾之暇尋三教。道德二
篇之說。空有二諦之談。莫不敷暢玄門闡揚妙理。何假化
胡之偽。方盛老子之宗。義有乖違。事須除削。

述曰。永嘉謝守灝。述老君實錄。引諸書言。老子數數下
生。商高宗時生於亳州。乘鹿升天(一也)商紂時降於岐
山。至周武王為柱史。昭王二十二年。度關授尹令道德

經。西遊不反(二也)昭王二十五年。復降於蜀李本官家。二十七年。與尹子會于成都青羊肆。往西域化胡。於于闐國升天(三也。已上並實錄引。守灝孝宗時人。林靈素舊徒也)史記定王三年生於楚苦縣。為柱下史。孔子朝周問禮。敬王元年入關。為尹令說道德五千言與尹子。西之流沙(四也)此前後降生事跡不可言無。昭定兩時皆說為尹令說道德經。若取孔子同時則且以後文為正議曰。駁化胡之偽有九說焉。史記老子傳。著書五千言而去。莫知所終。本傳注引列仙傳云。尹喜老子俱之流沙。莫知所終。今刊行列仙傳。乃於流沙下增化胡二字。一繆也。尹子作老子西昇經云。聞竺乾有古皇先生。吾之師也。今實錄不欲師佛。乃改為吾之身也。二繆也。化胡經說。老子至罽賓化胡剃髮。當昭王二十七年。是時佛生方二歲。世間未聞有佛。不應罽賓有剃髮事。三繆也。偽經又言。老君勅尹子化丈六金身。名曰佛陀。為胡王授五戒。本云化胡。今乃化尹

子成佛。四繆也。偽經言。浮圖寂滅永為陰靈。神仙飛升
長生不滅。本云化胡成佛。不應讚仙毀佛。五繆也。偽經自
言。老君命梵天煩陀王。以二莊時下生為佛。釋迦本降。自
兜率天。當昭王甲寅歲。既無煩陀賓頭盧善女天九十五種
六繆也。偽經言。尹子化舍利弗。不應云尹子所化。造偽經者。
等。此諸人自是釋迦弟子。七繆也。實錄妄謂。弟子守佛冢者
亦不知舍利弗為何義。七繆也。實錄妄謂。弟子守佛冢者
為喪門。羅什改作桑門沙門。老君遣北斗降魔。故稱穢迹
金剛。又謂。仙道為教外別傳。此皆假竊佛經妄立議論。
八繆也。實錄不識佛壽長遠。見光明經壽命短促。方八十
年。不知何義。便取此言譏佛滅之速。九繆也。老子下為
法師上為天主。一切諸天無不事佛。今道家雖欲尊道重
天。而立論失理。反成謗佛之咎。可不畏哉。昔王符偽造
此經。死墮地獄。閻王訶云。世間偽經毀盡汝罪。方脫。今
人撰實錄者。方盛引偽文。甘與王符同一受罪。可不悲哉

(偽經諸說。略見所引。更不別錄)北朝魏孝明。唐高宗中宗。屢朝毀除顯是偽說。獨武后朝八學士議不能區別。尚須細評。故世欲存老子化胡者。當作二說。一審其時。二據其文。何謂審其時。須知佛生於昭王時。老子生於定王時。至景王時孔子朝周問禮於老子。此時在佛後三伯年。可言有佛可言化胡。何謂據其文。列仙傳云。老子尹子俱之流沙(古本無化胡字)漢襄楷傳云。老子入夷狄為浮圖之化。晉高士傳。魏典略。西戎傳。皆言。老子化戎俗為浮圖。隋史。西域傳。魏宋雲西行記。唐太子實錄。皆言于闐有毘摩寺是老子化胡處。唐則天時。沙門慧澄乞毀化胡經。勅劉如睿八學士各為議狀。皆言漢隋諸書所載。化胡是實。不當除削。今詳諸書。言老子入西域止在于闐葱嶺之東。正是胡鄉無可疑者。若欲實其事。則當為之語。曰老子本迦葉尊者。釋迦遣化東土。先說世間道德五千言。以熟機緣(義見大藏冢墓因緣經并輔行)後反西域。以佛道

勸化胡俗令成佛道。如此言之方為合理。昔王符據諸書造經。若獨引于闐胡地之國。猶可取信。至廣說罽賓維衛。不識此是梵種。胡梵相去二萬里。豈當混濫如此。偽說敗績不少。前列九繆。有能立難者。吾當截舌以謝。

二年。勅萬回禪師賜號法雲公圓通大士○北宗神秀國師示寂於東都天宮寺。諡大通禪師。師得法於五祖。自武后朝召居內道場。至帝禮以國師。宰相張說問法。執弟子禮○二月勅造聖善寺。沙門慧範。補正議大夫。封上庸郡公。法藏慧珍九人。並朝大夫。封縣公。官給奉祿。一同正員(奉音鳳俸俗)勅菩提流志。於佛光殿譯經。上御法筵親臨筆受。百僚侍坐。妃后同瞻○五月賜嵩嶽慧安國師紫摩納衣。度弟子十四人。後三年亡。壽百二十八歲○詔七朝忌辰於內殿設齋行香○聖善寺成。勅上庸公慧範。如銀青光祿大夫充寺主。沙門萬歲加朝散大夫封縣公。充都維那。

沙門廣清。檢校殿中監充功德使。

三年。勅高安令崔思亮往泗州迎僧伽大師。師西域何國人。高宗時來洛陽。行化至泗州。城民賀跋捨宅為寺。師令掘地得碑云。齊李龍捨宅建香積寺。又獲金佛。師曰。普照王佛也。因名普照王。上以天后諱改普光王。師既至。尊為國師。出居薦福寺。帝及百僚皆稱弟子。度弟子慧儼慧岸木叉。御書寺額○勅文綱律師入大內安居行道○勅菩提流志於西崇福寺譯寶積經。修文館學士武平一充翻經使。盧藏用等潤文○詔律師道岸入宮為妃主授歸戒。帝至諸師皆避席。岸獨長揖。帝高其操。命圖形于林光宮。為之御讚。

四年三月三日。僧伽大師坐亡。勅於薦福寺漆身起塔。忽臭氣滿城。詔令送歸泗州。俄芬芳帝里。上問萬回。僧伽

何人。曰觀音化身也。○五月大旱。勅菩提流志於崇福寺結壇祈雨。三日大澍(音注時雨)○詔於化度寺設無遮大會○菩提流志進新譯經。帝於林光殿賜齋。觀沙門議論。勅畫工張訓。圖翻經大德及眾學士于殿壁。親製讚辭。

睿宗(旦高宗第八子)

景雲元年。高祖舊第興聖宮有柿樹。枯瘁歲久。至是重榮。乃大赦天下。賜百官封爵。普度僧道三萬人。帝初受內禪。請法藏法師從受菩薩戒。

二年。勅菩提流志同法藏塵外等。於北苑甘露亭譯大寶積經。宰相張說。右丞盧藏用。博士賀知章。中書侍郎陸象先。尚書郭元振。侍中魏知古。潤文監護○勅貴妃公主家。始建功德院○法雲公萬回坐亡。贈司徒虢國公。勅葬

西京香積寺。回當則天朝廷入禁中賜錦衣。令宮人給侍。莊惠太子生。則天抱示之。回曰。此西域樹精養之宜兄弟。安樂公主怙韋后將謀逆。回遇之途。望塵唾之曰。腥氣不可近。後安樂果被誅。玄宗在藩謁之。回撫其背曰。五十年太平天子。睿宗為相王每出。回告市人曰。天子來矣。

先天元年。西天沙門婆羅請然燈供佛。帝御延熹門臨觀。燈輪高二十丈。點金銀燈五百盞。望之若華樹○菩提流志等進新譯寶積經百二十卷。御製聖教序以冠經首○十一月。賢首法師法藏亡。贈鴻臚卿葬神和原。

二年。勅採訪使王志愔。應諸郡無勅寺院並令毀拆。初沙門慧雲望隋河北有異氣。乃入汴州。至司馬園池見水中有上天宮闕。欲謀建寺。乃化緣鑄丈六彌勒像。貿鄭景宅為

院。掘地獲碑云。北齊天保六年。立建國寺。因名曰建國。志愔至雲禮像泣告。像忽放光。志愔以事聞。帝亦預有瑞夢與所奏冥符。以自相王龍飛。因賜名大相國寺○八月能禪師於新州國恩寺坐亡。反葬于韶州曹溪。而建塔焉。世稱六祖。

玄宗(隆基睿宗三子)

開元元年。勅以寢殿材建安國寺彌勒佛殿。

二年正月。自中宗以來貴戚奏度人為僧。富戶彊丁多削髮以避徭役。紫微令姚崇上書請禁度僧。言佛不在外悟之由心。行事利益使蒼生安穩。是謂佛理。上從之。命有司沙汰僧尼偽濫者。萬二千人。並令還俗。勅百官毋得創寺。民間毋得鑄佛寫經。須者就寺贖取○二月勅僧道致敬父

母。四月罷致敬。

述曰。自晉成帝至隋煬。凡四詔沙門致敬王者。遠法師謂。袈裟非朝宗之服。瞻法師謂。僧無敬俗之典。遂寢其事。自唐太宗明皇。凡二詔僧道致敬父母。既時停罷。然不聞當時以何為議。豈不曰若。稽之佛典。出家之士尊居三寶為世福田尚使父母反拜。豈當違佛制而徇一時之立法。停罷之議不出此義。自明皇至我朝。無復為此非議者矣。

三年。詔一行禪師入見。帝諮以安國撫民之道。及出世法要。稱為天師(天子之師)帝問。國祚何如。對曰。鑾輿有萬里行社稷終吉。以金合進曰至萬里即開視乃當歸少許耳。祿山之亂帝幸成都。至萬里橋悟當歸之讖。洗然忘憂。終吉者至昭宗而絕。以曾封吉王也。

四年。西天無畏三藏來。先是睿宗聞師名。遣將軍史獻出玉門迎候。至是帝夢異僧來謁。命圖其容于壁。及師入見與壁像不異。帝說歸內道場居之。尊為教主。師譯出毘盧遮那等經。密教一宗於茲為盛○日本國遣沙門元昉入中國求法。

七年西天三藏金剛智。循南海至廣州。來京師召見。勅居慈恩寺。智傳龍樹瑜伽密教。所至必結壇灌頂度人。禱雨禳災尤彰感驗○長安罔極寺沙門慧日遊西天還。進佛真容梵夾。召見內殿說法開悟帝心。賜號慈愍三藏。法師所經七十國。往返二十年○三月長者李通玄。以華嚴大經諸家疏義繁衍。乃持新譯經往太原高山奴宅造論。經三年。日食十棗柏葉餅一枚。世號棗柏大士。將齋經往韓莊。忽見一虎當道。長者以經置其背。引登方山土龕處其中室無燈

燭口出白光炳照製作。有兩女子日供食一盤及紙墨。坐亡之日。白光自頂上徹太微。所造論四十卷(藏中有長者事迹一卷)。

八年。北天竺不空三藏。循南海至京師。於慈恩寺傳瑜伽大法於金剛智○五月京師人多疫病。醫王韋老師施藥以救。無不瘥。師每存心發願。人覩之者病為。上聞之召愈見禮。為藥王菩薩。老師者。疏勒國人。西域常衣毳袍腰懸數百胡盧。頂紗巾持黎杖。一黑犬同行。自云已五百年。堯舜殷湯周秦漢唐。凡七度化身來救貧病。其犬一日化為黑龍。背負老師冲天而去。

九年。詔一行禪師造大衍歷。刑和璞謂尹愔曰。漢洛下閎云。後八百年當差一日(音叉錯也)必有聖人出而正之。今一行造歷正其差謬。洛下之言信矣。後六年亡。諡大慧禪

師○于闐沙門智嚴來譯經四部○姚崇薨。遺令云。佛以清淨慈悲為本。而愚者寫經造像冀以求福。汝曹勿効無知子追薦冥福。

述曰。佛道何在。必於伽藍經像沙門奉法之徒。以寓見之。而後可以行清淨慈悲之化。崇不知此道。而且獨任虛理以飾陋見。故其當軸也。則禁度僧創寺鑄佛寫經。其屬續也。則遺令戒兒曹勿舉佛事。使得君如魏太武以逞其堅僻之志。則亦當時一崔浩。不令之終也。

十四年。日本國沙門榮睿普照至揚州。奉國主命以僧伽梨十領施中國高行律師。鑒真受其衣。感外國有佛種。遂與睿等附[舟*自]而東。既至。王迎勞之。館於毘盧遮那殿。請其授歸戒。夫人群臣以次稟授。日本律教始行於此。

十五年。勅天下村坊佛堂小者。並拆除之。功德移入近寺
堂大者。皆令封閉。公私望風。凡大屋大像亦被殘毀。勅
下豫州。新息令李虛方醉而州符至。大怒約胥正敢毀拆者
斬。虛行事多違戾。非有意全佛屋也。後病死。既斂聞棺
中指憂聲。母促開之乃生。時暑月身頗瘡爛月餘方愈。自
言。初為兩吏拘至王庭。見前新息吏。亡經年矣。謂虛
曰。長官殺害為心。今當受報。虛聞大懼請救。吏曰。去
歲拆佛堂。長官界內獨全。此功德彌天。不合此間追攝。
王若問但以此對。頃之見王。有人持一通案。吏讀曰。李
虛專學割羊脚。合杖一百仍割身肉。虛曰。去歲勅毀佛
堂。虛界內獨存之。願此功德以折前罪。王驚曰。審有此
不。吏白有福簿在天堂。王令檢之。吏讀曰。去年毀拆佛
堂。新息一縣獨存。合折一生無數罪惡延年三十。言畢罪
簿火出焚之略盡。乃勅兩吏送還。後三十無疾而終(太平廣
記)○菩提流志亡。年百五十六歲。諡一切遍知三藏。贈鴻

臚卿○房瑄為盧氏宰。道士邢和璞與之出遊。過夏口入廢寺坐古松下。使人掘地得甕中所藏婁師德與永禪師書畫。謂瑄曰。頗憶此耶。瑄恍然悟前身為永師也○遂州任善病亡。同數俗人一僧俱至閻王所。僧曰。常誦金剛經。王即合掌。忽有五色雲迎僧升天。冥官謂善曰。汝亦曾誦二十一遍。即令放還。又漣水趙璧入京舉選。路逢亡妻。言今在冥司受罪不可言。我衣裝在阿家處。可取賣造金剛經一部。璧如其言。始及半卷因過墓所。見老人稱是地主。曰汝妻昨日已得生天(金剛感驗錄)。

十七年。勅天下僧尼三歲一造籍(供帳始此)。

述曰。出家學道要在從師受戒。為之制初未嘗掛名於官籍。自漢明至唐初莫不皆然。至則天延載始令二眾隸祠部。而明皇正觀始令三歲造籍。肅宗至德復令鬻牒。謂之

香水錢。逮我本朝南渡則又創免丁之賦。謂之清間錢。嘻律言非我所制。餘方為清淨者不得行。豈如來以佛眼觀末世為吾徒者。當勉順國法乎。嘻。

十八年。左溪朗禪師為荊溪湛然禪師說止觀法門○詔天下寺觀。建天長節祝壽道場○西京崇福寺沙門智昇。進所撰開元釋教錄二十卷。以五千四十八卷為定數。勅附入大藏○武功縣丞蘇珪。常誦金剛經。合家五十口皆蔬食。妻崔氏以瘦悴竊食肉。變為骨骸。氣絕斂十日。復蘇言。見閻王責曰。汝夫是肉身菩薩。何為盜食肉。賴有誦經之功。延壽二十年。可歸以語諸人。時帝聞之。亦發心持經。從化者甚眾○沙門海通於嘉州大江之濱鑿石為彌勒佛像。高三百六十尺。覆以九層之閣。扁其寺曰陵雲。

二十年。金剛智三藏亡。諡灌頂國師。弟子不空三藏奉遺

教。復回天竺至師子國。遇龍樹受十八會灌頂之法及經論五百餘部○初是西晉時有僧義興。於鄮縣東南三十里山谷間立佛祠於巖上。至是高僧法睿案故迹造精舍於山之東麓。祕書萬齊融建多寶塔於西南隅。師居其處日誦法華。感太白化天童送供。夜遶塔行道。人見師身與塔齊。因號太白禪師。名其山曰天童(世傳啟禪師開山者誤)○勅末尼本是邪見。妄託佛教。既是西湖師法。其徒自行。不須科罰。

述曰。佛言。九十六種外道。佛道為正。是知餘皆邪法無足議者。末尼既是邪見。朝廷便須禁止。今乃縱其自行不加科罰。曾不思此立有染其習者。邪以傳邪適足為佛法之混濫。嘻不知當時君臣。何其不能區別耶。

二十一年。南山道宣律師出刪定四分戒本。出家之士得以

誦習。

二十三年。無畏三藏示寂。塔於龍門之西山。

二十四年。勅頒御註金剛般若經於天下○中書奏令天下僧尼隸鴻臚寺○吳道玄字道子。妙窮丹青。大略宗張僧繇。上召入供奉。於景公寺畫地獄變。都人咸觀皆懼罪修善。兩市屠沽不售(今世有石本道子觀音)。

二十五年。勅僧尼仍隸祠部。道士隸宗正寺。以李宗屬皇籍也。

二十六年。勅天下諸郡立龍興開元二寺○沙門法秀夢異僧勸置袈裟五百領施回向寺及覺異之。遂勾人造及其數。忽一日遇僧曰。吾導汝入回向寺。隨之入終南山。見崖半朱

門高聳。榜曰回向。趨入見上方老宿。諸僧相勞問。秀袈裟遍寺施之。老宿引入空房謂曰。此唐天子舊室。命侍者取玉蕭至。曰向居此好聲樂。謫為人間主。久當復歸。囑秀曰。汝持玉蕭袈裟歸獻唐天子。秀還詣闕表上之。帝取蕭調弄宛如宿御(高僧傳)。

二十七年。勅天下僧道。遇國忌就龍興寺行道散齋。千秋節祝壽就開元寺。

二十八年。吉州清源行思禪師坐亡。師得法於六祖。僖宗朝追諡弘濟禪師歸真之塔二十九年。河南采訪使齊澣言。至道可尊。當從宗仰。未免鞭撻。有辱形儀。其僧道有過者。欲望一準僧道格律處分(音分處置得所)所由州縣不得擅行決罪。奏可○不空三藏自師子國復來廣州。采訪使劉巨濟。請建灌頂壇法。感文殊現身度人至千萬數。

天寶元年。西域康居(音渠)大石五國。入寇安西(唐朝置安東安西安南安北四府)帝召不空三藏入內。持誦仁王護國密語。上親秉香鑪。方二七遍。上見神人可五百餘立於殿廷。師曰。此北天毘沙門王第二子獨健。副陛下禱往救安西。請設食發遣。四月安西奏云。二月十一日。城東北黑雲中見金甲人身丈餘。空中鼓角聲振天地。寇人帳幙間有金鼠齧斷弓弦。五國即時奔潰。須臾見城樓上天王見形。上令驗之。即誦呪日也(今城樓軍營立天王者因此)。

二年。勅羅浮山佛經所載。是華首菩薩住處。可特立延祥寺華首臺明月戒壇○初沙門楚金。於京師千福寺誦法華經。至寶塔品。身心泊然寶塔忽現。乃禪坐六年誓建斯塔。下基之日眾聞天樂異香。帝於禁夢虛空有楚金二字。以問群臣。咸以師對。乃親書多寶塔額。賜縑緡以助役。

三載。千福寺建多寶塔成。感五色雲籠塔上。萬眾瞻禮。
楚金復集大德於塔下行法華三昧。感獲舍利三千七十粒○
勅諸郡開元寺鑄皇帝等身金銅佛像○召司空山本淨禪師。
至闕。問禪宗要旨。勅住白蓮寺○南岳懷讓禪師示寂。諡
大慧禪師最勝輪之塔。師得法於六祖。

四載。勅波斯經教出自大秦。其兩京波斯寺宜改大秦○召
中岳道士吳筠入見。問以道要。對曰。深於道者無如老子
五千文。復問神仙治鍊之法對曰。此野人事。積歲月以求
之。非人主所宜留意。時內侍高力士素事佛。毀於上前。
遂辭還茅山。筠以見斥。造論以毀釋氏。浙西觀察使陳少
遊。請法師神邕決之。邕約面論邪正。旗鼓纔臨筠竟敗
北。邕遂著翻邪論以攻餘黨。少遊聞於朝。命邕為僧統(邕
嗣左溪)。

五載。師子國遣使來朝獻貝葉大般若經瓔珞白[疊*毛]。五勅不空三藏居鴻臚寺。入內為帝行灌頂法。時久不雨。師立壇作法。大雨遍洽。復禁止大風。風即隨止。六載。勅天下僧尼屬兩街功德使。始令祠部給牒用綾素。勅天下寺院。擇真行童子。每郡度三人。

十四載。上以北方稟氣剛毅列剎多習騎射。詔沙門辯才。為臨壇教授用加訓導。

肅宗(亨玄宗第三子)

至德元載。正月范陽節度使安祿山反。五月玄宗太子百官。發長安將幸蜀至馬嵬百姓數千人請太子留東破賊室。金城沙門道平。力勸議兵靈武。以圖收復。遂以平為金吾

大將軍。至臨臯屢與賊戰大破之。事定行封平固辭。乃勅
住崇福興慶二寺。賜紫衣金帛。七月太子即位於靈武。尊
玄宗為太上皇○帝在靈武。以軍須不足。宰相裴冕請鬻僧
道度牒。謂之香水錢(賣牒始)○時寇難方盛。或勸帝宜憑
佛祐。詔沙門百人。入行宮朝夕諷唄。帝一夕夢沙門身金
色誦寶勝如來。以問左右。或對曰。賀蘭白草谷有新羅僧
無漏常誦此名。召見行在。既而不空至。遂并留之託以祈
福○杜鴻漸奏。辯才住龍興寺。詔加朔方管内教授○上皇
駐蹕成都。內侍高力士奏。城南市有僧英幹。於廣衢施粥
以救貧餒。願國運再清克復疆土。欲於府東立寺為國崇
福。上皇說御書大聖慈寺額。賜田一千畝。勅新羅全禪師
為立規制。凡九十六院。八千五百區。全禪師後往池州九
華山坐逝。全身不壞骨如金鎖。壽九十九○十二月。上皇
自成都還京師○詔沙門元皎。於鳳翔開元寺建藥師道場。
忽會中生李樹四十九莖。皎等表賀。勅答曰。瑞李滋繁國

興之兆。生處伽藍之內。亦知覺樹之榮感此殊祥。與師同慶○詔迎鳳翔法門寺佛骨入禁中立道場。命沙門朝夕讚禮。勅五岳各建寺。妙選高行為之主。白衣誦經百紙。賜明經出身為僧。時僧標中首選。或納錢百緡者。許請牒剃度○羅浮山沙門慧常。因采茶入山洞。見金字榜羅漢聖寺。居中三日而出。乃在茅山人間五年矣。

乾元元年(復稱年)勅不空三藏入內。為帝灌頂授戒法。感大樂說菩薩放光證戒。

二年三月。詔天下州軍。臨江帶郭上下五里置放生池。凡八十一所。昇州刺史顏真卿撰碑云。動者植者水居陸居。舉天下以為池。罄域中而蒙福。乘陀羅尼加持之力。竭煩惱海生死之津○詔南陽慧忠禪師入見。勅居千福寺。號稱國師。上問。師在曹溪得何法。師曰。陛下見空中一片雲

麼。上曰見。師云。釘釘著懸挂著(五祖戒師代云。好事不如無)上問。如何是十身調御。師起立云。還會麼。上云。不會。師顧左右云。與老僧過淨瓶來。上元元年。勅中使往韶州曹溪迎六祖衣鉢。入內供養○吳興沙門抱玉入京受戒。帝夢吳僧誦法華經口出五色光。翌旦師入關。關吏問何來。答曰。善誦法華遠來受戒。關令以聞。帝召見果夢中所見者。賜坐誦經。至隨喜品。口角放光五色。帝大說。令別築香壇特為受戒。賜名大光。封天下上座○勅僧尼朝會。毋得稱臣。

洪覺範曰。嵩明教每歎沙門高尚。見天子無臣禮。自唐令瑫首壞其端(此事未見所出)歷世因之。於是不疑彼山林逸士天子猶不得臣之。況沙門之道尊居三寶為世歸依者乎。故正宗記之表。首尾言臣某。以存故事。其間自敘則止稱名。當時公卿莫不重其高識。

述曰。易曰。不事王侯高尚其事。記曰。儒有上不臣天子。下不事諸侯。後漢王儒仲被徵見光武。稱名不臣。有司問其故。對曰。天子有所不臣。夫儒生隱士。尚知以道自高。況世外學佛名居福田。豈當臣事世主自取污辱。若肅宗者。可謂知尊釋氏。深識大體者矣。

召沙門子隣入禁中講經。賜紫服充供奉。初師遊學歸寧。以母亡三載。詣泰山祠誦蓮經。誓見天齊王。王見形曰。師生時母多食鷄卵。取白傳頭瘡。坐是之由在獄受苦。隣悲號求免。王曰。往鄮山禮阿育王塔。或可原也。隣即到山寺哀訴。禮至四萬拜。聞空中聲。仰視見亡母。乘雲氣謝之曰。承汝之力已得生忉利天。今寺後峯翠微庵。即師棲止處○尚書左丞王維與弟縉。皆篤志奉佛。素衣蔬食。別墅在輞川。嘗吟遊其間。母喪。表請以輞川第為佛寺。

寶應元年。河南尼真如。屬祿山之亂避地楚州。月夜二皂衣引東行升天。至大城見天帝(當是帝釋天主)諸天王(當是三十二天王。及四門天王)相謂曰。下方喪亂殺戮過多。請以第二藏寶鎮其國。乃具以寶名及鎮法授真如。令前二吏導其歸。如以狀白之州。其寶十三枚。皆白玉寶珠。置日中白光屬天。夜則如月。其名曰玄黃天符穀璧如意珠玉印碧色寶等。刺史崔旆表上之。帝謂太子曰。上天眷祐有德者。乃克當之。汝以楚王入為太子。今楚州獻寶。天將以祚汝也。乃悉以寶授之。改元寶應。賜真如寶和太師。勅長安立寶應金輪寺。

述曰。自肅宗至昭宗。凡十三帝而唐亡。是知十三寶之賜。所以昭其祚也。史雖載之不知其為天肇之讖也。

佛祖統紀卷第四十(終)

初葉法善。幼歲溺水死。後三年還家。去青童引見老君。故久嘗在石室遇神人曰。子本紫微左仙卿。謫居人世。宜立功以濟人。我奉老君命。授汝以一三五之法。高宗召拜上卿。不就。乞為道士。後入西山修道。景龍中神人又降。傳老君之命曰。汝當輔睿宗及開元帝。未可隱迹山林(時二帝本興而廟號年號皆預以告)。其年八月果召赴關。及後立相王為睿宗。而玄宗又繼統。凡吉凶動靜必預以奏。會吐蕃遣使貢寶函曰。請陛下自開無令他人知機密。法善曰。此是凶器。宜令蕃使自開之。函中驚發中蕃使立死。帝重之授銀青光祿大夫越國公。後尸解而去。

六年。李筌至嵩山虎巖。得黃帝陰符經。讀數千遍不曉其

義。嘗過驪山下逢老母。於路旁見遺火燒樹。因自言曰。火生於木禍發必剋。筌驚問之。母曰。吾受此經三元六周甲子矣。筌具告所得。母曰。少年腦血未減。心影不遍。真吾弟子。乃坐石上為說其義曰。陰符三百字。百言演道。百言演法。百言演術。上有神仙抱一之道。中有富國安民之法。下有強兵戰勝之術。皆內出心機。外合人事。觀其精微。黃庭八景不足以為玄。察其至要。經傳子史不足以為文。任其巧智。孫吳韓白不足以為奇。非有道之士不可使聞之。故至人用之得其道。君子用之得其術。小人用之得其殃。如傳同好。必清齋而授之。本命日誦七遍。益心機加年壽。袖出一瓠令取水。瓠忽重沈於水。及還失母所在。但留麥飯。筌食之。自此絕粒。至開元間為江陵副使。後入名山訪道。不知所終。

○上遣中書侍郎徐嶠齋璽書召方士張果。入見時。刑和璞

善算術。知人壽夭。算果莫能測。師夜光者善視鬼。上與果密坐。夜光不能見。上聞飲堇汁無苦者真奇士(音謹附子毒也)。與之三卮。醺然如醉。顧左右曰。非嘉酒也。取鐵如意擊墮其齒。皆焦黑。出神藥傳其斷。寢頃之齒粲然如故。後懇辭還山。下制曰。張果先生。志造高尚。迹混光塵。問以道樞。深會宗極。宜升銀青光祿大夫。號通玄先生。後入恒山。不知所終(果在梁陳時相智者兄陳鍼者)。

○司馬承禎告化。勅謚貞一先生。睿宗時居天台。召入間道。對曰。為道曰損。上曰。治身可矣。治國若何。曰國猶身也。順物無私而天下理。上歎曰。廣成之言也。玄宗朝遣使迎至京受法籙。辭歸王屋山。有弟子焦靜遇仙女告之曰。子可謁東華青童君受三皇法。請名氏則貞一也。歸而謁之。先生欣然以授。

八月。詔諡孔子為文宣王。南面坐釋奠用宮縣(禮記。凡始立學必釋奠于先聖先師。注釋奠者設薦饌酌奠也。先聖先師周公孔子。周禮王宮縣諸侯軒縣注宮縣鐘磬縣於荀虞者王宮縣四面諸侯去一面○鐘者宮音以象君也。鐘在虞曰縣音玄)。封顏子為兗國公。弟子皆追封公侯伯。

四月。帝夢老君玄元皇帝告曰。吾有像在京城西南。乃遣使至鰲屋縣樓觀。見紫雲垂覆白光屬天。得玉像高三尺。迎置興慶宮。命有司寫玄元真容。分置諸郡開元觀○。

正月。詔諸州置玄元皇帝廟。令當州學生數內習道德經莊子列子文子。每年依明經舉送朝廷。置助教一人。九月御興慶門樓。親試明道德經莊子列子。時姚子彥等對策入第○。

正月。老君降于丹鳳門外駐立雲端。謂參軍田同秀曰。我入流沙之日。藏金匱靈符於桃林尹令舊宅。可奏取以鎮國。同秀以聞。勅往求之。見紫雲白兔於尹臺之下。掘之得金匱玉版朱書細篆。迎置靈昌殿。是夜樓閣虛空悉有神鐙。百官上表以符瑞潛應。乃下制改元天寶○二月勅封莊子南華真人。文子通玄真人。列子[泳-永+申]虛真人。庚桑子洞靈真人。四子書為真經。置博士助教各一員學生百人○。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱
【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十一

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之八

代宗(豫肅宗長子)

永泰元年九月。鑄金銅佛像成。於光順門率百僚致拜○十月吐蕃寇逼京師。命內出仁王經二輦送西明諸寺。詔不空三藏置百高座講經。帝臨御行香禮敬。已而寇平。詔曰。仁王寶經義崇護國。前代所譯理未融通。乃勅不空三藏沙門飛錫良賁等。於大明宮南桃園重譯。帝親對讀。謂新舊

二經理雖符順。所譯新本文義甚周。乃御製序文。加不空特進鴻臚卿○詔出家沙門尊居三寶。其令天下官司毋得捶辱僧尼○勅大興善寺建方等戒壇。立臨壇大德十人○帝夢六祖請衣鉢還山。乃令劉崇景頂戴送還。勅韶州刺史楊珣以禮奉安○勅沙門百人於禁中行念誦法。謂之內道場。出入乘馬。度支廩給○章敬沙門崇慧與道士角法告勝。勅賜紫衣○勅於金剛智諸灌頂道場。撰沙門二七員。為國長誦佛頂呪○鎮國純陀三藏亡。年六百歲。

大歷元年。勅沙門良賁。於桃園撰仁王經疏進上。姑蘇支硎山沙門道遵(左溪弟子)置法華經院。舉高行十四人常持法華以燭繼晝。用揚大雄之慈聲。郡刺史韋元甫。尚書劉晏。奏賜法華道場。於是自江以東置經院者十七所。皆取法於師也○衛州別駕周伯達。常持金剛經。忽見光中有梵僧自稱須菩提。曰汝誦經數年。何為不斷肉食。伯達竦

懼。即蔬素轉加勤誦。祥感屢見。

二年。詔輔相大臣始建功德院○杜鴻漸初撫巴蜀。遣使詣白崖。請無住禪師入城問道。師曰。觸目皆如。鴻漸由是棲心禪悅。晚年入相。以疾辭退。臨終沐浴。命朝服加僧伽梨。剃鬚髮別眾而逝。依沙門法火焚其軀○法照法師於南岳雲峯寺食鉢中覩五色雲。見山澗石門有寺榜曰大聖竹林寺。遂與同志往謁五臺。見金門樓觀。一如鉢中所見。入寺至講堂。見文殊普賢分座說法菩薩萬數。師前作禮。問曰。末代修行以何為要。文殊曰。諸修行門無如念佛。師辭退作禮。舉頭俱失。乃於見處建寺號竹林云。

三年。詔慧忠國師入內。引太白山人見之。師曰。汝蘊何能。山人曰。識山識地識字善算。師曰。山人所居是雄山雌山。茫然不知對。師曰。殿上此是何地。答曰。容弟子

算。師於地上一畫。問何字。答曰。是一字。師曰。土上一畫豈不是王字。師曰。三七是多少。答曰。二十一。師曰。三七豈不是十字。師謂帝曰。問山不識山。問地不識地。問字不識字。問算不識算。陛下何以得此愚人。帝顧山人曰。師國寶也。帝在便殿指宦者魚朝恩。謂師曰。朝恩亦解佛法。朝恩進問師曰。何謂無明從何而起。師曰。衰相現前奴也。解問佛法。朝恩大怒師曰。即此是無明。無明從此起。後朝廷裁決或不預。輟怒曰。天下事有不由我。帝聞不樂。責其異圖縊殺之○詔徑山法欽禪師入見。上待以師禮。嘗在內廷見帝至起立。帝曰。師何以起。師曰。檀越何得向四威儀中見貧道。帝大悅。所賜一不受。布衣瓦鉢與弟子日唯乞食。相國楊綰歎曰。真方外士也。平章崔渙問曰。弟子可出家否。師曰。出家是大丈夫事。豈將相之所能為。晉公裴度三十餘人。皆問道行門人禮。後乞歸山。賜號國一禪師。勅杭州守臣於山中重建寺宇。

長吏月至候問。師初依素禪師。素戒之曰。汝乘流而行逢徑而止。師遂南抵臨安。見東北一山。逢樵子問其地。曰徑山也。乃駐錫焉(四祖下七世)○七月詔建盂蘭盆會。設高祖下七廟神座。自太廟迎入內道場。具幡華鼓吹迎行衢道。百僚迎拜。歲以為常。翌日產靈芝於太廟二室○詔南岳沙門法照為國師。師言。其師南岳承遠有異德。上南向而禮焉。度其道不可致。乃名其居曰般舟道場。用尊其位(柳文)○荊溪禪師於天台佛隴。為道邃法師說止觀法門○勅回紇奉末尼者建大雲光明寺。

四年。帝於大明宮建道場。感佛光現。諸王公主近侍諸臣。並覩光相。自子夜至雞鳴。宰相裴冕上表稱賀。五年。彗星見於東方。詔不空三藏行法。既而星殞。時春夏不雨。詔建壇祈禱。越二日大雨霑足○初沙門自覺居平山。為鬼神講經。當陽節度使張昭。躬入山致請曰。昭無

政術致三年亢陽。引咎無補。聞龍神依師聽法忘其行雨願起大悲。師焚香遙望潭洞而祝。頃刻雲起甘澤遽下。歲乃有秋。

六年。滁州刺史李幼卿奏。沙門法琛於瑯耶山建佛剎繪圖以進。帝於前一夕夢遊山寺。及覽圖皆夢中所至者。因賜名寶應寺○回紇請於荊揚洪越等州置大雲光明寺。其徒白衣白冠。

八年。勅天下童行策試經律論三科。給牒放度。

九年。帝夢建康牛首山辟支佛來見。勅太子詹事古侁。於山中建七級浮圖○六月不空三藏告病。詔加開府儀同三司封肅國公。食邑三千戶。及示寂。帝輟朝三日。賜祭贈司空。諡大辯正廣智三藏。

十年。勅大興善寺建不空三藏塔。

十一年。勅問崇聖寺三綱老宿(寺主知事維那為三)如聞文綱律師親傳先師宣律師釋迦佛牙舍利。宜詣右銀臺門進上以副朕瞻禮之心。

十二年。淮西兵馬使李重倩舍宅為佛經坊賜名寶應一切經坊。

十三年。詔兩街臨壇大德圓照等十四人。集安國寺定四分律新舊兩疏。僉定一本。

十四年。泗州僧伽大師忽見形於禁中。謂帝曰。州將(太守兼職兵者)令普光王寺出財供十驛乘傳者(傳張戀反)可免此

役。帝即遣使傳旨。賜絹綵黃金澡罐。勅寫真容入內供養
○五月帝崩。太子即位。詔自今毋得置寺觀及請度僧尼。

德宗(造代宗子)

建中元年。沙門圓照進新定四分律疏。勅賜紫衣。充內供奉
檢校鴻臚卿。食邑三百戶。

二年。吐蕃遣使乞朝廷賜沙門善講佛理者。帝令良琇文素
往赴說法教化。歲一更之○四明無生居士胡幽貞。修華嚴
感應傳一卷。備載歷代弘經之迹。言龍樹龍宮所傳下本十
萬偈。今東土譯成八十卷者。唯四萬五千偈。其餘尚祕天
竺。故今發願哀請下本經偈具足流傳此土○信州南巖草衣
禪師宴坐三十年。足不蹈地口不嘗味。萬有囂然(虛憍反
誼)此身不動。侍郎權德輿為之記曰。古所謂遺物離人而獨

立者。又焉知此地之宴坐。不為他方之說法者乎。

三年。勅僧尼有事故者仰三綱。申州納符告注毀。在京者於祠部納告(唐稱符告者。與品官告身同。今時但稱度牒)。

興元元年。勅亡僧尼資財舊係寺中。檢收送終之餘分及一眾。比來因事官收。並緣擾害。今並停納仰三綱通知。一依律文分財法(南山事鈔衣法篇。及亡五眾輕重儀。備述分財法)○法照法師於并州行五會教人念佛。帝於中宮常聞東北方有念佛聲。遣使尋至太原。果見師勸化之盛。乃迎入禁中。教宮人念佛。亦及五會。

三年。翰林學士梁肅學天台教於荊溪禪師。深得心要。以止觀文義弘博覽者費日。乃刪定為六卷行於世。吏部郎中

李華。嘗從荊溪學止觀。荊溪為述止觀大意一篇。包括大部若指諸掌。時士夫同學者。散騎常侍崔恭。諫議大夫田敦。皆學止觀於荊溪云○梁肅記云。晉陵黃氏二女。幼聞人誦法華。聽之曰。吾解此義也。試使之說。能深談實相之旨。後入京師安國寺為尼。長名持法。次名慧忍。同修法華三昧。忽有尼號空姑。詞貌甚異來共止宿。每至中夜身光赫然。如是三年而去。或問二尼。皆笑而不答。人謂其為普賢也。

貞元元年。韋臯為西川節度使。初臯生一月有梵僧見之。別久得無恙乎。兒為一笑。眾問其故。僧曰。此諸葛武侯後身也。其政治後當在蜀。及是而驗。臯在蜀二十一年。功烈為西南最。

三年。京兆尹宇文炫奏。乞以鄉落廢寺為學舍材。勅曰。

奉佛之宮轉為儒館。此侵毀三寶之漸。罪在不宥。炫漸懼。即日自解歸○李泌拜中書侍郎同平章事。初明瓚禪師居南岳上封。人號癩殘。泌往謁之聞誦經聲。先悲愴而後悅豫。知為隱者。候之良久。瓚撥火出芋食之曰。領取十年宰相至是。泌用事為帝言其高行。詔徵之。使者至石窟宣麻。瓚寒涕垂頤凝然而坐。不以介意。使回以聞。帝益嗟敬。

四年。江西馬祖道一禪師亡。師得法於南岳讓禪師。其後五世派為二家。曰漚仰。曰臨濟(子禮反。四瀆之一。世誤作去聲)。

五年。勅曰。釋道二教福利群生。館宇經行必資嚴潔。今後寺觀不得容外客居住。破壞之處隨宜修葺。

六年正月。詔迎鳳翔法門寺釋迦佛骨。入禁中供養。傳至諸寺瞻禮。二月迎佛骨歸寺○衡山石頭希遷禪師亡。師得法於清源思禪師。其後派為三家。五世而為洞山。七世而為雲門。九世而為法眼。

十年。勅湖州刺史于頔。進沙門皎然杼山詩集。藏於御書殿○邃法師於國清寺。為廣修法師說止觀法門。

十一年十一月。南天竺烏荼國師子王貢華嚴經。上表云云。師子王手書普賢行願品。上獻摩訶支那大唐國大吉祥天子。願慈氏如來龍華會中早得奉覲。獲宿命智瞻見便識。同受佛記○四月誕節詔澄觀法師。入內殿講經。以妙法清涼帝心。號清涼法師教授和上。

十二年正月。勅皇太子於內殿集諸禪師。詳定傳法旁正。

四月誕節御麟德殿。勅給事中徐岱等。與沙門覃延道士葛參成講論三教。詔闕寶三藏般若等。於長安崇福寺譯烏荼所進華嚴經。圓照鑑虛靈邃澄觀潤文證義。帝親預譯場臨文裁正。令左右街功德使霍仙鳴寶文場專領監護。

十三年。勅沙門端甫。入內殿與儒道論議。賜紫方袍。令侍皇太子於東朝。順帝敬之若兄○左街功德使寶文場奏。先師楚金於天寶初為國建塔置法華道場。令僭眾經聲不絕者。六十餘年。乞加旌表。勅諡大圓法師。

十四年二月。般若三藏澄觀法師等進新譯華嚴經四十卷(此經三譯。晉譯六十卷。唐武后朝八十卷。今德宗朝四十卷。并普賢行願品一卷)。

十五年七月。帝幸安國寺設盂蘭盆供。宰輔皆從。

二十年。日本國遣使者朝其學者橘逸勢沙門空海入中國。
學祕密教於不空弟子慧果。

二十一年十月三日。新定沙門少康放光而逝。初師至洛下
白馬寺。見殿內文書放光探之。乃善導和上西方禮文。遂
至長安光明寺影堂大陳薦獻。倏見導師遺像升空中。而言
曰。汝奉吾教以利有生。則汝之功必生安養。及南適江陵
路逢一僧曰。汝欲化人當往新定(今嚴州)言訖而隱。師乃
往郡中乞錢。誘小兒念佛。月餘孩孺念佛求錢者眾。如此
一年無少長貴賤見師者皆稱阿彌陀佛。乃建道場集眾升座
高聲念佛一聲。眾見一佛從口出。唱十聲則有十佛。若貫
珠然。

順宗(誦德宗長子)

永貞元年。詔尸利禪師入內殿咨問禪理。帝曰。大地眾生如何得見性成佛。利曰。佛法如水中月。月可見不可取。帝說(師得法於石頭遷師)○日本國沙門最澄來學教於天台邃法師。盡寫一宗論疏以歸。為日本傳教之始也。

憲宗(純順宗長子)

元和元年。勅沙門端甫錄左街僧事掌內殿法儀。沙門靈邃錄右街僧事(僧錄始於姚秦法欽師)○詔沙門知玄入殿問道。賜號悟達國師。玄五歲能吟詩。出家為沙彌。十四講涅槃經。李商隱贈詩有云。十四沙彌解講經。似師年紀祇携瓶。沙彌說法沙門聽。不在年高在性靈○回紇遣使。同摩尼偽人來朝。

二年。以吐突承瓘為左右街功德使。僧道隸焉(姓吐突名瓘。官者。瓘七罪反)○三月詔曰。男丁女工耕織之本。其百姓有苟避徭役冒為僧道。而實無出家之事業者。所在有司科奏之○詔鵝湖大義禪師入見麟德殿。與諸法師議論。法師問曰。如何是四諦。師曰。聖上一帝。三帝何有。問如何是禪道。師以指點空。法師罔措。帝曰。法師一點尚不奈何。帝問。何謂佛性。師曰。不離陛下所問。帝默契。尚書李翔問。大悲用千手眼作麼。師云。今上用公作麼(師得法於馬祖)○河中府沙門慧琳撰一切經音義一百三卷。詣闕進上。勅入大藏賜紫衣縑幣茶藥。

三年。詔章敬懷惲禪師至京召見內殿。咨問禪法。

四年。詔惟寬禪師入見問禪要。勅住安國寺。白居易問師曰。既云禪師。何以說法。師曰。無上菩提者。被於身為

律。說於口為法。行於心為禪。律即是法。法不離禪○馬
郎婦者出陝右。初是此地俗習騎射蔑聞三寶之名。忽一少
婦至。謂人曰。有人一夕通普門品者則吾婦之。明旦誦徹
者二十輩。復授以般若經。旦通猶十人。乃更授法華經。
約三日通徹。獨馬氏子得通。乃具禮迎之。婦至以疾求止
他房。客未散而婦死。須臾壞爛遂葬之。數日有紫衣老僧
至葬所。以錫撥其屍。挑金鎖骨謂眾曰。此普賢聖者。閔
汝輩障重故垂方便。即陵空而去○吳郡齊君佐。勤學貧困
欲求食天竺寺。飢不能前。一梵僧顧而笑曰。法師不記講
法華於同德寺乎。佐曰。不記。僧即出囊中一棗與食。佐
即悟前身是講經僧。僧曰當時五人唯我得度。由汝師子座
上廣說異端使學者生疑。戒缺質陋。報應宜然。言已不
見。佐即投靈隱出家。更名鑒空。立行高邁。

五年。帝問澄觀國師。何謂華嚴法界。師曰。法界者眾生

之性體也。世尊稱法界性說華嚴經。事理互融無不周遍。
帝豁然有得。勅有司鑄金印。封為大統清涼國師○翰林學
士白居易。問心要於凝禪師得八言。廣為八偈。謂覺觀定
慧明通濟捨。觀偈云。以心中眼。觀心外相。從何而有。
從何而喪。觀之又觀。則辨真妄(八偈見長慶集)居易每於
鉢塔寺依如大師受八關齋戒者九度○歸宗智常禪師得法於
馬祖。江州刺史李渤問師曰。須彌納芥子即不問。如何是
芥子納須彌。師曰。人傳使君讀萬卷書是否。渤曰然。師
曰。摩頂至踵如椰子大。萬卷書何處著。師以目有重瞳。
以藥手按摩。目皆俱赤。世號赤眼歸宗○居士龐蘊參馬
祖。問云。不與萬法為侶是什麼人。祖云。待汝一口吸盡
西江水即向汝道。居士言下頓領玄要。元和中北遊襄漢居
郭西小舍。一女靈照常製竹漉離賣以供朝夕。將逝令靈照
出視日早晚及午以報。女遽曰。日已中矣。而有蝕也。居
士出戶視之。女即登父座合掌坐亡。居士笑曰。我女鋒

捷。於是更留七日。州牧于頔問疾。居士謂曰。但願空諸
所有慎勿實諸所無。言訖枕公膝而化○勅諫議孟簡補闕蕭
俛。於醴泉寺監護譯經潤文○無著禪師入五臺求見文殊。
至金剛窟見山翁牽牛臨溪。著曰。願見大士。翁牽牛歸。
著隨入一寺。翁呼均提。有童子出迎。翁引著升堂坐。童
子進玳瑁盃對飲酥酪。頓覺心神卓朗。翁問曰。近自何
來。曰南方。翁曰。南方佛法如何住持。曰末代比丘少奉
戒律。翁曰。多少眾。曰或三百或五百。著問。此間佛法
如何住持。翁曰。龍蛇混雜凡聖同居。曰眾幾何。翁曰。
前三三後三三。及暮呼童子引著出。著問童子何寺。曰般
若寺也。著愴然悟此翁即文殊。即稽首童子足下求一言。
童子隱身而歌曰。面上無嗔供養真。口裏無嗔吐妙香。心
內無嗔是珍寶。無垢無染即真常。著因駐錫五臺。後頻與
文殊會(別文載翁說偈曰。一念淨心是菩提。勝造恒沙七寶
塔。寶塔畢竟化為塵。一念淨心成正覺)。

六年。般若三藏譯本生心地經。諫議大夫孟簡潤文。帝御製序。

九年。百丈懷海禪師亡。師得法於馬祖。自少林以來多居律寺說法。師始創禪居稱。長老上堂升座。主賓問酬激揚宗要。學者依臘次入僧堂。設長連床施櫪(音移)架挂搭道具置十務寮舍以營眾事。後世從而廣之名禪院清規○法師智辯(音辯)多所著述。而聽徒絕少。因棄講居衡岳寺。一日有耆宿至閱師所著曰。汝所述頗符佛意而闕人緣。可辦食施飛走(辨見周禮辦俗)却後二十年眾當自集。辯遂鬻衣易米。日炊飯散郊外。感群鳥來集。辯祝之曰。食吾飯者願為法侶。後二十年往鄴城開講。座下千眾皆年少。

十年。南海經略使馬總上疏。請諡曹溪六祖勅諡大鑑禪師

靈照之塔。柳宗元為撰碑。

十一年。隱峯禪師至淮右屬吳元濟阻兵。官軍與賊交鋒未決勝負。師振錫飛空。兩軍仰觀歎異。既而官軍得捷。

十四年正月。勅迎鳳翔法門寺佛骨入禁中。敬禮三日。歷送京城十寺。世傳三十年當一開。開則歲豐人安。王公士庶瞻禮舍施。百姓鍊頂灼膚以為供養。刑部侍郎韓愈上表曰。上古無佛而治漢明佛法至其後亂亡。晉魏以下年代尤促。梁武奉之為侯景所逼餓死臺城。事佛求福乃反得禍(上古俗厚故治。後世俗薄故亂。周孔以仁義為前驅。佛以真道為救世。皆所以易薄俗也。國祚修短係之定命。非佛法之可咎。梁武是住世。四果聖人。臨終尚修齋戒。當時史人不足以知。故言索蜜荷荷而崩。退之創為餓死臺城之言。甚為褻瀆。後世君子勿用此論)佛本夷狄之人。口不道

先王之法言。身不服先王之法服。不知君臣之義父子之情
(佛大聖人。降中天竺國。如生方乃天竺之東境邊方。豈當
以中天為夷。一大藏此皆先佛之道。豈非法言。壞色袈裟
出世標格。豈非法服。行法王法。故君不得而臣。為出家
士。故父不得而子。然於忠孝之道。所以報君與親者。非
世俗區區而能所比)況其身死已久。枯朽之骨凶穢之餘。豈
宜以入宮禁。乞以此骨付之水火。永絕根本。佛如有靈能
作禍福。凡有殃咎宜加臣身。表入帝大怒。將抵以死。賴
裴度等勸貶潮州刺史(佛示現生死。實未嘗滅。留取舍利為
世造福。所在之處是為道場。何有嫌乎宮禁。金剛堅固一
切物不能壞。何能壞以水火。佛道慈恕。雖毀之不校。然
護法天神自能降罰。今帝怒抵死。灼然必得其報。賴大臣
救勸。是亦佛慈力救罰不致死也)○初舍利入大內夜放光
明。早朝群臣皆賀曰。陛下聖德所感。韓愈獨不言。上問
愈愈曰。微臣曾見佛經。佛光非青黃赤白等相。此是龍神

衛護之光。上曰。如何是佛光。愈無對(雪竇代云。陛下高垂天鑑。古德云。許愈識佛光)○二月勅翰林學士張仲素撰佛骨碑。其略云岐陽法門寺鳴鸞阜有阿育王造塔。藏佛身指節。太宗特建寺宇。加之重塔。高宗遷之洛邑。天后薦以寶函。中宗紀之國史。肅宗奉之內殿。德宗禮之法宮。據本傳必三十年一開。則玉燭調金鏡朗。氛祲滅稼穡豐。云云。二十四日奉佛骨還於岐陽舊塔○韓愈至潮州。聞大顛師之名。請入郡問道留旬日。後祀神至海上。登靈山造其居(顛得法於石頭遷師)問師如何是道。師良久。愈罔措。時三平義忠為侍者。乃擊禪床三下。師云。作麼。三平云。先以定動後以慧拔。愈大喜曰。和尚門風高峻。愈於侍者邊得个入處。一日問師春秋多少。師提起數珠云。會麼。答云。不會。師云。晝夜一百八。愈罔措。明日再造門首。逢首座舉前話。座云侍郎如何會。愈云。晝夜一百八意旨如何。座扣齒三下。愈至方丈進前語云。晝夜一

百八意旨如何。師扣齒三下。愈云。信知佛法一般。師云。見甚道理。愈云適來首座亦是。師喚首座問云。適來祇對侍郎佛法是麼。座云是。師便打趁出院(保慶云。首座知前不知後。大顛師令不單行)八月遷袁州刺史。復造其廬。施衣二襲以為別。尚書孟簡知愈與大顛遊。以書嘉之。愈答書稱。大顛頗聰明識道理。遠地無可與語者。故自山召至州郭留數十日。實能外形骸不為事物侵亂。因與之往來。及祭神海上遂造其廬。及來袁州留衣服為別。乃人之情非崇信其法求福田利益也。夫積善積惡殃慶自各以其類至。何有去聖人之道舍先王之法。而從夷狄之教。以求福利者哉云云。孟簡復服之曰。彼楊墨老氏之書。於理偏虛。非中道要切。釋氏之教則不然。大明善惡之異路。覈天下神道報應之微。為廣其道非求糒糜嚙施作活計利妻子。奈何韓君以愚人下俚翁嫗之情見待之耶。且其法行於世。使人人自畏惡修善。豈不大助教化之防與。云云。

東坡曰。觀退之與孟簡書往復。云云。則知退之喜大顛。如喜文暢澄觀。而世人妄撰退之與顛書。其詞凡鄙。有一士人題其末。云歐陽謂此文非退之莫能及此。又誣永叔也。近世所傳退之別傳。深詆退之。又作永叔跋云。使退之復生不能自解免。吾友吳源明云。徐君平見介甫不喜退之。故作此文耳。

述曰。退之與大顛三書具存本集。退之見大顛既其有實。則往來書尺不應無之。一時信筆何能句句精到。謂之妄撰。恐成過論。至若別傳之辭。誠為凡鄙。是不能逃東坡之鑒也。

涪翁曰。退之見大顛後。作文理勝。而排佛之辭亦為之少沮云。

韓退之原道云。古之欲明明德於天下者先治其國。欲治其國者先齊其家。欲齊其家者先修其身。欲修其身者先正其心。欲正其心者先誠其意。然則古之所謂正心誠意者。將以有為也。今也欲治其心。而外天下國家滅其天常。子焉而不父其父。臣焉而不君其君。民焉而不事其事。孔子之作春秋也。諸侯用夷禮則夷之。夷而進於中國則中國之經曰。夷狄之有君不如諸夏之亡(音無)詩曰。戎狄是膺荊舒是懲。今也舉夷狄之法而加之先王之教之上。幾何其不胥而為夷也云云。然則如之何其可也曰人其人火其書廬其居。明先王之道以道之。亦庶乎其可也。

柳宗元送沙門浩初序曰。儒者韓退之與予善。嘗病予嗜浮圖言訾予與浮圖遊(退之以言與遊兩端。為相責之本。子厚於後作兩節解釋。皆有關[錠-(完-兀)+(雪-雨+卜)])近隴西

李生自東都來。退之又寓書罪予。且曰。見送元生序不斥浮圖(重述退之責不斥浮圖之意)。浮圖誠有不可斥者(先立此句。為與浮圖言者之本)往往與易論語合。誠樂之。其於性情爽然不與孔子異道(次釋其言與儒書合與先聖不異。有此兩義)退之好儒未能過楊子。楊子之書於莊墨申韓皆有取焉。浮圖者反不及莊墨申韓之怪僻險賊耶(反責退之不及楊子。楊子尚不斥莊墨之怪險。退之何當斥浮圖之廣大)曰以其夷也(騰退之指佛為夷之言)果不信道而斥焉。以夷則將友惡來盜跖。而賤季札由余乎(秦之先蜚廉生惡來。父子俱以材力事殷紂。見史記。跖秦大盜。見莊子。二皆中國人。吳公子延陵季札賢臣。由余自西戎入秦。二人皆出於蠻戎)非所謂去名求實者矣(責退之果以其法為夷。則名與實俱失之矣)吾之所取者與易論語合。雖聖人復生不可得而斥也(再述浮圖之言與儒書合不當斥)退之所罪者其迹也(先立此句。責退之但觀迹而不知心)曰髡而緇無夫婦父子。不

為耕農蠶桑而活人乎(出退之觀迹之意。欲以世間之俗務責學出世間者)若是雖吾亦不樂也(暫同退之觀迹之見)退之忿其外而違其中。是知石不知韞玉也(正責退之觀迹不知心。夫沙門之法去世浮榮。故為剃染之容修習梵行。故無夫婦之累。至如出家學道。所以升濟父母之神明而為天宮淨土之歸者。如此報恩為至極也。非同俗士但在於生事死葬鬼享之而已。矧出家者。身參三寶世所尊敬。豈復責之以不耕織乎。無野人莫養君子。請借此義。退之不知出家學道者之心。是不知石中有玉也)吾之所以嗜浮圖之言以此(此一節解釋與浮圖言者。意在於此)與其人遊者(立此句為與浮圖遊者之本)非必能通其道(俗儒不求盡通浮圖之妙)且凡為其道者。不愛官不爭能。樂山水而嗜安閑者為多(但知喜其清散不與俗士同)吾病世之逐逐然唯印組為務以相軋也(正說俗士唯以利名為常念)則舍是其焉從(不慕浮圖。復何所慕。舍捨同。焉音煙)吾之好與浮圖遊以此(此一節解釋

與浮圖遊者在此。)今浩初閑其性安其情。讀其書(正通釋典)通易論語(旁合儒書)雖山水之樂。有文而文之(雖在幽閑。亦足以垂世立言)又父子咸為其道以養。而居泊焉而無求(信其所學有所師法)則其賢於為莊墨申韓之言(此子厚所以與之言)而逐逐然唯印組為務以相軋者。其亦遠矣(此子厚所以與之遊)。

述曰。退之不知佛。所以斥佛。後世士夫見韓原道及答孟書簡。則便以能距楊墨者為比楊墨之僻誠足距者。至於佛道廣大。則凡世間九流悉為所容。未有一法出乎佛道之外。豈當以楊墨比之哉。或曰。柳子謂浮圖之言與易論語合。易語世間言教。豈足以知佛道之極際。曰浩初以子厚儒生。未可語以深妙。故以易論語要義比況之。俾其易領耳。柳子既有所發。故復欲以此警退之之不逮。非從易論語中說。則儒人未易領也。然子厚自此卒能優入此宗。故

其送元舉序云。佛之道大而多容。無姓碑云。紹承本統以順中道。送重巽師序云。吾自幼學佛。求其道三十年。吾獨有得焉。此未可以易論語裁量之也。嗚呼退之之斥佛。非柳子不足以責。今以浩初序章句以釋之。將以廣柳子之能言也。

韓愈斥潮州。第四女孥年十二死於道。瘞商南山下。及後為京兆。歸其骨於河陽韓氏墓。為壙文曰。愈為少秋官。言佛夷鬼其法亂治。梁武事之。卒有侯景之敗。可一掃去不使瀾漫。天子謂其言不祥。斥之南海揭陽之地。

述曰。退之鄙佛為夷。專責梁武事佛及禍。以警當年之君上。而退之終罹斥逐之禍。何其速哉。梁武住世應真示現君主。誌公傳大士共相施化。豈世儒所能測識哉。

韓愈讀墨子云。儒墨同是堯舜。同非桀紂。同修身正心。以治天下國家。奚不相說如是哉。予以為辨。生於末學。各務其師之說。非二師之道未然也。孔子必用墨子。墨子必用孔子。不相用不得為孔墨。

藏六祖秀禪師作歐陽外傳。記祖印與永叔論道。因錄古人非韓者。略出王荊公蘇東坡龍先生嵩明教之說。荊公曰。人有樂孟子之距楊墨而以斥佛老為己功。嗚呼莊子所謂夏蟲者。其斯人之謂乎。道歲也。聖人時也。執一時而疑歲者。終不聞道矣云云。東坡曰。退之之與聖人之道。蓋亦知好其名矣。而未能樂其實。何者其為論甚高。其待孔子孟子甚尊。而距楊墨佛老甚嚴。此其用力亦不可謂不至矣。然其論至於理而不精。支離蕩佚。往往自叛其說而不知。云云。西蜀龍先生作非韓百篇。其略有云。孟郊失三子。退之與詩曰。失子將何尤。吾將尤上天。汝實主下

土。與奪一何偏。彼於汝何有。乃令蕃且延。此獨何罪辜。生死旬日間。詩三百下以風刺上。刺於至不仁也。其辭不怒。孰有怨天而侮訕之者。其勇於毀佛老蓋可見矣。今錄十許條云。佛老大聖。斥為夷狄(原道)孔墨異道。今云本同。反孟玷孔(讀墨子)道本同教常異。儒教經世佛老教出世。退之主經世以廢出世。未足知道(原道)性本一。今言三品五性。未足知性(原性)人為貴。今以夷狄禽獸同人乎(原人)先朝迎佛骨。而升遐近於幸災(直諫表)左遷潮陽。而勸封禪近於獻諂求入(賀尊號表)畏修史之禍而勇於排佛(答劉秀才書)為駁雜之說而好為博塞(駁雜如毛穎傳。迭窮文之類。博塞見張藉書)嵩明教非韓三十篇。其言曰。舊唐史謂。韓子性偏僻。剛訐於道。不弘考其書。觀其行誠然耳。欲韓如古人從容中道。固不逮也。宜乎。識者謂韓第文辭人耳。夫文所以傳道也。道不至雖甚文奚用。學者不能考。而徒效其文。以譏沮二教聖人為已能。故為書

以辨之。以正夫天下之好毀者(云云。其條攻之辭大略如龍先生)東坡曰。昔之為性論者多矣。而不能定於一。始孟子以為善。荀子以為惡。楊子以為善惡混。而韓愈者又取夫三子之說而折之。以孔子之論。離性以為三品。曰中人可以上下。而上智與下愚不移。以為三子者。皆出於其中而遺其上下。嗟夫是未知乎所謂性者。而以夫才者言之。夫性與才相近而不同。聖人之所與。小人共之。而皆不逃焉。是真所謂性也。而其才固將有所不同。天下之言性者。皆雜乎才而言之。是以紛紛而不能一也。孔子之所謂中人可以上下。而上智與下愚不移者。是論其才也。至於言性則未嘗斷其善惡。曰性相近也習相遠也而已。韓愈之說則又有甚者。離性以為情。而合才以為性。是故其論終莫能通。

賈島初為浮圖。名無本。來東都時禁僧午後不得出。島為

詩自傷。韓愈因教其為文。遂去浮圖舉進士。有李洞者。
慕島為詩。鑄像以事之。嘗稱賈島佛。

佛祖統紀卷第四十一(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十二

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志十七之九

穆宗(恒憲宗第三子)

長慶元年。上親製南山律師讚曰。代有覺人為如來使。龍鬼歸降天人奉事。聲飛五天辭驚萬里。金烏西沈佛日東舉。稽首歸依肇律宗主(至今律宗。修忌之日。用以稱讚)○幽州節度使劉總上表請出家。帝不許。總乃以印付留。後自剃髮為僧。以私第為寺。帝乃從其志。封為大覺

師。賜僧臘五十。寺名報恩○河東節度使裴度奏。五臺佛光寺慶雲見。文殊大士乘師子於空中。從者萬眾。上遣使供萬菩薩。是日復有慶雲見於寺中 勅龍興寺沙門惟英。充翰林待詔兩街僧統。

二年。汾陽無業禪師(見馬祖)凡學者致問必答之曰。莫妄想。憲宗屢遣使召。皆辭以疾。上即位思一瞻禮。至是遣兩街靈臯。齎詔迎請。師笑謂眾曰。吾從別道去矣。中夜集眾說法。端坐而逝。勅諡大達國師○中書舍人白居易知杭州。往問道於鳥窠禪師。師曰。諸惡莫作眾善奉行。居易曰。三歲孩兒也恁麼道。師曰。三歲孩兒雖道得。八十老翁行不得。居易服其言。作禮而退(師名道林見徑山欽禪師)。

四年。沙門惠皎於杭州西湖孤山鑄石壁法華經。刺史白居

易。九人助其功。宰相元稹(音軫)為之記有云。佛法之奧妙。僧當為余言。余不當為僧言○白居易至廬山見歸宗常禪師值師泥壁。問曰。君子儒小人儒。居易曰。君子儒。師打泥朽一下。居易遂過泥。師接得便用。良久云。莫便是快俊底白侍郎麼。居易云。不敢。師云。祇有過泥分○中書令王智興。請於泗州建方等戒壇。遇聖誕之日許以度僧。制可。浙西觀察使李德裕上書。以為所度無算。江淮失丁男數十萬。帝不納。

敬宗(湛穆宗長子)

寶歷元年。勅兩街建方等戒壇。左街安國寺。右街興福寺。以中護軍劉規充左右街功德使。擇戒行者為大德。令試童子能背誦經百五十紙。女童誦百紙者。許與剃度。

二年。勅沙門道士四百餘人。於大明宮談論設齋○上幸興福寺。觀沙門文敘講經。上稱善○白居易述華嚴經社記云。杭州龍興寺沙門南操。因靈隱道峯法師講華嚴世界品。遂發願。勸黑白十萬人持華嚴經一部。十萬人復勸千人諷華嚴經一卷。每歲四季眾會具齋。操捧香跪啟於佛曰。願於未來世華嚴藏世界大香水海上寶蓮金輪中毘盧遮那佛前。與十萬人俱。乃於眾中率財置田千頃以給齋用。來求記於予。曰予即十萬人中一人也。

文宗(昉穆宗次子)

大和元年十月。誕節詔祕書監白居易。安國寺引駕大師義林。上清宮道士楊弘元。於麟德殿談論三教(樂天文集具有問答)○沙門善信大師學於馬祖悟佛法大意。後往五臺修無礙供。久之見老父謂曰。師之大緣當在隨洪。師依教至大

洪山。適居人以牲物禱雨於山之龍池。師止之曰。勿殺而牲。吾當為汝禱。乃登山宴坐甘雨霈然。有張武陵父子。率眾禮謝。為建道場。至是年忽示眾曰。種種供養不若以身供養。乃以利刃斷左右足置几上。白乳流涌。門人哀號奪去其刃。師不起於座遂入涅槃。張氏父子侍立左右。脫然解化。人服靈相。謂之大聖二聖云。山南節度使崔公。遣官修供。以金泥傳其身。上聞之。賜所居號幽濟院。自是諸郡有禱。靈響如答。

二年。江西觀察使沈傳師。請於洪州建方等戒壇。以聖誕度僧。制答曰。此因國事暫免度僧。勅命已下而傳師違禁。申請宜罰。奉一月以示不允。

三年。沙門清晃等於姑蘇法華院刊石壁法華經等八部。郡刺史白居易為之記。

四年。祠部請令天下僧尼非正度者。許具名申省給牒。時入申者七十萬人○引駕大師義林奏修慈恩塔。開冢之日異香襲人。真身側臥甌臺。具四十齒。容相如生甌上金色苔厚二寸。如瑞芝狀○修法師於天台禪林寺。為物外法師說止觀法門。

五年勅天下州郡造僧尼籍。

八年十二月。池州南泉普願禪師亡(見馬祖)師居南泉三十年。觀察使陸亘。請入郡伸弟子禮亘曰。弟子亦薄會佛法。師曰。大夫十二時中作麼生。亘曰。寸絲不挂。師曰。猶是階下漢。陸亘見人雙陸拈起骰子云。恁麼不恁麼。祇恁麼信彩去時如何。師拈起云。臭骨頭花十八。亘曰。肇法師甚奇怪解道。天地同根萬物一體。師指庭前牡

丹花云。人見此一株花如夢相似○澧州藥山惟儼禪師亡。
諡弘道大師(見石頭)。

九年。岐山法門寺佛骨塔慶雲見○四月翰林學士李訓。請
罷長生殿內道場。沙汰僧尼偽濫者。是日大內靈像夜大風
含元殿四鴟吻皆震墜。拔殿前樹者三。壞金吾仗館舍內外
標觀城門數十所。光化門西城俱壞。士民震恐。帝以訓所
請忤天意。亟下勅停前沙汰。復立大內儀像。風始息(舊史
五行志)七月李訓請令天下僧尼試經業不中格者罷之。十一
月李訓坐謀誅宦官。斬首於昆明池。勅免僧尼試經○八月
詔沙門宗密(號圭峯六祖旁出第六世)入內殿問佛法。賜紫
方服。

開成元年正月。左街僧錄內供奉三教談論。引駕大師。悟
達法師端甫。右脇而滅荼毘得舍利三百粒。師表率清眾。

十有一年。弟子傳業者千餘人。史館修撰裴休撰碑銘○勅沙門雲端充左右街僧錄○上嘗謂近臣曰。天下有無補教化而蠹食於國者。卿等可悉言之。有對者曰。祖宗已來廣行佛教。緇徒益多。茲為蠹物耳。上即勅中外罷緇徒講說佛經。會尚食厨羞御膳烹鷄子。忽聞鼎中有聲極微。聽之乃群卵呼觀世音菩薩。悽愴之甚。監宰以聞。帝遣驗之果然。帝歎曰。吾不知佛道神力乃能若是。勅自今不得用鷄子。又一日食蛤蜊。有擘不開者。焚香禱之。俄變為大士形。帝召終南山惟政禪師問之。師曰。夫物無虛應。此蓋廣陛下信心耳。經云。應以此身得度者。即現此身為說法。帝曰。大士以現未聞說法。師曰。陛下覩此。為常為非常。為信為非信。帝曰。希有之事焉得不信。師曰。已說法竟。帝大悅。即詔天下寺院立觀音像。勅師住聖壽寺。至武宗即位。乃入終南山隱居。人問其故答曰。吾避仇耳(五祖旁出)。

三年三月。清涼國師澄觀示寂。上輟朝三日。重臣縞素勅葬終南山石室。師歷九朝為七帝門師。身長九尺四寸。手垂過膝。才供二筆日記萬言。宿不離衣。盡形一食。宰相裴休奉勅撰碑。

四年。中書奏。誕節令宰臣百僚詣寺設千僧齋。詔許之。時名僧俱會。士民縱觀莫不傾敬。

五年正月。圭峯禪師宗密亡。宰相裴休撰碑。

武宗(炎穆宗第五子)

會昌三年。上欲芟夷釋氏。詔令兩街述有佛以來興廢之際有何徵應法寶大師玄暢。撰三寶五運圖以上○勅天下末尼

寺並令廢罷。京城女末尼七十人皆死。在回紇者流之諸道。死者大半。

四年正月。上以齋月斷屠出自釋教嫌之。勅今後唯禁歲旦三元日國忌日。

五年正月。趙歸真請與釋氏辨論。詔僧道會麟德殿。上手付老子。論治大國若烹小鮮義。知玄法師登論座。大陳帝王理道教化根本。辯說精壯道流不能屈。因為上言。神仙羽化山林匹夫獨善之事。非帝王所宜留神。帝色不平放還桑梓。帝作望仙臺於南郊。歸真乘寵排毀佛道。非中國所當奉。宜從除削。臣僚皆言。歸真姦邪不宜親信。歸真自以已涉物論。乃薦引羅浮鄧元超等。同力膠固謀毀佛法。四月詔檢校天下寺院僧尼數。五月勅兩都左右街。留寺四所僧各三十人。天下州郡各留一寺。上寺二十人。中寺十

人。下寺五人。八月勅諸寺立期毀拆。括天下寺四千六百所。蘭若四萬所。寺材以葺廨驛。金銀像以付度支。鐵像以鑄農器。銅像鐘磬以鑄錢。收良田數千萬頃。奴婢十五萬人。僧尼歸俗者二十六萬五百人。穆護火祓並勒還俗凡二千餘人。宰相李德裕。率百官上表稱賀○五臺諸僧多亡奔。幽州李德裕謂進奏官曰。歸白本使毋聽遊僧入境。節度使張仲武奉其命。主客郎中韋博謂德裕曰。沙汰之法不宜太過。德裕怒出博武陵判官。

六年。長安有人夜行。經周穆王陵。見人從空中下。朱衣執版。宣言冢尉何在。二吏從墓出曰。在此。朱衣曰。錄西海君使者何時當至。吏曰。計程可十八日。朱衣曰。何稽留若此。吏曰。李炎坐毀佛教奪壽去位。當與西海君同錄其魂。有賈客鈴聲東來。朱衣二吏忽不見。後數日上果病崩(太平廣記)○太子賓客盧貞有子。嘗為僧。因沙汰授

光王府參軍。一夕夢前師至其家。盧告曰。卑官屑屑非所願也。再思披緇未知何日。師曰。興復在即汝宜堅志。俄見旌旆萬騎傳呼而至云。迎光王為天子(通紀)○五月勅楊欽義充兩街功德使。令兩街各增八寺。所度僧尼仍令祠部給牒○勅列聖忌辰並詣僧寺。行香一如舊典。以道士惑亂先朝毀除佛教。勅功德使楊欽義。捕趙歸真劉元清鄧元超等十二人。並集朝堂誅之。陳其屍首。

宣宗(忱憲宗十三子)

大中元年三月。勅會昌季年并省寺院。釐革過當。其靈山聖境。如有宿舊名僧能修創者。所司不得禁止○李德裕專權日久。帝惡之貶潮州司馬。頃之再貶崖州司戶。惡疾而卒。初是有僧通宿世事。謂德裕曰。公當萬里南行平生食萬羊。今九千五百矣。羊未盡猶有還日。德裕曰。吾嘗夢

行晉山。見山上盡目皆羊。牧人曰。此公平生所食也。後旬日振武節度使李暨饋羊四百。僧曰。萬羊將滿。公其不還。後果卒於朱崖。

述曰。自古人君之毀佛者。必有臣佐以濟其事。故魏太武以崔浩。周武以張賓衛元嵩。唐武以李德裕趙歸真。卒使大法被辱君臣俱蒙惡報。何彼此之不幸歟。至若舉行沙汰。如桓玄之在晉世。傅奕之在唐朝。姚崇之在明皇。李訓之在文宗。然皆牽於時事既行而復厄。以故一時小厄不若三武為禍之酷也。若周世宗天性毀佛。而不得其佐。韓愈歐陽修天性排佛。而不逢其君。使世宗得崔浩。則案誅沙門當有甚於太武之虐。使韓歐逢三武。則毀像滅僧。當不減於崔李之酷。崔浩腰斬。德裕竄死。不令之終亦足為報。魯直謂。退之見大顛排佛為沮。祖秀謂。永叔見圓通排斥內銷。維韓與歐獲善於後。亦由知識道力有以回之。

耳。

統左禁軍楊漢公。以策定功請復佛教。乞訪求知玄法師。於是復僧。入居寶應寺。屬壽昌節講讚署三教首座。帝以舊邸造法乾寺。命師居之。○白居易香山寺。自稱香山居士。嘗述讚曰。十方世界。天上天下。我今盡知。無如佛者。魏魏堂堂。為人天師。故我禮足。讚歎歸依。會昌初有客舟遭風漂至大山。一道士曰。此蓬萊山。一院扃鑰甚固。曰此白樂天所居。在中國未來耳。樂天聞之為詩曰。吾學真空不學仙。恐君此語是虛傳。海山不是吾歸處。歸即須歸兜率天。樂天嘗立願曰。吾勸一百四十八人同為一志。結上生會行念慈氏名。坐想慈氏容。願當來世必生兜率。晚歲風痺。命工畫西方淨土。無諸惡道及眾苦。願如我身老病者。同

生無量壽佛所。一夕念佛。倏然而化。

二年。勅上都東都荊揚汴益等州。建寺立方等戒壇。為僧尼再度者重受戒法。五臺山建五寺。各度僧五十人。

述曰。案僧史略云。取大乘方等不拘根闕緣差但發大心並皆得受。會昌沙汰僧尼在俗。寧無諸過。先令懺罪後增戒品。自非方等豈容重受。

宣州刺史裴休言。天下寺觀多為官僚寄客蹂踐。今後不得在寺居止。違者重罰。制可○安國寺沙門修會。以能詩應制。嘗從上乞紫衣。上曰。不於汝吝。但汝相有闕故耳。及賜一夕暴亡。

三年正月齋日。四明道俗八千人。於阿育王寺供養佛舍利

塔。感天華紛墜有如雪色。至手即融。入夜放五色光明。
大眾喜躍。明年有新羅僧夜盜塔手擎。遶亭而行。不離本
處。為眾所覺。勅沙門靈晏為左右街僧錄○壽昌誕節勅諫
議李貽孫法師知玄。同道士於麟德殿談論三教。玄奏宜大
復天下廢寺。帝素重師德。命圖形置禁中。

四年。勅杭州鹽官齊安禪師院。賜名齊豐寺。初帝為光
王。武宗忌之。拘於後苑。將見殺。中官仇士良詐稱光王
墜馬死。因脫身遁去。至香嚴閑禪師會下。剃髮作沙彌。
同遊廬山。閑師題瀑布云。穿雲透石不辭勞。遠地方知出
處高。閑方停思。沙彌續之云。溪澗豈能留得住。終歸大
海作波濤。閑始知非常人。後至鹽官海昌見齊安禪師。自
稱有光。安奇之。即命為書記。時黃檗運禪師為首座。一
日拜佛光。問之曰。不著佛求用禮何為。運便掌。又問。
不著佛求常作如是事。運又掌。光曰。太粗生。運又掌。

曰者裏說恁麼粗細。安師一朝謂之曰。時節至矣。毋滯蟠泥。乃以佛法為囑。未幾武宗崩。百官迎王即位。屢遣使以師禮召安。安力辭。及終勅諡悟空禪師。上賜黃檗為粗行禪師。裴休奏改為斷際(雪竇頌黃檗云大中天子曾輕觸。三度親遭弄爪牙。是也)○日本國遣沙門常曉。入中國求釋迦密教。

五年。勅天下州郡國忌行香。不得携酒肉入寺○召京兆薦福寺弘辨入見。上問曰。何為頓見何名漸修。對曰頓明自性與佛同儔。然有無始染習故假漸修對治。令順性起用。如人喫飯不因一口便飽。帝說。賜號圓智禪師○六月京城進士孫樵上書言。百姓男耕女織不自溫飽。而群僧安坐華屋美食有餘。率以十戶不能養一僧。武宗憤其然。髮二十七萬僧。則天下二百七十萬人。始得蘇息。陛下縱不能如武宗除積弊。柰何興之於已廢之後乎。願詔僧未復者勿

復。寺未修者勿修。帝怒不納○九月婺州女子。曾志願開雙林大士塔。見頂足連環齒牙不壞。迎出塔供養四十九日。復藏於塔。

六年。詔重建廬山東林寺。追諡遠法師曰辯覺。會昌毀寺二僧負文殊像。藏之錦繡谷之峯頂。至是寺復訪之不獲。二僧相疑以為匿去。忽見圓光瑞相涌於空表。自是峯頂佛手巖天池常見光相。云天池者崇峻尤甚。去東林三十里。夜間見空中聖鐙自遠而至。初明一炬。頃之至百千萬鐙。或雲中見文殊大士。出沒無常。至心禮叩必見聖相○宰臣言。度僧不精則戒法墮壞。造寺無節則費財過多。乞今後勝地名山許令修建。復舊宮度僧尼。仰本州律師精擇有道性者。制可。

七年。潭州瀉山靈祐禪師示寂。諡大圓禪師(見百丈)。

八年勅三教首座辯章充左街僧錄。沙門僧徹充右街僧錄○
潭州岳麓寺沙門疏言(疎同)往太原求大藏經。河東節度使
司空盧鈞。副使韋宙。以經施之。節度巡官李節為之記
曰。儒學之人喜排釋氏。其論必曰。禹湯文武周孔之代皆
無有釋。釋氏之興源於漢。流於晉。瀰漫於宋魏齊梁陳隋
唐。此衰世之所奉也。宜一掃絕之使不得滋。論者之言粗
矣。吾請精而言之。昔有一夫膚腠而色和。神清而氣烈。
怡然保順。醫與禱無用也(粗倉胡切腠音突肥也)復一夫而
有風濕之痼。背癱而足蹇。耳聵而目瞑。於是用攻熨焉事
襁褓焉。是二夫者胡相反耶病不病異耳(蹇音壁。不能行。
聵五怪切。耳聵。瞑莫定切。目閉也)嗚呼三代之前世康
矣。三代之季世病矣。三代之前禹湯文武。德義播之。周
公孔子。典教持之。道風雖微猶有漸漬。以故詐不勝信。
而惡知避善也。暨三代之季。風俗大敗。詐力相乘。廢井

賢之教。志氏之。釋氏之。其釋氏之。肆也。以干戈救世。為難。何眾見。是也。以醫藥。其宮牆之。徹其命。御史乘。邪怨也。息。所以世之。詬其廢棄。分。宇。詔。復。無。遺。勝。遊。也。姦為怨。息。聖人衰。疾。一。釋。投。下。也。焚。徹。寺。爭。而。可。也。此。佛。不。之。而。欲。剪。者。天。廢。旨。道。戰。而。爭。安。別。論。抱。病。益。而。大。素。是。不。嚴。事。仇。怨。得。有。別。今。憐。大。益。而。大。素。是。不。嚴。日。相。怨。得。有。別。今。憐。大。益。而。大。素。是。不。嚴。宅。上。抑。可。得。有。別。今。憐。大。益。而。大。素。是。不。嚴。土。故。自。貴。賤。庶。之。是。不。為。口。實。而。大。素。是。不。嚴。貪。以。和。則。君。臣。安。救。世。行。化。者。昌。言。罪。之。釋。氏。經。并。身。分。則。君。臣。安。救。世。行。化。者。昌。言。罪。之。釋。氏。經。兼。其。居。為。安。則。君。臣。安。救。世。行。化。者。昌。言。罪。之。釋。氏。經。務。容。自。達。安。釋。氏。之。徒。為。救。世。行。化。者。昌。言。罪。之。釋。氏。經。唯。能。清。淨。窮。貴。不。釋。氏。之。徒。為。救。世。行。化。者。昌。言。罪。之。釋。氏。經。則。不。清。淨。窮。貴。不。釋。氏。之。徒。為。救。世。行。化。者。昌。言。罪。之。釋。氏。經。田。士。以。言。不。也。而。人。之。蕃。其。容。驛。掃。自。故。今。明。命。雖。頒。莫。能。得。其。經。籍。。

有釋疏言獨曰。太原府國家舊都佛祠為最多。大帥司空盧公天下仁人。我第往求遺書或可得也。既上謁軍門。公果諾之。四馳以求逸文。月未幾得經律論五千四十八卷。輦而歸。嘻釋氏救世之道。既言之矣。向非我明君洞鑑理源。何能復行其道。非司空公克崇大法。何能復全其書。非沙門疏言深識法運。何能不憚遠求以遂茲盛典。奉聖上之令興釋氏之宗。惠及後人。其功用有不可勝言者。可無記焉。

述曰。此文立言建理。足以曉世之不知佛者。使退之見之當愧服不暇。子厚浩初序。徒云與易論語合而不能如此明言救世之功。然則此記殆過之矣。李節名微唐史無聞。

九年。洪州黃檗希運禪師示寂。諡斷際禪師。師得法於百丈。相國裴休守新安。請師入郡。咨問禪法執弟子禮。以

所聞述傳心法要行於世(南岳下第四世)。

十年。勅每歲度僧依本教於戒定慧三學中。擇有道性通法門者度之。此外雜藝一切禁止。

十二年。勅天下諸寺修治諸祖師塔○日本國沙門慧鑒。禮五臺山得觀音像。道四明將歸國。舟過補陀山附著石上不得進。眾疑懼禱之曰。若尊像於海東機緣未熟。請留此山。舟即浮動。鑒哀慕不能去。乃結廬海上以奉之(今山側有新羅將)鄞人聞之。請其像歸安開元寺(今人或稱五臺寺。又稱不肯去觀音)其後有異僧。持嘉木至寺。倣其製刻之。扃戶施功彌月成像。忽失僧所在。乃迎至補陀山。山在大海中。去鄞城東南水道六百里。即華嚴所謂南海岸孤絕處。有山名補怛落迦。觀音菩薩住其中也。即大悲經所謂補陀落迦山觀世音宮殿。是為對釋迦佛說大悲心印之

所。其山有潮音洞。海潮吞吐晝夜砰訇。洞前石橋。瞻禮者至此懇禱。或見大士宴坐。或見善財俯仰將迎。或但見碧玉淨瓶。或唯見頻伽飛舞。去洞六七里有大蘭若。是為海東諸國朝覲商賈往來。致敬投誠莫不獲濟(草菴錄)。

十三年。上餌道士丹疽發於背。八月帝崩。

述曰。武宗毀佛信道餌丹發背而殂。世方以之為戒。宣宗避仇為僧。卒登寶位。憤會昌之沙汰誅竄李趙。立方等戒壇令僧尼重受戒法。其意甚至。至末年復用道士服。餌金丹疽發於背。其過在於好求長年而不達世相無常之義。故終蹈其禍為後人笑云。

懿宗(淮宣宗長子)

咸通三年。勅兩街四寺各建戒壇度僧。帝於禁中設講座自唱經題。手錄梵文。數幸諸寺行施。

六年。朗州德山宣鑒禪師示寂。諡見性禪師(見龍潭清源第五世)。

七年。臨濟義玄禪師示寂。諡慧照禪師。學者稱臨濟宗(見黃檗南岳第四世)。

八年正月。永州湘山全真禪師端坐示寂。師郴人。遊方至湘山創梵宇曰淨土。四方禪眾雲集受教。會昌初忽謂其徒曰。僧當厄難宜易衣冠。一夕髭髮俱長。披紫霞衣曰無量壽衣。頂青空冠曰真空法冠。既而武宗果去浮圖。宣宗復佛法。師不復去衣冠。世稱無量壽佛化現至此。

十年。瑞州洞山良玠禪師示寂。諡悟本禪師(見雲巖清源第五世)○勅追諡南山道宣律師曰澄照。

十一年。相國裴休薨。休學於黃檗得其旨。平居不御酒肉。作勸發菩提心文以激發世人。著釋氏文。若圓覺經法界觀禪源詮諸序。世服其精要○十一月延慶節。勅兩街入麟德殿講論佛法。賜左街僧錄清蘭慧照大師。右街僧錄彥楚明徹大師○上素聞雪峯義存禪師名。勅賜真覺大師。師居山四十年。法席冠天下。眾至一千五百。閩王王氏事以師禮(見德山清源第六世)十二年。上幸安國寺賜知玄國師沈香寶座○上於禁中設萬僧齋。自升座為讚唄。有長眉梵僧來應供。受嚩畢陵空而去(即賓頭盧)。

十四年三月。造浮圖寶帳綵幡華蓋。勅兩街往鳳翔迎佛骨。三百里間車馬不絕。群臣諫者至言。憲宗迎佛骨尋時

宴駕。上曰。朕生得見之死無所恨。四月八日佛骨至。導以禁兵公私音樂儀衛之盛。過於南郊。帝御安福門。降樓迎拜。賜沙門及耆老曾見元和奉迎者金帛有差。佛骨留禁中三日供養。迎置安國崇化二寺。令士庶得瞻禮。十二月如前禮迎佛骨還鳳翔。

僖宗(僖懿宗第五子)

乾符三年。外法師於國清為元琇法師說止觀法門○泉州龜洋無了禪師塔全身二十載。為山泉淹沒。門人發視不壞。閩王聞之。遣使舁入府庭供養。忽臭氣遠聞。王焚香祝之。可還龜洋舊址建塔。即異香普熏。傾城瞻禮本道奏。上賜諡真寂大師。塔曰靈覺。弟子慧忠遇澄汰終於白衣。葬師塔東。今龜洋一真身士民依怙。若僧伽之遺化。

中和元年。黃巢犯長安。自號大齊。上幸成都。詔知玄國師赴行在所引對大說。上自製號悟達國師。留行宮久之辭歸九隴。定中見菩薩摩頂說法。言訖即隱。俄見一珠入玄左服。隆起痛甚。上有晁錯二字。玄知夙業。即右脇安臥而逝。世言玄之前身乃漢川三學山知鉉法師。臨終感病與今正類(漢書。文帝時吳太子入見。得侍皇太子。飲傳爭道不恭。皇太子引博局提殺之。吳王由此稱疾不朝。始有反謀。太子家令晁錯數上書言。吳過可削。文帝寬不忍罰。及景帝即位。錯說上曰。吳王前有太子之却。誘天下亡人謀作亂。令削之亦反。不削亦反。及楚趙膠西三王皆以罪削郡縣。廷臣方議削吳。吳王因遣使。約七國俱反。以誅錯為名。吳相袁盎入見。上方與錯調兵食。上問盎。盎願屏左右。錯趨避東廂甚恨盎。對曰。吳楚相遺書言。賊臣晁錯擅適諸侯削奪其地。以故反。欲共誅錯復故地。方今計獨有斬錯發使赦七國復其故地。則兵可毋血刃而俱罷。

上良久曰。吾不愛一人以謝天下。上令丞相劾奏錯要斬東市)隆興琇師曰。世稱知玄是袁盎後身。自漢文至僖宗七百餘年。盎償錯亦應畢矣。今尚蒙惡報而斃何哉。蓋盎與錯始有私憾。及錯議削七國而七國畔。盎因此時請遂斬錯。景帝畏而從之。終非本意。及錯誅而七國之兵不退。則是盎假畔人以報私憾耳。是宜歷十生而宿對相尋不已。可不畏哉。

述曰。周武廢佛。法師知玄抗辨精壯。帝不能屈。唐武沙汰法師。知玄登論座。道流不能屈。兩世俱名知玄。俱遇廢教。俱在朝為法師。俱當辨論之席。意師有宿誓使之然乎。至為三學山知鉉亦不異此名也。觀其三世為有道沙門。而酬償宿報未已者。當是晁錯趨東廂以避盎。時此心已深恨。而載赴東市以就誅。時此心必大恨意。臨刑之際必起惡願為世世之報。故每當法師舍壽之日。必見此相

者。亦玄師道力轉為輕受之報也。天珠者誅也。昔盎請誅錯。今錯亦誅盎。玄袁也。寓名以見本年之姓。異哉。

三年。泰山沙門大行誦彌陀經。至三七日。忽於夜中見流離寶地寶臺之上佛及二大士無數化佛咸現其前。上聞殊異。詔入內。問所見賜號常精進菩薩。爵開國。

四年。泗州刺史劉讓言。修僧伽弟子木叉塔。得舍利八百粒進上。詔以其骨塑為像。諡曰真相。

昭宗(護懿宗第七子)

龍紀元年。聖誕勅兩街僧道入內殿談論○琇法師於國清為清竦法師說止觀法門。

大順二年。袁州仰山慧寂禪師入寂。師稟法為潯山。世稱潯仰宗。初領徒住王莽山一日禪床陷於地。山神者以不堪居止。東南有大仰山。為世福地。遂遷居焉。久之眾盛居隘。山神一夕移廟於堵田三十里。以避之(南岳下第五世)。

景福元年。吳越王錢鏐於剡縣石城山建瑞相寺。以奉彌勒三生石像。

乾寧二年。文矩禪師謁西院大安禪師。遙見笑曰。入涅槃堂去。師應諾。即入。時五伯僧俱染時疾。師以杖次第點之。隨點而起閩王敬異創國歡院以居之。

三年。勅於羅什法師譯經處。重建草堂寺○四年。趙州觀音院從諗禪師示寂。壽百二十。諡真際禪師(見南泉。南岳

第四世)○趙帥王公入院瞻禮。趙州坐而問之曰。大王會麼。王云。不會。師云。自小持齋身已老。見人無力下禪床。王尤加禮。翌日令客將傳語。師下床接之。侍者問其意。師曰。第一等人來禪床上接。第二等人來下禪床接。末等人來山門外接○勅沙門覺暉為左右街副僧錄(副職始此)。光化二年。撫州言。曹山有梵僧群集山頂。鄉民追之。皆飛行而去。遺其笠製甚奇古勅於其地建荷玉禪寺。

天復元年。山賊許恩作亂。至杭州徑山發國一禪師塔。見二甕合藏肉身髮長覆面。賊兵皆驚走。吳越王命重瘞之。

二年。洪州雲居道膺禪師示寂。諡弘覺(見洞山。清源第六世)。

三年。撫州曹山本寂禪師示寂。諡元證。師得法於洞山。

世稱曹洞宗云○京兆鰕子和上。自印心於洞山。混迹閩中。日沿江岸拾鰕蜆以充食。暮臥白馬廟紙錢中。華嚴靜禪師夜入紙錢伺之。師至。靜把住問曰。如何是祖師西來意。師云。神前酒臺盤。靜禮謝而退。後入京師佯狂人間。神異莫測○韶州雲門文偃禪師聚徒千人。漢主劉氏召入內殿(都廣州)咨問法要。事以師禮。師得法於雪峯。號雲門宗(清源第七世)。

景宗(机昭宗第九子)

天祐元年。誕節勅天下寺觀設齋。民間禁屠釣○呂洞賓遊華山。遇鐘離權授金丹及劍法。後過鄂州黃龍山。值機禪師上堂(清源八世)毅然問曰。一粒粟中藏世界。半升鐺內煮山川。此意何如。師曰。守屍鬼。洞賓曰。爭柰囊中有不死丹。師曰。饒經八萬劫終是落空亡。賓不服。夜飛劍

以脇之。師已前知。以法衣蒙頭坐方丈。劍遶數匝。師手指之即墮地。賓前謝過。師詰之曰。半升鐺內即不問。如何是一粒粟中藏世界。賓忽有省。乃述偈以為謝曰。自從一見黃龍後。始覺從前錯用心(仙苑遺事)。

五代梁(都洛陽)

太祖(朱溫賜名全忠)

開平元年。勅僧尼改屬祠部。

○泉州沙門智宣。往西竺求經。回詣闕進辟支佛骨貝葉梵經。

二年二月。雪峯義存禪師示寂。十一月玄沙師備禪師示

寂。師得法於雪峯。晚居玄沙。學徒千人。應機接物垂二十年。閩王待以師禮。及終賜諡宗一。

三年。大明節勅百官詣寺行香祝壽。

四年。吳王錢鏐幼子令因為僧。勅賜紫衣無相大師。加同三十臘。

末帝(瑱)

貞明元年。東塔院沙門歸序進經論會要。詔編入大藏。賜演教大師。

二年。吳越王鏐遣沙門清外同弟錢鐸。往四明阿育王山迎釋迦舍利塔。船泊西陵。塔夜放光浙江如晝。王躬迎至羅

坐廊東寺林中者。囑其穴。唯腹。所得中。看看。彌曰。者。不是。立。背。造。到。長。與。坐。者。視。額。乞。於。看。是。來。汝。手。又。撫。緣。浴。說。與。於。東。陽。契。此。見。物。袋。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。上。之。知。師。亡。此。見。物。袋。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。和。人。見。而。名。曰。麋。市。爭。掣。便。穢。師。云。復。縮。手。下。僧。前。行。化。布。袋。有。人。歸。而。稱。遊。化。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。布。袋。有。人。歸。而。稱。遊。化。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。奉。復。歸。自。稱。遊。化。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。明。既。持。從。荷。布。袋。逐。之。又。以。紙。包。便。穢。師。云。復。縮。手。下。僧。前。行。化。布。袋。有。人。歸。而。稱。遊。化。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。四。山。可。與。所。從。荷。布。袋。逐。之。又。以。紙。包。便。穢。師。云。復。縮。手。下。僧。前。行。化。布。袋。有。人。歸。而。稱。遊。化。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。○。封。來。不。知。所。從。荷。布。袋。逐。之。又。以。紙。包。便。穢。師。云。復。縮。手。下。僧。前。行。化。布。袋。有。人。歸。而。稱。遊。化。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。養。於。履。初。至。不。知。所。從。荷。布。袋。逐。之。又。以。紙。包。便。穢。師。云。復。縮。手。下。僧。前。行。化。布。袋。有。人。歸。而。稱。遊。化。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。供。葬。隻。師。驗。有。十。六。群。兒。飯。菜。肉。瓦。石。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。陳。化。持。隻。師。驗。有。十。六。群。兒。飯。菜。肉。瓦。石。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。廣。而。誤。焉。皆。驗。有。十。六。群。兒。飯。菜。肉。瓦。石。等。物。撒。下。云。等。人。云。汝。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。寺。上。我。在。吉。凶。入。袋。中。出。鉢。孟。木。履。者。个。是。甚。麼。僧。問。作。麼。接。意。師。放。下。布。袋。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。漢。盤。云。隻。履。言。之。打。開。袋。又。一。勒。來。个。僧。云。僧。回。首。不。得。汀。寺。上。我。在。吉。凶。入。袋。中。出。鉢。孟。木。履。者。个。是。甚。麼。僧。問。作。麼。接。意。師。放。下。布。袋。又。手。又。撫。緣。浴。說。與。

人。師常經蔣念摩訶般若波羅蜜。故人間呼為摩訶居士云。師昔遊閩中。有陳居士者。供奉甚勤。問師年幾。曰我此布袋與虛空齊年。又問其故。曰我姓李。二月八日生。晉天禮初。莆田令王仁於閩中見之。遺一偈云。彌勒真彌勒。分身千百億。是時示時人。時人俱不識。後人有於墳塔之側得青[茲/瓦]淨瓶六環錫杖。藏之於寺。

四年。西天三藏鉢怛羅至蜀。自言從摩伽陀國至益州。途經九萬九千三百八十里。時蜀主王建。光天元年也。三藏自言。已二百七十歲。

述曰。此方往五天者有二道焉。其一為西北路。自敦煌陽關經西域諸國。過葱嶺雪山入北天竺境。自昔漢騰蘭西來。唐奘師等東往之所經由是也。其二為西南路。自南海發舶至佛逝國羯荼國。西北至耽摩國東天竺境(是東竺南

界。即海口升船歸唐之所)自昔梁達磨西來。淨三藏會寧東往之所遊歷者是也。今鉢怛羅至蜀之路。乃當正西。即張騫所謂大夏東南去蜀不遠之說。比之兩路宜應稍近。而今所經歷約十萬里者。當是山川盤折。風俗不通。取道紆回。故十有餘年方得至蜀。以故來者。僅一鉢怛羅。而此方絕無一人取此路也。

六年。陳州末尼聚眾反。立母乙為天子。朝廷發兵擒母乙斬之。其徒以不茹葷飲酒。夜聚淫穢。晝魔王踞坐。佛為洗足。云佛是大乘我法乃上上乘。其上慢不法有若此龍德元年。勅天下毋得私度僧尼。願出家者。入京城比試經業。

唐(都洛陽)

莊宗(李存勗)

同光元年。誕節勅僧錄慧江道士程紫霄。入內殿談論設千僧齋○鳳翔沙門道賢夢遊五竺見佛。指示此某國某聚落暨旦頓解五竺言音。傳粉壇法於世。人稱鳳翔阿闍梨法。清泰初。隨末帝入洛而終。塔於龍門。

二年。勅三聖慧然禪師入內殿。諮問禪法。上曰。朕下大梁收得一顆無價寶珠未有人酬價。然曰。請陛下寶看。上以手舒幞頭角。然曰。帝王之寶誰敢酬價。帝說。遂亡。勅謚廣濟大師通寂之塔。

三年。騎將史銀鎗有戰功隨駕入洛。忽悟禪道。乞出家名契澄。賜號無學大師。以其居為立德院。

明宗(亶莊宗義弟)

天成元年。誕節勅僧錄雲辯。與道士入內殿談論。

二年二月。帝每夕於宮中焚香祝天曰。某胡人因亂為眾所推。願天早生聖人為生民主。

三年。閩主王延鈞素敬佛。是年度僧二萬人○漳州羅漢院桂琛禪師示寂。師得法於玄妙。末帝朝諡真應禪師(清源八世)。

末帝(阿明宗養子)

清泰元年二月。功德使奏。每遇誕節乞令州郡奏薦僧尼。立講經禪定持念文章議論。為四科試其能否。制可(洪容齋

三筆引舊五代史)○建州崇安縣扣冰古佛名藻先。初見雪峰。携鳧此一包醬一罐以為獻。峯曰。包中何物。曰鳧。此何處得來。泥中。泥深多少。無丈數。還更有麼。轉深轉有。又問。罐中何物。師曰醬。何處得來。自合得。還熟也未。不較多。峯曰。汝異日必為王侯師。常夏月衣楮而坐。冬月扣冰而浴。因號扣冰。閩王延鈞請居瑞巖。經臨建州。刺史陳誨飯僧千人。問師曰。今日會中有異人乎。師曰。無有。明當為公致一大士。誨翌日具齋以俟。有老姥自外至。延居上席。飯訖竟去。師曰。此水藏菩薩也。有頃姥復來指師曰。辟支古佛何為饒舌。言訖不見。

二年。四明沙門子麟。往高麗百濟日本諸國。傳授天台教法。高麗遣使李仁日送麟還吳越王錢鏐令於郡城建院以安其眾。

晉(都汴)

高祖(石敬瑭)

天福二年。洛陽宣徽將朱崇。掘屋地得大石佛十軀。有碑云。唐垂拱六年造景福寺。崇大感寤。即舍所居以為寺○竦法師於國清為義寂法師說止觀法門。

三年。以楊光遠為天下功德使。凡寺院皆屬焉。

四年。勅國忌宰臣百僚。詣寺行香飯僧。永以為式。漢中沙門可洪。進大藏經音義四百八十卷。勅入大藏○杭州天竺山沙門道翬。獲奇木造觀音大士像。有沙門從勳。自洛陽持古佛舍利置豪相中。其後舍利常見於頂冠。肉髻白光煥發。大著靈感。

少帝(厘貴高祖從子)

開運元年。勅為高祖寫大藏經。奉安明聖寺以資鴻福○六月吳越王錢弘佐。遣僧慧龜往雙林開善慧大士塔。得靈骨十六片紫金色舍利無數。紫芝生於甕床。雙虎伏於壙下。祥雲蔽山甘雨灑地。乃奉迎舍利靈骨并淨瓶香鑪扣門椎諸物。至錢唐安光冊殿供養。建龍華寺。以其骨塑大士像。

三年。金陵上元縣人暴死。誤追入冥府。見唐先主被五木甚嚴。民大駭問。主何以如此。主曰。吾為宋齊丘所誤。殺和州降者千人。以冤被訴。民曰。臣誤追當還。主泣曰。吾囚此。聞鐘聲則苦暫息。汝歸語嗣君。凡寺院鳴鐘令延緩之。更能夠造一鐘。尤為濟苦。民曰。下人何以取驗。主曰。吾曾受于闐瑞玉大王。於瓦官寺佛左膝以香泥

藏之。時無知者。民既還而白。後主親詣瓦官剖膝。果得玉像。感泣慟[怡-台+辟]。即造一鐘於清涼寺。鐫其上云。薦烈祖孝高皇帝。脫幽出厄。以玉像建塔於蔣山。

漢(都晉陽)

高祖(劉暠本名知遠)

天福十二年。上柱國郭令威。立金剛般若經碑於壽春。

隱帝(承祐高祖猶子)

乾祐元年。吳越王錢俶。奉天台沙門德韻為國師。申弟子之禮。

二年。雲門文偃禪師坐逝。塔全身於丈室。

周(都汴)

太祖(郭令威)

廣順元年。李守正叛河中。太祖親征。往麻衣道者語趙普曰。李侍中安得久。城下有三天子氣。未幾城陷。時世宗與本朝太祖俱侍行。

二年。勅誕節。宰臣百僚詣寺觀建祝壽道場。

世宗(柴榮太祖養子)

顯德元年。齊州開元寺義楚法師。進所撰釋氏六帖。勅付

史館頒行。賜紫方袍。

二年四月。詔曰。釋氏真宗助世為善。將隆教法須辦否臧。自今不許私度僧尼。及親無侍養者不許出家。無勅寺舍並須停廢○九月以久不鑄錢。勅令除縣官法物軍器寺觀鐘磬鉞鐸之類。聽留外自餘民間銅器佛像。五十日內悉令輸官給其直。過期不輸五斤以上。其罪死。上謂侍臣曰。卿輩勿以毀佛為疑。夫佛以善道化人。苟至於善斯奉佛矣。彼銅像豈謂佛耶。且吾聞。佛志在利人。雖頭目猶舍以布施。若朕身可以濟民。亦非所惜也○是歲廢寺三千三百三十六所。以所毀像鑄周通錢○帝既并省寺院。勅男年十五已上。誦經百紙或讀五百紙。女年十三已上。誦經七十紙。或讀三百紙。陳狀出家。本郡考試以聞。詞部給牒方得剃度(此文見舊史。歐陽新史。並刪去弗存)。

三年。帝召華山隱士陳搏問以飛升黃白之術。對曰。天子以治安天下為務。安用此為。乃遣還山。詔州縣常存問。

四年七月。金陵清涼文益禪師示寂。江南唐後主待以師禮。及終諡大法眼學者。號法眼宗(見羅漢珍師清源九世)○隱士譚景升居終南山。與陳搏為之友。著化書百十篇。窮括化原。久之仙去。嘗遊三茅山。至建業見宋齊丘。謂其有仙脫道骨。出書示之。屬為序於傳世。齊丘乃竊以自名。然未嘗悟道蘊也(齊丘相後唐二世)。

述曰。曾慥作集仙傳言。陳希夷稱其友。譚景升作化書。又云齊丘。竊取以為名。世人不能知其妄。此殆與向秀注莊子郭象竊之以自名。二事蓋相類。不幾於盜乎。

六年。初帝之毀像也。鎮州大悲極有靈應。詔下人莫敢

近。帝聞之。自往其寺持斧鑕破面胸。觀者為之慄慄。及帝北征疽發於胸。亟歸京師遂殂(楊文公談苑)○汴都將士周百勝。年老家居。蔬食念佛。一夕夢黃衣吏追入大城至官府。主者令引觀地獄。見一人黑色臥大鍬狀。獄卒持鑿破其胸灌以銅汁。叫聲不可聞。百勝懼念佛求退。追者曰。汝已是佛弟子不必懼。百勝問。囚者何人。答曰。此柴帝也。因毀像致此罰。百勝曰。我故君王也。何時得脫。追者曰。初錄其人。至時王責曰。世間周通錢盡時方脫此罪。追者引從故道出城門。聞寺鐘鳴遂覺。百勝常以語人。聞者為之悲惋(神應錄)。

述曰。自昔佛法遭毀有四時焉。魏太武因司徒崔浩。焚毀經像阬戮沙門。既而崔浩要斬。太武身感癘疾。竟為常侍宗愛所弑。文成嗣位。復大興佛法(其一)周武因衛元嵩。毀經像塔寺毆沙門反俗。厥後杜祈入冥。見周武地獄受苦

求救之事。宣帝嗣興佛法復盛(其二)唐武宗因趙歸真。毀像廢寺僧尼還俗。帝後疽發背而殂。時穆陵尉稱。天符以李炎毀佛。有奪壽去位之報。歸真等皆被誅戮。宣宗即位佛法大興(其三)周世宗毀像鑄錢廢拆寺院。疽發胸而殂。人見在獄受苦。有周通錢盡方得脫罪之語(其四)越五年。我太祖皇帝飛龍在天。首詔天下復寺立像。遣沙門求法西天。館梵僧翻傳貝葉。建精藍濟戰士之魄。造經版壽大藏之傳。當國家多事。而於弘贊佛道無所不舉。及。

太宗繼體。度童子十七萬人。建譯經院製聖教序。賜天下無名伽藍之額。建開寶大塔舍利之藏。暨真宗在朝。聖德遐被。五天咸貢梵典。昭陳天禧。度僧二十四萬。

仁宗踐阼。光贊上乘謹翻譯之功。廣藏宮之卷詞臣國。

佛祖統紀卷第四十二(終)

○詔羅浮山軒轅集入見。帝問曰。先生長年何道致此。對曰。屏聲色去滋味。一哀樂廣惠澤則可與天地合體日月齊明。是為長年不俟別求。久之請還山。帝曰。朕臨天下可聞其數否。集橫書四十字。後乃得四十年。

○鐘離權。字雲房。自稱漢時遇王玄甫得長生之道。避亂入終南山。於石壁間得靈寶經。悟陰中有陽陽中有陰。為天地升降之宜。氣中生水。水中生氣。即心腎交合之理。乃靜坐內觀。遂能身外有身。唐呂巖。字洞賓。三舉進士不第。於長安酒肆遇雲房。將洞賓入終南山。授靈寶畢。法十二科。曰金誥玉書真原比喻真訣道要。其義有六。包羅五仙之旨。以授洞賓。謂之白。吾朝元有期。汝當居此

洞。即有仙人下宣天詔。金幢玉節迎之升天。洞賓乃客遊江淮。度何仙姑郭上竈施肩吾云(呂仙遊行人間。自唐及宋。事迹非一)。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十三

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之十

宋(都汴京)

太祖(宣祖第二子。母杜氏。二月十六日為長春節 葬永昌陵)

建隆元年(庚申)正月甲辰周恭帝遜於位。初上受詔北征宿陳橋驛。將士推戴擁入京師。時太夫人杜氏(太祖母昭憲皇

后)同王夫人(太祖后孝明皇后)方設齋於定力寺為祈福。聞變王夫人懼。太夫人曰。吾兒平生多奇異。人言。當極貴。何憂也(楊文公談苑)初是後唐明宗。於禁中焚香禱天曰。臣本夷狄不足以王中原。願早生聖人以安天下。天成二年二月十六日。上降生於洛陽太內甲馬營。神光滿室。異香不散。體被金色。三日而變。人知其為應明宗禱云(皇朝景命錄)。

讚曰。神光金體。佛大士之瑞相也。開嘉運於五季久阨之年。踐大位於四海望治之日。而又知興教護法。慈臨民物。以為社稷靈長之福。非佛大士之示生。其孰能與於此哉。

上未仕時過涇州長壽鎮寺。沙門知非凡人。陰使人圖上容於寺壁。後以其寺有御容。遂為官所護。及在洛陽嘗過長

壽寺。枕殿砥晝寢。僧守巖見赤蛇出入上鼻。上寢巖問所向。上曰。欲往澶州見柴太尉。未有齋(周世宗)巖曰。貧道有驢可乘以往。復贈之錢。及見太尉奇之。遂留幕府。晉開運間。宋城有異僧狀如豪俠。挾銅彈走草莽上。指州地曰。不二十年當有帝王由此建號(楊文公談苑○太祖在周朝為歸德軍節度使。歸德在唐為宋州。及受禪遂以宋建國)。

○先是民間有得梁誌公銅牌記云。有一真人起冀州。開口張弓在左邊。子子孫孫保永年。江南李主名其子曰弘冀。吳越錢王諸子。皆連弘字(弘侖弘俶弘億)期應圖讖。及上受禪。而宣祖之諱正當之(太祖皇考。上弘下殷。追諡宣祖。趙普皇朝龍飛記)○周世宗之廢佛像也(世宗自持鑿破鎮州大悲像胸)疽發於胸而殂。時太祖太宗目見之。嘗訪神僧麻衣和上曰。今毀佛法大非社稷之福。麻衣曰。豈不聞

三武之禍乎。又問。天下何時定乎。曰赤氣已兆。辰申間當有真主出興。佛法亦大興矣(其後太祖受禪於庚申年正月甲辰。其應在於此也)○處士陳搏隱居華山閉門臥。屢月不起。顯德末乘白驪將入東都。中道聞太祖即位。大笑曰。天下自此定矣○上始受命默計釋氏。何道而歸敬。若是其盛。嘗微行至相國寺見一僧。醉嘔戶外。惡罵不可聞。上怒之。適從旁過。為醉僧所抱曰。莫惡發將暮矣。宜亟歸內。上心動。乃還密令小璫往覘(勅焰切窺。漢宦者冠。加金璫充耳也)。令取所吐物。至則醉僧不見。收遺吐至。上前視之則真乳香也。上嗟歎不已。益知敬佛(已上四事蔡氏叢談)○詔以二月十六日聖誕為長春節。賜百官宴於相國寺。宰相范質製祝聖齋疏云。素虹紀瑞。表覺帝之下生(佛下生有白象貫日。滅度有白虹十二道。今范公用事。恐別有所出)紺馬效靈。應輪王之出世(金輪王出時七寶自至。紺馬寶即其一也)非夫威震四天。則不足感自然之寶(金輪

王統王四天下)非夫位尊三界。則孰能致希有之祥(佛為三界大師)壽命同百億須彌。德澤被三千世界。恒沙可算天祿難窮。墨海雖乾皇基益固云云。是日以慶誕恩。詔普度童行八千人(國朝會要)。

讚曰。范公以名儒盛德為佐命首。相當慶誕祝讚之辭。純用佛典以寓歸美。其為敬佛重君。有見於此論者。謂明良慶會海宇統一。皆佛大士應世之祥也。

六月。詔諸路寺院。經顯德二年當廢未毀者聽存。其已毀寺所有佛像許移置存留。於是人間所藏銅像稍稍得出。

讚曰。自有佛法以來。有道之國未嘗不隆篤佛教以勸天下。太祖初見周朝毀像。傷之曰。令毀佛法大非社稷之福。及登大寶。亟下興復之詔。可謂有道之君必隆佛教。

十月親征揚州李重進。十二月城陷。上以其固拒欲盡抗之。俄有異僧詣行宮門。自稱龍興寺清範。表乞恩宥。上許之。翌日駕幸尋問。見殿上一羅漢手擎草表。上大寤。勅建別殿安其像(廣陵志)○吳越王錢俶。天性敬佛。慕阿育王造塔之事。用金銅精鋼造八萬四千塔。中藏寶篋印心呪經(此經呪功云。造像造塔者。奉安此呪者。即成七寶。即是奉藏三世如來全身舍利)布散部內。凡十年而訖功(今僧寺俗合有奉此塔者)○初天台教卷。經五代之亂殘毀不全。吳越王俶遣使之高麗日本以求之。至是高麗遣沙門諦觀持論疏諸文至螺溪。謁寂法師。一宗教文。復還中國。螺溪以授寶雲。雲以授法智。法智大肆講說。遂專中興教觀之名(吳越王傳)。

二年○詔前征李重進。凡死於兵者。以揚州行宮置建隆寺

為薦冥福。如唐太宗正觀四年故事(至道三年。郡守王禹稱撰碑)○詔民間二月至九月漁捕彈射著於令○四月上幸相國寺祈雨。出內帑設千僧齋。已而大雨○吳越王俶請延壽禪師主永明寺(今錢唐淨慈寺)師日課一百八事。學者參問。以心為宗以悟為則。日暮往別峯行道念佛。人聞山中天樂聲。吳越王感其專至。為作西方莊嚴殿以成其志。師以賢首慈恩天台三宗互有同異。館其徒之知法者。博閱義海更相質難。師以心宗之衡以準平之。又集大乘經論六十部。兩土賢聖三百家之言。證成唯心之旨。為書百卷。名曰宗鏡。傳於世(壽禪師傳)。

三年五月旱。上幸相國寺祈雨。詔徹樂太官進蔬食。已而雨大濟○西域于闐國沙門善名七人來。詔館於相國寺○楚王周行逢據潭州果於殺戮。然知事佛度僧齋懺未嘗輟。見沙門輒作禮。親手行食。謂左右曰。吾殺人多矣。不假佛

力何以解怨○十一月高昌國遣僧法淵。獻辟支佛牙玉器。

乾德元年。螺溪寂法師為義通法師說止觀法門。

三年。滄州沙門道圓。遊五天竺往反十八年。及還偕于闐使者至京師。獻佛舍利貝葉梵經。上召見便殿問西土風俗。賜紫方袍器幣○特進李託奏。雄武推官阮紹莊。夢雲門禪師令上奏乞開塔。有旨。韶州守臣開視見師真身如生。乃迎赴闕供養。逾月遣送還山中。勅諡大慈元真宏明禪師(此後不注出處者。大約多國朝會要)。

四年。詔秦涼既通。可遣僧往西竺求法。時沙門行勤一百五十七人應詔。所歷焉耆龜茲迦彌羅等國。並賜詔書諭令遣人前導。仍各賜裝錢三萬(行裝錢三十貫文)○上初詔西川轉運使沈義倫。於益州以金銀字寫金剛經進上。至是召

天清寺沙門崇蘊。入內講演○樞密使沈義倫事佛長齋。夏中危坐。以飼蚊。或以為苦者。曰餓蚊相投。豈忍拂去。時執政多自陳起第。獨義倫乞為母修寺。上嗟嘆許之○勅內侍張重進。往峨眉山普賢寺莊嚴佛像。因嘉州屢奏。白水寺普賢相見也。峨眉志云。昔有蒲翁。因採藥入山望峯頂。五色雲放白光。忽一鹿前導至岩上。見普賢大士真相自茲顯迹○河南府進士李藹。造滅邪集以毀釋教。竊藏經以為衾。事聞。上以為非毀聖道誑惑百姓。勅刺流沙門島(在登州海中。舊制以溢額取居久者一人投之海。神宗朝馬默守郡。乞今後溢額者移隸登州。上然之)。

述曰。儒家有排佛者。以不曾讀佛經耳。使稍知觀覽必能服其為道之妙。李藹造論指佛為邪。蓋傳奕韓退之詆佛為夷之餘波也。不有明主孰能鑒其妄作。流之海島非不幸也。

五年。詔曰。禁錮以來天下多輦佛像赴京。顧惟像教世許尊瞻。忽從鎔毀甚乖歸敬。應諸郡有銅像處。依舊存留。但不許鑄造新像○右街應制沙門文勝。奉勅編修大藏經隨函索隱。凡六百六十卷○勅萊州道士劉若拙充右街道錄。集京師道士試學事業。未至者皆罷斥之。

開寶二年。長春節詔天下沙門。殿試經律論義十條。全中者賜紫衣。

四年三月。上親征太原劉繼元。道由潞州麻衣和上院。躬祝於佛曰。此行以弔伐為事。誓不濫殺一人。繼元聞之。極力抵拒。車駕至城下諸軍進攻。時太原城守尚堅博士李光贊。勸上回鑾(音戀。鈴也。天子大輅衡上。金雀口銜鈴曰鑾)宰相趙普以為然。遂班師○處士陳搏受易於麻衣道

者。得所述正易心法四十二章。理極天人歷詆先儒之失。搏始為之註。及受河圖洛書之訣。發易道之祕。漢晉諸儒如鄭康成京房王弼韓康伯。皆所未知也。其訣曰。戴九履一。左三右七。二四為肩。六八為膝。縱橫皆十五。而五居其室。此圖縱橫倒正回合交錯。隨意數之。皆得十五。劉牧謂非人智所能偽為。始搏以傳种放。放傳李溉。溉傳許堅。堅傳范諤昌。諤昌傳劉牧。始為鉤隱圖以述之。

述曰。繫辭云。河出圖示其名也。參伍以變錯綜其數。示其體也。此夫子顯示河圖之文也。漢世有書。其論河圖云。太一取之以行九宮。四正四維皆十有五。此易緯詳陳河圖之數也。五季之際。有方服而衣麻者。妙達易道。始發河圖之祕。以授希夷。希夷始著訣傳世。然世人徒能述希夷之言。而不知其義本出於繫辭易緯。今以著訣。上合易緯九宮十五之文。又以易緯。仰參繫辭參伍以變之說。

無不脗合。繫緯之文。略而隱。故常人不能明。獨麻衣悟此妙於二千年之後。殆天授也(河洛文今見易經之前)。

陳搏居華山。錢若水未第去謁之。搏邀入山齋。見老僧擁納附火。若水揖之。僧開目而已。坐久搏問。何如。僧曰。無仙骨法。若水退搏戒之曰。三日後可復來。如期而往。搏曰。始吾見子神觀清粹。謂可以學仙。故請決於老僧。僧言。他無仙骨。但可作貴公卿。於急流中勇退耳。問僧何人。搏曰。吾師麻衣道者也(湘山野錄○洞微志中云。僧是白閣道者宗裔)○沙門建盛自西竺還。詣闕進貝葉梵經。同梵僧曼殊室利偕來。室利者中天竺王子也。詔館於相國寺。持律甚精。都人施財盈屋。並無所用○勅高品張從信。往益州雕大藏經板。

五年。詔僧道。每當朝集。僧先道後。並立殿廷。僧東道

西。間雜副職。若遇郊天。道左僧右(僧史略)。

僧東 道左

北 君位 僧先道後 殿廷 郊天 南

道西 僧右

述曰。左右即東西也。郊天之日道居左者。以道士繼朝班之後。便於設拜故權令居左。非常用之法也。此說聞之頑空云。得之禮部職事人。

詔京城名德玄超等入大內。誦金字大藏經。車駕臨幸。並賜紫方袍○詔曰。僧尼無間實紊教法。自令於尼寺置壇受戒。尼大德主之。

述曰。廷議但欲分別僧尼。而不知尼女受戒須依大僧無置壇自受之律。此一時救弊不可為法。今則無復用此也。

詔曰。釋門之本貴在清虛。梵剎之中豈宜污雜。適當崇闡尤在精嚴。如聞道場齋會。夜集士女深為褻瀆。無益修持。宜令功德司祠部告諭諸路並加禁止○勅僧道。並隸功德使。出家求度策試經業。關祠部給牒○西天竺沙門可智法見真理三人來朝。賜紫方袍○西天竺沙門蘇葛陀來。貢舍利文殊華。賜紫服金幣○六月天台德韶國師示寂。有大星殞於峯頂。天降大雪師得法於清涼法眼(清源下十世)○西天竺沙門彌羅等十四人來朝並賜紫服。

六年八月。汝州風穴禪師延昭示寂。師得法於南院(南岳八世下)知鄜州(音孚鄜延路)王龜從表稱。中天竺三藏法天

至。譯聖無量壽經七佛讚。河中府梵學沙門法進執筆綴文。龜從潤色。詔法天赴闕召見慰問。賜紫方袍。

七年二月。永明壽禪師示寂。賜諡智覺。師得法於韶國師。高麗國王遣三十六僧來受道法。於是法眼一宗盛行海外而中國遂絕。

八年三月。上幸洛陽至龍門山廣化寺。開無畏三藏塔瞻敬真體。四月上將郊天而雨不止。遣使禱無畏塔。及期而霽(無畏三藏。唐開元四年自西天來。長安為教主二十三年。滅塔於洛陽之龍門)○上自洛陽回京師。手書金剛經常自讀誦。宰相趙普因奏事見之。上曰。不欲甲冑之士知之。但言常讀兵書可也。

讚曰。漢高帝與韓彭取天下論功行。封王數十城。相繼反

畔。卒取誅戮。光武封功臣鄧禹輩。大者不過數縣。以其易制故上下無異意。智矣哉。我太祖之善駕馭英雄也。俾石守信等義社十弟釋兵權於杯酒笑談之頃。享祿私第全其餘生。上不失國恩下不失臣節。過二漢君臣遠矣。至於深居禁中常誦佛典而欲使甲士知讀兵書。是又重威保國之仁術也。智矣哉。

太宗(宣祖第三子。太祖同母弟也。母夢神人捧日寘於懷遂娠。十月十七日為乾明節葬永熙陵)

太平興國元年。詔普度天下童子。凡十七萬人(國朝會要)○真君傳結壇之法有九。上三壇為國家。上曰順天興國壇。星位三千六百。為普天大醮。中曰延祚保生壇。星位二千四百。為周天大醮。下曰祈穀福時壇。星位一千二百。為羅天大醮。中三壇為臣寮。上曰黃籙延壽壇。星位

六百四十。中曰黃籙臻慶壇。星位四百九十。下曰黃籙去
邪壇。星位三百六十。下三壇為士庶。上曰續命壇。星位
二百四十。中曰集福壇。星位百二十。下曰却災壇。星位
八十一。旌旗鑑劍。弓矢法物。具列儀範各有差隆云云。
真君曰。諸天萬靈仙眾梵佛。悉朝上帝於通明殿。又曰。
佛在三清之中。別有梵天居之。於上帝如九卿奉天子也。

述曰。凡釋道二家之言天。名可不同而體不可不同也。如
來聖人如實知見三界。不可謂不盡也。而道家諸書淺繆無
識。故名與體皆不同。如度人經諸道書。或云三十六天。
謂欲界六天色界十八天無色界四天。此二十八為三界內有
生死。其上更有四梵天為三界外。斷生死災。又其上有
三清天。最上為大羅天。此等雖欲比同佛經三界之語。殊
不知四梵三清竟無實位。蓋凡言界外斷生死者。即三乘與
佛耳。豈當復指三清諸天輪轉之徒哉。張無盡述息諍論。

引黃帝內書云。太一者。元一之氣。始生於太虛之上。有
玉京山。四方各有八天。三十二帝。玉京之上有玉清上清
太清。三清之上有虛皇十天。元老元君元尊天真九皇居
之。天皇真人。降天真九氣分六元。而為混沌之象云云。
無盡斷之曰。夫言玉京山三十二帝者。即佛之所謂須彌山
頂忉利天也。虛皇天者。即佛所謂大梵天也。三清天者。
即佛所謂空居天也。大梵天為世界主。不知上有光音諸
天。而言我能有所生。有所生則氣有所降。此天真九皇所
以降氣而造世界也。氣有陰陽則人有男女。如道家三清。
侍以金童玉女。此欲界空居為三清天也(空居即夜摩為大
清。兜率為上清。樂變化為玉清。他化自在為大羅天。然
道書言天。矛盾自多難以定一)又王欽若奉詔撰翊聖真君
傳。其間論佛最為失義。如翊聖云。諸天萬靈仙眾梵佛。
悉來朝上帝。夫佛為三界師為天中尊。佛所住處梵天帝釋
皆來衛從。明知天帝所以奉佛也。今傳言佛來朝帝。甚為

無狀。翊聖既自言。帝輔其位高矣。未應有此失理之言。欽若稍稱知佛。作傳之辭亦未必有此語。特恐道流不知天位。妄撰此言入於傳中。雖欲尊天而卑佛。適所以誣天而慢佛也。戒之哉。

初周世宗廢龍興寺以為官倉。國初寺僧擊鼓求復。至是不已。上遣使持劍詰之曰。前朝為倉日久。何為煩瀆天廷。且密戒懼即斬之。僧辭自若曰。前朝不道毀像廢寺。正賴今日聖明興復之耳。貧道何畏一死。中使以聞。上大感歎。勅復以為寺(類苑)。

二年。使改龍興寺為太平興國寺。立開先殿以奉太祖御容
○西天沙門吉祥來。進貝葉梵經。

三年三月。賜天下無名寺額。曰太平興國。曰乾明○開寶

寺沙門繼從等。自西天還獻梵經佛舍利塔菩提樹葉孔雀尾拂。並賜紫方袍○四月詔諡廬山遠法師曰圓悟。塔曰凝寂。永法師曰覺寂。塔曰實智○中天竺沙門鉢納摩來。獻佛舍利塔犍牛尾拂○西天王子曼殊室利求歸本國。詔從之(開寶四年至此)○翰林學士李昉徐鉉等進太平廣記。其間錄佛法者三十卷。上自漢明終於五代。古今悟心得道之眾。神僧經論定慧之學。君臣信毀休咎之徵。靡所不載○勅供奉官趙鎔。往吳越迎明州阿育王佛舍利塔○吳越王俶奉版圖歸朝。令僧統贊寧奉釋迦舍利塔入見於滋福殿。上素聞其名。一日七宣。賜號通慧大師(寧在國為兩浙僧統。號明義宗文大師)除翰林與學士陶穀同列。或謂之曰。青瑣朱楹安容此物。及與之語。師援據經史哀哀不已。謂者為之畏服。學士王禹稱徐鉉。每有疑則就質之。皆為下拜。事以師禮滋福殿者安佛像經藏。立剎聲鐘即內道場也(國朝會要)。

菩十萬殊文銅金造山臺五州代往。訓。廷張侍內。勅。月。正。年。五。
十閣。為。潤。芳。門。沙。以。寺。十。臺。五。代。往。訓。廷。張。侍。內。勅。月。正。年。五。
百。周。五。金。周。峙。五。形。山。云。興。寧。臺。壽。嚴。華。容。真。者。寺。安。奉。像。薩。
六。寺。周。地。平。有。上。頂。里。十。高。臺。中。霧。吐。泉。飛。嶂。疊。密。十。正。僧。寺。
王。育。阿。有。南。東。子。王。北。有。東。北。石。勒。彌。殊。文。舍。精。池。華。太。有。造。帝。文。里。
涼。清。有。巖。魔。像。賢。閣。大。有。藏。法。佛。處。居。所。聖。堂。二。間。處。深。寺。光。佛。塔。魏。
巖。西。二。高。之。覆。以。普。銅。金。鑄。都。成。往。贊。仁。張。侍。內。勅。嘉。州。峨。眉。白。水。秀。甲。九。州。進。
重。相。國。旦。震。明。乾。上。和。歲。千。竺。西。黑。水。白。水。普。賢。普。賢。山。峨。眉。高。出。五。府。沙。門。法。進。
蒲。津。蒲。州。

河中府)守臣表進。上覽之大說。召入京師始興譯事○二月北天竺迦濕彌羅國三藏天息災。烏填曩國三藏施護來。召見賜紫衣。勅二師同閱梵夾。時上盛意翻譯。乃詔中使鄭守均。於太平興國寺西建譯經院。為三堂。中為譯經。東序為潤文。西序為證義○五月中天竺沙門護羅來。獻貝葉梵經勅賜紫服○沙門知則進所著聖無量壽經疏。賜號演教大師○詔建開聖禪寺於誕生之地。奉優填王旃檀瑞像(梁武帝遣郝騫往天竺迎至者)釋迦佛牙太祖親緘銀塔中(唐宣律師天人所獻)梁誌公真身錫杖刀尺○勅內侍衛欽。往泗州修僧伽大師塔。凡十三層。改普照王寺為太平興國。

七年正月。威虜軍奏言。築城穿土得石函鐵函銅函銀函金函。凡五重中有流離瓶盛佛舍利。有刻石記云。貞觀二十一年藏佛舍利。謹遣牙吏以聞○嘉州通判王袞奏。近往峨眉提點白水寺修造。見瓦屋山皆變金色。中有丈六金身普

賢。次日午中見羅漢二身乘紫雲行空中。

深州奏。陸澤縣人王緒牧牛田中。見一白兔。逐之入土穴中。探穴得石佛五十軀。制度奇古長皆尺餘。勅就邑寺奉安。像常放白光○六月譯經院成。詔天息災等居之。賜天息災明教大師。法天傳教大師。施護顯教大師令以所將梵本各譯一經。詔梵學僧法進常謹清沼等筆受綴文。光祿卿楊說兵部員外郎張洎潤文。殿直劉素監護。天息災述譯經儀式。於東堂面西粉布聖壇(作壇以粉飾之事在藏經)開四門。各一梵僧主之。持祕密呪七日夜。又設木壇布聖賢名字輪(壇形正圓。層列佛大士天神名佐。環遶其上如車輪之狀)目曰大法曼拏羅(此云大會)請聖賢阿伽沐浴(阿伽此云器。凡供養之器。皆稱曰阿伽。今言阿伽。乃是沐浴器)設香華燈水穀果之供。禮拜遶旋。祈請冥祐。以殄魔障第一譯主。正坐面外宣傳梵文。第二證義坐其左。與譯主評量

梵文。第三證文坐其右。聽譯主高讀梵文。以驗差誤。第四書字梵學僧。審聽梵文書成華字。猶是梵音(kṛ da ya 。初翻為訖哩第野。su traṃ 為素怛覽)五筆受。翻梵音成華言(訖哩那野。再翻為心。素怛覽。翻為經)第六綴文。回綴文字使成句義(如筆受云照見五蘊彼自性空見此。今云照見五蘊皆空。大率梵音多先能後所。如念佛為佛念打鐘為鐘打。故須回綴字句以順此土之文)第七參譯。參考兩土文字使無誤。第八刊定。刊削冗長定取句義(如無無明無明。剩兩字。如上正遍知。上闕一無字)第九潤文。官於僧眾南向設位。參詳潤色(如心經度一切苦厄一句。元無梵本。又是故空中一句。是故兩字元無梵本)僧眾日日沐浴。三衣坐具。威儀整肅。所須受用悉從官給。天息災言。譯文有與御名廟諱同者。前代不避。若變文回避慮妨經旨。今欲依國學九經但闕點畫。詔答。佛經用字宜從正文。廟諱御名不須回避○七月天息災上新譯聖佛母經。法天上吉祥持世

經。施護上如來莊嚴經。各一卷。詔兩街僧選義學沙門百
人祥定經義。時左街僧錄神曜等言。譯場久廢傳譯至艱。
天息災等即持梵文。先翻梵義。以華文證之。曜眾乃服○
詔新經入藏開板流行。車駕親幸譯經院。召僧眾賜坐尉
論。賜臥具繒帛什物。度其院童子十人。悉取禁中所藏梵
本令其翻譯○十二月詔選梵學沙門為筆受。義學沙門十人
為證義。自是每歲誕節必獻新經。皆召坐賜齋以經付藏○
詔曰。朕方隆教法用福邦家。其內外諸郡童行並與剃度○
成都沙門光遠遊西天還。詣闕進西天竺王子沒徒曩表佛頂
印貝多葉菩提樹葉。詔三藏施護譯其表曰。伏聞支那國(西
竺指大唐為支那。今因舊以為稱也)有大天子。至聖至神富
貴自在。自慚福薄無由朝謁。遠蒙皇恩賜金剛座釋迦如來
袈裟一領。即已披挂供養。伏願支那皇帝。福慧圓滿壽命
延長。一切有情度諸沈溺。謹以釋迦舍利附沙門光遠以進
(奉金剛佛袈裟。兩朝未見遣送之實。今詳乾德四年行勤等

應詔。西天求法。諸國並賜詔書。應以此年附獻也)八年六月。詔翰林贊寧修大宋高僧傳。寧乞歸錢唐撰述。詔許之。○詔譯經院。賜名傳法。於西偏建印經院(今臨安傳法院。即東都譯經院。今但供奉入內道場法事)○成都先奉太祖勅造大藏經板成進上○勅太原成都鑄銅鐘。賜五臺峨眉名山遣挂之日。兩山皆有梵僧十餘。空中奉迎其鐘。聲聞百里。○天息災等言。歷朝翻譯並藉梵僧。若遐阻不來則譯經廢絕。欲令兩街選童子五十人習學梵字。詔令高品王文壽選惟淨等十人引見便殿詔送譯經院受學。惟淨者江南李煜之姪。口受梵章即曉其義。歲餘度為僧。升梵學筆受。賜紫衣光梵大師○沙門法遇自西天來。獻佛頂舍利貝葉梵經。法遇化眾造龍寶蓋金欄袈裟。將再往中天竺金剛座所供養。乞給所經諸國書。詔賜三佛齊葛古羅柯蘭諸國勅書以遣之○泗州奏。僧伽塔白晝放光。士民然頂臂香供養者日千餘人。勅內侍奉釋迦舍利藏之塔下○上以新譯經。示宰

臣曰。佛氏之教有裨政理普利群生。達者自悟淵源。愚者妄生誣謗。朕於此道微識其宗。凡為君而正心無私。即自利行也。凡行一善以安天下。即利他行也。如梁武捨身為奴。此小乘偏見。非後代所宜法也。趙普對曰。陛下以堯舜之道治世。以如來之行修心。聖智高遠非臣下所能知也。○詔以御製蓮華心回文偈。祕藏詮。逍遙詠。宣示近臣。○勅內侍張承貴往天台山重建壽昌寺從沙門自珣請也。

雍熙元年三月。日本國沙門裔(丁么切)然來朝。然言。其國傳襲六十四世八十五主。至應神天皇。始傳中國文字。至欽明天皇壬申歲。始傳佛教於百濟。當梁承聖初年。至用明立有太子名聖德。年七歲便悟佛法。於菩提寺講勝鬘經。感天雨華。始遣使入中國求法華經。當隋開皇中也。至孝德立。白雉四年遣僧道照入中國從奘法師傳法。當唐永徽四年也。次足姬立。令僧智通入中國求大乘法。當顯

慶三年也。次文武立。寶龜二年令僧玄昉入中國求法。當
開元四年也。次孝明立。天平勝寶四年遣使入中國求內外
教典。當天寶中也。次元武立。遣僧空海入中國傳智者
教。當元和中也(貞元元和間。有日本最澄。受荊溪一宗
疏記以歸。當以此為傳教之始可也。而裔然乃言空海傳
教。而不及最澄何耶。唐書亦言空海肄業中國二十年。然
吾宗未見空海傳教之迹。今據釋門正統云。空海入中國學
密教於不空弟子慧果。始知裔然言學智者教者誤也)次文德
立。令僧常曉入中國求釋迦密教。當大中年也。上聞其王
一姓傳繼臣下皆世官。謂宰臣曰。島夷君臣乃能世祚永久
若是。裔然求謁五臺及回京師。乞賜印本大藏經詔有司給
與之案唐書。日本漢倭人五十餘。去京師萬四千里。直新羅東
南在海中島。左右小島浮圖。其王姓阿每氏。初主號天御中
多女少男。有文字尚以尊為號。居竺紫城。彥子神武立。

更以天皇為號。徙治大和州。又十六世至應神。又十四世至欽明。又二世至用明。當隋開皇末。始與中國通。又四世至皇極。當正觀五年。遣使入朝。極子孝德立。始改元白雉。獻武魄大如斗馬腦。若五升器。又二世至天智。遣使與蝦蟇人偕朝。又二世號總持。遣使賀平高麗。當咸亨元年也。至是始改號日本。言其國在東近日所出也。長安元年持子文武立。改元大寶。遣使粟田貢方物。武后授司膳卿還國。又二世聖武立。改元白龜。開元初粟田復來朝。請從諸儒授經。詔四門助教趙玄默即鴻臚寺為師。悉賞物貿書歸。聖武女孝明立。改元天平勝寶。四世元武立。當貞元末年。遣使者朝。期學者橘免勢浮圖空海。留肄業二十年。乃還。又五世文德立。又三世光孝立。當光啟元年也。(唐祖景帝諱虎。如龍虎虎丘虎魄。並出以武家)。

勅造羅漢像五百十六身。奉安天台壽昌寺。二年上覽新譯

經。謂宰臣曰。天息災等妙得翻譯之體。乃詔天息災除朝散大夫試光祿卿。法天施護並除朝奉大夫試鴻臚卿。法天改名法賢。並月給酥酪錢有差。新譯經論並刊板印行。天息災等言。聞陝西諸路頗有道俗收藏梵經。乞下尋訪以資翻譯。詔從之(漢書注。郊廟行禮。九賓鴻聲而臚傳之也)。

述曰。自古人君重沙門之德者。必尊其位異其稱。曰僧錄僧統法師國師。入對不稱臣。登殿賜高座。如是為得其宜。至若封官加爵稱卿稱公。混濫朝端輕招物論。上失尊僧之禮。下貽失節之譏。釋氏清風幾於不競彼徵君處士不事王侯者。吾輩寧無愧乎。若不空開府於唐朝息災光祿於吾宋。皆由翻譯功高特承天澤。蓋將答主上重法之心。非所以為榮也。

詔兩街供奉僧於內殿建道場。為民祈福。歲以為常○詔西天僧有精通梵語可助翻譯者。悉館於傳法院○詔嶺南粵俗殺人祭鬼。僧置妻孥。所在長吏誠厲以順正教(東都事略)。

述曰。磐少時客南海。見鄉落僧居畜妻養子。皆能執鉞鼓從事於赴請。問其度牒否。則曰。但於本郡給帖耳。此等皆因守郡者規微利。而不知恩瀆三寶之為過也。今此詔旨專戒長吏。可謂得護法之心焉。嘗聞蜀僧在鄉多畜妻子。平時習熟公私不以為非。今之西蜀遊學東南者。真成出家之士也。

三年。詔天下係帳童行並與剃度。自今後讀經及三百紙。所業精熟者。方許係帳○詔以御製三藏聖教序賜天息災等。令冠新譯經首。

四年。勅內侍送寶冠瓔珞袈裟往峨眉普賢寺。是日眾見普賢大士乘紫雲行空中。久之方沒○十一月四日。螺溪義寂法師示寂。

端拱元年。翰林通慧大師贊寧上表進高僧傳三十卷。璽書褒美(璽音徙天子玉印)令遍入大藏。勅住京師天壽寺。僧傳之作始於梁嘉祥惠皎為高僧傳十四卷。起漢明終梁武天監十八年。唐西明道宣作續高僧傳三十卷起梁天監訖唐正觀十九年。今宋傳起唐正觀至宋端拱元年。依梁唐二傳分十科。一譯經。二解義。三禪定。四戒律。五護法。六感通。七遺身。八讀誦。九興福。十雜學(王禹稱有詩。贈寧僧統云。支公兼有董狐才。史傳修成乙夜開)。

述曰。洪覺範謂宣律師作僧史。文辭非所長。作禪者傳。

如戶昏案檢。寧僧統雖博學。然其識暗聚眾碣為傳。非一體。覺範之論何其至耶。昔魯直見僧傳文鄙義淺欲刪修之。而不果。惜哉。如有用我者。吾其能成魯直志乎。

兩街僧錄可朝等。請箋釋御製佛乘文集。詔許之○日本國法濟大師裔然。遣弟子嘉因祈乾來朝○十月二十一日。寶雲通法師示寂。

二年。開寶寺建寶塔成。八隅十一層。三十六丈。上安千佛萬菩薩。塔下作天宮奉安阿育王佛舍利塔。皆杭州塔工喻浩所造。凡八年而畢。賜名福勝塔院。安舍利日。上肩輿微行。自手奉藏。有白光起小塔一角。大塔放光洞照天地。士庶焚香獻供者盈路。內侍數十人求出家掃塔。上謂近臣曰。我宿世曾親佛座。但未通宿命耳。詔直學士院朱昂撰塔銘。謂曰。儒人多薄佛。向中竺僧法遇乞為本國佛

金剛座立碑(即菩提樹下金剛土臺也)學士蘇易簡為之指佛為夷人。朕惡其不遜。遂別命製之。卿宜體此意。

述曰。人無通識不足以知佛。故韓愈夷其佛。歐陽修亦夷其佛。太宗以蘇易簡指佛為夷而惡之。自古人君莫如太宗之有通識也。佛聖人也。五天中土也。此方即五天之東境也。今稱中國者。此方自稱尊也。稱四夷者。且約此方四境之外論之也。儒家乏通識。即目睫以言之。故多失言。若蘇黃諸公則知之。復能言之也。

勅內侍謝保意領將作匠。賜黃金三百兩。往峨眉飾普賢像。再修寺宇。并賜御製文集令直院徐鉉撰記。淳化元年。詔參政蘇易簡撰三教聖賢錄。乞通慧贊寧太一宮道士韓德純分領其事。寧撰鷲嶺聖賢錄五十卷以進。勅充左街講經首座○通利軍(後廢隸真定府)建城掘地。於古寺基得

巨石佛十軀。詔建淳化寺以奉其像○詔漣水軍沙門道堅赴闕。召見賜偈。堅姓婁。神異不測。知人休咎。時潤州有沙門號四世界。佯狂市廛說禍福立應。潤商人欲往漣水。四世界曰。彼有婁道者。是蹈寶華佛化身。汝如見之必獲厚利。商至漣水見而拜之。師曰。四世界教汝來耶。汝不識日光菩薩。見我何為。商退果得利異常時。歸訪四世界不復見矣○詔赤脚道者入見。上曰。南方禪律如何化物。對曰。究之一理。上起遶龍床一匝云。是禪是律。對曰。究之一理。上說○高麗國王治遣使。乞賜大藏經并御製佛乘文集。詔給之。

二年。太原沙門重達自西天還。往反十年。進佛舍利貝葉梵經。賜紫服住西京廣愛寺○勅翰林贊寧充史館編修○中天竺那爛陀寺沙門補陀吃多來朝。進佛舍利梵經。賜紫服○杭州西湖昭慶寺沙門省常。刺血書華嚴淨行品。結社修

西方淨業。宰相王旦為之首參政。蘇易簡百三十二人。一時
士夫皆稱淨行社弟子。比丘預者千眾人。謂廬山蓮社莫如
此日之盛。○申公呂蒙正微時。寔甚(寔郡羽反。貧也)常干謁
人。有僧憐之。給其食。彌月又罄。乃令就居房廊。隨眾粥
飯。遂得安心讀書。是年獲薦。僧復備裝遣之。竟魁多
士。後十年執政郊祀。奉給皆不請。上問其故。對以私恩。未
報。上歎曰。僧中有若人耶。乃牒西京令寺僧取奉資修寺
以為報。公常晨興禮佛。祝之曰。不信三寶者。願勿生我
家。願子孫世世食祿護持佛法。公之子公著。猶子夷簡。
並封申公。皆知敬佛。每於元旦出所事諸禪老書誨。拜而
讀之。蒙正居政府日。焚疏請言法華齋。翌旦言至坐堂
上。公將出。念當拜不當拜。言大呼曰。呂老子快出來。
拜亦得不拜亦得。公大驚遽出拜之。齋畢問未來休咎。言
索筆書亳州二字。及後罷相知毫。始悟前識(大慧武庫)○
南海占城國沙門淨戒。詣闕獻如意金銅鈴杵龍腦香。詔國

忌日宰相已下詣寺觀行香。禁不得事腥酒。

四年。詔西邊諸郡梵僧西來。中國僧西遊而還者。所持梵經並先具奏。封題進上○高麗國王治遣使謝賜藏經御製文集○上幸開寶塔院問僧。卿是何人。僧云。塔主。上曰朕塔云何卿作主。僧無對(雪竇代云盍聞咸如)因僧朝見。上曰。甚處來。對云。廬山臥雲菴。上曰。臥雲深處不朝天。僧無對(雪竇代云難避至能)上嘗夢天人云。請陛下發菩提心翌旦宣問西街。菩提心如何發。俱無對(雪竇代云實謂今古平聞)。

五年。中聞國沙門吉祥進大乘祝藏經。詔五藏法賢等詳定。賢奏此經是于闐書體非是梵文。其中無請問人及聽法眾。前後六十五處文義不正。帝召賢諭之曰。使邪偽得行。非所以崇佛教也。宜焚棄此本以絕後惑○蜀民李順反

陷成都。上遣昭宣使王繼恩攻破之。復命參知政事趙昌言。充川陝路兵馬都使。既行。時峨眉高僧茂貞赴召。謂上曰。昌言額紋有反相。不宜委以蜀事。上方悔之。及昌言至鳳翔時。寇準為守。密上書言。昌言有重名無子息。不可授以兵柄。上得疏憶茂貞言。大驚乃以昌言知鳳翔。而召寇準參政事。

至道元年。中天竺沙門迦羅扇帝來朝。進佛頂舍利貝葉梵經○詔兩浙福建路每寺三百人。歲度一人。尼百人。度一人。誦經百紙讀經五百紙為合格○詔兩街僧錄省才進孟蘭盆儀。

二年。詔以御製祕藏詮二十卷緣識五卷趙遙詠十卷命兩街箋注。入大藏頒行。

藏六秀師曰。秀嘗恭覽祕藏詮等三文知旨。義與契經相為表裏。所謂現在佛以梵王帝釋身稱性而說法也。

勅史館編修贊寧知西京教門事。

三年九月○西天竺沙門羅護羅來朝。進貝葉梵經。賜紫服。

佛祖統紀卷第四十三(終)

○國初有天神。降于盤屋(音周質扶風屬縣)張守真家。自言。玉帝之輔。奉上帝命護衛宋朝。所言禍福皆驗守真遂為道士。至是上召守真入見。陳立壇設醮之法。勅於瓊林苑設周天大醮。遣記居舍人王龜從。就終南山建上清太平

宮。以奉天神。上親征太原天神降言。宜設醺謝勝捷。踰旬王師秦捷。上遣使詣宮醺謝其夕降言曰。上帝諸天皆喜國祚延永過於有唐。乃詔封天神為翊聖保德真君。賜守真崇元大師。自是公卿士庶詣宮祈叩。必降語告誡(國朝會要)。

○詔華州處士陳搏入見。不就。再遣中謁者(漢世稱內使為中謁者)。賜以詩曰。曾向前朝出白雲。後來消息杳無聞。如今若解隨徵召。盡把三峯乞與君。搏不得已詣闕。冠華陽巾羽服草屨以賓禮見(草曰屨。音□。木曰屐。皮曰履。麻曰鞋。有藉曰屨。悉叶反)。賜號希夷先生。令見壽王(真宗初封)及門而反曰。王門廡後皆將相之具。何必見王。由是上屬意真宗。宰相宋琪從容問曰。先生得玄默之道。可以化人乎。搏曰。山林之人無道可傳。聖上天日之表正君臣合德圖治之時也。

○舒州奏貢瑞石言。懷寧縣人柯萼逢異僧。令往萬歲山取寶僧以杖指古松萼掘之得黝石(於糾反青黑色)上刻梁誌公記云。吾觀四五朝後次丙子年趙號太平二十一帝。社稷永安。僧忽不見。上覽石敬歎不已。忽一日誌公降禁中。上親聞訓語乃遣使詣鐘山奉齋。其文略曰。至真臨格。寶訓躬聞。審基緒之由來。積慶靈之永久。乃詔賜號道林真覺菩薩。公私不得指斥其名。因號寶公。

讚曰。當太宗朝兩獲瑞石。皆稱趙二十一帝。嘉州之貢猶可以言人為之。至於舒州之獻誌公所記異僧親指。非可言人為也。及誌公降禁中聞寶訓。遣使鐘山奉齋致謝。非聖天子有所誠感曷至於是。

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十四

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志十七之十一

真宗(太宗第三子。母元德皇后李氏。十二月二日為承天節永定陵)

咸平元年。御製三藏聖教序。賜明教大師法賢等。令置先帝聖教序後。沙門可升注序進上○詔知制誥朱昂兼譯經潤文官○御製崇釋論。其略云。奉乃十力(佛有十力)。輔茲五常。上法之以愛民。下遵之而遷善。誠可以庇黎庶而登

仁壽也。又曰。釋氏戒律之書興周孔荀孟。迹異而道同。大指勸人之善禁人之惡。不殺則仁矣。不盜則廉矣。不惑則信矣。不妄則正矣。不醉則莊矣○中天竺沙門憍尾拈等來朝。進佛舍利梵經菩提樹葉菩提子數珠。賜紫衣○西天竺沙門佛護來朝進梵經。賜紫衣○勅史館編修贊寧充右街僧錄。

二年禮部侍郎陳恕言。譯經院久費供億。乞罷之。上以先朝盛典不許○勅史館編修贊寧遷左街僧錄。三年八月。試光祿卿天息災亡。諡慧辯法師。勅有司具禮送終○慈照聰禪師(見首山)住襄州石門。郡守以事笞之。暨歸首座問訊曰。守無故屈辱和上。師以手指地曰。教他平地起骨堆。即見隨指起一堆土。守全家以病死(大慧武庫)。

四年五月。試鴻臚卿法賢亡。諡玄覺法師。勅送終如慧辯

禮○史館修撰左右街僧錄贊寧亡。學士王禹偁序其文曰。受
師年八十二。視聽不衰。歷京師十四朝吳越四世。終能受
洪範嚮用之福。處浮圖具瞻之地。所謂必得其壽必得其位
者乎。師所述內典錄百五十卷。外學集四十九卷。覽其文
知其道矣。師嘗著通論有駁董仲舒難王充斥顏師古。證蔡
邕非史通等。禹偁見之大服其說。作書與師曰。辰借通
論。日殆三復。使聖人之道無傷於明夷儒家者流不致於
迷。復自周秦以降作者眾矣。至於斥楊墨而尊姬孔。不無
其人。如此歷詆諸家丕顯聖道者。吾未之見也。師胡為而
來哉。得非天祚素王而假手於我師者與。不然天下冠章甫
而衣逢掖者。豈遂無其人也(禮記孔子曰。予少居魯。衣逢
掖之衣。長居宋。冠章甫之冠。逢猶大也。大袂禪衣。章
甫殷冠。宋殷後。孔子祖於宋也。逢如宋。掖音亦。袂彌
蔽反。袖也。禪單同)。僕雖不佞亦嘗從事於斯矣。每欲厲
墨兵而討百氏俘於儒宮。且取其小道亂常之甚者。孥戮

之。俾乎祖述憲章之道與天比崇。然後知夫子之尊也。區區此懷為日斯久。今茲覩師通論之作。所謂時雨降矣。日月出矣。溉灌爝火復何為哉(莊子日月出矣。爝火不息。爝音爵。火炬也。見王氏小畜集)師述僧史略三卷。凡法門事始因革莫不畢錄。臺閣之士。欲通練內外典故者。皆於此觀之。

述曰。道法師序僧史略稱。內翰王公觝排釋氏。過於韓子。而獨於寧通慧推服之不暇。蓋其學行才識有可取也。今觀小畜集。其修僧史則贈以七言。撰聖賢錄則賀以五言。歸葬錢唐則誌其墓。所著內外集則冠以序。而於通論之作。贊之以書。且盛稱其駁董難王斥顏非史歷詆諸家自周秦已來未之見。是知王公之於通慧不敢排以佛。而獨有取於學識之高。可謂能誠服矣。至於通慧道德之盛。則王公未學。不足以知。非如梁敬之之知荊溪柳子厚之知重巽

也。

六年。知開封府陳恕言。僧徒往西天取經者。臣嘗召問。皆罕習經業。而質狀庸陋。或往諸藩必招輕慢。自今宜試經業察人材。擇其可者令往。詔可○二月詔隋智者禪師科教類次刊牘。凡百五十四部。賜召天台總錄。譯館請繫開元東土集傳。制曰可。

景德元年。日本國沙門寂照來。進無量壽佛像金字法華經水晶數珠。賜紫方袍○西天三藏法護來。進佛舍利貝葉梵經。賜紫衣束帛。館於譯經院○北天沙門戒賢來進梵經。賜紫服○七月亢旱。召西天梵僧於金明池水心立壇呪龍。有雲霧自池中出。須臾雨至。自後歲旱必作呪法多驗○東吳沙門道原進禪宗傳燈錄三十卷。詔翰林學士楊億裁定頒行。

二年三月。迦濕彌羅國沙門目羅失稽來。進梵經菩提樹葉
○七月西天沙門達磨波來進梵經。賜紫服○九月上幸譯經
院。令三藏諸僧坐。賜香茶繒綵有差○上以諸寺住持先是
僧職遷補或非其才。至是召見便殿閱試行業。三年諸王府
侍讀孫奭奏。請減損修寺度僧。上曰。釋道二門有助世
教。人或偏見往往毀訾。假使僧道時有不檢。安可即廢○
詔釋道歲度十人者。特放一人不試經業○婺州沙門志蒙徐
氏。衣錦衣喜食豬頭。言人災祥無不驗。呼人為小舅自號
曰徐姊夫。一日坐化於三衢吉祥寺。遺言。吾是定光佛。
至是奉真身。祈禱神應不歇。世目之豬頭和上。

四年。詔京城鬻酒肉者。並去寺觀百步之外。有以酒肉五
辛酤市於僧道者。許人糾告。重論其罪。

述曰。真宗可謂仁聖之君矣。初踐祚製聖教序(謂新譯藏經為聖教也。為聖教製序。始於唐朝)造崇釋論。陳恕論罷譯經則不許。孫奭請減度僧則不聽。而又能下詔。鬻酒肉於僧道者。論其罪意。此穢業不當瀆聖境也。厥後沙門覺稱自天竺來。謂學士楊億曰。入此國見屠殺猪羊市肆懸肉。痛不忍觀。天竺食肉五辛者驅出城。故無貨者。是知東華郡邑習於食肉。故見之者無嫌心。獨無愧於稱乎。嘗因同人揭推此事。欲乞清明推廣祖宗之法。不令在城中殺畜不許懸肉街市(凡屠家只在城外僻絕不通人處居止。販者用竹器。庶覆入城。投稅然後巡街而賣)庶幾人居涓潔。目不習見。所以去殺氣以養仁心。移惡習以趨善道。豈不有益於國家之政化者哉。

初諸暨縣令潘華。依普賢懺法不令人捕江湖內魚。是年十月。奉詔還闕。夜夢江湖中魚為人形者數萬。號哭沸天。

皆云長者去矣。吾眾不免烹矣。華異之作夢魚記以囑後來宰邑者(四明法智法師為跋。載教行錄)○臣寮言。愚民無知佞佛過度。謂捨財可以邀福。修供可以滅罪。蠹害國政宜加禁止。上謂宰臣曰。佛教使人遷善。誠有其益。安可禁之。且佛法所至甚廣。雖荒服諸國皆知信奉。唯道教中原有之。然不甚盛。王旦對曰。頃歲虜使登開寶塔。瞻禮甚虔。誓當戒殺。及至上清宮不復屈膝。是知四夷唯重佛而不敬道也。上曰然。

述曰。道事天。天事佛。故為國者必兩存之。而於尊卑小大之分。較然久已自明。恭惟真宗皇帝聖心虛融并包法界。敬天命宗佛乘。發於性真不俟為學。既免梁武永棄道教之偏。且無唐宗上躋老聃之失(梁天監二年罷道教。唐正觀十一年。升老子居佛上)深距臣僚佞佛邀福之說。肯顧陳恕譯經費財之言。上法祖宗下垂成憲。非天下之至聖。其

孰能之。

詔遣使送金襴袈裟。往惠州羅浮山中閣寺奉釋迦瑞像。仍為國建祈福道場。感五色祥禽集於齋所。此像高八尺。來自西天。隋開皇中釋慧喜安龍華寺。會昌廢毀像靈不可壞。道士藏於都虛觀。咸通中海南節度使韋宙。迎至中閣寺。

七月詔諸寺觀殿階上不許人民袒露坐臥。違者以不敬論○宰相王旦。率文武百官。五上表請封禪。十月在京民庶相繼上表。詔許之。十一月車駕幸曲阜(兗州舊魯國地)謁先聖廟。有司定儀肅揖。上特再拜。遂為定制。加諡玄聖文宣王。祝文進名。封其父叔梁紇為齊國公。母顏氏魯國夫人。妻官氏鄆國夫人。給十戶奉塋域。賜田百頃及御製讚。封齊太公昭烈武成王。

述曰。自古尊先聖者。漢高始過魯行祀封。其後平帝始封
褒成公。梁武始令天下建廟。北魏孝文改諡文宣公。唐太
宗用房元齡議。太學釋奠。始尊為先聖。而以顏子陪享。
明皇始進號文宣王南面坐。用王者宮縣之樂。皇朝真宗加
諡至聖文宣。而祝文進名定儀特拜。自古尊先聖莫若此日
也。韓昌黎謂天下通得祀孔子。自天子而下北面拜跪。祀
事之盛未有如孔子者。蓋孔子以德。雖不得位而得常祀(見
處州孔子廟碑)是知自明皇尊以王禮。故世世天子拜而祭
之。今真宗特拜有合於古。不知當時禮官何為不知而定肅
揖之儀。恥哉。

詔修飾泰山眾像凡三十二身。御製重修佛像記○雁蕩山自
古圖牒未嘗言。山頂有大池。相傳為雁蕩。下二潭為龍
湫。山南有芙蓉峯。下有芙蓉驛。前臨大海。案西竺書諾

矩羅尊者居震旦東南大海際。山以鳥名。村以華名。唐貫休有讚云。雁蕩經行雲漠漠。龍湫宴坐雨濛濛。祥符中伐木者始見之。自是著名(山在溫州樂清。諾矩羅十六住世羅漢之一。梵語震旦此云東方君子之國)○雁山瑞鹿本先禪師結印坐亡。彌月肉體不變常聞異香。詔取所著竹林集。藏之祕閣(嗣韶國師)。

二年正月。以封禪行慶詔天下寺觀。各度一人朝覲泰山。陪位僧道各度弟子一人○詔昇州崇勝寺。賜名承天甘露戒壇○勅光梵大師惟淨試光祿卿同預譯經○九月吳國大長公主出家。法名清裕。賜號報慈正覺大師。即太宗第七女。幼不茹葷血。上幸延聖寺抱對佛。願舍為尼。至是乞落髮。詔建資聖院以居之。勅釋門威儀(鐘鼓鐃鈸幢幡之類)教坊樂部。以為迎導。時密王女。曹王女及後宮三十餘人。皆隨出家詔於是日普度天下童子十人度一人○詔於洛

陽甲馬營太祖誕聖之地。建應天寺以奉神御。

三年。詔京師太平興國寺。立奉先甘露戒壇。天下諸路皆立戒壇。凡七十二所。京師慈孝寺別立大乘戒壇。

述曰。案寧通慧僧史略云。甘露以喻涅槃。戒為入涅槃之初門。故從果以彰名也。今言別立大乘戒壇者。謂先於諸方受聲聞具足戒。後至此地增受菩薩戒。以順開顯之後末代出家乘戒俱急之義也。

詔天下州郡。應僧道有犯公罪者。聽用贖法。勅品官無故毀辱僧尼。口稱禿字者。勒停見任。庶民流千里○詔知制誥李維出經論題目。考試沙門以為遷補左右街之序。左街相國寺。右街開寶寺○詔吉州西峯雲豁禪師館於北御園。入定月餘。求歸故山。詔許之。師每入定或經歲方出。

○西天沙門眾德來朝。進舍利梵經菩提印○中天竺沙門覺
(稱法)戒來朝。進舍利梵夾金剛座真容菩提樹葉。召見便
殿尉勞甚厚。館於譯經院。稱進讚聖頌。詔惟淨譯之。稱
謂學士楊億曰。入此國見屠殺猪羊市肆懸肉。痛不忍觀。
西竺食肉五辛者驅出城。故無貨者。心不欲久居此。願至
五臺禮文殊即還本土。晉公丁謂問之曰。數萬里遠來更何
所為。稱曰。并欲禮宣律師塔耳。及還詔賜金襴袈裟奉安
金剛座。及賜裝錢茶果○四明知禮法師。初與沙門異聞。
於南湖保恩聚徒講道。是年賜額延慶。乃作誠誓辭二篇。
俾長為講貫天台宗教之所。其言吾宗有五德者。吾將授以
居之。後後之謀莫不咸然。五德者。一曰舊學天台勿事兼
講。二曰研精覃思遠於浮偽。三曰戒德有聞正己待物。四
曰克遠榮譽不屈吾道。五曰辭辯兼美敏於將導。

四年三月。上幸洛陽龍門山廣化寺瞻無畏三藏塔。製讚刻石置之塔所。復幸白馬寺瞻摩騰三藏真身。上謂近臣曰。摩騰至今千年。而全身不壞。良可尊敬。宜嚴諭寺僧用心守護。因御製以褒之○詔賜黃金三千兩。增修峨眉山普賢寺。設三萬僧齋。歲度僧四人○詔漣水軍守堅道者入見。令宮女皆出焚香。每一女至前。上給之曰后也。師皆言非。如是數十人。師忽起曰。陛下好養此人他日必作家主。即章獻太后也(真宗后劉氏。仁宗即位。以年幼尊劉氏為皇太后。臨朝稱制十一年)。

師乞歸山。詔許之。在山常紙衣。閉戶不見人。有置食庭前者。人退自取之。

五月。般尼國沙門寂賢來。進梵經菩提印。賜紫服○十一月。益州守臣李士衡。進大慈寺沙門仁贊編修釋氏會要四

十卷。

五年二月。詔嘉州峨眉山沙門茂貞入見。上賜以詩。館於景德寺。舒王元偁夢青衣童持書以授中使。足蹈黃雲隱隱而沒。王以問師。答曰。將有儲嗣降孕之慶。未幾仁宗生。○初樂史留守西京。夢天帝召謂曰。世主求嗣吾為擇之。少選一人至。帝曰。中原求嗣汝往勿辭。遂唯而去。旁侍者曰。此南岳赤腳李仙也。明年仁宗生(張師正括異記)。

日本國遣使稱貢言。國東有祥光。見舊傳中原天子聖明則應此瑞。上喜。詔日本建寺。賜額神光。勅詞臣為撰寺記。

六年二月。詔天下官吏試童行經業。方許剃度。○五月開寶寺福勝塔有金色光見相輪上。又有聖僧遶塔。翌日得五色

舍利。上親幸敬觀。見舍利於塔表。大如月。色同水晶。往來飛動於鈴索之上。士庶同瞻於地輒上。獲舍利五千餘粒。詔賜號靈感之塔。時京師天清寺興慈塔。亦有舍利見相輪上。上曰。像教嘉祥生民之福也○八月兵部侍郎譯經潤文官趙安仁。奉詔編修大藏經錄成。凡二十一卷。賜名大中祥符法寶錄。仍賜御製序云。自太平興國以來凡譯成經律論四百十三卷。祕書監楊億光梵大師惟淨等編次。又請以兩朝御製佛乘文集編入大藏。下詔褒許○詔諡泗州僧伽大士普照明覺大師。公私不得指斥其名○九月西天竺沙門知賢等來進舍利梵經。賜紫服○十一月舍利見於玉清昭慶宮聖祖明慶殿。或以為道門無舍利事。上謂宰臣王旦。曰三教之設其旨一也。大抵皆勸人為善。唯識達之士能一貫之。滯情偏執於道益遠。

述曰。法身舍利無乎不在。當大感通之際。雖頑空朽壤尚

可得之。何有間於道家之宮館哉。惟我真宗敬天奉佛德動幽顯。間者塔寺屢獲舍利。而今復見之聖祖之殿。誠所以彰聖君虔事二教之心。由精誠感格有以致之也。

西天波羅柰沙門滿賢。進梵經無憂樹葉○浮石崇矩法師(四明法智弟子)至京師。上聞其名。召入內殿。講四十二章經。盛談名理。上心大說。賜紫服金幣香藥。

八年正月。臣僚言。每歲上元車駕詣寺觀三十餘處百拜已上。望自今諸殿令近臣分拜。上謂王旦曰。朕祈福中外。虔恭拜起未嘗懈怠。卿等欲申裁減非朕之意(國朝會要)。

述曰。案歸田錄。大祖入寺問贊寧通慧。佛當拜否。答曰。見在佛不拜過去佛。寧於太宗朝隨吳越王初歸京師。未嘗及見太祖。歐陽氏所錄妄也。今觀真宗百拜已上。不

欲分任近臣。蓋習熟於祖宗之家法也。其後如徽宗拜佛牙。南渡歷朝拜大士。則知有國以來無不拜佛之理。歐陽慢佛。不欲人主致敬故特創此說。見在過去無義之談。所以上誣君主下誣寧師也。甚矣。

詔於大內丙地建景靈宮。以奉聖祖○勅汀州南安巖名均慶院。賜太宗御書百二十軸。先是釋自誠居巖上。神異不測。云是定光佛化身。見懷仁江有蛟害人。書偈投潭中。水擁沙漲塞潭為洲。其怪遂絕。過梅州黃楊峽。民乏水飲。誠以杖指溪。移於近道。每歲有旱。書偈擲之。風雨隨至。其偈後每書贈以之中四字。人世莫曉其旨○詔以太宗御製妙覺集五卷。付傳法院編入大藏。

述曰。道家者流其所學則道德陰符。是為治心修身之本。至言內丹外丹火候口訣。則不傳於非人。其餘旁門如胎息

之法草木之方。皆上聖下教用度人世。非可謂之虛無也。
若夫置壇傳籙起自天師。是又上天護國護人治鬼攝邪之
法。俱可以助教化於天下者。是故此道列在國家。與儒釋
均為三教者以此。至於小大優劣內外之義。則較然可知。
故闕澤對吳王曰。道事天。天事佛。李士謙論三教曰。儒
五星也。道月也。佛日也。能達此意則三教之位定。世言
儒道釋。蓋本乎此。儒生道士不別本末。欲輕陵於釋氏。
皆末學之過。若道流有輔成舊偽言。老子化胡以佛為侍者
之言。謗老子瀆世尊。其咎當如何邪。

南海注輦國遣使來貢。進天竺梵經。其使言。四十年以來
海無風濤。意中國有聖人出世。九年二月。北天竺優填曩
國沙門天覺。南天竺師子國沙門妙德。西天竺迦蹉國沙門
等來。各進舍利梵經。各賜紫衣金幣○四月中天竺薩縛羅
國沙門童壽來進梵經。賜紫服○五月東天竺縛隣捺國沙門

普積來進梵經。賜紫服。

述曰。西土梵僧繩繩而來者多矣。至於五竺沙門競集闕下。則無若茲時之為盛。豈法運之興隆亦帝德之感通也。五竺國名校以西域記。唯師子國可見。餘不可考。蓋今古事變。猶昔漢唐而今為宋。其實一區宇耳。

沙門繼全自西天還得佛舍利。建塔於揚州○西京龍門山石龕佛。歲久廢壞。上命沙門栖演給工修飾。凡一萬七千三百三十九尊○九月不雨。詔泗州龜山沙門智悟入京止開寶寺祈雨。悟先在泗州祈雨有感。曾斷一臂。至是又曰。若七日得雨更舍一臂。五日大雨。乃截一臂。上遣使賜藥。悟曰。無害。人見所截臂無血。甚異之。泗守與郡人皆夢。僧伽謂之曰。悟是五百羅漢中一。來此救世。

天禧元年四月。詔曰。金仙垂教實利含生。貝葉騰文當資傳譯。苟師承之或異。必邪正以相參。既失精詳寢成訛謬。而況葦血之祀甚瀆於真乘。厭詛之辭尤乖於妙理。其新譯頻那夜迦經四卷不許入藏。自今後。似此經文不得翻譯○七月詔賜台州東掖山智者教文印本四千六百二十卷。住山本如勸郡人建教藏閣。以奉之○九月宰相王旦薨。先一日囑翰學楊億曰。吾深厭勞生。願來世為僧宴坐林間觀心為樂。幸為我請大德施戒剃鬚髮著三衣火葬。勿以金寶置棺內。億與諸孤議曰。公三公也。斂贈公袞豈可加於僧體。但以三衣置柩中。不藏寶玉(湘山野錄)○宰相王欽若兼譯經潤文使○十一月詔天下州郡復放生池。無池之處沿江淮州郡近城上下水五里並禁漁捕(唐肅宗立放生池。八十一所。顏真卿作碑紀德)○四明延慶禮法師結十僧修法華懺。期三年。焚身供法。祕書監楊億素仰道風。貽書勸請住世。謂方當台教中興之時。正賴傳持為世良導。復修書

郡守李夷庚及天竺慈雲。俾同勸止。既而駙馬李遵勗亦奉書交勸。師以公私意勤竟沮前志。乃復結十僧修大悲懺法三年。以酬至願。二年勅江寧府(昇州)長干寺。改賜天禧。塔名聖感。即東土所藏阿育王舍利塔十九所之一也(塔在城外)。

三年八月。恭謝聖祖大赦天下。節文云。虛皇妙道西竺真乘。咸昉化源敢忘崇奉。應天下僧尼道士女冠係帳童行。並與普度。尚書右丞林。特提舉祠部文牒。是歲度僧二十三萬百二十七人。尼萬五千六百四十三人。道士七千八十一人。女冠八十九人○詔於天安殿建道場答謝天地。大會沙門道士萬三千八十六人。上親以藥銀大錢面賜之(藥銀即水銀。銀世謂之乾汞也)○錢唐月輪山沙門道誠。以朝廷覃恩普度。撰釋氏要覽三卷。為出家者眾法之須知行於世○譯經三藏法護等。請以御注四十二章經御注遺教經。入藏

頒行。詔可○宰相王欽若。出鎮錢唐。率僚屬詣天竺靈山
謁慈雲法師遵式。請講法華。歎曰。此道所未聞。此人所
未見也。即為奏錫天竺舊名。師奏請西湖為放生池。每歲
四月八日。郡人會湖上縱魚鳥。為主上祝壽○十一月東女
真國入貢。乞賜大藏經。詔給與之。四年正月。右街講經
祕演等。請以御製釋典法音集命僧箋注凡三十卷。乞附大
藏。詔可。初是楊億提舉其事。集中有六種震動之語。一
僧箋之。將三百字。暗碎不可觀。億削去自注云。地體本
靜動必有變。人服其簡○西天沙門普善來進梵經。賜紫服
○駙馬都尉李遵勗奏。四明知禮法師高行遺身。上嘉歎不
已。特賜法智之號。仍宣旨住世演教。不許遺身。時譯經
院證義簡長等二十三人。各寄聲詩贊美道德(詩見四明教行
錄。及刻石在南湖)○十二月翰林學士楊億卒。億留心禪
觀。自屬疾即屏葷茹。臨終之日為空門偈以見志。識者知
其有得佛氏之學。

五年。詔遣內侍俞源清往四明延慶請法智法師。領眾修法華懺。為國祈福。師為述修懺要旨上之○詔於并州建資聖禪院。為將士戰亡者追福○門下侍郎平章事丁謂兼譯經潤文使。翰林學士晁迥李維兼潤文官。

述曰。真廟之在御也並隆三教。而敬佛重法過於先朝。故其以天翰撰述。則有聖教序。崇釋論。法音集。注四十二章遺教二經。皆深達於至理。一歲度僧至二十三萬。而僧眾有過者止從贖法。上元幸諸寺禮像百拜弗辭。復唐家天放生池。以廣好生。皆本於宿願而發於聖性。非俟於勸也。至於繼世譯經大開梵學。五天三藏雲會帝廷。而專用宰輔詞臣兼潤文之職。其篤重譯事有若是者。當時儒賢如王旦王欽若楊億晁迥輩。皆能上贊聖謨共致平世。君臣慶會允在茲時。稽之前古未有比對。

是歲天下僧數三十九萬七千六百十五人。尼六萬一千二百四十人。

乾興元年。章懿太后(仁宗母李氏)遣使詣錢唐天竺。請遵式法師。為國行懺。師著金光明護國道場儀上之。因奏天台教卷乞入大藏○龜茲國僧華嚴來。進佛骨舍利梵經。賜紫服。

佛祖統紀卷第四十四(終)

○汀州方士王中立。遇道人姓趙。授以神術。中立至京師。具言靈應。勅授許州參軍留上皇城廨舍。後每於市上見之。自稱司命真君。是年五月降于中立所居之堂。戴冠

佩劔。服皆青色。凡有瑞異。必先告之。中立每傳其言。

大中祥符元年正月三日。有天神降于寢殿。星冠絳袍。謂上曰。天書將降。宜齋戒建壇以受之。越月皇城司奏言。右承天門有黃帛書曳鴟吻上。上步至門望拜。內侍捧取而下奉安朝元殿。視其上文云。趙受命興於宋付於某居其器守於正世七百九九啟封宣文。其名大中祥符。凡三篇若洪範老子之書。是日司天監奏。有紫雲如蓋。下覆殿庭。百僚稱賀。詔改元馮拯請以天書大中祥符為號。上喜曰美名也(國朝會要)。

述曰。周卜其祚得世三十。歷年七百(其後傳世三十七。歷年八百故。曰周過其歷)。漢之世以讖知故。赤伏符云。四七之際火為王(自漢高祖至光武初起之年為二百二十八。故云四七。漢以火王故云為主也)晉元渡江。筮之得百二(元

帝使郭璞筮之云。享年二百後百二年而宋代晉。始寤郭氏以百二之期促故。婉辭以倒之也。唐太宗時原州貢瑞石。成文有七佛八菩薩之記(石文云。太平天子李世民太子李治七佛八菩薩。其後至二十一世。如武宗之滅法及高祖之薄信。末年諸主當不在佛菩薩之數)。又萬回謂明皇五十年太平天子。一行記社稷終吉(明皇以國祚問一行禪師。答曰。社稷終吉後至昭宗而亡。以曾封為吉王故耳)北朝陸居士謂齊文宣十年天子猶尚可。百日天子急如火(居士陸法和題壁云。十年天子猶尚可百日天子急如火。周年天子遞代坐十年謂文宣也。百日廢帝也。周年孝昭也。後皆驗)。此皆天命人事互相參會默定於先時而不可詰也。我國家丕應休運。太宗即位之初感翊聖真君之降。謂國祚過於有唐。而嘉州石文誌公石記。則有趙號二十帝之文(太宗四年嘉州貢石。有丹文云。趙二十一帝。七年舒州貢石有誌公記云。趙號二十一帝。既而誌公親降禁中。上親聞訓

語)。真宗祥符初。天書降有云。趙受命世七百九九。今詳翊聖國祚過唐。誌公二十一帝。此兩義固可解。唯天書七百九九未之能論。假使果及此數當不止二十一帝。殊不知前十四朝已三百年。自今皇帝以下凡七傳各在位七十年。則可及五百之數也。恭惟列聖相承德加四海。一視萬區而以民為重。並隆三教而知佛為尊。當必有聖賢護國延長世祚。則周過其歷之驗。復見清朝便須實及七百九九之年。用以仰符上天之語。為可信也。佛天聖人以宿命智預鑑未來。雖億千萬劫莫不前知。矧此千百年之近事。以之能預告者非怪誕也。

十一月。幸泰山。奉玉幣三牲。祀昊天上帝于山之圓臺。太祖太宗陪位於東西。依南郊行禮法。

元豐間有司以合祭天地于圓丘。援周制不應古義。詔定親

祀北郊之禮。元祐初詔依前旨集官詳議。蘇軾奏議。其略曰。臣竊惟議者欲變祖宗之舊。圓丘祀天而不祀地。不過謂冬至天於南郊陽時陽位也。夏至祀地於北郊陰時陰位也。以類求神則陽時陽位不可以求陰也。是大不然。冬至南郊既祀上帝。則天地百神莫不從也。詩之序曰。昊天有成命。郊祀天地也。書曰。肆類于上帝禋于六宗。望于山川。遍于群祀。春秋書不郊猶三望。左氏傳曰。望郊之細也。說者曰。三望泰山河海也。或曰。分野之星及山川也。以詩書春秋考之。則天地合祭久矣。漢魏唐皆用圓丘合祭之禮。載之於史。

本朝太祖初郊先享宗廟並祀天地。

真宗以來三歲一郊。必先有事景靈遍享太廟乃祀天地。今議者欲冬至祀天夏至祀地。蓋以為用周禮也。古者一歲祀

天者三。明堂享帝者一。四時迎氣者五。祭地者二。享宗廟者者四。凡此十五者皆天子親祭也。今三年一郊。先郊而祭大廟。郊而肆赦。優賞諸軍文武官皆得蔭補。親屬宰相百官皆有賜賚。凡此皆非周禮。此皆不改而獨於地祇則曰。非周禮不當合祭者何也。本朝祖宗欽崇祭祀。儒臣禮官講求損益。非不知圓丘方澤皆親祭之為是。特以時不可行故參酌古今。上合典禮。下合時宜。若一歲再郊。則軍國重有勞費之患也(東坡集)。

○東封畢。詔加司命真君為九天司命保生天尊。勅兩街道士修齋醮科儀。命知樞密院王欽若。定羅天醮儀十卷。選道士十人校道藏經。舊錄三千三百三十七卷。欽若詳定增六百二十卷。賜名寶文統錄。御製序以冠之。初奉詔取釋道藏經互相毀訾者。並刪除之(今老君實錄載王欽若言。老子化胡經乃古聖遺迹不可削。王公有識鑑未必自此語也)。

○九月。詔取舒州瑞石誌公記以示近臣。宰相王旦曰。國家啟運在梁陳隋唐四朝及五代之後。太宗即位歲在丙子。今天尊臨降事。皆符合於五百年之前(誌公石文云。吾觀四五朝後次丙子年。趙號太平二十一年)。財知天命。我宋其來久矣。上說遣陳堯咨往昇州蔣山致告。

述曰。世書謂之預識(驗也)佛典謂之預記。謂能先事以告也。在佛則言。聲聞作佛。國劫名號(見法華經)凡夫禍福。休咎在俗前如圖書蓍龜星占夢象。皆所以告先事也。桓譚非識。非不知識也。特恐光武當中興多故之日一切以識決之而於人事有不能盡。故不如不言識之為愈也。然則聖人之興未嘗無識。上世帝王之識誠多矣。固不俟於枚數。近古如唐太宗鴻池瑞石預記之祥。肅宗上天賜寶鎮國之瑞。皆載之唐史。驗于後時無爽也。惟我太宗之朝兩獲瑞石。

則有二十一帝之文。真宗時翊聖臨降。則有國祚過於有
唐之言。聖祖天書則有七百九十九之識。得非先事以告
乎。人不知學而欲謂識為非者誠未可也。佛聖人先事以
告。固非世俗所能知。至於著龜星夢之兆與夫經史聖賢之
能先知者不可言乎。倘著龜星夢之兆。經史聖賢之言。既
有可信。而於佛聖人之先記反不欲信乎。然則我朝石記
天書。當時非無其實。特儒人不可偽。則誌公親降禁中。太宗
事者得以和之也。借使石文可偽。借使天書可疑。則吳會中興
遣使致謝。謂之不實可乎。易曰。神以知來。此仲尼言識
得數延永。謂之不實可乎。易曰。神以知來。此仲尼言識
之大旨也。可不信乎哉。

十月八日天神降于禁中延恩殿。冠服如元始天尊。即前祥
符初天神也。命上坐謂曰。吾人皇九人之一。是趙姓之始
祖。再降乃軒轅黃帝。吾以後唐時下降總治下方。生趙氏

之族今已百年。皇帝善撫育群生。乃乘黃雲而去。是月大赦。上尊號曰聖祖上靈高道九天司命保生天尊。聖祖母曰元天大聖母聖祖諱(上玄下朗)詔中外不得斥犯。改玄聖文宣王曰至聖文宣王。玄武曰真武。勅諸郡天慶觀。增建聖祖殿○。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十五

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志十七之十二

仁宗(真宗第六子。母宸妃李氏。夢二日在天其一忽墜以裾承之遂娠。四月十四日為乾元節。葬永昭陵)

天聖元年。上常頂玉冠。上琢觀音像。左右以玉重請易之。上曰。三公百官揖於下者。皆天下英賢。豈朕所敢當。特君臣之分不得不爾。朕冠此冠將令回禮於大士也(鄭氏家集)○勅內侍楊懷古降香入天竺靈山為國祈福。慈雲式

法師。復以天台教文入藏為請。懷古為奏上知○南海駐輦國遣使進金葉天竺梵經。詔三藏法護譯之○四明延慶法智法師。出教義策試生徒名開幃四十二章至今以為法。

二年。詔賜天台教文入藏。及賜白金百兩。飯靈山千眾。慈雲撰教藏隨函目錄。述諸部著作大義○四明名儒衛開遊學至洛陽。遇道人李士寧於逆旅。謂開曰君鄉城戒香有瘧女者。過去維衛佛也。若歸可往禮拜。問其狀。則曰。縮臂掃地者是也。開既婦亟往寺訪之。一老尼曰。聖姑坐化年餘矣。因示以畫像。炷香作禮。自以不覩尊容為之愧恨。明年過錢唐客書吏陳式家。忽見小兒十數擁一尼童入門。譁傳云。瘧女瘧女。開方驚顧。遽索紙書偈曰。大地山河是阿誰。了無一法可思惟。夜來處處鳴鐘鼓。敲破髑髏人不識。復於偈後書無去來。開前禮足。略述戒香得瞻遺像之意。復書偈云。須彌山上擺鐸。大洋海底搖鈴。若

問瘧女姓字。祇此便是真名。出門竟去。追問小兒。瘧女何人。兒曰。維衛佛也。問兒何人。曰問取瘧女。忽俱不見。

志磐頃過甬東。棲心元妙得舊文於書篋。念瘧女古佛。世無知者。因為述戒香維衛古佛記。既而元妙以遺寺。王師亮俾刻石寺中。以題名勝。案藏經維衛或稱毘婆尸。此翻勝觀。所謂以勝妙三觀觀一切諸法無非三諦之理也。

蜀人李士寧有道之士。得軒轅古鏡洞見遠近。學士蔡君謨。聞而惡之。一夕夢為虎逼。有人救之。謂君謨曰。公貴人也。但頭骨未正。乃以手按之。夢覺頭尚痛。明日士寧往謁焉。即夢中所見者。後出守閩中。士寧復往見君謨告曰。久患目疾。夜夢龍樹菩薩何也。士寧即袖中出畫像宛如夢中。兩目明視如故(見李壁注荊公詩。士寧神異甚

多。荊公歐陽公皆有歌詩。以記述其事)○西天沙門愛賢護賢來進貝葉梵經。賜紫服。

三年。先是天禧初詔天下復放生池。四明南湖法智法師。每於佛生日集眾行法。放魚鳥以祝聖。是年郡以事聞。勅樞密劉均撰文以紀。郡守曾會立碑寺門(文見光教志)師一夕夢伽藍神告曰。明日相公至。已而曾會領子公亮入寺。師告以夢。母夫人謝曰。後貴無敢忘。及公亮入相。乃買田闢屋。歲度其徒(有曾相公捨田帖載教行錄)○翰林學士夏竦同三藏惟淨等。進新譯經音義七十卷○判都省馬亮言。佛道貴重人天所師。請無得收度曾犯真刑及文身者。詔從之。

五年。三藏惟淨進大藏經目錄二裘。賜名天聖釋教錄。凡六千一百九十七卷○杭州天竺寺。七月八月望日之夕天雨

桂子。慈雲法師播種於土。作詩以記。

六年。御製三寶讚以賜宰輔及譯經院○四明南湖法智法師。於元旦建光明懺。期至五日。趺坐說法。驟稱阿彌陀佛數百聲。奄然而化。露龕七日。顏貌如生爪髮俱長。闍維之日異香芬郁。舍利無數舌根不壞若蓮華然。

七年。勅於京師大建慈化寺。謂宰臣曰。此蓋為先帝薦福之舉。今後毋得無故擅興力役。

九年。勅韶州守臣詣寶林山南華寺迎六祖衣鉢。入京闕供養。及至奉安大內清淨堂。勅兵部侍郎晏殊撰六祖衣鉢記○傳法院言。沙門懷問嘗往天竺。為真宗皇帝建塔於佛金剛座之側。今欲再往為皇太后今上更建二塔。乞賜先朝聖教序皇太后發願文聖上三寶讚。刊石塔下。及製袈裟奉釋

迦像。詔可。仍令詞臣撰沙門懷問三往西天記○初太祖疑宣律師佛牙非真。遣使取自洛烈火煨之色不變。心敬神異。遂製發願文。太宗朝復取驗以火。製偈讚以申敬(見三朝御製碑)因奉安大相國寺法華院。真宗嘗迎供開寶寺靈感塔下。瞻拜之夕神光洞發。遂製偈讚(見三朝御製碑)上以三朝敬事。遂迎置禁中。以薔薇水灌之(出南海三佛齊國。香氣芬郁異常)忽於穴中得舍利一。五色映人。因為製讚。以金[豕/皿]二重藏之。奉以還寺。其讚云。三皇掩質皆歸土。五帝潛形已化塵。夫子域中誇是聖。老君世上亦言真。埋軀祇見空遺塚。何處將身示後人。唯有吾師金骨在。曾經百鍊色長新([豕/皿]徒回切。音隤。器似盂。本紀錯為盥。今改正)。

述曰。佛道大道也。佛身真身也。言大道則法界無遺。不同孔老之有方域。言真身則常住不滅。不同孔老之有生

死。其所謂佛牙舍利者。此蓋真身應物示化之一法也。豈世間水火所能沮壞之耶。仁宗以三朝歸敬特製讚文。而且歷詆帝皇儒道之宗祖者。誠以仁義之道清淨之化。所以教域中之人致人天之福耳。非如佛道有化人出世之能。然則在儒在道不離此身。皆可以從事。釋學以為未來出世之本。恭覽宸製。知言近而指遠。

明道元年十月一日。天竺慈雲法師說法坐逝。人見大星殞於鷲峯紅光赫然。師於前朝進金光明護國儀。上因閱視至發願文有諸天威神護持我國聖帝仁王慈臨無際。撫几歎曰。朕得此人可以致治。亟宣召之則師入滅矣。

二年七月。四明南湖奉法智法師舍利。葬於南城崇法院之祖關。

景祐元年。參知政事王隨。刪景德傳燈錄為十五卷。傳法院編錄入藏○詔試天下童行誦法華經。中選者得度。命參政宋綬夏竦同監。試有童行誦經不過問習業幾年。對曰。十年矣。二公笑且閔之。約歸各取經誦。綬十日竦七日。不遺一字(歸田錄)○是歲天下僧三十八萬五千五百二十人。尼四萬八千七百四十人。

二年。上御製天竺字源序賜譯經院。是書即法護惟淨。以華梵對翻為七卷。聲明之學實肇於茲。其所序云。翻宣表率則有天息災等三藏五人(西土四人天息災。施護。法賢。法護。東土一人。則惟淨耳)筆受綴文證義。則自法進至慧燈七十九人。五竺貢梵經僧。自法軍至法稱八十人。此土取經僧得還者。自辭漸至栖祕百三十八人。梵本一千四百二十八。譯成五百六十四卷○十一月詔孔宗愿襲封文宣公。

三年。駙馬都尉李遵勗。廣傳燈為三十卷進上。賜名天聖廣燈錄。御製序○右僕射譯經潤文使呂夷簡。參知政事潤文官宋綬言。奉詔續修法寶錄。自祥符四年至今景祐三年。編成一百六十一卷。乞依舊式賜序四年。御製景祐新修法寶錄序。賜入大藏。

寶元二年五月。三往西天懷問同沙門得濟永定得安。自中天竺摩竭陀國還。進佛骨舍利貝葉梵經貝多子菩提樹葉無憂樹葉菩提子念珠西天碑十九本。召見尉勞。賜號顯教大師紫衣金幣。

慶歷元年。三藏法師惟淨言。西土進經新舊萬軸。鴻臚之設有費廩祿(鴻臚卿主四方賓客。後世兼領西域梵僧)欲乞停罷譯經。上曰。三聖舊模焉敢即廢。且琛貢之藉非鴻臚

則不可識。未幾中丞孔輔道上疏。請罷譯經。上出淨疏示之。諭以先朝盛典不可輒廢(湘山野錄)○范仲淹宣撫河東。寓宿保德傳舍獲故經一卷。名十六羅漢因果識見頌。藏經所未錄也。仲淹遂為之序云。此頌文一尊者七首。皆悟本成佛之言也。余讀之。一頌一悟。方知塵世有無邊聖法。大藏有遺落真文。因以傳江陵。沙門慧哲。俾行於世(家集)○諫議大夫歐陽修慕韓愈斥佛老。著本論三篇。其略曰。佛法為中國患千餘歲。世之卓然不惑而有力者。莫不欲去之。已去矣而復大集。遂至於無可柰何。云云。堯舜三代之際。王政修明。禮義之教充於天下。於此之世雖有佛無由而入。及三代衰王政缺禮義廢。後二百餘年而佛至乎中國。由是言之佛所以為吾患者。乘其缺廢之時而來。此其受患之本也。云云。禮義者勝佛之本也。蒐狩昏姻喪祭鄉射之禮。凡教民之具無不備。則佛無由而入(歐陽氏以禮義為本。求勝於佛。故曰本論)又曰。今佛之法可謂

姦邪。又曰。千年佛老賊中國(並見六一居士集)○二年。初東掖山本如法師結百僧修法華長懺一年。是年七月。駙馬都尉李遵勗以聞於朝。賜號神照紫方袍。嘗於山西南見一虎臥。以杖擊之曰。非汝住處也。虎俛首而去。後於虎臥處結屋為菴。以是年歸閒此中。慕廬山之風。與郇公章得象諸賢結白蓮社。六七年間寢成巨剎。主上素聞道風。因賜白蓮之額。三年六月久旱。詔迎相國寺佛牙入內殿躬禱。須臾雨大注。乃作金殿四門以象天宮。用以奉藏。復製發願文以見歸敬○宰相章得象兼譯經潤文使。

四年。

○六月開寶寺靈感塔災。勅中使取塔基所藏舍利塔入內供養。將事再建。諫臣余靖力諫。上不說○諫議歐陽修。為言事者所中。下詔獄窮治。左遷滁州。明年將歸廬陵。舟

次九江。因託意遊廬山。入東林圓通謁祖印禪師居訥。與之論道。師出入百家而折衷於佛法(史記孔子世家。折衷於夫子。折斷也。衷當也。無音漢楊雄傳。折衷乎重華顏師古)修肅然心服。聳聽忘倦至夜分不能已。默默首肯。平時排佛為之內銷。遲回踰旬不忍去。或謂此與退之見大顛正相類。修初至師揖就座曰。足下遠臨豈以西竺聖人之道有合於心乎。修盛氣以答曰。修學孔孟之道。竊有慕於韓子之攘斥佛老者。西竺之法何所取焉。師正色而詰曰。退之排佛老。自比孟子之距楊墨。佛老大聖非楊墨比。退之尚不可排。況今欲慕之者。昔者文中子之言佛聖人也。而退之斥為夷鬼。此大慢之言也。修曰。學者廢中說史家不立傳。退之絕口而弗稱。今師援之。謂佛聖人者。天下孰從之乎。師曰。文中子醇儒也。其得佐太宗當不愧三代之治。其職居修史。必能列佛老於聖人。昔陳叔達撰隋史。避嫌於當世。而司馬君實作傳以補之。退之蔽賢而弗稱。

豈天下之公心。皮日休謂。孟子荀卿翼傳孔道。至於文中子司空圖。謂天生文中子以致聖人之用。故房杜之徒。恢張文武以濟正觀之治。此皆足以知文中子也。荀卿之徒。韓非尚刑名以害世。李斯焚詩書以亡秦。楊墨之禍未至是也。文中子之門人。能以仁義之道。輔成唐家以致治平。若子雲退之徒立空言。不聞其徒有佐漢興唐之效者。然則文中子之道。豈不愈於荀楊韓子。而後世學者顧不之知耶(文中子之弟王績。奏候君集無君事連長孫無忌叔達避嫌故。弗與立傳)。

修曰。韓子之與道文中子不合者鮮矣。使其遇太宗。必大發所蘊。師曰。憲宗中興之君也。退之不聞此時有所裨贊。乃以排佛老為己功。欲自比於孟子之距楊墨。其好勝取名。若是之甚。且退之斥佛為夷鬼者。請略辨之。佛聖人降自兜率天。託生中天竺聖王之家。何以夷稱。佛聖人

不生不滅曠劫常存。人天之宗仰。何以鬼稱。此非退之大慢語乎。退之七世祖韓耆。當後魏永興。自赫連屈囚來降拓跋(赫連氏。匈奴左賢王。後據朔方號大夏。後魏道武拓跋氏。起自北狄)。由西戎歸北狄。獨不為祖諱。而反敢訕佛聖人乎。退之畏修史褒貶之過(答劉秀才書。夫為史者。不有人禍必有天刑)而不思貶佛之過為尤可畏。排老子為己任。而兄事毛仙服其丹。卒疽發而殂(退之言韓與毛同姓)子昶校書不材(校漢書。改金根車為金銀車)卒黜歸。未數世而絕滅。其亦天刑人禍之不能免乎。退之倡排佛老。足下今又和之。將使後世好名之士。援韓氏歐陽氏以為法。豈不為盛德之累。諺言。善罵者人亦善罵之。足下舊著本論。孜孜以毀佛為務。安得眾口不毀公於天聽之前乎。足下之言。以蒐狩喪祭鄉射之禮為勝佛之本。是猶退之原道而實未知道也。修大驚赧。為之謝曰。修胸中已釋然。將何以見教。師曰。佛道以悟心為本。足下屢生體道。特以

失念生東華為名儒。偏執世教故忘其本。誠能運聖凡平等之心。默默體會。頓祛我慢悉悔昨非。觀榮辱之本空。了死生於一致。則淨念當明天真獨露。始可問津於此道耳。修自此頗有省發。及後入參大政。每譽於公卿之前。歲時書問未嘗絕(蜀沙門祖秀。紀歐陽子見訥禪師事。作歐陽外傳。後湖居士蘇庠養直魏公張浚為序。秀住潭州上封。得法於黃龍新禪師。自號藏六菴)。

述曰。孔子文中子皆謂佛為聖人。韓氏則曰。佛者夷狄。歐陽作本論曰。佛法為中國患。二子不知佛為聖。不知天地之廣大故。不知奚為夷奚為中國。不知佛法之妙故。不知奚為本奚為患。儒宗有欲排佛者。倘未能覽其典籍質諸學者熟復其義理之所歸。則吾恐輕肆慢易。如韓歐一時之失言也。然退之問道於大顛。自云得入處。故魯直有云。退之見大顛後。作文理勝。而排佛亦少沮。歐陽見祖印。

肅然心服。故東坡有云。永叔不喜佛。然其聰明之所照了。德力之所成就。真佛法也。今人徒知誦前時之觥排。而不能察後來之信服。以故二子終受斥佛之名。其不幸乎。

勅封孔子四十六代孫宗愿為衍聖公。仙源縣差廟戶五十人。充灑掃。

五年。眉山蘇洵赴汴京舉進士不中。泝江至潯陽。登廬山謁祖印訥禪師問法(東坡云。慶歷丁亥。先君問法於圓通。訥公得其旨)。

六年丙戌。江寧府正覺禪院住持守暹。重建泗州大聖磚塔。天禧寺住持普莊撰葬舍利記。

七年。春不雨。遣使往隨州大洪山祈雨。使人晨興叩殿遇紫服神僧。以目視之。翌日大雨。詔封慈忍靈濟大師○太子太保張方平。嘗為滁州。至一僧舍偶見楞伽經。入手恍然如獲舊物。開卷未終宿障氷解。細視筆畫手迹宛然。從是悟入。常以經首四偈發明心要。蘇軾為題經後云。先佛所說。微妙第一。真實了義。故謂之佛語心品。祖師達磨以付二祖。曰吾觀震旦所有經教。唯楞伽四卷可以印心。祖祖相授以為心法。如醫之有難經。句句皆理。字字皆法。後世達者神而明之。如槃走珠。如珠走槃。無不可者云云。軾遊公之門三十年矣。今年過南都見公於私第。公時七十九。幻滅都盡。慧光渾圓。軾亦老於憂患。百念灰冷。公以為可教者。乃授此經。旦以三十萬錢使印施江淮間。金山佛印元禪師。謂印施有限。書而刻之則無盡。乃為書而刻之板。以為金山常住云○御製譯經頌賜三藏法護。

八年。諫臣司馬光屢疏乞立儲嗣。上聞開寶寺言法華有異行夜焚香默祝。翌日請法華大士於化成殿齋。暨旦上道衣凝佇。俄內侍奏言。法華自右掖門趨入。將至寢殿。訶不能止。上笑曰。朕召之耳。至則徑升御榻趺坐受齋。上問儲嗣事。索紙連書十三十三字。後英宗繼統。乃濮王第十三子(濮王為仁宗兄)○知制誥曾公亮丁母夫人憂告歸。鄉僧元達附舟至錢唐。入天竺禮大士。入門見素衣女謂曰。曾舍人五十七。入中書上座。是年亦受師號。已而不見。至是年果拜相。而達以曾公恩補大師。公亮前身為青草堂。年九十餘。曾氏婦入寺設齋。以衣物施之。青感其意。及婦人生子青正坐化○參知政事歐陽修知楊州。廬山祖印訥禪師遣僧問訊。修與對食。偶曰。高麗遣使問。魏武注孫子三處要義無注說。廷中諸賢無敢答者。有詔問修。亦未知其答。僧曰。山中老師必知此義。修欣然飾郡

庭儀從乘急傳往迓之。師謂使者曰。兵者機密之事不可以示人。使反命。即以其言應詔(東林錄)修後為注孫子作序。有云孫武以不窮為奇。其文略而意深。又為錢忠懿王贊曰。中有樞里不以示人。皆有得於祖印之意也。

述曰。磐兒時侍師袁先生(名機。為郡學錄絜齋正獻公姪)見與鄉士閱孫吳兵書。聞其論曰。儒者之兵合於常道。愛養士卒不妄戮一人。仁也。救時赴難不忘君主。義也。兩陳相抗遣使往來。禮也。保境息民各守盟約。信也。至於曲在彼直在我。以正出師以奇制勝。智也。夫智者不滯一隅。有先事預算而勝者。有臨機制變而勝者。智用不定通於神明。父子至親不能以告。然則紙上之語。豈足以盡其意耶。聞此語四十五年。今觀東林錄所載。益信袁公之言與祖印同其旨。

(歐陽外傳云。公至圓通。范文正公以書抵永叔。問孫子闕疑。魏武不注。師就覽畢。即取別幅釋之。公驚汗永夕)。

九年。歐陽修知潁州。官妓盧媚善談笑。口作蓮華香。有蜀沙門知人前事。修以問之。僧曰。此女前為尼誦法華三十年。一念之差遂至於此。修問妓曰。曾讀法華經否。妓曰。失身於此何能讀經。修令左右教之。一聞即誦。經他經則不能(遯齋閑覽)皇祐元年。詔再建靈感塔奉藏舍利(慶歷四年災毀故重建)○勅中使往陳留入關寺迎佛指舍利。或以為偽。上命試以烈火擊以金椎。了無所損。俄而舍利流迸光照西方。上曰功德。欲歸闡教乎。乃以水晶寶匣盛之。御製發願文。奉迎歸寺。初是陳留邑人為沙門義津建寺請額為闡教。俄有梵僧至曰。我自天竺携佛指舍利。欲求吉祥處奉安。非師不能護。施之而去。既而瑞光屢發。祈禱頻應([糸*易]傑撰碑)○自周朝毀寺。建隆興復。京師

兩街。唯南山律部。賢首慈恩義學而已。士夫聰明超軼者。皆厭聞名相之談。而天台止觀達磨禪宗未之能行。淳化以來四明天竺行道。東南觀心宗眼。照映天下。楊億晁迥有以發之。真宗嘉獎錫以法智慈雲之號。雖一時朝野為之景慕。而終未能行其說於京邑。至是內侍李允寧奏。以汴京第宅創興禪席。因賜額為十方淨因。上方留意空宗。詔求有道者居之。歐陽修等請以圓通居訥應命。訥以疾辭。因舉懷璉以為代(歐陽外傳)。

二年。宰相文彥博兼譯經潤文使。彥博在京師與淨嚴禪師。結僧俗十萬人念佛。為往生淨土之願○詔左街淨因禪寺懷璉禪師。入對化成殿升座。右街僧錄智林等問話。奏對稱旨。賜號大覺○初舜老夫住廬山棲賢。南康守以私忿民其衣。大覺迎至淨因。居以正室。上每召師入內。未嘗言之。一日嘉王至寺。見大覺侍立舜旁甚恭。怪問左右。

知大覺曾入舜室。歸以奏上。上召對便殿。道貌奇偉。敬之曰。山林之高人也。即於扇上書賜曉舜。依舊為僧。再住棲賢寺。賜紫衣銀鉢。

五年。西天沙門智吉祥等來朝進梵經。賜紫服。○詔歐陽修同宋祁范鎮修唐書。如高僧玄奘神秀諸傳及方技傳乃至正觀為戰士建寺薦福之文。並削去之。有淨因自覺禪師。初學於司馬光。嘗聞其言。曰永叔不喜佛。舊唐史有涉其事者必去之。嘗取二本對校。去之者千餘條。因曰。駕性命道德之空言者。韓文也。泯治亂成敗之實效者。新書也。范祖禹聞光言。乃更著唐鑑。陰補新書之闕(歐陽外傳)○司馬光嘗讀文中子。謂佛為聖人。乃曰。審如是則佛之心可見矣。乃作禪偈六首。其卒章云。言為百世師。行為天下法。為賢為大聖。是名佛菩薩。暇日遊洛陽諸寺。廊廡寂寂。忽聲鐘伐鼓至齋堂。見沙門端坐默默方進匕

著。光欣然謂左右曰。不謂三代禮樂在緇衣中。至和元年。勅三藏法護戒德高勝。可特賜六字師號。曰普明慈覺傳梵大師○上夢至景德寺門。見龍蟠地上。驚而寤遣使往視之。見一僧臥門外。其名道隆。明日召見。奏對詳敏。賜號明悟禪師。勅曹門外。建華嚴院以居之。二年。淨因大覺禪師懷璉上書。乞歸老山中。上曰。山即如如體也。將安歸乎。師乃進頌曰。千簇雲山萬壑流。閑身歸老此峯頭。殷勤願祝如天壽。一炷清香滿石樓。上嘗賜龍腦鉢。師對使者焚之曰。吾法已壞色衣以瓦鐵食此鉢非法。使者歸奏。上益嘉歎。

嘉祐元年。乾元節勅開寶寺福聖塔院建大齋。施僧袈裟○相州太守李復圭。發龍興寺塔基。得佛髮舍利。旋轉如螺。引之甚長。人從中過往來不斷。宰相韓琦即其地建殿藏之。三年譯經三藏銀青光祿大夫試光祿卿普明慈覺傳梵

大師法護亡。壽九十六○西夏國奏。國內新建伽藍。乞賜大藏經典。詔許之。五年。同中書門下平章事富弼兼譯經潤文使○富鄭公。請顥華嚴住洛陽招提。邀司馬溫公從迓之。忽見數十擔過溫公問之。曰新招提長老行李也。溫公即命歸謂鄭公曰。已見之矣。

述曰。學道之士以貧為德。此世人之常所知敬也。招提數十擔。卒為溫公見薄。一眚掩大德。可不戒之哉。

六年。文彥博以使相鎮魏府。請文慧禪師重元居天鉢寺。一日來別曰。入滅去。彥博遣子往候之。果坐脫。暑中香風襲人。焚龕之時煙色正白。舍利如雨。彥博親臨視。手執流離瓶祝之。煙入瓶中舍利填滿。

○杭州智圓律師允堪示寂。塔於西湖菩提寺。嘗述會正

記。以消釋南山律宗諸文。行於世。

七年。藤州沙門契嵩。初得法於洞山聰禪師。至錢唐靈隱閉戶著書。既成入京師。見內翰王素進輔教編。定祖圖。正宗記。上讀其書。至為法不為身。嘉歎其誠。勅以其書入大藏。賜明教大師。及送中書宰相韓琦。以視參政歐陽修。修覽文歎曰。不意僧中有此郎。黎明同琦往淨因見之。語終日。自宰相以下莫不爭延致。名振海內。及東下吳門大覺璉禪師作白雲謠以送之(石門文字禪)。

述曰。晁以道言。予嘗怪韓文公歐陽力排浮圖。而其門多浮圖之雄。如澄觀契嵩輩。雖自能傳於後世。而士夫至今喜稱道之者。二公之力也。

洛陽沙門鑒聿。深於易述韻總五篇。歐陽修為之序曰。推

子母輕重之法。以定四聲。考求前儒之失。辨正五方之訛。儒之學者莫能難也。

述曰。夫人在孩提時便知學字。師不知字故所學多非。及長又以是教人非。傳非故皆不疑。不知字而為文。文欲學古。而字不知古。何文哉。漢先君中郎尚書(後漢盧植字子幹。至磐已身為十二世。備見家諫)嘗上書。乞正五經文字。有云。古文近實而流俗。降在小學此傷之也(班固漢書列字書為小學)磐幼從師學。年五十始悟字多非。因發憤取諸字書訂正之。益知世人書字訛謬為尤多。如陳陣華花歷曆奉俸。反主俗字而違失經史之正(論語戰陳之事。諸典皆作陳。今韻略却出陣字。於下注云。亦作陳○禮記。菊有黃華。詩隰有荷華。魏曹植詩。朱華冒綠池。今韻略先出花字。於下注云。亦作華○易治歷明時。漢書律歷志皆作歷。今韻略歷曆並出○漢書餐錢奉邑。又光武詔。增百官

奉。扶用反。秩祿也。今韻略先出俸字。下注云。亦作奉。此皆以俗字為主)巖岩稟[葶-丁+呆]臺臺船舫。此造作不典。而正通俗三者之所不收。岡崗暴曝芻葛然燃。是為山山火火重加之繆(暴音僕。孟子一日暴之。史記。暴其所長於燕。又暴露於野。並音僕。號字韻者。非曝浴)況况宜亘羈羈場場是為增減點畫之不成字也。至於正月之音征。昭穆之音韶。異代不必諱。而述音義者。諱之何也(書正月上日音政。又音征。詩正月如字。世謂秦始皇諱政。故避者音征。今去秦遠矣。尚不聞避政事之政。何獨正月之避耶。禮記王制。三昭三穆無明音。周禮呼昭穆而進之。注上昭反。此因避晉文帝諱昭故音韶。然昭穆正取昭明之義。朱晦菴經解並用如字。此征韶二音皆陸德明釋文。不知改削之過。已亡不令之君。能與避諱。而孔聖萬世之師。不知避諱。古今儒宗不能無愧也)。佛與禪出釋典而不收。僧與梵亦釋典而置之篇韻。何也(梵語佛陀此言覺者。

梵語禪那此云靜慮。此二字不收。梵語僧伽此云眾。梵者清淨離欲。今韻中收二字)是知孫強之增玉篇(梁顧野王撰玉篇。唐孫強增字。多取俗書)孫愐之增廣韻(唐孫愐撰廣韻多收俗字)與夫本朝丁度之撰集韻。皆泛引俗書雜揉正體。俾經史古意黯然不明。此字書之大陋。而有待於志士以矯正之乎。今觀歐陽序韻總。謂能正五方之訛。儒者莫能難。於私心竊有感焉。特無由見此書耳(見六一居士集)黃太史曰。魏晉人取字勢易工。不復問字之根源。如橋[橋-(夭/口)+(友-又+(口@人))]_直[匕/且]皆不成字。思陵翰墨志有云。書字之弊無如本朝。至哉。聖學之深識也(高宗陵號永思)。

英宗(仁宗兄。濮王第十三子。正月二日為壽聖節)葬永原陵

治平二年。勅大相國寺造三朝御製佛牙讚碑。翰林學士臣王珪撰文。左僕射魏國公臣賈昌朝書。右僕射兼譯經潤文使衛國公臣韓琦立石。太宗御製曰。功成積劫印文端。不使南山得恐難。眼覩數重金色潤。手擎一片玉光寒。鍊時百火精神透。藏處千年瑩采完。定果熏修真祕密。正心莫作等閑看。真宗御製曰。西方大聖號迦文。接物垂慈世所尊。常願進修增妙果。庶期饒益在黎元。仁宗御製。三皇掩質皆歸土。五帝潛形已化塵。夫子域中誇是聖。老君世上亦言真。埋軀祇見空遺冢。何處將身示後人。唯有吾師金骨在。曾經百鍊色長新。

三年。淨因璉禪師乞歸四明阿育王山。上賜手詔曰。天下寺院任性住持。師遂建宸奎閣以奉先朝聖製(仁宗詩頌凡十七篇)學士蘇軾為作記。移書問手詔中語。師答以無。此後示寂得之笥中。軾聞之曰。有道之士也。

四年。勅天下私造寺院。及三十間者。並賜壽聖之額。

神宗(英宗長子。母宣仁聖烈皇后高氏。四月十日為同天節)葬永裕陵

熙寧元年。

七月司諫錢公輔言。祠部遇歲饑河決。乞鬻度牒以佐一時之急。自今聖節恩賜。並與裁損。鬻牒自此始。

述曰。古者出家之士。自漢明以來。並從國恩而為得度。如隋文一歲至五十萬。唐太宗感奘三藏弘法須人之言。即度僧至萬七千人。睿宗度三萬人。本朝太宗普度十七萬人至二十四萬人。此特恩蒙度之大略也。唐中宗始詔天下試

經度僧。是猶漢家以科舉取士。最可尚也。我太宗真宗仁宗。並舉試經之科。於茲為盛。未聞貨取於山林高尚之士也。自唐肅宗用宰相裴冕之請。以時方用兵始鬻度牒。猶漢世納粟助邊以得爵也。從恩猶可擇人。試經是為得才。至於納訾為僧。則富者可以逞欲(漢書訾皆同)長污雜虧精進。法門之不幸也。公輔以時艱。始勸上裁恩賜以就買賣。利源一開。逮今不可復塞。律言。餘方有清淨。雖非我制不得不行。蓋此義也。

是歲天下僧二十二萬六百六十人。尼三萬四千三十人。

四年。明教大師契嵩終於錢唐之靈隱。火浴之鼻舌眼睛耳豪數珠五物不壞。時眾欲驗之。烈火再鍛。五物愈堅。

五年。勅錢唐天竺觀音院。歲度一僧以奉香火(上竺紀

勝)○七月歐陽永叔自致仕居潁上。日與沙門遊。因自號六一居士。名其文曰居士集(歐公自作傳云。吾家藏書一萬卷。集錄三代以來金石遺文一千卷。有琴一張。有碁一局。而常置酒一壺。以吾一身老此五物)息心危坐屏却酒殽。臨終數日令往近寺。借華嚴經讀至八卷。倏然而逝(見外傳)永叔初登政府苦於多病。嘗夢至一所見十人冠冕列坐。一人曰。參政安得至此。永叔問曰。公等非釋氏所謂冥府十王乎。曰然。因問。世人飯僧造經。果有益否。曰安得無益。既寤病良已。自是益知敬佛(樞密副使吳充撰行狀云。此事得於公之孫曰恕)。

述曰。居士者西竺學佛道者之稱。永叔見祖印。排佛之心已消。故心會其旨。而能以居士自號。又以名其文集。信道之篤於茲可見。然其傳六一。謂以一身老五物之間。五物者身外之餘物。豈足以寓諸道。則知居士之稱。或近於

濫。蓋好名而失其實者也。良渚曰。歐陽氏號稱大儒而無通識。以故立論時有乖戾。而為當時君子之所見攻。如議追尊濮王為皇考誤。英宗承大統無人子禮(英宗本生父濮王。及繼仁宗。王珪議宜稱皇伯。歐陽修請如漢宣帝光武稱皇考。范鎮奏。既考仁宗。又考濮王。非是宜。從珪議。司馬光奏。歐陽修巧說誤聽。宜從珪議。呂誨十一奏。乞依王珪。不報。乃與范純臣呂大防合奏。歐陽修首開邪議。韓琦飾非傳會。乞下修于理正其罪。上竟從修議。其後神宗以追尊事與漢宣帝異。以問吳奎。對曰。此誠牽於私恩耳。神宗曰。當時為歐陽修所誤。奎曰。韓琦於此事亦失眾心)謂見在佛不拜過去佛。誣太祖真宗不為佛敬(歐陽歸田錄載。太祖入寺問贊寧。佛當拜否。答曰。見在佛不拜過去佛。今詳贊寧隨吳越王歸京師。在太宗朝未嘗及見太祖。歸田所載妄也。會要國史也。稱真宗每上元詣寺觀三十處百拜以上。歐陽豈不知之。而妄載歸田錄

中。上誣兩朝。下誣贊寧。其為過不少矣)削唐太宗戰士建剎之詔。失史官記事之實(太宗正觀三年。詔建義以來隕身戎陳者。為建寺薦福。四年戰場七處建寺成。命虞世南岑文本七人為七寺撰碑。事載舊史。歐陽並刪去之。本朝建隆二年。詔於楊州置建隆寺。為死事者薦福。如唐正觀四年故事。其後王禹偁撰碑。建隆之詔。既指唐朝故事。考之新書則無所可據。使後世有歐陽子修宋史。則將并除建隆之詔矣)謂河圖洛書為怪妄不足信。與易繫辭論語相反(見居士集論易篇)至若著本論。斥佛法為中國患。而晚年敬明教服圓通。稱居士。讀華嚴竟自畔其前說。猶韓退之始排佛而終信服。至哉子瞻之論曰。韓愈之於聖人之道。蓋亦好其名而不樂其實也。其論至於理而不精。往往自畔其說而不知今觀歐陽之始卒。當亦不逃子瞻之論。

詔衡州迎常寧資福寺玉塔入京師。塔高一尋。累以玉石。

阿育王所造第九塔也。或夜中騰光明。且往瞻敬者。必獲舍利○日本國沙門成尋來朝。

六年七月。天竺靈山海月大師慧辯合掌坐亡。遺言。須東坡至方闔龕。四日坡至見趺坐如生。乃作三詩以弔之(欲尋遺迹強霑裳。本自無生可得亡。今夜生公講堂月。滿庭依舊冷如霜。集中但錄其一)初是學士沈遇治杭。以師有重德補為都僧正。通守蘇軾為之序曰。錢唐佛僧之盛。蓋甲天下。道德材智之士。與妄庸巧偽之人雜處其間。號為難齊。故僧正副之外。別補都僧正一員。簿書案牒。奔走將迎之勞專責副正以下。而都師總領要略。實以行解。表眾而已。師既蒞職。凡管內寺院虛席者。涓日會諸刹。及座下英俊。開問義科場。餉名考校。十問五中為中選。不及三者為降等。然後隨院等差(楚宜反不齊也)以次補名。由是諸山仰之咸以為則。

八年七月。公卿朝士建盂蘭盆會於開寶寺。自月五日始至十五日畢。主客揚傑為之記。

九年。勅開寶寺靈感塔。建慶壽崇因之閣。中建木塔。御篆鴻福圓成之塔。

十年。夏旱。上於禁中齋禱甚虔。夜夢神僧馳馬空中口吐雲霧。覺而雨大霑。勅求其像得之相國寺閣第十三尊羅漢。詔迎入內供養。宰相王珪以詩稱賀曰。良弼為霖孤宿望。神僧作霧應精求(東軒筆錄)。

元豐元年三月。杭州雷峯慧才法師。為靈芝元照道俗千人授菩薩戒。羯磨之際見觀音像放光講堂大明。淨慈法真禪師守一作戒光記。米芾書。辯才法師立石於龍井。

二年。初駕部郎中朱壽昌。七歲時不知母所在。乃刺血寫佛經。行四方求之。五十年復棄官入秦。得母於同州。年已七十。蘇軾時謫居黃州。寄詩以為賀。時稱壽昌孝感所致。

三年正月。勅大內設千僧齋。施袈裟金剛經。為慈聖太后追福○詔詳定官制朝議。以自唐至本朝。譯經僧官皆授試光祿卿或鴻臚卿。今後改賜譯經三藏法師。試少卿者。賜三藏法師(洪容齋三筆)○詔革江州東林律院為禪席。命常總禪師居之。寺人相謂曰。遠公識記。吾滅七百年。當有肉身大士革居道場。今總公實應之矣。東坡過東林。贈以詩曰。溪聲便是廣長舌。山色豈非清淨身。夜來八萬四千偈。今日如何舉似人○荊公王安石問文定張方平曰。孔子去世百年生孟子。後絕無人。或有之而非醇儒。方平曰。

豈為無人。亦有過孟子者。安石曰。何人。方平曰。馬祖
汾陽雪峯巖頭丹霞雲門。安石意未解。方平曰。儒門淡薄
收拾不住。皆歸釋氏。安石欣然歎服。後以語張商英。撫
几賞之曰。至哉此論也。○祁公杜衍以張方平佞佛常笑怪
之。有醫者朱生遊二公間。一日祁公呼朱生胗脈。生謂使
者曰。往白公。但言看楞嚴未了。及至揖坐。謂曰。老夫
以君疏通不意。近亦闚茸。聖人微言無出孔孟。所謂楞嚴
者何等語耶。生曰。公未讀此經。何知不及孔孟。因袖中
出其卷。祁公觀之。不覺終軸。大驚曰。安道知之而不以
告我。即命駕就見之(方平字安道)安道曰。譬如失物忽已
得之。但當喜其得不必悔其晚也。○張商英初仕。因入僧寺
見藏經嚴整。佛然曰。吾孔聖之教不如胡人之書耶。夜坐
長思。馮紙閣筆。妻向氏曰何不睡去。商英曰。吾正此著
無佛論。向曰。既言無佛何論之有。當著有佛論可耳。商
英默而止。後詣同列見佛龕前維摩詰經。信手開視有云。

此病非地大亦不離地大。倏然會心。因借歸細讀。向曰。後諸
讀此經始可著無佛論。商英聞而大悟。由是深信其道。寧。諸
為漕於江西謁東林總禪師。商英見其短小。易之遽曰。聞
禪公聰明善運使文章。正如運使對從悅論禪也。商英內慚。
公孫。對運使論文章。正如運使對從悅論禪也。商英內慚。
佯不領曰。師是臨濟九世耶。是夜宿兜率。語及宗門事。可
至更深悅焚香。請十方諸佛作證。謂商英曰。東林既印。德
明公。公於佛祖言教有少疑否。商英曰。香林獨脚頌。耶。
山托鉢話。未能無疑。悅大笑歸丈室。閉門而寢。商英展轉
商英曰。豈不是有。悅大笑歸丈室。閉門而寢。商英展轉
無寐。五更下榻觸翻踏床。忽然有省。為頌曰。鼓寂鐘
沈托鉢回。巖頭一拶語如雷。果然祇得三年活。莫是遭他
授記來。遂扣門曰。商英已捉得賊。悅曰。參禪祇為命根不斷依語生
英無語。翌日復舉前頌。悅曰。參禪祇為命根不斷依語生

解。如是之說公已深悟。然至極微細處使人不覺不知墮在區宇。悅後作頌證之云。等閑行處步步皆如。雖居聲色寧滯有無。一心靡異萬法非殊。休分體用莫擇精粗。臨機不礙應物無拘。是非情盡凡聖皆除。誰得誰失何親何疎。拈頭作尾指實為虛。翻身魔界轉脚邪塗。了非逆順不犯工夫。商英邀至建昌。途中一一伺察有十頌敘其事。悅亦酬十頌。法門傳提以為盛事(已上三事見宗門武庫)商英既達禪道。嘗謂人曰。吾學然後知儒○杭州淨慈宗本禪師。夏中定起。有道人卉衣至堂上。本視之曰。黃龍舊話何不舉似。其人笑曰。錢大安用饒舌。遽御風疾去。卉衣者呂洞賓也。錢大者本前身也(普燈錄)○八月館職文同(字與可)沐浴。冠帶正坐而化。同館崔公度聞之。驚謂人曰。昨別與可於州南曰。明日復來乎。及再往與可徐曰。經言。人不妄語者舌覆面上。即吐舌引至眉上。三疊之如餅狀。公度大駭。今聞其亡又異。信得道人也。與可梓潼人。文行高

潔。畫竹得妙趣(東都事略及文藝傳)。

四年。蘇軾在黃州。作趙先生舍利記言。南海有潘冕者陽狂不測。人謂之潘盎。蓋俚人謂心風為盎也。盎與京師言法華偈頌往來。言云。盎即日光佛也。有趙棠者。初為幕官。因棄仕從盎遊。盎謂盡得我道。盎既隱去。棠亦坐化。焚其屍得舍利數升。軾與棠子昶遊。得四十八粒。

五年。詔相國寺闢六十四院為八禪二律。以東西序為慧林智海二巨剎。詔淨慈宗本禪師住慧林。東林常總禪師住智海。總固辭。許之。本入對延和殿。山呼。即就榻加趺。侍衛驚顧。師方自若。賜茶舉盞撼蕩之。上問受業。對曰。承天永安(姑蘇承天寺永安院)上大喜。語論久之既退。上目之曰。僧中寶也。侍者問主上何語。曰喫茶閑話耳。

七年。太子少師趙抃。舊與法泉禪師為方外友。及知青州從重元禪師問心要(住天鉢嗣天衣懷禪師)嘗隱几公堂心如止水。忽聞辟歷聲豁大省。舉頭觀空。剎剎塵塵無處不是。後致政歸衢。築高齋以自居。與高僧逸民遊。是年八月有大星隕於庭。公晨起與子[山*幾]語如平時。忽跌坐而化(蘇子瞻作神道碑。及見普燈錄)○荊公王安石。請以江寧府圍廬為僧寺。賜額報寧禪院。初安石子雱資性險惡。父居政府。凡誤國害人之政。雱實使之。既亡。安石恍惚見荷鐵枷告父求佛為救。安石大懼。亟為建寺之祈脫苦。

佛祖統紀卷第四十五(終)

召句曲山道士朱自英詣闕。賜號觀妙先生。初真宗以儲嗣

久虛。命朱自英奏章升神帝闕。見三茅真君乘寶輦而下。問何所來。答曰。臣為大宋祈嗣。茅君領之。以其章進太上。勅曰。茅盈憂國愛民。宜為宋嗣。明年仁宗生(句曲洞天在閩州句容縣。三茅君治此山長茅盈二弟固[褒-保+(單-卓)])。詳見通塞志一卷)。

考異曰。鄭景望家集言。茅君下生張師正。括異志則云南岳李仙。此兩者必一。于是今觀樂史感夢近於恍惚。未若自英升神所遇之為實也。矧惟真廟拜章於當年。仁后錫號於茲日。皆所以表正其事。則宜以鄭氏所紀為實。

八年。詔嗣天師張乾曜赴闕。賜號澄素先生。上問以飛昇之道。對曰。此山林志士之所為。非可以輔政教也。上嘉之。詔自今一代與一先生號免租徭。○上聞藍元道有道術召見之。館于芳林園。賜號養素先生。未幾去居南岳。所

居夜有赤光。及聞對談者翌日侍者以問曰。吾師劉道君海蟾子行雨過此耳。有劉中明者。南遊衡山。謁養素受其術。後於伽藍屍解。邑令拜其窆。聞其中言曰。止暴殄息求營。勿冒財勿柱刑。令愕而去。鄉人簡有從復見於東都。問曰。與先生同里。獨不念之乎。中明曰。人年五十已如敗屋。能志於道僅可延年。子今年七十矣。平生好法律佐人諍訟。尚何所言。遂不顧而去。

○零陵何仙姑者。幼行山中。逢呂仙出桃食之遂不飢。家異之作樓以居。呂仙常過之。仙姑逆知世人未然事。狄青南征優智高。問仙姑曰。是行可克否。姑曰。癰破膿出。既而左校孫節陷陳再戰而破之。著作佐郎焦浚明以仕宦不達奏章自訴。一夕得幅紙。有十六字不可識。持問姑。姑曰。天篆也且亟歸家。浚明叩之。姑曰。受金五兩折壽十年。枉殺二人死後處分。浚明至家即死。士夫過零陵者日

至門訪災祥。仙姑厭之。乃盛服坐化。著靈源志。言修養事。行於世(湖南永州)。

○天台張平叔。少傳混元之道。龍圖陸詵守成都。依以遊蜀。遇異人授金丹火候之訣。道成著悟真篇傳於世。嘗遍參禪門大有省發。後讀雪竇祖英集。頓明心地。作歌偈以申其旨。且言。獨修金丹而不悟佛理者。即同楞嚴十仙散入諸趣之報。侍郎馬默漕廣南復從之遊。未幾趺坐而化。鍊其蛻得舍利千百。紺碧色若雞頭。然既而復其見之者。平叔始以丹法傳之石泰。泰以傳薛道源。皆於丹道有成。

述曰。學仙之流已執所得。知佛道為究竟者不多有也。如張平叔明佛性。呂洞賓悟禪理。時一見耳。今世道流不知學。謂仙為陽魂。釋為陰鬼。著此說以誤後人。皆不知佛性禪理之過。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十六

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之十三

哲宗(神宗第六子。母欽成皇后朱氏。十二月七日為龍興節)(陵名永泰)

元祐元年。高麗王子祐世僧統義天來朝。勅禮部蘇軾館伴。有司共張甚設(共張作供帳讀見漢書疏廣傳)義天四上表乞傳華嚴教。乃勅主客楊傑送至錢唐。受法於慧因淨源法師。復往天竺謁慈辯諫法師傳天台教。見靈芝照律師請

戒法及資持記。至金山謁佛印元禪師。坐納其禮。楊傑驚問其故。元師曰。義天異域僧耳。若屈道徇俗。何以示華夏師法。朝廷聞之。以師為知大體。義天既還國。乃建剎傳教。奉慈辯為始祖。復寄金書華嚴經新舊三譯於慧因。建閣以藏(今俗稱高麗寺)。

二年七月。張商英遊五臺。中夜於祕魔巖見文殊大士身在金色光中。九月自太原出案壽陽。至方山昭化院。即李長者造論之所。於破屋下得華嚴決疑論。疾讀之疑情頓釋。即移縣為長者立像。有圓光白色見於山南。於是父老并請新其院。商英乃為之記。

三年。勅內侍齎黃金往東林。粧飾神運五殿佛像○主客楊傑詣雙林禮大士輪藏。瞻仰之次輪忽自轉。大眾歎異。傑為贊以記其事。傑嘗以淨土之道為自信。繪丈六阿彌陀佛

隨身觀念。壽終之時感佛來迎。端坐而化。

四年。翰林學士蘇軾知杭州。道過金山謁佛印禪師。值師集眾入室。軾竟造之。師曰。此無坐處。內翰何來。軾曰。暫借和上四大作禪床。師曰。有一轉語。若答得當如所請。若擬議即留所繫玉帶。軾許之。置玉帶几上。師曰。山僧四大本空。五蘊非有。內翰欲於何處坐。軾果擬議。師急呼侍者曰。收取玉帶永鎮山門。遂取納裙為報(師有偈公和韻云。病骨真堪玉帶圍。鈍根仍落箭鋒机。欲教乞食歌姬院。故與雲山舊納衣)子迨四歲不能行。及來杭請辯才法師為落髮。摩頂。數日即善步。軾賦詩為謝。有師來為摩頂起步趁奔鹿之句。

五年。神智昇法師(慈雲下)來居越之興福。時清獻趙公抃為帥。適亢旱大疫。久禱不應。遂請師迎大士入府治。懇

禱一夕雨如霪疫病亦息。抃奏於朝。賜所居曰圓通。錫師號曰神智。初是吳越王錢鏐鎮越患目眚。夢素衣仙人言。來自永嘉。明旦有永嘉僧投牒。以大士像獻言。得之海潮。示夢欲歸越城。武肅即具威儀迎之。一見像即目明。乃創菴曰興福。以奉之。

七年。潁川守臣蘇軾言。佛陀波利塔院祈禱屢驗。乞降勅額。詔賜光梵之院。波利在唐儀鳳初。復回西竺。取尊勝呪經再來譯傳。後至潁而亡。里人漆其身造塔。以嚴事之(前志言。波利持梵本入五台不復出)○軾弟轍謫高安(瑞州)時洞山雲菴與聰禪師一夕同夢。與子由出城迂五祖戒禪師。已而子瞻至。三人出城候之語所夢。軾曰。八九歲時夢身是僧往來陝右。又先妣孕時夢眇目僧求託宿。雲菴驚曰。戒公陝右人。一目眇。逆數其終已五十年。而子瞻時四十九。自是常稱戒和上○四明延慶中立法師。令門人

介然(鄞福泉延壽受業)創十六觀堂。以延專修淨業之士。
延平陳瓘為之記(瓘字瑩中。與晁說之同稟教於立法師)。

八年。知定州蘇軾。繪水陸法像作贊十六篇。世謂辭理俱
妙(今人多稱眉山水陸者由於此)。

紹聖二年。蘇軾謫惠州。韶陽南華寺重辯。請軾書柳宗元
六祖碑。復題其後曰。釋迦以文設教。其譯於中國必托於
儒之能言者。然後傳遠。故大乘諸經至楞嚴則委曲精盡勝
妙獨出。以房融筆授故也。柳子厚南遷。始究佛法。作曹
溪南岳諸碑。妙絕古今。而南華今無石刻。重辯師謂。自
唐以來頌述祖師者多矣。未有通亮如子厚者。蓋推本其言
與孟氏合。其可不使學者日見而常誦之○子瞻在惠州被命
遷謫儋耳(海外儋州)惠守方子容來吊曰。吾妻沈氏事僧伽
謹甚。一夕夢來別。問何往。曰當與蘇子瞻同行。後七十

二日有命。今適其日。豈非事已前定。南行之日携阿彌陀佛一軸。人問其故。答曰。此軾往生西方公據也。及在儋。得蜀人張氏畫十八阿羅漢。遂為之贊。復題其後曰。佛滅度後閻浮提眾生剛狠自用莫肯信入。故諸聖賢皆隱不出。獨以設像遺言提引未悟。而峨眉五臺廬山天台。猶出光景變異使人了然見之。軾家藏十八羅漢像。每設茶供則化為白乳。或凝為花桃李芍藥僅可指名。或云。羅漢慈悲深重急於接物。故多見神變。倘其然乎。今以授子由。使以時修敬。

三年。袁州仰山有舍利石塔自然出現。高二十丈○黃庭堅謫居黔南。制酒絕慾。讀大藏經凡三年。常曰。利衰毀譽稱譏苦樂。此之八風於四儀中未嘗相離。雖古之元聖大智。有立於八風之外乎。非學道不知也(大般若經云。菩薩所行於利於衰於毀於譽於稱於[言*几]於苦於樂。平等不

變)○法雲秀禪師謂魯直曰。君作艷歌蕩人姪心。使逾禮越禁。其罪非止墮惡道而已。魯直自此不復作。李伯時善畫馬。師戒之曰。為士夫以畫行已可恥。況又作馬。伯時曰。無乃墮惡道乎。師曰。君思其神駿念之不忘。異日必入馬腹。伯時愕然。乃多畫觀音以洗其過。

四年。四明大梅山法英禪師等十八人列狀於郡稱。杭州僧元照至郡分淨土集云是唐慈愍三藏作。雖以勸修淨業為名。意實毀謗禪宗指為異見著空之人。英等今檢藏經即無此文。遂作解謗一通以詰之。乞取問元照窮覈真偽。照無以為答。乃稱古藏有本。州司知其理窮。而敬其持律。但令收毀元本以和解之(解謗書刻板在梅山。說義立理最為雅正)。

述曰。大智以英才偉器受弘律之任。資持之記與會正並

行。而獨盛於今時。其為名世有足重者。及觀其偏贊淨土。述新疏以反智者。假慈愍集以畔六祖。何為其若是也耶。大氏此師檢身之學為有餘。而明心之道未盡善也。慈愍集已毀。律家猶存新疏。識者必能別之。

五年二月。錢唐律師元照於四明開元寺建戒壇。準律如法為東南受戒之勝。

元符元年。袁州木平山有舍利石塔自然出現。夜放五色虹光。有丈六佛在月輪中。觀音羅漢列侍左右。

二年。袁州東山石崖有羅漢尊像出見。○夏四月不雨。袁州守臣王古往禱於木平山聖塔。巖中放光。見白衣大士身金瓔珞獲舍利。五色大如棗。中有臺觀之狀。復往仰山塔所。見泗州大士維摩羅漢列居左右。已而大雨霑足。郡聞

於朝。詔賜木平塔曰會慶。仰山塔曰瑞慶。

三年詔治泰陵(哲宗壽陵)登封令(洛陽西京)樓异(四明樓攻愧祖官至尚書)請因餘力修嵩高少林道場。官民同役一朝而具。名曰面壁蘭若。既而林中產芝草十二本。雨甘露於池上。夜有光屬於天。後山陳無已為之記。

徽宗(神宗第十子。哲宗異母弟。母欽慈太后陳氏。永祐陵)

建中靖國元年。法雲寺佛國禪師惟白。撰續燈錄三十卷進上。賜御製序○七月東坡蘇軾卒於毘陵。時錢濟明侍旁曰。公平生學佛。此日如何。軾曰。此語亦不受。遂化。

崇寧元年。赦書節文。應天下名德僧道。為眾師法未有謚

號者。仰所屬勘會以聞。

二年。賜終南山唐澄照律師道宣諡法慧大師。天竺山慈雲大師遵式諡法寶大師。南屏梵臻諡實相大師。孤山智圓諡法海大師。

三年。勅迎相國寺三朝御讚釋迦佛牙。入內供養。隔水晶匣舍利出如雨點。因製讚曰。大聖釋迦文。虛空等一塵。有求皆赴感。無刹不分身。玉瑩千輪在。金剛百鍊新。我今恭敬禮。普願濟群倫○詔諡白馬寺摩騰三藏啟道圓通法師。竺法蘭開教總持法師。雙林傳大士等空紹覺大士。方山李長者顯教妙嚴長者○楊州奏。泗州大聖屢見於普慧塔。

四年。金州奏。清湘有豪光見獲石羅漢。賜名感應。瑞像

迎至精舍。大放光明○尚書王古因閱大藏撰法寶標目八卷。其法於每經之下錄出因緣事迹所說法門。使覽題便能知旨。沙門梵真為對校。刻其板於永嘉。

五年十月。詔曰。有天下者尊事上帝敢有弗虔。而釋氏之教。乃以天帝置於鬼神之列。瀆神逾分。莫此之甚。有司其除削之。又勅水陸道場內設三清等位元豐降詔止絕。務在檢舉施行。舊來僧居多設三教像。遂為院額殿名。釋迦居中。老君居左。孔聖居右。非所以奉天真與儒教之意。可迎其像歸道觀學舍以正其名。洛京沙門永道讀詔泣曰。域中孔老法天制教。故不違天。佛出世法。天人所師。故不違佛。自古明王奉佛以事上帝者。為知此理也。佛法平等。故其垂教雖聖凡俱會。而君臣尊卑之分莫不自殊。祖宗以來奉法已定。一旦除削。吾恐毀法之禍兆於此矣。聞者為之慙然。

大觀元年。詔將作監李遇往啟聖院移釋迦梅檀像置御容殿。輿像已至。而朵殿橫梁低不可度。眾方懼。像忽斂肩俛首。輿竟度無礙。上下為之鼓舞。上嘗聞太后禮像於足下度線。翌旦上幸寺焚香。令小璫持紙度像足。眾失聲曰。過矣。上益嘉歎○勅道士位居僧上。○勅左街淨因寺道楷。遷主法雲。賜紫衣定照禪師。楷表辭曰。貧道幼別父母。為之誓曰。出家之後期不以利名為求。當一意學道報罔極度生靈答君恩。有渝此心永棄身命。今若竊冒[冗-几+龍]榮。則上負親心下違本誓。敢辭。上遣開卦尹李孝壽齎勅書諭之。楷確執不回。上怒收付獄。有司問。長老有疾法應免罪。楷曰。平生不妄語。豈敢稱疾罔上。遂受罰。著逢掖流淄州。都城道俗莫不流涕(音體眼淚)。

二年正月。上受八寶大赦天下。勅淄州道楷自便。師歸隱

芙蓉湖之菴居。學者益至。朝廷聞之。賜額華嚴。○西京寶應寺僧孔清覺。居杭之白雲菴。依倣佛經立四果十地。分大小兩乘造論數篇。傳於流俗。從之者稱白雲和上。名其徒曰。白雲菜。其說專斥禪宗。覺海愚禪師力論其偽。坐流恩州。

鑑曰。白雲之徒幾與白蓮相混。特以無妻子為異耳。人見其晨夕持誦躬耕自活。為似可敬。然察其愚癡誕言妄干正道。則識者所當深嫉而力排之也。

三年。勅勳臣戚里應功德墳寺自造屋置田止賜名額蠲免科敷從本家請僧住持。不許指占有額寺院充墳寺功德。許御史臺內侍省彈劾施行。

致和元年。勅先聖廟用二十四戟。曾參等所封侯爵犯先聖

諱。甚失弟子尊師之禮。別擬封者七人(曾子先封瑕丘伯。司馬牛楚丘。子張宛丘。石處營丘。琴開頓丘。南宮子容龔丘。已上六人在七十弟子數。左丘明瑕丘。穀梁赤龔丘。戴聖楚丘。已上三名在從祀數)。

述曰。世之為儒者。知尊夫子為先聖。而不知避其諱。如唐宋詩人好以先聖名為戲。其不知禮若是。退之詩云。乘槎追聖丘。歐陽詩云。仁義丘與軻。又丘門安敢輒論詩。二儒排佛老尊孔孟。常切切然。而反侮聖人之名。韓歐尚不知禮。餘不足責也。大哉。祐陵之知尊先聖也。謂曾子等封邑犯諱。為失弟子之禮。而別擬其封。後世為儒者有能推此意義達之中朝乞行回避之條。豈不為儒門之有師法。

筠州沙門惠洪(字覺範)坐交宰相張商英節使郭天信流崖

州。靈源清禪師聞之歎曰。蘭植中塗。必無經時之翠。桂生幽壑。終抱彌年之丹。古人謂。聰明深察而近於死者。好議人者也。在覺範有之矣。

二年。侍郎邊知白。自京師至臨川。觸暑成病。忽夢白衣天人以水灑之。頂踵清寒。覺而頓爽。於是集古今靈驗。作觀音感應集四卷行於世(刻板上竺)○嘉州奏。風雷折古樹。中有定僧爪髮被體。詔輿至禁中。譯經三藏金總持。令擊金磬以覺之(音教誤也)詢其名。曰我遠法師弟慧持也。因遊峨眉至此。問欲何歸。曰陳留古樹中。詔以禮送之。因圖形製讚云。七百年來老古錫。定中消息許誰知。爭如隻履西歸去。生死何勞木作皮(凡三偈今錄其一出普燈)。

述曰。持師本傳。謂在[郫-卑+((白-日+田)/升)]縣龍淵順

寂。有臨終遺命。今乃云遊峨眉至此。意者聖師神化。不可以生死之迹為之拘也。

三年。譯經三藏明因妙善普濟大師金總持。同譯語仁義。筆受宗正。南遊江浙至秀州車溪。密印寺沙門澄鑑。問三衣右會及旋遶左右。總持答曰。聖教但言以衣覆身。不曾挂於肩上。西天遶旋自北至東耳。

述曰。自昔議右遶(遶圍也作繞者纏也非)如因草菴之立言有二句。自佛之右。自我之右。盡矣。然草菴誤執自我之右。謂右袒(便於執作)右脇(是吉祥臥。涅槃經頭北足南面西背東)右回詮善(文句記云。左回偏僻以表惡。右回便易以表善。左回如考。右回如老)聖髮右旋(凡人左旋唯佛髮右旋)皆是自我義。遂於涅槃金棺右遶自東而南。謂是譯人之誤。而不知其自誤也。夫自我之右。自用也。自佛之

右。遶佛也。今所立義。是遶佛而戀慕也。何關自我之用耶。大經右遶拘尸。正是此義。今人右遶多用自佛。其事已定。尚恐惑於草菴之言。故不得不辯。金總持自北至東。正自佛之右也。若南山東回北轉。自是說戒集眾之義。此自我之右也。毋惑。崖州惠洪得旨自便。

四年。方士言。陳留八關寺佛指。乃海狗指耳。有詔取驗。火焚鐵捶十餘日。色不變。勅加禮還之。

六年九月一日。杭州靈芝元照律師趺坐遷化。諡曰大智。毘尼之學親自佛制。文殊已下不措一辭。如世禮樂征伐自天子出。自大法東度律學未明。至唐正觀南山律師。始作戒疏業疏事鈔。以弘四分。流傳四百載。釋義六十家。唯允堪師會正記。獨為盡理。至照律師始約法華開顯。作資持記以明南山之宗。於是會正資持。疏為二派。

七年。初永嘉道士林靈素。挾妖術遊淮泗。乞食於僧寺。喜
是年至楚州。與僧慧京師。抗言相歐。辨於官。郡倅石仲喜
其口辨。言曰。上帝子也。蔡京號寶籙靈素為己助。上覺道士。累言佛教害道久
即君。皆玉帝上大喜。建宮。靈素入見。靈素遂縱刺為宮觀。釋迦為天
褚惠也。上道君神霄玉清宮。劉棟遊太一宮。召入。靈素以改正。以佛
號教主觀為事。青華或告常語。何謂也。宜與改。正。以佛
天寧觀為夢赴事。壁除魔髡不可滅。宜與改。正。以佛
毀佛嘗神題聞改矣。今雖不可滅。宜與改。正。以佛
上嘗神題聞改矣。今雖不可滅。宜與改。正。以佛
訪詩聞改矣。今雖不可滅。宜與改。正。以佛
詩題聞改矣。今雖不可滅。宜與改。正。以佛
聞改矣。今雖不可滅。宜與改。正。以佛
改矣。今雖不可滅。宜與改。正。以佛
矣。今雖不可滅。宜與改。正。以佛

尊。菩薩為大士。僧為德士。皆留髮頂冠執笏。詔可(耿延禧作林靈素傳)。

趙氏賓退錄云。東坡守楊州。夢行山間。一虎來噬。有道士叱虎去。明旦一道士投謁曰。夜出不至驚否。坡咄曰。鼠子未欲杖汝背。汝謂吾不知汝子夜術耶。道士駭而退。徽宗夢神霄。蓋此類也。

述曰。明皇夢空中楚金二字。為書多寶塔額。肅宗夢僧誦寶勝如來。代宗夢遊山寺。本朝仁宗夢景德寺門龍蟠。神宗夢神僧馳馬空中。此皆佛力法力。諸師慈善根力。自然感化之所致耳。非同神霄子夜妖術之比。恐癡人妄引自證。故不得不區別之。

詔法燈禪師住襄陽。鹿門郡將諷諸山辨金帛。詣京師作千

道齋。師曰。童牙事佛且非風狂。豈當用十方檀施千里以媚道士。郡將愧而止。叢林聞而壯之。西蜀寶梵大師昭符。魯直稱之曰。知文知武染衣將相也。其嗣圓明大師敏行。子瞻稱之曰。讀內外教博通其義。以如幻三昧為一方首者也。燈父事圓明。大父事寶梵。有自來矣(石門文字禪)重和元年七月。詔建壽山艮岳。時大旱。靈素禱雨無驗。蔡京始言其姦偽。上不聽。通真宮一靜室常封鑰。京遣人廉之。有黃羅帳朱漆倚卓。京具以奏。隨駕往視之。但粉壁明窓而已。京惶恐待罪。

宣和元年正月。詔曰。自先王之澤竭。而胡教始行於中國。雖其言不同。要其歸與道為一教。雖不可廢而猶為中國禮義害。故不可不革。其以佛為大覺金仙。服天尊服。菩薩為大士。僧為德士。尼為女德士。服巾冠執木笏。寺為宮。院為觀。住持為知宮觀事。禁毋得留銅鍤塔像。初

利久。是其上怒。辨凡不族。隋誅經一手前。以日。是任。求。師。未。竟。貶。年。承。何。閹。人。此。激。平。食。誰。曰。京。師。法。浩。嵩。一。相。下。於。乎。人。安。衣。使。之。於。律。法。元。不。聖。陛。弑。報。姦。家。之。盍。勸。牒。二。佛。年。列。見。之。為。國。奪。日。人。投。覺。古。四。年。不。聖。陛。弑。報。章。曰。而。他。家。將。朋。自。三。六。法。宗。也。武。位。盛。曰。居。君。京。徒。嚴。未。五。佛。太。守。太。去。尹。京。其。諸。僧。華。曰。未。滅。祖。可。思。壽。封。京。旦。變。我。耳。會。日。書。法。不。滅。祖。可。思。壽。開。京。旦。變。我。耳。會。日。書。法。不。滅。祖。可。思。壽。者。論。而。欲。報。高。永。浩。滅。真。我。雖。陛。唐。向。旨。徒。聚。輩。以。首。師。崔。嵩。歸。在。舉。承。上。此。咨。是。之。其。大。武。元。趙。之。具。之。乎。有。以。於。怨。當。捕。覺。太。衛。宗。興。憲。世。囚。莫。乃。隱。起。曰。身。當。捕。覺。太。衛。宗。興。憲。世。囚。廷。多。大。怒。以。之。街。魏。武。大。成。驚。之。外。從。必。之。吾。得。左。衰。周。唐。宗。為。獄。廢。之。用。之。廉。盛。之。佛。之。為。武。之。始。無。歸。上。京。盛。殺。同。大。大。竄。大。姦。周。釋。害。英。安。咎。矣。論。人。杖。運。成。帝。裕。僧。用。乎。

監可觀者。陛下何為蹈惡君之禍。而違祖宗之法乎。書
奏。上大怒。勅流道州。上以京執不肯行。遂罷輔相之
議。專決於左右。盛章逼僧錄洪炳。上表奉旨。於是盡改
僧為德士。悉從冠服。否則毀之。京數懇列於上前曰。天
下佛像非諸僧自為之。皆子為其父。臣為其君。以祈福報
恩耳。今大毀之。適足以動人心念。非社稷之利也。上意
為之少回。

述曰。蔡京初見靈素以為異人。引而進之。將結知於上。
以固其寵耳。及靈素得君而橫。罷佛興道。京始懼物論。亟
言其妄無及矣。亦猶京初薦童貫以為能事。及專主北伐。不
悉人稟廟堂。京始大疾之。屢言其過無及矣。大抵蔡京以
不能容。而反相疾。然則蔡京之進二姦不能無罪矣。或擅
謂京能言二姦之罪者知悔舉也。則將應之曰。京以二姦專擅

不與己協。言其過者疾之之辭。非同中正君子之清議也。

泗州浮圖僧伽像。將加以冠。忽風雨晦冥。裂其冠墮門外。太守聞之大驚。遽詣像前謝曰。僧伽有靈安敢再瀆(獨醒志)○勅廢乾明寺為五寺三。監楊戩議廢太平興國寺為邸肆民舍。初折正殿瘞佛像於殿基之下。肢體破裂已而戩病胸腹潰裂而死(夷堅志)○詔天下建神霄宮。州郡憚費。多以巨剎易其額。太平州將折承天寺。一之日董役官兵墜馬死。二之日都匠墜屋死。三之日兵官墜馬折臂。主其議者石儀曹一子十歲為金甲神褫去其衣。納於浴室火龕中。聞神言曰。石某絕嗣。是年子亡。石客死京師○永道至道州。郡守僚屬同時夢佛像荷枷入城。翌日師至。守知其異令善待之。城中軍民多患寒疾。或求救於師。師素受西天真言法。病者飲所呪水及為摩頂無不愈。求者既多。乃為沼於營內以呪之○三月京師大水。黿鼉出於院舍。宮廟危

甚。詔靈素率道士治水。屢日無驗。役夫數千爭舉挺欲擊殺之。靈素走而免。上聞之不樂。俄而泗州大聖見於大內。凝立空中。旁侍慧岸木叉。上焚香拜禱。大聖振錫登城誦密語。頃之一白衣裹巾跪於前。若受戒諭者。萬眾咸覩。疑龍神之化人也。既而水退。詔加僧伽大聖六字師號。靈素復勸上削去之。以舍人許翰制辭太褒罷其職。○九月臺臣卒僚屬奏。林靈素姦邪小人。妄議遷都改除佛教。罪當誅戮。不報。○十月靈素與宦官分黨交諍。又於道上冒太子節。上始惡之。榜於神霄宮曰。褚惠罪惡不悛。帝命削其仙籍永為下鬼。十一月放靈素歸溫州。賜死於道。囑門人歸葬為數虛冢(高宗幸江心。改其故宅為寺。遣人發其冢。將加戮焉。以不知其處。遂止)於是內外俱以廢佛教之罪歸之。○餘姚法性行持禪師。初受請過上虞。邑令王君請說法要。師登座云。頭戴烏巾身披鶴氅。分明好个神仙。解弄曹溪伎倆。令與大眾皆擊節長歎。時會中有垂泣不能已者。

(師號牧菴。得法於象田卿和上。其家為四明盧氏。於志磐為高伯祖。歷位雍熙雲門雪竇護聖。名列祖圖)○石門惠洪禪師寓湘西谷山。取雲門臨濟兩宗。自嘉祐至政和。凡八十人。為禪林僧寶傳三十卷。自寧通慧之後。傳僧史者唯師而已○昔雲居祐禪師。於宏覺禪師塔東作卵塔曰。凡住持者非生身不壞。火浴無舍利者。皆以骨石填於此。其西作卵塔曰。凡僧眾遷化者藏骨石於此。謂之三塔。白雲端禪師曰。天下叢林之興大智之力也(百丈諡大智)祖堂當設達磨像於中。大智像西向。開山像東向。不當止設開山而略其祖宗也。覺範論之曰。白雲雲居識度高遠斯可為天下法也○八月下詔曰。向緣姦人建議改釋氏之名稱。深為未允。前旨改德士女德士者。依舊稱為僧尼○九月詔大復天下僧尼。道州永道量移近郡(已上雜見國朝會要。本朝通鑑。道法師傳。林靈素傳)。

述曰。佛法厄運。故必有姦人為之亂法。而主上竟受其蔽。及運當泰來故眾人交攻。主上一寤。於是降詔自洗。指靈素為姦人。而且大復佛法。初蔽後明。皆法運使之而然也。

七年四月。四明東湖二靈山知和菴主亡。師晚事南岳辯師(嗣東林總禪師)因遊方至四明郡。以名剎邀之。力距不受。問其故。曰近世住山者多以賄得。吾恥之弗為也。正言陳禾與之遊。自雪竇招居二靈山金欄菴。三十年不出山。問道者以未至其居為之恥。嘗有一虎為侍。師既亡。虎臥死於燼餘之地。三年有僧自蜀來問。海尊者何在。人言此但和公耳。蜀僧曰。正其人也。見其塔曰。此非吉地。歲餘勸土人為結石龕易葬之。見骨身舍利盈溢光耀林表○六月道州永道得旨放回。勅住昭先禪院。賜名法道以旌護法○八月詔罷黃老學。

八年七月。吳國公主敬重空門。勅品官庶民如有毀辱僧尼罵稱禿字者。照祥符三年指揮治罪○十二月上遜位於皇太子。居龍德宮稱太上皇。

述曰。恭惟 道君上皇。以聰明神武之姿。當天下之無事。其於法 祖宗之崇佛。可謂至矣。賜續燈錄製序。追諡漢唐諸祖師恭禮釋迦佛牙。為之製讚。此十六年之良心也。一旦姦人用事。尚道而毀佛。於是上心始惑。而宣和廢釋之詔行矣。既而天降鴻水。役夫舉挺以逐靈素。忤宦者之黨冒儲君之節。上始大惡之。榜罪於門放死於路。亟下詔罪。已大復佛法罷黃老學。然則上之良心。猶故不失。是蓋大法之厄運。而魔外得以肆其姦也。何傷乎道君之聰明神武哉。

欽宗(徽宗長子。母恭顯皇后王氏。四月十三日乾龍節。陵名永寧)

靖康元年正月。金虜犯闕。二月金虜退○詔曰。比自大觀初聖節行香。許就道觀。今後道君聖節仍就道觀。若乾龍節仍就佛寺建道場。一月一依祖宗舊法。其道士官階並與追毀○十一月金虜再犯闕。詔皇弟康王為天下兵馬大元帥。

二年正月。上幸虜營。四月虜退。二帝北狩於韓州。五月康王即皇帝位於宋州。

述曰。太祖始封宋。其後遂以建國。暨汴京失守而高宗即位於宋所以上合建國之符下昭中興之祚也。

十月上幸楊州。遣使八輩召金山克勤禪師。詣行在所演說禪法。賜號圓悟○東京留守宗澤(諡忠愍公婺人)承制。命法道法師住左街天清寺。補宣教郎總管司。參謀軍事。為國行法護佑軍旅。師往淮潁勸化豪右。出糧助國軍賴以濟。

佛祖統紀卷第四十六(終)

六年六月。上清儲祥宮成。詔蘇軾為碑。其略云。惟太宗佐太祖定天下。既即位盡以所賜金帛作上清宮于朝陽門內。所以旌興王之功。且為五代兵革之餘。遺民赤子請命上帝。慶歷三年毀于火。元豐二年命道士王太初修復祠宇。以日者言宮之所在為國家子孫地。乃賜名上清儲祥宮。始太初卒太皇太后內出白金。命道士劍應真繼之。是

年訖役○十月上幸國子監。詣至聖文宣王殿。行釋奠禮。一獻再拜。幸武成王廟。肅揖畢。仲游入對。因論孔子廟。自顏淵以降。皆爵命於朝。法服冠冕。而鯉承訓詩禮。仍以聖道傳孟子。今皆野服幅巾以祭為未便。上嘉納之。封鯉泗水侯。伋沂水侯。

○六月。置元祐黨籍。司馬光等三百九人。刻石文德殿門
○十一月王安石陪享文宣王廟。○召海陵徐神翁入見。既而懇歸詔即其郡。建仙源萬壽宮以居之。初神翁為天慶觀傭役。執彗掃除。誦度人經。口不絕。四方來問災祥稱為神翁。呂惠卿赴闕枉道過之。翁曰。善守善守既還朝。俄以事出知單州。哲宗不豫。遣惠卿至翁所。翁書吉人。未幾徽宗嗣位。蓋預徵御名(佖字)。後尸解而化。

○上與靈素講道便殿。有青巾弊衣。徑升殿不揖。靈素識

之曰。呂大又來矣。遽趨殿隅而隱。唯粉書一詩云。高談闊論若無人。可惜明君不遇真。欲問古今休咎事。須防午未丙丁春。上知洞賓之來。為之歎息。後皆如其言。

二年正月。上元節御樓觀燈。簾幕重密下無知者。忽一人群眾躍出。黑色布衣若僧童者。舉手指簾謂上曰。汝有何神乃敢破壞吾教。吾今語汝報將至矣。上怒命中使傳旨治之。箠掠亂下加以炮烙。復嚙其肉終不語。亦無痛苦狀。上大不樂為之罷會。以其人付獄盡之(本朝通鑑)。

○八月有賣菜人至宣德門下。釋擔向門戟手而詈曰。汝壞吾社稷。太祖遣吾來說。汝宜速改捕下開封府獄一夕則不知向所云。蓋神附之言也(通鑑)○。

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依
大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十七

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之十四

高宗(徽宗第九子。母賢妃韋氏。追諡顯仁皇后。五月二十一日天申節。永思陵)

建炎元年。上駐蹕維揚○初隆祐太后孟氏。將去國南嚮求護身法於道場大德。有教以奉摩利支天母者。及定都吳門念天母冥護之德。乃以天母像奉安於西湖中天竺。刻石以紀事。案不空三藏譯摩利支天經念誦法云。南無釋迦牟尼

佛(十聲)南無摩利支天菩薩(十聲)我弟子(某甲)歸命三寶摩利支天菩薩。願護我身無人能見我。無人能知我。無人能捉縛加害我。無人能欺誑責罰我。無人能債我財物。不為怨家能得其便。即說最上心真言曰。唵摩利支娑縛賀(或百聲或千聲)王難中護我。賊難中護我。失道曠野中護我。水火刀兵中護我。鬼神毒藥難中護我。惡獸毒蟲難中護我。一切怨家惡人難中護我。佛實語護我。法實語護我。僧實語護我。天實語護我。仙實語護我。一切處一切時願常護我。弟子(某甲)娑縛賀。誦時想菩薩作天女形。瓔珞莊嚴坐蓮華上。左手執天扇。右手垂掌向外。作與願勢。若欲見天真身求勝願者。誦滿十萬遍佛言。此天常行日月前。日月所不能見。我因知此天名得免一切厄難。

二年三月。唐州泌陽尉李珣遇北虜入寇。挾一僕單騎走。夜匿道旁空舍。聞車過聲遣僕問。唐州賊何在。見車中人

長丈餘面藍色。驚而返。珏即乘馬追及之。前致敬曰。珏避寇至此。敢問車中何所載。其人曰。此京西遭劫死人名字。天曹定籍。汝是李珏亦其數也。珏大怖告曰。何法可免。願賜指教。人曰。能旦旦念摩利支天菩薩七百遍。向虛空回向天曹聖賢。則死籍可銷。可免兵戈之厄。珏方拜謝。駕車者疾馳而去。自是不輟誦持。轉以教人。皆得免難(賈德仁板行)。

述曰。摩利支天經。藏中凡三譯。唯本朝天息災本呪法最多。仁宗親製聖教序以冠其首。雖未聞行其法者。而菩薩之緣已開。先於此時矣。當高宗之南渡也。隆祐受教大德獲奉像之應。李珏請命神人致稱名之功。至矣哉。威德悲願。殆與圓通大士俱不思議。釋迦自云。我因知此天名得免一切厄難。信菩薩遠本。又在釋迦之先也。今茲中原多故兵革未銷。士夫民庶有能若終身若全家行此解厄

至簡之法。吾見天母之能大濟於人也。

十一月。勅賣四字師號價二百千。

三年正月。金虜入淮。上幸建康。八月上發建康。十一月虜酋兀朮宗弼陷杭州。錢塘令朱畢率弓兵與之戰。力不敵走天竺山。虜奄至。遂遇害。初是圓應法師德賢(慈雲下四世)為兒時。相者曰。他日有官厄。唯出家可免。遂落髮往靈山。參學於慧淨。後竟繼其席。臨終謂門人曰。吾生前以道力免難。死後猶有殘業。門人造像入祖堂。乃以鐵護其頸。及虜至其酋真珠王者至靈山祖殿。眾像皆立。獨師像不起。酋怒令斬之。以頸有鐵不可傷。乃積薪盈門縱火焚之。薪盡而屋如故。或見神僧千數執瓶注水出沒空表。虜眾大驚而退。初如靖法師主上竺。兀朮入境。師預感夢。知此山厄運不可免。戒眾令避之。及虜至。或謂可以

禮遜。即聲鍾集眾。虜疑其抗已。從兵大掠火其寺○十二月己卯(六日)上幸明州。壬午(九日)次定海御樓船癸巳(二十日)虜陷越州。癸卯(三十日)浙東制置使張俊。與虜戰於明之西門。俊見民間多織席。遣兵斂取之。以重席覆於路。虜騎踐席上。皆足滑而仆。因急擊之。斬首甚眾(此耆老相傳。與國史所載不同)。

四年正月。甲辰(旦日)上次崎頭入白峯菴。僧歲朝禮懺。上前立其旁。聞保國安民之辭喜甚。為徘徊茗飲而行(今御座。特旨免稅石刻在菴中)丙午(三日)次台州章安鎮。入金黿山寺。有老僧禱佛前。皆憂時保國之語。上問何典。答曰。護國金光明懺。上因宿於寺。後駐蹕臨安。歲賜輦下諸寺金帛修舉此法。初上在京邸。有異人授一詩云。牝蠣灘頭一艇橫。夕陽多處待潮生。共君不負登臨約。同向金黿背上行。及幸海登金黿坐榻上。見壁間題此詩。始悟異

人示先識也○庚戌(七日)虜陷明州。其酋奄至南湖寺。眾先已奔散。獨介然不肯去。酋訶之曰。不畏死耶。然曰。貧道一生以願力建此十六觀堂。今老矣。不忍捨去以求生也。酋義之曰。師幸為我歸北朝。建觀堂一如此規制。遂虜以行。虜兵至湖心。逼律主元肇行。師忻然無難色。至京口謂左右曰。吾將西歸。即聞笙歌之音。一時軍民咸見師念佛西望而化(師即參政陸佃之孫)○初宏智禪師正覺。主天童開拓眾宇。聚眾至千二百人。虜之入境也眾將散。師止之曰。虜不至此無用避。及虜登塔嶺。見神兵滿山谷。大懼而退○育王山月堂禪師道昌。聞虜且至。就山後掘一窖。捧釋迦舍利塔坐其中。以陶器覆於上。虜酋至不得塔。大怒將火其屋。忽壁間觀音畫像放光出水滿地。輪藏自轉。酋大怖畏拜禱而去。越七日開窖取塔。水至頸不沒○丙寅(二十三日)上次溫州館頭(留十日)○二月乙亥(三日)上次江心寺。有旨以林靈素故居為資福教院。丞相呂頤

浩。舉圓辦法師道琛主之○丙子(四日)虜兵退。初杭人以時方兵旱。迎上竺大工於郡中法慧寺。侍香火者道元慮至求索。舉藏於井。取他像置行殿。虜還自四明再犯杭州。果詰問大士所在。徑取之去。并軀道元行。元默哀禱。夜至許村若有人導之者。遂得逸歸告於郡。時虜焚其城不知井所在。忽聞金石聲。就求之。獲井出像○三月己未(十七日)上發江心(主上留寺中半月。趙汝四詩云。思陵半月都。世人以為實錄)詔法道法師隨駕陪議軍國事。上欲加以冠冕。師力辭。詔加圓通法濟大師○四月上駐蹕於會稽天旱。詔道法師禱於圓通(寺在城內)即日雨至。上大說○七月道君二帝自韓州遷於五國城(續稽古錄)。

紹興二年正月。上駐蹕於錢唐。升為臨安府。上每於禁中書金剛圓覺普門品心經七佛偈。暇日嘗自披讀以發聖解。又御書阿育王山舍利塔曰佛頂光明之塔○二月詔再建天竺

觀音大士殿○四月詔孔子四十九代孫玠襲封衍聖公(孔端友之子)○召法道法師入見。上從容謂之曰。上皇為妖人所惑毀師形服。朕為師去此黥涅。道對曰。上皇御墨不忍毀除。上笑曰。此僧到老倔彊。乃勅住廬山太平禪寺。

三年二月。廬山道法師申劄都省稱。崇觀之後(崇寧大觀)道士叨冒資品。林靈素王沖道輩。視兩府者甚眾。遂令道士冒居僧上。靖康建炎道士視官已行追毀。而國忌行香寺院會聚。猶敢傲然居上。其蔑視國法有若此者。今欲復還祖宗舊制。僧史略具載。每當朝集僧先道後。並立殿廷僧東道西。凡遇郊天道左僧右。尋送禮部取到太常寺狀稱因革禮。乾德元年宣德門肆赦故事。道左僧右。又檢照嘉祐編勅并紹興新書。並以僧道立文為次。其政和條內道僧觀僧及道士。位在僧上。並已刪去不行。尋蒙朝旨依條改正。以僧居上。十一月太常寺遍符諸路。應行香立班。諸

處聚會。並依祖宗成法。以僧居左(此依準開寶五年詔旨也)○八月自治平末始鬻度牒。舊以黃紙印。造偽為者多。戶部朱異始奏。令僧道用勅綾牒。

述曰。唐明皇天寶中。度牒已用綾素。本朝太宗初年普度十七萬。真宗天禧普度二十三萬。應此時但用紙牒使之易辨。今既斥賣。欲重其價故用勅綾。比同品官之告身。亦見朝廷之重僧也。

吳郡延祥院僧茅子元者。初學於梵法主。依放台宗出圓融四土圖晨朝禮懺文偈歌四句佛念五聲。勸諸男女同修淨業。自稱白蓮導師。坐受眾拜。謹茹乳不殺不飲酒。號白蓮菜。受其邪教者。謂之傳道。與之通姪者。謂之佛法。相見傲僧慢人無所不至。愚夫愚婦轉相誑誘。聚落田里皆樂其妄。有論於有司者。正以事魔之罪。流於江州。然其

餘黨效習至今為盛(釋門正統)。

議曰。嗟夫天下之事未嘗無弊也。君天下如禹湯而有桀紂。相天下如周召而有斯莢。道本老莊而有歸真靈素。釋本能仁而有清覺子元。信三教皆有其弊也。所謂四土圖者。則竊取台宗格言附以雜偈。率皆鄙薄言辭。晨朝懺者。則撮略慈雲七懺。別為一本。不識依何行法。偈吟四句。則有類於樵歌。佛念五聲。則何關於十念。號白蓮妄託於祖。稱導師僭同於佛。假名淨業而專為姦穢之行。猥褻不良。何能具道。嗟夫。

四年。偽齊劉豫同金虜入寇。上下詔親征。九月上親詣天竺大士殿。焚香恭禱蚤平北虜。既而淮東宣撫使韓世忠。敗金人齊人於承州。世忠獻俘行在。因陳戰沒之人乞加贈恤。上蹙然曰。死於鋒鏑誠為可閔。即勅直學士院胡松年

具詞。建水陸大齋以為濟度。是夕也有見鬼神來會甚眾。有夢戰死者咸忻然相慶。以為自此得生善趣者。上聞之大說。五年。彌月大旱。詔道法師入內祈雨。結壇作法。以四金瓶各盛鮮鯽嚙水默祝。遣四急足投諸江。使未回而雨已洽。上大說。特賜金鉢○九月上幸天竺大士殿炷香。住山應如奏對如流。上說。賜萬歲香山以供大士及度牒銀幣之類。

七年。左司諫陳公輔上疏。乞照祖宗成法不許執政指射有額寺院。應臣僚前曾陳乞有額寺院充墳寺功德者。並令改正許與無額小院。詔可。初是知院李綱。占常州普利及邵武興聖。臺臣論奏。以兩處俱為有額有所違礙。詔令別占無額小院。士論為快。又樞密沈與求奏稱。墳寺妙嚴院。雖本家建造。既元有勅額。不當撥賜。上以為自造之屋。不必改正。時諫臣謂。與求能體祖宗法意革今日之弊。宜

從所請。有旨許之。

九年。勅天下州郡立報恩光孝禪寺。為徽宗專建追嚴之所。

十一年五月。宰相秦檜。以徑山宗杲為張九成黨。毀衣牒竄衡州(塔銘)○上謂輔臣曰。自佛法入中國。士大夫靡然從之。上者信於清淨之說。下者信於禍福之報。殊不知六經廣大靡不周盡。如易無思無為寂然不動感而遂通禮之正心誠意者。非佛氏清淨之化乎。積善之家必有餘慶。積不善之家必有餘殃。與書作善降之百祥。作不善降之百殃。非佛氏禍福之報乎。

十二年。左修職郎詹叔義。上財賦表。乞住賣度牒朝廷從之。時臨安府。乞度牒修天竺大士殿。勅給錢五萬緡。謂

侍臣曰。朕觀古者人主。欲除釋老二教。或毀其像或廢其徒皆不及久。往往愈熾。今不放度牒則自可漸銷而制勝。

十三年。右司諫詹大方奏曰。頃者鼓倡僞言。張九成實為之首。徑山宗杲從而和之。今宗杲已竄。為之首者豈可不問。詔張九成南安軍居住○臨安府道正劉若謙。申省乞道士序位在僧上。妄稱別得指揮。僧正善達陳狀乞檢準紹興三年都省。批送法道法師。乞復祖宗舊法。繼蒙朝旨。批下依條改正。應行香立班。諸處聚會以僧在上。告示劉若謙。取知委狀。後有妄詞以違制論○勅西湖北山建天申萬壽圓覺寺○勅再修西湖壽星院。主事者乞撥度牒。上曰。言者皆欲賣牒以資國用。朕謂不然。一牒所得不過二巨緡。而一夫不耕矣。若住撥十年。則其徒自少矣。

十五年。勅天下僧道始令納丁錢。自十千至一千三百。凡

九等。謂之清閑錢。年六十已上及殘疾者聽免納。道法師致書於省部曰。大法東播千有餘歲。其間污隆隨時暫厄終奮。特未有如今日抑沮卑下之甚也。自紹興中年僧道征免丁錢。大者十千。下至一千三百。國四其民。士農工商也。僧道舊籍仕版。而得與儒分鼎立之勢。非有經國理民之異。以其祖大聖人而垂化為善故耳。至若天災流行雨暘不時。命其徒以禱之。則天地應鬼神順。抑古今耳目所常聞見者也。夫苟為國家禦菑而來福祥。亦宜稍異庸庶之等夷可也。若之何遽以民賦。賦且數倍。今天下民丁之賦多止緡錢三百。或土瘠民勞而得類免者。為僧反不獲齒於齊民。以其不耕不蠶而衣食於世也。夫耕而食蠶而衣。未必僧道之外人人耕且蠶也云云。

述曰。目僧道同丁夫。而出征賦以免之。豈獨僧道之恥。亦國家不知尊尚二教之恥也。今州家征免丁。則必舉常年

多額以責之。而不顧僧之存亡去住。既又欲以虧額均賦諸寺者。其為患皆此類。嘗考郡志云。僧道免丁歲無定額。官吏曾不省。此王荊公創新法。當年後世。誰不知為民患。然今之為政者。語安石則目之小人。追民賦則仍用其立法。蓋利源一開。雖有聖人之治所不能革。以人心好利者同然耳。然則為利創法者。未嘗不為後世患。悲夫。

十七年七月。寶覺圓通法濟大師法道。趺坐說法合掌而化。建塔於北山九里松。

二十一年。初太后韋氏北還之日。以道家四聖有神助。至是改孤山為延祥觀以奉之。遷法師全身於馬腦坡。見陶器中舍利無算○十一月謫衡州宗杲量移梅州。

述曰。自古公卿與釋氏遊者。重其道敬其人耳本朝公卿交

釋氏者尤為多。未聞以語言之過交相為累者。洪覺範之竄朱崖。坐交張無盡。杲大慧之流衡陽。坐交張子韶。而皆以語言為其罪。夫儒釋之交遊。不過於倡和以詩談論以道。否則為廬山結社之舉耳。豈當陷賢者於姦佞而鉤黨於林間之人哉。其為法門不幸。有若二師者。言事之過論九重之不察也。

二十三年十月。給事中知瀘州憑楫(字濟川號不動居士)委漕使攝郡事。別僚佐具衣冠。望闕再拜。著僧衣升座。橫拄杖膝上。說偈言而化。始楫問道於杲佛日。頓悟心旨。南渡之後。所在經藏殘闕楫以奉資(奉音鳳俸俗)造大藏經四十八所。小藏四大部者亦如其數(世以華嚴涅槃寶積珠林為四大部)所至與高僧逸民續蓮社時賢咸從其化。

二十四年。詔以上天竺為御前道場。特免科敷等事○寓衢

州衍聖公孔玠卒。詔其子搢襲封衍聖公。是為五十代。

二十五年。初是治平初飛山戒珠禪師。依高僧三傳。采修行淨業臨終往生者。作淨土傳三卷。元豐間尚書王古增補新聞。通為四卷。是年錢唐陸師壽續集往生淨土者為八卷。易名寶珠集。

二十六年。張九成知溫州。九成謫南安軍十四年。寓橫浦僧舍。日談經著書以自適。嘗曰。六經皆妙法也○九月禮部侍郎吳秉信卒。紹興初時相諱言兵事。斥秉信為黨人。乃歸四明城南。築菴禪坐。製一棺。夜臥其中。至五更令童子扣棺而歌曰。吳信叟歸去來。三界無安不可住。西方淨土有蓮胎。歸去來。聞唱即起禪誦。久之檜相亡。召為禮部侍郎。時國用匱乏。秉信請賣度牒以裕國因言。及秦黨尋被論。以佞佛邀福出知常州。既而復被召至蕭山驛

舍。令家人靜聽咸聞天樂之音。即曰。清淨界中失念至此。金臺既至吾當有行。言訖而逝○十月勅量移梅州宗杲。復形服放還。十一月詔住明州阿育王山。

二十七年八月。禮部侍郎賀允中上殿。上問。天下僧道幾何。答曰。僧二十萬。道士萬人。上曰。朕見士大夫奉佛者。多乞放度牒。今田業多荒。不耕而食者二十萬人。若更給度牒。是驅農為僧也。佛法自漢明入中國。其道廣大終不可廢。朕非有意絕之。正恐僧徒多則不耕者眾。故暫停度僧耳(聖政錄)。

述曰。高宗聰明而達於權道。故不放度牒。將抑僧以助農。如古人排佛。正以不耕為國蠹。可謂知政本矣。然嘗論之。今之為僧者。未暇以學道言之。或迫於兄弟之眾多。或因無田而不耕。皆天下之閒民也。深山蛇虎之鄉。

邊海斥鹵之地。非田也。出家之士。率眾力憑志願。幸而可開為畝。皆天下之閒田也。以閒民食閒田。未嘗為農病也。矧今為農者常自多。常苦於天下之田少。而寺院之產常自定。不令閒民為僧則農益多。農多而常田少。農始病矣。去而為商賈。為百工。為遊乞。為倡優。趨末者紛紛然。又不能為則盜於海劫於陸。無所而不為矣。然則驅閒民而僧之。是亦為政之權道也。可不講明乎。

十月六日。住天童山正覺禪師。沐浴更衣正坐而化。齒髮道具自然生出舍利。葬全身於東谷。諡曰宏智禪師妙光之塔。有禮塔求舍利者。皆如其意(洞山下九世)。

二十八年二月。詔佛日禪師宗杲再住徑山○七月起居舍人洪遵。論鑄錢未及額。上諭大臣。令民間銅器以他物代之。乃出御府銅器送鑄錢司。大斂民間銅器寺觀佛像鍾

磬。並令置籍。每斤收算二十。

述曰。紹興之際住鬻牒。不以此為利。而且征僧道免丁算寺觀鍾磬。所得無多。而徒使後世指為作古。蓋小臣詹叔義。以財賦之稅根人主之心。而當時輔相不能開陳為利之輕重耳。

三十年十一月。住靈隱道昌禪師上表。乞頒行度牒。不報。

三十一年。禮部侍郎吳子才奏。乞頒行度牒。言事者以佞佛斥之。罷歸田里○七月金虜主元顏亮。徙居汴京。九月自將入寇。兵號百萬。中竺寺沙門曇瑩學禪悟易。屢對禁中。至是策以易數。謂亮當斃於江北。十月下詔親征浙西。總管李寶舟師敗之。密州中書舍人虞允文。收都統王

權散卒敗之采石。亮欲渡瓜州。令於眾曰。三日不渡江當盡殺諸將。眾苦其虐。夜半諸酋射帳中殺之而遁。

三十二年正月。上歸自建康。五月詔禪位於皇太子○十月淫雨不止。上遣內侍禱於上竺。燎烟始升曉日開霽。上喜出內府玉器三品。以施大士殿。壽成太后施七寶冠○賜徑山宗杲大慧禪師。

孝宗(十月二十二日會慶節。永阜陵)

隆興元年。初是太祖後七世子稱為嘉興丞。妻張氏夢神人稱崔府君擁一羊與之。遂娠。初封普安郡王○上初在王邸。遣內都監至徑山。問道於杲禪師。答以偈曰。大根大器大力量。荷擔大事不尋常。後在建邸遣內知客。至山賜妙喜菴三字及真讚。至是悉取向賜識以御寶。是年八月十

日。師示寂。上傷悼不已。賜諡普覺。塔曰寶光。語錄入大藏。右相湯思退。參政李邴。內翰汪藻。禮部侍郎張九成。給事中憑楫。皆問道有悟入(魏公張浚撰塔銘)。

乾道元年二月。召靈山子琳法師入見。問曰。朕欲讀經以何為要。師曰。金剛圓覺最為要道。又問參禪之法。師曰。直須自悟。上說。賜號慈受○二月以鄭國公主出家。勅品官庶民有毀辱僧尼罵稱禿字者。依祥符宣和勅旨。品官勒停。庶民流千里。仰天下州軍。遍榜曉諭。仍許僧尼錄。白指揮與度牒隨身永同公據。應僧尼過犯。官司不得私理。須奏聞取旨施行。

三年二月。駕幸上天竺禮敬大士。問住山若訥曰。大士之前合拜不合拜。師曰。不拜則各自稱尊。拜則遞相恭敬。上欣然致拜。又問歲旦修光明懺之意。師曰。佛為梵釋四

王說金光明三昧之道。囑其護國護人。後世祖師立為懺儀。於歲旦奉行其法。為國祈福。此盛世之典也。上說。授右街僧錄復賜錢。即道翌法師故居建十六觀堂。命內翰樓鑰作記○三月勅於禁中建內觀堂。一遵上竺制度○日本遣使致書四明郡庭問佛法大意。乞集名僧對使發函讀之。郡將大集。緇衣皆畏縮莫敢應命。棲心維那忻然而出。日本之書與中國同文。何足為疑。即揖太守褫封疾。讀以爪掐其紙七處。讀畢語使人曰。日本雖欲學文不無疎繆。遂一一為析之。使慚懼而退。守踊躍大喜曰。天下維那也。

四年四月八日。召上竺訥法師。領五十僧入內觀堂。行護國金光明三昧。齋罷說法。上曰。佛法固妙。安得如許經卷。師曰。有本者如是。上說。進授左街僧錄。慧光法師。自是歲歲佛生日。賜入內僧帛五十匹。修舉佛事(宋之瑞撰塔銘)○九月上謂禮部尚書李燾曰。科舉之文不可用佛

老語。若自修之山林。於道無害。倘用之科場。恐妨政事
(中興事鑑)。

述曰。儒家用老莊語其來已久。故不可一旦絕去。至若窮理之妙盡性之奧。高出世表而無所不容者。則無越乎釋氏之書。然儒家欲明理於天人之際。易洪範中庸大學語孟。求之自足。倘涉乎佛經語意。則自違其宗而放肆無歸矣。大哉孝廟之戒。其有旨乎。

六年四月。上與群臣論東都治亂消長之數。上曰。朕每念治平已前國家無事。自王安石首亂成法。繼之以章子厚(名惇避諱)蔡京之徒。至靖康輔臣率皆庸繆。以致大壞。蔡京謫死湖湘四十二年。遷葬之日皮肉銷盡。獨於胸上隱起卐字。若鐫刻然。按佛經如來具三十二相。胸題卐字。是其一。由戒定慧積修所成。其相明妙。魔王亦有三十二相。

其相稍晦。今京相如此。豈非魔乎。又豈非天地大數產此魔物為生民之禍乎(兩朝事鑑容齋三筆)○十一月撰德殿親灑靈感觀音之寺及靈感觀音寶殿。以賜上竺(各六字為額)。

七年二月。靈隱慧遠禪師入對選德殿。上曰。如何免得生死。對曰。不悟大乘終未能免。上曰。如何得悟。對曰。本有之性磨以歲月自然得悟。上曰。悟後如何。對曰。悟後始知今日問答皆非。上曰。一切處不是後如何。對曰。脫體現前更無可見之相。上有省首肯之。

八年正月。車駕幸靈隱。錫賚有加○八月召天竺訥法師。徑山印禪師(別峯寶印)靈隱遠禪師。及三教之士。集內觀堂賜齋。復令遠禪師獨對東閣賜坐。問曰。前日睡中忽聞鍾聲。不知夢覺。是同是別。對曰。夢覺無殊教誰分別。

上曰。鍾聲從何處起。對曰。從陛下問處起。十月賜靈隱慧遠佛海禪師(號瞎堂)。

九年正月。召上竺訥法師。獨對選德殿賜座。問大士歷代靈跡及法華經旨(登對錄)○魏公史浩佚老於四明。自號真隱居士。每從南湖智連法師問法要(號覺雲法師)嘗曰。師於禪律亦貫通耶。師曰。冰泮雪消固一水耳。又問。華嚴般若何太支離。師曰。支離所以為簡易。公倏然有省。及帥閩歸里。乃於東湖創月波山。放補陀巖。結洞室以安大士。奉德壽殿。書潮音洞以為額。首延覺雲高弟則約法師。專講智者教(號元菴賜智海大師)初是公攝昌國鹽監。偕鄱陽程休甫汎海謁補陀山。忽一僧指巖頂。有竇可以下瞰。方瞻佇間公與眾見大士金色身相。而公復見雙齒出脣際如珂玉。喜尉作禮而退。暨歸寺日已暮。一長身僧來訪。語公歷官至太師。且云。公是善終文潞公也。他日入

相。主上欲用兵。須力諫之。後二十年當與公會於越。語畢遂去。乾道初以故相鎮越。有道人自稱養素先生與公有舊。亟命延之。索紙大書曰。黑頭潞相重增萬里風光。碧眼胡僧曾共一宵情話。擲筆竟出。公大驚。因追思補陀事。知長身僧及道人皆大士示現相。距正二十年云(夷堅志。補陀壁記○今月波行堂有太師所見補陀現相一軸)。

述曰。越王出仕之初。登補陀覲大士。聞長身僧之言。許他日為師相。且囑其諫君上勿用兵。其後張魏公(浚)果勸孝宗北征。越王諫之不從。及符離兵敗浚歸見上。上迎謂浚曰。此行甚快史浩意。蓋大士預鑑時機。知南北勢分未可以合。故囑公興諫以免生靈之塗炭也。

史魏公過金山。覽梁武帝水陸儀軌之盛。謂報恩度世之道在是。乃於月波山創殿設十界像。與名僧講究製儀文四

卷。以四時修供。為普度大齋(至今百年)俎豆之器繁約折衷(音眾當也)讚唄之音抑揚有節。鄉城諸刹莫不視此為法。○國學生王日休。龍舒人。為六經訓傳數十萬言。一旦捐之曰。是皆業習非究竟法。吾其為西方之歸乎。自是一志念佛。日課千拜。一夕厲聲念佛。忽云佛來接我也。屹然立化。邦人有夢二青衣引之西行。日休為淨土文行於世。嘗為之說云。儒者或以釋氏之徒無戒行故輕其教者。豈可以道流不肖而輕老子。士人不肖而輕孔子。釋氏之教有世間法有出世間法。其世間法戒殺盜婬。儒釋未嘗不同。其不同者。釋氏之出世間法也。儒家止於世間。故獨言一世而歸之於天。釋氏知屢世。而能具見群生業緣本末。此其不同耳。

述曰。王龍舒之為儒也。固嘗為六經作訓傳矣。潛心學古。非世儒之常流也。及盡棄其學而學佛。必有一定之

見。今人為儒未及於龍舒。而欲以汎汎口舌效韓歐排佛之失言。是皆未足以知兩家之道本不悖也。至若世間出世間之說。雖未盡理謂佛能具見群生業緣本末。此得之矣。蘇黃諸公誠知此。伊洛先輩徒能以道自任。以故時有排斥。然不足以知此義也。

淳熙元年二月。賜內帑於上竺建藏殿。及賜大藏經。皇太子為書殿榜○四月召雁山靈峯中仁禪師。入對禁中(嗣圓悟普燈錄)○五月召靈隱遠禪師。入對便殿。

二年三月。駕幸上竺炷香禮敬大士。詔建護國金光明道場。賜白雲堂印。令天下三學諸宗並詣白雲堂。公舉用印申明有司○六月召上竺訥法師。獨對內觀堂○十二月遣中使至阿育王山迎佛舍利塔。上瞻禮之頃見塔上有如月輪。他日復見如水晶者。勅迎往東宮。皇太子見相輪上纍纍若

水晶貫珠。

三年正月。迎舍利於碧琳堂。上見塔角有光若金珠者。勅內侍奉塔還山。具齋以謝靈貺○勅福州依天聖二年已降聖旨。天台一宗教部。付開元東禪鏤版入藏。先是慈雲式法師奏乞天台教文入藏。詔可之。○二月詔台州報恩德光禪師入住靈隱。十一月入對選德殿。上問曰。釋迦雪山六年所成者何事。師曰。將謂陛下忘却。上說。賜號佛照禪師(師號拙菴)。

四年八月。參政錢端禮微疾。請平田行機禪師入臥內趺坐談咲。忽謂機曰。地水火風暫時湊泊。昧者認為自己。從上諸聖去住自在。今吾如是豈不快哉。遂斂目而逝。公與機同參護國元禪師。世知其有悟入(普燈錄)○召靈隱光禪師。入對內殿。進宗門直指。上問。浙東名山太白玉几之

外。以何為勝。師曰。保國護聖國清萬年。上說。當時侍臣咸皆歎賞。以為名對○唐奘三藏譯大般若經成六百卷。有鳳城雪月大師大隱。用難信解品一百三卷。行通關之法以授後人。

本朝淳熙間。有沙門不知所從來。車載此經至四明甬東。行道中口浪浪誦不輟。里人沃承璋遇諸塗。問之曰。我車上經皆能音誦。承璋初不信。試抽數卷對誦之。頃刻即度。始大異之。徐叩其故。沙門曰。是有關法焉。能通其關則百三卷之文皆可背誦。承璋欣然願受教。既通復教其妻子奴婢。闔門皆能通誦。乃刻板行關法。以化世人(舊印本有淳熙丁酉印施者是)。

述曰。嘗考經關盡百三卷。凡八十四科。今教卷諸文稱八十一科。名色者。當是相承之誤。沃本巨室初不信法。由

沙門一化乃能背通般若。然不知回向淨土。其沒也生日本為國主。背有銘曰。大宋沃承璋。日本人說若此(愚客月波。同住如習能關通此經。時眾有欲求受者。乃始用沃本刊經關一卷。以勸世人。因敘承璋本事云)。

五年。御書太白名山。賜住山了朴禪師(師號慈杭)。

七年。召明州雪竇寶印禪師入見。上問曰。三教聖人本同此理。師曰。譬如虛空初無南北。上曰。但所立門戶異耳。故孔子以中庸設教。師曰。非中庸何以立世間。華嚴有云。不壞世間相而成出世間法。上曰。今時學者祇觀文字不識夫子心。師曰。非獨今之學者。當時顏子為具體。祇說得瞻之在前忽焉在後。如有所立卓爾。亦未足以識夫子心。夫子亦曰。二三子以我為隱乎。吾無隱乎。爾以此而觀當時弟子。尚不識夫子心。況今人乎。張商英有云。

唯吾學佛然後能知儒。上曰。朕意常作此見。上又問曰。老莊之教何如。師曰。可比佛門中小乘人耳。小乘厭身如桎梏。棄智如雜毒。化火焚身入無為界。正如莊子形固可使如槁木心固可使如死灰。老子曰吾有大患為吾有身。大乘人則不然。度眾生盡方證菩提。正如伊尹所謂予天民之先覺者也。將以斯道覺斯民也。如有一夫不被其澤若已推而內之溝中也。上大說。即日詔住徑山○詔佛照禪師德光住阿育王山。十一月召對內殿。賜妙勝之殿四字。為釋迦舍利殿額。

八年。上製原道論曰。朕觀韓愈原道論。謂佛法相混三教相絀。未有能辨之者。徒文煩而理迂耳。若揆之以聖人之心。則無不昭然矣。何則釋氏窮性命外形骸。於世事了不相關。又何與禮樂仁義者哉。然猶立戒曰不殺不姪不盜不妄語不飲酒。夫不殺仁也。不姪禮也。不盜義也。不妄

人聖之道名焉。譬此世之禮樂。天下之大。豈非仁與佛治
聖人之道名焉。譬此世之禮樂。天下之大。豈非仁與佛治
道名焉。譬此世之禮樂。天下之大。豈非仁與佛治
中而別哉。設教治禮樂。絕不敢為天下先。豈非仁與佛治
容得之。所以仁義。豈非仁與佛治
從惡。所以仁義。豈非仁與佛治
乎。又春夏秋冬。聖人也者。仁義。豈非仁與佛治
遠。又春夏秋冬。聖人也者。仁義。豈非仁與佛治
何義。又春夏秋冬。聖人也者。仁義。豈非仁與佛治
又仁義。又春夏秋冬。聖人也者。仁義。豈非仁與佛治
尼非仁義。又春夏秋冬。聖人也者。仁義。豈非仁與佛治
仲非仁義。又春夏秋冬。聖人也者。仁義。豈非仁與佛治
與非仁義。又春夏秋冬。聖人也者。仁義。豈非仁與佛治
此樂之無端。則道老氏。曰慈。曰儉。曰不敢為天下先。豈非仁與佛治
樂之無端。則道老氏。曰慈。曰儉。曰不敢為天下先。豈非仁與佛治
也。非禮樂之無端。則道老氏。曰慈。曰儉。曰不敢為天下先。豈非仁與佛治
智孰非禮樂之無端。則道老氏。曰慈。曰儉。曰不敢為天下先。豈非仁與佛治
酒為若循環之無端。則道老氏。曰慈。曰儉。曰不敢為天下先。豈非仁與佛治
飲之所行耳。因其強道之寶者三。曰慈。曰儉。曰不敢為天下先。豈非仁與佛治
不飲之所行耳。因其強道之寶者三。曰慈。曰儉。曰不敢為天下先。豈非仁與佛治
也。聖人運名之耳。仁義禮樂。其用而愛人。老氏所謂不為天下先。豈非仁與佛治
信也。聖人運名之耳。仁義禮樂。其用而愛人。老氏所謂不為天下先。豈非仁與佛治
語也。聖人運名之耳。仁義禮樂。其用而愛人。老氏所謂不為天下先。豈非仁與佛治

世。斯可也。其唯聖人為能同之。不可不論也(聖政錄)。

十年。上親注圖覺經。賜徑山寶印禪師。刊行於世。

十一年。上竺左街僧錄若訥筍子。洪惟聖朝遵用唐制立試經度僧之科。竊詳大宋高僧傳洪覺範僧寶傳所載。自建隆開國至於南渡。名德高行皆先策試法華。然後得度。以由此經是如來出世一化之妙唱。群生之宗趣。帙唯七卷繁簡適中。故學者誦習無過與不及之患。自唐至今五百年來。昭垂令典。雖下及萬世可舉而行唐世之式。遠矣。及我。

朝而甚詳如文瑩湘山錄載。國初潭州僧童試經。此州郡比試也。歐陽歸田錄載。執政宋綬夏竦同試童行。此朝廷開試也。若僧史略載。朱梁時不許私度。願出家者入京比試。竊詳三書之意。當是天下童行。先就州郡試中。然後

入京。執政開場親監覆試第名奏上。乃下祠部給牒。若特詔疏恩。如建隆八千僧。太平普度十七萬。則又不在試經之限。或謂有虧國用者。則將對之曰。但於每歲以千牒為試經之擬。即以千牒之資均於餘牒。俾不能誦經而裕於財者亦得求度。厥今天下僧冗矣。試經以行古道。貴牒以限常人。誠足以復祖宗之成法救末流之冗弊也。上可其奏。付執政。下僧司。具格式。以供申不明。竟為中書所沮○建興福院成。先是上竺訥法師。屢以疾求閒。上曰。且賜地築室。一二年後。彼此作閑人。水邊石上共說無生。至是以賜師為佚老。授兩街都僧錄。東宮為書歸隱扁其室。十六年。上遜位於皇太子。退養重華宮稱壽皇○壽皇召慧光若訥法師入內殿。注金剛般若經書成。上積日披覽。益有省發。

光宗(孝宗第三子九月四日重明節永獻陵)

紹熙二年十月。慧光法師入寂。諡宗教廣慈法師。塔曰普照。

五年四月。刑部都官陸沅。沐浴冠服就寢而化。將殮忽聞蓮華香氣自口鼻噴出。沅號省菴。居四明鄞之橫溪。每晨起誦法華。日一過者三十載。年登八秩增至三部。為詩見志。有清晨三度到靈山之句。又閱大藏誦佛號。凡天台教門。少林宗旨。無不博究(弟陸游放翁撰墓誌)。

佛祖統紀卷第四十七(終)

○上將立謝妃為后。遣藍內侍詣何蕤衣菴而不告所問。止令說一二句來。內侍留數日敬禱之曰。皇帝見遣。願賜一

語以復命。何大怒振衣而出。藍隨之至天慶觀門。回首曰為天下母。藍即日歸奏。妃遂王位中宮。

○嚴陵唐仙姑者。幼年厭塵俗往姑蘇。謁何蓑衣。躬薪水十二年。後逢呂真人與之丹。大上皇聞其名。召入德壽宮。請符水。問曰。先生符水是行何法。對曰。不曾行法。但以心為法。以神為符。以氣為水耳。上說。書寂靜先生以賜之。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱
【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十八

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

法運通塞志第十七之十五

寧宗(光宗子。母慈懿皇后李氏十月十九日瑞慶節 永茂陵)

慶元三年。荊門軍申忠翌郎趙善瑩狀。當陽縣玉泉山景德禪寺為隋智者禪師開山道場。蜀將軍關王奉智者為師。祈禱屢應。乞賜加封。勅宣賜靈惠大師。

嘉泰二年。餘杭南山白雲庵道民。沈智元。乞賜勅額。臣
寮言。道民者。遊墮不逞。喫菜事魔。所謂姦民者也。自
植黨與十百為群。挾持妖教。輦瞽愚俗。或以修路建橋為
名。或效誦經焚香為會。夜聚曉散。男女無別。所至各有渠
魁相統。遇有諍訟。合謀并力。厚啖胥吏。志在必勝。假名與
造自豐囊囊。創置私庵。以為逋逃淵藪。智元偽民之魁。左
道惑眾。揆之國法。罪不勝誅。張杓帥京之日。屢與隣寺互
論已判。道人私庵合照前降指揮。拆除。今智元又敢妄叩天
闕。玩侮朝廷。若此為甚。昔傳五斗米道者。始託黃老分遣
弟子。周遊四方。轉相誑誘。其後數十萬眾。同日竊發。漢
遂微。今此曹若不防閑。何所不至。欲下臨安府將智元等
重行編竄。籍其物業。以為傳習魔法。玩視典憲者之戒。寄
居勢家。認為己產。蓋庇執占者。臺諫指名以奏。制可。

述曰。嘗考夷堅志云。喫菜事魔三山尤熾。為首者紫帽寬

衫。婦人黑冠白服。稱為明教會。所事佛衣白。引經中所謂白佛言世尊。取金剛經一佛二佛三四五佛。以為第五佛。又名末摩尼。采化胡經乘自然光明道氣飛入西那玉界蘇鄰國中降誕玉宮為太子出家稱末摩尼。以自表證其經名二宗三際。二宗者。明與暗也。三際者。過去未來現在也。大中祥符興道藏。富人林世長。賂主者使編入藏。安於亳州明道宮。復假稱白樂天詩云。靜覽蘇鄰傳。摩尼道可驚。二宗陳寂默。五佛繼光明。日月為資敬。乾坤認所生。若論齋絜志。釋子好齊名。以此八句表於經首。其修持者正午一食。裸屍以葬。以七時作禮。蓋黃巾之遺習也(嘗檢樂天長慶集。即無蘇鄰之詩。樂天知佛。豈應為此不典之詞)。

嘉定四年閏二月。丞相錢象祖薨於天台里第。象祖之守金陵。嘗問道於保寧全無用。後於鄉州建接待十所。皆以淨

土極樂名之。創止菴高僧寮為談道之處。自左相辭歸。益修淨業。是月得微疾。僧有問起居者。則曰。不貪生不怖死。不生天不生人。唯當往生淨土耳。言訖趺坐而化。時天鼓震響異香芬郁。未終之前。郡人子女同夢空中聲云。錢丞相當生西方蓮宮為慈濟菩薩。

理宗(嘉定十四年。詔以太祖下十一世與莒。賜名貴誠。立為皇弟沂靖惠王。後十七年封成國公。受遺詔即帝位。正月五日天基節)

寶慶二年。勅天申萬壽圓覺寺。改為天台教。以師贊法師主之。

淳佑六年十一月。臨安明慶聞思律師奏。南山澄照律師戒疏業疏事鈔等。并大智律師述三部諸記。共七十三卷。乞

附入大藏。制可。續據省部下諸郡經坊。鏤板頒行。

淳佑十年三月。臣寮上言。國家優禮元勳大臣近貴戚里。聽陳乞守墳寺額。蓋謂自造屋宇自置田產。欲以資薦祖父。因與之額。故大觀降旨。不許近臣指射有額寺院。充守墳功德。及紹興新書。不許指射有額寺院。著在令甲。凡勳臣戚里有功德院。止是賜額蠲免科敷之類。聽從本家請僧住持。初非以國家有額寺院與之。邇年士夫一登政府。便萌規利指射名剎。改充功德侵奪田產。如置一莊。子弟無狀多受庸僧財賄。用為住持。米鹽薪炭隨時供納。以一寺而養一家。其為污辱祖宗多矣。況宰執之家所在為多。若人占數寺。則國家名剎所餘無幾。官中一有科需。則必均諸人戶。豈不重為民害。臣愚欲望睿旨申嚴舊制。應指占勅額寺院並與追正。仍從官司請僧。庶以杜絕私家交通寺院賄貨之弊。制可。

佛持大臣之藍物發歸之。侵奪之。三為父何使。護許者。奪取所有。明日發。我家之。寧不貽。自陷。誠則。大臣。昧。奪。又。明。日。發。柴。炭。掩。取。其。物。歸。之。侵。奪。之。三。為。父。何。使。國。君。立。法。今。已。奪。取。其。物。歸。之。侵。奪。之。三。為。父。何。使。佛。囑。朝。廷。立。法。今。已。奪。取。其。物。歸。之。侵。奪。之。三。為。父。何。使。曰。佛。為。先。買。山。舉。寺。中。又。明。日。發。柴。炭。掩。取。其。物。歸。之。侵。奪。之。三。為。父。何。使。公。最。為。福。捐。財。功德。一。過。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。公。最。為。福。捐。財。功德。一。過。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。清。獻。事。以。不。能。稱。為。功。德。一。過。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。杜。有。一。事。所。不。能。稱。為。功。德。一。過。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。於。書。乞。額。之。重。占。數。寺。筍。一。有。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。書。者。有。一。事。所。不。能。稱。為。功。德。一。過。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。致。佛。造。寺。玉。體。欲。影。占。發。茶。珍。一。有。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。廉。佛。造。寺。玉。體。欲。影。占。發。茶。珍。一。有。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。思。破。壞。佛。造。寺。玉。體。欲。影。占。發。茶。珍。一。有。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。門。反。以。祖。父。而。發。米。奉。水。陸。言。曰。請。過。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。沙。而。以。為。墳。今。日。發。米。奉。水。陸。言。曰。請。過。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。台。而。以。為。墳。今。日。發。米。奉。水。陸。言。曰。請。過。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。天。法。為。則。之。而。有。之。甚。嘗。聞。時。貴。之。言。曰。請。過。功。德。一。財。物。皆。屬。三。寶。寧。不。貽。自。陷。誠。則。

庸繆之輩以居之。方竭力奉承之不暇。又寧能辨清供以安
廣眾乎。以故尋師問道者。翩翩南北。但能嗟時事之不然
而已。區區愚衷欲望大丞相明察積弊檢準舊法。凡宰執之
家。除四明大慈七山。史氏自造請額合格外自餘占奪有額
舊寺者。專令臺部置司行下諸郡從實供析悉與拘回。並從
所屬州郡給帖住持。仍釐正在前侵占山林屋宇歸還各寺。
子弟有敢與住持交通如前侵占者。許雜人密告臺部追捕幹
吏斷刺。號令住持勒令罷道。清整法門申明朝憲。誠有在
於大丞相奉行之力。不為物論動搖為可耳。云云。

端平元年。靈山守愚法師奏。四明延慶法智大師。中興天
台一家教觀。所著記鈔二百餘卷。乞入大藏頒行。制可。

端平三年。四明沙門海印刪修陸師壽寶珠集。續集淨業有
驗者。名淨土往生傳十二卷(志磐刪為淨土立教志。凡三

卷。入統紀中。最為簡要)。

佛祖統紀卷第四十八(終)

以師贊法師開山弘傳天台教觀。

端平元年。靈山守愚法師奏。四明延慶法智祖師中興天台教觀所著記鈔二百餘卷。乞入大藏頒行。制可。

三年。四明沙門海印刪修陸師壽寶珠集。續集淨業有驗者。名淨土往生傳十二卷(志磐刪為淨土立教志。凡三卷入統紀。最為詳簡)。

嘉禧元年太后王氏薨。詔徑山師範禪師入對修政殿。賜金

欄袈裟。宣詣慈明殿升座說法。上垂簾而聽。賜號佛鑑。恭聖仁烈皇帝升遐。仍詔師範升座。既而乞歸山林。復賜圓照之號。淳祐元年上夢觀音大士坐竹石間。及覺命圖形刻石。御贊曰。神通至妙兮隱顯莫測。功德無邊兮應感奚速。時和歲豐兮祐我生民。兵寢刑措兮康此王國。仍書廣大靈感四大字。加於觀音聖號之上。又書心經一卷。御書聖教序并玉手爐賜上天竺同庵憲法師。補左右街都僧錄。新上天竺五百羅漢閣。御書超諸有海四大字以賜。

紹定二年。有旨。以襴衾事宣上天竺主。僧赴南水門引見柏庭。在假智覺居首座。得旨代入竣事。玉音褒嘉。賜賚甚渥。詔法昭法師住下天竺。尋遷上天竺。補右街鑒義。賜佛光法師。進錄左街賜金欄袈裟。召見倚桂閣對御稱旨。時集慶寺新成。有旨命法照開山力辭。舉白蓮觀主南峯誠法師以代。明年誠公入寂。詔佛光兼住持。轉左右街都僧

錄。御書晦岩二大字賜之。又於天基節召見延和殿講華嚴經。大書靈山堂以賜。東宮成引見復古殿講般若經。并賜紫金欄衣。齋于明華殿。

五年。詔雲間文果住下天竺寺。遣中使齎御奩。賜無量壽佛像建閣。嚴奉奎章大書其扁昭回雲漢。時上竺虛席。京兆端明趙公與權奉無以易文果。詔曰可。是歲天旱。請觀音大士出明慶寺。師入奉謝。御駕幸寺請禱。師啟白詞意簡切。上契宸衷。駕回而雨。即頒左街僧錄。及佛慧大師之號。

淳祐六年十一月臨安明慶寺聞思律師奏南山澄照律師戒疏業疏事鈔等。并大智律師述三部諸記共七十三卷。乞附入大藏。制可。續省部下諸郡經坊鏤板頒行。

七年。賜上天竺法照。座下衣紫者六。度僧二。修造祠牒十本。

八年。葬貴妃賈氏于小麥嶺之積慶山南。建寺曰崇恩演福。育王山笑翁禪師奉詔住景德靈隱禪寺。再詔移淨慈。不赴遂入寂。

九年。重彩上天竺觀音大士。飾七寶瓔珞。加賜金錢。

十年。臣寮上言。國家優禮元勳近貴戚里聽陳乞守墳寺額。蓋謂自造屋宇自置田產。欲以資薦祖考。因與之額。故大觀降旨不許近臣指射有額寺院著在令甲。凡勳臣戚里有功德院。止是賜額蠲免科敷之類。聽從本家請僧住持。初非以國家有額寺院與之。邇年士夫一登政府。便萌規利指射名剎改充功德。侵奪田產如置一莊。子弟無狀多受庸

僧財賄用為住持。米鹽薪炭隨時供納。以多。一寺而養一家。其則不並弊臣護大為藍物木私哀主

報乎吁占奪伽藍欺君也。葬父僧地陷父也。自為不法賊己
也。以不法教子弟累人也。欺君者不忠。陷父者不孝。賊己
者不智。累人者不仁。如此以為人。是誠何人哉。今名勝
道場效尤而奪取者。幾遍諸郡。一屬功德。則使庸謬之輩
以居之。方竭力奉承之不暇。又寧能辦清供以安廣眾乎。
以故尋師問道者翩翩南北。但能時事之不然而已。區區愚
衷欲望大丞相明察積弊檢準舊法。凡宰執之家除四明大慈
七山。史氏自造請額合格外自餘占奪有額舊寺者。專令臺
部置司行下諸郡從實供析悉與拘回。並從所屬州郡給帖住
持。仍釐正在前侵占山林屋宇歸還各寺。子弟有敢與住持
交通如前侵占者。許雜人密告臺部追捕幹史斷刺。號令住
持勒令罷道。清整法門。申明朝憲。誠有在於大丞相奉行
之力。不為物論動搖為可耳。

十一年詔佛光法師法照。宣見倚桂閣從者千指。上首慧鑑

舉行熾盛光懺法。為皇女延昌公主祈禳。賜齋弊丹劑。

寶祐元年皇后謝氏功德寺成。命撰額曰嘉德永壽。以首座寶鑑大師時舉應詔補右街鑒義。開山弘傳天台教觀。三月賜度牒二十本米四百石修上天竺觀音堂。

二年天基節。上御延和殿。命佛光法師講華嚴經。皇情大悅曰。自是不同。上問無諍三昧。師曰。天親論解云。無諍者無欲也。有欲則有諍。須菩提不但得無諍三昧而已。又於無諍三昧之人之中最為第一上首。宜之為親製觀音殿記。御書登石。

景定四年詔祖印法師住上天竺。補右街鑒義。退歸旌德教寺。復詔妙鈺法師住上天竺。補左右街僧錄。五年詔古源清法師入內道場懺禱有驗。賜祥應大師之號。復講法華於

福寧殿賜紫衣。

六年詔建經鐘二樓於上天竺。

度宗(初名孟[啟-口+山]。福王與芮之子。理宗子多而不育鞠。孟[啟-口+山]於官改名昀。又名檣。立為皇子封忠王。已而建儲名璿。即帝位)

咸淳元年詔淨慈虛堂愚禪師住徑山。○九月詔佛光照法師再住上天竺。法堂繪事方新宜昭揭先帝白雲御書錄狀聞奏。詔中天竺虛舟普度禪師住景德靈隱寺咸淳癸酉八月十五日佛光照法師示寂。勅賜天岩塔院。諡普通大師。塔曰慈應。

少帝(諱顯。度宗之子。母全后謝太后臨朝)

德祐丙子。大元兵逼臨安。起三宮北遷。謝太后至燕京。七年崩封壽春郡夫人全后為尼正智寺。少帝封羸國公。舉國歸附。

元

世祖聖德神功文武皇帝(諱忽都必烈。姓奇渥溫氏。蒙古部人。睿宗第四子。庚申即帝位)

中統元年大赦。普度僧尼。十二月以梵僧八合思八為帝

師。授以玉印。統釋教事二年於桓州東梁河北之龍岡建開平府。首於城中乾艮二隅造兩佛剎。曰大乾元寺。曰龍光華嚴寺。

三年十一月作大佛事于旻天寺七晝夜至元元年甲子都燕。設會度僧。詔國師扮彌遠發思八。登座授秘密戒○八月命僧子聰同議樞密院事。詔子聰復其姓劉氏。易其名秉忠拜大保參預中書省事。制長生天氣力裏皇帝聖旨咨爾劉秉忠氣剛以直。學富而文。雖晦迹於空門。每潛心於聖道。朕居藩邸。卿實賓僚。側聞高誼逾二十年。出游遐方幾數萬里。迨予嗣服須汝計安。不先正名何以厭眾。宜從師位兼總政機。可特授光祿大夫太保參預中書省事。卿其勉輔朕躬。率先乃屬察朝夕之勤惰。審議論之是非。凡有施為並聽裁決。佇看成績別示寵章。准此。

二年。詔諭總統所僧人通五大部經者為中選。以有德業者為州郡僧錄判正副都綱等官。仍於各路設三學講三禪會。

三年正月。勅僧道祈福於中都寺觀。設以僧機為總統居慶壽。

四年。詔以新製蒙古字頒行天下。初上命帝師八合思八製蒙古新字。其字僅千餘。其母凡四十有一。其相關紐而成字者。則有韻關之法。其以二合三合四合而成字者。則有語韻之法。而大要則以諧聲為也。至是詔頒行之。

六年十一月。作佛事於太廟七晝夜。

七年詔請膽巴金剛上師住持仁王寺。○十二月。建大護國仁王寺於高良河。勅更定僧服色。

八年五月。修佛事於瓊花島。○十一月建國號曰大元。取周易大哉乾元之義。以明資始之功。

九年。集都城僧誦大藏經九會。

十四年。建大聖萬安寺。○二月詔以僧元吉祥憐真加加瓦並為江南總攝掌釋教。除僧租稅。禁擾寺宇者。

十五年正月旦設會齋僧大赦。玉泉等五老蒙恩得度。

十七年。大元帝師發思八示寂。翰林學士王磐等奉勅撰行狀曰。皇天之下。一人之上。開教宣文輔治大聖至德普覺真智佑國如意大寶法王西天佛子大元帝師班彌怛拔思發帝師。乃土波國人也。生時諸種瑞應具詳家譜。初土波有國

凡尊師之師。不自世祖宮正。師尊為師。猶十五。世祖訂。尊伯父。縱橫。年二十。釋道。師伯父。年二十。中原。師伯父。年三十。即。王禮博。年二十。稱旨。王。更。國乃辨。師年二十。大寶。三十六。時。其也。法。癸丑。徑詣。年二十。庚申。師年。三十。傳。父演。藏。馳駟。悅。印。還。畫。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。相。伯父。三。藏。戊午。師年。二十。庚申。師年。三十。葉。之。七。通。歸。禮。學。國。師。授。以。玉。印。還。摸。帝。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。累。師。誦。盡。有。尊。禮。學。國。師。授。以。玉。印。還。摸。帝。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。神。哇。成。隱。真。命。尊。禮。學。國。師。授。以。玉。印。還。摸。帝。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。威。加。目。索。真。命。尊。禮。學。國。師。授。以。玉。印。還。摸。帝。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。大。加。過。玄。知。特。加。尊。禮。學。國。師。授。以。玉。印。還。摸。帝。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。具。師。言。鉤。法。答。元。中。統。尊。為。國。師。授。以。玉。印。還。摸。帝。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。答。至。二。千。宿。潛。戒。法。自。棄。尊。為。國。師。授。以。玉。印。還。摸。帝。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。乞。而。一。名。淵。受。戒。法。自。棄。尊。為。國。師。授。以。玉。印。還。摸。帝。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。濕。陀。客。德。稟。道。不。建。元。中。統。尊。為。國。師。授。以。玉。印。還。摸。帝。師年。三十六。王公。宰輔。仙音。羅。怛。伽。復。遍。龍。宮。經。道。登。極。教。門。詔。制。迄。為。一。代。典。章。歸。抵。京。幢。蓋。瞻。禮。若。一。佛。出。世。時。師。禪。秘。足。祖。闡。化。二。王。二。頒。賜。元。一。之。

則大兵飛渡長江。竟成一統。雖主聖臣賢所致。亦師陰相之力也。為真金皇太子說器世界等彰所知論。尋又力辭西歸。皇上堅留之不可。庚辰師年四十二。時至元十七年十一月二十二日示寂。上聞不勝震悼。追懷舊德建大宰覲波于京師。寶藏真身舍利。輪輿金碧無儔。

十八年。特奉聖旨。僧道二家辯折除道德經是老子真實經旨。其餘皆後人造作。謊說多有詆毀釋教。偷竊佛語更有收拾陰陽醫藥諸子等書。往往改移名號。傳注訛舛失其本真。偽造符咒。妄言佩之。令人商賈倍利夫妻和合猶如鴛鴦。子嗣蕃息男壽女貞。誑惑萬民非止一端。欲貪圖財利誘說妻女。其有教人非妄。佩符在臂。男為君相女為后妃。入水不溺入火不焚。刀劍不能傷害等語。及令張天師祁真人李真人杜真人試之於火皆求哀請命自稱偽妄。不敢試驗。今議得除老子道德經外隨路。但有道藏說謊經文并

印板。盡行焚毀。如有愛佛經的做和尚去者。不願為僧娶妻為民去者。若所在官司不行用必拘刷。與隱藏之人一體要罪過者。

二十二年。勅建焚毀諸路偽道藏經之碑。翰林院臣唐方楊文郁王構李謙閻復李鑄王磐奉勅撰。十月壬子集百官於憫忠寺焚道藏偽經雜書。遣使諸路俾遵行之。命翰林直學士知制誥同修國史臣張伯淳撰至元辯偽錄函序。時江南釋教都總統永福大師楊璉真佳大弘聖化凡三載。恢復佛寺三十六所。

二十五年正月十九日。江淮釋教都總統楊璉真佳集江南教禪律三宗諸山至燕京問法。禪宗舉雲門公案。上不悅。雲夢澤法師說法稱旨。命講僧披紅袈裟右邊立者。於是賜齋香殿。授紅金欄法衣。錫以佛慧玄辯大師之號。使教冠於

禪之上者自此。上嘗問帝師曰。造寺建塔有何功德。師曰。福蔭大千。由是建仁王寺。一日帝師齊竟天雨金華。上曰。何故有此祥瑞。師曰。陛下心華內發。天雨金華贊歎。帝問蜀僧元一曰。孔老徒眾何以至少。如來徒眾何以至多。一曰。富嫌千口少。貧恨一身多。帝設資戒大會。隨處放光。帝問帝師曰。光從何來。師曰。感應道交佛光應現。帝召十高僧於內殿供養。帝瑞坐不動。諸大德默然。帝曰。此是真實功德。又萬幾之暇自持數珠課誦施食。謂群臣曰。朕以本覺無二真心治天下。如觀海東青取天鵝心無二。故自有天下。寺院田產二稅盡蠲免之。並令緇侶安心辦道。世祖實錄百餘篇。字字句句以弘教為己任。

二十八年宣政院上天下寺院四萬二千三百十八區。僧尼二十一萬三千一百四十八人。帝在位三十五年。壽八十。國

語曰薛禪皇帝。

成宗欽明廣孝皇帝(諱鐵木耳。世祖之孫。裕宗真金第三子。即位於甲午四月十五日。國語完者篤皇帝)

元貞元年。大赦。是年詔悅堂闇公至闕。入對稱旨。賜號通慧禪師。并金襴法衣。上天竺湛堂澄法師入覲上京。賜食禁中。以復天台國清為言。宣政院為奏請。降璽書加護。命弘法師主之。辯正宗緒。

大德元年建臨洮寺。世祖嘗以五臺絕境欲為佛寺而未果。帝繼志建寺。賜名萬壽佑國寺。命真覺國師文才主之。

三年。命弘濟禪師江浙釋教總統補陀僧寧一齋詔使日本。

是年夏五月。罷江南諸路釋教總統所。

九年璉真監藏卒。賻金五百兩。銀一千兩。幣帛萬匹。鈔三千錠。仍為建塔寺。

十年丙午春。罷江南白雲宗都僧錄司。汰其民歸州縣。僧歸各寺。

武宗仁惠宣孝皇帝(諱海山。順宗答剌麻八口長子。國語曰曲律皇帝)

至大元年發軍千五百人。修五臺山佛寺。帝幸上都。建佛寺大都。又以銀七百五十兩。鈔二千二百錠。幣帛三百匹

施昊天寺。建水陸大會。特旨賜元叟端禪師號慧文正辯大師并金襴袈裟。鳳山儀法師入覲。高麗瀋王璋王以其道行之隆引見大明殿。特命講經三藏試鴻臚卿加佛智之號。賜金納失失伽黎。繼奉青宮令旨。撰膽巴金剛上師行業。傳書成經進同高僧傳入藏。賜賚優渥。勅住天竺靈山。名香駟騎絡繹于道。錫予無虛月。仍降璽書復台之瀑布教寺。

二年。皇太子言。宣政院先奉旨。歐西番僧人者截其首。詈之者斷其舌。此法昔所未聞者。乖國典且於僧無益。僧俗相犯已有明憲。乞更其令。從之。是年禁白蓮社。毀其祠宇。以其人還隸民籍。中書省臣言。宣政院奏免僧道也。里可溫答失蠻租稅。臣等議田有租商有稅。乃祖宗成法令。宣政院一體奏免非制也有旨依例徵之。

仁宗文英武章皇帝(諱愛育黎拔力八達。順宗次子。武宗弟也。國語曰普顏皇帝)

皇慶元年。以西僧藏不班八為國師賜玉印。賜大普慶寺金千兩銀五千兩。鈔萬錠。西錦綵[弓*殳]紗羅布帛萬端。田八萬畝。邸舍四百間。又給鈔萬錠。修香山普安寺。

延祐元年。勅建旃檀瑞像殿。封普庵禪師加號。詔曰。朕聞佛氏以空寂為宗。凡學所遵者寧欲建名號殊稱。謂以示天下後世哉。而咸家非此。無以昭尊德樂道之意也。朕自即位以來。聞袁州路南泉山慈化禪寺普庵寂。感妙濟真覺昭貺大德慧慶禪師。紹臨濟之緒。超華嚴之境德映當代。澤被方來。其道尊顯。心切慕之。可加定光之塔曰定光靈瑞之塔。是年秦州普覺法師順寂。

三年。設水陸大會於金山。命江南教禪律三宗諸師說法。

六年。賜大興教寺僧齋食鈔二萬錠。乾元寺鈔萬錠。俾營子錢供繕修之費。帝聞天目中峯明本之道。聘之不至。製金紋袈裟賜之。號為佛慈圓照廣慧禪師。賜師子院額曰正宗禪寺。勅翰林承旨吳興趙公撰碑。賜徑山元叟端禪師佛日普照之號。御史臺臣言。白雲宗總攝所統江南為僧之有髮者。不養父母。避役損民。乞追收所受璽書銀印。勒還民籍。從之。罷總統所及各處僧錄僧正都綱司。凡僧人訴訟悉歸有司。

七年。中書省臣曰。白雲宗總攝沈明仁強奪民田二萬頃。誑誘愚俗十萬人私賂近侍妄受名爵。已奉旨追奪請汰其徒還所奪民田。其諸不法事宜令覈問。有旨。朕知沈明仁姦惡。其嚴鞠之。

英宗(諱碩德八剌。仁宗嫡子。國語曰格堅皇帝)

至治元年。詔各路立帝師殿。勅建帝師殿碑。作大佛事於寶慈殿。以西僧牙八剌里為元永延教三藏法師授金印。又命拜住造壽安山寺。又作佛事於光天殿。鑄銅為佛像置玉德殿。又修佛事於文德殿。以僧洪為釋源宗主。授榮祿大夫。帝幸上都。遣使賜撒思加地僧金二百五十兩。銀二千二百兩。袈裟二萬。幣帛幡茶各有差。遣呪師朵兒只往牙濟班卜二國取佛經。作金塔於上都。藏佛舍利勅天下諸司命僧誦經十萬部勅京師萬安·慶壽·聖安·普慶四寺。楊子江金山寺。五臺山萬聖祐國寺。作水陸勝會七晝夜。

三年。詔僧儒書金字藏經。是年召佛海性澄法師至京入對

明仁殿。被旨於青塔寺校正經律論三藏。有司供張歲時錫予為禮殊渥。駕幸文殊閣引見問勞賜食。正旦及天壽節。再朝於大明殿。賜以無量壽經。校正事畢。特賜金襴大紅衣。加以御用衣段。已給驛券將南還。俄有旨即白塔寺建水陸大會。丞相東平忠獻王留升座說法。眾咸悅服。事聞寵賚有加。仍降璽書加護。追號佛海大法師。詔鳳山子儀法師再住下竺靈山。帝聞天目中峯之道。封香製衣。遣使即其居修敬。

晉王史稱泰定帝(諱也孫帖木兒。顯宗甘麻剌之長子。裕宗娉孫)

泰定元年帝次中都修佛事於昆剛殿。命僧作佛事於大內。以厭雷塑馬哈吃利佛像於延春閣之徽清亭。修西番佛事于

安山寺。六月癸亥作禮拜寺於上都。修黑牙蠻塔。哥佛事於水晶殿。帝受佛戒於帝師。繪八思巴帝師像頒行各省。俾塑祀之。

二年。命西僧作燒香壇佛事於延華閣。

監察御史宋本李嘉賓傳起岩言。太尉司徒司空三公之職。濫設僧人。及會福殊祥二院。並辱名爵。請罷之。不報。

中書省臣言。江南民貧僧富。諸寺觀田土非宋舊制。并累朝所賜者。仍舊與民均役。從之。

三年。建殊祥寺於五臺山。賜田三百頃。以西僧公哥為帝師賜玉印。命帝師作佛事於天源延壽寺。賜鈔二萬錠。田千頃。中書省臣言。養給軍民必籍地利。世祖建宣文弘教

寺賜永業。當時已號虛費。而成宗復構天壽萬寧寺。較之世祖。用增倍半。若武宗之崇恩福元。仁宗之承華普慶。租榷所入益又甚焉。英宗鑿山開寺損民傷農而卒無益。夫土地祖宗所有。子孫當共惜之。臣恐茲後籍為口實妄興工役。邀福利以逞欲。惟陛下察之。帝嘉納其言。

四年。皇子允丹藏卜受佛戒于智泉寺。

致和元年。命帝師修佛事於禁中。帝御興聖殿。受無量壽佛戒于帝師。命僧千人修勝會于鎮國寺。詔帝師命僧修佛事於鹽官州。仍造浮屠三百十六所。以厭海溢。時江浙行省丞相脫驩公憂之禱于上天竺。廣興佛事。命天岸濟法師親履其地。仍令有司修水陸大會七晝夜。法師呪行沙水。足迹所按土皆凝然○十月皇后亦憐真八剌受佛戒于帝師。禁僧道買田土。違者坐罪。

文宗(諱脫脫帖陸耳。武宗次子)

天曆元年。革行宣政院立十六處廣教總官府。命高昌作佛事於延春閣。

二年。建承天護聖寺。帝聞中峯高行。賜諡智覺。塔曰法雲。召奎章閣學士虞集命撰中峯塔銘。勅改集慶潛邸建龍翔集慶寺。妙選碩德開山。上天竺佛海澄法師。以咲隱訴禪師首膺其選。特升三品文階。明年驛召赴闕。入見奎章閣。賜坐問法要。對揚稱旨。詔以平江官田一百五十頃賜龍翔寺及崇僖寺。

詔天下諸僧寺田自金宋所有及累朝賜予者悉除其租。其有

當輸租者仍免其役。僧還俗者聽復為僧。武帝忌辰命高麗漢僧三百四十人誦經二藏于崇恩福元寺。

至順元年。帝及皇后燕王受佛戒。以西僧旭爾迭八答剌班的為三藏國師賜金印。帝幸上都。西僧作佛事於乘輿。命西僧於五臺山及霧靈山作佛事各一月。為皇太子祈福。遣使召趙世延於集慶。以泥金書無量壽佛經千部。以泥金書佛經一藏。命西僧於萬歲山懣忠閣作佛事。

順帝(諱妥歡帖陸爾。明宗長子)

元統元年。禁私剏寺觀庵院。僧道入錢五十貫。給度牒方聽出家。

二年。罷廣教總官府復立行宣政院。是年大普慶寺住持善達密的里表奏。以先師明本廣錄入藏。帝可其奏。加普應國師。

至元三年。徵西域僧迦刺麻至京。號灌頂國師賜玉印。

至正元年。命永明寺寫金字藏經一藏。免天下稅糧。

三年。詔寫金字藏經。

四年。右丞相脫脫領宣政院事。諸寺院主僧請復僧司。且曰為群縣所苦如坐地獄。脫脫曰。若復僧司何異地獄中復置地獄耶。不許。

六年十二月。復立護國仁王寺。

七年二月。興聖宮作佛事。賜鈔二千錠。

十七年。哈麻及禿魯帖木兒等陰進西天僧于帝。行房中運氣之術。號演揲兒法。揲兒法者華言大喜樂也。又進西蕃僧善祕密法者。帝皆習之。帝在位久怠於政事荒于遊宴。以宮女一十六人按舞。名為天魔舞。首垂髮數辮戴象牙冠。身被瓔珞。大江銷金長短裙襖雲肩合袖天衣緩帶鞋[革*(廿/(口@儿)/戌)]。各執加巴剌班之器。內一人執鈴杵奏樂。又宮女十一人。練推髻勒帕常服。或用唐帽窄衫。所奏樂用龍笛頭管小鼓箏[竺-二+奏]琵琶笙胡琴響板。以宦者長安迭不華領之。遇宮中贊佛則按舞奏樂。宮官受祕密戒者得入。餘不得預 二十八年國除。

大明皇帝以其知順天命退避而去。諡曰順帝。

遼太祖。姓耶律。諱阿保機。國號契丹。都上京。太宗遷都。晉開運二年遼主耶律德元入晉。不一年世宗立。諱阮番。名兀欲。改元天祿。治五年。為燕王遷軌等弒于新州火神淀。穆宗璟即位。名兀律。改元應曆。治十八年。為庖人弒于黑山下。聖宗立名隆緒。改元統和。又改開泰。復號大契丹。洪基道宗立。興宗子也。改元清寧。治四十六年。天祚延禧立。道宗之孫。改元大慶。又改保大。宋童貫與遼叛人馬植謀約女真功。遼天祚逃于夾山。擒之封海濱王。送長白山。築城居之。遂亡。遼自阿保機以梁貞明二年丙子建元神冊。至延禧保大乙巳共九主二百一十年。

金太祖。姓完顏。諱阿骨打。揚割太師長子。國號女真。十六年稱帝。國改號金。都上京。至世宗都燕。太宗諱晟

揚割次子。改元天會。迎請梅檀瑞像到燕京。建水陸大會
七晝夜。安奉於憫忠寺供養。熙宗諱亶。太祖嫡孫。改元
天眷。詔海慧大師於上京官側建大儲慶寺。普度僧尼百
萬。大赦天下。又詔海慧清慧二禪師住儲慶寺。迎梅檀像
於本寺積慶閣供養。海慧遷化。帝奉舍利五處立塔。諡佛
覺祐國大禪師。復賜清慧佛智護國大師號并金襴衣。世宗
諱雍。太祖孫。改元大定。遷都燕。勅大慶壽寺。詔玄冥
顥禪師開山。皇太子降香。賜錢二萬沃田二十頃。又詔顥
禪師於東京剋清安寺。度僧五百。作般瑟吒會。二十年勅
建仰山棲隱禪寺於燕京西山。仍詔顥禪師開山設會度僧。

章宗諱璟。顯宗允恭之子。改元明昌。詔萬松禪師。於禁
庭升座。帝親迎禮。奉錦綺大僧伽黎詣座授施。內宮貴戚
羅拜拱跪。各施珍愛。建普度佛事連日。祥雲聯綿天際。
從此年豐謳歌滿路。每歲設齋。屢感祥瑞。駕幸燕之仰

山。有金色界中兜率境碧蓮華內梵王宮之句。承安四年以太后遺命詔下和龍府起大明寺。造九級浮屠。度僧三萬。施以度牒及五萬人也。東海侯諱允濟。世宗第九子。章宗無嗣。群臣舉遺詔立之。改元大安。在位四年。梅檀像至金國十二年還上京禁庭供養。金九主一百十九年。

金國誌曰。浮圖之教。雖貴戚望族。多捨男女為僧尼。在京曰國師。帥府曰僧錄。在州郡曰都綱。縣曰維那。披剃威儀與南宋等。所賜之號曰大師曰大德。並賜紫。國師服真紅袈裟。都綱亦以三年為任。有師號賜紫。無如常僧。維那僧尼訟杖以下決遣之。杖以上者並申解僧錄都綱司。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第四十九

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

名文光教志第十八之一

維智者以斯道盛行當世。古今名賢贊德之文如柳顧言國清碑。皇甫昆玉泉碑(二文見國清百錄)亡名玉泉實錄(碑是再刻之文曾獲墨本)唐梁肅荊溪大師碑。宋張商英關王祠堂記。胡昉法智法師碑。晁說之明智法師碑。皆摭取要事參入紀傳。不復別錄全文。至若自唐迄今。黼黻大教碑記論序。何其多乎。今錄其尤著者。為名文光教志。

天台禪林寺碑

唐翰林學士梁肅

天台山西南隅一峯曰佛隴。蓋智者大師得道之所。前佛大教重光之地。梁陳崇之置寺曰修禪。及隋創國清。廢修禪號號為道場。自大師入滅一百八十餘載。長老大比丘(然公)光昭大師之遺訓。以啟後學門人。安定梁肅聞上。易名禪林。乃銘勒大師之遺烈以示後世云。大師諱顓(字德安)號智者。其先潁川陳氏。世居荊州之華容。感緣應迹載在別傳。夫治世之經。非仲尼則三王四代之制。寢而不彰。出世之道。非大師則三乘四教之旨。晦而不明。昔如來乘一大事因緣。菩薩以普門示現。自華嚴肇開至雙林高會。無小無大同歸佛界。及大雄示滅學路派別。世既下衰教亦陵遲。故龍樹大士病之。乃用權略制諸外道。乃詮智度發

法。諸。即。證。後。息。用。殊。年。自。時。行。東。溪。
二。有。略。無。然。焉。張。表。而。七。門。當。其。陽。左。
入。而。教。趣。倫。者。夫。被。南。十。其。纂。東。至。
中。而。其。宗。奪。教。若。光。司。皇。闢。也。傳。雲。
字。被。之。相。其。天。為。開。賓。知。人。威。縉。
文。廣。門。實。無。窺。此。在。台。歲。其。而。二。威。縉。
由。能。法。一。明。見。如。明。天。是。溷。得。有。威。自。
之。不。觀。中。昭。見。也。大。以。天。是。溷。得。有。威。自。
得。簡。止。大。位。知。教。也。大。以。天。是。溷。得。有。威。自。
師。尚。是。脫。行。佛。設。師。者。茲。山。大。師。可。十。雲。師。
禪。教。於。解。道。示。之。宗。法。滅。門。之。心。頂。傳。朗。
文。時。詮。成。冰。大。兩。言。成。道。應。得。頂。傳。左。
慧。當。之。而。於。然。為。是。化。者。而。數。灌。威。威。
我。師。受。說。至。煥。焉。宇。繇。離。教。感。數。師。威。
流。大。師。言。心。得。海。緣。賓。故。千。禪。小。
東。思。及。慧。自。同。不。高。萬。息。之。入。門。章。安。謂。
言。岳。慧。會。而。施。退。實。證。之。曰。號。
微。南。夏。定。旨。而。入。語。旁。往。者。有。師。號。
極。以。惑。而。之。契。蓋。闔。注。論。夫。位。得。世。者。同。
宗。扇。心。得。敷。開。闔。注。論。夫。位。得。世。者。同。
明。門。宗。身。真。誕。焉。舍。大。塗。也。言。也。於。陽。

以玄珠相付。向晦宴息而已。左溪門人之上首。今湛然禪
師。行高識遠。超悟崇德。達辯惑者。凡祖師之教。在章句者。
之。佛隴。亦鄒魯寶歷之世。邦寇擾攘。錫駭散。人可。肅曰。
於茲。自廟莊嚴。佛土回向。於金石。師之本。佛出世。奧祕。
修持也。蓋記諸首受命。其文曰。諸佛開師道。行。我后。
徒然。小子稽見乎辭。赫赫天下。火滅允塞。明明。此山有
住持。與佛同致。天。薪盡德音。此山有
源。白。生。微。此
位。生。微。此
生。微。此
德。微。此
壞。微。此

天台止觀統例

唐翰林學士梁肅

夫止觀何為也。導萬法之理而復於實際者也。實際者何也。性之本也。物之所以不能復者。昏與動使之然也。照昏者謂之明。駐動者謂之靜。明與靜止觀之體也。在因謂之止觀。在果謂之智定。因謂之行。果謂之成。行者行此者也。成者證此者也。原夫聖人有以見感足以喪志動足以失方。於是乎。止而觀之。靜而明之。使其動而能靜靜而能明。因相待以成法。即絕待以照本。立大車以御正乘。大事多而總權。消息乎不二之場。鼓舞於說三之域。至微以盡性。至蹟以體神。語其近則一豪之善可通也。語其遠則重玄之門可窺也。用至圓以圓之。物無偏也。用至實以實之。物無妄也。聖人舉其言所以示也。廣其目所以告

觀一說相之末別則蘊法一空聖則
止也。一議而非傳之地通本。一妙
此何思也。言之為返三者。假。舉
之者。然至大以是。中。非。使
至中。而人所為迹。是乎。法。者
自假名。含理。小循義。言。盛。無
使空之一相。聖為不定。第一法。則
之。得一。自然者。則為妙。立一切
議謂者。一。本也。迹。為妙。立一切
而之道。即也。垂定。為妙。立一切
擬之一。中。三。名。末。以。為。中。假。建。中。修。昧。明。
之。也。三。強。謂。本。實。為。中。假。建。中。修。昧。明。
求何義。三。非。迹。由。為。實。言。空。非。中。修。昧。明。
自者。對一。也。迹。由。為。實。言。空。非。中。修。昧。明。
使諦相。至。義。本。教。為。權。無。為。盛。中。謂。之。說。常。
之。三。者。數。之。本。教。為。權。無。為。盛。中。謂。之。說。常。
柔也。夫假也。非數之本。教。為。權。無。為。盛。中。謂。之。說。常。
而作。空旨。非。謂。示。顯。為。實。通。中。成。理。至。
優也。空旨。非。謂。示。顯。為。實。通。中。成。理。至。
也。由目也。非生者也。為頓。為一。為也。言性。則人悟。
所之非生者也。為頓。為一。為也。言性。則人悟。

不強觀義。截用闕者。上至遍判。不可通。辨。而三章之綱。妙用。劫曰。夫十宏。故也。十者。萬曰。乎。舉其備者。德之說。安。其義。環。如。磅之乎。論。義。運。生。無。所。別。如。旁名。德。指。舉。十。義。運。生。無。所。別。如。差。不無。妙。定。略。也。十。義。運。生。無。所。別。如。不。不。極。不。五。諦。也。十。義。運。生。無。所。別。如。而。不。大。非。觀。之。見。境。者。載。物。而。至。相。安。無。所。別。如。法。而。不。次。也。觀。之。見。境。者。載。物。而。至。相。安。無。所。別。如。萬。物。莫。漸。關。立。觀。之。見。境。者。載。物。而。至。相。安。無。所。別。如。綸。無。在。非。道。之。機。而。終。何。之。妙。九。者。安。心。也。不。為。也。彌。歸。自。非。道。之。機。而。終。何。之。妙。九。者。安。心。也。不。為。也。有。復。脫。者。通。動。正。觀。者。其。境。之。妙。九。者。安。心。也。不。為。也。人。有。其。解。頓。末。發。止。於。也。知。其。境。之。妙。九。者。安。心。也。不。為。也。聖。不。其。旨。謂。演。始。止。於。也。知。其。境。之。妙。九。者。安。心。也。不。為。也。矣。而。其。所。恢。境。者。止。於。也。知。其。境。之。妙。九。者。安。心。也。不。為。也。一。恒。沙。究。十。境。也。止。於。也。知。其。境。之。妙。九。者。安。心。也。不。為。也。則。載。覺。如。此。者。十。境。也。止。於。也。知。其。境。之。妙。九。者。安。心。也。不。為。也。成。遺。號。成。也。流。所。其。何。也。乘。者。遍。為。解。川。不。可。遏。也。成。遺。號。成。也。流。所。其。何。也。乘。者。遍。為。解。川。不。可。遏。也。成。遺。號。成。也。流。所。其。何。也。乘。者。遍。為。解。川。不。可。遏。也。

四教淺深事有源也。成一事因緣理無遺也。噫止觀其救世明道之書乎。非夫聖智超絕卓爾獨立。其孰能為乎。非夫聰明深達得意忘象。其孰能知乎。今之人乃專用章句文字從而釋之。又何疎漏耶。或稱不思議境與不思議事。皆極聖之域。等覺至人猶所未盡。若凡夫生滅心行三惑浩然。於言說之中推上妙之理。是猶醯雞而說大鵬夏蟲之議曾冰(曾層同)。其不可見明矣。今止觀之說文字萬數。廣論果地無益初學。豈如暗然自修功至自至。何必以早計為事乎。是大不然。凡所謂上聖之域。豈隔闊遼夐與凡境天絕歟(夐虛正反遠絕之義)是唯一性而已。得之謂悟。失之謂迷。一理而已。迷而為凡。悟而為聖。迷者自隔。理不隔也。失者自失。性不失也。止觀之作。所以辨同異而究聖神。使群生正性而順理者也。正性順理。所以行覺路而至妙境也。不知此教者則學何所入。功何所施。智何所發。譬以無目昧乎日月之光。行於重險之處。顛踣(蒲目反僵)

墮落。可勝紀哉。噫去聖久遠賢人不出。庸昏之徒含識而已。致使魔邪詭惑諸黨並熾空有云云。為坑為阱。膠於文句不敢動者。有流於滌(音莽水大貌)浪不能住者。有太遠而甘心不至者。有太近而我身即是者。有枯木而稱定者。有竅號而稱慧者。有奔走非道而言權者。有假於鬼神而言通者。有放心而為廣者。有罕言而為密者。有齒舌潛傳為口訣者。凡此之類自立為祖繼祖為家。反經非聖。昧者不覺。仲尼有言。道之不明也。我知之矣。由物累也。悲夫。隋開皇十七年大師去世。皇朝建中垂二百載。以斯文相傳。凡五家師。其始曰灌頂。其次曰縉雲威。又其次曰東陽威。又其次曰左溪朗公。其五曰荊溪然公。頂公於同門中慧解第一。能奉師訓集成此書蓋不以文辭為本故也。或失則繁。或得則野。當二威之際緘授而已。其道不行。天寶中左溪始弘解說。而知者蓋寡。荊溪廣以傳記數十萬言。網羅遺法(勤矣。備矣)。荊溪滅後。知其說者適三四

人。古人云。生而知之者上也。學而知之者次也。困而學之又其次也。夫生而知之者。蓋性德者也。學而知之者。天機深者也。若嗜慾深。耳目塞。雖學而不能知。斯為下矣。今夫學者。內病於蔽外役於煩。沒世不能通其文。數年不能得其益。則業文為之屢校(音教械也)梏(姑沃反械手也)足也。焚(音汾治絲)句為之簸糠眯目(眯莫貝反目不明)也。以不能喻之師。教不領之弟子。止觀所以未光大於時也。予常戚戚。於是整其宏綱撮其機要。理之所存教之所急。或易置之。或引伸之。其義之迂其辭之鄙。或薙除之。或潤色之。凡浮疎之患十愈其九。廣略之宜三存其一。是祛鄙滯導蒙童。貽諸他人則吾豈敢。若同見同行且不以止觀罪我。亦無隱乎爾。建中上元甲子。首事筆削。三歲歲在析木之津功畢云耳。

智者大師傳論

唐安定梁肅敬之

論曰。修釋氏之訓者務三而已。曰戒定慧。斯道也始於發心成於妙覺。經緯於三乘導達於萬行。而能事備焉。昔法王出世。由一道清淨用一音演說。機感不同所聞蓋異。故五時五味半滿權實偏圓小大之義。播於諸部粲然殊流。要其所歸無越一實。故經曰。雖說種種道其實為佛乘。又曰。開方便門示真實相。喻之以眾流入海標之以不二法門自他兩得同詣祕密。此教之所由作也。暨鶴林滅而法網散。神足隱而宗塗異。各權所據矛盾更作。其中或三昧示生。四依出現應機不等。持論亦別。故攝論。地持。成實。唯識之類。分路並作。非有非空之談。莫能一貫。既而去聖滋遠。其風益扇。說法者桎梏於文字(桎音質足械梏姑沃手械)莫知自解。習禪者虛無其性相不可牽復。是此者

非彼。未得者謂證。慧解之道流以忘返。身口之事蕩而無
章。於是法門之大統。或幾乎息矣。既而教不終否。而至
人利見。慧文慧思或躍相繼。法雷之震未普。故木鐸重授
於天台大師。大師象身子善現之妙解。然後用三種止觀成一
相。贊龍樹之遺論。從南岳之開十乘於八教。戒定慧之說。空
事因緣。括萬物於一心。開而行之。於是教無遺法。法無棄
假中之觀。坦然明白可舉而行。行有所證。證有其宗。大師教
人。人無廢心。心無擇行。行有所證。證有其宗。大師教
門所以為盛。故其在世也。光昭天下為帝王師範。其去世
也。往來上界為慈氏輔佐。卷舒於普門示現。降德於如來
所使。階位境智蓋無德而稱焉。於戲應迹雖往微言不墜。
習之者猶足以抗折百家昭示三藏。又況聞而能思。思而能
修。修而能進。進而不已者歟。斯人也雖曰未證。吾必謂
之近矣。今之人正信者鮮。啟禪關者。或以無佛無佛法何
罪何善之化化之。中人以下馳騁愛欲之徒出入衣冠之類。

以為斯言至矣。且不逆耳私欲不廢。故從其門者。若飛蛾之赴明燭破塊之落空谷。殊不知坐致焦爛而不能自出。雖欲益之而實損之。與夫眾魔外道為害一揆。由是觀之。此宗之大訓。此教之旁濟。其於天下為不侔矣。自智者傳法五世至今湛然大師。中興其道。為予言之如此。故錄之以繫於篇(一名天台法門議)。

聖安寺無姓和尚碑

唐禮部員外郎柳宗元

維年月日。岳州大和尚終於聖安寺。凡為僧若干年。年若干有名無姓。世莫知其閭里宗族。所設施者有問焉。而以告曰。性五姓也。其原無初其胄無終。承於釋師以系道本。吾無姓耶。法劍云者我名也。實且不有名惡乎存。吾

有門。無不逾起教歸。有場德戒寺東。其根。耶。以守。菩。其。或。天。失。尚。曰。伽。出。道。岳。步。無。性。則。薩。其。或。台。其。勤。吾。北。家。穎。戒。銘。而。海。固。大。道。譏。大。宗。求。未。峯。事。師。法。銘。而。吾。士。可。以。師。端。嘗。行。不。依。居。歲。曰。名。鄉。以。其。聞。有。為。生。慤。行。不。依。居。歲。曰。名。也。居。眾。者。為。得。物。以。越。者。荊。來。道。師。法。安。涯。此。曰。說。動。至。居。者。卓。然。弟。師。於。是。界。吾。吾。而。未。和。向。州。十。師。子。會。一。尊。吾。里。之。讀。作。紹。亂。聽。興。居。首。終。為。以。戒。具。而。華。鳴。本。惟。者。尚。南。陽。懷。以。門。物。為。乎。不。經。呼。統。極。不。中。凡。立。遠。某。日。以。非。之。度。異。金。剛。道。順。正。其。居。嚴。葬。日。以。非。壙。門。也。般。逾。中。路。道。是。事。岳。居。於。為。所。慧。道。若。遠。道。為。得。或。皆。州。長。卓。姓。存。為。品。吾。經。異。端。凡。其。譏。作。世。就。安。師。乃。大。之。其。宗。數。端。受。以。道。高。受。國。塔。歸。鄉。

不居。大族不親。淵懿內朗。冲虛外仁。聖有遺言。是究
是勤。惟動惟默。逝如浮雲。教久益微。世罕究陳。爰有
大智。出其真門。師以顯示。俾民惟新。情動生變。物由
湮淪。爰授樂國。參乎化源。師以誘導。俾民不昏。道用
不作。神行無迹。晦明俱如。生死偕寂。法付後學。施之
無斂。葬從我師。無忘真宅。寫是昭銘。刻茲真石。

無姓碑陰記

龍城柳宗元

無姓和尚既居是山。曰凡吾之求非在外也。吾不動矣。弘
農楊公炎自道州以宰相徵過焉。以為宜居京師強以行。不
可。將以聞曰。願閒歲乃往。明年楊去相位竄謫南海上。
終如其志。趙郡李萼辨博人也。為岳州盛氣欲屈其道。聞

一言服為弟子。河東裴藏之舉族受教。京兆尹弘農楊公某。以其隱地為道場奉。和州刺史張惟儉。買西峯廣其居。凡以貨利委堂下者不可選紀。受之亦無言。將終命其大弟子懷遠。授以道妙。終不告其姓。或曰。周人也。信州刺史李某為之傳。長沙謝楚為行狀。博陵崔行儉為性守一篇。凡以文辭道和尚功德者。不可悉數。弘農公自餘杭命以行狀來。懷遠師自長沙以傳來。使余為碑。既書其辭。故又假其陰以記。

龍興寺淨土院記

龍城柳宗元

中州之西數萬里有國曰身毒(漢書法音乾篤即天竺也)釋迦牟尼如來示現之地。彼佛言。西方過十萬億佛土有世界曰

極樂。佛號無量壽。其國無有三毒八難。眾寶以為飾。其人無有十纏九惱。群聖以為友。有能誠心大願歸心是土者。苟念力具足則往生彼國。然後出三界之外。其於佛道無退轉者。其言無所欺也。晉時廬山遠法師。作念佛三昧詠。大勸於時。其後天台大師著釋淨土十疑論。宏宣其教。周密微妙。迷者咸賴焉。蓋其留異迹而去者甚眾。永州龍興寺前刺史李承晁(音質大也)及僧法林。置淨土堂於寺之東偏。常奉斯事。逮今餘三十年。廉隅毀頓圖像崩墜。會巽上人居其宇下(柳集余學零陵重巽。求其道積三十年。吾獨有得焉)始復理焉。上人者修最上乘解第一義。無體空析色之跡。而造乎真源。通假有借無之名。而入於實相。境與智合。事與理并。故雖往生之因亦相用不舍。誓葺茲宇以開後學。有信士圖為佛像。法相甚具焉。今刺史憑公作大門以表其位。余遂周延四阿環以廊廡。續二大士之像繒蓋幢幡以成就之。嗚呼有能求無生之生者。知舟筏之存乎

是。遂以天台十疑論書於牆宇。使觀者起信焉。

法智大師行業碑

宋清獻公趙抃

法智大師。名知禮。字約言。金姓。世為明人。梵相奇偉。性恬而器閎。初是父母禱佛求息。夜夢神僧携一童遺之。曰。此佛子羅睺羅也。既生以名焉。毀齒出家。十五落髮。受具戒。二十從本郡寶雲通法師傳天台教觀。始三日首座。謂曰。法界次第若當受持。師曰。何謂法界。座曰。大總相法門圓融無礙是也。師曰。既圓融無礙。何得有次第耶。座無語。幾一月自講心經。人皆屬聽而驚。謂教法之有賴矣。居三年。常代通師講。入文銷義益闡所學。出住承天。繼遷延慶。道法大熾。學徒如林。日本國師遣徒持二

名。遣。師。久。知。帝。皇。宗。真。妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
式。異。聞。自。而。復。其。懺。悲。懺。起。號。明。既。日。
伏。地。已。往。勝。懺。身。以。師。至。願。七。五。
佛。設。問。取。大。悲。懺。身。以。師。至。願。七。五。
為。書。能。取。大。悲。懺。身。以。師。至。願。七。五。
卒。記。大。悲。懺。身。以。師。至。願。七。五。
約。共。焚。身。以。師。至。願。七。五。
薦。以。紫。服。師。自。杭。至。明。既。日。
竺。式。常。察。之。師。願。七。五。
社。歲。旦。結。光。明。懺。七。五。
於。天。聖。六。年。正。月。五。日。
實。天。聖。六。年。正。月。五。日。
其。亡。經。月。發。龕。以。視。
不。壞。舍。利。不。可。勝。

遺。聞。自。而。復。其。懺。悲。懺。起。號。明。既。日。
異。聞。自。而。復。其。懺。悲。懺。起。號。明。既。日。
式。異。聞。自。而。復。其。懺。悲。懺。起。號。明。既。日。
名。遣。師。久。知。帝。皇。宗。真。妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
師。久。知。帝。皇。宗。真。妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
久。知。帝。皇。宗。真。妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
知。帝。皇。宗。真。妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
帝。皇。宗。真。妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
皇。宗。真。妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
宗。真。妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
真。妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
妙。其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
其。臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
臻。咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
咸。之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
之。答。師。要。法。詢。來。問。十。
答。師。要。法。詢。來。問。十。
師。要。法。詢。來。問。十。
要。法。詢。來。問。十。
法。詢。來。問。十。
詢。來。問。十。
來。問。十。
問。十。
十。

唱。教。授。三。十。餘。年。不。傳。謝。第。鐸。也。於。世。乃。物。以。其。辯。脫。已。達。
席。徒。靡。余。未。木。可。信。余。戰。於。名。而。不。可。欲。其。解。脫。已。達。
至。之。者。月。余。門。言。於。交。繁。以。戒。得。聞。智。解。師。已。達。
不。臻。盛。十。衢。釋。士。請。碑。逮。旦。之。人。興。文。字。以。法。智。師。已。達。
脇。梵。席。冬。遊。之。行。別。震。示。他。而。離。人。
年。慧。才。講。三。年。嘗。師。宦。其。來。有。磬。繼。繼。不。離。與。人。
十。餘。岳。間。豐。智。達。狀。凡。聖。而。行。有。師。乘。一。字。以。與。人。
四。矩。仁。之。元。者。法。矣。既。無。得。而。耳。導。上。乘。無。
懺。如。崇。江。矣。法。師。明。年。矣。既。無。得。而。耳。導。上。乘。無。
講。本。既。博。忠。法。師。明。年。矣。既。無。得。而。耳。導。上。乘。無。
事。賢。計。亦。明。前。寂。竊。一。而。此。設。莫。得。見。其。後。最。上。乘。無。
專。尚。千。功。法。而。示。徒。虛。返。哉。他。人。本。當。念。之。可。說。
席。琮。以。之。法。而。示。徒。虛。返。哉。他。人。本。當。念。之。可。說。
法。全。從。開。抵。忽。斂。孫。吾。初。能。已。華。復。不。離。一。法。之。可。說。
主。則。時。於。衢。為。述。焉。人。生。莫。苟。之。而。求。理。究。竟。則。無。
三。者。當。其。接。實。無。人。而。豈。目。之。而。求。理。究。竟。則。無。
數。道。人。道。暇。與。繼。者。歎。之。境。化。犯。自。談。相。

乎此。則何假於人言而後傳者哉。姑閱其所紀。眾所共聞者為之實錄。將以答忠師之勤懇也。復讚之以文曰。

大雄覺世垂微言。磅礴日月周乾坤。智者才辯窮化元。時
為演說開迷昏。河沙佛法雖紜紜。俱入天台止觀門。法智
遠出揚清芬。志堅氣真貌且溫。少而敏悟老益勤。或懺或
講忘晡昕。中興教觀真軼群。縱橫言論妙入神。遺文粲若
可討論。辭淳理正道不煩。邇遐學徒日駿奔。冀茲正覺消
波旬。佛祖之道彌加尊。如流欲清必濬源。如葉欲茂必培
根。行高名重上國聞。天子遣使來中閤。賢蒙勳戚固所
忻。命服錫號回天恩。知身變滅如浮雲。誓勇棄舍甘趨
焚。素願莫適仍修熏。眾生嗜好隨貪嗔。三塗轉徙如膏
輪。有能頓悟報施因。罪福苦樂岐以分。說本無說誰其
人。師心了了所夙敦。言能觀忘寧非真。身雖云亡寧非
存。江浙蕃蕃其子孫。詔億萬世觀斯文。

止觀坐禪法要記

宋忠肅公陳瓘瑩中

本自不動。何止之有。本自不蔽。何觀之有。眾生迷蕩去
本日遠。動靜俱失。不昏即散。此二病本出生眾苦。令彼
離苦而獲安隱。當用止觀以為其藥。病瘳藥廢醫亦不立。
則止觀者乃假名字。即假即空言語道斷。以大悲故無說而
說。此摩訶止觀之所為作也。然其文義深廣汪洋無涯。譬
如大海孰得其際。以大悲故復作方便。使嘗一滴知百川
味。使由一漚見全潮體。故於大經之外又為此書。詞藹旨
要。讀之易曉。應病之藥盡在是矣。善用藥者不治己病。
止乎其未散。觀乎其未昏。方止方觀。而未嘗昏未嘗散
也。如鳥雙翼如車兩輪。窮遠極高無往不可。及其至也不

出於此。嗚呼不知則止。知止觀之可以入者。可不勉哉。
此書智者親造。而未行於世。明智大師中立鏤版以傳師之
高行人所尊敬。此書流傳其必廣矣。

三千有門頌

陳 瓘

不思議假非偏假。此假本具一切法。真空不空非但空。圓
中圓滿非但中。是故四門之初門。即是不可思議假。初門
即三三即一。非一非三又非四。一二三四指一月。四點似
別唯一空。門門一一為法界。攝一切法皆無餘。不以妙假
有門觀。誰知法界具足法。聞思修證無不妙。心能觀此體
具故。若祇觀心不觀具。則於一觀分二家。一家觀門異諸
說。諸說雖異觀自一。彼迷一心具諸法。墮在通別次第

中。次第而生次第斷。豈知十界本來一。三千本一亦如
是。皆非世數可分別。妙境元無空假中。而亦不離空假
中。空即是心假是色。非色非心名曰中。色心絕處中體
現。於一一法體皆具。凡夫心具即佛具。取著不圓則不
具。唯一具字顯今宗。入此宗者甚希有。

與明智法師書

陳 瓘

瓘頓首再拜上啟南湖延慶堂上講主明智法師。人回伏奉書
教。獲審道體安隱無惱。下懷良慰。向承寄示觀音玄義并
記。且荷開發妙旨以祛愚蔽。深佩提獎之意感德無已。有
門頌。但隨順古意過蒙采覽。仰見法師收藺自在。來諭
云。以有題之。恐鈍者不領。誠如所慮。然智者以有門為

一切則趣大曉之。即於有粗無理。其間而若攝佛法也。故一切法之開燈。則亡妙中深離三。若界佛因緣。有門之義提領。惑純是非。則無境。法具亦有一假三或一性。自性無。為論有止妙然其也。三千言。三千有思議。門第一之。此當得門。有則之微。若非不可。有若第一之。此當得門。有則之微。若非不可。粗。是則實。亦則有兩。然此之微。若非不可。無劣緣。是實。亦則有兩。然此之微。若非不可。妙優因。有無未滅。假後更。師詮之一。皆復性。有無未滅。假後更。師詮之一。門無死外。有因妙病。待乎。古世離。四等論。生死界也。云。假。前。不。性。乃。者。離。相。平。若。即。法。意。語。妙。然。而。指。三。千。也。復。不可。此。相。若。出。之。是。然。而。指。三。千。也。復。不可。謂。法。界。之。假。經。即。惑。二。指。三。千。也。復。不可。又。三。法。有。法。書。解。有。能。一。指。三。千。也。復。不可。相。復。假。門。有。而。智。也。不。一。善。無。解。而。而。之。況。假。門。有。而。智。也。不。一。善。無。解。而。而。門。之。妙。有。旨。耳。有。此。門。具。不。旨。矣。一。圓。法。見。此。有。旨。耳。有。此。門。具。不。旨。矣。一。

智俱不思議。此數即是止觀。故云千性即中理。此境即是一
此數。故中理即三千性。若但三千則是一切一切法耳。一千
切法但有名字。何能具乎。若一切法性則本具矣。故三千
即是一切法。一切法性即是三千性也。此性不當有無。有
無自爾。夫不當有無者。泯妙外之一執也。有無自爾者。
開離執之一妙也。於有為妙有。於無為真無。真無則空。而
不空。妙有則有。而不有。有無自爾。非有無也。在假則假
不具。在空則空具。在中則中具。無不在無不具也。然則妙
假之有。豈情有乎。假不待空泯絕無對。說有說無皆不待
絕。今乃設有待之言讚歎妙假之說。豈免為巧度之所訶
乎。且一念心起則有三千世間之相。國土一千則山河大地
是也。五陰世間一千則染淨一切色心是也。眾生世間一千
則六凡四聖假名是也。一念心起三千性相一時起。一念心
滅三千性相一時滅。念外無一豪法可得。法外無一豪念可
得。此乃本住不遷。不遷者中理圓明之體。此體如理為念

其壽無量。非得命根亦無連持。本無名字而不失諸名。名其土曰極樂國。名其身曰阿彌陀。身土交參融乎一妙。故能使說法之音不離彼土。而廣長舌相具足周遍。其具如是。是體具乎。是性具乎。是佛具乎。是眾生具乎。若有能知具彼之樂者。其有不願往生者乎。向實際之中要在不往而往。於方便之內何妨去已還來。機熟緣深定須成辦。此瓘之有得於祖意者也。瓘屏迹丹丘老病待盡。千里相望淨願不隔。更祈慈蔭以師法見攝。而終教之。未由會面以究盡此旨。臨風但極瞻嚮之切。瓘頓首再拜上啟。

鑰舊讀了翁集。見有門頌一篇。莫知其旨。有二沙門來扣門。袖出有門頌真續及與明智講主論此頌二帖。讀之恍然。因問天台教觀之說。始知智者大師所說四門。一曰有門。一曰空門。一曰亦空亦有門。一曰非空非有門。其實一可貫四。四實歸一。公之為有門頌。蓋謂此也。近世士

大夫用力不及前輩。祇如學佛。僅能涉獵楞嚴圓覺淨名等經及傳燈語錄。以資談辨。若唐之梁補闕諸公本朝楊文公楊無為張無盡及了翁輩。皆留心教觀深入其趣。讀此頌及書。可以知其所造之實。惟公忠言大節。照映千載。身罹百謫。視生死如旦晝。平時學問自得之效。固自應爾。方在丹丘時逆境尤多。而心地泰然深入不二法門。公之學佛得力。豈易測哉。二沙門欲刊石以傳之人。謹書諸後。以歸之妙珣了怡二沙門之名云。慶元二年中秋。四明樓鑰題。

士大夫當患難則學佛。得志則有用夏變夷之說。蓋於佛無所得也。了翁有門頌。其於佛有所得歟。攻媿其知之者歟。景定二年正月二十八日。天台法照。為四明學子可登。題於月桂峯下。

南湖淨土院記

陳 瓘

明州延慶寺。世有講席。以天台觀行為宗。自法智大師行學俱高。聽徒心嚮。繼其後者又皆得人。今百有餘年矣。間有苦行精修之士。來依道場。元豐中比丘介然。修西方淨土之法。坐而不臥。以三年為期。期滿謂同修慧觀仲章宗悅曰。我輩各據一室成此勝緣。後之來者加眾。而室不增多。今寺之西隅尚有隙地。若得錢二千餘萬。構屋六十餘間。中建寶閣立丈六彌陀之身。夾以觀音勢至。環為十有六室。室各兩間。外列三聖之像。內為禪觀之所。殿臨池水水生蓮華。不離塵染之中。豁開世外之境。念處俱寂了無異緣。以堅決定之心。以顯安樂之土。所以順佛慈而報國恩者。豈獨我四人而已哉。所欲如是其可成乎。慧觀

等。同。辭。以。答。之。曰。以。無。作。任。運。之。心。作。有。為。利。益。之。事。四
明。多。檀。信。何。患。乎。不。如。其。志。者。初。介。然。手。二。指。誓。必。成。增
此。元。符。二。年。三。月。落。成。之。日。設。千。佛。之。供。復。然。三。指。以。增
淨。誓。既。成。所。難。成。又。捨。所。難。捨。而。原。其。用。心。無。私。己。之。有
意。於。是。見。者。聞。者。莫。不。隨。喜。淨。習。之。士。踊。躍。欣。慶。而。十。有
六。室。常。無。虛。位。期。滿。者。去。發。心。者。來。依。勝。境。而。獲。善。利
者。不。知。其。幾。何。人。也。夫。淨。土。之。教。古。佛。所。說。誠。心。之
士。諦。受。不。疑。如。來。之。敘。九。品。以。至。誠。為。上。上。智。者。之。造
十。論。破。疑。心。之。具。縛。縛。解。情。忘。識。散。智。現。則。彌。陀。淨。境
何。假。他。求。若。臨。明。鏡。自。見。面。像。得。者。不。由。於。識。受。昧。者。安
可。以。情。曉。超。識。習。而。不。惑。度。情。塵。而。獨。造。者。其。唯。誠。乎。
故。曰。誠。者。成。也。成。自。成。他。唯。此。而。已。譬。猶。清。淨。滿。月。普
現。諸。水。影。像。非。一。月。體。無。二。攝。流。散。而。等。所。歸。會。十。方。而。總
於。一。亦。如。十。鏡。環。遶。中。然。一。燈。光。體。交。參。東。西。莫。辨。然。而。方

誰有。將慈。恩注。以重。垢。大。捨。初。別。知。乃。行。
境乎。慈心。勝劣。習除。頓明。可者。分。乃。覺。此。心。
融乎。繫之。勝境。強盡。日照。念何。觀中。期。正。覺。如。
理境。以足。私。若室。音如。無有。親俱。何等。正。發。
與之。何足。多。重。閻。世。虛光。空。得。定。成。取。正。發。
智礙。一方。知。障。重。觀。幻。無量。自然。日。決。不。我。誓。也。
西。來。指。安。養。則。深。觀。無。自。日。不。我。誓。也。
不自。如。定。論。客。疑。難。間。遵。親。觀。無。礙。安。若。者。所。
不。度。若。然。客。良。火。能。無。不。親。礙。安。若。者。所。
西。測。若。然。客。良。火。能。無。不。親。礙。安。若。者。所。
立而。宗。人。良。火。能。無。不。親。礙。安。若。者。所。
相見。貪。相。通。人。良。火。能。無。不。親。礙。安。若。者。所。
隨之。生。相。通。人。良。火。能。無。不。親。礙。安。若。者。所。
名方。處。專。乃。往。無。量。聖。軌。普。賢。普。融。則。故。有。退。轉。上。善。人。
鏡執。處。專。乃。往。無。量。聖。軌。普。賢。普。融。則。故。有。退。轉。上。善。人。
西。在。業。重。勝。易。濕。無。聖。軌。普。賢。普。融。則。故。有。退。轉。上。善。人。
無。以。隨。為。心。深。古。聖。軌。普。賢。普。融。則。故。有。退。轉。上。善。人。
非。可。凡。識。淺。方。便。子。憶。不。往。者。權。實。決。於。菩。提。本。願。
定位。安。凡。識。淺。方。便。子。憶。不。往。者。權。實。決。於。菩。提。本。願。
有。執。言。此。偏。蓋。當。釋。勢。解。動。未。念。我。法。

如是行。起如是願。趣如是果。而不違法藏之大誓。則寓跡於茲剎。棲心於此室者。皆阿鞞跋致之士也。其為勝利。豈有窮哉。比丘介然唱一善念。四明信士應答如響。而所以利益一方者。其廣若是。可不記其事乎。今教主明智大師法智之曾孫也。行業淳實人所信服。能以誠心修淨土觀。於介然之事有助為多。故并記之。大觀元年八月一日。延平陳瓘記。◎

佛祖統紀卷第四十九(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第五十

宋咸淳四明東湖沙門志磐撰

名文光教志第十八之二◎仁王般若經疏序

待制晁說之

陳隋間。天台智者遠稟龍樹立一大教。九傳而至荆溪。荆溪之世。有新羅來學者。曰法融理應純英。故此教播於海外諸國與中原並盛矣。唐室喪亂典籍蕩滅。雖此教為不可亡者。亦難乎其存也。然杲日將出而曉霞先升。真人應運而文明自見。我有宋之初此教復杭海入吳越。今世所傳三

大部之類是也。然尚有留而不至。與夫至而非真者。仁王經疏先至有二本。眾咸斥其偽。昔法師既納日本信禪師所寄辟支佛髮。答其所問二十義。乃求其所謂仁王經疏。信即授諸海舶。無何中流大風驚濤。舶人念無以息龍神之意。遽投斯疏以尉安之。法智乃求強記者二僧。詣信使誦文以歸。既而二僧喪乎日本。至元豐初。海賈乃持今疏二卷來。四明有沙門如詢。因緣得之(云云)智者慈霑盡法性為止觀。而源流釋迦之道。今方盛於越中。異日會當周於天下。豈獨是書之不可掩哉。大抵吾宗所以永異他家不容同世並語者。其唯三千乎。其唯觀具乎。

明智法師碑論

晁 說之

世尊鶴林法付迦葉。二十四傳至於師子。或曰。二十八傳
至於頓示般若。磨。磨在梁時始來東土。於六度中特以禪名。雖云
尚般若。覽教照心不在茲乎。自迦葉十三傳曰龍樹。著大觀
智度論。譯傳震旦。則有北齊文禪師。一覽斯文即悟中觀
之旨。以傳南岳。岳傳之天台。天台悟法華三昧。始開拓
義門。定而三止。慧而三觀。曰具。曰即。曰一念三千。
其所歸宗曰法華。則華嚴阿含方等般若。攝六度融萬行。
開而顯之無非法華佛慧之道。暨傳之章安縉雲東陽左溪。
至於荆溪。於是智者之教悉載於書。而一歸於正矣。荆溪
傳滿。滿傳脩(當云荆溪傳邃邃傳脩)脩傳外。外傳琇。琇
傳竦。竦傳寂。寂傳通。通傳禮。是為四明。於時此教特
盛。異同亦多。龍象重望未易柔服。一言之辨勤乎十返。
如不觀真心唯觀陰妄。至今稱之為是。後世何為而欲異其
說乎。仰惟智者之為智也。大矣哉。三觀單複之旨。實著

乎圓覺。十境互發之論。方見乎楞嚴。智者先言之於隋。此經後譯之於唐。雖欲不信其可得乎(瑩公清話。楞嚴本在西域。智者聞之。忍死以候。既而入滅期逼。遺記之曰。此經入漢吾不得見之矣。當有宰官身菩薩。以文章翻譯佛語。又數百年。當有肉身比丘以吾教判此經歸中道)所謂靈山親聞者。此亦其躅歟。故其教東及日本。西返天竺。未之與抗也。或曰教外別傳不知教無等等。何外之有。傳授圓成何別之有。或曰不立文字。不知文字非真非妄。乃以何者為文字。嘗求乎其人矣。前乎智者導其教者。曰梁傳大士。北齊稠禪師。後來推尊而贊之者。曰南山律師。韶壽諸師(韶國師壽禪師)密弘而取證者。永嘉真覺。雖異途而不敢不贊者。賢首藏師。或叛去而竊用其義者清涼觀師。公為異同。而自立己意者慈恩基師。唯圭峯密私用其言。而專以四禪八定次第之學。何異兒戲以侮耆德。善乎梁敬之之言曰。佛法以天台為司南。柳子厚曰。佛道愈遠

異端競起。惟天台得其傳。又曰。傳道益微言禪最病。今之空空。愚夫縱傲自我者。皆誣禪以亂其教。冒乎囂昏放乎淫荒。吾將合馬鳴龍樹之道焉。唯是明智。其生既晚異端益肆。積德於躬。無辨於彼。將自屈服。我言則光。顧予何者。輒與斯事。竊少聞大道於圓照禪師。且有言曰。他日勉讀經教後三十年果遇明智。獲聞一家性具之旨。視彼暗證禪師文字法師乘壞驢車。無力以正之。則不敢不自勉。

南湖法智大師像贊

真隱居士史浩

靈山一席儼在天台。後十三葉復生奇才。唱道四明講肆宏開。溥海聲聞沕沕雲雷。章聖在御中使鼎來。得法大旨皇

皇恢恢。錫號法智宸章昭回。抵今後學咸仰崔嵬。蘭馨菊芳本一根荄。嗚呼是為法宇之柱石。教鼎之鹽梅。宜茲幻影。歷千古而無塵埃。

永嘉西湖法明寺疏

水心先生葉適

茲寺是昔忠法師之所居。師行業至高願力強果矢言以致道。故雖焚蕩草莽。百年間冠蓋。常走一郡。至子真師建兩序。師昶師崇殿堂。於是院落始成。昶師尤精苦。衣屨穿損。食不累合。諸生雲赴應答泉涌。東掖天竺之盛。誠足相將。初天台立止觀二義。承而為說者益以蔓衍。而忠昶二師尤多論述。今其徒妙真普濟。欲集諸家學為教藏。院中率道俗修念佛三昧。以旌昶之績而嗣忠之業於無窮。

志甚遠也。夫浮圖以身為旅泊。而嚴其宮室不已。以言為贅疣。而傳於文字愈多。固余所不解。嘗以問昶。昶亦不知所以然也。

重刊刪定止觀序

鎧庵吳克己

奇哉。救世明道之書。不圖復行於今也。使王公大人知有此書。必不至信讒以廢毀。使縉紳先生知有此書。必不至立論以觝排。使啟禪關者能讀此書。其肯以教外別傳自欺乎。使尋經論者能讀此書。其肯以分別名相自困乎。矧欲使薄海內外家藏此書展轉開導了達此義。又孰肯貪於粗弊五欲。而不早求解脫者乎。是皆內教弟子。護持教法之大略也。子貢好辨。孔道以明。孟子巖巖。功堪繼禹。斯言

概之。誰曰不信。

與喻貢元書

鎧庵吳克己

佛道來東華幾二千載矣。吾儒攘斥甚力者。無若韓氏歐陽氏。然皆未究其言與其道。唯知堅執周孔立教者以詆之。故雖攻之而愈堅。終無以大服天下之心。獨關洛諸賢與胡氏父子。頗嘗出入釋氏而不信之。然考其所與辨明。而謂之誑淫邪遁者亦不過指禪宗單傳之學而已。夫釋氏之有禪宗。猶吾儒之有老莊也。苟以拈椎豎拂誇誕之談。而疑釋氏一代正教。是猶以王何所學之浮虛而疑六經語孟修身齊家治國平天下之道也。奚可哉。去佛愈遠異端並起。唯天台大師為得其正傳。此唐之梁敬之柳子厚。我朝晁以道陳

瑩中諸公所服膺而深造者也。僕雖不敏實研究有年。觀其發揮一性範圍法界俾六凡四聖各迪厥德而咸底於極。誠未易遽為足下言。惟足下他日考其書而訂其道。方知僕昨者鄙詩所謂大道不可私與夫孔釋俱援世之句。果非自欺而又以欺天下也。然則孔釋之道果同乎。果異乎。異則不可得而一。同則不應異其施。曰有世法有出世法。以世法而疑出世法固不可。以出世法而外世法亦不可。故天台所傳。亦有真俗相即之諦。其察乎道並行而不相悖者。亦審矣。世有足跡未抵乎泰山之麓而輒談其廣狹高下。欲欺乎未見泰山者。且不可。況乃見者乎。今足下未讀佛之書而遽議佛之道。何怪乎言之諄諄。而僕邈然不聽也。◎◎

始終心要

荊溪大師 湛然

始終心要(永嘉沙門從義注)。

(在因名始。至果為終。因果雖殊諦德無別。圓頓上乘旨歸於此。所以荊溪立於心要)。

夫三諦者。天然之性德也(上句標指。下句發歎。天然者如天之然。亦名自然。問。此與外道所計何別。答。外道所執已為三藏所破。那忽謂同圓頓諦理。復次應知。若從破計須蕩自然。破計雖爾理必自然。是則自行。乃遣執情。隨緣無妨。作斯說也。至於下文含生本具祕藏不顯由三惑覆。亦應準今料簡顯示。舉一例諸。無勞委述)中諦者。統一切法。真諦者。泯一切法。俗諦者。立一切法(別示解釋三諦相也。中者不偏二邊也。諦者審而無虛也。統者總也。一切法者二邊之法也。真者無偽妄也。泯亡泯也。一

切法者三千之法也。俗者世俗也。立者建立也。一切法者百界之法也。當知此約三諦別明。若從通說。應云一中一切中。無真無俗而不中。則三諦皆統理而絕待也。一真一切真。無中無俗而不真。則三諦俱亡泯而無相也。一俗一切俗。無中無真而不俗。則三諦並建立而宛然也)舉一即三。非前後也。含生本具非造作之所得也(上兩句示三諦融即。顯非縱橫之殊異也。下二句明三諦本具。彰無作之妙法也。舉一即三者。舉其中諦非真非俗。當體泯法。復名真諦。常自建立。又為俗諦。中諦之一即三既然。真俗之二即三亦爾。準諸祖誥亦應更云。即三而一有可相離。即一而三不可相混。非三非一。三一宛然。會之彌分。派之常合。橫之復高。豎之又廣。明鏡等譬。真好研詳。勿見三一相即之故。便乃不許俗諦世法真諦亡泯中諦統絕俗言洋洋。豈可誣哉)悲夫。祕藏不顯。蓋三惑之所覆也(三諦微妙眾生不了。稱之為祕。法界包用不可盡。目之為藏。

性雖微妙濁成本有。譬如鏡天。喻若塵雲。今此總明。次文別爾)故無明翳乎法性。塵沙障乎化導。見思阻乎空寂(無明者。不了法界無所明也。塵沙者。譬無知之數多也。見思者。從解等立名也。應知三惑皆是性具。同體為障。難可了知。文云翳障阻者異其文耳)然茲三惑乃體上之虛妄也(結指惑障都非真實。空華之譬其在茲乎)於是大覺慈尊。喟然歎曰(大覺即妙覺喟然歎聲也)真如界內絕生佛之假名。平等慧中無自他之形相(通指三諦以為真如及平等慧。絕名離相)但以眾生妄想不自證得。莫之能返也。由是立乎三觀破乎三惑。證乎三智成乎三德(眾生在迷未能復性。是故須明惑觀等說。全性起脩性無所移。全脩在性脩常宛爾。一家所立三諦文在瓔珞仁王兩經。三觀文出瓔珞經下卷三惑準大品大論而開。三智具如大品三智品中。三德備在大涅槃經)空觀者。破見思惑證一切智成般若德假觀者。破塵沙惑證道種智成解脫德。中觀者。破無明惑證一

切種智成法身德(一念無相謂之空。無法不備謂之假。不一不異謂之中。知一切法空寂一相名一切智。知十法界諸種差異為道種智。知於二邊無非中道名一切種智。照明為般若。解縛名解脫。清淨名法身。皆具常樂我淨。謂之德)然茲三惑三觀三智三德。非各別也。非異時也。天然之理具諸法故(上文別示。恐謂縱橫。故茲融即顯非別異。是故當知。三惑一念中破。三觀一心中脩。三智一念而證。三德一心而成。惑觀一如智德無別。苟非性具寧免異殊。山門教觀永異諸家。超過眾說良在茲焉)然此三諦性之自爾(重歎三諦非作所成)迷茲三諦轉成三惑。惑破藉乎三觀。觀成證乎三智。智成成乎三德(自迷之悟展轉相由。文中五三祇是一三無前無後因果理同)從因至果非漸修也(性德之行異乎歷別)說之次第理非次第(言不頓顯故有前後。若論其理實在剎那。其理者何。三千三諦)大綱如此。綱目可尋矣(諦德宏深。故曰大綱。諸法廣多。號為綱目。華嚴名法

界。方等為實相。般若稱佛母。法華號髻珠。涅槃名佛師。三諦是一法。佛說種種名。龍猛悟之而造論。智者得之以開拓。荊溪傳之為心要。是則十方大覺諸祖所傳。莫不歸乎諦德祕藏。像末惰澆信心寡薄。如斯法門不能宗重。而更別求心要之術。良由近代習大乘者雜濫故也)。

四十二章經疏序

孤山法師 智圓

古者能仁氏之王天下也。象無象之象。言無言之言。以復群生之性。由是佛教生焉。教之高下視根之利鈍。是故有頓焉有漸焉。然後混而為一。是謂開顯。而蚩蚩群彙。率其化復其性。蹈乎大方安乎祕藏者。可勝言哉。逮乎後漢其道東傳。時君仰其神。元元陶其訓。乃與仲尼伯陽之說

尚略之談天。明言止業。仲尼。又已域以乎。深。則去。而朴。於中。非自。仲尼。趣耳。又已域以乎。深。則去。仁。然。域。我。伯陽。指其。外。孝。緒。或。淺。深。尊。三。王。二。然。域。我。伯陽。指其。外。孝。緒。或。淺。深。道。也。三。世。可。教。乎。焉。見。伯陽。指其。外。孝。緒。或。淺。深。之。也。三。世。可。教。乎。焉。見。伯陽。指其。外。孝。緒。或。淺。深。王。訓。也。三。世。可。教。乎。焉。見。伯陽。指其。外。孝。緒。或。淺。深。三。為。結。繩。於。三。世。可。教。乎。焉。見。伯陽。指其。外。孝。緒。或。淺。深。虞。之。於。未。臻。哉。考。善。有。理。可。教。乎。焉。見。伯陽。指其。外。孝。緒。或。淺。深。唐。陽。企。則。未。乎。界。已。而。研。其。治。內。教。能。混。復。罪。揚。伯。而。應。美。虛。而。恢。恢。明。歟。略。乎。謂。三。者。何。善。而。也。皇。報。矣。指。根。而。恢。恢。明。歟。略。乎。謂。三。者。何。善。而。訓。也。其。言。之。無。也。地。根。而。恢。恢。明。歟。略。乎。謂。三。者。何。善。而。為。於。帝。復。其。言。之。無。也。地。根。而。恢。恢。明。歟。略。乎。謂。三。者。何。善。而。之。企。智。心。而。訓。為。天。常。至。乎。治。身。而。誣。異。不。尼。而。智。唯。一。日。為。牝。帝。無。備。存。乎。治。身。而。誣。異。不。仲。王。棄。於。可。尊。儀。其。大。悉。則。詳。而。不。誣。異。不。夫。其。聖。極。不。釋。兩。言。其。大。悉。則。詳。而。不。誣。異。不。原。復。絕。未。家。不。釋。兩。言。其。大。悉。則。詳。而。不。誣。異。不。焉。俾。而。則。未。家。不。釋。兩。言。其。大。悉。則。詳。而。不。誣。異。不。三。義。道。性。命。下。矣。其。焉。雖。大。明。外。內。失。言。

殺。則不得不同也(此略文耳。淨覺還源記有釋)。

與駱御史書(名偃)

孤山法師

浮圖之法非古也。其來於東漢乎。其為體也清淨。其為用也仁恕。由是七六家十九流焉。為利於上下救弊於孔老。其亦至矣。請揚摧而陳之。夫秦火六經漢興雜霸。民澆俗漓。爭奪方熾。禮讓寢微。則仲尼之仁義。伯陽之道德。或幾乎息矣。賴我浮圖之為訓也。既以三世報應制其事。復明一心空寂窮其理。民有聞報應之說者。雖貪殘鄙吝之夫。亦庶乎振乏周急矣。民有聞空寂之說者。雖矜功用壯之夫。亦庶乎守雌保弱矣。能周振則博濟之道行。善保守則朴素之風還。博濟行則禮讓著。朴素還則刑罰措(利於民

則仲尼伯陽之道。不遠而復矣。故曰為利於上下救弊於孔老焉。洎乎時君好之失其旨方袍事之違其道)以斯而失其旨則節制不行。違其道則寂默不守。乃以彫峻輪奐而奢夸。乃以輕肥溫飽而煒燁。徒以多為貴。則壞其道者眾矣。言以怪為美。則惑其聽庶矣。遞相沿襲寢以成俗。使夫清淨仁恕之風無乃蕩盡於是。蠶食蠹耗之謗自茲而生。斯乃好之者事之者之不善耳。非教之罪也而往世君民不察其所由。視其徒之不肖。而遷怒於善人教法者有焉。往往造毀佛之律。行挾釋之誅。亦何異乎以丹朱而罪堯。因商均而咎舜。服藥過度而歸過於神農。縱火致焚而反怨於燧人也耶。

南岳止觀後序

慈雲大師 遵式

謂明德強何之亂不靜聖而誰
覺則語改者復本而自明是也
本分無法始起故性動靜其為
體所一。體而德萬緣物也。止
性。無常。體本。良隨他動而止
一。體。非一耳。本。隨。是。動。而
乎。之。則。不。法。乎。之。本。豈。心。動。即。靜。念。明。修。
本。謂。體。而。萬。然。住。空。性。了。因。一。乎。成。
也。不。二。語。一。為。其。無。目。之。可。故。究。存。照。
德。靜。在。強。名。何。始。捏。名。之。可。故。其。但。是
靜。明。靜。不。分。強。無。始。捏。名。之。可。故。其。但。是
明。靜。不。分。強。無。始。捏。名。之。可。故。其。但。是
靜。之。則。分。德。之。謂。萬。隨。而。明。昏。法。如
明。謂。不。備。祇。體。靜。惑。作。明。即。也。其。萬。是
乎。寂。不。二。性。明。自。既。心。即。可。觀。息。作。
本。本。無。二。性。體。而。動。為。始。可。觀。息。作。
也。體。常。之。舉。生。昏。之。無。動。觀。既。無
用。寄。二。法。謂。照。動。隨。緣。若。其。以。昏。為
觀。明。安。不。為。也。強。之。隨。緣。若。其。以。昏。為
止。靜。乃。名。謂。明。謂。變。也。人。因。明。頓。

論止觀。體顯而性泯。亦無明靜。豁然誰寄。無所名焉。
為示物指歸。止成謂之解脫。觀成謂之般若。體顯謂之法
身。是三即一。是一即三。如伊三點。如天三日。非縱橫
也。非一異也。是謂不思議二德。是為大般涅槃也。嗚呼
此法。自鶴林韜光授大迦葉。迦葉授之阿難。阿難而下燈
燈相屬。至第十一馬鳴。鳴授龍樹。樹以此法寄言於中觀
論。論度東夏獨淮河慧文禪師解之授南嶽大師。南嶽從而
照心。即復於性獲六根清淨。位隣乎聖。斯止觀之用驗
矣。我大師惜之無聞後代。從大悲心出此數萬言。目為大
乘止觀。亦名一乘。亦名曲示心要。分為二卷。初卷開止
觀之解。次卷示止觀之行。解行備矣。猶目足焉。俾我安
安不遷而運到清涼之池。噫斯文也。歲月遼遠。因韜晦於
海外。道將復行也。果於咸平三祀。日本國圓通大師寂
照。錫皆扶桑。杯泛諸夏。既登鄮嶺。解篋出卷。天竺沙
門遵式首而得之。度支外郎朱公頓冠首序。出奉錢(奉音

鳳。祿也。作俸旨葑皆誤)模板。而廣行之。大矣哉。斯文也。始自西傳。猶月之生。今復東返。猶日之升。素景圓暉。終環回於我土也。因序大略以紀顯晦耳。

書紳(論語子張書諸紳)

慈雲法師

知白汝知(師字知白)日之所為。害善之法偏宜遠之(諸惡莫作)。損惡之道益其用之(眾善奉行)。口無自伐。心無自欺。勿抱內蠹(包藏無良如木有蠹)。勿揚外儀(詐現威儀徒增我慢)。欲人之譽畜己之私。殺義之始陷禍之基(求虛譽著滅於義。藏己私著蹈於禍)。自持其德必有餘譏。自務其達必有餘非(務德未充而自惟。故人多譏之。了達未至而自務。故人多非之)。眷屬集樹汝宜去之。利養毛繩汝宜畏之。

(近於眷屬則多惱。當用一術全身遠害。利於供養則多貪。如毛繩縛身入水愈急)。自行之際擇而思之。懲惡之餘何則是宜(欲從自行當須擇思。恐墮二乘也。既知徵惡。何法願求大乘也。立此質問。委在下文可見)。清香一炷紅蓮數枝。口勿輟誦意勿他思(常讀淨土經唯存淨土境)。安禪禮像其則勿虧(專修觀佛三昧。專禮阿彌陀佛)。量衣節食其志勿移造世文筆如佛誡之。說人長短如法謹之。從對賓侶口勿多辭。頻驚光景坐勿銷時(寸陰是競)。芭蕉虛質非汝久期(身實危脆)。蓮華淨土是汝真歸(由前禪誦禮念功。即得往生安樂剎)。俾夜作晝勤而行之(心心無間。念念往生。所謂無以睡眠一生空過)。

觀心十法界圖

觀心十法界圖

若人欲了知

三世一切佛

應觀法界性

一切惟心造



修觀之道。曰從行。曰附法。曰託事。唯三而已。今觀心圖者。從行之正軌也。準夫止觀。二十五法為方便。十乘十境為正修者。固非於此能備。若其日用之際。以十界德過升沈鑑我心曲。雖絲髮不能自逃。其遷善改過之要乎。慈雲法師示我以觀心之圖。研味法喜心乎不忘。置諸座隅足以自警。而未見兼人之益。乃復命工形諸篆刻。用廣流行。庶幾乎仰承於師志也。

皇宋天聖元年九月既望太原王欽若序

其廣不可涯。高不可蓋。長不可尋。將盈而虛。將晦而明。雖邊而中。微妙深絕叵得而思議者。惟心也。天台師聞之於靈山。證之於三昧。知其寂默非數所求。而強以數

數於非數。依法華作十界百界三千權實。以明諸性。非合
也。非散也。自然而然曰諸法實相。使人易領也。然後示
之。一念空三千皆空。一念假三千皆假。一念中三千皆
中。成圓三觀觀圓三諦。以明諸修。大智也。大行也。不
運而速曰白牛大車。使人頓入也。故得自因至果不移一念
坐道場成正覺降魔說法度眾生入涅槃。而能事畢矣。用龍
樹偈因緣即空即假即中。會而同之。十法界者何也。十統
諸法也。三諦為界也。何者謂佛以中為法界者也。菩薩以
俗為法界者也。緣覺聲聞同以空為法界者也。地獄鬼畜修
羅人天。同以因緣生法為法界者也。空假中者。雖三而一
也。十界者。亦一而十也。故使互含一復具九。如帝珠交
映成百法界也。一因緣一切因緣。一空一切空。一假一切
假。一中一切中。良由於此。三千者復何謂也。成界之法
者也。有其十。謂如是相。如是性。如是體。如是力。如
是作。如是因。如是緣。如是果。如是報。如是本末究竟

[illegible]

或難。識想紛馳。檢之非易。故今引心於外。繪彼升沈之像。存志於中。觀我是非之變。然後策心內照。正道由明。題為圓頓觀心十法界圖。於一心字派出十界。復引墨迭貫。方之聯珠。表一法界展轉具九成百法界。仍以日起行相書之左右。覽者欲深於性。請詳諸序。欲熟於修。當觀諸圖狀。

佛界。若人因讀圓滿修多羅及聞善知識所說起淨信心。信已一念三道之性即三德性。苦道即法身。煩惱即般若。結業即解脫。法身究竟。般若清淨。解脫自在。一究竟一切究竟。般若解脫亦究竟。一清淨一切清淨。法身解脫亦清淨。一自在一切自在。法身般若亦自在。即一而三。即三而一。非縱非橫亦非一異。法身常住餘亦常住。樂我淨亦如是。是則常樂四德祕密之藏遍一切處。一切諸法悉是佛法。既信是已。以境繫心。以心繫境。心境念念相續不

斷。必見法性。設未相應。當依一實無作四諦。起四大誓
無可求中。吾故求之。依前苦道即苦諦。發一誓願未度者
令度。煩惱及業即集諦。發一誓願未解者令解。苦道即法
身即是滅諦。發一誓願未涅槃者令得涅槃。煩惱即菩提即
是道諦發一誓願未安者令安。四弘不入當巧安心。如是次
第具修十法。必入五品六根及分證位名佛法界。

菩薩界。若觀根塵一念為迷解本。迷故則有十界苦集。悟
故則有四聖道滅。緣此無量四諦起無量誓願。未度者令
度。未解者令解。未安者令安。未涅槃者令得涅槃。善巧
度生慈眼視物。所集福業與眾生共。如是起一念者。名菩
薩法界○緣覺界。若根塵念起。則了之從無明生。生故有
行。行招名色乃至老死。三世相續如舞火輪。因緣本空幻
化不實。求自然慧樂獨善寂。觀空心重耽住寂定。雖得道
果不慕化人。復有觀物榮落悟世非常聞空得道。名為獨

覺。如是行者名緣覺法界。○聲聞界。若根塵因緣隨有一
念。依色心故苦。由煩惱故集。厭苦斷集。非對治如何。遂
依四諦修十六觀。三十二涅槃。會偏真理。不待佛法。不慕化
人。如摩訶跳不顧後群。如此一念名聲聞法界。○天界。沙
若其念起多忻天樂。篤其善心希於來報。齋戒純淨飯食止
門。造立塔寺及佛形像。書寫大乘六根。使六情不蕩六塵不入。
作具修。自然成性。或關禁身心寂靜三業調良。如此一念名天
得欲界○人界。若其念念以五常立德。五戒修身。於國惟
法。於家惟孝。謙損居貧。慚愧是懷。慈和為性。深信因
忠。尊上恤下。精修齋戒。建立塔寺。但希世樂無升出心。貪
己。崇重三寶。眷屬如此。而多猜嫌狐疑進退。所修福業多為
果。惜自身戀著布施。而多猜嫌狐疑進退。所修福業多為
念。雖好修善布施。而多猜嫌狐疑進退。所修福業多為

勝他。見人修善情多嫉忌。貢高我慢珍己輕人。欲彼歸從
不耐謙損。如[玄*鳥]高飛下視。外揚仁義內無實德。眾前
談論引長於我。不循理正不愧賢能。如此行心是阿修羅法
界○餓鬼界。若其念念無慚無愧。貪求無足慳悋鄙惜。不得
施一毛。剋削於人哀歸於我。見人布施傍起遮障。見人得
利心生熱惱。性多諂曲常起邪見。人前正容屏處放恣。破
齋犯戒恣貪飲食。不信罪福不信因果。不信三寶不孝所
親。是名餓鬼法界○畜生界。若其念念耽湎五欲貪多眷
屬。日增月甚而無厭足。曲理枉物斷不以公。非法取財動
不由義。祇圖利己不惻孤貧。明負他財魯扈抵突。市易負
不直公行劫奪。不忠不孝。無賢無愚。不信因果不信三寶。
癡騃無恥現同畜生。是名畜生法界○地獄界。若人親近邪
惡友。及性自作惡。起增上心。念念相續。造上品十惡。
謂殺盜婬。妄言綺語兩舌惡罵。貪嗔邪見。及五逆罪。犯
四重禁污梵行人。沽酒醉亂。不思君父師長恩德。橫生熱

惱挫抑賢能。黨比不肖破塔壞寺。燒毀經像謗毀大乘。斷學般若謗無諸佛。破戒受施。用三寶物。偷僧祇物。起於外道斷常諸見。破正因果三世之法。習十二種惡律儀法(一屠兒。二魁[利-禾+曾]。三養猪。四養雞。五捕魚。六獵者。七網鳥。八捕蟒。九呪龍。十獄卒。十一盜賊。十二為王家捕賊。及養蠶等業)如上等輩死墮阿鼻大熱大寒諸大地獄。是名地獄界。

宗門尊祖議

沙門志磐

如來聖人。以開權顯實開迹顯本之道化天下後世者。謂之佛。佛弟子以次傳道為世宗主者。謂之祖。其實一道爾。故如來之將息化也。以無上大法付之飲光。飲光任持二十

年。以付慶喜。慶喜持法宣化亦二十年。以付商那。下而
至於十三世曰龍樹。始以文字般若著所證三觀之道。曰中
觀論。暨譯傳東夏。於是北齊以宿悟已證立為觀法。以授
南岳。南岳承其旨。悟法華淨六根。以授天台。天台始立
五時張八教。用明法華開顯之妙。而大暢乎境觀之旨。時
則有章安。執筆載為疏論。其道遂大明。法華天宮繼世講
演。嗣其法者唯左溪。左溪門學。獨荆溪能承正統。述諸
記以贊祖謨。則清涼異議為之寢息。以文字廣第一義諦。
則莫若茲時之盛。以故世之學者取龍樹至例為九祖以奉清
祀。其有由矣。自荆溪以來。用此道以傳授者。則有興道
(邃師)至行(修師)講道不絕。會昌多難教卷散亡。正定妙說
高論(外琇竦二法師)三世。唯傳止觀之論。迨乎螺溪。法
運將泰(寂師)天假吳越(錢忠懿王)求遺書於海東。於是教籍
復還。寶雲嗣興。敷揚二紀。而四明法智。以佛所生子垂
迹海隅。一家教部毘陵師未記者。悉記之。四種三昧人所

難行者。悉行之。斯慈雲之極言也。當是時有為異說者。如昭圓諸師。世方指為山外。而法智獨擅中興教觀之名。自興道訖四明凡八世。所以紹隆正統而顯揚大教者。有在於是。是宜等而上之用陪位於九祖。以尊大其道為可爾。然則今之宗門列剎。凡所以講天台四明之道者。有能起龍樹至法智。通祀為十七祖。以並為之位。誠有見於後學尊祖重道之心也。謹議。

佛祖統紀卷第五十(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第五十一

宋咸淳四明福泉沙門志磐撰

歷代會要志第十九之一

自有佛法以來。所以知三教之並興。諸宗之互立與夫世變之不常。固已繫之編年。至欲考一事之本末。則歲月散漫莫之可尋。今故開張眾目會其事要。俾討論典故者識某事於某朝某年之下。茲但舉略以指廣云耳。

君上奉法 屢朝拜佛 天書御製

聖君護法 試經度僧 特恩度僧

進納度僧 士夫出家 沙門封爵

僧職師號 不拜君父 不稱臣僧

崇禮高行 沙門著書

君上奉法

漢明帝。問摩騰法師曰。佛出世何不及此。答曰。佛雖不往。然光明及處。千年五百。皆有聖人傳佛聲教。而往化之。

吳主皓問佛法於闕澤。答曰。孔老法天。諸天奉佛。

晉元帝。召潛法師講經。著屐登殿○明帝幸興皇寺。集義學沙門講道○成帝召義法師入禁中授五戒○召潛法師講般若經○召支遁法師入禁中講經○簡文幸瓦官。聽汰法師講放光般若經。

宋高祖設齋內殿。沙門道照陳詞。帝稱善○文帝率公卿。日集祇洹寺。聽求那跋摩講華嚴十地品○帝與侍中何尚之論佛理○帝聞生法師佛性義。詔求沙門述生法師頓悟義○孝武召猷法師內殿說法○四月八日內殿灌佛齋僧。

齊高帝。幸莊嚴寺。聽達法師講維摩經○武帝華林園受八關齋戒○帝不豫。詔諸沙門祈佛七日。天香滿殿。

梁武帝。重雲殿講經。沙門法彪為都講○召旻法師入殿。

講勝鬘經。公卿畢集○帝集諸沙門製文。永斷酒肉○帝服
田衣禮婁約法師內殿講救苦齋。天雨寶華○帝幸同泰寺捨身○京
○召雲光法師為百姓大齋五萬○帝幸同泰寺講涅槃經○帝幸同泰
城大疫。為道俗般若四月八日。遮大光明般若懺法華主○聽講仁王
經題發金字帝宅。設莊嚴寺講大方等經○後殿。講菩薩
齋○簡文宅。幸大雲門行般若赴太幸寺授
於杜姥宮○幸重雲門行般若寺。為皇
還法師於集沙門禪宅。為
法身法○詔居正殿。師
為七廟講大品禪師
經。○詔禪師赴崇

北魏孝文。詔德法師一月三入殿說法。帝數幸王園寺。與沙門談論佛法○幸白塔寺聽登法師講成實論○詔四月八日迎洛京諸寺佛像。入閭闔宮受散花禮敬○宣武御式乾殿講維摩經。西域沙門至者三千人。

北齊文宣。幸遼陽甘露寺。禪居深觀。勅非軍國大事不得聞○武成詔藏法師。赴太極殿講華嚴經。

隋文帝。詔興法師。太興殿授菩薩戒○晉王迎顓禪師至揚州。設千僧齋受菩薩戒。

唐太宗詔常法師入內殿。為皇后太子授菩薩戒○奘法師譯瑜伽師地論。勅寫新譯經論頒賜九道總管○武后詔藏法師講新譯華嚴經。師指殿隅金師子為譬。集其言為金師子章

○中宗詔於化度寺設無遮大會○召藏法師入殿授菩薩戒○
召北宗秀禪師居內道場。禮為國師○玄宗召淨禪師至闕問
道○肅宗召不空三藏灌頂授戒○詔南陽忠禪師問道○召隣
法師入禁中講經○代宗詔建孟蘭盆會。設七廟神座迎行衢
道○詔徑山欽禪師入見。賜號國一禪師○德宗幸安國寺設
孟蘭盆供○順宗詔尸利禪師咨問禪理○憲宗問觀法師華嚴
法界。豁然有得。封大統清涼國師○召鵝湖義禪師問佛性
○召章敬憚禪師咨問禪法○召寬禪師咨問禪要○穆宗遣兩
街迎請汾陽業禪師。中夜說法端坐而逝○敬宗幸興福寺觀
敘法師講經。

文宗。詔圭峯密禪師問佛法○宣宗遣使以師禮召鹽官安禪
師。力辭。勅所居為齊豐寺○召辯禪師入見問道○懿宗於
禁中延名僧設講座自唱經題手錄梵文○設萬僧齋自升座為
讚唄。長眉僧來應供。陵空而去。

五代唐莊宗。召三聖然禪師問法。

大宋太祖。詔沈義倫。以金銀字寫金剛經。召蘊法師講演
○詔超法師等入內誦金字大藏經○上手金剛經常自讀誦。
謂趙普曰。不欲甲冑之士知之。但言讀兵書○太宗召赤脚
道者入見。問南方禪律如何化物云云○幸開寶塔問。僧何
人。曰塔主。上曰。朕塔因何卿作主○上問。僧何來。答
曰。廬山臥雲菴。上曰。臥雲深處不朝天○詔兩街僧錄省
才進孟蘭盆儀○真宗召浮石矩法師講四十二章經○仁宗頂
玉冠觀音像。以朝百官○勅韶州迎六祖衣鉢。入京供養○
詔左街璉禪師入對化成殿○召舜禪師入對便殿。賜紫衣銀
鉢○乾元節勅福聖塔院。建大齋。施袈裟○神宗勅大內設
千僧齋。施金剛經袈裟○詔淨慈本禪師。住京師慧林。入
對延和殿○徽宗嘉州奏。古樹有定僧。詔輿至禁中。曰我

遠法師弟慧持也。上令圖形製讚○欽宗高宗即位遣八輦。賜
召金山勤禪師。詣行在說法○高宗幸上竺徑山問道於杲禪師
萬歲香山為大士供○孝宗遣內都監。至法師歲旦光明懺之
○靈山琳法師入見問道○幸上竺樓鑰作記○勅禁中建內觀堂。
旨。賜錢建十六觀堂。內翰樓鑰訥法師。領五十僧。入內觀
一遵上竺制度○佛生日召上竺五十匹。歲以為常○召靈隱遠
堂行護國金光明三昧。賜帛靈隱徑山及三教之士。集內觀堂
禪師入對選德殿○召天竺靈隱德殿。問大士靈迹法華經旨○
賜齋○召上竺訥法師入對禁中○幸上竺禮大士。賜白雲堂印。
召雁山中仁禪師入對白雲堂。公舉用印○召靈隱光禪師入對。禪
令三學諸宗並詣靈隱光禪師入對。即日住徑山○上稱壽皇。召訥法師入
賜號佛照○召對大說。即日住徑山○上稱壽皇。召訥法師入
師入見。奏對大說。即日住徑山○上稱壽皇。召訥法師入
內殿注金剛經。

屢朝拜佛

漢武帝幸甘泉宮。禮祭天金人(漢人未知佛故謂之金人)。

明帝。拜洛陽聖冢佛舍利塔○吳王孫皓拜沙門康僧會受戒
○梁武帝北面禮遺約法師受戒○陳武帝率群臣拜佛牙○後
主三命智者。請講仁王經○北魏太祖所經郡國。見沙門皆
致敬○孝文迎洛京諸像。入宮禮敬○北齊文宣命三藏譯
經。帝躬禮梵文○隋文帝詔延法師升御座。拜跪受戒○唐
高宗迎鳳翔佛骨。入內禮敬○肅宗禁中立道場。禮敬講讚
○代宗鑄金像成。率百僚致拜○德宗迎鳳翔佛骨入禁中禮
敬○憲宗迎佛骨入禁中禮敬○懿宗迎拜佛骨。

大宋真宗上元幸寺觀。百拜已上○徽宗迎佛牙入內敬禮製
讚○孝宗幸上竺大士殿。問訥法師合拜不合拜。師曰。不

拜則各自稱尊。拜則遞相恭敬。上忻然致拜。

天書御製

梁武帝製水陸儀文。於金山修供○亮法師撰涅槃疏。帝親製序○帝親製涅槃大品淨名三慧諸經義記○唐太宗奘法師新譯經論。御製聖教序○高宗御製慈恩寺碑○武后御製華嚴經序○中宗淨三藏譯經。御製聖教序○睿宗菩提流志譯寶積經。御製聖教序○玄宗御注金剛般若經○代宗不空三藏重譯仁王經御製序○憲宗般若三藏譯本生心地經御製序○穆宗御製南山律師讚(至今齋用此讚)。

宋太宗。天息災三藏譯經。御製聖教序○詔以御製祕藏詮緣識論消搖詠命兩街箋注。入藏頒行○真宗法賢三藏譯經。御製聖教序○御製崇釋論○登封泰山。御製重修佛像

記○詔趙安仁編修太平祥符法寶錄御製序○詔以太宗御製妙覺集入大藏○御注四十二章經。御注遺教經○右街祕演請以御製法音集箋注入藏○仁宗御製三寶讚。賜宰輔譯經院○御製天竺字源序。賜譯經院○御製景祐法寶錄序○高宗幸太學製文宣王及七十二弟子讚○孝宗御書靈感觀音之寺。賜上竺山○御書太白名山。賜天童朴禪師○佛照光禪師住阿育王山。賜御書妙勝之殿為舍利殿額○御製原道論○御製圓覺經。賜徑山印禪師。

聖君護法

隋文帝。勅有毀佛天尊像者大逆不道論○詔諸有佛像碎身遺影所在。官檢送寺莊嚴(時當周武毀法之後)。

唐德宗。京兆尹宇文炫。乞以廢寺為學舍材。勅不許○勅

寺觀嚴潔。不得容外客居住○宣宗裴休言。寺觀多為官僚寓客蹂踐。詔今後不得在寺居止。

宋太祖。詔寺院經周朝未毀者聽存。已毀寺佛像許移置存留○詔諸郡銅像依舊存○詔如聞道場。夜集士女無益修持。並加禁止○太宗謂近臣曰。儒人多薄佛。向為中竺佛金剛座令蘇易簡作碑。指佛為夷。遂別命為之○詔嶺南僧置妻孥。所在長吏深宜戒厲。○真宗侍讀孫奭請損修寺度僧。上曰。釋道二門有助世教。安可即廢○詔京城鬻酒肉者。去寺觀百步外。酤市於僧者。重論其罪○臣僚言。愚民佞佛蠹害國政。上曰。佛教使人遷善。安可禁止○詔諸寺觀殿階上。不許人民袒露坐臥○詔新譯頻那夜迦經。葷血為祀。不許入藏○祥符勅品官毀辱僧尼。口稱秃字者。勒停見任。庶民流千里○徽宗宣和勅吳國公主敬重空門。品官庶民有毀辱僧尼者。照祥符三年指揮○孝宗鄭國公主

出家。勅品官庶民有毀辱僧尼者。照祥符宣和勅旨。僧尼犯。官司不得理行。須奏聞取旨。

試經度僧

唐中宗景龍初。詔天下試經度僧。山陰靈隱僧童大義。誦法華試中第一○肅宗勅白衣誦經五百紙。賜明經出身為僧。時僧標試中第一○代宗勅童行策試經律論三科。給牒放度○敬宗勅僧背經百五十紙。尼百紙。許剃度○宣宗勅每歲度僧。依戒定慧三學。擇有道性通法門者。

梁末帝勅天下僧尼。入京城比試經業。

唐末帝誕節度僧。立講經禪定持念文章議論為四科。

周世宗。勅男子十五誦經百紙女子七十紙。郡考試聞祠部給牒。

宋太祖。詔沙門殿試經律論義十條。全中者賜紫衣○太宗雍熙詔天下係帳童行並與剃度。今後讀經及三百紙。方許係帳○至道詔兩浙福建路。每寺三百人。歲度一人。尼百人度一人。誦經百紙。讀經五百紙。為合格○真宗詔釋道歲度十人。特放一人不試經業○詔天下童行。試經業剃度○仁宗詔試天下童行誦法華經。中選者得度。參政宋綬夏竦監試。

孝宗。上竺訥僧錄。乞行試經度僧。

特恩度僧

漢明帝。五岳道士角法不勝。司空劉峻士庶張子尚後宮陰夫人道士呂惠通等。並求出家。

隋文帝。勅士庶出家。是歲度僧五十萬○煬帝詔七日行道。總度千僧。

唐太宗正觀元年。度天下僧尼三千人○九年詔度僧尼三千人。務取德業精明者○二十二年。奘法師謂。弘法須人度僧為要。乃詔每寺度五人。凡一萬七千人○玄宗不空三藏建灌頂壇。度人千萬數○勅每郡度真行童子三人○睿宗普度僧道三萬人○文宗勅僧尼非正度。許具名申省給牒。時入申七十萬人。

後唐明宗閏王。度僧二萬人。

宋太祖長春節。度童行八千人○太宗普度童子十七萬人○真宗登封泰山。詔天下寺觀各度一人。陪位僧道各度弟子一人○以吳國大長公主出家。詔童子十人度一人○詔僧道係帳童行普與剃度。是歲度僧尼二十四萬五千七百七十人。道士女冠七千一百七十人○仁宗判都省馬亮。請無得收度真刑文身者○神宗勅錢唐天竺觀音院。歲度一人以奉香火。

進納度僧

唐肅宗至德初。宰相裴冕請鬻度牒。謂之香水錢○聽白衣誦經賜出身。或納錢百緡請牒剃度。

宋神宗。司諫錢公輔言。遇歲饑河決乞鬻度牒○高宗勅賣四字師號○自治平末。始賣度牒。舊以黃紙偽為者多。至

是戶部朱異奏。令僧道用勅綾牒○詹叔義上表。乞住賣度牒○勅僧道始令納免丁錢。謂之清閑錢。

士夫出家

漢明帝。司空劉峻陰夫人等皆出家。

梁武帝。通事舍人劉思勰表求出家。賜名惠地。

敬帝。補闕宗殆棄官出家。號無名。有息心銘行於世○北魏孝文。京兆王太子興表求出家。賜名僧懿○太后馮氏。出俗為尼。居瑤光寺○宣武太后高氏。出俗為尼。居瑤光寺○度支尚書裴植母夏侯氏。年七十出家為尼。入嵩高山○孝莊太后胡氏。出俗為尼。居瑤光寺。

唐高祖。釋智岩初為中郎將。棄官為僧。異僧謂之曰。卿八十一出家矣○高宗。武后生皇子。賜名佛光王。踰月。詔於契法師寺。出家落髮○武后初為宮人。出業感寺為尼。高宗見之納後宮○代宗。宰相杜鴻漸臨終。命朝服加僧伽梨剃鬚髮。別眾而逝。依沙門法焚軀。○穆宗。幽州節度劉總剃髮為僧。封大覺師。賜臘五十○宣宗。初封光王武宗忌之遁去作沙彌。至鹽官為書記。武宗崩。百官迎王即位。

梁太祖。吳越王幼子令因為僧伽同三十臘○唐莊宗。騎將史銀鎗。悟禪道出家名契澄。

宋真宗。吳國長公主出家。法名清裕○宰相王旦薨。遺令請大德施戒。剃髮著三衣火葬。楊億與其子議。但以三衣置棺中○高宗。給事中知瀘州馮檣。別僚佐著僧衣。升座

說偈而化。

沙門封爵

梁武帝。勅沙門惠超為壽光殿學士。

北魏明元。封沙門法果為宜城子。加封安城公。諡靈公。

唐太宗。勅沙門智威為四大師。封朝散大夫○高宗時勅惠威為四大師。封朝散大夫(即法華天宮二威法師也)武后封法朗九人。為縣公。賜袈裟銀龜袋○中宗封萬回法雲公○勅慧範封正議大夫。上庸郡公。惠珍九人。並朝散大夫封縣公○勅惠範加銀青光祿大夫。萬歲朝散大夫。封縣公。廣清殿中監充功德使○睿宗萬回卒。贈司徒虢國公○法藏法師卒贈鴻臚卿○玄宗菩提流志卒。贈鴻臚卿○肅宗沙門

道平。為金吾大將軍。破安祿山反賊○代宗沙門不空封特進鴻臚卿。加開府儀同三司。進封肅國公。食邑三千戶。卒贈司空○德宗沙門圓照充內供奉鴻臚卿○僖宗沙門妙行誦經見佛大士。賜號常精進菩薩。爵開國公。

宋太宗譯經三藏天息災。試光祿卿。法天施護。並試鴻臚卿。月給酥酪錢○仁宗譯經銀青光祿大夫試光祿卿法護卒○欽宗東京留守宗澤承制命沙門法道。補宣教郎。參謀軍事。

僧職師號

晉安帝。秦主以僧[契-大+石]為國僧正。法欽為僧錄○宋文帝勅尼寶賢為京邑尼僧正○孝武勅道猷為新安寺法主○勅道溫為都邑僧正○順帝勅法持為天下僧正。

齊高帝詔法穎為京邑僧主○武帝勅玄暢法獻為僧主。分任江南北事。

梁武帝詔雲光法師為大僧正。

陳文帝。勅寶瓊為京邑大僧統○宣帝勅曇瑗為國僧正○後主勅惠暉為京邑大僧正○北魏文成勅師賢為沙門統○勅曇曜為昭玄沙門都統。

北齊文宣詔高僧法常為國師○勅曇延法師為昭玄上統○置昭玄十統。以沙門法上為大統。尊為國師。

隋文帝。勅僧猛為隋國大統○詔曇遷為昭玄大沙門統。

唐太宗。詔杜順和尚入見。錫號帝心○武后勅神秀禪師入京行道。歷三朝皆禮為國師○玄宗沙門一行號稱天師○勅辯才為朔方管內教授○肅宗召南陽惠忠禪師入見。號稱國師○代宗詔南岳法照為國師○德宗賜澄觀清涼法師教授和上○憲宗賜沙門知玄悟達國師○封澄觀大統清涼國師。○勅沙門端甫錄街左僧事。靈邃錄右街僧事○穆宗勅沙門惟英充兩街僧統○文宗左街僧錄內供奉三教談論引駕大師大達法師端甫。右脇而滅○勅沙門雲端充左右街僧錄○宣宗勅靈晏充左右街僧錄○勅知玄法師充三教首座○勅三教首座辯章充左街僧錄。僧徹充右街僧錄○懿宗延慶節勅左街僧錄惠照大師清蘭。右街僧錄明徹大師彥楚。講論佛法○勅沙門覺暉充左右街副僧錄。

漢吳越王錢俶。奉沙門德詔為國師。

宋太宗吳越國僧統贊寧入見。賜號通惠大師○真直史館編
修贊寧遷右街僧錄○賜四明延慶知禮法智大師○賜天台東
山本如神照大師○仁宗賜三藏法護普明慈覺傳梵大師○神
宗天竺海月大師惠辯補都師○高宗賜法道寶覺圓通法濟大
師○賜徑山宗杲大惠禪師○孝宗賜靈山子琳慈受大師○賜
上竺若訥右街僧錄○賜上竺若訥左街僧錄慧光法師○賜靈
隱惠遠佛海禪師○賜靈隱德光佛照禪師。

不拜君父

晉成帝。相國庾冰議。令沙門盡敬王者。何充抗論不行○
安帝。桓玄議。令沙門盡敬王者。廬山遠法師抗辨不行。

宋孝武。制沙門盡敬君上。前廢帝制停致敬。

隋煬帝。詔沙門道士致敬王者。沙門明瞻抗詔。謂僧無敬俗之典。遂寢。

唐太宗。詔僧道致敬父母。逾年停致敬○高宗。勅僧道無得受父母尊長拜○玄宗。勅僧道致敬父母。逾月罷致敬。

不稱臣僧

齊武帝。沙門僧鍾見上稱貧道。上以問王儉。對曰。晉宋以來多稱貧道。而使預座。

唐肅宗。勅僧尼朝會表奏毋得稱臣(禮記。儒有上不臣天子下不事諸侯。漢王儒仲見光武稱名不臣)。

崇禮高行

宋明帝。詔猛法師月給錢三萬車輿吏力。僧瑾賜法技一部。

梁武帝。惠約法師每入朝。必設特榻。帝座居其側○勅法雲法師為大僧正。官給吏力。

陳宣帝。詔割始豐縣調。以奉顓禪師。

隋文帝。靈藏律師居大興善寺。勅左右僕射兩旦參問起居○曇延法師升御座南面授法。

唐太宗。四祖道信禪師四徵不起。就賜珍繒。以旌其道○代宗。詔徑山欽禪師入見。賜號國一。勅杭州長吏。月至候問。

宋太祖。吳越僧統贊寧入見。一日七宣。賜號通慧。

沙門著書

梁武帝。沙門慧皎撰高僧傳十四卷起漢永平盡梁天監。開德業為十科。

隋文帝。翻經學士費長房。進開皇三寶錄。

唐高宗。沙門道宣撰續高僧傳三十卷。起梁天監盡唐正觀
○沙門道世撰法苑珠林一百卷。總括大藏分門類事○德
宗。湖州刺史于頔進沙門皎然杼山詩集。藏於御書殿梁末
帝。沙門歸序進經論會要。詔入大藏。賜演教大師。

晉天福沙門可洪。進大藏經音義四百八十卷。

周世宗。沙門義楚進釋氏六帖勅付史館。賜紫衣縑幣。

宋太祖。吳越壽禪師著宗鏡錄一百卷○沙門文勝奉勅修大藏隨函索隱六百六十卷○太宗翰林李昉等。進太平廣記。其間錄佛法者三十卷○通慧大師贊寧進續高僧傳三十卷。起唐正觀。勅入大藏。又撰鷲嶺聖賢錄五十卷。僧史略三卷○真宗。沙門道原進景德傳燈錄三十卷○譯經潤文官趙安仁。修藏經錄二十一卷。賜名大中祥符法寶錄○沙門道誠著釋氏要覽三卷○益州進沙門仁贊釋氏會要四十卷○仁宗。三藏惟淨進新譯經音義七十卷○三藏惟淨。進新譯大藏目錄二帙。賜名天聖譯教錄。賜光梵大師紫衣○參政王隨進刪修景德傳燈錄十五卷○駙馬都尉李遵勗廣傳燈為三十卷。賜名天聖廣燈錄○沙門契嵩進輔教編定祖圖正宗

記。勅入大藏。賜明教大師紫衣縑幣○徽宗。沙門惟白進續燈錄。勅入大藏。賜佛國禪師金襴衣○尚書王古閱大藏撰法寶標目八卷○石門惠洪撰禪林僧寶傳三十卷。

佛祖統紀卷第五十一(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第五十二

宋咸淳四明福泉沙門志磐撰

歷代會要志第十九之二

宿命前身 放生禁殺 祈禱災異

國朝典故 諸國朝貢

宿命前身

晉武帝。羊祐前身造武當山寺。今供給偏重(云云)。

梁武帝。岳陽王蕭察鎮越。知前身是許詢與曇彥造塔(云云)。

北齊文宣。使人乘駝出城。奄然如夢。至山腹寺取經函。群沙彌曰。高洋駝來。引見老僧。問曰。高洋作天子何如(云云)。

唐太宗。威禪師前身是陳徐陵。聽智者講經立五願。後生縉雲朱氏。投章安為師○栽松道者。託生周氏女。遇四祖出家。是為五祖忍○玄宗。房琯與道士邢和璞過夏。入廢寺使人掘地。得甕中所藏婁師德與永禪師書。悅然悟前身為永○沙門法秀有異僧引入終南山。見朱門榜曰回向。老宿指宮房曰。此唐天子舊室。命侍者取玉簫曰。向居此好聲樂。謫為人間主。

○德宗。西川節度韋臯初生。有梵僧曰。此諸葛武侯後身。

○憲宗。齊君佐梵僧與一棗食之。即悟前身是講經僧。乃投靈隱出家名鑑空。

○僖宗。知玄國師見一珠入左股痛甚。上有晁錯二字。玄知宿業即右脇而逝。世稱玄是袁盎後身(云云)。

宋仁宗。參政張方平出知滁州。至僧舍見楞伽經。手迹宛然。知前身為書經僧○宰相曾公亮。前身是禪門青草堂○
穎州官妓。口作蓮華香。蜀僧曰。此女前為尼。誦法華三十年○
哲宗。蘇軾前身五祖戒禪師。

○放生禁殺

隋文帝。詔天下正五九月及六齋日。不得殺生命○智者禪師至岳州講金光明經。化一郡五縣。一千餘所咸捨漁捕。

梁武帝。勅太醫不得以生類為藥。郊廟牲牷。皆代以麪。宗廟用蔬果。

北魏獻文。勅祭天地宗社勿用牲。歲活七萬五千牲命。

北齊文宣。受戒不食肉。禁境內屠殺。

唐高祖。詔正五九及月十齋日。不得行刑屠釣○武后。勅斷天下屠釣○肅宗。詔天下立放生池。凡八十一所。顏真卿撰碑。

宋太祖。詔民間二月至九月。不許採捕彈射。著於令○真宗。詔天下州郡放生池悉與興復。無池之處沿江淮州郡近城五里。並禁漁捕○諸暨令潘華。依普賢懺法不令捕江湖間魚。及奉詔還闕。夢魚為人形者數萬。號哭沸天。皆云長者去矣。吾輩不免烹矣。云云○天竺慈雲法師奏請西湖為放生池。每歲四月八日。郡人會湖上縱魚鳥。為主上祝壽。仁宗。四明延慶法智法師。每歲佛生日放魚鳥祝聖壽。郡以上聞。勅樞密劉筠撰碑立於寺門。

祈禱災異

晉簡文。有烏巢太極殿。召尼道容授八關齋戒。烏運巢而去○妖星為變。召沙門法曠行懺。星為之沒○孝武。西天涉公至長安。常呪龍致雨。秦天尊事之。

齊武帝不豫。召諸沙門祈佛。感天香滿殿。聖僧振錫。北魏節閔國子博士盧景祐通佛法。從兄作亂累及景祐。至心誦經枷鎖自脫。

隋文帝。亢旱。曇延法師升御座。帝及群臣受八關齋戒。俄而雨注。

唐太宗。詔京城諸郡僧道。轉經行道七日夜。祈保秋成。每歲正七月為式○詔京城沙門。每月二十七日行道。轉仁王經。為國祈福○詔淨禪師至京祈雨。感白虹晝見。大雨通濟○中宗。詔菩提流志結壇祈雨。三日大澍。

玄宗。康居入寇安西。詔不空誦仁王呪。感北天王子神兵現。五國奔潰○代宗。吐蕃逼京師。內出仁王經。詔不空

置百高座講經。寇平○勅灌頂道場。選沙門二十七員。為國
長誦佛頂呪○彗星見於東方。詔不空行法。星為殞。春夏
不雨。建壇祈禱。大雨沾足○當陽節度張昭。請沙門自覺
曰。聞龍神依師聽經忘其行雨。願起大悲。師焚香遙祝。
雲起大雨。

宋太祖。幸相國寺祈雨。設千僧齋○上幸相國寺祈雨。進
蔬食雨大濟○將郊天雨不止。遣使禱無畏真身塔。及期而
霽○真宗。亢旱梵僧於金明池立壇呪龍。須臾雨至○神
宗。夏旱。上於禁中齋禱。夢神僧空中吐霧。覺而大雨。
勅求其像。得之相國寺閣第十三尊羅漢○哲宗昇法師居興
福。趙清獻公帥越。亢旱大疫。迎大士懇禱。一夕雨注疫
病亦息。因奏所居曰圓通○高宗。孟后去國南向。奉摩利
支天像以護身○李玨避虜遇乘車人。教持摩利支天尊號。
獲免兵厄○金虜入杭。上親詣上竺大士殿恭禱。為戰沒者

修水陸供。有夢戰死者相慶得生善趣○大旱。詔道法師祈雨。師呪四鮮鰈投諸江。雨大洽○淫雨不止。遣內侍禱上竺大士。施玉器七寶冠。

國朝典故(聖節 內道場 功德院 國諱)

北魏太武。誕生之節。始詔天下佛寺建祝壽道場。

唐玄宗。詔天下寺觀建天長節祝壽道場。

勅僧道遇千秋節。開元寺行道散齋○德宗誕節。詔澄觀法師。入內殿講經○文宗。詔聖節宰臣百僚詣寺設千僧齋○昭宗。聖節。勅兩街僧道。入內殿談論○景宗聖節。勅寺觀設齋禁屠釣。

梁太祖大明節。勅百官詣寺行香祝壽。

唐莊宗聖節。勅僧錄雲辯與道士入內談論。

周太祖聖節。宰臣百僚詣寺觀建祝壽道場。

宋太祖長春節。宰相范質製祝壽齋疏云云。

長春節。詔沙門殿試經律論義十條○欽宗詔道君聖節仍就道觀。若乾龍節仍就佛寺。一依祖宗舊法。

晉孝武內殿奉佛。召沙門居中行道。

唐代宗。勅百沙門於禁中念誦。謂之內道場○勅大明宮建道場。感佛光現。

宋太宗。贊寧僧統入見滋福殿。其處安佛像經藏。立剎聲鐘。即內道場○詔兩街供奉僧於內殿建道場為民祈福○孝宗建內觀堂。詔上竺訥法師。領五十僧入修金光明懺。歲以為常。

唐睿宗。勅貴妃公主。始建功德院○代宗詔輔相大臣。始建功德院。

宋徽宗。勅照祖宗舊法。應勳臣戚里功德墳寺自造屋置田。止賜額蠲免科敷。聽本家請住持。不許指占有額寺院○高宗。司諫陳公輔上疏。應臣僚前曾陳乞有額寺院充墳寺功德者。乞照祖宗成法。並與改正○理宗。臣僚言。乞將宰執指占有額寺院。並與追正。

宋孝武。勅文帝忌日。於中興寺建八關齋。從臣袁敏孫更進魚肉。帝怒免官。

唐太宗。勅先朝忌辰。於章敬寺行香設齋中宗。詔七朝忌辰。於內殿設齋行香○玄宗。勅僧道遇國忌。就龍興寺行道散齋○宣宗。勅列聖忌辰。並詣僧寺行香如舊典(時當武宗沙汰之後)○勅州郡國忌行香。不得携酒肉入寺。

晉天福。勅國忌。宰臣百僚詣寺行香飯僧。

宋太宗。詔國忌。宰相已下。詣寺觀行香禁腥酒。

諸國朝貢

晉武帝。扶南國遣使。進金佛象牙塔○安帝。師子國進玉

佛像。高四尺二寸。

宋文帝。迦毘羅國。師子國。訶羅陀國訶羅單國。闍婆國。五國咸遣使入貢。

齊東昏侯。扶桑國僧惠深來京師。

梁武帝。于陀利國入貢云。東土有聖王出○扶南國沙門進珊瑚佛像○盤盤國遣使進佛牙○丹丹國遣使進佛像○扶南國遣使朝貢。請佛像經論○百濟國遣使朝貢請經論○于闐國遣使貢玉佛像。

唐太宗。高麗三國沙門僧願。入中國學佛法。

德宗。吐蕃遣使乞賜沙門善講佛理者。上令良琇往赴。

宋太祖。高麗沙門諦觀。持天台論疏。至中國謁螺溪法師
○高麗國君遣三十六僧來中國。學永明壽禪師。至今法眼
一宗盛行海外○西天沙門可智等來朝○西天沙門蘇葛陀來
貢佛舍利文殊華○西天沙門彌羅來貢梵經○于闐國沙門善
名七人來○高昌國遣僧法淵。貢辟支佛牙○太宗。西天沙
門吉祥來進梵經○沙門繼縱自西天還。貢梵經舍利塔○中
天竺沙門鉢納摩來。貢舍利塔○天竺沙門護羅來貢梵經○
沙門光遠遊西天還。進西竺王子表。貢釋迦舍利○沙門法
遇自西天還。貢佛頂舍利梵經○沙門重達自西天還。進佛
舍利梵經○中天竺沙門補陀來。進舍利梵經○占城國沙門
淨戒詣闕貢金銅鈴杵○高麗國王遣使。乞賜大經藏御製佛
乘文集。詔給○日本國沙門裔然來朝。言其國傳襲六十四
世。隋開皇中。遣使入中國求法華經。唐永徽四年。遣僧
道照。入中國從奘法師傳法(云云備在通塞志)。裔然歸

因門來○沙西迦進梵法經藏經沙
嘉沙童咸天經○梵經○進梵覺稱梵經
弟子竺門五竺中梵進磨波門進梵
弟天竺沙中竺華來進達竺賢來進
遣南竺中竺華來進達竺賢來進
然覺。竺中竺華來進達竺賢來進
齋天竺中竺華來進達竺賢來進
師門。一歲法華戒賢達磨沙寂入
大沙經。金字門沙天沙中沙國女
濟竺梵經。沙沙沙沙沙沙沙沙
法天竺梵佛像竺沙沙沙沙沙沙
國北舍利梵佛天竺沙沙沙沙沙
日本進來壽西天北經○進舍利梵
○九年。各積無經○梵經○進舍利
給符等。進無經○梵經○進舍利
詔祥門沙來。進舍利梵經○進
經。宗沙竺照進。進舍利梵經○進
藏真沙竺照進。進舍利梵經○進
賜朝○天竺東天寂來。進舍利梵
乞來。西天竺東天寂來。進舍利
國。乾德。經。沙尾藏國沙天沙進
祈妙進梵日本門爾三彌羅西來。
國。乞來。西天竺東天寂來。進

師。傳律於靈芝照律師○孝宗。日本國遣使致書。四明郡庭棲心維那對使宣讀。斥其文義疎繆者。凡七處。

佛祖統紀卷第五十二(終)

聖祖開先

宋太宗天神降張守真家云。國祚延永過於有唐。詔封翊聖保德真君。○真宗方士王中立遇道人姓趙。自稱司命真君。九有瑞異。必先告中立○天神降于寢殿謂上曰。天書將降宜齋戒以受之。皇城司奏右承天門有帛書曳鴟吻上。內侍捧取視其文云。趙受命興於宋世七百九九。啟封宣文。其名大中祥符。凡三篇○登封泰山畢。詔司命真君為九天司命保生天尊。○昭三司使丁謂起玉清昭應宮。前殿

曰太初。以奉玉皇。建閣以奉天書。後殿曰明慶。以奉聖祖(即九天司命天尊)。○詔天下建天慶觀。以奉三清玉皇及增設聖祖殿。○天神降于禁中謂上曰。吾人皇九人之一。是趙姓之始祖再降。乃軒轅黃帝。吾以後唐時下降。總治下方生趙氏之族今已百年。皇帝善撫育群生。乃乘黃雲而去。是月大赦。上尊號聖祖上靈高道九天司命保生天尊。聖祖后曰元天大聖后。聖祖諱玄朗。詔中外不得斥犯。勅諸郡天慶觀增建聖祖殿。○遣李溥於建安軍監鑄玉皇聖祖二像。詔丁謂奉迎至京。奉安玉清昭應宮。○舍利見于玉清昭應宮聖祖明慶殿。○詔於大內丙地建景靈宮。以奉聖祖。

歷朝識瑞

北齊居士陸法和。嘗題壁云。十年天子猶尚可(文宣十年)
百日天子急如火(廢帝百日)。周年天子遞代坐(孝昭□及二人)。

懼塗削之不能滅。

隋文帝西天闍提斯那來上言。天竺獲石碑說。東方震旦國
名大隋。城名大興。王名堅意。建立三寶。

唐太宗。原州奏。鴻池谷有五石。青質白文曰。太平天子
李世民太子李治七佛八菩薩。勅遣使祭謝○帝得祕識云。
唐三世後。女主武王代有天下。太史令李淳風曰。其兆已
成今在宮中。上曰疑似者殺之。對曰。天命不可易。遂止
○肅宗詔沙門元皎建藥師道場。忽生李樹四十九莖○尼真
如升天見天帝。授天寶十三枚。以鎮下方。乃改元寶應(自

肅宗至昭宗為十三代)○睿宗為相王。每出萬回告人曰。天子來矣。玄宗在藩謁之。撫其背曰。五十年太平天子。

宋太祖。生於洛陽。神光滿室。金色被體。嘗過長壽寺枕殿砥寢。僧守嚴見赤蛇出入上鼻。宋城有異僧指州地曰。不二十年當有帝王。由此建號○太宗太平四年。嘉州夾江縣民得玄石二。皆丹文。一曰君王萬歲。一曰趙二十一帝。緘其石來獻(本朝通鑑)○太平七年舒州奏貢端石。刻梁誌公記云。吾觀四五朝後次丙子年趙號太平二十一帝。忽一日誌公降禁中。上親聞訓語。乃遣使詣鐘山奉齋。賜號道林真覺菩薩。○真宗取瑞石誌公記以示近臣。宰相王且曰。國家啟運在梁陳隋唐及五代後。太宗即位歲在丙子。今天尊臨降事皆符合。則知天命我宋其來久矣。上說○日本國入貢稱。國東祥光見中國天子聖明則應此瑞。詔日本建神光寺。○駐輦國來貢言。四十年海無風濤。意中

國有聖人出。

先聖出家

漢高祖。過魯祠孔子。封九代孫騰為奉祠君。○元帝封孔子後霸為褒成君。○平帝封孔子後孔均為褒成侯○光武幸魯祠孔子。封其後志為褒成侯。○明帝幸闕里祠孔子。封十九代孫僖為褒成侯。○幸魯祠孔子。拜孔僖為郎中。

魏文帝封孔子二十一代孫羨為崇聖侯唐太宗詔以孔子為先聖。封其後為褒聖侯。

宋太宗。詔封孔子四十四代孫宣襲封文宣公。○真宗詔孔聖佑襲封文宣公。○仁宗詔孔宗愿襲封文宣公。○勅封四

十六代孫宗愿為愆聖公。○神宗詔四十七代孫若蒙封愆聖公。○徽宗詔四十八代孫端友封愆聖公。○高宗詔寓衢州四十九代孫衍聖公[王*斤]卒。子搢襲封衍聖公是為五十代。

大儒名世

周曾子。名參。學孔子。為孝經。○子思孔子之孫。名伋。學於曾子。作中庸。○孟子。名軻。學於子思著書七篇。述堯舜之道。距楊墨言人性善。○荀卿。名況。著書名荀子。尊王黜霸。言人性惡。

漢哀帝。楊雄放易作太玄。放論語作法言。言人性善惡混。

隋文帝。王通續六經。門人諡曰文中子。弟子集問答之言。名曰中說。

唐太宗正觀二十一年。詔孟軻(元豐七年以鄒國公陪享先聖廟。令不在從祀之列)左丘明(魯太史。孔子同時。用魯史為春秋。作傳。及作國語)穀梁赤(周魯人傳春秋)公羊高(周齊人傳春秋。赤高皆子夏門人)伏勝(秦二世博士。漢文帝時年九十。口授尚書於晁錯。初伏生值秦禁書。以尚書壁藏之。漢已定得二十九篇。以教濟南張生及歐陽生)毛萇(漢河間獻王傳士。師子夏。作毛詩故訓)高堂生(漢初為傳士。魯人。傳士禮十七篇)孔安國(漢武帝臨淮太守。孔子十一世孫。作尚書傳。古文孝經傳。論語訓解。)戴聖(漢九江太守。學禮於后倉。)劉向(漢成帝中壘校尉。著別錄新序說苑)何休(後漢獻帝時治公羊傳。作公羊墨守。左氏

膏肓。穀梁廢疾)鄭眾(後漢司農卿。傳父興業。鄭康成注周禮。引司農者鄭眾也)馬融(後漢南郡太守注孝經。論語。詩易。尚書三禮)盧植(後漢中郎尚書師馬融。作尚書章句。三禮解詁)鄭康成(後漢司農卿。師馬融注易尚書三禮論語尚書大傳五經緯侯箋毛詩。破許悼五經異義。鍼何休左氏膏肓。發公羊墨守。起穀梁廢疾)服虔(後漢九江太守作春秋傳)賈逵(後漢侍中明左氏傳作義詁。肅宗詔入講。奏曰。左氏義於君父。公羊多任權變。又五經家皆無以證)杜子春(後漢鄭康成注周禮。引鄭大夫者杜子春也)范甯(晉豫章太守。注穀梁傳)杜預(晉鎮南大將軍富陽侯注左氏傳)王肅(魏衛將軍蘭亭侯。注尚書禮喪服論語孔子家語。述詩注作聖證論。難鄭康成)王弼(魏尚書郎注周易)二十二人皆從祝先聖廟。

宋神宗元豐六年。詔封孟子鄒國公。七年詔以鄒國公陪享

至聖文宣王。位于兗國公之次。苟況楊雄韓愈皆發明先聖之道。以世次從祀於二十二賢之間。

興建儒學

漢武帝。議立明堂。遣使者安車蒲輪徵魯申公置五經博士。○魯共主壞孔子舊宅。於壁中得所藏古文虞夏商周之書論語孝經。皆科斗文字○宣帝詔諸儒論五經同異。○成帝使謁者陳農求遺書於天下。○詔劉歆典領五經。敘諸子為九流。○明帝上幸辟雍。尊養三老五更。上自為說。諸儒執經問難。觀聽者億萬計。皇太子諸侯王功臣子弟外戚莫不受經。期門羽林之士悉通孝經。匈奴亦遣子入學○章帝詔校定東觀五經諸子傳記。○靈帝詔諸儒正五經文字。刻石太學。

唐太宗幸國子監。命孔穎達講孝經。大徵名儒。增築學舍。學生至三千二百六十員。自屯營飛騎亦給博士授經。高麗吐蕃皆遣子弟入學。升講筵者八千人。命穎達撰定五經疏。宋仁宗詔天下立郡學。

天師世次

後漢永壽二年。天師張道陵在閬州雲臺山。老君遣使授正一真人。與夫人雍氏弟子王長趙昇同升天。陵本居餘杭天目山。七歲能誦道德經。後入嵩山得九鼎丹經。乃入蜀隱鶴鳴山。鍊丹三年。丹成乃攝伏魔鬼。奪二十四治化為福庭。老君授以天師印綬。雌雄二劍。正一盟威祕籙。眾經符圖。人有受其道者。出米五斗。陵傳子衡。衡傳子魯。

拜鎮夷中郎將。漢寧太守封閬中侯。卒子富嗣○獻帝時嗣天師第四代張盛至鄱陽。鍊丹解化。人名其居曰龍虎山。

宋真宗。召二十五代嗣天師張乾曜至京師。傳錄度人○仁宗召嗣天師張乾曜赴闕。賜號澄素先生。○詔二十六代嗣天師張嗣宗賜號沖靜先生。○徽宗詔三十代嗣天師張繼先至闕。賜號虛靜先生○勅封漢天師正一靜應真君。○高宗勅三十二代嗣天師張守真賜號正應先生。

仙真顯迹

周穆王。駕八駿升崑崙。西王母觴于瑤池之上。○靈王太子王子喬吹笙作鳳鳴。道士浮丘公接上嵩山。○宋大夫墨翟服朱英丹為地仙。著書十篇。○顯聖王莊周著書十餘萬

言。服北育火丹白日升天。

秦始皇。茅盈得道。治江南句曲山。二弟固衷從兄亦成真。老君遣使拜盈為司命真君。固為定錄君。衷為保命君。世號三茅君。○始皇聞鬼谷先生云。東海祖洲有不死草。之遣除福將童男童女三千人入海。尋祖洲不返。

漢高祖。商山四皓從太子遊○文帝從河上公受老子道德經章句。○武帝時淮南王劉安著書號淮南子。與八公登山。白日升天○上登嵩高起道宮。西王母至賜五岳真形圖六甲靈飛符。奉安柏梁臺。常朝拜之○東方朔至吉雲澤。得五色甘露。以獻武帝。遍賜群臣。

○昭帝。郴人蘇耽得仙道。辭母曰。明年郡有疫。可取庭前井水橘葉以救人。言畢升天。世稱蘇仙君○安帝陰長生

師馬明生學道。煮黃土為金。作黃金數十萬斤。以施窮乏。白日升天○順帝上虞魏伯陽作參同契五將類論。作丹後服丹而化○桓帝王遠過吳召麻姑。進行厨金槃王杯壁麟脯。姑云。見東海三變桑田。○獻帝左慈入天柱山學道。與弟子葛玄入霍山。合丹仙去。

魏明帝。葛玄委衣在床尸解而去。老君賜金簡。命為太極左仙公。

晉成帝。葛洪止羅浮山鍊丹。著書號抱朴子。尸解得仙○穆帝許邁入餘杭西山。與弟謐男玉斧皆得道登天○哀帝南岳魏夫人授楊羲上清真經太洞黃庭十餘篇。○孝武西山許真君受天詔四十二口。拔宅升天。

梁武帝。陶弘景告化香氣不散。著書曰真誥○桓闓修默朝

上帝法太上召升天。

北魏太武道士冠謙之遇太上老君。命繼張陵為天師。又遇李普文授圖[竺-二+祿]。

唐玄宗。葉法善見老君。入西山修道。尸解仙去○李筌遇驪山老母為說陰符經義。後入名山訪道○召方士張果入見。與董汁三卮(附子酒也)。醺然如醉曰。非嘉酒也。後入恒山○司馬承禎上遣使迎至京。受法[竺-二+祿]。有仙女謂焦靜曰。子可謁東華青童君受三皇法。歸而謁之。先生欣然以授○敬宗崔元亮修黃籙道場。有鶴三百六十五隻。翔集壇所。一朱頂皓白竟集虛皇座。後元亮入室。誦黃庭經而化○宣宗召羅浮軒轅集入見。問臨天下之數。集橫書四十。乃十四年也○懿宗鐘離權自稱。漢時遇王玄得長生之道。呂巖者遇權授露寶畢法。謂曰。吾朝元有期。

即有仙人迎之升天。洞賓客遊江淮。度何仙姑郭上竈施肩吾。○景宗呂洞賓過鄂州黃龍山見機禪師述偈(云云)。

周世宗。召華山隱士陳搏。問飛升之術(云云)○隱士譚景升與陳搏為友。著化書百十篇。久之仙去(宋齊丘竊用此書作自名行世)。

宋太祖。陳搏聞太祖即位大笑曰。天下自此定矣○陳搏受易於麻衣道者。得正易心法河圖洛書之訣。○錢若水謁陳搏見老僧云。但可作貴公卿。於急流勇退耳○太宗詔陳搏入見(云云)○仁宗召藍元道館于芳林園。賜號養素先生。藍師劉海蟾○何仙姑逢洞賓(云云)。焦浚明見仙姑。姑言受金枉殺事○神宗天台張平叔遇異人得金丹之訣。著悟真篇。傳於世。讀雪竇祖英集頓明心地。後坐化。焚之得舍利千百。平叔傳丹法於石泰。泰傳薛道源。○呂仙見淨慈

本禪師師曰。黃龍舊話何不舉似(云云)○徽宗召海陵除神翁入見○上與林靈素講道。有青巾升殿留詩。上知洞賓之來為之歎息○孝宗賜何蓑衣為通神先生。上將立謝妃為后。遣內侍求一語。何曰。為天下母。妃遂位中宮○唐仙姑逢呂仙與之丹。上皇召入賜寂靜先生號。

道流知名

周靈王。太子晉道士浮丘公接上嵩山(此稱道士之始)。

漢明帝。五岳八山道士褚善信等。

宋明帝。召廬山道士陸脩靜問道。

北魏太武。道士寇謙之(云云)。

唐高宗。道士潘師正上問所須對曰。茂松青泉山中不乏○
玄宗祕書監賀知章請為道士以宅為千秋觀。

宋太祖。勅道士劉若拙充右街道錄試道士事業。未至者罷之○
仁宗召道士朱自英詣闕。賜號觀妙先生。○徽宗道士林靈素入見(云云)。

修學道科

唐玄宗。詔諸州習道德經列子莊子文子。置助教一人。時姚子彥試策入第○詔封莊子南華真人列子文子庚桑子四真人。四子書為真經。置博士助教各一員。學生百人。

宋太宗。命徐鉉王禹稱校正道經。刪去重複。為三千三百三十七卷。○真宗命王欽若定羅天醮儀。選道士十人。校錄道藏經御製序。○神宗詔道門職事試道德南華度人三經。○徽宗詔老君名字士庶不得犯○詔列子莊子陪享太上。○詔建道學科。治老莊列子書。置道階十士。○詔封莊子列子為真君。○詔罷黃老學。

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【中華電子佛典協會資料庫版權宣告】

佛祖統紀卷第五十三

宋咸淳四明福泉沙門志磐撰

歷代會要志第十九之三

北天佛牙 鄮山舍利 鳳翔佛骨

陳留佛指 瑞像應世 聖賢出化

立壇受戒 設像置經 建寺造塔

西天求法 東土譯經 經目僧數

天台傳教 禪苑傳燈 律宗垂範

神尼異行 名山勝迹 聖教感通

持誦功深 西遊樂國

北天佛牙

唐高宗。宣律師在西明寺行道。北天王太子以佛牙上於師
○代宗。勅問文綱律師。親傳先師宣律師釋迦佛牙。宜詣
右門進上。副朕瞻禮。

宋太宗。建啟聖禪寺。奉優填聖瑞像釋迦佛牙。大祖親緘
銀塔中。初太祖疑佛牙非真。取自洛以火煨之。色不變。

遂製發願文。太宗復驗以火。親製偈讚。真宗迎供瞻禮。神光洞發。遂製讚。仁宗以三朝敬事。迎置禁中。於穴中得一舍利。因為製讚。慶歷三年久旱。迎佛牙入內殿祈禱。須臾雨大注。復製發願文○英宗勅大相國寺造三朝御製佛牙讚碑。學士王珪撰文○徽宗勅迎三朝御讚佛牙入內供養。隔水晶匣舍利出如雨。因為製讚。

鄮山舍利

周厲王。佛滅後百年。中天竺阿育王。取釋迦舍利作八萬四千寶塔。勅鬼神於閭浮提城邑。滿一億家為立一塔。

漢明帝問摩騰曰。白馬寺東有光怪。民呼聖塚。騰曰。昔阿育王藏舍利八萬四千塔。震旦之境有十九處。此其一也。帝俱往禮拜。詔造塔其上。九層二百尺。

晉武帝。劉薩訶入地獄。見觀音大士謂曰。可往洛陽(聖
[塚-豕+(一/豕)]舍利)臨淄建鄴(建康長干塔)鄮陰(今育王山
舍利)成都五處有阿育王塔。頂禮悔罪。既蘇出家名惠達。
至鄮縣烏石山聞鐘聲。斲土求之。得舍利寶塔。飛至一
山。乃即其地建剎奉塔(今阿育王山舍利殿。即其處也)○
安帝勅鄮山造塔亭禪室。度二七僧住持守護。

宋文帝。遣僧道祐廣興創建。鑿基得大石函。頗黎鍾。金
合銀罍。安三法身舍利。

梁武帝。勅造木浮圖。堂殿房廊。賜額阿育王寺○岳陽王
蕭詧。修木浮圖為五層。鑄金銅像五百軀。

陳宣帝。遙敬寶塔。度二七僧。

唐中宗。敬仰寶塔。勅送供施。委沙門棲曠如法香火○國清智晞至寺禮八萬四千拜。忽感紫文印右臂。終身不沒○肅宗內供奉子璘母亡。岳神令往鄮山禮塔。可免母罪。璘至寺禮至四萬拜。母現身塔前曰。吾承汝力已生忉利○宣宗。四明道俗八千人。於育王寺供舍利塔。天花紛墜放五色光○懿宗。觀察使楊嚴奏舍利寶塔靈異。勅度三十七僧。嚴奉香火。

梁末帝。吳越王錢鏐遣弟鐸。往迎育王山舍利塔。夜放光明。浙江如晝。

周世宗。勅翰林承旨陶穀。入寺禮敬。見舍利紅色。

宋太宗。吳越王入朝。僧統贊寧奉釋迦舍利塔。入見滋福

殿○高宗。親洒宸翰賜佛頂光明之塔○孝宗遣內侍李裕文。至育王山迎佛舍利塔。詣行在所奉安觀堂。焚香瞻禮。見塔上有月輪相及水晶珠。皇太子請至東宮瞻禮。見相輪纍纍然如水晶珠。上書妙勝之殿。以安塔所○皇子魏王來鎮四明。往寺瞻禮寶塔。見豪光青赤交眩。因造金塔奉安舍利塔。於中作贊四章。刻於塔之四旁○寺東一里有聖井靈鰻。欲出則有二紅蟹若前軀者。錢武肅王迎塔至錢唐。夢一菩薩首戴結縵華冠。兩掖挾蟹云。是育王聖井靈鰻。來護塔耳(已上並見寧僧統所作舍利塔傳靈鰻傳)。

鳳翔佛骨

唐高宗。詔迎岐州法門寺護國真身塔釋迦佛指骨。至洛陽大內供養。皇后以金函九重。命宣律師送還岐山○肅宗。詔迎法門寺佛骨。至禁中禮敬。傳至諸寺瞻禮○德宗。詔

迎法門寺佛骨。入禁中禮敬。歷送京城十寺。世傳三十年當一開。則歲豐人安。韓愈上表諫。貶潮州○文宗。岐山法門寺佛骨塔。慶雲見。

懿宗。詔迎佛骨。三百里間車馬不絕。公私音樂。儀衛之盛。過於南郊。上降樓迎拜。

陳留佛指

宋仁宗。勅迎陳留佛指入內。試以烈火擊以金鎚。了無所損。俄而舍利流出。乃製發願文送還本寺。初是有梵僧來陳留闡教寺。施天竺佛指。瑞光屢發○徽宗。方士盛言。陳留佛指乃海狗骨。詔取驗之火焚鐵捶十餘日。色不變。乃加禮送還。

瑞像應世

晉愍帝。吳朱膺於松江得二石像。銘曰維衛佛。迦葉佛。迎至通玄。後漁者得二石鉢。見佛像在鉢際。遂送寺中○明帝。海上網得文殊金像。陶侃迎至江州溺水中。後遠法師起東林神運閣。至江禱之得其像。

成帝。高悝望江浦五色光。得金像置長干寺。後網得銅華趺。梵書云。阿育王第四女造○孝武。沙門曇翼見江陵城北五色光。得一銅像。題云阿育王造。

宋高祖。司徒王謐見東掖門地有光得金佛。高七尺二寸○文帝都人孫彥曾妾王惠稱。見江浦有光。得金佛一軀○孝武。廬陵太守周湛進金像高九尺三寸。言僧法均至三曲江。見光浮水面。因獲此像。

梁武帝。夢釋迦檀像入國。乃遣郝騫等西行求像至舍衛國。天監十年負像東還。帝率百僚迎入太極殿○西天沙門自圖形於吳中靈岩寺。像夜起行道。梵僧云。是智積菩薩。

唐宣宗。會昌毀寺。二僧負東林文殊像藏錦繡谷峯頂寺。復訪像不獲。忽圓光涌於空表。自是峯頂天池常見聖燈百千文殊出沒。

宋太宗。陸澤人王緒。見白兔逐之入穴。見石佛五十身。勅就邑寺奉之○通利軍建城掘地得大石佛十身。詔建淳化寺奉其像○真宗。詔送金欄加沙往羅浮中閣寺。奉釋迦瑞像。此像來自西天○神宗。詔迎衡州玉塔入京師。阿育王所造第九塔也○哲宗。袁州仰山舍利石塔。自然出現○袁

州木平山舍利石塔出現。夏旱。太守王古禱於木平塔。白衣大士出現。復往仰山塔。泗州大士維摩居士出現○袁州東山羅漢像出現○徽宗。金州奏。獲石羅漢大放光明。

聖賢出化

室利房。秦始皇時自西域齎佛經來化。帝以異俗囚之(云云)○摩騰竺法蘭。漢明帝時。以白馬馱經自天竺來(後人有經來白馬寺之句)○宋真宗。瞻摩騰真身製讚○康僧會。魏齊王時。自西域至吳(後人有僧到赤烏年之句)唐高宗時(云云)○祇域。晉武帝。自西域至洛陽○佛圖澄。晉懷帝時。自西竺至洛陽。石勒奉之○單道開。晉穆帝時○杯渡。宋文帝時○誌公觀音化身。始宋明帝十一年終梁武天監十三年○達磨觀音化身。梁武大通元年。自南天竺來○北魏文帝大統元年。自梁入魏○傅大士彌勒化身。出婺州

烏傷縣。梁武帝中大通六年(云云)大同元年(云云)○陳文帝。天嘉二年(云云)○宣帝。大建年間(云云)○陸法和。梁武太清(云云)○北齊天保(云云)○稠禪師。北齊天保(云云)○法喜。隋煬帝(云云)○豐干彌陀化現。寒山文殊化現。拾得普賢化現。唐太宗正觀七年(云云)○杜順文殊化現。唐正觀年(云云)○寶掌。高宗顯慶○萬回觀音化身。高宗咸亨○中宗神龍○睿宗景雲○泗州觀音化身。中宗神龍○代宗大歷○僖宗四年○宋太宗。僧伽塔放光○真宗。諡普照明覺大師○徽宗。京師大水。僧伽立空中。旁侍慧岸木叉。一白衣跪於前。既而水退○一行。玄宗開元三年九年○萬山李長者。玄宗開元七年○宋哲宗。張商英至萬山昭化院。得華嚴決疑論○無畏。玄宗開元四年○宋真宗。瞻無畏塔製讚○金剛智。玄宗開元七年○不空。玄宗開元八年○韋老師。玄宗開元八年○馬郎婦。憲宗元和。普賢化身○隨洪大聖。文宗太和○宋仁宗。祈雨加封○草

衣。德宗建中○嬾殘。德宗貞元○傳大士。宣宗曾志願開
塔○晉少帝。吳越王問塔○湘山無量壽。懿宗八年。湘山
全真禪師阿彌陀佛化身○龜洋二真身。僖宗三年。泉州無
了禪師及弟子惠忠二塔○鰕子。昭宗天復○岳林布袋彌勒
化現。五代梁○道賢。五代唐○扣冰古佛。五代唐○麻
衣。周太祖廣順○宋太祖建隆○婁道者。宋太宗。淳化蹈
寶華佛化身○真宗召見○四世界。婁道者云。是日光菩薩
化身。言法華。宋太宗○仁宗。默祝請齋○峨眉茂貞。真
宗召見○南安岩主。真宗時。定光佛化身○龜山智悟。真
宗時祈雨斷臂。云是五百羅漢中一○戒香瘞女。仁宗時。
四明戒香瘞女是維衛古佛○李士寧。仁宗時。於洛陽謂衛開曰。
戒香瘞女是維衛佛○蔡君謨。病目夢龍樹○潘盎。神宗
時。言法華云。是日光佛○趙棠。神宗時。從潘盎遊○佛
陀波利。哲宗時。潁州太守蘇軾乞賜塔院額曰光梵。

立壇受戒

漢明帝。司空劉峻等並求出家(此時但受三歸)魏齊王西天曇摩迦羅至洛陽譯僧祇律立大僧羯磨受戒○高貴卿公曇摩迦羅乞行受法戒沙門朱士行為受戒之始(此受具足戒始)。

晉康帝。尼淨檢於本法得戒(此但從比丘尼眾受戒)。

宋文帝。僧伽跋摩至建康。為沙門惠照等於船中再受具戒(此開重受戒)○求那跋摩。於南林寺立戒壇。為僧尼受戒。尼惠果等。於戒壇依二眾重受具戒(十僧十尼為二眾)。

寧僧統僧史略云。漢度阿潘受三歸也。晉度淨檢從一眾也。二眾得戒慧果始也。

梁武帝。從約法師受具足戒。太子公卿道俗。從師受戒者四萬八千人(此應受菩薩戒)沙門耆艾亦重受戒法(此受具足戒)。

唐高宗。宣律師於淨業寺建石戒壇。為岳瀆沙門再受具戒。撰壇經○代宗。勅大興善寺建方等戒壇○穆宗。中書令王智興。於泗州建方等戒壇。請遇聖誕度僧○敬宗。勅兩街建方等戒壇。左街安國寺。右街興福寺。○宣宗。以會昌沙汰。勅上都荊揚汴益。立方等戒壇。為僧尼再度者重受戒法○懿宗。勅兩街四寺。各建戒壇度僧。

宋太祖。以僧尼無間。勅尼寺置壇受戒。尼大德主之○真宗。昇州崇勝寺。賜名甘露戒壇○詔京師立奉先甘露戒壇。天下諸路皆立戒壇。凡七十二所。京師別立大乘戒

壇。

設像置經

周穆王子於沁水石窟造迦葉佛像。

秦繆公。造佛銅像。

漢桓帝。鑄黃金浮圖老子像。

晉武帝。侍中荀勗。於洛陽造金像十二○孝武。安法師於檀溪寺造銅像。能自起行。放光燭天○處士戴逵。自造無量壽佛像置靈寶寺。郗超撮香作禮。勃然烟上○安帝。江夷託戴顓造觀音。夜夢人令改造彌勒。觸手成妙○恭帝。詔瓦官寺鑄丈六金像。放光滿寺○宋文帝。徐州造丈六金

佛。有寇難則像身流汗○孝武。路太后於中興寺造普賢像。

梁武帝。幸同泰寺鑄十方佛金銅像。

北魏獻文。勅為太祖下五帝。鑄丈六釋迦佛五軀○孝明。為太后胡氏建永寧寺丈六金像浮圖九層高九十丈。詔諸郡立五級浮圖○孝莊。孟仲暉造夾紵佛。每夜遶座行道○孝武。於平等寺建浮圖設萬僧齋。石佛俯首終日。

唐高祖。為太祖下造等身佛三身○太宗夢虞世南。勅造佛像一軀。以資冥福○高宗。勅洛陽龍門山鑄石龕盧舍那佛高八十五尺。沙門智運於龍門山鑿石佛一萬五千身○武后。斂天下僧尼日一錢。作大像於白司馬坂○玄宗。勅諸郡開元寺。鑄皇帝等身金銅佛像○沙門海通。於嘉州大江

鑿石為彌勒佛高三百六十尺。覆閣九層。

晉天福。天竺沙門道翊。獲奇木造觀音像。持古佛舍利置豪相中。白光煥發○宣徽將朱崇。掘地得大石佛。舍家為寺○開運初。勅為高祖寫大藏經。奉安明聖寺。

漢高祖。上柱國郭令威。立石碑金剛經於壽春。

宋太祖。勅益州雕大藏經板○勅往峨眉山粧飾佛像○真宗封泰山。詔修眾像三十二身。御製修像記○勅沙門栖演修龍門山石龕佛一萬七千身○哲宗。勅往東林妝神運五殿佛像○蘇軾繪水陸像。作贊十六篇○蘇軾得張氏畫十八羅漢為贊。以授弟轍○高宗。給事中憑檝造大藏經四十八所。

建寺造塔

周穆王子於鼓山建竹林寺。

漢明帝。始造白馬寺。雒陽京城內外十寺。白馬寺東造佛舍利塔。

魏吳王孫權。武昌造昌樂寺。潘夫人。造惠寶寺。尚書令闕澤。舍宅為德潤寺(今普濟寺是)。

晉惠帝。會稽諸葛氏造靈寶寺○成帝。尚書令李邕。以句容宅靈耀寺王羲之廬山寺為歸宗寺○許詢建塔四層乏相輪。一朝風雨輪盤自備○康帝。中書令何充舍宅為建福寺○哀帝。詔建瓦官寺○廢帝。詔為支遁法師建沃州寺○簡文帝。詔為尼道容建新林寺。勅長干寺造三級塔○孝武帝。潯陽刺史陶範。舍所居為永法師建西林寺。九江刺史

桓伊。為遠法師建東林寺○荊州牧桓沖。命曇翼法師建東西二寺。常及萬僧。

宋高祖。范秦建祇洹寺。謝靈運建招提寺○文帝。為高祖建報恩寺○勅沙門道祐。往鄮縣建浮圖三級○沙門曇摩密多。於鄮縣建阿育王塔。

齊高帝。沙門玄暢建齊隆寺。感青衣神人遶山守護○武帝。居士明僧紹。以攝山宅為棲霞寺。

梁武帝。舊宅七夜放光。勅建光宅寺○詔修長干塔。得琉璃瓶盛舍利爪髮○同泰寺浮圖災。更建十二層浮圖○華陽真人陶弘景。於三茅山建浮圖白塔○岳陽王蕭詵鎮越州。重修甌木二塔。知前身是許詢。

北魏文成。大復佛法。詔郡縣各建浮圖一區○勅建鹿野
寺。與禪僧數百習學禪定○孝文。為太后建報德寺。為羅
釋法師。舊居草堂建三級浮圖○宣武。洛陽段輝聞地下鍾
聲得金佛一菩薩二。遂舍宅為寺○北周。常念寺藏舍利。
光明自瓶出。建浮圖奉安之○隋文帝。詔相州戰地。為軍
士死事者建寺薦福○辛彥之立十五層浮圖。張元神遊天上
見一堂。天人曰。辛刺史當居此○詔天下名藩建靈塔。奉
藏舍利。凡百十一塔。靈瑞之迹備在僧傳○唐公李淵。舍
宅為清禪寺○詔建禪定寺。召曇遷法師。集名德百二十人
居之○智者禪師至玉泉。感關王役神兵造寺○真觀禪師於
虎林山建天竺寺○煬帝。智者遺言。於天台山造國清寺。

唐高祖。為沙門景暉立勝業寺。為沙門曇獻立慈悲寺。為
并州起義立義興寺○太宗。詔以皇家舊宅為興聖寺○詔於
建義以來交兵之處各建寺。破劉武周於汾州立弘濟寺。李

百藥撰碑(廿七寺云云)○詔以慶善宮為穆太后建慈德寺。
為皇太子承乾建普光寺○詔以洛陽舊宅為天宮寺○詔為穆
太后建弘福寺○皇太子為文德皇后建慈恩寺○高宗。勅建
西明寺大殿十三所○睿宗。詔以沙門惠雲所造汴州建國寺
為大相國寺(帝從相王龍飛故以為名)○玄宗。勅以寢殿材
建安國寺彌勒殿○勅天下諸郡建開元寺龍興寺○肅宗。上
皇幸成都。沙門英幹施粥救貧餒。願國運再清。勅建大聖
慈寺九十六院八千五百區○尚書右丞王維與弟縉奉佛。母
喪以輞川第為寺○代宗夢遊山寺。翌日瑯琊山建剎進圖。
賜名寶應寺○帝夢牛首山辟支佛來見。勅山中建七級浮圖
○淮西兵馬使李重倩。舍宅為佛經坊賜名寶應○宣宗。勅
天下諸寺修治諸祖師塔○昭宗勅羅什譯經處重建草堂寺。

晉曹山有梵僧群集山頂。飛行而去。勅建荷玉禪寺○宋太
祖。吳越王俶。造金銅八萬四千塔。布散國內○太宗。周

廢龍興寺為官倉。寺僧擊鼓求復。勅復為寺○賜天下無名
寺額。曰太平興國。曰乾明○勅往五臺造金銅文殊萬菩薩
像○詔建開聖禪寺。奉天竺栴檀瑞像釋迦佛牙誌公真身○
勅往天台山重建壽昌寺。造羅漢像五百十六身○開寶寺建
塔。十一層三十六丈。上手藏舍利塔。放光照天地○真
宗。詔賜金修峨眉普賢寺○沙門繼全自西天還。得佛舍利
建塔揚州○勅江寧府長干寺塔。賜名聖感○詔并州建資聖
院。為將士戰亡追福○仁宗。勅京師建慈化寺。為先帝薦
福○勅再建靈感塔○內侍李允寧奏。以第宅創十方淨因
寺。詔璉禪師居之。

英宗。勅天下私造寺院。並賜壽聖之額○神宗。勅開寶寺
靈感塔。御篆鴻福圓成之塔○哲宗。四明延慶沙門介然創
十六觀堂。陳瓘為記○徽宗。雲居祐禪師作三塔。白雲端
禪師建祖堂。洪覺範論之曰。雲居白雲識度高遠。斯可為

天下法○高宗。勅天下州郡立報恩寺。為徽宗追嚴○勅西
湖北山建天申萬壽圓覺寺○孝宗。賜內帑於上竺建藏殿○
勅賜錢於上竺建十六觀堂。內翰樓鑰記○勅於禁中建內觀
堂。一遵上竺制度。

西天求法

魏高貴鄉公。沙門朱士。西遊于闐得放光般若。

晉安帝。沙門法顯。自西域往五天竺得經像。泛南海而
還。

宋高祖。曇無竭往西竺。二十年還。揚都譯經○後廢帝。
沙門法獻西遊于闐。得提婆品○梁沙門智宣。往西竺得梵
經還。

陳宣帝。沙門智圓往西竺。隋文帝時得梵經還。

北魏孝明。遣使者宋雲沙門法力。往西天。得梵經百七十部還。

北齊後主。沙門寶暹等往西天。得梵本還。

隋文帝。陳朝沙門智周等。西竺求經還。

唐太宗。勅李義表王元策使西竺。登耆山刻碑。紀唐威德
○玄奘三藏自西天求經還。召見。詔撰西域記。○武后。
初義淨三藏自南海附舶。往西竺求法。至是將梵本寄佛逝
國。述南海寄歸傳。求法高僧傳○玄宗。沙門惠日往西天
還。召見說法。賜號慈愍三藏法師○梁太祖。沙門智宣往

西竺求經還。進佛骨梵經。○宋太祖。沙門道圓遊五天竺還。進舍利梵經○沙門行勤等。應詔往西竺求法。所經諸國並賜詔書。令遣人前導○沙門建盛自西竺還。進貝葉梵經○真宗。開封府陳恕言。沙門往西天取經者。宜察人材○仁宗。沙門懷問乞往西竺。為今上建塔於佛金剛座側○沙門懷問得濟永定等自中天竺還。進佛骨舍利貝葉梵經西天碑十九本。

東土譯經

漢明帝。摩騰竺法蘭至。始譯四十二章經。法蘭又譯佛本行經五部○桓帝。支讖譯般若三昧經等二十一部○靈帝。竺佛朔譯道行般若經。終漢之世。譯經三百餘部○信士嚴佛調。譯古維摩經。

魏齊王。曇摩迦羅譯僧祇律。曇無德譯四分戒本。

康僧鎧譯無量壽經○高貴鄉公沙門帛延至洛陽。譯無量清淨平等覺經。

○沙門朱士行。至于闐得放光般若經。

晉武帝。竺法護譯正法華涅槃經等○孝武。鳩摩羅釋至秦。譯大品般若經○安帝。羅釋在秦。譯妙法華經遺教經維摩經大智度論○曇無讖至涼。譯悲華經大般涅槃經(四十卷)○佛陀耶舍在秦。譯四分律○佛陀跋陀羅。於建康譯華嚴經(六十卷)惠嚴惠觀筆受。

○宋少帝。佛陀釋譯五分律○文帝。曇摩密多譯普賢行法經。曇良耶舍譯無量壽佛經。

齊高帝。曇摩耶舍譯無量義經。

梁武帝。沙門眾善譯文殊般若經。帝親筆受○真諦譯金光明經○簡文帝。真諦譯起信論俱舍論。

北魏宣武。菩提流支於紫極殿譯經。帝親筆受。

陳文帝。闍那崛多譯佛本行經三十二部。學士費長房筆受。

隋文帝。笈多崛多重譯法華經(八卷者名添品)。

唐太宗。玄奘三藏上新譯菩薩藏經顯揚聖教論等○奘法師譯瑜伽師地論。勅頒賜九道總管。御製聖教序○高宗。佛

陀多羅譯圓覺經。勅左僕射於志寧。吏部尚書來濟。兼譯
經潤文○詔玄奘三藏譯大般若經六百卷○沙門會寧泛海至
訶陵國。遇智賢對譯涅槃後分經二卷○勅三藏日照杜行
顗。共譯佛頂尊勝咒。勅不避國諱○武后。遣使往于闐國
迎實叉難陀。至東都。重譯華嚴經八十卷(此第二次譯)○
中宗。宰相房融至南海。遇般刺密諦譯首楞嚴經。融親筆
受○詔義淨三藏譯藥師七佛經。上親筆受○詔菩提流志。
於佛光殿譯經。上親筆受。百僚侍坐○菩提流志譯寶積
經。修文館學士武平一充翻經使。盧藏用等潤文○菩提流
志進新譯經。賜齋林光殿。勅畫工圖翻經大德於殿壁○睿
宗。菩提流志譯寶積經。宰相張說。侍郎陸象先。博士賀
知章等潤文○德宗。菩提流志進寶積經百二十卷。御製聖
教序○般若三藏譯烏荼國進本華嚴淨行品。帝親預譯場。
臨文裁正○般若三藏澄觀法師進新譯華嚴經四十卷(此第三
次譯)○憲宗。勅諫議孟簡等。於醴泉宮監護譯經潤文。

宋太祖。天竺沙門法天譯聖無量壽經。王龜從潤文○太宗
召法天入京師。始興譯經院。令天息災等居之。述尉論○真宗。上幸譯經
院觀譯經○知制誥朱罷之。上以先朝盛典不許○宰相王欽若
兼譯經潤文使○宰相丁謂兼譯經潤文使。翰林學士晁迥李
維兼潤文官○仁宗。三藏惟淨乞停罷譯經。上曰。三聖舊
典焉敢即廢。且琛貢之籍非鴻臚則不可識○宰相章得象兼
譯經潤文使○宰相文彥博兼譯經潤文使○翰林夏竦等。進
新譯經音義七十卷○右僕射寶錄○宰相富弼兼譯經潤文使○徽
宗。譯經三藏金總持。南遊江浙。

經目僧數

唐玄宗。沙門智昇撰開元釋教錄。凡五千四十八卷。宋仁宗。三藏惟淨進天聖釋教錄。凡六千一百九十七卷。

北魏孝靜。僧尼二百萬人。寺三萬所。

北齊文宣。僧尼四百萬人。寺四萬所。

宋真宗。僧三十九萬七千六百十五人。尼六萬一千二百四十人○仁宗。僧三十八萬五千五百二十人。尼四萬八千七百四十人○神宗。僧二十二萬六百六十人。尼三萬四千三十人○高宗。僧二十萬。

天台傳教

北齊。河南文禪師悟龍樹一心三智之旨。為思禪師說三觀口訣。

陳文帝。思禪師於大蘇山為顓禪師說四安樂行。示普賢道場○廢帝。思禪師來居南岳。為岳君授戒法○宣帝。顓禪師於金陵瓦官寺。為儀同沈君理等開法華經題○少帝。詔瓦官禪師赴太極殿。開大智度論題仁王般若經題○詔瓦官禪師居光宅寺。帝幸寺聽講仁王經○光宅禪師講法華經。章安頂禪師預聽。

隋文帝。晉王廣於揚州迎禪師授菩薩戒。上師號曰智者○智者禪師。於玉泉山為關王父子授菩薩戒○智者於玉泉山說法華玄義。章安預聽○智者於玉泉山說摩訶止觀。章安預聽○恭帝。章安於天台國清為法華威禪師說止觀。

唐高宗。法華為天宮威禪師說止觀○武后。天宮為左溪朗禪師說止觀○玄宗。左溪為荊溪然禪師說止觀○代宗。荊溪於佛隴為邃法師說止觀○德宗。邃法師於國清為修法師說止觀○文宗。修法師於禪林為外法師說止觀○僖宗。外法師於國清為琇法師說止觀○昭宗。琇法師於國清為竦法師說止觀。

晉高祖。竦法師於國清為寂法師說止觀。

宋太祖。寂法師於螺溪為通法師說止觀諸法門。

太宗。通法師於寶雲為禮法師說止觀諸法門。

真宗。禮法師於南湖保恩答日本源信法師問目。賜保恩額

為延慶。同異聞師作誠誓辭二篇。俾為長講天台教法之地
○禮法師結十僧。修法華懺三年。焚身本四千六。翰林楊億貽
書勸請住世○詔賜東掖禮法師高明延慶請法智領眾修懺祈福。為
都尉李遵內侍俞源清。太后遣使詣天台教卷乞入大藏○仁宗。
○詔遣懺要旨○章懿護國儀。為國祈福。述放生文。郡守曾會以
述修懺。師上金懷古詣於佛生立石寺門○延慶法智入藏。飯靈山千眾
懺。勅內侍楊慶樞密劉筠至今為百僧修長懺。結白蓮社○神宗。賜
藏○延慶樞密劉筠至今為百僧修長懺。結白蓮社○神宗。賜
聞。勅四十二如法守章得郡補都僧正。凡管內寺院虛席。會諸天聖二
○東掖山與竺靈山。餉名考校○孝宗。勅福州東禪。依天聖二
神照。居天竺義科場。餉名考校○孝宗。勅福州東禪。依天聖二
俊開問義科場。餉名考校○孝宗。勅福州東禪。依天聖二

年降旨。天台教部鏤板入藏○寧宗。荊門軍乞加封玉泉智者。勅賜靈惠大師○理宗。靈山守愚奏。法智大師所著記鈔二百餘卷乞入藏。制可。

禪苑傳燈

梁武帝大通元年。菩提達磨汎海至廣州。詔入見。問如何是聖諦第一義。師云。廓然無聖。帝曰。對朕者誰。師云。不識。帝不契。師渡江入魏。

北魏孝明武泰元年。達磨自梁入魏。止嵩高山少林面壁。三詔不至○文帝大統元年。達磨傳法及袈裟於惠可。端坐示滅。葬熊耳山定林寺。

隋文帝。二祖惠可先傳法於僧粲。往正勅寺說法。有和法

師謗於邑加以非法。先謂粲曰。吾有宿累今當償之○煬帝。三祖僧粲居皖公山。傳法於沙彌道信。儼立而化。

唐太宗。四祖道信居黃梅山。四徵不起○四祖居破頭山。有老僧號栽松道者。寄生周氏女。見四祖令出家。是為弘忍○四祖望破頭山。紫氣如蓋。下有白氣橫分六道。忍曰。莫是和上他日橫出一枝佛法否。祖曰。如是○高宗。五祖弘忍見行者惠能壁間書偈。夜召能告之曰。佛以正法眼藏展轉傳授。吾今授汝并所傳袈裟。用以表信。能通夕南邁。明上座追至庾嶺。能擲衣鉢於石上。明舉之不動(云云)○高宗。牛頭融禪師得法於五祖。應橫出一枝佛法之記○慧能至廣州值印宗禪師。為其落髮受戒。大開東山法門。明年歸曹溪○中宗。遣使迎六祖入京行道。表辭以疾○肅宗。勅使往韶州迎六祖衣鉢。入內供養○代宗。夢六祖請衣鉢還山。勅劉景頂戴送還。○詔忠國師入見。問太

白山人。識山識地。識字善算(云云)○憲宗。江州刺史李渤問歸宗常禪師。如何是芥子納須彌(云云)○居士龐蘊問馬祖云。不與萬法為侶是什麼人(云云)○龐公謂州牧于頔曰。但願空諸所有。謹勿實諸所無○百丈海禪師。始創禪居。稱長老上堂升座主賓問酬(云云)。後世廣之名禪苑清規○穆宗。侍郎白居易見歸宗。值師泥壁(云云)○白居易知杭州。問道鳥窠禪師(云云)○文宗。觀察使陸亘。請南泉入郡問道(云云)○宣宗。勅鹽官齊安禪師。以師禮召。力辭○召弘辯禪師。入見問道○懿宗。雪峯存禪師。居山四十年。法席冠天下(云云)○昭宗。仰山寂禪師稟法於潯山。世稱潯仰宗。○趙王見趙州諗禪師(云云)。

梁太祖。玄沙備禪師。閩王待以師禮。

唐莊宗。召三聖惠然禪師。入內殿問禪法(云云)。

周世宗。江南唐後主。以師禮待益禪師。諡大法眼。

宋太祖。勅韶州開視雲門塔。真身如生。迎赴闕供養○仁宗。眉山蘇洵。謁祖印訥禪師問法○大覺璉禪師乞歸老山中進頌(云云)○英宗。璉禪師乞歸育王山。建宸奎閣。奉先朝聖製。蘇軾作記○神宗。詔革廬山東林為禪席。命總禪師居之。應遠公七百年之讖○哲宗。韶陽南華重辯。請蘇軾書柳宗元六祖碑(云云)○四明大梅山英禪師稱。照律師分慈愍三藏集謗禪宗為異見著空。作解謗以詰之○徽宗。知和禪師至四明正言陳禾招居東湖二靈山。一虎為侍者(云云)。

律宗垂範

梁武帝。度律師眾聖點記。

陳宣帝。文律師上書。免僧侶轉輸之役○瑗律師。勅總知國內初受戒者參律五夏。

北魏孝文。法聰律師專講四分律。門人道覆。錄為義疏。

隋文帝。靈藏律師。帝手勅曰。弟子是俗人天子。律師是道人天子。由是度人至數萬。

唐高宗。宣律師在西明寺行道足跌。有聖者扶其足曰。北天王太子那吒奉命來衛。及獻佛。師與天人廣問律相西天勝迹。作天人感通傳○智光律師。於廣州與行者惠能授滿分戒○中宗。勅文綱律師入大內。安居行道○詔道岸律師入宮。為妃主授歸戒。命圖形林光宮。製御讚○玄宗。日

本國沙門榮睿至揚州。律師鑒真與睿附舶而去。王迎勞之館毘盧殿。請授歸戒。日本律學始此。

宋仁宗。杭州允堪律師。述會正記。釋南山律文○徽宗。杭州元照律師。約法華開顯。作資持記。釋南山律文○理宗。明慶思律師奏。南山大智律文乞入藏。制可。

神尼異行

晉康帝。比丘尼淨檢。於本法得戒。有天女下庭。忻然携手。躡光升天○廢帝。洛陽東寺尼道馨說法華維摩。聽者如市○簡文帝。召烏江寺尼道容授八關齋戒○孝武帝。桓溫在姑熟。有異尼來見求浴。以刀破腹斷兩足。謂溫曰。卿若作天子。亦當如是(云云)。

宋文帝。尼道壽誦法華。有寶蓋垂覆頂上。明帝。尼淨秀感龍王諸天驅使。

梁武帝。剡川尼法宣誦法華。見帳蓋覆其上。郡守請為越城母師。

陳武帝。高郵尼誦法華。十爪生華。號華手尼。

隋文帝。始生。般若寺尼智仙視育之。及長密告之曰。汝當大貴。佛法暫廢。賴汝而興。

唐武后。絳州二女亡。旦詣墳號哭。忽生蓮花五莖。后聞召一女。親為落髮○德宗。安國寺二尼持法惠忍。同修法華三昧。忽有尼號空姑。來止宿。中夜身光赫然。人謂是普賢。

名山勝迹

阿育王山。晉武帝時。劉薩訶至鄮山求舍利塔。始建精舍。因號阿育王山○太白山。晉惠帝。沙門義興廬於山中。太白化童子給侍。因號天童太白山○唐玄宗。高僧法睿案故迹。立精舍誦法華。太白化童子送供。因號太白禪師。名其山曰天童○天竺山。晉成帝。沙門竺惠理至虎林山(唐時避諱改為武林)驚曰。中天竺靈鷲小嶺。何年飛來。因名天竺山飛來峯靈隱寺○石城山。齊武帝。沙門僧護於剡縣石城山鑿石造彌勒佛。後有僧淑僧祐相繼鑿成。高十一丈。天神謂宣律師。即護淑祐後身。世稱為三生石佛○唐昭宗。吳越王建瑞相寺。以奉石像○羅浮山。唐玄宗。勅羅淨山是華首菩薩住處。特立延祥寺○五臺山。記云。山形五峙周五百里。中臺高四十里。上有文殊彌勒石

像。東南有清涼寺。文殊所居(宋太宗太平五年所引)唐高宗。勅沙門會蹟詣五臺。見金光滿殿。空聲善哉○罽賓沙門佛陀波利至五臺遇老人。令還西土取佛頂尊勝呪。(云云)○代宗。沙門法照謁五臺。見金門樓觀文殊普賢分座說法。因建竹林寺○憲宗。無著禪師入五臺。見山翁牽牛隨入一寺。呼均提童子進玳瑁盃。對飲酥酪○穆宗。裴度奏。五臺文殊見從者萬眾○宋太宗。勅內侍往五臺。造金銅文殊萬菩薩像。重修真容華嚴十寺○太洪山。唐文宗善信大師斷足而化。張武陵父子侍立亦解化。人稱大聖二聖云○峨眉山志云。昔蒲翁入山。見普賢大士真相。自茲顯迹○宋太祖。勅往峨眉山莊嚴佛像。因嘉州奏。普賢見相○太宗。勅往成都鑄金銅普賢像。安峨眉山白水寺。三峨高出五岳。秀甲九州為震旦第一山○通判王袞往峨眉。見瓦屋山皆變金色中有普賢○勅送寶冠袈裟往峨眉普賢寺。見大士乘紫雲行空中○雁蕩山。山頂大池相傳為雁蕩。下

二潭為龍湫。諾矩羅尊者所居(見真宗祥符初)○補陀山。
唐宣宗。補陀山在大海中。去鄞城東南水道六百里。大悲
經所謂補陀落迦山觀世音宮殿。山有潮音洞。洞前石橋。
瞻禮者或見大士善財淨瓶頻伽。(云云)(天下名山不止於
此。今但取通塞志所引故爾)。

聖教感通

魏正始。康居沙門康僧會入吳。吳主令求舍利。潔齋懇求
三七日。鏗然有聲(云云)。

晉成帝。蘇峻亂焚燒宮室。獨樂賢堂所畫釋迦像不壞。

宋文帝。將軍王玄謨將刑。夢人教念十句觀音經。遂得
免。北齊武成。孫敬德有罪當死。夢僧教誦經千遍。臨刑

刀三折。宋嘉祐龍學梅摯妻失明。夢白衣教誦十句觀音經。雙目復明(此經前後三驗)。

齊武帝。劉霽母疾。誦觀音數萬。夢僧曰。夫人算盡。當為申延六十日○竟陵王。夢中作維摩一契詠之群鶴飛舞○晉安王七歲母病。請僧行道。銅罌蓮花鮮紅七日○明帝。滕曇恭五歲母病思瓜。俄有僧遺一瓜。

北魏文成。疏勒國進佛袈裟長二丈帝命焚試。終日不然○孝莊。永寧寺浮圖災。東萊人見在海中。

隋煬帝。為智者設千僧齋。嚙溢一人。咸謂化身來受國供。開視靈塔。唯空床虛帳。

唐高祖。李錄事亡往餘法師處聽法。與人言曰。人頭以上

便是鬼神諸天充滿○高宗。英禪師修設梁武水陸。感秦莊襄王張儀等致謝(云云)○憲宗。法師智辯炊飯散郊外。祝之曰。食吾飯者願為法侶。後二十年往鄴城開講。座下千眾皆年少○官軍與吳元濟戰。鄧隱峯振錫飛空。兩軍仰觀歎異○懿宗。禁中設萬僧齋。有長眉僧。來應供受嚩畢。陵空而去○昭宗。文矩禪師。謁西院時。五百僧俱染時疾。師以杖點之。隨杖而起。

宋太祖。至相國寺見僧醉嘔。密令小璫取吐物。則真乳香○上親征揚州。以固拒欲阬之。有沙門稱清範。來乞恩宥。翌日幸龍興寺。見殿上羅漢手擎草表○真宗。開寶寺金色光見。上幸敬觀地上。獲舍利五千粒○仁宗。夢龍蟠景德寺地。遣使視之。僧道隆臥門外。召見為建院(云云)相州發塔基得佛髮舍利。引之甚長。人從中過往來不斷○神宗。雷峯才法師為靈芝元照等授菩薩戒。見觀音像放光

○朱壽昌刺血書經。求母五十年。得於同州○哲宗。張商英遊五臺。見文殊在金光中○楊傑詣雙林禮大士。輪藏自轉○登封令樓异修少林道場。產芝草十二本。雨甘露。夜有光屬天○徽宗。楊州奏。泗州大聖見於普慧塔○詔移釋迦像至御容殿。像俛首過橫梁。又持紙度像足○道法師流道州。郡守夢佛像荷枷入城。守知其異。令善待之○孝宗。魏公史浩。初攝昌國鹽監謁補陀山。見大士金色雙齒。有長身僧來見。語公歷官至太師。

持誦功深

晉安帝。沙門曇翼誦法華。感普賢來試。(云云)○沙門法莊誦法華。房門神兵衛護○沙門曇邃。赴日塢神祠。請講法華九十日。

宋孝武。沙門僧瑜。常持法華。是年入柴龕焚身。所居生雙桐樹○沙門惠益誦法華焚身。帝駕往勸止。不從。詔焚處建藥王寺。

梁武帝。庾詵誦法華。舉家聞上行先生已生淨土。

元帝。琰法師誦般若經獲延年。

北魏。博士盧景祐繫獄。至心誦經枷鎖自脫。

隋文帝。沙門惠盈講法華。五道大神請授戒法。

唐高祖。書生苟倩。空中書金剛經曰。擬諸天讀誦。後大雨。其地丈餘不濕。異僧曰。此地空中有經。諸天以寶蓋覆之○太宗。岑文本常念普門品。乘舟吳江。舟覆隨波至

岸。後於家設齋。一僧曰。天下方亂。君幸不預。災終至。富貴。太宗朝為中書令。○玄宗。沙門楚金誦法華經。至寶塔品。塔忽現前。○遂州任善病亡。同一僧至閻王所。僧曰。汝亦曾誦。即令放還。忽有五色雲迎僧升天。冥官謂善曰。汝妻已生天。○蘇珪合家常誦金剛經。一部將畢。因過墓所。老人云。汝妻為骨骸氣絕見閻王。責曰。汝夫是肉身菩薩。汝何為食肉。賴有誦經功延壽二十年。遂蘇。○肅宗。沙門抱玉入京受戒。帝夢吳僧誦法華。口出五色光(云云)。○代宗。沙門道遵置法華經院。舉高行十四人常持法華。以燭繼晝。○別駕周伯達常持金剛經。忽見梵僧自稱須菩提。謂曰。汝誦經何不斷肉。伯達竦懼。即蔬素。祥感屢見。○文宗。尚食厨烹雞子。忽群卵呼觀音菩薩。勅不得用雞子。又一日食蛤蜊。有擘不開者。俄變為大士形。因詔天下寺院皆立觀音像。

宋太祖。詔沈義倫以金銀字寫金剛經。召沙門崇蘊入內講演○孝宗。四明沃承璋。行雪月大師般若經關(云云)○光宗。都官陸沅日誦法華三部。及殮蓮花香氣自口鼻而出。

西遊樂國

晉廬山東林遠法師。與西林永法師劉遺民宗炳雷次宗十八賢。結社念佛。

梁武帝。庾詵家人聞空聲云。上行先生已生淨土。

北魏太武。縊沙門玄高惠崇殺之。弟子法進號呼。即見高於空中。問和上與崇公當生何所。高曰。我往惡處度生。崇公已歸淨土。

唐太宗。善導法師至京師造彌陀經十餘萬卷。畫淨土變相三百餘壁。滿長安中並從其化(云云)○德宗。法照法師於并州行五會。教人念佛。帝聞東北方有念佛聲。遣使尋至太原。乃迎入禁中。教宮人念佛。亦及五會○沙門少康往新定化郡人念佛。每升座唱佛。眾見一佛從口出。連唱十聲。則見十佛。後放異光數道而逝○宣宗。白居易畫西方淨土一部。晝夜供養。一夕念佛而化○懿宗。湘山全真禪師坐亡。世稱無量壽佛化現。

宋太祖。吳越王錢氏。請壽禪師居永明。日暮往別峯念佛。後焚香告眾加趺而化○仁宗。文彥博在京師。與嚴禪師結僧俗十萬人念佛○哲宗。楊傑繪丈六阿彌陀佛隨身觀念。感佛來迎○蘇軾嘗携阿彌陀佛一軸曰。此軾往生西方公據也○高宗。金虜破四明逼湖心肇律師北行。至京口謂

人曰。否西歸矣。即聞笙歌之聲。一時軍民咸見師西望念佛而化○侍郎吳秉信被召至蕭山驛舍。聞天樂聲即曰。金臺已至。言訖而化○孝宗。龍舒王日休念佛。日千拜。一夕云。佛來接我也。屹然立化。為淨土文行於世(若欲知古今往生事迹。常尋淨土立教志四卷觀之)。

佛祖統紀卷第五十三(終)

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

佛祖統紀卷第五十四

宋咸淳四明福泉沙門志磐撰

歷代會要志第十九之四

三教出興

三教厄運

三教訛偽

三教談論

僧道角法

僧先道後

內律分財

僧制治罰

僧籍免丁

賜諡封塔

褒恤終亡

臨終瑞相

君臣慢法 韓歐排佛 化胡偽經

事魔邪黨 毀法惡報

三教出興 釋 道 儒

周昭王二十六年(甲寅)四月八日。佛從母夫人右脇而出。
自行七步。舉右手而言曰。天上天下唯我獨尊○四月八
日。五色光氣入貫紫微。太史蘇由曰。有大聖人生於西方
(佛生在老子前三百四十五年)○穆王五十三年(壬申)二月十
五日。佛在俱尸那城娑羅雙樹間入般涅槃○二月十五日。
西方白虹十二道。南北通貫。山川震動。太史扈多曰。西
方聖人終亡之相○穆王時。文殊目連西來化王。於終南山
造三會道場。王子造迦葉佛像○襄王三年。秦繆公獲石

像。由余曰。佛神也。

秦始皇四年。西域沙門室利房等十八人持經至。帝囚之。有丈六金神。破戶出之。

漢武帝元狩四年。霍去病討匈奴。得祭天金人長丈餘。帝列於甘泉宮。焚香禮敬○成帝鴻嘉二年。劉向校書天祿閣。往往見有佛經○哀帝元壽元年。景憲使月氏。得浮圖經還○漢明帝永平七年。帝夢金人丈六飛行殿庭。傅毅曰。西方聖人。其名曰佛。帝乃遣蔡愔等使西域。於月氏遇摩騰竺法蘭。得佛像梵經。載以白馬。達于洛陽(此時三寶具足)。

列子著書稱。孔子答商太宰曰。西方之人有聖者焉。不治而不亂。不言而自信。不化而自行。

文中子。或問佛。曰聖人也。其教如何。曰西方之教也(已上釋教出興)。

周定王三年九月十四日。老子生於楚陳郡(在孔子前五十四年)○簡王四年。老子為周守藏吏。十三年為柱下史○敬王元年。入函谷關。為尹令著道德經。西之流沙。漢靈帝光和二年。老君降天台山。以大洞靈寶經并三籙感應篇。授仙人葛玄。北魏太武延和二年。嵩山道士寇謙之遇太上老君。命為天師。又遇老子玄孫李普文。授圖籙真經。

唐高宗乾封元年。幸亳謁老君。上尊號曰玄元皇帝。聖母曰先天太后○玄宗開元二十九年。上夢玄元皇帝遣使得其像置興慶宮。命畫真容置諸郡開元觀。詔諸郡立玄元皇帝廟○天寶元年。老君降丹鳳門。令田同秀奏。往尹令舊宅

掘取金匱靈符以鎮國。改元天寶○二年。上老君號曰大聖祖玄元皇帝○七載。上老君號曰聖祖大道玄元皇帝○十三載。上老君號曰大聖祖高上大道金闕玄元天皇大帝○僖宗。詔成都老君玄中觀。改名青羊宮。近宮田地多植蔥蒜。臭穢熏蒸。賜錢買歸靖廬(已上道教出興)。

周靈王二十一年十一月庚子。孔子生魯陬邑○景王十年。孔子朝周。問禮於老子○敬王十九年。為魯中都宰。二十一年為司空。二十二年為大司寇。誅少正卯墮三都。魯定公受齊女樂。三日不聽政。孔子遂適衛。三十六年自衛反魯。刪詩定書繫周易作春秋。以曾參孝為作孝經。三十九年。哀公西狩獲麟。孔子傷麟出非時。遂絕筆於春秋。四十一年四月乙丑孔子卒。葬泗水上。弟子三千人。身通六藝者七十二人。漢平帝元始元年追諡孔子褒成宣尼公。

宋孝武孝建元年。詔建孔子廟。

梁武帝天監四年。詔天下立孔子廟。

北魏孝文太和三年。諡孔子為文宣公。

唐太宗正觀十一年。舊制釋奠。以周公為先聖。孔子為先師。至是房玄齡建議。請以孔子為先聖。顏子為先師陪饗。詔可○高宗幸魯。祠孔子追封太師○武后。追諡孔子隆道公○玄宗開元二十七年。追諡孔子為文宣王。南嚮坐。弟子封公侯伯。

宋真宗祥符元年。幸曲阜謁孔子廟。特拜加諡玄聖文宣王。五年避聖祖諱。改至聖文宣王○仁宗勅賜兗州先聖廟飛帛御書殿額祭文○神宗封孟子鄒國公。陪饗文宣王廟○

哲宗賜先聖廟田百頃。幸國子監。詣文宣王殿行釋奠禮。
一獻再拜○徽宗崇寧三年。以王安石陪饗文宣王廟。五年
詔文宣王冕十二旒。服九章。政和元年。勅先聖廟用二十四
戟。賜禮器大成新樂○欽宗勅毀王安石陪饗(已上儒教出
興)。

唐玄宗開元十八年。勅兩京諸郡立齊太公廟○肅宗上元元
年。追封太公為武成王。祭典同文宣王。

宋真宗祥符元年。封太公昭烈武成王○哲宗幸武成王廟肅
揖(附於儒教)。

三教厄運 儒 道 釋

秦始皇三十四年。丞相李斯請以詩書百家語雜燒之有偶語

詩書者棄市。三十五年以諸生誹謗。自除犯禁者四百六十人。阮之咸陽。

漢桓帝延熹八年。宦官告司隸校尉李膺交結生徒。詔捕黨人。辭及二百餘人。皆天下名賢。久之赦黨人禁錮終身。

靈帝建寧元年。宦官殺太傅陳蕃大將軍竇武。捕宗親賓客悉誅之。李膺詣獄。考死黨人。死者百餘人。天下儒學有行死徙廢禁。六七百人。

唐景宗天祐二年。朱全忠入長安。聚宰相裴樞朝士三十餘人殺之。投屍于河。

宋哲宗紹聖三年。詔文彥博三十七人。為元祐黨人。徽宗崇寧三年。置元祐黨籍。司馬光三百九人。刻石文德殿

門。五年彗出西方。詔毀文德殿黨籍(已上儒教)。

漢明帝永平十四年。道士褚善信等。請與西竺摩騰角法不勝。費叔才自感而死。呂惠通等六百二十人。並令出家。

梁武帝天監二年。率群臣士庶發菩提心。永棄道教。十六年。勅廢天下道觀。道士皆反俗。北齊文宣天保六年。道士請與釋角法不勝。詔道士並從剃度。自是齊境並無道士。

北周武帝建德三年。并罷釋道二教(已上道教)。

晉安帝隆安二年。桓玄輔政。詔沙汰僧尼。廬山遠法師上書力辨遂寢。

陳後主至德三年。朝議令僧尼無業者皆休道。智禪師即停搜簡。

北魏太武太平真君七年。帝信司徒崔浩說。案誅天下沙門。焚毀經像。後崔浩以罪腰斬族誅。帝為常侍宗愛所弑。文成即位。大復佛法。

北周武帝建德三年。帝信衛元嵩說。并罷釋道二教。並令還俗。宣帝即位。詔復佛法○靜帝大定元年。詔復釋道二教。杜祈入冥。見周武在鐵獄受苦。

隋文帝。詔周朝廢寺咸與修營。戶口出錢建立經像○煬帝大業五年。詔僧徒無德業者並令罷道。智者弟子大志上表。然臂乞興三寶。詔竟不行。

唐高祖武德九年。太史令傅奕乞廢佛法。凡七上疏。詔僧道戒行虧闕者悉令罷道。月餘停前沙汰。奕惡病死。有人入冥。聞已付越州泥黎○玄宗開元二年。宰相姚崇奏。沙汰僧尼偽濫者萬二千人。並令還俗。禁度僧建寺鑄佛寫經○開元十五年。勅天下村坊佛堂小者。並拆除之。功德移入近寺。公私望風。凡大屋大像亦被殘毀○文宗太和九年。翰林李訓請。沙汰僧尼毀大內靈像。夜大風壞殿屋城門。帝懼勅停沙汰○武宗會昌五年。用道士趙歸真宰相李德裕謀。毀拆天下寺院。僧尼歸俗者二十六萬人。長安人夜見穆王冢吏云。李炎奪壽去位。宣宗即位。捕趙歸真等十三人誅之。李德裕貶死崖州。

周世宗顯德七年。勅民間銅像輸官鑄錢。廢寺院三千三百所。不許私度僧尼。有武將周百勝。入冥見世宗臥鐵床受罪。本朝太祖。大復佛法。

宋徽宗。詔釋氏水陸道場。不當設三清等位。天帝不應與鬼神同列。道法師曰。毀佛之禍兆於此矣○宣和元年。用道士林靈素言。詔改佛服天尊服。僧尼巾冠執簡稱德士。高僧日華嚴等不奉詔。開封尹盛章捕七人杖殺之。左街永道法師上書諫。上怒流道州。臺臣言。靈素妄議遷都改除釋教。上寤放死溫州。二年詔大復僧尼○高宗紹興十二年。詹叔義上表。乞住賣度牒。十五年。勅僧道納免丁錢侍郎吳秉信請賣度牒被論而出。靈隱道昌禪師乞行度牒不報。侍郎吳子才乞行度牒。罷歸田里。二十年。大斂民間銅器寺觀佛像鍾磬。並令置籍。每斤收算二十。

○文中子曰。詩書盛而秦世滅非仲尼之罪也。虛玄長而晉室亂非老莊之罪也。齋戒修而梁國亡非釋迦之罪也(已上釋教)。

三教詭偽 儒 道 釋

秦李斯初學于荀卿。及為秦相。請以詩書百家語。詣守尉雜燒之。

漢靈帝中平初。鉅鹿張角事黃老。以符水療病。號太平道。十餘年間眾數十萬。時號黃巾賊。皇甫嵩討平之。北魏孝莊時。冀州沙門法慶渤海李歸伯。率鄉人為亂。自號大乘佛。斬害僧尼焚燒經卷。元遙討破之。

唐武后。有女人自稱聖菩薩。召見。時大安禪師至。問曰。聞汝善觀心。我心何在。三問皆驗。師復問之。女辭屈。變作牝狐。下階而走。

三教談論

宋明帝。幸莊嚴寺。觀三教談論。

唐高祖。幸國學。命博士徐曠沙門惠乘道士劉進善講說○
太宗詔祭酒孔穎達沙門惠淨道士蔡晃。入弘文談論三教
德宗聖節勅給事中徐岳沙門覃延道士葛參成。講論三教
勅沙門端甫。入內殿與儒道論議。

敬宗。勅沙門道士四百人。於大明宮談論設齋○文宗聖
節。詔祕書監白居易沙門義林道士楊弘元。談論三教○宣
宗勅諫議李貽孫國師知玄同道士。談論三教。

僧道角法

漢明帝。五岳八山道士。乞與西竺摩騰竺法蘭焚經角法不勝。呂惠通等並令出家。

宋明帝。逸士顧歡作夷夏論。意黨道教。司徒袁粲為論以駁之。謂孔老教俗。釋氏出世。常侍何鎮之亦以書抵歡言。道家經籍簡陋。

陳宣帝。南岳思禪師降伏道士歐陽正則十四人。勅貸罪給事僧眾(云云)。

北齊文宣。道士陸修靜等乞與釋氏角法不勝。並令剃度。不從者殺四人。

北周武帝。詔群臣沙門道士。於內殿博議三教。法猛法師立論理勝。司隸大夫甄鸞上笑道論三十六篇。隋客問三教

優劣。李士謙曰。佛日也。道月也。儒五星也。

唐高宗。詔沙門義褒等。入宮談論。道士李榮理屈語塞。
令黃門引榮退席○玄宗。道士吳筠造論毀釋氏。浙西觀察
使陳少遊請神邕法師。面決邪正。筠竟敗北○代宗。沙門
崇惠與道士角法告勝。賜紫衣。

僧先道後

宋明帝。顧歡作論。以佛道二教。齊乎達化。

北齊魏收。撰魏書作佛老志。

唐太宗詔。老子李姓是朕之祖。名位宜在佛先。沙門智實
詣闕申理。不許○上謂弘福寺主道懿曰。佛老尊卑通人自

鑑朕宗○柱下故先老子。凡有功德僉向釋門。太原舊第亦以奉佛。未嘗創道觀也(云云)○高宗。勅道士隸宗正寺。班在諸王次○武后。勅僧尼依舊位在道士上。

宋太祖。詔令僧道每當朝集。僧先道後。並立殿廷。僧東道西。若遇郊天。道左僧右(寧僧統僧史略)○徽宗。勅道士位居僧上○高宗。廬山道法師申劄都省。崇觀之後道士叨視資品。林靈素輩視兩府者甚眾。遂令道士冒居僧上。靖康建炎。道士視官已行追毀。而國忌行香寺院眾會猶敢傲然居上。今欲復正祖宗舊制(云云)。續據太常寺。稱因革禮。肆赦故事。道左僧右。嘉祐編勅紹興新書。並以僧道寺觀立文。政和條內。道在僧上。並已刪去。尋蒙朝旨。應行香立班諸處聚會。並依祖宗成法。以僧居左○紹興十三年。臨安府道正劉若謙申省乞道士位僧上。都僧正善達。乞檢準紹興三年。都省批送法道法師狀。繼蒙朝

旨。依祖宗舊制以僧在上。告示劉若謙取知委。

內律分財

唐德宗。勅亡僧資財舊例送終之餘分。及一眾比來因事官收。並緣擾害。令仰依舊。一準律文分財法。官司仍前拘收者。以違制論。

僧制治罰

梁武帝。制僧尼犯過。依佛律行罰。

北魏僧犯殺人。依俗格斷。餘犯付昭玄都統。以內律判之。

唐太宗。詔僧徒有過準內律明為條制。詔頒遺教經。付京官刺史。僧尼業行與經不同者。公私勸勉○高宗。獎法師奏二事。一者正觀以老子位在佛上。二者僧道有過同俗推勘虧辱法門。上曰。僧用俗法即遣停罷○玄宗詔。僧尼有過一依佛律處分。州縣不得擅行決罰○代宗詔。天下官司毋得捶辱僧尼。

宋真宗。詔僧道有犯公罪。聽用贖法。勅品官無故毀辱僧尼。口稱秃字者。勒停見任。庶民流千里。

宣和八年。吳國公主敬重空門。勅品官庶民如有毀辱僧尼罵稱秃字者。照祥符三年指揮施行○孝宗乾道元年。鄭國公主出家。勅品官庶民有毀辱僧尼罵稱秃字者。依祥符宣和勅旨。品官勒停。庶民流千里。仰天下州軍遍榜曉諭。應僧尼過犯。官司不得擅理。須奏取指揮施行。

僧籍免丁

唐武后延載元年。勅僧尼舊隸司賓(即鴻臚寺)今改隸祠部
○玄宗開元十七年。詔天下僧尼。三歲一造籍○二十四
年。勅僧尼隸鴻臚寺。明年仍舊隸祠部。道士隸宗正寺。
以李宗也○天寶六載。勅僧尼屬兩街功德使。始令祠部給
牒用綾素○德宗建中三年勅僧尼事故。三綱申州納符。告
注毀。在京於祠部納告○憲宗元和二年。詔僧道隸左右街
功德使○文宗。太和五年。勅州郡造僧尼籍。

梁太祖開平元年。勅僧尼改屬祠部。

晉天福二年。以楊光遠為天下功德使。凡寺院皆屬焉。

宋太祖。勅僧道隸功德使。出家求度策試經業。關祠部給牒○高宗紹興十五年。勅天下僧道。始令納丁錢。自十千至一千三百凡九等。謂之清閑錢。年六十已上及殘疾者免。

賜諡封塔

晉孝武。潛法師亡。詔賜錢建塔。

唐太宗。化度寺僧邕亡。上敬悼賜帛。勅李百藥撰碑。歐陽詢書○中宗。神秀國師亡。賜諡大通○玄宗。金剛智三藏亡。賜諡灌頂○清源思禪師追諡弘濟禪師歸真之塔○南岳讓禪師亡。諡大慧禪師最勝輪之塔○憲宗。勅曹溪六祖諡大鑑禪師靈照之塔。柳宗元撰碑○穆宗。汾陽業禪師賜諡大達國師○宣宗。勅重建東林寺。追諡遠法師曰辯覺○

為山祐禪師亡。賜諡大圓○黃檗運禪師亡。賜諡斷際○懿宗。德山鑒禪師亡。賜諡見性○臨濟玄禪師亡。賜諡惠照○洞山玠禪師亡。賜諡悟本○追諡南山宣律師曰澄照○趙州諡禪師亡。諡真際○雲居膺禪師亡。諡弘覺○曹山寂禪師亡。諡元證。

唐莊宗。問道於三聖惠然。及亡諡廣濟太師通寂之塔。

宋太祖。永明壽禪師亡。賜諡智覺○太宗。追諡東林遠法師曰圓悟。西林永法師曰覺寂○明教大師天息災亡。諡惠辯○傳教大師法賢亡。諡玄覺○徽宗。崇寧元年。赦書節文。天下名德未有諡號者。仰所屬以聞。唐宣律師賜諡法海。慈雲式法師諡法寶。南屏臻法師諡實相。孤山圓法師諡法惠○摩騰三藏諡啟道圓通法師。竺法蘭諡開教總持法師。傳大士等空紹覺大士。李長者顯教妙嚴長者○高宗。

天童覺禪師亡。諡宏智塔曰妙光○徑山杲禪師亡。諡普覺塔曰寶光。語錄入藏○光宗。惠光訥法師亡。諡宗廣慈塔曰普照。

褒恤終亡

宋文帝。惠嚴法師亡。詔賜錢五萬布五十疋。

齊武帝。僧遠法師亡。帝致書慰弟子法獻。

隋文帝。曇延法師亡。帝輟視朝。勅王公往臨。

唐太宗。僧邕法師亡。賜帛。勅李百藥撰碑。歐陽詢書○玄琬法師亡。遺表僧有過乞以內律治之。上嘉納。遣皇太子臨弔。勅給葬具。

高宗。奘法師亡。帝哭之慟。廢朝五日。勅用金棺銀槨。五詔褒恤○文宗。清涼國師澄觀亡。上輟視朝三日。重臣縞素。勅葬終南山石室。勅宰相裴休撰碑。

宋真宗。天息災三藏亡。勅有司具禮送終○法賢三藏亡。勅送終如天息災禮。

臨終瑞相

宋仁宗。天鉢元禪師別文彥博曰。入滅去焚龕煙白。彥博手執流離瓶。煙入瓶中舍利填滿○神宗。明教嵩禪師亡。火浴鼻舌眼睛耳豪數珠五物不壞○歐陽修居穎上屏酒穀。臨終借華嚴經。讀至八卷而化○文與可謂崔公度曰。經言。不妄語舌覆面上。即吐舌至眉。三摺之後。沐浴冠

帶。正坐而化○趙抃從重元禪師問心要。聞辟歷聲豁然大省。是年有大星殞于庭。趺坐而化○徽宗。蘇軾卒於毘陵。錢濟明問曰。公平生學佛如何。軾曰。此語亦不受。遂化○高宗。韋太后建延祥觀。遷圓法師於馬腦坡。陶器舍利無算○孝宗。參政錢端禮問道於元禪師。微疾謂機禪師曰。地水火風暫時湊泊。遂斂目而化。

君臣慢法

周襄王。秦繆公獲石像棄馬坊中。夢天帝責誠。以問由余。往視像曰佛神也。

魏吳主孫皓。得金像灌以不潔。俄得腫疾。請康僧會受戒疾愈。

齊東昏侯。取瓦官玉像。為潘貴妃作釵釧。

唐高宗。奘法師譯因明論。尚藥呂才作解毀之。有旨令公卿領才。就法師禮悔○宣宗。京城進士孫樵。上書言。武宗髮二十七萬僧。陛下奈何興之於已廢之後。帝怒不納。

宋太祖。河南進士李藹。造滅邪集以毀佛。竊藏經以為衾。事聞。勅流沙門島○徽宗。勅左街道楷賜紫衣師號。楷表辭。上怒流淄州○筠州惠洪坐交張商英流峴州○詔改佛法。永道上書諫。上怒流道州○高宗。宰相秦檜。以徑山宗杲為張九成黨流衡州。

韓歐排佛

唐憲宗。迎鳳翔佛骨入禁中。刑部侍郎韓愈上表。諫曰。

佛本夷狄之人。身死已久。枯朽之骨凶穢之餘。豈宜以入宮禁。乞以此骨付之水火。永絕根本。帝大怒貶潮州刺史。愈至潮聞大顛禪師名。請入郡問道。留旬日。尚書孟簡聞愈與大顛遊。以書嘉之。愈答書稱。大顛頗聰明識道理。遠地無可與語。故自山召至州郭。留數十日。實能外形骸不為事物侵亂。非崇信其法求福田利益也。簡復報之曰。釋氏之教。大明善惡之異路。覈天下神道報應之徵。為廣其道。奈何韓君以愚人下俚翁嫗之情。見待之耶(云云)。柳宗元送浮圖浩初序。退之好儒未能過楊子之書。於莊墨申韓皆有取焉。浮圖者反不及莊墨申韓之怪僻險賊耶。曰以其夷也。果不信道而斥焉。以夷則將友惡來盜跖。而賤季札由余乎。非所謂去名求實者矣(云云)○韓退之作原道云。舉夷狄之法。而加之先王之教之上。幾何其不胥而為夷也。然則如之何其可也。曰人其人火其書。廬其居。明先王之道以道之。亦庶乎其可也○女挐壙文云。

愈為少秋官言。佛夷鬼。其法亂治可一掃去(云云)。

王荊公非韓云。人有樂孟子之距楊墨。而以斥佛老為己功。莊子所謂夏虫者。斯人之謂乎(云云)。

蘇子瞻非韓云。退之於聖人之道知好其名而未樂其實。其論至於理而不精。往往自叛其說而不知(云云)。

西蜀龍先生。作非韓百篇(云云)。

明教嵩禪師。作非韓三十篇(云云)。

祖印訥禪師。與歐陽公。論退之排佛老(見通塞志十二卷)。

宋仁宗。諫議歐陽修著本論。謂佛法為中國患。又曰。今佛之法可謂姦邪。又曰。千年佛老賊中國(云云)修左遷滁州。將歸廬陵。遊廬山謁祖印訥禪師。與之論道。肅然心服。平時排佛為之內銷。祖印謂曰。退之倡排佛老。足下今又和之。將使後世好名之士援韓氏歐陽氏以為法。豈不為盛德之累。足下所著本論。孜孜以毀佛為務。以蒐狩喪祭鄉飲之禮。為勝佛之本。是猶退之原道實未知道。修大驚赧。師復為說悟心之旨。自此頗有省發。及入參大政。每譽於公卿之前。歲時書問未嘗絕。出知揚州。高麗遣使問魏武注孫三處要義闕注。詔問修。不知答。飾使者往問祖印。師曰。兵者機密之事。不可以示人。使反命。以其言應詔。

歐陽外傳云。歐子撰新唐書。如高僧玄奘神秀諸傳及正觀為戰士建寺之文。並與削去。司馬君實云。永叔不喜佛。

舊唐史有涉其事者必去之。因曰。駕性命道德之空言者。韓文也。泯治亂成敗之實效者。新書也○孝宗御製原道論云。朕觀韓愈原道論。徒文繁而理迂耳(云云)。

化胡偽經

晉成帝。道士王符偽撰老子化胡經。墮地獄受苦。

北魏孝昭。道士姜斌引開天經說。老子西入化胡。以佛為侍者。沙門曇謨最言。佛生昭王時。後三百四十五年。定王時老子始生。太尉蕭綜劾奏。開天偽經。罪當惑眾詔流斌馬邑。

唐高宗。詔議老子化胡經。沙門法明曰。既無翻譯朝代。豈非偽造。乃勅令搜聚偽本一處禁棄○武后。沙門惠澄。

乞依前朝毀化胡經。勅八學士議○中宗。勅毀化胡經及畫壁變相。違者科罪。

事魔邪黨

末尼火祆(火烟反)者。初波斯國有蘇魯支。行火祆教。弟子來化中國。唐正觀五年。其徒穆護何祿詣闕進祆教。勅京師建大秦寺○武后延載元年。波斯國拂多誕持二宗經偽教來朝○玄宗開元二十年勅末尼本是邪見。妄稱佛教。既為西胡師法。其徒自行。不須科罰○天寶四年勅兩京諸郡有波斯寺者。並改名大秦○大歷三年勅回紇及荊揚等州。奉末尼各建大雲光明寺。六年回紇。請荊揚洪越等州置摩邪寺。其徒白衣白冠○會昌三年。勅天下末尼寺並廢。京城女末尼七十二人皆死。在回紇者流之諸道。五年勅。大秦穆護火祆等二千人。並勒還俗○梁貞明六年。陳州末尼

反立母乙為天子。朝廷發兵禽斬之。其徒以不茹葷飲酒。夜聚姪穢。畫魔王踞坐佛為洗足。云佛止大乘。我乃上上乘。

白雲萊者。徽宗大觀間。西京寶應寺僧孔清覺居杭之白雲菴。立四果十地造論數篇。教於流俗。亦曰十地萊。覺海愚禪師辨之。有司流恩州。嘉泰二年。白雲菴沈智元自稱道民。進狀乞額。臣寮言。道民者喫菜事魔。所謂姦民者也。既非僧道童行。自植黨與千百為群。挾持祆教聾瞽愚俗。或以修橋砌路斂率民財。創立私菴為逋逃淵藪。乞將智元長流遠地。拆除菴宇以為傳習魔法之戒。奏可。

白蓮菜者。高宗紹興初。吳郡延祥院僧弟子元。依倣天台出圓融四土圖。晨朝禮懺文。偈歌四句。佛念五聲勸男女修淨業。戒護生為尤謹。稱為白蓮導師。有以事魔論於有

司者。流之江州。其徒展轉相教。至今為盛。

良渚曰。此三者皆假名佛教以誑愚俗。猶五行之有沴氣也。今摩尼尚扇於三山。而白蓮白雲處處有習之者。大氏不事葷酒。故易於裕足。而不殺物命。故近於為善。愚民無知皆樂趨之。故其黨不勸而自盛。甚至第宅姬妾。為魔女所誘入其眾中。以修懺念佛為名。而實通姦穢。有識士夫宜加禁止。

毀法惡報

魏高貴鄉公。蜀賓國王害師子尊者。白乳涌高數尺。王臂尋墮。七日命終。

晉安帝。曇無讖在涼譯經。後西歸。涼王遣人刺於路。王

見神人以劍刺之。遂卒。

宋沙門惠琳著黑白論。與佛理相違。後感疾膚肉糜爛竟死。時以為叛教之報○簡靜寺尼用書經絹為兒衣。身瘡白蟲。號叫而死。

梁武帝。沙門智稜值寇還俗。道士孟悉達勸為黃冠。引佛教潤色諸道經。暮年為道士講西昇經。忽失音舌卷。於座委頓而死○望蔡令。殺牛飲啖。臥佛堂上。白癩病死。

宋真宗。慈照聰禪師。郡守笞之。師。曰教他平地起骨堆。守全家死○神宗。王安石子雱資性險惡。既亡荷鐵枷告父。安石請以江寧園廬為僧寺(即半山寺)○徽宗宣和廢佛法。楊戩議廢太平興國寺。瘞佛像於殿基。已而戩病胸腹潰裂而死。○詔天下建神霄宮。太平州將拆承天寺。主

議者石儀曹一子。為金甲神納於火曰。石某絕嗣。

佛祖統紀卷第五十四(終)

刊板後記

咸淳元年乙丑寓東湖月波山。始飭工刊統紀。至六年庚午冬。忽感喘嗽之疾。家林法眷棹船見邀。遂以十二月二十一日歸于福泉之故廬。是時尚有會要志四卷未能刊。於是乘病寫本。俾刊人畢其功。秋七月鋟事既備。擬辦紙印造萬部為最初流通。嘗計之刊板所費將萬券。而印造之本逾二十萬券。非高明識鑑有大財力者。則不能濟。當願佛祖聖賢冥密勸化當朝居位王公大人。知有法門。共相激發。或一出己力。或轉化群賢。特輟餘貲建立紙本。使統

紀一書布散寰海。是亦助 國行化之大端也。磐臥病日久。恐一旦怛化此志不申。故略述始終。尚祈後賢之克繼勝業者。維 佛維 祖宜當祐之以道。

咸淳辛未端午日

志磐 書

【經文資訊】大正藏第 49 冊 No. 2035 佛祖統紀

【版本記錄】CBETA 電子佛典 2014.04，完成日期：
2014/04/26

【編輯說明】本資料庫由中華電子佛典協會（CBETA）依大正藏所編輯

【原始資料】蕭鎮國大德提供，北美某大德提供

【其他事項】本資料庫可自由免費流通，詳細內容請參閱

【[中華電子佛典協會資料庫版權宣告](#)】

CBETA 贊助資訊 (<http://www.cbeta.org/donation/index.php>)

自 2001 年 2 月 1 日起，CBETA 帳務由「財團法人西蓮教育基金會」承辦，並成立「財團法人西蓮教育基金會」－CBETA 專戶，所有捐款至 CBETA 專戶皆為專款專用，歡迎各界捐款贊助。

您的捐款本協會皆會開立收據，此收據可在年度中申報個人或企業的綜合所得稅減免。感恩諸位大德的善心善行，以及您為佛典電子化所做的一切貢獻。

信用卡線上捐款

本線上捐款與聯合信用卡中心合作，資料傳送採用 SSL

(Secure Socket Layer) 傳輸加密，讓您能夠安全安心地進行線上捐款動作。

[前往捐款](#)

信用卡（單次 / 定期定額）捐款

本授權書可提供單次捐款或定期定額捐款之用途。

請於下載並填妥捐款授權書後，請傳真至 02-2383-0649，並請來電 02-2383-2182 確認。

或掛號寄至 10044 台灣台北市中正區延平南路 77 號 8 樓 R812 財團法人西蓮教育基金會收。

請在此下載 [授權書](#) (MS Word 格式)

劃撥捐款

郵政劃撥帳號：1 9 5 3 8 8 1 1

戶名：財團法人西蓮教育基金會

欲指定特殊用途者，請特別註明，我們會專款專用。

線上信用卡 / PayPal 捐款

PayPal 是一個跨國線上付款機制的公司，CBETA 引用其服務，提供網友能在線上使用信用卡或 PayPal 帳戶贊助 CBETA 。

PayPal is an online system of a global payment solution. CBETA uses its service to provide the uses to donate by using the credit

cards or PayPal account to support the CBETA project.

相關收據開立事宜，由於付款幣別為美元，我們除了會依您所贊助之美元金額開立收據外，另我們會依捐款當日公告匯率開立台幣收據，此收據為國內正式合法報稅憑證。

Since the donation made is in US currency, hence all the receipts will be issued in the US dollars consequently. However for the domestic donators, a Chinese official receipt will also be made according to the foreign exchange rate for the purpose of tax deduction.

[線上信用卡 / PayPal 贊助](#)

支票捐款

支票抬頭請填寫「財團法人西蓮教育基金會」。

CBETA is part of Seeland Educational projects, any donation (ex-cheques, remittance, etc.,) please entitle to "The Seeland Education Foundation".
